若宮遺跡

―本文編―

1983

日本道路公団名古屋建設局

静岡県教育委員会

富士宮市教育委員会

富士宮市文化財調査報告書第６集

若宮遺跡

西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅱ）

――本　文　編――

１９８３

日本道路公団名古屋建設局

静岡県教育委員会

富士宮市教育委員会

序

移り変りが激しく，多様な価値感にあふれる現代社会において，豊かな人間性と限りない可能性をもとめて，新たな地域文化を創造しようとする国民の努力にはめざましいものがあります。

こうしたなかで，われわれの身近にある文化財，わけてもすべての先人がこの国土と係わってきた軌跡といえる“遺跡”への高まりは著しいものがあります。各地域における発掘調査の成果が，広く国民の注目を集め，人々の大きな関心と期待のもとにおかれる状況は，かつてみることのできなかったことであります。

さて，本県における埋蔵文化財の発掘調査は，近年，質量ともに著しい増大を示し，その急成長には目をみはるものがあります。たとえば，昭和50年度において，発掘届件数63件・調査費総額１億３千万円が，昭和55年度には，118件・６億７千万円という状況であります。このことはいうまでもなく，開発行為に伴う発掘調査が激増した結果でありますが，同時に各市町村を中心とする調査体制の整備がすすめられた成果ともいえるものであります。

県内における発掘調査のなかで，国道139号線バイパス西富士道路建設に伴う調査を迎えて，富士宮市当局および教育委員会が，日本道路公団の深い理解と協力のもとに，その調査体制の確立とその後の調査の推進に絶大な努力を注がれたことは，広く関係者の知るところであり，高く評価されるものであります。

昭和53年４月から昭和56年７月まで，３年４ケ月にわたった発掘調査が，多大な成果をもって完了し，その後も詳細な整理作業が継続されてきたのでありますが，その成果が本報告書として刊行される運びとなりました。

ここに，日本道路公団ならびに富士宮市をはじめとする関係諸機関，あわせて発掘調査に従事された関係者の方々に深甚なる敬意を表するものであります。本書が，関係諸機関をはじめ，文化財保護関係者や研究者のみならず，広く社会教育・学校教育関係者に活用されるよう念願するものであります。

昭和58年３月

静岡県教育委員会教育長

吉　川　晴　夫

序

昭和17年に誕生した富士宮市は現在，人口11万余名を数えるまでに成長いたしました。したがって，いまやその装いをまったく変え市街化の波は日々広がりをみせております。それに伴って基幹道路である一般国道139号の道路事情の悪化は市民生活に大きな影響を与えており，このたびの西富士道路の建設は東名富士インターチェンジと富士宮バイパスとを直結し，岳南地域のより一層の発展のための一助ともいうべきものであり，大きな期待と関心が寄せられています。

また，地方の時代，文化の時代と呼ばれ，産業経済優先から生活文化重視への発想の転換を余儀なくし，新しい創造性豊かな『まち』の実現が希求されております。産業の高度な発展のなかで，失い，忘れ去られたものが，何であるかを改めて問い直す時期がやって来たように思います。

このようななかで，西富士道路建設に先立って，予定路線内の埋蔵文化財の発掘調査が実施されました。この調査は富士宮市にかつて例をみなかった大規模な発掘調査であり，先人の血と汗によって築かれた文化的遺産を私たち多くの市民に強力に印象づけさせてくれました。

富士宮市の象徴である富士山が，活発な噴火を続けながらも，現在の姿をとどめたころ，富士山のエネルギーを受け継ぐかのように，出現した，私たちの祖先に，発掘調査を通じて地表下２ｍでめぐり合うことができたことは大変意義あることと思います。それは自然と人間，富士山と富士宮市の深いかかわりあいを再認識させるものであります。文化財の研究，保護により，長い歴史とすばらしい自然にめぐまれた郷土富士宮の復原は，私たちの築き上げる調和ある未来社会のための，指針としなければならないものと思います。

ここにこの貴重な成果を報告書として刊行できますことはまことに喜ばしく，本書が文化財の理解，保護に役立つとともに，学術，研究の資料として，多くの人々に活用されることを期待しております。

おわりに，この調査に直接，間接に御指導，御協力をいただいた日本道路公団名古屋建設局，静岡県教育委員会，地元関係者の皆様に対しまして，深い感謝と敬意を表わす次第であります。

昭和58年３月

富士宮市長

植　松　義　忠

序

富士宮市は富士山より南西および西方にかけてゆるゆるとした裾野の傾斜地にひろがる地であり，恵まれた気候，風土は遠く原始の時代より人々の生活が営まれて，市内の随所にはそれら先人の足跡として，貴重な文化財が数多く残されております。

これらの文化財については文化財保護法に基づき，積極的な保護，保存，さらにその活用を図り，地域の知的，文化的な生活環境の保全に努めておりますが，近年における地域開発の進展は文化財，とりわけ埋蔵文化財に対して少なからざる影響を与えつつあります。現在，この埋蔵文化財の取り扱いがもっとも大きな問題となっております。開発事業等の土地本来の利用との調整段階では，できる限り現状保存の方針で対処しておりますが，事業内容等により現状保存できないものに対しましては発掘調査を実施し，記録保存の措置をとっております。

このたびの西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査につきましても，関係諸機関との慎重な協議が重ねられ，日本道路公団の埋蔵文化財における積極的な深い御理解と御協力によって，昭和53年４月より昭和56年７月まで，３ケ年余にわたる長期の発掘調査を遂行することとなりました。

その結果，若宮遺跡，代官屋敷遺跡とも従来に例をみない貴重な資料を提供するに至り，それは富士宮の歴史を考える手がかりとなるばかりでなく，ひろく全国的にも注目されるものとなりました。

人類文明のあけぼのについての経過はいまださだかではありません。その問題を解明するためには，発掘調査という地味な成果を徐々に積み重ねる以外に方法はありません。こうして遅々ではありますが明らかにされつつある郷土の歴史は，単に学術的意義のみならず，今後の市民生活のなかに根付いた文化行政として大切に生かされていくべきであろうことに大きな意義を持たなければならないと思います。

ここに西富士道路埋蔵文化財発掘調査報告書，若宮遺跡分を刊行して，多くの方々の御批判と御指導を承るとともに，最後になりましたが，本書の刊行にあたり，埋蔵文化財の意義を深く理解され，格段の御配意を賜わりました日本道路公団名古屋建設局の関係各位，また調査の完遂に御指導いただきました静岡県教育委員会，および地元関係者の皆様の御尽力に対しまして深い感謝の意を表します。

昭和58年３月

富士宮市教育長

塩　川　隆　司

例　言

1．本書は，西富士道路（富士宮地区）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として，昭和54年～昭和57年にかけて実施した若宮（わかみや）遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は，日本道路公団名古屋建設局長からの委託を，富士宮市が受託し，静岡県教育委員会の指導によって，現地の調査を富士宮市教育委員会が実施した。

3．契約に基き昭和53～55年度まで，年度事業報告として発掘調査概報を刊行し，今回報告する若宮遺跡は『西富士道路埋蔵文化財発掘調査（富士宮地区）概報II』—昭和54年度—に報告したが，記述に若干の相違があるので，本書をもって正式報告とする。

したがって日誌抄による遺構番号は旧番号となっている。

4．発掘調査資料の整理，ならびに報告書刊行作業は，富士宮市教育委員会調査員と補助調査員が主体として行い，一部，作業員の協力を得た。

5．遺構，遺物の写真撮影は馬飼野，伊藤，および渡辺が行った。なお，航空写真の一部は市内東町在住の望月晟敏氏より提供された。

6．本書の執筆は次のとうりである。

序編

第Ⅰ章……馬飼野行雄

第Ⅱ章……渡井　一信

本編

第Ⅰ章……馬飼野行雄

第Ⅱ章第1節……馬飼野行雄

第2節……伊藤　昌光

第Ⅲ章……伊藤　昌光・馬飼野行雄

第Ⅳ章……伊藤　昌光・馬飼野行雄

7．地形図，遺構図に記す高度は全て海抜高度をもって示している。

8．本書の編集は馬飼野，伊藤が行い，若干の文体，用語の統一をはかった。

9．印刷，出版に関する事務は富士宮市教育委員会社会教育課文化振興係があたった。

10．発掘調査に関する資料は全て富士宮市教育委員会が保管している。

若　宮　遺　跡

目　　次

序……静岡県教育委員会教育長　吉川晴夫
序……富士宮市長　植松義忠
序……富士宮市教育長　塩川隆司
例　言

序　編
第Ⅰ章　遺跡の環境……1
第1節　若宮遺跡……1
第2節　地理的環境……2
第3節　歴史的環境……6
第Ⅱ章　調査の経緯と経過……14
第1節　調査の経緯……14
第2節　調査の体制……20
第3節　調査の経過……22

本　編
第Ⅰ章　遺　跡……37
第1節　土　層……37
第2節　地　形……41
第Ⅱ章　遺　物……43
第1節　石　器……43
1．尖頭器……43
2．石　鏃……46
3．石　皿……157
4．磨　石……162
5．敲　石……194
6．凹　石……199
7．石　斧……200
8．石　匙……211
9．横刃型石器……212

10. スクレイパー類 ……216
11. 石　錐 ……218
12. 砥　石 ……219
13. ペンダント様石器 ……220
14. 石　核 ……221
15. 黒曜石 ……221
第2節　土　器 ……230
Ⅰ. 縄文土器 ……230
Ⅱ. 撚糸文土器 ……250
Ⅲ. 山形押型文土器 ……269
Ⅳ. 格子目押型文土器 ……300
Ⅴ. 楕円押型文土器 ……333
Ⅵ. その他の押型文土器 ……338
Ⅶ. 無文土器 ……348
Ⅷ. 条痕文系土器 ……350
第Ⅲ章　遺　構 ……358
第1節　竪穴住居跡 ……358
第2節　炉穴跡 ……391
第3節　集石土坑跡 ……421
第4節　集石跡 ……431
第5節　土坑跡 ……436
第Ⅳ章　調査総括 ……442
第1節　遺物の検討 ……442
1. 石器について ……442
2. 土器について ……447
第2節　遺構の検討 ……479
1. 竪穴住居跡について ……479
2. 炉穴跡について ……482
3. 集石土坑跡について ……484
4. 集石跡について ……485
5. 土坑跡について ……486
第3節　調査総括 ……487

挿　表　目　次

第 1 表　富士宮市遺跡分布表……8
第 2 表　発掘調査委託契約・変更表……20
第 3 表　調査経過表……25
第 4 表　尖頭器計測表……44
第 5 表　石鏃観察表①……49
第 6 表　石鏃観察表②……51
第 7 表　石鏃計測表①……58
第 8 表　石鏃計測表②……60
第 9 表　石鏃計測表③……62
第 10 表　石鏃計測表④……64
第 11 表　石鏃計測表⑤……66
第 12 表　石鏃計測表⑥……68
第 13 表　石鏃計測表⑦……70
第 14 表　石鏃計測表⑧……72
第 15 表　石鏃計測表⑨……74
第 16 表　石鏃計測表⑩……76
第 17 表　石鏃計測表⑪……78
第 18 表　石鏃計測表⑫……80
第 19 表　石鏃計測表⑬……82
第 20 表　石鏃計測表⑭……84
第 21 表　石鏃計測表⑮……86
第 22 表　石鏃計測表⑯……88
第 23 表　石鏃計測表⑰……90
第 24 表　石鏃計測表⑱……92
第 25 表　石鏃計測表⑲……94
第 26 表　石鏃計測表⑳……96
第 27 表　石鏃計測表㉑……98
第 28 表　石鏃計測表㉒……100
第 29 表　石鏃計測表㉓……102
第 30 表　石鏃計測表㉔……104
第 31 表　石鏃計測表㉕……106
第 32 表　石鏃計測表㉖……108

第 33 表　石鏃計測表㉗ ……110
第 34 表　石鏃計測表㉘ ……112
第 35 表　石鏃計測表㉙ ……114
第 36 表　石鏃計測表㉚ ……116
第 37 表　石鏃計測表㉛ ……118
第 38 表　石鏃計測表㉜ ……120
第 39 表　石鏃計測表㉝ ……122
第 40 表　石鏃計測表㉞ ……124
第 41 表　石鏃計測表㉟ ……126
第 42 表　石鏃計測表㊱ ……128
第 43 表　石鏃計測表㊲ ……130
第 44 表　石鏃計測表㊳ ……132
第 45 表　石鏃計測表㊴ ……134
第 46 表　石鏃計測表㊵ ……136
第 47 表　石鏃計測表㊶ ……138
第 48 表　石鏃計測表㊷ ……140
第 49 表　石鏃計測表㊸ ……142
第 50 表　石鏃計測表㊹ ……143
第 51 表　未製品計測表① ……144
第 52 表　未製品計測表② ……146
第 53 表　未製品計測表③ ……148
第 54 表　未製品計測表④ ……150
第 55 表　未製品計測表⑤ ……152
第 56 表　未製品計測表⑥ ……154
第 57 表　未製品計測表⑦ ……156
第 58 表　石皿計測表① ……158
第 59 表　石皿計測表② ……162
第 60 表　磨石観察表① ……165
第 61 表　磨石観察表② ……167
第 62 表　磨石観察表③ ……169
第 63 表　磨石計測表① ……169
第 64 表　磨石計測表② ……172
第 65 表　磨石計測表③ ……176
第 66 表　磨石計測表④ ……180

第 67 表　磨石計測表⑤ ……184
第 68 表　磨石計測表⑥ ……188
第 69 表　磨石計測表⑦ ……192
第 70 表　敲石計測表① ……194
第 71 表　敲石計測表② ……198
第 72 表　凹石計測表 ……200
第 73 表　石斧計測表① ……204
第 74 表　石斧計測表② ……206
第 75 表　石斧計測表③ ……208
第 76 表　石斧計測表④ ……210
第 77 表　石斧計測表⑤ ……211
第 78 表　石匙計測表 ……212
第 79 表　横刃型石器計測表 ……214
第 80 表　スクレイパー類計測表 ……216
第 81 表　石錐計測表 ……218
第 82 表　砥石計測表 ……219
第 83 表　石核計測表① ……222
第 84 表　石核計測表② ……228
第 85 表　土器出土区一覧表① ……352
第 86 表　土器出土区一覧表② ……353
第 87 表　土器出土区一覧表③ ……354
第 88 表　土器出土区一覧表④ ……355
第 89 表　土器出土区一覧表⑤ ……356
第 90 表　土器出土区一覧表⑥ ……357
第 91 表　押型文土器原体径一覧表 ……478
第 92 表　土器口径一覧表 ……479

挿　図　目　次

第 1 図　若宮遺跡位置図……3
第 2 図　富士西南麓の地質図（佐々木実）……5
第 3 図　富士宮市遺跡分布図……9
第 4 図　西富士道路（富士宮地区）路線図……14
第 5 図　西富士道路標準断面図……17
第 6 図　若宮遺跡地形図……23
第 7 図　土層断面図（Hライン）……39
第 8 図　若宮遺跡旧地形図……42
第 9 図　尖頭器実測図……45
第 10 図　石鏃分類図……47
第 11 図　局部磨製石鏃実測図①……53
第 12 図　局部磨製石鏃実測図②……55
第 13 図　石鏃実測図①……57
第 14 図　石鏃実測図②……59
第 15 図　石鏃実測図③……61
第 16 図　石鏃実測図④……63
第 17 図　石鏃実測図⑤……65
第 18 図　石鏃実測図⑥……67
第 19 図　石鏃実測図⑦……69
第 20 図　石鏃実測図⑧……71
第 21 図　石鏃実測図⑨……73
第 22 図　石鏃実測図⑩……75
第 23 図　石鏃実測図⑪……77
第 24 図　石鏃実測図⑫……79
第 25 図　石鏃実測図⑬……81
第 26 図　石鏃実測図⑭……83
第 27 図　石鏃実測図⑮……85
第 28 図　石鏃実測図⑯……87
第 29 図　石鏃実測図⑰……89
第 30 図　石鏃実測図⑱……91
第 31 図　石鏃実測図⑲……93
第 32 図　石鏃実測図⑳……95

第 33 図　石鏃実測図㉑……97
第 34 図　石鏃実測図㉒……99
第 35 図　石鏃実測図㉓……101
第 36 図　石鏃実測図㉔……103
第 37 図　石鏃実測図㉕……105
第 38 図　石鏃実測図㉖……107
第 39 図　石鏃実測図㉗……109
第 40 図　石鏃実測図㉘……111
第 41 図　石鏃実測図㉙……113
第 42 図　石鏃実測図㉚……115
第 43 図　石鏃実測図㉛……117
第 44 図　石鏃実測図㉜……119
第 45 図　石鏃実測図㉝……121
第 46 図　石鏃実測図㉞……123
第 47 図　石鏃実測図㉟……125
第 48 図　石鏃実測図㊱……127
第 49 図　石鏃実測図㊲……129
第 50 図　石鏃実測図㊳……131
第 51 図　石鏃実測図㊴……133
第 52 図　石鏃実測図㊵……135
第 53 図　石鏃実測図㊶……137
第 54 図　石鏃実測図㊷……139
第 55 図　石鏃実測図㊸……141
第 56 図　石鏃実測図㊹……143
第 57 図　未製品実測図①……145
第 58 図　未製品実測図②……147
第 59 図　未製品実測図③……149
第 60 図　未製品実測図④……151
第 61 図　未製品実測図⑤……153
第 62 図　未製品実測図⑥……155
第 63 図　未製品実測図⑦……156
第 64 図　石皿実測図①……159
第 65 図　石皿実測図②……160
第 66 図　石皿実測図③……161

第 67 図　磨石分類図 ……163
第 68 図　磨石実測図① ……170
第 69 図　磨石実測図② ……171
第 70 図　磨石実測図③ ……173
第 71 図　磨石実測図④ ……174
第 72 図　磨石実測図⑤ ……175
第 73 図　磨石実測図⑥ ……177
第 74 図　磨石実測図⑦ ……178
第 75 図　磨石実測図⑧ ……179
第 76 図　磨石実測図⑨ ……181
第 77 図　磨石実測図⑩ ……182
第 78 図　磨石実測図⑪ ……183
第 79 図　磨石実測図⑫ ……185
第 80 図　磨石実測図⑬ ……186
第 81 図　磨石実測図⑭ ……187
第 82 図　磨石実測図⑮ ……189
第 83 図　磨石実測図⑯ ……190
第 84 図　磨石実測図⑰ ……191
第 85 図　磨石実測図⑱ ……193
第 86 図　敲石実測図① ……195
第 87 図　敲石実測図② ……197
第 88 図　敲石実測図③ ……198
第 89 図　凹石実測図 ……199
第 90 図　石斧実測図① ……201
第 91 図　石斧実測図② ……203
第 92 図　石斧実測図③ ……205
第 93 図　石斧実測図④ ……207
第 94 図　石斧実測図⑤ ……209
第 95 図　石斧実測図⑥ ……210
第 96 図　石匙実測図 ……211
第 97 図　横刃型石器実測図① ……213
第 98 図　横刃型石器実測図② ……215
第 99 図　スクレイパー類実測図 ……217
第 100 図　石錐実測図 ……218

第 101 図　砥石実測図 ……219
第 102 図　ペンダント様石器実測図 ……220
第 103 図　石核実測図① ……223
第 104 図　石核実測図② ……224
第 105 図　石核実測図③ ……225
第 106 図　石核実測図④ ……226
第 107 図　石核実測図⑤ ……227
第 108 図　石核実測図⑥ ……229
第 109 図　土器拓影図① ……233
第 110 図　土器拓影図② ……235
第 111 図　土器拓影図③ ……237
第 112 図　土器拓影図④ ……239
第 113 図　土器拓影図⑤ ……241
第 114 図　土器拓影図⑥ ……243
第 115 図　土器拓影図⑦ ……245
第 116 図　土器拓影図⑧ ……247
第 117 図　土器拓影図⑨ ……248
第 118 図　土器拓影図⑩ ……249
第 119 図　土器拓影図⑪ ……251
第 120 図　土器拓影図⑫ ……253
第 121 図　土器拓影図⑬ ……254
第 122 図　土器拓影図⑭ ……255
第 123 図　土器拓影図⑮ ……257
第 124 図　土器拓影図⑯ ……259
第 125 図　土器拓影図⑰ ……261
第 126 図　土器拓影図⑱ ……263
第 127 図　土器拓影図⑲ ……265
第 128 図　土器拓影図⑳ ……266
第 129 図　土器拓影図㉑ ……267
第 130 図　土器拓影図㉒ ……268
第 131 図　土器拓影図㉓ ……271
第 132 図　土器拓影図㉔ ……273
第 133 図　土器拓影図㉕ ……275
第 134 図　土器拓影図㉖ ……277

第 135 図　土器拓影図㉗ ……279
第 136 図　土器拓影図㉘ ……280
第 137 図　土器拓影図㉙ ……281
第 138 図　土器拓影図㉚ ……283
第 139 図　土器拓影図㉛ ……285
第 140 図　土器拓影図㉜ ……287
第 141 図　土器拓影図㉝ ……289
第 142 図　土器拓影図㉞ ……291
第 143 図　土器拓影図㉟ ……293
第 144 図　土器拓影図㊱ ……294
第 145 図　土器拓影図㊲ ……295
第 146 図　土器拓影図㊳ ……297
第 147 図　土器拓影図㊴ ……299
第 148 図　土器拓影図㊵ ……301
第 149 図　土器拓影図㊶ ……303
第 150 図　土器拓影図㊷ ……304
第 151 図　土器拓影図㊸ ……305
第 152 図　土器拓影図㊹ ……307
第 153 図　土器拓影図㊺ ……309
第 154 図　土器拓影図㊻ ……310
第 155 図　土器拓影図㊼ ……311
第 156 図　土器拓影図㊽ ……313
第 157 図　土器拓影図㊾ ……314
第 158 図　土器拓影図㊿ ……315
第 159 図　土器拓影図51 ……317
第 160 図　土器拓影図52 ……319
第 161 図　土器拓影図53 ……320
第 162 図　土器拓影図54 ……321
第 163 図　土器拓影図55 ……323
第 164 図　土器拓影図56 ……325
第 165 図　土器拓影図57 ……327
第 166 図　土器拓影図58 ……328
第 167 図　土器拓影図59 ……329
第 168 図　土器拓影図60 ……331

第 169 図　土器拓影図㊶ ……332
第 170 図　土器拓影図㊷ ……334
第 171 図　土器拓影図㊸ ……335
第 172 図　土器拓影図㊹ ……337
第 173 図　土器拓影図㊺ ……336
第 174 図　土器拓影図㊻ ……341
第 175 図　土器拓影図㊼ ……343
第 176 図　土器拓影図㊽ ……344
第 177 図　土器拓影図㊾ ……345
第 178 図　土器拓影図㊿ ……347
第 179 図　土器拓影図71 ……348
第 180 図　土器拓影図72 ……349
第 181 図　土器実測図 ……351
第 182 図　第 1，2，3 号竪穴住居跡実測図 ……359
第 183 図　第 4，5 号竪穴住居跡実測図 ……361
第 184 図　竪穴住居跡内出土土器拓影図① ……362
第 185 図　第 6 号竪穴住居跡実測図 ……363
第 186 図　第 7 号竪穴住居跡実測図 ……364
第 187 図　第 8 号竪穴住居跡実測図 ……365
第 188 図　第 9 号竪穴住居跡実測図 ……366
第 189 図　第 10，11 号竪穴住居跡実測図 ……367
第 190 図　第 12 号竪穴住居跡実測図 ……368
第 191 図　竪穴住居跡内出土土器拓影図② ……369
第 192 図　第 13，16 号竪穴住居跡実測図 ……371
第 193 図　第 14，15 号竪穴住居跡実測図 ……373
第 194 図　第 17，18 号竪穴住居跡実測図 ……375
第 195 図　第 19 号竪穴住居跡実測図 ……376
第 196 図　竪穴住居跡内出土土器拓影図③ ……377
第 197 図　第 20 号竪穴住居跡実測図 ……379
第 198 図　竪穴住居跡内出土土器拓影図④ ……381
第 199 図　第 21 号竪穴住居跡実測図 ……382
第 200 図　第 22，23 号竪穴住居跡実測図 ……383
第 201 図　第 24 号竪穴住居跡実測図 ……385
第 202 図　第 25 号竪穴住居跡実測図 ……386

第 203 図　第 26 号竪穴住居跡実測図 ……387
第 204 図　第 27 号竪穴住居跡実測図 ……388
第 205 図　竪穴住居跡内出土土器拓影図⑤ ……389
第 206 図　第 28 号竪穴住居跡実測図 ……390
第 207 図　炉穴跡実測図① ……393
第 208 図　炉穴跡実測図② ……397
第 209 図　炉穴跡内出土土器拓影図① ……399
第 210 図　炉穴跡実測図③ ……403
第 211 図　炉穴跡実測図④ ……407
第 212 図　炉穴跡実測図⑤ ……413
第 213 図　炉穴跡内出土土器拓影図② ……415
第 214 図　炉穴跡実測図⑥ ……417
第 215 図　炉穴跡実測図⑦ ……419
第 216 図　集石土坑跡実測図① ……423
第 217 図　集石土坑跡実測図② ……425
第 218 図　集石土坑跡実測図③ ……427
第 219 図　集石土坑跡内出土土器拓影図 ……429
第 220 図　集石土坑跡実測図④ ……431
第 221 図　第 1 号集石跡実測図 ……432
第 222 図　第 2 号集石跡実測図 ……433
第 223 図　第 3 号集石跡実測図 ……434
第 224 図　第 4 ・ 5 号集石跡実測図 ……435
第 225 図　集石跡内出土土器拓影図 ……435
第 226 図　土坑跡実測図① ……439
第 227 図　土坑跡実測図② ……440
第 228 図　石器構成図 ……442
第 229 図　石鏃分布図 ……443
第 230 図　石鏃II類 b － 5 種分布図 ……444
第 231 図　石鏃II類 a － 3 種（鍬形鏃）分布図 ……445
第 232 図　現代の敲石―橋口尚武　1983　転載― ……446
第 233 図　土器分布図 ……447
第 234 図　第 I 群土器分布図 ……448
第 235 図　第 I 群土器 ……449
第 236 図　第II群 1 類土器分布図 ……450

第 237 図　第II群 1 類土器 ……451
第 238 図　第II群 2 類土器分布図 ……452
第 239 図　第II群 2 類土器 ……453
第 240 図　第II群 3 類土器分布図 ……454
第 241 図　第II群 3 類土器 ……455
第 242 図　第III群 1 類土器分布図 ……456
第 243 図　第III群 1 類土器 ……457
第 244 図　第III群 2 類土器 ……458
第 245 図　第III群 3 類土器 ……459
第 246 図　第III群 4 ・ 5 類土器分布図 ……460
第 247 図　第III群 4 ・ 5 類土器 ……461
第 248 図　第IV群土器分布図 ……462
第 249 図　第IV群土器 ……463
第 250 図　第Ⅴ群 1 類土器① ……465
第 251 図　第Ⅴ群 1 類土器分布図 ……466
第 252 図　第Ⅴ群 1 類土器② ……467
第 253 図　第Ⅴ群 2 類土器① ……469
第 254 図　第Ⅴ群 2 類土器分布図 ……470
第 255 図　第Ⅴ群 2 類土器② ……471
第 256 図　第Ⅴ群 3 類土器分布図 ……472
第 257 図　第Ⅴ群 3 類土器 ……473
第 258 図　第Ⅴ群 4 類土器分布図 ……474
第 259 図　第Ⅴ群 4 ・ 5 ・ 6 類土器 ……475
第 260 図　第VI群土器分布図 ……476
第 261 図　第VIII群土器分布図 ……476
第 262 図　第Ⅴ群押型文土器文様一覧図 ……477
第 263 図　第Ⅴ群土器推定形模式図 ……478
第 264 図　第Ⅴ群土器文様構成模式図 ……478
第 265 図　竪穴住居跡規模別分布図 ……480
第 266 図　竪穴住居跡長軸方位図 ……480
第 267 図　炉穴跡規模別分布図 ……482
第 268 図　炉穴跡長軸分布図 ……483
第 269 図　集石土坑跡規模別分布図 ……484
第 270 図　土坑跡規模別分布図 ……486

第271図　若宮遺跡第Ⅰ～Ⅳ期土器分布図 ……487
付 図 1　若宮遺跡全体図
付 図 2　若宮遺跡土器構成図

序　編

第Ⅰ章　遺跡の環境

第1節　若宮遺跡

若宮遺跡は静岡県富士宮市小泉字古宮2343－23番地他に所在する。

遺跡の発見は大正末期～昭和初期にさかのぼる。本地域の考古学研究の創始である『岳南考古学会』によるもので，当時のメンバーであった佐野要吉氏が昭和6年に刊行した「富士南麓郷土史談」に紹介される。富士郡の郷土史を中心に記述するなかで，とくに市内の古墳群については静岡県史[註1]よりくわしい調査報告を残し，それによると，市内には以下の古墳が確認できたという。

① 安居山別所古墳　　円墳群集

② 黒田小学校校庭上　　円墳（月の輪古墳）

③ 富丘中里古墳　　円墳

④ 小泉若宮，及び古宮古墳　　円墳群集（10数個）

⑤ 村山元村山古墳

⑥ 小泉三室古墳　　円墳

⑦ 小泉神祖古墳

ここでいう④　小泉若宮，及び古宮古墳であり，金環・直刀・馬具・須恵器等の出土品をみたらしい。[註2]

本遺跡の南側斜面に群集，占地していたが，戦後の開墾等によって現在では跡形もない。しかし，なお須恵器片・土師器片が表面採集され，古墳資料の乏しい富士宮市にとって有力古墳群が形成されていたであろうことは想像がつく。

したがって，遺跡前面の古墳群に目がむけられた反面，後方に位置する本遺跡は縄文土器片が若干散布する包蔵地として，古墳群のなかに包括されるにすぎなかった。事実，西富士道路予定路線決定後の分布調査においても，わずか1片の縄文土器片が採集されただけで，昭和53年8月に実施した範囲確認調査によって押型文土器片・撚糸文土器片等の土器類，多量の石器類の出土をみて，改めて本遺跡が確認される状況であった。

並行して市内の遺跡地名表作成事業を進めていた富士宮市教育委員会は，上記の事実より旧来の若宮古墳群を含めて『若宮遺跡』を統一呼称し，遺跡番号9，整理番号J－74，H－66，K－5と登録した。[註3]

遺跡は昨年度報告がなされた代官屋敷遺跡[註4]から小川をはさんで約100m東側の地点から，東端は慈眼寺沢川までの東西約100m，南北約120m，包蔵面積約10,000㎡が推定される。

現状は山林・畑・宅地であり，南へむかってなだらかに傾斜を有してきた丘陵が急に平坦な地形となり，東側にはり出しながら西へと緩傾斜を続けていく。しかし，これは昭和40年代の

住宅分譲地造成工事によるもので，現在は遺跡全体が住宅分譲地となっている。工事以前は長者ヶ峰と呼ばれていた，現標高より5mほど高い小丘が分譲地中央付近に存在して，それを削平して傾斜面に盛土することによって住宅地としている。したがって，包含層の一部は削除されているものの，盛土された部分には良好な包含層が残存し，本報告に記す如く，多量の遺構，遺物を検出する結果となった。西富士道路予定路線は遺跡の中央部を東西に通過する。

註1　静岡県　1930　『静岡県史』第1巻

註2　植松章八　1971「第1章　千居遺跡や月の輪平遺跡―ふるさと富士宮のあけぼの―」『富士宮市史　上巻』　富士宮市

註3　富士宮市教育委員会　1979　『富士宮市遺跡地名表』　付富士宮市遺跡分布図

註4　日本道路公団名古屋建設局・静岡県教育委員会・富士宮市教育委員会　1982『代官屋敷遺跡』西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ）

第2節　地理的環境

若宮遺跡は富士山頂から連なる裾野斜面，いわゆる富士山西南麓の末端部に位置する。標高は150～160mを測り，比高20m程で南面の沖積地に没する。南に2km程して潤井川，さらに富士市街地より駿河湾を望む。東は慈眼寺沢川をはさんで富士市と境いし，西は約1kmで弓沢川に接して，約2.5km程して富士宮市街地に達する。

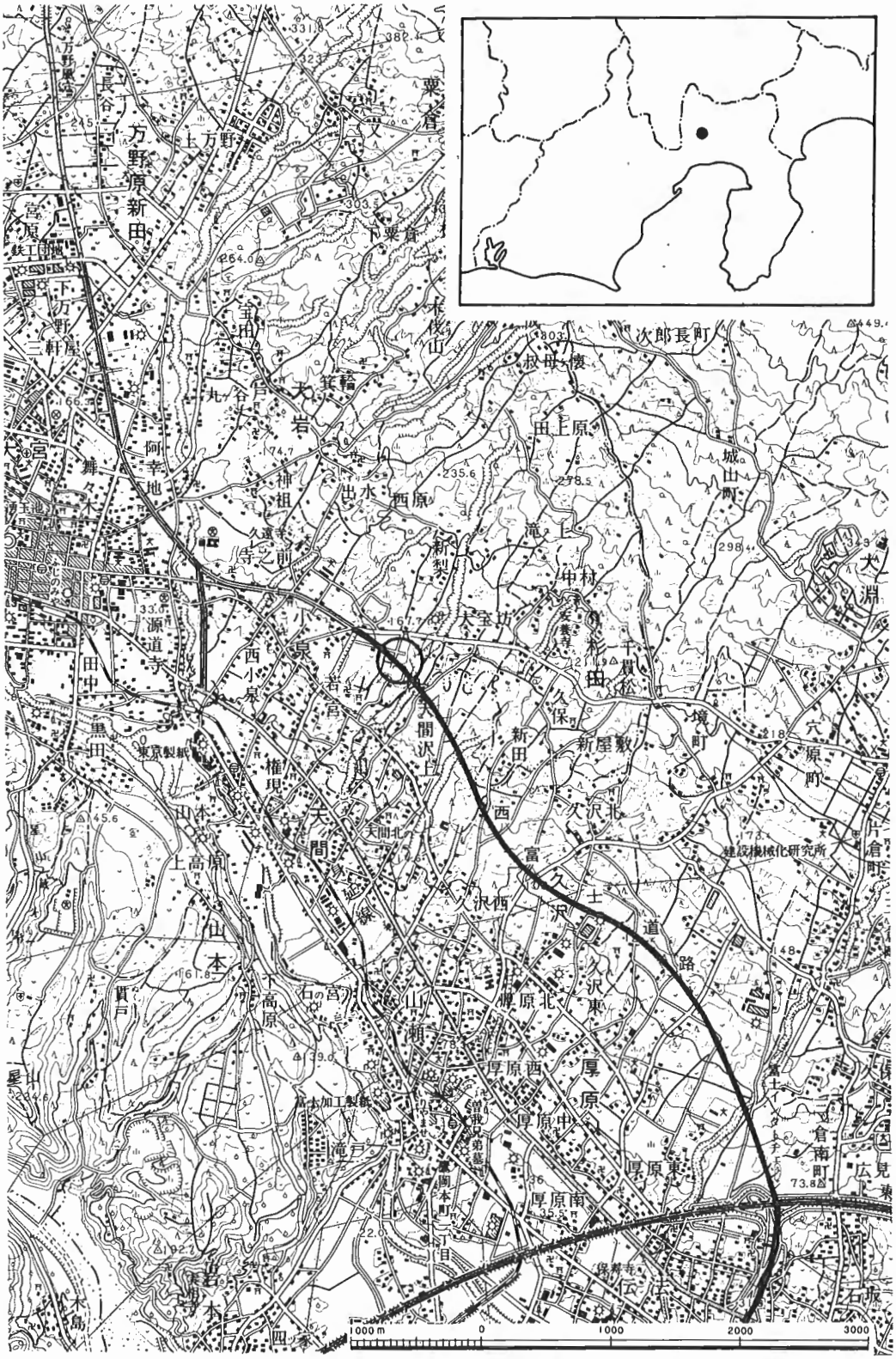
本遺跡を正面より眺めると，沖積地にせり出した一種の独立した舌状台地状の地形条件を備えている。台地中央部に若干の低位面が存在して小河川（鍋沢）が南流している。これを境いに東側に本遺跡，西側に代官屋敷遺跡[註1]が存在する。

本遺跡が所在する富士根地区を巨視的にとらえると，その自然，ならびに人文環境は富士山に負うところが多い。

富士山の成立過程は小御岳，古富士，新富士の3火山から成ることが知られている。[註2]

現富士の基盤をなす小御岳火山は洪積世中葉（数10万年前）に活動を開始し，洪積世末葉頃には2,400mの容姿を駿河湾頭に現わした。その後，洪積世終末（3～2万年前）になって古富士火山が活動を始め，その噴出溶岩流は小御岳火山の大部分を覆い，小御岳火山は北側中腹にその火口丘を残すだけとなった。また，古富士火山の噴出した集塊質泥流は富士川岸にまで達し，その南西部分に羽鮒，星山両丘陵の基盤を形成した。

その後，約1万年位は大きな火山活動はなく，断層運動や浸食，堆積運動がくり返えされていた。この時に生じた大宮断層によって，星山丘陵の浸食谷を南下し富士川に注いでいた潤井川は流路を切断されたため，断層に沿って流路を東に転じ富士市鷹岡から駿河湾に流入する結果となった。


万野原新田
上万野
粟倉
下粟倉
宮原
鉄工地
下万野
三軒屋
大宮
舞木
阿幸地
丸谷
丸岩
笹輪
叔母懐
次郎長町
田上原
城山町
神祖
久遠寺之前
出水
西原
新梨
上
滝上
中村
大宝山
千貫松
彩田
久保
新田
新屋敷
境町
穴原町
大淵
源道寺
田中
黒田
東京製紙
西小泉
小泉
若宮
権現
大間沢上
大間
大間北
西
富士
久沢北
久沢西
久沢
久沢東
建設機械化研究所
片倉町
道路
山本
上高原
下高原
石の宮
賀戸
久山
瀬
原北
厚原西
厚原
厚原中
厚原東
厚原南
富士加工製紙
滝戸
岡本町
倉南町
広見
伝法
石坂
木島
四ツ家
1000 m
0
1000
2000
3000

第１図　若宮遺跡位置図

沖積世（現世）になり，再び激しい活動が開始された。これが新富士火山で，その噴火活動は古富士火山と異なり多量の溶岩を噴出して，小御岳，古富士両火山を溶岩流と火山砂礫とで幾重にも覆うとともに，周辺の山麓部にも10数mという厚さで堆積した。

有史をむかえても新富士の活発な活動は続き，ついには円錐形火山（コニーデ）の代表的火山を形成するに至った。

現在は1707年（宝永4年）の噴火を最後に活動を休止している。

上記の富士山の成立過程は古富士集塊質泥流が著しく不透水性である反面，新富士火山溶岩が透水性に富む特性から，富士宮市内各所に湧水を生む結果となる。

これは古富士火山の浸食谷が埋没後も旧河床として残り，この谷に沿って地下水脈が形成されたためである。この旧河床は昭和25年のボーリング調査で湧玉川と豊玉川の存在が確認された。湧玉川は富士根地区を南西に下り富士宮浅間大社境内の湧玉の池まで，豊玉川は北山より外神を南下して淀師渋沢付近までを流路にもつ。[註3]

富士根地区は古富士火山の墳出した集塊質泥流（古富士火山墳出物層―佐々木実）を基盤とする。屋根上に位置したため新富士火山初期の溶岩流が及ばずに島状となって残ったためである。上部には新富士火山の火山性砂礫層が降下して，なだらかな丘陵地帯を形成している。この火山性砂礫層が前述したように極めて透水性に富むため，小泉，出水，滝ノ上などの地名が示すように湧水地が多く，市内でも有数の富水地帯となっている。

地形的には富士山を中心に同心円状の等高線によって描かれている。詳細な観察を行うと，湧水を伴った多数の小谷が形成され侵食作用を促進した結果，独立した丘陵，いわゆる舌状台地状の地形が連続して「ノコギリの刃」状となっている。

湧水地と舌状台地状地形による地理的条件が動，植物の繁殖をもたらしたであろうことは箕輪遺跡[註4]，出水遺跡，滝ノ上遺跡[註5]，天間沢遺跡[註6]など，20数ヶ所の縄文時代遺跡が，それぞれ標高100～200mの間に0.5～1km程の距離を隔てて占地することから容易に知れ，富士宮市における遺跡密集地帯を形成している。

反面，富士根地区より北西側に接する万野原一帯は，前述した湧玉川，豊玉川の両河床の中間にあたるため湧水が不可能な乏水地帯である。近年，上水道等の発達によって発展の一途をたどっているものの，過去に遺跡の確認はなく，原始・古代より現在に至るまで，その生産活動や集落立地に富士山による大きな制約を受けたであろうことは言うまでもない。

註1　日本道路公団名古屋建設局・静岡県教育委員会・富士宮市教育委員会　1982　『代官屋敷遺跡』　西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ）

註2　津屋弘逵　1964　「富士山についての証言―山の生立ちと地質学的背景―」『科学朝日』8

註3　塩川隆司　1971　「総説第1章　富士山」　『富士宮市史』上巻　富士宮市

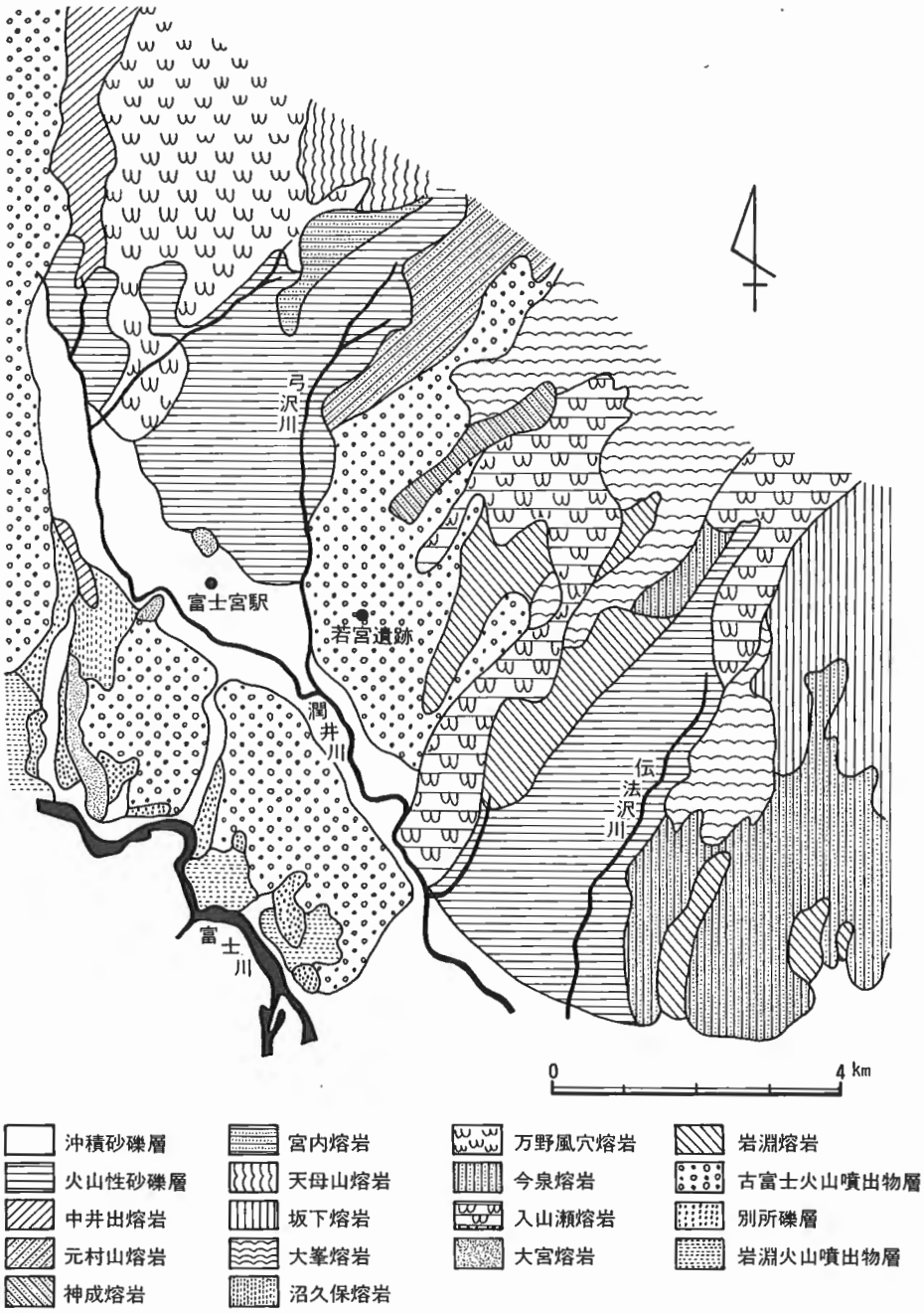
註4　植松章八　1971　「第1章　千居遺跡や月の輪平遺跡―ふるさと富士宮のあけぼの―」　『富

士宮市史』上巻　富士宮市

野村昭光　1976　「箕輪遺跡出土の玉について」　『駿豆考古』第18号

註5　静岡県清水土地改良事務所・富士宮市教育委員会　1981　『滝ノ上遺跡』

註6　富士市教育委員会　1979　『天間沢遺跡第7次（F地区）発掘調査概報』



第2図　富士西南麓の地質図（佐々木実）

第3節　歴史的環境

富士宮市に確認される遺跡は現在125ヶ所である。[註1]遺跡分布は南部に集中して，しかもその大部分が富士根地区，星山丘陵一帯に限られる特色をもつ。これは前節で述べた古富士集塊質泥流の分布と合致する。

遺跡内容は縄文時代に属するものが84ヶ所と他を圧倒する。古墳時代初頭遺跡も比較的充実して，この両者で本地域の遺跡分布図を形作っている状況である。したがって，先土器時代，弥生時代，古墳時代初頭以降の遺跡，ならびに古墳は未発見部分，または時代・時期別の地理的条件の相違による遺跡の伸長があったにせよ極単に少ない。

近年，すなわち昭和40年代にはじまった高度経済成長の波は例外なくこの富士宮市にも押しよせ，この開発に伴って文化財，とりわけ埋蔵文化財（遺跡）に対する影響は数知れないものとなってきた。比例するように緊急発掘調査の数が増したことは言うまでもない。それらをここに拾うと以下のとうりである。

昭和44年（1969）　月の輪平遺跡[註2]　古墳時代初頭　集落跡　放水路建設

昭和45年（1970）　月の輪平遺跡　古墳時代初頭　集落跡　放水路建設

千居遺跡[註3]　縄文時代中期　集落跡・配石遺構　学術調査

昭和46年（1971）　月の輪平遺跡　古墳時代初頭　集落跡　放水路建設

千居遺跡　縄文時代中期　集落跡・配石遺構　学術調査

昭和47年（1972）　月の輪平遺跡　古墳時代初頭　集落跡　放水路建設

月の輪下遺跡[註4]　古墳時代初頭　集落跡　放水路建設

南部谷戸遺跡[註5]　古墳時代初頭　集落跡・方形周溝墓　放水路建設

王藤内の塚[註6]　江戸時代土坑墓　放水路建設

昭和51年（1976）　滝戸遺跡[註7]　縄文・弥生・古墳時代　配石遺構・方形周溝墓　学校建設

昭和52年（1977）　滝戸遺跡[註8]・縄文・弥生・古墳時代　配石遺構・方形周溝墓　学校建設

月の輪上遺跡[註9]　古墳時代初頭　集落跡　宅地造成工事

昭和53年（1978）　代官屋敷遺跡[註10]　縄文時代早・前・中期　集石跡・住居跡　道路建設

大室古墳[註11]　律令時代　円墳・横穴式石室　保存目的墳丘調査

昭和54年（1979）　若宮遺跡[註12]　縄文時代早期　集落跡・炉穴跡・集石跡　道路建設

滝戸遺跡[註13]　縄文時代中期　配石遺構　学校建設

昭和55年（1980）　代官屋敷遺跡　縄文時代早・前・中期　集石跡・住居跡　道路建設

若宮遺跡　縄文時代早期　集落跡・炉穴跡・集石跡　道路建設

滝ノ上遺跡[註14]　縄文時代中・後期　配石遺構　道路建設

月の輪上遺跡[註15]　弥生時代後期　集落跡　宅地造成工事

昭和56年（1981）　若宮遺跡　縄文時代早期　集落跡・炉穴跡・集石跡　道路建設

月の輪平遺跡[註16]　古墳時代初頭　集落跡　土石採集

上石敷遺跡[註17]　縄文時代早・前・中期　古墳時代初頭　律令時代　集石跡・配石遺構・集落跡　区画整理事業

昭和57年（1981）　権現遺跡[註18]　古墳時代初頭　集落跡　店舗建設

滝戸遺跡[註19]　縄文・弥生・古墳時代　配石遺構・方形周溝墓・集落跡　河川改修工事

（昭和57年7月現在）

上記の発掘調査で遺跡内容は除々に明らかになりつつある。それらを理解しながら本地域の歴史的環境についてみたい。

本地域の人間活動の開始は古富士火山第II期活動中の後期旧石器時代より認められる。それはもはや人間活動を不可能ならしめるほどでなかったことが推察される。

遺跡は沼久保坂上（大場山）遺跡[註20]（富士宮市遺跡№95－以下同じ），星山周辺の南部谷戸遺跡（106），月の輪平遺跡（107），芝川町小塚A遺跡[註21]，富士市天間沢遺跡が認められ，いずれも新富士火山の溶岩流が及ばない地域に限られる。今後の新発見遺跡もこの地域に限られることが予想されて，新たに若宮遺跡（9），上石敷遺跡（新発見）に有舌尖頭器が確認された。しかし，遺跡規模は貧弱で，包含層が確認されたのは芝川町小塚遺跡以外ない。

縄文時代をむかえて，早期の遺跡占地は旧石器時代を継承しつつも星山，羽鮒丘陵，富士根地区に若干の発展をみせる。

従来，本地域でもっとも古い縄文文化は早期中葉に至って出現するとされ，田戸式系土器群が盛行する時期に押型文土器を伴出することが知られていた。表面採集による資料が対象であったが，代官屋敷遺跡（11），奥山地遺跡（113），沼久保坂上遺跡，南部谷戸遺跡，月の輪平遺跡である。これらの資料のうち楕円押型文土器が比較的卓越して，楕円粒も粗大であることから押型文文化の終末期があたえられた。さらに資料の貧弱さも手伝って遺跡は小規模である把握が同時になされて現在に至っていた。

しかし，近年早期遺跡の発掘調査が活発化して除々に内容が明らかにされるように，本地域でも若宮遺跡によって大きく覆された。

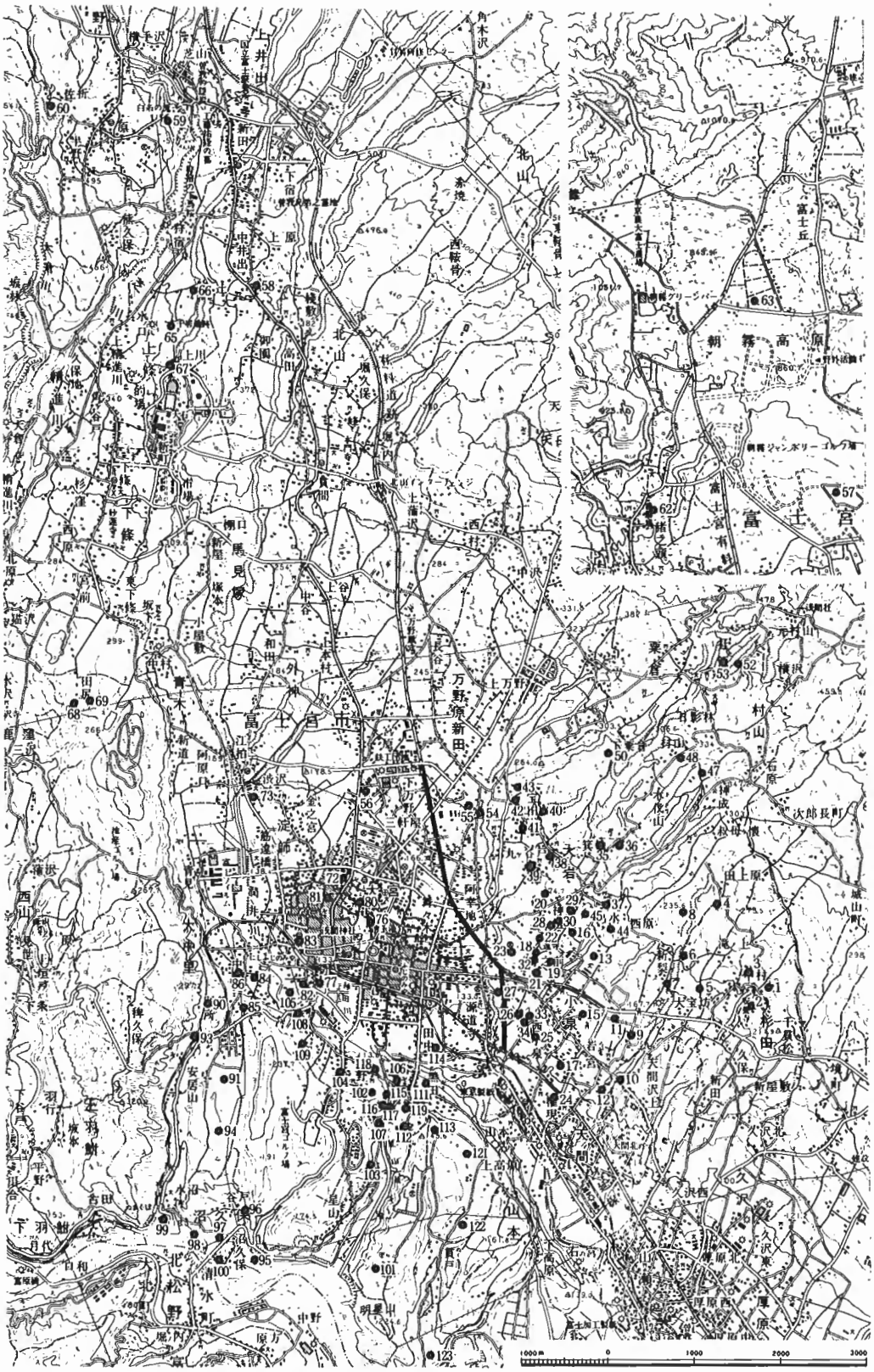
若宮遺跡で得た竪穴住居跡・炉穴跡・集石跡等によって構成される集落跡は完全に早期遺跡の概念を反転させるとともに，本地域の縄文時代最古の遺跡となった。

早期後葉の条痕文系（茅山式系）土器群の時期になると，浅間神社遺跡（76）に新たな進出がみられる。奥山地遺跡，沼久保坂上遺跡，茅山上層式に属する良好な資料を出土する坊地上遺跡（102），地名表による小松原A遺跡（99）など星山丘陵一帯に発展的となる。それに代官屋敷遺跡が本調査で資料を得て加えられ，さらに新発見された上石敷遺跡にも野島式土器の資料を得るなど，富士根地区に発展の前兆をみる。

番号	整理No.	遺跡名	備考
1	J-30	焼畑	
2	J-31	杉田中村	土偶出土
3	J-29	滝ノ上	発掘調査
4	J-75	田上原	
5	J-32	丸塚	
6	J-28	新梨	
7	J-76	杉田西原	
8	J-27	大辻	
9	J-74 H-66 K-5	若宮	発掘調査
10	J-26 H-20	横道(天間沢)	
11	J-23 H-16	代官屋敷	発掘調査
12	J-25 H-19	蟹入越	
13	J-20	小泉向原	
14	J-80	尾無沢	
15	J-71 H-61	前田	
16	J-18	寺後	
17	J-24 H-17	上宿(旧下宿)	
18	J-72 H-62	神祖	
19	J-19 H-11	寺内	
20	J-17 H-10	大室(矢ノ下)	
21	J-73 H-63	小泉中村	
22	J-21 H-12	三ツ室	
23	J-22 H-13	木ノ行寺	
24	H-18	権現	発掘調査
25	H-60	石敷	
26	H-15	向田	
27	H-14	中沢	
28	K-2	大室	墳丘調査
29	K-3	神祖1号墳 (山ノ神古墳)	
30	K-4	神祖2号墳	
31	K-18	神祖3号墳	消滅
32	K-17	寺内山ノ神	
33	K-14	天神塚	誤認
34	K-13	虚空蔵塚	
35	J-8 H-2	箕輪(A)	註 22
36	J-9 H-3	箕輪(B)	
37	J-16 H-8	出水	
38	J-14 H-57	峯石	
39	J-15 H-6	丸ヶ谷戸	
40	J-10 H-4	辰野	
41	J-13 H-5	時田	
42	J-12	宝田(元大岩)	
43	J-11 H-58	峰ヶ谷戸	
44	H-7	出水東	
45	H-9	出水西	
46	J-3	石原	
47	J-4	松葉(神成)	
48	J-6 H-1	東谷戸	
49	J-5	木伐山	
50	J-7	稲干場	
51	K-1	元村山	地点不明
52	J-1	社領東	
53	J-2	社領西	
54	K-15	舞々木1号墳	
55	K-16	舞々木2号墳	
56	K-12	行人塚(宮原)	消滅
57	H-52	姥穴	
58	H-51	桟敷(辻坂)	
59	J-65	白糸滝	
60	J-81	白糸左折	
61	J-66	田貫湖草原	
62	J-67	猪之頭養鱒場	
63	J-68	富士岡	
64	J-69	根原	
65	S-4 J-63	千居(B)	発掘調査 国指定
66	J-64	千居(A)	
67	J-62	青蓮の滝	
68	J-61 H-49	丸山(田尻西)	
69	H-50	田尻	
70	J-60	青木	
71	J-59 H-55	青見	
72	H-56	琴平	
73	Y-4	渋沢	註 25
74	H-39	淀師	
75	J-50	神賀町	
76	J-51 H-43	浅間神社	
77	Y-3 H-35	羽衣町	
78	H-54	城山	
79	H-44	北神田	
80	H-41	二ノ宮	
81	H-42	福知神社	
82	H-36	西町	
83	H40	貴船小学校	
84	J-70 H-59	甲石	
85	J-47 H-37	福伝	
86	J-48 H-38	大中里坂下	
87	J-49	大中里坂上	
88	K-8	中里	消滅
89	K-9	南原	消滅
90	J-52 Y-5 H-45	別所	
91	J-77 H-65	上の原	
92	K-10	別所1号墳	県史I
93	K-11	別所稲荷塚古墳 (別所2号墳)	
94	L-2	摩利支天塚	
95	S-3 J-54 H-46	沼久保坂上 (大場山)	註 20
96	J-55 H-47	谷外	
97	J-56 H-48	下田	
98	J-57	小松原(b)	
99	J-58	小松原(A)	
100	K-19	籔塚古墳	
101	J-78	明星山	
102	J-40 H-28	坊地上	
103	J-53 H-64	倭文神社	
104	J-43 H-31	野中中村	
105	J-46 H-34	泉	
106	S-2 J-41 H-30 K-20	南部谷戸	発掘調査
107	S-1 J-39 H-25	月の輪平	発掘調査
108	J-45 H-33	滝戸	発掘調査
109	J-44 H-32	野中向原	3連土器
110	J-42	スギナクボ	
111	J-37 H-23	五反田	
112	J-38 H-24	月の輪上	発掘調査
113	J-36 H-22	奥山地	
114	Y-1	田中	
115	H-29	坊地下	
116	H-27	坊地南	
117	H-26	月の輪下	発掘調査
118	K-7	塚本古墳	
119	K-6	月の輪法印塚	消滅
120	L-1	王藤内の塚	発掘調査
121	J-35 H-21	上高原	
122	J-79 H-67	出口	
123	Y-2	初田	
124	J-33 H-53	光徳坊	
125	J-34	高原愛宕山	

S	先土器時代
J	縄文時代
Y	弥生時代
H	土師器(古墳時代)
K	古墳
L	歴史時代

第1表　富士宮市遺跡分布表



第３図　富士宮市遺跡分布図

前期に至ると星山丘陵一帯の遺跡が影をひそめて富士根地区に発展をみせる。しかし，遺跡数は貧少である。

木島式土器の良好な資料が出土する単純遺跡の出水遺跡（37），隣接して峯石遺跡（38）があげられる。以後，中葉に文化がとだえて諸磯式系文化に至って遺跡の再出現をみる。

諸磯式系土器群には北白川下層式土器が伴出することから，関東系土器文化圏にありながら関西的な要素をあわせもつことが知れる。遺跡は代官屋敷遺跡，南部谷戸遺跡の早期から再出現した遺跡に加えて，焼畑遺跡（1），新梨遺跡（6），寺内遺跡（19）をみる。

中期前葉の文化は勝坂式土器に代表され，その繁栄の中心は中部高地の山岳地帯であり，本地域もその周辺地域として理解することができる。遺跡占地は丘陵斜面の小規模遺跡が多く，中部山岳地方の大規模な集落遺跡の形成と極めて対称的である指摘もなされている。

遺跡は歴代遺跡へと発展していく場合もあるが，単独で存在して以後消滅してしまうものが多い。高原愛宕山遺跡（125），泉遺跡（105），神賀町遺跡（75），坊地遺跡，上石敷遺跡である。

本地域に特筆は中葉の加曽利E式期からの爆発的な遺跡増加である。勝坂期に残存した遺跡はここで大きく転換して規模の大きな遺跡を営む。占地条件も小規模な丘陵斜面から広大な台地の平坦面に位置するようになり，本地域の歴代遺跡，すなわち基地的遺跡に発展する。箕輪A遺跡[註22]（35），同B遺跡（36），滝ノ上遺跡（3），滝戸遺跡（108），富士市天間沢遺跡である。

さらに基地的遺跡とは別に新たに形成された小規模遺跡が58ヶ所発生する。縄文時代遺跡84遺跡中，約70％にあたり，この時期には富士西南麓一帯が遺跡といっても過言ではない状況となる。

この分布状況を植松[註23]は半径3㎞の生活圏を5群想定し，それが中期社会に至ると旧来の生活圏を半径1.5㎞，面積7㎢の小遺跡圏が分割，発展していく過程をみいだし，そうした傾向が中期社会の歴代有力遺跡を中心に，分村という形態で移っていく軌跡であり，社会が発展していくと群そのものが大きく移住して，過去の生活圏をうちこわしていくという縄文文化発展の普遍性につらなっているとしている。

内容の明らかな遺跡にその状況をもとめると滝戸遺跡（108）と千居遺跡（66）がうかぶ。

滝戸遺跡は内容の不明な箕輪遺跡をのぞけば，富士，富士宮を含めた岳南地域において富士市天間沢遺跡と並び称される歴代有力遺跡である。その存在は古くより知られ[註24]，昭和51・52・54・57年と4次の発掘調査がなされ，縄文早期～弥生，古墳時代に続く配石遺構，集落跡，方形周溝墓などからなる歴代遺跡であることが確認されている。

千居遺跡は昭和45・46年に発掘調査がなされ，縄文時代中期後葉の20棟前後からなると想定される集落跡と，集落廃棄直後に配された帯状，および環状配石群の存在が確認される。果して千居遺跡の基地的集落はいかに，という問題は残るとしても，分村的集落（単独遺跡）が営まれ，調査者が推察するように富士山の噴火等による自然現象の変化で集落が廃棄され，直後にたぶんに富士山を意識した配石がなされたとするならば，そこに中期社会の発展と退潮の

現象をみいだせるとも，本地域における諸遺跡と富士山とのかかわりを考えざるを得ない。なお，千居遺跡は昭和50年6月に国指定史跡となっている。

以後，いずれの遺跡も堀之内II式期には急激に衰えてしまい，わずかな歴代遺跡を残すだけとなる。この停滞現象について，海岸部の魚撈文化の発展が内陸部の文化の発展をさまたげたと考えられているが原因をあきらかにするには至っていない。

晩期の遺跡も辰野遺跡（40），大中里遺跡（87），滝戸遺跡に微量の資料が認められるにすぎず，また前葉に限られることから，本地域の文化は弥生時代をむかえるまで中断される。

本地域の弥生時代は中期，丸子式土器・石包丁等を出土した渋沢遺跡[註25]（73）より開始される。

渋沢遺跡は西側に潤井川，東側に湧水地をのぞむ台地上に占地する。前面にひろがる湿地帯での農耕が想定されるが，石鏃等狩猟具も出土することから狩猟・採集の必要性があったと考えられる。細片資料であるが別所遺跡（90）も占地状況はやはり潤井川をのぞむ台地上であり，極く初期の農耕生産力では生活を維持できず，狩猟・採集に依存せざるを得なかったことが推測される。

両遺跡以降になると，ふたたびその内容は不明瞭になることから，渋沢遺跡等で育った農耕技術がしだいに向上して，面積もひろく生産性のたかい富士市浮島沼付近に移動していったことが考えられている。[註26]

後期前半をむかえるとふたたび本地域に遺跡がみられるようになり，泉遺跡（105）があげられる。後半になると遺跡は活発化して，星山丘陵東辺をとりかこむ潤井川自然堤防上，あるいは富士山側からの扇状地末端部に羽衣町遺跡（77），田中遺跡（114）等の遺跡の進出がみられる。従来，こうした傾向は農耕生産力の向上が遺跡を台地上，あるいは先端部から沖積地内部へ下降させ，かつ発展させたと理解されているが，本地域においては両遺跡とも継続，発展することなく廃絶してしまう。

そこには本地域の沖積地内遺跡の発展をさまたげたなんらかの特徴的な要因を考えねばならぬが，さきに，近年資料が増加している後期末葉遺跡をあげれば，滝戸遺跡，月の輪上遺跡（112）の集落跡の存在の確認，これに旧知の初田遺跡（123），野中向原遺跡（109）等の遺跡があげられる。

その占地は初田遺跡をのぞけば，いずれも星山丘陵東辺の台地中央部，ないしは先端部といった沖積地より奥まった地であり，末葉に至っても沖積地進出の糸口さえつかむことのできなきった占地状況を示している。逆にいえば台地占地が一般的であったとするほうが適切であるかもしれない。

この占地傾向を考えたとき，本来の弥生集落の生業が湿地帯内農耕であれば，潤井川湿地帯の存在をみのがす訳にはいかない。潤井川は西岸を羽鮒，星山丘陵に，東岸を富士山扇状地末端地形によってせりだされているため南北に細長い構造をとらざるを得ない。しかも大宮断層

上を流路としているため一種の溺れ谷的性格をもち，現在でも洪水がくりかえされている状況である。この状況を当時に設定できるなら，遺跡の発展は考えがたく，台地占地にはしるのも，そうした災害からの逃避現象であるかもしれない。

しかし，弥生時代における高地性集落の発展を考えあわせたとき，一概に自然，ならびに地形条件の不利を設定するだけでは説得力にかけ，その他諸要因が相まってなした現象であるはずである。今後の遺跡分布の課題である。しかし，本地域の弥生時代遺跡に湿地帯内での発展が認められないのも事実である。

上述の過程を経て古墳時代初頭に至る。その文化は前述の縄文時代中期の爆発的な盛隆に匹敵するほどであり，弥生時代遺跡の確認のない富士根地区でも湧水地点を中心に縄文時代遺跡は古墳時代初頭遺跡といっても過言でない状況となる。昭和56・57年に上石敷遺跡（新発見），権現遺跡（24）に集落跡を確認している。まして潤井川湿地帯を望む星山丘陵東辺ではさらに濃密となり，表面採集による調査では遺物が連続して正確な遺跡数さえつかめない。あえて遺跡をあげれば，坊地上遺跡（102），野中中村遺跡（104），南部谷戸遺跡（106），月の輪平遺跡（107），滝戸遺跡，野中向原遺跡，五反田遺跡（111），月の輪上遺跡，坊地下遺跡（115），坊地南遺跡（116），月の輪下遺跡（117）の諸遺跡である。一部には前述した弥生時代終末より継続する遺跡も存在する。

古墳時代初頭遺跡も潤井川湿地帯内に確認はない。爆発的な文化の発展を弥生時代終末より台地上，あるいは先端部に占地した遺跡群がなした技と考えるならば，遺跡内部にはすでに内陸生産手段が培われていたのであろうか。水田耕作可能線より奥まる富士根地区の遺跡増加を理解するにはやはり，そこに弥生時代終末の萌芽的な遺跡の存在を想定せねばならない。遺跡分布調査時に弥生式土器と認め得る資料もあるらしい。

盛隆をきわめた古墳時代初頭遺跡はその後急激に衰退する。遺跡も新発見された上石敷遺跡の真間期竪穴住居跡2棟，他は貴般小学校校庭遺跡（83）にわずかな土器片が確認されるだけで不明な点が多い。この時期の集落数が古墳数に比例するならば，隣接の愛鷹山麓地域に比べて勝るとも劣らない初頭遺跡は，古墳数を比べると10分の1にも満たない状況である。遺跡占地の変化を考え合せても，あきらかに本地域の遺跡の減少を示すものであろう。

本地域の古墳はいずれも後期に属する。星山丘陵東辺に南部谷戸古墳群（106），塚本古墳（118），月の輪法印塚古墳（119），安居山に別所古墳群（92･93），対岸の富士根地区に若宮古墳群（9），三ツ室古墳群（28～31），虚空蔵塚古墳（34）の小規模な古墳群が形成され，現在まで14基が確認される。占地は古墳時代初頭遺跡より沖積地にちかい古墳群が多いことから，同時代の集落が古墳群より低位にあったならば，安定しはじめた潤井川両岸の微高地が想定される。しかし，その部分は現在の市街地にあたって遺跡の発見が困難なこともある。が，いずれにしても古墳数を考えると，それは他地域に比べて貧弱な遺跡分布でしかなかったと思われる。

註1　富士宮市教育委員会　1979　『富士宮市遺跡地名表』　付富士宮市遺跡分布図
整理№33　天神塚古墳誤認によって欠番。昭和56年6月に小泉字石敷737－1番地他に上石敷遺跡が新発見されて，計125遺跡となる。

註2　月の輪遺跡発掘調査団　1972　『星山放水路関係遺跡発掘調査概報』
富士宮市教育委員会　1981　『月の輪遺跡群』　富士宮市文化財調査報告書第1集

註3　小野真一編　1975　『千居』　加藤学園考古学研究所

註4　註2に同じ

註5　註2に同じ

註6　註2に同じ

註7　富士宮市教育委員会　1977　『滝戸遺跡発掘調査（第Ⅰ次）概報』

註8　富士宮市教育委員会　1978　『滝戸遺跡発掘調査（第Ⅱ次）概報』

註9　註2に同じ

註11　日本道路公団名古屋建設局・静岡県教育委員会・富士宮市教育委員会　1982　『代官屋敷遺跡』　西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（Ⅰ）

註11　富士宮市教育委員会　1979　『大室古墳墳丘実測調査報告』

註12　日本道路公団名古屋建設局・静岡県教育委員会・富士宮市教育委員会　1980　『西富士道路埋蔵文化財発掘調査（富士宮地区）概報Ⅱ』

註13　富士宮市教育委員会　1980　『滝戸遺跡発掘調査（第Ⅲ次）概報』

註14　静岡県清水土地改良事務所・富士宮市教育委員会　1981　『滝ノ上遺跡』　富士宮市文化財調査報告書第3集

註15　富士宮市教育委員会　1981　『月の輪遺跡群Ⅱ－月の輪上遺跡（B地区）—』　富士宮市文化財調査報告書第2集

註16　富士宮市教育委員会　1982　『月の輪遺跡群Ⅲ—月の輪平遺跡（第6次調査・月の輪上遺跡（C地区）—』　富士宮市文化財調査報告書第4集

註17　富士宮市教育委員会　1982　『上石敷遺跡発掘調査概報』

註18　富士宮市教育委員会　1983　『権現遺跡発掘調査概報』

註19　富士宮市教育委員会　1983　『滝戸遺跡発掘調査（第Ⅳ次）概報』

註20　野村昭光　1969　「富士宮市大場山出土の縄文土器」　『駿豆考古』第8号

註21　芝川町教育委員会　1972　『駿河小塚』—静岡県における先土器文化の研究—

註22　野村昭光　1976　「箕輪遺跡出土の玉について」　『駿豆考古』第18号

註23　植松章八　1971　「第1章　千居遺跡や月の輪平遺跡—ふるさと富士宮のあけぼの—」『富士宮市史』上巻　富士宮市

註24　静岡県　1930　『静岡県史』第1巻

註25　小野真一・笹津海祥・塩川正男　1962　「富士宮市渋沢遺跡出土の弥生土器（丸子式の新資料）」　『駿豆考古』第6号

註26　註23に同じ

第II章　調査の経緯と経過

第1節　調査の経緯

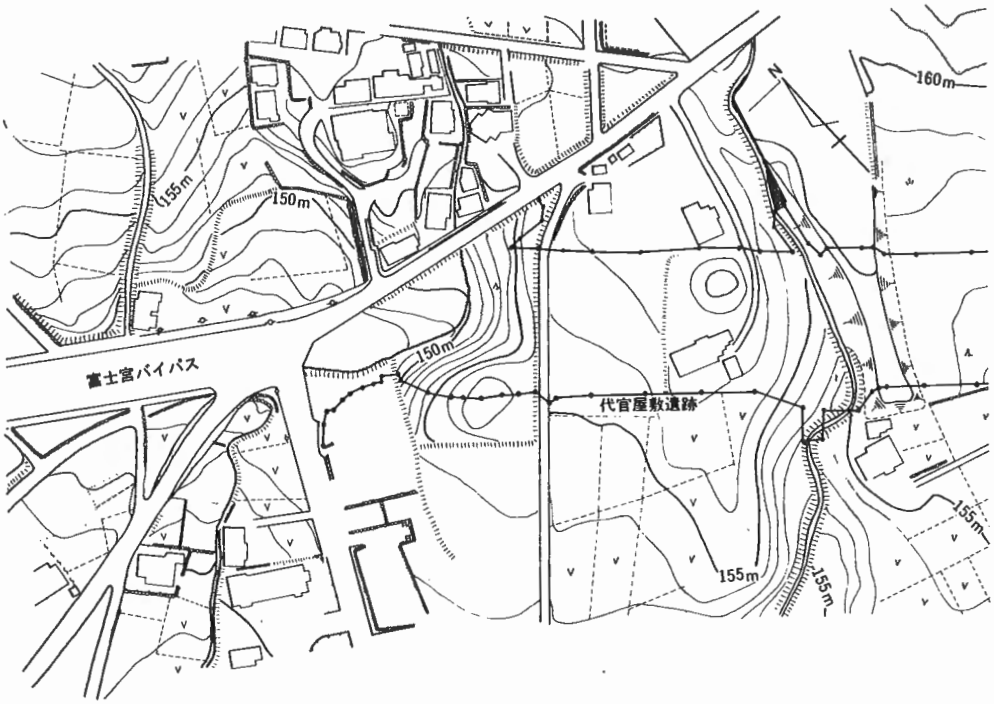
若宮遺跡発掘調査の起因となったのは西富士道路建設である。この建設計画は年々交通事情の悪化する富士・富士宮市間の国道139号の混雑緩和と交通環境の保全，また駿河湾工業地帯の中核を形成する岳南地域の発展に寄与するものとして，静岡県をはじめ地元市町村より建設の強い要請と陳情がなされたものであった。

日本道路公団による西富士道路建設趣旨は以下のとうりである。

一般国道139号　西富士道路

一般国道139号は，駿河湾工業地帯の中心である富士市青島地区で一般国道1号と分岐し，山梨県大月市に通じる産業道路であり，かつ富士箱根伊豆国立公園観光周遊にも利用される主要幹線道路であるが，富士山麓一帯並びに富士市・富士宮市及びその周辺地域の近年における産業，観光の開発がめざましく，しかも東名・中央の両高速道路の開通に伴い，同地域における自動車交通量は飛躍的に増加しており，特に通勤時間帯及び観光シーズン等には混雑が著しい。

これに対応するため西富士道路は，一般国道139号のバイパスとして富士市伝法から富士宮市小泉までの区間の混雑解消を図るとともに，地域発展に寄与する目的で計画され建設するも



のである。すでに北側より当公団施工の富士宮道路Ⅰ期，同道路Ⅱ期及び建設省管理の富士宮バイパスが供用中である。

西富士道路は，昭和50年2月24日付けで建設大臣の事業許可を得たものである。

路線の概要

西富士道路は富士市伝法地区を起点とし，富士宮市小泉地区を終点とする総延長6.9㎞の道路である。この間当道路は富士市（6.2㎞）及び富士宮市（0.7㎞）の両市を通過する。

起点である都市計画道路田子浦臨港線との平面接続から，一般国道139号を立体交差し，富士市伝法地内で東名高速道路富士インターチェンジと立体接続の後，富士インター料金所の東側に沿って北上し，同高速道路と再び立体交差（アンダー・パス）する。その後はほぼ同一な畑及び山林の点在する緩やかな地形の丘陵地を北西にほぼ一直線に進み，終点である富士宮市小泉地内で富士宮バイパス及び県道元吉原大淵富士宮線と平面接続し，山梨県大月市に至る富士周遊道路の一環をなすものである。

事業計画の概要

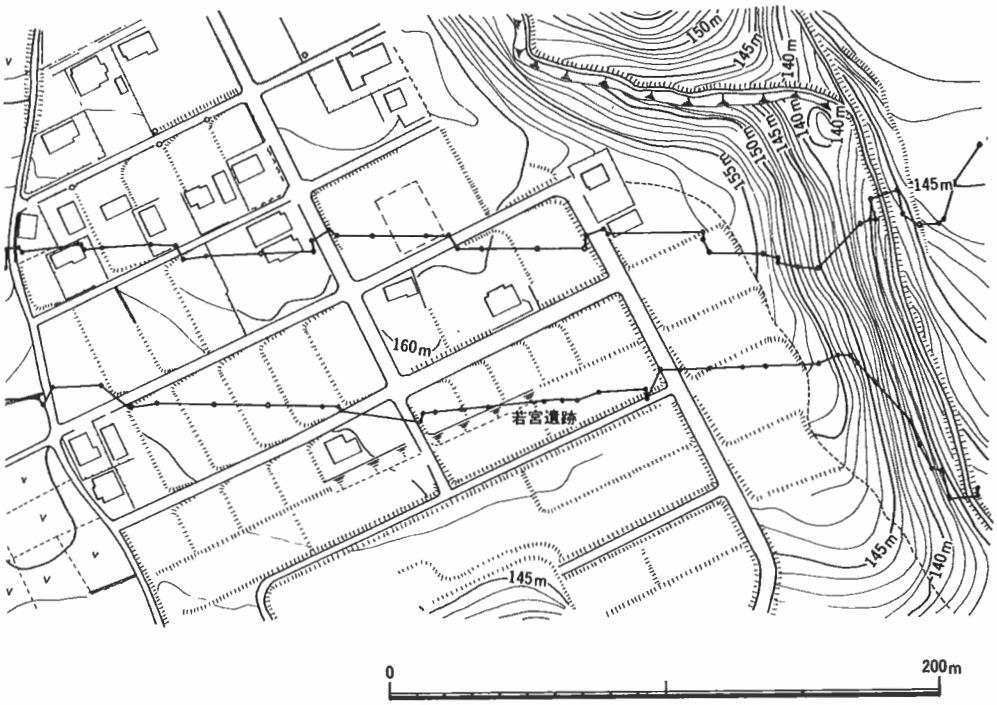
(1) 路　線　名　　一般国道139号

(2) 道　路　名　　西富士道路

(3) 工事区間　　静岡県富士市伝法から静岡県富士宮市小泉まで

(4) 道路延長　　6.9㎞

(5) 構造規格　　第1種第3級



第4図　西富士道路（富士宮地区）路線図

設計速度　80 km/h）一部 60 km/h）

車線数　4車線

車道巾員　4×3.5 m＝14.00 m

中央帯巾員　3.00 m

(6) 舗装　アスファルトコンクリート舗装

(7) 接続道路

接続道路名	接続位置	接続方法
都市計画道路田子浦臨港線	富士市伝法	平面接続
高速自動車国道東海自動車道	富士市伝法	立体接続
都市計画道跡富士富士宮線	富士市伝法	立体接続
県道元吉込大淵富士宮線	富士宮市小泉	平面接続
一般国道 139 号(富士宮バイパス)	富士宮市小泉	平面接続

（日本道路公団名古屋建設局西富士道路工事事務所）

この工事計画が昭和 50 年 10 月に，日本道路公団名古屋建設局西富士道路工事事務所から，静岡県教育委員会に提示された。以後，予定路線区域内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議がなされ，この結果，同月，日本道路公団名古屋建設局西富士道路工事事務所は，静岡県教育委員会に予定路線内の埋蔵文化財包蔵地分布調査を依頼した。

これを受けた静岡県教育委員会は，富士宮市教育委員会に路線内の分布調査を要請し，同年 12 月，富士宮市教育委員会は路線周辺の遺跡分布図を日本道路公団名古屋建設局西富士道路工事事務所に提出した。

これをもとに昭和 51 年 6 月から 7 月にかけて日本道路公団名古屋建設局西富士道路工事事務所，静岡県教育委員会，富士宮市教育委員会の三者で，埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ね，路線内の包蔵地分布調査を富士宮市教育委員会が実施することとなった。

富士宮市教育委員会は，路線内全域にわたる分布調査を植松章八（静岡県立吉原高等学校教諭・日本考古学協会員）・野村昭光（静岡県文化財保護委員）・渡井一信（静岡県考古学会員）に依頼し，昭和 51 年 8 月 23・24 日に日本道路公団名古屋建設局西富士道路工事事務所・静岡県教育委員会の立ち会いのもと，富士市教育委員会と合同で，富士市伝法地先より同天間字好水，さらに富士宮市小泉字代官屋敷に至る路線内全域の確認調査を実施した。

西富士道路（一般国道 139 号）埋蔵文化財分布調査報告

調査対象　西富士道路予定路線敷地内（富士市伝法～富士宮市小泉）

調査期日　昭和 51 年 8 月 23・24 日

調査員　植松章八・野村昭光・渡井一信

調査立合　日本道路公団

調査主体　富士市教育委員会・富士宮市教育委員会

Ⅰ　はじめに

日本道路公団が計画する西富士道路は東名高速道路富士インター（富士市伝法）を起点として，富士宮バイパス（富士宮市小泉）に接続する全線約6.9kmを測るが，それはおおむね富士山南麓に発達する丘陵群を横断する状況となる。今度その全線を踏査したのでその成果を略述する。

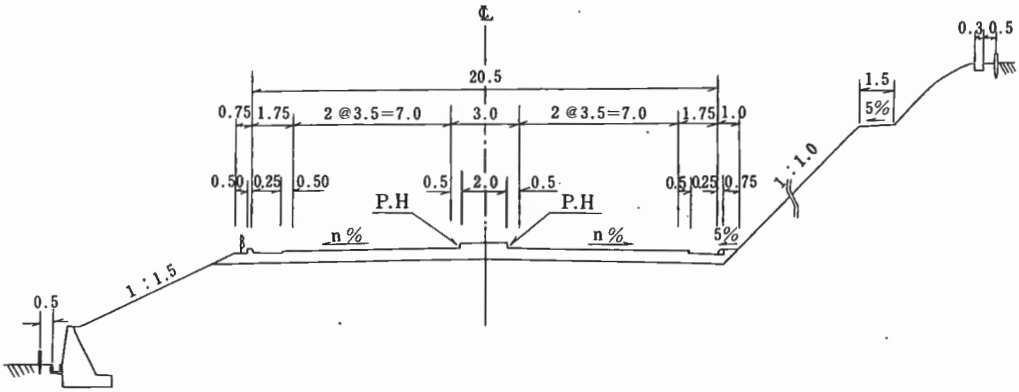
調査の方法は

(1) 確実に遺跡であるもの

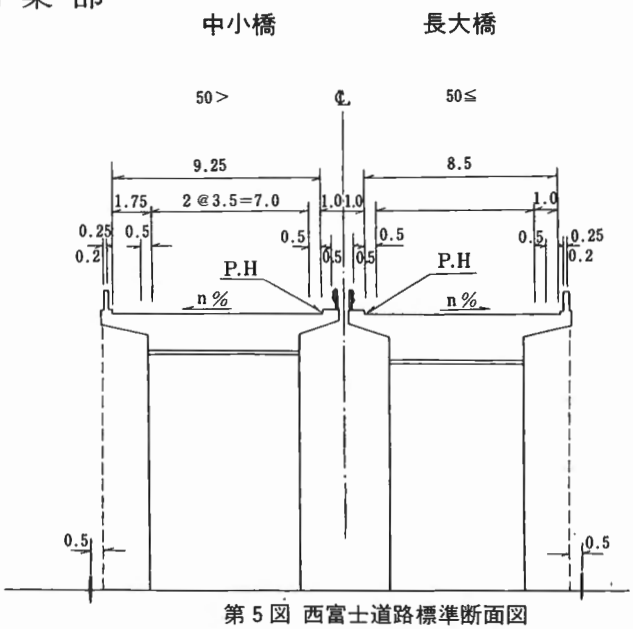
(2) 遺跡の可能性があるもの

を摘出することに主眼をおいた。

土 工 部



橋 梁 部



第5図 西富士道路標準断面図

II　各　説

1　東平遺跡　　富士市伝法

本遺跡はすでに東名高速道路の事前調査としてその一部が発掘調査をうけ略報告もなされている。字名からすれば『東平』の名称が妥当であるか否かは若干問題が残るが，ここでは一連の遺跡とみて便宜的にその名称を踏襲することとしたい。

A（大月線南側全域）・B（大月線北側で東名本線東側）両地点については，その全域が土師器・須恵器の濃密な散布地であって，全面的な遺構の存在が想定される。

C地点（本線北側）は，たぶんB地点と連続するものであろう。

さらに北側の1段高くなる丘陵面上に位置するD地点については，その範囲，性格を明確に把握することはできなかった。本調査にさきだって確認調査が必要となろう。

2　東平古墳群（仮称）　　富士市伝法

前項東平遺跡C・D両地点内の箇所に古墳の可能性が認められた。現状からは断定し難いので予備調査の必要があるものとしたい。

3　若宮遺跡　　富士宮市小泉

すでに宅造による破壊を受けているが，一部には良好な包含層の存在が認められた。縄文時代中～後期の遺跡で，その範囲，性格は不明である。包含層の残存状況を確認する必要があろう。

4　代官屋敷遺跡　　富士宮市小泉

東西2丘陵にわたる遺跡でその全域に土師器片が散布するが，若干稀薄であるので，遺構の有無・性格は不明である。

また西側丘陵は現状が森林であるが，予定路線の若干南側には縄文時代早・前期の遺物が出土しているので，その時期の調査も必要であろう。

III　まとめ

以上の各遺跡について要約列記すると次のとうりである。

東平遺跡A～C地点　　土師器・須恵器散布

たぶん集落遺跡で全域調査が必要。

東平遺跡D地点　　土師器散布

散布稀薄で，範囲も不明瞭，予備調査の必要あり。

東平古墳群　　古墳3基

有無を確認する予備調査が必要。

若宮遺跡　　縄文中・後期

包含層の存在は確実であるが，範囲は不明瞭，その残存状況を確認する必要あり。

代官屋敷遺跡　　縄文早・前期，土師器散布

縄文・土師器の両期にわたる全域調査が必要である。

なお，本路線内の富士市大淵・鷹岡地区については，現況は茶畑が多く，表面調査による遺跡の確認は事実上不可能に近い。周辺の状況からすれば可能性は少ないものとしてよかろうが，工事着手時における再調査は必要といえよう。

同様に富士宮市小泉若宮地区も古墳の密集地であったといわれるので，現況茶畑の地点については工事進行途上における注意が必要であろう。

（文責　植松章八）

この分布調査に基づき，富士宮市教育委員会は確認遺跡を周知の遺跡登録して，この調査結果を昭和51年10月，静岡県教育委員会に報告するとともに，静岡県教育委員会を経由して文化庁，および日本道路公団名古屋建設局へ報告した。

昭和51年12月，分布調査の結果に基づいて日本道路公団名古屋建設局，静岡県教育委員会，富士宮市教育委員会の三者の具体的な取り扱いについて検討を行うなかで，一応，工事着工前に発掘調査を実施し記録保存する方向で協議が進み，昭和52年3月，日本道路公団名古屋建設局は文化財保護法第57条2項に基づき，埋蔵文化財発掘通知を文化庁に提出し，昭和52年8月，発掘通知（委保5の1043号）が受理された。

さらに昭和52年12月，日本道路公団名古屋建設局，静岡県教育委員会，富士宮市教育委員会の三者で重ねて協議した結果，発掘調査（外業）を道路建設工期と開通予定時期を勘案する中で，昭和53年度に代官屋敷遺跡の本調査と宅地造成工事のため範囲の明確でない若宮遺跡の包蔵範囲確認を目的とする予備調査を実施することとなった。特に若宮遺跡については包蔵が確認された場合，昭和54年度に調査が継続することになった。

以後，具体的な準備，検討が行われ，日本道路公団名古屋建設局からの委託を富士宮市が受け，静岡県教育委員会の指導のもとに現地の調査を富士宮市教育委員会が実施することとなった。

このような経緯のなかでこれと並行して富士宮市教育委員会は、大規模かつ長期間にわたる発掘調査を実施するにあたり，同様の調査を実施している県内・近県市町村の視察を行い，調査方法，調査体制，調査事務の処理等の指導を受けるとともに，市内部における専従調査員の確保が急務となり，その人選にあたり，また同時に発掘調査に従事する作業員の雇用についても準備を進めた。昭和53年3月，一応の調査体制の骨柄をみた。

昭和53年4月1日付，日本道路公団名古屋建設局，静岡県教育委員会，富士宮市の三者間に西富士道路埋蔵文化財発掘調査（富士宮地区）における発掘調査委託契約が締結，さらに，契約書の内容，及び連絡協議会の設置等についての覚書を交換した。

昭和53年6月1日より，発掘調査体制を整えた富士宮市教育委員会は現地調査を開始し，その結果，若宮遺跡に広域な包含層が確認され，昭和54年度に契約を更新した。しかし，以後発掘調査対象地内の土地買収，家屋退ちのきの凍結等による諸事が相まって，昭和55・56・57年度に契約を再び更新，ならびに契約変更がなされた。

年度	調査期間	調査費用(千円)		遺跡名	包蔵面積(m²)		予定面積(m²)	完了面積(m²)	備考
		当初	変更		当初	変更			
53	自昭和53年4月1日 至昭和54年3月30日	49,038	39,120	代官屋敷	5,920	——	4,020	4,300	第Ⅰ次概報 昭和53年度
				若宮	9,100	4,900	350	420	
54	自昭和54年4月2日 至昭和55年3月30日	55,000	46,000	代官屋敷	5,920	6,100	1,800	0	第Ⅱ次概報 昭和54年度
				若宮	4,900	6,500	3,000	4,000	
55	自昭和55年4月1日 至昭和56年3月31日	45,000	30,000	代官屋敷	6,100	——	1,800	1,000	第Ⅲ次概報 昭和55年度
				若宮	6,500	——	2,500	1,000	
56	自昭和56年4月1日 至昭和57年3月31日	37,500	32,950	代官屋敷	6,100	——	800	800	代官屋敷遺跡 本報告
				若宮	6,500	——	1,500	1,500	
57	自昭和57年4月1日 至昭和58年3月31日	30,045	——	※53年度若宮遺跡は予備調査面積					若宮遺跡 本報告

第2表　発掘調査委託契約・変更表

第2節　調査の体制

西富士道路埋蔵文化財発掘調査（富士宮地区）の調査体制は次のとうりである。

調査委託機関　日本道路公団名古屋建設局

調査受託機関　富士宮市

調査指導機関　静岡県教育委員会

調査実施機関　富士宮市教育委員会

調査主体者　塩川隆司　富士宮市教育委員会教育長

調査員　馬飼野行雄　富士宮市教育委員会技師

渡井一信　富士宮市教育委員会技師

伊藤昌光　富士宮市教育委員会学芸員

補助調査員　石川　篤　静岡県考古学会員

田杉幸子　国学院大学卒業生

（補助）　赤池長次・井出紀夫・斉藤泰彦・佐藤幸司・杉沢正敏・恒松慎彦・馬飼野一正・武蔵金臣・望月秀行・依田孝郷・阿部富士子・伊藤邦江・太田智子・木川知子・鈴木春代・田中徳代・深沢由美子・松田恵子・吉野順子・芦川美智子・北川みゆき・高橋優子・勝又麻里・渡辺直美

作業員(一般)　赤池忠・赤池正・天野金吾・井出富士男・井出正夫・磯部一明・小野田敏雄・勝亦英雄・木ノ内誠・小林七造・佐野秋男・佐野一・友野勝・深沢威文・前島正秀・村松正・望月秀雄・森武久・芦川美智子・飯塚寛子・飯室久子・石川京子・石川純代・伊藤まさ子・市原教衛・稲葉喜美江・稲葉ふじの・稲葉はる子・稲葉よし江・井上英子・井出喜久江・井出利江・井出文江・井口光代・岩間桂子・大勝久子・太田和子・大畑加代・大原初江・大豆生田律子・

小川貞子・小野田芳恵・木下朋子・監物京子・佐野克子・佐野ヤヨイ・渋谷里江・杉田ます子・高田和代・滝口たけ子・田村かず代・土井満里子・中山民子・西山よしえ・新田八重子・萩野良枝・日吉ウタ・深沢光枝・深沢幸路・村松明子・望月たみ子・望月たみ子・安江和子・山田恵子・渡辺純子・渡辺すみ子・渡辺房子・渡辺規子・渡辺剛江

作業員(学生) 赤池克美・赤池金弥・伊藤斉・井上君夫・岩見文義・長田昌行・小沢貴美・小野晴敏・笠井桂司・笠井宇・梶原邦明・久保田邦治・神山伊吹・後藤和秀・佐野克己・佐野正和・佐野昌史・塩川浩正・小豆川裕男・須藤和彦・鈴木達仁・鈴木豊秀・鈴木誠・諏訪幸宏・竹川暢昭・坪井常章・旗持章敏・深沢恒臣・深沢宏住・深沢正志・深沢行夫・村松貴彰・森井尚・山本哲也・吉野和史・吉野公彦・渡辺悟・赤池美里・石川貴美子・石川良子・伊藤由美子・影山直美・佐野菜穂子・鈴木千文・芹沢由利子・竹川円・鳥居いすず・武藤百合子

学術指導員 若林淳之　静岡大学教育学部長

小川賢之輔　富士市域自然調査研究会会長

増島　淳　静岡県立伊豆中央高等学校教諭

野村昭光　静岡県文化財保護委員

技術指導員 加納俊介　愛知大学非常勤講師

湯川悦夫　神奈川県立藤沢高等学校教諭

事務局 富士宮市教育委員会

美濃部恕　教育次長（昭和53年4月～昭和54年3月）

関　尊　教育次長（昭和54年4月～昭和54年9月）

佐野三郎　教育次長（昭和54年9月～昭和56年3月）

風岡大晁　教育次長（昭和56年4月～昭和57年3月）

赤池正延　教育次長（昭和57年4月～

諏訪重夫　社会教育課長（昭和53年4月～昭和57年6月）

中村　達　社会教育課長（昭和57年7月～

佐野久雄　社会教育課長補佐（昭和53年4月～昭和56年3月）

塩川哲章　社会教育課長補佐（昭和56年4月～

杉浦秀実　社会教育係長（昭和53年4月～昭和54年3月）

後藤　章　社会教育係長（昭和54年4月～昭和56年3月）

成瀬正光　文化振興係長（昭和56年4月～

渡辺孝秀　文化振興係主事（昭和54年4月～

四條悦子　社会教育係主事（昭和53年4月～

桝田辰男　社会教育係主事（昭和56年4月～

望月富士子・佐野多恵子・遠藤里美・清貴美子・台高世・佐野かずみ　臨時事務員

第3節　調査の経過

本調査区は約10,000㎡の包蔵が推定される若宮遺跡の南半部にあたる。西富士道路予定路線は遺跡の南東→北西にぬけて，巾約50m，長さ約130m，面積約6,500㎡である。

遺跡は南北にのびる丘陵が宅地造成工事によって区画され，しかも段をもってなっていた。また，末買収地，家屋移転の遅れも予想され，調査区が南東→北西に細長いことも手伝い，全地域を対象とするには不可能にちかかった。

昭和53年8月の範囲確認調査によって，丘陵中央を南北にくだる区画道路の西側には包蔵はなく，主体はそれより東側全域であろうことが知れた。

したがって，遺跡全面には区画道路に平行してN—69°20′—Wの5mグリッドを設定しながら，中央区画道路より東にむかう区画道路を基準に北側よりA・B・C地区，さらに最東端部の慈眼寺沢川西岸部分の区画を北側よりD・F地区，遺跡内の区画道路敷部分をE地区と便宜上呼んで発掘調査を開始した。

A地区より調査は開始されて，大沢ラピリ面に中世～近世の墓跡とされる円形土坑4基，それに伴って溝状遺構2基が検出された。以後，縄文時代包含層の発掘を継続したが，遺構の検出はなく，遺物も黒褐色土層内より打製石斧1点，頁岩片数点であった。確認調査の折，やはり黒褐色土層内より打製石斧1点を得ていたが，黒褐色土層が本地域の縄文時代後期以降晩期に至る包含層であり，形状も厚く大形であるなど中期以降の所産の可能性が強く，A地区に早期包含層は及んでいない結果を得た。裏付けるように過去にはA地区南側に現地形より5m程高い小丘（長者ヶ峰）が存在しており，それによって隔絶されていたと考えられる。

若宮遺跡の主体はB～F地区であることが判断されて，全面に5mグリッドを設定し，道路短辺を北側よりA・B・C・……，長辺を西側より1・2・3・……と呼称して，調査を開始した。

調査は買収地を縫うように行われ，C—I地区，B—I地区，D—I地区，E地区，F—I地区，B—II地区，D—II地区，F—II地区，C—II地区，B—III地区の順となった。

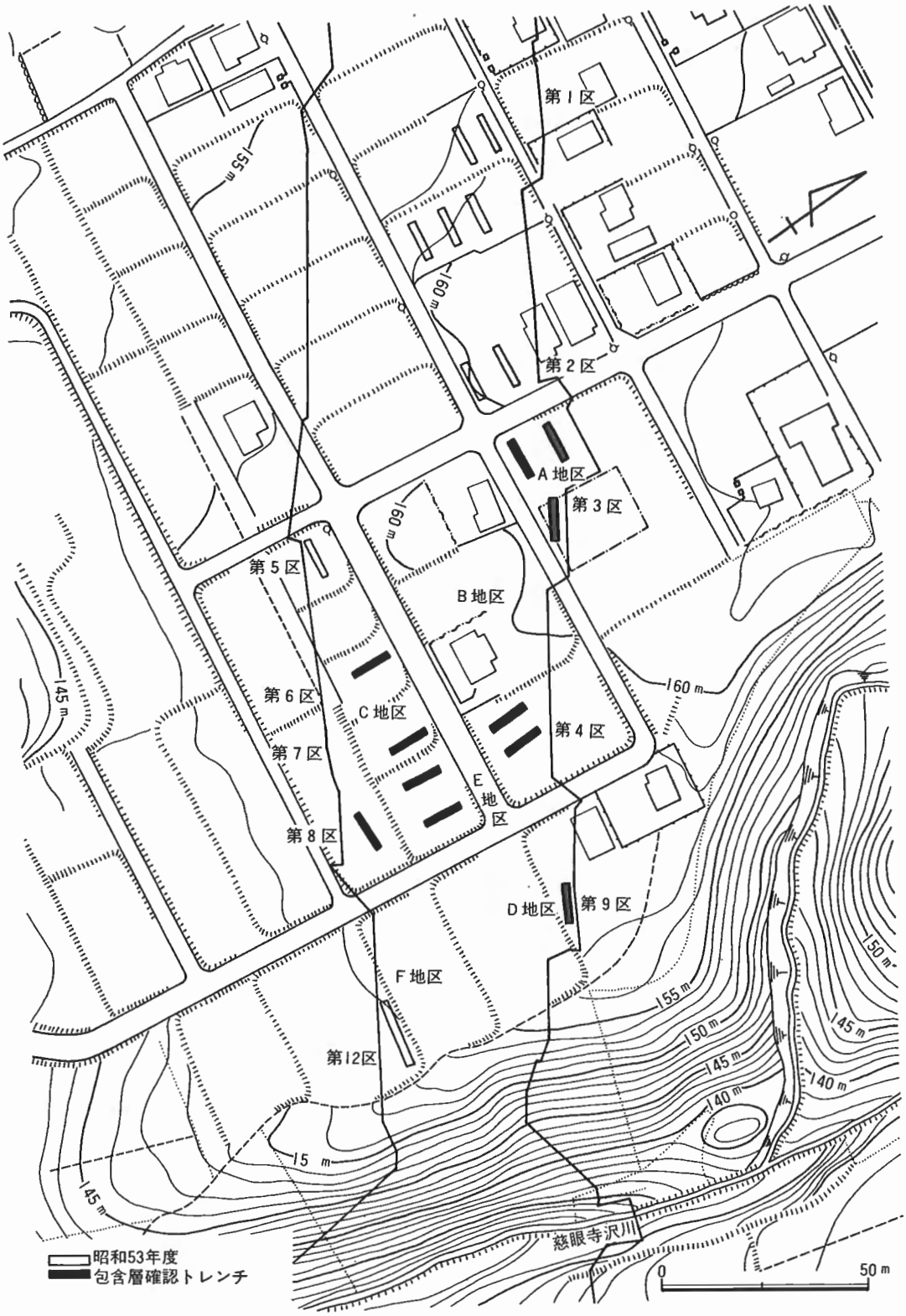
以下，調査週報による。

昭和53年7月26日～29日

若宮遺跡の範囲確認調査を開始する。遺跡推定地域内を1～8区に分け，2区にトレンチ2箇所設置。造成工事により表土下0.5～0.7m程で赤褐色土が確認され，遺物包含層のないことが判明。

7月30日～8月5日

1区にトレンチ3箇所設置。それぞれ盛土が1m程なされ，また旧表土も攪乱をうける。旧地形も谷


第1区
第2区
第3区
第4区
第5区
第6区
第7区
第8区
第9区
第12区
A地区
B地区
C地区
D地区
E地区
F地区
155m
160m
145m
150m
140m
15m
慈眼寺沢川
昭和53年度
包含層確認トレンチ
0
50m

第6図　若宮遺跡地形図

状に深く湧水あり，遺跡の包蔵範囲外と判断する。

1・2区の地形測量図，土層断面図作成。

8月6日～12日

3区にトレンチ3箇所設置。第1トレンチに溝状遺構1基･土坑1基，第3トレンチに溝状遺構1基確認。

8月13日～16日

夏期休暇。

8月17日～19日

3区第1トレンチ黒褐色土内より打製石斧1点出土。地形測量図，土層断面図作成。

5区にトレンチ1箇所設置。岩盤露出のため調査不能。地形測量図作成。

4区にトレンチ2箇所設置。

8月20日～26日

4区第1トレンチに褐色土を掘り込む溝状遺構1基確認。埋土より砥石1点出土。第1・2トレンチより打製石斧3点・石鏃4点・磨石1点・縄文時代早期土器片30数点が出土。

6区，7区にそれぞれトレンチ1箇所，8区にトレンチ3箇所設置。

8月27日～9月2日

6～8区各トレンチは包含層の堆積状況が良好。8区第2トレンチに黒曜石片が多量に出土。

10月7日～13日

9・12区が買収完了。各トレンチ1箇所設置。9区より石鏃2点・磨石2点・黒曜石片20数点・縄文時代早期土器片10数点が出土。

12区は宅地造成工事によって包含層を削除。

この結果，若宮遺跡の包蔵範囲が確認され，調査は以後に継続された。

昭和54年1月10日～13日

若宮遺跡の本調査を開始する。調査は今後の流れを考慮してA地区より開始。発掘区に有刺鉄線をめぐらす。

発掘区の移動に伴い，現場小屋・器材の移動。

表土除去作業。

1月16日～20日

大沢ラピリ面精査。溝状遺構2基，円形土坑4基確認。遺構写真撮影。

1月22日～27日

基準杭設定。大沢ラピリ面遺構実測。完了後グリッド設定，縄文時代包含層追求。

1月29日～2月3日

グリッド発掘継続。

2月5日～10日

A地区グリッド発掘継続。土層検討の実施。

C地区表土除去作業開始。

2月13日～17日

A地区グリッド発掘継続。

C地区表土除去作業継続。

2月19日～24日

A地区グリッド発掘継続。

C地区表土除去作業完了。基準杭・グリッド設定。グリッド発掘開始。

B地区内に位置した住宅基礎コンクリートを除去。

2月26日～3月3日

A地区グリッド発掘継続。

C地区グリッド発掘継続。遺物出土状況図作成（以下，遺物取り上げ）。

3月5日～10日

A地区発掘完了。完掘全体写真撮影。埋め戻し開始。A地区縄文時代遺構なし。遺物打製石斧2点・頁岩片数点。遺跡はA地区に及ばない結果を得る。

C地区グリッド発掘継続。J—7グリッドに第1号土坑検出，断面図作成後，完掘。遺物取り上げ。

3月12日～17日

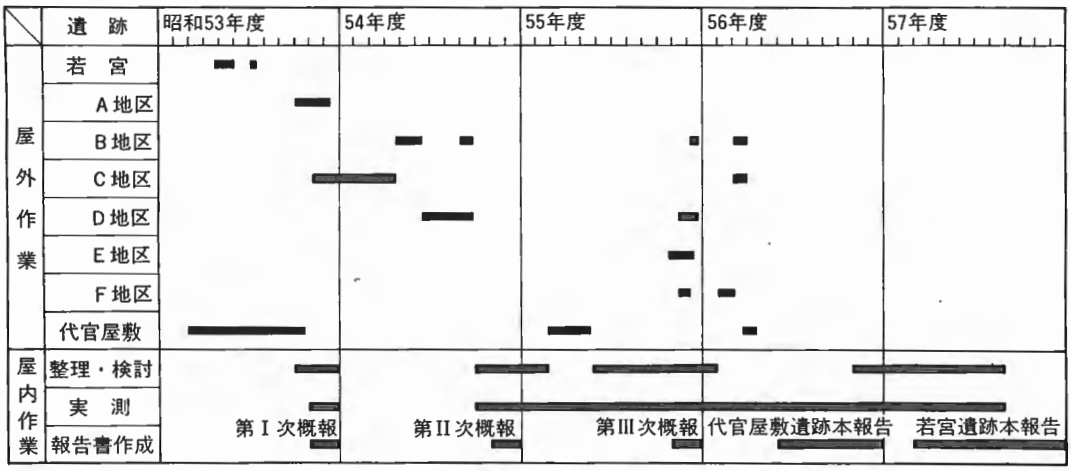
A地区埋め戻し完了。

C地区グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

3月19日～24日

グリッド発掘継続。Ⅰ・J—12ライン土層断面図作成。遺物出土状況写真撮影。

3月26日～31日



第3表　調査経過表

セクション帯除去を開始。遺物取り上げ。

昭和53年度事業の整理。

4月2日～7日

昭和54年度事業・体制の準備。

B地区基準杭設定・地形測量図作成。原地形把握を目的にトレンチ4箇所設定・発掘。調査前景写真撮影。

C地区土止め用板の修理。

4月9日～14日

C地区グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

H—7グリッドに第1号集石跡検出・写真撮影・実測。J—7グリッドに第1号炉穴跡検出・追求のため，I・J—7グリッドを西側に拡張。H—8グリッドに第2号炉穴跡，I—7グリッドに第3・4号炉穴跡を検出。J—7グリッドに石皿検出。セクション帯除去。

南東側盛土を重機にて除去。

4月16日～21日

グリッド発掘継続。K—7・8グリッド南側2m，K—7グリッド西側1m拡張。

J—7グリッドに第2号土坑，第5号炉穴跡検出。

4月23日～28日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。C地区西側全景写真撮影。重機による盛土除去完了。

5月1日～2日

グリッド発掘継続。H・I・J—11セクション帯除去。

第1～5号炉穴跡，第2号土坑実測・写真撮影。焼土を残し完掘。

5月7日～12日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

第1～5号炉穴跡，第2号土坑完掘写真撮影・実測。I—11グリッドに第6号炉穴跡検出・実測・完掘・写真撮影。H—11グリッドに第2号集石跡検出・重複する黒色の落ち込みを検出。

5月14日～19日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

第2号集石跡下部の落ち込み竪穴住居跡と判明。これを第2・3号竪穴住居跡，さらに重複して第1・4・5号竪穴住居跡を検出。J—12グリッドに第3号集石跡検出。重複して第6号竪穴住居跡検出。壁面追求中，第4号土坑検出。I—11グリッドに石皿・磨石検出。第1号集石跡東側に第5・6号土坑検出・実測・写真撮影。C地区西側全景写真撮影。11ライン土層断面検討。

5月21日～26日

グリッド発掘継続。11ライン土層断面図作成・写真撮影。遺物取り上げ。

第1号集石跡南側に第7・8号土坑検出・実測・写真撮影。第1～4号竪穴住居跡，第3号土坑実測・

写真撮影。J—11グリッドに第3号集石跡検出・出土状況写真撮影。

B・D地区に包含層確認トレンチを重機にて発掘，充分な包含層の残存を確認。

5月28日～6月2日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。H—6～11ライン土層断面図作成。

第3号集石跡実測。第4号土坑実測・写真撮影。第1・2号竪穴住居跡北壁断面写真撮影。第1～5号竪穴住居跡実測。H—12グリッドに第7号竪穴住居跡検出。

6月4日～9日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

第7号竪穴住居跡土層断面実測・写真撮影。第1～5号竪穴住居跡写真撮影。第6号竪穴住居跡土層断面実測。第4・5号竪穴住居跡実測。

6月11日～16日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。H～K—13～15グリッド基準杭設定。

第1～3号竪穴住居跡実測。第6・7号竪穴住居跡，第3・4号土坑写真撮影。

6月18日～23日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。B地区盛土を重機にて除去。C地区西側H～K—6の盛土除去。

遺物出土状況写真撮影。遺構確認面（旧地形）地形測量図作成。

6月25日～30日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。作業員7名を補充。

I—15グリッドに第9・10号土坑検出・完掘・実測。

7月2日～7日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。B地区盛土除去後の残土排除作業。基準杭設定。

K—13グリッドに第11号土坑検出・完掘・実測。H—12～16ライン土層断面実測・写真撮影。K—6グリッド第4号集石跡検出・写真撮影。I—6グリッドに第7号炉穴跡検出。

7月9日～14日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。B地区東側重機にて盛土除去。

I—6グリッドに第8号炉穴跡検出，第7号炉穴跡とともに実測・完掘・写真撮影。K—6グリッドに第5号集石跡，第12号土坑検出，さらに第12号土坑に重複して第13号土坑検出。第5号集石跡，第12・13土坑実測・写真撮影。K—7グリッドに第14号土坑，I—7グリッドに第15号土坑検出・実測・写真撮影。N・O—13～15グリッドに基準杭設定。

7月16日～21日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。D地区盛土重機にて除去。

H—6・7ライン土層断面実測。西側炉穴群全体写真撮影。

20日，C地区買収済み調査区の発掘を終る。B地区の発掘調査を開始。

7月23日～28日

B地区グリッド発掘継続。遺物取り上げ。西側遺物出土状況写真撮影。東側盛土除去。

7月30日～8月4日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。東側残土除去。B地区東側に基準杭設定。D地区盛土除去。

F—9グリッドに第16・17号土坑検出・実測・写真撮影。C—10・11グリッドに第8号竪穴住居跡検出・土層断面実測・写真撮影。

8月6日～11日

グリッド発掘継続。D地区残土除去。

7—B～Fライン土層断面図作成・写真撮影・遺物出土状況写真撮影。

第8号竪穴住居跡に重複して第9号竪穴住居跡検出，さらに北側に重複して第18号土坑検出。第8・9号竪穴住居跡，第18号土坑実測・写真撮影。

8月13日～16日

夏季休暇。

8月17日～18日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。D地区残土除去。

D—11グリッドに第10号竪穴住居跡検出・半掘。F—12グリッドに第9号炉穴跡検出。E・F—12に落ち込み確認。

8月20日～25日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。D地区残土除去後，基準杭設定。

F—12グリッドに第19号土坑，D—11グリッドに第20号土坑検出。第9号炉穴跡，第19・20号土坑土層断面実測・完掘。

8月27日～9月1日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

第9号炉穴跡，第19・20号土坑実測・写真撮影。E・F—12グリッドに第11号竪穴住居跡検出。第10号竪穴住居跡とともに精査。E・F—13グリッドに第1号集石土坑跡，第6・7号集石跡検出・実測・写真撮影。

9月3日～8日

グリッド発掘継続。

D・E—11グリッドに第12号竪穴住居跡，E・F—15グリッドに第13号竪穴住居跡検出・土層断面実測・完掘・平面実測・写真撮影。D—12グリッドに第21号土坑，第12号竪穴住居跡に重複して第10号炉穴跡，第22号土坑検出・完掘・実測・写真撮影。

9月10日～14日

グリッド発掘継続。

B地区に若干の未調査部分を残して，D地区の発掘開始。

9月17日～22日

D地区グリッド発掘。遺物取り上げ。基準杭設定。

F—22 グリッドに第 26 号炉穴跡検出・実測・写真撮影。E—19 グリッドに第 9 号集石跡検出・精査。

9 月 25 日～29 日

グリッド発掘継続。

第 9 号集石跡平・断面実測。

10 月 1 日～6 日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

D・E—18 グリッドに第 14 号竪穴住居跡検出。重複して第 15 号竪穴住居跡検出・精査を行い床面・壁面を確認。調査区北側 17～22 ライン土層断面検討。

10 月 8 日～13 日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

第 14・15 号竪穴住居跡土層断面検討・実測・完掘・写真撮影・平面実測。F—22 グリッドに第 29 号土坑検出・実測・写真撮影。

10 月 15 日～20 日

グリッド発掘継続。

第 29 号土坑南側落ち込み追求。F—21 グリッドに第 2 号集石土坑跡，G—22 グリッドに第 27 号炉穴跡検出。

10 月 22 日～27 日

グリッド発掘継続。

第 2 号集石土坑跡，第 27 号炉穴跡実測・写真撮影。第 29 号土坑南側に重複する第 16 号竪穴住居跡検出。さらに南側へ重複して第 17・18 号竪穴住居跡，およびF—22 グリッドに第 28 号炉穴跡検出。

10 月 29 日～11 月 3 日

グリッド発掘継続。精査開始。遺物取り上げ。

第 28 号炉穴跡土層断面実測・完掘・写真撮影。第 18 号竪穴住居跡に重複して第 19 号竪穴住居跡，および第 29 号炉穴跡検出。K—17 グリッドに第 10 号集石跡検出。第 29 号炉穴跡実測・完掘。第 18 号竪穴住居跡，第 27 号炉穴跡に重複して第 30 号炉穴跡検出・実測・完掘。G—20 グリッドに第 31 号炉穴跡検出・実測・完掘。第 16～19 号竪穴住居跡完掘。G—21 グリッドに第 32 号炉穴跡，第 16 号竪穴住居跡，北辺に第 33 号炉穴跡検出・実測・完掘。第 17・19 号竪穴住居跡に重複して第 34・35 号炉穴跡，および第 16 号竪穴住居跡に重複する第 36 号炉穴跡検出・実測・完掘。

11 月 5 日～10 日

グリッド発掘・精査。遺物取り上げ継続。

J—18 グリッドに第 30 号土坑検出・精査。第 10 号集石跡実測開始。

11 月 12 日～17 日

グリッド発掘・精査，遺物取り上げ継続。

第10号集石跡実測終了。第30号土坑完掘・実測・写真撮影。H—22グリッドに第20号竪穴住居跡，第31号土坑検出。さらに第26号竪穴住居跡と重複する第37号炉穴跡検出・半掘。

11月19日～23日

グリッド発掘・精査。遺物取り上げ継続。

H—19・20グリッドに第21号竪穴住居跡検出，さらに重複する第32号土坑検出・精査・完掘・実測・写真撮影。第20号竪穴住居跡，第31号土坑，第37号炉穴跡完掘・実測・写真撮影。G—20グリッドに第3号集石土坑跡，G・H—21グリッドに第33号土坑検出・実測・写真撮影。

11月26日～12月1日

グリッド発掘・精査，遺物取り上げ継続。

H・I—20グリッドに第22号竪穴住居跡検出。

12月3日～8日

グリッド発掘・精査，遺物取り上げ継続。

I—24グリッドに第4号集石土坑跡，J—26グリッドに第5号集石土坑跡検出・実測・完掘・写真撮影。第5号集石土坑跡に重複する第38号炉穴跡検出・完掘・実測・写真撮影。J・K—24・25グリッドに第11号集石跡検出。J—24グリッドに第39号炉穴跡検出。第22号竪穴住居跡，第33号土坑完掘・実測・写真撮影。J・K—24・25グリッドに第34号土坑検出。

B地区の再精査開始。

12月10日～15日

D地区グリッド精査。遺物取り上げ継続。B地区グリッド発掘・精査継続。

K—24・25グリッドに第35号土坑，K—22グリッドに第36号土坑検出・完掘・実測・写真撮影。第39号炉穴跡，第34号土坑完掘・実測・写真撮影。第11号集石跡実測後，重複する第40号炉穴跡，第24号竪穴住居跡検出・完掘・実測。J—23グリッドに第25号竪穴住居跡，重複する第41号炉穴跡検出・半掘。J—24グリッドに第42号炉穴，第37号土坑，J—25グリッドに第43号炉穴検出・完掘・写真撮影。K—23グリッドに第44号炉穴跡検出。第23・25号竪穴住居跡に重複する落ち込み追求。

12月17日～22日

D地区グリッド精査。遺物取り上げ継続。B地区グリッド精査継続。

第23・25号竪穴住居跡に重複する第26号竪穴住居跡検出。第41・44号炉穴跡完掘・実測・写真撮影。第44号炉穴跡に重複する第38号土坑，J・K—24グリッドに第39・40号土坑検出・完掘・実測・写真撮影。第23・25・26号竪穴住居跡完掘・実測・写真撮影。第36号土坑に重複する第41号土坑検出・完掘・実測・写真撮影。旧地形測量図作成。D地区調査可能部分の発掘完了。

B地区B～F—11～15グリッドに第23～28号土坑，第12～24号炉穴検出・完掘・実測・写真撮影。

12月24日～28日

B地区グリッド精査継続。遺物取り上げ。

B—12グリッドに第25号炉穴跡，E—11グリッドに第8号集石跡検出・完掘・実測・写真撮影。旧地

形測量図補足。完掘全体写真撮影。

各発掘区の柵補修・大掃除。現状での調査可能地区の発掘を全て完了。

昭和56年1月20日～24日

若宮遺跡E地区（道路敷地）の発掘調査開始。調査前にアスファルト・砂利等重機にて除去。発掘区周辺の柵補修。器材点検・補充。調査計画検討。

1月26日～31日

基準杭設定。重機による残土除去作業。グリッド発掘開始。

2月2日～6日

グリッド発掘継続。

D・E—16グリッドに炉穴群の延長と思われる落ち込み確認。

2月9日～13日

グリッド発掘継続。

2月16日～20日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。F—Ⅰ区・D—Ⅱ区の表土除去開始。

G—7・8グリッドに焼土確認。G—7グリッドに第6号集石土坑跡検出。

2月23日～27日

E地区グリッド発掘。遺物取り上げ継続。F—Ⅰ区・D—Ⅱ区表土除去継続。

第6号集石土坑跡写真撮影・実測開始。G—17グリッドに第7号集石土坑跡，K—16グリッドに第8号集石土坑跡検出・写真撮影。第8号集石土坑跡東側に第12号集石跡検出・写真撮影・実測。G—8グリッドに第45・46号炉穴跡検出・実測・写真撮影。

3月2日～6日

E地区グリッド発掘。遺物取り上げ継続。F—Ⅰ地区・D—Ⅱ区表土除去継続。

第6～8号集石土坑跡半掘写真撮影・実測。H—8グリッドに第47号炉穴跡，第44号土坑検出・実測・写真撮影。第13号竪穴住居跡に重複する第48号炉穴跡検出・実測・写真撮影。

3月9日～13日

E地区グリッド発掘・精査。遺物取り上げ継続。D—Ⅱ区・B—Ⅱ区グリッド発掘開始。

C地区より連続する第1・2号竪穴住居跡残存部確認・写真撮影・平・断面実測。G—10グリッドに第27号竪穴住居跡検出・写真撮影・実測。第7号集石土坑跡実測・写真撮影。

3月16日～20日

D—Ⅱ区・B—Ⅱ区グリッド発掘・精査開始。遺物取り上げ継続。E地区調査完了。

F—14グリッドに第49号炉穴跡検出・実測・写真撮影。D—18・19グリッドに第45～50号土坑検出・実測・写真撮影。D—18グリッドに第9号集石土坑跡検出・実測・写真撮影。C・D—16グリッドに第50・51号炉穴跡，第51・52号土坑検出・実測・写真撮影。C—13グリッドに第52号炉穴跡，第53号

土坑検出・実測・写真撮影。D—II区に第29～31号竪穴住居跡を確認。E地区完掘全体写真撮影。

3月23日～26日

D—II区・B—II区グリッド精査，遺物取り上げ継続。

第29～31号竪穴住居跡実測・写真撮影。第54～58号土坑検出・実測・写真撮影。D—II区完掘全体写真撮影。地形測量図作成。

各発掘区の柵補修。現状での調査可能地区の発掘を全て完了。

昭和56年5月6日～9日

若宮遺跡F—II区の発掘調査開始。調査前に盛土・アスファルト・砂利等重機にて除去。発掘区周辺に柵設置・補修。器材点検・補充。調査調画検討。基準杭設定。

K・L—25グリッドに第53～55号炉穴跡検出・実測・写真撮影。

5月11日～16日

グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

K—22グリッドに位置した第36・41号土坑（D地区調査時）は再精査の結果，第33・35号竪穴住居跡と判明・プラン追求。重複して第34・36号竪穴住居跡検出・追求。

5月18日～23日

グリッド発掘。遺物取り上げ継続。

第33～36号竪穴住居跡に重複する第37号竪穴住居跡検出。重複関係追求・断面実測・写真撮影。

5月25日～29日

グリッド発掘継続。

第33～37号竪穴住居跡完掘・写真撮影・実測。N—22グリッドに第38号竪穴住居跡検出・土層図作成・土層断面写真撮影・完掘・実測・写真撮影。重複して第56号炉穴跡，第60号土坑検出・実測・写真撮影。M・N—17グリッドに第61号土坑を検出。M—22～24グリッドに第57号炉穴跡，第62～66号土坑検出・実測・写真撮影。N—24グリッドに第58号炉穴跡検出・実測・写真撮影。

6月1日～5日

グリッド発掘・精査継続。遺物取り上げ。F—II区調査完了。C—II区調査開始。

第60号土坑実測・写真撮影。M—21グリッドに第39号竪穴住居跡検出・実測・写真撮影。重複して第59号炉穴跡・第67号土坑検出・実測・写真撮影。完掘全体写真撮影。地形測量完了。

6月8日～12日

C—II区グリッド発掘・精査。遺物取り上げ。B—III区調査開始。

J—4グリッドに第40号竪穴住居跡，重複する第60号炉穴跡検出・実測・写真撮影。K—3グリッドに第41号竪穴住居跡を4分の1検出・実測・写真撮影。

6月15日～19日

B—III区グリッド発掘継続。遺物取り上げ。

D—3グリッドに第42号竪穴住居跡，C—3グリッドに第43号竪穴住居跡検出・実測・写真撮影。C—2グリッドに第68号土坑検出・実測・写真撮影。

6月22日～26日

B—III区グリッド発掘・精査・遺物取り上げ継続。

D—6グリッドに第44号竪穴住居跡，中央に重複する第10号集石土坑跡検出・追求。

6月29日～7月1日

グリッド精査。遺物取り上げ継続。

第44号竪穴住居跡，第10号集石土坑跡実測・写真撮影。F—5グリッドに第45号竪穴住居跡，F—6グリッドに第11号集石土坑跡検出・実測・写真撮影。完掘全体写真撮影。

7月1日，若宮遺跡西富士道路予定路線内の発掘調査を全て完了。

以後，7月17日まで代官屋敷遺跡D地区の発掘調査を実施して，西富士道路富士宮地区の埋蔵文化財発掘調査，屋外作業を全て完了した。

室内における整理作業は現地の発掘調査の間隙を縫って行い，昭和53・54・55年度概報を刊行した。昭和56年度は隣接する代官屋敷遺跡の本報告を刊行。続いて若宮遺跡の整理・実測・検討を行い，昭和58年3月31日に本書を刊行した。

本　編

第Ⅰ章　遺　跡

第1節　土　層

本遺跡の地質的基盤は古富士集塊質泥流である。その上部に新富士火山の噴出した火山性降下物が堆積し，遺構・遺物はそのなかに埋没している。堆積巾は地形的制約を受ける場合が多く，本遺跡の場合も調査区中央に大きな凹地帯が存在するため，その部分に厚く，東西の平坦面に薄い。したがって詳細な土層堆積状況は各部分によって差異がでるが，先にH-11グリッド北壁土層断面によって基本的な層序関係を確認しておきたい。

なお，最上層に住宅分譲地造成工事による盛土層が存在する箇所，反面，削土される箇所等が存在するが，統一呼称として第Ⅰ層は表土層としている。

第Ⅰ層　表土層

上層に盛土されて，実質的には旧表土層である。黒色有機質土からなり，下半部には小粒で少量のスコリア粒が点散している。

第Ⅱ層　大沢ラピリ層

緻密なスコリア粒が堅固なマサ層をつくる，いわゆる富士マサである。乾燥すると白っぽく変色し，コンクリート状を呈する。

第Ⅲ層　黒褐色土層

3層に分類される可能性もあったが，特別な意味をなさないと判断して1層に扱った。上半部は第Ⅱ層の影響を受け，小粒のスコリア粒が若干含まれるが，極暗褐色を呈した本地域でいう黒ボク層である。下半部は茶褐色土と暗褐色土が互層をなしている。上半部程ではないがスコリア粒を若干含んでいる。

第Ⅳ層　褐色土層

本地域で縄文時代の鍵層（中期包含層）となる栗色土層にあたるが，他遺跡で把握される栗色土層とは若干の差異が感じられるため褐色土層と呼称した。それは連続した堆積を示すものではなく，鎖状となって若干暗い層を混入するものである。少量のスコリア粒が含まれる。

第Ⅴ層　富士黒土層

大粒のスコリア粒を含む，量的には上半部に少なく下半部に量を増す。混入度合は第Ⅲ層と同程度であり，同様の黒土帯であるが，スコリア粒が大粒であるため若干明るくなる。

第Ⅵ層　橙色土層漸移帯層

橙色土層漸移帯層と呼称したが，色彩的には黒褐色系統であり，第Ⅴ層の下部より除々に大粒のスコリア粒の量が増して第Ⅶ層に連続する。

第Ⅶ層　橙色土層

大粒のスコリア粒を多量に含むため赤色にちかい。スコリア粒の混入度合は部分的に差異が

あって，斜面に少なく平坦面，とくに窪み部分に量，堆積も多く厚い。その部分は第II層に似て堅固で乾燥すると白っぽく変色するが，混入される土層がローム系統の黄褐色土であるため，極立って白さが増すことはない。

第VIII層　黄褐色粘質土層

スコリア粒が極端に減り皆無にちかくなる。非常に粘質に富んで，もっとも黄色が強く，本土層内では異質である。20～30 cmの堆積巾をもっている。

第IX層　暗黄褐色土層

第VIII層より色調が暗くなる。スコリア粒も皆無にちかい。下層の影響か，粘性はまったく無く，むしろ小砂礫を含んで砂質となる。礫層まで 40～60 cmの堆積巾をもっている。

第X層　古富士泥流上扇状地堆積物上部層

本遺跡の基盤である古富士泥流が浸食，堆積した，いわゆる扇状地の上部層である。拳大～人頭大の礫から成って，河原状を呈している。

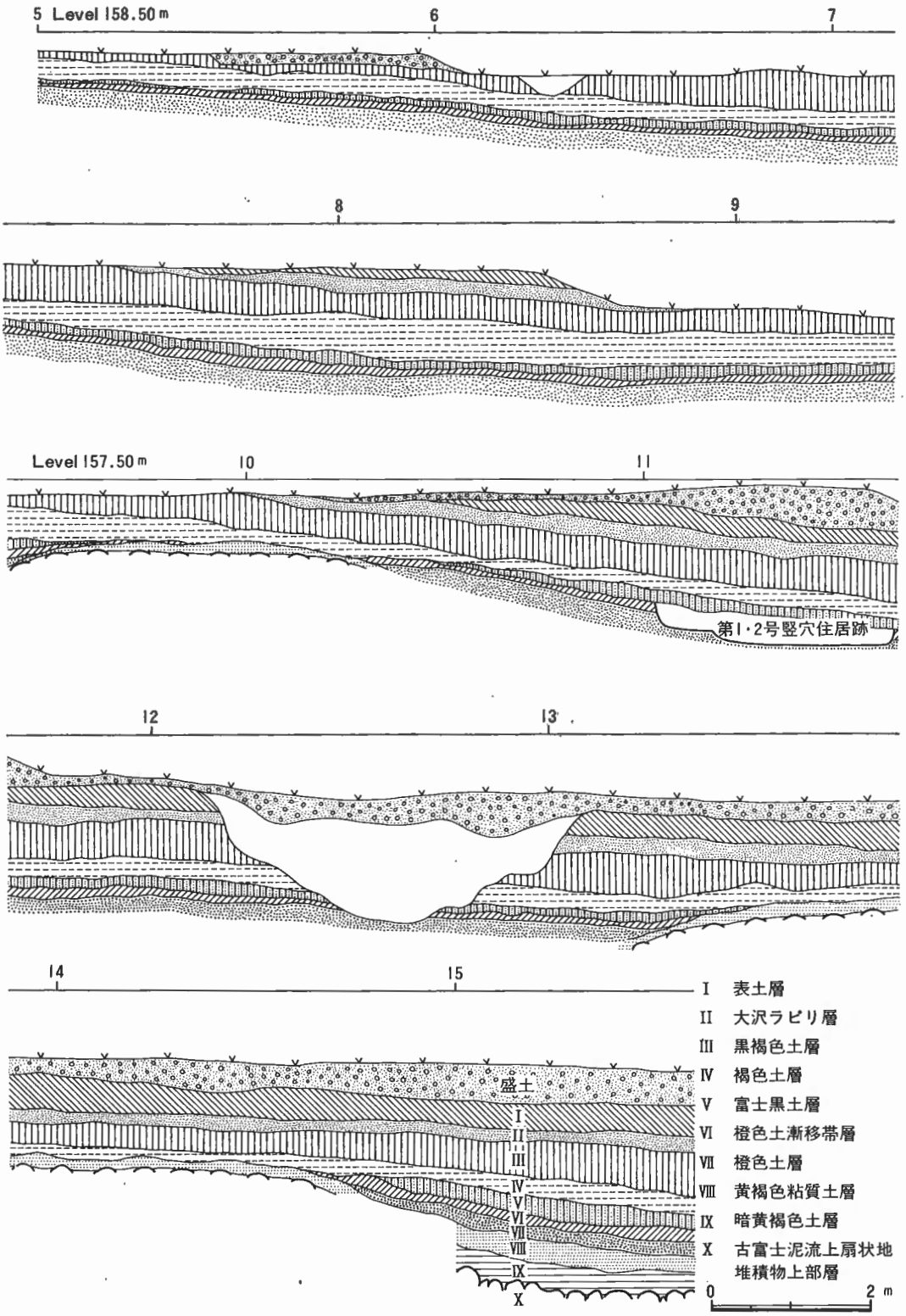
ここで遺跡中央を略東西に通過するHライン土層帯（5～15）の堆積状況を示す。

1～3は包含層が削除され岩盤層の露出をみる。住宅分譲地造成工事によるもので，削土は下方に盛土される。したがって、遺跡北西部分の包含層が若干削除されるものの，他は第I層表土層以下良好に残存する結果となっている。

4～10は8・9に第I層表土層以下をみるが，その前後は2区画に成形されて第II層大沢ラピリ層以上が削除される。比較的緩やかに下り，9・10に至って岩盤層の隆位をみるためプール化されて第IV層褐色土層の堆積が厚くなる。第V層富士黒土層・第VI層橙色土漸移帯層は帯状となって連続するが10付近で跡切れ，そこはIV層褐色土層以下，直接に第VIII層黄褐色粘質土層に達する。

10より傾斜を強め，約12度の勾配をもって12に達する。13に至って再度岩盤層の隆位をみる。第I層表土層は以後連続して，上部を盛土される。10付近で跡切れていた第V層富士黒土層・第VI層橙色土漸移帯層が再出現して，第V層富士黒土層の堆積が若干厚くなる。第IV層褐色土層は上方平坦面に比して薄く，反面第III層黒褐色土層が50 cm程をもって厚く堆積する。11に第VI層橙色土漸移帯層に確認される第1・2号竪穴住居跡，12に第1層表土層より第VII層橙色土層に達する『古道』をみる。

13より連続する岩盤層は14より下って，15で第X層古富士泥流上扇状地堆積物上部層に達する。13～14で第V層富士黒土層・第VI層橙色土漸移帯層・第VII層橙色土層は前後に分岐流出し，15で第V層富士黒土層は30 cm程を測って調査区域内でもっとも厚く堆積する。H-15グリッドにおける堆積巾を記すと，盛土層40 cm・第I層表土層35 cm・第II層大沢ラピリ層15 cm・第III層黒褐色土層50 cm・第IV層褐色土層25 cm・第V層富士黒土層30 cm・第VI層橙色土漸移帯層15 cm・第VII層橙色土層20 cm・第VIII層黄褐色粘質土層25 cm・第IX層暗黄褐色土層40 cmである。第I層表土層より略250 cmに達して，遺構確認面，第VI層橙色土漸移帯層までは略180 cm



第7図　土層断面図（Hライン）

を測る。遺物は第III層黒褐色土層より確認され以下，略100㎝の包含巾をもつ。

本地域における遺構・遺物の包含層，各層の年代については市内滝戸遺跡の発掘調査（1978 増島淳）で指標されている。ここに記すと以下のとうりである。

第II層　大沢ラピリ層　富士火山西南麓に広く分布し，その堆積時期はB.P(1950年を0年とする）約2,700年前であり，弥生時代後期末葉～古墳時代初頭の遺構はこれを切って構築，遺物は表土層下部を中心に包含される。

第III層　黒褐色土層　極暗褐色土層と下層の栗色土層との漸移帯層に分層されているが，本土層分類では上・下層と理解してよいであろう。堆積時期は極暗褐色土層に混入するカワゴ平パミス（天城火山群のカワゴ平火口由来の安山岩質軽石）からB.P 2,880±120年前に，漸移帯層は散在する赤色スコリア粒が富士宮市上野千居遺跡や田貫湖周辺に標式的にみわれる千居ラピリ（赤田貫）に該当するとして，千居遺跡の発掘調査結果より，およそB.P 3,500年前後が考えられている。この層には縄文時代中期後葉～後期前葉の遺構がみられ，遺物は漸移帯層中を主体に存在する。

第IV層　栗色土層　本土層分類の褐色土層にあたり，下部を漸移帯層としている。この層は鬼界ヶ島カルデラ起源と思われる茶色の火山ガラスが混入していることからB.P 6,000年位前であり，栗色土層下部に縄文時代中期前葉の遺物が包含される。

第V層　富士黒土層　富士山東麓ではその堆積時期がB.P 6,000～8,000年位前とされている。縄文時代早期中葉～前期の遺物が包含される。

第VI層　橙色土層漸移帯層　層の確認がなかったか，あるいは上・下層に含めたためか記述がない。

第VII層　褐色土層　本遺跡土層分類の橙色土層にあたる。フツウ輝石を多量に含む点から『休場層―沼津市休場遺跡で細石器の包含層となったことから命名された』の最上部にあたり，堆積時期は洪積世最末期～沖積世初頭（B.P 10,000年位前）と考えられる。旧石器時代の包含層とされる。

本遺跡の状況は第III層黒褐色土層内より除々に遺物の検出をみる。その多くは石鏃片，ならびに黒曜石剝片等の軽量遺物である。以下，下層にかけて検出量を増し，第V層富士黒土層内にもっとも多くなり，第VI層橙色土層漸移帯層上面をもって無遺物層となる。検出される土器は縄文時代早期に限られており，滝戸遺跡の成果に追随するが，遺物の多くが上層に浮上する状況をみる。これは隣接の代官屋敷遺跡においても指摘されている。

※　代官屋敷遺跡は縄文時代早期後半～中期初頭の遺構・遺物を検出している。早期後半の遺構・遺物は第V層富士黒土層上部に包含され，それ以下が無遺物層となることから，本遺跡より確実に後出である結果が得られた。しかし，前期中葉～中期初頭土器片が第III層黒褐色土層内に包含されるため，土層状況が疑問され協議が重ねられた。それによって，第IV層褐色土層は栗色土層に対比されるものの，鎖状の連続，つまり土層に明暗をもって自然堆積の状況で

なく，それは各層にも当然であることが認識された。代官屋敷遺跡は中央小丘よりの再堆積である。

したがって，代官屋敷遺跡よりはるかに勾配をもち，複雑な地形条件を備えている本遺跡はやはり第IV層褐色土層に表現され，また第V層富士黒土層以下，第VII層橙色土層の流出状況が示すように，より以上の土層の移動を考慮せねばならない。

竪穴住居跡，ならびにその他の遺構は第V層富士黒土層中より構築されるが，集石跡，集石土坑跡等，礫使用遺構を除くと確認は困難である。土層断面図（H-11グリッド）に第1・2号竪穴住居跡をみるが，それによれば第V層富士黒土層に明確でなく，第VI層橙色土漸移帯層に確認され，第VII層橙色土層内に掘り窪められている。埋土は暗褐色土を主体に若干のスコリア粒を含む，斜面構築のためか埋土は他遺構に比して明るい。これは上部の橙色土が富士黒土に比率をたかく混在したためであろう。この状況に示されるように埋土が第V層富士黒土層内では同色調となるため判断しにくい場合が多い。しかし，第VI層橙色土漸移帯層・第VII層橙色土層と下層にしたがい，検出基盤が赤色を増してくるため，遺構の判別は容易となる。

第2節　地　形

前節の土層堆積状況をもって旧地形が把握される。調査区北西側の削平部分には現地表より5m程たかい標高をもって，『長者ヶ峰』と称される小丘が存在していた。これを削除して下方へ盛土し住宅地としている。削平部分は3ライン，A-3～C-8を経てA-10以北・西である。標高160mラインにあたり，緩やかであった勾配が除々に角度を増す地点である。遺構・遺物の検出状況から遺跡北端として差しつかえないであろう。

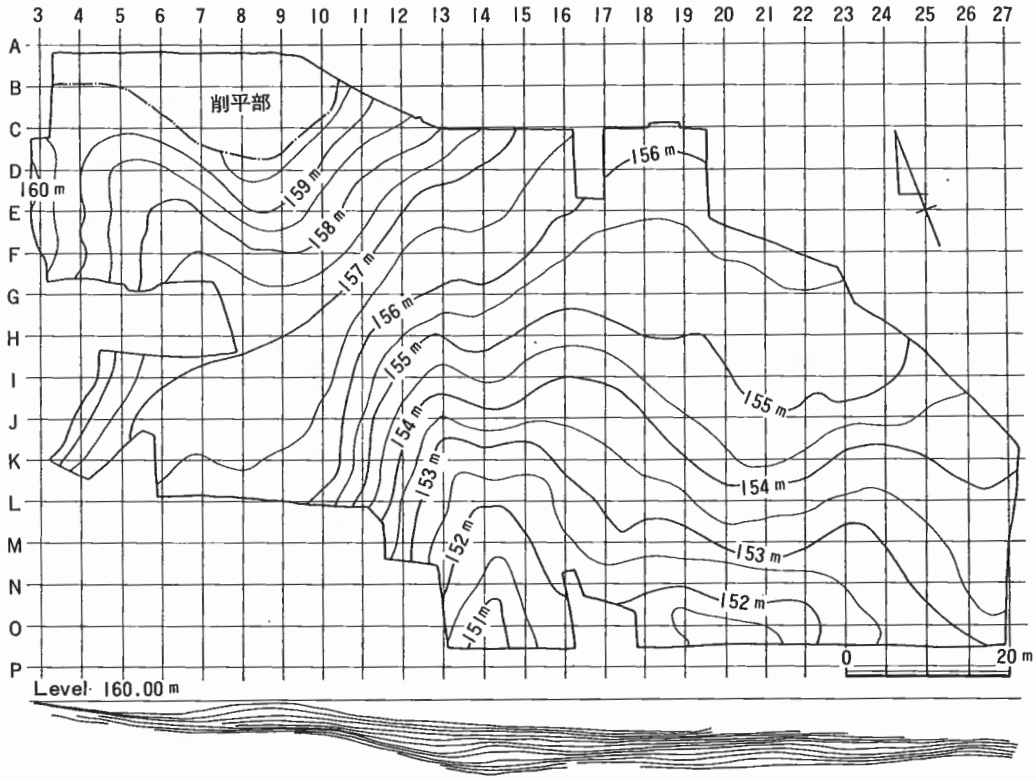
小丘によってとり囲まれるように南面して，つまり標高159m・156mラインに描かれて500m²程のテラス状平坦面が存在する。それはさらに南西側へ広がりをみせるが，Lラインより大きく削取されて区画段をなしている。残存すれば1,500m²程の平坦面を構成することになる。それ以南は急激に下って谷地形となり，標高156mラインの延長が遺跡境界になろう。

小丘はC-8辺より南方へ大きく迫り出して下る。勾配角は10～15度を測り，中央凹地帯を通下してO-14に没する。その比高は9mを測る。ここに至ると遺構は皆無で遺物の検出量も極端に減少することから遺跡南西端としてよかろう。このC-8～0-14に至るライン，等高線間隔が狭くなる部分をもって，遺跡の地形条件が東西に分岐される。

それを越えるとE・F-12～C・D-15域に標高156m・157mラインで構成される小規模な平坦面をみる。それが調査区外北東側へ広く延長することは知れて，標高159mラインを遺跡北東端とすると20m程奥まる。その南東側に緩斜面，標高156mラインを境いに広域な平坦面が連続して形成される。標高154.5mラインによって描かれ，南北50m・東西20m，面積約1,000m²の面積をもつ。その広がりは遺構・遺物の検出状況からさらに東側へ延長が予想され，

面積は 2,000 m²にも達する。したがってこの部分に若宮遺跡が残存する結果となる。標高 154.5 mライン以南は緩やかに下り，20・21 ラインで南東方向に迫り出す。それより西側は弱い波状となって中央凹地帯内に没する。東側は J -23 辺に入り込んだ略平坦面が形成される。それは 25・26 ラインで再度標高が増すため弱い谷地形となって 500 m²程の面積をもつ。0 -19・20 で最低位となり，西側に若干標高を増し，中央凹地帯へ続く。したがって 2 箇所の凹地帯が形成されて波状の連続となる。0 ラインより区画段がなされて包含層が削取されるが，遺跡南端にちかい状況であろう。26 ラインで若干高位となった標高は南東部分に急激に感じ，比高 20 m程をもって慈眼寺沢川に没する。

以上のように本遺跡は湧水を伴った多数の小谷によって刻まれる舌状台地状地形の一支脈の，沖積地へ没しようとする最端部にあたり，それも急激な崖地形となって沖積地との比高 10～15 mを測る。ここに若宮古墳群の占地をみるが，現在跡形もない。したがって本遺跡は北西部分を長者ヶ峰によって馬蹄形に囲まれ，そこに南面して形成されるテラス状平坦面，詳細には前述したように中央に凹地形をもって地形条件の差異をみるが，さらに南東部分に慈眼寺沢川，南西部分は崖地形，というように自然地形を巧みに利用した生活環境を備えている。その規模は南北 120 m，東西 100 m，面積約 10,000 m²となる。しかし本調査以前に約 2,500 m²，さらに本調査によって遺跡中央から西側全て約 6,500 m²，略 90%を失う状況となった。



第 8 図　若宮遺跡旧地形図

第II章　遺　物

第1節　石　器

本調査によって得た石器は2,715点である。それは縄文時代早期後葉を下限とする石器構成を示すもので，用途・機能，つまり一般にされる石器分類にあてると以下のとおりである．

1．尖頭器　13点（未製品3点）　2．石　鏃　1,908点（未製品260点）　3．石　皿　35点　4．磨　石　282点
5．敲　石　36点（磨石併用219点）　6．凹　石　10点（磨石併用119点）　7．石　斧　101点　8．石　匙　5点
9．横刃型石器　27点　10．スクレイパー類　20点　11．石　錐　6点
12．砥　石　8点　13．ペンダント様石器　1点　14．石　核　82点

他に黒曜石剥片10,285点・約13.3kg，頁岩・硬砂岩剥片，および砕片9,180点・約167,3kgを得る。

1．尖頭器

本調査によって得た尖頭器は13点である。このうち完形品は7点，他は基部を欠損するもの5点，尖頭部を欠損するもの1点である。さらに未製品3点をみる。

これらは基部の形態によって2類される。

I類　有舌尖頭器である。

a種（1～4）

長身の身部に舌状部を有するもの。1が舌状部端を欠損する以外は完形品である。石材はすべて頁岩である。いずれも風化が激しく詳細な調整は不明の部分も多いが，両面を押圧剥離によって調整されていることは知れる。3・4に側縁調整後，舌部を作出した痕跡がわずかに認められる。

1～3が中形品，4が小形品に属する。1・2は基部より3分の2程に平行な側辺をもって湾曲しながら尖頭部に至る。2に若干の鋸歯状痕が目立つ。3は柳葉状，4は直線的側辺をもって長二等辺三角形状を呈する。したがって，身部が他に比して短小となる。

全体に細身・小振りの身部に舌状部をもつ。舌状部の長さは1より(7.5㎜)・8.5㎜・9.0㎜・7.5㎜を測って，身部に対しておよそ5～7分の1程で太く短かい。器長が短かくなるにつれ舌状部の割合は増す。舌状部は基部両端の逆刺にむかって弱く外湾，もしくは直線状にちかくなるため，返しは1・4に鈍角に認められるが，他は明瞭でない。

b種(5)

短身の身部に舌状部をもつ。黒曜石製で丁寧な押圧剥離によって両面調整される。

身部は明瞭な逆刺をもって正三角形状を呈し，長さ9.5㎜の舌状部を付す。それは器長の略2分の1である。したがって，舌状部はa種とちかい値であり，また基部巾も変わりなく，身

部だけが短小化して，完全に鏃形[註1]となっている。

C種(6)

下端部を欠損するため明確さを欠く。硬砂岩製の板状剝片を両面より押圧剝離による縁部調整が施される。形態は扁平・菱形状を呈するであろう。

昭和56年10月に発掘調査を実施した上石敷遺跡[註2]に類例をみている。同資料は先端部を欠損するが，基部形態は菱形の長軸，片側端部の極く一部が切断され，弧状に調整加工されている。身部の短小化・逆刺の退化，ならびに舌状部の伸長化とみなせるか。有舌尖頭器最終末期の資料に類する。[註3]

欠損品(7～9)

基部を欠損するため不明である。7・8は黒曜石製で両面調整，側辺部に鋸歯状痕が顕著である。残存する尖頭部から側辺は直線的であって，極端な長身形態[註4]をあてるよりは，むしろ，a種－4，ないしはC種－6に類した形態を想定するのが妥当かも知れない。

9は玄武岩製で，両面にあらい階段状の調整が施され，側辺は細部調整によって鋸歯状となる。先端部は尖頭状を呈しておらず，側辺は弱く湾曲する。法量・形状・石材等，本資料中に異質で木葉形資料となるか。

II類　三角形状を呈する尖頭器である(10～13)。

器長が30㎜以上を測って，石鏃の概念からはずれるものである。石材は12が緑色硅質頁岩製の他は黒曜石製である。形態は石鏃にちかく，基部が平基状のものと円基状のものが認められる。10が最大長45.80㎜と大形品であるが，他は30～35㎜の巾におさまる。

10・13が平基状である。13は先端部を欠損。両者とも両側面より精巧な調整をみる。10は基

〔単位はmmおよびg(　)内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
1	I-a	L-15	頁岩	(65.30)	16.70	8.80	(8.10)	舌部端欠損	27	有舌尖頭器
2	I-a	E-14	頁岩	58.20	16.20	7.00	5.40	完形	27	有舌尖頭器
3	I-a	J-25	頁岩	50.10	13.00	6.65	3.40	完形	27	有舌尖頭器
4	I-a	M-15	頁岩	41.90	13.55	8.25	3.00	完形	27	有舌尖頭器
5	I-b	M-23	黒曜石	21.00	16.30	5.40	0.85	完形	27	有舌尖頭器
6	I-c	D-6	硬砂岩	(29.40)	13.55	3.30	(1.25)	基部欠損	27	有舌尖頭器
7	—	I-11	黒曜石	(23.50)	(11.35)	3.65	(0.75)	基部欠損	27	
8	—	G-8	黒曜石	(21.90)	(12.30)	4.40	(0.70)	基部欠損	27	
9	—	I-9	玄武岩	(54.00)	22.20	6.70	(7.55)	基部欠損	27	
10	II	J-18	黒曜石	45.80	30.90	14.85	17.65	完形	27	
11	II	J-7	黒曜石	30.80	23.00	7.25	4.35	完形	27	
12	II	E-19	頁岩	30.00	19.65	9.30	4.80	完形	27	
13	II	E-19	黒曜石	(22.20)	16.30	4.80	(1.50)	先端部欠損	27	
14	—	I-12	黒曜石	31.40	18.40	8.40	3.75	—	27	未製品
15	—	D-19	黒曜石	33.45	29.80	14.60	10.35	—	27	未製品
16	—	D-17	黒曜石	31.85	28.35	10.15	6.20	—	27	未製品

第4表　尖頭器計測表

部に切断痕をそのまま残す。11・12は円基状を呈して，調整は丁寧に施されるが裏面に大きく原面，ならびに剝離面が残る。

未製品　三角形状を呈し，大略的な形状は作出されるが細部調整が未了のもの(14～16)。

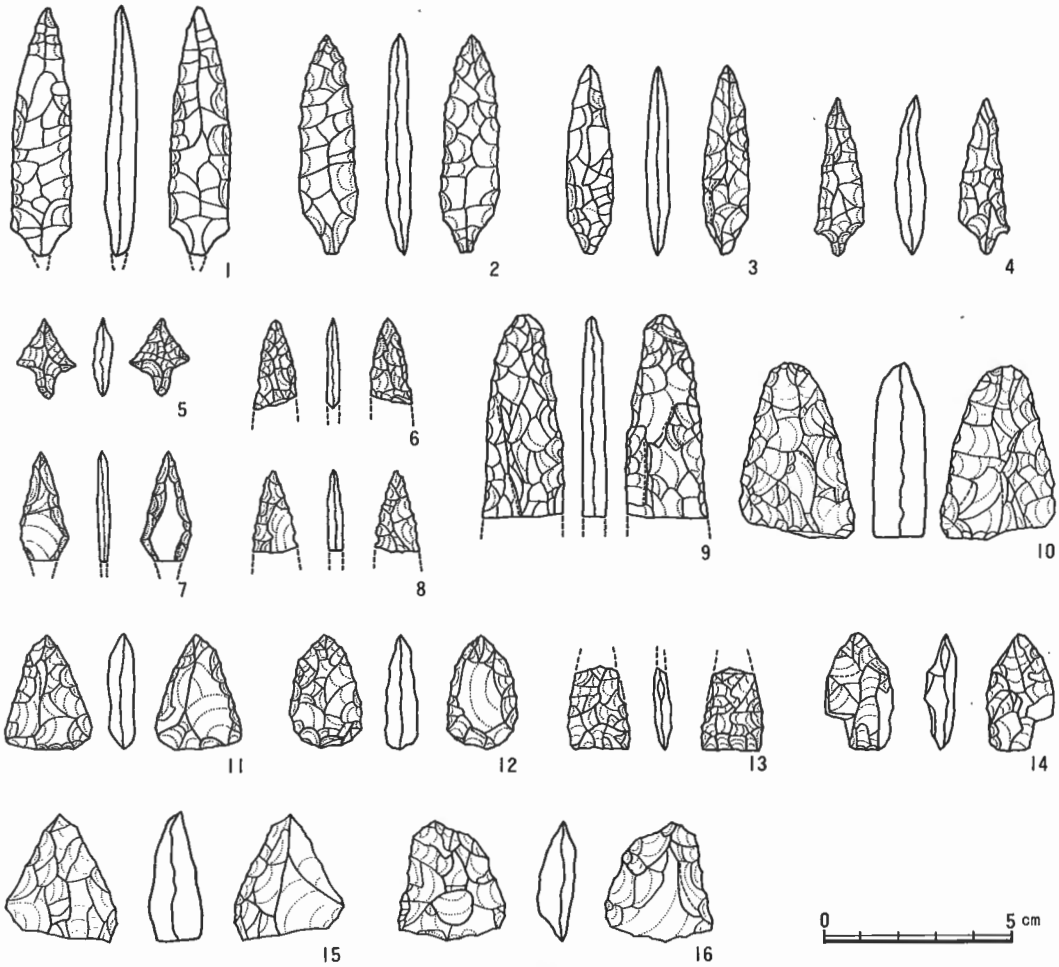
石材は全て黒曜石である。細部調整が未了のためか，その法量はII類尖頭器（10を除く）より2～3㎜程，ひとまわり大きい値を示す。

註1　芹沢長介・吉田格・岡田淳子・金子浩昌　1967　「埼玉県橋立岩陰遺跡」　『石器時代』8

註2　富士宮市教育委員会　1982　『上石敷遺跡発掘調査概報』

註3　大参義一　1970　『酒呑ジュリンナ遺跡(2)』　名古屋大学文学部研究論集50

註4　中村孝三郎　1960　『小瀬ヶ沢洞窟』　長岡市立科学博物館



第9図　尖頭器実測図

2．石　鏃

本調査によって得た石鏃は1,908点である。このうち局部磨製石鏃[註1]が38点確認されている。247点は基部を欠損して形態が不明であるが，残り1,661点は全て無茎石鏃である。

これらは基部形態によって

Ⅰ類－平基式石鏃

Ⅱ類－凹基式石鏃

に大別される。

Ⅰ類　平基式石鏃

平基式石鏃は264点が確認される。このうち16点(265～280)は基部の大半を欠損するが，残存部が平基式石鏃に類することから，ここに含める。形態の把握される全石鏃(1,661点)に平基式石鏃の占める割合は約16%である。

Ⅰ類－平基式石鏃は抉入形態を単一にして

a－1種　基部が若干円基状を呈する。

a－2種　基部は直線状となるが，側辺が若干円弧状を呈する。

a－3種　基部・側辺とも直線状で，正三角形状を呈する。

にされる。

a－1種(17～91)

基部が若干円基気味に張り出す。したがって，逆刺が不明瞭で側辺も弱い孤状を呈するため，全体的に丸味を帯びる。調整は粗雑で，片面に第1・2次剝離面を大きく残す例が多い。

これに属するものは75点が認められ，うち完形品は30点である。欠損部分は片側逆刺から側辺部にかけて多く，先端部の欠損例が他に比して少ない特徴をもつ。

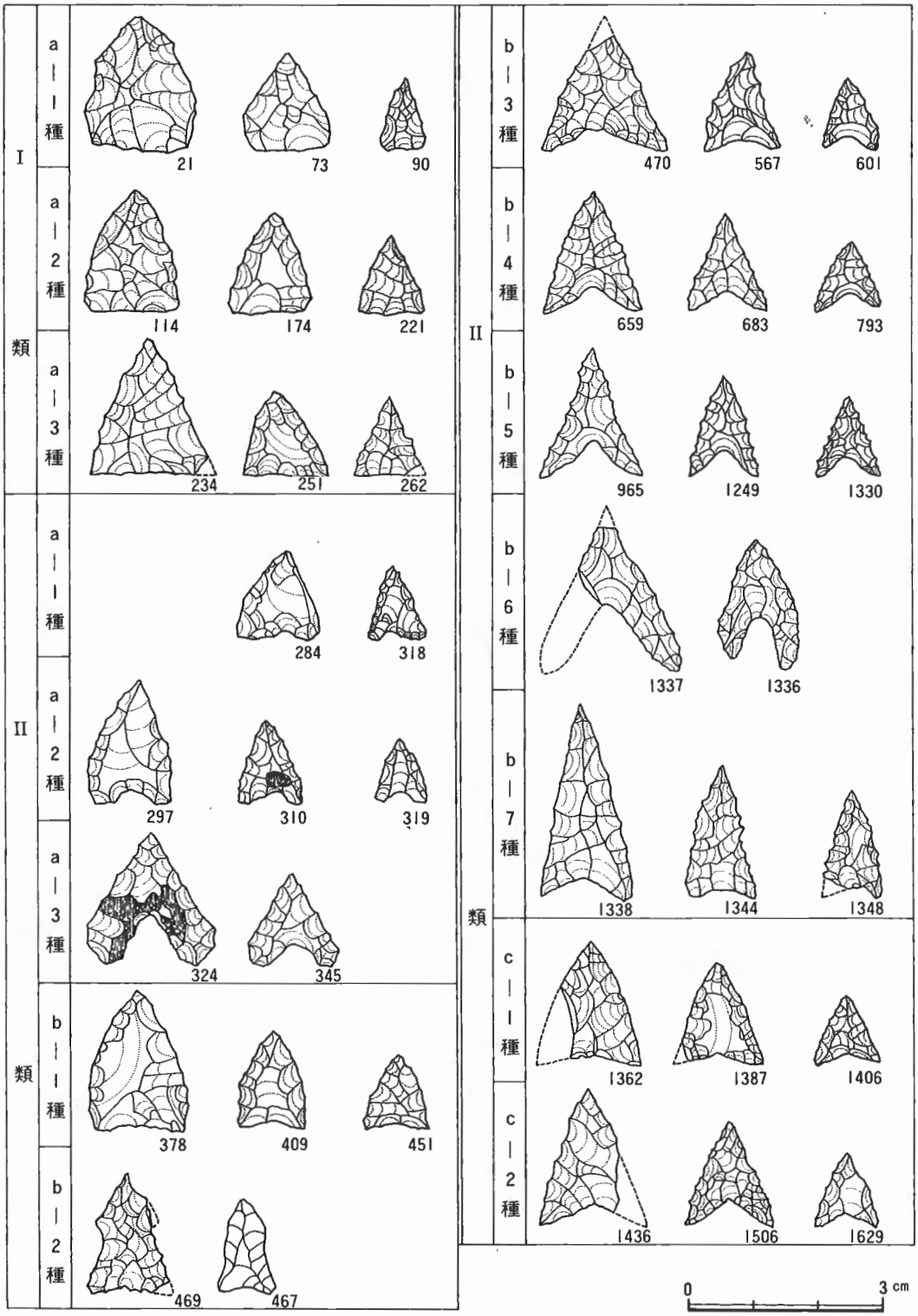
石材は黒曜石74点，チャート1点である。

法量は最大値で（以下，全て完形値），長さ24.90㎜・巾19.00㎜・厚さ8.00㎜・重さ2・25ｇ（以下，法量値は同順に記載），最小値は10.15㎜・6.80㎜・2.15㎜・0.20ｇである。平均値は17.50㎜・13・10㎜・4.15㎜・0.95ｇで，巾：長さは略1：1.3を示す。他に比して法量的に上回り，とくに器厚・器重は圧倒する。比較的，巾に対して長さをもつが，シャープさに欠けて鈍重である。

本類における最大品・最小品の両者をもちあわせ，大形～小形の変動巾が大きい。また量的にも両者に片寄った傾向が窺える。

a－2種(92～226)

基部は直線状となるが，逆刺が不明瞭で側辺も若干孤状を呈する。調整はa－1種より丁寧になされるが，片面に第1・2次剝離面を大きく残す例も多く，また剝片を縁部調整によって作出される例もある。


I 類
a－1種
21
73
90
a－2種
114
174
221
a－3種
234
251
262
II 類
a－1種
284
318
a－2種
297
310
319
a－3種
324
345
b－1種
378
409
451
b－2種
469
467
II 類
b－3種
470
567
601
b－4種
659
683
793
b－5種
965
1249
1330
b－6種
1337
1336
b－7種
1338
1344
1348
c－1種
1362
1387
1406
c－2種
1436
1506
1629
0
3 cm

第10図　石鏃分類図

これに属するものは135点が認められ，本類中もっとも多い。うち完形品は26点あまりで，欠損品の占める割合がたかい。欠損部分は片逆刺，失端部例が大半を占める。

石材は黒曜石131点，頁岩2点，チャート2点である。

法量は最大値で長さ28.00㎜・巾19.60㎜・厚さ6.60㎜・重さ1.75ｇ，最小値で10.20㎜・8.40㎜・2.10㎜・0.20ｇである。平均値は15.60㎜・12.70㎜・3.70㎜・0.55ｇで，巾：長さは略1：1.2を示す。最大長がａ－1種を上回るが，これは完形値であるためである。したがって，長さの平均値は下回って，大形・小形の変動巾も少なく，両者ともａ－1種を越えない。中形品が多い。巾がひろがる傾向がみられる。

ａ－3種(227～264)

基部・側辺とも直線状となる。したがって，逆刺・先端部は鋭角となって，正三角形状を呈する。調整は若干の第1・2次剝離面を片面に残す例もあるが，本類中もっとも丁寧になされている。

これに属するものは38点，本類中15％で資料的には少ない。うち完形品は4点である。形態によるためであろうか，逆刺を欠損する例が多く，また先端部もたかい値を示す。

石材は全て黒曜石が用いられる。

法量は最大値で長さ22.20㎜・巾20.50㎜・厚さ5.65㎜・重さ0.75ｇ，最小値で11.20㎜・11.70㎜・2.30㎜・0.40ｇである。平均値は15.00㎜・14.60㎜・3.35㎜・0.60ｇで，巾：長さは略1：1を示す。ａ－2種同様に大形・小形の変動巾が少なく，法量的にもａ－1種を越えない。比較的，大形品が目立って重量はａ－2種を若干越えるが，器巾は本類中もっとも広く，器厚も薄く，造作も精巧さを増すため，非常に鋭利となる。

II類　凹基式石鏃

凹基式石鏃は1,397点が確認される。形態の把握される全石鏃(1,661点)に凹基式石鏃の占める割合は約84％である。このうち133点は片側逆刺の残存資料であるから，実数的には減されよう。

II類－凹基式石鏃は

ａ種　基部の抉入形態が「Ω」状を呈する。

ｂ種　基部の抉入形態が「Π」状を呈する。

ｃ種　基部の抉入形態が「Λ」状を呈する。

にされる。

ａ種　基部の抉入形態が「Ω」状を呈するものである。91点が認められ，全石鏃中約6％を占める。それは抉入の広狭・深浅，側辺等の状況によって，さらに1～3に細分される。

ａ－1種(281～295)

平基状の基部の中央に最終的な調整剝離を加え，豆粒状の抉入が施されるものである。調整は粗雑で片面に第1・2次剝離面を残す例や，剝片を縁部調整によって作出する例もある。側

辺は直線状・弧状とまちまちで，逆刺も鋭角的な資料は少ない。

これに属するものは15点が認められ，うち完形品は5点である。欠損部分は先端部，逆刺が大半である。

石材は黒曜石14点，頁岩1点である。

法量は最大値で長さ20.05㎜・巾15.40㎜・厚さ5.40㎜・重さ0.50ｇ，最小値は8.80㎜・7.55㎜・2.50㎜・0.25ｇである。平均値は14.00㎜・12・40㎜・3.51㎜・0.40ｇで，巾：長さは略1：1.1を示して正三角形にちかい形状をもつ。

大形品を欠除しながら，器厚・器重に高値を示して，II類内ではもっとも鈍重である。

ａ－２種(296～319)

豆粒状の抉入がさらに拡大されて，ａ－１→３種の中間形態をとるものである。調整は１種より丁寧になされるが，片面に第１・２次剝離面を若干残す例や，剝片を縁部調整によって作出する例もあり，依然としてシャープさに欠ける。側辺は直線状となる資料が増すが，逆刺は端部を切断され「コ」の字が乱れて，弧状にちかい。

これに属するものは24点が認められ，うち完形品は13点で，比較的，欠損例は少ない。欠損部分は逆刺が多く，先端部は少ない。

局部磨製石鏃が１点(310)確認される。

石材は黒曜石23点，硬砂岩１点である。

法量は最大値で長さ19.65㎜・巾14.70㎜・厚さ4.55㎜・重さ0.80ｇ，最小値で9.45㎜・7.70㎜・2.20㎜・0.10ｇである。平均値は14.80㎜・11.10㎜・3.00㎜・0.40ｇで，巾：長

分類		総数	完形品 ( )略	欠損品	欠損部分					石材					
					逆刺	側辺	先端	先端＋逆刺	逆刺残	黒曜石	頁岩	チャート	硬砂岩	水晶	硅岩
I	a-1	75	30(4)	41	19	11	8	3		74		1			
	a-2	135	26(8)	101	52	6	32	9	2	131	2	2			
	a-3	38	4(3)	31	17	2	8	4		38					
	—	16		16	15	1				16					
	計	264	60(15)	189	103	20	48	16	2	259	2	3			
II	a-1	15	5	10	4	1	5			14	1				
	a-2	24	13(2)	9	7		2			23			1		
	a-3	52	7(1)	44	28		5	6	5	50			1		1
	計	91	25(3)	63	39	1	12	6	5	87	1		2		1
	b-1	92	32(2)	58	29	1	25	3		83	8		1		
	b-2	6	3(1)	2	2					4	2				
	b-3	135	29(8)	98	47	1	36	14		131	2	2			
	b-4	203	58(1)	144	86		31	22	5	193	5	2	1	2	
	b-5	528	38(4)	486	270	1	30	79	106	520	3	4		1	
	b-6	2	1	1				1		2					
	b-7	11	3	8	6			1	1	10	1				
	計	977	164(16)	797	440	3	122	120	112	943	21	8	2	3	
	c-1	60	10(1)	49	29	2	16	1	1	59				1	
	c-2	269	46(1)	222	138	2	38	29	15	265	3	1			
	計	329	56(2)	271	167	4	54	30	16	324	3	1		1	
合計		1661	305(36)	1320	749	28	236	172	135	1613	27	12	4	4	1

第５表　石鏃観察表 ①

さは略1：1.3を示す。巾に対して若干長さを増すため，本種内ではもっとも長身的な形状となる。極端な大形品はなく，中形～小形品が目立つ傾向が窺える。

a－3種(320～371)

基部の抉入がもっとも深く拡大される典型的な『鍬形鏃』[註2]である。調整は一部に剝片を縁部調整によって作出する例もあるが，それを含めても，なお丁寧になされて精巧である。側辺は直線状となるが，むしろ内湾気味である。逆刺は端部を切断されて「コ」の字状となり，内湾気味の側辺に沿って外側へ張り出した形態となる。

これに属するものは52点が認められ，うち完形品は7点である。形状，ならびに器厚が極端に薄いこともあって，大半が逆刺を欠損している。

局部磨製石鏃が7点(324・335・346・355・363・366・369)確認される。本種中約13%を占めて，全石鏃中もっともたかい率で含まれる。

石材は黒曜石50点，硬砂岩1点，硅岩1点である。

法量は最大値で長さ24.60㎜・巾23.70㎜・厚さ4.95㎜・重さ1.00ｇ，最小値で11.55㎜・14.00㎜・2.10㎜・0.30ｇである。平均値は17.20㎜・15.35㎜・3.00㎜・0.60ｇで巾：長さは略1：1.1を示す。大形～中形品で構成されるため，器長・器巾にたかい値を示す。反面，器厚は平均的で，全石鏃中もっとも薄い特徴をもつ。

なお，後述するが本種は分布に特徴をもって検出されている。

b種　基部の抉入形態が「∩」状を呈するものである。977点が認められ，全石鏃中約58%を占め，本遺跡でもっとも多い資料である。それは抉入の広狭・深浅，側辺等の状況によって，さらに1～7に細分される。

b－1種(372～463)

基部の抉入が2.0㎜未満で，平基状にちかい。側辺は孤状となる例が多く，凹基式石鏃にあってもっとも丸味を帯びる。調整は比較的，粗雑な面も観察されるが，平基式石鏃よりは丁寧になされる。一部に剝片を縁部調整によって作出される例もある。

これに属するものは92点が認められ，うち完形品は32点で，形態によるためか，欠損例が少ない特徴をもつ。欠損部分は逆刺，先端部がほぼ同等で，両者で大半を占める。

石材は黒曜石83点，頁岩8点，硬砂岩1点で，頁岩の使用例が目立ってくるが，絶対量は及ばない。

法量は最大値で長さ24.00㎜・巾19.05㎜・厚さ6.65㎜・重さ1.75ｇ，最小値で10.25㎜・7.65㎜・2.00㎜・0.20ｇである。平均値は15.20㎜・12.25㎜・3.50㎜・0.60ｇで，巾：長さは略1：1.2を示す。形態が異なる6・7種を除くと，法量は他を上回り，とくに器厚・器重は圧倒する。大形～小形の変動巾が大きく，量的には小形品が目立つ。

b－2種(464～469)

基部の抉入は2.0㎜未満で，1種同様であるが，両側辺が内湾して段を有する『五角形鏃』[註3]

である。調整は必ずしも丁寧とは言えず，全体的にスマートさに欠ける。

これに属するものは6点が認められ，資料的に貧弱である。完形品は3点で，残り3点は全て片逆刺を欠き，464はさらに特徴となる側辺の片側突起を欠いている。

石材は黒曜石4点，頁岩2点である。資料は少ないが，頁岩の使用率はもっともたかい。

法量は最大値で長さ19.95㎜・巾14.20㎜・厚さ4.00㎜・重さ0.55ｇ，最小値で14.40㎜・8.35㎜・2.50㎜・0.35ｇである。平均値は16.25㎜・10.50㎜・3.05㎜・0.45ｇで，巾：長さは略1：1.5を示して，比較的，長身形状をなす。中形品のみで構成され，器厚・器重にたかい値を示す。

ｂ－3種(470～604)

基部の抉入が2～3.00㎜前後を測って，器長の6～7分の1程を占めるものである。側辺は直線状・弧状の両者が認められて，前者は身長を若干長くもつ傾向が窺える。調整はｂ－2種同様に必ずしも丁寧とは言えず，片面に第1・2次剥離面を残す例や，一部に剥片を縁部調整によって作出される例もある。

これに属するものは135点が認められ，うち完成品は29点で，欠損品の占める割合がたかい。欠損部分は側辺部が1例の他は全て逆刺，先端部である。

局部磨製石鏃が1点(572)確認される。

石材は黒曜石131点，頁岩2点，チャート2点である。

法量は最大値で長さ24.90㎜・巾20.00㎜・厚さ6.00㎜・重さ0.65ｇ，最小値で10.00㎜・7.00㎜・2.00㎜・0.15ｇである。平均値は14.45㎜・12.15㎜・3.05㎜・0.35ｇで，巾：長

分類		総数	最大値 (mm, g)				最小値 (mm, g)				平均値 (mm, g)				
			長さ	幅	厚さ	重さ	長さ	幅	厚さ	重さ	長さ	幅	厚さ	重さ	幅：長
I	a-1	75	24.90	19.00	8.00	2.25	10.15	6.80	2.15	0.20	17.50	13.10	4.15	0.95	1：1.3
	a-2	135	28.00	19.60	6.60	1.75	10.20	8.40	2.10	0.20	15.60	12.70	3.70	0.55	1：1.2
	a-3	38	22.20	20.50	5.65	0.75	11.20	11.70	2.30	0.40	15.00	14.60	3.35	0.60	1：1.0
	—	16	17.20	—	—	—	16.00	—	—	—	16.60	—	—	—	—
	計	264	23.10	19.70	6.75	1.60	11.90	8.95	2.20	0.25	16.20	13.45	3.70	0.70	1：1.2
II	a-1	15	20.05	15.40	5.40	0.50	8.80	7.55	2.50	0.25	14.00	12.40	3.50	0.40	1：1.1
	a-2	24	19.65	14.70	4.55	0.80	9.45	7.70	2.20	0.10	14.80	11.10	3.00	0.40	1：1.3
	a-3	52	24.60	23.70	4.95	1.00	11.55	14.00	2.10	0.30	17.20	15.35	3.00	0.60	1：1.1
	計	91	21.40	17.90	4.95	0.75	9.90	9.75	2.25	0.20	15.30	12.95	3.15	0.45	1：1.2
	b-1	92	24.00	19.05	6.65	1.75	10.25	7.65	2.00	0.20	15.20	12.25	3.50	0.60	1：1.2
	b-2	6	19.95	14.20	4.00	0.55	14.40	8.35	2.50	0.35	16.25	10.50	3.05	0.45	1：1.5
	b-3	135	24.90	20.00	6.00	0.65	10.00	7.00	2.00	0.15	14.45	12.15	3.05	0.35	1：1.2
	b-4	203	29.30	19.00	5.40	1.50	10.30	8.10	1.45	0.10	14.95	12.10	2.80	0.35	1：1.2
	b-5	528	23.65	17.85	5.70	1.10	10.10	8.30	1.20	0.10	16.35	12.25	2.70	0.33	1：1.3
	b-6	2	20.00	13.00	3.55	0.50	20.00	13.00	2.70	0.50	—	—	3.13	—	—
	b-7	11	28.00	12.50	3.80	0.95	12.70	10.55	2.50	0.35	19.30	11.50	3.15	0.60	1：1.7
	計	977	24.25	16.50	5.00	1.00	12.50	9.00	2.05	0.25	16.10	11.80	3.05	0.45	1：1.4
	c-1	60	21.50	17.00	5.40	1.25	10.70	9.30	2.10	0.10	15.35	12.85	3.20	0.40	1：1.2
	c-2	269	26.10	18.00	6.00	0.65	8.40	7.80	2.00	0.10	15.65	11.60	2.85	0.25	1：1.3
	計	329	23.80	17.50	5.70	0.95	9.55	8.55	2.05	0.10	15.50	12.20	3.00	0.30	1：1.3
合計		1661	23.10	17.90	5.60	1.00	11.00	9.05	2.10	0.20	15.80	12.60	3.20	0.50	1：1.3

第6表　石鏃観察表 ②

さは略1：1.2を示す。大形～小形の変動巾が大きく，量的には中形・小形品が目立つ。

b－4種(605～807)

基部の抉入が3～4.00㎜前後を測って，器長の5分の1程を占めるものである。側辺は直線状となって，鋸歯状痕も目立ってくる。逆刺も明確に鋭さを増して，b－3→5種の中間形態をとる。調整は比較的，丁寧になされ，中形～小形品にかけて精巧な資料が見受けられる。

これに属するものは203点が認められ，うち完形品は58点である。欠損部分は逆刺；先端部に限られ，量的には逆刺が多い。

局部磨製石鏃が3点(672・731・772)確認される。

石材は黒曜石193点，頁岩5点，チャート2点，水晶2点，硬砂岩1点で，微量ながら黒曜石以外の石材に分散する傾向が窺える。

法量は最大値で長さ29.30㎜・巾19.00㎜・厚さ5.40㎜・重さ1.50ｇ，最小値で10.30㎜・8.10㎜・1.45㎜・0.10ｇである。平均値は14.95㎜・12.10㎜・2.80㎜・0.35ｇで，巾：長さは略1：1.2を示す。全石鏃中もっとも器長を長くもつ620（頁岩製）は例外で，極端な大形品を欠除して量的にも少ない。中形･小形品を主体に構成され，とくに器長10㎜強を測る超小形品が多い特徴をもつ。

b－5種(808～1335)

基部の抉入が略4.0㎜以上を測って，器長の3～4分の1を占めるものである。側辺は直線状，もしくは内湾気味となって，鋸歯状痕がとくに顕著となる。逆刺はb－4種から発達して，鋭く外方にむかって『人』字状を呈する。調整も本石鏃中もっとも丁寧，かつ精巧である。

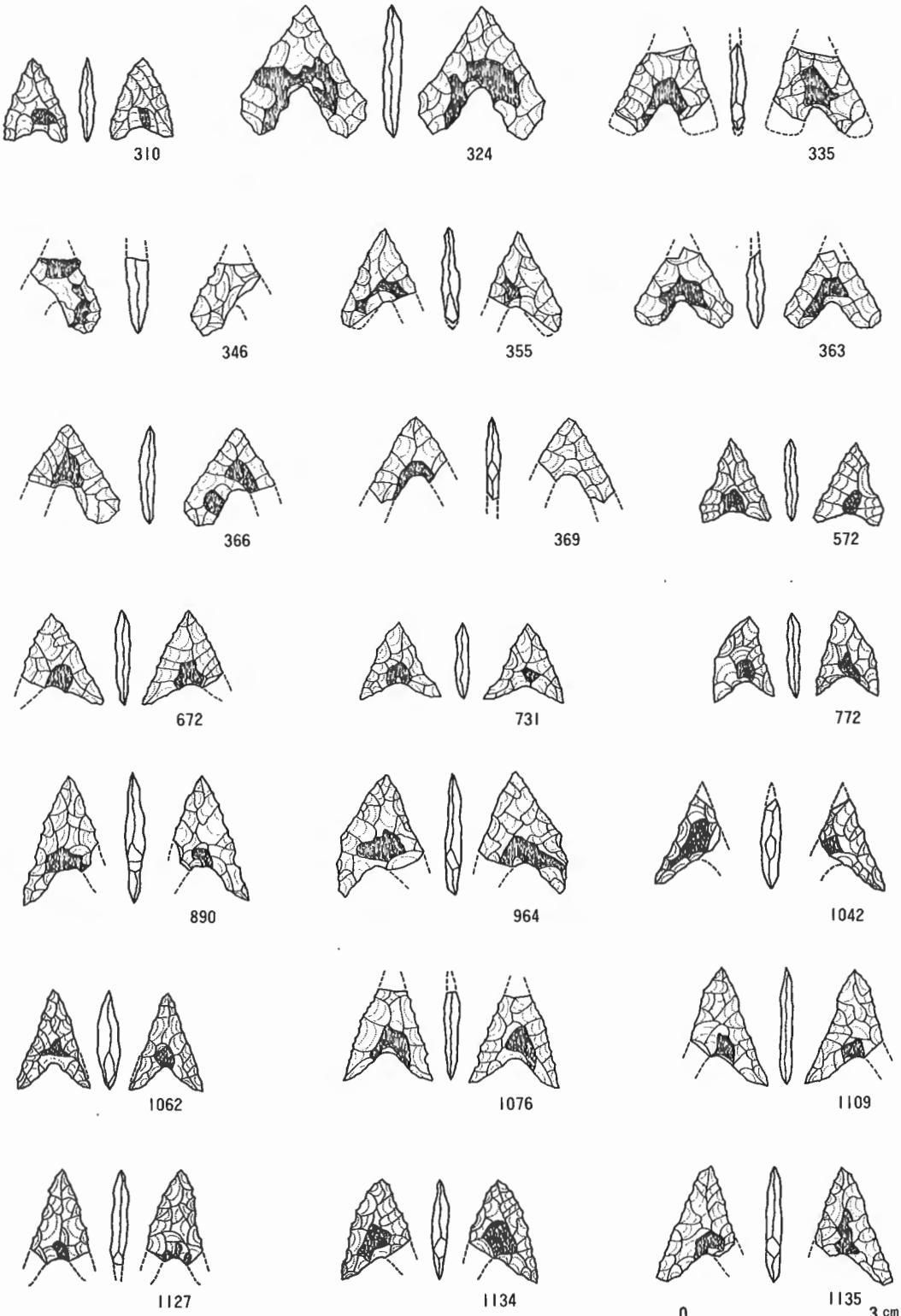
これに属するものは528点が認められる。うち106点は片側逆刺の残存資料であるから，実数的には減されようが，II類b種中約54％，全石鏃中約32％を占めて，本遺跡の主体をなすものである。形態によるためか，完形品は38点で極端に少ない。欠損部分は逆刺，先端部に集中し，逆刺が圧倒する。

局部磨製石鏃が23点(890・964・1042・1062・1076・1109・1127・1134・1135・1140・1171・1180・1185・1193・1196・1198・1207・1211・1245・1294・1299・1300・1306)確認される。本種中約4％を占めて，II類a－3種とともに特徴的である。

石材は黒曜石520点，頁岩3点，チャート4点，水晶1点であり，b－4種同様に微量ながら他石材の依存度が増す。

法量は最大値で長さ23.65㎜・巾17.85㎜・厚さ5.70㎜・重さ1.10ｇ，最小値で10.10㎜・8.30㎜・1.20㎜・0.10ｇである。平均値は16.35㎜・12.25㎜・2.70㎜・0.35ｇで巾：長さは略1：1.3を示して，同系のb－3～5種中では長身的である。反面，器厚･器重は低値を示すため，本石鏃中もっとも鋭利となる。極端な大形品は欠除されて，中形品が主体として構成される。

b－6種(1336・1337)



第11図　局部磨製石鏃実測図 ①

基部の抉入が器長の略2分の1を占める『円脚鏃・長脚鏃』[註4]である。調整は極めて丁寧になされ，かつ精巧である。

これに属するものは2点が認められ，全石鏃中もっとも少ない。1点が逆刺，先端部を欠損する。

石材は2点とも黒曜石である。

法量は2点とも器長を20.00㎜以上もって大形である。

b－7種(1338～1348)

器長が器巾の略2倍を呈する『長身鏃』である。基部は深浅の両者があり、前者の側辺は内湾気味で鋸歯状痕が目立つ。後者は直線状となる。調整は極めて丁寧，かつ精巧である。

これに属するものは11点が認められ，うち完形品は3点である。欠損部分は逆刺が大半である。

石材は黒曜石11点，頁岩1点である。

法量は最大値で長さ28.00㎜・巾12.50㎜・厚さ3.80㎜・重さ0.95ｇ，最小値で12.70㎜・10.55㎜・2.50㎜・0.35ｇである。平均値は19.30㎜・11.50㎜・3.15㎜・0.60ｇで，巾：長さは略1：1.7を示して，全石鏃中もっとも長身である。

c種　基部の抉入形態が「Λ」状を呈するものである。329点が認められ，全石鏃中約20%を占める。それは抉入の広狭・深浅，側辺等の状況によって，さらに1・2に細分される。

c－1種(1349～1408)

基部の抉入が2.0㎜未満を測るものである。「Λ」状の抉入中央には豆粒状の剝離痕例が一部にみられる。調整は比較的，丁寧になされるが，大形品に粗雑で，中形～小形品に精巧さを増す。側辺は直線状・弧状の両者が認められる。

これに属するものは60点が認められ，うち完形品は10点である。欠損部分は逆刺，先端部が大半である。

石材は黒曜石59点，水晶1点である。

法量は最大値で長さ21.50㎜・巾17.00㎜・厚さ5.40㎜・重さ1.25ｇ，最小値で10.70㎜・9.30㎜・2.10㎜・0.10ｇである。平均値は15.35㎜・12.85㎜・3.20㎜・0.40ｇで，巾：長さは略1：1.2を示す。極端な大形品を欠除して，中形～小形品が主体で構成され，とくに超小形品が目立つ。小形品以外は器厚をもってシャープさに欠ける。

c－2種(1409～1677)

基部の抉入が2.0㎜以上を測って，「Λ」状が明確になる。抉入中央の豆粒状剝離痕は明暗はありながらも大半にみられる。「Λ」状を明確に作出するための手法か。調整は丁寧になされ，逆刺・先端部とも非常に鋭利となり，かつ精巧である。側辺は大略が直線状となり，鋸歯状痕が顕著である。

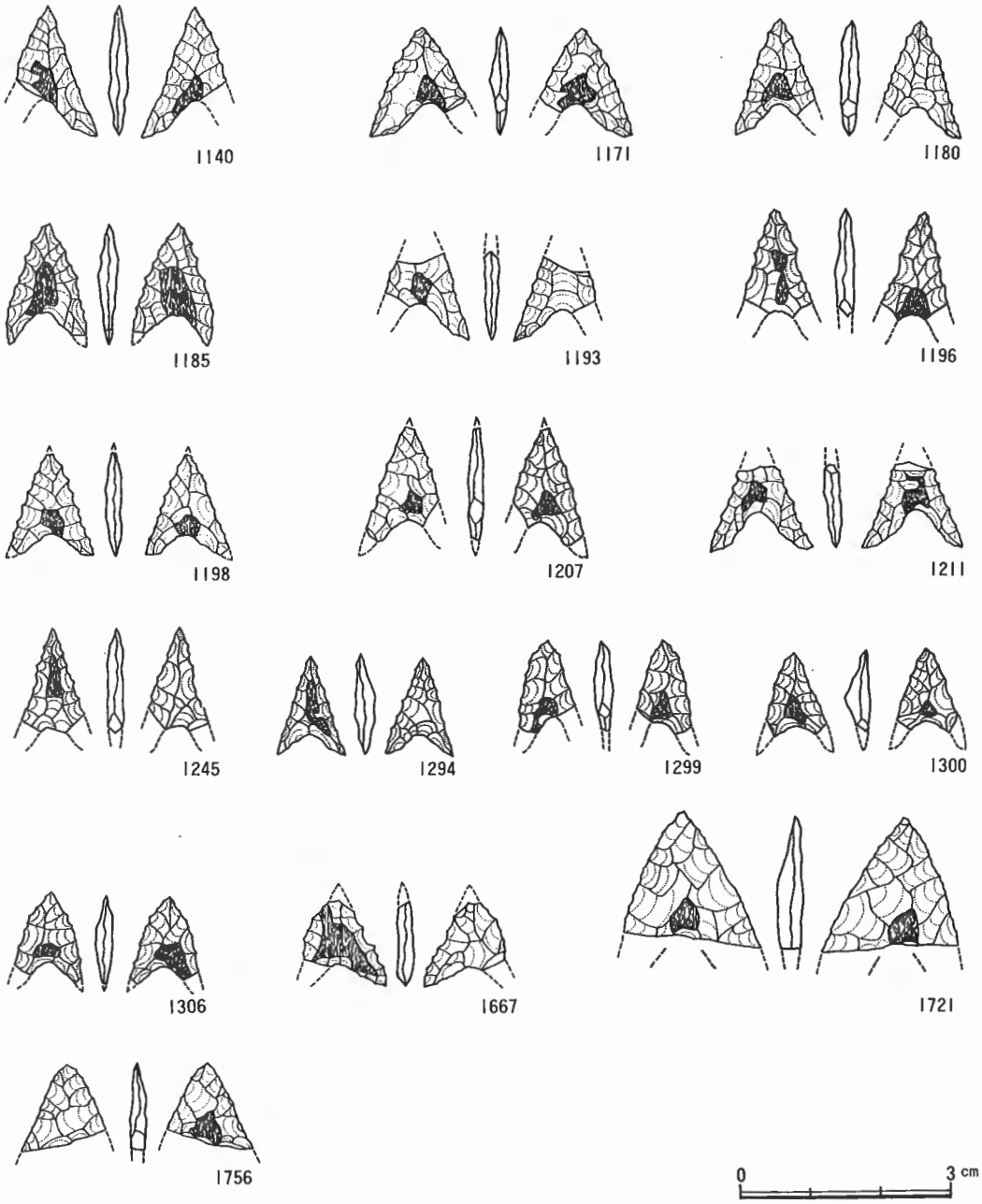
これに属するものは269点が認められ，II類b－5種に次いで資料を多くもつ。うち完形品

は46点で，欠損部分は逆刺・先端部が大半で，とくに逆刺が圧倒する。

局部磨製石鏃が1点(1667)確認される。

石材は黒曜石265点，頁岩3点，チャート1点である。

法量は最大値で長さ26.10㎜・巾18.00㎜・厚さ6.00㎜・重さ0.65ｇ，最小値は8.40㎜・7.80㎜・2.00㎜・0.10ｇである。平均値は15.65㎜・11.60㎜・2.85㎜・0.25ｇで，巾：長



第12図　局部磨製石鏃実測図 ②

さは略1：1.3を示して，比較的，長身形状，器厚も薄くもってスマートな感を与える。中形～小形品が主体で構成され，とくに超小形品が多い特徴をもつ。したがって，器重の平均値はもっとも低く示す。

欠損品(1678～1924)

基部欠損品，および逆刺残存品で形態の不明なものである。247点が認められる。残存部から判断すれば，大半は凹基式石鏃に含まれよう。

局部磨製石鏃が2点(1721・1756)確認される。

未製品(1925～2184)

大略的な形状は作出されるものの，調整は不揃いで粗い。一部に使用痕のある剝片類の石器等に分類される資料もあろうが一様に扱った。260点が認められる。完形品に比してひとまわり大きい法量を示して，大半が欠損される。各資料にはそれぞれの調整段階が看取されて，その過程を現わそうが，そこまで及ばないでいる。

局部磨製石鏃

局部磨製石鏃は38点が検出される。形態不明2点を含むが，残存部からII類であることが知れ，局部磨製石鏃は凹基式石鏃に限られる特質をみる。研磨方向は全て縦位になされる。研磨部位・方法から，岐阜県坂下町椛の湖遺跡第II段階「身部中央を平らに研磨して極めて薄手に整作されている。」，長野県樋沢遺跡「底辺のきりこみ部分を央心に，両面からすりガラスのように研ぎへらされて薄くなっている。」の「—」状，「◡」状の2者をみる。しかし，それに直接，比定分類するものではない。

① 抉入中央～身部中央にかけて「—」状に研磨されるもの

346・355(a－3種)，1134・1245・1294・1300(b－5種)，1667(c－2種)

② 抉入中央が「◡」状に研磨されるもの

310(a－2種)，324・335・363・366・367(a－3種)，572(b－3種)，672・731・772(b－4種)，890・964・1042・1062・1096・1109・1127・1135・1140・1171・1180・1185・1193・1196・1198・1207・1211・1299・1304(b－5種)，1721・1756（形態不明）

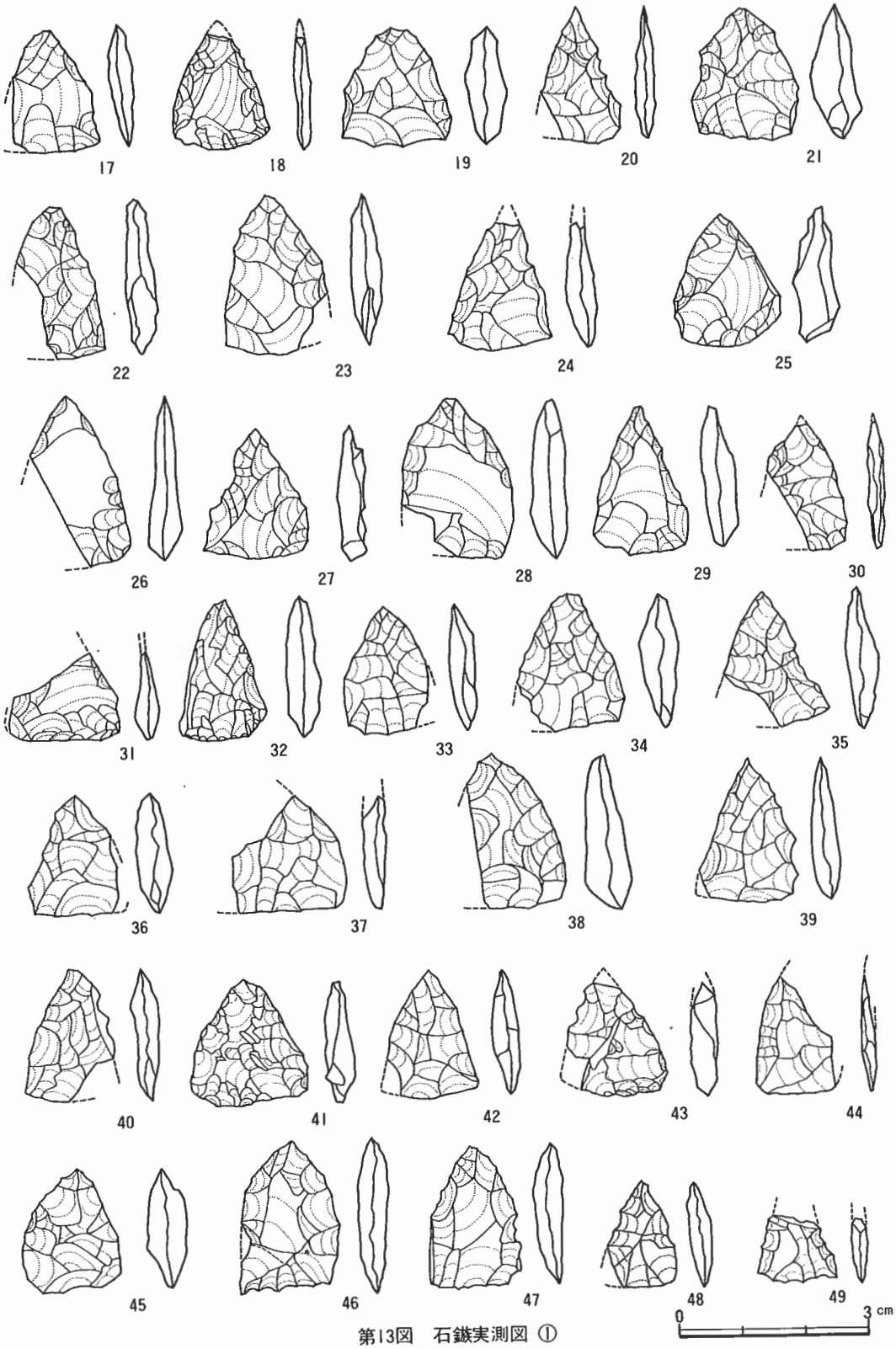
このうち，片面研磨例を6点(346・369・1180・1245・1294・1756)確認する。

註1　紅村　弘・原　寛　1974『椛の湖遺跡』　岐阜県恵那郡坂下町教育委員会
　　戸沢充則　1955　「樋沢押型文遺跡」　『石器時代』第2号

註2　松沢亜生　1957　「細久保遺跡の押型文土器」　『石器時代』第4号

註3　酒詰仲男・岡田茂弘　1958　「大川遺跡」　『奈良県文化財調査報告』2
　　松田真一　1980　『大川遺跡－昭和54年度発掘調査概報』　・1981　『大川遺跡－第3次発掘調査概報（昭和55年度)』　奈良県立橿原考古学研究所・山添村教育委員会

註4　藤森栄一　1960　「諏訪湖底曽根の調査」　『信濃』第12巻7号

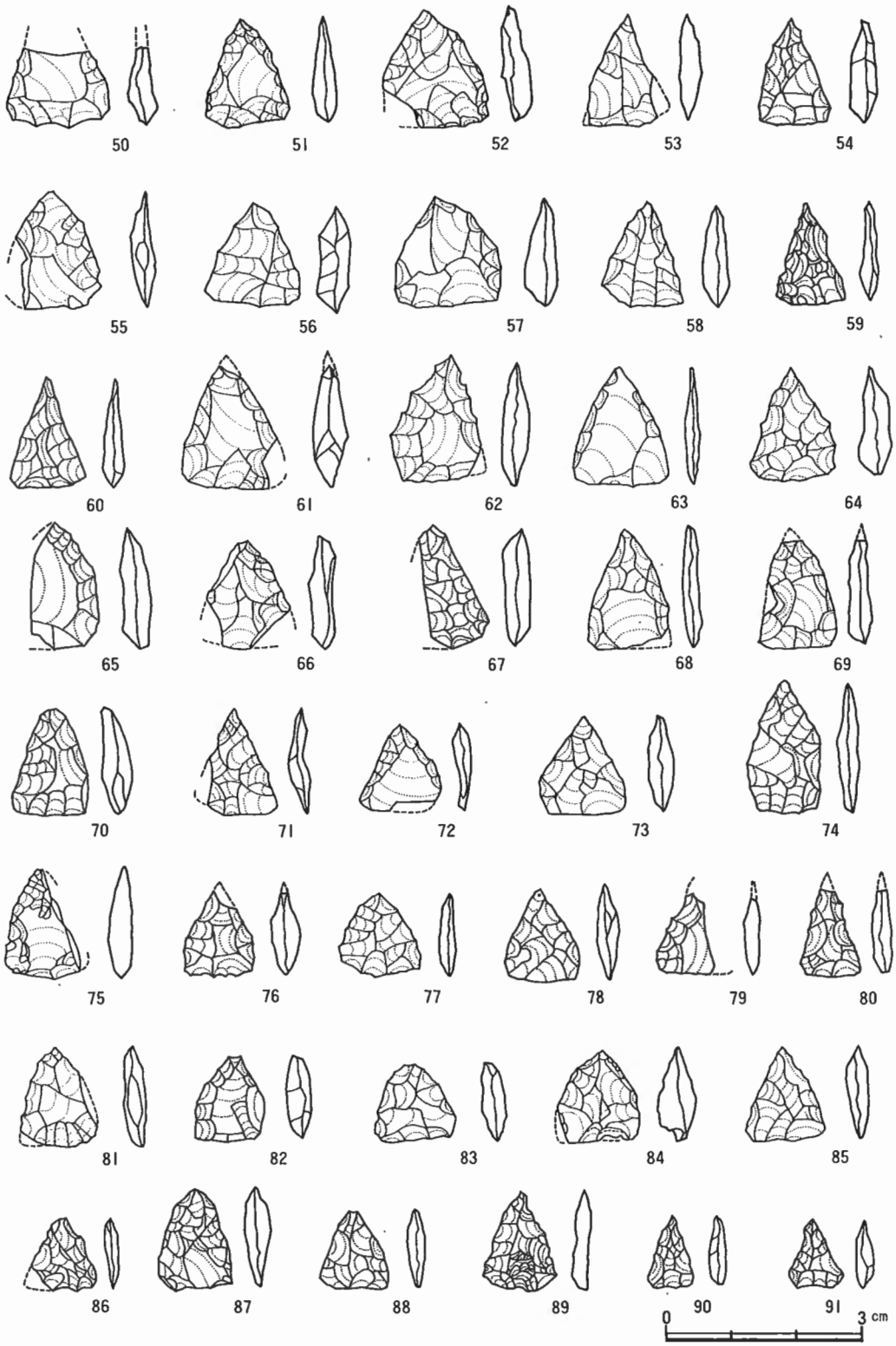

17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
0
3 cm

第13図　石鏃実測図 ①

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
17	I-a-1	C-19	黒曜石	19.00	(13.15)	3.45	(0.85)	片側辺欠	28	
18	I-a-1	D-11	黒曜石	(18.00)	15.70	8.00	(0.55)	先端欠	28	
19	I-a-1	D-18	黒曜石	18.30	17.25	6.35	1.80	完形	28	
20	I-a-1	E-12	黒曜石	21.40	(12.50)	3.30	(0.60)	片逆刺欠	28	
21	I-a-1	E-19	黒曜石	20.50	16.90	7.30	2.15	完形	28	
22	I-a-1	E-19	黒曜石	(24.00)	(13.30)	(5.00)	(1.05)	片側辺欠	28	
23	I-a-1	E-20	黒曜石	24.90	(16.30)	5.00	(1.90)	片逆刺欠	28	
24	I-a-1	F-20	黒曜石	(20.00)	16.40	(4.65)	(1.30)	先端欠	28	
25	I-a-1	F-20	黒曜石	20.80	17.40	7.20	2.25	完形	28	
26	I-a-1	G-16	チャート	(27.30)	(16.00)	(5.55)	(1.30)	片側辺欠	28	
27	I-a-1	G-20	黒曜石	20.70	17.00	4.40	1.10	完形	28	
28	I-a-1	H-7	黒曜石	24.40	(17.30)	5.60	(2.50)	片逆刺欠	28	
29	I-a-1	H-11	黒曜石	22.95	14.80	4.90	1.25	完形	28	
30	I-a-1	H-18	黒曜石	(12.80)	(12.30)	(2.90)	(0.50)	先端片側辺欠	28	
31	I-a-1	I-6	黒曜石	(13.75)	(16.80)	3.50	(0.95)	先端部欠	28	
32	I-a-1	I-11	黒曜石	21.85	13.95	5.15	1.55	完形	28	
33	I-a-1	I-12	黒曜石	19.65	(13.50)	3.15	(1.15)	片逆刺欠	28	
34	I-a-1	I-16	黒曜石	20.70	(17.00)	6.15	(2.00)	片逆刺欠	28	
35	I-a-1	I-20	黒曜石	21.30	(17.00)	(4.80)	(1.00)	片逆刺欠	28	
36	I-a-1	I-22	黒曜石	19.30	(15.50)	5.55	(1.35)	片側辺欠	28	
37	I-a-1	J-9	黒曜石	(18.15)	(17.90)	3.65	(1.55)	片側辺欠	28	
38	I-a-1	J-11	黒曜石	(19.75)	(12.40)	4.90	(1.05)	片側辺欠	28	
39	I-a-1	J-12	黒曜石	22.20	(15.25)	4.85	(1.65)	略完形	28	
40	I-a-1	J-13	黒曜石	(20.90)	(14.35)	2.45	(1.30)	片逆刺欠	28	
41	I-a-1	J-22	黒曜石	19.30	19.00	4.00	1.25	完形	28	
42	I-a-1	K-13	黒曜石	19.85	(13.95)	4.95	(1.20)	片逆刺欠	28	
43	I-a-1	K-25	黒曜石	(18.30)	(16.35)	4.80	(1.10)	先端片逆刺欠	28	
44	I-a-1	L-11	黒曜石	(17.80)	(12.05)	(1.05)	(0.75)	片側辺欠	28	
45	I-a-1	M-12	黒曜石	20.00	15.75	6.75	1.60	完形	28	
46	I-a-1	K-22	黒曜石	23.70	(15.55)	4.70	(1.85)	略完形	28	
47	I-a-1	22住居	黒曜石	22.10	14.65	4.55	1.65	完形	28	
48	I-a-1	C-14	黒曜石	17.00	(10.90)	(4.30)	(0.65)	片逆刺欠	28	
49	I-a-1	C-17	黒曜石	(10.25)	12.30	2.70	(0.35)	先端部欠	28	
50	I-a-1	C-17	黒曜石	(11.70)	15.50	5.00	(0.85)	先端部欠	28	
51	I-a-1	D-11	黒曜石	16.60	12.70	2.80	0.65	完形	28	
52	I-a-1	D-13	黒曜石	17.80	(16.00)	(3.80)	(0.95)	片逆刺欠	28	
53	I-a-1	E-12	黒曜石	17.40	(10.80)	4.00	(0.65)	両逆刺欠	28	
54	I-a-1	E-17	黒曜石	16.30	10.70	4.65	0.70	完形	28	
55	I-a-1	E-20	黒曜石	17.60	(13.00)	(3.40)	(0.65)	片逆刺欠	28	
56	I-a-1	F-12	黒曜石	16.00	14.50	4.70	1.00	完形	28	
57	I-a-1	F-16	黒曜石	16.50	16.10	5.00	1.25	完形	28	
58	I-a-1	F-16	黒曜石	15.70	12.20	4.40	0.70	完形	28	
59	I-a-1	F-20	黒曜石	15.30	11.00	3.00	(0.30)	略完形	28	
60	I-a-1	H-11	黒曜石	16.95	11.45	3.30	0.60	完形	28	

第7表　石鏃計測表 ①

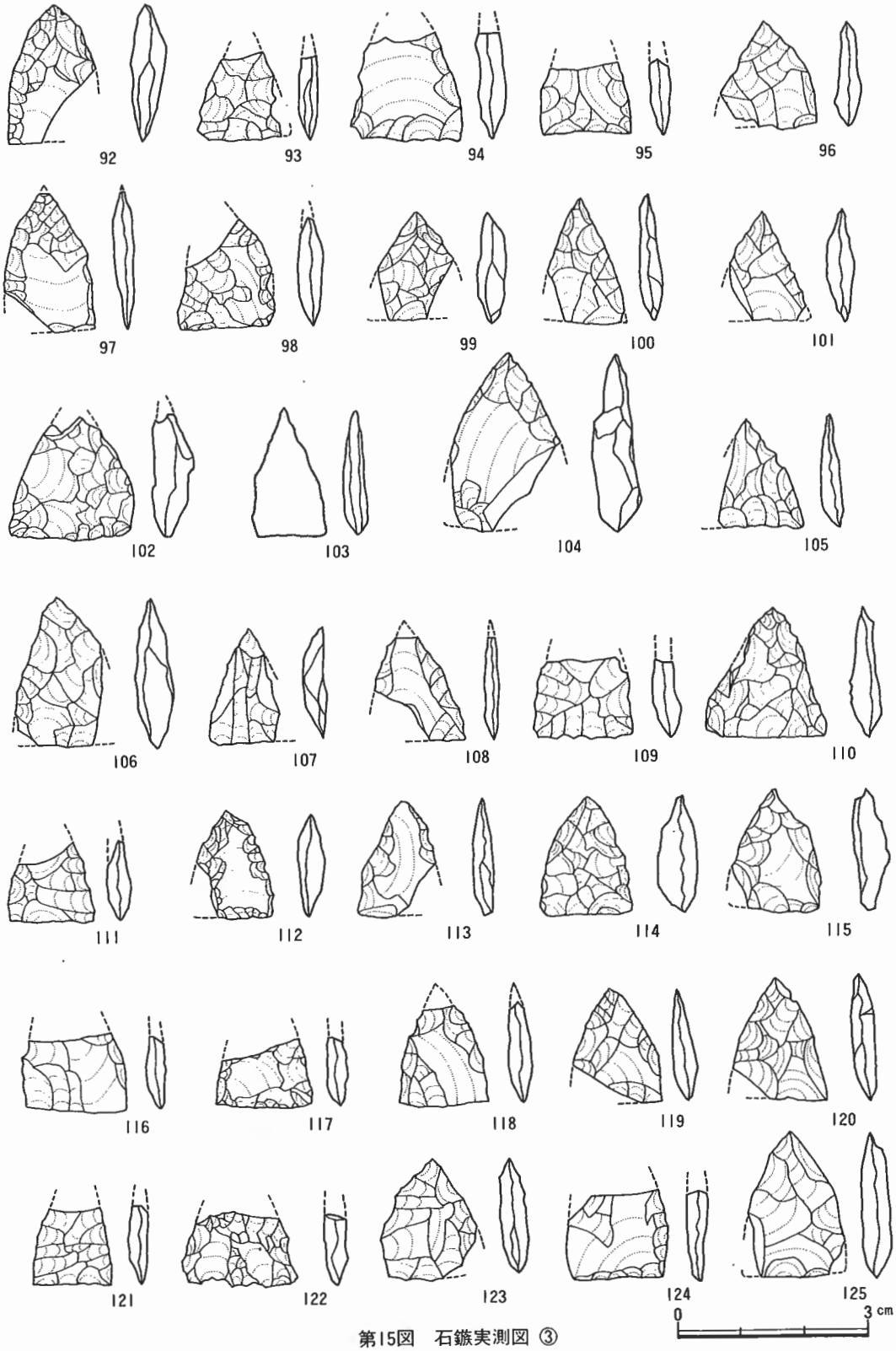

50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
0
3 cm

第14図　石鏃実測図 ②

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
61	I-a-1	H-20	黒曜石	(18.70)	(14.60)	5.30	(1.30)	先端片逆刺欠	28	
62	I-a-1	H-21	黒曜石	19.70	(14.00)	2.60	(1.00)	略完形	28	
63	I-a-1	I-12	黒曜石	17.30	14.60	2.15	0.75	完形	28	
64	I-a-1	I-14	黒曜石	17.20	13.25	4.95	1.15	完形	28	
65	I-a-1	I-16	黒曜石	18.80	(10.50)	4.40	(1.00)	片側辺欠	28	
66	I-a-1	J-8	黒曜石	16.40	(12.70)	4.10	(1.30)	両逆刺欠	28	
67	I-a-1	J-11	黒曜石	(19.00)	(11.00)	4.30	(0.70)	片側辺欠	28	
68	I-a-1	J-12	黒曜石	(13.35)	(12.60)	2.95	(0.65)	片逆刺欠	28	
69	I-a-1	J-12	黒曜石	(16.30)	12.10	3.45	(0.70)	先端欠	28	
70	I-a-1	K-13	黒曜石	16.35	11.55	4.55	1.15	完形	28	
71	I-a-1	K-13	黒曜石	11.30	(11.20)	2.85	(0.60)	片逆刺欠	28	
72	I-a-1	K-13	黒曜石	(13.20)	12.35	2.20	(0.55)	片逆刺欠	28	
73	I-a-1	L-13	黒曜石	15.15	13.25	4.15	1.05	完形	28	
74	I-a-1	N-19	黒曜石	19.55	11.50	3.00	0.60	完形	28	
75	I-a-1	K-25	黒曜石	17.00	(11.20)	(4.60)	(0.70)	片側辺欠	28	
76	I-a-1	C-13	黒曜石	(13.00)	10.60	4.40	(0.45)	先端部欠	28	
77	I-a-1	C-14	黒曜石	13.00	12.45	2.80	0.40	完形	28	
78	I-a-1	D-17	黒曜石	14.00	11.60	3.50	0.65	完形	28	
79	I-a-1	H-11	黒曜石	(11.60)	(9.15)	2.70	(0.45)	片側辺欠	28	
80	I-a-1	H-15	黒曜石	(13.30)	8.65	2.90	(0.55)	先端部欠	28	
81	I-a-1	K-12	黒曜石	15.50	(12.00)	3.70	(0.60)	片側辺片逆刺欠	28	
82	I-a-1	K-12	黒曜石	12.50	9.85	4.40	0.65	完形	28	
83	I-a-1	I-8	黒曜石	12.00	12.30	3.90	0.50	完形	28	
84	I-a-1	I-9	黒曜石	14.00	(12.80)	5.80	(1.00)	片逆刺欠	28	
85	I-a-1	I-12	黒曜石	14.10	12.30	3.80	0.60	完形	28	
86	I-a-1	I-25	黒曜石	11.20	(10.00)	2.20	(0.15)	片逆刺欠	28	
87	I-a-1	J-7	黒曜石	15.15	11.45	3.95	0.75	完形	28	
88	I-a-1	J-11	黒曜石	12.10	11.10	2.90	0.30	完形	28	
89	I-a-1	I-20	黒曜石	15.00	11.55	2.60	0.35	完形	28	
90	I-a-1	E-17	黒曜石	11.20	6.80	2.90	0.20	完形	28	
91	I-a-1	L-13	黒曜石	10.15	8.50	2.80	0.35	完形	28	
92	I-a-2	C-12	黒曜石	(21.75)	(14.00)	(3.50)	(1.25)	片逆刺欠	28	
93	I-a-2	C-12	黒曜石	(13.70)	(13.30)	3.60	(0.70)	先端部片側辺欠	28	
94	I-a-2	C-13	黒曜石	(16.70)	18.00	4.40	(1.30)	先端部欠	28	
95	I-a-2	C-15	黒曜石	(11.00)	14.30	3.65	(0.65)	先端部欠	28	
96	I-a-2	C-16	黒曜石	16.20	(15.00)	4.10	(1.00)	片逆刺欠	28	
97	I-a-2	D-11	黒曜石	(22.20)	(14.40)	3.65	(1.00)	先端両逆刺欠	29	
98	I-a-2	D-11	黒曜石	(16.90)	15.25	4.40	(1.20)	先端部欠	29	
99	I-a-2	D-13	黒曜石	16.80	(11.80)	4.60	(0.75)	両逆刺欠	29	
100	I-a-2	D-13	黒曜石	19.70	(11.80)	3.80	(0.75)	両逆刺欠	29	
101	I-a-2	E-16	黒曜石	16.70	(12.00)	4.40	(0.75)	両逆刺欠	29	
102	I-a-2	E-19	黒曜石	(19.40)	19.60	6.00	(2.00)	先端欠	29	
103	I-a-2	F-5	頁　岩	20.00	11.30	3.50	0.90	完形	29	
104	I-a-2	F-15	黒曜石	28.00	(17.70)	(6.70)	(2.55)	両逆刺欠	29	

第8表　石鏃計測表 ②

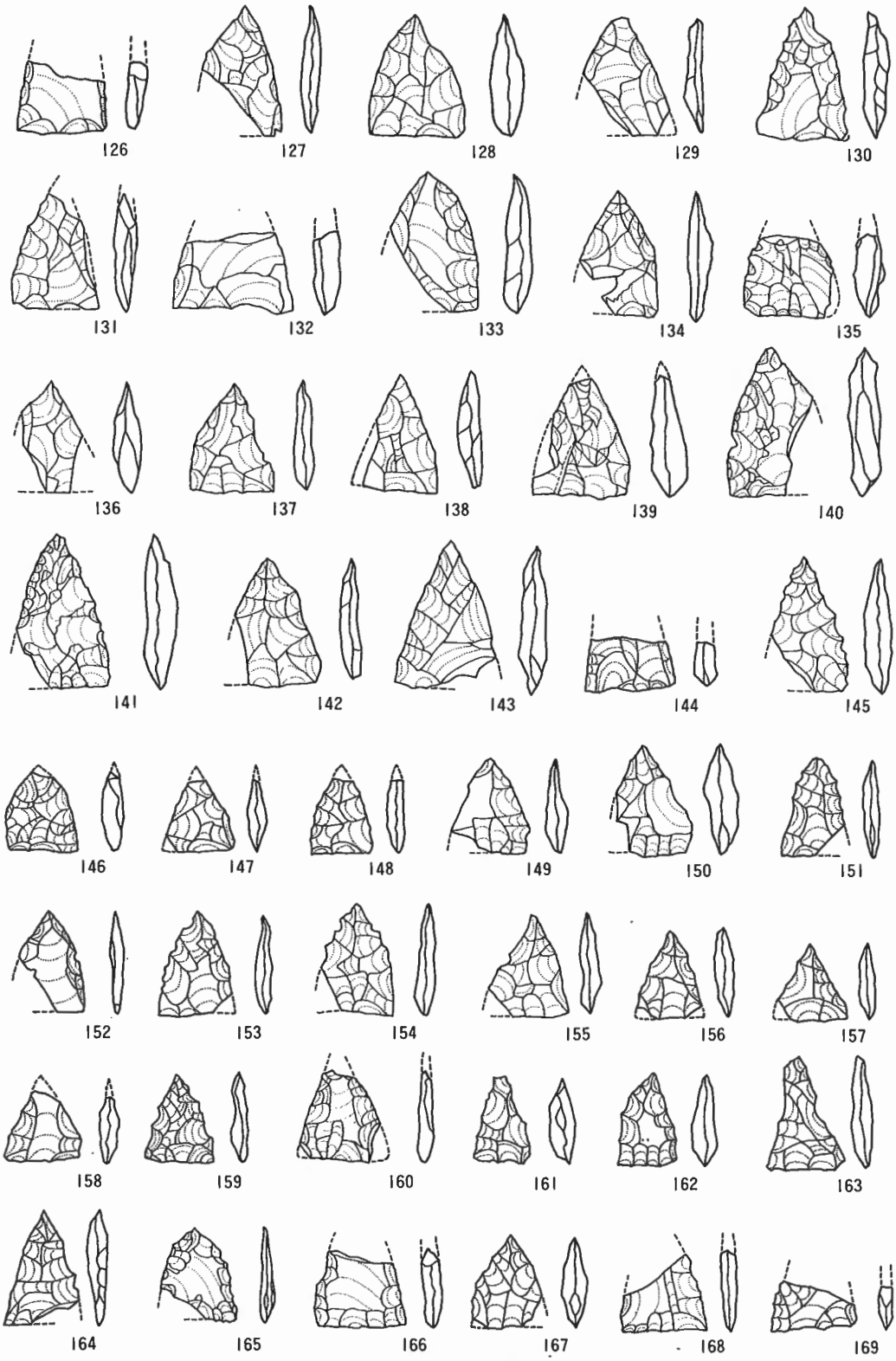

92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
0
3 cm

第15図　石鏃実測図 ③

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
105	I-a-2	F-20	黒曜石	17.75	(13.30)	3.00	(0.70)	片側辺欠	29	
106	I-a-2	G-14	黒曜石	23.40	(13.30)	5.70	(1.70)	片側辺片逆刺欠	29	
107	I-a-2	G-14	黒曜石	17.70	(11.50)	3.50	(0.85)	片側辺欠	29	
108	I-a-2	G-16	黒曜石	(16.15)	(14.00)	(2.40)	(0.60)	先端片逆刺欠	29	
109	I-a-2	G-16	黒曜石	(12.10)	15.30	4.35	(1.10)	先端部欠	29	
110	I-a-2	H-11	黒曜石	19.80	16.80	4.95	(1.75)	略完形	29	
111	I-a-2	H-16	黒曜石	(12.50)	13.40	4.00	(0.70)	先端部欠	29	
112	I-a-2	H-25	黒曜石	17.10	(12.50)	3.65	(0.55)	片逆刺欠	29	
113	I-a-2	I-7	黒曜石	18.35	(13.15)	3.50	(0.80)	片逆刺欠	29	
114	I-a-2	I-7	黒曜石	18.30	14.50	6.35	1.75	完形	29	
115	I-a-2	I-10	黒曜石	19.40	(14.35)	5.95	(1.51)	片逆刺欠	29	
116	I-a-2	I-11	黒曜石	(12.55)	16.35	3.15	(1.15)	先端部欠	29	
117	I-a-2	I-11	黒曜石	(11.15)	15.45	3.50	(0.75)	先端部欠	29	
118	I-a-2	I-12	黒曜石	(15.80)	14.15	3.85	(0.95)	先端欠	29	
119	I-a-2	I-12	黒曜石	17.95	(14.20)	3.85	(0.85)	片逆刺欠	29	
120	I-a-2	I-12	黒曜石	19.70	(15.15)	3.55	(0.95)	片逆刺欠	29	
121	I-a-2	I-15	黒曜石	(12.00)	12.65	3.00	(0.55)	先端部欠	29	
122	I-a-2	I-21	黒曜石	(12.00)	18.30	3.40	(0.80)	先端部欠	29	
123	I-a-2	J-11	黒曜石	18.85	(15.95)	4.90	(1.35)	片逆刺欠	29	
124	I-a-2	J-11	黒曜石	(13.90)	16.30	3.50	(1.25)	先端部欠	29	
125	I-a-2	J-12	黒曜石	22.05	(15.15)	5.45	(1.65)	両逆刺欠	29	
126	I-a-2	J-12	黒曜石	(10.50)	10.35	3.15	(0.70)	先端部欠	29	
127	I-a-2	J-12	黒曜石	15.25	(12.25)	3.55	(0.50)	片逆刺欠	29	
128	I-a-2	J-12	黒曜石	18.70	15.35	6.60	1.30	完形	29	
129	I-a-2	J-12	黒曜石	17.05	(13.50)	3.10	(0.70)	両逆刺欠	29	
130	I-a-2	J-13	黒曜石	19.80	(14.45)	4.30	(1.10)	略完形	29	
131	I-a-2	J-13	黒曜石	(7.55)	13.45	3.60	(0.95)	先端片側片欠	29	
132	I-a-2	J-13	黒曜石	(14.30)	18.65	4.35	(1.45)	先端部欠	29	
133	I-a-2	J-14	黒曜石	20.80	(20.55)	4.50	(1.15)	片側辺欠	29	
134	I-a-2	J-20	黒曜石	19.50	(12.40)	3.60	(0.60)	片逆刺欠	29	
135	I-a-2	J-23	黒曜石	(13.00)	(14.00)	4.50	(0.85)	先端部片逆刺欠	29	
136	I-a-2	K-12	黒曜石	16.50	(9.65)	4.75	(0.75)	片側辺片逆刺欠	29	
137	I-a-2	K-13	黒曜石	16.55	12.80	3.05	0.80	完形	29	
138	I-a-2	K-13	黒曜石	17.55	(11.10)	2.90	(0.80)	片側辺欠	29	
139	I-a-2	K-18	黒曜石	(18.45)	(15.10)	5.7	(1.25)	先端片側辺欠	29	
140	I-a-2	K-24	黒曜石	23.00	(13.40)	5.00	(1.20)	片側辺欠	29	
141	I-a-2	K-25	黒曜石	23.60	(15.70)	3.00	(1.40)	片逆刺欠	29	
142	I-a-2	L-12	黒曜石	18.95	(13.55)	4.00	(0.95)	片逆刺欠	29	
143	I-a-2	L-12	黒曜石	(21.65)	(14.90)	4.85	(1.40)	片逆刺欠	29	
144	I-a-2	M-12	黒曜石	(8.20)	13.10	3.85	(0.55)	先端部欠	29	
145	I-a-2	19住居	黒曜石	21.00	(12.40)	4.80	(0.70)	片逆刺欠	29	
146	I-a-2	C-10	黒曜石	(12.45)	11.00	3.65	(0.50)	先端欠	29	
147	I-a-2	C-13	黒曜石	(11.10)	(10.70)	3.00	(0.35)	先端片逆刺欠	29	
148	I-a-2	C-14	黒曜石	(12.10)	10.00	2.80	(0.30)	先端部欠	29	

第9表　石鏃計測表 ③



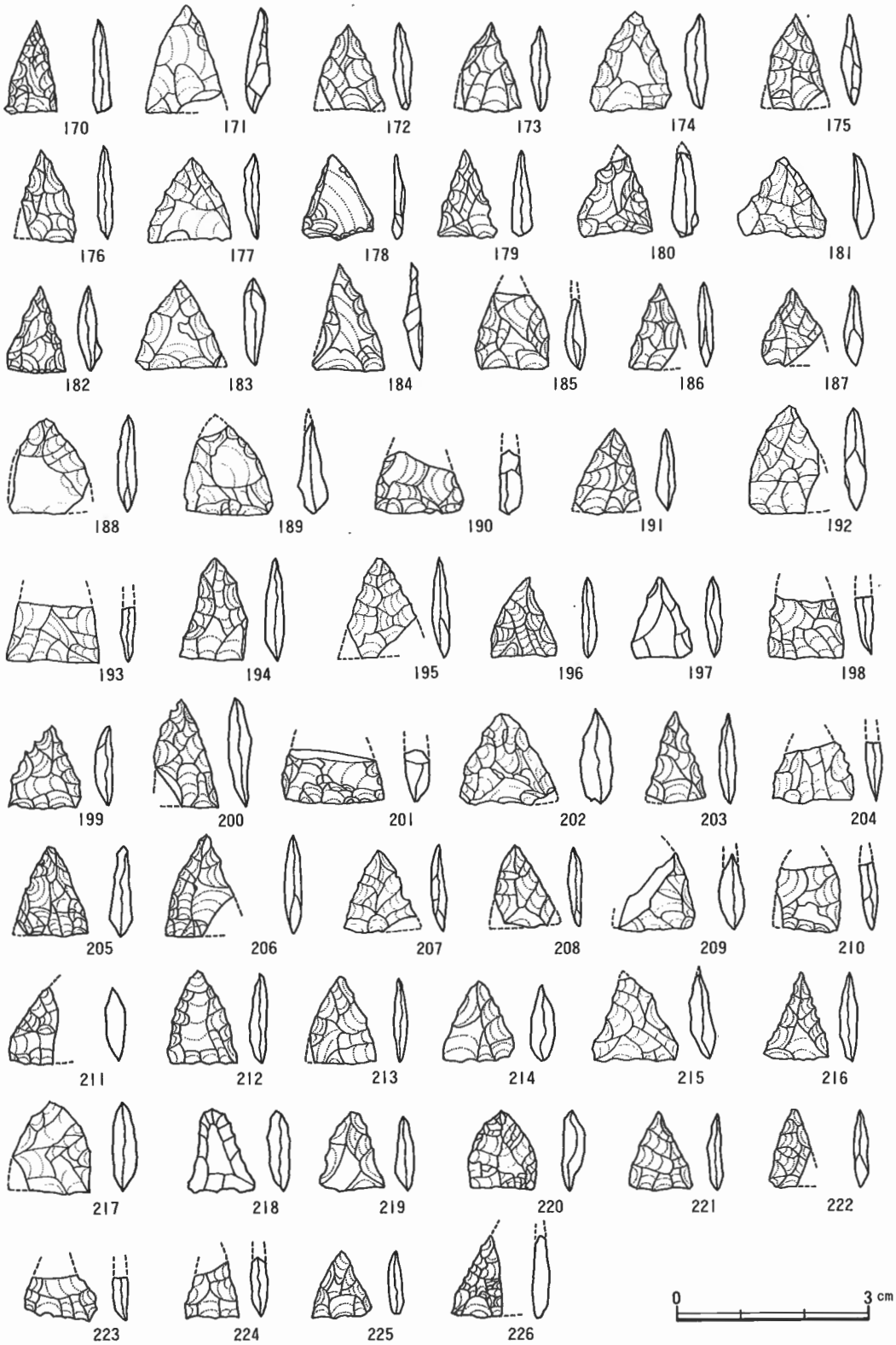
第16図　石鏃実測図 ④

0　3 cm

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
149	I-a-2	C-17	黒曜石	14.60	(12.20)	3.70	(0.50)	片逆刺欠	29	
150	I-a-2	C-19	黒曜石	16.75	(12.10)	5.00	(0.70)	片逆刺欠	29	
151	I-a-2	C-19	黒曜石	15.00	(9.70)	2.50	(0.20)	片逆刺欠	29	
152	I-a-2	D-13	黒曜石	15.80	(20.40)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	29	
153	I-a-2	D-13	黒曜石	16.40	(11.75)	3.30	(0.55)	片逆刺欠	29	
154	I-a-2	D-14	黒曜石	17.00	(11.40)	2.40	(0.60)	片逆刺欠	29	
155	I-a-2	D-14	黒曜石	10.70	(12.60)	3.50	(0.50)	片逆刺欠	29	
156	I-a-2	D-18	黒曜石	13.10	(10.20)	3.00	(0.30)	両逆刺欠	29	
157	I-a-2	D-19	黒曜石	11.20	(10.65)	3.00	(0.20)	片逆刺欠	29	
158	I-a-2	E-16	黒曜石	(10.50)	11.50	3.00	(0.40)	先端部欠	29	
159	I-a-2	E-19	黒曜石	13.50	15.40	2.35	0.20	完形	29	
160	I-a-2	F-9	黒曜石	(14.00)	(12.60)	2.45	(0.45)	先端部両逆刺欠	29	
161	I-a-2	F-13	黒曜石	13.65	9.15	4.20	0.35	完形	29	
162	I-a-2	F-13	黒曜石	14.10	9.20	3.60	0.50	完形	29	
163	I-a-2	F-18	黒曜石	13.60	12.60	3.60	0.65	完形	29	
164	I-a-2	F-19	黒曜石	17.00	(11.50)	2.70	(0.50)	片逆刺欠	29	
165	I-a-2	F-20	黒曜石	14.50	(12.00)	2.15	(0.30)	片逆刺欠	29	
166	I-a-2	F-22	黒曜石	(12.00)	14.00	3.00	(0.60)	先端部欠	29	
167	I-a-2	G-14	黒曜石	14.10	(10.50)	3.80	(0.45)	両逆刺欠	29	
168	I-a-2	G-16	黒曜石	(13.00)	14.65	3.20	(0.40)	先端部欠	29	
169	I-a-2	G-16	黒曜石	(7.30)	13.10	(2.20)	(0.30)	先端部欠	29	
170	I-a-2	G-20	黒曜石	14.00	8.40	2.75	0.25	完形	29	
171	I-a-2	H-8	黒曜石	16.60	(12.35)	3.70	(0.65)	片逆刺欠	29	
172	I-a-2	H-12	黒曜石	12.65	(10.25)	2.90	(0.40)	両逆刺欠	29	
173	I-a-2	H-15	黒曜石	13.60	(9.15)	2.85	(0.25)	片逆刺欠	29	
174	I-a-2	H-16	黒曜石	15.40	12.70	3.20	0.70	完形	29	
175	I-a-2	H-19	黒曜石	14.65	(8.85)	2.95	(0.25)	両逆刺欠	29	
176	I-a-2	H-21	黒曜石	14.40	(8.50)	2.70	(0.25)	片逆刺欠	29	
177	I-a-2	I-4	黒曜石	13.30	13.15	2.20	(0.30)	略完形	30	
178	I-a-2	I-6	黒曜石	12.95	10.85	2.80	0.40	完形	30	
179	I-a-2	I-7	チャート	12.75	10.85	3.30	0.45	完形	30	
180	I-a-2	I-9	黒曜石	(12.50)	11.85	4.20	(0.70)	先端欠	30	
181	I-a-2	I-10	黒曜石	14.50	15.50	3.90	0.65	完形	30	
182	I-a-2	I-11	黒曜石	13.50	9.55	3.25	0.45	完形	30	
183	I-a-2	I-12	黒曜石	13.55	(13.10)	3.75	(0.75)	略完形	30	
184	I-a-2	I-12	黒曜石	17.25	10.55	2.75	(0.5)	略完形	30	
185	I-a-2	I-12	黒曜石	(11.85)	11.70	2.95	(0.65)	先端部欠	30	
186	I-a-2	I-21	黒曜石	13.70	(7.90)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	30	
187	I-a-2	I-22	黒曜石	12.50	(10.00)	3.20	(0.25)	片逆刺欠	30	
188	I-a-2	J-7	黒曜石	15.25	(12.55)	3.15	(0.60)	片逆刺欠	30	
189	I-a-2	J-8	黒曜石	(13.80)	14.15	4.25	(0.90)	先端欠	30	
190	I-a-2	J-8	黒曜石	(14.40)	13.80	3.85	(0.70)	先端部欠	30	
191	I-a-2	J-11	黒曜石	12.85	(10.95)	2.15	(0.40)	両逆刺欠	30	
192	I-a-2	J-11	黒曜石	17.75	(9.65)	3.90	(0.75)	片逆刺欠	30	

第10表　石鏃計測表 ④

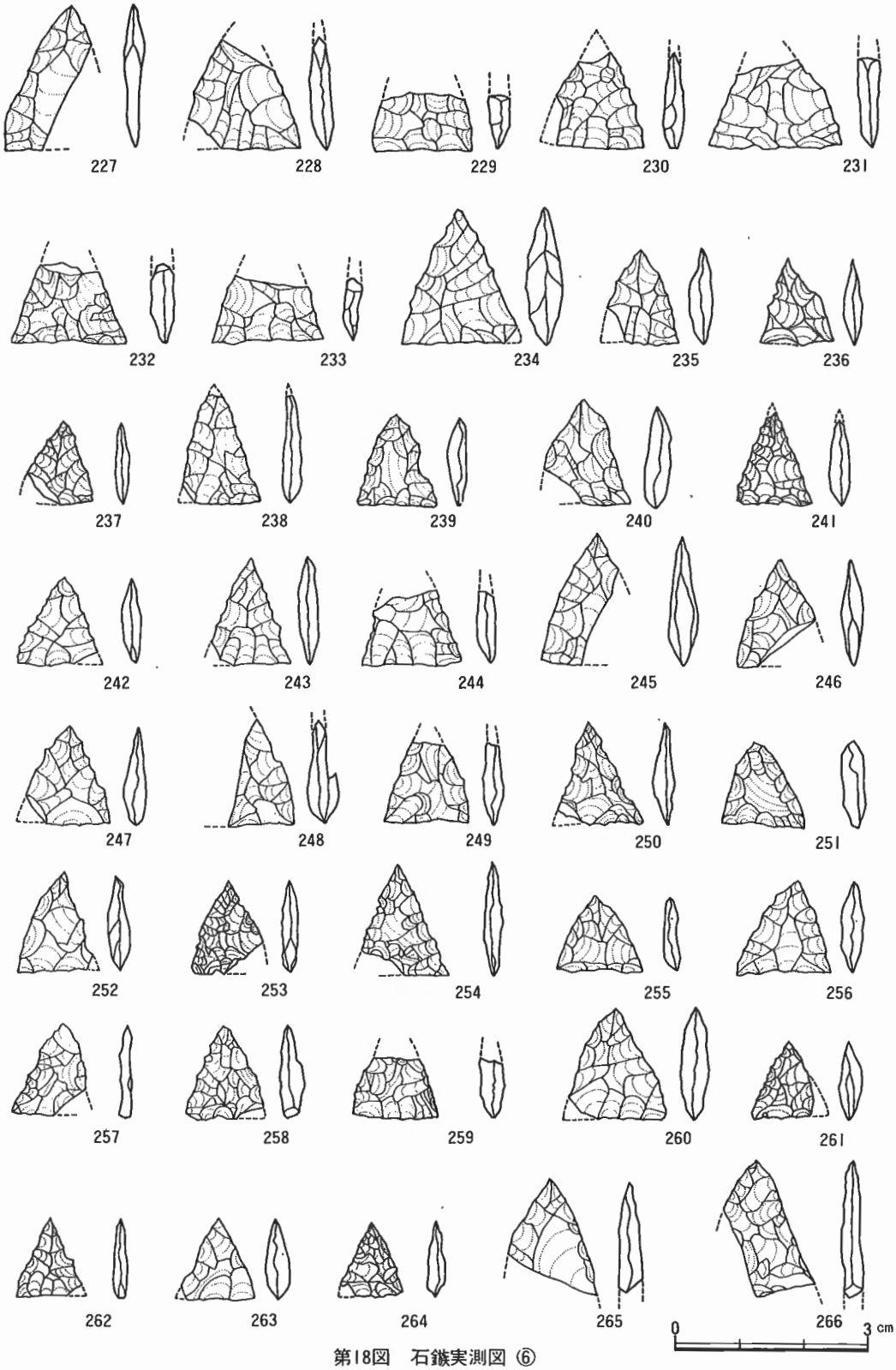

170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
0
3 cm

第17図　石鏃実測図 ⑤

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
193	I-a-2	J-12	黒曜石	(15.50)	15.25	3.90	(0.65)	先端部欠	30	
194	I-a-2	J-12	黒曜石	15.10	10.50	3.25	0.55	完形	30	
195	I-a-2	J-12	黒曜石	15.55	(10.05)	2.75	(0.35)	両逆刺欠	30	
196	I-a-2	J-12	黒曜石	12.45	10.00	2.90	0.40	完形	30	
197	I-a-2	J-13	頁　岩	13.25	9.50	2.45	0.45	完形	30	
198	I-a-2	J-15	黒曜石	(9.50)	11.60	2.65	(0.55)	先端部欠	30	
199	I-a-2	J-19	黒曜石	12.00	11.40	2.55	0.30	完形	30	
200	I-a-2	J-22	黒曜石	16.80	(13.00)	3.90	(0.50)	片逆刺欠	30	
201	I-a-2	J-23	黒曜石	(16.40)	12.70	(4.00)	(0.60)	先端部欠	30	
202	I-a-2	J-24	黒曜石	14.30	(15.00)	4.75	(0.85)	片逆刺欠	30	
203	I-a-2	J-24	黒曜石	14.25	(9.50)	2.10	(0.25)	略完形	30	
204	I-a-2	J-24	黒曜石	(9.45)	13.10	2.85	(0.35)	先端部欠	30	
205	I-a-2	K-8	黒曜石	13.40	(11.00)	3.50	(0.60)	略完形	30	
206	I-a-2	K-11	黒曜石	13.90	(12.70)	3.05	(0.50)	片逆刺欠	30	
207	I-a-2	K-12	黒曜石	12.85	(10.75)	2.45	(0.40)	片逆刺欠	30	
208	I-a-2	K-12	黒曜石	13.00	(9.15)	2.85	(0.40)	両逆刺欠	30	
209	I-a-2	K-12	黒曜石	(12.35)	(12.15)	(4.50)	(0.45)	片逆刺残	30	
210	I-a-2	K-13	黒曜石	(15.30)	(10.05)	2.95	(0.50)	先端部片逆刺欠	30	
211	I-a-2	K-13	黒曜石	(12.20)	(7.35)	(3.30)	(0.50)	片側辺欠	30	
212	I-a-2	K-24	黒曜石	14.55	10.70	2.85	0.40	完形	30	
213	I-a-2	L-13	黒曜石	13.55	(10.85)	2.25	(0.45)	略完形	30	
214	I-a-2	L-24	黒曜石	12.10	11.50	4.00	0.35	完形	30	
215	I-a-2	M-23	黒曜石	(13.00)	13.40	3.60	(0.45)	先端欠	30	
216	I-a-2	F-5	黒曜石	13.10	10.00	2.70	0.25	完形	30	
217	I-a-2	表採	黒曜石	14.45	(12.25)	4.55	(0.75)	片逆刺欠	30	
218	I-a-2	D-5	チャート	12.70	10.60	3.25	0.45	完形	30	
219	I-a-2	E-5	黒曜石	12.20	10.20	2.70	0.30	完形	30	
220	I-a-2	F-21	黒曜石	12.00	10.45	3.40	0.45	完形	30	
221	I-a-2	H-16	黒曜石	11.70	10.00	2.10	0.20	完形	30	
222	I-a-2	I-12	黒曜石	11.80	(6.30)	3.00	(0.35)	片逆刺欠	30	
223	I-a-2	I-16	黒曜石	(7.00)	10.75	2.50	(0.25)	先端部欠	30	
224	I-a-2	I-16	黒曜石	(8.60)	8.40	2.60	(0.25)	先端部欠	30	
225	I-a-2	K-12	黒曜石	10.20	9.05	2.25	0.30	完形	30	
226	I-a-2	K-25	黒曜石	(7.70)	(13.00)	(3.60)	(0.45)	片側辺残	30	
227	I-a-3	C-16	黒曜石	22.20	(13.00)	(3.15)	(0.60)	片側辺部欠	30	
228	I-a-3	D-17	黒曜石	(16.85)	(17.55)	3.65	(1.00)	先端片逆刺欠	30	
229	I-a-3	E-12	黒曜石	(9.00)	15.35	(3.70)	(0.55)	先端部欠	30	
230	I-a-3	E-17	黒曜石	(15.00)	(14.00)	3.50	(0.70)	先端片逆刺欠	30	
231	I-a-3	E-19	黒曜石	(13.40)	20.50	3.90	(0.85)	先端部欠	30	
232	I-a-3	J-10	黒曜石	(12.50)	17.95	4.10	(0.90)	先端部欠	30	
233	I-a-3	L-12	黒曜石	(9.90)	16.75	3.30	(0.70)	先端部欠	30	
234	I-a-3	L-25	黒曜石	21.10	(17.70)	5.65	(1.45)	片逆刺欠	30	
235	I-a-3	C-17	黒曜石	14.40	(11.00)	3.60	(0.45)	片逆刺欠	30	
236	I-a-3	D-15	黒曜石	13.20	11.70	2.60	(0.30)	略完形	30	

第11表　石鏃計測表 ⑤

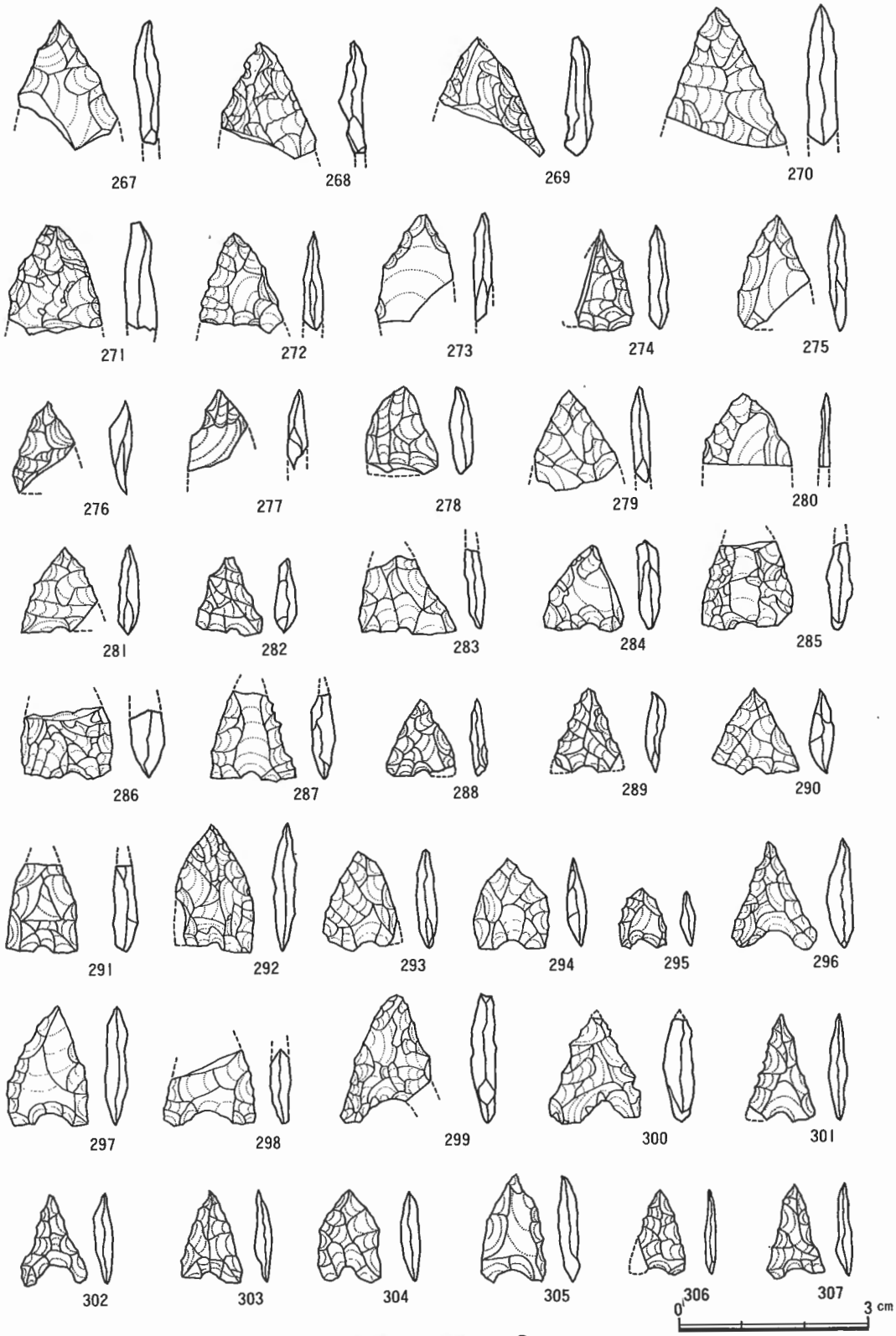

227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
0
3 cm

第18図　石鏃実測図 ⑥

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
237	I-a-3	E-1	黒曜石	13.20	(10.75)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	30	
238	I-a-3	E-11	黒曜石	(17.40)	(12.40)	3.70	(0.70)	先端片逆刺欠	30	
239	I-a-3	E-19	黒曜石	13.80	12.00	2.50	0.40	完形	30	
240	I-a-3	E-19	黒曜石	15.90	(13.70)	3.70	(0.60)	片逆刺欠	30	
241	I-a-3	F-11	黒曜石	(14.10)	12.00	2.60	(0.35)	先端欠	30	
242	I-a-3	F-15	黒曜石	13.00	(12.00)	3.30	(0.25)	片逆刺欠	30	
243	I-a-3	F-15	黒曜石	16.85	(12.70)	3.20	(0.55)	片逆刺欠	30	
244	I-a-3	F-21	黒曜石	(12.00)	15.80	3.00	(0.60)	先端部欠	30	
245	I-a-3	G-16	黒曜石	18.20	(15.20)	(3.80)	(0.70)	片側辺欠	30	
246	I-a-3	G-17	黒曜石	16.40	(12.50)	3.55	(0.45)	片逆刺欠	30	
247	I-a-3	H-9	黒曜石	15.30	(12.65)	3.65	(0.55)	片逆刺欠	30	
248	I-a-3	H-18	黒曜石	(16.85)	(10.50)	(5.20)	(0.55)	先端片側辺欠	30	
249	I-a-3	I-11	黒曜石	(12.85)	13.30	2.30	(0.55)	先端部欠	30	
250	I-a-3	I-18	黒曜石	16.10	(13.05)	2.95	(0.40)	片逆刺欠	30	
251	I-a-3	J-9	黒曜石	13.45	13.20	3.60	0.75	完形	30	
252	I-a-3	J-12	黒曜石	15.55	(11.90)	3.85	(0.55)	略完形	30	
253	I-a-3	J-23	黒曜石	14.00	(11.00)	2.60	(0.30)	片逆刺欠	30	
254	I-a-3	J-25	黒曜石	16.50	(13.50)	2.70	(0.45)	片逆刺欠	30	
255	I-a-3	K-12	黒曜石	11.80	13.75	2.55	0.60	完形	30	
256	I-a-3	K-18	黒曜石	15.00	14.55	3.30	0.55	完形	30	
257	I-a-3	K-25	黒曜石	14.45	(12.00)	2.90	(0.20)	片逆刺欠	31	
258	I-a-3	K-26	黒曜石	14.65	(12.40)	3.60	(0.45)	片逆刺欠	31	
259	I-a-3	K-25	黒曜石	(9.80)	13.00	3.55	(0.60)	先端部欠	31	
260	I-a-3	G-15	黒曜石	17.50	(16.00)	4.70	(0.90)	片逆刺欠	31	
261	I-a-3	I-7	黒曜石	11.20	(9.75)	3.70	(0.50)	片逆刺欠	31	
262	I-a-3	I-12	黒曜石	11.95	(9.65)	2.45	(0.30)	片逆刺欠	31	
263	I-a-3	J-23	黒曜石	11.60	(10.10)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	31	
264	I-a-3	N-13	黒曜石	12.80	(11.35)	3.40	(0.50)	略完形	31	
265	I	E-13	黒曜石	(18.00)	(14.15)	(4.20)	(0.65)	基部欠	31	
266	I	E-20	黒曜石	(20.80)	(14.80)	(3.00)	(0.60)	基部欠	31	
267	I	F-15	黒曜石	(20.20)	(16.00)	(2.20)	(0.95)	基部欠	31	
268	I	G-22	黒曜石	(18.50)	(14.90)	(3.40)	(0.60)	基部欠	31	
269	I	H-21	黒曜石	(18.80)	(17.00)	(4.50)	(0.75)	基部欠	31	
270	I	J-23	黒曜石	(17.50)	(15.30)	(5.00)	(1.20)	基部欠	31	
271	I	D-16	黒曜石	(24.25)	(21.90)	(6.70)	(1.55)	基部欠	31	
272	I	C-11	黒曜石	16.00	(13.55)	(3.40)	(0.50)	基部欠	31	
273	I	C-19	黒曜石	(18.50)	(14.20)	(4.75)	(0.50)	基部欠	31	
274	I	G-16	黒曜石	17.20	(11.10)	5.10	(0.45)	片側辺欠	31	
275	I	H-15	黒曜石	(19.80)	(13.50)	(4.40)	(0.40)	基部欠	31	
276	I	I-12	黒曜石	(13.55)	(9.90)	(3.60)	(0.40)	基部欠	31	
277	I	K-12	黒曜石	(12.75)	(9.80)	(3.15)	(0.50)	基部欠	31	
278	I	K-13	黒曜石	(13.55)	(11.65)	3.40	(0.85)	基部欠	31	
279	I	N-13	黒曜石	(15.60)	(13.20)	(2.60))	(0.65)	基部欠	31	
280	I	K-25	黒曜石	(12.00)	(14.50)	(2.60)	(0.20)	基部欠	31	

第12表　石鏃計測表 ⑥

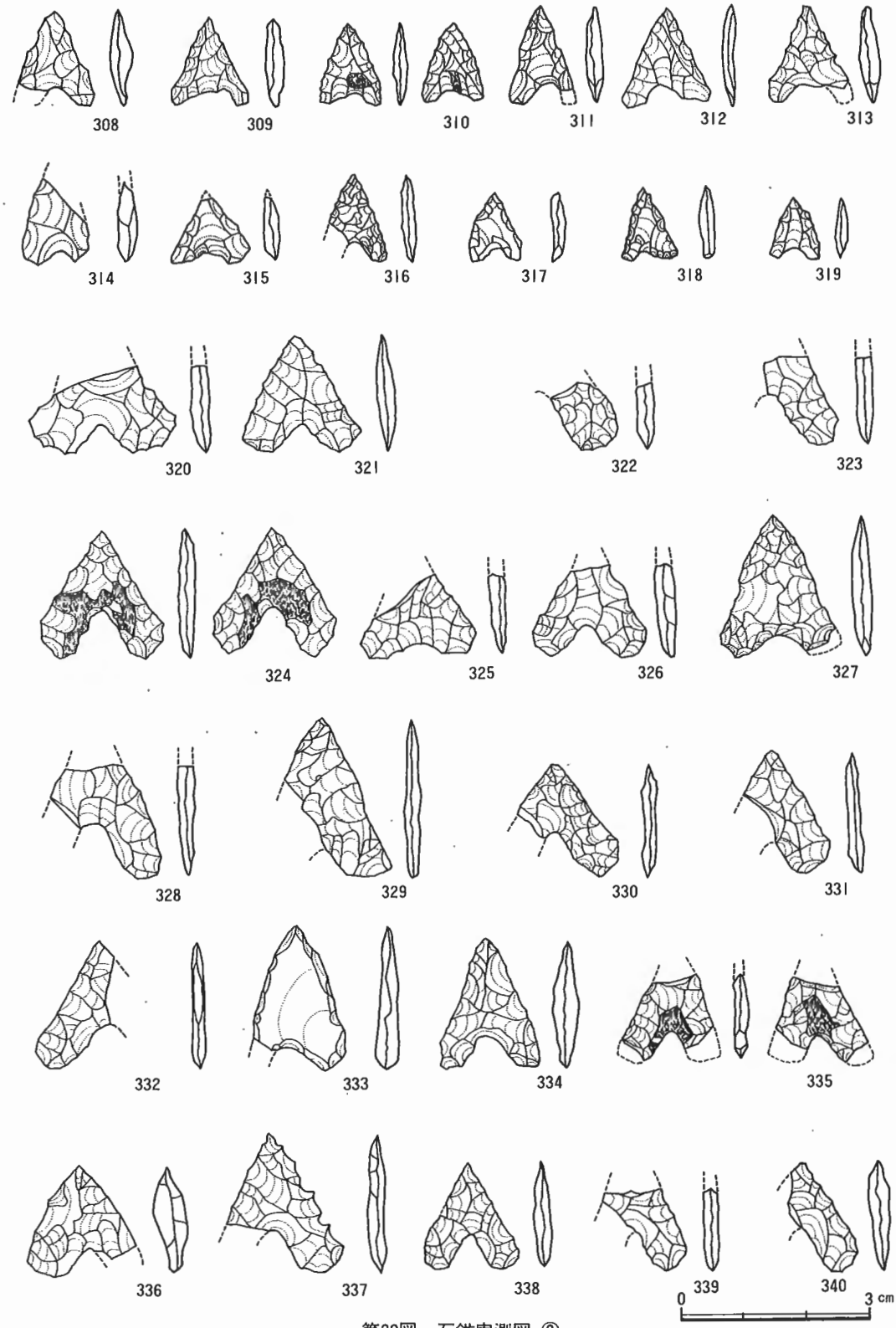

267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
0
3 cm

第19図　石鏃実測図 ⑦

〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
281	II-a-1	D-12	黒曜石	13.40	(12.40)	3.65	(0.45)	片逆刺欠	31	
282	II-a-1	E-12	頁　岩	12.40	10.40	3.40	0.40	完形	31	
283	II-a-1	F-15	黒曜石	(12.80)	15.40	3.00	(0.50)	先端部欠	31	
284	II-a-1	F-18	黒曜石	17.00	12.20	3.60	0.50	完形	31	
285	II-a-1	F-20	黒曜石	(14.00)	14.50	4.00	(0.75)	先端部欠	31	
286	II-a-1	F-21	黒曜石	(11.75)	14.60	5.40	(1.00)	先端部欠	31	
287	II-a-1	F-22	黒曜石	(14.00)	13.80	3.90	(0.70)	先端欠	31	
288	II-a-1	H-10	黒曜石	11.75	(10.90)	2.50	(0.40)	片逆刺欠	31	
289	II-a-1	I-12	黒曜石	(13.75)	(12.00)	2.95	(0.40)	両逆刺欠	31	
290	II-a-1	I-19	黒曜石	13.00	13.00	3.55	0.50	完形	31	
291	II-a-1	I-19	黒曜石	(13.55)	10.75	3.90	(0.70)	先端部欠	31	
292	II-a-1	J-8	黒曜石	20.05	(12.65)	3.55	(1.00)	片側辺欠	31	
293	II-a-1	K-13	黒曜石	15.25	(12.10)	2.95	(0.80)	片逆刺欠	31	
294	II-a-1	N-15	黒曜石	14.35	11.55	3.40	0.45	完形	31	
295	II-a-1	K-12	黒曜石	8.80	7.55	2.90	0.25	完形	31	
296	II-a-2	C-10	硬砂岩	17.00	13.90	4.00	0.65	完形	31	
297	II-a-2	C-15	黒曜石	18.70	13.00	3.40	0.80	完形	31	
298	II-a-2	C-19	黒曜石	(11.70)	14.70	3.20	(0.45)	先端部欠	31	
299	II-a-2	H-11	黒曜石	19.65	(13.15)	4.00	(1.05)	片逆刺欠	31	
300	II-a-2	J-6	黒曜石	(16.80)	14.45	3.00	(1.05)	略完形	31	
301	II-a-2	D-13	黒曜石	17.00	(10.60)	2.80	(0.30)	片逆刺欠	31	
302	II-a-2	D-17	黒曜石	14.40	10.30	3.00	0.30	完形	31	
303	II-a-2	E-13	黒曜石	15.00	10.00	2.70	0.25	完形	31	
304	II-a-2	H-15	黒曜石	14.10	10.20	3.00	0.35	完形	31	
305	II-a-2	H-16	黒曜石	16.55	10.10	3.10	0.55	完形	31	
306	II-a-2	H-18	黒曜石	13.45	(7.70)	2.20	(0.20)	両逆刺欠	31	
307	II-a-2	H-18	黒曜石	14.60	8.80	2.90	0.25	完形	31	
308	II-a-2	I-11	黒曜石	14.45	(12.05)	3.80	(0.45)	片逆刺欠	31	
309	II-a-2	I-12	黒曜石	13.80	12.15	2.95	0.45	完形	31	
310	II-a-2	I-12	黒曜石	12.55	9.95	2.20	0.35	完形	31	局部磨製
311	II-a-2	J-7	黒曜石	15.50	(10.25)	2.90	(0.50)	片逆刺欠	31	
312	II-a-2	J-12	黒曜石	15.60	13.95	2.80	0.30	完形	31	
313	II-a-2	J-12	黒曜石	14.90	(12.70)	4.55	(0.65)	片逆刺欠	31	
314	II-a-2	K-12	黒曜石	(13.40)	10.30	2.70	(0.55)	先端部欠	31	
315	II-a-2	K-12	黒曜石	(10.75)	12.65	2.35	(0.45)	略完形	31	
316	II-a-2	K-25	黒曜石	13.70	(9.00)	3.00	(0.25)	片逆刺欠	31	
317	II-a-2	I-10	黒曜石	15.30	8.30	2.25	0.35	完形	31	
318	II-a-2	I-25	黒曜石	10.70	8.50	2.90	0.10	完形	31	
319	II-a-2	K-7	黒曜石	9.45	7.70	2.60	0.25	完形	31	
320	II-a-3	C-17	黒曜石	(8.70)	23.70	3.30	(0.70)	先端部欠	31	
321	II-a-3	C-17	黒曜石	18.40	18.80	3.00	0.75	完形	31	
322	II-a-3	C-17	黒曜石	(11.10)	(10.90)	(2.95)	(0.30)	片逆刺残	31	
323	II-a-3	C-17	黒曜石	(13.30)	(13.60)	(3.00)	(0.30)	片逆刺残	31	
324	II-a-3	C-19	黒曜石	21.10	19.70	2.70	0.70	完形	31	局部磨製

第13表　石鏃計測表 ⑦

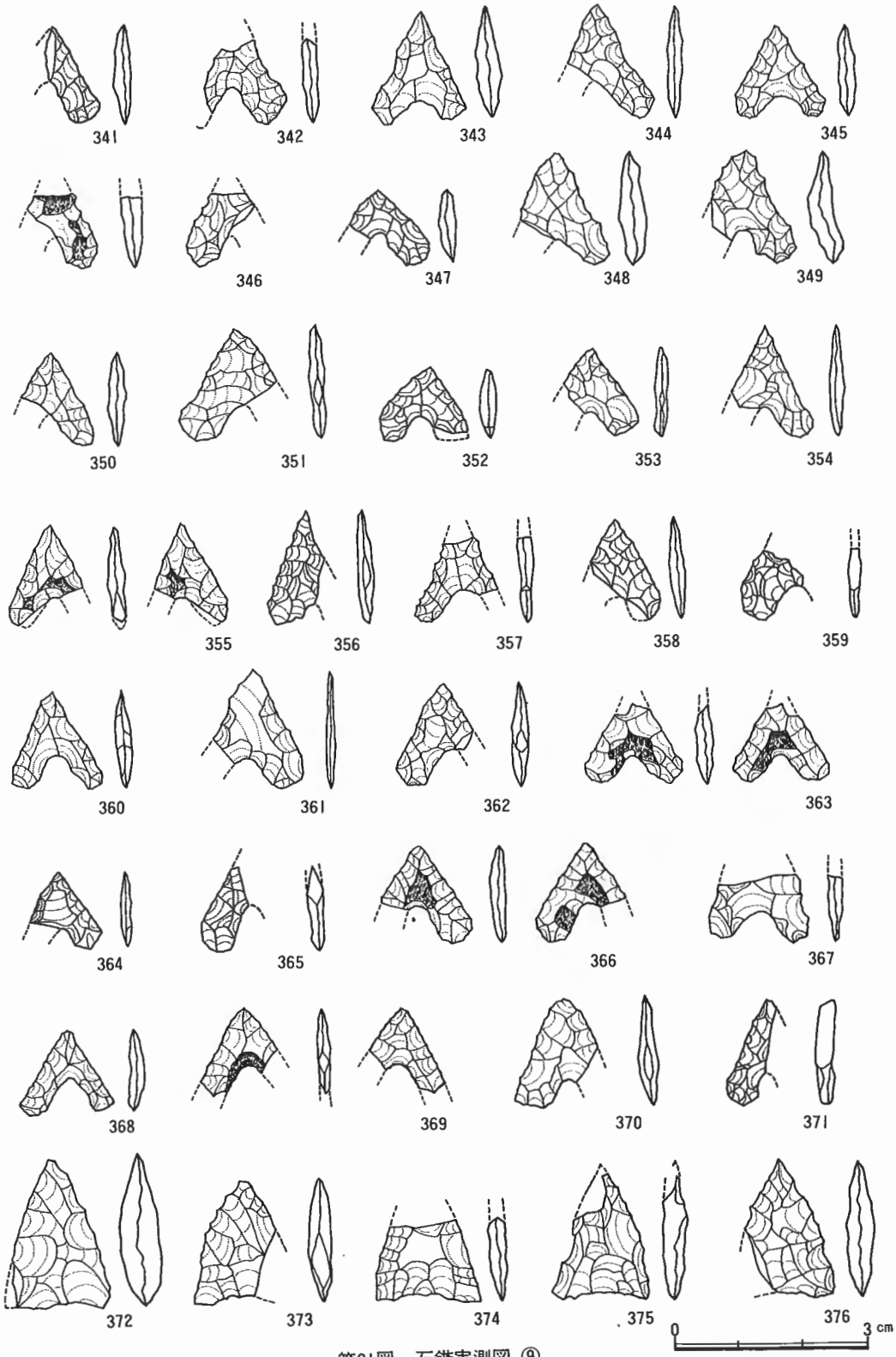

308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
0
3 cm

第20図　石鏃実測図 ⑧

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
325	II-a-3	D-17	黒曜石	(13.15)	18.95	2.85	(0.50)	先端部欠	31	
326	II-a-3	D-18	黒曜石	(14.65)	17.60	3.30	(0.60)	先端欠	31	
327	II-a-3	E-11	黒曜石	22.45	(18.40)	3.10	(0.95)	片逆刺欠	31	
328	II-a-3	E-18	黒曜石	(18.30)	(17.50)	(3.00)	(0.55)	先端部片逆刺欠	31	
329	II-a-3	E-19	黒曜石	24.60	(17.60)	(2.90)	(0.70)	片逆刺欠	31	
330	II-a-3	E-19	黒曜石	17.50	(15.70)	2.10	(0.40)	片逆刺欠	31	
331	II-a-3	F-19	黒曜石	19.40	(12.90)	(2.80)	(0.35)	片逆刺欠	31	
332	II-a-3	F-20	黒曜石	19.95	(12.00)	(2.25)	(0.40)	片逆刺欠	31	
333	II-a-3	G-20	硬砂岩	22.50	(15.00)	2.90	(0.90)	片逆刺欠	31	
334	II-a-3	H-16	硅　岩	20.15	15.80	4.35	1.00	完形	31	
335	II-a-3	H-18	黒曜石	(12.80)	(12.30)	2.90	(0.50)	先端両逆刺欠	31	局部磨製
336	II-a-3	J-15	黒曜石	17.20	(16.90)	4.95	(1.30)	片逆刺欠	31	
337	II-a-3	L-12	黒曜石	21.85	(18.55)	2.85	(0.85)	片逆刺欠	32	
338	II-a-3	C-17	黒曜石	17.35	14.90	3.00	(0.55)	略完形	32	
339	II-a-3	C-18	黒曜石	(12.35)	(13.40)	2.65	(0.40)	先端部片逆刺欠	32	
340	II-a-3	C-18	黒曜石	17.65	(10.40)	(3.60)	(0.40)	片逆刺欠	32	
341	II-a-3	C-18	黒曜石	14.40	(8.55)	(2.65)	(0.20)	片逆刺残	32	
342	II-a-3	C-18	黒曜石	(13.40)	(12.60)	(2.20)	(0.30)	先端部片逆刺欠	32	
343	II-a-3	C-19	黒曜石	17.40	14.65	4.00	0.65	完形	32	
344	II-a-3	C-19	黒曜石	17.30	(13.70)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	32	
345	II-a-3	D-17	黒曜石	14.20	14.65	2.55	0.45	完形	32	
346	II-a-3	D-17	黒曜石	(15.55)	(11.20)	3.85	(0.30)	先端部片逆刺欠	32	局部磨製
347	II-a-3	D-17	黒曜石	11.55	(12.25)	3.05	(0.20)	片逆刺欠	32	
348	II-a-3	D-18	黒曜石	17.45	(13.70)	4.40	(0.50)	片逆刺欠	32	
349	II-a-3	D-18	黒曜石	17.30	(13.35)	4.10	(0.45)	片逆刺欠	32	
350	II-a-3	D-19	黒曜石	14.35	(11.40)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	32	
351	II-a-3	E-18	黒曜石	17.20	(15.30)	2.10	(0.30)	片逆刺欠	32	
352	II-a-3	E-18	黒曜石	11.60	(13.50)	2.60	(0.30)	片逆刺欠	32	
353	II-a-3	F-17	黒曜石	13.80	(11.70)	2.20	(0.20)	片逆刺欠	32	
354	II-a-3	F-18	黒曜石	17.00	(12.80)	2.40	(0.35)	片逆刺欠	32	
355	II-a-3	F-18	黒曜石	(11.30)	(10.70)	2.90	(0.30)	両逆刺欠	32	局部磨製
356	II-a-3	F-18	黒曜石	17.20	(9.20)	2.90	(0.30)	片逆刺欠	32	
357	II-a-3	F-19	黒曜石	(12.95)	(12.75)	2.40	(0.15)	先端片逆刺欠	32	
358	II-a-3	F-20	黒曜石	(15.65)	(10.50)	2.75	(0.25)	片逆刺欠	32	
359	II-a-3	F-21	黒曜石	(10.20)	(10.00)	(2.45)	(0.20)	片逆刺残	32	
360	II-a-3	G-18	黒曜石	15.20	14.00	3.70	0.45	完形	32	
361	II-a-3	G-18	黒曜石	18.10	(14.20)	2.10	(0.35)	片逆刺欠	32	
362	II-a-3	G-22	黒曜石	16.00	(11.65)	2.45	(0.30)	片逆刺欠	32	
363	II-a-3	H-17	黒曜石	(12.40)	15.20	2.40	(0.45)	先端欠	32	局部磨製
364	II-a-3	H-18	黒曜石	11.90	(11.20)	2.90	(0.15)	片逆刺欠	32	
365	II-a-3	H-21	黒曜石	(12.80)	(7.00)	(2.70)	(0.15)	片逆刺残	32	
366	II-a-3	21住居	黒曜石	17.00	(16.35)	4.70	(0.35)	片逆刺欠	32	局部磨製
367	II-a-3	K-13	黒曜石	(10.45)	15.65	2.45	(0.55)	先端部欠	32	
368	II-a-3	K-22	黒曜石	12.90	14.60	2.70	0.30	完形	32	

第14表　石鏃計測表 ⑧

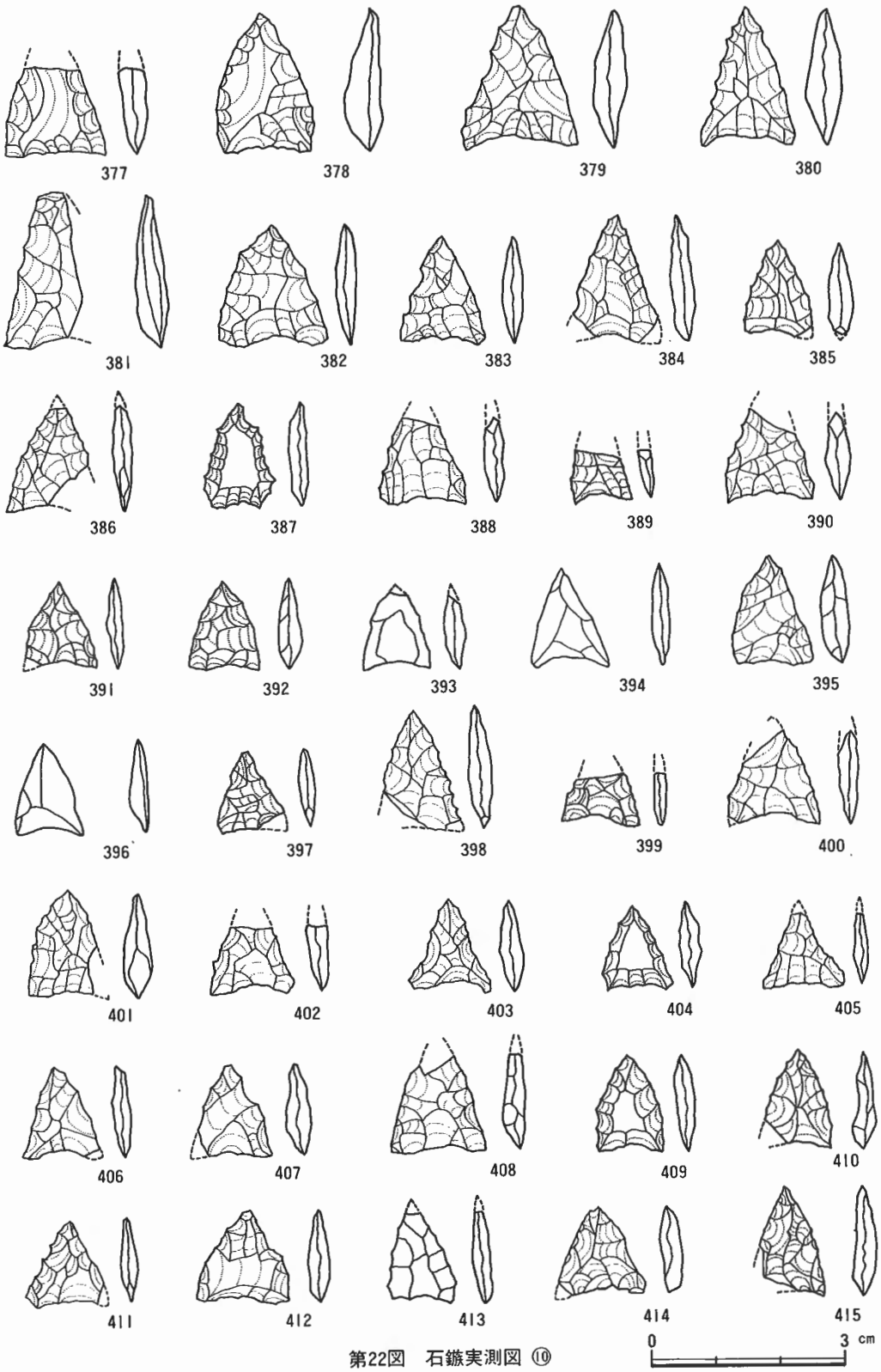

341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
0
3 cm

第21図　石鏃実測図 ⑨

〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
369	II-a-3	K-22	黒曜石	(14.00)	(12.50)	2.20	(0.20)	両逆刺欠	32	局部磨製
370	II-a-3	K-24	黒曜石	16.80	(12.90)	3.30	(0.40)	片逆刺欠	32	
371	II-a-3	K-24	黒曜石	16.00	(7.50)	(3.00)	(0.20)	片逆刺欠	32	
372	II-b-1	C-14	黒曜石	23.05	(16.20)	6.65	(1.75)	略完形	32	
373	II-b-1	D-12	黒曜石	19.00	(12.80)	3.85	(0.70)	片逆刺欠	32	
374	II-b-1	D-17	黒曜石	(13.55)	16.60	3.20	(0.60)	先端部欠	32	
375	II-b-1	F-19	黒曜石	(19.00)	14.50	3.60	(0.80)	先端部欠	32	
376	II-b-1	G-8	黒曜石	21.00	(14.20)	4.15	(0.90)	片逆刺欠	32	
377	II-b-1	H-15	黒曜石	(14.10)	15.70	4.20	(0.85)	先端部欠	32	
378	II-b-1	I-20	頁岩	21.65	15.00	5.70	1.75	完形	32	
379	II-b-1	J-12	黒曜石	22.55	18.35	5.45	1.70	完形	32	
380	II-b-1	M-13	黒曜石	21.65	14.85	5.85	1.35	完形	32	
381	II-b-1	34炉穴	黒曜石	24.00	(12.00)	5.30	(1.35)	片側辺欠	32	
382	II-b-1	21住居	黒曜石	17.20	19.05	3.50	0.90	完形	32	
383	II-b-1	C-11	黒曜石	17.00	13.00	4.00	0.65	完形	32	
384	II-b-1	C-12	黒曜石	(19.00)	(13.30)	3.85	(0.65)	両逆刺欠	32	
385	II-b-1	C-14	黒曜石	14.45	(11.20)	4.15	(0.50)	片逆刺欠	32	
386	II-b-1	C-17	黒曜石	(15.50)	(12.80)	3.30	(0.50)	先端片逆刺欠	32	
387	II-b-1	C-18	黒曜石	16.30	11.25	3.00	0.50	完形	32	
388	II-b-1	C-19	黒曜石	(13.35)	13.55	3.40	(0.60)	先端部欠	32	
389	II-b-1	D-14	黒曜石	(8.66)	9.40	(3.65)	(0.20)	先端部欠	32	
390	II-b-1	D-17	黒曜石	(15.00)	13.60	4.10	(0.60)	先端部欠	32	
391	II-b-1	D-17	黒曜石	13.65	(11.55)	2.45	(0.30)	片逆刺欠	32	
392	II-b-1	D-18	黒曜石	13.50	10.70	3.80	0.50	完形	32	
393	II-b-1	E-4	頁岩	(11.70)	10.60	2.45	(0.25)	先端欠	32	
394	II-b-1	E-10	黒曜石	15.50	12.40	2.90	0.45	完形	32	
395	II-b-1	E-17	黒曜石	16.80	12.20	4.80	0.90	完形	32	
396	II-b-1	F-9	頁岩	14.20	10.50	3.00	0.40	完形	32	
397	II-b-1	F-11	黒曜石	12.00	(10.50)	3.00	(0.25)	片逆刺欠	32	
398	II-b-1	F-11	黒曜石	(18.30)	(11.30)	3.70	(0.60)	両逆刺欠	32	
399	II-b-1	F-12	黒曜石	(8.30)	12.00	(2.20)	(0.20)	先端部欠	32	
400	II-b-1	F-16	黒曜石	(14.10)	14.00	3.25	(0.50)	先端部欠	32	
401	II-b-1	F-20	黒曜石	14.00	(10.40)	4.65	(0.70)	片逆刺欠	32	
402	II-b-1	F-21	黒曜石	(10.20)	13.40	3.10	(0.40)	先端部欠	32	
403	II-b-1	G-1	黒曜石	13.80	12.60	3.35	0.35	完形	32	
404	II-b-1	G-13	頁岩	12.45	10.50	3.30	0.50	完形	32	
405	II-b-1	G-13	黒曜石	(11.20)	12.45	2.35	(0.20)	先端欠	32	
406	II-b-1	G-15	黒曜石	14.00	(11.50)	3.00	(0.40)	略完形	32	
407	II-b-1	G-16	黒曜石	14.40	(11.10)	4.00	(0.65)	片逆刺欠	32	
408	II-b-1	H-7	黒曜石	(14.85)	14.60	3.80	(0.90)	先端欠	32	
409	II-b-1	H-13	黒曜石	16.15	9.25	2.95	0.65	完形	32	
410	II-b-1	H-15	黒曜石	15.10	(10.35)	4.25	(0.70)	片逆刺欠	32	
411	II-b-1	H-21	黒曜石	13.40	(12.30)	2.90	(0.35)	片逆刺欠	32	
412	II-b-1	H-22	黒曜石	14.55	14.75	3.65	0.55	完形	32	

第15表　石鏃計測表 ⑨

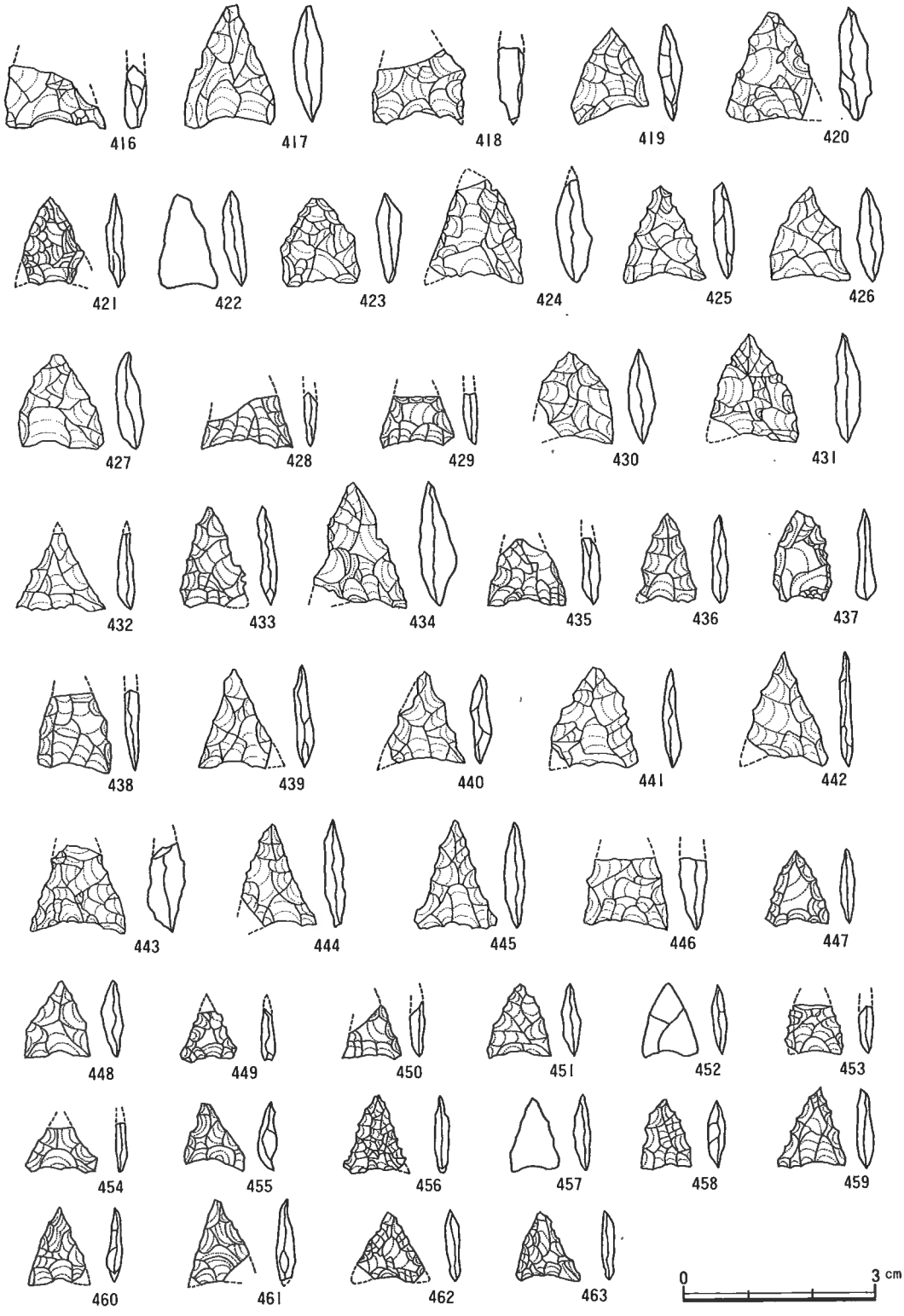

377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
0
3 cm

第22図　石鏃実測図 ⑩

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
413	II-b-1	I-5	頁　岩	(14.20)	11.20	3.15	(0.45)	先端欠	32	
414	II-b-1	I-9	黒曜石	13.25	(13.56)	3.90	(0.65)	片逆刺欠	32	
415	II-b-1	I-10	黒曜石	16.75	(10.25)	4.05	(0.65)	片逆刺欠	32	
416	II-b-1	I-11	黒曜石	(14.50)	15.40	(3.45)	(0.70)	先端部欠	32	
417	II-b-1	I-12	黒曜石	19.50	13.95	4.75	1.10	完形	33	
418	II-b-1	I-20	黒曜石	(11.60)	14.60	(3.60)	(0.60)	先端部欠	33	
419	II-b-1	I-23	黒曜石	15.00	12.00	3.70	0.50	完形	33	
420	II-b-1	I-24	黒曜石	17.00	(13.40)	4.65	(0.85)	片逆刺欠	33	
421	II-b-1	I-24	黒曜石	(14.00)	(9.60)	2.75	(0.30)	両逆刺欠	33	
422	II-b-1	J-4	頁　岩	15.00	8.90	3.00	0.50	完形	33	
423	II-b-1	J-7	黒曜石	13.75	12.55	3.65	0.60	完形	33	
424	II-b-1	J-9	黒曜石	(15.80)	(14.70)	5.35	(1.25)	先端片逆刺欠	33	
425	II-b-1	J-11	黒曜石	14.85	12.75	3.15	0.70	完形	33	
426	II-b-1	J-12	黒曜石	13.75	12.65	4.20	0.65	完形	33	
427	II-b-1	J-12	黒曜石	14.35	12.95	4.25	0.70	完形	33	
428	II-b-1	J-12	黒曜石	(7.80)	14.30	(2.65)	(0.30)	先端部欠	33	
429	II-b-1	J-13	黒曜石	(7.95)	11.10	(2.90)	(0.35)	先端部欠	33	
430	II-b-1	J-14	黒曜石	14.85	(12.20)	4.80	(0.45)	片逆刺欠	33	
431	II-b-1	J-20	黒曜石	16.60	(13.70)	4.00	(0.65)	片逆刺欠	33	
432	II-b-1	J-22	硬砂岩	(12.45)	14.15	3.00	(0.40)	先端欠	33	
433	II-b-1	J-22	黒曜石	15.50	(10.40)	3.50	(0.35)	片逆刺欠	33	
434	II-b-1	J-23	黒曜石	19.50	(15.00)	5.20	(0.90)	片逆刺欠	33	
435	II-b-1	J-24	黒曜石	(10.50)	12.00	3.00	(0.30)	先端部欠	33	
436	II-b-1	J-24	黒曜石	14.00	(9.20)	2.45	(0.25)	片逆刺欠	33	
437	II-b-1	J-25	黒曜石	14.60	9.00	3.00	0.35	完形	33	
438	II-b-1	K-13	黒曜石	(12.20)	11.35	2.20	(0.60)	先端部欠	33	
439	II-b-1	K-13	黒曜石	14.85	(11.10)	2.30	(0.60)	片逆刺欠	33	
440	II-b-1	K-13	黒曜石	14.20	(11.85)	3.15	(0.55)	片逆刺欠	33	
441	II-b-1	K-13	黒曜石	14.90	(13.55)	2.30	(0.60)	片逆刺欠	33	
442	II-b-1	K-14	黒曜石	16.65	(12.70)	2.85	(0.45)	片逆刺欠	33	
443	II-b-1	K-23	黒曜石	(14.00)	15.00	5.00	(0.75)	先端部欠	33	
444	II-b-1	K-25	黒曜石	16.55	(11.60)	2.70	(0.30)	片逆刺欠	33	
445	II-b-1	N-23	黒曜石	16.60	13.80	3.00	0.35	完形	33	
446	II-b-1	表採	黒曜石	(11.20)	13.05	4.30	(0.60)	先端部欠	33	
447	II-b-1	C-17	黒曜石	11.50	9.60	2.00	0.20	完形	33	
448	II-b-1	C-17	黒曜石	11.00	10.00	3.25	0.30	完形	33	
449	II-b-1	E-8	黒曜石	(7.55)	8.50	2.40	(0.10)	先端欠	33	
450	II-b-1	E-18	黒曜石	(8.20)	9.60	(3.00)	(0.10)	先端部欠	33	
451	II-b-1	G-17	黒曜石	10.85	9.90	3.30	0.30	完形	33	
452	II-b-1	I-8	頁　岩	11.00	8.40	2.95	0.45	完形	33	
453	II-b-1	I-11	黒曜石	(7.50)	8.95	2.65	(0.40)	先端片逆刺欠	33	
454	II-b-1	I-12	黒曜石	(9.50)	13.00	2.70	(0.25)	先端欠	33	
455	II-b-1	I-12	黒曜石	12.15	9.85	2.70	0.30	完形	33	
456	II-b-1	I-20	黒曜石	12.00	(9.60)	2.55	(0.20)	片逆刺欠	33	

第16表　石鏃計測表 ⑩

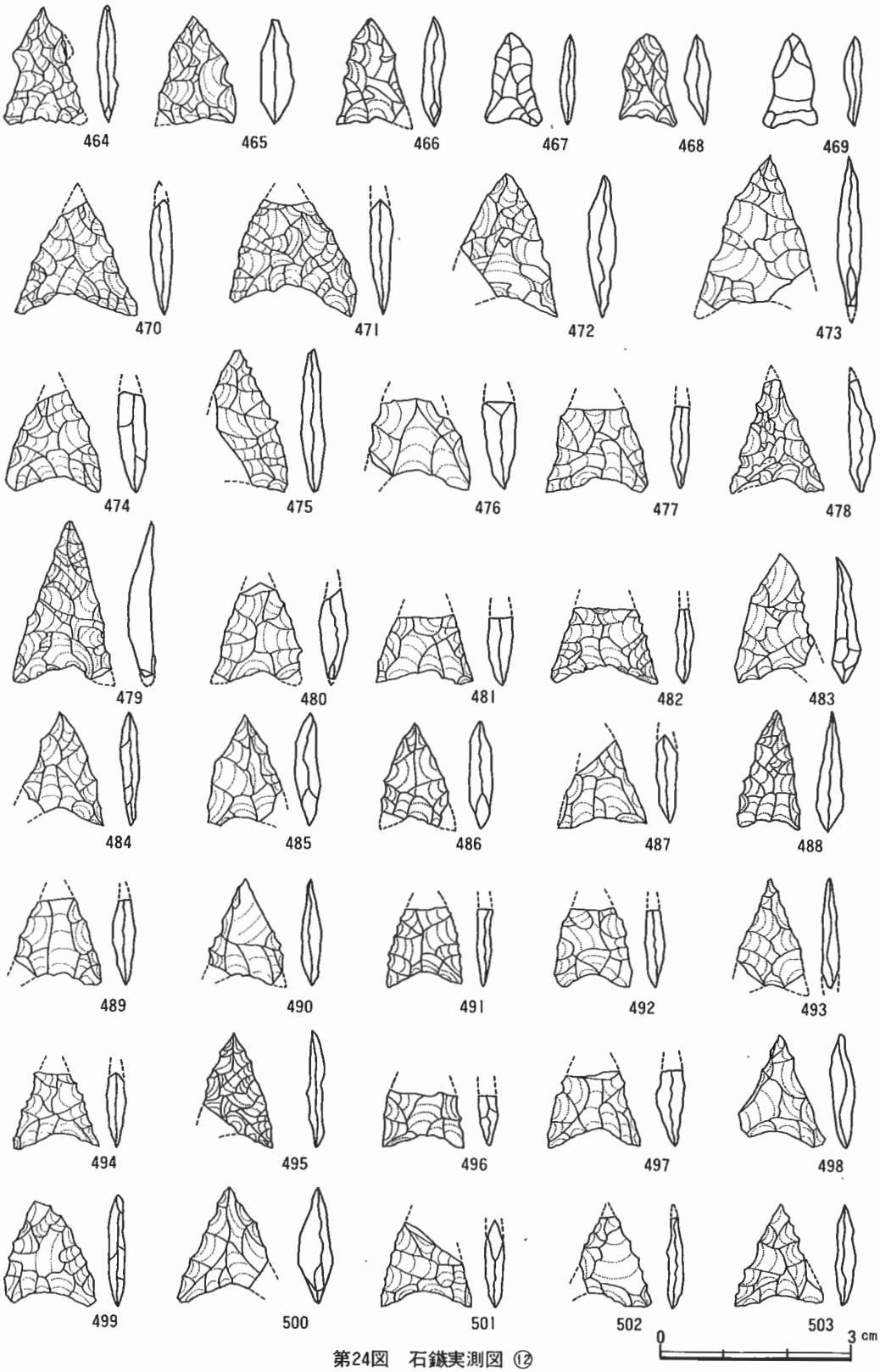

416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
0
3 cm

第23図　石鏃実測図 ⑪

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
457	II-b-1	J-4	頁　岩	11.30	7.80	2.60	0.20	完形	33	
458	II-b-1	J-7	黒曜石	10.25	7.65	2.80	0.35	完形	33	
459	II-b-1	J-11	黒曜石	11.85	10.55	2.75	0.40	完形	33	
460	II-b-1	J-12	黒曜石	11.76	(8.55)	2.60	(0.35)	片逆刺欠	33	
461	II-b-1	J-12	黒曜石	(12.95)	(8.90)	2.90	(0.35)	両逆刺欠	33	
462	II-b-1	J-24	黒曜石	(9.00)	(8.75)	2.20	(0.15)	両逆刺欠	33	
463	II-b-1	J-25	黒曜石	10.30	10.00	2.20	0.20	完形	33	
464	II-b-2	H-11	黒曜石	18.20	(12.05)	3.15	(0.65)	片逆刺欠	33	
465	II-b-2	I-8	黒曜石	19.95	(12.40)	2.90	(0.55)	略完形	33	
466	II-b-2	J-18	黒曜石	16.00	(10.00)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	33	
467	II-b-2	C-11	頁　岩	14.55	14.20	2.80	0.35	完形	33	
468	II-b-2	D-6	黒曜石	14.40	9.00	4.00	0.45	完形	33	
469	II-b-2	K-17	頁　岩	14.50	8.35	2.50	0.55	完形	33	
470	II-b-3	D-11	黒曜石	(17.60)	20.00	4.40	(0.90)	先端欠	33	
471	II-b-3	E-11	黒曜石	(18.50)	19.60	3.35	(0.95)	先端欠	33	
472	II-b-3	E-19	黒曜石	21.60	(15.00)	4.20	(1.00)	片逆刺欠	33	
473	II-b-3	E-20	黒曜石	(23.95)	(17.55)	3.65	(1.00)	両逆刺欠	33	
474	II-b-3	F-18	黒曜石	(15.70)	15.00	4.85	(1.05)	先端欠	33	
475	II-b-3	F-21	黒曜石	22.00	(12.00)	(3.80)	(0.60)	片逆刺欠	33	
476	II-b-3	G-14	黒曜石	(14.60)	(16.00)	6.00	(0.85)	先端部片逆刺欠	33	
477	II-b-3	H-14	黒曜石	(14.35)	14.15	2.80	(0.80)	先端部欠	33	
478	II-b-3	H-20	黒曜石	(18.00)	15.00	4.00	(0.65)	先端欠	33	
479	II-b-3	I-11	黒曜石	24.90	(15.25)	4.10	(1.30)	片逆刺欠	33	
480	II-b-3	I-13	黒曜石	(14.90)	(12.85)	3.95	(0.90)	先端両逆刺欠	33	
481	II-b-3	I-17	黒曜石	(11.00)	15.00	(4.20)	(0.55)	先端部欠	33	
482	II-b-3	I-18	黒曜石	(12.00)	16.60	2.30	(0.55)	先端部欠	33	
483	II-b-3	J-19	黒曜石	20.00	(12.00)	4.10	(0.70)	片逆刺欠	33	
484	II-b-3	K-13	黒曜石	17.40	(13.25)	3.05	(0.60)	片逆刺欠	33	
485	II-b-3	C-12	黒曜石	17.20	(12.00)	4.40	(0.80)	片逆刺欠	33	
486	II-b-3	C-14	黒曜石	(16.00)	(10.85)	3.95	(0.50)	両逆刺欠	33	
487	II-b-3	C-15	黒曜石	(13.70)	14.40	3.35	(0.45)	先端部欠	33	
488	II-b-3	C-16	黒曜石	18.10	10.00	4.45	0.65	完形	33	
489	II-b-3	C-17	黒曜石	(13.30)	(13.45)	3.40	(0.60)	先端片逆刺欠	33	
490	II-b-3	D-12	黒曜石	(16.30)	(12.00)	2.90	(0.40)	両逆刺欠	33	
491	II-b-3	D-12	黒曜石	(13.00)	12.00	2.65	(0.30)	先端部欠	33	
492	II-b-3	D-14	黒曜石	(13.00)	12.00	2.45	(0.50)	先端部欠	33	
493	II-b-3	D-18	黒曜石	(16.80)	(10.00)	2.90	(0.40)	両逆刺欠	33	
494	II-b-3	D-18	黒曜石	(12.00)	13.75	2.60	(0.35)	先端部欠	33	
495	II-b-3	E-8	黒曜石	17.70	(11.20)	2.25	(0.30)	片逆刺欠	33	
496	II-b-3	E-12	黒曜石	(9.10)	13.90	(3.30)	(0.35)	先端部欠	33	
497	II-b-3	E-16	黒曜石	(11.20)	14.00	4.50	(0.55)	先端部欠	34	
498	II-b-3	E-17	黒曜石	17.55	13.75	3.75	0.60	完形	34	
499	II-b-3	F-12	黒曜石	16.60	14.55	2.70	0.55	完形	34	
500	II-b-3	F-13	黒曜石	17.50	(14.40)	5.40	(0.85)	片逆刺欠	34	

第17表　石鏃計測表 ⑪

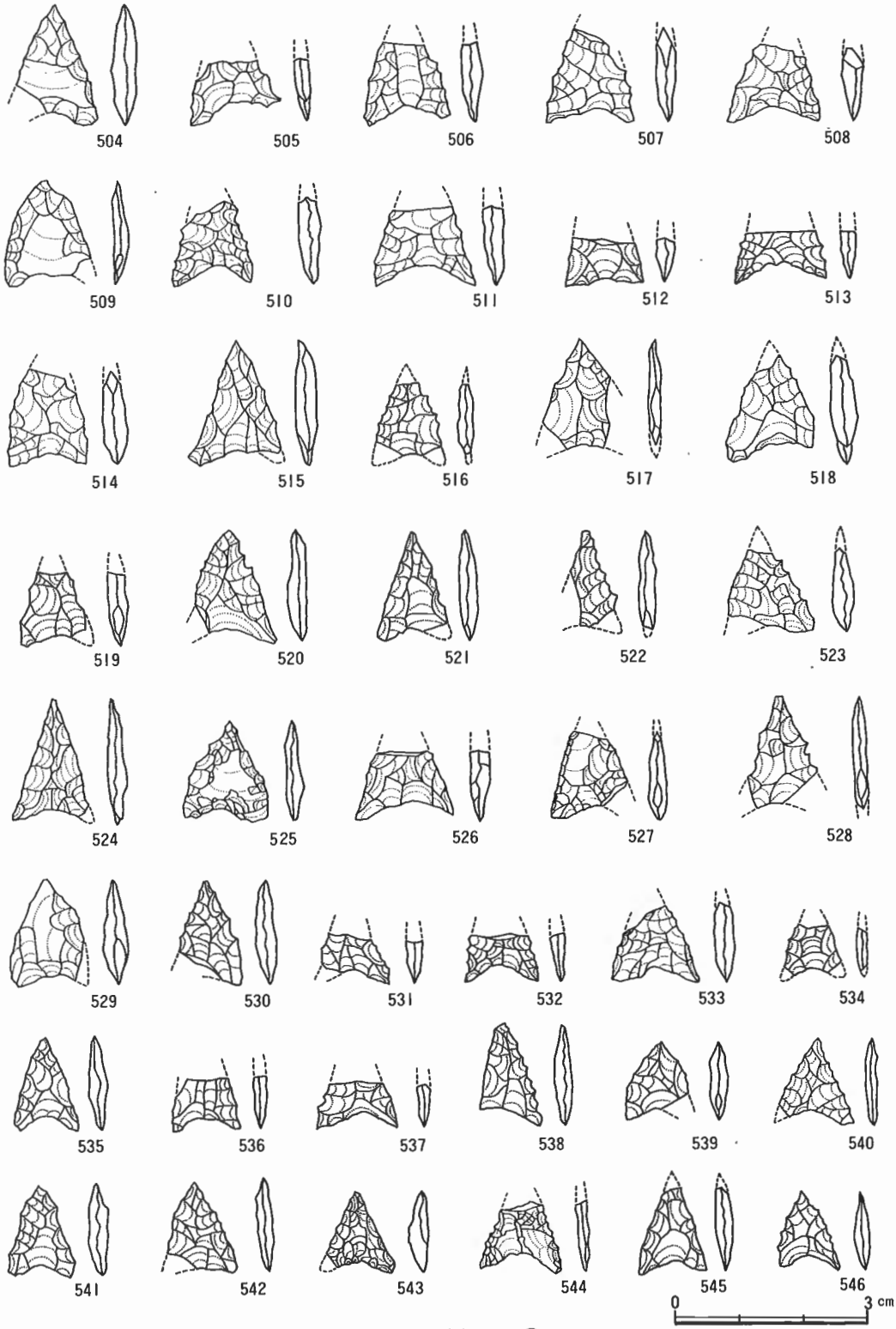

464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
0
3 cm

第24図　石鏃実測図 ⑫

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
501	II-b-3	F-16	黒曜石	(13.30)	14.15	(3.20)	(0.35)	先端部欠	34	
502	II-b-3	F-20	黒曜石	(14.00)	11.00	2.45	(0.35)	先端片逆刺欠	34	
503	II-b-3	G-15	黒曜石	15.70	13.70	3.00	(0.45)	略完形	34	
504	II-b-3	G-15	黒曜石	18.60	(12.60)	3.70	(0.65)	片逆刺欠	34	
505	II-b-3	G-16	黒曜石	(9.70)	14.00	(2.40)	(0.40)	先端部欠	34	
506	II-b-3	G-16	黒曜石	(12.25)	13.00	3.30	(0.45)	先端部欠	34	
507	II-b-3	G-16	黒曜石	(14.15)	13.25	3.00	(0.50)	先端部欠	34	
508	II-b-3	G-22	黒曜石	(12.30)	14.50	4.00	(0.50)	先端部欠	34	
509	II-b-3	H-7	黒曜石	16.20	(13.15)	2.95	(0.60)	片逆刺欠	34	
510	II-b-3	H-9	黒曜石	(13.25)	12.50	3.55	(0.65)	先端部欠	34	
511	II-b-3	H-15	黒曜石	(11.60)	15.45	3.30	(0.35)	先端部欠	34	
512	II-b-3	H-15	黒曜石	(7.45)	12.10	(3.00)	(0.25)	先端部欠	34	
513	II-b-3	H-16	黒曜石	(6.85)	14.00	(2.60)	(0.35)	先端部欠	34	
514	II-b-3	H-16	黒曜石	(14.50)	12.20	3.80	(0.70)	先端部欠	34	
515	II-b-3	I-12	黒曜石	18.80	(14.45)	4.10	(0.75)	略完形	34	
516	II-b-3	I-15	黒曜石	(11.00)	(10.10)	2.45	(0.15)	先端両逆刺欠	34	
517	II-b-3	I-15	黒曜石	(16.30)	(10.25)	2.30	(0.30)	両逆刺欠	34	
518	II-b-3	I-22	黒曜石	(16.45)	13.85	4.35	(0.75)	先端欠	34	
519	II-b-3	J-11	黒曜石	(10.40)	(11.60)	3.50	(0.45)	先端部片逆刺欠	34	
520	II-b-3	J-11	黒曜石	17.15	(13.10)	3.20	(0.55)	片逆刺欠	34	
521	II-b-3	J-12	黒曜石	16.50	(10.65)	3.45	(0.45)	片逆刺欠	34	
522	II-b-3	J-12	黒曜石	(14.50)	(7.25)	(3.10)	(0.35)	両逆刺欠	34	
523	II-b-3	J-12	黒曜石	(13.15)	(13.70)	3.65	(0.55)	先端片逆刺欠	34	
524	II-b-3	J-12	黒曜石	18.85	(11.85)	3.20	(0.50)	片逆刺欠	34	
525	II-b-3	J-23	黒曜石	15.00	13.00	2.75	0.40	完形	34	
526	II-b-3	K-12	黒曜石	(9.60)	14.55	2.60	(0.55)	先端部欠	34	
527	II-b-3	K-25	黒曜石	(13.75)	(11.95)	3.20	(0.40)	先端部片逆刺欠	34	
528	II-b-3	L-13	黒曜石	(17.30)	(10.45)	2.15	(0.50)	両逆刺欠	34	
529	II-b-3	N-24	黒曜石	16.30	(11.50)	3.80	(0.50)	片逆刺欠	34	
530	II-b-3	C-14	黒曜石	11.25	(8.05)	(5.00)	(0.20)	片逆刺欠	34	
531	II-b-3	C-16	黒曜石	(8.10)	(11.00)	(2.65)	(0.15)	先端部片逆刺欠	34	
532	II-b-3	C-17	黒曜石	(7.25)	11.30	(2.10)	(0.20)	先端部欠	34	
533	II-b-3	D-11	黒曜石	(12.85)	11.00	3.00	(0.25)	先端部欠	34	
534	II-b-3	D-17	黒曜石	(13.00)	(9.20)	(2.20)	(0.25)	先端部両逆刺欠	34	
535	II-b-3	D-18	黒曜石	14.20	9.80	2.70	0.25	完形	34	
536	II-b-3	D-19	黒曜石	(8.20)	10.50	(2.20)	(0.15)	先端部欠	34	
537	II-b-3	F-15	黒曜石	(7.45)	12.60	(2.70)	(0.25)	先端部欠	34	
538	II-b-3	F-15	黒曜石	15.60	9.70	2.30	0.30	完形	34	
539	II-b-3	F-16	黒曜石	11.70	(9.70)	2.60	(0.20)	片逆刺欠	34	
540	II-b-3	F-19	黒曜石	12.95	(11.65)	2.75	(0.20)	片逆刺欠	34	
541	II-b-3	G-16	黒曜石	13.55	10.00	3.00	0.40	完形	34	
542	II-b-3	G-16	黒曜石	13.00	(10.50)	2.50	(0.25)	片逆刺欠	34	
543	II-b-3	G-20	黒曜石	12.00	(11.00)	2.70	(0.25)	片逆刺欠	34	
544	II-b-3	G-20	黒曜石	(11.00)	12.50	2.90	(0.20)	先端部欠	34	

第18表　石鏃計測表 ⑫

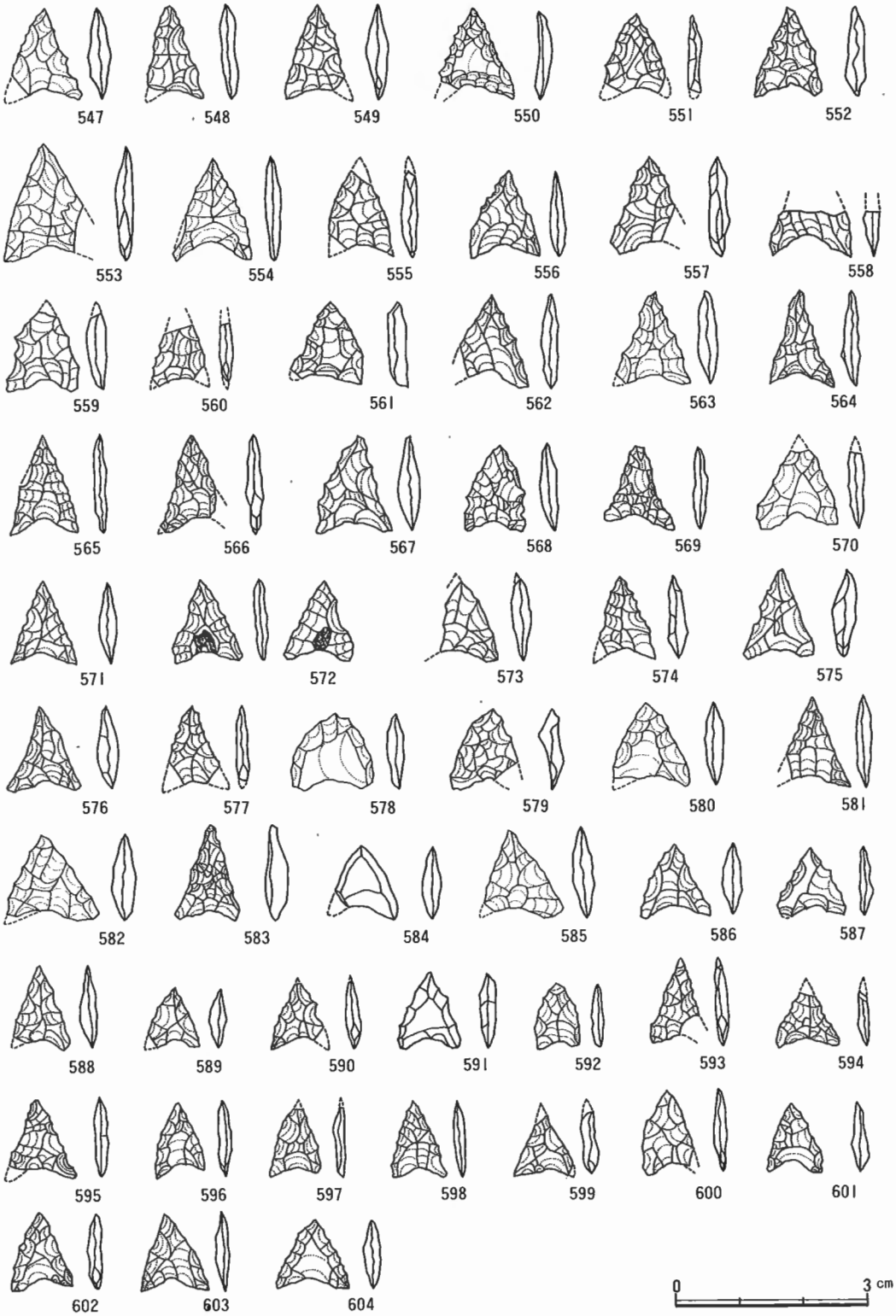

504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
0
3 cm

第25図　石鏃実測図 ⑬

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
545	II-b-3	G-21	黒曜石	(13.55)	10.75	3.55	(0.35)	先端欠	34	
546	II-b-3	H-11	黒曜石	11.60	9.85	2.80	0.30	完形	34	
547	II-b-3	H-15	黒曜石	14.15	(10.40)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	34	
548	II-b-3	H-15	黒曜石	14.30	(8.55)	2.10	(0.20)	片逆刺欠	34	
549	II-b-3	H-15	黒曜石	14.00	(9.10)	3.20	(0.30)	片逆刺欠	34	
550	II-b-3	H-20	黒曜石	14.00	(11.65)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	34	
551	II-b-3	I-7	黒曜石	(11.85)	(8.90)	2.65	(0.40)	両逆刺欠	34	
552	II-b-3	I-9	黒曜石	13.80	10.85	3.10	0.55	完形	34	
553	II-b-3	I-10	黒曜石	17.50	(12.40)	2.30	(0.65)	片逆刺欠	34	
554	II-b-3	I-11	黒曜石	16.30	12.45	2.60	(0.40)	略完形	34	
555	II-b-3	I-11	黒曜石	(12.30)	(9.70)	2.65	(0.35)	先端両逆刺欠	34	
556	II-b-3	I-12	黒曜石	13.45	10.95	2.60	0.40	完形	34	
557	II-b-3	I-12	黒曜石	14.90	(8.05)	3.60	(0.45)	片逆刺欠	34	
558	II-b-3	I-16	黒曜石	(6.50)	12.35	(2.25)	(0.25)	先端部欠	34	
559	II-b-3	I-22	黒曜石	(12.60)	11.00	3.50	(0.35)	先端欠	34	
560	II-b-3	J-4	黒曜石	(9.30)	(8.00)	2.40	(0.20)	先端部両逆刺欠	34	
561	II-b-3	J-8	黒曜石	12.80	(11.10)	2.55	(0.50)	略完形	34	
562	II-b-3	J-12	黒曜石	14.20	(11.35)	2.90	(0.40)	片逆刺欠	34	
563	II-b-3	J-12	黒曜石	14.05	(11.60)	3.65	(0.40)	略完形	34	
564	II-b-3	J-12	黒曜石	14.95	10.65	2.70	0.25	完形	34	
565	II-b-3	J-15	チャート	15.45	10.05	2.25	0.40	略完形	34	
566	II-b-3	J-18	黒曜石	(14.90)	(8.50)	2.45	(0.25)	両逆刺欠	34	
567	II-b-3	J-22	黒曜石	15.40	12.00	3.55	0.45	完形	34	
568	II-b-3	J-24	黒曜石	13.00	9.60	2.75	0.25	完形	34	
569	II-b-3	J-24	黒曜石	12.75	11.00	2.10	0.15	完形	34	
570	II-b-3	J-24	黒曜石	(12.75)	13.35	2.60	(0.40)	先端欠	34	
571	II-b-3	K-12	黒曜石	12.65	9.90	2.25	0.35	完形	34	
572	II-b-3	K-12	黒曜石	12.55	11.10	2.80	0.35	完形	34	局部磨製
573	II-b-3	K-12	黒曜石	(12.60)	(9.70)	2.85	(0.55)	片側辺欠	34	
574	II-b-3	K-12	黒曜石	12.45	(13.15)	3.00	(0.35)	片逆刺欠	34	
575	II-b-3	K-12	黒曜石	13.05	15.45	3.60	0.50	完形	34	
576	II-b-3	K-12	黒曜石	12.70	11.45	3.15	0.45	完形	34	
577	II-b-3	K-13	黒曜石	(11.90)	(7.75)	2.70	(0.35)	両逆刺欠	35	
578	II-b-3	K-24	黒曜石	12.50	12.85	2.85	0.35	完形	35	
579	II-b-3	K-25	黒曜石	14.00	(11.50)	2.60	(0.20)	片逆刺欠	35	
580	II-b-3	L-21	黒曜石	12.30	(11.70)	2.60	(0.35)	片逆刺欠	35	
581	II-b-3	L-23	黒曜石	13.20	(10.00)	2.10	(0.15)	片逆刺欠	35	
582	II-b-3	M-23	黒曜石	13.50	(13.80)	3.30	(0.50)	片逆刺欠	35	
583	II-b-3	J-22	黒曜石	15.00	10.10	3.70	0.35	完形	35	
584	II-b-3	C-11	頁岩	11.60	(9.60)	3.00	(0.35)	片逆刺欠	35	
585	II-b-3	C-14	黒曜石	13.95	(12.75)	3.60	(0.40)	略完形	35	
586	II-b-3	C-14	黒曜石	11.30	11.55	3.20	0.20	完形	35	
587	II-b-3	C-17	黒曜石	10.20	10.70	2.10	0.25	略完形	35	
588	II-b-3	D-14	黒曜石	13.00	(8.70)	3.00	(0.20)	片逆刺欠	35	

第19表　石鏃計測表 ⑬

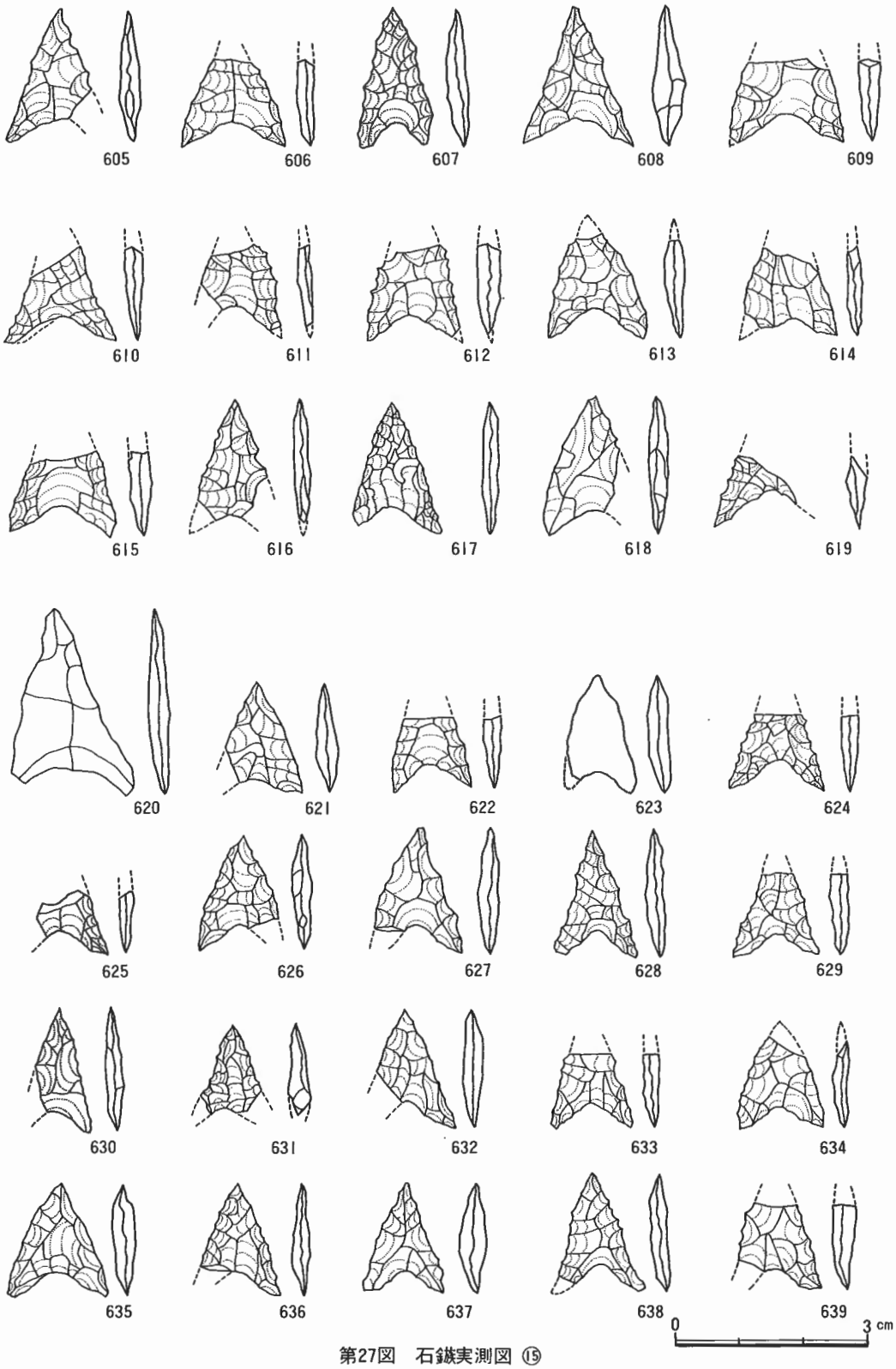

547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
0
3 cm

第26図　石鏃実測図 ⑭

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
589	II-b-3	D-15	黒曜石	12.35	(11.00)	2.00	(0.15)	片逆刺欠	35	
590	II-b-3	D-17	黒曜石	(9.55)	(8.45)	2.70	(0.20)	先端片逆刺欠	35	
591	II-b-3	E-11	頁　岩	12.00	9.90	3.00	0.30	完形	35	
592	II-b-3	F-19	黒曜石	10.00	7.00	2.90	0.15	完形	35	
593	II-b-3	H-12	黒曜石	11.65	(7.25)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	35	
594	II-b-3	H-15	黒曜石	(8.45)	10.10	2.65	(0.35)	先端欠	35	
595	II-b-3	H-25	黒曜石	12.00	(10.50)	2.15	(0.15)	片逆刺欠	35	
596	II-b-3	I-6	黒曜石	11.60	7.35	2.45	0.35	完形	35	
597	II-b-3	I-11	黒曜石	(11.15)	8.05	2.30	(0.25)	先端欠	35	
598	II-b-3	I-12	黒曜石	11.80	8.95	2.10	0.25	完形	35	
599	II-b-3	I-14	黒曜石	(9.55)	(9.40)	2.35	(0.35)	先端片逆刺欠	35	
600	II-b-3	I-22	黒曜石	13.00	(8.00)	2.20	(0.15)	片逆刺欠	35	
601	II-b-3	I-25	黒曜石	10.50	8.60	2.30	0.15	完形	35	
602	II-b-3	J-6	黒曜石	11.85	9.90	2.35	0.40	完形	35	
603	II-b-3	J-11	黒曜石	11.95	10.50	2.30	0.30	完形	35	
604	II-b-3	K-23	チャート	10.65	11.10	2.45	0.25	完形	35	
605	II-b-4	D-13	黒曜石	20.70	(14.00)	3.50	(0.55)	片逆刺欠	35	
606	II-b-4	D-17	黒曜石	(14.10)	16.15	3.60	(0.60)	先端部欠	35	
607	II-b-4	D-17	黒曜石	21.55	11.90	3.60	0.60	完形	35	
608	II-b-4	E-13	黒曜石	21.20	17.40	5.00	0.95	完形	35	
609	II-b-4	F-16	黒曜石	(12.10)	17.40	3.30	(0.80)	先端部欠	35	
610	II-b-4	F-20	黒曜石	(14.75)	17.20	3.10	(0.45)	先端部欠	35	
611	II-b-4	I-11	水　晶	(13.10)	(13.20)	2.20	(0.25)	先端部両逆刺欠	35	
612	II-b-4	I-15	黒曜石	(14.50)	(14.20)	3.60	(0.60)	先端部片逆刺欠	35	
613	II-b-4	I-23	黒曜石	(16.20)	16.00	3.00	(0.55)	先端欠	35	
614	II-b-4	J-12	黒曜石	(13.45)	(14.45)	2.85	(0.40)	先端部片逆刺欠	35	
615	II-b-4	J-12	黒曜石	(13.25)	17.00	3.70	(0.55)	先端部欠	35	
616	II-b-4	J-13	黒曜石	(18.60)	(10.30)	2.85	(0.70)	両逆刺欠	35	
617	II-b-4	J-25	黒曜石	20.00	14.00	2.80	0.45	完形	35	
618	II-b-4	K-13	黒曜石	21.15	(11.55)	3.30	(0.75)	片逆刺欠	35	
619	II-b-4	L-12	黒曜石	(9.95)	(12.35)	(3.35)	(0.40)	片逆刺残	35	
620	II-b-4	O-24	頁　岩	29.30	19.00	3.30	1.50	完形	35	
621	II-b-4	C-15	黒曜石	16.30	(12.20)	3.50	(0.45)	片逆刺欠	35	
622	II-b-4	C-17	黒曜石	(11.55)	12.10	3.20	(0.35)	先端部欠	35	
623	II-b-4	D-5	頁　岩	17.40	(10.45)	3.20	(0.60)	片逆刺欠	35	
624	II-b-4	D-11	黒曜石	(11.85)	15.20	3.20	(0.40)	先端部欠	35	
625	II-b-4	D-12	黒曜石	(9.50)	(11.00)	(2.15)	(0.15)	片逆刺残	35	
626	II-b-4	D-13	黒曜石	17.70	(12.60)	3.70	(0.30)	片逆刺欠	35	
627	II-b-4	D-16	黒曜石	19.35	(13.40)	3.30	(0.65)	片逆刺欠	35	
628	II-b-4	D-18	黒曜石	19.80	13.00	2.50	0.30	完形	35	
629	II-b-4	D-19	黒曜石	(12.70)	13.00	3.00	(0.35)	先端部欠	35	
630	II-b-4	E-17	黒曜石	18.35	(8.55)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	35	
631	II-b-4	E-19	黒曜石	(13.00)	(9.30)	3.40	(0.25)	両逆刺欠	35	
632	II-b-4	E-20	黒曜石	18.00	(11.75)	2.80	(0.40)	片逆刺欠	35	

第20表　石鏃計測表 ⑭

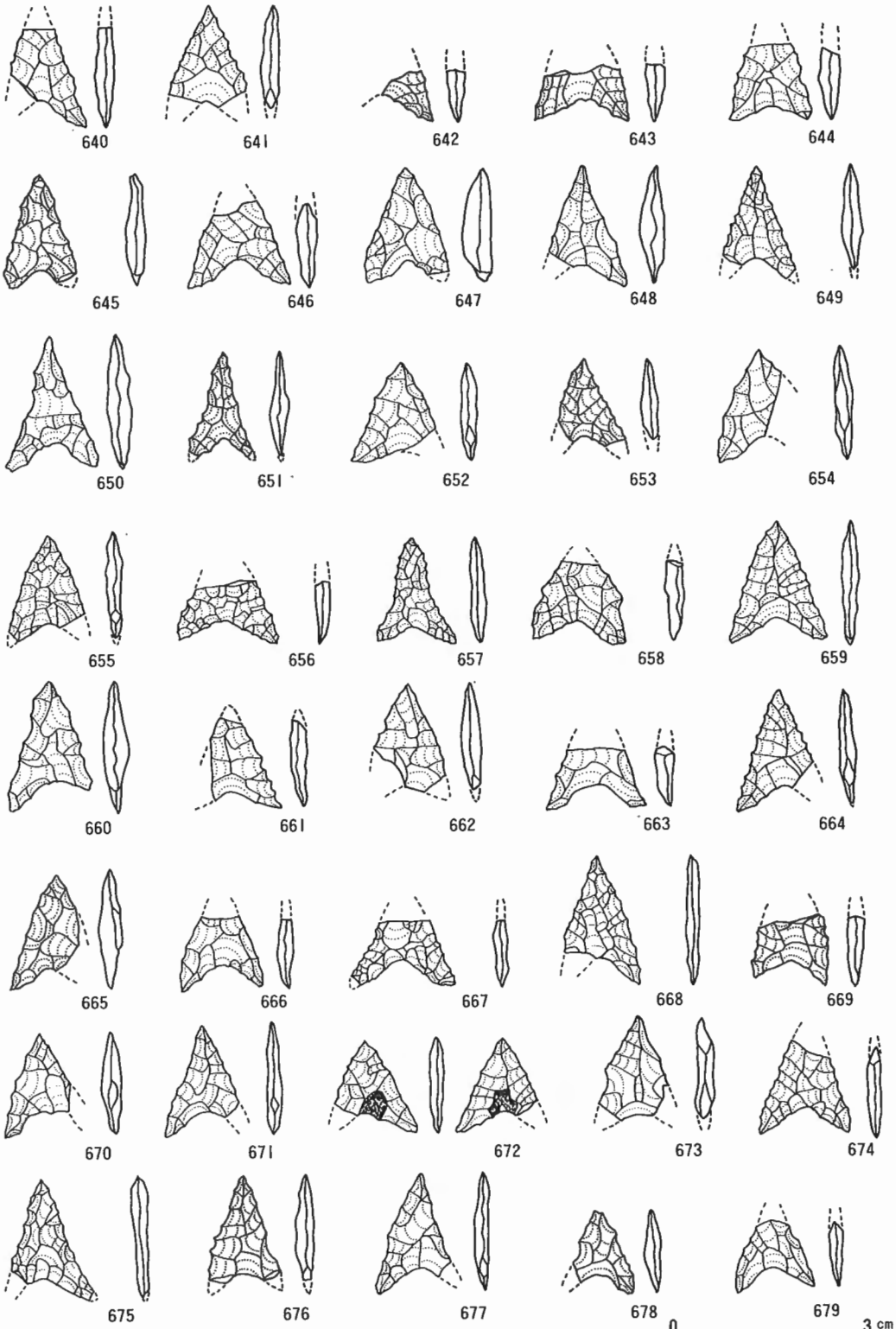

605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
0
3 cm

第27図　石鏃実測図 ⑮

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
633	II-b-4	F-14	黒曜石	(11.10)	12.50	2.30	0.30	先端部欠	35	
634	II-b-4	F-15	黒曜石	(14.00)	12.80	2.20	(0.30)	先端部欠	35	
635	II-b-4	F-20	黒曜石	17.30	15.40	3.55	0.70	完形	35	
636	II-b-4	F-20	黒曜石	17.00	(12.80)	2.45	(0.30)	片逆刺欠	35	
637	II-b-4	G-13	黒曜石	16.60	12.70	4.10	0.55	完形	35	
638	II-b-4	G-15	黒曜石	18.30	(13.05)	2.45	(0.40)	片逆刺欠	35	
639	II-b-4	G-15	黒曜石	(13.30)	(13.25)	3.60	(0.55)	先端部片逆刺欠	35	
640	II-b-4	G-15	黒曜石	(15.40)	(11.70)	3.00	(0.30)	先端部片逆刺欠	35	
641	II-b-4	G-15	黒曜石	(15.30)	(11.50)	3.00	(0.40)	両逆刺欠	35	
642	II-b-4	G-16	黒曜石	(7.40)	(7.60)	(3.00)	(0.10)	片逆刺残	35	
643	II-b-4	G-17	黒曜石	(8.85)	15.05	(3.15)	(0.30)	先端部欠	35	
644	II-b-4	G-18	黒曜石	(11.60)	13.00	3.50	(0.50)	先端部欠	35	
645	II-b-4	H-9	黒曜石	16.85	(11.20)	3.20	(0.65)	片逆刺欠	35	
646	II-b-4	H-15	黒曜石	(13.10)	15.50	3.20	(0.40)	先端部欠	35	
647	II-b-4	I-7	黒曜石	17.15	(11.85)	4.90	(0.90)	片逆刺欠	35	
648	II-b-4	I-8	黒曜石	17.75	(11.80)	2.80	(0.60)	片逆刺欠	35	
649	II-b-4	I-9	黒曜石	(16.75)	(11.20)	3.05	(0.50)	両逆刺欠	35	
650	II-b-4	I-9	黒曜石	20.45	14.25	3.95	0.75	完形	35	
651	II-b-4	I-11	黒曜石	(15.95)	(9.85)	2.90	(0.35)	両逆刺欠	35	
652	II-b-4	I-13	黒曜石	14.90	(12.55)	2.45	(0.60)	片逆刺欠	35	
653	II-b-4	I-15	黒曜石	(12.90)	(10.10)	2.50	(0.40)	両逆刺欠	35	
654	II-b-4	I-15	黒曜石	16.60	(10.65)	2.40	(0.40)	片逆刺欠	35	
655	II-b-4	I-18	黒曜石	(16.00)	(11.50)	2.40	(0.25)	両逆刺欠	35	
656	II-b-4	I-20	黒曜石	(9.65)	15.65	(2.60)	(0.25)	先端部欠	35	
657	II-b-4	I-24	黒曜石	16.30	12.00	2.65	0.20	完形	36	
658	II-b-4	J-8	黒曜石	(12.95)	14.40	3.20	(0.65)	先端部欠	36	
659	II-b-4	J-11	黒曜石	18.55	15.35	3.10	0.60	完形	36	
660	II-b-4	J-12	黒曜石	21.95	13.25	4.15	0.65	完形	36	
661	II-b-4	J-12	黒曜石	(13.50)	(11.40)	2.80	(0.40)	先端片逆刺欠	36	
662	II-b-4	J-12	黒曜石	(16.45)	(10.50)	2.35	(0.30)	両逆刺欠	36	
663	II-b-4	J-12	黒曜石	(9.00)	15.80	(3.55)	(0.40)	先端部欠	36	
664	II-b-4	J-12	黒曜石	18.20	(12.30)	2.90	(0.45)	片逆刺欠	36	
665	II-b-4	J-12	黒曜石	18.30	(10.65)	3.75	(0.50)	片逆刺欠	36	
666	II-b-4	J-13	黒曜石	(11.35)	12.75	2.40	(0.50)	先端部欠	36	
667	II-b-4	J-26	黒曜石	(10.00)	(16.00)	2.40	(0.25)	先端部片逆刺欠	36	
668	II-b-4	K-8	黒曜石	18.75	(11.95)	2.40	(0.55)	片逆刺欠	36	
669	II-b-4	K-12	黒曜石	(10.70)	11.95	2.55	(0.40)	先端部欠	36	
670	II-b-4	K-12	黒曜石	17.05	(10.55)	3.20	(0.50)	片逆刺欠	36	
671	II-b-4	K-12	黒曜石	17.30	(11.55)	2.45	(0.45)	片逆刺欠	36	
672	II-b-4	K-13	黒曜石	14.20	(12.95)	2.35	(0.45)	片逆刺欠	36	局部磨製
673	II-b-4	K-13	黒曜石	(16.15)	(10.25)	2.80	(0.55)	両逆刺欠	36	
674	II-b-4	K-24	黒曜石	(14.75)	14.00	2.60	(0.40)	先端部欠	36	
675	II-b-4	K-25	黒曜石	(18.60)	(12.70)	2.30	(0.25)	両逆刺欠	36	
676	II-b-4	L-18	黒曜石	(16.10)	(11.00)	3.00	(0.40)	両逆刺欠	36	

第21表　石鏃計測表 ⑮

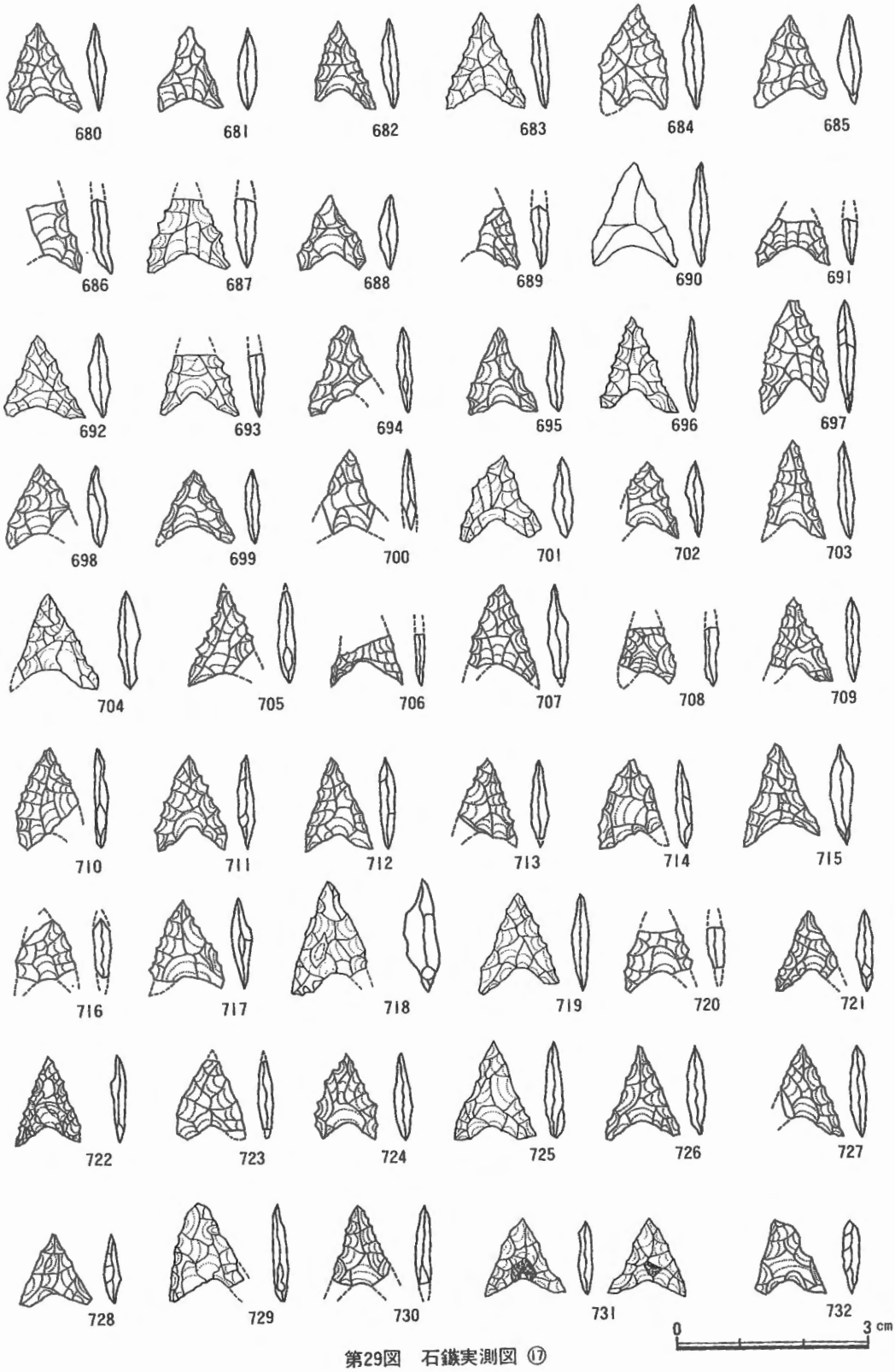

640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
0
3 cm

第28図　石鏃実測図 ⑯

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
677	II-b-4	M-12	黒曜石	17.80	(11.20)	2.30	(0.50)	片逆刺欠	36	
678	II-b-4	C-12	黒曜石	12.40	(9.60)	2.45	(0.20)	片逆刺欠	36	
679	II-b-4	C-13	黒曜石	(11.20)	12.00	2.65	(0.25)	先端部欠	36	
680	II-b-4	C-13	黒曜石	13.70	11.35	2.50	0.20	完形	36	
681	II-b-4	C-14	黒曜石	13.40	10.50	2.90	0.25	完形	36	
682	II-b-4	C-14	黒曜石	14.10	9.95	2.75	0.20	完形	36	
683	II-b-4	C-14	黒曜石	14.90	12.55	2.60	0.25	完形	36	
684	II-b-4	C-14	黒曜石	15.90	(11.20)	3.35	(0.40)	片逆刺欠	36	
685	II-b-4	C-14	黒曜石	14.85	11.70	3.85	0.30	完形	36	
686	II-b-4	C-14	黒曜石	(11.40)	(8.75)	(3.35)	(0.25)	片逆刺残	36	
687	II-b-4	C-15	黒曜石	(11.30)	12.50	3.25	0.30	先端部欠	36	
688	II-b-4	C-15	黒曜石	11.30	10.50	2.70	0.20	完形	36	
689	II-b-4	C-15	黒曜石	(9.30)	(6.55)	(3.00)	(0.10)	片逆刺残	36	
690	II-b-4	C-15	頁　岩	15.75	13.10	3.10	0.40	完形	36	
691	II-b-4	C-16	黒曜石	(7.30)	11.50	(3.00)	(0.15)	先端部欠	36	
692	II-b-4	C-17	黒曜石	12.80	12.20	2.45	0.25	完形	36	
693	II-b-4	C-17	黒曜石	(9.40)	12.10	2.40	(0.25)	先端部欠	36	
694	II-b-4	C-19	チャート	13.20	(10.15)	2.00	(0.15)	片逆刺欠	36	
695	II-b-4	D-12	黒曜石	13.30	10.75	2.90	0.20	完形	36	
696	II-b-4	D-13	頁　岩	14.65	12.30	2.10	0.20	完形	36	
697	II-b-4	D-13	黒曜石	17.50	10.70	2.40	0.30	完形	36	
698	II-b-4	D-13	黒曜石	12.80	(9.90)	2.90	(0.25)	片逆刺欠	36	
699	II-b-4	D-15	黒曜石	12.35	(11.00)	2.00	(0.15)	略完形	36	
700	II-b-4	D-17	黒曜石	(13.00)	(8.50)	3.30	(0.50)	両逆刺欠	36	
701	II-b-4	D-17	黒曜石	13.75	12.85	3.45	0.30	完形	36	
702	II-b-4	D-17	黒曜石	12.10	(8.35)	3.00	(0.20)	片逆刺欠	36	
703	II-b-4	D-19	黒曜石	15.00	(9.00)	2.60	(0.20)	片逆刺欠	36	
704	II-b-4	E-8	黒曜石	15.00	(12.75)	3.00	(0.35)	片逆刺欠	36	
705	II-b-4	E-14	黒曜石	15.00	(10.60)	2.80	(0.20)	片逆刺欠	36	
706	II-b-4	E-17	黒曜石	(13.40)	9.00	(1.90)	(0.10)	先端部欠	36	
707	II-b-4	E-17	黒曜石	(15.20)	(10.75)	3.20	(0.20)	両逆刺欠	36	
708	II-b-4	E-19	黒曜石	(8.50)	(8.50)	2.60	(0.20)	先端部片逆刺欠	36	
709	II-b-4	E-20	黒曜石	12.90	(9.70)	2.50	(0.20)	片逆刺欠	36	
710	II-b-4	F-11	黒曜石	15.80	(9.75)	2.20	(0.25)	片逆刺欠	36	
711	II-b-4	F-12	黒曜石	14.60	11.10	2.50	0.25	完形	36	
712	II-b-4	F-12	黒曜石	14.50	10.45	2.50	0.20	完形	36	
713	II-b-4	F-15	黒曜石	(12.35)	(8.40)	2.70	(0.20)	両逆刺欠	36	
714	II-b-4	F-19	黒曜石	13.55	(9.90)	2.70	(0.25)	片逆刺欠	36	
715	II-b-4	G-14	黒曜石	15.60	11.70	3.80	0.40	完形	36	
716	II-b-4	G-14	黒曜石	(9.70)	(9.20)	2.40	(0.20)	先端部両逆刺欠	36	
717	II-b-4	G-17	黒曜石	13.80	(11.50)	2.80	(0.30)	片逆刺欠	36	
718	II-b-4	H-9	黒曜石	17.45	(11.90)	5.40	(0.90)	片逆刺欠	36	
719	II-b-4	H-15	黒曜石	15.45	12.50	2.60	0.30	完形	36	
720	II-b-4	H-15	黒曜石	(9.45)	(10.75)	2.70	(0.15)	先端部片逆刺欠	36	

第22表　石鏃計測表 ⑯

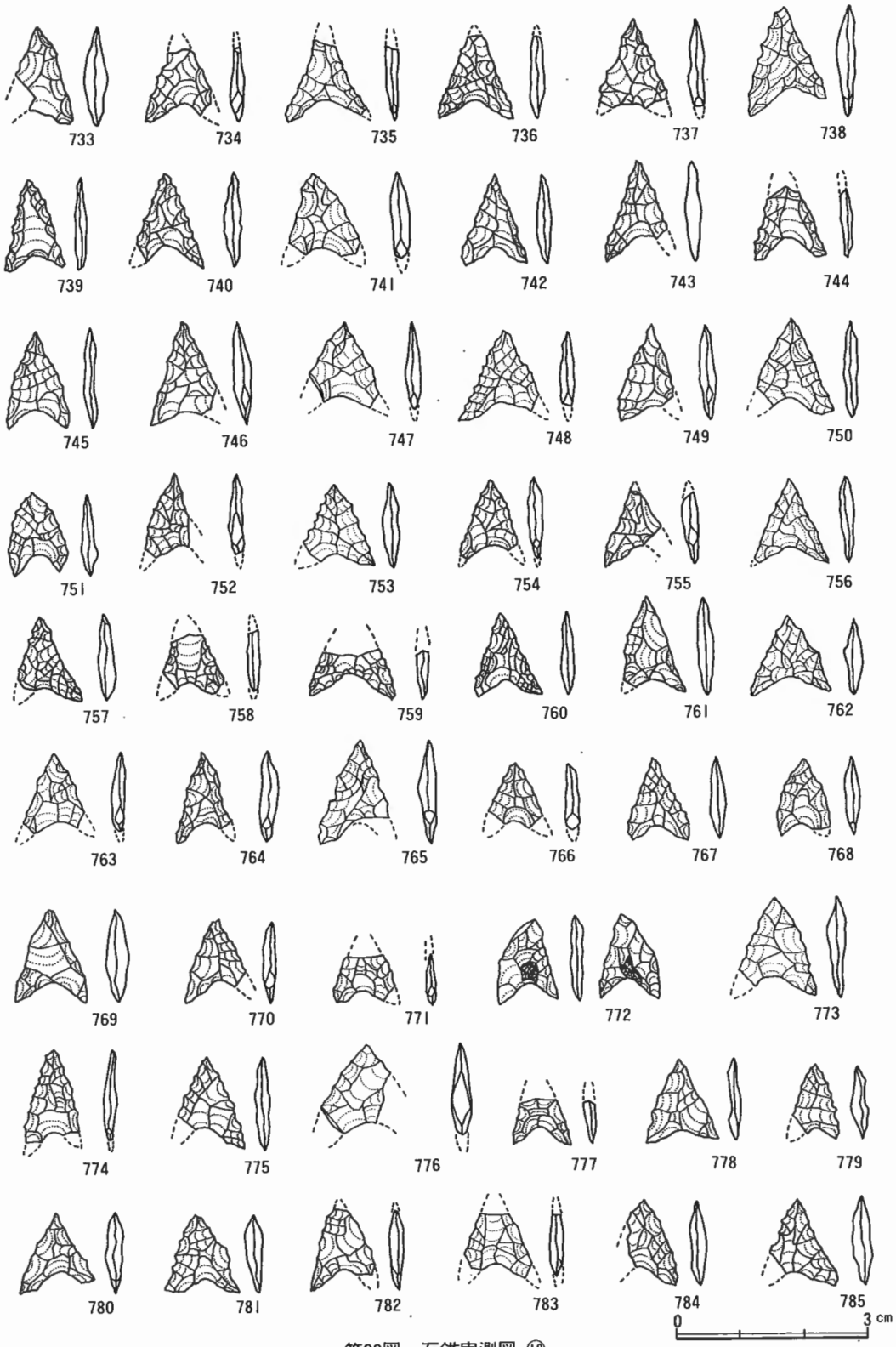

680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
0
3 cm

第29図　石鏃実測図 ⑰

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
721	II-b-4	H-16	黒曜石	11.55	(10.10)	2.50	(0.20)	片逆刺欠	36	
722	II-b-4	H-20	黒曜石	13.50	10.00	2.10	0.20	完形	36	
723	II-b-4	H-21	黒曜石	(12.45)	(10.65)	2.45	(0.25)	先端片逆刺欠	36	
724	II-b-4	H-22	黒曜石	13.65	10.00	2.70	0.20	完形	36	
725	II-b-4	H-22	黒曜石	15.65	13.00	3.00	0.35	完形	36	
726	II-b-4	I-5	頁　岩	14.55	11.35	2.70	0.50	完形	36	
727	II-b-4	I-5	黒曜石	14.00	(10.20)	2.50	(0.30)	片逆刺欠	36	
728	II-b-4	I-7	黒曜石	10.35	10.75	2.45	0.35	完形	36	
729	II-b-4	I-7	黒曜石	14.75	(11.65)	2.40	(0.50)	片逆刺欠	36	
730	II-b-4	I-11	黒曜石	(12.35)	(9.15)	2.60	(0.35)	両逆刺欠	36	
731	II-b-4	I-12	黒曜石	11.35	12.60	2.35	0.35	完形	36	局部磨製
732	II-b-4	I-12	黒曜石	10.90	11.25	2.65	0.35	完形	36	
733	II-b-4	I-15	黒曜石	15.20	(8.70)	3.50	(0.25)	片逆刺欠	36	
734	II-b-4	I-22	黒曜石	(11.65(	(10.40)	2.40	(0.20)	先端片逆刺欠	36	
735	II-b-4	I-23	黒曜石	(13.00)	(12.70)	2.50	(0.20)	先端片逆刺欠	36	
736	II-b-4	I-24	黒曜石	(13.00)	12.00	2.35	(0.20)	先端欠	36	
737	II-b-4	J-7	黒曜石	(14.00)	(10.75)	3.10	(0.40)	両逆刺欠	37	
738	II-b-4	J-7	黒曜石	16.85	11.65	2.90	0.55	完形	37	
739	II-b-4	J-7	硬砂岩	13.85	9.40	2.90	0.35	完形	37	
740	II-b-4	J-10	黒曜石	14.60	(10.90)	2.85	(0.40)	片逆刺欠	37	
741	II-b-4	J-11	黒曜石	(12.50)	(11.60)	2.75	(0.45)	両逆刺欠	37	
742	II-b-4	J-11	チャート	13.45	11.30	2.55	0.35	完形	37	
743	II-b-4	J-12	黒曜石	15.25	(9.50)	2.60	(0.30)	片逆刺欠	37	
744	II-b-4	J-12	黒曜石	(10.90)	10.85	2.35	(0.25)	先端部欠	37	
745	II-b-4	J-12	水　晶	10.40	9.50	2.60	0.20	完形	37	
746	II-b-4	J-12	黒曜石	16.15	(10.95)	3.25	(0.40)	片逆刺欠	37	
747	II-b-4	J-12	黒曜石	(13.15)	(11.40)	2.65	(0.25)	両逆刺欠	37	
748	II-b-4	J-12	黒曜石	14.40	(12.20)	2.95	(0.35)	片逆刺欠	37	
749	II-b-4	J-12	黒曜石	14.95	(9.25)	2.40	(0.30)	片逆刺欠	37	
750	II-b-4	J-12	黒曜石	14.50	(12.40)	2.75	(0.35)	片逆刺欠	37	
751	II-b-4	J-12	黒曜石	12.55	9.75	2.55	0.30	完形	37	
752	II-b-4	J-12	黒曜石	(12.90)	(7.30)	2.10	(0.25)	両逆刺欠	37	
753	II-b-4	J-12	黒曜石	12.80	(10.85)	2.45	(0.40)	片逆刺欠	37	
754	II-b-4	J-13	黒曜石	(12.35)	(8.90)	2.15	(0.35)	両逆刺欠	37	
755	II-b-4	J-15	黒曜石	(11.10)	(9.65)	2.40	(0.35)	先端片逆刺欠	37	
756	II-b-4	J-22	黒曜石	13.30	12.00	2.10	(0.20)	略完形	37	
757	II-b-4	J-23	黒曜石	13.00	(9.60)	2.55	(0.20)	片逆刺欠	37	
758	II-b-4	J-25	黒曜石	(9.20)	(9.60)	2.25	(0.15)	先端部両逆刺欠	37	
759	II-b-4	J-25	黒曜石	(7.70)	13.90	(2.10)	(0.10)	先端部欠	37	
760	II-b-4	J-25	黒曜石	13.00	10.85	3.10	0.50	完形	37	
761	II-b-4	K-6	黒曜石	15.10	(9.20)	2.30	(0.40)	片逆刺欠	37	
762	II-b-4	K-6	黒曜石	11.65	12.45	2.95	0.45	完形	37	
763	II-b-4	K-7	黒曜石	(11.60)	(9.10)	2.40	(0.35)	両逆刺欠	37	
764	II-b-4	K-8	黒曜石	13.95	(8.75)	2.75	(0.40)	片逆刺欠	37	

第23表　石鏃計測表 ⑰

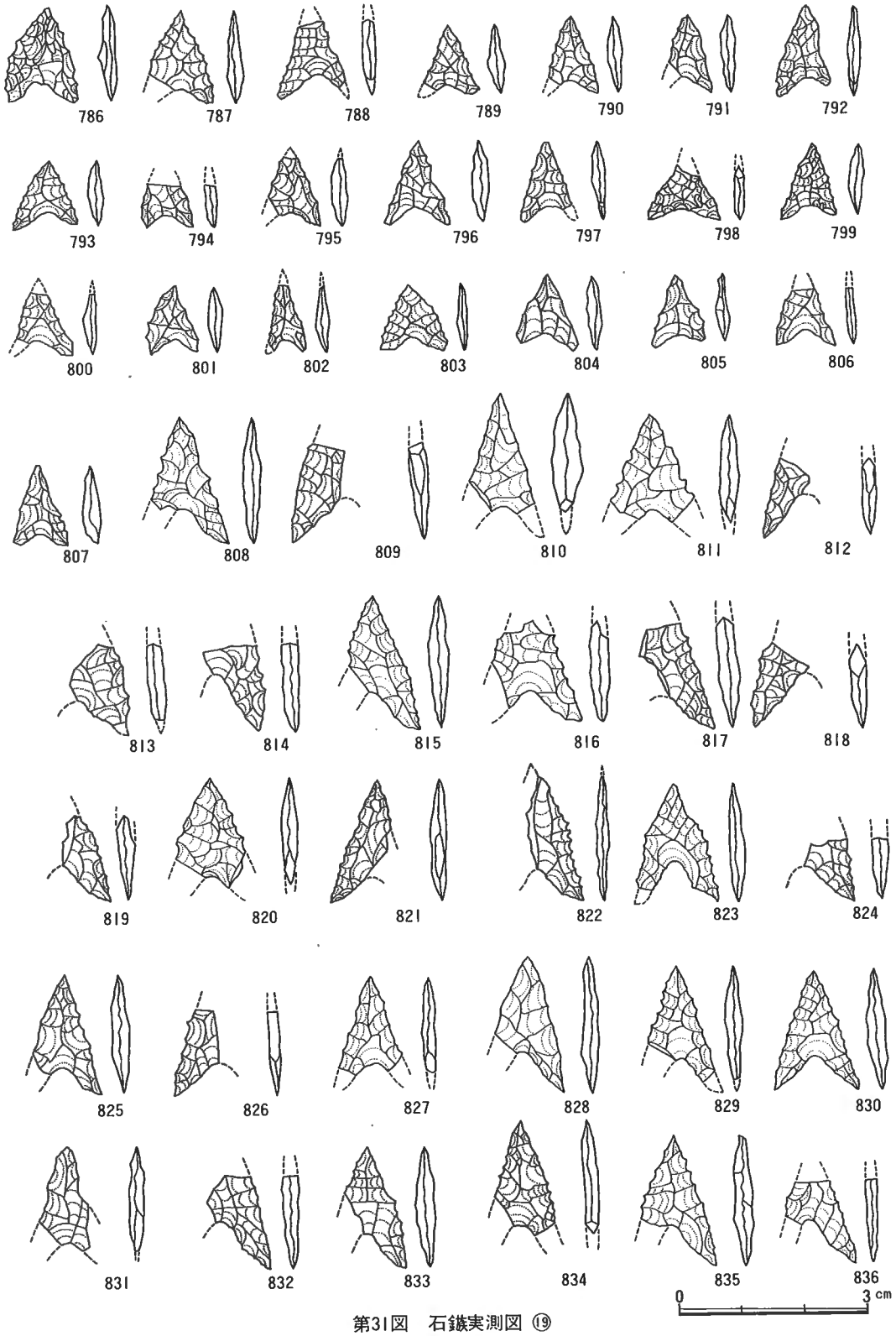

733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
0
3 cm

第30図　石鏃実測図 ⑱

〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
765	II-b-4	K-8	黒曜石	16.25	(11.10)	2.85	(0.50)	片逆刺欠	37	
766	II-b-4	K-11	黒曜石	(9.95)	(8.50)	2.45	(0.25)	両逆刺欠	37	
767	II-b-4	K-12	黒曜石	12.85	9.75	2.30	0.35	完形	37	
768	II-b-4	K-12	黒曜石	11.55	(8.35)	2.20	(0.35)	片逆刺欠	37	
769	II-b-4	K-12	黒曜石	15.25	10.95	3.15	0.60	完形	37	
770	II-b-4	K-12	黒曜石	12.45	(9.65)	2.80	(0.35)	片逆刺欠	37	
771	II-b-4	K-12	黒曜石	(7.30)	(9.40)	2.15	(0.25)	先端部片逆刺欠	37	
772	II-b-4	K-12	黒曜石	12.65	9.35	2.35	0.40	完形	37	局部磨製
773	II-b-4	K-12	黒曜石	14.60	(11.80)	3.15	(0.50)	片逆刺欠	37	
774	II-b-4	K-12	黒曜石	(13.90)	(8.45)	2.25	(0.35)	両逆刺欠	37	
775	II-b-4	K-24	黒曜石	14.10	(10.65)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	37	
776	II-b-4	K-24	黒曜石	(13.90)	(10.70)	3.10	(0.35)	両逆刺欠	37	
777	II-b-4	L-12	黒曜石	(7.75)	8.90	2.45	(0.20)	先端部欠	37	
778	II-b-4	L-12	黒曜石	12.40	11.25	2.75	0.30	完形	37	
779	II-b-4	L-12	黒曜石	10.80	(6.95)	2.45	(0.30)	片逆刺欠	37	
780	II-b-4	L-12	黒曜石	11.95	11.15	2.80	0.35	完形	37	
781	II-b-4	L-12	黒曜石	11.90	11.15	2.70	0.35	完形	37	
782	II-b-4	L-14	黒曜石	(12.40)	(14.25)	2.30	(0.35)	先端片逆刺欠	37	
783	II-b-4	M-12	黒曜石	(9.45)	(9.95)	2.85	(0.40)	先瑞部両逆刺欠	37	
784	II-b-4	M-22	黒曜石	13.10	(7.50)	2.20	(0.15)	片逆刺欠	37	
785	II-b-4	表採	黒曜石	13.80	(17.85)	3.30	(0.15)	片逆刺欠	37	
786	II-b-4	H-20	黒曜石	15.05	11.45	2.85	0.30	完形	37	
787	II-b-4	20住居	黒曜石	15.00	(11.00)	2.80	(0.20)	片逆刺欠	37	
788	II-b-4	49炉穴	黒曜石	(11.90)	(11.10)	2.70	(0.20)	先端片逆刺欠	37	
789	II-b-4	C-14	黒曜石	11.10	(9.30)	2.95	(0.15)	片逆刺欠	37	
790	II-b-4	D-17	黒曜石	12.35	(7.90)	2.20	(0.10)	片逆刺欠	37	
791	II-b-4	D-17	黒曜石	12.00	(7.20)	2.60	(0.10)	片逆刺欠	37	
792	II-b-4	F-15	黒曜石	14.40	8.60	3.50	0.20	完形	37	
793	II-b-4	F-15	黒曜石	10.70	9.70	2.30	0.10	完形	37	
794	II-b-4	F-15	黒曜石	(7.35)	8.10	2.00	(0.10)	先端部欠	37	
795	II-b-4	G-14	黒曜石	(10.70)	(8.30)	2.30	(0.15)	先端片逆刺欠	37	
796	II-b-4	H-10	黒曜石	13.90	10.15	2.65	0.40	完形	37	
797	II-b-4	H-15	黒曜石	12.35	(8.00)	2.00	(0.15)	片逆刺欠	37	
798	II-b-4	H-20	黒曜石	(9.50)	11.50	2.85	(0.10)	先端部欠	37	
799	II-b-4	H-20	黒曜石	12.00	8.55	2.60	0.15	完形	37	
800	II-b-4	I-15	黒曜石	(10.00)	(8.80)	2.00	(0.10)	先端片逆刺欠	37	
801	II-b-4	J-12	黒曜石	10.30	8.55	2.60	0.15	完形	37	
802	II-b-4	J-12	黒曜石	(10.50)	(5.80)	2.20	(0.10)	先端片逆刺欠	37	
803	II-b-4	J-12	黒曜石	15.50	10.45	2.75	0.15	完形	37	
804	II-b-4	K-13	黒曜石	11.65	9.75	2.30	0.35	完形	37	
805	II-b-4	K-13	黒曜石	11.25	8.15	2.45	0.25	完形	37	
806	II-b-4	K-24	黒曜石	(9.10)	9.45	1.45	(0.10)	先端部欠	37	
807	II-b-4	26炉穴	黒曜石	13.00	8.65	3.10	0.20	完形	37	
808	II-b-5	C-11	黒曜石	19.70	(12.60)	3.00	(0.45)	片逆刺欠	37	

第24表　石鏃計測表 ⑱

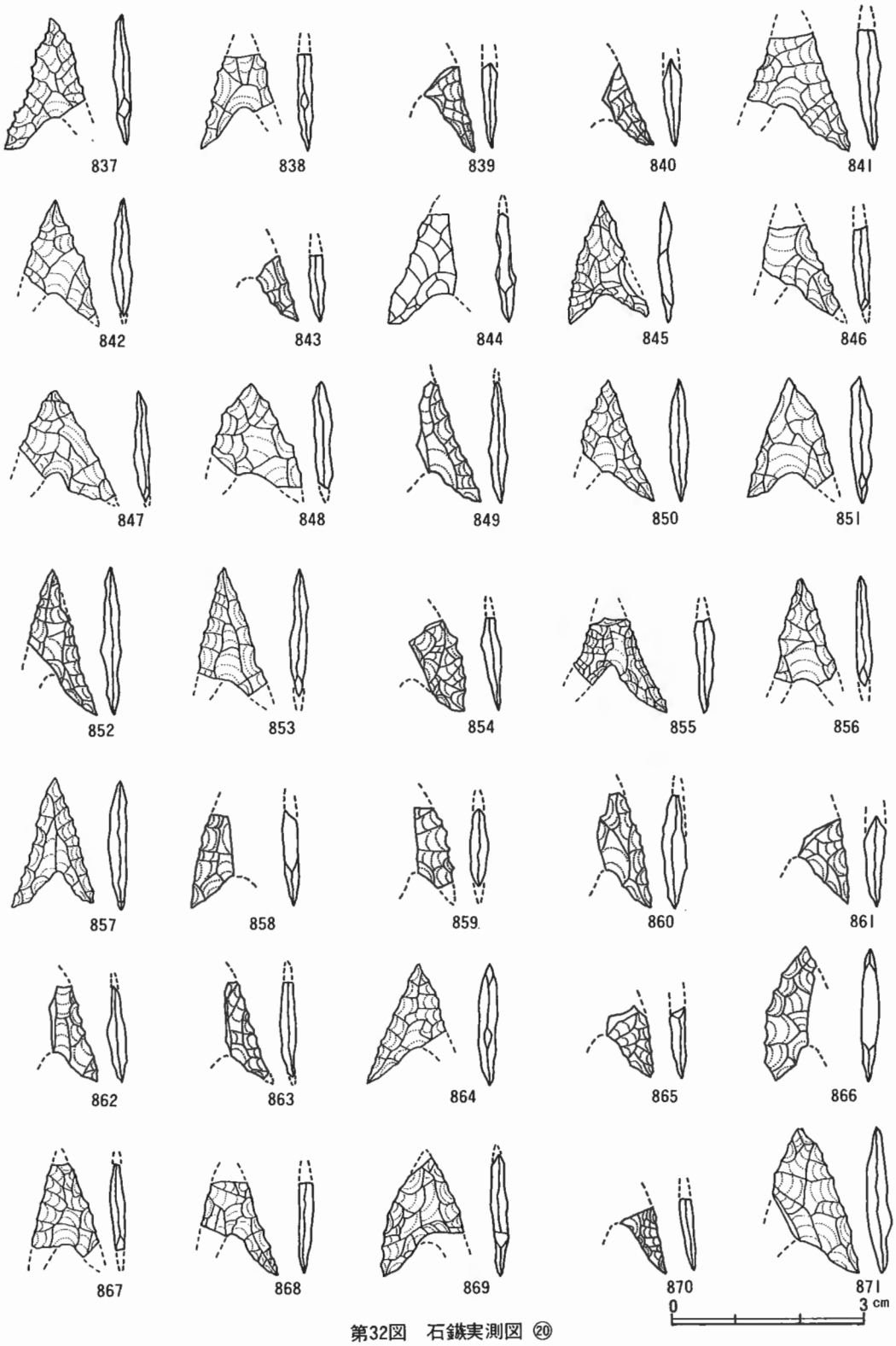

786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
0
3 cm

第31図　石鏃実測図 ⑲

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
809	II-b-5	C-12	黒 曜 石	(15.50)	(8.65)	(3.00)	(0.30)	片逆刺残	37	
810	II-b-5	C-13	黒 曜 石	(18.50)	(10.40)	5.00	(0.65)	両逆刺欠	37	
811	II-b-5	C-14	黒 曜 石	(17.20)	(14.00)	2.60	(0.55)	両逆刺欠	37	
812	II-b-5	C-14	黒 曜 石	(12.60)	(7.60)	(2.50)	(0.15)	片逆刺残	37	
813	II-b-5	C-14	黒 曜 石	(12.00)	(10.20)	(3.00)	(0.30)	片逆刺残	37	
814	II-b-5	C-14	黒 曜 石	(13.60)	(10.15)	(3.20)	(0.25)	片逆刺残	37	
815	II-b-5	C-14	黒 曜 石	20.90	(11.50)	3.40	(0.35)	片逆刺欠	37	
816	II-b-5	C-14	黒 曜 石	(15.60)	(14.20)	3.20	(0.40)	先端部片逆刺欠	37	
817	II-b-5	C-17	黒 曜 石	(17.20)	(11.20)	(3.50)	(0.45)	片逆刺残	38	
818	II-b-5	C-17	黒 曜 石	(13.00)	(8.70)	(2.40)	(0.20)	片逆刺残	38	
819	II-b-5	C-19	黒 曜 石	(13.05)	(7.00)	(2.40)	(0.10)	片逆刺残	38	
820	II-b-5	D-11	黒 曜 石	(17.30)	(11.00)	2.50	(0.40)	両逆刺欠	38	
821	II-b-5	D-11	黒 曜 石	19.00	(9.55)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	38	
822	II-b-5	D-12	黒 曜 石	(19.80)	(9.80)	(2.25)	(0.25)	片逆刺残	38	
823	II-b-5	D-12	黒 曜 石	18.40	(12.70)	2.50	(0.35)	片逆刺欠	38	
824	II-b-5	D-13	黒 曜 石	(9.85)	(8.25)	(3.30)	(0.20)	片逆刺残	38	
825	II-b-5	D-14	黒 曜 石	19.20	(10.50)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	38	
826	II-b-5	D-15	黒 曜 石	(14.00)	(7.00)	(2.80)	(0.20)	片逆刺残	38	
827	II-b-5	D-15	黒 曜 石	(15.80)	(10.20)	2.50	(0.30)	両逆刺欠	38	
828	II-b-5	D-17	チャート	20.85	(10.65)	3.55	(0.40)	片逆刺欠	38	
829	II-b-5	D-17	黒 曜 石	(18.00)	(10.55)	3.10	(0.30)	両逆刺欠	38	
830	II-b-5	D-17	黒 曜 石	18.80	14.00	3.10	0.40	完形	38	
831	II-b-5	D-18	黒 曜 石	(15.80)	(8.00)	3.00	(0.30)	両逆刺欠	38	
832	II-b-5	D-18	黒 曜 石	(15.10)	(9.80)	(3.00)	(0.35)	片逆刺残	38	
833	II-b-5	D-19	黒 曜 石	19.10	(9.60)	2.70	(0.30)	片逆刺欠	38	
834	II-b-5	E-8	黒 曜 石	(17.80)	(9.40)	2.70	(0.30)	両逆刺欠	38	
835	II-b-5	E-12	黒 曜 石	2.20	(12.40)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	38	
836	II-b-5	E-12	黒 曜 石	(13.00)	(11.00)	2.30	(0.20)	先端部片逆刺欠	38	
837	II-b-5	E-12	黒 曜 石	20.50	(12.70)	2.7.	(0.40)	片逆刺欠	38	
838	II-b-5	E-14	黒 曜 石	(14.70)	(11.60)	2.10	(0.30)	先端部片逆刺欠	38	
839	II-b-5	E-15	黒 曜 石	(13.00)	(7.70)	(3.30)	(0.10)	片逆刺残	38	
840	II-b-5	E-16	黒 曜 石	(12.10)	(8.10)	(2.80)	(0.15)	片逆刺残	38	
841	II-b-5	E-16	黒 曜 石	(18.50)	(15.30)	3.40	(0.60)	先端部片逆刺欠	38	
842	II-b-5	E-16	黒 曜 石	(18.20)	(11.00)	3.00	(0.30)	両逆刺欠	38	
843	II-b-5	E-16	黒 曜 石	(10.40)	(6.35)	(2.20)	(0.15)	片逆刺残	38	
844	II-b-5	E-19	チャート	(16.50)	(10.25)	(2.70)	(0.40)	片逆刺残	38	
845	II-b-5	E-19	黒 曜 石	18.55	12.50	2.50	(0.30)	片側辺欠	38	
846	II-b-5	E-20	黒 曜 石	(15.85)	(13.40)	2.55	(0.30)	先端部両逆刺欠	38	
847	II-b-5	E-20	黒 曜 石	(17.20)	(15.65)	2.45	(0.30)	両逆刺欠	38	
848	II-b-5	E-20	黒 曜 石	(15.95)	(13.90)	2.80	(0.50)	両逆刺欠	38	
849	II-b-5	F-12	黒 曜 石	(18.60)	(9.50)	(2.90)	(0.25)	片逆刺残	38	
850	II-b-5	F-16	黒 曜 石	19.00	(11.50)	3.00	(0.35)	片逆刺欠	38	
851	II-b-5	F-20	黒 曜 石	18.65	(13.00)	3.75	(0.60)	片逆刺欠	38	
852	II-b-5	F-20	黒 曜 石	23.00	(10.55)	2.75	(0.30)	片逆刺欠	38	

第25表　石鏃計測表 ⑲

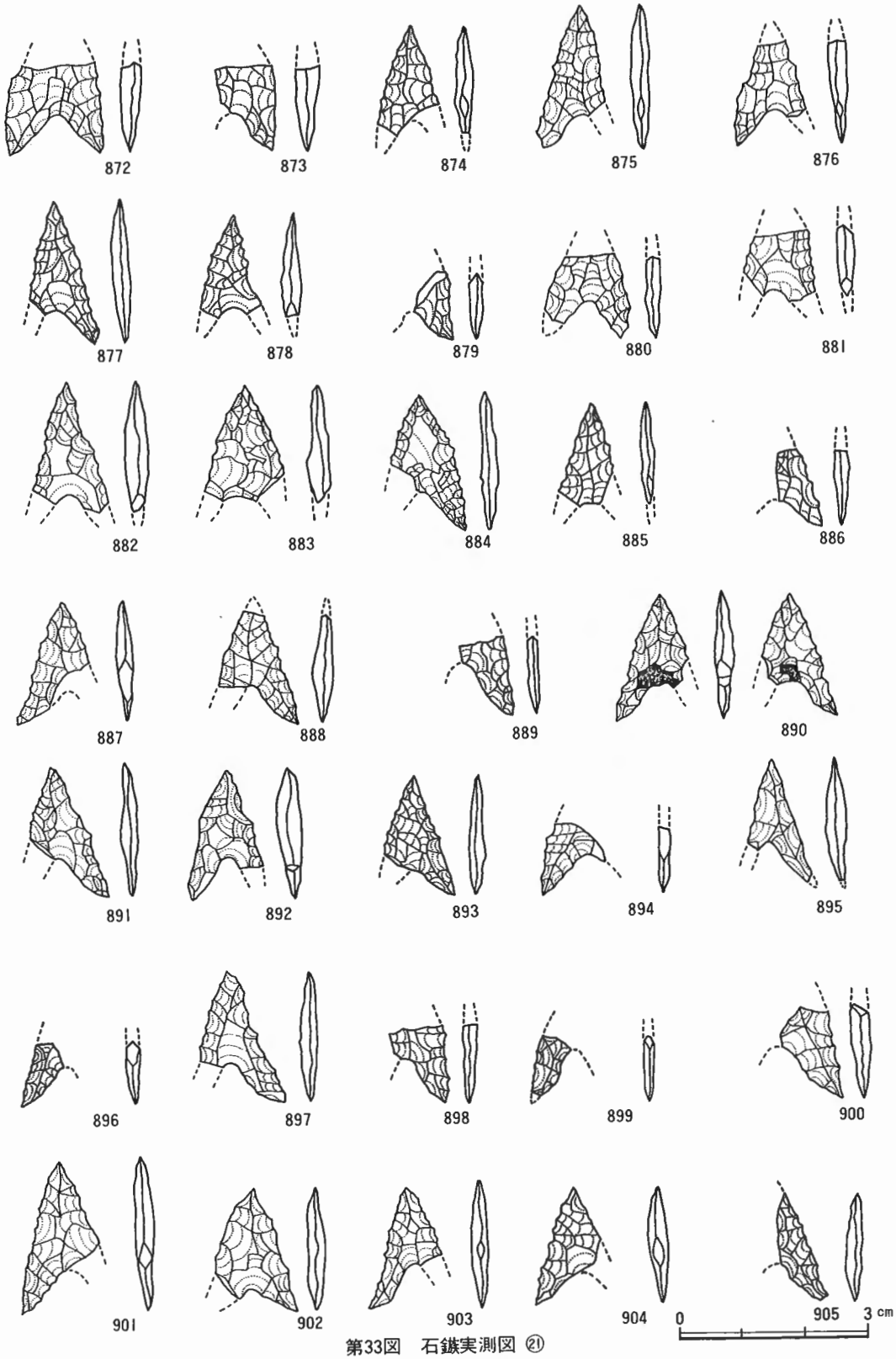

837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
870
871
0
3 cm

第32図　石鏃実測図 ⑳

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
853	II-b-5	F-20	黒曜石	(20.00)	(11.00)	2.45	(0.40)	両逆刺欠	38	
854	II-b-5	F-21	黒曜石	(13.10)	(10.60)	(3.00)	(0.20)	片逆刺残	38	
855	II-b-5	F-21	黒曜石	(15.00)	(14.60)	2.75	(0.30)	先端部片逆刺欠	38	
856	II-b-5	F-22	黒曜石	(17.00)	(9.75)	2.70	(0.30)	両逆刺欠	38	
857	II-b-5	G-9	黒曜石	20.00	12.60	2.55	0.25	完形	38	
858	II-b-5	G-9	黒曜石	(13.60)	(6.50)	(2.25)	(0.20)	片逆刺残	38	
859	II-b-5	G-14	黒曜石	(12.35)	(6.00)	(3.00)	(0.20)	片側辺残	38	
860	II-b-5	G-15	黒曜石	(17.40)	(8.20)	(4.00)	(0.30)	片逆刺残	38	
861	II-b-5	G-15	黒曜石	(12.60)	(8.00)	(3.00)	(0.25)	片逆刺残	38	
862	II-b-5	G-15	黒曜石	(15.00)	(7.20)	(3.00)	(0.20)	片逆刺残	38	
863	II-b-5	G-16	水晶	(14.40)	(6.00)	(2.40)	(0.20)	片送刺残	38	
864	II-b-5	G-16	黒曜石	17.85	(11.70)	2.60	(0.40)	片逆刺欠	38	
865	II-b-5	G-16	黒曜石	(10.45)	(7.00)	(3.00)	(0.20)	片逆刺残	38	
866	II-b-5	G-16	黒曜石	20.30	(6.50)	(2.40)	(0.40)	片逆刺欠	38	
867	II-b-5	H-8	黒曜石	(13.75)	(10.15)	2.60	(0.50)	先端両逆刺欠	38	
868	II-b-5	H-10	黒曜石	(14.50)	(12.10)	2.75	(0.45)	先端部片逆刺欠	38	
869	II-b-5	H-11	黒曜石	(18.45)	(13.50)	2.65	(0.60)	先端片逆刺欠	38	
870	II-b-5	H-11	黒曜石	(9.55)	(9.35)	(2.10)	(0.25)	片逆刺残	38	
871	II-b-5	H-12	黒曜石	21.10	(14.60)	3.65	(0.75)	片逆刺欠	38	
872	II-b-5	H-12	黒曜石	(14.55)	16.15	3.55	(0.85)	先端部欠	38	
873	II-b-5	H-15	黒曜石	(12.70)	(10.30)	(3.60)	(0.60)	片逆刺残	38	
874	II-b-5	H-15	黒曜石	(17.00)	(9.30)	2.60	(0.25)	両逆刺欠	38	
875	II-b-5	H-15	黒曜石	21.80	(10.45)	3.20	(0.45)	片逆刺欠	38	
876	II-b-5	H-15	黒曜石	(16.00)	(11.50)	3.20	(0.40)	先端部片逆刺欠	38	
877	II-b-5	H-15	頁岩	22.10	(10.70)	2.45	(0.35)	片逆刺欠	38	
878	II-b-5	H-15	黒曜石	(15.90)	(9.80)	3.00	(0.30)	両逆刺欠	38	
879	II-b-5	H-15	黒曜石	(9.85)	(6.25)	(2.30)	(0.30)	片逆刺残	38	
880	II-b-5	H-16	黒曜石	(12.60)	(13.30)	2.60	(0.40)	先端部片逆刺欠	38	
881	II-b-5	H-16	黒曜石	(10.65)	(11.15)	2.65	(0.35)	先端部両逆刺欠	38	
882	II-b-5	H-16	黒曜石	(20.40)	(11.75)	4.00	(0.55)	両逆刺欠	38	
883	II-b-5	H-20	黒曜石	(18.00)	(13.00)	2.80	(0.60)	両逆刺欠	38	
884	II-b-5	H-20	黒曜石	21.30	(11.60)	3.50	(0.35)	片逆刺欠	38	
885	II-b-5	H-21	黒曜石	(16.35)	(8.80)	2.45	(0.25)	両逆刺欠	38	
886	II-b-5	I-7	黒曜石	(11.55)	(7.70)	(2.75)	(0.30)	片逆刺残	38	
887	II-b-5	I-7	黒曜石	18.90	(10.95)	(2.80)	(0.45)	片逆刺欠	38	
888	II-b-5	I-8	黒曜石	(16.65)	(12.80)	3.10	(0.50)	先端片逆刺欠	38	
889	II-b-5	I-8	黒曜石	(12.40)	(8.60)	(2.90)	(0.30)	片逆刺残	38	
890	II-b-5	I-8	黒曜石	21.50	(12.75)	3.05	(0.65)	片逆刺欠	38	局部磨製
891	II-b-5	I-8	黒曜石	21.95	(12.40)	2.90	(0.55)	片逆刺欠	38	
892	II-b-5	I-9	黒曜石	19.70	(11.70)	3.95	(0.75)	片逆刺欠	38	
893	II-b-5	I-11	黒曜石	18.45	(11.40)	2.55	(0.55)	片逆刺欠	38	
894	II-b-5	I-11	黒曜石	(10.75)	(10.65)	(2.45)	(2.25)	片逆刺残	38	
895	II-b-5	I-11	黒曜石	(19.50)	(11.10)	3.80	(0.45)	両逆刺欠	38	
896	II-b-5	I-11	黒曜石	(9.95)	(6.45)	(2.60)	(0.20)	片逆刺残	38	

第26表　石鏃計測表 ⑳

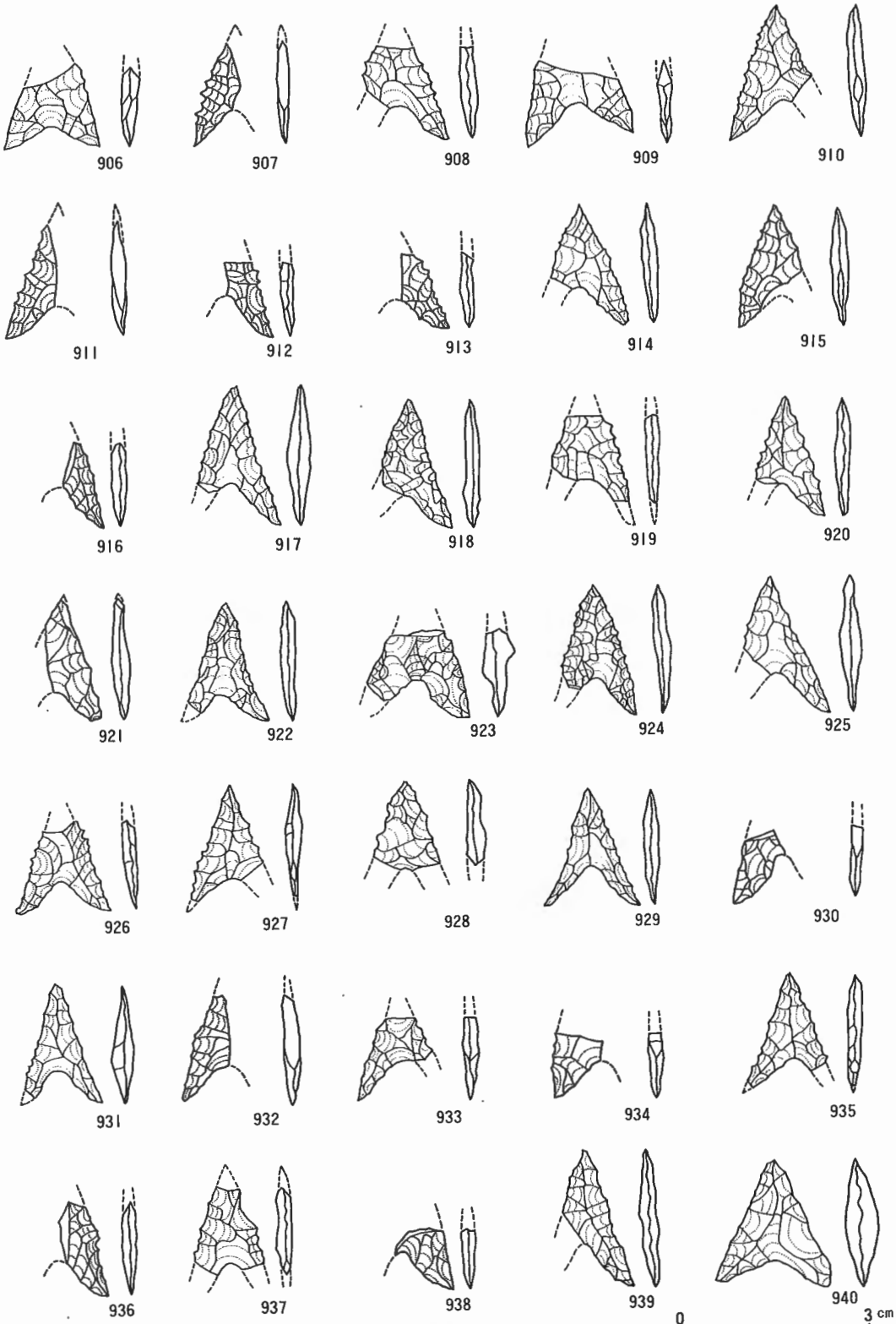

872
873
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
0
3 cm

第33図　石鏃実測図 ㉑

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
897	II-b-5	I-11	黒曜石	20.25	(14.90)	2.70	(0.60)	片逆刺欠	39	
898	II-b-5	I-11	黒曜石	(12.30)	(10.85)	(2.55)	(0.30)	片逆刺残	39	
899	II-b-5	I-12	黒曜石	(9.40)	(6.35)	(2.85)	(0.20)	片逆刺残	39	
900	II-b-5	I-12	黒曜石	(14.30)	(9.70)	(3.10)	(0.40)	片逆刺残	39	
901	II-b-5	I-12	黒曜石	23.65	(11.50)	3.20	(0.55)	片逆刺欠	39	
902	II-b-5	I-12	黒曜石	13.80	(13.55)	3.00	(0.65)	片逆刺欠	39	
903	II-b-5	I-12	黒曜石	19.30	(11.15)	2.95	(0.45)	片逆刺欠	39	
904	II-b-5	I-12	黒曜石	18.35	(10.75)	3.35	(0.45)	片逆刺欠	39	
905	II-b-5	I-12	黒曜石	(16.35)	(8.10)	(2.25)	(0.30)	片逆刺残	39	
906	II-b-5	I-12	黒曜石	(13.00)	14.80	2.80	(0.45)	先端部欠	39	
907	II-b-5	I-12	黒曜石	(16.25)	(6.70)	(2.20)	(0.30)	片逆刺残	39	
908	II-b-5	I-14	黒曜石	(14.40)	(12.60)	2.60	(0.60)	先端部片逆刺欠	39	
909	II-b-5	I-14	黒曜石	(12.90)	16.75	(2.15)	(0.45)	先端部欠	39	
910	II-b-5	I-15	黒曜石	20.85	(12.65)	2.75	(0.55)	片逆刺欠	39	
911	II-b-5	I-15	黒曜石	(17.70)	(7.80)	(2.65)	(0.35)	片逆刺残	39	
912	II-b-5	I-15	黒曜石	(11.30)	(7.95)	(2.20)	(0.25)	片逆刺残	39	
913	II-b-5	I-15	黒曜石	(11.75)	(7.30)	(2.15)	(0.25)	片逆刺残	39	
914	II-b-5	I-15	黒曜石	18.60	(11.50)	2.45	(0.30)	片逆刺欠	39	
915	II-b-5	I-15	黒曜石	18.30	(10.00)	2.45	(0.25)	片逆刺欠	39	
916	II-b-5	I-16	黒曜石	(13.10)	(6.10)	(2.20)	(0.25)	片逆刺残	39	
917	II-b-5	I-16	黒曜石	21.30	(12.70)	3.45	(0.40)	片逆刺欠	39	
918	II-b-5	I-20	黒曜石	19.65	(11.00)	2.30	(0.30)	片逆刺欠	39	
919	II-b-5	I-21	黒曜石	(13.55)	(12.65)	2.70	(0.35)	先端部両逆刺欠	39	
920	II-b-5	I-22	黒曜石	18.70	(11.00)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	39	
921	II-b-5	I-23	黒曜石	(19.30)	(9.30)	(3.20)	(0.40)	先端片逆刺欠	39	
922	II-b-5	I-24	黒曜石	18.50	(13.00)	2.25	(0.30)	片逆刺欠	39	
923	II-b-5	I-24	黒曜石	(14.00)	(16.75)	5.40	(0.60)	先端部片逆刺欠	39	
924	II-b-5	I-25	黒曜石	20.00	(11.55)	2.85	(0.35)	片逆刺欠	39	
925	II-b-5	J-7	黒曜石	20.40	(14.60)	3.45	(0.65)	片逆刺欠	39	
926	II-b-5	J-7	黒曜石	(13.90)	14.40	2.55	(0.50)	先端部欠	39	
927	II-b-5	J-7	黒曜石	(17.05)	(11.30)	2.80	(0.45)	両逆刺欠	39	
928	II-b-5	J-8	黒曜石	(13.75)	(10.45)	3.15	(0.45)	両逆刺欠	39	
929	II-b-5	J-8	チャート	18.40	14.95	2.55	0.50	完　形	39	
930	II-b-5	J-9	黒曜石	(9.75)	(9.70)	(2.15)	(0.35)	片逆刺残	39	
931	II-b-5	J-11	黒曜石	18.25	(12.20)	3.55	(0.55)	片逆刺欠	39	
932	II-b-5	J-11	黒曜石	(16.35)	(7.45)	(2.90)	(0.30)	片逆刺残	39	
933	II-b-5	J-11	黒曜石	(11.45)	(13.10)	2.70	(0.30)	先端部片逆刺欠	39	
934	II-b-5	J-11	黒曜石	(14.20)	(7.90)	(2.65)	(0.25)	片逆刺残	39	
935	II-b-5	J-12	黒曜石	(17.30)	(12.25)	2.25	(0.55)	両逆刺欠	39	
936	II-b-5	J-12	黒曜石	(14.70)	(8.55)	(2.20)	(0.30)	片逆刺残	39	
937	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.55)	(10.95)	2.50	(0.35)	先端部両逆刺欠	39	
938	II-b-5	J-12	黒曜石	(9.25)	(9.20)	(2.55)	(0.20)	片逆刺残	39	
939	II-b-5	J-12	黒曜石	15.40	(10.55)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	39	
940	II-b-5	J-12	黒曜石	18.95	17.85	5.70	1.10	完　形	39	

第27表　石鏃計測表 ㉑

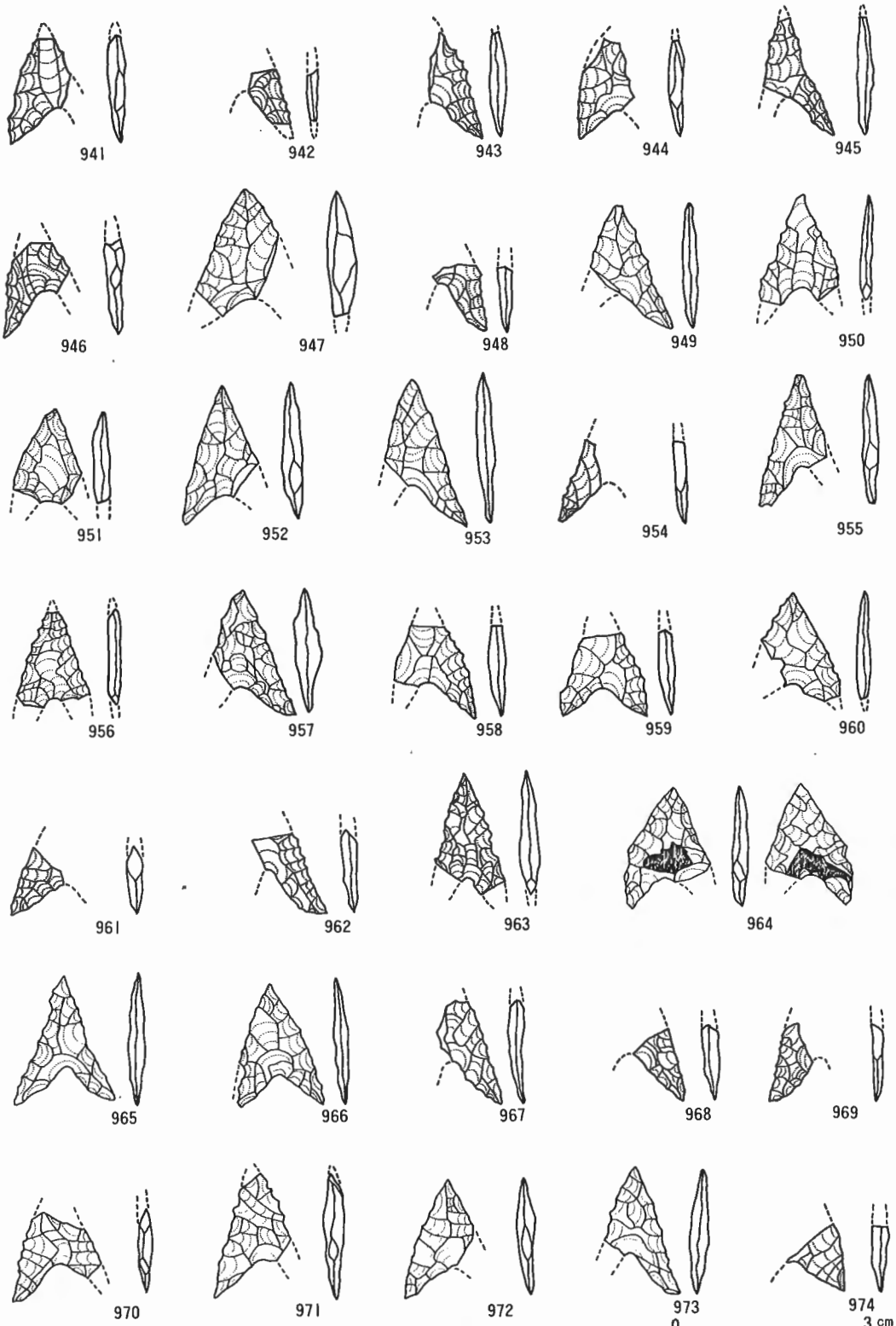

906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
0
3 cm

第34図　石鏃実測図 ㉒

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
941	II-b-5	J-12	黒 曜 石	(16.40)	(10.55)	2.65	0.35	先端片逆刺欠	39	
942	II-b-5	J-12	黒 曜 石	(8.15)	(7.00)	(2.65)	(0.15)	片逆刺残	39	
943	II-b-5	J-12	黒 曜 石	(16.10)	(13.45)	(3.15)	(0.30)	片逆刺残	39	
944	II-b-5	J-12	黒 曜 石	(15.30)	(8.55)	(2.35)	(0.35)	片逆刺残	39	
945	II-b-5	J-12	黒 曜 石	(17.95)	(11.20)	2.60	(0.35)	先端片逆刺欠	39	
946	II-b-5	J-12	黒 曜 石	(23.95)	(9.05)	2.95	(0.35)	先端部片逆刺欠	39	
947	II-b-5	J-12	黒 曜 石	(14.45)	(12.15)	4.35	(0.95)	両逆刺欠	39	
948	II-b-5	J-13	黒 曜 石	(10.40)	(8.45)	(2.50)	(0.30)	片逆刺残	39	
949	II-b-5	J-13	黒 曜 石	18.95	(13.10)	2.35	(0.45)	片逆刺欠	39	
950	II-b-5	J-13	黒 曜 石	(16.85)	(13.95)	2.90	(0.45)	両逆刺欠	39	
951	II-b-5	J-13	黒 曜 石	(14.40)	(10.50)	2.80	(0.55)	両逆刺欠	39	
952	II-b-5	J-13	黒 曜 石	20.95	(11.90)	3.40	(0.75)	片逆刺欠	39	
953	II-b-5	J-13	黒 曜 石	23.05	(12.65)	2.90	(0.70)	片逆刺欠	39	
954	II-b-5	J-13	黒 曜 石	(12.75)	(6.85)	(0.75)	(0.35)	片逆刺残	39	
955	II-b-5	J-14	黒 曜 石	19.85	(10.75)	2.25	(0.55)	片逆刺欠	39	
956	II-b-5	J-18	黒 曜 石	(14.60)	(11.00)	2.10	(0.30)	先端両逆刺欠	39	
957	II-b-5	J-18	黒 曜 石	19.00	(12.95)	4.30	(0.55)	片逆刺欠	39	
958	II-b-5	J-22	黒 曜 石	(15.00)	(12.75)	3.00	(0.45)	先端部片逆刺欠	39	
959	II-b-5	J-22	黒 曜 石	(13.60)	13.65	2.70	(0.35)	先端部欠	39	
960	II-b-5	J-22	黒 曜 石	(17.20)	(12.60)	2.90	(0.35)	両逆刺欠	39	
961	II-b-5	J-23	黒 曜 石	(10.00)	(8.00)	(3.00)	(0.15)	片逆刺残	39	
962	II-b-5	J-23	黒 曜 石	(13.00)	(11.00)	(2.65)	(0.20)	片逆刺残	39	
963	II-b-5	J-23	黒 曜 石	(19.20)	(10.80)	3.00	(0.35)	両逆刺欠	39	
964	II-b-5	J-23	黒 曜 石	(18.60)	(13.70)	2.40	(0.40)	片逆刺欠	39	局部磨製
965	II-b-5	J-24	黒 曜 石	20.10	16.00	2.80	0.35	完　形	39	
966	II-b-5	J-24	黒 曜 石	19.50	(13.85)	2.50	(0.40)	片逆刺欠	39	
967	II-b-5	J-24	黒 曜 石	(16.20)	(10.75)	(2.75)	(0.25)	片逆刺残	39	
968	II-b-5	J-25	黒 曜 石	(10.45)	(9.00)	(2.20)	(0.10)	片逆刺残	39	
969	II-b-5	K-7	黒 曜 石	(11.55)	(6.50)	(2.15)	(0.25)	片逆刺残	39	
970	II-b-5	K-12	黒 曜 石	(13.55)	(13.90)	2.90	(0.45)	先端部片逆刺欠	39	
971	II-b-5	K-12	黒 曜 石	(18.60)	(14.20)	2.65	(0.55)	先端片逆刺欠	39	
972	II-b-5	K-12	黒 曜 石	17.85	(10.55)	2.55	(0.55)	片逆刺欠	39	
973	II-b-5	K-12	黒 曜 石	19.35	(12.75)	2.95	(0.55)	片逆刺欠	39	
974	II-b-5	K-12	黒 曜 石	(10.25)	(9.15)	(2.55)	(0.30)	片逆刺残	39	
975	II-b-5	K-12	黒 曜 石	(17.60)	(12.20)	2.35	(0.70)	両逆刺欠	39	
976	II-b-5	K-12	黒 曜 石	(15.20)	(7.60)	2.60	(0.40)	両逆刺欠	39	
977	II-b-5	K-12	黒 曜 石	(14.85)	(10.50)	2.95	(0.45)	両逆刺欠	40	
978	II-b-5	K-12	黒 曜 石	19.55	(11.80)	3.45	(0.60)	片逆刺欠	40	
979	II-b-5	K-12	黒 曜 石	17.50	(11.25)	2.75	(0.45)	片逆刺欠	40	
980	II-b-5	K-12	黒 曜 石	20.55	(20.75)	2.85	(0.60)	片逆刺欠	40	
981	II-b-5	K-13	黒 曜 石	(12.50)	13.55	2.25	(0.50)	先端部欠	40	
982	II-b-5	K-13	黒 曜 石	18.75	13.20	2.65	0.55	完　形	40	
983	II-b-5	K-13	黒 曜 石	(17.50)	(13.50)	3.75	(0.75)	先端片逆刺欠	40	
984	II-b-5	K-13	黒 曜 石	19.90	(8.15)	2.90	(0.55)	片逆刺欠	40	

第28表　石鏃計測表 ㉒

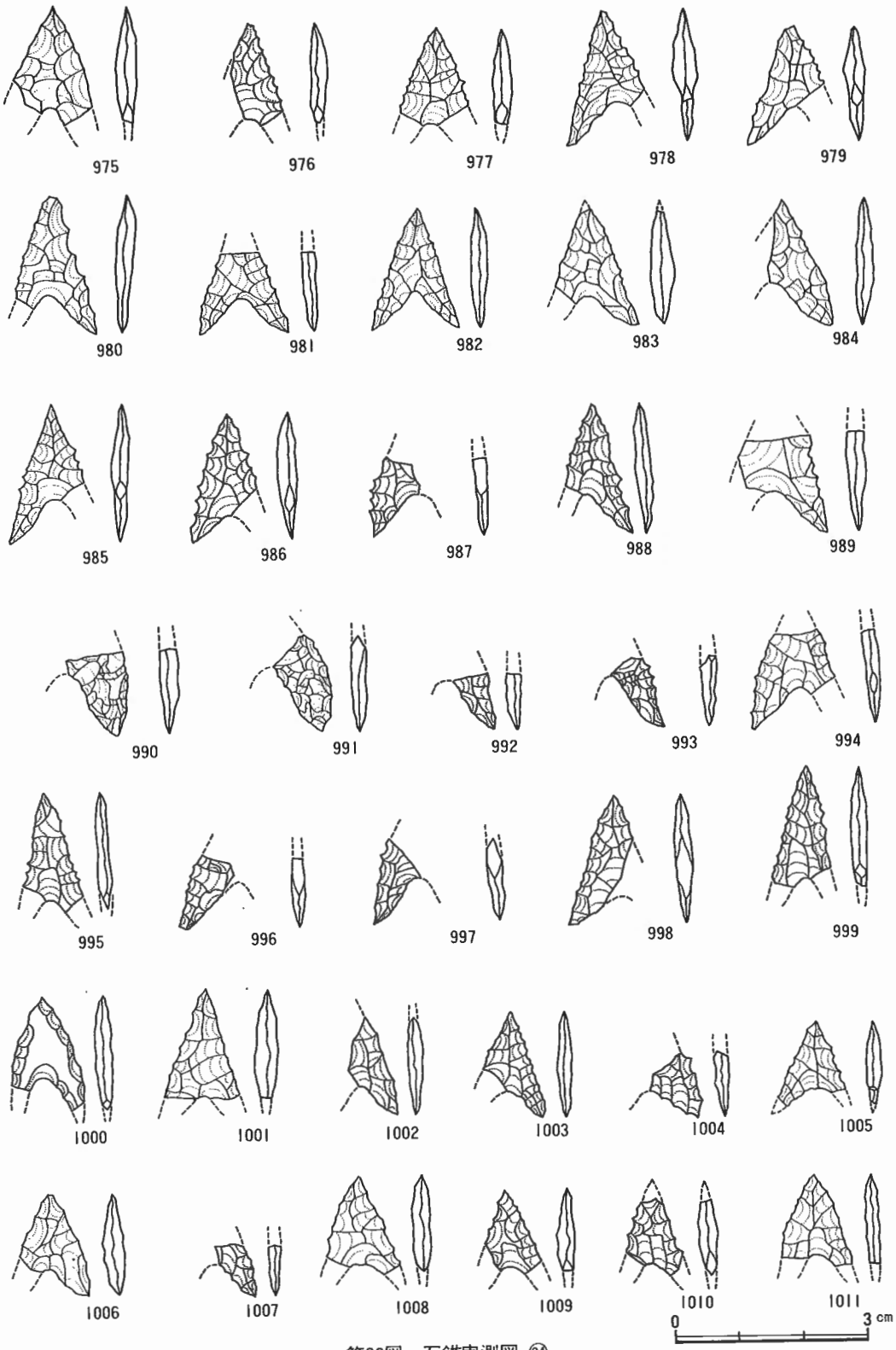

941
942
943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
0
3 cm

第35図　石鏃実測図 ㉓

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
985	II-b-5	K-13	黒曜石	20.95	(10.85)	2.65	(0.50)	片逆刺欠	40	
986	II-b-5	K-13	黒曜石	19.25	(9.70)	3.20	(0.55)	片逆刺欠	40	
987	II-b-5	K-13	黒曜石	(11.60)	(7.95)	(2.25)	(0.30)	片逆刺残	40	
988	II-b-5	K-19	黒曜石	20.00	(9.75)	2.60	(0.30)	片逆刺欠	40	
989	II-b-5	K-22	黒曜石	(15.60)	(12.00)	3.55	(0.55)	先端部片逆刺欠	40	
990	II-b-5	K-23	黒曜石	(12.20)	(13.55)	(3.00)	(0.35)	片逆刺残	40	
991	II-b-5	K-23	黒曜石	(15.00)	(9.45)	(2.30)	(0.20)	片逆刺残	40	
992	II-b-5	K-25	黒曜石	(10.50)	(8.40)	(4.45)	(0.10)	片逆刺残	40	
993	II-b-5	K-26	黒曜石	(10.80)	(8.20)	(2.70)	(0.10)	片逆刺残	40	
994	II-b-5	L-11	黒曜石	(14.75)	(13.35)	2.50	(0.30)	先端部片逆刺欠	40	
995	II-b-5	L-12	黒曜石	(18.45)	(9.30)	2.40	(0.40)	両逆刺欠	40	
996	II-b-5	L-13	黒曜石	(11.10)	(8.45)	(2.20)	(0.35)	片逆刺残	40	
997	II-b-5	L-13	黒曜石	(13.20)	(7.40)	(2.10)	(0.30)	片逆刺残	40	
998	II-b-5	L-23	黒曜石	19.20	(11.00)	2.70	(0.30)	片逆刺欠	40	
999	II-b-5	M-11	黒曜石	(18.80)	(8.60)	2.20	(0.25)	両逆刺欠	40	
1000	II-b-5	N-20	頁　岩	(17.80)	(11.35)	2.60	(0.35)	両逆刺欠	40	
1001	II-b-5	N-25	黒曜石	(17.00)	(12.00)	3.70	(0.55)	両逆刺欠	40	
1002	II-b-5	C-12	黒曜石	(15.00)	(7.75)	(2.60)	(0.20)	片逆刺残	40	
1003	II-b-5	C-12	黒曜石	15.70	(10.00)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	40	
1004	II-b-5	C-14	黒曜石	(9.65)	(8.45)	(3.10)	(0.15)	片逆刺残	40	
1005	II-b-5	C-14	黒曜石	(10.50)	(13.50)	2.30	(0.25)	両逆刺欠	40	
1006	II-b-5	C-14	黒曜石	15.45	(10.85)	3.70	(0.40)	片逆刺欠	40	
1007	II-b-5	C-15	黒曜石	(8.50)	(6.10)	(1.80)	(0.05)	片逆刺残	40	
1008	II-b-5	C-15	黒曜石	(15.00)	(11.25)	3.00	(0.30)	両逆刺欠	40	
1009	II-b-5	C-15	黒曜石	(12.70)	(8.70)	2.85	(0.20)	両逆刺欠	40	
1010	II-b-5	C-15	黒曜石	(11.80)	(8.70)	3.15	(0.25)	先端部両逆刺欠	40	
1011	II-b-5	C-15	黒曜石	(14.20)	(10.70)	2.20	(0.20)	両逆刺欠	40	
1012	II-b-5	C-17	黒曜石	(13.00)	(11.20)	2.50	(0.35)	先端部片逆刺欠	40	
1013	II-b-5	C-17	黒曜石	(9.30)	(11.30)	2.20	(0.25)	先端部片逆刺欠	40	
1014	II-b-5	C-17	黒曜石	(12.65)	(12.20)	2.30	(0.35)	先端部片逆刺欠	40	
1015	II-b-5	C-17	黒曜石	16.55	(10.30)	2.65	(0.20)	片逆刺欠	40	
1016	II-b-5	C-18	黒曜石	(9.20)	14.00	(2.45)	(0.20)	先端部欠	40	
1017	II-b-5	C-19	黒曜石	17.10	(13.30)	3.20	(0.40)	片逆刺欠	40	
1018	II-b-5	D-5	黒曜石	14.60	(11.15)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	40	
1019	II-b-5	D-11	黒曜石	(10.60)	(8.20)	(2.20)	(0.10)	片逆刺残	40	
1020	II-b-5	D-11	黒曜石	(14.70)	11.45	2.20	(0.20)	先端欠	40	
1021	II-b-5	D-12	黒曜石	15.20	(10.50)	2.20	(0.20)	片逆刺欠	40	
1022	II-b-5	D-12	黒曜石	(13.80)	(8.80)	2.45	(0.20)	両逆刺欠	40	
1023	II-b-5	D-12	黒曜石	17.70	(11.70)	2.80	(0.35)	略完形	40	
1024	II-b-5	D-13	黒曜石	(14.00)	(9.40)	2.20	(0.20)	先端部片逆刺欠	40	
1025	II-b-5	D-13	黒曜石	(12.00)	(6.30)	(2.70)	(0.15)	片逆刺残	40	
1026	II-b-5	D-14	黒曜石	12.50	(17.00)	2.10	(0.30)	片逆刺欠	40	
1027	II-b-5	D-14	黒曜石	16.00	(11.50)	3.30	(0.30)	片逆刺欠	40	
1028	II-b-5	D-14	黒曜石	16.60	14.00	4.00	0.35	完　形	40	

第29表　石鏃計測表 ㉓

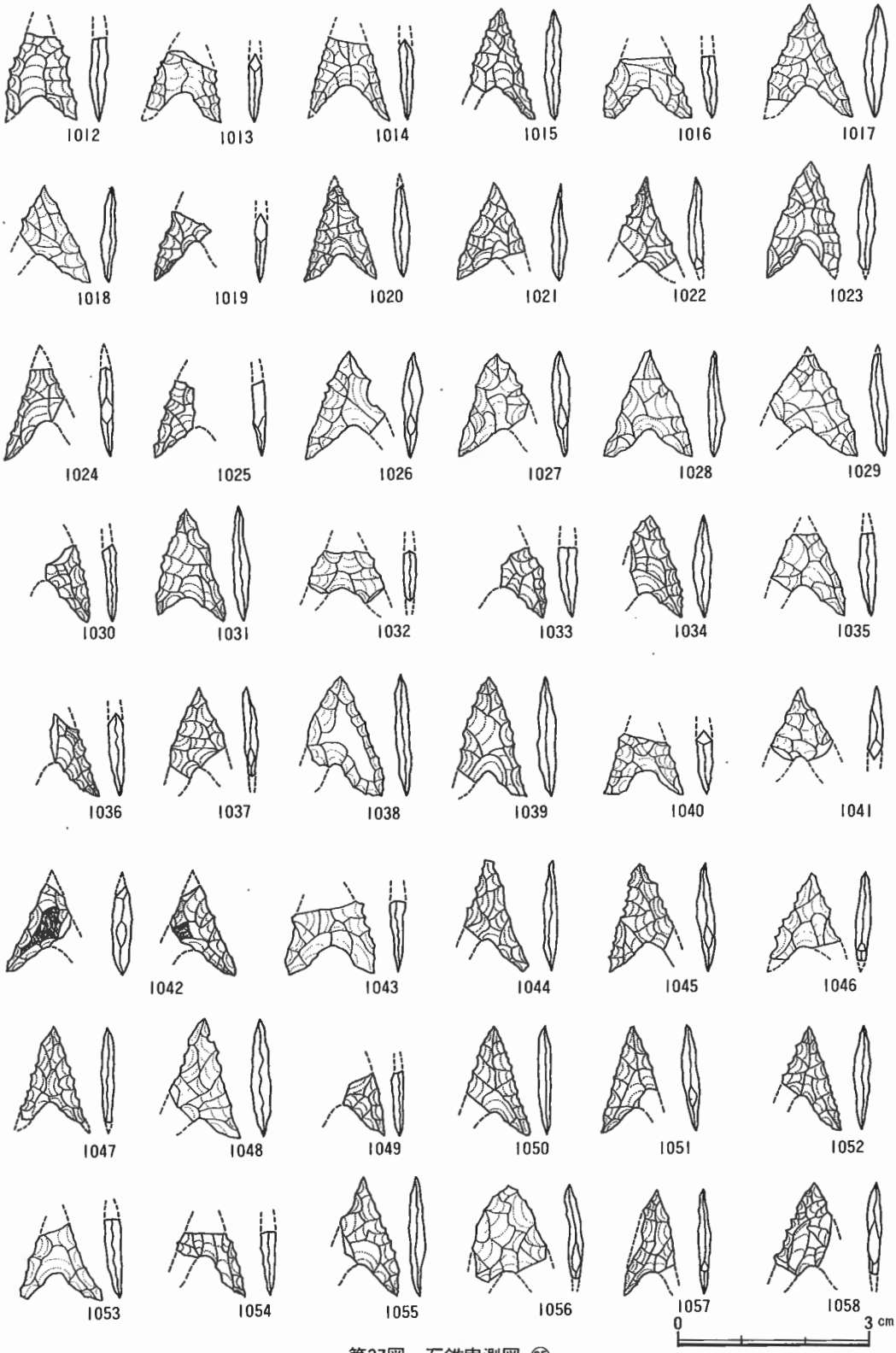

975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000
1001
1002
1003
1004
1005
1006
1007
1008
1009
1010
1011
0
3 cm

第36図　石鏃実測図 ㉔

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1029	II-b-5	D-15	黒 曜 石	(15.20)	(13.30)	2.90	(0.45)	先端片逆刺欠	40	
1030	II-b-5	D-15	黒 曜 石	(12.00)	(7.00)	(2.50)	(0.10)	片逆刺残	40	
1031	II-b-5	D-15	黒 曜 石	17.50	10.60	2.10	0.25	完　形	40	
1032	II-b-5	D-16	黒 曜 石	(8.30)	(11.60)	2.00	(0.15)	先端部両逆刺欠	40	
1033	II-b-5	D-16	黒 曜 石	(11.00)	(6.65)	(3.00)	(0.20)	片逆刺残	40	
1034	II-b-5	D-17	黒 曜 石	15.85	(8.55)	3.10	(0.30)	片逆刺欠	40	
1035	II-b-5	D-17	黒 曜 石	(12.55)	(12.00)	2.95	(0.25)	先端部片逆刺欠	40	
1036	II-b-5	D-17	黒 曜 石	(13.05)	(7.75)	(2.90)	(0.15)	片逆刺残	40	
1037	II-b-5	D-18	黒 曜 石	(14.00)	(8.60)	2.50	(0.20)	両逆刺欠	40	
1038	II-b-5	D-18	黒 曜 石	18.25	(12.00)	2.10	(0.40)	片逆刺欠	40	
1039	II-b-5	D-19	黒 曜 石	18.30	(10.00)	3.00	(0.35)	片逆刺欠	40	
1040	II-b-5	E-10	黒 曜 石	(9.50)	(12.20)	2.70	(0.20)	先端部欠	40	
1041	II-b-5	E-10	黒 曜 石	(11.30)	(9.50)	2.40	(0.20)	両逆刺欠	40	
1042	II-b-5	E-10	黒 曜 石	(14.00)	(14.90)	2.45	(0.20)	先端片逆刺欠	40	局部磨製
1043	II-b-5	E-12	黒 曜 石	(11.85)	14.00	2.60	(0.40)	先端部欠	40	
1044	II-b-5	E-12	黒 曜 石	17.00	(10.00)	2,90	(0.20)	片逆刺欠	40	
1045	II-b-5	E-13	黒 曜 石	16.65	(10.50)	2.65	(0.25)	片逆刺欠	40	
1046	II-b-5	E-14	黒 曜 石	(13.70)	(11.00)	3.30	(0.20)	両逆刺欠	40	
1047	II-b-5	E-14	黒 曜 石	(15.00)	(10.50)	2.90	(0.25)	両逆刺欠	40	
1048	II-b-5	E-14	黒 曜 石	18.65	(11.00)	3.30	(0.40)	片逆刺欠	40	
1049	II-b-5	E-14	黒 曜 石	(10.00)	(6.70)	(2.50)	(0.10)	片逆刺残	40	
1050	II-b-5	E-15	黒 曜 石	16.50	(9.00)	2.15	(0.20)	片逆刺欠	40	
1051	II-b-5	E-16	黒 曜 石	15.70	(8.40)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	40	
1052	II-b-5	E-16	黒 曜 石	16.00	(9.00)	2.45	(0.20)	片逆刺欠	40	
1053	II-b-5	E-16	黒 曜 石	(11.60)	12.00	2.70	(0.20)	先端部欠	40	
1054	II-b-5	E-16	黒 曜 石	(10.00)	(10.40)	(2.30)	(0.20)	先端部片逆刺欠	40	
1055	II-b-5	E-17	黒 曜 石	18.15	(9.30)	2.50	(0.30)	片逆刺欠	40	
1056	II-b-5	E-18	黒 曜 石	(14.80)	(11.80)	2.55	(0.40)	両逆刺欠	40	
1057	II-b-5	E-18	黒 曜 石	16.40	(8.25)	2.10	(0.20)	片側辺片逆刺欠	41	
1058	II-b-5	E-19	黒 曜 石	(14.00)	(8.60)	2.85	(0.15)	両逆刺欠	41	
1059	II-b-5	E-19	黒 曜 石	15.70	(12.60)	2.80	(0.20)	片逆刺欠	41	
1060	II-b-5	E-20	黒 曜 石	(11.00)	11.20	2.60	(0.20)	先端部欠	41	
1061	II-b-5	F-7	黒 曜 石	(12.00)	(8.50)	2.10	(0.25)	両逆刺欠	41	
1062	II-b-5	F-11	黒 曜 石	15.50	11.60	2.75	(0.15)	略完形	41	局部磨製
1063	II-b-5	F-15	黒 曜 石	13.80	13.40	3.20	0.30	完　形	41	
1064	II-b-5	F-15	黒 曜 石	(12.40)	13.30	2.70	(0.25)	先端部欠	41	
1065	II-b-5	F-15	黒 曜 石	15.10	(7.40)	2.30	(0.20)	片逆刺欠	41	
1066	II-b-5	F-16	黒 曜 石	(11.60)	(7.60)	(2.65)	(0.25)	片逆刺残	41	
1067	II-b-5	F-16	黒 曜 石	14.30	(10.00)	2.65	(0.25)	片逆刺欠	41	
1068	II-b-5	F-16	黒 曜 石	(12.00)	(12.45)	2.40	(0.30)	先端部片逆刺欠	41	
1069	II-b-5	F-17	黒 曜 石	17.80	(10.00)	2.15	(0.25)	片逆刺欠	41	
1070	II-b-5	F-17	黒 曜 石	15.30	(11.00)	2.90	(0.25)	片逆刺欠	41	
1071	II-b-5	F-17	黒 曜 石	(13.10)	(9.90)	3.00	(0.15)	両逆刺欠	41	
1072	II-b-5	F-18	黒 曜 石	(14.80)	(11.80)	2.55	(0.40)	両逆刺欠	41	

第30表　石鏃計測表 ㉔

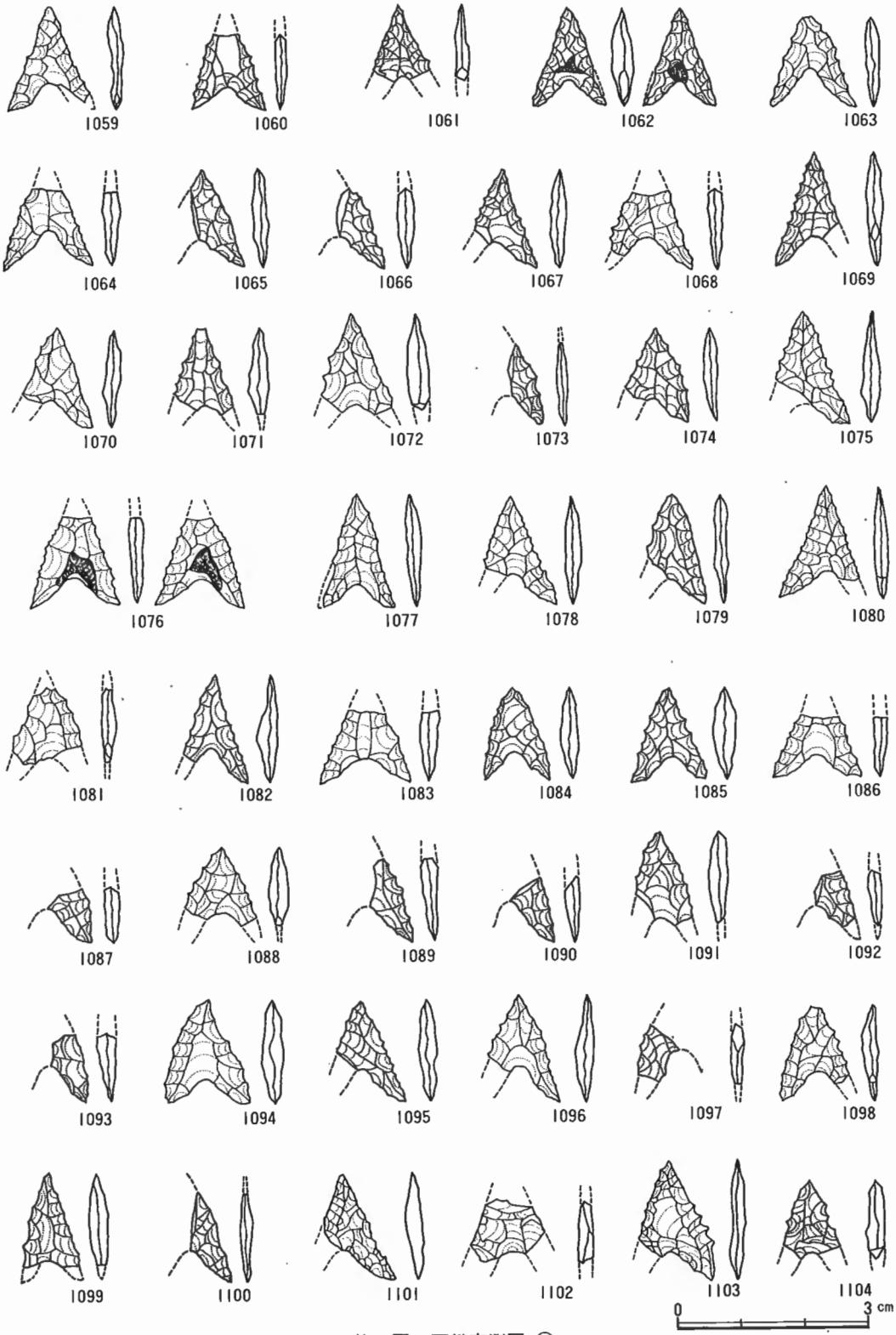

1012
1013
1014
1015
1016
1017
1018
1019
1020
1021
1022
1023
1024
1025
1026
1027
1028
1029
1030
1031
1032
1033
1034
1035
1036
1037
1038
1039
1040
1041
1042
1043
1044
1045
1046
1047
1048
1049
1050
1051
1052
1053
1054
1055
1056
1057
1058
0
3 cm

第37図　石鏃実測図 ㉕

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1073	II-b-5	F-18	黒 曜 石	(12.30)	(5.60)	(2.90)	(0.10)	片逆刺残	41	
1074	II-b-5	F-19	黒 曜 石	14.40	(9.80)	2.95	(0.20)	片逆刺欠	41	
1075	II-b-5	F-20	黒 曜 石	18.50	(12.00)	2.95	(0.35)	片逆刺欠	41	
1076	II-b-5	F-20	チャート	(14.00)	13.80	2.70	(0.40)	先端部欠	41	局部磨製
1077	II-b-5	F-20	黒 曜 石	17.75	(11.45)	2.75	(0.35)	略完　形	41	
1078	II-b-5	F-20	黒 曜 石	17.00	(11.80)	2.65	(0.20)	片逆刺欠	41	
1079	II-b-5	F-20	黒 曜 石	16.85	(14.00)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	41	
1080	II-b-5	F-20	黒 曜 石	17.30	(13.00)	2.55	(0.30)	片逆刺欠	41	
1081	II-b-5	F-21	黒 曜 石	(12.00)	(11.00)	2.25	(0.25)	先端両逆刺欠	41	
1082	II-b-5	G-12	黒 曜 石	16.35	(10.15)	3.35	(0.25)	片逆刺欠	41	
1083	II-b-5	G-13	黒 曜 石	(11.70)	13.80	3.10	(0.30)	先端部欠	41	
1084	II-b-5	G-13	黒 曜 石	14.50	10.15	2.50	0.20	完　形	41	
1085	II-b-5	G-13	黒 曜 石	14.00	11.60	3.40	0.30	完　形	41	
1086	II-b-5	G-13	黒 曜 石	(10.00)	13.70	2.40	(0.25)	先端部欠	41	
1087	II-b-5	G-14	黒 曜 石	(8.30)	(7.00)	(2.25)	(0.10)	片逆刺残	41	
1088	II-b-5	G-15	黒 曜 石	(12.10)	(11.00)	3.00	(0.25)	両逆刺欠	41	
1089	II-b-5	G-15	黒 曜 石	(13.00)	(6.60)	(3.00)	(0.10)	片逆刺残	41	
1090	II-b-5	G-15	黒 曜 石	(10.00)	(6.60)	(2.10)	(0.10)	片逆刺残	41	
1091	II-b-5	G-15	黒 曜 石	(14.05)	(8.60)	3.05	(0.30)	両逆刺欠	41	
1092	II-b-5	G-15	黒 曜 石	(8.60)	(6.30)	(3.10)	(0.10)	片逆刺残	41	
1093	II-b-5	G-15	黒 曜 石	(10.35)	(5.40)	(3.00)	(0.10)	片逆刺残	41	
1094	II-b-5	G-16	黒 曜 石	15.55	13.10	3.30	0.50	完　形	41	
1095	II-b-5	G-16	黒 曜 石	15.50	(10.65)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	41	
1096	II-b-5	G-16	黒 曜 石	15.90	(11.60)	2.70	(0.30)	片逆刺欠	41	
1097	II-b-5	G-16	黒 曜 石	(8.00)	(6.55)	(2.00)	(0.15)	片逆刺残	41	
1098	II-b-5	G-17	黒 曜 石	14.30	(11.20)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	41	
1099	II-b-5	G-18	黒 曜 石	(15.50)	(8.40)	1.40	(0.30)	両逆刺欠	41	
1100	II-b-5	G-18	黒 曜 石	(14.70)	(6.00)	(2.90)	(0.10)	片逆刺残	41	
1101	II-b-5	G-20	黒 曜 石	16.20	(11.00)	2.55	(0.20)	片逆刺欠	41	
1102	II-b-5	G-20	黒 曜 石	(9.80)	(11.60)	2.55	(0.25)	先端部両逆刺欠	41	
1103	II-b-5	G-20	黒 曜 石	18.60	(11.70)	2.40	(0.30)	片逆刺欠	41	
1104	II-b-5	H-10	黒 曜 石	(11.80)	(8.40)	3.10	(0.45)	両逆刺欠	41	
1105	II-b-5	H-10	黒 曜 石	15.40	(10.20)	2.00	(0.20)	片逆刺欠	41	
1106	II-b-5	H-11	黒 曜 石	(11.60)	(10.30)	(2.50)	(0.35)	片逆刺残	41	
1107	II-b-5	H-11	黒 曜 石	15.75	(9.55)	2.60	(0.45)	片逆刺欠	41	
1108	II-b-5	H-11	黒 曜 石	17.50	(11.05)	2.95	(0.55)	片逆刺欠	41	
1109	II-b-5	H-11	黒 曜 石	12.25	(12.70)	2.85	(0.55)	片逆刺欠	41	局部磨製
1110	II-b-5	H-11	黒 曜 石	(10.45)	(12.20)	2.90	(0.50)	先端部片逆刺欠	41	
1111	II-b-5	H-11	黒 曜 石	(13.60)	15.30	2.30	(0.55)	先端部欠	41	
1112	II-b-5	H-15	黒 曜 石	(11.40)	(11.60)	2.20	(0.20)	先端部片逆刺欠	41	
1113	II-b-5	H-16	黒 曜 石	(14.85)	(9.60)	3.10	(0.25)	両逆刺欠	41	
1114	II-b-5	H-16	黒 曜 石	16.70	11.00	3.00	0.30	完　形	41	
1115	II-b-5	H-16	黒 曜 石	(13.80)	(9.40)	3.00	(0.25)	両逆刺欠	41	
1116	II-b-5	H-16	黒 曜 石	(12.35)	13.30	2.20	(0.30)	先端部欠	41	

第31表　石鏃計測表 ㉕

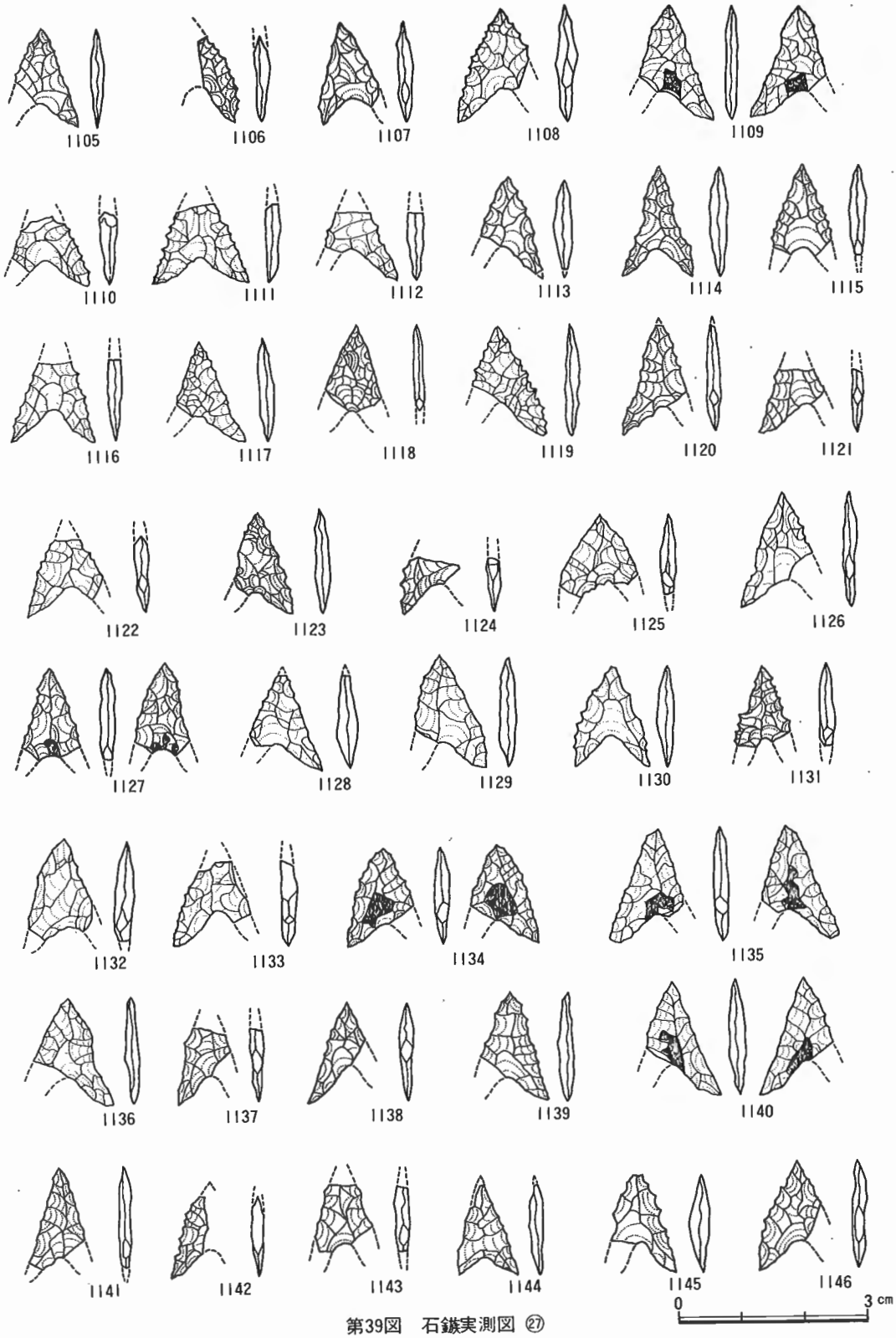

1059
1060
1061
1062
1063
1064
1065
1066
1067
1068
1069
1070
1071
1072
1073
1074
1075
1076
1077
1078
1079
1080
1081
1082
1083
1084
1085
1086
1087
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
0
3 cm

第38図　石鏃実測図 ㉖

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1117	II-b-5	H-20	黒 曜 石	16.00	(11.20)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	41	
1118	II-b-5	H-20	黒 曜 石	(13.55)	(9.00)	2.90	(0.15)	両逆刺欠	41	
1119	II-b-5	H-20	黒 曜 石	17.40	(11.60)	2.20	(0.25)	片逆刺欠	41	
1120	II-b-5	H-21	黒 曜 石	(17.20)	(10.60)	2.65	(0.25)	先端片逆刺欠	41	
1121	II-b-5	H-21	黒 曜 石	(10.00)	(10.35)	2.20	(0.15)	先端部片逆刺欠	41	
1122	II-b-5	H-22	黒 曜 石	(12.00)	(12.55)	2.65	(0.25)	先端部片逆刺欠	41	
1123	II-b-5	H-24	黒 曜 石	16.75	(9.20)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	41	
1124	II-b-5	I-6	黒 曜 石	(8.80)	(9.40)	(2.30)	(0.30)	片逆刺残	41	
1125	II-b-5	I-7	黒 曜 石	(12.70)	(12.70)	2.70	(0.45)	両逆刺欠	41	
1126	II-b-5	I-7	黒 曜 石	17.60	(11.75)	2.55	(0.45)	片逆刺欠	41	
1127	II-b-5	I-8	黒 曜 石	(14.65)	(9.30)	2.35	(0.45)	両逆刺欠	41	局部磨製
1128	II-b-5	I-8	黒 曜 石	(14.50)	(11.75)	3.30	(0.55)	先端片逆刺欠	41	
1129	II-b-5	I-8	黒 曜 石	16.75	(11.80)	2.75	(0.60)	片逆刺欠	41	
1130	II-b-5	I-8	黒 曜 石	16.35	12.40	2.55	0.45	完　形	41	
1131	II-b-5	I-8	黒 曜 石	(12.65)	(8.65)	2.50	(0.40)	両逆刺欠	41	
1132	II-b-5	I-8	黒 曜 石	(15.50)	(9.75)	3.25	(0.65)	両逆刺欠	41	
1133	II-b-5	I-10	黒 曜 石	(12.90)	(12.55)	2.65	(0.50)	先端部片逆刺欠	41	
1134	II-b-5	I-11	黒 曜 石	14.75	(10.50)	2.70	(0.45)	片逆刺欠	41	局部磨製
1135	II-b-5	I-11	黒 曜 石	17.05	(12.45)	2.80	(0.55)	片逆刺欠	41	局部磨製
1136	II-b-5	I-11	黒 曜 石	16.40	(13.15)	2.15	(0.45)	片逆刺欠	41	
1137	II-b-5	I-11	黒 曜 石	(11.85)	(8.80)	(2.55)	(0.25)	先端部片逆刺欠	42	
1138	II-b-5	I-11	黒 曜 石	15.30	(8.80)	2.20	(0.30)	片逆刺欠	42	
1139	II-b-5	I-11	黒 曜 石	17.00	(11.25)	2.30	(0.40)	片逆刺欠	42	
1140	II-b-5	I-11	黒 曜 石	17.95	(10.20)	2.90	(0.45)	片逆刺欠	42	局部磨製
1141	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(15.55)	(9.30)	2.50	(0.35)	両逆刺欠	42	
1142	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(13.25)	(5.25)	(2.35)	(0.20)	片逆刺残	42	
1143	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(9.90)	(8.80)	2.65	(0.35)	先端部両逆刺欠	42	
1144	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(14.30)	9.85	2.45	(0.30)	先端欠	42	
1145	II-b-5	I-12	黒 曜 石	15.25	(10.90)	2.95	(0.40)	片逆刺欠	42	
1146	II-b-5	I-12	黒 曜 石	17.45	(8.85)	2.20	(0.35)	片逆刺欠	42	
1147	II-b-5	I-12	黒 曜 石	16.85	11.35	2.25	0.35	完　形	42	
1148	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(8.75)	(7.20)	(2.15)	(0.25)	片逆刺残	42	
1149	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(12.95)	(8.35)	2.95	(0.20)	両逆刺欠	42	
1150	II-b-5	I-12	黒 曜 石	16.75	(9.80)	2.45	(0.35)	片逆刺欠	42	
1151	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(12.70)	11.20	2.60	(0.35)	先端部欠	42	
1152	II-b-5	I-12	黒 曜 石	15.15	(10.80)	2.55	(0.30)	片逆刺欠	42	
1153	II-b-5	I-12	黒 曜 石	17.30	(10.90)	3.40	(0.45)	片逆刺欠	42	
1154	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(8.60)	(5.40)	(2.30)	(0.20)	片逆刺残	42	
1155	II-b-5	I-12	黒 曜 石	(6.55)	(5.50)	(2.90)	(0.25)	片逆刺残	42	
1156	II-b-5	I-12	黒 曜 石	15.90	(10.55)	2.40	(0.30)	片逆刺欠	42	
1157	II-b-5	I-13	黒 曜 石	(9.75)	11.70	2.40	(0.45)	先端部欠	42	
1158	II-b-5	I-13	黒 曜 石	16.80	(8.80)	(2.35)	(0.45)	片逆刺欠	42	
1159	II-b-5	I-14	黒 曜 石	(11・30)	(11.90)	2.40	(0.40)	先端部片逆刺欠	42	
1160	II-b-5	I-15	黒 曜 石	(13.70)	(9.50)	2.80	(0.40)	先端部両逆刺欠	42	

第32表　石鏃計測表 ㉖

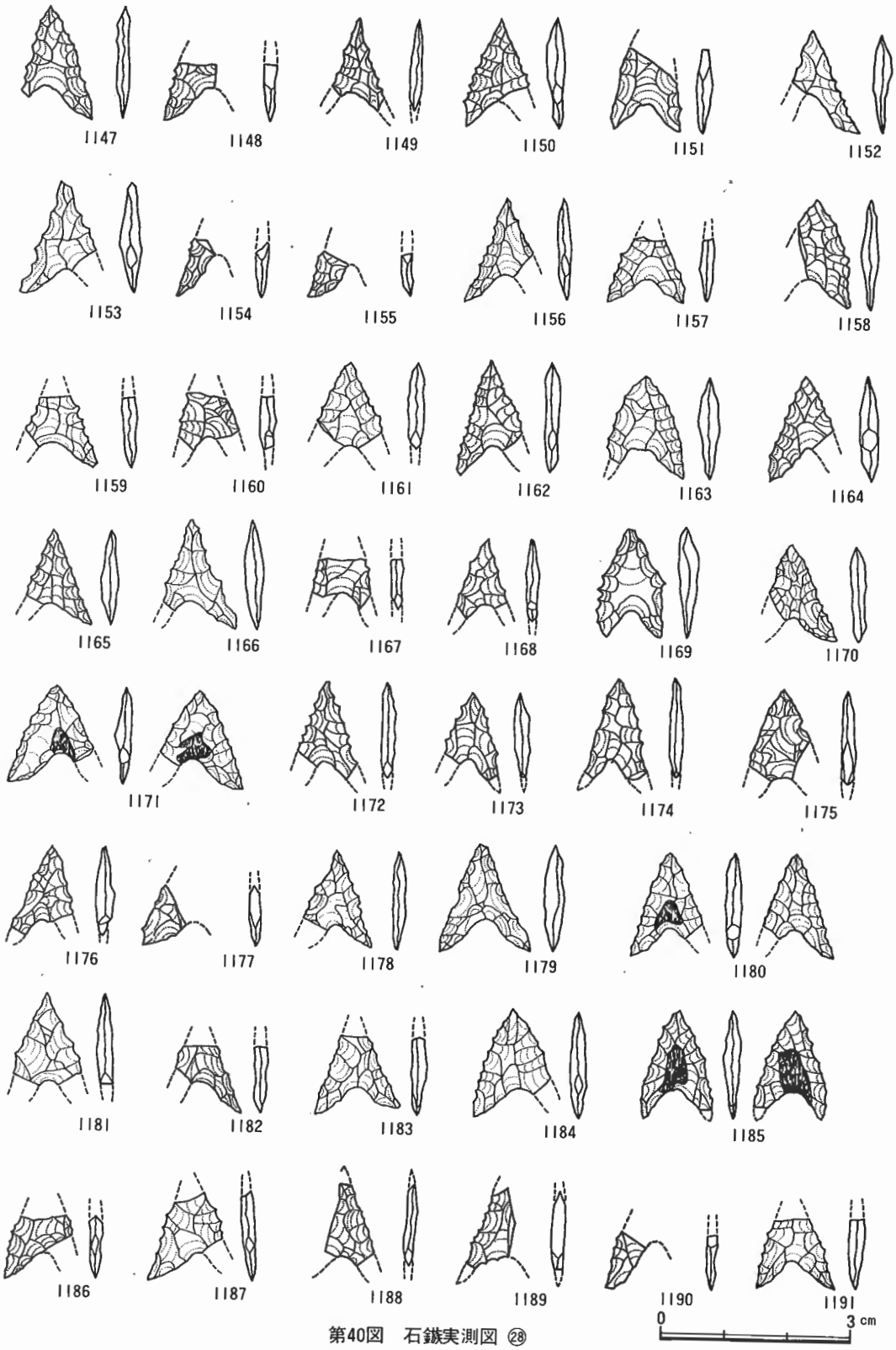

1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
1139
1140
1141
1142
1143
1144
1145
1146
0
3 cm

第39図　石鏃実測図 ㉗

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1161	II-b-5	I-15	黒曜石	(13.70)	(10.10)	2.40	(0.30)	両逆刺欠	42	
1162	II-b-5	I-15	黒曜石	17.25	(9.75)	2.25	(0.40)	片逆刺欠	42	
1163	II-b-5	I-16	黒曜石	15.40	(12.00)	3.20	(0.35)	片逆刺欠	42	
1164	II-b-5	I-16	黒曜石	16.10	(9.60)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	42	
1165	II-b-5	I-16	黒曜石	14.40	(10.50)	3.00	(0.20)	片逆刺欠	42	
1166	II-b-5	I-19	黒曜石	16.65	(11.65)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	42	
1167	II-b-5	I-22	黒曜石	(8.00)	(8.70)	(2.15)	(0.15)	先端部両逆刺欠	42	
1168	II-b-5	I-22	黒曜石	(12.30)	(8.30)	2.15	(0.10)	両逆刺欠	42	
1169	II-b-5	I-22	黒曜石	16.90	11.00	3.30	0.40	完　形	42	
1170	II-b-5	I-25	黒曜石	15.00	(10.40)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	42	
1171	II-b-5	J-6	黒曜石	14.90	(13.15)	2.40	(0.50)	片逆刺欠	42	局部磨製
1172	II-b-5	J-7	黒曜石	(14.45)	(9.40)	2.30	(0.45)	両逆刺欠	42	
1173	II-b-5	J-7	黒曜石	(13.50)	(8.45)	2.45	(0.25)	両逆刺欠	42	
1174	II-b-5	J-7	黒曜石	(15.45)	(9.90)	2.50	(0.40)	両逆刺欠	42	
1175	II-b-5	J-7	黒曜石	(12.30)	(9.25)	2.50	(0.45)	両逆刺欠	42	
1176	II-b-5	J-8	黒曜石	(13.55)	(14.75)	2.95	(0.45)	両逆刺欠	42	
1177	II-b-5	J-8	黒曜石	(9.35)	(7.10)	3.00	(0.25)	片逆刺残	42	
1178	II-b-5	J-10	黒曜石	14.80	(10.90)	2.25	(0.35)	片逆刺欠	42	
1179	II-b-5	J-10	黒曜石	16.75	14.55	3.40	0.60	完　形	42	
1180	II-b-5	J-11	黒曜石	16.60	(11.40)	2.90	(0.45)	片逆刺欠	42	局部磨製
1181	II-b-5	J-11	黒曜石	(14.20)	(11.15)	2.70	(0.40)	両逆刺欠	42	
1182	II-b-5	J-11	黒曜石	(14.95)	(15.90)	3.60	(0.25)	先端部片逆刺欠	42	
1183	II-b-5	J-11	黒曜石	(11.90)	13.65	2.80	(0.30)	先端部欠	42	
1184	II-b-5	J-11	黒曜石	17.15	(11.65)	2.50	(0.45)	片逆刺欠	42	
1185	II-b-5	J-11	黒曜石	16.60	(11.25)	2.75	(0.45)	片逆刺欠	42	局部磨製
1186	II-b-5	J-11	黒曜石	(9.85)	(9.55)	2.25	(0.25)	先端部片逆刺欠	42	
1187	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.30)	(12.10)	2.35	(0.40)	先端部片逆刺欠	42	
1188	II-b-5	J-12	黒曜石	(12.65)	(8.80)	(2.95)	(0.30)	片逆辺残	42	
1189	II-b-5	J-12	黒曜石	(12.30)	(6.70)	(2.55)	(0.30)	片側辺残	42	
1190	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.25)	(5.30)	(2.85)	(0.25)	片逆刺残	42	
1191	II-b-5	J-12	黒曜石	(11.00)	11.70	2.40	(0.30)	先端部欠	42	
1192	II-b-5	J-12	黒曜石	(7.90)	(6.15)	(2.70)	(0.15)	片逆刺残	42	
1193	II-b-5	J-12	黒曜石	(11.65)	(11.45)	2.35	(0.25)	先端部片逆刺欠	42	局部磨製
1194	II-b-5	J-12	黒曜石	15.50	(11.60)	2.05	(0.20)	片逆刺欠	42	
1195	II-b-5	J-12	黒曜石	(7.45)	(7.80)	(2.15)	(0.15)	片逆刺残	42	
1196	II-b-5	J-12	黒曜石	(14.90)	(9.60)	2.80	(0.35)	両逆刺欠	42	局部磨製
1197	II-b-5	J-12	黒曜石	(14.60)	(11.55)	3.20	(0.40)	先端片逆刺欠	42	
1198	II-b-5	J-12	黒曜石	(14.15)	(11.65)	2.75	(0.25)	先端片逆刺欠	42	局部磨製
1199	II-b-5	J-12	黒曜石	(12.60)	(10.00)	2.35	(0.25)	先端部片逆刺欠	42	
1200	II-b-5	J-12	黒曜石	(11.30)	(8.70)	2.70	(0.20)	両逆刺欠	42	
1201	II-b-5	J-12	黒曜石	15.25	(13.70)	2.85	(0.40)	片逆刺欠	42	
1202	II-b-5	J-12	黒曜石	15.65	(11.85)	2.35	(0.25)	片逆刺欠	42	
1203	II-b-5	J-12	黒曜石	(14.95)	(8.65)	2.75	(0.15)	両逆刺欠	42	
1204	II-b-5	J-12	黒曜石	(14.45)	(9.35)	2.50	(0.25)	両逆刺欠	42	

第33表　石鏃計測表 ㉗

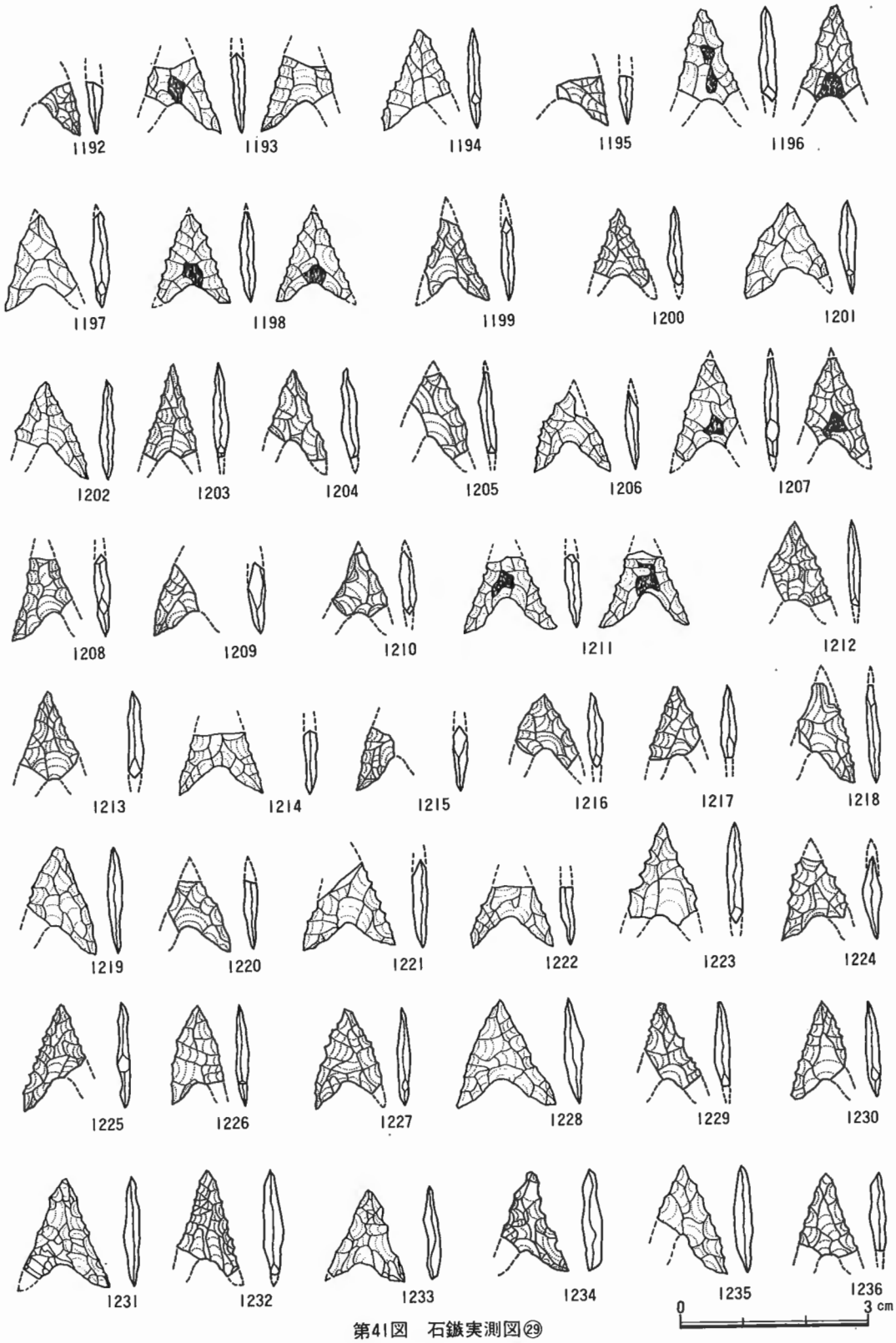

1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180
1181
1182
1183
1184
1185
1186
1187
1188
1189
1190
1191
0
3 cm

第40図　石鏃実測図 ㉘

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1205	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.30)	(9.25)	2.60	(0.40)	先端両逆刺欠	42	
1206	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.15)	12.30	2.25	(0.25)	先端部欠	42	
1207	II-b-5	J-12	黒曜石	(17.85)	(16.85)	2.45	(0.35)	先端両逆刺欠	42	局部磨製
1208	II-b-5	J-12	黒曜石	(12.35)	(9.95)	2.65	(0.35)	先端部片逆刺欠	42	
1209	II-b-5	J-12	黒曜石	(10.95)	(7.50)	(3.10)	(0.20)	片逆刺残	42	
1210	II-b-5	J-12	黒曜石	(10.40)	(9.15)	2.65	(0.20)	先端両逆刺欠	42	
1211	II-b-5	J-12	黒曜石	(12.25)	14.95	2.70	(0.30)	先端部欠	42	局部磨製
1212	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.30)	(10.50)	2.85	(0.25)	両逆刺欠	42	
1213	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.90)	(9.45)	2.30	(0.30)	両逆刺欠	42	
1214	II-b-5	J-12	黒曜石	(9.05)	13.80	(2.50)	(0.25)	先端部欠	42	
1215	II-b-5	J-12	黒曜石	(9.85)	(6.15)	(2.50)	(0.20)	片逆刺残	42	
1216	II-b-5	J-12	黒曜石	(10.90)	(9.90)	2.50	(0.25)	両逆刺欠	42	
1217	II-b-5	J-13	黒曜石	(11.55)	(8.35)	2.80	(0.35)	両逆刺欠	43	
1218	II-b-5	J-13	黒曜石	(15.45)	(8.55)	2.20	(0.45)	先端部片逆刺欠	43	
1219	II-b-5	J-13	黒曜石	17.25	(10.95)	2.70	(0.50)	片逆刺欠	43	
1220	II-b-5	J-13	黒曜石	(10.75)	(11.90)	2.40	(0.30)	先端部片逆刺欠	43	
1221	II-b-5	J-13	黒曜石	(13.60)	14.75	2.45	(0.50)	先端部欠	43	
1222	II-b-5	J-13	黒曜石	(9.75)	13.15	2.15	(0.40)	先端部欠	43	
1223	II-b-5	J-14	黒曜石	(15.90)	(11.00)	2.40	(0.55)	両逆刺欠	43	
1224	II-b-5	J-14	黒曜石	(12.70)	(10.20)	3.15	(0.45)	先端部片逆刺欠	43	
1225	II-b-5	J-18	黒曜石	16.60	(10.00)	2.10	(0.20)	片逆刺欠	43	
1226	II-b-5	J-21	黒曜石	15.60	(8.50)	2.20	(0.15)	片逆刺欠	43	
1227	II-b-5	J-21	黒曜石	15.80	(10.75)	2.85	(0.25)	片逆刺欠	43	
1228	II-b-5	J-21	黒曜石	17.00	16.00	3.40	0.45	完　形	43	
1229	II-b-5	J-22	黒曜石	(12.00)	(9.00)	2.55	(0.20)	両逆刺欠	43	
1230	II-b-5	J-22	黒曜石	15.40	(9.00)	2.20	(0.20)	片逆刺欠	43	
1231	II-b-5	J-23	黒曜石	17.50	(14.00)	2.45	(0.30)	片逆刺欠	43	
1232	II-b-5	J-23	黒曜石	(16.50)	(10.00)	3.00	(0.25)	両逆刺欠	43	
1233	II-b-5	J-23	黒曜石	14.40	(12.65)	2.35	(0.25)	略完　形	43	
1234	II-b-5	J-23	黒曜石	15.55	(10.40)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	43	
1235	II-b-5	J-24	黒曜石	17.30	(10.55)	(3.05)	(0.30)	片逆刺欠	43	
1236	II-b-5	J-24	黒曜石	(13.20)	(9.50)	2.75	(0.25)	両逆刺欠	43	
1237	II-b-5	J-25	黒曜石	18.00	(11.00)	2.80	(0.30)	片逆刺欠	43	
1238	II-b-5	J-25	黒曜石	(13.70)	13.50	2.90	(0.10)	先端部欠	43	
1239	II-b-5	K-11	黒曜石	(11.75)	(6.55)	(3.00)	(0.30)	片逆刺残	43	
1240	II-b-5	K-12	黒曜石	(14.15)	(8.45)	2.60	(0.40)	両逆刺欠	43	
1241	II-b-5	K-12	黒曜石	(9.45)	(5.95)	(2.30)	(0.25)	片逆刺残	43	
1242	II-b-5	K-12	黒曜石	(10.40)	(9.90)	2.60	(0.40)	両逆刺欠	43	
1243	II-b-5	K-12	黒曜石	16.30	(11.75)	3.05	(0.45)	片逆刺欠	43	
1244	II-b-5	K-12	黒曜石	14.70	(13.55)	2.65	(0.40)	片逆刺欠	43	
1245	II-b-5	K-12	黒曜石	(14.40)	(8.70)	2.80	(0.45)	両逆刺欠	43	局部磨製
1246	II-b-5	K-12	黒曜石	(12.95)	(12.15)	2.75	(0.40)	両逆刺欠	43	
1247	II-b-5	K-12	黒曜石	(13.70)	(8.35)	2.70	(0.40)	両逆刺欠	43	
1248	II-b-5	K-12	黒曜石	(9.95)	(4.90)	(2.25)	(0.25)	片逆刺残	43	

第34表　石鏃計測表 ㉘

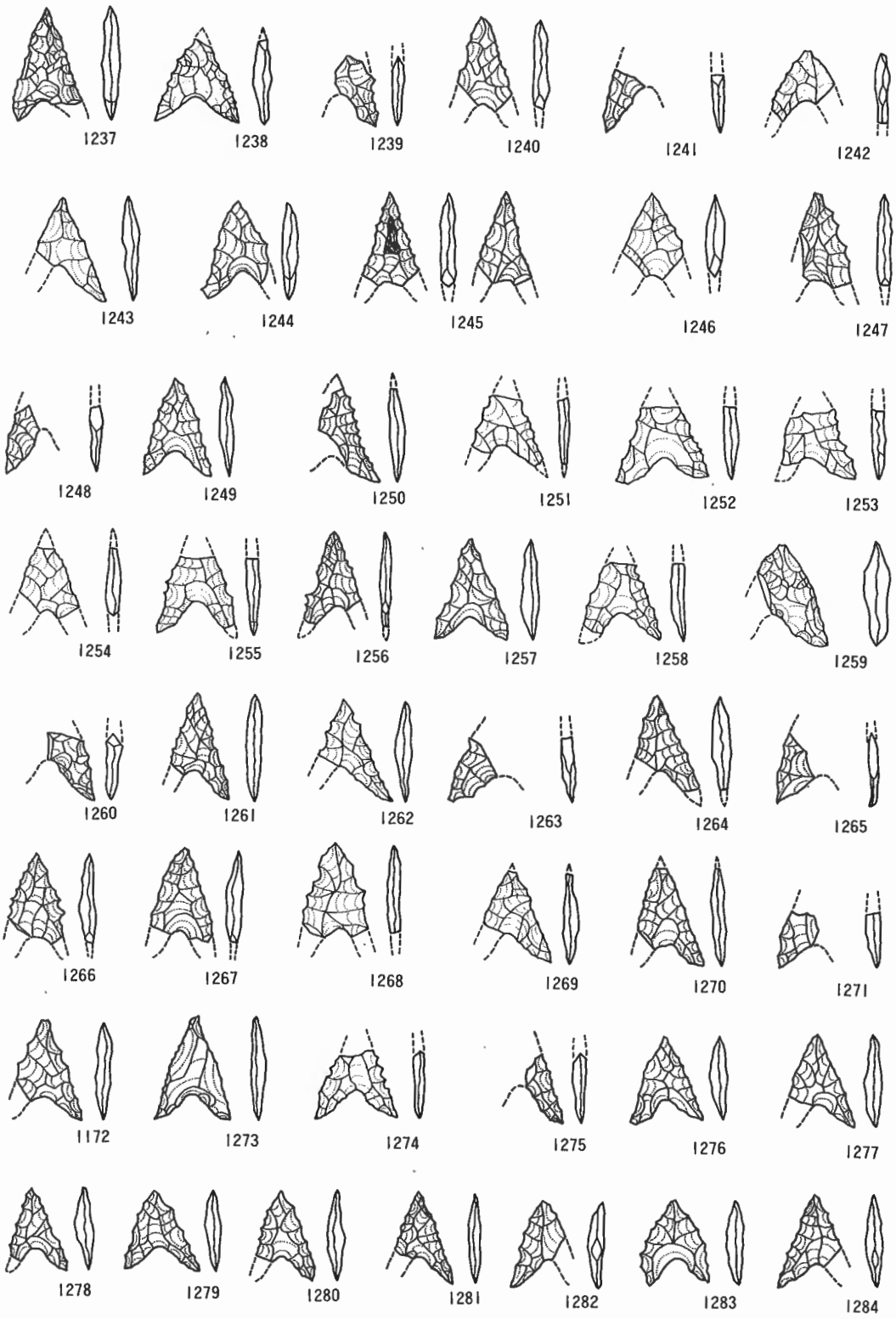

1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198
1199
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1220
1221
1222
1223
1224
1225
1226
1227
1228
1229
1230
1231
1232
1233
1234
1235
1236
0
3 cm

第41図　石鏃実測図㉙

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1249	II-b-5	K-12	黒曜石	14.90	10.85	2.15	0.35	完　形	43	
1250	II-b-5	K-12	黒曜石	(13.30)	(11.40)	(2.40)	(0.30)	片側辺残	43	
1251	II-b-5	K-13	黒曜石	(10.15)	(13.75)	2.95	(0.35)	先端部両逆刺欠	43	
1252	II-b-5	K-13	黒曜石	(11.55)	14.40	2.85	(0.50)	先端部欠	43	
1253	II-b-5	K-13	黒曜石	(10.90)	(11.15)	3.15	(0.45)	先端部片逆刺欠	43	
1254	II-b-5	K-13	黒曜石	(10.75)	(9.25)	2.30	(0.40)	先端両逆刺欠	43	
1255	II-b-5	K-14	黒曜石	(11.85)	(12.25)	2.20	(0.35)	先端部片逆刺欠	43	
1256	II-b-5	K-22	黒曜石	(15.00)	(9.00)	2.90	(0.15)	両逆刺欠	43	
1257	II-b-5	K-24	黒曜石	15.80	11.45	3.15	0.30	完　形	43	
1258	II-b-5	K-24	黒曜石	(16.80)	(12.90)	3.30	(0.40)	先端部片逆刺欠	43	
1259	II-b-5	K-25	黒曜石	15.70	(11.00)	4.00	(0.50)	片逆刺欠	43	
1260	II-b-5	K-25	黒曜石	(10.00)	(7.50)	(2.10)	(0.15)	片逆刺残	43	
1261	II-b-5	L-11	黒曜石	15.60	(9.30)	2.90	(0.45)	片逆刺欠	43	
1262	II-b-5	L-12	黒曜石	15.35	(11.30)	2.55	(0.35)	片逆刺欠	43	
1263	II-b-5	L-12	黒曜石	(9.05)	(7.30)	(2.30)	(0.25)	片逆刺残	43	
1264	II-b-5	L-12	黒曜石	(14.70)	(10.20)	2.80	(0.45)	両逆刺欠	43	
1265	II-b-5	L-12	黒曜石	(9.10)	(6.65)	(2.60)	(0.15)	片逆刺残	43	
1266	II-b-5	L-19	黒曜石	(13.70)	(9.00)	2.35	(0.15)	両逆刺欠	43	
1267	II-b-5	L-20	黒曜石	(14.00)	(9.30)	2.45	(0.20)	両逆刺欠	43	
1268	II-b-5	M-11	黒曜石	(14.15)	(9.80)	2.75	(0.50)	両逆刺欠	43	
1269	II-b-5	M-12	黒曜石	(13.55)	(10.55)	2.45	(0.45)	先端片逆刺欠	43	
1270	II-b-5	M-23	黒曜石	(15.45)	(10.00)	1.90	(0.20)	先端片逆刺欠	43	
1271	II-b-5	N-22	黒曜石	(8.20)	(6.40)	(2.40)	(0.10)	片逆刺残	43	
1272	II-b-5	O-22	黒曜石	15.10	(10.75)	2.60	(0.30)	片逆刺欠	43	
1273	II-b-5	J-22	頁　岩	16.20	11.45	2.45	0.30	完　形	43	
1274	II-b-5	33炉穴	黒曜石	(11.00)	13.00	2.50	(0.15)	先端部欠	43	
1275	II-b-5	表採	黒曜石	(12.45)	(7.25)	(4.30)	(0.15)	片逆刺残	43	
1276	II-b-5	C-15	黒曜石	14.00	11.30	3.00	0.25	完　形	43	
1277	II-b-5	C-15	黒曜石	13.80	(10.30)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	43	
1278	II-b-5	C-17	黒曜石	12.25	(9.00)	3.00	(0.25)	片逆刺欠	43	
1279	II-b-5	C-18	黒曜石	12.10	11.70	2.30	0.20	完　形	43	
1280	II-b-5	C-18	黒曜石	13.70	(9.20)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	43	
1281	II-b-5	D-11	黒曜石	14.50	(8.90)	2.90	(0.10)	片逆刺欠	43	
1282	II-b-5	E-12	黒曜石	13.50	(8.20)	2.60	(0.20)	片逆刺欠	43	
1283	II-b-5	E-16	黒曜石	12.60	10.30	2.50	0.30	完　形	43	
1284	II-b-5	E-16	黒曜石	14.40	(9.50)	2.65	(0.20)	片逆刺欠	43	
1285	II-b-5	E-20	黒曜石	12.70	10.00	2.60	0.10	完　形	43	
1286	II-b-5	G-11	黒曜石	13.60	(9.20)	2.45	(0.15)	片逆刺欠	43	
1287	II-b-5	G-16	黒曜石	(7.45)	(8.70)	(2.20)	(0.25)	先端部片逆刺欠	43	
1288	II-b-5	H-8	黒曜石	13.75	(10.15)	2.30	(0.45)	片逆刺欠	43	
1289	II-b-5	H-8	黒曜石	13.35	(9.90)	3.30	(0.40)	片逆刺欠	43	
1290	II-b-5	H-11	黒曜石	13.25	(8.40)	2.20	(0.25)	片側辺片逆刺欠	43	
1291	II-b-5	H-15	黒曜石	(7.00)	(6.75)	(2.20)	(0.10)	片逆刺残	43	
1292	II-b-5	H-16	黒曜石	13.70	(10.40)	3.00	(0.20)	片逆刺欠	43	

第35表　石鏃計測表 ㉙

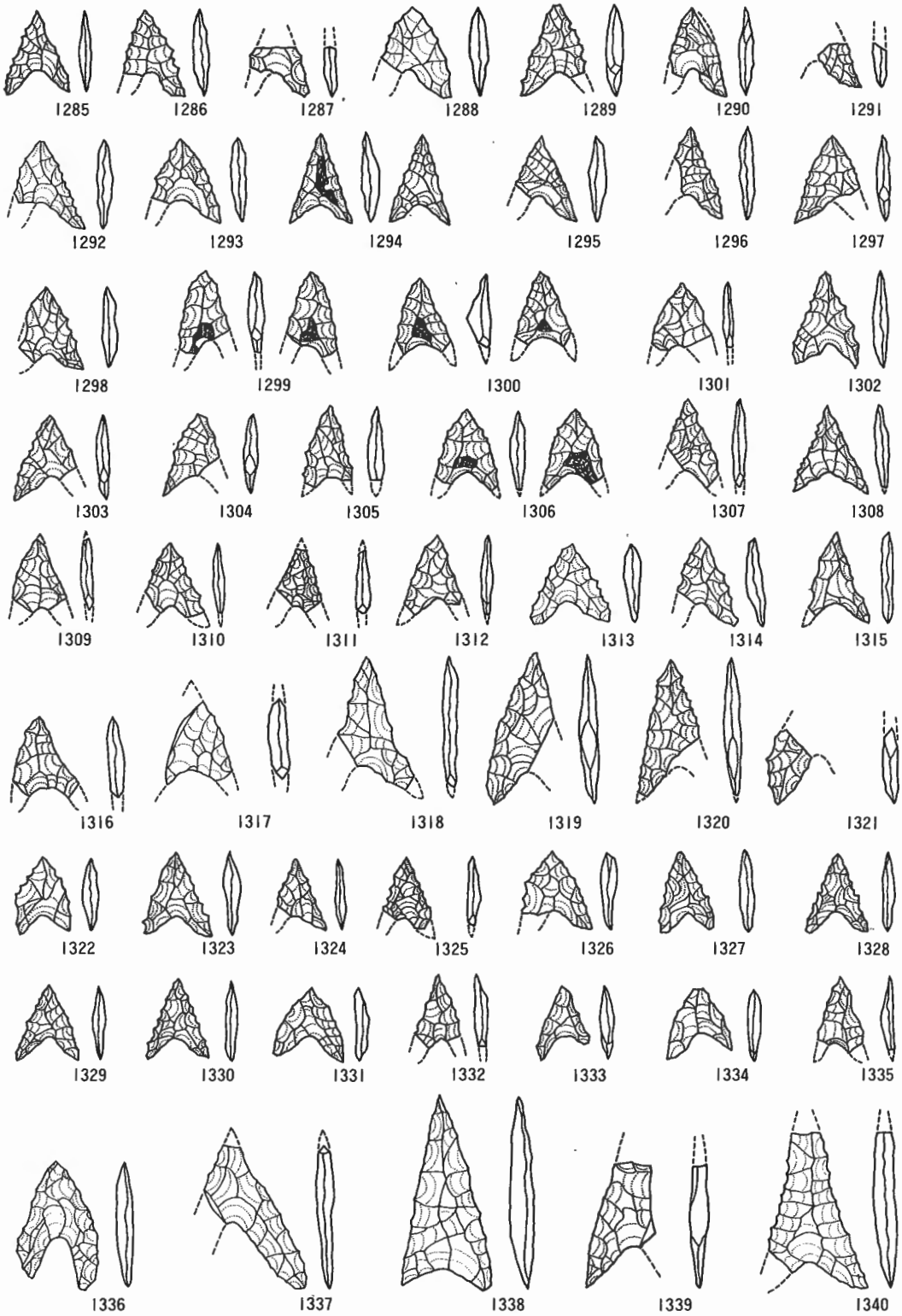

1237
1238
1239
1240
1241
1242
1243
1244
1245
1246
1247
1248
1249
1250
1251
1252
1253
1254
1255
1256
1257
1258
1259
1260
1261
1262
1263
1264
1265
1266
1267
1268
1269
1270
1271
1172
1273
1274
1275
1276
1277
1278
1279
1280
1281
1282
1283
1284
0
3 cm

第42図　石鏃実測図㉚

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1293	II-b-5	H-22	黒曜石	13.00	(10.75)	2.25	(0.20)	片逆刺欠	43	
1294	II-b-5	I-11	黒曜石	14.45	10.00	3.05	0.35	完　形	43	局部磨製
1295	II-b-5	I-11	黒曜石	12.90	(14.80)	2.25	(0.35)	片逆刺欠	43	
1296	II-b-5	I-12	黒曜石	13.45	(7.95)	2.40	(0.25)	片逆刺欠	43	
1297	II-b-5	I-13	黒曜石	12.95	(10.30)	2.65	(0.35)	片逆刺欠	44	
1298	II-b-5	J-10	黒曜石	12.90	(9.90)	2.45	(0.40)	片逆刺欠	44	
1299	II-b-5	J-11	黒曜石	(12.70)	(7.70)	2.45	(0.30)	両逆刺欠	44	局部磨製
1300	II-b-5	J-11	黒曜石	(11.70)	(8.60)	3.50	(0.35)	両逆刺欠	44	局部磨製
1301	II-b-5	J-12	黒曜石	(10.30)	(9.00)	2.35	(0.15)	両逆刺欠	44	
1302	II-b-5	J-12	黒曜石	13.75	10.50	2.65	0.30	完　形	44	
1303	II-b-5	J-12	黒曜石	10.15	(9.90)	2.90	(0.20)	片逆刺欠	44	
1304	II-b-5	J-12	黒曜石	12.95	(8.60)	2.45	(0.20)	片逆刺欠	44	
1305	II-b-5	J-12	黒曜石	(12.80)	(7.70)	2.75	(0.20)	両逆刺欠	44	
1306	II-b-5	J-12	黒曜石	(12.50)	(10.15)	2.75	(0.30)	両逆刺欠	44	局部磨製
1307	II-b-5	J-12	黒曜石	(13.70)	(8.25)	2.45	(0.15)	両逆刺欠	44	
1308	II-b-5	J-22	黒曜石	12.70	(11.80)	2.30	(0.15)	片逆刺欠	44	
1309	II-b-5	J-23	黒曜石	(11.55)	(8.00)	2.10	(0.15)	先端両逆刺欠	44	
1310	II-b-5	J-24	黒曜石	(11.35)	(9.65)	2.10	(0.15)	両逆刺欠	44	
1311	II-b-5	J-25	黒曜石	(9.65)	(7.00)	2.20	(0.10)	先端両逆刺欠	44	
1312	II-b-5	K-7	黒曜石	(11.50)	(8.70)	2.95	(0.30)	両逆刺欠	44	
1313	II-b-5	K-12	黒曜石	11.65	12.10	2.35	0.35	完　形	44	
1314	II-b-5	L-12	黒曜石	13.40	(9.65)	2.60	(0.35)	片逆刺欠	44	
1315	II-b-5	L-13	黒曜石	13.70	(9.65)	2.40	(0.35)	片逆刺欠	44	
1316	II-b-5	N-25	黒曜石	(12.60)	(9.65)	2.80	(0.25)	両逆刺欠	44	
1317	II-b-5	F-16	黒曜石	(13.80)	(10.25)	3.35	(0.40)	先端部両逆刺欠	44	
1318	II-b-5	26炉穴	黒曜石	(21.00)	(12.50)	2.60	(0.35)	両逆刺欠	44	
1319	II-b-5	D-12	黒曜石	23.40	(10.40)	(3.35)	(0.50)	片逆刺欠	44	
1320	II-b-5	表採	黒曜石	21.00	(19.70)	2.70	(0.35)	片逆刺欠	44	
1321	II-b-5	表採	黒曜石	(11.00)	(7.10)	(2.25)	(0.05)	片逆刺残	44	
1322	II-b-5	E-13	黒曜石	11.80	8.60	2.40	0.20	完　形	44	
1323	II-b-5	F-19	黒曜石	13.00	10.00	2.40	0.20	完　形	44	
1324	II-b-5	F-20	黒曜石	11.00	(7.80)	2.20	(0.05)	片逆刺欠	44	
1325	II-b-5	G-20	黒曜石	(10.80)	(7.70)	2.15	(0.10)	両逆刺欠	44	
1326	II-b-5	H-22	黒曜石	12.30	(11.00)	2.60	(0.20)	片逆刺欠	44	
1327	II-b-5	I-6	黒曜石	12.25	8.75	2.25	0.35	完　形	44	
1328	II-b-5	I-11	黒曜石	10.20	8.85	2.65	0.25	完　形	44	
1329	II-b-5	I-11	黒曜石	10.85	9.35	2.25	0.20	完　形	44	
1330	II-b-5	J-7	黒曜石	12.20	10.30	2.75	0.30	完　形	44	
1331	II-b-5	J-11	黒曜石	11.40	10.75	2.90	0.25	完　形	44	
1332	II-b-5	J-12	黒曜石	(10.95)	(7.30)	2.40	(0.15)	両逆刺欠	44	
1333	II-b-5	J-22	黒曜石	11.00	8.30	2.50	0.10	完　形	44	
1334	II-b-5	K-12	黒曜石	10.10	9.90	2.95	0.30	完　形	44	
1335	II-b-5	K-13	黒曜石	(11.60)	(7.15)	2.20	(0.30)	両逆刺欠	44	
1336	II-b-6	D-11	黒曜石	20.00	13.00	3.55	0.50	完　形	44	

第36表　石鏃計測表 ㉚



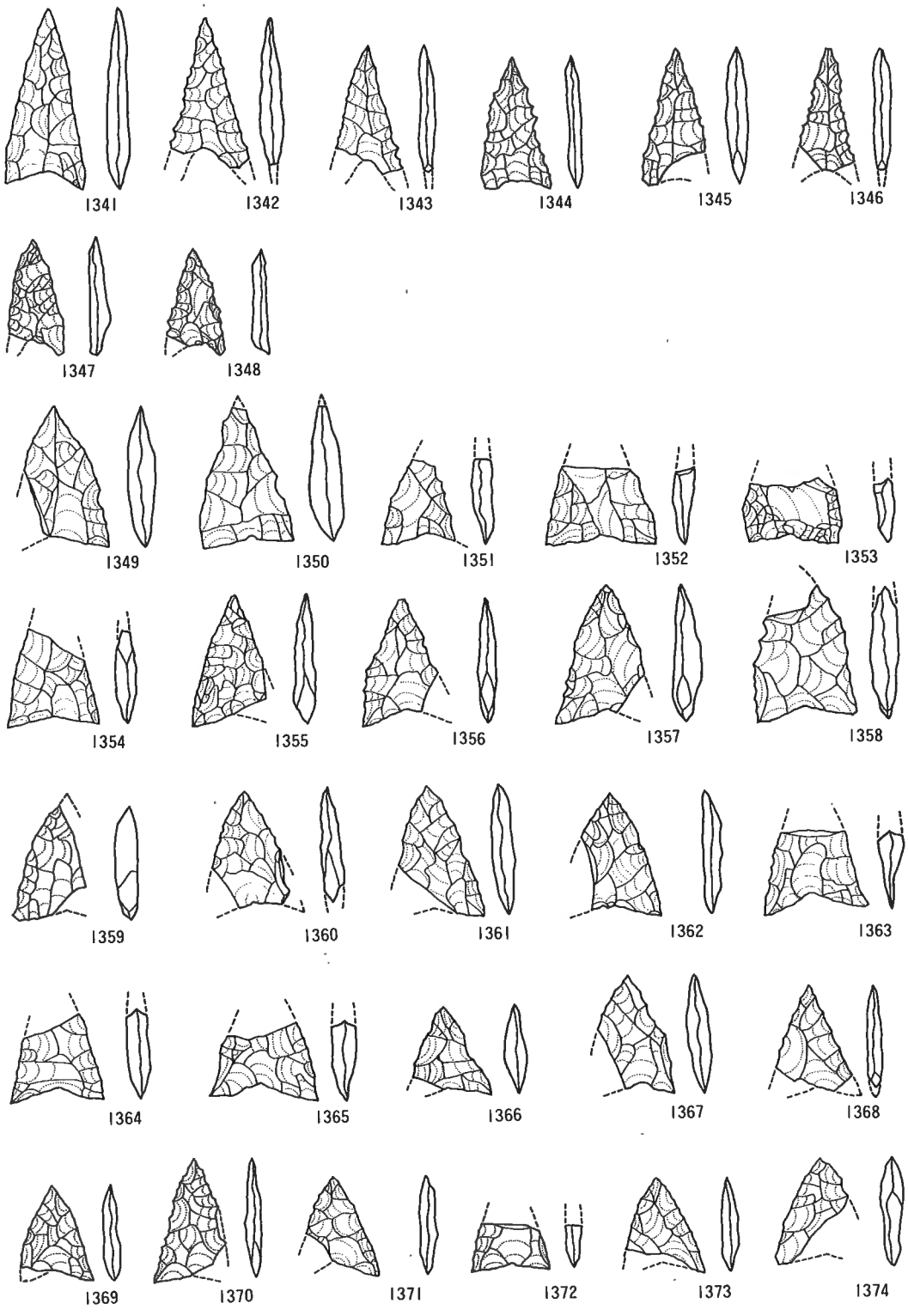
第43図　石鏃実測図 ㉛

0　3 cm

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1337	II-b-6	N-26	黒曜石	(21.60)	(16.60)	2.70	(0.50)	先端片逆刺欠	44	
1338	II-b-7	E-12	頁　岩	12.70	11.45	3.15	0.45	完　形	44	
1339	II-b-7	E-15	黒曜石	(19.00)	(11.00)	(2.70)	(0.55)	片逆刺残	44	
1340	II-b-7	H-8	黒曜石	(24.00)	(15.60)	3.80	(0.90)	先端片逆刺欠	44	
1341	II-b-7	G-17	黒曜石	28.00	12.50	3.65	0.95	完　形	44	
1342	II-b-7	C-15	黒曜石	(22.65)	(12.20)	3.60	(0.55)	両逆刺欠	44	
1343	II-b-7	J-22	黒曜石	(20.00)	(10.50)	3.00	(0.40)	両逆刺欠	44	
1344	II-b-7	G-19	黒曜石	20.00	10.55	2.50	0.35	完　形	44	
1345	II-b-7	C-16	黒曜石	21.10	(9.50)	3.30	(0.50)	片逆刺欠	44	
1346	II-b-7	F-19	黒曜石	(19.00)	(8.60)	2.80	(0.40)	両逆刺欠	44	
1347	II-b-7	J-23	黒曜石	17.60	(8.50)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	44	
1348	II-b-7	K-23	黒曜石	16.55	(8.90)	2.65	(0.30)	片逆刺欠	44	
1349	II-c-1	C-16	黒曜石	21.50	(12.50)	4.65	(1.15)	片逆刺欠	44	
1350	II-c-1	D-12	黒曜石	(21.40)	13.40	5.40	(1.25)	略完形	44	
1351	II-c-1	F-15	黒曜石	(12.50)	(11.40)	3.20	(0.40)	片逆刺残	44	
1352	II-c-1	F-20	黒曜石	(12.00)	17.00	4.00	(0.70)	先端部欠	44	
1353	II-c-1	F-21	黒曜石	(9.90)	10.20	(3.00)	(0.50)	先端部欠	44	
1354	II-c-1	K-12	黒曜石	(14.95)	14.45	3.25	(0.85)	先端部欠	44	
1355	II-c-1	H-8	黒曜石	19.95	(11.15)	3.80	(0.75)	片逆刺欠	44	
1356	II-c-1	H-11	黒曜石	19.70	(11.95)	3.10	(0.70)	片逆刺欠	44	
1357	II-c-1	I-6	黒曜石	20.50	(13.65)	4.55	(1.05)	片逆刺欠	44	
1358	II-c-1	I-16	黒曜石	(20.00)	15.30	4.40	(1.05)	先端部欠	44	
1359	II-c-1	H-15	黒曜石	(18.10)	(11.35)	3.80	(0.65)	片側辺欠	44	
1360	II-c-1	J-7	黒曜石	(17.45)	(11.65)	3.85	(0.65)	両逆刺欠	44	
1361	II-c-1	J-12	黒曜石	19.50	(13.30)	3.25	(0.65)	片逆刺欠	44	
1362	II-c-1	K-8	黒曜石	18.30	(12.55)	3.50	(0.85)	片逆刺欠	44	
1363	II-c-1	K-19	黒曜石	(12.70)	15.95	3.85	(0.60)	先端部欠	44	
1364	II-c-1	L-14	黒曜石	(13.20)	14.45	3.65	(0.75)	先端部欠	44	
1365	II-c-1	L-14	黒曜石	(11.90)	16.45	3.85	(0.75)	先端部欠	44	
1366	II-c-1	C-12	黒曜石	13.00	(12.00)	3.60	(0.40)	片逆刺欠	44	
1367	II-c-1	C-17	黒曜石	18.00	(12.00)	3.70	(0.65)	片逆刺欠	44	
1368	II-c-1	D-5	水　晶	(15.30)	(11.45)	2.45	(0.25)	両逆刺欠	44	
1369	II-c-1	D-13	黒曜石	14.90	(11.30)	3.00	(0.35)	片逆刺欠	44	
1370	II-c-1	D-16	黒曜石	18.40	(11.00)	2.70	(0.45)	片逆刺欠	44	
1371	II-c-1	E-10	黒曜石	15.20	(11.50)	2.85	(0.25)	片逆刺欠	44	
1372	II-c-1	E-16	黒曜石	(7.35)	11.70	2.50	(0.20)	先端部欠	44	
1373	II-c-1	F-3	黒曜石	14.30	(12.35)	2.90	(0.45)	片逆刺欠	44	
1374	II-c-1	J-11	黒曜石	(16.50)	(11.25)	3.90	(0.35)	片逆刺欠	44	
1375	II-c-1	F-16	黒曜石	(10.20)	11.55	2.50	(0.30)	先端部欠	44	
1376	II-c-1	F-20	黒曜石	17.00	(15.00)	4.45	(1.05)	略完形	44	
1377	II-c-1	F-20	黒曜石	14.00	(11.25)	3.05	(0.45)	片逆刺欠	45	
1378	II-c-1	G-16	黒曜石	(14.55)	13.50	4.00	(0.70)	先端片側辺欠	45	
1379	II-c-1	G-16	黒曜石	(7.20)	13.30	2.45	(0.20)	先端部欠	45	
1380	II-c-1	G-21	黒曜石	17.00	12.95	4.60	0.70	完　形	45	

第37表　石鏃計測表 ㉛

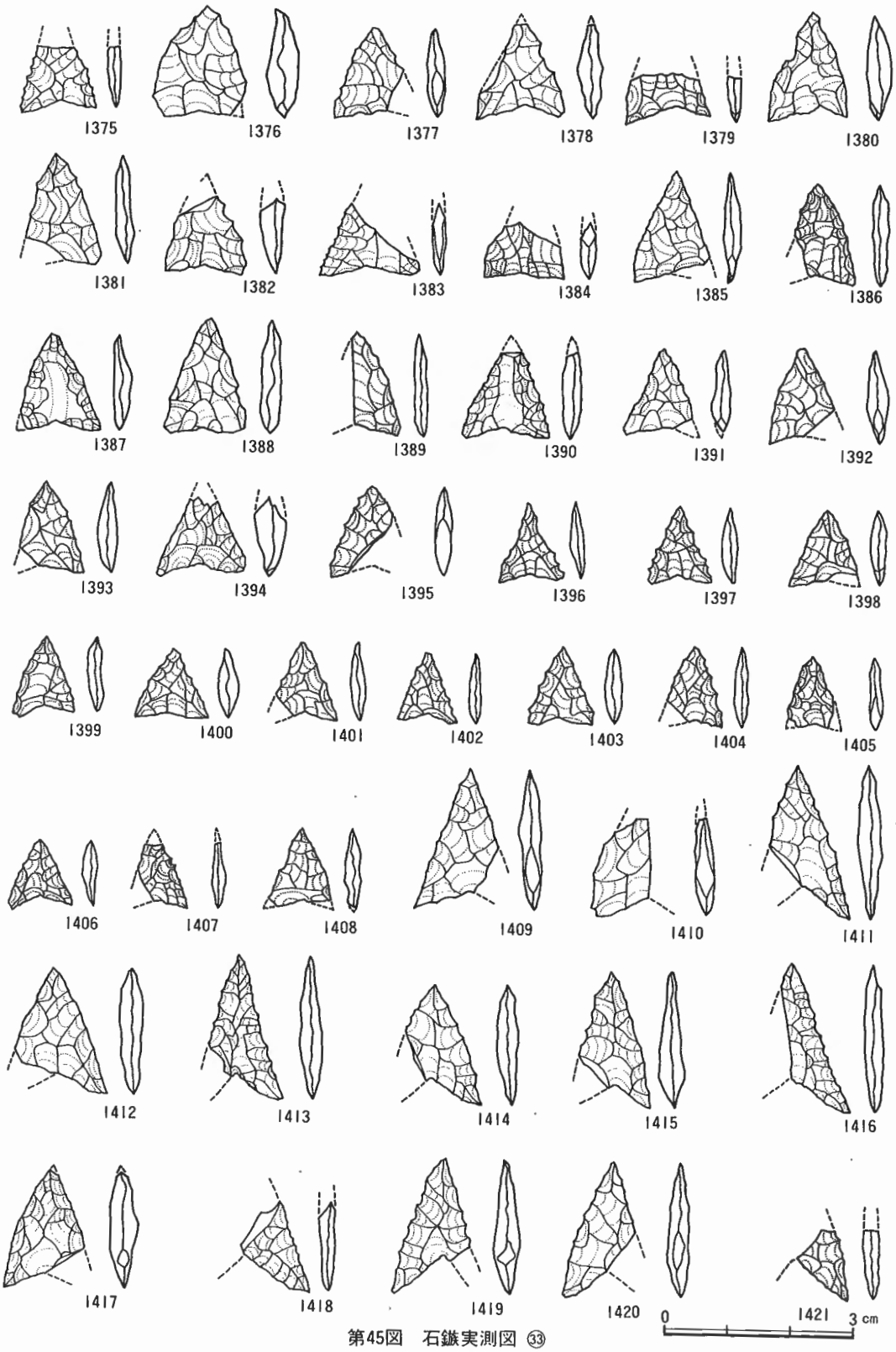

1341
1342
1343
1344
1345
1346
1347
1348
1349
1350
1351
1352
1353
1354
1355
1356
1357
1358
1359
1360
1361
1362
1363
1364
1365
1366
1367
1368
1369
1370
1371
1372
1373
1374
0
3 cm

第44図　石鏃実測図 ㉜

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1381	II-c-1	I-11	黒 曜 石	16.50	(12.65)	2.25	(0.50)	片逆刺欠	45	
1382	II-c-1	I-19	黒 曜 石	(11.95)	12.75	3.80	(0.45)	先端部欠	45	
1383	II-c-1	I-21	黒 曜 石	(11.60)	15.85	2.80	(0.30)	先端部欠	45	
1384	II-c-1	I-21	黒 曜 石	(9.00)	12.00	3.00	(0.30)	先端部欠	45	
1385	II-c-1	I-21	黒 曜 石	16.85	(12.00)	2.80	(0.35)	片逆刺欠	45	
1386	II-c-1	I-24	黒 曜 石	18.50	(13.00)	2.25	(0.30)	片逆刺欠	45	
1387	II-c-1	I-25	黒 曜 石	15.75	(12.45)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	45	
1388	II-c-1	J-7	黒 曜 石	18.20	13.25	3.35	0.80	完　形	45	
1389	II-c-1	J-13	黒 曜 石	15.80	(8.20)	(2.20)	(0.40)	片側辺欠	45	
1390	II-c-1	J-26	黒 曜 石	(13.50)	13.60	3.30	(0.50)	先端部欠	45	
1391	II-c-1	K-12	黒 曜 石	13.85	(10.70)	2.85	(0.50)	片逆刺欠	45	
1392	II-c-1	K-12	黒 曜 石	15.15	(10.10)	3.35	(0.55)	片逆刺欠	45	
1393	II-c-1	K-12	黒 曜 石	14.10	(10.30)	2.75	(0.45)	片逆刺欠	45	
1394	II-c-1	K-14	黒 曜 石	(12.30)	14.40	5.00	(0.60)	先端部欠	45	
1395	II-c-1	L-15	黒 曜 石	14.15	(9.65)	(3.00)	(0.20)	片逆刺欠	45	
1396	II-c-1	D-15	黒 曜 石	12.40	10.70	2.40	0.15	完　形	45	
1397	II-c-1	E-12	黒 曜 石	12.30	10.20	2.70	0.20	完　形	45	
1398	II-c-1	E-12	黒 曜 石	12.00	(10.80)	2.70	(0.25)	片逆刺欠	45	
1399	II-c-1	E-16	黒 曜 石	12.40	9.30	2.10	0.20	完　形	45	
1400	II-c-1	E-17	黒 曜 石	10.70	11.55	3.60	0.35	完　形	45	
1401	II-c-1	F-17	黒 曜 石	12.10	(9.40)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	45	
1402	II-c-1	F-20	黒 曜 石	11.00	9.45	2.20	0.10	完　形	45	
1403	II-c-1	H-21	黒 曜 石	12.00	10.60	2.80	0.25	完　形	45	
1404	II-c-1	I-16	黒 曜 石	12.20	(9.00)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	45	
1405	II-c-1	I-25	黒 曜 石	(11.00)	(7.20)	2.15	(0.15)	両逆刺欠	45	
1406	II-c-1	J-8	黒 曜 石	10.80	9.90	2.35	0.35	完　形	45	
1407	II-c-1	J-23	黒 曜 石	(10.00)	(7.70)	2.10	(0.10)	先端片逆刺欠	45	
1408	II-c-1	K-12	黒 曜 石	(12.35)	(9.90)	2.50	(0.35)	両逆刺欠	45	
1409	II-c-2	B-12	黒 曜 石	22.00	(13.00)	3.25	(0.60)	片逆刺欠	45	
1410	II-c-2	C-15	黒 曜 石	(14.70)	(9.20)	(3.00)	(0.40)	片逆刺残	45	
1411	II-c-2	C-17	黒 曜 石	26.10	(14.50)	6.00	(0.60)	片逆刺欠	45	
1412	II-c-2	D-12	黒 曜 石	19.40	(14.80)	3.40	(0.75)	片逆刺欠	45	
1413	II-c-2	E-11	黒 曜 石	22.70	(12.00)	3.40	(0.50)	片逆刺欠	45	
1414	II-c-2	E-16	黒 曜 石	20.45	(13.65)	5.20	(0.45)	片逆刺欠	45	
1415	II-c-2	E-17	黒 曜 石	21.00	(11.50)	4.40	(0.60)	片逆刺欠	45	
1416	II-c-2	F-11	黒 曜 石	23.60	(10.80)	(3.00)	(0.40)	片逆刺欠	45	
1417	II-c-2	F-11	黒 曜 石	(18.60)	(13.10)	3.75	(0.70)	先端片逆刺欠	45	
1418	II-c-2	F-18	黒 曜 石	(14.10)	(10.70)	(2.80)	(0.25)	片逆刺残	45	
1419	II-c-2	F-22	黒 曜 石	21.70	(12.40)	4.85	(0.70)	片逆刺欠	45	
1420	II-c-2	G-16	黒 曜 石	20.60	(11.15)	3.30	(0.60)	片逆刺欠	45	
1421	II-c-2	H-15	黒 曜 石	(11.30)	(8.00)	(2.70)	(0.15)	片逆刺残	45	
1422	II-c-2	I-7	黒 曜 石	(21.40)	(14.40)	5.20	(1.15)	両逆刺欠	45	
1423	II-c-2	I-15	黒 曜 石	21.45	(13.15)	3.40	(0.90)	片逆刺欠	45	
1424	II-c-2	I-16	黒 曜 石	(18.20)	(13.10)	2.50	(0.40)	先端片逆刺欠	45	

第38表　石鏃計測表 ㉜

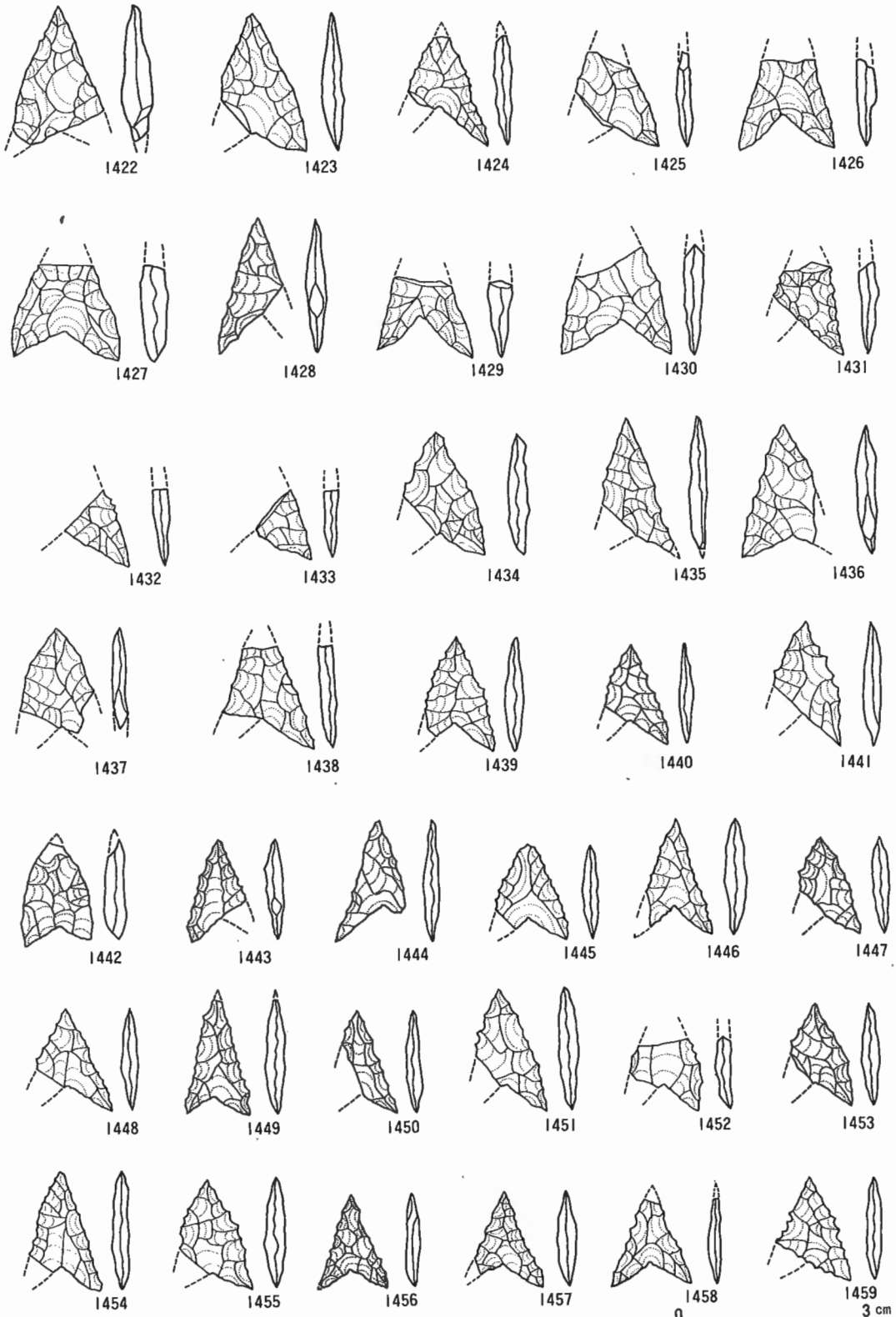

1375
1376
1377
1378
1379
1380
1381
1382
1383
1384
1385
1386
1387
1388
1389
1390
1391
1392
1393
1394
1395
1396
1397
1398
1399
1400
1401
1402
1403
1404
1405
1406
1407
1408
1409
1410
1411
1412
1413
1414
1415
1416
1417
1418
1419
1420
1421
0
3 cm

第45図　石鏃実測図 ㉝

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1425	II-c-2	I-23	黒曜石	(15.00)	(13.40)	3.40	(0.45)	先端部片逆刺欠	45	
1426	II-c-2	J-11	黒曜石	(14.25)	15.10	3.15	(0.55)	先端部欠	45	
1427	II-c-2	J-11	黒曜石	(11.90)	13.65	2.80	(0.30)	先端部欠	45	
1428	II-c-2	J-12	黒曜石	21.40	(14.10)	2.80	(0.40)	片逆刺欠	45	
1429	II-c-2	J-12	黒曜石	(12.25)	15.20	4.00	(0.45)	先端部欠	45	
1430	II-c-2	J-22	黒曜石	(17.00)	18.00	4.00	(0.95)	先端部欠	45	
1431	II-c-2	J-23	黒曜石	(14.20)	(11.00)	3.00	(0.30)	先端部片逆刺欠	45	
1432	II-c-2	K-12	黒曜石	(12.45)	(9.30)	(2.65)	(0.35)	片逆刺残	45	
1433	II-c-2	K-12	黒曜石	(10.60)	(8.90)	(2.90)	(0.35)	片逆刺残	45	
1434	II-c-2	K-12	黒曜石	17.85	(13.35)	3.40	(0.65)	片逆刺欠	45	
1435	II-c-2	K-13	黒曜石	(20.60)	(11.20)	2.90	(0.65)	両逆刺欠	45	
1436	II-c-2	K-24	黒曜石	21.25	(12.30)	3.05	(0.70)	片逆刺欠	45	
1437	II-c-2	L-14	黒曜石	(15.65)	(11.20)	2.45	(0.50)	両逆刺欠	45	
1438	II-c-2	M-12	黒曜石	(16.35)	(15.60)	2.80	(0.60)	先端部片逆刺欠	45	
1439	II-c-2	C-13	黒曜石	18.00	(11.30)	2.50	(0.30)	片逆刺欠	45	
1440	II-c-2	C-13	黒曜石	16.00	(10.00)	2.80	(0.20)	片逆刺欠	45	
1441	II-c-2	C-13	黒曜石	19.10	(11.00)	2.90	(0.40)	片逆刺欠	45	
1442	II-c-2	C-13	黒曜石	(17.00)	11.25	3.80	(0.85)	先端欠	45	
1443	II-c-2	C-13	黒曜石	15.50	(9.40)	2.50	(0.25)	片逆刺欠	45	
1444	II-c-2	C-14	黒曜石	19.00	10.85	2.80	0.35	完　形	45	
1445	II-c-2	C-14	頁　岩	14.80	(11.85)	2.30	(0.30)	片逆刺欠	45	
1446	II-c-2	C-15	黒曜石	18.40	(10.65)	3.30	(0.35)	片逆刺欠	45	
1447	II-c-2	C-15	黒曜石	15.40	(9.80)	2.70	(0.20)	片逆刺欠	45	
1448	II-c-2	C-15	黒曜石	16.60	(12.10)	2.70	(0.25)	片逆刺欠	45	
1449	II-c-2	C-17	黒曜石	(17.50)	10.00	3.00	(0.35)	先端欠	45	
1450	II-c-2	C-17	黒曜石	16.20	(9.10)	(2.50)	(0.20)	片逆刺欠	45	
1451	II-c-2	C-17	黒曜石	19.40	(11.40)	3.05	(0.45)	片逆刺欠	45	
1452	II-c-2	C-17	黒曜石	(11.10)	(11.50)	2.35	(0.30)	先端部片逆刺欠	45	
1453	II-c-2	C-17	黒曜石	15.30	(10.00)	3.10	(0.30)	片逆刺欠	45	
1454	II-c-2	C-18	黒曜石	19.35	(11.30)	3.10	(0.30)	片逆刺欠	45	
1455	II-c-2	C-19	黒曜石	16.70	(11.20)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	45	
1456	II-c-2	D-11	黒曜石	15.00	(11.50)	2.50	(0.20)	略完　形	45	
1457	II-c-2	D-11	黒曜石	15.00	(11.00)	3.40	(0.30)	片逆刺欠	46	
1458	II-c-2	D-12	黒曜石	(13.80)	12.80	2.40	(0.25)	先端部欠	46	
1459	II-c-2	D-13	黒曜石	16.30	(12.00)	2.60	(0.30)	片逆刺欠	46	
1460	II-c-2	D-13	黒曜石	15.40	(10.40)	2.60	(0.25)	片逆刺欠	46	
1461	II-c-2	D-15	黒曜石	18.40	(12.50)	2.40	(0.30)	両逆刺欠	46	
1462	II-c-2	D-15	黒曜石	18.75	(11.00)	2.20	(0.30)	片逆刺欠	46	
1463	II-c-2	D-17	黒曜石	19.45	(12.55)	3.30	(0.45)	片逆刺欠	46	
1464	II-c-2	D-17	黒曜石	(14.50)	(9.15)	(3.05)	(0.20)	片逆刺残	46	
1465	II-c-2	D-17	黒曜石	18.85	(11.95)	3.90	(0.50)	片逆刺欠	46	
1466	II-c-2	E-8	黒曜石	15.70	11.50	3.55	0.35	完　形	46	
1467	II-c-2	E-10	黒曜石	(19.00)	(9.30)	(2.70)	(0.30)	先端片逆刺欠	46	
1468	II-c-2	E-12	黒曜石	18.60	(12.80)	3.10	(0.50)	片逆刺欠	46	

第39表　石鏃計測表 ㉝

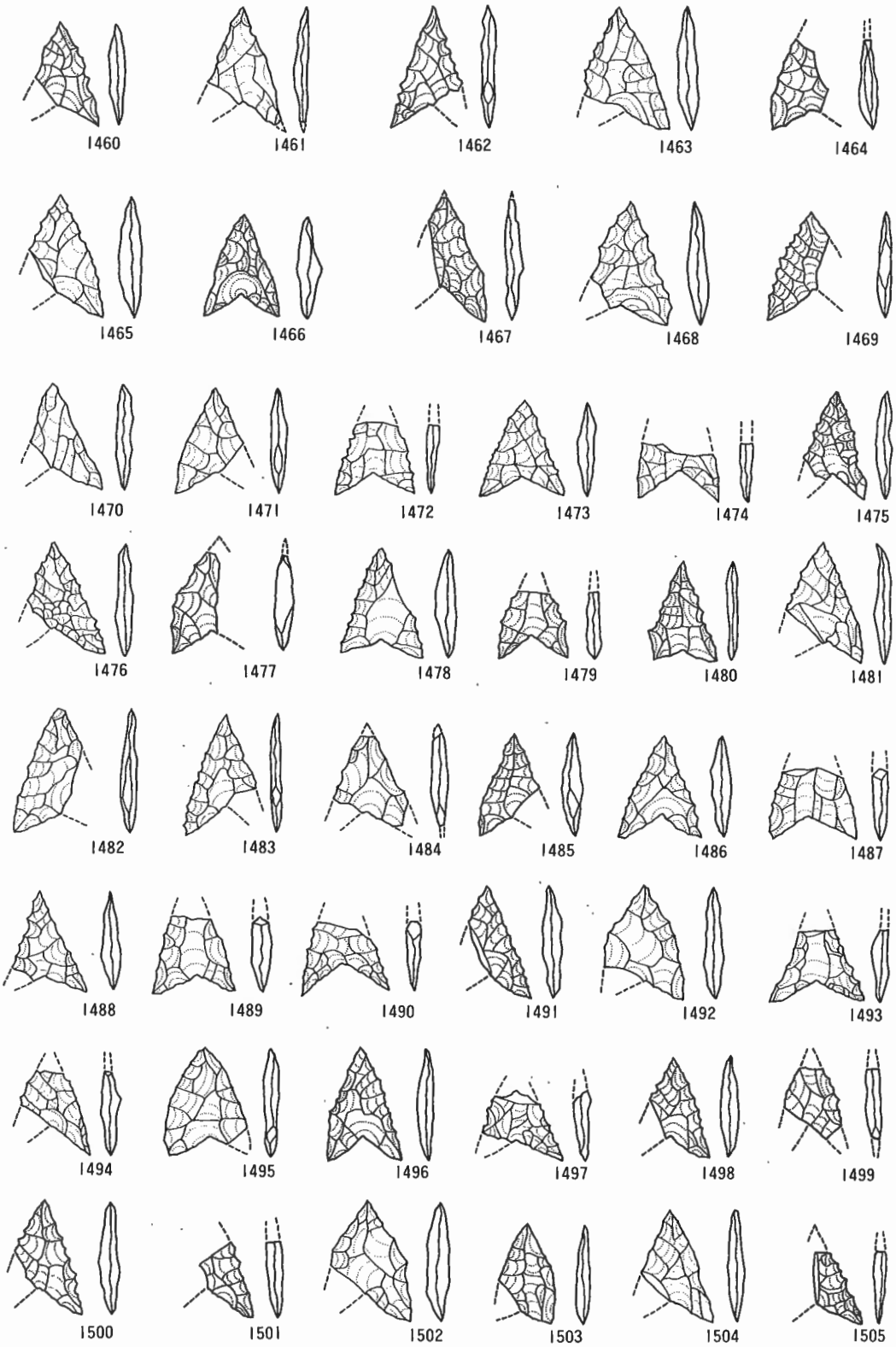

1422
1423
1424
1425
1426
1427
1428
1429
1430
1431
1432
1433
1434
1435
1436
1437
1438
1439
1440
1441
1442
1443
1444
1445
1446
1447
1448
1449
1450
1451
1452
1453
1454
1455
1456
1457
1458
1459
0
3 cm

第46図　石鏃実測図 ㉞

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1469	II-c-2	E-12	黒曜石	17.00	(13.80)	(3.00)	(0.20)	片逆刺欠	46	
1470	II-c-2	E-12	黒曜石	16.00	(11.55)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	46	
1471	II-c-2	E-14	黒曜石	16.00	(10.00)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	46	
1472	II-c-2	E-15	黒曜石	(11.50)	12.40	2.40	(0.25)	先端部欠	46	
1473	II-c-2	E-16	頁　岩	15.00	12.60	2.60	0.30	完　形	46	
1474	II-c-2	E-17	黒曜石	(8.70)	13.00	(2.45)	(0.20)	先端部欠	46	
1475	II-c-2	E-19	黒曜石	16.20	(9.90)	2.45	(0.20)	片逆刺欠	46	
1476	II-c-2	E-21	黒曜石	17.00	(12.20)	2.60	(0.30)	片逆刺欠	46	
1477	II-c-2	F-15	黒曜石	(15.15)	(7.45)	(3.10)	(0.25)	片側辺残	46	
1478	II-c-2	F-16	黒曜石	17.00	12.40	3.20	0.40	完　形	46	
1479	II-c-2	F-16	黒曜石	(10.20)	10.70	2.45	(0.20)	先端部欠	46	
1480	II-c-2	F-19	黒曜石	15.00	10.00	2.60	0.20	完　形	46	
1481	II-c-2	F-20	黒曜石	18.40	(11.90)	2.70	(0.30)	片逆刺欠	46	
1482	II-c-2	F-20	黒曜石	18.90	(9.95)	3.00	(0.40)	片逆刺欠	46	
1483	II-c-2	F-20	黒曜石	19.00	(11.00)	2.20	(0.20)	片逆刺欠	46	
1484	II-c-2	G-14	黒曜石	(13.70)	(11.50)	2.50	(0.30)	先端両逆刺欠	46	
1485	II-c-2	G-14	黒曜石	15.50	(9.25)	3.10	(0.25)	片逆刺欠	46	
1486	II-c-2	G-15	黒曜石	16.00	13.25	3.00	0.30	完　形	46	
1487	II-c-2	G-16	黒曜石	(11.35)	13.60	2.35	(0.40)	先端部欠	46	
1488	II-c-2	G-16	黒曜石	15.60	(11.35)	3.00	(0.30)	片逆刺欠	46	
1489	II-c-2	G-16	黒曜石	(11.80)	12.60	3.00	(0.50)	先端部欠	46	
1490	II-c-2	G-17	黒曜石	(11.50)	14.00	2.70	(0.30)	先端部欠	46	
1491	II-c-2	G-17	黒曜石	16.85	(9.55)	(3.20)	(0.30)	片逆刺欠	46	
1492	II-c-2	G-17	黒曜石	17.20	(12.80)	3.10	(0.40)	片逆刺欠	46	
1493	II-c-2	G-20	黒曜石	(11.45)	15.00	2.70	(0.25)	先端部欠	46	
1494	II-c-2	H-11	黒曜石	(12.45)	(11.55)	3.05	(0.45)	先端部片逆刺欠	46	
1495	II-c-2	H-11	黒曜石	16.45	(13.10)	2.20	(0.55)	片逆刺欠	46	
1496	II-c-2	H-11	黒曜石	17.30	11.75	2.50	0.50	完　形	46	
1497	II-c-2	H-11	黒曜石	(10.15)	(12.85)	2.75	(0.35)	先端部片逆刺欠	46	
1498	II-c-2	H-12	黒曜石	14.60	(10.45)	2.50	(0.30)	片逆刺欠	46	
1499	II-c-2	H-15	黒曜石	(11.85)	(9.20)	2.70	(0.40)	先端部両逆刺欠	46	
1500	II-c-2	H-15	黒曜石	17.70	(10.75)	3.20	(0.30)	片逆刺欠	46	
1501	II-c-2	H-15	黒曜石	(11.50)	(8.55)	(2.60)	(0.10)	片逆刺残	46	
1502	II-c-2	H-16	黒曜石	18.00	(12.90)	3.30	(0.70)	片逆刺欠	46	
1503	II-c-2	H-18	黒曜石	15.20	(8.60)	2.70	(0.30)	片逆刺欠	46	
1504	II-c-2	H-19	黒曜石	17.00	(10.20)	2.75	(0.30)	片逆刺欠	46	
1505	II-c-2	H-20	黒曜石	(14.15)	(8.45)	(2.60)	(0.40)	片側辺残	46	
1506	II-c-2	H-20	黒曜石	15.80	13.80	2.30	0.25	完　形	46	
1507	II-c-2	H-20	黒曜石	(9.50)	(10.00)	2.05	(0.10)	先端部両逆刺欠	46	
1508	II-c-2	H-21	黒曜石	(12.00)	12.65	2.70	(0.35)	先端部欠	46	
1509	II-c-2	H-21	黒曜石	18.55	15.00	3.90	0.65	完　形	46	
1510	II-c-2	H-21	黒曜石	18.30	12.55	3.70	0.65	完　形	46	
1511	II-c-2	H-24	黒曜石	(10.20)	14.55	4.00	(0.45)	先端部欠	46	
1512	II-c-2	H-25	黒曜石	(13.00)	12.55	2.35	(0.30)	先端部欠	46	

第40表　石鏃計測表 ㉞

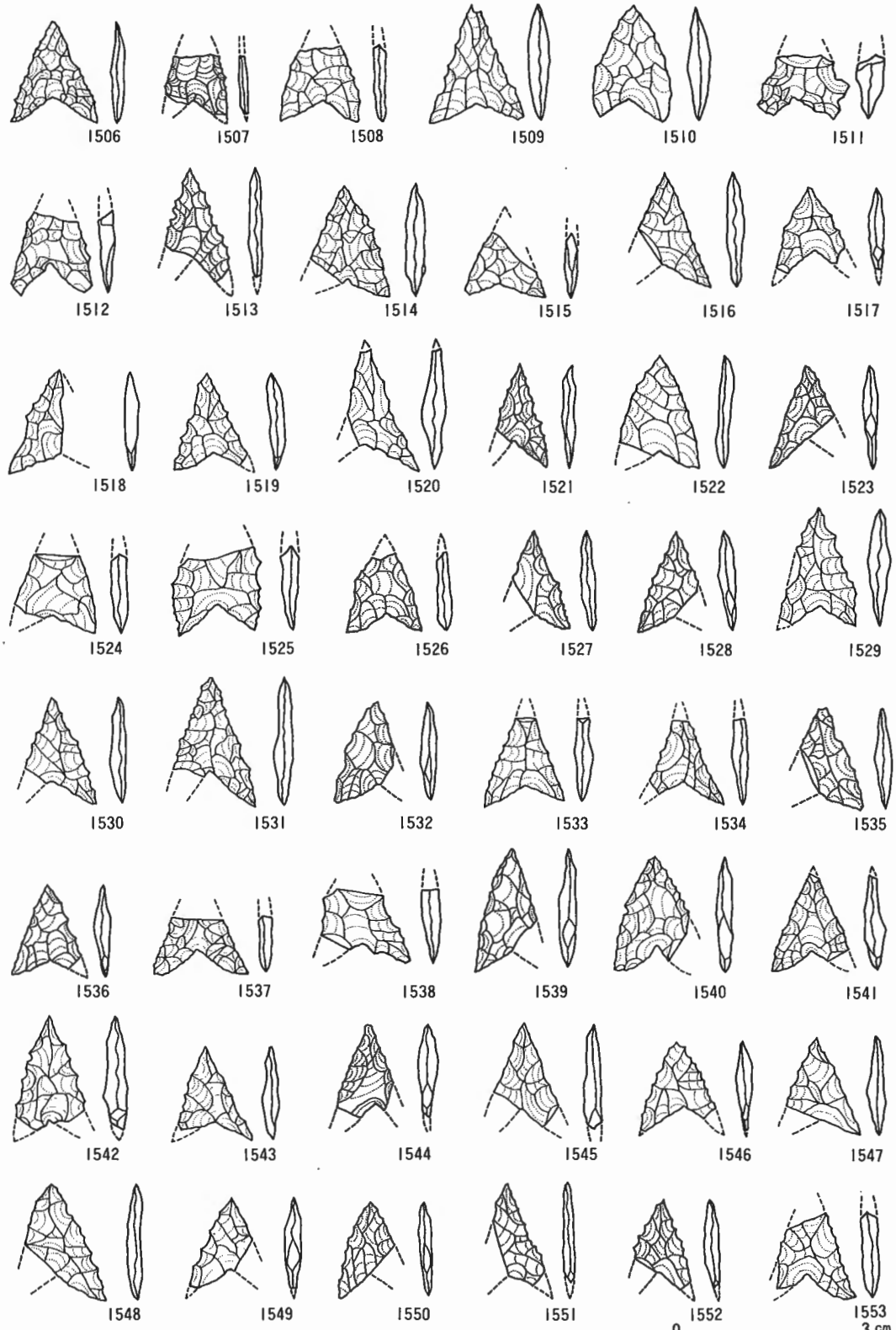

1460
1461
1462
1463
1464
1465
1466
1467
1468
1469
1470
1471
1472
1473
1474
1475
1476
1477
1478
1479
1480
1481
1482
1483
1484
1485
1486
1487
1488
1489
1490
1491
1492
1493
1494
1495
1496
1497
1498
1499
1500
1501
1502
1503
1504
1505
0
3 cm

第47図　石鏃実測図 ㉟

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1513	II-c-2	I-7	黒曜石	(12.90)	(10.30)	2.20	(0.35)	両逆刺欠	46	
1514	II-c-2	I-7	黒曜石	16.60	(12.40)	2.70	(0.60)	片逆刺欠	46	
1515	II-c-2	I-11	黒曜石	(10.00)	13.20	2.15	(0.20)	先端部欠	46	
1516	II-c-2	I-11	黒曜石	17.30	(12.10)	2.85	(0.45)	片逆刺欠	46	
1517	II-c-2	I-12	黒曜石	(12.85)	(10.80)	2.30	(0.40)	両逆刺欠	46	
1518	II-c-2	I-12	黒曜石	15.45	(8.20)	(2.40)	(0.30)	片側辺残	46	
1519	II-c-2	I-12	黒曜石	14.55	(11.50)	2.90	(0.40)	片逆刺欠	46	
1520	II-c-2	I-12	黒曜石	(13.95)	(12.55)	4.10	(0.45)	先端片逆刺欠	46	
1521	II-c-2	I-12	黒曜石	14.90	(7.40)	2.20	(0.25)	片逆刺欠	46	
1522	II-c-2	I-12	黒曜石	16.70	(12.35)	2.45	(0.50)	片逆刺欠	46	
1523	II-c-2	I-12	黒曜石	16.10	(9.60)	2.90	(0.35)	片逆刺欠	46	
1524	II-c-2	I-12	黒曜石	(12.15)	(13.20)	3.05	(0.50)	先端部片逆刺欠	46	
1525	II-c-2	I-13	黒曜石	(13.95)	14.00	3.15	(0.65)	先端部欠	46	
1526	II-c-2	I-15	黒曜石	(11.80)	12.00	2.00	(0.30)	先端部欠	46	
1527	II-c-2	I-15	黒曜石	15.50	(9.10)	2.00	(0.15)	片逆刺欠	46	
1528	II-c-2	I-16	黒曜石	15.30	(9.20)	2.70	(0.25)	片逆刺欠	46	
1529	II-c-2	I-16	黒曜石	18.30	(11.75)	3.55	(0.40)	片側辺片逆刺欠	46	
1530	II-c-2	I-19	黒曜石	16.20	(10.95)	2.55	(0.30)	片逆刺欠	46	
1531	II-c-2	I-20	黒曜石	20.75	(12.65)	2.80	(0.35)	片逆刺欠	46	
1532	II-c-2	I-21	黒曜石	15.80	(9.50)	2.80	(0.25)	片逆刺欠	46	
1533	II-c-2	I-21	黒曜石	(14.40)	12.60	3.55	(0.40)	先端部欠	46	
1534	II-c-2	I-21	黒曜石	(13.45)	(12.00)	2.75	(0.25)	先端片逆刺欠	46	
1535	II-c-2	I-23	黒曜石	15.50	(10.30)	3.20	(0.30)	片逆刺欠	46	
1536	II-c-2	I-23	黒曜石	14.40	(11.00)	2.45	(0.25)	片逆刺欠	46	
1537	II-c-2	I-24	黒曜石	(8.75)	15.00	2.25	(0.25)	先端部欠	47	
1538	II-c-2	J-4	黒曜石	(11.70)	(14.00)	3.20	(0.50)	先端部片逆刺欠	47	
1539	II-c-2	J-7	黒曜石	19.25	(14.25)	2.95	(0.55)	片逆刺欠	47	
1540	II-c-2	J-7	黒曜石	17.60	(12.30)	2.45	(0.65)	片逆刺欠	47	
1541	II-c-2	J-8	黒曜石	(16.45)	(11.75)	3.50	(0.55)	先端片逆刺欠	47	
1542	II-c-2	J-8	黒曜石	(16.95)	(10.45)	3.80	(0.70)	両逆刺欠	47	
1543	II-c-2	J-8	黒曜石	14.65	(11.90)	2.50	(0.45)	片逆刺欠	47	
1544	II-c-2	J-11	黒曜石	(14.30)	(9.15)	3.05	(0.35)	両逆刺欠	47	
1545	II-c-2	J-11	黒曜石	(16.20)	(10.50)	2.80	(0.35)	両逆刺欠	47	
1546	II-c-2	J-11	黒曜石	(13.40)	(11.75)	2.80	(0.35)	両逆刺欠	47	
1547	II-c-2	J-12	黒曜石	15.00	(11.85)	2.95	(0.35)	片逆刺欠	47	
1548	II-c-2	J-12	黒曜石	17.55	(13.60)	2.50	(0.45)	片逆刺欠	47	
1549	II-c-2	J-12	黒曜石	(16.30)	(8.85)	2.85	(0.35)	両逆刺欠	47	
1550	II-c-2	J-12	黒曜石	14.50	(9.55)	2.20	(0.20)	片逆刺欠	47	
1551	II-c-2	J-12	黒曜石	(15.15)	(8.75)	2.90	(0.20)	両逆刺欠	47	
1552	II-c-2	J-12	黒曜石	(13.35)	(8.95)	2.80	(0.30)	両逆刺欠	47	
1553	II-c-2	J-12	黒曜石	(13.50)	(12.50)	2.70	(0.40)	先端部片逆刺欠	47	
1554	II-c-2	J-12	黒曜石	18.75	(10.45)	4.65	(0.60)	片逆刺欠	47	
1555	II-c-2	J-12	黒曜石	15.05	(10.85)	2.55	(0.35)	片逆刺欠	47	
1556	II-c-2	J-12	黒曜石	(10.20)	12.75	2.80	(0.30)	先端部欠	47	

第41表　石鏃計測表 ㉟

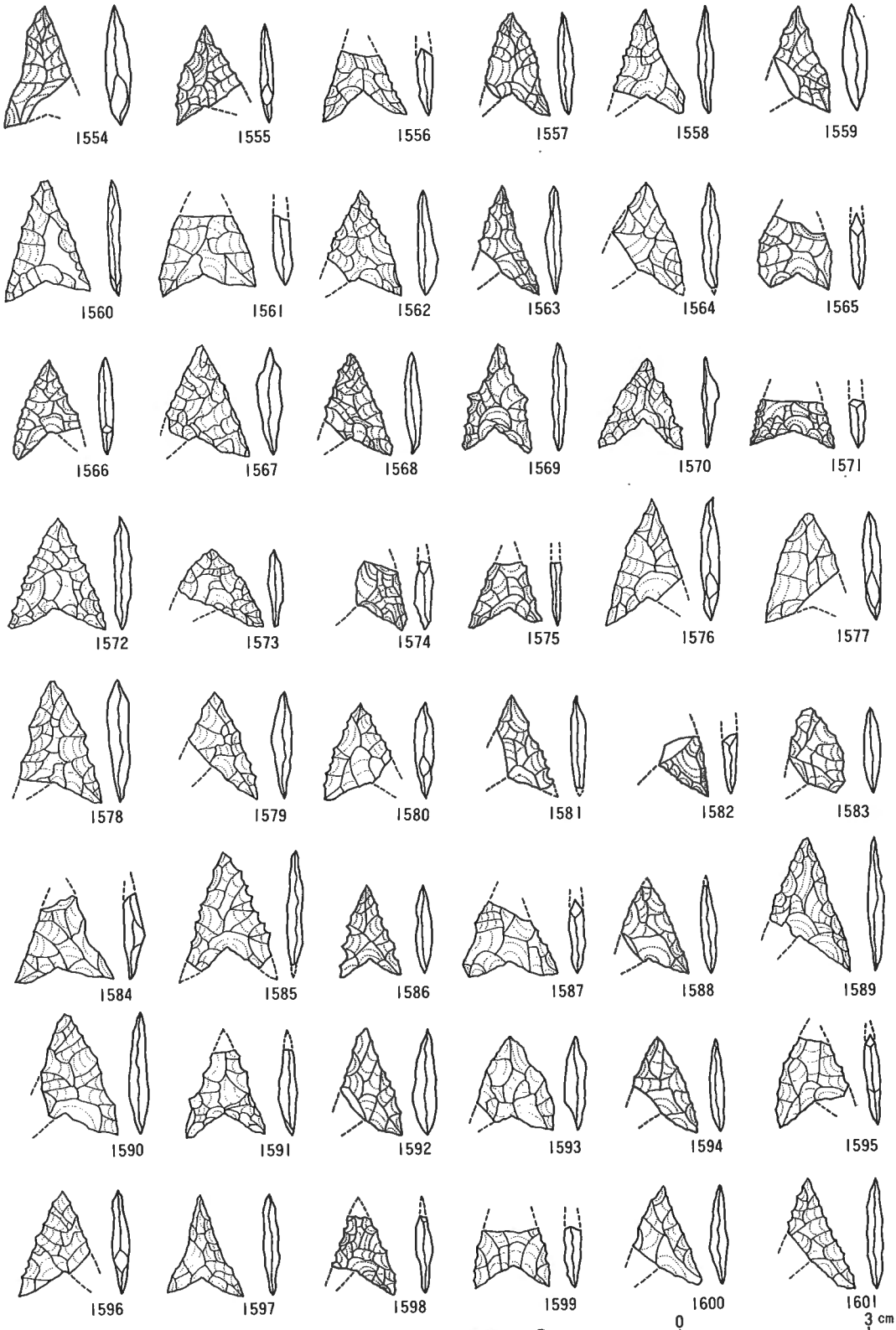

1506
1507
1508
1509
1510
1511
1512
1513
1514
1515
1516
1517
1518
1519
1520
1521
1522
1523
1524
1525
1526
1527
1528
1529
1530
1531
1532
1533
1534
1535
1536
1537
1538
1539
1540
1541
1542
1543
1544
1545
1546
1547
1548
1549
1550
1551
1552
1553
0
3 cm

第48図　石鏃実測図 ㊱

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1557	II-c-2	J-13	黒曜石	16.10	(10.20)	2.70	(0.50)	片逆刺欠	47	
1558	II-c-2	J-13	黒曜石	16.45	(10.90)	2.65	(0.45)	片逆刺欠	47	
1559	II-c-2	J-13	黒曜石	15.90	(9.35)	3.95	(0.55)	片逆刺欠	47	
1560	II-c-2	J-14	頁　岩	18.60	13.30	2.15	0.40	完　形	47	
1561	II-c-2	J-15	黒曜石	(12.60)	15.20	3.10	(0.85)	先端部欠	47	
1562	II-c-2	J-20	黒曜石	16.30	(11.80)	2.90	(0.40)	片逆刺欠	47	
1563	II-c-2	J-21	黒曜石	17.50	(10.00)	2.55	(0.20)	片逆刺欠	47	
1564	II-c-2	J-22	黒曜石	(16.70)	(11.30)	3.00	(0.40)	両逆刺欠	47	
1565	II-c-2	J-22	黒曜石	(11.50)	12.00	2.70	(0.30)	先端部欠	47	
1566	II-c-2	J-22	黒曜石	15.70	(10.60)	2.50	(0.20)	片逆刺欠	47	
1567	II-c-2	J-23	黒曜石	17.55	(14.00)	4.00	(0.55)	片逆刺欠	47	
1568	II-c-2	J-23	黒曜石	15.70	(10.75)	2.70	(0.30)	片逆刺欠	47	
1569	II-c-2	J-24	黒曜石	17.20	11.00	2.40	0.30	完　形	47	
1570	II-c-2	J-24	黒曜石	14.50	13.45	3.00	0.20	完　形	47	
1571	II-c-2	J-24	黒曜石	(7.60)	13.00	(2.50)	(0.20)	先端部欠	47	
1572	II-c-2	J-25	黒曜石	17.30	15.80	3.25	0.50	完　形	47	
1573	II-c-2	J-25	黒曜石	12.00	(14.00)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	47	
1574	II-c-2	J-25	黒曜石	(11.00)	(8.00)	(2.70)	(0.20)	片逆刺残	47	
1575	II-c-2	K-12	黒曜石	(10.30)	12.15	2.45	(0.35)	先端部欠	47	
1576	II-c-2	K-12	黒曜石	19.65	(12.05)	2.95	(0.60)	片逆刺欠	47	
1577	II-c-2	K-12	黒曜石	16.60	(11.20)	2.70	(0.60)	片逆刺欠	47	
1578	II-c-2	K-12	黒曜石	18.80	(12.45)	3.30	(0.70)	片逆刺欠	47	
1579	II-c-2	K-12	黒曜石	16.60	(16.15)	3.20	(0.50)	片逆刺欠	47	
1580	II-c-2	K-12	黒曜石	14.35	(20.10)	2.10	(0.50)	片逆刺欠	47	
1581	II-c-2	K-12	黒曜石	(14.60)	(9.70)	(2.30)	(0.35)	両逆刺欠	47	
1582	II-c-2	K-12	黒曜石	(9.35)	(7.30)	(2.70)	(0.30)	片逆刺残	47	
1583	II-c-2	K-13	黒曜石	13.50	(8.30)	2.45	(0.50)	片逆刺欠	47	
1584	II-c-2	K-13	黒曜石	(13.80)	15.35	4.20	(0.60)	先端部欠	47	
1585	II-c-2	K-13	黒曜石	(17.85)	(13.35)	2.55	(0.60)	両逆刺欠	47	
1586	II-c-2	K-13	黒曜石	14.35	9.25	2.45	0.40	完　形	47	
1587	II-c-2	K-13	黒曜石	(11.75)	16.25	2.20	(0.55)	先端部欠	47	
1588	II-c-2	K-22	黒曜石	(13.50)	(11.00)	2.60	(0.25)	先端片逆刺欠	47	
1589	II-c-2	K-23	黒曜石	21.00	(13.00)	2.55	(0.35)	片逆刺欠	47	
1590	II-c-2	K-25	黒曜石	19.15	(11.70)	3.00	(0.45)	片逆刺欠	47	
1591	II-c-2	K-26	黒曜石	(14.00)	13.00	3.00	(0.30)	先端部欠	47	
1592	II-c-2	K-26	黒曜石	16.60	(10.00)	4.00	(0.40)	片逆刺欠	47	
1593	II-c-2	L-12	黒曜石	13.80	(12.15)	3.40	(0.55)	片逆刺欠	47	
1594	II-c-2	M-11	黒曜石	14.55	(9.90)	2.30	(0.40)	片逆刺欠	47	
1595	II-c-2	19住居	黒曜石	(14.00)	(11.65)	2.85	(0.30)	先端部片逆刺欠	47	
1596	II-c-2	6炉穴	黒曜石	15.50	(10.55)	3.10	(0.40)	片逆刺欠	47	
1597	II-c-2	26炉穴	黒曜石	16.00	12.20	2.60	0.25	完　形	47	
1598	II-c-2	44炉穴	黒曜石	(13.00)	(10.00)	2.60	(0.30)	先端部片逆刺欠	47	
1599	II-c-2	48炉穴	黒曜石	(9.90)	12.65	(3.15)	(0.25)	先端部欠	47	
1600	II-c-2	48炉穴	黒曜石	15.80	(11.20)	3.35	(0.25)	片逆刺欠	47	

第42表　石鏃計測表 ㊱

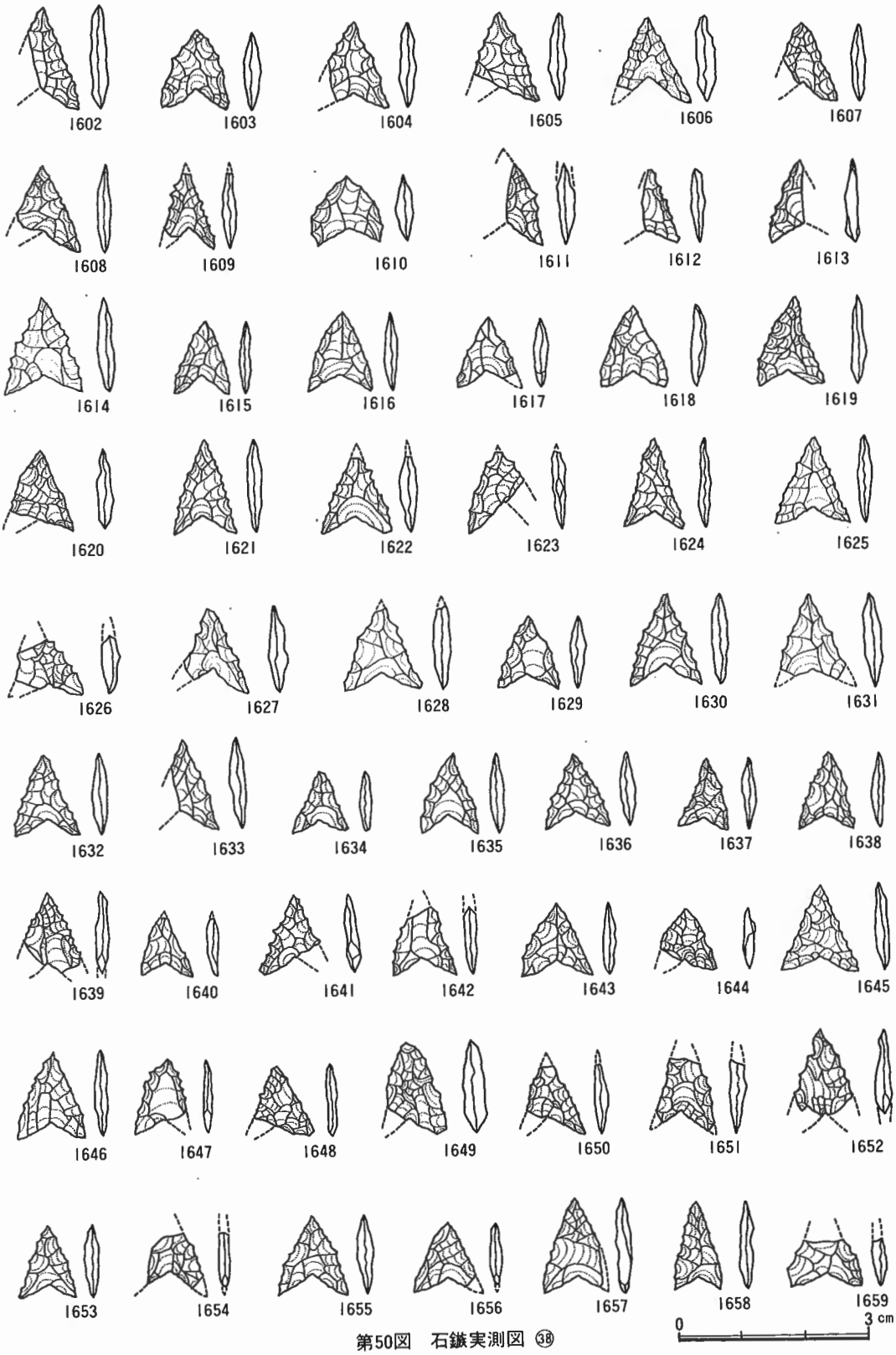

1554
1555
1556
1557
1558
1559
1560
1561
1562
1563
1564
1565
1566
1567
1568
1569
1570
1571
1572
1573
1574
1575
1576
1577
1578
1579
1580
1581
1582
1583
1584
1585
1586
1587
1588
1589
1590
1591
1592
1593
1594
1595
1596
1597
1598
1599
1600
1601
0
3 cm

第49図　石鏃実測図 ㊲

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1601	II-c-2	D-16	黒 曜 石	17.65	(13.35)	2.50	(0.20)	片逆刺欠	47	
1602	II-c-2	9土坑	黒 曜 石	16.35	(8.40)	3.00	(0.20)	片逆刺欠	47	
1603	II-c-2	C-11	黒 曜 石	12.60	11.00	3.00	0.30	完　形	47	
1604	II-c-2	C-17	黒 曜 石	13.10	(9.65)	2.50	(0.20)	片逆刺欠	47	
1605	II-c-2	C-17	黒 曜 石	14.00	(10.20)	3.20	(0.25)	片逆刺欠	47	
1606	II-c-2	D-10	黒 曜 石	13.20	(12.00)	2.70	(0.25)	片逆刺欠	47	
1607	II-c-2	D-11	黒 曜 石	12.00	(8.60)	2.30	(0.25)	片逆刺欠	47	
1608	II-c-2	D-11	黒 曜 石	13.60	(10.25)	2.90	(0.15)	片逆刺欠	47	
1609	II-c-2	D-13	黒 曜 石	(12.00)	(8.40)	2.10	(0.10)	先端片逆刺欠	47	
1610	II-c-2	D-17	黒 曜 石	11.00	11.35	2.95	0.25	完　形	47	
1611	II-c-2	E-10	黒 曜 石	(12.00)	(5.50)	(2.55)	(0.10)	片側辺残	47	
1612	II-c-2	E-12	黒 曜 石	11.45	(5.45)	(2.15)	(0.10)	片側辺残	47	
1613	II-c-2	E-12	黒 曜 石	13.00	(5.50)	(2.40)	(0.10)	片側辺残	47	
1614	II-c-2	E-14	黒 曜 石	15.80	12.00	2.50	0.30	完　形	47	
1615	II-c-2	E-14	黒 曜 石	11.60	9.00	3.00	0.10	完　形	47	
1616	II-c-2	E-18	黒 曜 石	12.80	10.20	2.20	0.20	完　形	47	
1617	II-c-2	E-18	黒 曜 石	11.60	(9.20)	2.15	(0.10)	片逆刺欠	48	
1618	II-c-2	E-19	黒 曜 石	12.20	10.40	2.20	0.20	完　形	48	
1619	II-c-2	E-21	黒 曜 石	14.00	10.25	2.30	0.20	完　形	48	
1620	II-c-2	H-24	黒 曜 石	12.85	(10.00)	2.45	(0.20)	片逆刺欠	48	
1621	II-c-2	F-15	黒 曜 石	15.00	10.00	2.20	0.20	完　形	48	
1622	II-c-2	F-16	黒 曜 石	(10.60)	10.40	3.00	(0.20)	先端欠	48	
1623	II-c-2	F-16	黒 曜 石	(13.25)	(9.20)	2.00	(0.20)	先端片逆刺欠	48	
1624	II-c-2	F-20	黒 曜 石	14.00	9.65	3.35	0.15	完　形	48	
1625	II-c-2	F-20	黒 曜 石	13.80	12.00	2.25	0.15	完　形	48	
1626	II-c-2	F-21	黒 曜 石	(9.00)	(10.75)	2.45	(0.15)	先端部片逆刺欠	48	
1627	II-c-2	F-21	黒 曜 石	13.50	(10.00)	2.90	(0.20)	片逆刺欠	48	
1628	II-c-2	G-15	チャート	(12.70)	12.40	2.50	(0.35)	先端欠	48	
1629	II-c-2	G-15	黒 曜 石	11.30	9.35	2.30	0.15	完　形	48	
1630	II-c-2	G-15	黒 曜 石	14.10	11.30	2.40	0.25	完　形	48	
1631	II-c-2	G-15	黒 曜 石	(13.70)	(10.25)	3.00	(0.30)	両逆刺欠	48	
1632	II-c-2	G-16	黒 曜 石	12.65	9.80	2.40	0.25	完　形	48	
1633	II-c-2	G-16	黒 曜 石	14.35	(7.45)	2.35	(0.25)	片逆刺欠	48	
1634	II-c-2	G-22	黒 曜 石	9.70	8.80	2.60	0.10	完　形	48	
1635	II-c-2	G-22	黒 曜 石	12.40	9.00	2.20	0.20	完　形	48	
1636	II-c-2	H-16	黒 曜 石	11.20	9.80	2.25	0.20	完　形	48	
1637	II-c-2	H-18	黒 曜 石	11.00	8.05	2.40	0.10	完　形	48	
1638	II-c-2	H-19	黒 曜 石	11.85	8.65	2.85	0.10	完　形	48	
1639	II-c-2	H-20	黒 曜 石	(12.40)	(8.80)	2.90	(0.15)	両逆刺欠	48	
1640	II-c-2	I-10	黒 曜 石	(8.75)	8.60	2.20	(0.25)	先端欠	48	
1641	II-c-2	I-11	黒 曜 石	12.20	(9.40)	2.25	(0.35)	片逆刺欠	48	
1642	II-c-2	I-16	黒 曜 石	(10.40)	9.65	2.00	(0.15)	先端部欠	48	
1643	II-c-2	I-19	黒 曜 石	10.95	10.95	2.20	0.20	完　形	48	
1644	II-c-2	I-20	黒 曜 石	9.65	(9.00)	2.10	(0.10)	片逆刺欠	48	

第43表　石鏃計測表 ㊲

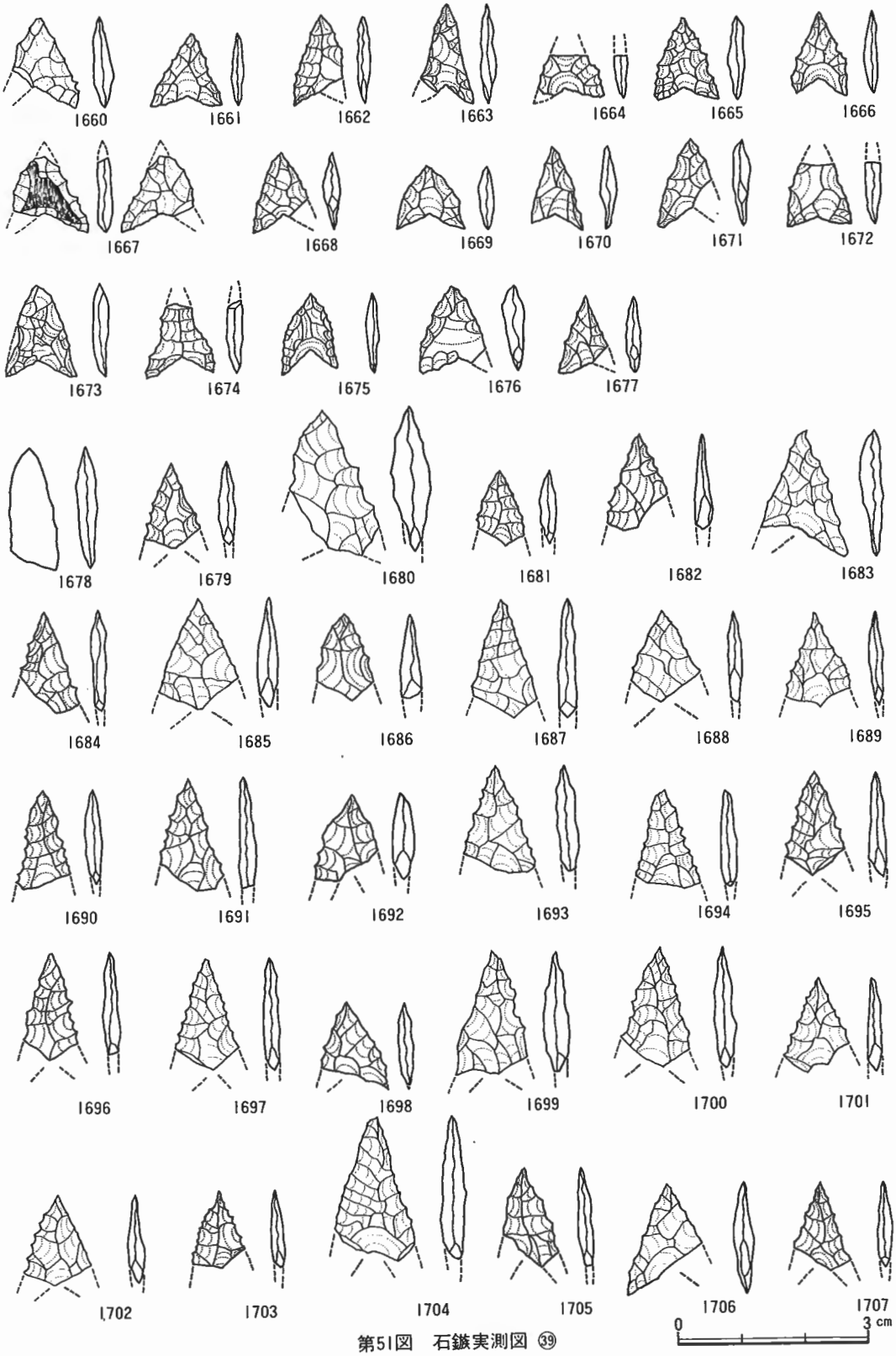

1602
1603
1604
1605
1606
1607
1608
1609
1610
1611
1612
1613
1614
1615
1616
1617
1618
1619
1620
1621
1622
1623
1624
1625
1626
1627
1628
1629
1630
1631
1632
1633
1634
1635
1636
1637
1638
1639
1640
1641
1642
1643
1644
1645
1646
1647
1648
1649
1650
1651
1652
1653
1654
1655
1656
1657
1658
1659
0
3 cm

第50図　石鏃実測図 ㊳

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1645	II-c-2	I-20	黒曜石	13.60	12.20	2.70	0.20	完　形	48	
1646	II-c-2	I-22	黒曜石	14.00	11.00	2.25	0.20	完　形	48	
1647	II-c-2	I-22	黒曜石	12.00	(8.00)	2.50	(0.15)	片逆刺欠	48	
1648	II-c-2	I-24	黒曜石	11.00	(9.55)	2.95	(0.10)	片逆刺欠	48	
1649	II-c-2	I-24	黒曜石	15.00	(9.50)	4.20	(0.35)	片逆刺欠	48	
1650	II-c-2	I-24	黒曜石	(11.00)	(9.00)	2.15	(0.10)	先端片逆刺欠	48	
1651	II-c-2	I-25	黒曜石	(11.00)	(9.00)	2.65	(0.20)	先端部両逆刺欠	48	
1652	II-c-2	I-25	黒曜石	(14.00)	(9.65)	2.70	(0.20)	両逆刺欠	48	
1653	II-c-2	J-4	黒曜石	11.00	9.35	2.40	0.10	完　形	48	
1654	II-c-2	J-6	黒曜石	(8.70)	(12.95)	2.95	(0.30)	先端部両逆刺欠	48	
1655	II-c-2	J-12	黒曜石	12.75	10.95	2.40	0.25	完　形	48	
1656	II-c-2	J-12	黒曜石	11.10	(9.60)	2.25	(0.15)	片逆刺欠	48	
1657	II-c-2	J-12	黒曜石	15.10	(9.85)	2.65	(0.35)	片逆刺欠	48	
1658	II-c-2	J-12	黒曜石	13.60	7.80	2.35	0.25	完　形	48	
1659	II-c-2	J-21	黒曜石	(7.70)	12.00	2.40	(0.15)	先端部欠	48	
1660	II-c-2	J-22	黒曜石	14.00	(10.60)	3.60	(0.35)	片逆刺欠	48	
1661	II-c-2	J-22	黒曜石	11.30	11.00	2.65	0.15	完　形	48	
1662	II-c-2	J-23	黒曜石	13.80	(7.55)	2.15	(0.15)	片逆刺欠	48	
1663	II-c-2	J-23	黒曜石	15.50	(8.00)	2.40	(0.20)	片逆刺欠	48	
1664	II-c-2	J-24	黒曜石	(6.70)	(10.90)	2.30	(0.20)	先端部片逆刺欠	48	
1665	II-c-2	J-25	黒曜石	13.00	10.00	2.40	0.15	完　形	48	
1666	II-c-2	K-7	黒曜石	12.30	8.70	2.20	0.30	完　形	48	
1667	II-c-2	K-12	黒曜石	13.30	(10.85)	2.10	(0.40)	先端片逆刺欠	48	局部磨製
1668	II-c-2	K-12	黒曜石	11.80	(8.70)	2.70	(0.35)	片逆刺欠	48	
1669	II-c-2	K-12	黒曜石	10.25	10.60	2.65	0.30	完　形	48	
1670	II-c-2	K-12	黒曜石	12.45	8.25	2.90	0.30	完　形	48	
1671	II-c-2	K-13	黒曜石	13.75	(8.00)	2.50	(0.35)	片逆刺欠	48	
1672	II-c-2	K-22	黒曜石	(10.20)	10.40	3.20	(0.30)	先端部欠	48	
1673	II-c-2	K-23	黒曜石	14.50	11.00	2.55	(0.30)	片側辺欠	48	
1674	II-c-2	K-23	黒曜石	(11.30)	11.00	2.50	(0.20)	先端部欠	48	
1675	II-c-2	K-24	黒曜石	13.00	9.00	2.80	0.10	完　形	48	
1676	II-c-2	L-13	黒曜石	13.65	(10.50)	3.10	(0.55)	片逆刺欠	48	
1677	II-c-2	L-13	黒曜石	11.70	(7.45)	2.30	(0.30)	片逆刺欠	48	
1678	—	I-23	頁　岩	19.00	7.70	3.30	0.55	完　形	49	
1679	—	C-14	黒曜石	(13.35)	(9.15)	2.80	(0.20)	基部欠	49	
1680	—	C-15	黒曜石	(20.60)	(13.70)	(5.55)	(1.10)	基部欠	49	
1681	—	C-17	黒曜石	(11.40)	(7.40)	(2.60)	(0.20)	基部欠	49	
1682	—	D-12	黒曜石	(15.00)	(9.60)	(2.90)	(0.20)	基部欠	49	
1683	—	D-14	黒曜石	19.65	(14.00)	2.50	(0.55)	片逆刺欠	49	
1684	—	D-14	黒曜石	(16.00)	(9.00)	(2.80)	(0.30)	基部欠	49	
1685	—	D-17	黒曜石	(17.00)	(12.70)	3.00	(0.45)	基部欠	49	
1686	—	D-17	黒曜石	(13.35)	(9.00)	(3.20)	(0.30)	基部欠	49	
1687	—	D-17	黒曜石	(18.30)	(10.45)	(3.10)	(0.40)	基部欠	49	
1688	—	E-14	黒曜石	(14.45)	(11.30)	(2.40)	(0.30)	基部欠	49	

第44表　石鏃計測表 ㊳

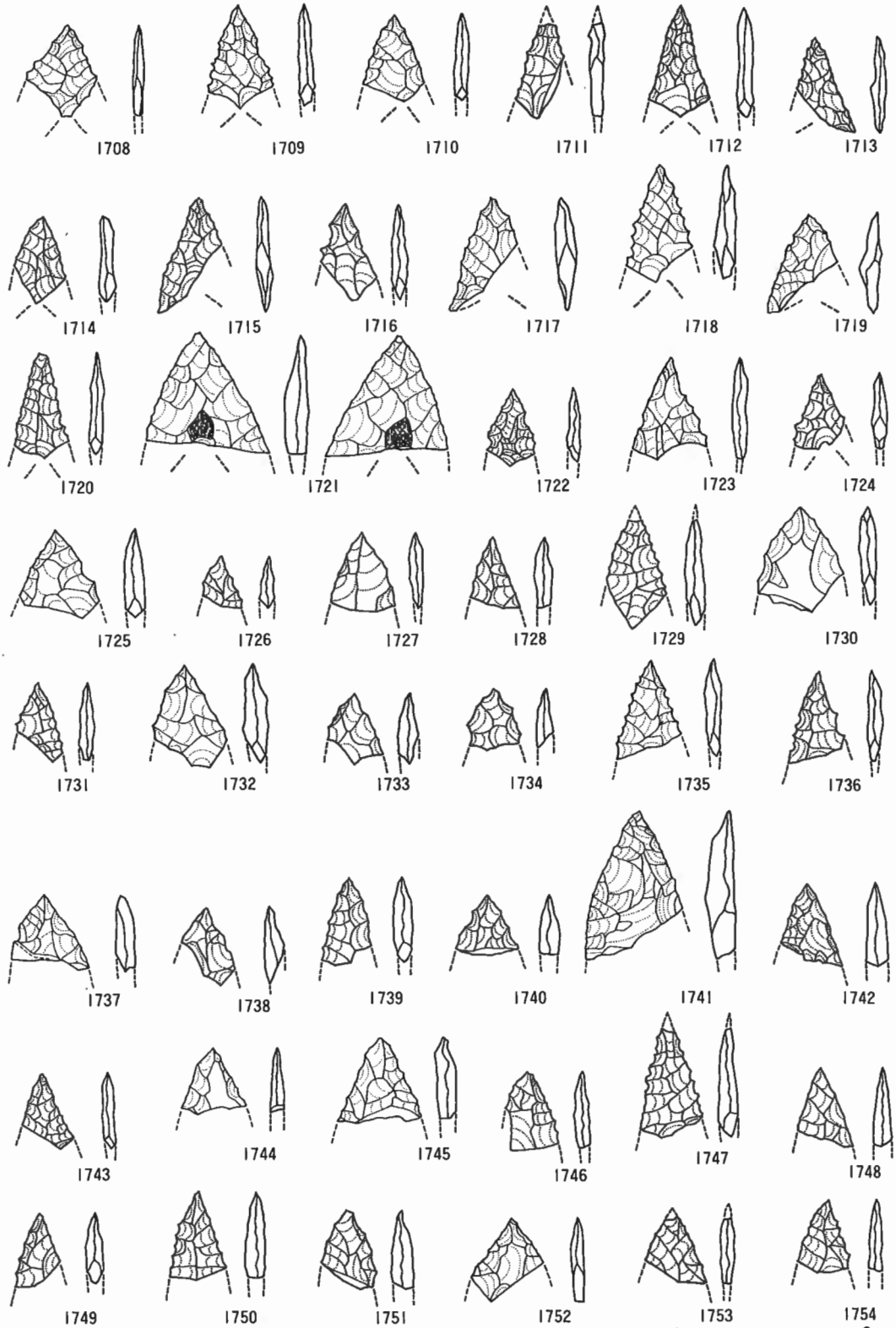

1660
1661
1662
1663
1664
1665
1666
1667
1668
1669
1670
1671
1672
1673
1674
1675
1676
1677
1678
1679
1680
1681
1682
1683
1684
1685
1686
1687
1688
1689
1690
1691
1692
1693
1694
1695
1696
1697
1698
1699
1700
1701
1702
1703
1704
1705
1706
1707
0
3 cm

第51図　石鏃実測図 ㊴

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1689	—	E-15	黒曜石	(14.60)	(11.00)	(2.80)	(0.35)	基部欠	49	
1690	—	E-16	黒曜石	(14.70)	(8.20)	(2.60)	(0.20)	基部欠	49	
1691	—	E-17	黒曜石	(17.50)	(9.90)	(2.70)	(0.35)	基部欠	49	
1692	—	F-15	黒曜石	(13.50)	(10.00)	(3.00)	(0.35)	基部欠	49	
1693	—	F-16	黒曜石	(16.60)	(11.25)	(3.20)	(0.40)	基部欠	49	
1694	—	F-19	黒曜石	(15.30)	(10.00)	(2.20)	(0.40)	基部欠	49	
1695	—	F-20	黒曜石	(15.85)	(10.20)	(2.70)	(0.30)	基部欠	49	
1696	—	F-21	黒曜石	(17.20)	(8.80)	(2.60)	(0.25)	基部欠	49	
1697	—	G-16	黒曜石	(17.20)	(10.00)	(2.30)	(0.35)	基部欠	49	
1698	—	G-16	黒曜石	(13.60)	(10.40)	2.25	(0.35)	基部欠	49	
1699	—	G-22	黒曜石	(19.00)	(11.00)	4.50	(0.65)	基部欠	49	
1700	—	G-22	黒曜石	(19.00)	(11.00)	3.65	(0.50)	基部欠	49	
1701	—	H-12	黒曜石	(14.10)	(9.90)	(2.85)	(0.35)	基部欠	49	
1702	—	H-14	黒曜石	(13.95)	(10.75)	(2.90)	(0.40)	基部欠	49	
1703	—	H-15	黒曜石	(11.75)	(13.50)	(2.30)	(0.35)	基部欠	49	
1704	—	H-15	黒曜石	(22.05)	(12.65)	(3.85)	(1.05)	基部欠	49	
1705	—	H-15	黒曜石	(15.10)	(8.45)	(2.80)	(0.40)	基部欠	49	
1706	—	H-20	黒曜石	17.35	(11.85)	(3.55)	(0.35)	片逆刺欠	49	
1707	—	H-22	黒曜石	(14.00)	(9.00)	(2.35)	(0.20)	基部欠	49	
1708	—	H-22	黒曜石	(10.50)	(11.60)	(2.90)	(0.20)	基部欠	49	
1709	—	I-8	黒曜石	(16.35)	(10.25)	(2.90)	(0.50)	基部欠	49	
1710	—	I-11	黒曜石	(13.75)	(9.90)	(2.40)	(0.35)	基部欠	49	
1711	—	I-14	黒曜石	(14.25)	(6.85)	(2.70)	(0.40)	先端基部欠	49	
1712	—	I-25	黒曜石	(17.00)	(9.70)	(2.50)	(0.35)	基部欠	49	
1713	—	I-25	黒曜石	14.40	(8.70)	(2.70)	(0.10)	片逆刺欠	49	
1714	—	J-11	黒曜石	(13.20)	(8.25)	(2.65)	(0.25)	基部欠	49	
1715	—	J-12	黒曜石	18.20	(10.25)	(2.75)	(0.30)	片逆刺欠	49	
1716	—	J-21	黒曜石	(15.00)	(9.00)	(2.80)	(0.20)	基部欠	49	
1717	—	K-12	黒曜石	(17.45)	(10.40)	(2.45)	(0.40)	基部欠	49	
1718	—	K-15	黒曜石	(17.70)	(11.40)	(3.35)	(0.55)	基部欠	49	
1719	—	K-18	黒曜石	(14.80)	(10.40)	(2.95)	(0.25)	基部欠	49	
1720	—	K-22	黒曜石	(16.40)	(8.60)	2.60	(0.30)	基部欠	49	
1721	—	K-22	黒曜石	(19.00)	(19.30)	3.50	(0.85)	基部欠	49	局部磨製
1722	—	K-23	黒曜石	(12.00)	(7.75)	(2.20)	(0.15)	基部欠	49	
1723	—	L-13	黒曜石	(15.60)	(11.15)	(2.55)	(0.50)	基部欠	49	
1724	—	表採	黒曜石	(11.75)	(7.90)	(2.75)	(0.20)	基部欠	49	
1725	—	C-3	黒曜石	(14.15)	(12.45)	(3.15)	(0.40)	先端部残	49	
1726	—	C-13	黒曜石	(7.70)	(6.25)	(2.35)	(0.05)	先端部残	49	
1727	—	C-15	黒曜石	(12.30)	(9.80)	(2.30)	(0.20)	先端部残	49	
1728	—	C-15	黒曜石	(10.90)	(8.10)	(3.00)	(0.10)	先端部残	49	
1729	—	C-15	黒曜石	(17.00)	(9.40)	(3.00)	(0.35)	先端基部欠	49	
1730	—	C-17	黒曜石	(15.70)	(13.45)	(2.70)	(0.75)	先端部残	49	
1731	—	C-17	黒曜石	(12.10)	(7.20)	(2.20)	(0.25)	先端部残	49	
1732	—	C-17	黒曜石	(15.65)	(11.40)	(4.10)	(0.50)	基部欠	49	

第45表　石鏃計測表 ㊴

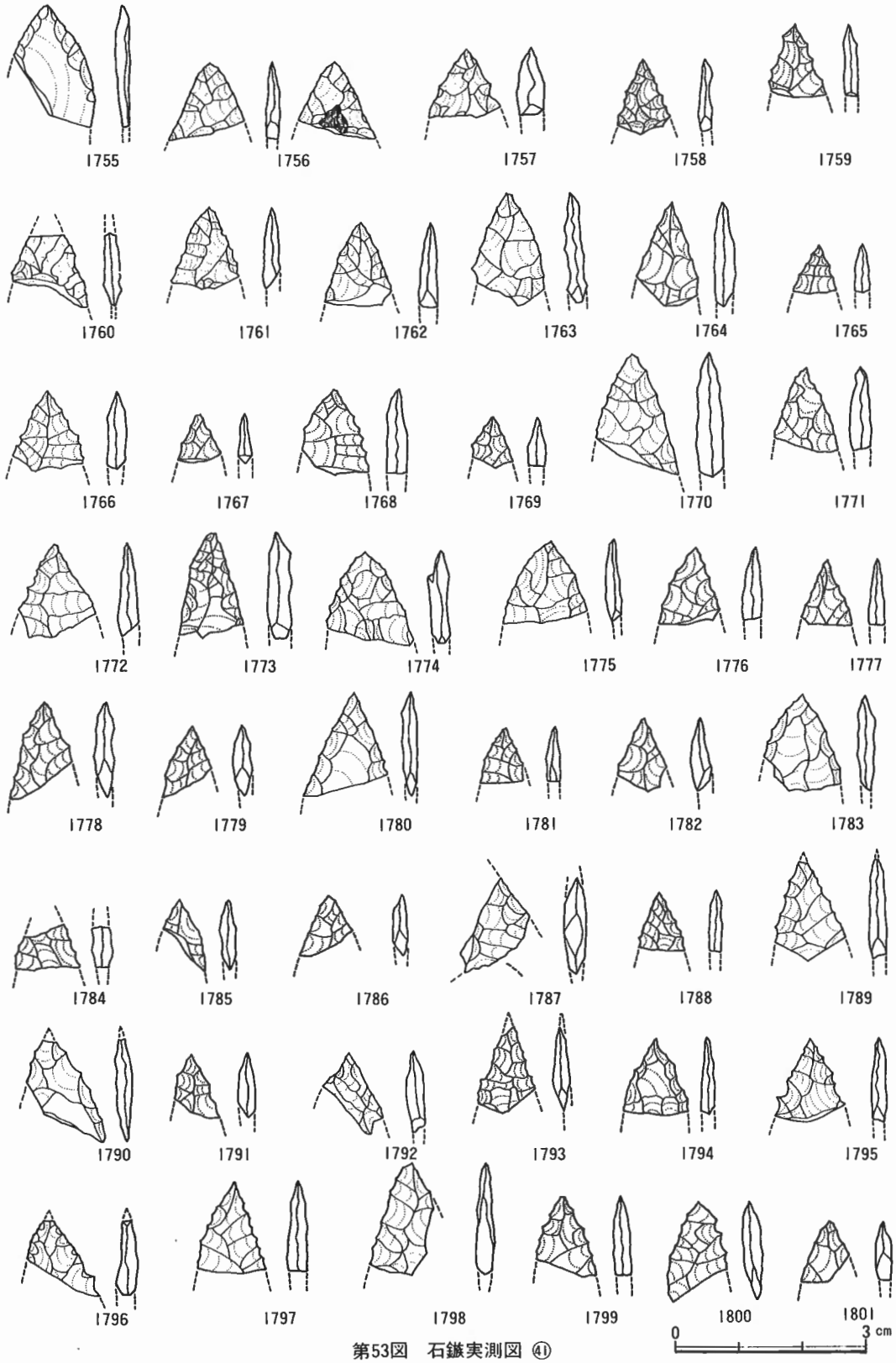

1708
1709
1710
1711
1712
1713
1714
1715
1716
1717
1718
1719
1720
1721
1722
1723
1724
1725
1726
1727
1728
1729
1730
1731
1732
1733
1734
1735
1736
1737
1738
1739
1740
1741
1742
1743
1744
1745
1746
1747
1748
1749
1750
1751
1752
1753
1754
0
3 cm

第52図　石鏃実測図 ㊵

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1733	—	C-19	黒 曜 石	(10.85)	(8.40)	(3.50)	(0.15)	先端部残	49	
1734	—	D-5	黒 曜 石	(9.55)	(8.30)	(3.00)	(0.15)	先端部残	49	
1735	—	D-12	黒 曜 石	(15.60)	(10.50)	(2.70)	(0.30)	基部欠	49	
1736	—	D-13	黒 曜 石	(14.20)	(9.00)	(2.70)	(0.20)	基部欠	49	
1737	—	D-13	黒 曜 石	(11.60)	(12.00)	(2.85)	(0.25)	先端部残	49	
1738	—	D-17	黒 曜 石	(12.00)	(8.60)	(3.00)	(0.10)	先端部残	49	
1739	—	D-17	黒 曜 石	(14.20)	(7.75)	(3.55)	(0.25)	基部欠	49	
1740	—	D-17	黒 曜 石	(9.30)	(10.25)	(3.30)	(0.20)	先端部残	49	
1741	—	E-10	黒 曜 石	(23.00)	(15.00)	(4.60)	(3.30)	基部欠	49	
1742	—	E-11	黒 曜 石	(13.00)	(9.80)	(4.40)	(0.35)	基部欠	49	
1743	—	E-11	黒 曜 石	(11.70)	(8.00)	(2.40)	(0.15)	先端部残	49	
1744	—	E-12	黒 曜 石	(10.30)	(10.50)	(2.45)	(0.15)	先端部残	49	
1745	—	E-12	黒 曜 石	(13.20)	(13.25)	(4.00)	(0.40)	基部欠	49	
1746	—	E-13	黒 曜 石	(12.70)	(8.65)	(2.70)	(0.15)	基部欠	49	
1747	—	E-15	黒 曜 石	(17.00)	(10.00)	(2.70)	(0.50)	先端基部欠	49	
1748	—	E-16	黒 曜 石	(12.00)	(8.35)	(3.00)	(0.20)	先端部残	49	
1749	—	E-16	黒 曜 石	(11.00)	(6.75)	(3.00)	(0.15)	先端部残	49	
1750	—	E-16	黒 曜 石	(13.00)	(8.55)	(3.10)	(0.30)	基部欠	49	
1751	—	E-17	黒 曜 石	(12.30)	(8.85)	(3.90)	(0.35)	先端部残	49	
1752	—	E-17	黒 曜 石	(12.80)	(11.30)	(2.90)	(0.20)	先端部残	49	
1753	—	E-17	黒 曜 石	(10.40)	(10.10)	(2.60)	(0.20)	先端基部欠	49	
1754	—	E-18	黒 曜 石	(11.40)	(8.00)	(2.90)	(0.15)	基部欠	49	
1755	—	E-19	黒 曜 石	(19.00)	(12.50)	(2.50)	(0.45)	基部欠	49	
1756	—	E-19	黒 曜 石	(12.00)	(12,20)	(2.40)	(0.30)	基部欠	49	局部磨製
1757	—	E-19	黒 曜 石	(10.00)	(10.50)	(3.90)	(0.30)	基部欠	49	
1758	—	E-19	黒 曜 石	(11.40)	(7.40)	(2.80)	(0.15)	基部欠	50	
1759	—	E-20	黒 曜 石	(11.10)	(8.85)	(2.90)	(0.20)	基部欠	50	
1760	—	E-21	黒 曜 石	(11.70)	(11.70)	(2.65)	(0.25)	先端部基部欠	50	
1761	—	F-9	黒 曜 石	(12.85)	(11.00)	(3.00)	(0.25)	基部欠	50	
1762	—	F-11	黒 曜 石	(13.10)	(10.30)	(3.45)	(0.35)	基部欠	50	
1763	—	F-12	黒 曜 石	(17.70)	(11.40)	(3.00)	(0.50)	基部欠	50	
1764	—	F-15	黒 曜 石	(16.10)	(9.70)	(3.00)	(0.50)	基部欠	50	
1765	—	F-16	黒 曜 石	(7.30)	(6.35)	(2.35)	(0.10)	先端部残	50	
1766	—	F-16	黒 曜 石	(12.15)	(11.00)	(3.20)	(0.30)	基部欠	50	
1767	—	F-16	黒 曜 石	(7.25)	(6.35)	(2.30)	(0.10)	先端部残	50	
1768	—	F-16	黒 曜 石	(13.30)	(10.00)	(3.60)	(0.35)	基部欠	50	
1769	—	F-16	黒 曜 石	(7.60)	(6.20)	(3.20)	(0.10)	先端部残	50	
1770	—	F-16	黒 曜 石	(19.15)	(12.70)	(4.30)	(0.90)	基部欠	50	
1771	—	F-20	黒 曜 石	(12.95)	(9.75)	(3.35)	(0.35)	基部欠	50	
1772	—	F-20	黒 曜 石	(14.75)	(12.00)	(2.95)	(0.40)	基部欠	50	
1773	—	F-20	黒 曜 石	(16.50)	(10.60)	(3.75)	(0.55)	基部欠	50	
1774	—	F-21	黒 曜 石	(14.40)	(13.80)	(3.00)	(0.55)	基部欠	50	
1775	—	F-21	黒 曜 石	(13.40)	(13.30)	(2.45)	(0.30)	基部欠	50	
1776	—	G-11	黒 曜 石	(12.50)	(9.55)	(3.55)	(0.25)	基部欠	50	

第46表　石鏃計測表 ㊵

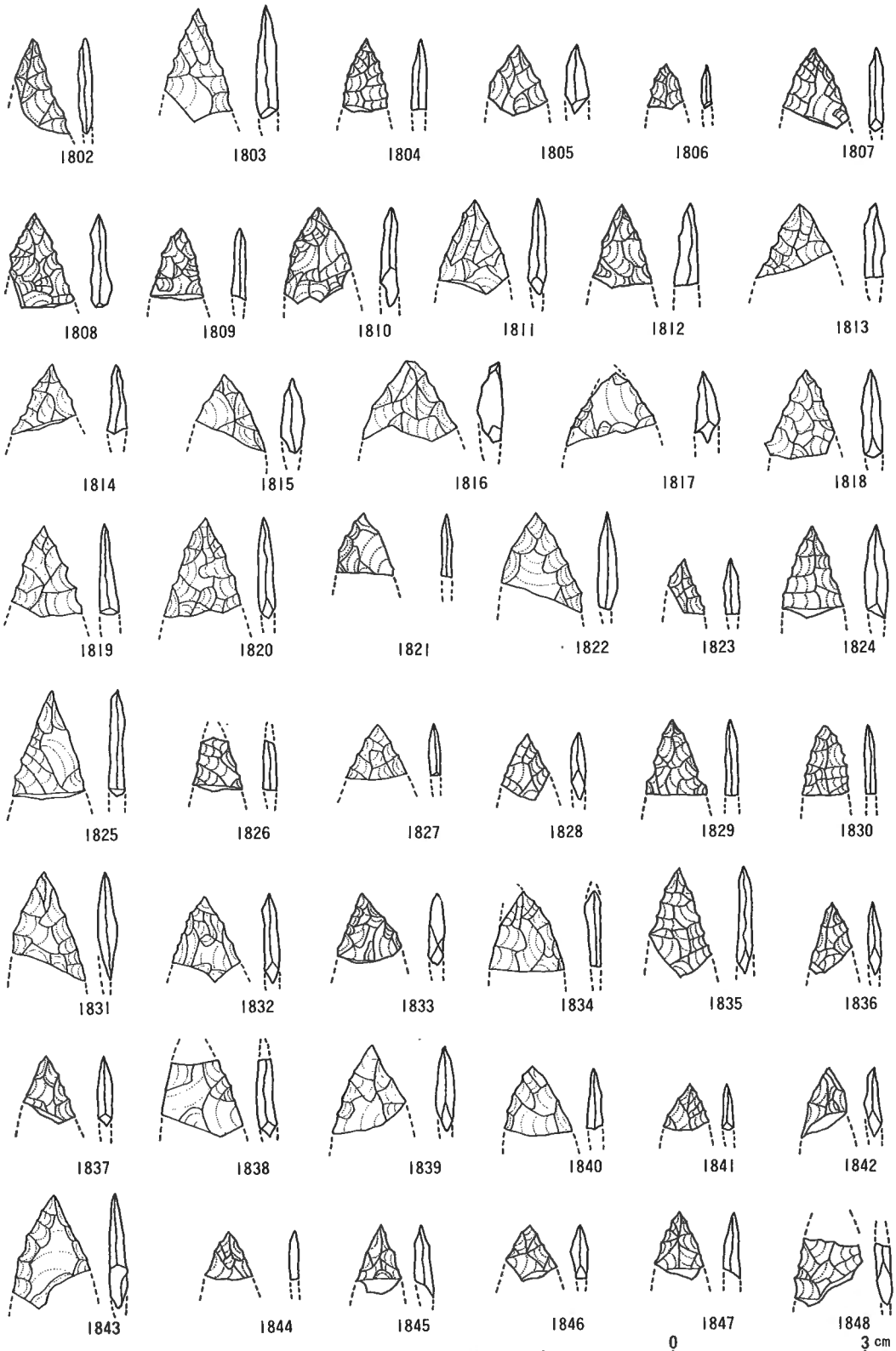

1755
1756
1757
1758
1759
1760
1761
1762
1763
1764
1765
1766
1767
1768
1769
1770
1771
1772
1773
1774
1775
1776
1777
1778
1779
1780
1781
1782
1783
1784
1785
1786
1787
1788
1789
1790
1791
1792
1793
1794
1795
1796
1797
1798
1799
1800
1801
0
3 cm

第53図　石鏃実測図 ㊶

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1777	—	G-13	黒曜石	(10.25)	(7.60)	(2.40)	(0.15)	先端部残	50	
1778	—	G-14	黒曜石	(15.00)	(10.00)	(2.80)	(0.40)	基部欠	50	
1779	—	G-14	黒曜石	(11.00)	(7.70)	(3.00)	(0.20)	先端部残	50	
1780	—	G-15	黒曜石	(15.60)	(13.30)	(2.40)	(0.50)	基部欠	50	
1781	—	G-15	黒曜石	(9.30)	(7.00)	(2.45)	(0.10)	先端部残	50	
1782	—	G-15	黒曜石	(11.00)	(7.45)	(2.70)	(0.15)	先端部残	50	
1783	—	G-15	黒曜石	(15.20)	(12.15)	(2.40)	(0.45)	基部欠	50	
1784	—	G-15	黒曜石	(6.60)	(9.70)	(3.00)	(0.20)	先端部基部欠	50	
1785	—	G-15	黒曜石	(11.70)	(6.35)	(2.65)	(0.10)	先端部残	50	
1786	—	G-15	黒曜石	(7.80)	(8.30)	(2.80)	(0.10)	先端部残	50	
1787	—	G-15	黒曜石	(11.80)	(8.00)	(2.80)	(0.40)	先端部基部欠	50	
1788	—	G-16	黒曜石	(9.15)	(7.10)	(2.20)	(0.20)	先端部残	50	
1789	—	G-16	黒曜石	(16.35)	(10.65)	(2.25)	(0.40)	先端基部欠	50	
1790	—	G-16	黒曜石	(16.55)	(12.45)	(2.50)	(0.40)	先端基部欠	50	
1791	—	G-16	黒曜石	(9.70)	(7.10)	(3.80)	(0.20)	先端部残	50	
1792	—	G-20	黒曜石	(12.80)	(9.30)	(2.80)	(0.15)	先端部残	50	
1793	—	G-21	黒曜石	(15.50)	(9.30)	(2.70)	(0.20)	先端基部欠	50	
1794	—	G-22	黒曜石	(11.70)	(10.45)	(2.50)	(0.25)	基部欠	50	
1795	—	H-11	黒曜石	(12.50)	(10.95)	(2.45)	(0.45)	基部欠	50	
1796	—	H-11	黒曜石	(11.95)	(11.70)	(3.70)	(0.40)	先端基部欠	50	
1797	—	H-15	黒曜石	(13.50)	(11.25)	(3.30)	(0.35)	基部欠	50	
1798	—	H-15	黒曜石	(17.10)	(10.00)	(3.00)	(0.50)	基部欠	50	
1799	—	H-15	黒曜石	(12.20)	(9.40)	(2.60)	(0.20)	基部欠	50	
1800	—	H-15	黒曜石	(16.00)	(10.00)	(2.60)	(0.30)	基部欠	50	
1801	—	H-15	黒曜石	(9.20)	(8.00)	(2.50)	(0.15)	先端部残	50	
1802	—	H-15	黒曜石	(14.35)	(7.60)	(2.20)	(0.35)	基部欠	50	
1803	—	H-16	黒曜石	(17.10)	(10.45)	(3.50)	(0.55)	基部欠	50	
1804	—	H-16	黒曜石	(11.40)	(7.00)	(2.60)	(0.20)	先端部残	50	
1805	—	H-16	黒曜石	(10.50)	(9.25)	(4.30)	(0.30)	先端部残	50	
1806	—	H-16	黒曜石	(6.60)	(5.50)	(1.70)	(0.15)	先端部残	50	
1807	—	H-20	黒曜石	(12.40)	(10.30)	(2.90)	(0.20)	先端部残	50	
1808	—	H-24	黒曜石	(14.65)	(9.65)	(3.40)	(0.35)	基部欠	50	
1809	—	H-25	黒曜石	(11.00)	(8.45)	(2.45)	(0.15)	基部欠	50	
1810	—	I-6	黒曜石	(14.80)	(15.20)	(2.40)	(0.45)	基部欠	50	
1811	—	I-7	黒曜石	(14.45)	(10.35)	(2.75)	(0.50)	基部欠	50	
1812	—	I-10	黒曜石	(12.70)	(9.20)	(4.40)	(0.45)	基部欠	50	
1813	—	I-11	黒曜石	(11.40)	(12.25)	(3.05)	(0.35)	先端部残	50	
1814	—	I-11	黒曜石	(10.70)	(10.30)	(3.45)	(0.30)	先端部残	50	
1815	—	I-11	黒曜石	(11.60)	(11.35)	(3.25)	(0.45)	先端部残	50	
1816	—	I-11	黒曜石	(12.35)	(15.00)	(3.80)	(0.65)	基部欠	50	
1817	—	I-11	黒曜石	(11.15)	(13.75)	(4.05)	(0.55)	先端基部欠	50	
1818	—	I-11	黒曜石	(14.20)	(10.85)	(3.55)	(0.40)	基部欠	50	
1819	—	I-12	黒曜石	(13.30)	(11.20)	(3.30)	(0.45)	基部欠	50	
1820	—	I-12	黒曜石	(14.60)	(11.95)	(2.60)	(0.45)	基部欠	50	

第47表　石鏃計測表 ㊶

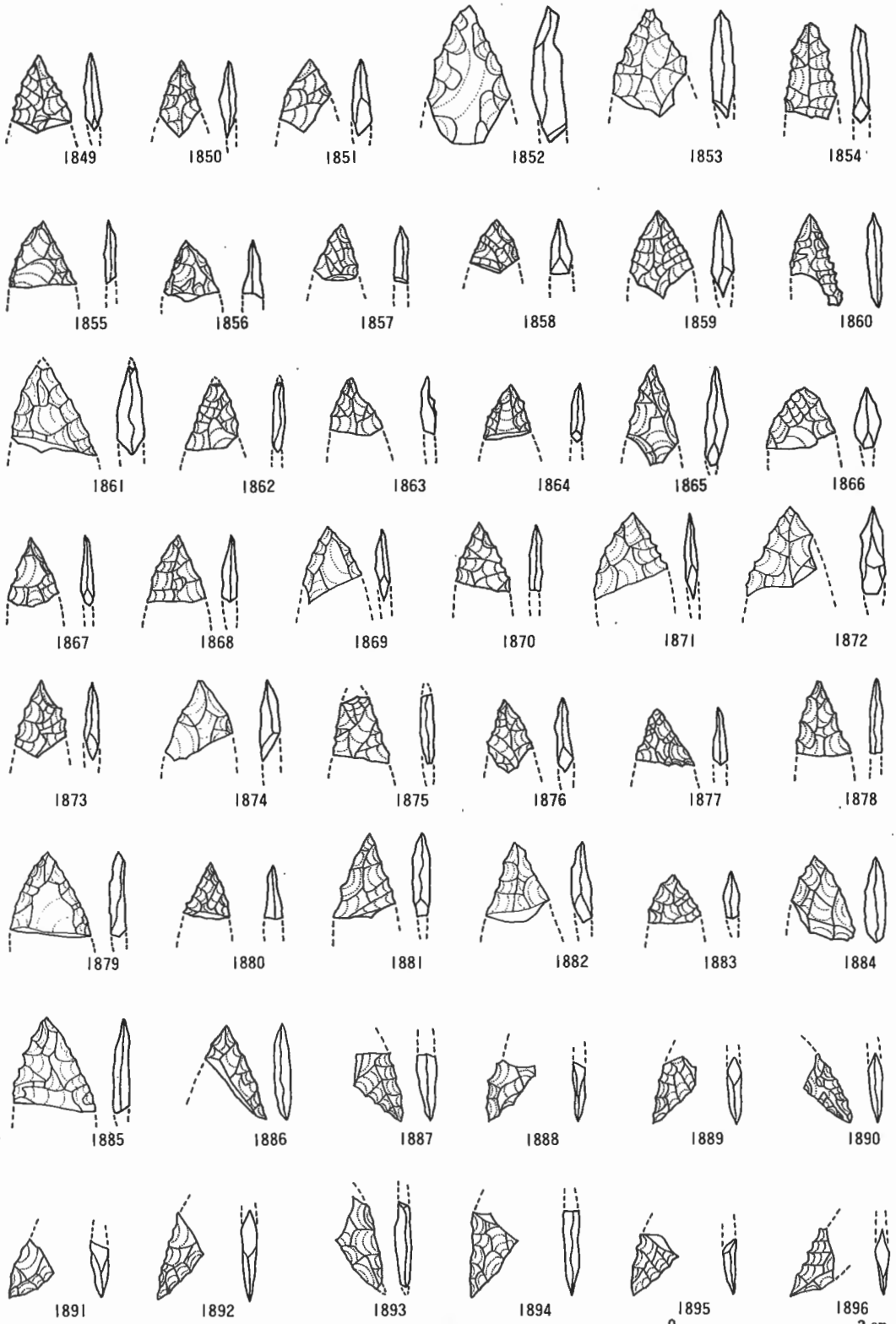

1802
1803
1804
1805
1806
1807
1808
1809
1810
1811
1812
1813
1814
1815
1816
1817
1818
1819
1820
1821
1822
1823
1824
1825
1826
1827
1828
1829
1830
1831
1832
1833
1834
1835
1836
1837
1838
1839
1840
1841
1842
1843
1844
1845
1846
1847
1848
0
3 cm

第54図　石鏃実測図 ㊷

〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
1821	—	I-12	黒曜石	(9.65)	(8.90)	(2.15)	(0.25)	先端部残	50	
1822	—	I-12	黒曜石	(14.90)	(12.95)	(2.95)	(0.55)	基部欠	50	
1823	—	I-15	黒曜石	(8.05)	(5.70)	(2.45)	(0.10)	先端部残	50	
1824	—	I-15	黒曜石	(14.25)	(9.40)	(3.60)	(0.30)	基部欠	50	
1825	—	I-15	黒曜石	(16.40)	(11.35)	(3.55)	(0.65)	基部欠	50	
1826	—	I-15	黒曜石	(8.45)	(7.50)	(2.40)	(0.30)	先端基部欠	50	
1827	—	I-15	黒曜石	(8.50)	(9.25)	(2.20)	(0.30)	先端部残	50	
1828	—	I-15	黒曜石	(10.00)	(7.50)	(2.35)	(0.10)	先端部残	50	
1829	—	I-18	黒曜石	(11.95)	(9.80)	(2.50)	(0.20)	基部欠	50	
1830	—	I-19	黒曜石	(10.75)	(7.45)	(2.80)	(0.20)	基部欠	50	
1831	—	I-23	黒曜石	(17.00)	(11.30)	(3.65)	(0.40)	基部欠	50	
1832	—	I-25	黒曜石	(13.30)	(10.50)	(2.50)	(0.20)	基部欠	50	
1833	—	I-25	黒曜石	(10.45)	(10.50)	(2.75)	(0.25)	先端部残	50	
1834	—	J-6	黒曜石	(12.85)	(11.90)	(2.90)	(0.55)	先端基部欠	50	
1835	—	J-7	黒曜石	(15.90)	(9.30)	(2.70)	(0.50)	基部欠	50	
1836	—	J-11	黒曜石	(11.10)	(6.30)	(2.45)	(0.20)	先端部残	50	
1837	—	J-12	黒曜石	(15.90)	(7.70)	(2.80)	(0.20)	先端部残	50	
1838	—	J-12	黒曜石	(11.90)	(12.60)	(3.90)	(0.60)	先端基部欠	51	
1839	—	J-12	黒曜石	(13.40)	(11.80)	(2.45)	(0.25)	基部欠	51	
1840	—	J-12	黒曜石	(10.55)	(10.80)	(2.85)	(0.30)	基部欠	51	
1841	—	J-12	黒曜石	(7.25)	(7.25)	(2.85)	(0.10)	先端部残	51	
1842	—	J-12	黒曜石	(10.65)	(6.95)	(2.65)	(0.25)	先端部残	51	
1843	—	J-12	黒曜石	(17.65)	(12.50)	(3.05)	(0.50)	基部欠	51	
1844	—	J-12	黒曜石	(7.75)	(7.35)	(2.75)	(0.25)	先端部残	51	
1845	—	J-12	黒曜石	(10.40)	(7.10)	(3.60)	(0.25)	先端部残	51	
1846	—	J-12	黒曜石	(8.55)	(8.35)	(2.70)	(0.30)	先端部残	51	
1847	—	J-12	黒曜石	(10.35)	(7.95)	(3.00)	(0.25)	先端部残	51	
1848	—	J-12	黒曜石	(9.75)	(10.80)	(2.60)	(0.25)	先端部基部欠	51	
1849	—	J-13	黒曜石	(11.70)	(9.30)	(2.65)	(0.40)	基部欠	51	
1850	—	J-13	黒曜石	(11.40)	(6.30)	(2.40)	(0.35)	先端部残	51	
1851	—	J-13	黒曜石	(11.15)	(7.85)	(3.05)	(0.35)	先端部残	51	
1852	—	J-15	黒曜石	(21.15)	(12.50)	(5.00)	(1.35)	基部欠	51	
1853	—	J-15	黒曜石	(16.50)	(11.65)	(3.45)	(0.70)	基部欠	51	
1854	—	J-19	黒曜石	(14.65)	(8.60)	(2.70)	(0.30)	基部欠	51	
1855	—	J-20	黒曜石	(10.50)	(10.70)	(2.50)	(0.15)	先端部残	51	
1856	—	J-23	黒曜石	(9.20)	(8.50)	(3.00)	(0.15)	先端部残	51	
1857	—	J-23	黒曜石	(9.00)	(6.00)	(2.20)	(0.40)	先端部残	51	
1858	—	J-24	黒曜石	(8.00)	(7.70)	(3.50)	(0.15)	先端部残	51	
1859	—	J-24	黒曜石	(13.45)	(10.00)	(4.00)	(0.40)	基部欠	51	
1860	—	J-25	黒曜石	(14.40)	(8.00)	(2.60)	(0.20)	基部欠	51	
1861	—	K-7	黒曜石	(12.95)	(13.20)	(4.45)	(0.75)	基部欠	51	
1862	—	K-12	黒曜石	(10.70)	(8.25)	(2.20)	(0.30)	先端基部欠	51	
1863	—	K-12	黒曜石	(8.65)	(7.60)	(2.20)	(0.15)	先端部残	51	
1864	—	K-12	黒曜石	(13.70)	(7.65)	(2.80)	(0.30)	先端部残	51	

第48表　石鏃計測表 ㊷

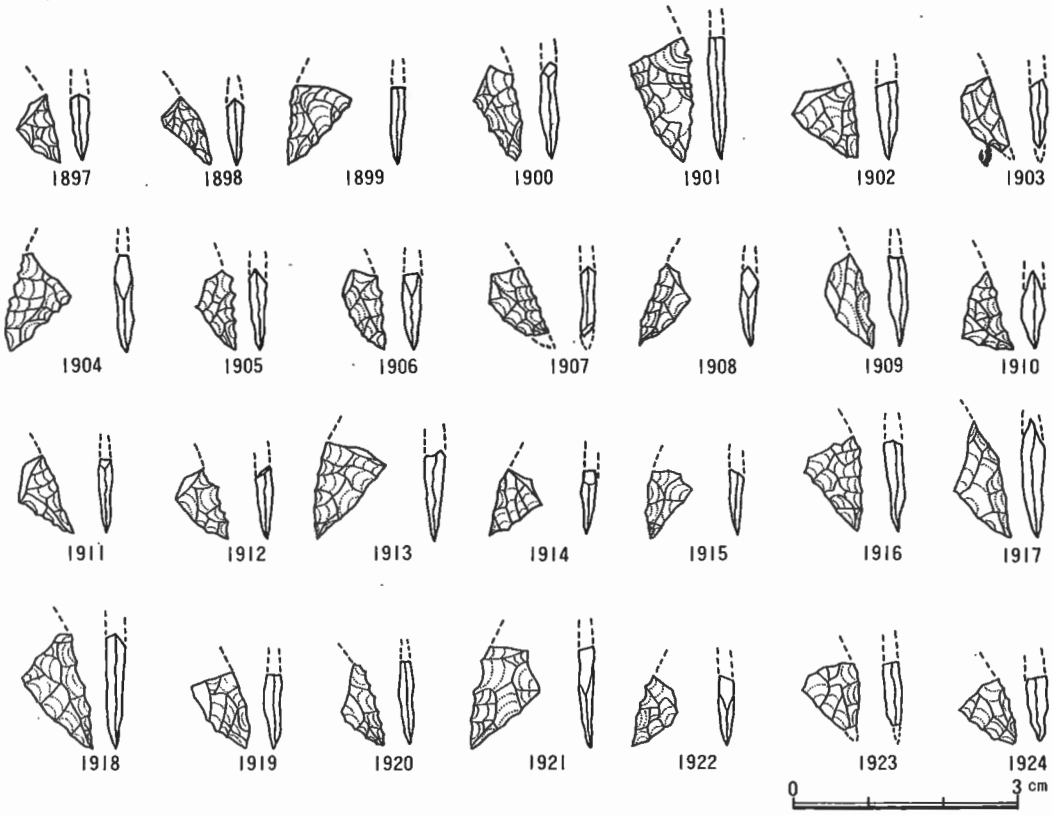

1849
1850
1851
1852
1853
1854
1855
1856
1857
1858
1859
1860
1861
1862
1863
1864
1865
1866
1867
1868
1869
1870
1871
1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
0
3 cm

第55図　石鏃実測図 ㊸

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1865	—	K-12	黒曜石	(15.25)	(8.10)	(3.05)	(0.50)	基部欠	51	
1866	—	K-12	黒曜石	(11.65)	(11.20)	(4.35)	(0.30)	先端部残	51	
1867	—	K-13	黒曜石	(10.70)	(7.85)	(2.25)	(0.30)	先端部残	51	
1868	—	K-13	黒曜石	(10.40)	(9.20)	(2.35)	(0.35)	先端部残	51	
1869	—	K-13	黒曜石	(11.70)	(8.85)	(2.15)	(0.30)	先端部残	51	
1870	—	K-13	黒曜石	(9.90)	(8.35)	(2.30)	(0.25)	先端部残	51	
1871	—	K-13	黒曜石	(13.25)	(10.90)	(2.15)	(0.30)	基部欠	51	
1872	—	K-13	黒曜石	(13.35)	(10.85)	(4.00)	(0.65)	基部欠	51	
1873	—	K-13	黒曜石	(11.70)	(7.75)	(2.25)	(0.35)	基部欠	51	
1874	—	K-13	黒曜石	(12.45)	(9.35)	(2.80)	(0.45)	基部欠	51	
1875	—	K-13	黒曜石	(10.55)	(8.80)	(2.35)	(0.45)	先端基部欠	51	
1876	—	K-22	黒曜石	(11.45)	(7.55)	(3.30)	(0.15)	先端部残	51	
1877	—	K-23	黒曜石	(8.75)	(9.80)	(2.60)	(0.15)	先端部残	51	
1878	—	K-24	黒曜石	(12.00)	(8.75)	(2.60)	(0.20)	基部欠	51	
1879	—	K-25	黒曜石	(13.20)	(13.00)	(2.50)	(0.30)	基部欠	51	
1880	—	K-25	黒曜石	(8.70)	(7.20)	(3.00)	(0.10)	先端部残	51	
1881	—	K-26	黒曜石	(12.45)	(11.70)	(4.60)	(0.25)	基部欠	51	
1882	—	L-12	黒曜石	(12.05)	(9.65)	(3.60)	(0.45)	基部欠	51	
1883	—	H-19	黒曜石	(14.40)	(13.00)	(3.00)	(0.40)	先端部残	51	
1884	—	G-10	黒曜石	(15.00)	(9.55)	(3.00)	(0.15)	基部欠	51	
1885	—	表採	黒曜石	(7.75)	(8.40)	(2.80)	(0.10)	基部欠	51	
1886	—	表採	黒曜石	(13.30)	(9.65)	(3.40)	(0.35)	基部欠	51	
1887	—	E-16	黒曜石	(10.65)	(7.40)	(3.10)	(0.25)	片逆刺残	51	
1888	—	E-20	黒曜石	(9.50)	(7.95)	(2.65)	(0.10)	片逆刺残	51	
1889	—	F-20	黒曜石	(11.00)	(6.00)	(2.30)	(0.10)	片逆刺残	51	
1890	—	F-21	黒曜石	(10.00)	(7.70)	(2.10)	(0.15)	片逆刺残	51	
1891	—	H-15	黒曜石	(8.90)	(6.95)	(2.40)	(0.25)	片逆刺残	51	
1892	—	I-11	黒曜石	(13.55)	(8.65)	(2.70)	(0.25)	片逆刺残	51	
1893	—	I-11	黒曜石	(14.50)	(7.55)	(2.65)	(0.30)	片逆刺残	51	
1894	—	I-12	黒曜石	(13.40)	(7.30)	(2.95)	(0.25)	片逆刺残	51	
1895	—	I-12	黒曜石	(9.40)	(7.15)	(2.90)	(0.30)	片逆刺残	51	
1896	—	I-12	黒曜石	(10.45)	(6.55)	(2.20)	(0.25)	片逆刺残	51	
1897	—	I-16	黒曜石	(9.05)	(5.45)	(2.65)	(0.10)	片逆刺残	51	
1898	—	I-20	黒曜石	(9.40)	(6.30)	(2.70)	(0.05)	片逆刺残	51	
1899	—	J-11	黒曜石	(10.00)	(8.90)	(2.90)	(0.20)	片逆刺残	51	
1900	—	J-11	黒曜石	(12.25)	(6.45)	(2.30)	(0.25)	片逆刺残	51	
1901	—	J-11	黒曜石	(15.70)	(7.70)	(2.10)	(0.35)	片逆刺残	51	
1902	—	J-12	黒曜石	(9.90)	(9.10)	(2.95)	(0.25)	片逆刺残	51	
1903	—	J-12	黒曜石	(9.70)	(6.15)	(2.40)	(0.15)	片逆刺残	51	
1904	—	J-12	黒曜石	(12.70)	(8.85)	(2.90)	(0.25)	片逆刺残	51	
1905	—	J-12	黒曜石	(10.10)	(4.95)	(2.35)	(0.10)	片逆刺残	51	
1906	—	J-12	黒曜石	(10.35)	(6.10)	(2.55)	(0.25)	片逆刺残	51	
1907	—	J-12	黒曜石	(8.85)	(8.20)	(2.40)	(0.20)	片逆刺残	51	
1908	—	J-12	黒曜石	(10.70)	(6.80)	(2.25)	(0.20)	片逆刺残	51	

第49表　石鏃計測表 ㊸



第56図　石鏃実測図 ㊹

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

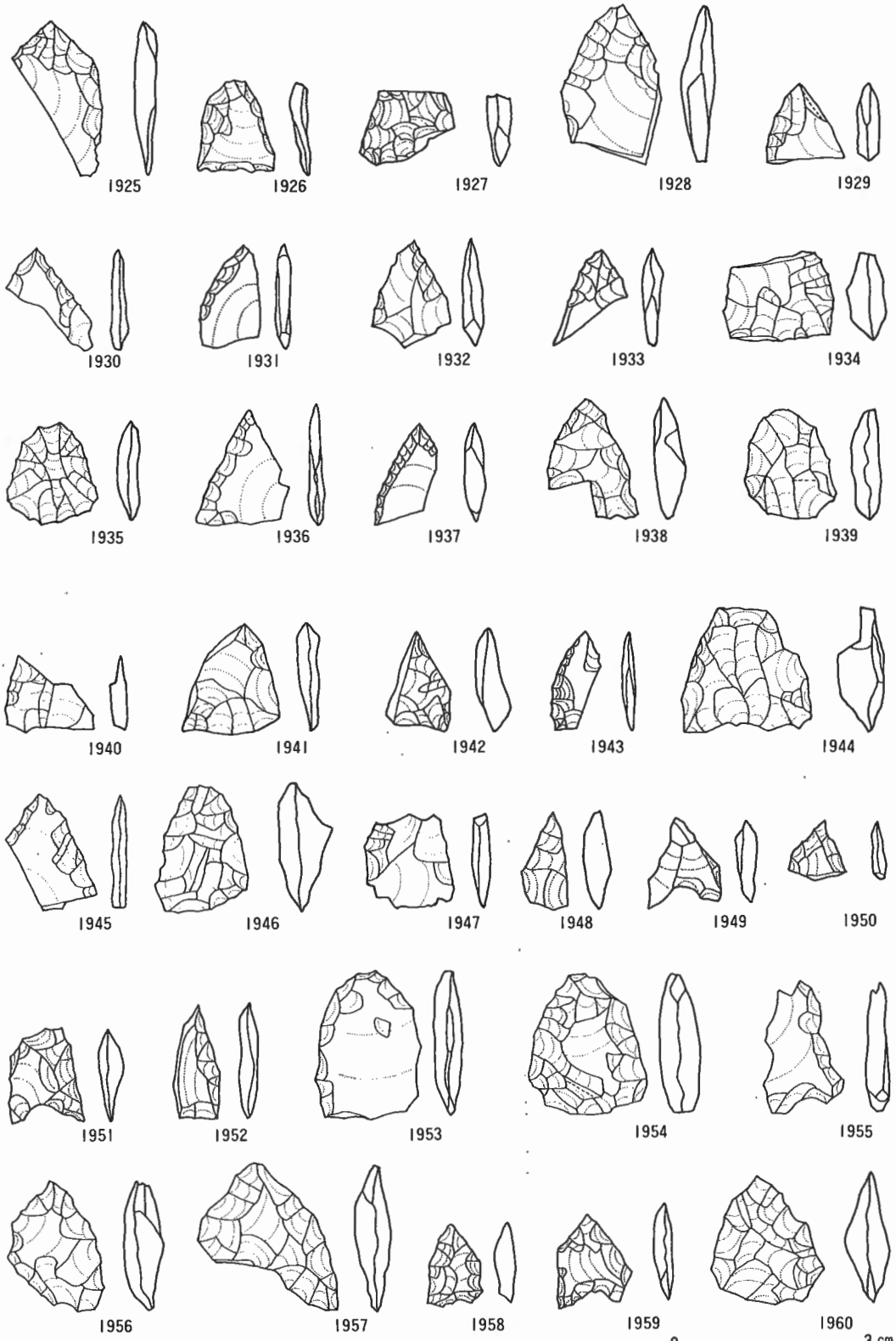
No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1909	—	J-12	黒 曜 石	(11.40)	(7.10)	(2.55)	(0.35)	片逆刺残	51	
1910	—	J-16	黒 曜 石	(10.00)	(6.60)	(3.45)	(0.20)	片逆刺残	51	
1911	—	K-12	黒 曜 石	(11.05)	(6.90)	(2.85)	(0.25)	片逆刺残	51	
1912	—	K-12	黒 曜 石	(9.30)	(6.60)	(2.80)	(0.25)	片逆刺残	51	
1913	—	K-12	黒 曜 石	(11.95)	(8.85)	(2.70)	(0.35)	片逆刺残	51	
1914	—	K-12	黒 曜 石	(8.50)	(5.90)	(2.80)	(0.20)	片逆刺残	51	
1915	—	K-12	黒 曜 石	(8.10)	(5.55)	(2.90)	(0.20)	片逆刺残	51	
1916	—	K-12	黒 曜 石	(11.90)	(8.85)	(2.55)	(0.30)	片逆刺残	51	
1917	—	K-13	黒 曜 石	(15.15)	(6.70)	(2.80)	(0.40)	片逆刺残	51	
1918	—	K-13	黒 曜 石	(15.25)	(9.85)	(3.10)	(0.45)	片逆刺残	51	
1919	—	K-13	黒 曜 石	(9.60)	(7.70)	(2.50)	(0.35)	片逆刺残	51	
1920	—	K-24	黒 曜 石	(10.55)	(5.60)	(2.10)	(0.10)	片逆刺残	51	
1921	—	L-12	黒 曜 石	(12.85)	(8.80)	(2.55)	(0.40)	片逆刺残	51	
1922	—	L-13	黒 曜 石	(9.65)	(5.75)	(2.25)	(0.25)	片逆刺残	51	
1923	—	M-12	黒 曜 石	(8.60)	(8.65)	(2.20)	(0.35)	片逆刺残	51	
1924	—	表 採	黒 曜 石	(8.30)	(7.40)	(2.70)	(0.10)	片逆刺残	51	

第50表　石鏃計測表 ㊹

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1925	—	C-11	黒 曜 石	23.60	14.00	3.10	0.80	—	52	
1926	—	C-12	黒 曜 石	14.00	12.30	2.45	0.40	—	52	
1927	—	C-12	黒 曜 石	11.40	15.30	3.00	0.45	—	52	
1928	—	C-14	黒 曜 石	24.50	16.00	5.45	1.90	—	52	
1929	—	C-15	黒 曜 石	12.10	12.20	3.50	0.50	—	52	
1930	—	C-15	黒 曜 石	15.50	13.40	2.60	0.30	—	52	
1931	—	C-15	黒 曜 石	15.45	9.55	2.80	0.40	—	52	
1932	—	C-15	黒 曜 石	16.25	12.40	3.45	0.50	—	52	
1933	—	C-17	黒 曜 石	14.60	11.85	3.55	0.30	—	52	
1934	—	C-17	黒 曜 石	13.90	16.75	6.00	1.30	—	52	
1935	—	C-17	黒 曜 石	15.45	13.75	3.50	0.70	—	52	
1936	—	C-17	黒 曜 石	17.70	14.55	2.55	0.45	—	52	
1937	—	C-17	黒 曜 石	16.70	10.35	3.70	0.30	—	52	
1938	—	C-17	黒 曜 石	18.35	14.10	5.00	0.85	—	52	
1939	—	C-18	黒 曜 石	16.60	14.30	4.65	1.10	—	52	
1940	—	C-18	黒 曜 石	11.15	14.00	3.00	0.30	—	52	
1941	—	D-12	黒 曜 石	17.00	15.30	4.20	1.05	—	52	
1942	—	D-12	黒 曜 石	15.70	10.40	4.00	0.55	—	52	
1943	—	D-12	黒 曜 石	15.00	7.55	2.00	0.10	—	52	
1944	—	D-13	黒 曜 石	19.70	20.50	8.00	2.30	—	52	
1945	—	D-13	黒 曜 石	17.55	13.65	2.25	0.60	—	52	
1946	—	D-14	黒 曜 石	19.65	14.50	7.75	1.70	—	52	
1947	—	D-14	黒 曜 石	14.20	13.90	2.90	0.60	—	52	
1948	—	D-14	黒 曜 石	14.70	7.45	4.50	0.40	—	52	
1949	—	D-15	黒 曜 石	14.00	12.00	2.70	0.45	—	52	
1950	—	D-15	黒 曜 石	9.00	9.30	3.65	0.15	—	52	
1951	—	D-17	黒 曜 石	15.00	11.75	2.40	0.60	—	52	
1952	—	D-17	黒 曜 石	11.90	7.25	3.15	0.30	—	52	
1953	—	D-18	黒 曜 石	22.50	16.45	4.55	1.90	—	52	
1954	—	D-18	黒 曜 石	21.30	17.90	6.40	2.70	—	52	
1955	—	D-18	黒 曜 石	20.35	12.40	3.70	0.80	—	52	
1956	—	D-18	黒 曜 石	20.10	15.00	6.50	1.40	—	52	
1957	—	D-19	黒 曜 石	22.60	22.00	5.50	1.90	—	52	
1958	—	D-19	黒 曜 石	12.55	8.75	3.20	0.35	—	52	
1959	—	E-10	黒 曜 石	15.00	12.00	2.65	0.35	—	52	
1960	—	E-11	黒 曜 石	19.70	17.10	7.00	1.60	—	52	
1961	—	E-11	黒 曜 石	20.60	19.25	8.55	3.00	—	52	
1962	—	E-11	黒 曜 石	26.40	18.40	6.35	3.00	—	52	
1963	—	E-11	黒 曜 石	16.30	12.00	4.40	0.85	—	52	
1964	—	E-12	黒 曜 石	18.90	13.80	5.85	1.15	—	52	
1965	—	E-13	黒 曜 石	14.75	14.00	2.60	0.70	—	52	
1966	—	E-15	黒 曜 石	21.40	9.45	4.80	1.00	—	52	
1967	—	E-15	黒 曜 石	14.70	14.60	3.40	0.80	—	52	
1968	—	E-16	黒 曜 石	16.55	16.00	3.30	0.95	—	52	

第51表　未製品計測表 ①

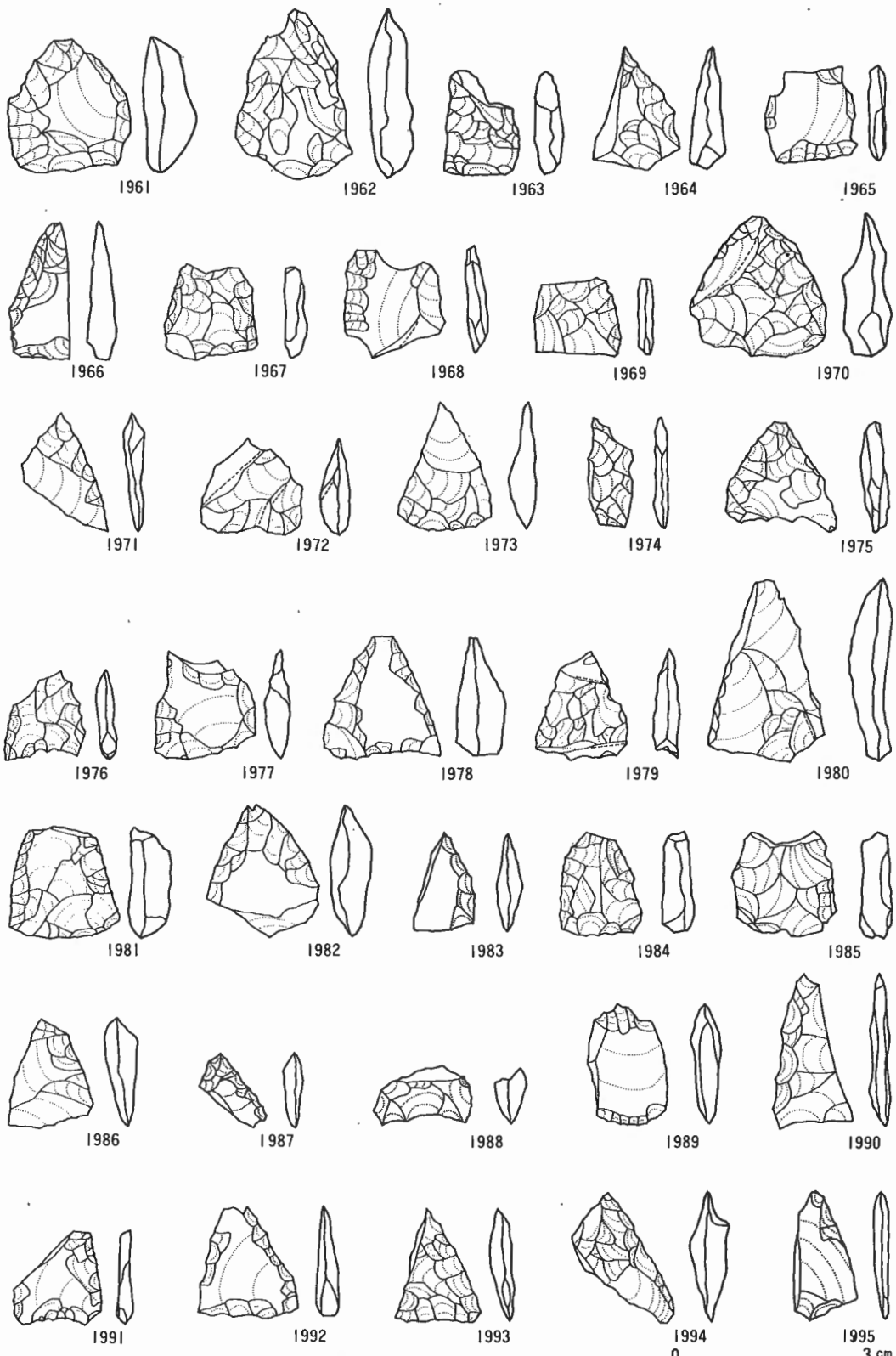


第57図　未製品実測図 ①

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
1969	—	E-16	黒曜石	16.55	16.00	3.30	0.95	—	52	
1970	—	E-16	黒曜石	12.00	13.55	2.40	0.55	—	52	
1971	—	E-17	黒曜石	18.80	13.60	3.00	0.55	—	52	
1972	—	E-17	黒曜石	14.15	16.00	4.70	0.90	—	52	
1973	—	E-18	黒曜石	19.15	15.25	4.10	0.80	—	52	
1974	—	E-18	黒曜石	16.15	7.00	2.35	0.30	—	52	
1975	—	E-19	黒曜石	16.60	17.30	4.00	0.90	—	52	
1976	—	E-19	黒曜石	13.60	12.50	2.50	0.45	—	52	
1977	—	E-19	黒曜石	16.35	15.75	4.00	0.85	—	52	
1978	—	E-19	黒曜石	18.65	18.40	7.65	2.15	—	52	
1979	—	E-20	黒曜石	16.60	14.55	4.00	0.80	—	52	
1980	—	F-12	黒曜石	28.20	18.20	5.85	2.50	—	52	
1981	—	F-12	黒曜石	17.40	17.80	6.00	2.00	—	52	
1982	—	F-13	黒曜石	20.00	17.70	6.55	1.70	—	52	
1983	—	F-13	黒曜石	14.85	9.60	4.35	0.40	—	52	
1984	—	F-14	黒曜石	15.80	13.00	5.70	0.10	—	52	
1985	—	F-15	黒曜石	16.30	16.50	5.50	1.60	—	52	
1986	—	F-15	黒曜石	16.75	13.55	5.15	0.80	—	52	
1987	—	F-15	黒曜石	10.90	10.50	3.20	0.20	—	52	
1988	—	F-15	黒曜石	9.20	14.65	4.70	0.45	—	52	
1989	—	F-15	黒曜石	17.95	12.75	4.50	1.20	—	52	
1990	—	F-15	黒曜石	24.10	12.70	3.40	0.95	—	52	
1991	—	F-17	黒曜石	14.65	14.00	2.40	0.45	—	52	
1992	—	F-18	黒曜石	16.90	15.70	3.65	1.10	—	52	
1993	—	F-18	黒曜石	17.70	13.30	4.00	0.85	—	52	
1994	—	F-19	黒曜石	20.70	16.60	6.00	1.15	—	52	
1995	—	F-19	黒曜石	20.00	9.85	2.70	0.50	—	52	
1996	—	F-20	黒曜石	17.00	13.00	5.60	0.85	—	52	
1997	—	F-20	黒曜石	15.20	12.00	3.00	0.35	—	52	
1998	—	F-20	黒曜石	21.80	11.50	3.45	1.00	—	52	
1999	—	F-20	黒曜石	20.70	18.60	6.70	1.55	—	52	
2000	—	F-20	黒曜石	18.00	14.30	5.00	0.90	—	52	
2001	—	F-21	黒曜石	17.00	13.65	4.20	0.90	—	52	
2002	—	F-21	黒曜石	21.85	13.25	3.60	1.15	—	52	
2003	—	F-21	黒曜石	16.35	13.55	7.25	1.05	—	52	
2004	—	F-21	黒曜石	18.55	12.90	3.60	0.60	—	52	
2005	—	G-10	黒曜石	12.35	16.00	2.25	0.60	—	53	
2006	—	G-11	黒曜石	18.75	17.60	7.50	1.95	—	53	
2007	—	G-11	黒曜石	16.45	9.35	3.70	0.55	—	53	
2008	—	G-13	黒曜石	19.00	10.75	3.70	0.65	—	53	
2009	—	G-13	砂　岩	24.50	19.40	6.30	2.95	—	53	
2010	—	G-13	黒曜石	9.00	13.10	4.45	0.75	—	53	
2011	—	G-14	黒曜石	17.40	15.45	4.40	1.10	—	53	
2012	—	G-14	黒曜石	12.45	13.40	3.00	0.40	—	53	

第52表　未製品計測表 ②

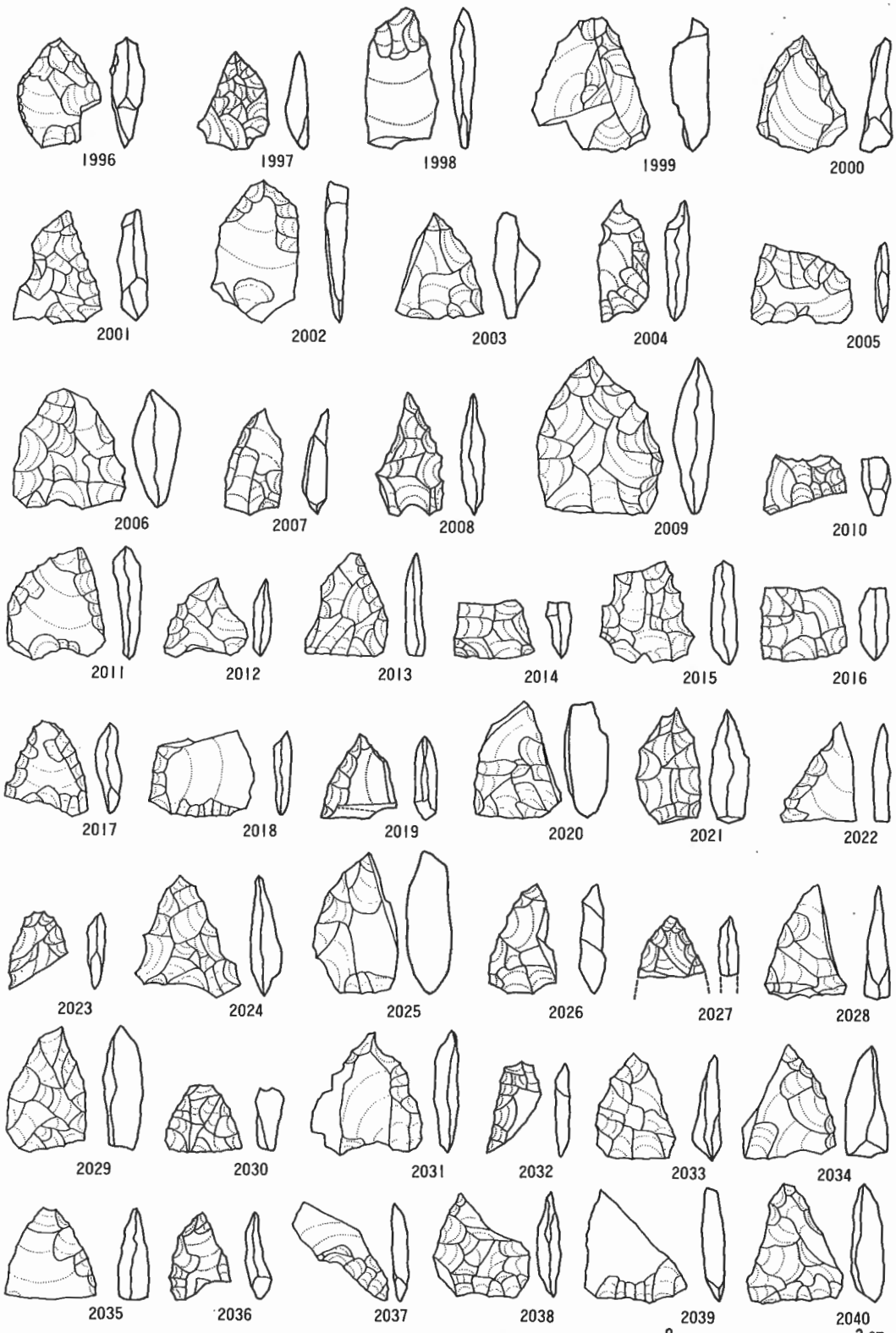


第58図　未製品実測図 ②

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2013	—	G-14	黒曜石	15.55	13.00	3.50	0.50	—	53	
2014	—	G-14	黒曜石	8.80	12.70	3.70	0.50	—	53	
2015	—	G-15	黒曜石	15.80	14.65	4.00	0.85	—	53	
2016	—	G-16	黒曜石	11.15	13.45	4.60	0.80	—	53	
2017	—	G-15	黒曜石	15.00	13.45	4.30	0.65	—	53	
2018	—	G-15	黒曜石	13.50	16.60	2.90	0.70	—	53	
2019	—	G-15	黒曜石	12.60	11.85	3.70	0.45	—	53	
2020	—	G-16	黒曜石	18.00	13.80	7.00	1.60	—	53	
2021	—	G-17	黒曜石	12.35	10.10	5.90	1.10	—	53	
2022	—	G-17	黒曜石	15.40	11.85	2.65	0.40	—	53	
2023	—	G-17	黒曜石	11.80	9.25	2.80	0.20	—	53	
2024	—	G-18	黒曜石	19.20	16.70	5.60	0.90	—	53	
2025	—	G-19	黒曜石	22.00	13.65	7.50	2.10	—	53	
2026	—	G-21	黒曜石	17.00	11.00	4.45	0.65	—	53	
2027	—	H-5	黒曜石	9.70	10.80	3.20	0.30	—	53	
2028	—	H-7	黒曜石	17.50	12.90	4.15	0.70	—	53	
2029	—	H-11	黒曜石	19.00	12.55	6.10	1.50	—	53	
2030	—	H-12	黒曜石	10.50	12.10	4.45	0.55	—	53	
2031	—	H-12	黒曜石	18.65	17.40	3.70	1.20	—	53	
2032	—	H-15	黒曜石	14.95	8.55	2.45	0.30	—	53	
2033	—	H-15	黒曜石	16.30	12.85	4.75	0.65	—	53	
2034	—	H-15	黒曜石	18.00	14.65	7.00	1.50	—	53	
2035	—	H-15	黒曜石	13.75	14.20	5.00	0.75	—	53	
2036	—	H-16	黒曜石	13.20	9.65	4.00	0.40	—	53	
2037	—	H-16	黒曜石	14.45	15.40	2.70	0.45	—	53	
2038	—	H-16	黒曜石	16.00	14.95	3.60	0.80	—	53	
2039	—	H-16	黒曜石	17.30	16.30	3.80	0.95	—	53	
2040	—	H-16	黒曜石	18.45	15.50	18.10	1.40	—	53	
2041	—	H-16	黒曜石	16.10	8.60	3.40	0.55	—	53	
2042	—	H-19	黒曜石	14.10	9.30	2.70	0.40	—	53	
2043	—	H-19	黒曜石	15.20	12.10	4.00	0.75	—	53	
2044	—	H-20	黒曜石	14.10	11.00	4.00	0.60	—	53	
2045	—	H-20	黒曜石	19.00	16.20	3.30	1.10	—	53	
2046	—	H-21	黒曜石	12.80	19.65	4.65	1.10	—	53	
2047	—	H-21	黒曜石	13.00	16.00	3.80	0.75	—	53	
2048	—	I-6	黒曜石	12.30	12.45	3.00	0.50	—	53	
2049	—	I-7	黒曜石	19.65	19.30	5.85	1.35	—	53	
2050	—	I-7	黒曜石	25.50	14.90	8.00	2.15	—	53	
2051	—	I-7	黒曜石	15.50	14.20	4.40	0.85	—	53	
2052	—	I-8	黒曜石	10.45	14.40	2.65	0.55	—	53	
2053	—	I-8	黒曜石	17.95	17.70	8.00	2.10	—	53	
2054	—	I-8	黒曜石	16.25	16.10	4.20	0.80	—	53	
2055	—	I-9	黒曜石	23.70	10.00	5.75	1.35	—	53	
2056	—	I-11	黒曜石	26.00	17.65	9.65	3.95	—	53	

第53表　未製品計測表 ③

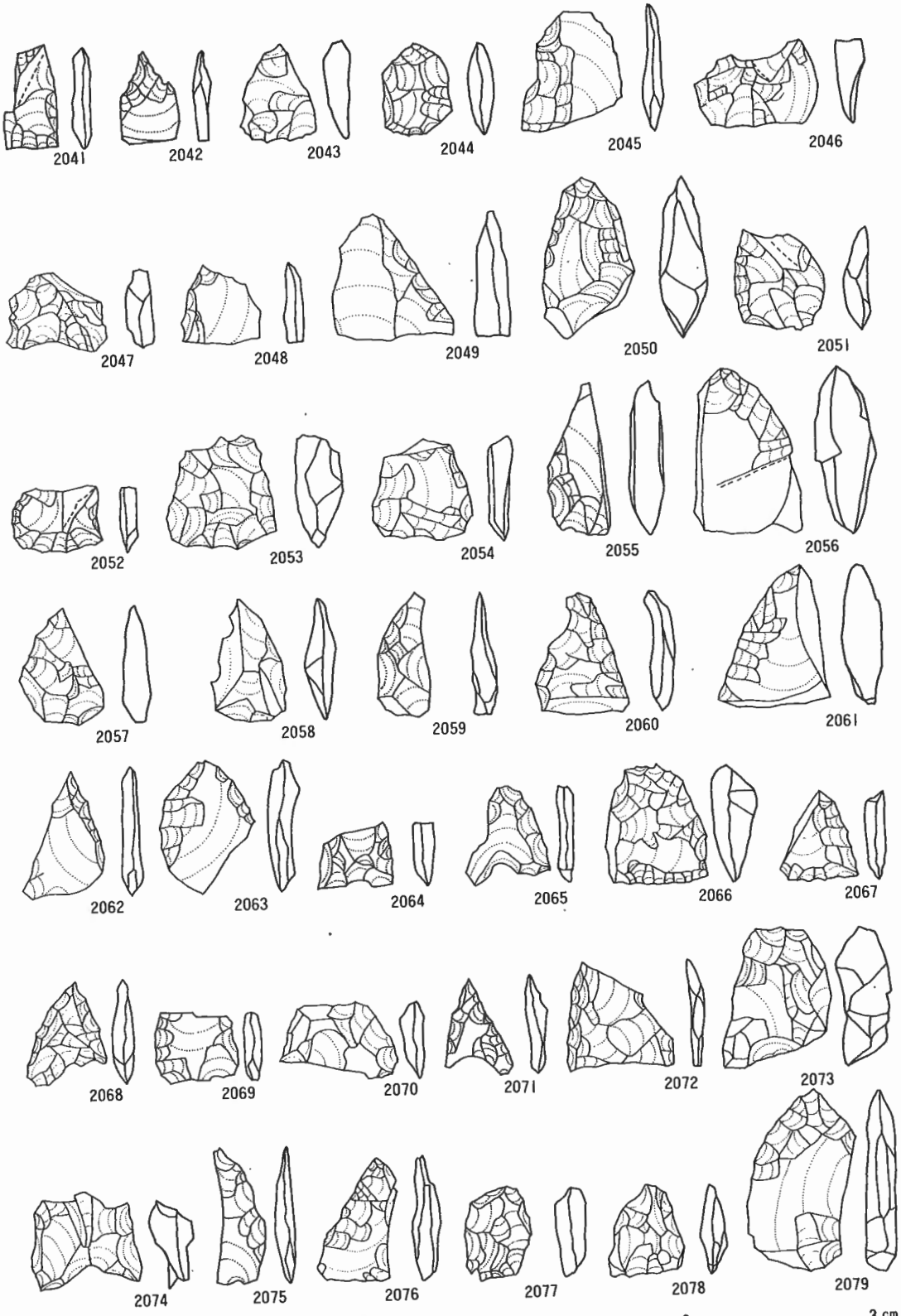


第59図　未製品実測図 ③

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2057	—	I-11	黒曜石	18.30	13.50	4.60	0.95	—	53	
2058	—	I-11	黒曜石	19.95	12.40	4.90	1.05	—	53	
2059	—	I-11	黒曜石	19.40	8.20	4.10	0.85	—	53	
2060	—	I-12	黒曜石	18.80	15.10	4.50	1.05	—	53	
2061	—	I-12	黒曜石	22.25	18.00	6.50	2.15	—	53	
2062	—	I-12	黒曜石	19.90	13.00	3.00	0.75	—	53	
2063	—	I-12	黒曜石	20.70	14.60	5.00	1.05	—	53	
2064	—	I-12	黒曜石	9.80	12.00	3.50	0.45	—	53	
2065	—	I-12	黒曜石	15.65	13.50	3.35	0.65	—	53	
2066	—	I-12	黒曜石	18.80	16.35	7.00	2.05	—	53	
2067	—	I-12	黒曜石	14.10	12.65	3.45	0.50	—	53	
2068	—	I-12	黒曜石	16.00	13.15	3.60	0.55	—	53	
2069	—	I-12	黒曜石	11.10	13.40	3.00	0.60	—	53	
2070	—	I-13	黒曜石	12.00	19.00	3.80	0.90	—	53	
2071	—	I-15	黒曜石	15.45	11.20	3.70	0.35	—	53	
2072	—	I-16	黒曜石	12.00	16.90	2.45	0.95	—	53	
2073	—	I-18	黒曜石	21.90	17.60	4.10	2.55	—	53	
2074	—	I-19	黒曜石	15.85	17.50	7.20	1.30	—	53	
2075	—	I-20	黒曜石	21.50	7.75	3.10	0.50	—	53	
2076	—	I-21	黒曜石	19.20	13.00	3.40	0.85	—	53	
2077	—	I-21	黒曜石	14.65	10.55	5.00	0.95	—	53	
2078	—	I-22	黒曜石	14.75	12.00	4.70	0.85	—	53	
2079	—	I-22	黒曜石	28.55	17.35	5.45	2.40	—	53	
2080	—	I-22	黒曜石	16.45	12.00	4.65	0.80	—	53	
2081	—	I-23	黒曜石	13.00	9.00	2.20	0.20	—	53	
2082	—	I-24	黒曜石	14.00	13.60	2.95	0.30	—	53	
2083	—	I-24	黒曜石	22.00	16.80	6.60	2.25	—	53	
2084	—	I-24	黒曜石	18.00	13.60	3.40	0.80	—	53	
2085	—	I-26	黒曜石	15.75	8.00	3.80	0.45	—	54	
2086	—	J-7	黒曜石	11.60	10.10	4.00	0.50	—	54	
2087	—	J-7	黒曜石	17.75	14.00	6.35	1.10	—	54	
2088	—	J-7	黒曜石	17.70	12.20	5.30	0.70	—	54	
2089	—	J-8	黒曜石	18.25	13.70	7.00	1.10	—	54	
2090	—	J-10	黒曜石	11.85	14.10	3.10	0.40	—	54	
2091	—	J-11	黒曜石	21.20	16.30	5.00	1.25	—	54	
2092	—	J-11	黒曜石	10.20	10.00	2.00	0.20	—	54	
2093	—	J-11	黒曜石	12.50	17.00	5.40	1.30	—	54	
2094	—	J-11	黒曜石	18.00	12.35	4.45	0.90	—	54	
2095	—	J-11	黒曜石	18.10	14.80	6.00	1.70	—	54	
2096	—	J-12	黒曜石	21.20	15.75	6.25	1.90	—	54	
2097	—	J-12	黒曜石	18.90	9.30	5.00	0.70	—	54	
2098	—	J-12	黒曜石	13.85	15.35	4.15	0.10	—	54	
2099	—	J-12	黒曜石	19.00	15.70	3.00	0.60	—	54	
2100	—	J-12	黒曜石	15.50	15.25	3.90	0.65	—	54	

第54表　未製品計測表 ④

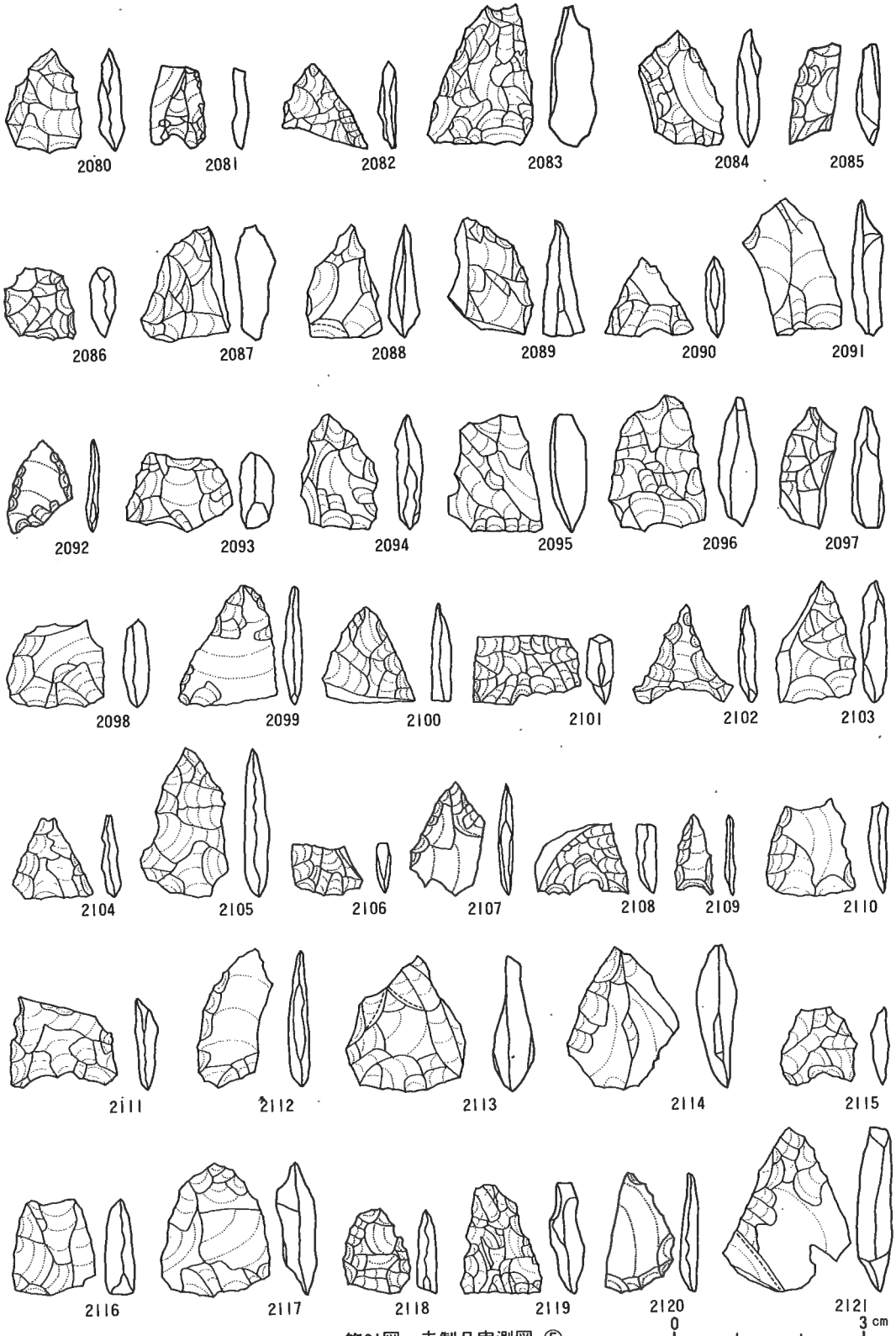


第60図　未製品実測図 ④

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2101	—	J-12	黒曜石	10.70	17.10	4.10	0.80	—	54	
2102	—	J-12	黒曜石	14.10	15.65	2.95	0.50	—	54	
2103	—	J-12	黒曜石	18.65	12.50	4.00	1.25	—	54	
2104	—	J-12	黒曜石	12.60	12.55	3.10	0.45	—	54	
2105	—	J-12	黒曜石	22.50	13.65	4.05	1.25	—	54	
2106	—	J-12	黒曜石	8.30	11.35	2.40	0.20	—	54	
2107	—	J-12	黒曜石	17.45	11.40	2.30	0.30	—	54	
2108	—	J-12	黒曜石	11.00	14.80	3.10	0.50	—	54	
2109	—	J-12	黒曜石	11.95	6.35	2.30	0.15	—	54	
2110	—	J-12	黒曜石	11.20	11.55	3.00	0.25	—	54	
2111	—	J-12	黒曜石	14.20	16.65	3.65	0.75	—	54	
2112	—	J-12	黒曜石	21.45	12.00	3.30	0.60	—	54	
2113	—	J-12	黒曜石	21.10	18.90	6.50	2.00	—	54	
2114	—	J-12	黒曜石	22.30	17.70	6.60	1.60	—	54	
2115	—	J-12	黒曜石	12.25	12.00	2.75	0.40	—	54	
2116	—	J-13	黒曜石	14.85	13.65	4.45	0.90	—	54	
2117	—	J-14	黒曜石	20.45	16.45	6.80	1.95	—	54	
2118	—	J-15	黒曜石	12.90	10.60	3.45	0.50	—	54	
2119	—	J-20	黒曜石	17.40	12.80	5.40	1.00	—	54	
2120	—	J-20	黒曜石	18.25	11.30	2.90	0.40	—	54	
2121	—	J-22	黒曜石	25.00	20.30	5.80	2.10	—	54	
2122	—	J-22	黒曜石	15.15	12.70	3.00	0.60	—	54	
2123	—	J-23	黒曜石	20.00	19.20	6.00	2.30	—	54	
2124	—	J-23	黒曜石	22.55	17.35	5.90	1.60	—	54	
2125	—	J-23	黒曜石	11.25	11.00	2.70	0.25	—	54	
2126	—	J-24	黒曜石	12.15	12.65	3.40	0.30	—	54	
2127	—	J-24	黒曜石	21.20	14.75	4.80	1.05	—	54	
2128	—	J-25	黒曜石	12.00	14.00	5.45	0.95	—	54	
2129	—	J-26	黒曜石	26.60	19.00	7.00	3.30	—	54	
2130	—	K-7	黒曜石	8.20	14.60	3.45	0.70	—	54	
2131	—	K-7	黒曜石	22.75	14.80	5.35	1.95	—	54	
2132	—	K-7	黒曜石	15.70	14.10	4.75	1.00	—	54	
2133	—	K-11	黒曜石	17.40	16.85	4.90	1.30	—	54	
2134	—	K-11	黒曜石	15.80	11.70	2.20	0.30	—	54	
2135	—	K-12	黒曜石	19.65	12.00	4.60	0.70	—	54	
2136	—	K-12	黒曜石	12.25	12.10	3.70	0.70	—	54	
2137	—	K-12	黒曜石	12.00	17.35	4.30	1.25	—	54	
2138	—	K-12	黒曜石	11.75	10.85	2.85	0.40	—	54	
2139	—	K-12	黒曜石	12.20	14.10	2.90	0.30	—	54	
2140	—	K-12	黒曜石	18.10	14.90	2.60	0.80	—	54	
2141	—	K-12	黒曜石	21.55	14.00	5.45	0.90	—	54	
2142	—	K-12	黒曜石	16.65	9.95	4.25	0.80	—	54	
2143	—	K-12	黒曜石	13.80	18.70	6.40	1.30	—	54	
2144	—	K-12	黒曜石	14.35	15.30	4.40	0.90	—	54	

第55表　未製品計測表 ⑤

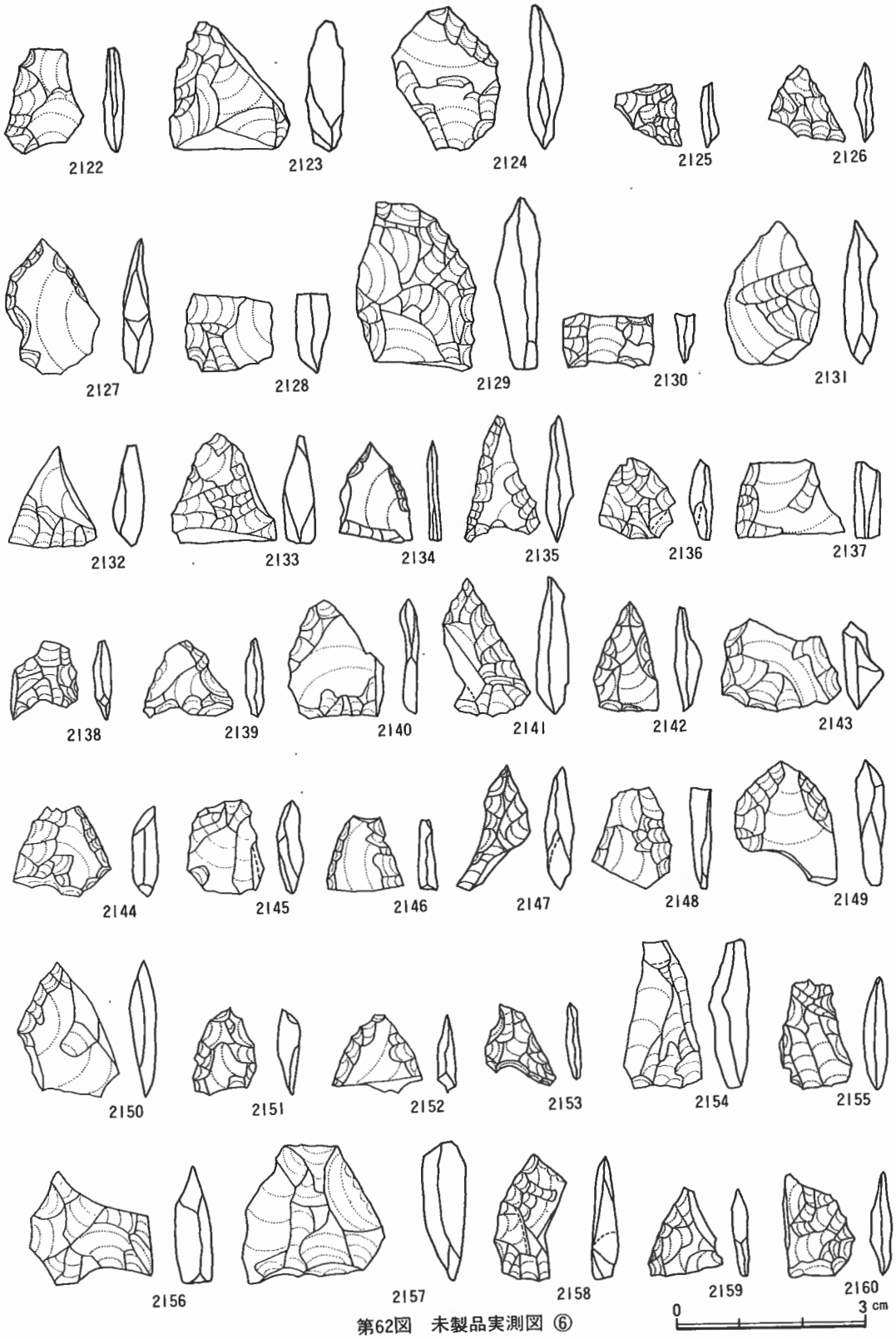


第61図　未製品実測図 ⑤

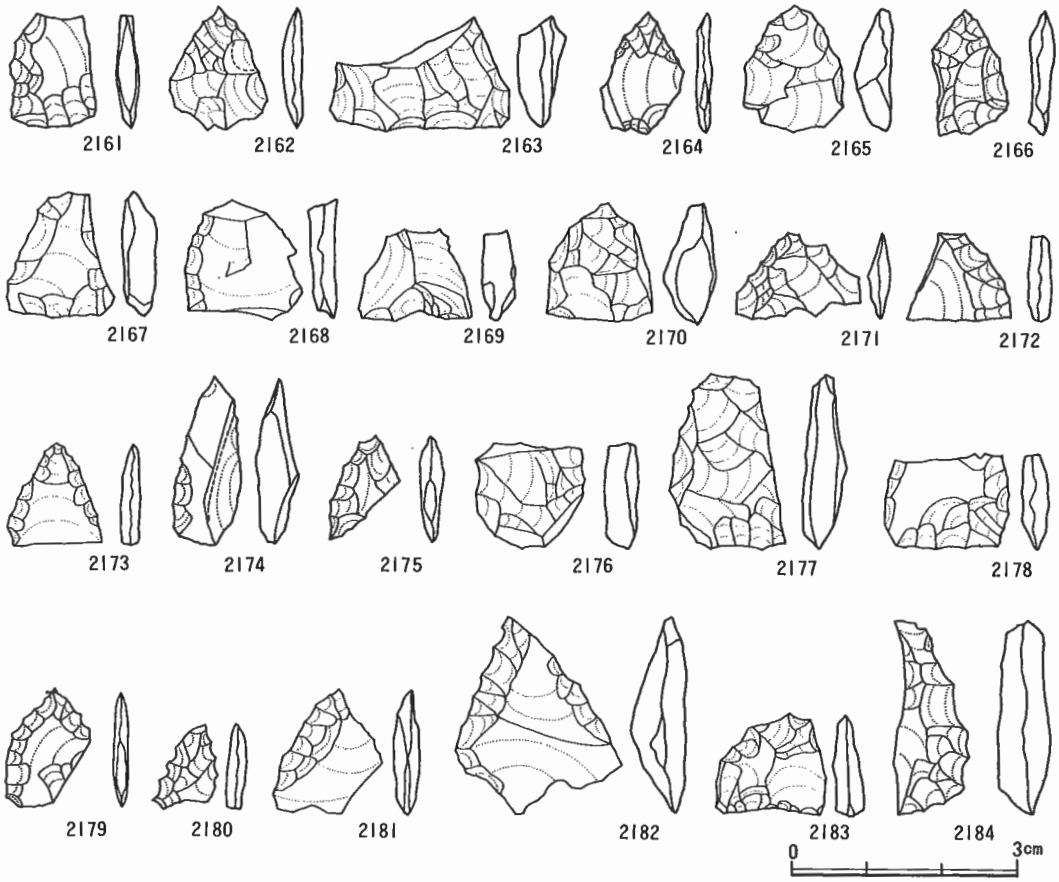
〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2141	—	K-12	黒 曜 石	21.55	14.00	5.45	0.90	—	54	
2142	—	K-12	黒 曜 石	16.65	9.95	4.25	0.80	—	54	
2143	—	K-12	黒 曜 石	13.80	18.70	6.40	1.30	—	54	
2144	—	K-12	黒 曜 石	14.35	15.30	4.40	0.90	—	54	
2145	—	K-12	黒 曜 石	14.40	12.30	4.25	0.65	—	54	
2146	—	K-12	黒 曜 石	11.80	11.90	3.20	0.40	—	54	
2147	—	K-12	黒 曜 石	19.50	11.45	4.65	0.70	—	54	
2148	—	K-12	黒 曜 石	15.75	12.30	3.30	0.70	—	54	
2149	—	K-12	黒 曜 石	19.15	16.10	4.25	1.10	—	54	
2150	—	K-12	黒 曜 石	21.20	15.85	4.00	1.15	—	54	
2151	—	K-12	黒 曜 石	13.85	10.20	3.70	0.45	—	54	
2152	—	K-12	黒 曜 石	12.20	14.45	3.35	0.35	—	54	
2153	—	K-13	黒 曜 石	12.90	10.95	2.20	0.45	—	54	
2154	—	K-13	黒 曜 石	23.40	12.85	6.30	1.50	—	54	
2155	—	K-13	黒 曜 石	17.00	11.75	4.25	0.75	—	54	
2156	—	K-13	黒 曜 石	17.55	19.70	6.50	2.20	—	54	
2157	—	K-13	黒 曜 石	22.25	22.50	7.35	3.60	—	54	
2158	—	K-13	黒 曜 石	19.50	11.25	3.95	0.85	—	54	
2159	—	K-13	黒 曜 石	13.95	11.85	2.25	0.30	—	54	
2160	—	K-13	黒 曜 石	16.65	11.35	3.20	0.70	—	54	
2161	—	K-13	黒 曜 石	15.00	11.80	3.00	0.60	—	54	
2162	—	K-13	黒 曜 石	16.10	13.00	2.70	0.50	—	54	
2163	—	K-13	黒 曜 石	14.85	24.25	8.15	2.00	—	54	
2164	—	K-22	黒 曜 石	15.70	10.90	2.40	0.30	—	54	
2165	—	K-23	黒 曜 石	16.35	12.85	4.90	1.05	—	55	
2166	—	K-23	黒 曜 石	16.35	10.40	3.10	0.45	—	55	
2167	—	K-24	黒 曜 石	16.50	14.40	4.65	1.20	—	55	
2168	—	K-25	黒 曜 石	10.30	15.50	3.60	0.90	—	55	
2169	—	K-25	黒 曜 石	12.40	15.25	4.00	0.45	—	55	
2170	—	K-26	黒 曜 石	15.35	14.50	6.75	1.30	—	55	
2171	—	L-12	黒 曜 石	11.15	16.65	2.70	0.40	—	55	
2172	—	L-13	黒 曜 石	11.25	14.00	3.25	0.45	—	55	
2173	—	L-13	黒 曜 石	13.30	12.90	2.50	0.40	—	55	
2174	—	L-14	黒 曜 石	21.20	9.00	5.50	0.70	—	55	
2175	—	N-12	黒 曜 石	13.65	9.40	3.20	0.30	—	55	
2176	—	3.4住居	黒 曜 石	13.75	14.50	4.40	1.05	—	55	
2177	—	6 住居	黒 曜 石	22.60	15.00	5.70	1.90	—	55	
2178	—	19往居	黒 曜 石	12.40	16.60	3.90	0.80	—	55	
2179	—	19住居	黒 曜 石	15.35	11.10	1.90	0.30	—	55	
2180	—	19住居	黒 曜 石	11.00	8.70	2.60	0.20	—	55	
2181	—	D-14	黒 曜 石	16.15	14.25	3.20	0.55	—	55	
2182	—	表採	黒 曜 石	25.60	22.00	7.50	2.30	—	55	
2183	—	表採	黒 曜 石	13.50	14.70	3.55	0.75	—	55	
2184	—	表採	黒 曜 石	25.00	9.80	7.10	1.40	—	55	

第56表　未製品計測表 ⑥



第62図　未製品実測図 ⑥



第63図　未製品実測図 ⑦

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2169	—	K-25	黒曜石	12.40	15.25	4.00	0.45	—	55	
2170	—	K-26	黒曜石	15.35	14.50	6.75	1.30	—	55	
2171	—	L-12	黒曜石	11.15	16.65	2.70	0.40	—	55	
2172	—	L-13	黒曜石	11.25	14.00	3.25	0.45	—	55	
2173	—	L-13	黒曜石	13.30	12.90	2.50	0.40	—	55	
2174	—	L-14	黒曜石	21.20	9.00	5.50	0.70	—	55	
2175	—	N-12	黒曜石	13.65	9.40	3.20	0.30	—	55	
2176	—	3.4住居	黒曜石	13.75	14.50	4.40	1.05	—	55	
2177	—	6 住居	黒曜石	22.60	15.00	5.70	1.90	—	55	
2178	—	19住居	黒曜石	12.40	16.60	3.90	0.80	—	55	
2179	—	19住居	黒曜石	15.35	11.10	1.90	0.30	—	55	
2180	—	19住居	黒曜石	11.00	8.70	2.60	0.20	—	55	
2181	—	D-14	黒曜石	16.15	14.25	3.20	0.55	—	55	
2182	—	表採	黒曜石	25.60	22.00	7.50	2.30	—	55	
2183	—	表採	黒曜石	13.50	14.70	3.55	0.75	—	55	
2184	—	表採	黒曜石	25.00	9.80	7.10	1.40	—	55	

第57表　未製品計測表 ⑦

3．石　皿

本調査によって得た石皿は35点である。このうち完形品は4点で，他は3分の2～断片資料である。

これらは使用面の状況から2類される。

Ⅰ類　使用面が「U」状を呈する，一般的なものである。

a種(2185～2203)

片面のみが使用されるものである。19点が認められて，全石皿の過半数を占める。完形品は本種だけに遺存されて，2185～2188の4点である。

石材は玄武岩12点，安山岩6点，砂岩1点である。玄武岩･安山岩とも多孔質で，硬度に欠けるためか使用面の凹部は著しいものがある。

形状は規格性をもたず，自然礫をそのまま転用する。したがって，素材は円形，四角形，多角形と多彩であるが，使用面は円運動が基本になされて，2203以外は半円球状に窪む。裏面は凸凹である例が多い。2203は約3分の1程を欠損するが，巾に対して長さを略3倍をもつであろう長円形形状を呈する。使用面は片側に若干角張った面をもって，磨耗方向は直線的で，円形磨石に対応されない。

法量は2188が最大で，長さ453.1㎜･巾425.9㎜･厚さ123.4㎜･重さ24.50㎏を測る。2185･2186の完形品も大形で，一見すると縄文時代中～後期の所産と錯覚する程である。欠損品は完形品に比してひとまわり小形の例が多いが，それでも略200㎜以上の径をもつ。前述2203は法量的にも異例で，長さ176.9㎜以上・巾126.0㎜・厚さ34.2㎜で薄く長い特徴をもつ。

b種(2204～2209)

両面が使用されるものである。6点が認められ，全て欠損品である。

石材は安山岩4点，砂岩2点である。a種同様に安山岩が多孔質であるため，使用面の凹部は著しい。砂岩2点も粗粒で軟質である。

形状はa種に比して円形にちかい。また裏面も凸凹とならずに両面使用に即している素材が選ばれているといってよい。使用面は両面より円運動によって半円球状に窪み，2205はもっとも顕著で使用面中央で15㎜程が残存するに過ぎない。2209は表面に半円球状，裏面に平坦にちかい磨耗痕が残るが，Ⅱ類磨耗痕とは異なり，使用頻度によるものであろう。法量は全て欠損品であるため明確でないが，最大は2205で径略300㎜が推定され，最小は2207が径184.0㎜を測る。a種定形品より劣り，他も200㎜前後が推定されて，相対的にa種よりひとまわり小形の形態を示す。

Ⅱ類　使用面が「―」状を呈して，縁取りがないものである。

a種(2210・2212～2215・2217～2219)

片面のみが使用されるものである。8点が認められ，全て欠損品である。

石材は玄武岩5点，安山岩3点である。Ⅰ類に特徴であった多孔質例は皆無で，いずれも緻密で硬質である。したがって，Ⅰ類石材の原面に黄褐色色素が付着している例が目立つのに対して，石材の原面を直接にみる例が多い。

形状は全てが欠損品で，とくに断片資料が目立つことから，全体形状は不明な点が多い。残存部に弧状となる例が少ないことから，円形に固執することなく，むしろ略四角形で偏平面をもった素材が推測される。基本的には偏平磨耗面をもつが，2214は中央部を若干たかくもって鞍状となる。使用面は素材が硬質であるため，明確な磨耗方向は看取されないが，使用面と自然面の境線は円形を描いておらず，円運動による使用の可能性は少ないといえる。また使用面は偏平石材にもかかわらず，肩部まで及ばず，全て内側に止どまる。

なお，2215は表面に偏平磨耗痕，裏面に台石に併用されたか，敲打による凹面をみる。

法量は完全に推測されないが，Ⅰ類を越えることはないと思われる。

b種(2211・2216)

両面が使用されるものである。2点が認められ，全て欠損品である。

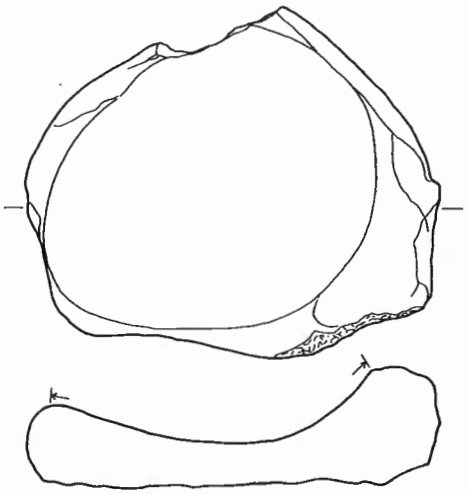
石材は玄武岩，安山岩各1点である。a種同様に緻密で硬質である。

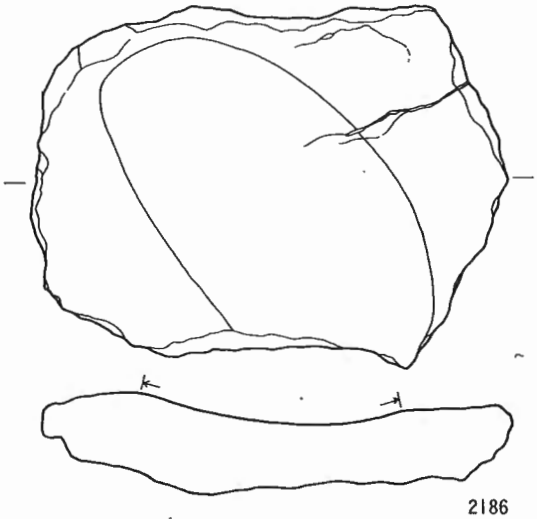
形状・法量とも断片資料で不明であるが，a種と差異をもつものではなかろう。2216は比較的，残存部をもって，角張った不定形が推測される。両面使用に際して，やはり両面に偏平面をもつ素材が選ばれている。使用面にa種同様に円形の境線をもたず，また肩部まで及んでいない。

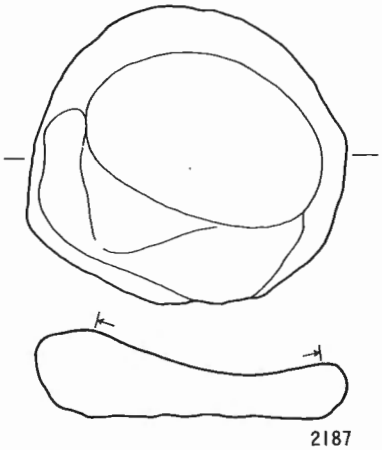
〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

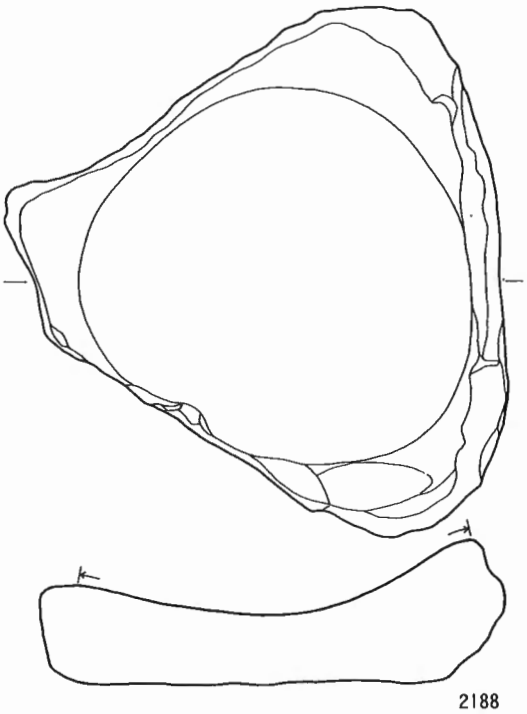
No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
2185	Ⅰ-a	J-7	玄武岩	354.90	297.00	104.50	11600	完形	56	
2186	Ⅰ-a	2住居	玄武岩	406.00	310.00	92.10	16800	完形	56	
2187	Ⅰ-a	Ⅰ-11	安山岩	272.40	254.80	74.00	6000	完形	57	
2188	Ⅰ-a	Ⅰ-24	玄武岩	453.10	425.90	123.40	24500	完形	56	
2189	Ⅰ-a	D-19	玄武岩	(232.00)	(180.00)	(93.50)	(4500)	¼存	57	
2190	Ⅰ-a	E-20	安山岩	(152.00)	(134.75)	(44.35)	(960)	¼存	57	
2191	Ⅰ-a	F-16	玄武岩	(98.55)	(68.90)	(79.25)	(620)	⅙存	57	
2192	Ⅰ-a	G-22	玄武岩	(181.20)	(152.60)	(60.00)	(1920)	½存	57	
2193	Ⅰ-a	H-12	安山岩	(163.50)	(85.70)	(60.60)	(1048)	⅓存	57	
2194	Ⅰ-a	H-13	安山岩	(106.55)	(86.80)	(37.25)	(470)	¼存	57	
2195	Ⅰ-a	J-5	玄武岩	(141.90)	(181.70)	(70.30)	(1660)	¼存	57	
2196	Ⅰ-a	J-13	砂岩	(107.90)	(90.00)	(61.00)	(609)	⅙存	57	
2197	Ⅰ-a	K-13	安山岩	(76.30)	(42.60)	(76.20)	(210)	断片	57	
2198	Ⅰ-a	K-13	安山岩	(177.20)	(84.25)	(67.15)	(1190)	⅛存	57	
2199	Ⅰ-a	K-14	玄武岩	(230.90)	(114.55)	(90.25)	(2700)	⅓存	57	
2200	Ⅰ-a	K-18	玄武岩	(126.30)	(77.60)	(73.90)	(658)	⅙存	57	
2201	Ⅰ-a	E地区	玄武岩	(228.35)	(129.35)	(64.00)	(2030)	⅓存	57	
2202	Ⅰ-a	D-18	玄武岩	(216.40)	(108.55)	(56.20)	(1367)	⅓存	57	
2203	Ⅰ-a	F-13	玄武岩	(176.90)	126.00	34.20	(830)	⅔存	57	
2204	Ⅰ-b	G-15	安山岩	(228.10)	(72.20)	(72.20)	(2200)	¼存	58	
2205	Ⅰ-b	G-18	安山岩	(235.35)	(197.90)	(98.10)	(5400)	⅛存	58	
2206	Ⅰ-b	J-16	砂岩	(206.00)	(147.10)	(90.70)	(3000)	¼存	58	

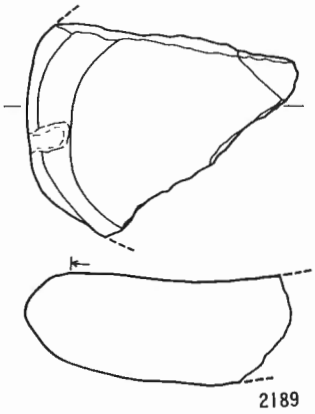
第58表　石皿計測表 ①





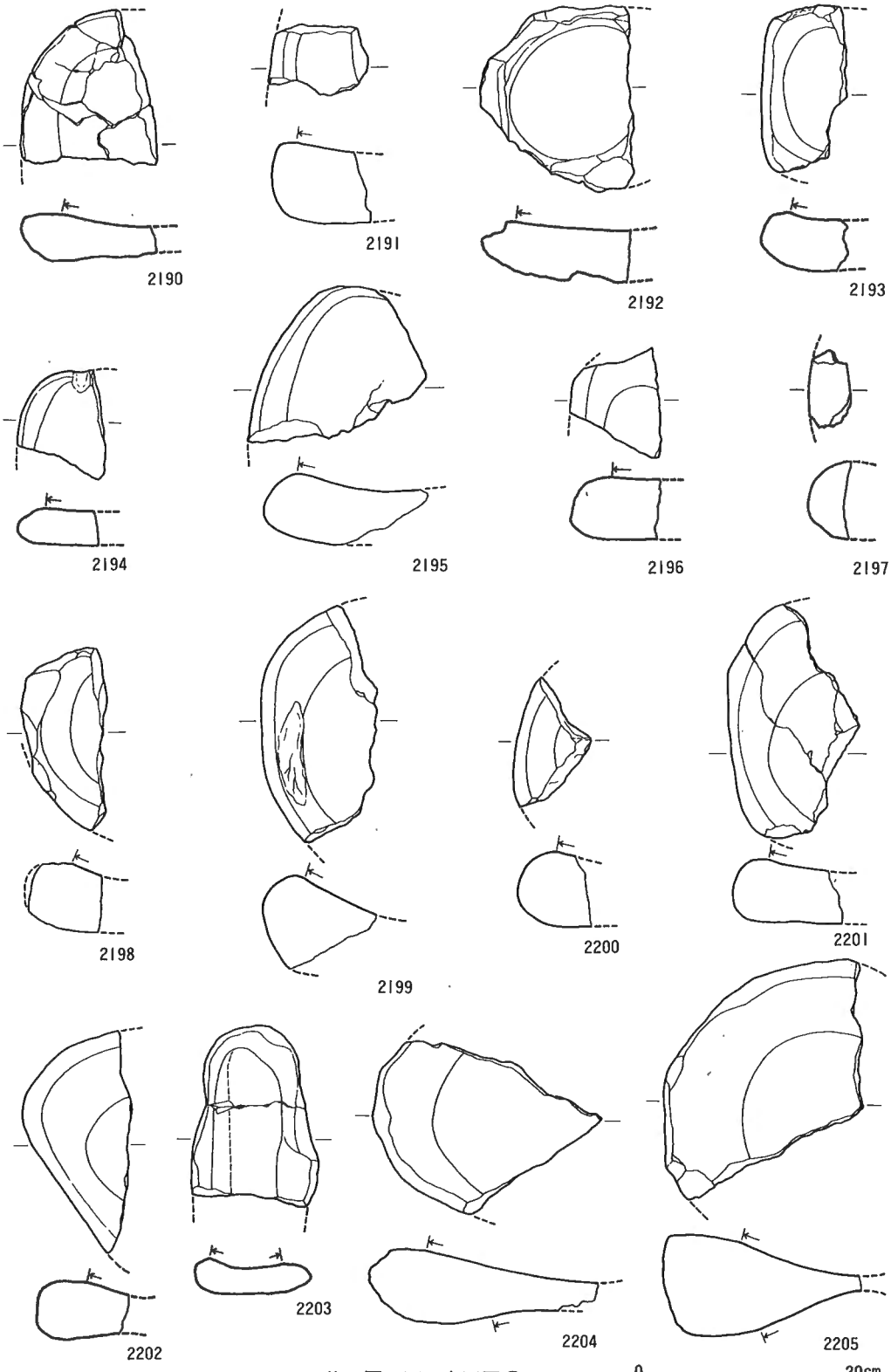




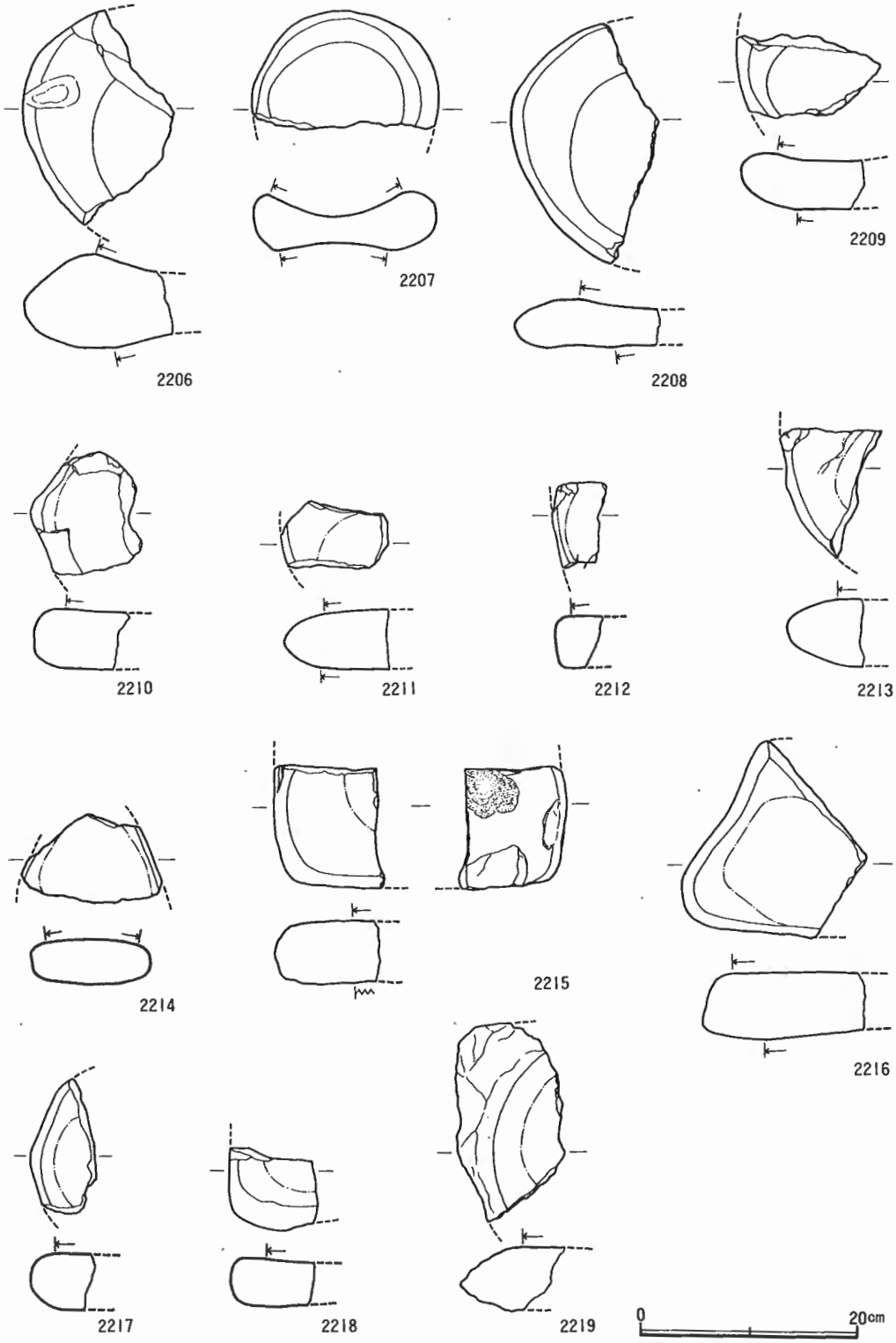


第64図　石皿実測図 ①

0　20cm


2190
2191
2192
2193
2194
2195
2196
2197
2198
2199
2200
2201
2202
2203
2204
2205
0
20cm

第65図　石皿実測図②


2206
2207
2208
2209
2210
2211
2212
2213
2214
2215
2216
2217
2218
2219
0
20cm

第66図　石皿実測図 ③

4．磨　石

本調査によって得た磨石は282点である。磨石が複数の機能を果たすことは知られて，本遺跡も例外なく併用される。したがって『磨石・敲石・凹石』等を含んでいる。[註1]

なお，磨石は欠損資料が多いことで共通して，前述出土数は図示可能点数である。断片資料も多数認められ，実質数の増加は言うまでもないが，以下の比較・検討は前述数に頼る。

これらは使用面の状況によって

Ⅰ類一曲面的磨面をもつもの

Ⅱ類一平坦的磨面をもつもの[註2]

に大別される。

Ⅰ類　曲面的磨面をもつもの。

磨石Ⅰ類は171点が確認される。全資料の約61％を占め，断片資料の大半も本類に含まれる。これは磨面状況を単一にして

a－1種　表裏両面，または片面に磨面を有する

a－2種　表裏両面，または片面に磨面，側辺に敲打痕を有する（敲石併用）

a－3種　表裏両面，または片面に磨面，側辺に敲打痕，さらに表，裏面に凹部を有する（敲石・凹石併用）

にされる。

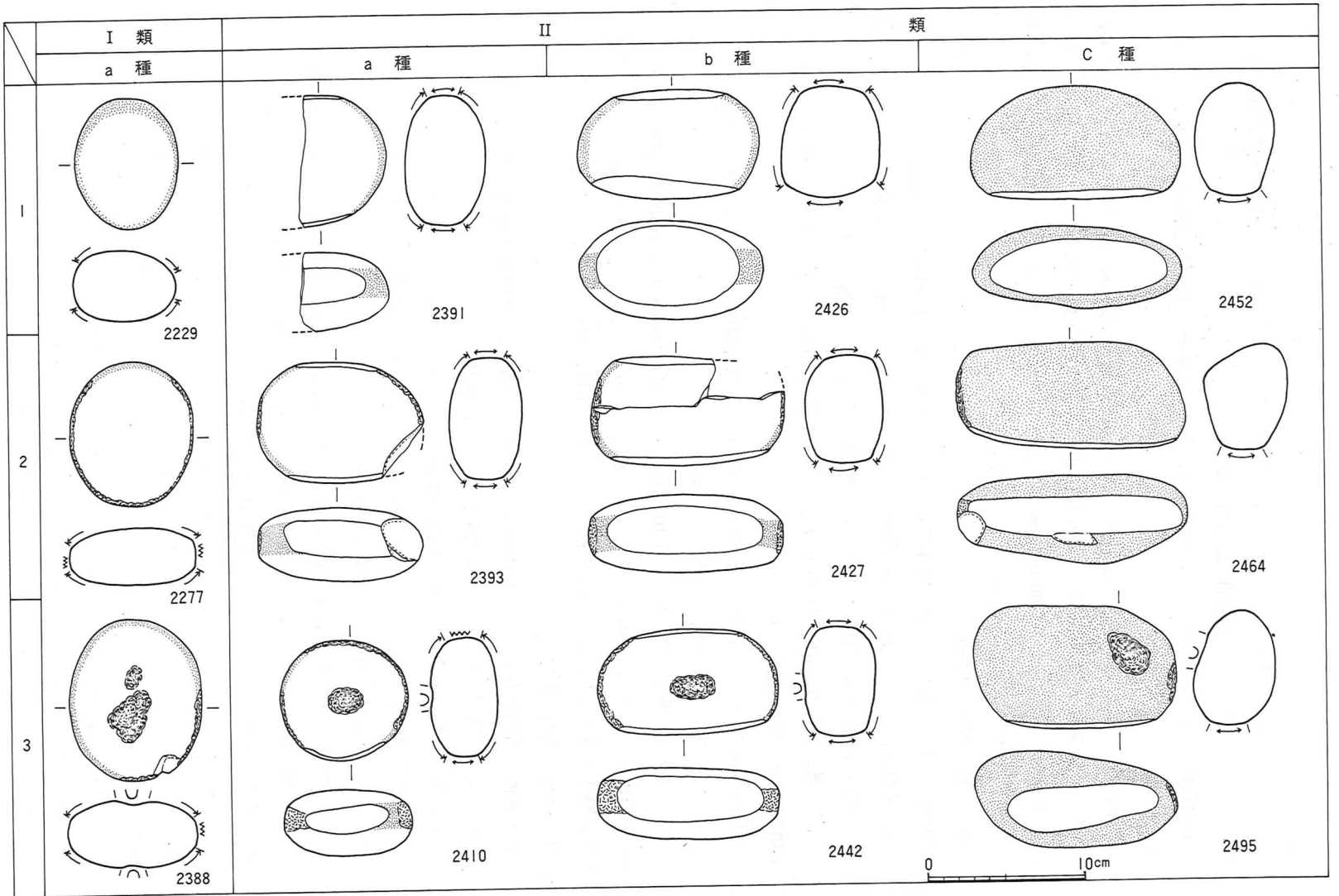
a－1種（2220～2259）

いわゆる一般的な磨石である。側辺に自然面を残して，平・断面形とも素材原形にちかく，円形～隋円形を呈する。極端な長円形状はない。片面使用例が3点確認されるが，ほとんど全てが両面使用と言ってよい。他種も同様である。

〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2207	Ⅰ-b	K-13	安山岩	(184.00)	(115.40)	(54.80)	(1420)	½存	58	
2208	Ⅰ-b	K-13	安山岩	(230.80)	(141.90)	(46.85)	(1918)	⅓存	58	
2209	Ⅰ-b	K-13	砂　岩	(141.20)	(79.70)	(57.45)	(900)	⅙存	58	
2210	Ⅱ-a	H-12	玄武岩	(117.70)	(108.10)	(61.10)	(1054)	⅙存	58	
2211	Ⅱ-b	D-15	玄武岩	(104.85)	(67.50)	(59.90)	(590)	⅙存	58	
2212	Ⅱ-a	Ⅰ-6	安山岩	(83.25)	(53.55)	(49.75)	(300)	断片	58	
2213	Ⅱ-a	Ⅰ-6	玄武岩	(125.40)	(99.35)	(64.00)	(730)	⅙存	58	
2214	Ⅱ-a	Ⅰ-12	安山岩	(137.50)	(86.75)	(43.60)	(710)	¼存	58	
2215	Ⅱ-a	Ⅰ-16	玄武岩	(120.00)	(108.00)	(60.90)	(1328)	⅙存	58	台石併用
2216	Ⅱ-b	J-17	安山岩	(191.25)	(181.80)	(66.55)	(3200)	½存	58	
2217	Ⅱ-a	K-20	玄武岩	(130.10)	(64.20)	(54.80)	(648)	⅙存	58	
2218	Ⅱ-a	L-12	安山岩	(86.45)	(80.15)	(45.25)	(482)	⅙存	58	
2219	Ⅱ-a	D地区	玄武岩	(192.20)	(105.25)	(62.60)	(1592)	⅙存	58	

第59表　石皿計測表 ②


I 類
a 種
II 類
a 種
b 種
C 種
1
2
3
2229
2391
2426
2452
2277
2393
2427
2464
2388
2410
2442
2495
0
10cm

第67図　磨石分類図

これに属するものは40点が認められ，うち完形品は25点である。完形依存度はII類c－3種がもっともたかいが，実質的には本種があげられる。

石材は砂岩26点，安山岩7点，斑岩2点，玄武岩・礫岩・花崗岩・輝緑岩・ホルンフェルス各1点である。

法量は最大値で（以下，全て完形値），長さ107.40㎜・巾94.00㎜・厚さ61.10㎜・重さ660ｇ（以下，法量値は同順に記載），最小値は65.50㎜・56.10㎜・22.90㎜・158ｇである。平均値は86.90㎜・72.30㎜・41.00㎜・360ｇで，巾:長さは略1:1.2を示す。大形・小形の変動巾が大きいが，概して小形品が多いことで特徴をもつ。

ａ－２種（2260～2320）

側面に敲打痕を有して敲石に併用されたものである。ａ－１種同様，比較的一般的な存在である。敲打痕は大きく剝離痕を残す例もあるが，通常は弱い敲打による凸凹となっている。素材を一周する例は比較的稀で，長・短軸の規制はなく，対面で敲打される例が多い。

これに属するものは61点が認められ，うち完形品は29点である。敲石に併用するためか，Ｉ類内においては欠損率がたかい。

石材は砂岩23点，安山岩15点，礫岩・玄武岩各5点，凝灰岩4点，斑岩3点，輝緑岩・ホルンフェルス各2点，花崗岩・閃緑岩各1点である。

法量は最大値で長さ132.70㎜・巾102.70㎜・厚さ64.20㎜・重さ1100ｇ，最小値で62.40㎜・55.10㎜・30.20㎜・160ｇである。平均値は93.20㎜・75.80㎜・42.30㎜・427ｇで，巾:長さは略1:1.3を示し，若干器長を長くもつ。ａ－１種に比して大形化が目立っている。

ａ－３種（2321～2390）

表・裏面に凹部を有する，いわゆる凹石であるが，例外なく側辺にも敲打痕が認められて，３機能が完全に併用されている。敲打痕はａ－２種と同様である。

これに属するものは70点が認められ，本資料中もっとも多い。うち完形品は35点である。

石材は砂岩30点，安山岩12点，礫岩8点，玄武岩7点，斑岩5点，ホルンフェルス3点，花崗岩2点，輝緑岩・閃緑岩・凝灰岩各1点である。

法量は最大値で長さ125.70㎜・巾103.20㎜・厚さ67.00㎜・重さ960ｇ，最小値で65.20㎜・51.10㎜・29.40㎜・198ｇである。平均値は91.40㎜・75.80㎜・42.40㎜・432ｇで，巾:長さは略1:1.2を示す。ａ－２種同様，比較的大形化されている。

本種の最大の特徴である凹部は表・裏面２ケ所例が23点認められて，一応基本にみえるが，普遍ではない。言いかえれば，表面１ケ所から表・裏面３～７ケ所，さらには判別が不可能な程凹部を有する例もあって一様ではない。

また，凹部は円錐形になめらかに潜む，いわゆる凹石様凹部を有する例は９点(2382～2390)が認められるのみである。他は浅く，不規則となって，一様に凹石の範疇に置くには困難を感じる。それは用材自身の敲打が予想され，側辺のみならず，表・裏面まで波及することから『台

石様打痕部』として区別するむきもある。[註3]

II類・平坦的磨面をもつもの

磨石II類は111点が確認される。全資料の約39%である。これは磨面状況に特徴をもって

a種　表・裏面は曲面的磨面をもつものの側辺に平坦的磨面をもつもの

b種　表・裏面，さらに側辺に平坦的磨面をもつもの

c種　自然礫を転用して側辺のみに平坦的磨面をもつもの

にされ，さらにI類同様に敲打痕，凹部の有無によって，それぞれ1～3に細分される。

1. 敲打痕，凹部を有さない

2. 敲打痕を有する（敲石併用）

3. 敲打痕，凹部を有する（敲石・凹石併用，この両者はほとんどの場合，併用される）

a種　表・裏面に曲面的磨面をもってI類に準ずるが，側辺に平坦的磨面をもつため，II類に分類される。34点が認められ，全磨石中12%を占める。

a－1種（2391）

資料は1点である。しかも2分の1残存資料で明確さを欠く。敲打による破損も予想され，資料数の貧弱さも加えれば，単一的な磨耗使用は尋常でなかったと思われる。

石材は砂岩・法量は不明である。

a－2種（2392～2399）

側辺，表面に敲打痕を有する。平坦的磨面は短軸両辺例が一般で，片辺例は1点（2396）だけである。敲打痕は長軸端部に基本的に認められる。なお，表面に無数の敲打痕を有する例が3点（2397～2399）認められて異例である。状況は凹部の連続ではなく，前述した台石様打痕部に把握される。

これに属するものは8点が認められ，うち完形品は5点で，完形依存度はたかい。

分類		総数	完形品（　）略	欠損品	石材									
					砂岩	安山岩	玄武岩	礫岩	凝灰岩	斑岩	ホルンフェルス	輝緑岩	花崗岩	閃緑岩
I	a－1	40	25(1)	14	26	7	1	1		2	1	1	1	
	a－2	61	29(7)	25	23	15	5	5	4	3	2	2	1	1
	a－3	70	35(7)	28	30	12	7	8	1	5	3	1	2	1
	計	171	89(15)	67	79	34	13	14	5	10	6	4	4	2
II	a－1	1	—	1	1									
	a－2	8	5(1)	2	1	1	2		3		1			
	a－3	25	9	16	5	8	1	2	4	1	1	3		
	計	34	14(1)	19	7	9	3	2	7	1	2	3		
	b－1	2	1	1					1	1				
	b－2	4	1	3		2	1							1
	b－3	14	8(1)	5	5	3	1		2	1			1	1
	計	20	10(1)	9	5	5	2		3	2			1	2
	c－1	13	4	9	3	4	1				3	1	1	
	c－2	34	6(8)	20	14	10	4	4		1			1	
	c－3	10	7(1)	2	4	3	1	1						1
	計	57	17(9)	31	21	17	6	5		1	3	1	2	1
合計		282	130(26)	126	112	65	24	21	15	14	11	8	7	5

第60表　磨石観察表 ①

石材は凝灰岩3点，玄武岩2点，砂岩・安山岩・ホルンフェルス各1点である。他種に比して石材の構成に特徴をもつ。

法量は最大値で長さ110.80㎜・巾84.10㎜・厚さ51.50㎜・重さ648ｇ，最小値で89.10㎜8.30㎜・41.60㎜・418ｇである。平均値は99.50㎜・76.90㎜・46.40㎜・533ｇで，巾:長さは略1:1.3を示す。比較的，器長を長くもち，器巾も本資料中最大値を示して，大形である。

ａ－3種（2400～2424）

表・裏面に凹部を有する，いわゆる凹石である。平坦的磨面が短軸両辺，および片辺に施されるため，敲打痕は基本的に長軸端部に認められる。

これに属するものは25点が認められ，うち完形品は9点で，欠損率がたかい。

石材は安山岩8点，砂岩5点，凝灰岩4点，輝緑岩3点，礫岩2点，玄武岩・斑岩・ホルンフェルス各1点である。比較的，砂岩に依存が少なく，硬質の石材を多用してａ－2種の構成に似る。

法量は最大値で長さ107.20㎜・巾90.70㎜・厚さ57.70㎜・重さ800ｇ，最小値で75.10㎜・67.53㎜・34.70㎜・303ｇである。平均値は95.60㎜・80.00㎜・44.80㎜・493ｇで，巾:長さは略1:1.1を示し，本資料中もっとも円形にちかい。

凹部は表面1ケ所が15点認められ，次いで表裏2ケ所5点，他は3～5ケ所の凹部を有する。Ⅰ類磨石と表裏の曲面的磨面が同様でありながら，凹部の状況はⅠ類磨石の表裏2ケ所の基本と相対する。また，凹石様凹部を有する例は6点（2400・2401・2403・2418・2422・2424）認められ，他は浅く，不規則となる。しかし，前述各種のような極端な敲打の連続はなくなる。

平坦的磨面は14点（2400・2401・2404・2407～2410・2412・2413・2416・2419・2421・2422・2424）が短軸片辺例であり，うち2413・2424を除くと，対面には敲打痕が残されている。さらに平坦的磨面がある程度，敲打によって作出された後，磨耗使用される痕跡も8点(2400・2404・2408・2409・2414・2416・2420・2422）に看取される。この状況がもっとも円形にちかい数値の原因となろうが，それを製作途上の未製品とする理解は凹部の有り方から納得するものではない。

ｂ種　表・裏面，さらに側辺に平坦的磨面をもって，いわゆる「石鹸」・「たわし」状と俗称されるものである。その使用面は石皿Ⅰ類の半円球状使用面（円運動による）には対応されない。20点が認められ，全磨石中約7％を占める。資料はもっとも少ない。

ｂ－1種（2425・2426）

ａ－1種同様に単一的な磨耗使用が行われ，資料はやはり少ない。2点中1点（2426）が完形品である。

石材は斑岩・凝灰岩各1点である。法量は頼れないが，側辺の平坦的磨面が顕著になるため，磨面巾もひろがって，器長が次第に長くなる傾向が窺える。

ｂ－2種（2427～2430）

敲石に併用されるものである。基本的には長軸端部に敲打痕を有するが，短軸片辺例（平坦的磨面の対面）が１点（2428）認められる。

これに属するものは４点が認められ，うち完形品は１点である。

石材は安山岩２点，玄武岩・閃緑岩各１点である。法量は資料不足で頼れないが，長軸端部の敲打が顕著になるため，「石鹸」状にちかくなる。

ｂ－３種（2431～2444）

表・裏面に凹部を有する。顕著な平坦的磨面と長軸端部の敲打によって，もっとも「石鹸」状にちかい。

これに属するものは14点が認められ，うち完形品は８点である。

石材は砂岩５点，安山岩３点，凝灰岩２点，花崗岩・斑岩・玄武岩・閃緑岩各１点である。本種内において唯一の砂岩依存をみる。

法量は最大値で長さ140.10㎜・巾76.20㎜・厚さ50.20㎜・重さ570ｇ，最小値で85.60㎜・60.80㎜・34.40㎜・408ｇである。平均値は103.20㎜・68.90㎜・43.50㎜・500ｇで，巾:長さは略1:1.5を示し，表・表面に磨面をもつＩ類，II類ａ・ｂ種においてもっとも長身形状となる。凹部は表面１ケ所が７点認められ，ａ－３種と同様に卓越してる。また凹石様凹部を有する例は２点（2434・2443）であり・他は浅く，不規則となる。それは他種と同様である。

ｃ種　断面が楕円形，略三角形等，角ばった長身の自然礫の側辺（角部分）に平坦的磨面をもつもので，いわゆる「穀擦石」・「特殊磨石」と呼称されるものである。なお，平坦的磨面を共通して有することで，その機能に差異はないとして，II類全体を指す場合もあるが，ここでは一般的な把握に従う。[註4] 57点が認められ，全磨石中約20％を占める。資料はＩ類各種に次いでまとまっている。

ｃ－１種（2445～2457）

分類		総数	最大値（mm・g）				最小値（mm・g）				平均値（mm・g）				
			長さ	幅	厚さ	重さ	長さ	幅	厚さ	重さ	長さ	幅	厚さ	重さ	巾：長
I	a－1	40	107.40	94.00	61.10	660	65.50	56.10	22.90	158	86.90	72.30	41.00	360	1：1.2
	a－2	61	132.70	102.70	64.20	1100	62.40	55.10	30.20	160	93.20	75.80	42.30	427	1：1.3
	a－3	70	125.70	103.20	67.00	960	65.20	51.10	29.40	198	91.40	75.80	42.40	432	1：1.2
	計	171	121.95	99.95	64.10	907	64.35	54.10	27.50	172	90.50	74.70	41.90	406	1：1.2
II	a－1	1	—	84.00	47.20	—	84.00	—	47.20	—	—	—	—	—	—
	a－2	8	110.80	84.10	51.50	648	89.10	68.30	41.60	418	99.50	76.90	46.40	533	1：1.3
	a－3	25	107.20	90.70	57.70	800	75.10	67.35	34.70	303	90.60	80.00	44.80	493	1：1.1
	計	34	100.65	87.40	52.15	724	82.75	67.85	41.15	361	95.10	78.50	45.60	513	1：1.2
	b－1	2	116.60	70.80	64.20	795	116.60	70.80	64.20	795	—	—	57.40	—	—
	b－2	4	95.40	76.70	50.50	410	95.40	66.00	39.50	410	—	71.50	44.90	—	—
	b－3	14	140.10	76.20	50.20	570	85.60	60.80	34.40	408	103.20	68.70	43.50	500	1：1.5
	計	20	117.35	74.55	54.95	592	99.20	65.85	46.05	538	—	70.10	48.60	—	—
	c－1	13	147.70	85.70	98.40	1010	92.20	59.20	50.10	740	121.20	71.40	60.30	824	1：1.7
	c－2	34	164.50	84.55	70.00	1170	102.00	57.90	40.20	540	141.10	68.40	51.10	754	1：2.1
	c－3	10	145.30	82.20	63.80	998	109.20	62.80	34.40	550	128.40	69.80	51.90	729	1：1.8
	計	57	152.50	84.15	77.40	1059	101.15	59.95	41.55	610	130.20	69.85	54.45	769	1：1.9
合計		282	123.10	86.50	62.15	821	86.85	61.90	39.05	420	105.30	73.30	47.60	563	1：1.4

第61表　磨石観察表 ②

敲打痕，凹部は認められず，側辺（角部分）の単一的な磨耗使用のみがなされている。平坦的磨面は片辺例が基本で，１点（2449）が略三角形状の２辺に平坦的磨面をもっている。断面が楕円形の素材が多用される傾向にある。

これに属するものは13点が認められ，うち完形品は４点で，比較的欠損例が多い。II類ａ－１種・ｂ－１種が資料的に貧弱であるのに対して，ｃ種が敲打（敲石）を主体的な併用機能としないためか，資料はｃ－２・３種に比して劣らないでいる。

石材は安山岩４点，砂岩・ホルンフェルス各３点，花崗岩・輝緑岩・玄武岩各１点である。

法量は最大値で長さ147.70㎜・巾85.70㎜・厚さ98.40㎜・重さ1010ｇ，最小値で92.20㎜・59.20㎜・50.10㎜・740ｇである。平均値は121.20㎜・71.40㎜・60.30㎜・824ｇで，巾:長さは略1:1.7を示し，除々に長身形状となる。

ｃ－２種（2458～2491）

敲石に併用されるもので，基本的には長軸端部に敲打痕を有する。確認される14点中，11点は長軸の一端例であって，他の敲打痕を有する２種内では異質である。また短軸片辺例（平坦的磨面の対面）も３点（2461・2482・2491）認められ，その形状もII類ａ・ｂ種に近似する。

これに属するものは34点が認められ，うち完形品は６点で，欠損率は本資料中もっともたかい。

石材は砂岩14点，安山岩10点，礫岩・玄武岩各４点，花崗岩・斑岩各１点で，砂岩の依存がたかくなる。

法量は最大値で長さ164.50㎜・巾84.55㎜・厚さ70.00㎜・重さ1170ｇ，最小値で102，00㎜・57.90㎜・40.20㎜・540ｇである。平均値は141.10㎜・68.40㎜・51.10㎜・754ｇで，巾:長さは略1:2.1を示す。器長に最大値をもって，もっとも長身形状をなす。

平坦的磨面は片辺例が基本であるが，約３分の１にあたる11点（2458・2462・2463・2469・2470・2474～2476・2481・2485・2489）が，２辺にもつ。これに比例して略三角柱状の素材が多用されているが，頂部３辺が全て磨耗使用される例はない。１辺は敲打使用がなされるらしい。また，平坦的磨面に隣接する平坦な面を調整磨面として，平坦的磨面，つまり機能磨面を整形加工するためのものとするが，本遺跡では明確な研磨例は認められない。[註5] 三角柱状の素材でも人為的な加工はなく，平坦的磨面の作出に適する選材によるものであろう。

ｃ－３種（2492～2501）

表・裏面に凹部を有する。ほとんどの場合・敲打痕が併用されているが，２点（2494・2499）に認められない。また，敲打痕の長軸両端部例は２点（2496・2497）だけであって，ｃ－２種同様，長軸一端例が尋常のようである。

これに属するものは10点が認められ，うち完形品は７点である。完形依存度はもっともたかいが，機能的には同様とされようｃ－２種がもっとも少ない状況にあることから，たぶんに偶然性の強いものであろう。

石材は砂岩4点，安山岩3点，礫岩・玄武岩・閃緑岩各1点である。

法量は最大値で長さ145.30㎜・巾82.20㎜・厚さ63.80㎜・重さ998ｇ，最小値で109.20㎜・62.80㎜・34.40㎜・550ｇである。平均値は128.40㎜・69.80㎜・51.90㎜・729ｇで，巾：長さは略1：1.8を示し，ｃ—2種に次ぐ長身形状となる。

		総数	1	2	3	2＋3
I	a	171	40	61	70	131
II	a	34	1	8	25	28
	b	20	2	4	14	18
	c	57	13	34	10	42
	計	111	16	46	49	98
合	計	282	56	107	119	219

第62表　磨石観察表 ③

凹部は表面1ケ所が7点認められ，他は表裏2ケ所2点・4ケ所1点である。前述II類ａ・ｂ—3種と同様の傾向をもって，Ｉ類ａ—3種の有り方と相反した状況となる。凹石様凹部を有する例は4点（2493・2494・2497・2498（認められる。他は，浅く不規則となり，前述各種の様相と大過ない。

註1　鈴木次郎　1977『尾崎遺跡』神奈川県理蔵文化財調査報告13　神奈川県教育委員会

註2　小林康男　1978　「縄文時代の磨石」『中部高地の考古学』長野県考古学会

註3　八木光則　1976　「いわゆる『特殊磨石』について—中部地方における縄文早期の石器群研究への問題提起—」　『信濃』第28巻第4号

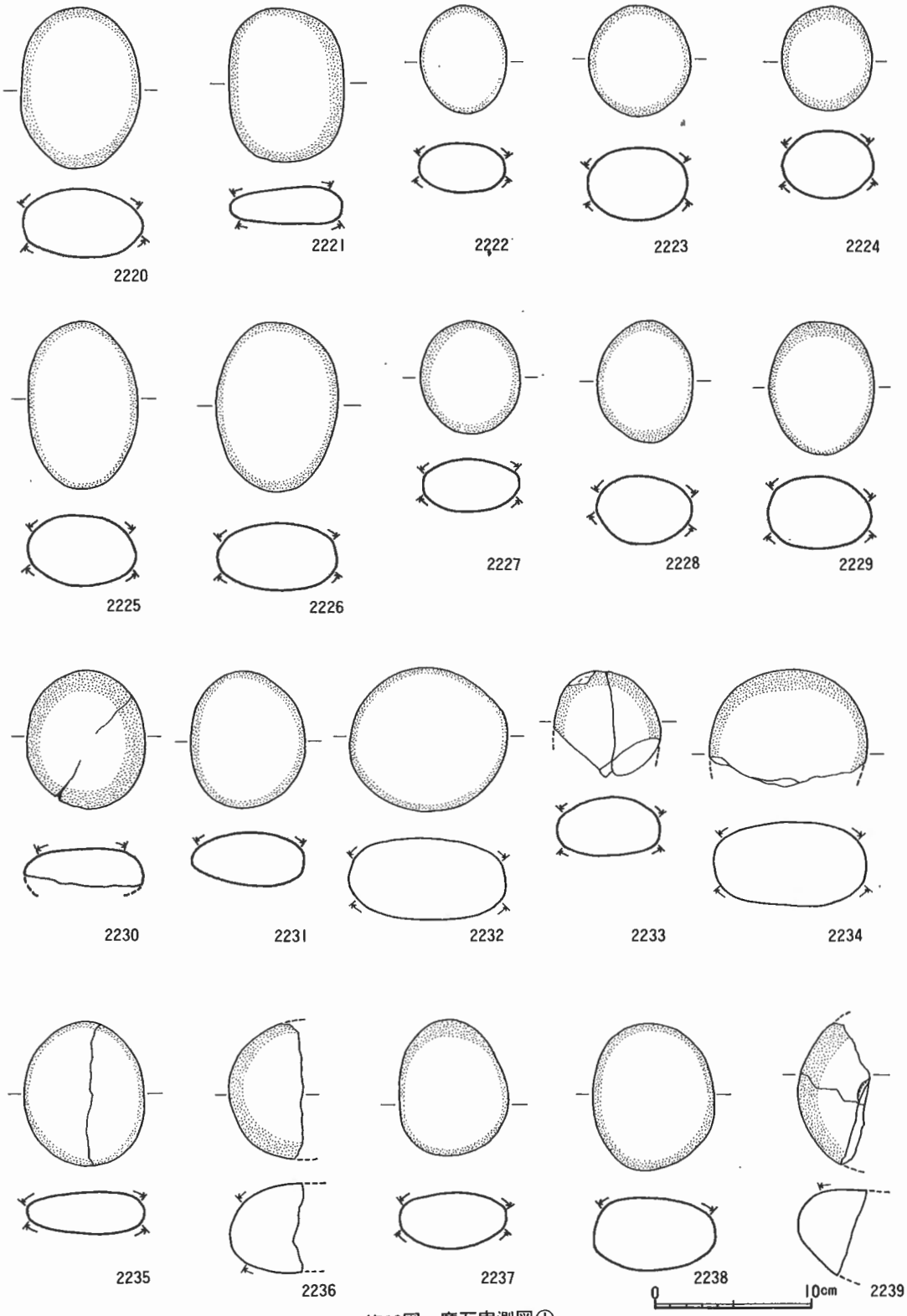
註4　註3に同じ

註5　馬飼野行雄　1982　『代官屋敷遺跡』　日本道路公団各古屋建設局・静岡県教育委員会・富士宮教育委員会

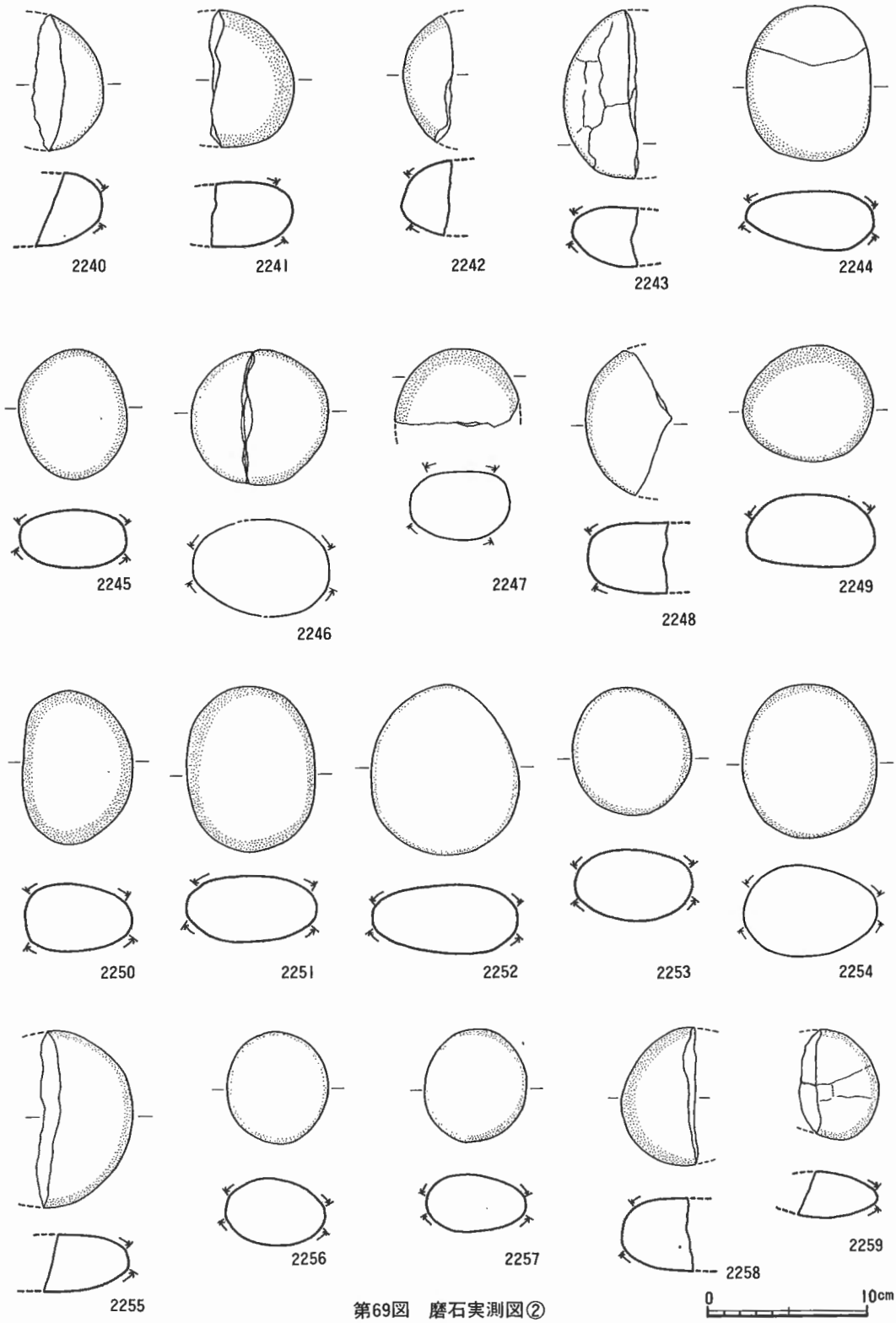
〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
2220	I-a-1	C-18	砂岩	97.70	75.80	42.20	440	完形	59	
2221	I-a-1	28住居	砂岩	95.80	72.80	22.90	260	完形	59	
2222	I-a-1	D-11	砂岩	67.80	56.10	32.10	158	完形	59	
2223	I-a-1	D-14	砂岩	69.80	65.00	45.70	309	完形	59	
2224	I-a-1	E-16	花崗岩	65.50	58.30	42.10	220	完形	59	
2225	I-a-1	F-11	斑岩	104.80	68.70	44.20	445	完形	59	
2226	I-a-1	F-20	砂岩	106.20	77.50	41.80	480	完形	59	
2227	I-a-1	K-12	砂岩	70.00	63.80	30.25	170	完形	59	
2228	I-a-1	G-11	砂岩	75.20	60.00	43.10	259	完形	59	
2229	I-a-1	G-12	砂岩	82.85	67.60	44.70	370	完形	59	
2230	I-a-1	G-13	砂岩	86.10	75.50	(23.70)	(202)	½存	59	
2231	I-a-1	G-19	砂岩	85.80	73.30	33.40	285	完形	59	
2232	I-a-1	G-20	砂岩	100.20	89.00	49.10	660	完形	59	
2233	I-a-1	I-13	砂岩	(65.90)	68.00	37.00	(177)	⅔存(N-14接合)	59	
2234	I-a-1	4住居	安山岩	101.80	(72.30)	52.20	(500)	⅔存	59	
2235	I-a-1	H-11	砂岩	89.70	76.10	27.40	265	完形	60	
2236	I-a-1	H-16	安山岩	(84.75)	(47.20)	56.70	(260)	½存	60	
2237	I-a-1	H-16	砂岩	83.65	69.10	35.40	300	完形	60	
2238	I-a-1	E-19	輝緑岩	91.80	77.40	45.00	460	完形	60	
2239	I-a-1	H-22	砂岩	(85.60)	(44.50)	(53.60)	(190)	⅓存	60	

第63表　磨石計測表 ①


2220
2221
2222
2223
2224
2225
2226
2227
2228
2229
2230
2231
2232
2233
2234
2235
2236
2237
2238
2239
0
10cm

第68図　磨石実測図①

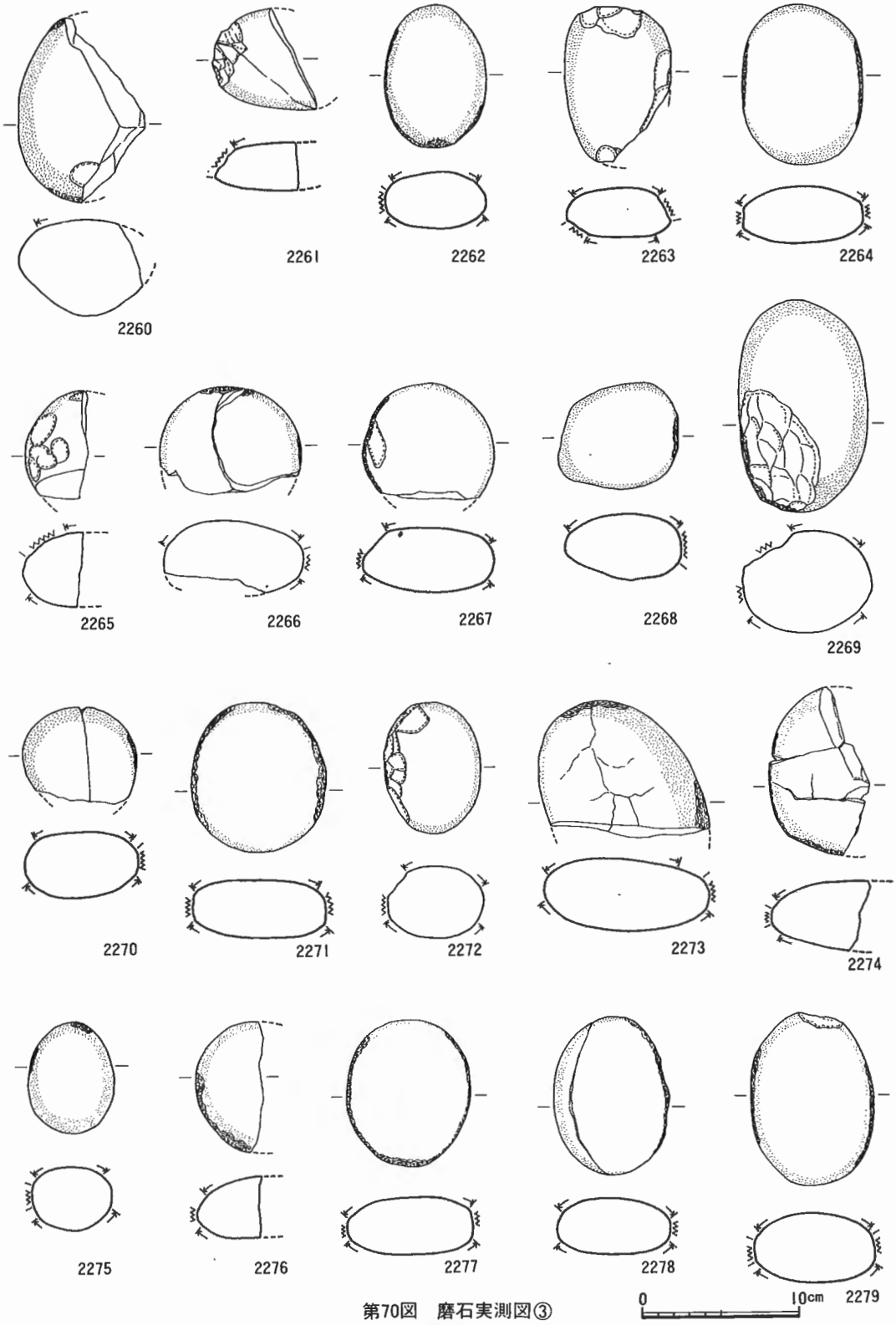

2240
2241
2242
2243
2244
2245
2246
2247
2248
2249
2250
2251
2252
2253
2254
2255
2256
2257
2258
2259
0
10cm

第69図　磨石実測図②

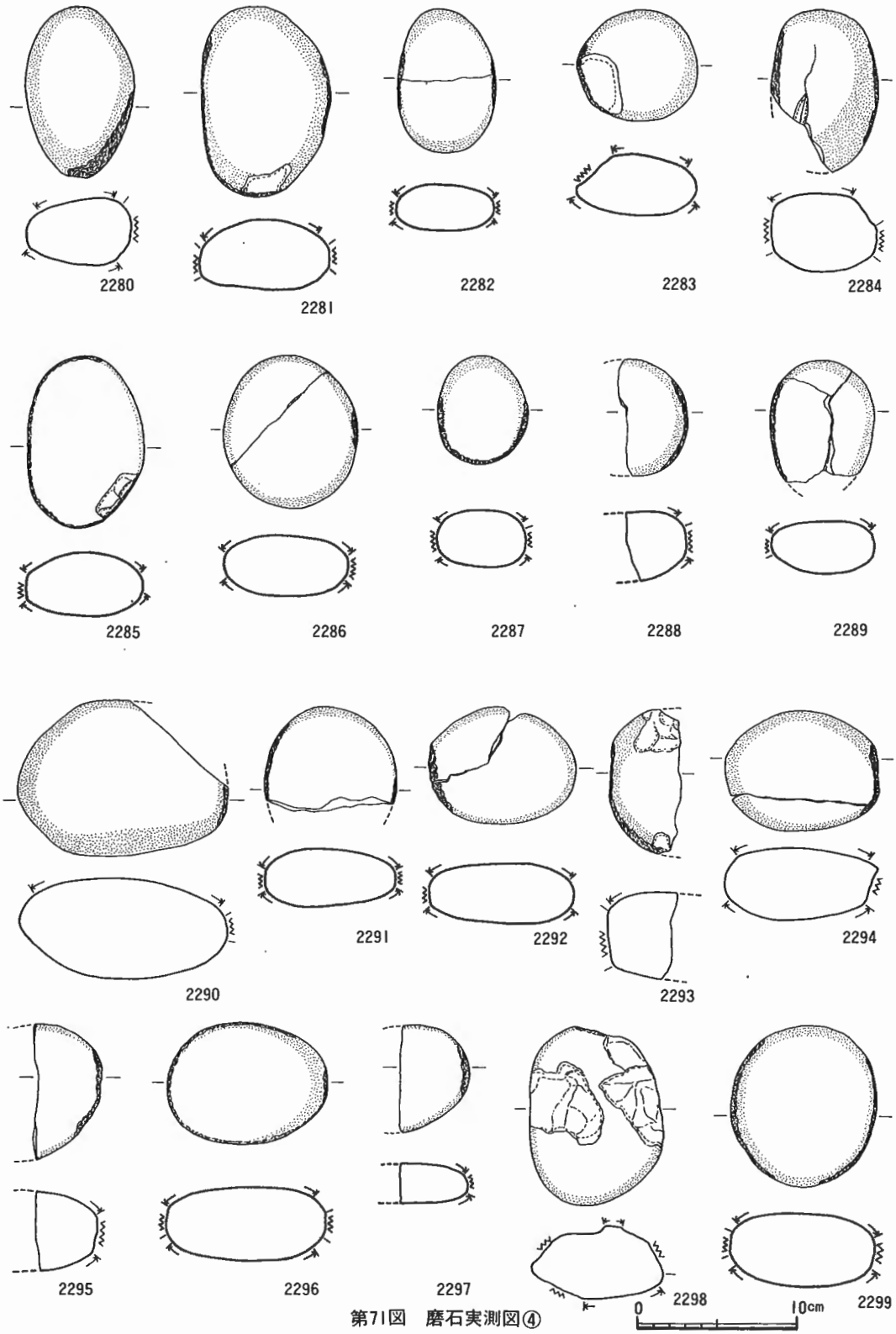
〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2240	I-a-1	I-4	砂　岩	(84.40)	(43.35)	(45.00)	(175)	⅓存	60	
2241	I-a-1	I-11	砂　岩	85.30	(53.80)	40.10	(243)	½存	60	
2242	I-a-1	I-13	砂　岩	(77.70)	(32.20)	(47.40)	(115)	⅓存	60	
2243	I-a-1	I-20	礫　岩	(103.70)	(47.20)	(37.00)	(220)	½存	60	
2244	I-a-1	J-9	砂　岩	94.20	73.50	35.90	370	完形	60	
2245	I-a-1	J-12	砂　岩	89.20	67.80	36.10	252	完形	60	
2246	I-a-1	J-12	斑　岩	86.60	84.50	61.10	(595)	略完形(L-12接合)	60	
2247	I-a-1	J-13	安山岩	78.45	(48.00)	42.00	(220)	⅓存	60	
2248	I-a-1	J-18	砂　岩	(86.60)	(54.30)	(43.60)	(250)	⅓存	60	
2249	I-a-1	J-18	玄武岩	81.80	72.20	43.30	400	完形	60	
2250	I-a-1	J-24	安山岩	95.10	69.80	42.20	391	完形	61	
2251	I-a-1	K-12	砂　岩	101.20	82.10	40.20	430	完形	61	
2252	I-a-1	K-13	安山岩	105.50	94.00	43.30	608	完形	61	
2253	I-a-1	K-13	砂　岩	78.35	74.60	43.75	370	完形	61	
2254	I-a-1	22住居	砂　岩	95.20	85.10	55.80	648	完形	61	
2255	I-a-1	K-25	安山岩	107.40	(60.00)	35.40	(355)	½存	61	
2256	I-a-1	L-12	砂　岩	69.80	63.70	41.25	250	完形	61	
2257	I-a-1	L-13	ホルンフェルス	69.90	64.20	36.40	211	完形	61	
2258	I-a-1	M-12	安山岩	85.10	(49.35)	(45.50)	(250)	½存	61	
2259	I-a-1	N-20	砂　岩	68.30	(50.50)	29.10	(98)	⅔存	61	
2260	I-a-2	C-17	閃緑岩	(113.80)	(77.95)	(62.40)	(615)	½存	61	
2261	I-a-2	C-17	砂　岩	(67.10)	(62.70)	(30.40)	(142)	⅓存	61	
2262	I-a-2	D-11	砂　岩	87.80	65.40	34.60	282	完形	61	
2263	I-a-2	D-17	斑　岩	(98.00)	(68.00)	31.00	(275)	⅚存	61	
2264	I-a-2	D-18	礫　岩	100.30	77.40	34.90	352	完形	61	
2265	I-a-2	H-18	安山岩	(68.20)	(39.80)	(46.40)	(155)	¼存	62	
2266	I-a-2	E-8	砂　岩	90.80	(67.00)	(44.00)	(260)	⅔存	62	
2267	I-a-2	E-12	凝灰岩	84.80	(72.40)	39.60	(380)	⅚存	62	
2268	I-a-2	E-19	玄武岩	78.55	66.30	40.40	300	完形	62	
2269	I-a-2	E-20	凝灰岩	132.30	82.10	64.20	930	完形	62	
2270	I-a-2	E-20	斑　岩	71.10	(61.75)	41.70	(218)	¾存(F-22接合)	62	
2271	I-a-2	E-20	安山岩	93.80	86.40	35.90	460	完形	62	
2272	I-a-2	F-9	玄武岩	81.80	62.30	45.40	312	完形	62	
2273	I-a-2	F-11	砂　岩	(84.00)	102.70	45.50	(440)	⅔存	62	
2274	I-a-2	F-11	礫　岩	(103.00)	(65.20)	(44.10)	(298)	¼存(F-12・44住居接合)	62	
2275	I-a-2	F-11	砂　岩	69.90	55.10	39.40	165	完形	62	
2276	I-a-2	G-12	砂　岩	81.00	(43.00)	39.70	(145)	⅓存	62	
2277	I-a-2	G-19	玄武岩	91.40	80.30	36.00	420	完形	62	
2278	I-a-2	G-19	砂　岩	98.50	73.80	36.30	360	完形(G-20接合)	63	
2279	I-a-2	G-20	安山岩	107.00	77.10	43.10	550	完形	63	
2280	I-a-2	15住居	輝緑岩	105.40	68.80	42.20	350	完形	63	
2281	I-a-2	G-22	輝緑岩	117.70	82.00	43.00	500	完形	63	
2282	I-a-2	H-12	砂　岩	90.10	62.40	30.20	255	完形(I-12接合)	63	
2283	I-a-2	H-20	斑　岩	75.80	70.20	38.20	252	完形	63	

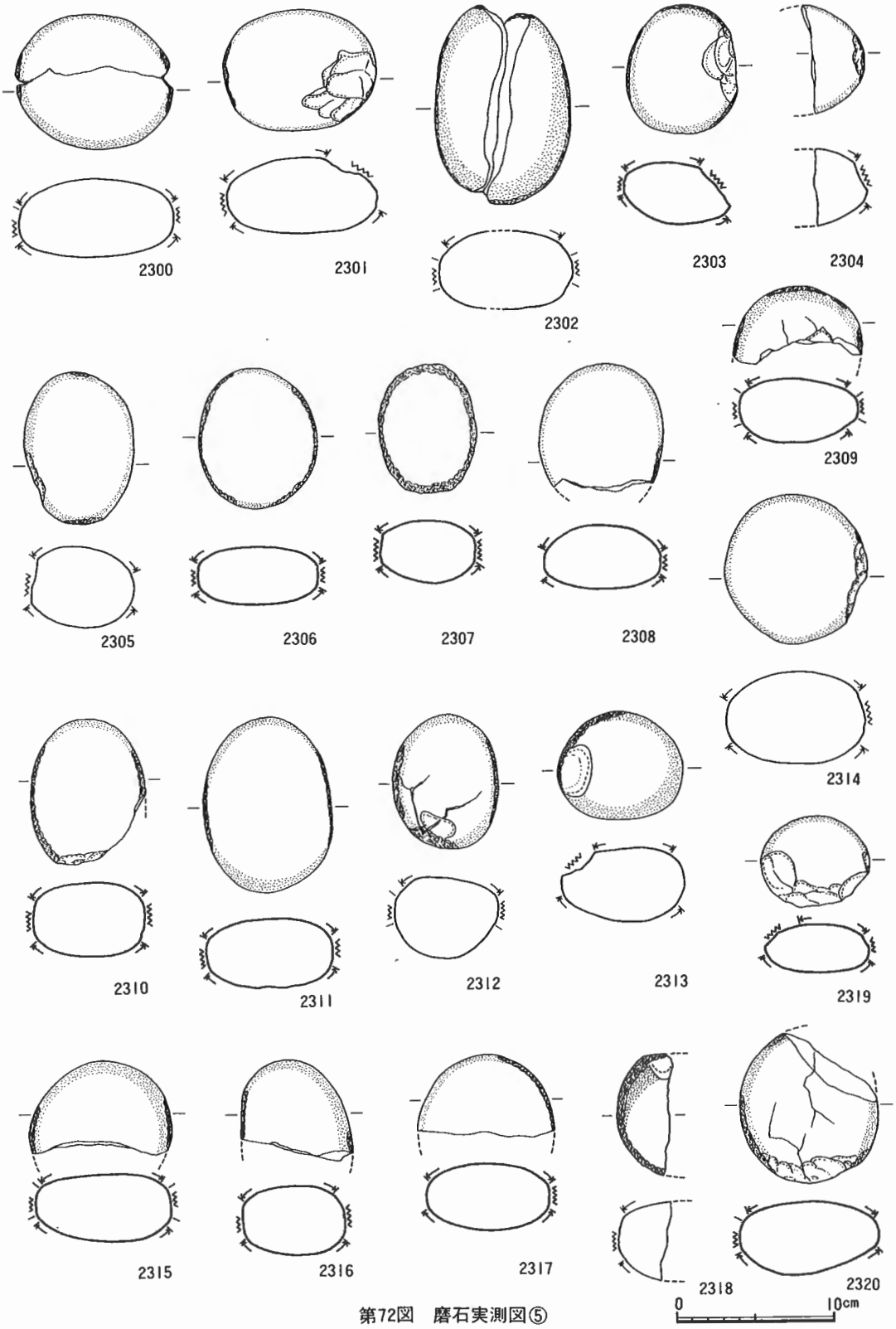
第64表　磨石計測表 ②


2260
2261
2262
2263
2264
2265
2266
2267
2268
2269
2270
2271
2272
2273
2274
2275
2276
2277
2278
2279
0
10cm

第70図　磨石実測図③


2280
2281
2282
2283
2284
2285
2286
2287
2288
2289
2290
2291
2292
2293
2294
2295
2296
2297
2298
2299
0
10cm

第71図　磨石実測図④

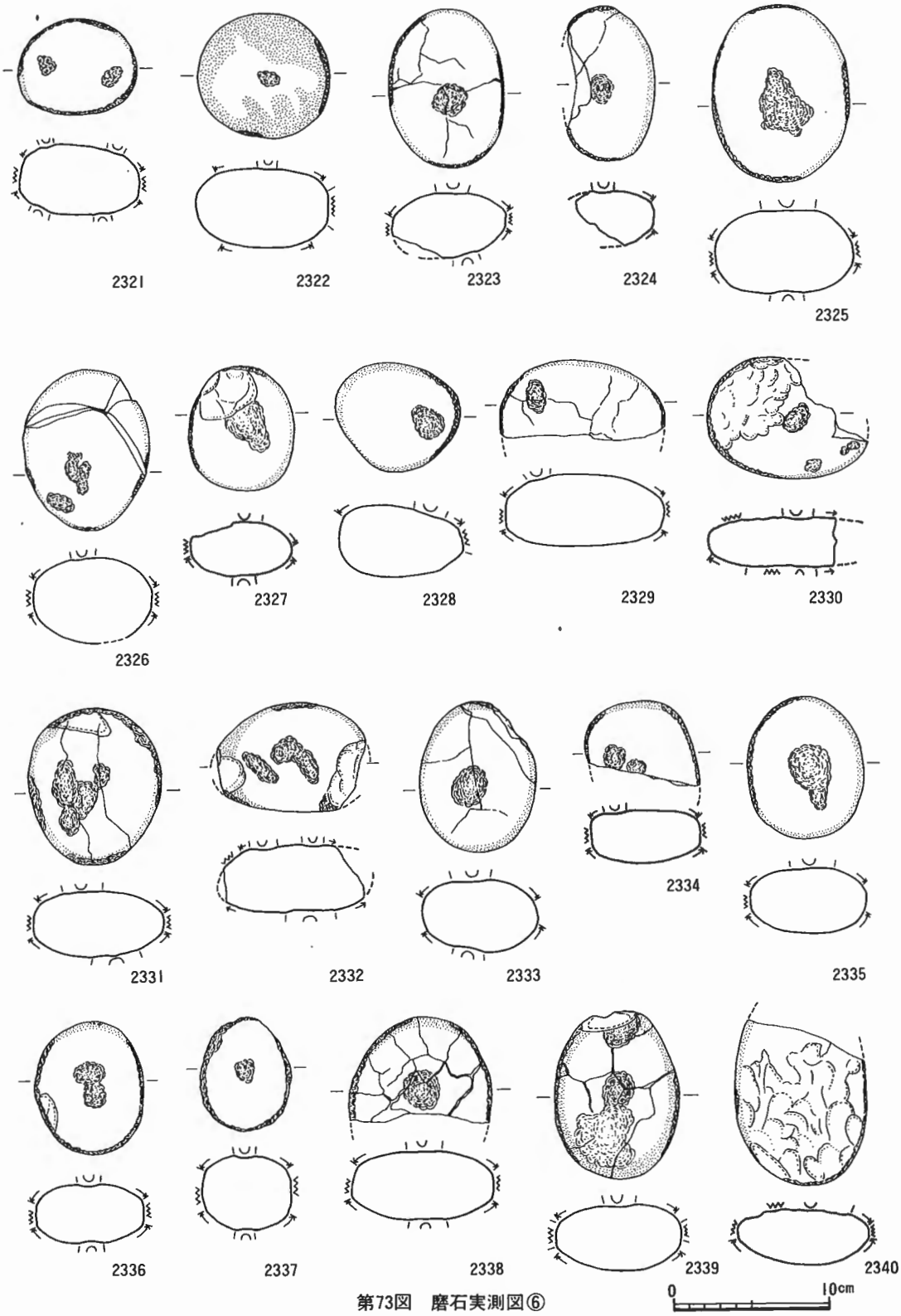

2300
2301
2302
2303
2304
2305
2306
2307
2308
2309
2310
2311
2312
2313
2314
2315
2316
2317
2318
2319
2320
0
10cm

第72図　磨石実測図⑤

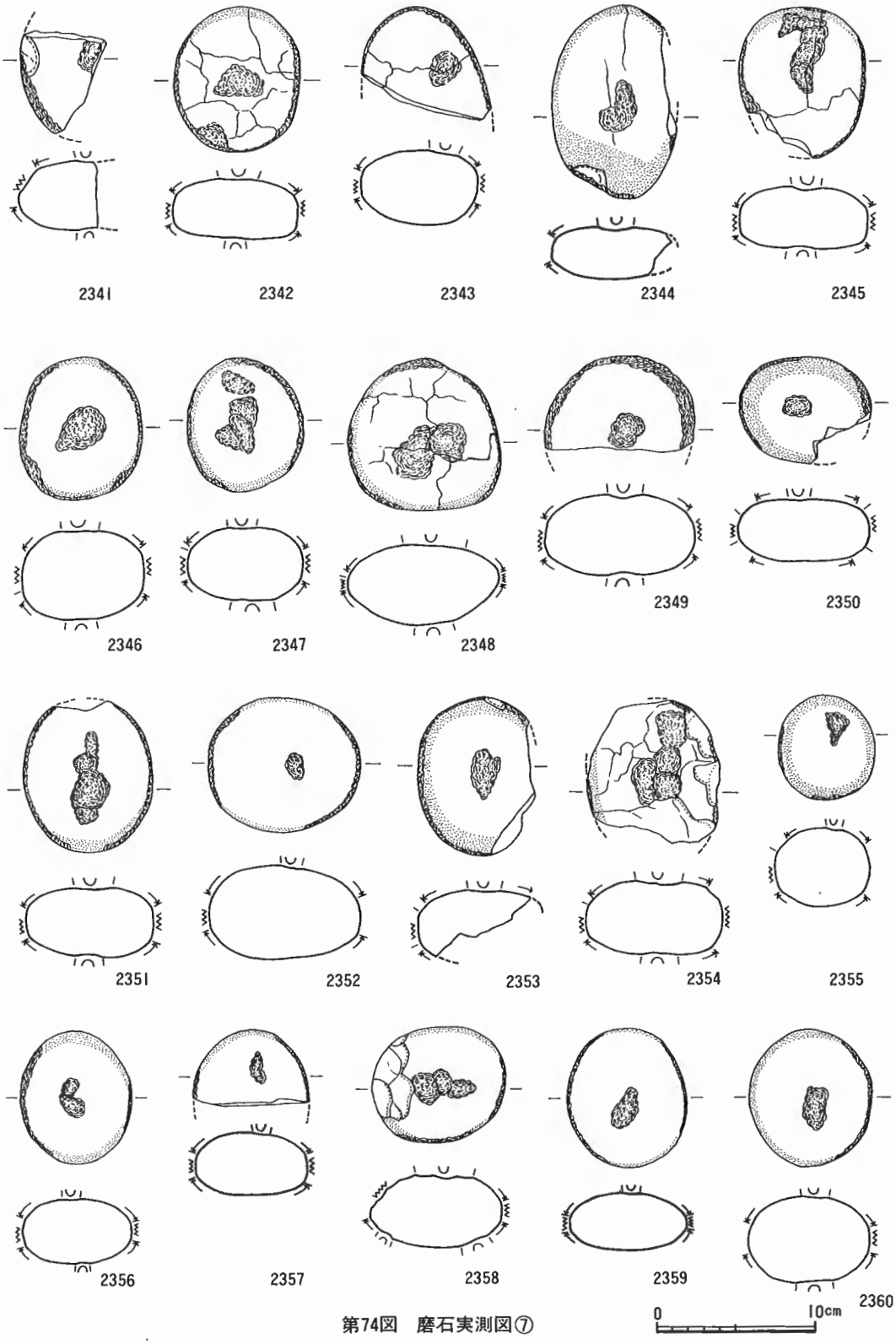
〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2284	I-a-2	H-20	礫　岩	(106.50)	67.60	48.40	(330)	⅚存	63	
2285	I-a-2	H-20	安山岩	107.00	73.80	39.30	(430)	略完形	63	
2286	I-a-2	H-20	砂　岩	94.80	84.00	37.80	445	完形(I-14接合)	63	
2287	I-a-2	I-12	安山岩	62.40	57.20	36.60	180	完形	63	
2288	I-a-2	I-12	砂　岩	73.00	(45.45)	44.60	(175)	⅓存	63	
2289	I-a-2	I-15	砂　岩	(76.30)	65.70	32.00	(230)	⅚存	63	
2290	I-a-2	I-17	砂　岩	132.70	97.40	60.80	1100	完形	63	
2291	I-a-2	I-21	安山岩	(65.90)	84.10	36.90	(292)	½存	63	
2292	I-a-2	I-24	安山岩	94.40	72.80	32.30	(365)	略完形(K-25接合)	64	
2293	I-a-2	I-24	安山岩	(89.10)	(46.10)	(56.70)	(340)	⅓存	64	
2294	I-a-2	25住居	砂　岩	96.80	75.00	44.40	460	完形	64	
2295	I-a-2	J-6	安山岩	(83.80)	(41.10)	(50.50)	(218)	⅓存	64	
2296	I-a-2	J-9	玄武岩	101.60	75.70	46.00	560	完形	64	
2297	I-a-2	J-12	砂　岩	(43.80)	(66.50)	(25.20)	(88)	½存	64	
2298	I-a-2	J-13	ホルンフェルス	111.10	85.40	46.20	(585)	略完形	64	
2299	I-a-2	20住居	安山岩	100.50	91.30	45.00	610	完形	64	
2300	I-a-2	J-22	砂　岩	101.70	86.00	49.20	(590)	略完形	64	
2301	I-a-2	J-23	安山岩	98.20	76.00	48.30	540	完形	64	
2302	I-a-2	J-24	砂　岩	124.70	87.40	49.80	(592)	略完形	64	
2303	I-a-2	K-12	砂　岩	82.00	71.70	38.50	315	完形	64	
2304	I-a-2	K-12	砂　岩	(68.30)	(34.80)	(49.10)	(128)	⅓存	64	
2305	I-a-2	K-12	安山岩	95.50	70.40	50.70	(508)	略完形	65	
2306	I-a-2	K-13	安山岩	87.50	77.10	36.20	368	完形	65	
2307	I-a-2	K-13	砂　岩	80.80	63.10	39.40	252	完形	65	
2308	I-a-2	K-20	ホルンフェルス	(79.60)	79.40	41.20	(389)	⅚存	65	
2309	I-a-2	K-22	安山岩	82.70	(41.40)	(40.00)	(130)	¼存	65	
2310	I-a-2	40炉穴	凝灰岩	(90.60)	(73.60)	47.00	(410)	略完形	65	
2311	I-a-2	K-25	玄武岩	111.60	83.10	44.20	591	完形	65	
2312	I-a-2	K-26	凝灰岩	85.20	68.40	51.30	295	完形	65	
2313	I-a-2	L-12	砂　岩	81.10	68.80	46.70	322	完形	65	
2314	I-a-2	L-13	花崗岩	94.80	92.10	59.20	700	完形	65	
2315	I-a-2	L-18	安山岩	91.25	(58.70)	41.30	(310)	½存	65	
2316	I-a-2	L-22	礫　岩	(64.30)	72.50	43.00	(260)	⅔存	65	
2317	I-a-2	M-13	砂　岩	88.00	(50.00)	41.40	(260)	½存	66	
2318	I-a-2	M-14	礫　岩	(77.00)	(36.00)	(50.60)	(150)	⅓存	66	
2319	I-a-2	O-23	砂　岩	69.40	57.90	30.60	160	完形	66	
2320	I-a-2	表採	砂　岩	(94.00)	88.90	45.90	(420)	¾存	66	
2321	I-a-3	C-11	砂　岩	77.80	64.00	45.00	310	完形	66	凹4・表裏・浅
2322	I-a-3	C-12	砂　岩	85.90	79.00	49.40	455	完形	66	凹1・表・浅
2323	I-a-3	C-17	砂　岩	102.50	75.00	41.45	412	完形(D-19接合)	66	凹2・表裏・浅
2324	I-a-3	D-5	安山岩	97.70	(56.60)	34.00	(234)	⅔存	66	凹1・表(裏不明)・浅
2325	I-a-3	28住居	ホルンフェルス	103.00	88.30	52.10	815	完形	66	凹2・表裏・浅
2326	I-a-3	D-7	砂　岩	102.00	80.60	55.40	(620)	略完形(H-13・I-13接合)	66	凹3・表・浅
2327	I-a-3	D-11	砂　岩	78.60	68.40	34.90	242	完形	66	凹2・表裏・浅

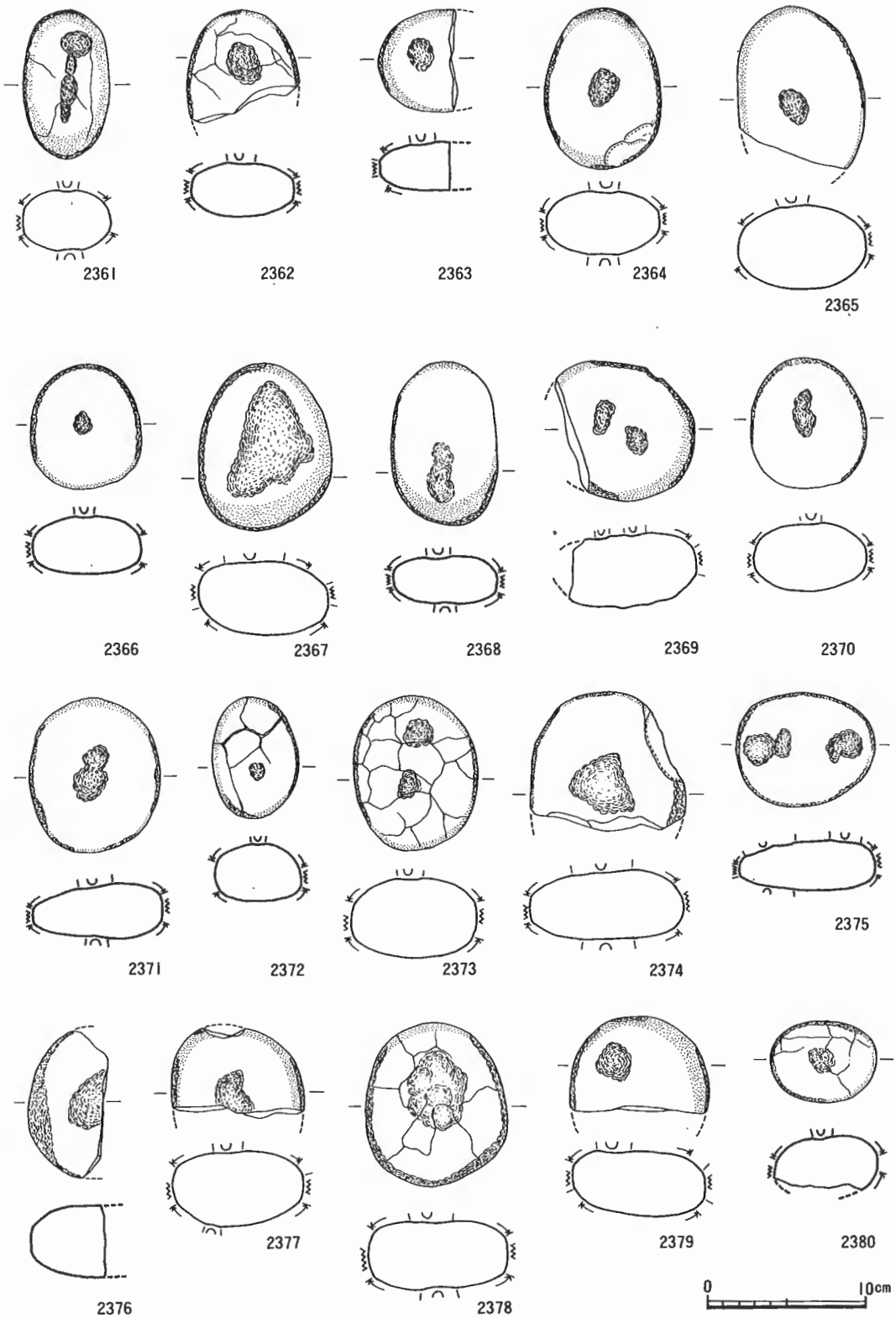
第65表　磨石計測表 ③


2321
2322
2323
2324
2325
2326
2327
2328
2329
2330
2331
2332
2333
2334
2335
2336
2337
2338
2339
2340
0
10cm

第73図　磨石実測図⑥


2341
2342
2343
2344
2345
2346
2347
2348
2349
2350
2351
2352
2353
2354
2355
2356
2357
2358
2359
2360
0
10cm

第74図　磨石実測図⑦

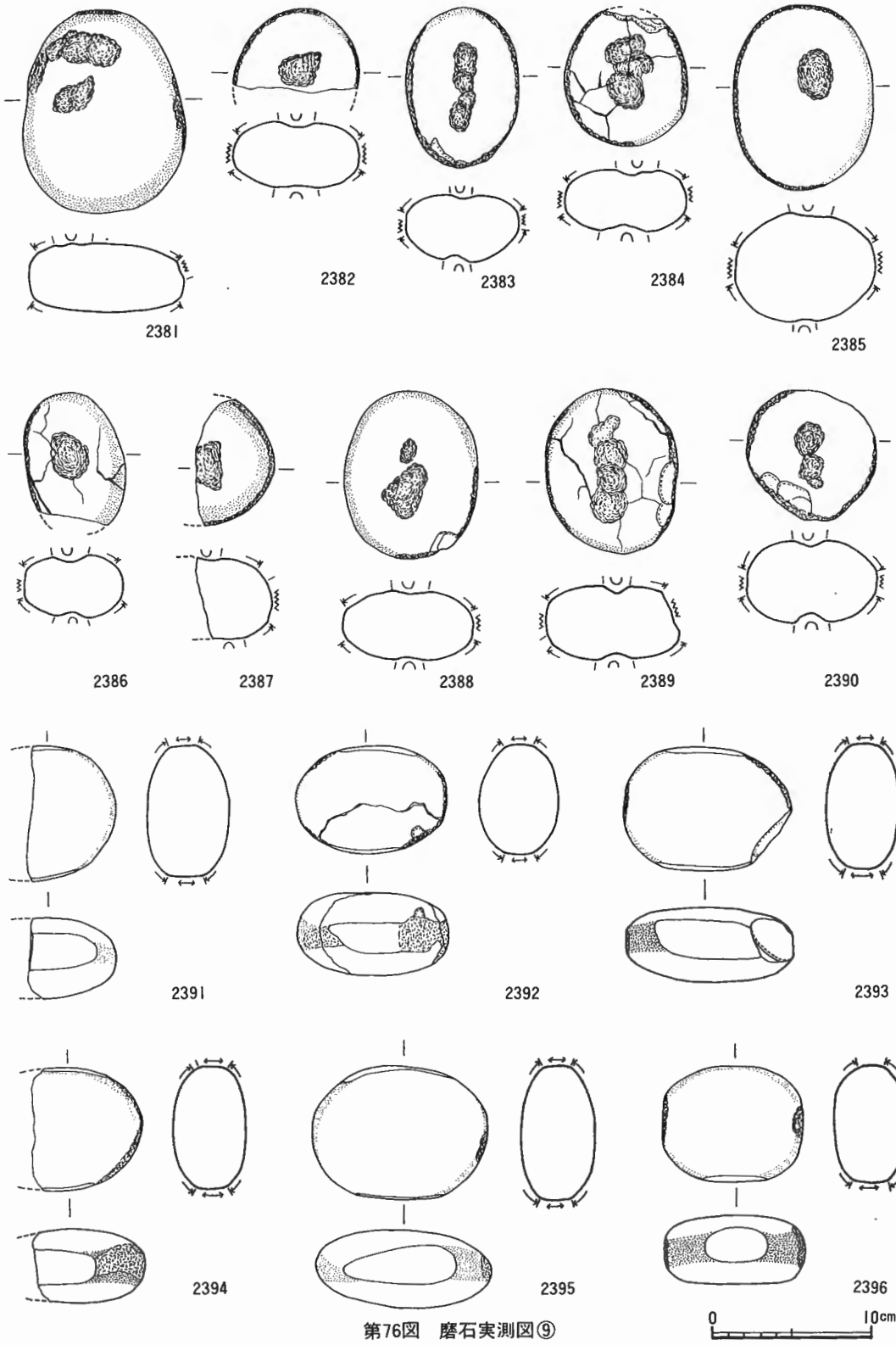

2361
2362
2363
2364
2365
2366
2367
2368
2369
2370
2371
2372
2373
2374
2375
2376
2377
2378
2379
2380
0
10cm

第75図　磨石実測図⑧

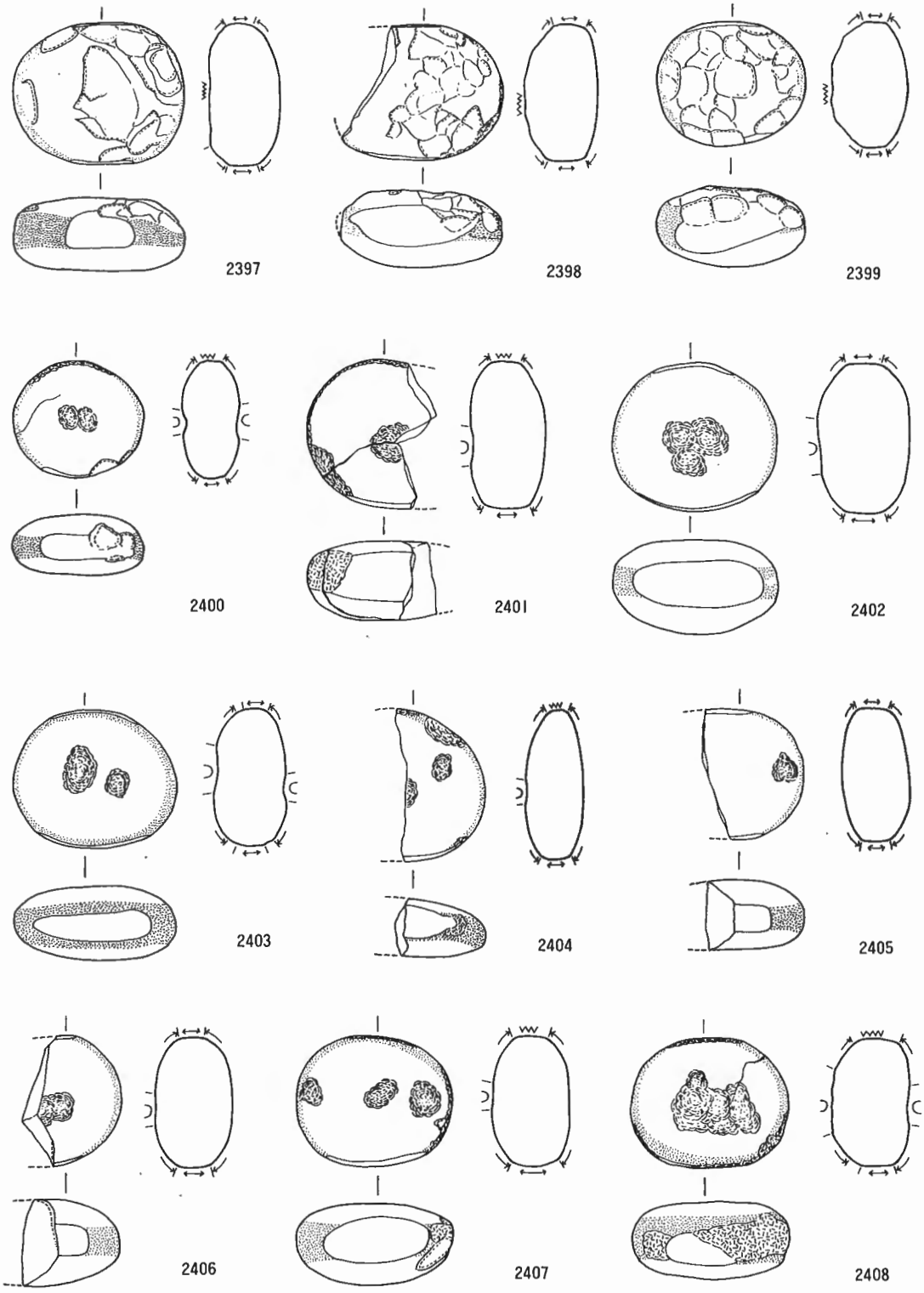
〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
2328	I-a-3	D-11	砂岩	80.20	68.00	45.80	360	完形	66	凹1・表・浅
2329	I-a-3	D-15	安山岩	106.80	(48.00)	44.80	(360)	½存	66	凹2・表裏・浅
2330	I-a-3	D-15	砂岩	(102.45)	76.30	31.60	(225)	¾存	67	凹多・表裏・浅
2331	I-a-3	E-7	礫岩	100.00	84.50	42.45	452	完形(K-12接合)	67	凹6・表裏・浅
2332	I-a-3	E-8	閃緑岩	(96.00)	67.20	41.30	(430)	½存	67	凹4・表裏・浅
2333	I-a-3	E-12	ホルンフェルス	95.00	75.30	45.35	(408)	略完形(F-12接合)	67	凹2・表裏・浅
2334	I-a-3	E-14	砂岩	(54.65)	72.80	33.85	(108)	½存	67	凹2・表(裏不明)・浅
2335	I-a-3	E-14	斑岩	90.20	75.00	41.20	400	完形	67	凹1・表・浅
2336	I-a-3	48炉穴	砂岩	84.40	70.70	35.90	288	完形	67	凹4・表裏・浅
2337	I-a-3	48炉穴	玄武岩	72.20	59.45	46.40	272	完形	67	凹2・表裏・浅
2338	I-a-3	E-18	砂岩	(93.00)	66.80	43.55	(335)	½存	67	凹2・表裏・浅
2339	I-a-3	E-18	砂岩	(105.50)	81.20	40.20	(479)	略完形	67	凹多・表裏・浅
2340	I-a-3	E-19	安山岩	(97.90)	85.10	35.90	(448)	¾存	67	凹多・表・浅
2341	I-a-3	F-8	砂岩	(62.80)	(54.10)	(42.80)	(170)	¼存	67	凹2・表裏・浅
2342	I-a-3	F-9	砂岩	90.75	77.65	37.20	385	完形	67	凹3・表裏・浅
2343	I-a-3	F-13	安山岩	(68.75)	82.20	46.70	(261)	⅔存	67	凹1・表・浅
2344	I-a-3	G-7	安山岩	119.55	(79.10)	31.85	(369)	⅚存	68	凹3・表裏・浅
2345	I-a-3	G-8	礫岩	(93.10)	80.25	37.60	(400)	略完形	68	凹5・表裏・浅
2346	I-a-3	G-12	斑岩	89.55	76.50	56.45	551	完形	68	凹2・表裏・浅
2347	I-a-3	H-12	安山岩	83.10	74.40	46.20	398	完形	68	凹6・表裏・浅
2348	I-a-3	H-16	礫岩	96.35	94.15	50.20	580	完形(J-17接合)	68	凹2・表裏・浅
2349	I-a-3	H-19	礫岩	94.70	(56.90)	49.20	(340)	½存	68	凹2・表裏・浅
2350	I-a-3	I-12	玄武岩	83.90	67.00	37.30	(300)	⅚存	68	凹1・表・浅
2351	I-a-3	I-16	玄武岩	(95.55)	80.00	44.00	(443)	略完形	68	凹5・表裏・浅
2352	I-a-3	I-21	斑岩	95.80	84.40	57.90	648	完形	68	凹1・表・浅
2353	I-a-3	I-25	砂岩	98.50	(73.90)	35.50	(355)	⅔存	68	凹1・表(裏不明)・浅
2354	I-a-3	J-8	礫岩	(88.00)	85.50	44.80	(435)	⅔存	68	凹5・表裏・浅
2355	I-a-3	J-10	玄武岩	65.20	61.60	48.60	262	完形	68	凹1・表・浅
2356	I-a-3	J-12	砂岩	82.80	70.40	40.20	292	完形	69	凹4・表裏・浅
2357	I-a-3	J-12	斑岩	74.15	(47.00)	38.50	(195)	⅓存	69	凹1・表・浅
2358	I-a-3	J-13	礫岩	85.00	71.20	44.20	380	完形	69	凹5・表裏・浅
2359	I-a-3	J-13	砂岩	81.10	75.00	35.60	312	完形	69	凹1・表・浅
2360	I-a-3	J-13	安山岩	85.30	77.70	54.00	498	完形	69	凹2・表裏・浅
2361	I-a-3	J-14	砂岩	92.60	55.40	37.20	270	完形	69	凹6・表裏・浅
2362	I-a-3	J-15	礫岩	(71.30)	72.10	34.10	(158)	½存	69	凹1・表・浅
2363	I-a-3	J-17	砂岩	(50.80)	64.80	31.30	(118)	½存	69	凹1・表・浅
2364	I-a-3	J-17	ホルンフェルス	100.90	74.60	40.20	395	完形	69	凹2・表裏・浅
2365	I-a-3	J-18	安山岩	(100.40)	82.00	52.10	(640)	⅔存	69	凹1・表・浅
2366	I-a-3	J-19	凝灰岩	78.10	69.50	35.90	305	完形	69	凹1・表・浅
2367	I-a-3	J-23	砂岩	105.00	85.70	46.40	670	完形	69	凹2・表裏・浅
2368	I-a-3	J-23	砂岩	100.80	67.10	29.40	290	完形(J-25接合)	69	凹4・表裏・浅
2369	I-a-3	K-6	輝緑岩	(89.00)	88.00	47.00	(495)	¼存	69	凹2・表・浅
2370	I-a-3	K-12	安山岩	81.20	74.50	41.10	378	完形	70	凹1・表・浅
2371	I-a-3	K-12	砂岩	96.00	82.70	33.70	380	完形	70	凹2・表裏・浅

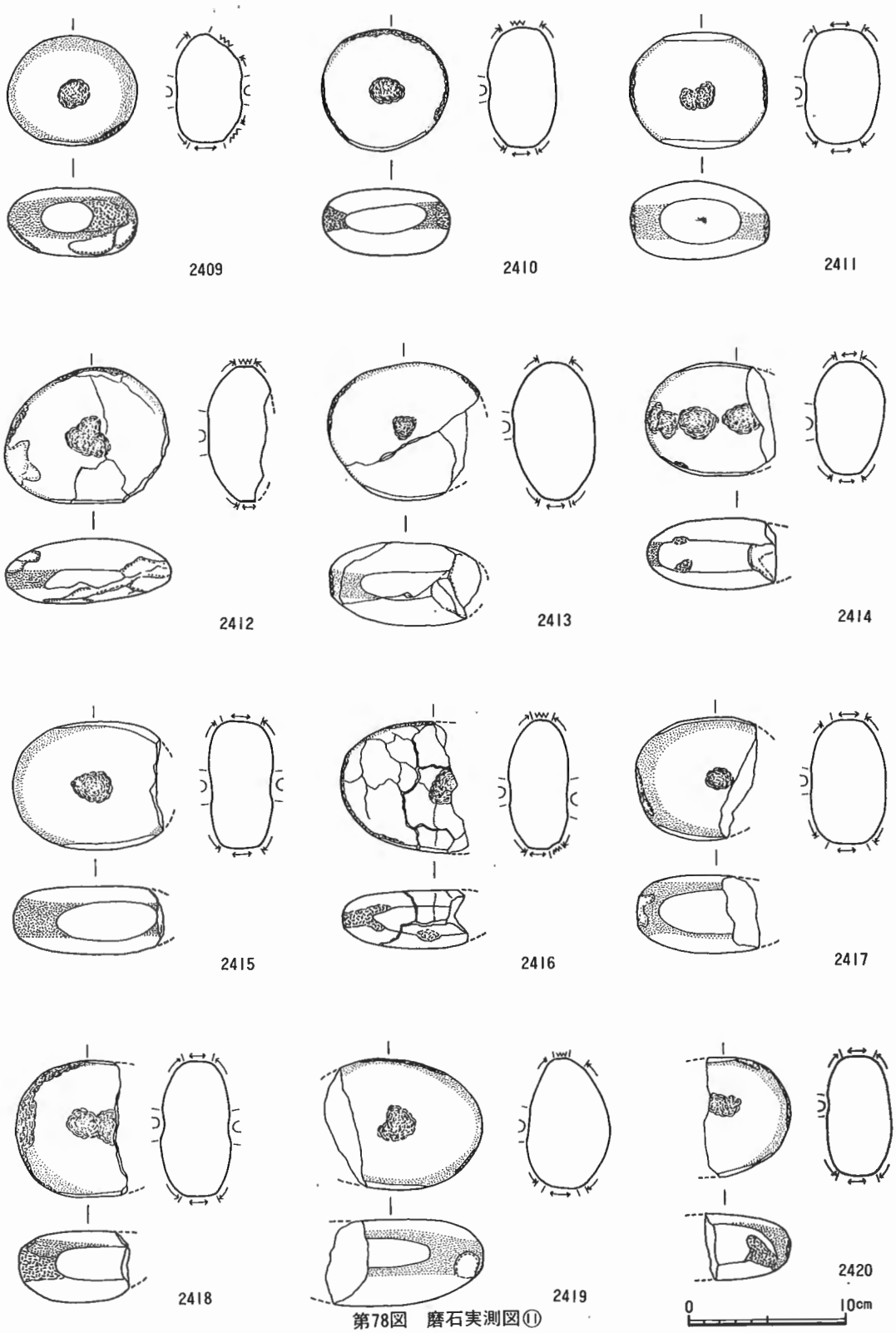
第66表　磨石計測表 ④


2381
2382
2383
2384
2385
2386
2387
2388
2389
2390
2391
2392
2393
2394
2395
2396
0
10cm

第76図　磨石実測図⑨


2397
2398
2399
2400
2401
2402
2403
2404
2405
2406
2407
2408
0
10cm

第77図　磨石実測図⑩

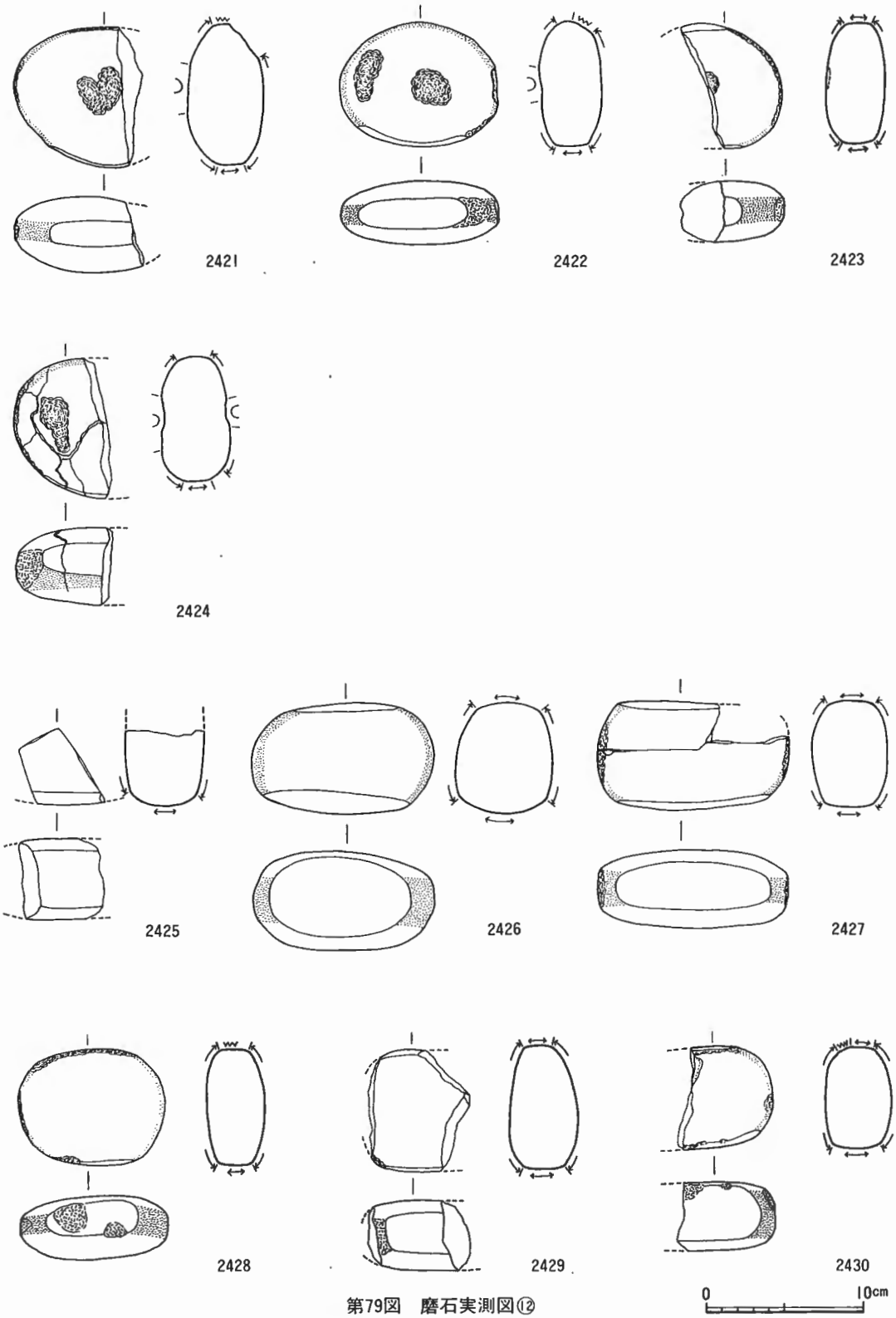

2409
2410
2411
2412
2413
2414
2415
2416
2417
2418
2419
2420
0
10cm

第78図　磨石実測図⑪

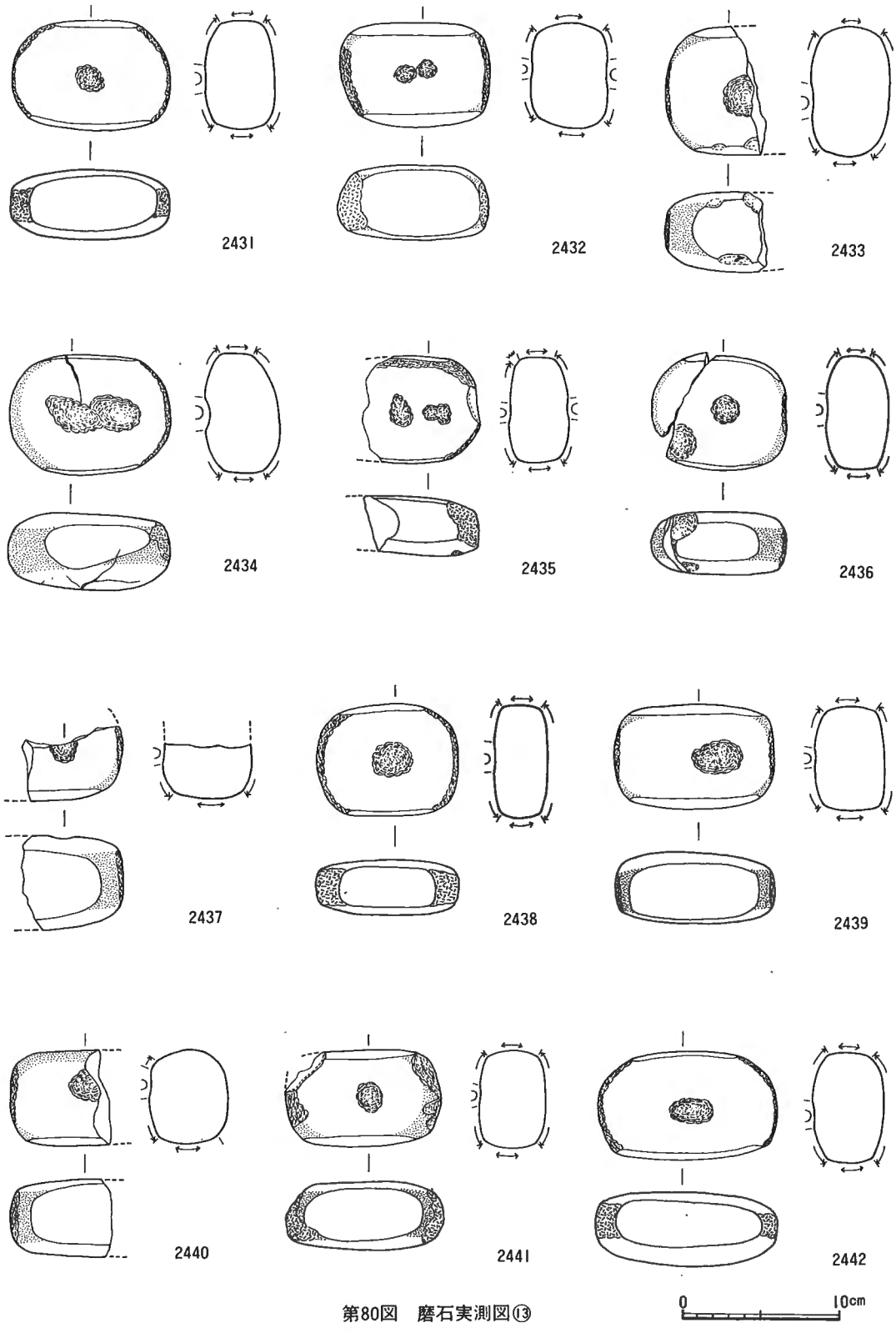
〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2372	I-a-3	K-13	砂　岩	75.10	55.90	36.10	198	完形	70	凹2・表裏・浅
2373	I-a-3	K-13	砂　岩	96.80	78.90	50.10	460	完形	70	凹2・表・浅
2374	I-a-3	K-19	礫　岩	(86.20)	(99.00)	42.50	(530)	⅔存	70	凹2・表裏・浅
2375	I-a-3	K-22	玄武岩	88.00	72.10	31.80	292	完形	70	凹5・表裏・浅
2376	I-a-3	L-13	砂　岩	(90.00)	(48.20)	45.00	(235)	⅓存	70	凹1・表(裏不明)・浅
2377	I-a-3	M-20	花崗岩	(54.75)	84.30	47.40	(300)	⅓存	70	凹2・表裏・浅
2378	I-a-3	M-21	玄武岩	101.85	90.00	43.50	546	完形	70	凹2・表裏・浅
2379	I-a-3	M-21	玄武岩	89.85	(59.70)	40.20	(330)	½存	70	凹1・表・浅
2380	I-a-3	N-21	砂　岩	66.80	51.10	(33.30)	(128)	¾存	70	凹1・表(裏不明)・浅
2381	I-a-3	N-24	砂　岩	125.70	103.20	42.30	820	完形	70	凹7・表裏・浅
2382	I-a-3	F-18	斑　岩	79.50	(51.60)	40.70	(240)	½存	71	凹2・表裏・深
2383	I-a-3	G-17	安山岩	99.30	71.70	40.75	388	完形	71	凹7・表裏・深
2384	I-a-3	G-19	砂　岩	(82.00)	77.50	37.20	(340)	略完形	71	凹7・表裏・深
2385	I-a-3	I-11	花崗岩	114.30	87.90	67.00	960	完形	71	凹2・表裏・深
2386	I-a-3	J-22	安山岩	(75.30)	62.80	37.60	(240)	⅚存	71	凹2・表裏・深
2387	I-a-3	J-24	砂　岩	(74.50)	(49.00)	(49.00)	(220)	⅓存	71	凹2・表裏・深
2388	I-a-3	K-13	安山岩	103.00	84.00	41.70	(520)	略完形	71	凹4・表裏・深
2389	I-a-3	M-14	砂　岩	100.50	83.60	44.60	470	完形	71	凹4・表裏・極深
2390	I-a-3	N-23	砂　岩	81.60	81.00	50.00	(338)	⅔存	71	凹4・表裏・深
2391	II-a-1	E-12	砂　岩	(50.40)	84.00	47.20	(310)	½存	71	
2392	II-a-2	28住居	玄武岩	96.70	68.30	51.50	478	完形(E-6接合)	71	
2393	II-a-2	F-11	安山岩	(105.80)	77.20	45.90	(590)	略完形	71	
2394	II-a-2	H-7	砂　岩	(68.00)	76.90	46.30	(352)	⅔存	71	
2395	II-a-2	J-13	凝灰岩	110.80	82.80	41.60	612	完形	72	
2396	II-a-2	J-25	ホルンフェルス	89.10	72.00	45.10	418	完形	72	
2397	II-a-2	F-12	凝灰岩	106.60	84.10	45.10	648	完形	72	
2398	II-a-2	I-23	玄武岩	(100.90)	(83.65)	47.30	(552)	¾存	72	
2399	II-a-2	L-12	凝灰岩	94.40	77.30	48.60	507	完形	72	
2400	II-a-3	C-15	安山岩	79.20	70.75	37.65	303	完形	72	凹2・表裏・深
2401	II-a-3	C-17	安山岩	(81.30)	90.70	48.70	(470)	⅔存	72	凹1・表・深
2402	II-a-3	10住居	輝緑岩	103.50	90.30	57.70	800	完形	72	凹1・表・浅
2403	II-a-3	D-14	安山岩	101.40	85.80	46.90	568	完形	72	凹3・表裏・深
2404	II-a-3	E-3	凝灰岩	(93.90)	(58.20)	(35.10)	(224)	⅓存	72	凹1・表(裏不明)・浅
2405	II-a-3	E-10	安山岩	(62.70)	(80.80)	(45.20)	(332)	½存	72	凹1・表・浅
2406	II-a-3	E-12	輝緑岩	79.20	(57.00)	51.50	(310)	½存	72	凹1・表・浅
2407	II-a-3	E-14	安山岩	98.30	81.40	49.60	590	完形	73	凹4・表裏・浅
2408	II-a-3	E-20	砂　岩	98.20	79.80	43.60	540	完形	73	凹4・表裏・浅
2409	II-a-3	G-12	輝緑岩	83.00	70.15	42.00	340	完形	73	凹2・表裏・浅
2410	II-a-3	G-13	安山岩	82.40	76.45	44.10	381	完形	73	凹1・表・浅
2411	II-a-3	H-14	斑　岩	88.80	75.10	48.40	478	完形	73	凹1・表・浅
2412	II-a-3	I-12	砂　岩	107.20	86.80	(39.80)	(460)	¾存	73	凹1・表(裏不明)・浅
2413	II-a-3	I-13	砂　岩	(92.70)	85.50	51.35	(560)	⅚存	73	凹1・表・浅
2414	II-a-3	I-17	砂　岩	(80.40)	70.40	42.40	(360)	⅚存	73	凹5・表裏・浅
2415	II-a-3	J-12	凝灰岩	(91.70)	78.60	39.70	(560)	⅚存	73	凹2・表裏・浅

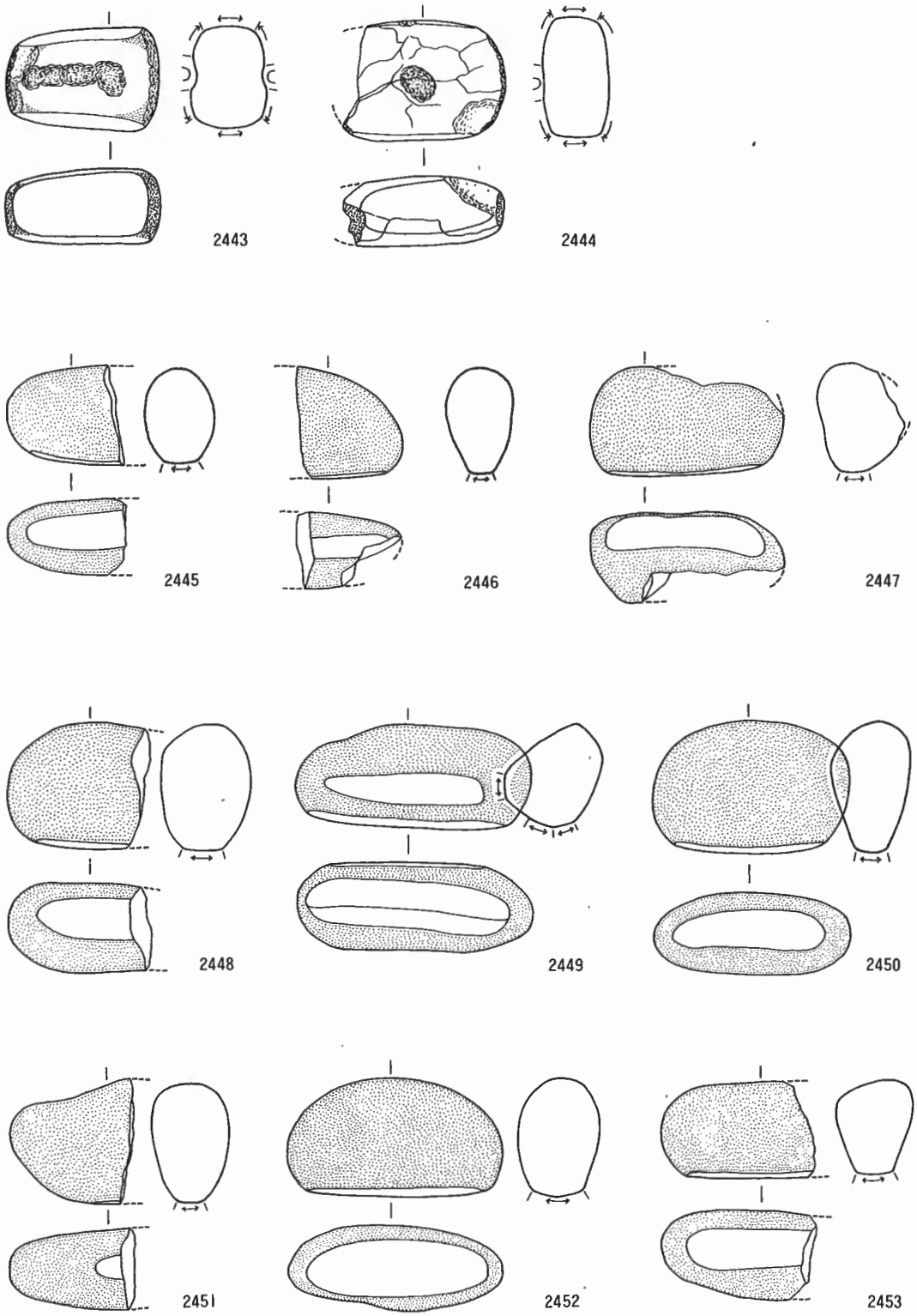
第67表　磨石計測表 ⑤



第79図　磨石実測図⑫


2431
2432
2433
2434
2435
2436
2437
2438
2439
2440
2441
2442
0
10cm

第80図　磨石実測図⑬

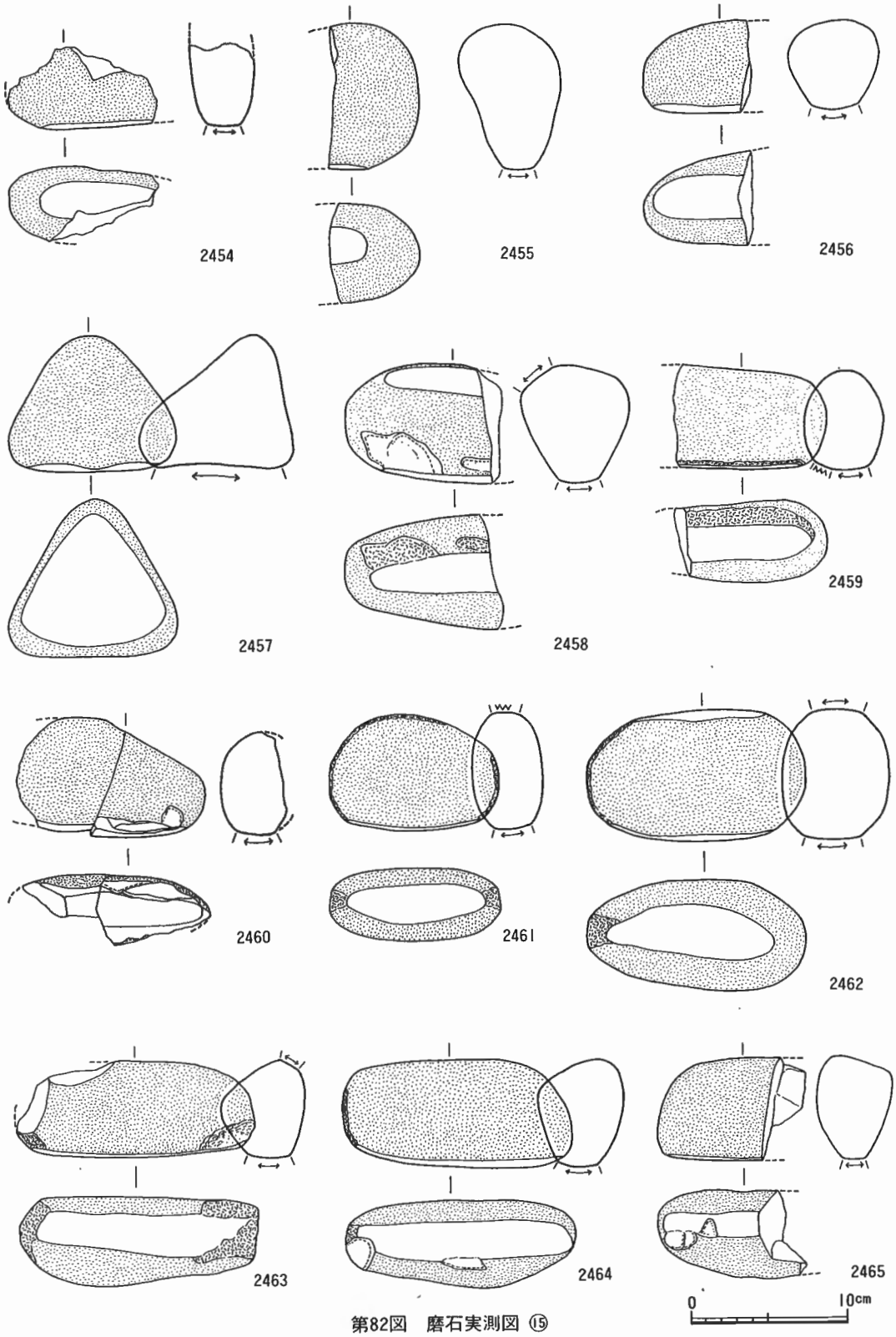


第81図　磨石実測図 ⑭

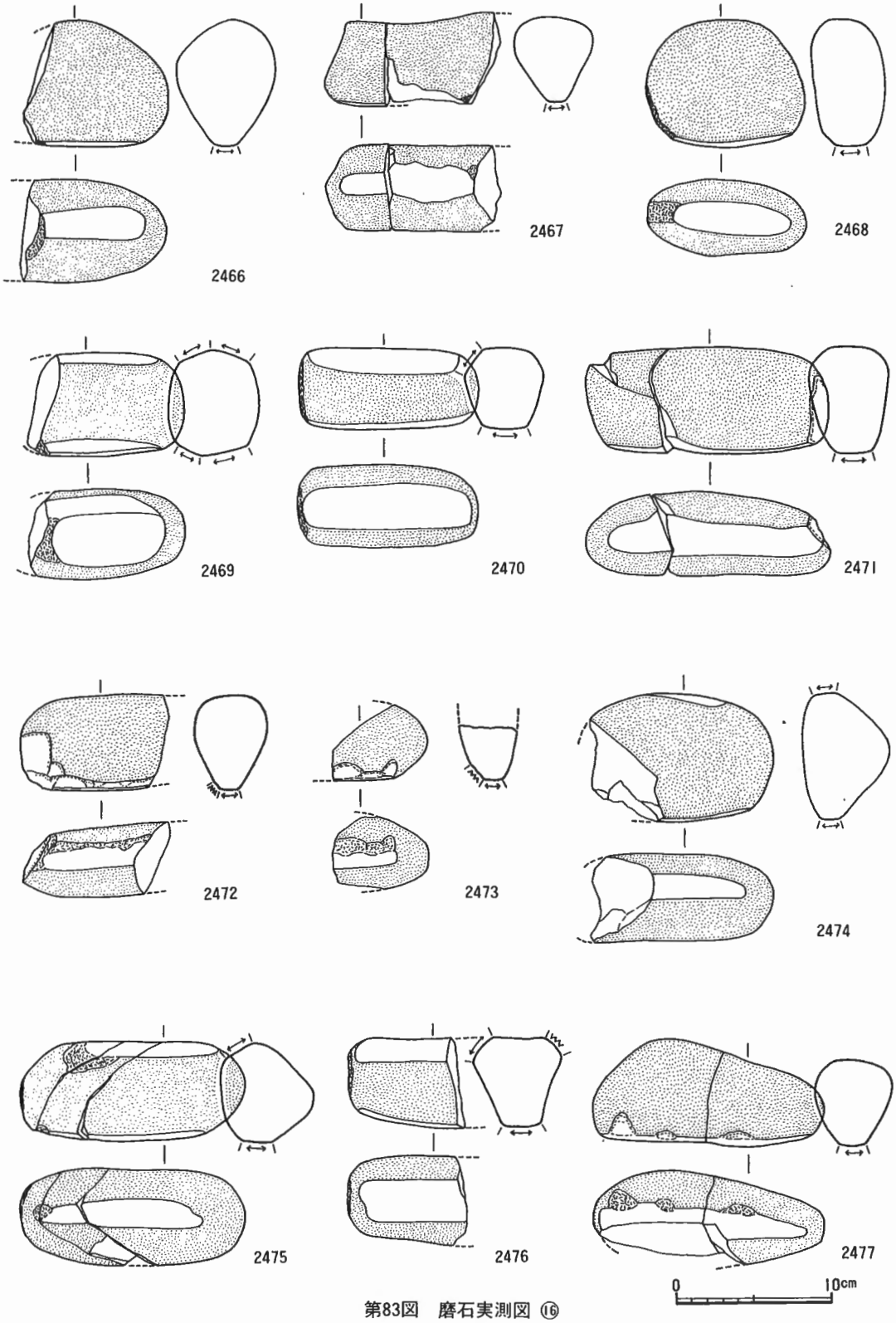
〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
2416	II-a-3	J-23	安山岩	82.00	(74.00)	35.60	(300)	⅔存	73	凹1・表・浅
2417	II-a-3	K-12	凝灰岩	(79.00)	77.50	49.80	(435)	⅔存	73	凹1・表・浅
2418	II-a-3	K-13	砂岩	(65.70)	86.00	44.00	(390)	⅔存	73	凹2・表裏・深
2419	II-a-3	K-24	安山岩	(100.00)	82.20	50.80	(575)	¾存	74	凹1・表・浅
2420	II-a-3	K-25	凝灰岩	75.10	(53.30)	41.80	(236)	½存	74	凹1・表・浅
2421	II-a-3	L-12	ホルンフェルス	(84.70)	88.00	42.00	(440)	½存	74	凹1・表・浅
2422	II-a-3	L-12	礫岩	99.60	76.70	37.70	450	完形	74	凹3・表裏・深
2423	II-a-3	L-23	玄武岩	(84.00)	67.35	34.70	(247)	½存	74	凹1・表(裏不明)・浅
2424	II-a-3	M-23	礫岩	(80.45)	81.00	46.15	(326)	⅔存	74	凹2・表裏・深
2425	II-b-1	E-12	凝灰岩	(46.10)	(48.50)	50.60	(158)	⅙存	74	
2426	II-b-1	L-12	斑岩	116.60	70.80	64.20	795	完形	74	
2427	II-b-2	K-12	安山岩	(122.90)	68.80	50.50	(615)	⅚存	74	
2428	II-b-2	H-8	玄武岩	95.40	74.35	39.50	410	完形	74	
2429	II-b-2	1住居	閃緑岩	(64.15)	76.70	45.40	(342)	⅓存	74	
2430	II-b-2	K-14	安山岩	(61.80)	66.00	44.10	(245)	½存	74	
2431	II-b-3	C-18	凝灰岩	101.50	69.40	44.80	550	完形	75	凹1・表・浅
2432	II-b-3	D-10	花崗岩	96.10	67.50	47.70	550	完形	75	凹2・表裏・浅
2433	II-b-3	E-5	玄武岩	(64.45)	(81.35)	(50.10)	(400)	½存	75	凹2・表裏・浅
2434	II-b-3	E-16	砂岩	140.10	76.20	47.40	505	完形	75	凹3・表裏・極深
2435	II-b-3	E-11	閃緑岩	(75.40)	67.50	37.20	(320)	¾存	75	凹4・表裏・浅
2436	II-b-3	F-15	斑岩	85.60	74.10	38.60	(362)	略完形(H-11接合)	75	凹2・表裏・浅
2437	II-b-3	G-14	安山岩	(64.70)	(47.80)	(57.20)	(212)	⅙存	75	凹1・表(裏不明)・浅
2438	II-b-3	H-22	凝灰岩	91.30	72.40	34.40	408	完形	75	凹1・表・浅
2439	II-b-3	H-24	砂岩	102.70	66.60	44.50	490	完形	75	凹3・表裏・浅
2440	II-b-3	I-15	安山岩	(65.00)	60.80	50.20	(304)	⅓存	75	凹1・表・浅
2441	II-b-3	25住居	安山岩	100.00	61.30	41.60	460	完形	75	凹1・表・浅
2442	II-b-3	J-7	砂岩	117.00	69.80	45.70	570	完形	75	凹1・表・浅
2443	II-b-3	J-12	砂岩	94.70	64.20	47.80	485	完形	75	凹7・表裏・極深
2444	II-b-3	J-13	砂岩	(102.00)	74.50	41.50	(455)	⅚存	75	凹1・表・浅
2445	II-c-1	H-11	ホルンフェルス	(67.30)	(60.60)	(44.50)	(300)	⅓存	75	
2446	II-c-1	H-16	砂岩	(65.90)	(68.60)	(42.00)	(220)	⅓存	76	
2447	II-c-1	I-11	ホルンフェルス	121.10	66.90	(55.40)	(538)	⅔存	76	
2448	II-c-1	I-12	玄武岩	(88.30)	77.80	55.80	(630)	¾存	76	
2449	II-c-1	I-24	砂岩	147.70	65.30	54.90	790	完形	76	
2450	II-c-1	J-22	安山岩	123.30	82.50	50.10	740	完形	76	
2451	II-c-1	J-23	安山岩	(77.10)	(76.20)	(49.30)	(398)	½存	76	
2452	II-c-1	J-23	輝緑岩	134.70	72.20	51.90	756	完形	76	
2453	II-c-1	J-24	ホルンフェルス	(97.00)	61.20	52.10	(432)	⅔存	76	
2454	II-c-1	K-22	安山岩	(95.50)	(51.60)	(43.00)	(200)	¼存	76	
2455	II-c-1	K-24	安山岩	92.20	(54.70)	62.00	(410)	½存	76	
2456	II-c-1	N-24	花崗岩	(70.20)	59.20	58.50	(322)	⅓存	76	
2457	II-c-1	J-12	砂岩	108.10	85.70	98.40	1010	完形	76	
2458	II-c-2	C-11	安山岩	(101.50)	(76.00)	(68.90)	(685)	⅔存	76	
2459	II-c-2	C-19	安山岩	(97.40)	64.50	51.20	(590)	⅔存	77	

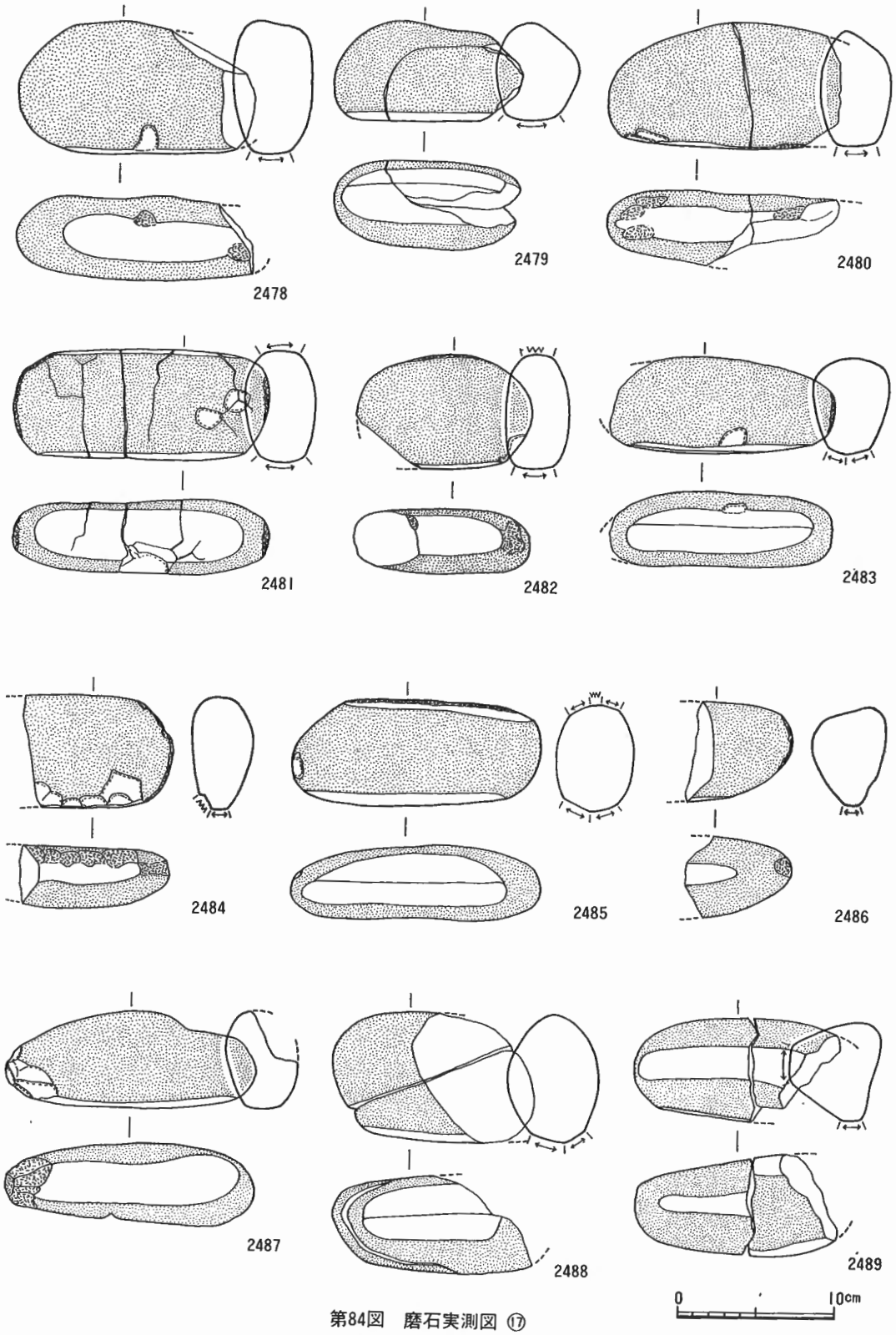
第68表　磨石計測表 ⑥


2454
2455
2456
2457
2458
2459
2460
2461
2462
2463
2464
2465
0
10cm

第82図　磨石実測図 ⑮


2466
2467
2468
2469
2470
2471
2472
2473
2474
2475
2476
2477
0
10cm

第83図　磨石実測図 ⑯

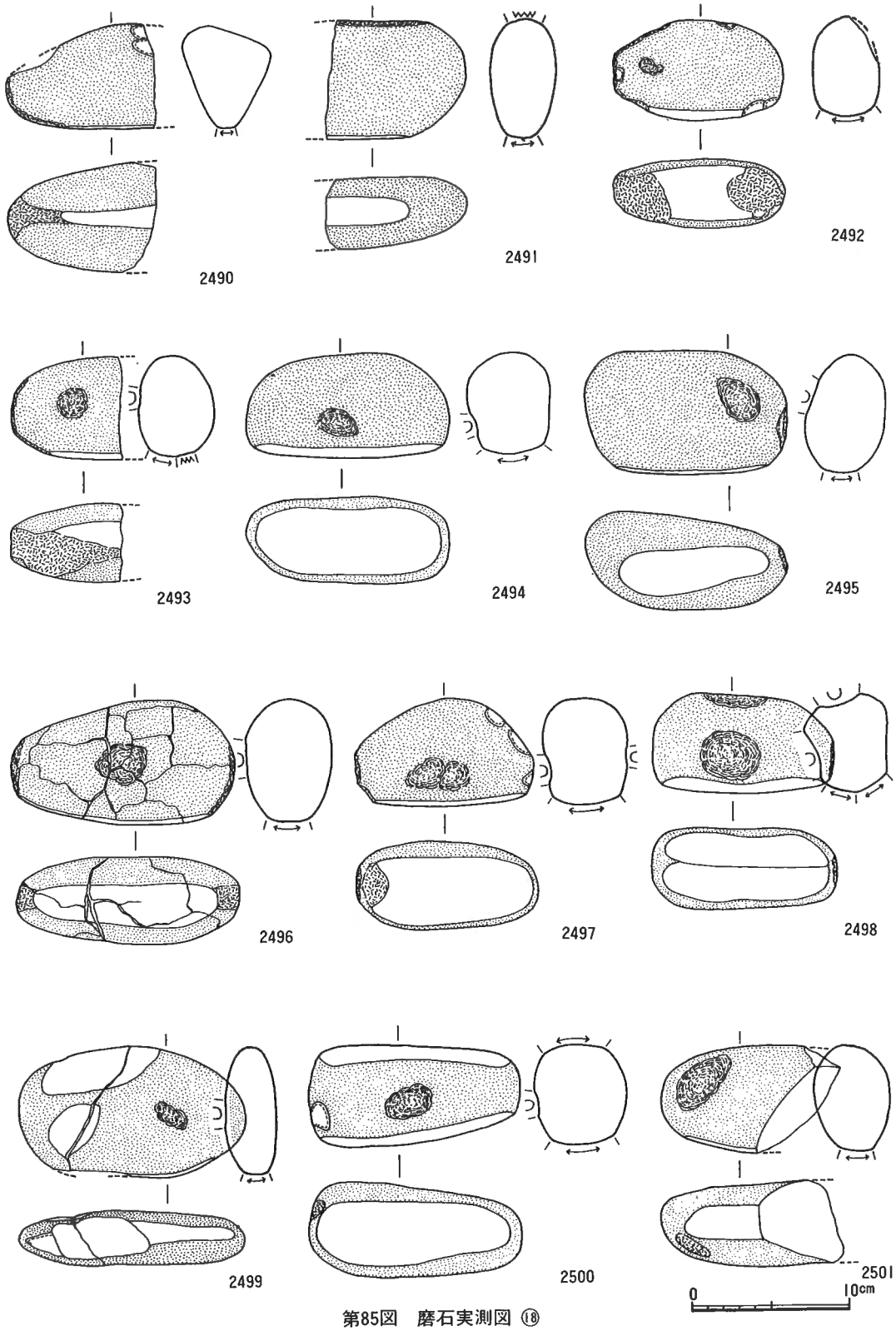

2478
2479
2480
2481
2482
2483
2484
2485
2486
2487
2488
2489
0
10cm

第84図　磨石実測図 ⑰

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2460	II-c-2	E-12	安山岩	(120.50)	(74.60)	41.10	(313)	½存	77	
2461	II-c-2	E-17	安山岩	109.60	73.50	45.00	590	完形	77	
2462	II-c-2	12住居	礫　岩	140.90	83.00	70.00	1170	完形	77	
2463	II-c-2	E-19	砂　岩	(152.60)	61.60	54.30	(690)	略完形	77	
2464	II-c-2	E-19	玄武岩	146.60	69.50	57.00	830	完形	77	
2465	II-c-2	F-21	安山岩	(96.00)	64.25	50.00	(400)	½存	77	
2466	II-c-2	F-22	砂　岩	(92.90)	(80.80)	(65.00)	(640)	⅔存	77	
2467	II-c-2	G-18	安山岩	(113.80)	58.60	52.20	(520)	⅔存	77	
2468	II-c-2	H-11	安山岩	102.00	81.40	47.30	600	完形	77	
2469	II-c-2	H-23	斑　岩	(96.80)	65.90	56.40	(610)	¾存	77	
2470	II-c-2	I-12	玄武岩	116.20	56.90	52.00	550	完形	78	
2471	II-c-2	I-13	礫　岩	158.10	67.00	52.20	(840)	略（J-13・K-12接合）完形	78	
2472	II-c-2	I-16	砂　岩	(95.50)	(61.00)	(48.00)	(350)	⅜存	78	
2473	II-c-2	I-17	砂　岩	(61.80)	(46.80)	(39.30)	(130)	¼存	78	
2474	II-c-2	I-20	礫　岩	(117.20)	(81.50)	(54.70)	(660)	¾存	78	
2475	II-c-2	J-12	砂　岩	144.20	65.00	60.00	(780)	略完形(M-14接合)	78	
2476	II-c-2	J-12	玄武岩	(76.60)	57.90	56.10	(348)	½存	78	
2477	II-c-2	J-14	砂　岩	149.15	(62.40)	(51.90)	(640)	¾存	78	
2478	II-c-2	21住居	礫　岩	(152.15)	84.55	55.00	(1052)	略完形	78	
2479	II-c-2	J-22	花崗岩	(120.10)	64.20	52.50	(578)	略完形	78	
2480	II-c-2	J-23	砂　岩	(152.50)	79.00	46.80	(680)	⅙存(J-24接合)	78	
2481	II-c-2	表採	玄武岩	164.50	70.70	47.50	(870)	略完形	79	
2482	II-c-2	K-13	砂　岩	(113.20)	73.50	42.00	(480)	略完形	79	
2483	II-c-2	K-22	砂　岩	(142.80)	61.30	49.20	(660)	略完形	79	
2484	II-c-2	K-22	砂　岩	(96.30)	71.70	40.20	(390)	¾存	79	
2485	II-c-2	K-25	砂　岩	160.50	66.30	48.60	795	完形	79	
2486	II-c-2	K-26	砂　岩	(69.50)	(63.20)	(49.00)	(210)	⅓存	79	
2487	II-c-2	L-23	安山岩	159.90	61.50	(47.00)	(620)	⅚存	79	
2488	II-c-2	M-13	砂　岩	(128.70)	(81.80)	(58.00)	(750)	¾存	79	
2489	II-c-2	M-23	安山岩	(130.00)	65.10	(55.10)	(515)	⅜存	79	
2490	II-c-2	N-20	砂　岩	(96.00)	66.50	58.00	(420)	⅔存	79	
2491	II-c-2	表採	安山岩	(89.30)	75.70	42.50	(472)	⅜存	80	
2492	II-c-3	D-11	安山岩	109.20	63.10	44.10	(402)	略完形	80	凹1・表・浅
2493	II-c-3	D-13	閃緑岩	(70.30)	65.70	49.20	(350)	½存	80	凹1・表・深
2494	II-c-3	F-8	安山岩	130.10	65.80	55.20	752	完形	80	凹1・表・深
2495	II-c-3	G-12	砂　岩	129.90	78.80	63.80	998	完形	80	凹1・表・浅
2496	II-c-3	H-12	砂　岩	144.60	77.80	55.00	760	完形	80	凹1・表・浅
2497	II-c-3	I-10	礫　岩	114.80	67.60	55.70	640	完形	80	凹4・表裏・極深
2498	II-c-3	I-12	玄武岩	117.50	62.80	54.00	550	完形	80	凹2・表・極深
2499	II-c-3	I-12	砂　岩	145.30	82.20	34.40	552	完形(K-14接合)	80	凹1・表・浅
2500	II-c-3	J-12	安山岩	136.00	64.50	58.90	850	完形	80	凹1・表・浅
2501	II-c-3	J-18	砂　岩	(116.10)	(67.00)	(50.60)	(540)	⅜存	80	凹2・表裏・浅

第69表　磨石計測表 ⑦


2490
2491
2492
2493
2494
2495
2496
2497
2498
2499
2500
2501
0
10cm

第85図　磨石実測図 ⑱

5．敲　石

本調査によって得た敲石は36点である。磨石に併用される例が圧倒して、『磨痕・凹み・敲打痕を持つ石』等，特定の名称をつけない傾向にある。しかし，本項にあげる例は明らかに磨耗痕をもたないもので，磨石と対比して敲石を踏襲する。磨石併用例を抽出すると219点が加えられる。これらは使用面の状況から2類される。

Ⅰ類　柔く細い，継続的な敲打がなされるものである。

a種（2502・2505・2507・2511）

円形，もしくは略円形の自然礫を素材として，側辺を敲打される。敲打痕は全周することはない。断面は比較的偏平となり，打面巾を狭くもっている。機能的には磨石Ⅰ類a－2種に類することが予想される。

これに属するものは4点が認められる。2511が敲打による小規模の欠損をみる他は完形例にちかい。

石材は砂岩2点，礫岩1点，斑岩1点である。

法量は平均値で長さ81.15㎜・巾74.20㎜・厚さ30.80㎜・重さ224ｇを示し，磨石Ⅰ類に比してひとまわり小形である。

b種（2503・2504・2506・2508～2510）

略長円形の自然礫を素材として，長軸側辺を敲打される。両辺例は2508のみで他は全て片辺例である。断面形は個定化された形状はなく，a種同様に打面巾を狭く保つことに主眼をおいた選材がなされるようである。機能的には狭く，長い平坦な機能面をもって磨石Ⅱ類b・c種等に類することが予想されるが，打面巾が特に狭く線状を呈することに特徴をもって若干の性格の差が窺える。

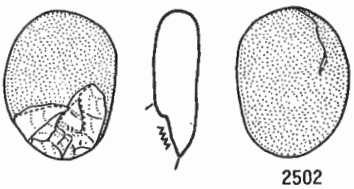
これに属するものは6点が認められ，うち完形品は4点である。欠損品はいずれも打面に対して中央部より直角に折れる。

石材は安山岩3点，砂岩2点，礫岩1点で，比較的硬質の石材が選材されている。形状，お

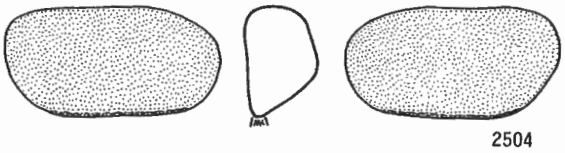
〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

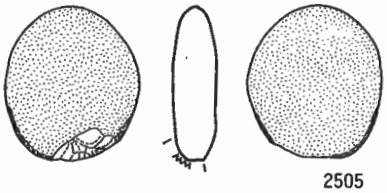
No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2502	Ⅰ-a	E-17	砂　岩	77.10	58.20	23.10	148.0	完形	81	
2503	Ⅰ-b	E-19	砂　岩	(111.40)	63.90	36.60	(352.0)	⅔存	81	
2504	Ⅰ-b	F-18	砂　岩	112.20	59.40	37.20	380.0	完形	81	
2505	Ⅰ-a	F-21	礫　岩	79.70	70.75	23.80	175.0	完形	81	
2506	Ⅰ-b	G-14	安山岩	93.90	58.50	26.80	220.0	完形	81	
2507	Ⅰ-a	H-20	砂　岩	86.60	84.50	37.30	348.0	完形	81	
2508	Ⅰ-b	H-10	安山岩	117.00	60.10	35.80	372.0	完形	81	
2509	Ⅰ-b	H-20	安山岩	83.80	44.60	35.30	148.0	完形	81	
2510	Ⅰ-b	Ⅰ-6	礫　岩	(55.60)	84.50	30.00	(200.0)	⅓存	81	
2511	Ⅰ-a	K-12	斑　岩	(93.50)	83.30	39.00	(490.0)	⅚存	81	

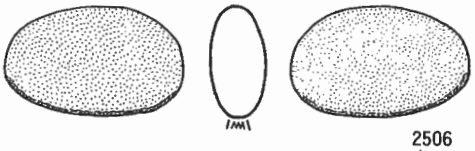
第70表　敲石計測表 ①

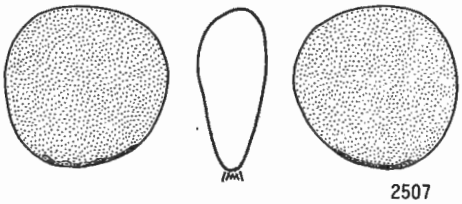

2502

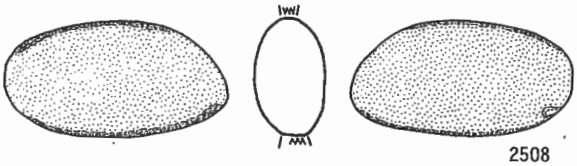
2503


2504

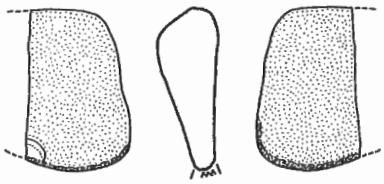

2505

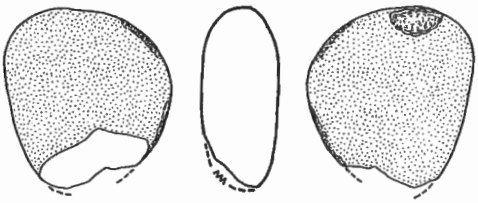

2506

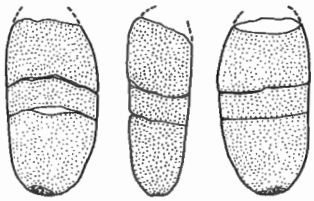

2507

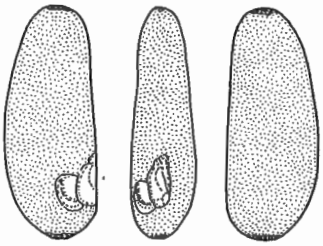

2508

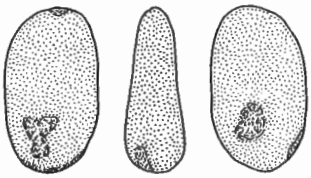
2509


2510


2511


2512


2513


2514

0
10cm

第86図　敲石実測図 ①

よび石材を加味すると，使用当初より磨耗意識はなかったものと思われる。

法量は平均値で長さ 101.70 ㎜・巾 61.75 ㎜・厚さ 33.60 ㎜・重さ 280 g・巾:長さは略 1:1.7 を示す。磨石II類b・c種に比して器厚が極端に薄い状況をみる。

以上のように本類a･b種は敲打の手法は同位でありながら，a種が孤状側辺による『点』的敲打，b種が略平坦状側辺による『線』的敲打による若干の目的の差異も感じられる。また磨石に併用される各機能とも打面巾をもって同様に感ずる。

II類　強く荒い，瞬間的な敲打がなされるものである。

a 種（2512～2527）

比較的器厚をもった略長円形，つまり円柱状にちかい自然礫を素材として，長軸端部を敲打される。上述の分類表現が適切か否か，いわゆる『石槌』的な機能が想定されよう。2516･2517 が特別に大形であって，機能差も窺えるが，器長略 10 ㎝以上をもって分類する。

これに属するものは 16 点が認められ，うち完形品は 14 点である。これには 4 点(2512･2516･2517・2519）の接合資料を含んでおり，2516 を除くと 25～35 mの距離を隔てたものである。

石材は砂岩 8 点，安山岩 4 点，硬砂岩 3 点，閃緑岩 1 点である。新たに硬砂岩を用いる等，石材は増々硬質化してくる。

法量は平均値で長さ 129.25 ㎜・巾 55.80 ㎜・厚さ 38.60 ㎜・重さ 443 g，巾:長さは略 1:2.3 を示す。完全な長身形状となり，磨石II類 b ・ c 種を超えて，完全に敲打を主要機能とした選材がなされている。

また,，長軸両端部以外に側辺，ならびに表・裏面に敲打痕を有する例が目立ち，9 点（2513～2517・2519・2521・2522・2525）が認められる。側辺は長身形状を利した「振子」的な敲打がなされ，表・裏面の敲打痕は磨石に施される凹部と同様である。この凹部は円錐形になめらかに窪む，いわゆる凹石様凹部ではなく，『敲石様･台石様打痕部』である。それが『磨る』行為と併存しない事実は磨石の凹部の有り方を暗示しているかも知れない。

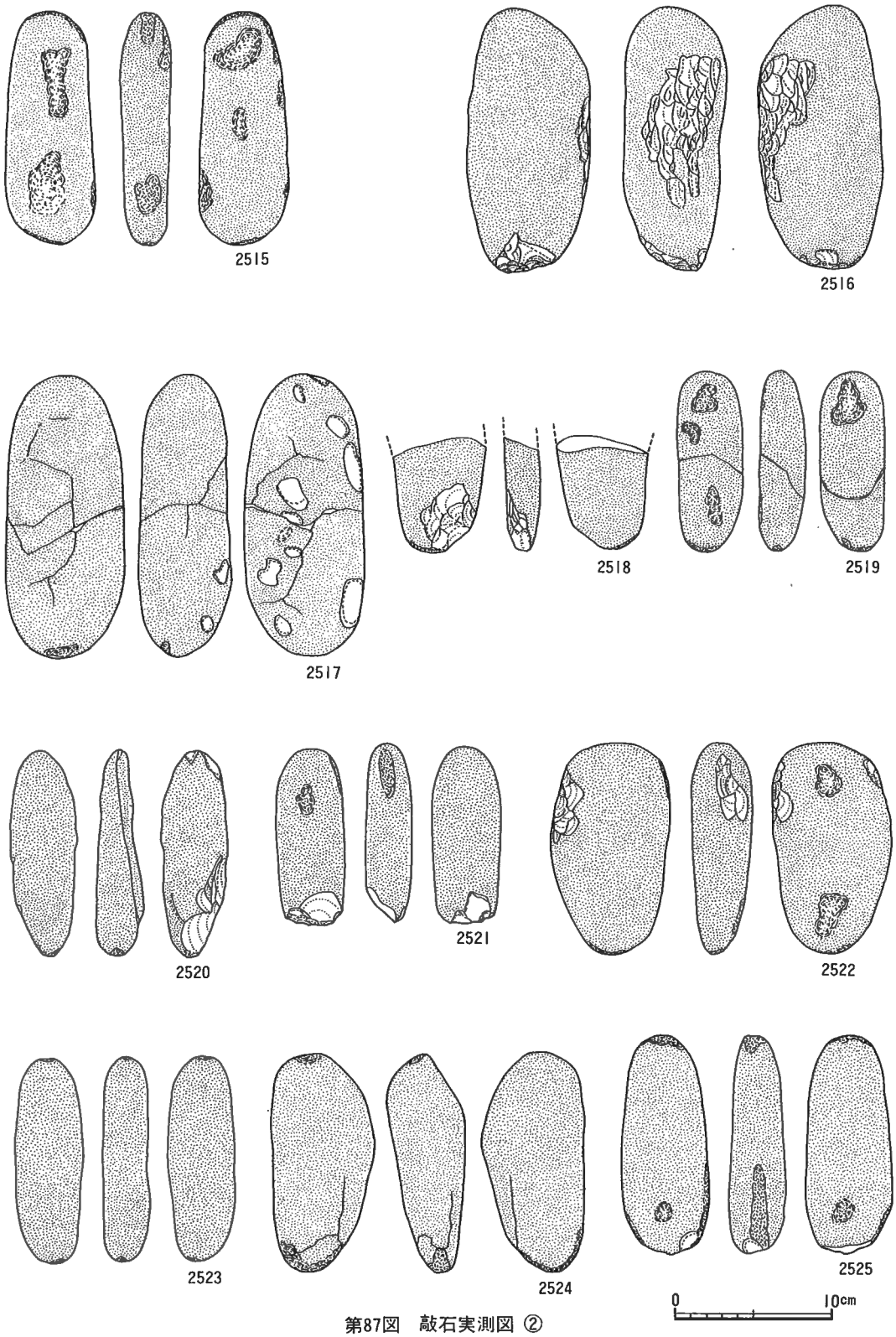
b 種（2528～2537）

平面形状は a 種に準ずるが，器厚が薄く偏平となる，器長略 10 ㎜以下の小形の自然礫を素材としている。長軸端部を敲打される。この敲打痕を刃部とする可能性も指摘されたが，規則性は看取されず本種に扱った。

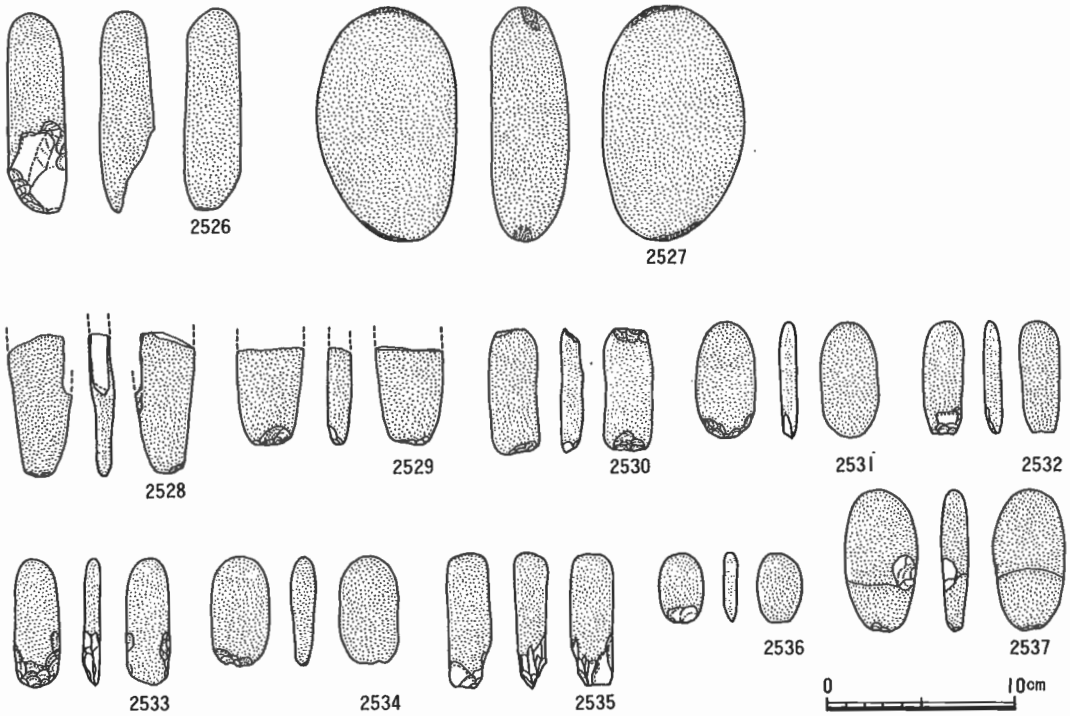
これに属するものは 10 点が認められ，うち完形品は 8 点である。欠損品 2 点はいずれも石材中央より直角に折れる 2 分の 1 残存資料である。側辺を敲打されたものではない。

石材は硬砂岩 5 点，砂岩 2 点，凝灰岩 2 点，ホルンフェルス 1 点である。硬砂岩の使用が極立ち，硬質化して石斧的な石材構成をなす。

法量は平均値で長さ 62.00 ㎜・巾 27.90 ㎜・厚さ 12.40 ㎜・重さ 31 g，巾:長さは略 1:2.2 を示す。非常に小形であることに特徴をもつ。直接的な石器でなく，間接的な，つまり『箭(や)･鏨(たがね)』的な使用も想定される。



第87図　敲石実測図 ②



第88図　敲石実測図 ③

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2512	II-a	C-17	砂　岩	(93.85)	48.70	34.50	(214.0)	¾存（C-18・I-15接合）	81	
2513	II-a	C-19	砂　岩	119.50	48.40	32.80	260.0	完形	81	
2514	II-a	D-18	安山岩	86.30	51.30	32.50	198.0	完形	81	
2515	II-a	F-13	安山岩	144.50	56.75	33.00	413.0	完形	82	
2516	II-a	4住居	硬砂岩	164.80	79.80	66.85	1163.0	完形	82	
2517	II-a	H-14	安山岩	177.25	76.45	58.80	1190.0	完形（L-12接合）	82	
2518	II-a	H-18	砂　岩	(71.80)	(58.90)	(21.40)	(125.0)	½存	82	
2519	II-a	I-13	砂　岩	113.25	42.55	30.45	221.0	完形（J-19接合）	82	
2520	II-a	I-24	硬砂岩	129.60	42.85	30.75	188.0	完形	82	
2521	II-a	J-12	砂　岩	112.40	43.60	30.30	210.0	完形	82	
2522	II-a	J-13	砂　岩	130.70	74.50	41.00	540.0	完形	82	
2523	II-a	J-23	閃緑岩	128.20	43.65	30.20	262.0	完形	82	
2524	II-a	K-13	砂　岩	138.25	64.70	49.45	480.0	完形	82	
2525	II-a	K-14	砂　岩	135.10	56.40	35.40	370.0	完形	82	
2526	II-a	M-20	硬砂岩	106.75	32.40	30.00	130.0	完形	82	
2527	II-a	N-23	安山岩	122.85	74.65	42.65	585.0	完形	82	
2528	II-b	D-17	凝灰岩	(74.90)	(32.45)	12.45	(36.0)	½存	83	
2529	II-b	E-18	砂　岩	(51.30)	(36.40)	12.65	(39.0)	½存	83	
2530	II-b	G-8	硬砂岩	66.00	27.15	12.25	34.0	完形	83	
2531	II-b	H-11	硬砂岩	61.45	32.00	9.55	25.0	完形	83	
2532	II-b	I-8	硬砂岩	60.40	21.40	9.90	18.0	完形	83	
2533	II-b	I-8	ホルンフェルス	67.65	23.85	15.00	21.0	完形	83	
2534	II-b	I-9	凝灰岩	57.50	31.60	13.15	34.0	完形	83	
2535	II-b	I-11	硬砂岩	71.10	24.20	17.20	46.0	完形	83	
2536	II-b	K-23	砂　岩	37.00	24.00	8.00	8.0	完形	83	
2537	II-b	K-26	硬砂岩	75.00	39.20	13.85	63.0	完形	83	

第71表　敲石計測表 ②

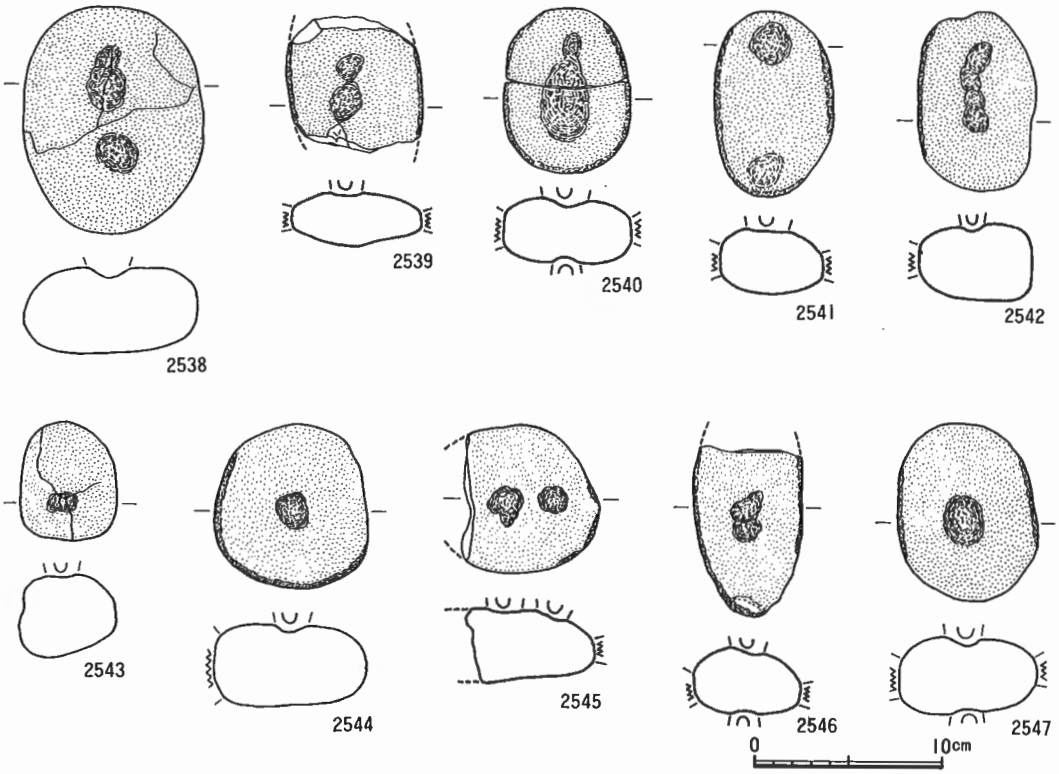
6．凹　石

本調査によって得た凹石は10点（2538～2547）である。敲石同様に磨石併用例が圧倒するが，明らかに磨耗痕をもたないことから凹石を踏襲する。磨石併用例を抽出すると119点が加えられる。

これらの凹部は円錐形になめらかに窪む，いわゆる凹石様凹部を呈するものが尋常で，敲石様・台石様打痕部例は1点（2541）だけである。それは位置的にもずれている。凹部は表面のみに施される例が8点で圧倒し，表裏例（2540・2547）は凹部を極端に深くもっている。側辺には敲打痕を併用する例が8点認められる（2538・2543を除く）。短軸辺に敲打痕を多くみる。3点（2539・2545・2546）が長軸に対して直角に欠損している。形状は『磨る』機能を欠除するためか，不整の円形・長円形で，石材表面も凸凹である場合が多い。

石材は砂岩4点，安山岩3点，礫岩1点，玄武岩1点，ホルンフェルス1点である。石材は磨石より軟質となる。

法量は最大値で長さ119.35㎜・巾95.90㎜・厚さ45.75・重さ712ｇ，最小値で62.40㎜・52.10㎜・28.10㎜・119ｇである。平均値は91.70㎜・70.65㎜・39.20㎜384ｇで，巾:長さは略1:1.3を示し，略円形にちかいが，形状・法量とも規格性をみない。



第89図　凹石実測図

7．石　斧

本調査によって得た石斧は101点である。これらは磨製（局部）と打製の2類される。

Ⅰ類　局部磨製石斧であり，刃部，およびその周辺が研磨されるものである。18点が認められ，形状より2種される。

a種　略長方形，短冊形にちかい形状を呈する。刃部は蛤刃状の円刃となるため，若干丸味を帯び，大半は刃こぼれの状況を示す。16点が認められ，さらに研磨状況等から1・2に細分される。

a－1種（2548～2556）

刃部から基部にかけて入念な研磨をみるが，部分的，さらに側辺部にかけて調整剥離痕の凹部が残る。側辺は敲打によってつぶしがなされ，さらに研磨を施すものもある。

これに属するものは9点が認められ，うち完形品は3点である。2548は接合資料であり，欠損品がとくに目立つ。いずれも基部中央を直交して欠損しており，外力の大きさを物語る。しかも大形品に限られ，自ずから性格の差を示していよう。

石材は頁岩2点，凝灰岩2点，砂岩・安山岩・斑岩・輝緑岩・ホルンフェルス各1点である。固定された選材はなされないが，いずれも硬質な素材が使用され，非常に鋭利となる。

法量は最大値で（以下，全て完形値），長さ68.30㎜・巾51.35㎜・厚さ21.85㎜・重さ70ｇ（以下，法量値は同順に記載），最小値で37.90㎜・32.00㎜・8.10㎜・45ｇである。平均値は57.90㎜・40.55㎜・17.05㎜・57ｇで，巾：長さは略1：1.4を示す。しかし，これは大形品に欠損資料が多いため，法量は頼れない部分が多い。とくに器長であるが，それは復原しても100㎜を越えることはなかろう。

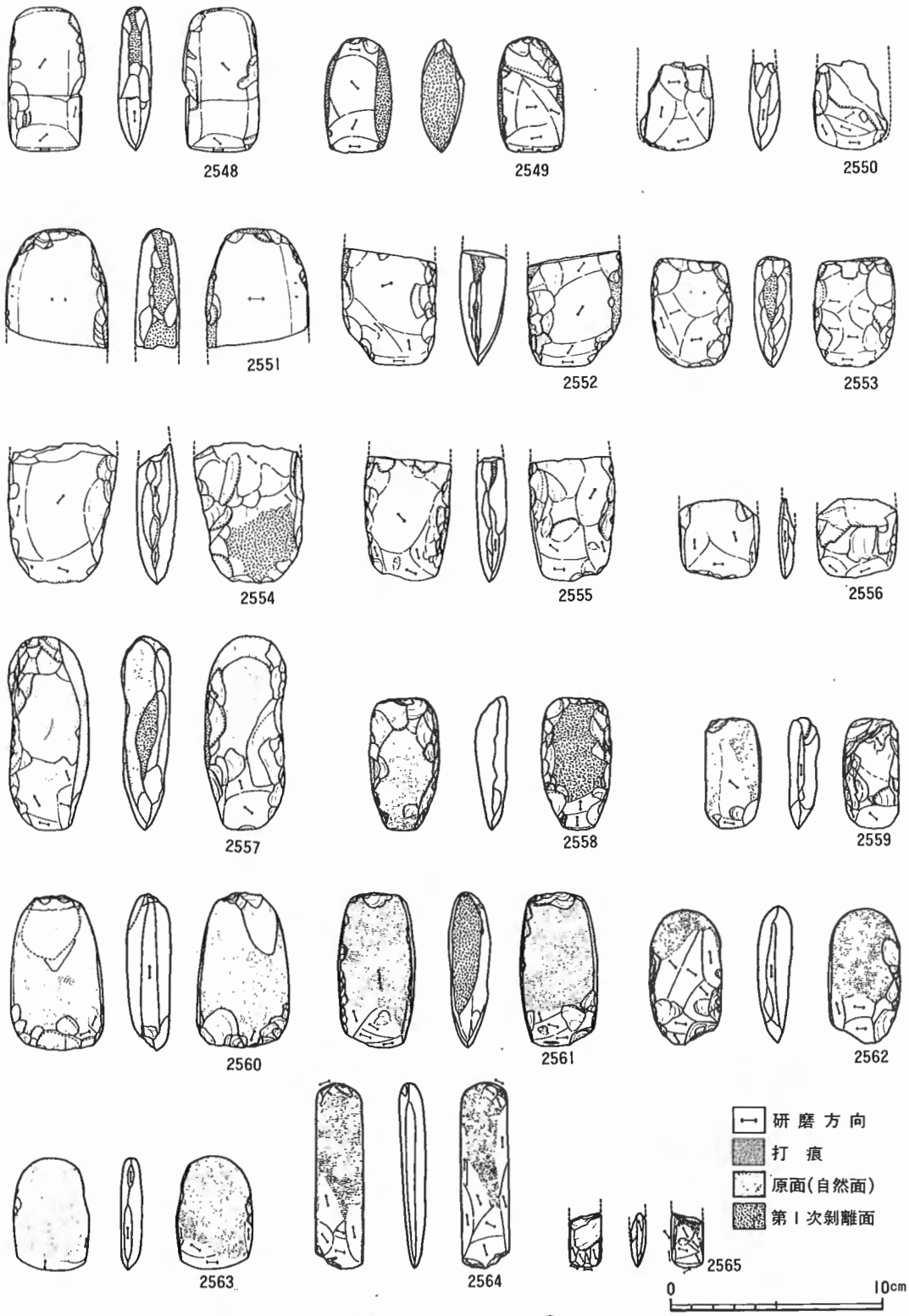
a－2種（2557～2563）

刃部が集中して研磨される。偏平円礫，またはそれにちかい素材に刃部を付すもので，石材

〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2538	―――	D-19	玄武岩	119.35	95.90	45.75	712.0	完　形	83	凹2・表・深
2539	―――	E-7	砂　岩	(72.00)	71.50	28.10	(202.0)	⅔　存	83	凹2・表・深
2540	―――	E-11	砂　岩	87.35	67.00	34.70	272.0	完形(H-11接合)	83	凹4・表裏・極深
2541	―――	F-22	安山岩	97.90	64.00	41.50	370.0	完　形	83	凹2・表・深
2542	―――	H-12	安山岩	94.65	63.80	40.30	311.0	完　形	83	凹4・表・深
2543	―――	J-13	砂　岩	62.40	52.10	44.30	199.0	完　形	83	凹1・表・深
2544	―――	J-25	安山岩	86.00	82.40	43.00	450.0	完　形	83	凹1・表・極深
2545	―――	K-13	砂　岩	(72.90)	78.30	39.20	(332.0)	¾　存	83	凹3・表・深
2546	―――	L-25	礫　岩	(88.70)	57.85	34.05	(236.0)	⅔　存	83	凹3・表・深
2547	―――	N-25	ホルンフェルス	94.30	73.85	41.00	372.0	完　形	83	凹2・表裏・極深

第72表　凹石計測表


2548
2549
2550
2551
2552
2553
2554
2555
2556
2557
2558
2559
2560
2561
2562
2563
2564
2565
研磨方向
打痕
原面(自然面)
第Ⅰ次剝離面
0
10cm

第90図　石斧実測図 ①

原面が大きく残る。刃部には調整剥離痕の凹部も依然として残るが，側辺は敲打によるつぶし後，研磨を施すものが多い。

これに属するものは7点が認められ，2560の接合資料を含めて，全て完形品である。

石材は砂岩5点，硬砂岩・頁岩各1点である。石材は軟質で，研磨に有利な選材がなされる。この状況によって完形依存度がたかいのか，特徴である。

法量は最大値で長さ91.30㎜・巾43.80㎜・厚さ23.20㎜・重さ107ｇ，最小値で52.15㎜・26.50㎜・9.60㎜・24ｇである。平均値は66.95㎜・35.45㎜・16.55㎜・67ｇで，巾：長さは略1：1.9を示す。ａ－1種より全体的に法量が下回り，石材より波及するであろう，研磨・欠損の状況の顕著な差は若干の機能の差も想定せねばならない。

ａ－1・2種とも同様の分布状況をもって，それぞれに特徴はない。以上，ａ種を研磨状況により分類するが，法量を問題とすることも一考であろう。

ｂ種(2564・2565)

極端な長身形状を呈する。刃部は蛤刃状となり，とくに入念な研磨をみて，それは側辺から基端に及ぶ。基部辺に石材原面をみる。資料は2点で，うち1点は刃部上端で欠損する。石材は砂岩・硬砂岩各1点である。

法量は2564に頼って，長さ81.95㎜・巾23.20㎜・厚さ12.45㎜・重さ34.5ｇである。巾：長さは略1：3.5を示す。その形状や，基端の敲打痕から『箭（や）・楔（くさび）』的な使用が想定される。

II類　打製石斧である。83点が認められて，その形状・法量等から3種される。

ａ種(2566～2590)

形状は刃部が円刃気味であるため略短冊形となり，器長は60㎜を越えない超小形の石斧である。石材によって風化作用が激しく、剥離面の観察も明確でないが，造作は丁寧である。とくになかでも小形品に特徴である。大半は両面加工されて両刃例となるが，一部，片面に石材原面，第1次剥離面を残す片刃例をみる。断面形に極端な湾曲例はない。

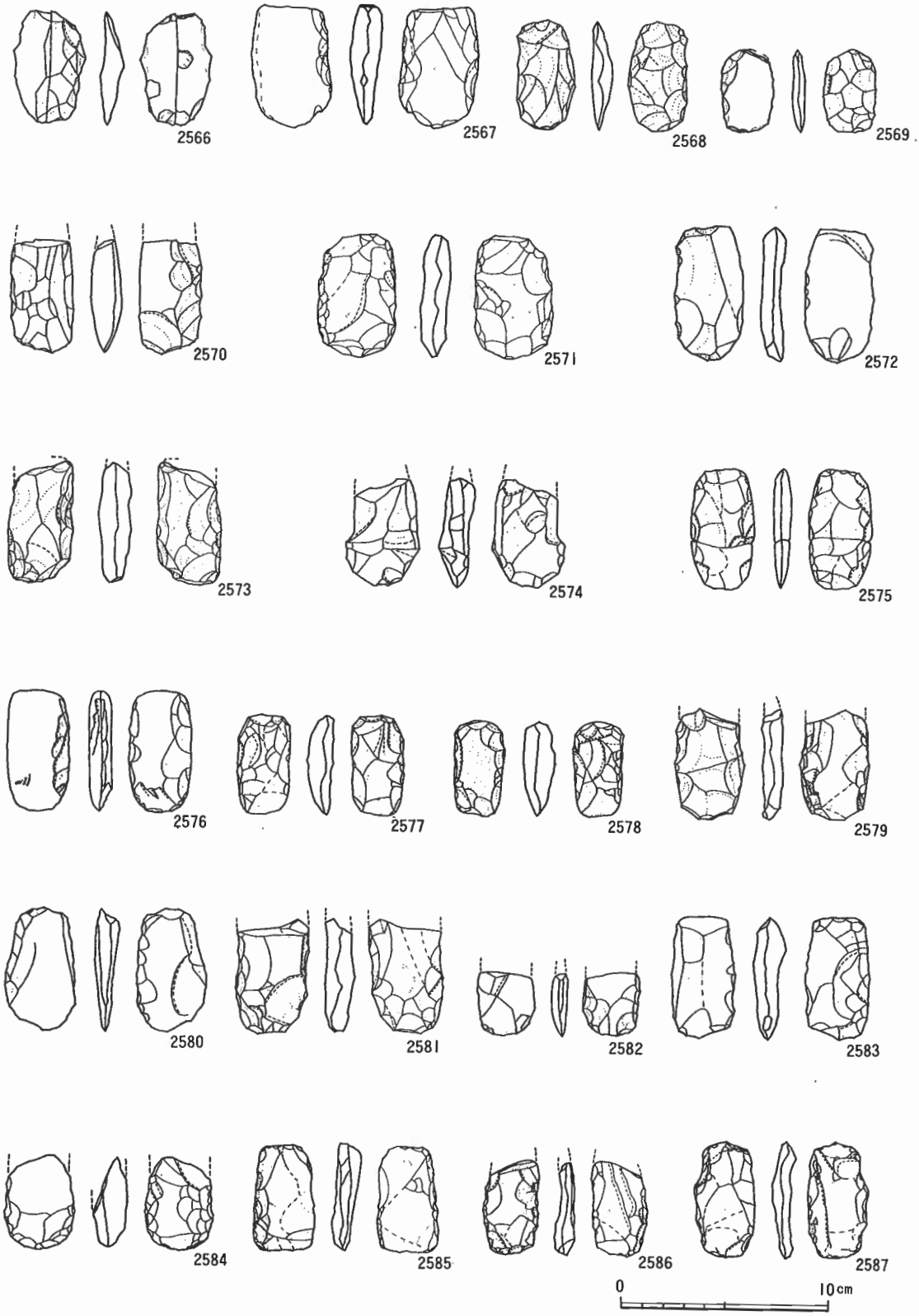
これに属するものは25点が認められ，うち完形品は17点である。完形依存度が比較的たかく，欠損例は基部上端が多い。

石材は頁岩20点，硬砂岩4点，凝灰岩1点である。頁岩・硬砂岩は風化作用によって灰褐色の腐食面を呈する，地域的な特徴を有する。

法量は最大値で長さ64.30㎜・巾37.70㎜・厚さ15.45㎜・重さ37.5ｇ，最小値で39.90㎜・24.50㎜・6.35㎜・11.0ｇである。平均値は52.70㎜・30.95㎜・11.85㎜・22ｇで，巾：長さは略1：1.7を示す。法量的には『箆状石器』の範疇であり，その形状から横斧的な使用が想定される。同様法量をもつ局部磨製石斧の普遍的存在をみる。

なお，2590は表面が風化して明確でないため本類に含めたが，その有り方は局部磨製石斧の分類が可能である。

ｂ種　本遺跡におよそ一般的であるが，器長が100㎜を越えることは稀で，未だに汎縄文時


2566
2567
2568
2569
2570
2571
2572
2573
2574
2575
2576
2577
2578
2579
2580
2581
2582
2583
2584
2585
2586
2587
0
10cm

第91図　石斧実測図　②

代的な打製石斧には及ばないでいる。39点が認められ，さらに形状等から1・2に細分される。

b－1種（2591～2621）

形状は略短冊形である。他種同様，刃部は円刃例が圧倒するため，円味を帯びる。造作は小形品に丁寧で，中～大形品は片面に石材原面，第1次剝離面を残しながら簡易な刃部を付す等，粗雑品が多い。それはおよそ断面形が若干湾曲気味となり片刃例となる。

これに属するものは31点が認められ，うち完形品は22点である。完形依存度は比較的たかい。

石材は頁岩14点，硬砂岩9点，砂岩5点，凝灰岩3点である。前述するように小形品は頁岩・硬砂岩が選材されて，a種にちかい状況をみる。中～大形品は砂岩・凝灰岩の若干軟質な石材によるため脆弱な感じを受ける。

法量は最大値で長さ122.45㎜・巾53.40㎜・厚さ24.70㎜・重さ157.5ｇ，最小値で63.45㎜・32.50㎜・10.50㎜・29.0ｇである。平均値は86.35㎜・42.50㎜・17.55㎜・75ｇで，巾：長さは略1：2.0を示す。器長100㎜を越える例は2点であり，それは一般でない。また平均値を上回る例は2593を除くと，砂岩・硬砂岩製に限られ，再々指摘されるように法量の大小による石材，造作の違いは機能的な差も考えなければならない。

b－2種（2622～2629）

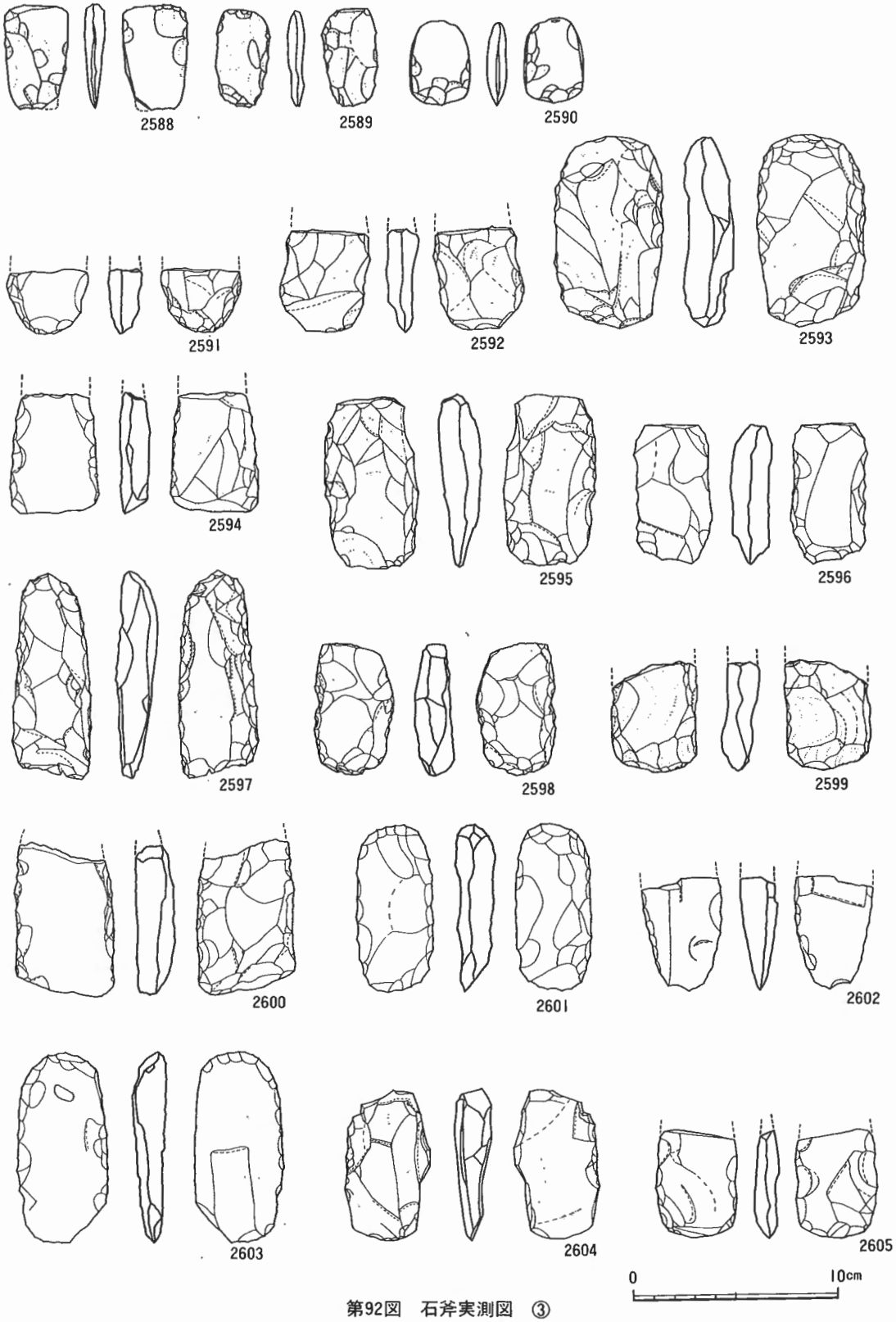
刃部巾と基端巾が明確な差をもって，略撥形の形状を呈するものである。刃部は円刃例が尋常であり，早期に特徴とされる直刃斧，あるいはトランシェ様石器と称されるものとは形態を異にする。また2625は定角式磨製石斧に似るが，自然礫を使用した偶然のものである。

これに属するものは8点が認められ，うち完形品は7点（2626は接合）であり，完形依存度はもっともたかい。しかし，いずれも刃こぼれが目立つ。

〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
2548	I－a－1	M-18	安山岩	68.30	35.75	16.25	70.0	略完形(J-12接合)	84	局部磨製石斧
2549	I－a－1	I－8	ホルンフェルス	53.85	32.00	19.75	45.0	完形	84	局部磨製石斧
2550	I－a－1	D-13	斑岩	(41.70)	(34.75)	14.55	(19.0)	⅓存	84	局部磨製石斧
2551	I－a－1	H-13	輝緑岩	(56.35)	48.30	21.25	(98.0)	½存	84	局部磨製石斧
2552	I－a－1	J－7	砂岩	(55.00)	40.00	21.85	(74.0)	½存	84	局部磨製石斧
2553	I－a－1	I－22	頁岩	51.50	38.45	17.80	57.0	完形	84	局部磨製石斧
2554	I－a－1	D-19	凝灰岩	(66.50)	51.35	19.10	(90.0)	⅔存	84	局部磨製石斧
2555	I－a－1	E-19	凝灰岩	(58.45)	40.60	14.75	(48.0)	⅔存	84	局部磨製石斧
2556	I－a－1	G-13	頁岩	(37.90)	38.10	8.10	(14.5)	½存	84	局部磨製石斧
2557	I－a－2	J-23	砂岩	91.30	37.90	23.20	107.0	完形	84	局部磨製石斧
2558	I－a－2	G-20	頁岩	62.55	33.20	15.10	38.0	完形	84	局部磨製石斧
2559	I－a－2	G－8	硬砂岩	52.15	26.50	9.60	25.0	完形	84	局部磨製石斧
2560	I－a－2	I－8	砂岩	73.15	43.80	21.15	108.0	完形(G-13接合)	84	局部磨製石斧
2561	I－a－2	I－8	砂岩	72.75	36.60	19.85	86.0	完形	84	局部磨製石斧

第73表　石斧計測表 ①


2588
2589
2590
2591
2592
2593
2594
2595
2596
2597
2598
2599
2600
2601
2602
2603
2604
2605
0
10cm

第92図　石斧実測図　③

石材は硬砂岩3点，頁岩2点，砂岩・凝灰岩・ホルンフェルス各1点である。頁岩の使用頻度が減り，硬砂岩が増す。それらは若干造作が粗雑となる。

法量は最大値で長さ123.15㎜・巾51.10㎜・厚さ27.65㎜・重さ107.5ｇ，最小値で63.65㎜・34.75㎜・12.35㎜・37.0ｇである。平均値は82.75㎜・43.35㎜・19.50㎜・61.5ｇで，巾：長さは略1：1.9を示す。最大値の多くは2623に表われるため，各数値の上昇を生むが，実際は小形の部類に属して，頁岩製はとくに小形となって他種同様の傾向をみる。

c種（2630～2648）

石材原面，および第1次剝離面を大きく残す，粗製の打製石斧である。2630が自然礫に刃部を付して礫石斧の範疇にあるが，他は大形剝片に側面より粗雑な調整加工が施されるため，剝離痕が片面に限られる場合が多い。

これに属するものは19点が認められ，うち完形品は13点である。

石材は頁岩13点，硬砂岩6点で，他の粗製大形石器とともに両石材に限定される特徴をもつ。したがって機能的にもそれに準じた用途が想定される。

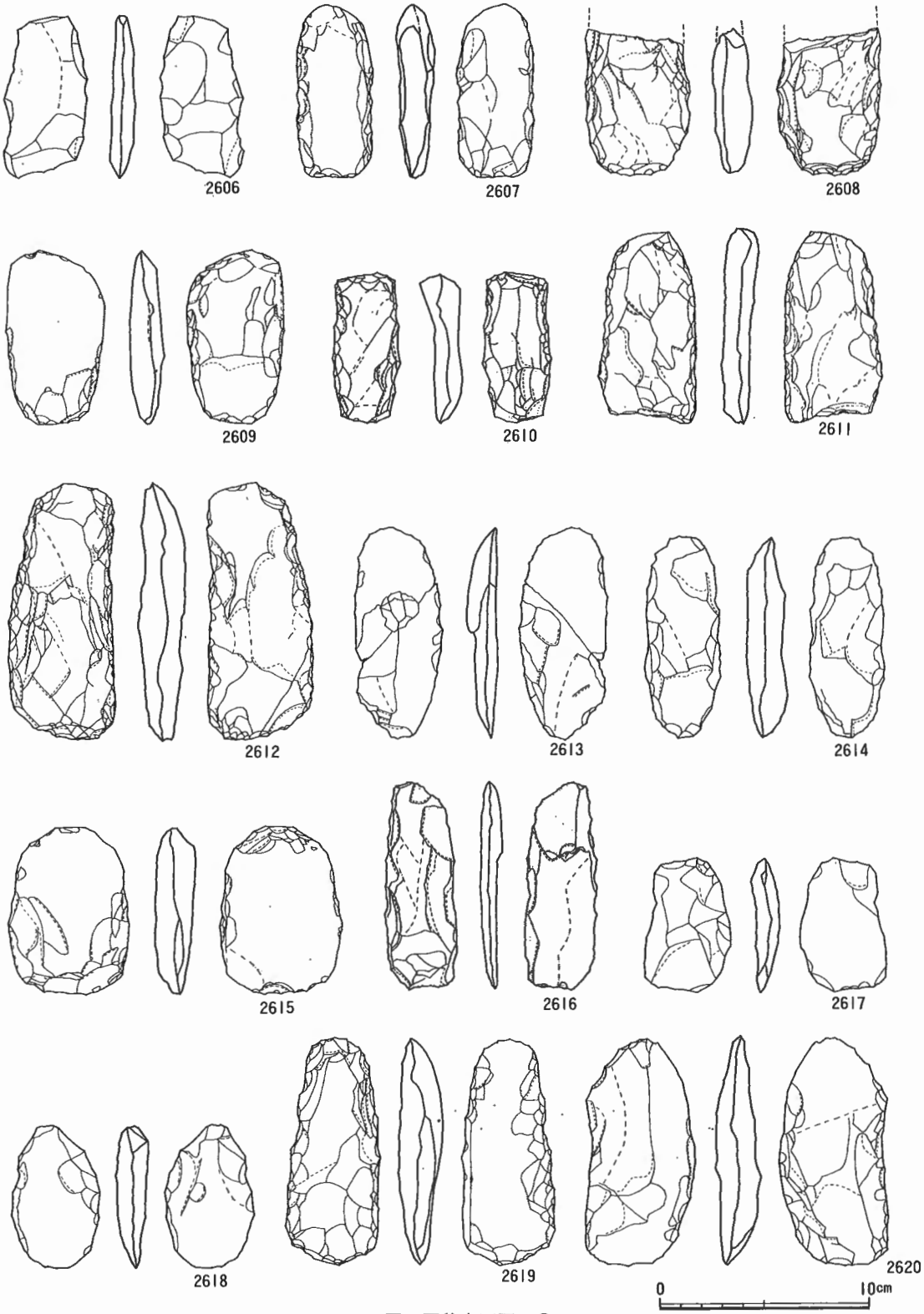
法量は最大値で長さ109.05㎜・巾81.45㎜・厚さ35.30㎜・重さ251.0ｇ，最小値で73.90㎜・40.35㎜・17.00㎜・71.6ｇである。平均値は88.95㎜・55.10㎜・25.80㎜・144.7ｇで，巾：長さは略1：1.6を示して，比較的短身・鈍重の形状となる。

なお，いずれの石斧も風化が激しく，線状痕等を看取することは困難である。

〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
2562	I-a-2	E-19	砂岩	63.35	34.25	16.35	81.0	完形	84	局部磨製石斧
2563	I-a-2	E-18	砂岩	53.30	36.10	10.55	24.0	完形	84	局部磨製石斧
2564	I-b	H-21	砂岩	81.95	23.20	12.45	34.5	完形	84	局部磨製石斧
2565	I-b	E-20	硬砂岩	(25.25)	10.20	7.60	(3.5)	⅛存	84	局部磨製石斧
2566	II-a	D-13	頁岩	53.80	34.55	10.75	16.5	完形	85	
2567	II-a	D-14	硬砂岩	(58.20)	37.50	15.15	(38.5)	⅛存	85	
2568	II-a	D-14	頁岩	52.70	27.95	10.15	13.0	完形	85	
2569	II-a	D-18	頁岩	39.90	25.65	6.35	(7.0)	略完形	85	
2570	II-a	E-18	硬砂岩	54.65	30.50	14.60	29.0	完形	85	
2571	II-a	E-12	頁岩	59.20	37.70	13.40	37.5	完形	85	
2572	II-a	F-9	頁岩	64.30	33.50	12.00	28.0	完形	85	
2573	II-a	F-21	頁岩	(59.70)	31.90	15.40	(35.0)	⅛存	85	
2574	II-a	F-21	硬砂岩	(51.80)	34.75	12.00	(32.0)	¾存	85	
2575	II-a	G-11	頁岩	58.00	30.80	8.65	23.0	完形	85	
2576	II-a	G-16	凝灰岩	58.00	30.70	11.10	27.5	完形	85	
2577	II-a	H-11	頁岩	47.75	25.35	12.70	18.0	完形	85	
2578	II-a	I-7	頁岩	46.05	24.50	15.10	20.0	完形	85	
2579	II-a	I-7	頁岩	(52.65)	33.15	10.15	(21.0)	⅛存	85	
2580	II-a	I-9	頁岩	59.00	33.25	11.60	28.0	完形	85	
2581	II-a	I-13	頁岩	(54.85)	37.00	14.55	(32.0)	¾存	85	

第74表　石斧計測表 ②

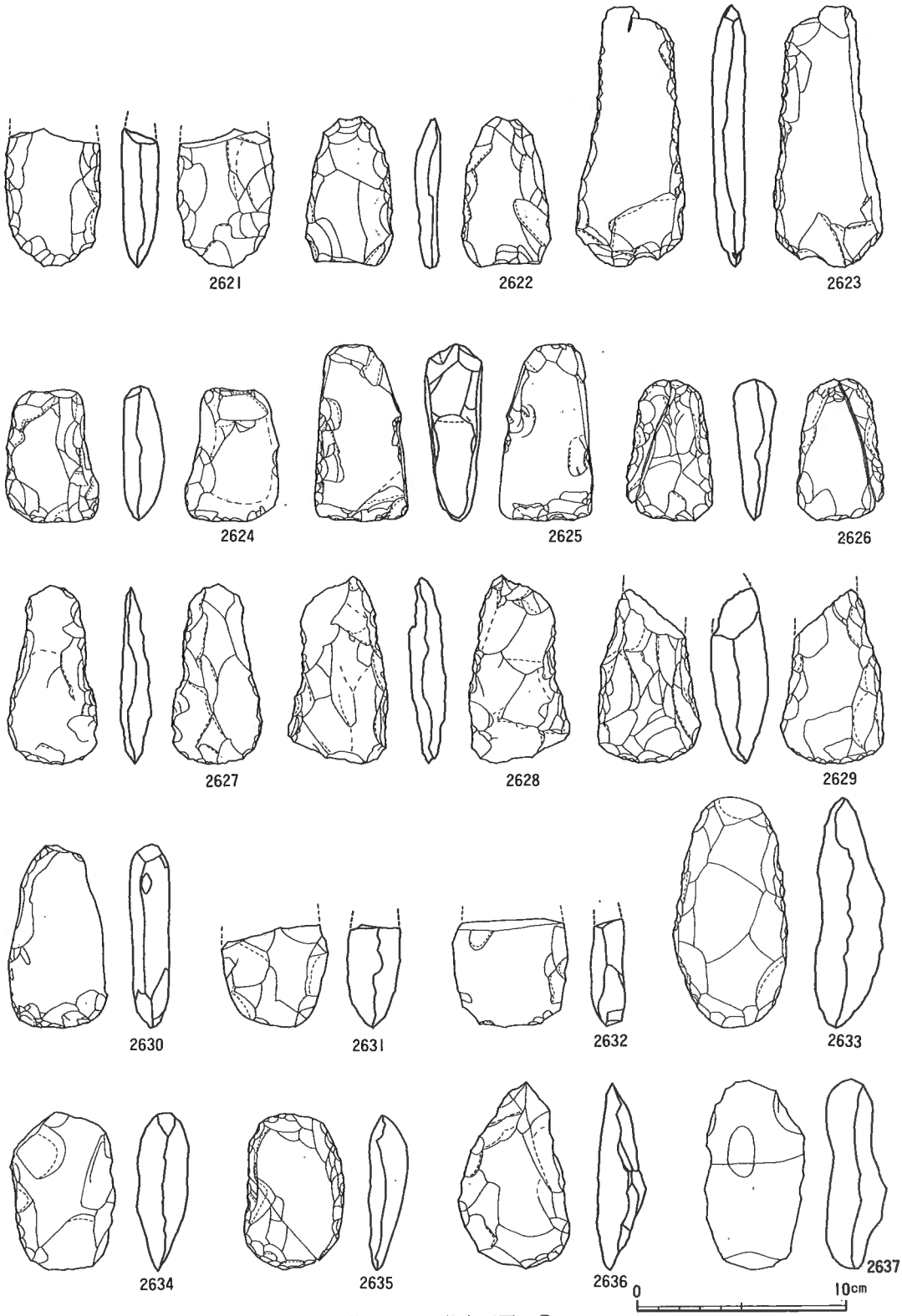


第193図　石斧実測図　④

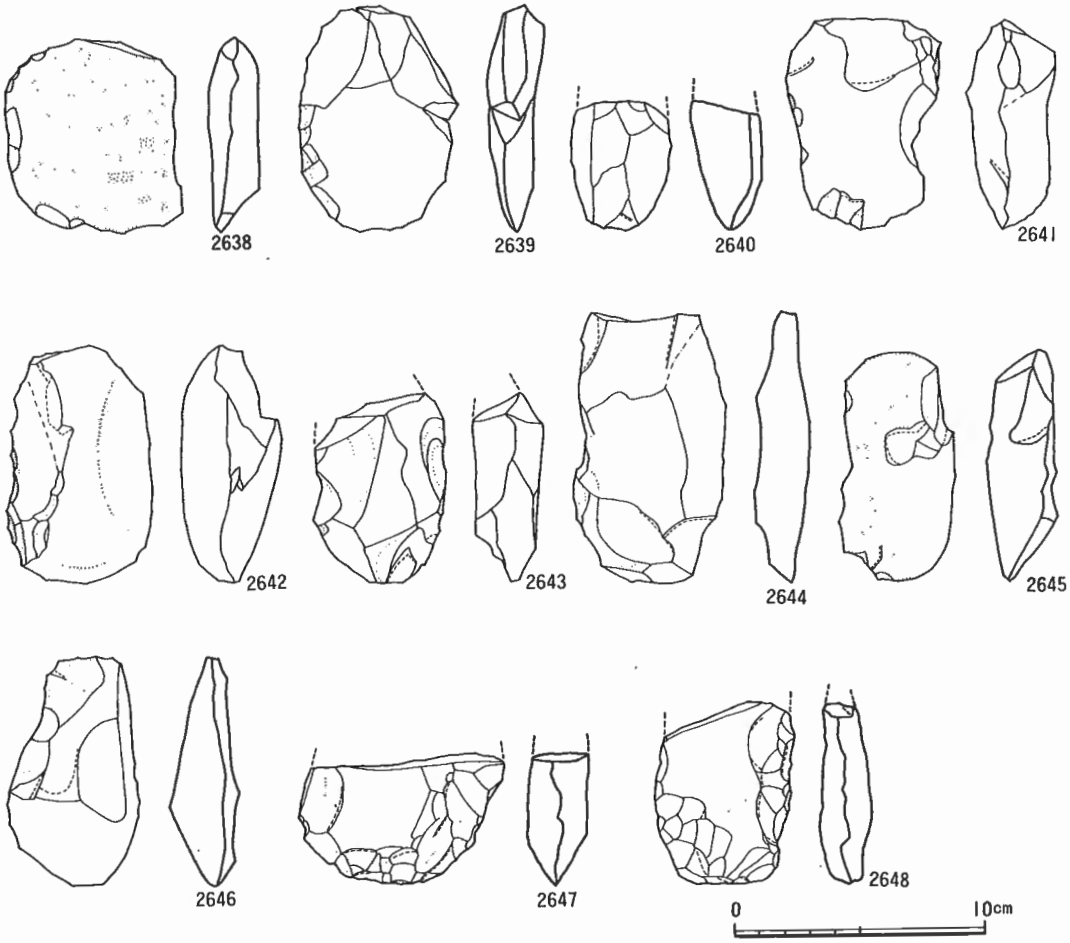
〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2582	II-a	I-15	頁　岩	(30.30)	27.65	7.35	(8.0)	½ 存	85	
2583	II-a	I-19	頁　岩	58.50	30.50	15.45	29.0	完　形	85	
2584	II-a	I-19	頁　岩	(43.90)	33.00	16.30	(21.5)	⅔ 存	85	
2585	II-a	J-6	硬砂岩	51.15	29.90	14.60	19.5	完　形	85	
2586	II-a	J-11	頁　岩	(44.75)	27.20	10.25	(12.5)	⅙ 存	86	
2587	II-a	J-15	頁　岩	55.45	29.20	11.35	14.5	完　形	86	
2588	II-a	J-24	頁　岩	50.10	31.30	9.75	(17.5)	略完形	86	
2589	II-a	K-8	頁　岩	46.85	26.65	8.30	11.0	完　形	86	
2590	II-a	O-18	頁　岩	41.00	29.60	9.20	15.5	完　形	86	
2591	II-b-1	C-11	頁　岩	(30.60)	38.60	16.00	(18.5)	⅓ 存	86	
2592	II-b-1	D-13	頁　岩	(49.15)	44.05	16.30	(36.0)	½ 存	86	
2593	II-b-1	D-15	頁　岩	93.10	53.40	24.70	143.5	完　形	86	
2594	II-b-1	E-14	頁　岩	(58.35)	42.70	15.55	(49.5)	⅔ 存	86	
2595	II-b-1	E-14	頁　岩	82.70	44.20	17.30	75.0	完　形	86	
2596	II-b-1	E-17	頁　岩	66.85	37.60	20.25	72.5	完　形	86	
2597	II-b-1	F-7	硬砂岩	99.60	37.90	17.90	80.0	完　形	86	
2598	II-b-1	F-11	頁　岩	63.50	37.90	19.00	58.5	完　形	86	
2599	II-b-1	F-15	硬砂岩	(54.00)	42.10	19.35	(48.5)	⅔ 存	86	
2600	II-b-1	F-22	砂　岩	(73.85)	46.70	18.80	(90.0)	⅔ 存	86	
2601	II-b-1	G-14	頁　岩	80.60	37.30	19.40	73.5	完　形	86	
2602	II-b-1	G-15	頁　岩	(54.70)	37.60	18.40	(47.5)	½ 存	86	
2603	II-b-1	H-11	砂　岩	92.15	43.35	16.15	69.0	完　形	86	
2604	II-b-1	H-15	凝灰岩	72.45	42.00	18.35	52.5	完　形	87	
2605	II-b-1	H-15	頁　岩	(52.20)	39.35	11.90	(31.0)	⅔ 存	87	
2606	II-b-1	H-22	頁　岩	77.00	39.75	11.65	38.7	完　形	87	
2607	II-b-1	I-8	凝灰岩	81.90	36.75	18.80	67.0	完　形	87	
2608	II-b-1	I-10	硬砂岩	(70.00)	49.90	19.40	(74.5)	⅔ 存	87	
2609	II-b-1	I-13	砂　岩	82.45	46.60	12.00	73.0	完　形	87	
2610	II-b-1	J-11	頁　岩	71.00	32.50	20.00	49.5	完　形	87	
2611	II-b-1	J-12	砂　岩	90.90	46.85	18.35	73.5	完　形	87	
2612	II-b-1	J-14	硬砂岩	122.45	51.35	22.80	157.5	完　形	87	
2613	II-b-1	J-24	硬砂岩	104.00	42.65	14.30	55.5	完　形	87	
2614	II-b-1	J-24	砂　岩	95.35	36.30	19.55	61.0	完　形	87	
2615	II-b-1	K-22	凝灰岩	78.75	52.25	20.00	106.0	完　形	87	
2616	II-b-1	L-15	硬砂岩	98.65	34.55	10.50	32.5	完　形	88	
2617	II-b-1	M-11	頁　岩	63.45	41.40	13.55	29.0	完　形	88	
2618	II-b-1	M-23	頁　岩	67.35	41.75	15.45	44.0	完　形	88	
2619	II-b-1	表　採	硬砂岩	107.10	43.40	19.10	118.0	完　形	88	
2620	II-b-1	表　採	硬砂岩	108.15	52.25	21.50	120.0	完　形	88	
2621	II-b-1	表　採	硬砂岩	(65.85)	45.20	17.70	(67.5)	½ 存	88	
2622	II-b-2	F-15	頁　岩	70.55	41.80	12.35	37.0	完　形	88	
2623	II-b-2	F-17	硬砂岩	123.15	51.10	16.20	107.5	完　形	88	
2624	II-b-2	G-19	ホルンフェルス	63.65	44.40	19.65	61.5	完　形	88	
2625	II-b-2	I-7	凝灰岩	84.00	34.75	27.00	(136.5)	略完形	88	

第75表　石斧計測表 ③


2621
2622
2623
2624
2625
2626
2627
2628
2629
2630
2631
2632
2633
2634
2635
2636
2637
0
10cm

第94図　石斧実測図　⑤



第95図　石斧実測図　⑥

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2626	II-b-2	I-12	頁　岩	66.35	40.75	20.70	53.0	完　形	88	
2627	II-b-2	J-7	硬砂岩	84.90	43.00	15.00	43.0	完　形	88	
2628	II-b-2	K-12	硬砂岩	88.75	47.00	17.55	66.0	完　形	89	
2629	II-b-2	表採	砂　岩	(82.25)	43.85	27.65	(99.0)	⅚　存	89	
2630	II-c	I-12	頁　岩	86.80	46.90	20.00	104.0	完　形	89	
2631	II-c	C-13	頁　岩	(48.55)	50.50	25.00	(66.0)	½　存	89	
2632	II-c	E-5	頁　岩	(51.15)	54.45	17.00	(65.5)	½　存	89	
2633	II-c	F-19	頁　岩	109.05	54.35	32.40	217.0	完　形	89	
2634	II-c	G-15	頁　岩	74.70	50.00	24.40	113.0	完　形	89	
2635	II-c	G-22	頁　岩	73.90	47.00	18.55	71.5	完　形	89	
2636	II-c	H-11	頁　岩	88.10	53.00	23.55	99.5	完　形	89	
2637	II-c	I-11	頁　岩	90.00	48.15	29.00	125.0	完　形	89	
2638	II-c	I-15	硬砂岩	76.70	70.55	21.25	148.0	完　形	89	
2639	II-c	I-17	頁　岩	8935	62.80	22.45	145.0	完　形	90	

第76表　石斧計測表 ④

8．石　匙

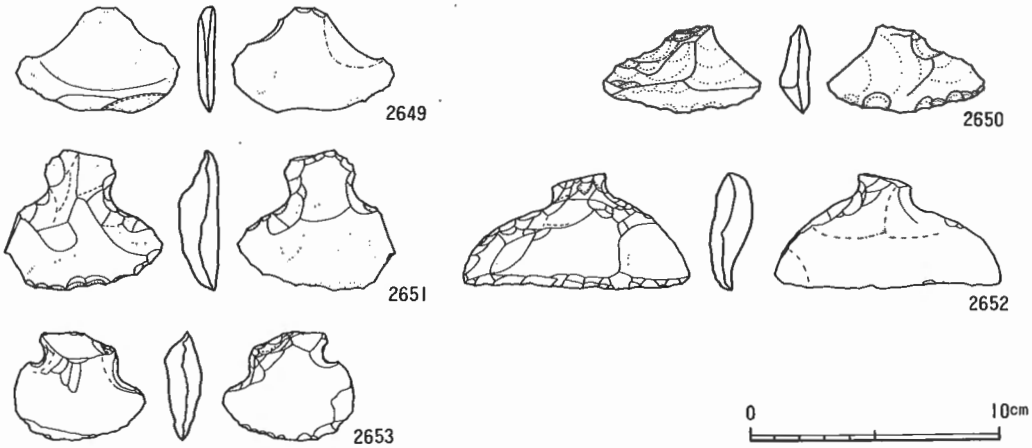
本調査によって得た石匙は5点（2649～2653）である。形態による分類を行うには資料は貧少すぎる。あえて刃部形状によれば，いずれも横型例で，円刃・直刃の2類をみる。

なお，後述する横刃型石器に類似機能を指摘される例もみるが，通例の如く『つまみ部』の意識的作出をもって，石匙を定義している。

それらは剥片を粗い調整によって作出するもので，直刃例（2652）を除いて，直接剥片縁部を刃部とする。したがってつまみ部の作出も三角形状素材の頂部両辺より窪められて，調整はほとんど片面よりなされる場合が多い。2652はそれらより若干丁寧であるが，片面に剥離面をそのまま残して変りなく，刃部を直刃に整えようとする意図は細部加工より窺える。

石材は硬砂岩3点，頁岩2点である。その選材状況は石斧II類―a種の構成に似る。

法量は形状に比してなり，直刃例（2652）が刃部巾をもっとも長くもち，つまみ部高に対して略2：1となる。他は平均値で長さ60.00㎜・巾42.75㎜・厚さ12.70㎜・重さ25ｇ，刃部巾：つまみ部高は略1.4：1を示す。丸味を帯び，刃部巾が他の部分より均して特徴である。



第96図　石匙実測図

〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2640	II-c	J-4	頁　岩	(51.40)	40.35	29.00	(70.5)	½ 存	90	
2641	II-c	J-10	硬砂岩	83.70	61.20	35.30	190.0	完　形	90	
2642	II-c	J-14	硬砂岩	94.20	57.80	40.60	251.0	完　形	90	
2643	II-c	J-18	頁　岩	(75.85)	52.00	28.25	(134.5)	⅔ 存	90	
2644	II-c	J-23	硬砂岩	107.35	61.45	22.15	155.0	完　形	90	
2645	II-c	K-12	硬砂岩	91.10	47.00	28.50	133.0	完　形	90	
2646	II-c	L-14	頁　岩	91.20	52.75	28.30	129.0	完　形	90	
2647	II-c	O-22	硬砂岩	(52.05)	81.45	24.00	(117.5)	½ 存	90	
2648	II-c	表　採	頁　岩	(72.25)	55.00	20.60	(96.0)	⅔ 存	90	

第77表　石斧計測表 ⑤

9．横刃型石器

本調査によって得た横刃型石器は27点である。全て完形品である。前述の石匙，後述のスクレイパー類にそれぞれ含まれるべき性格を有する部分もあろうが，長野県中央道発掘調査報告において形式分類も試みられ，また本遺跡における有り方も一般的存在であるため，個有名詞（石器）として扱うことにする。[註1]

これらは形状，法量，刃部・背部の状況等によって2類される。

Ⅰ類　形状，および法量が石匙に準ずるものである（2654～2663）。

明確な『つまみ部』の意識的な作出はないが、略三角形状素材をもって底辺端部に刃部が施される。用途的にも石匙にちかいことが予想され，中央道報告に扱われる横刃型石器の範疇外となるかも知れない。

これに属するものは10点が認められ，全資料中3分の1強を占める。

石材は頁岩8点，硬砂岩2点で，前述の石斧，石匙に近似した選材がなされる。

法量は最大値で長さ96.50㎜・巾66.50㎜・厚さ24.60㎜・重さ134ｇ，最小値で46.60㎜・40.65㎜・6.80㎜・12ｇである。平均値は73.50㎜・54.70㎜・17.20㎜・68ｇで，巾：長さ，つまり刃部巾：高さは略1.3：1を示す。計測値は石匙（円刃例）に若干高値を示すにすぎないが，2654・2661がとくに小形例であるためであり，全体的には本石器Ⅱ類の中間法量を示すと言ってよい。

Ⅱ類　いわゆる横刃型石器にあたる，17点が認められ，全資料中約63％を占める。中央道報告による分類基準に従えば，刃部，および背部の状況から，Ⅰ～Ⅳ―Ａ～Ｃ類の12種にされるが，本資料はそれに学びつつ大きく3種に分類しておく。

ａ種（2664～2673）

刃部は直刃，および若干円刃気味，背部は外湾，または山形に尖がり，全体形状は扇形にちかいものである。前述分類ではⅡＡ・ⅡＢ，ⅢＡ類となり，資料的にも圧倒して，これを本石器の一般的形状としている。

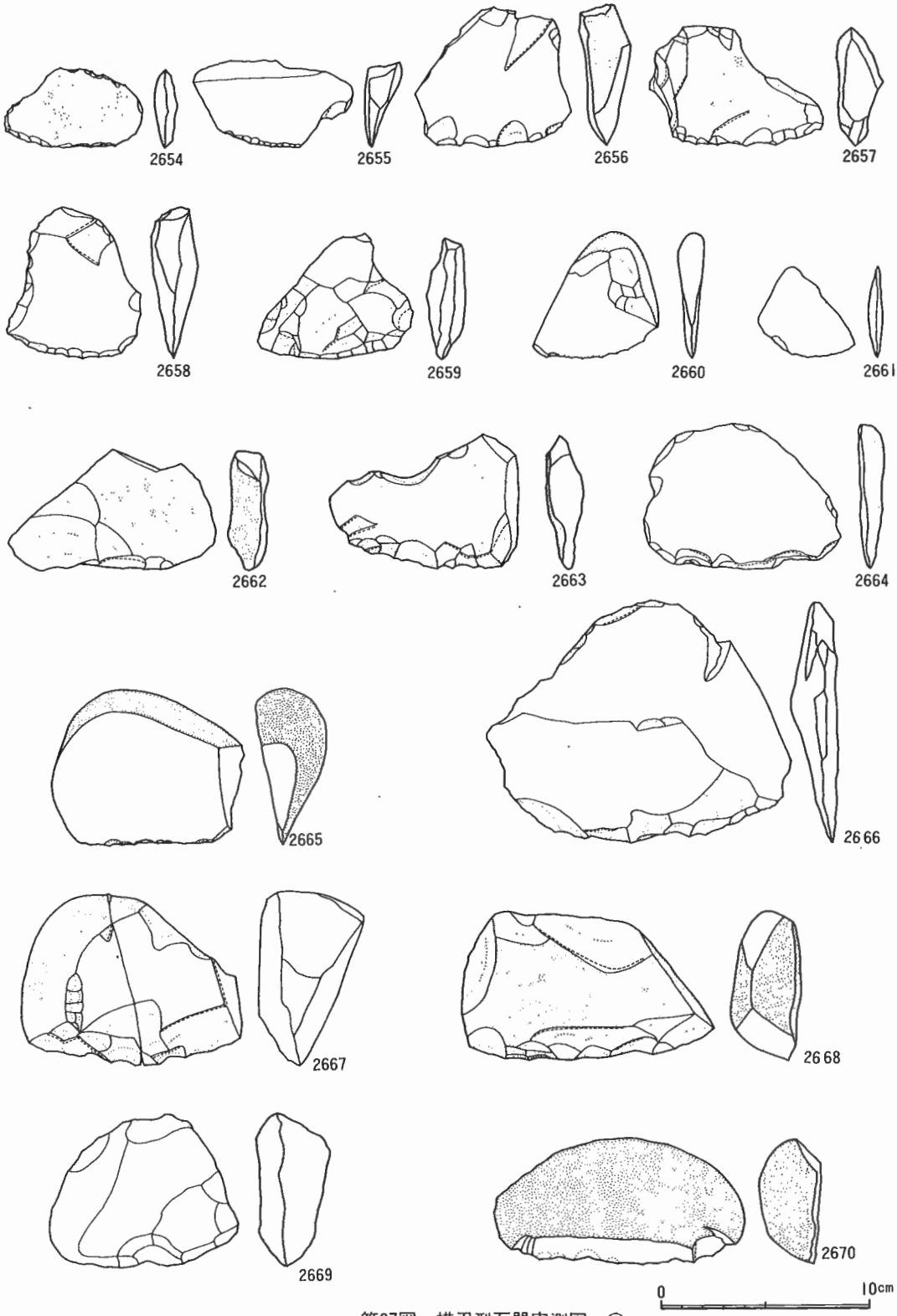
これに属するものは10点が認められ，本遺跡における有り方も他を圧倒している。

石材は砂岩5点，硬砂岩3点，頁岩2点で，他に比して砂岩，硬砂岩の依存がたかく特徴である。素材となる剝片の状況をみると，砂岩系円礫による第1次剝片（半割）が多用され，そ

〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2649	―――	E-7	頁　岩	64.20	40.80	11.60	16.5	完　形	91	円刃
2650	―――	F-7	硬砂岩	62.30	32.80	11.20	16.0	完　形	91	円刃
2651	―――	G-13	頁　岩	62.10	54.90	15.30	43.0	完　形	91	円刃
2652	―――	I-13	硬砂岩	89.90	45.20	14.80	39.5	完　形	91	直刃
2653	―――	K-7	硬砂岩	51.30	42.40	12.70	23.5	完　形	91	円刃

第78表　石匙計測表



第97図　横刃型石器実測図 ①

れにより自ずと形状が設定されつつある指摘もされる。

法量は最大値で長さ 145.40 ㎜・巾 114.60 ㎜・厚さ 50.85 ㎜・重さ 446 g，最小値で 88.10 ㎜・59.70 ㎜・12.45 ㎜・98 g である。平均値は 104.20 ㎜・76.50 ㎜・29.05 ㎜・241 g で，巾：長さ，つまり刃部巾：高さは略 1.3：1 を示す。剝片を素材とするため定形化されないむきもあるが，器長・器巾・器重に最高値を示すのに対して器厚をひくくもって，いわゆる大形の粗製石匙の範疇が想定される。

b 種（2674～2678）

刃部は円刃となり，背部は直，または外湾気味で，刃部の設定がII類 a 種と逆になるものである。前述分類ではＩＡ類となり，比較的資料はみられている。

これに属するものは 5 点が認められる。

石材は頁岩 4 点，硬砂岩 1 点で，頁岩依存がたかく，II類 a 種と異なる。また，素材には石材原面を残すものは皆無にちかく，作出方法も異なって特徴である。

法量は最大値で長さ 131.70 ㎜・巾 78.55 ㎜・厚さ 42.00 ㎜・重さ 343 g，最小値で 87.20 ㎜・52.00 ㎜・26.55 ㎜・131 g である。平均値は 102.20 ㎜・68.85 ㎜・31.40 ㎜・216.5 g で，巾：長さ，つまり刃部巾：高さは略 1.5：1 を示す。II類 a 種に対して，若干小振りで平面形は細長

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2654	I	E-14	硬砂岩	65.25	36.85	11.00	28.0	完　形	91	
2655	I	J-12	頁　岩	76.10	40.65	17.50	40.0	完　形	91	
2656	I	J-23	頁　岩	74.20	66.50	24.60	98.0	完　形	91	
2657	I	K-25	頁　岩	83.85	56.25	22.80	134.0	完　形	91	
2658	I	L-13	頁　岩	71.45	63.20	22.15	78.0	完　形	91	
2659	I	L-13	頁　岩	71.70	57.40	22.60	70.0	完　形	91	
2660	I	L-18	硬砂岩	60.00	58.75	12.70	31.0	完　形	91	
2661	I	L-20	頁　岩	46.60	42.80	6.80	12.0	完　形	91	
2662	I	N-21	頁　岩	96.50	61.10	19.10	100.0	完　形	91	
2663	I	N-24	頁　岩	89.55	63.55	12.60	90.0	完　形	91	
2664	II-a	E-19	硬砂岩	94.35	68.10	12.45	98.0	完　形	91	
2665	II-a	F-20	砂　岩	91.00	73.70	34.00	239.0	完　形	92	
2666	II-a	F-21	砂　岩	145.40	114.60	22.20	280.0	完　形	92	
2667	II-a	H-11	頁　岩	104.45	81.30	50.85	446.0	完　形	92	
2668	II-a	H-18	頁　岩	120.65	70.00	34.25	344.0	完　形	92	
2669	II-a	I-11	砂　岩	89.25	72.90	35.20	240.0	完　形	92	
2670	II-a	J-23	砂　岩	119.00	59.70	30.00	247.0	完　形	92	
2671	II-a	K-22	硬砂岩	101.20	71.10	19.10	107.0	完　形	92	
2672	II-a	M-13	硬砂岩	88.10	73.20	21.85	201.0	完　形	92	
2673	II-a	M-20	砂　岩	88.75	80.30	30.70	208.0	完　形	92	
2674	II-b	G-19	頁　岩	98.10	78.45	26.55	208.0	完　形	92	
2675	II-b	J-22	頁　岩	131.70	78.55	29.40	251.0	完　形	92	
2676	II-b	K-12	頁　岩	90.00	52.00	31.85	131.0	完　形	92	
2677	II-b	K-12	硬砂岩	87.20	58.65	27.20	149.0	完　形	92	
2678	II-b	K-23	頁　岩	104.00	76.50	42.00	343.0	完　形	92	
2679	II-c	F-10	凝灰岩	61.00	54.75	13.75	49.0	完　形	92	
2680	II-c	H-21	頁　岩	73.30	63.70	9.30	41.0	完　形	92	

第79表　横刃型石器計測表

くなるが，器厚をもつため，ボッテリした感じを受ける。

c種（2679・2680）

刃部，背部とも直刃となるもので，前述分類ではＩＢ類にあたり，資料的には少ない。

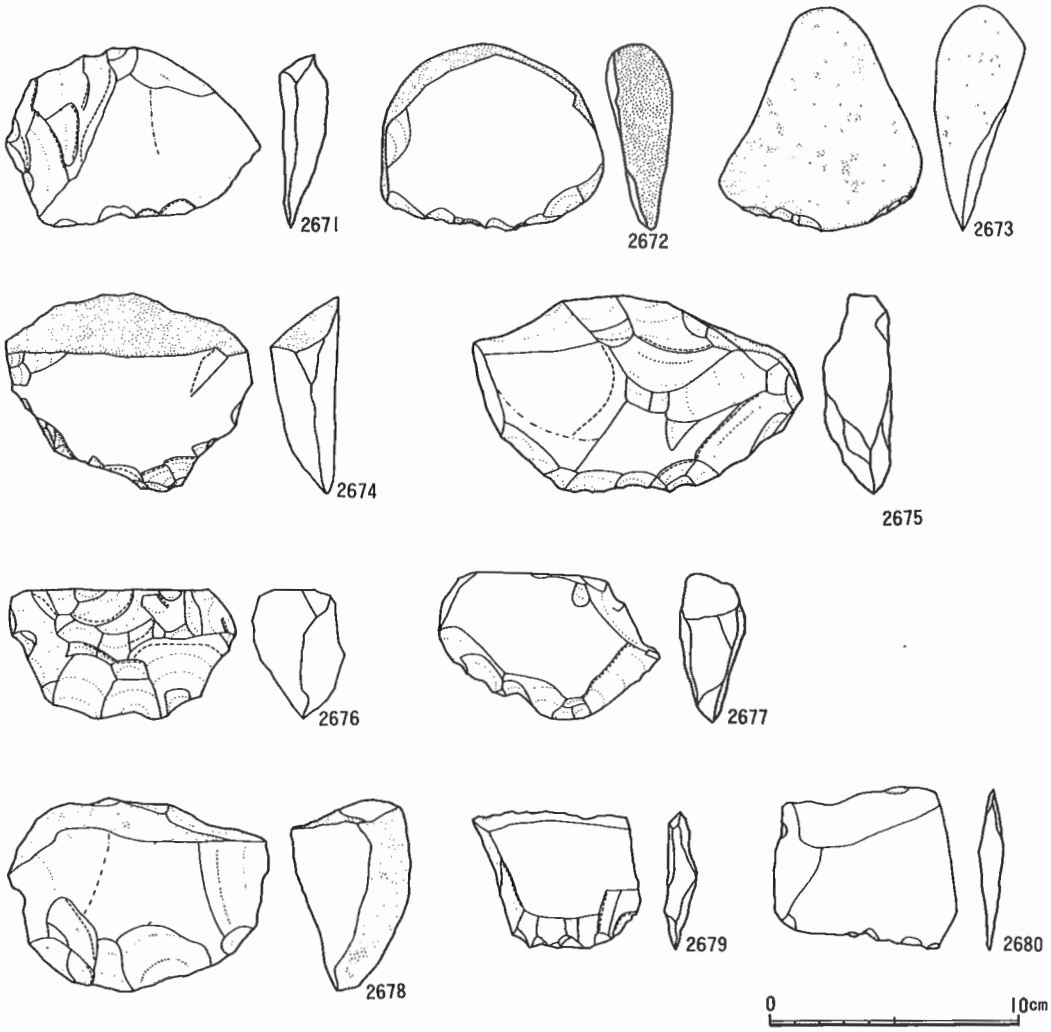
これに属するものは２点であり，本遺跡においても尋常な有り方をしない。

石材は頁岩，凝灰岩各１点で，いずれも薄い剥片が利用されている。

法量は２点とも近似して，平均値は長さ 67.15 ㎜・巾 59.20 ㎜・厚さ 11.50 ㎜・重さ 45 g で，巾：長さは 1.1：１で四角形にちかい。刃部の有り方等によれば，大形削器の範疇にもある。

本石器は欠損品が皆無である。こうした状況も機能設定の一考となろう。

註１　樋口昇一・青沼博之・百瀬長秀他　1980　『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書―岡谷市その４―』　日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会



第98図　横刃型石器実測図　②

10. スクレイパー類

本調査によって得たスクレイパー類は20点である。全て完形品である。これらはいずれも剝片の端部に刃部を作出するもので，法量，形態，刃部の状況等から大きく2類される。

I類　小型の剝片を素材とする，いわゆる掻器・削器に相当するものである（2681～2693）。

これに属するものは13点が認められ，刃部が剝片の先端部に施されるもの7点（2681～2687）と側縁部に施されるもの6点（2688～2693）である。2681は母指状掻器に相当しよう。他は不定形，もしくは縦長の剝片によってなるが，刃部の作出は粗く，片面一方からの場合が多い。

石材は全て黒曜石に依存される。

法量は最大値で長さ37.45㎜・巾28.05㎜・厚さ11.90㎜・6.25ｇ，最小値で19.20㎜・12.85㎜・3.65㎜・1.15ｇである。平均値は29.20㎜・19.55㎜・7.15㎜・3.35ｇを示す。巾：長さは母指状掻器を除けば，掻器・削器とも大きな差はもたない。

II類　大形の剝片，およびまれに偏平円礫を素材とする，いわゆる大形掻器，円刃掻器等と呼称される一群である（2694～2700）。

これに属するものは7点が認められ，刃部は円刃形態を呈する。したがって前述の横刃型石器に類する機能を有することは確かで，一般にされるラウンド・エンド・サイドの分類の大形化として捉えるのが妥当にも思える。2696が偏平円礫を使用して略4分の3周に刃部が施される他は，片面に大きく石材原面を残しながら略4分の3～全周に刃部が施されている。

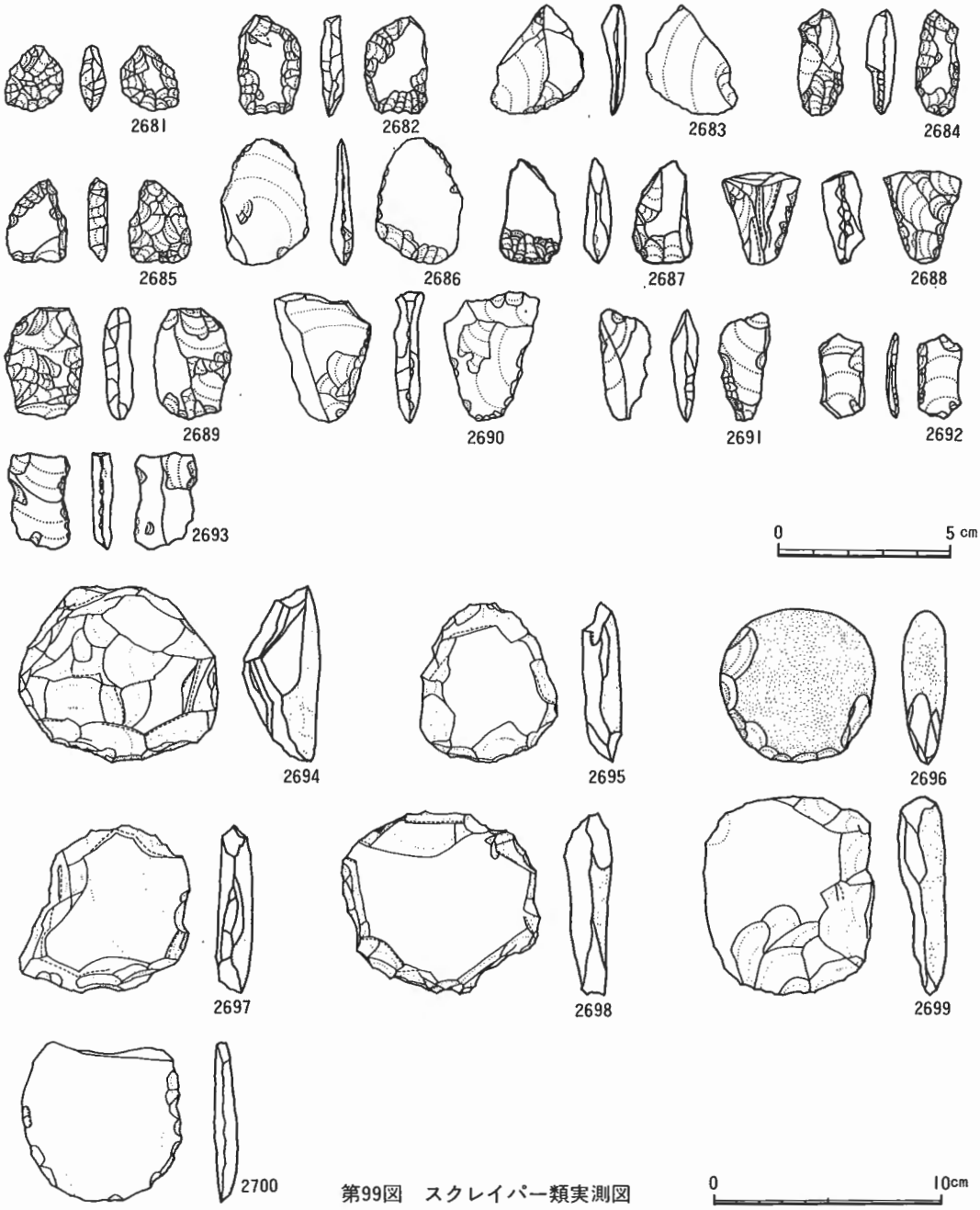
〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分類	出土区	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	図版No.	備考
2681	I	F-19	黒曜石	19.20	16.85	7.60	1.75	完形	93	
2682	I	F-20	黒曜石	28.90	18.75	6.45	3.80	完形	93	
2683	I	H-8	黒曜石	31.40	26.35	6.75	3.25	完形	93	
2684	I	H-13	黒曜石	30.70	12.95	8.40	2.35	完形	93	
2685	I	I-10	黒曜石	23.75	17.80	5.75	2.60	完形	93	
2686	I	I-12	黒曜石	36.05	25.25	5.95	4.05	完形	93	
2687	I	K-24	黒曜石	29.65	17.65	7.80	3.60	完形	93	
2688	I	E-16	黒曜石	26.35	22.70	11.90	4.65	完形	93	
2689	I	F-20	黒曜石	31.90	22.80	8.75	5.25	完形	93	
2690	I	G-18	黒曜石	37.45	28.05	6.50	6.25	完形	93	
2691	I	H-12	黒曜石	24.40	12.85	3.65	1.15	完形	93	
2692	I	K-11	黒曜石	32.15	14.60	7.35	2.30	完形	93	
2693	I	K-13	黒曜石	27.50	17.90	5.90	2.40	完形	93	
2694	II	C-16	砂岩	86.30	75.90	33.55	228.0	完形	93	
2695	II	H-15	硬砂岩	68.70	59.35	16.80	71.0	完形	93	
2696	II	I-12	砂岩	66.70	66.10	19.80	118.0	完形	93	
2697	II	K-13	砂岩	72.80	72.50	15.50	91.0	完形	93	
2698	II	K-14	砂岩	86.10	78.80	20.75	149.0	完形	93	
2699	II	L-12	砂岩	85.80	73.40	20.50	152.0	完形	93	
2700	II	M-21	硬砂岩	70.00	68.50	9.85	57.0	完形	93	

第80表　スクレイパー類計測表

石材は砂岩５点、硬砂岩２点である。横刃型石器が比較的頁岩依存がたかいのに対して相反する。これは頁岩が板状剝離に特徴をもち，円刃の作出に不利である結果も想定される。

法量は最大値で長さ 86.30 ㎜・巾 78.80 ㎜・厚さ 33.55 ㎜・重さ 228.0 ｇ，最小値で 66.10 ㎜・59.35 ㎜・9.85 ㎜・57.0 ｇである。平均値は 76.65 ㎜・70.65 ㎜・19.55 ㎜・123.70 ｇで，巾：長さは略１：1.1 を示し，もっとも円形にちかい。横刃型石器II類よりひとまわり小形となる。



第99図　スクレイパー類実測図

11. 石　錐

本調査によって得た石錐は6点である。2点の略完形品を含んで全て完形品である。これらは法量・形態等から2類される。

Ⅰ類　小形で造作が丁寧なものである（2702・2703）。

これに属するものは2点が認められ，2702が錐部先端，2703が頭部端を若干欠損する。一見して石鏃を思い，石鏃様の調整加工がなされるが，側辺が内湾して頭部（つまみ）と錐部が意識をもって作出されていることから本石器に扱う。

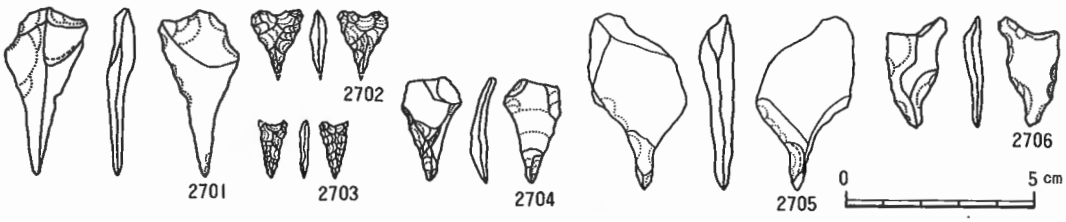
石材はいずれも黒曜石である。法量は頼るだけの資料をもたないが，石鏃と大過なく，両者とも略7㎜程の錐部が想定される。

Ⅱ類　剝片を素材として，造作が粗雑なものである（2701・2704～2706）。

これに属するものは4点が認められ，全て完形品である。不定形，ないしは長三角形を呈する剝片を素材に，尖鋭となる項部端に片面一方から調整加工を行い，刃部を作出している。したがって刃部の断面は三角形を呈することが一般となっている。なお頭部の意識的作出はない。

石材は硬砂岩2点，頁岩・水晶各1点である。水晶（2704）が鋭利となるが他は石質か，風化のためかそれ程の感はない。

法量は最大値で長さ46.25㎜・巾26.10㎜・厚さ9.20㎜・重さ5.90ｇで全て2705に示され，最小値で26.70㎜・15.85㎜・4.20㎜・1.15ｇである。平均値は36.45㎜・19.80㎜・5.95㎜・2.90ｇで，巾：長さは略1：1.8を示す。刃部長は2701より略20㎜・12㎜・12㎜・6㎜で，長三角形を呈する2701・2704は器長に対して2分の1弱を占めるのに対して，頭部が比較的明確な2705・2706は4～5分の1程となっている。



第100図　石錐実測図

〔単位はmmおよびｇ（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2701	Ⅱ	D-13	硬砂岩	43.90	21.05	6.25	3.10	完　形	93	
2702	Ⅰ	H-16	黒曜石	(16.40)	13.65	3.95	(0.60)	略完形	93	
2703	Ⅰ	H-19	黒曜石	15.70	(7.60)	2.30	(0.25)	略完形	93	
2704	Ⅱ	H-29	水　晶	26.70	16.25	4.20	1.15	完　形	93	
2705	Ⅱ	Ⅰ-24	頁　岩	46.25	26.10	9.20	5.90	完　形	93	
2706	Ⅱ	J-21	硬砂岩	28.90	15.85	4.20	1.50	完　形	93	

第81表　石錐計測表

12. 砥　石

本調査によって得た砥石は8点である。これらは使用される素材によって2類される。

Ⅰ類　板状の素材が使用される偏平砥石[註1]である。7点が認められ，さらに砥面の状況等から2種される。

a種（2707～2711）

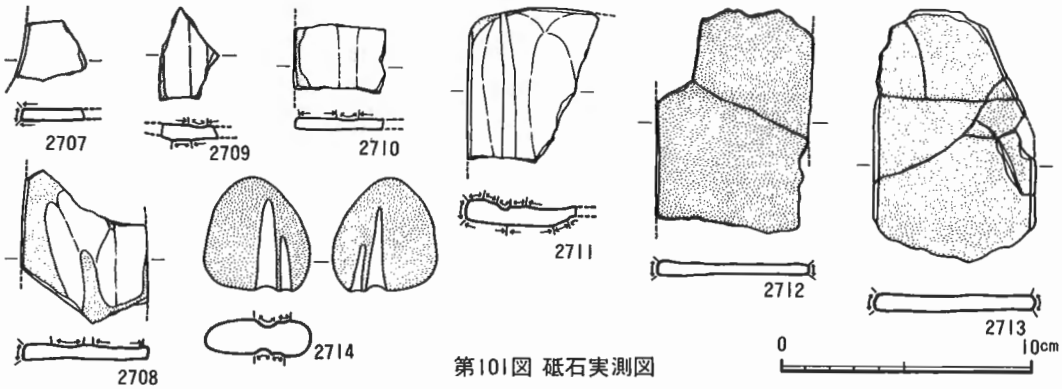
板状の素材の表・裏面，ならびに側縁が砥面として使用されるものである。

これに属するものは5点が認められ，全て欠損，断片資料にちかい。偏平面に外力を受ける構造上の結果であろう。

石材は全て砂岩が使用される。法量は頼れるだけのものを持たない。2708が器巾略50㎜，2711が器長略63㎜以上を有することから100×50㎜前後，器厚数㎜程を呈する偏平板礫によることが想定される。

砥面の状況は2708・2710が表面のみを使用，さらに2709・2710は側縁の使用も残存部では確認されないが，他は表・裏面，ならびに側縁に砥面を持つ。2707の側縁砥面は過度の使用のためか内湾する。

表・裏面の砥面は一様に平滑でなく，研かれべき[註2]対象物の広狭・太細によって，半円筒状に窪む，つまり有溝砥石状の凹部となるもの，緩く窪むもの，平坦にちかいものの集合となって



第101図 砥石実測図

〔単位はmmおよびg（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2707	Ⅰ-a	F-10	砂　岩	(23.45)	(27.75)	5.25	4.50	断　片	94	
2708	Ⅰ-a	Ⅰ-9	砂　岩	(60.75)	49.95	6.30	21.40	⅓　存	94	
2709	Ⅰ-a	Ⅰ-15	砂　岩	(35.80)	(24.95)	6.55	5.60	断　片	94	
2710	Ⅰ-a	K-8	砂　岩	(26.50)	(36.65)	4.30	7.20	断　片	94	
2711	Ⅰ-a	M-16	砂　岩	(62.25)	(52.65)	9.45	32.60	½　存	94	
2712	Ⅰ-b	J-12	砂　岩	(89.40)	61.60	6.15	38.50	⅚　存	94	
2713	Ⅰ-b	K-13	凝灰石	99.50	64.80	6.95	44.30	略完形	94	
2714	Ⅱ	K-12	砂　岩	45.30	42.15	14.35	33.70	完　形	94	

第82表　砥石計測表

いる。これと前述した側縁砥面は関東地方の縄文時代後期～晩期前葉に特徴とされる『石庖丁様石器』の機能に準ずることも予想され，複数の用途を想定しなければならない。

b種（2712・2713）

板状の素材の側縁のみが砥面として使用されるものである。

これに属するものは2点が認められ，いずれも欠損品であるが，偏平面を機能面としないためか，a種に比して原形にちかく保っている。

石材は砂岩･凝灰岩各1点である。法量は2713が略完形品であって，それに頼るとおよそ100㎜×65㎜が推測され，丁度，掌に納まる。器厚も6㎜前後であることから，その法量はa種にも対応されるよう。また2713の片側縁の砥面は中央で折れて，内湾気味の「く」の字状となる。いずれにしても前述の石庖丁様石器の機能にもっともちかく，切断，つまり『石鋸』的性格も考えられよう。

II類　偏平円礫が使用され，半円筒状に窪む，有溝砥石状の凹部をもつものである。2714が認められ，石材は砂岩である。凹部砥面は表裏の平坦面を5分の4周，つまりまいて2本が認められる。片側の凹部砥面は巾9㎜程となる。もう一方は浅く不明瞭である。

法量は径50㎜弱を測る偏円礫で，I類よりひとまわり小形である。

砥面の状況はI類の凹部砥面を有するものと差異をもつ。つまり本種は自身の可動によって研磨機能を果している。

註1　紅村　弘・原　寛　1974　『椛の湖遺跡』　岐阜県恵那郡坂下町教育委員会

註2　宮下健司　1978　「矢柄研磨器の再検討」『信濃』第30巻4号

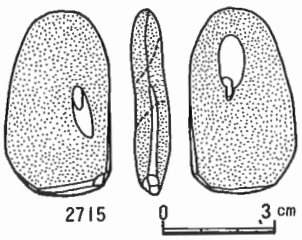
13. ペンダント様石器

本遺跡によって得た装身具類は本項にあげるペンダント様石器である。他に母指大で正球形に研磨される砂岩等をみる。

ペンダント様石器（2715）は偏平・長円形を呈する砂岩を片側辺から下辺にかけて研磨し面とりをしている。片側辺，下辺を平滑にした後，角部分を削取して7面の研磨痕をみる。石材中央には径8㎜程の自然孔が斜めに貫通しており，裏面部分に巾2㎜・深さ3㎜程の擦り切りを入れている。G—15グリッドの出土である。

法量は最大長49.35㎜・最大巾28.10㎜・最大厚9.30㎜・重量15.7ｇである。

他に1点，同様の自然孔をもつ砂岩が検出されている。これには明確な研磨痕はないため，石器として取り扱わなかったが，意識は同様に思える。法量は68.70㎜・27.85㎜・12.50㎜・28.4ｇで涙粒状を呈している。



第102図　ペンダント様石器実測図

14. 石　核

本調査によって得た石核は82点（2716～2729）である。

石材は頁岩60点，硬砂岩17点，砂岩5点である。その構成比は石斧II類a種，石匙等の中形石器に共通する。法量は掌大を越えることなく最大長100～150㎜前後を示す。

素材は球形，偏球形等，定形されず，それら石材原面をそのままに縁辺，または一端が打割される。したがってほとんど全てが2分の1～3分の1程に石材原面を残して，片刃礫器様の刃部状の稜をもつ結果となる。

縄文時代における石核は不明瞭な部分が多く，詳細な検討もほとんど行われていない状況下にあり，ここでもそれに及ばず，今後におく。

15. 黒曜石

京都大学原子炉実験所東村（武信）研究室に分析を依頼していた黒曜石について下記の分析結果が得られている。

遺　跡　名	時　　代	原石産地（確率）	判　　定
若宮遺跡	縄文時代早期	柏岳西（21%）	柏岳西
代官屋敷遺跡	縄文時代早期	柏岳西　クラスター分折	柏岳西
上石敷遺跡	縄文時代中期	霧ヶ峰（D＝50）・和田峠第3（0.2%）	霧ヶ峰
滝ノ上遺跡	縄文時代中期	霧ヶ峰（0.1%）・和田峠第3（0.9%）	霧ヶ峰

西関東，および東海地方の黒曜石原産地（抜粋）

5．柏峠西

静岡県田方郡中伊豆町

柏峠附近から採集され，露頭がみられる。大きなものは握りこぶし3ヶぐらいのものも見られるが，ほとんどは握り拳大である。

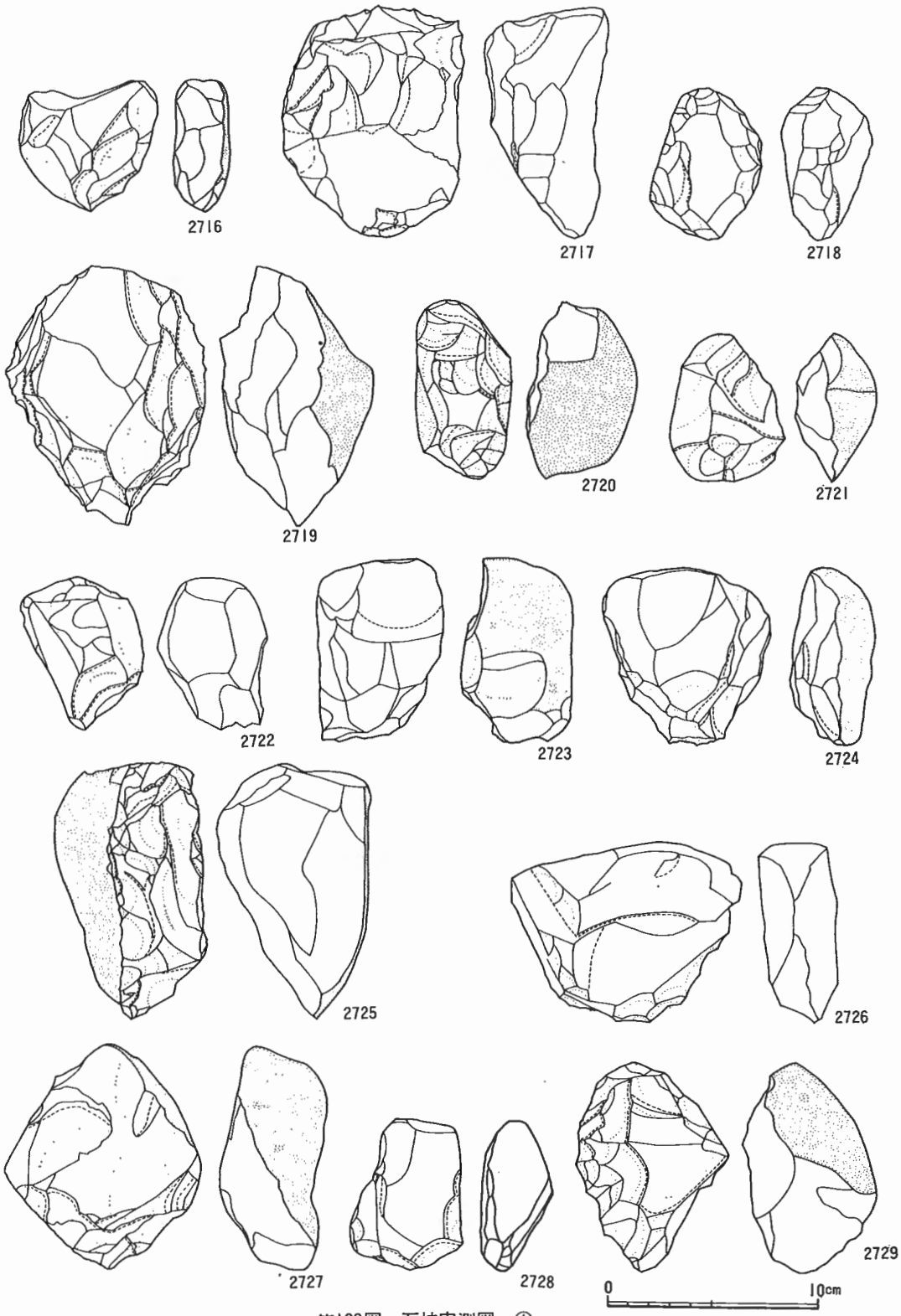
石質は良く，貝殻状の割れ口を示し，石器原材として良質と考えられる。肉眼観察では露頭のものは青緑灰色が強く，不透明であるが，ガラス光沢を示している。

また，附近の沢からも転石として採集され，この巾には黒色のもの，黒色の中に青緑灰色の縞のあるものなどがある。現在黒色のものは採取は困難であるが，もともと少なかったのか，前に採石に来た人が，黒色のものを全部採石したのかは不明，しかし，元素分折の結果からは色の差はみられず，均一な柏岳西群（表II．KASHIWADAKE）にまとまる。

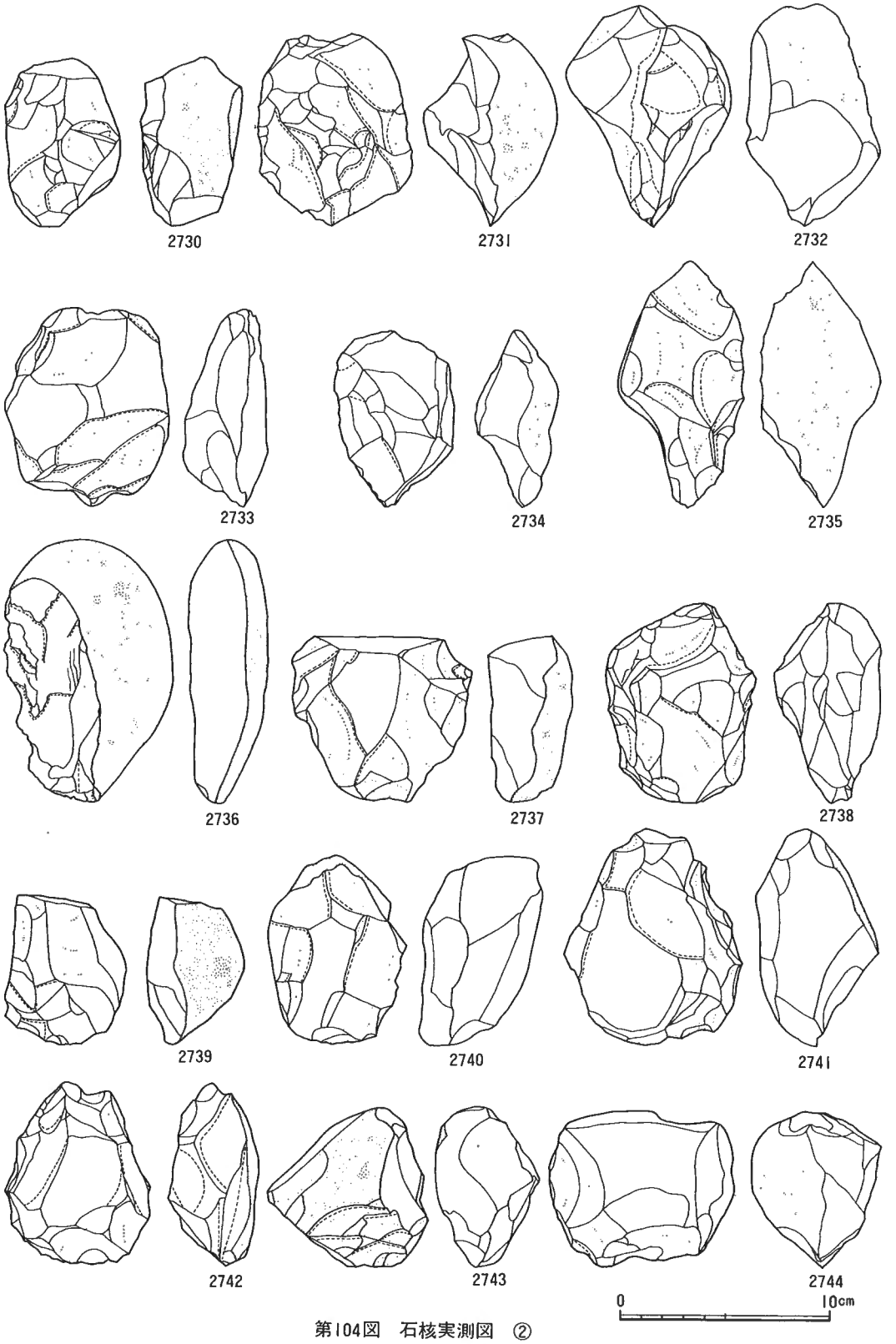
〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2716	―――	C-12	頁　岩	62.00	65.40	27.00	128.0	完　形	95	
2717	―――	E-16	硬砂岩	109.40	85.60	59.15	642.0	完　形	95	
2718	―――	F-7	頁　岩	71.65	53.00	43.35	158.0	完　形	95	
2719	―――	F-9	硬砂岩	123.00	95.00	73.15	749.0	完　形	95	
2720	―――	F-14	頁　岩	84.20	45.60	53.00	231.0	完　形	95	
2721	―――	G-11	頁　岩	70.20	54.30	39.00	139.0	完　形	95	
2722	―――	H-8	硬砂岩	72.25	58.70	52.25	233.0	完　形	95	
2723	―――	H-12	頁　岩	86.50	60.85	52.25	388.0	完　形	95	
2724	―――	H-16	頁　岩	83.70	80.00	40.00	316.0	完　形	95	
2725	―――	3炉穴	硬砂岩	122.15	72.85	72.65	723.0	完　形	95	
2726	―――	I-9	頁　岩	109.55	84.75	37.90	403.0	完　形	95	
2727	―――	I-16	砂　岩	106.25	93.10	51.50	475.0	完　形	95	
2728	―――	J-4	頁　岩	71.45	54.20	33.55	157.0	完　形	95	
2729	―――	J-5	頁　岩	99.00	72.45	64.30	408.0	完　形	95	
2730	―――	J-13	頁　岩	80.00	55.00	48.50	269.0	完　形	95	
2731	―――	J-13	頁　岩	91.10	74.05	63.85	370.0	完　形	95	
2732	―――	J-22	頁　岩	105.35	79.00	65.20	405.0	完　形	95	
2733	―――	J-24	砂　岩	94.10	78.35	40.55	313.0	完　形	95	
2734	―――	K-12	頁　岩	84.00	58.00	39.80	183.0	完　形	95	
2735	―――	K-13	硬砂岩	116.30	60.00	57.55	330.0	完　形	95	
2736	―――	K-22	砂　岩	125.25	81.15	39.40	424.0	完　形	96	
2737	―――	K-23	頁　岩	86.15	78.75	41.00	303.0	完　形	96	
2738	―――	L-12	頁　岩	94.40	71.00	50.00	347.0	完　形	96	
2739	―――	L-12	硬砂岩	70.50	57.20	46.60	208.0	完　形	96	
2740	―――	L-12	頁　岩	89.55	61.05	57.40	395.0	完　形	96	
2741	―――	M-23	頁　岩	103.10	84.80	58.25	463.0	完　形	96	
2742	―――	M-23	頁　岩	86.25	69.40	43.25	277.0	完　形	96	
2743	―――	M-24	硬砂岩	76.30	75.45	49.40	294.0	完　形	96	
2744	―――	N-22	硬砂岩	74.30	88.50	62.15	456.0	完　形	96	
2745	―――	N-23	頁　岩	84.65	59.60	61.35	320.0	完　形	96	
2746	―――	D-12	頁　岩	102.40	74.45	50.45	339.0	完　形	96	
2747	―――	D-17	硬砂岩	104.50	69.30	60.20	530.0	完　形	96	
2748	―――	D-18	頁　岩	81.15	65.00	48.15	302.0	完　形	96	
2749	―――	F-14	硬砂岩	96.75	81.05	50.65	338.0	完　形	96	
2750	―――	G-12	頁　岩	67.15	66.80	60.55	303.0	完　形	96	
2751	―――	3住居	頁　岩	112.30	70.30	79.45	732.0	完　形	96	
2752	―――	I-11	頁　岩	88.00	67.95	48.20	302.0	完　形	97	
2753	―――	I-12	頁　岩	84.70	63.65	51.10	298.0	完　形	97	
2754	―――	I-12	硬砂岩	75.15	73.65	45.15	259.0	完　形	97	
2755	―――	I-13	頁　岩	105.00	91.90	72.00	830.0	完　形	97	
2756	―――	I-13	頁　岩	81.20	89.00	59.75	419.0	完　形	97	
2757	―――	I-18	硬砂岩	85.10	74.95	45.00	305.0	完　形	97	
2758	―――	J-10	頁　岩	69.45	68.05	41.65	216.0	完　形	97	
2759	―――	J-10	頁　岩	88.30	60.80	67.20	505.0	完　形	97	

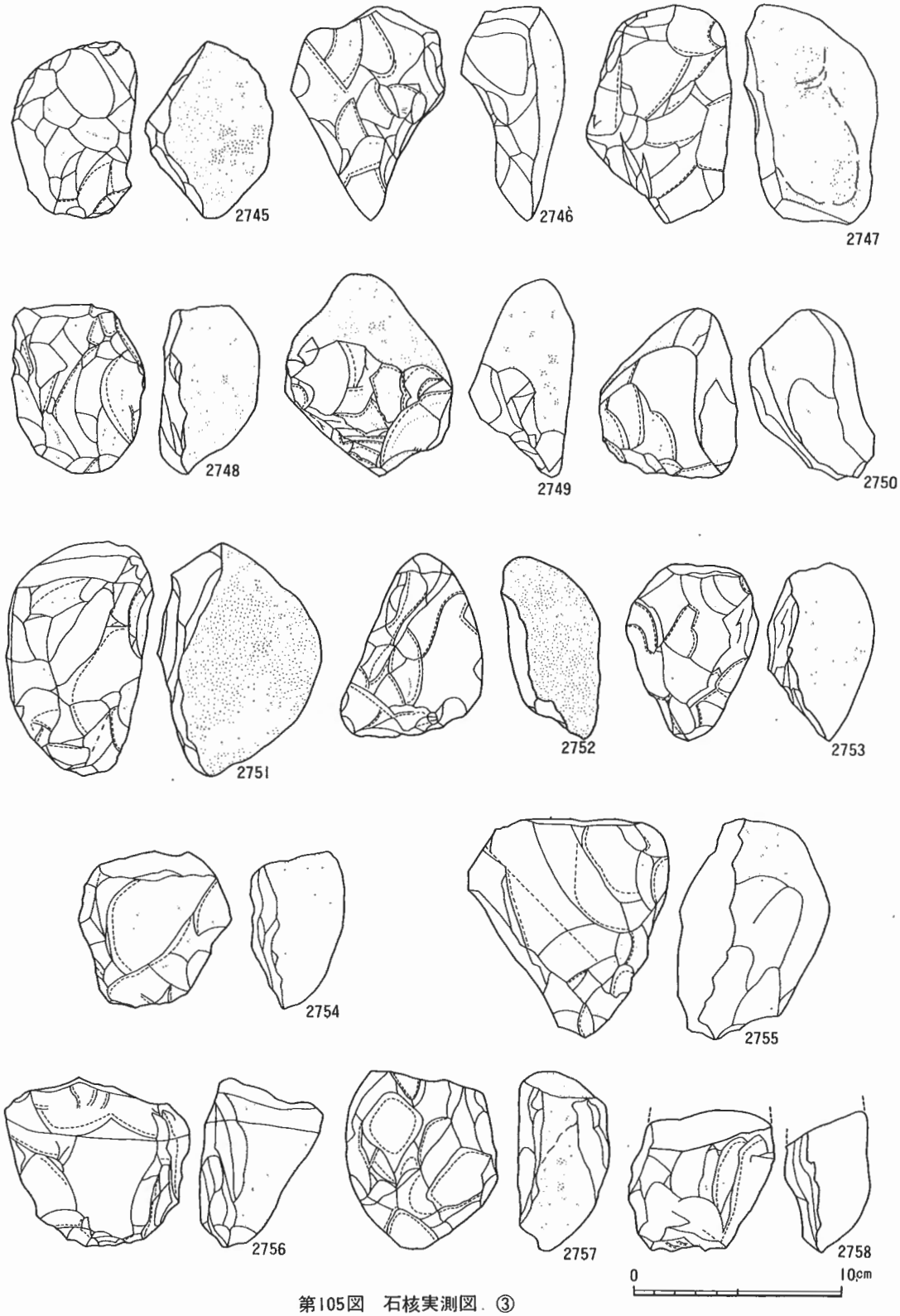
第83表　石核計測表 ①



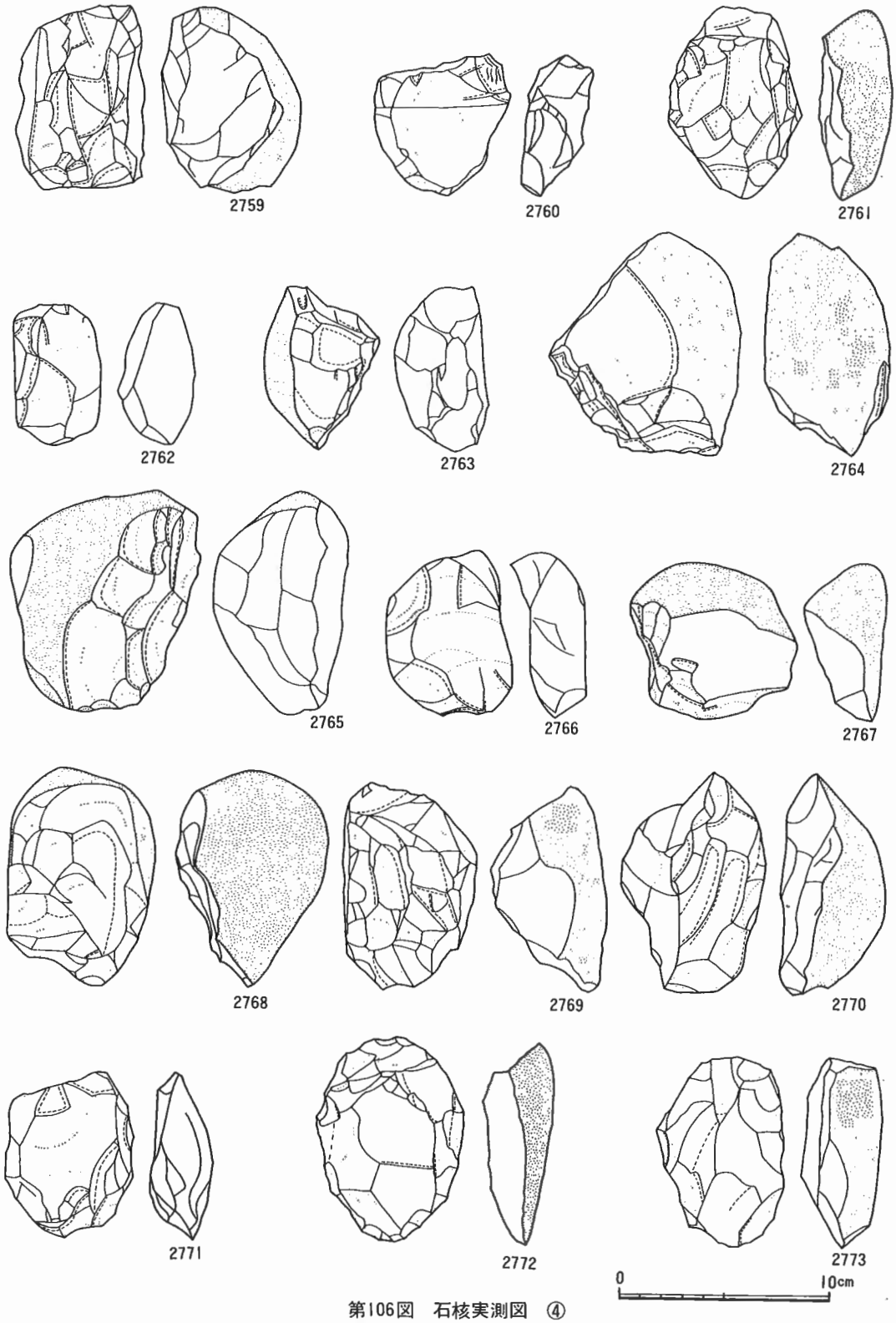
第103図　石核実測図　①



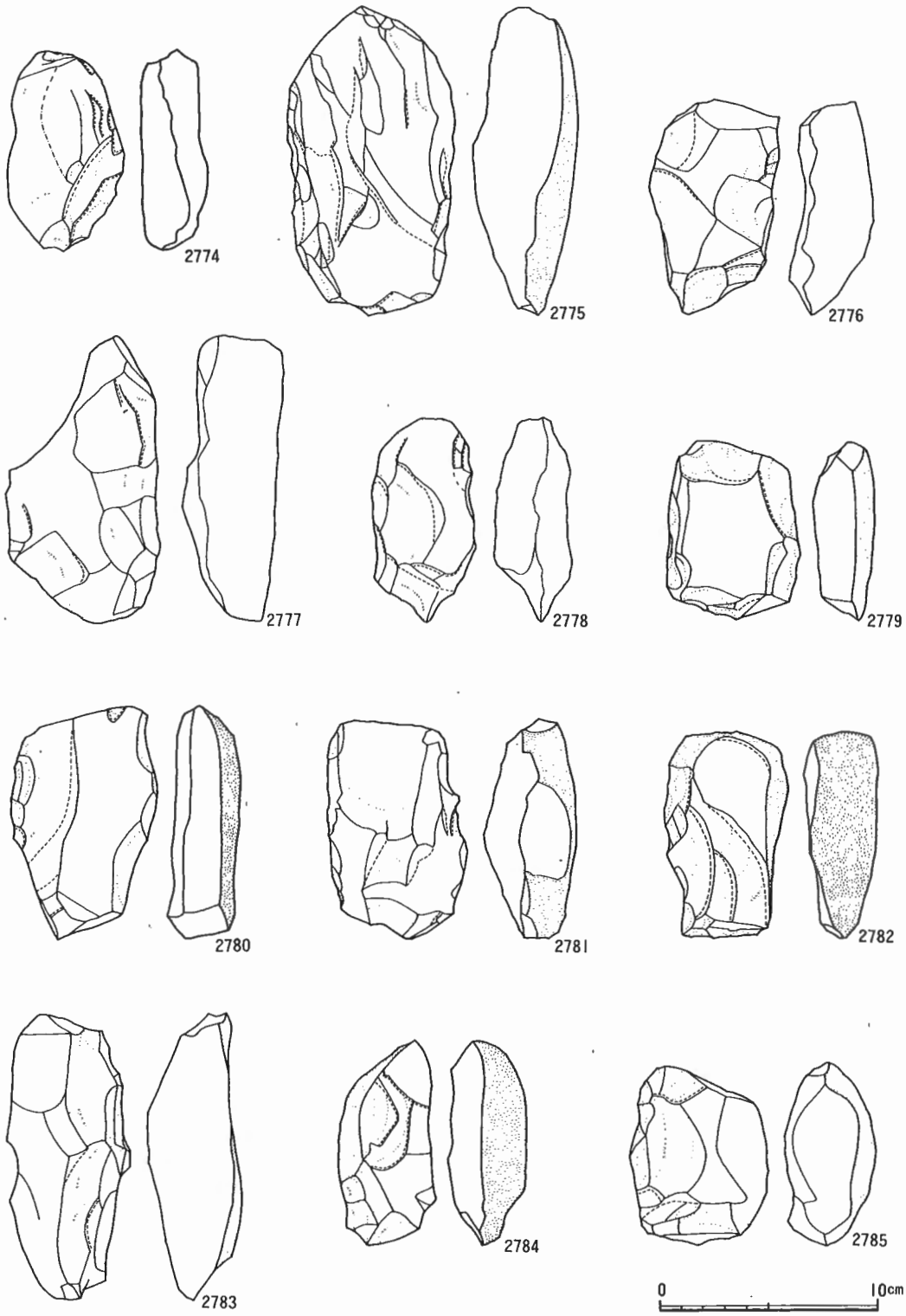
第104図　石核実測図　②



第105図　石核実測図．③



第106図　石核実測図　④

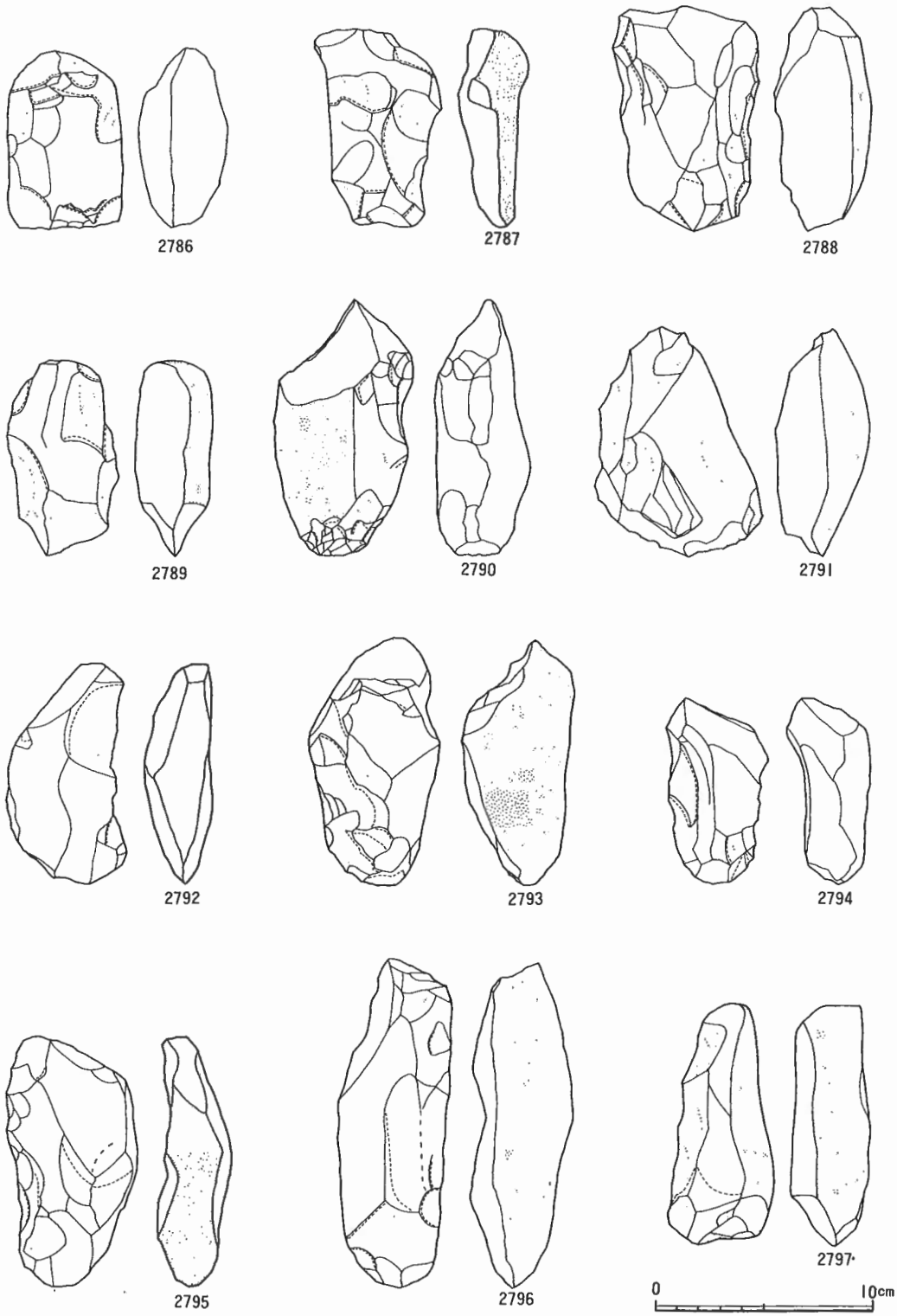


第107図　石核実測図　⑤

〔単位は mm および g（　）内は現存値〕

No.	分　類	出土区	石　材	最大長	最大幅	最大厚	重　量	遺存状態	図版No.	備　考
2754	―――	I-12	硬砂岩	75.15	73.65	45.15	259.0	完　形	97	
2755	―――	I-13	頁　岩	105.00	91.90	72.00	830.0	完　形	97	
2756	―――	I-13	頁　岩	81.20	89.00	59.75	419.0	完　形	97	
2757	―――	I-18	硬砂岩	85.10	74.95	45.00	305.0	完　形	97	
2758	―――	J-10	頁　岩	69.45	68.05	41.65	216.0	完　形	97	
2759	―――	J-10	頁　岩	88.30	60.80	67.20	505.0	完　形	97	
2760	―――	J-14	頁　岩	68.00	65.00	34.05	143.0	完　形	97	
2761	―――	J-16	硬砂岩	91.00	64.20	34.30	213.0	完　形	97	
2762	―――	J-18	頁　岩	66.90	42.15	36.85	142.0	完　形	97	
2763	―――	K-12	頁　岩	77.50	54.60	45.85	187.0	完　形	97	
2764	―――	K-13	硬砂岩	105.10	91.90	59.70	759.0	完　形	97	
2765	―――	K-18	頁　岩	105.20	90.80	64.35	728.0	完　形	97	
2766	―――	K-19	頁　岩	78.50	61.30	37.70	250.0	完　形	97	
2767	―――	L-13	砂　岩	80.25	74.10	39.25	229.0	完　形	98	
2768	―――	L-21	頁　岩	103.75	70.55	72.95	610.0	完　形	98	
2769	―――	M-23	頁　岩	97.25	64.00	56.00	460.0	完　形	98	
2770	―――	M-24	頁　岩	105.00	68.90	50.00	371.0	完　形	98	
2771	―――	M-24	頁　岩	79.20	61.05	30.25	170.0	完　形	98	
2772	―――	C-12	頁　岩	97.00	71.15	34.10	222.0	完　形	98	
2773	―――	C-15	頁　岩	90.15	62.00	37.60	233.0	完　形	98	
2774	―――	28住居	頁　岩	91.90	53.90	31.00	172.0	完　形	98	
2775	―――	E-9	砂　岩	141.00	77.50	48.40	570.0	完　形	98	
2776	―――	E-11	頁　岩	97.70	59.50	37.45	261.0	完　形	98	
2777	―――	E-11	頁　岩	131.60	71.30	47.00	422.0	完　形	98	
2778	―――	E-13	頁　岩	93.65	48.00	36.00	179.0	完　形	98	
2779	―――	E-14	頁　岩	81.40	61.45	28.45	190.0	完　形	98	
2780	―――	F-9	頁　岩	106.30	67.00	34.50	283.0	完　形	98	
2781	―――	F-11	硬砂岩	100.00	64.50	42.45	274.0	完　形	98	
2782	―――	F-20	頁　岩	94.55	57.00	34.10	218.0	完　形	98	
2783	―――	G-12	頁　岩	131.15	57.40	43.00	251.0	完　形	99	
2784	―――	G-13	頁　岩	93.45	45.40	36.30	169.0	完　形	99	
2785	―――	G-18	頁　岩	82.20	64.40	41.80	252.0	完　形	99	
2786	―――	H-22	頁　岩	82.00	54.15	40.65	197.0	完　形	99	
2787	―――	I-6	頁　岩	90.30	58.40	32.20	171.0	完　形	99	
2788	―――	I-14	硬砂岩	102.70	68.35	44.65	352.0	完　形	99	
2789	―――	J-13	頁　岩	89.80	52.40	36.00	189.0	完　形	99	
2790	―――	J-17	硬砂岩	117.50	64.10	43.70	346.0	完　形	99	
2791	―――	J-20	頁　岩	104.00	77.25	43.20	322.0	完　形	99	
2792	―――	J-23	頁　岩	101.00	55.75	31.40	188.0	完　形	99	
2793	―――	K-12	頁　岩	113.80	60.65	52.00	400.0	完　形	99	
2794	―――	K-19	頁　岩	90.25	47.50	38.80	151.0	完　形	99	
2795	―――	L-13	頁　岩	115.00	61.25	33.55	261.0	完　形	99	
2796	―――	L-13	頁　岩	150.40	52.60	42.20	408.0	完　形	99	
2797	―――	M-22	頁　岩	110.00	48.30	36.65	207.0	完　形	99	

第84表　石核計測表 ②



第108図　石核実測図　⑥

第2節　土　器

本調査によって得た土器はおよそ15,000点である。それは縄文時代早期前半の押型文土器・縄文土器・撚糸文土器を主体としている。

これらは文様要素により，

Ⅰ．縄文の施文される土器（縄文土器）

Ⅱ．撚糸文の施文される土器（撚糸文土器）

Ⅲ．山型押型文の施文される土器（山形押型文土器）

Ⅳ．格子目押型文の施文される土器（格子目押型文土器）

Ⅴ．楕円押型文の施文される土器（楕円押型文土器）

Ⅵ．その他の押型文土器

Ⅶ．無文土器

Ⅷ．条痕文系土器

に分類される。

Ⅰ．縄文土器

1．器面内外面に縄文の施文される表裏縄文土器。およびそれらと胎土・焼成・色調等を類似する土器（1001～1056）。

これらは胎土に多量の金雲母を含有する脆弱な土器と，白色砂粒・長石・石英等を含有する硬質な土器に大別される。

縄文原体は2段のＬＲが多用され，単節斜縄文が施文される。その他ＲＬおよび異条縄文の施文されるものが見られる。

口縁部

1001・1002は胎土に白色砂粒・長石・径3～5㎜の小礫・砂粒を多量に含有する硬質な土器で，色調は茶褐色を呈する。口縁部先端で外反し，口唇部は1001では丸く，1002では一部平坦に整形される。口唇部直下より，外面には原体を斜位回転して，縦走するＬＲの斜縄文が施文され，内面には横位回転による斜縄文が施文される。内面は器面の凹凸が多いため，縄文は断続したものとなる。1002の口径は，正円形をなすものとして13～14㎝に復元される。器厚6～8㎜。

1003は胎土に白色砂粒を多量に含有する脆弱な土器で，色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。弱く外反し，口唇部は平坦に整形される。外面には原体を縦位回転してＬＲの斜縄文が施文され，内面には横位回転による斜縄文が施文される。口唇部にも斜縄文が施文される。

1004～1011・1013～1016は胎土に多量の金雲母が含有される脆弱な土器である。器厚は6

～7㎜で，色調は暗茶褐色を呈する。1004～1007・1016は弱く外反し，平坦に整形される口唇部と内外面には，原体を横位回転してＬＲの斜縄文が施文される。1005は外面に太い縄文が，内面に細い縄文が施文される。1007は縄文の節の中の繊維束が明瞭に観察できるもので，外面の縄文は方向をかえて施文される。

1008～1010は異条縄文が口唇部と内外面に施文されるものである。1008・1009は，胎土に金雲母の他に長石が含有され，器厚6～7㎜で，色調は明茶褐色を呈する。1010は器厚7㎜で，色調は暗褐色を呈する。

1011は器面の凹凸の激しい土器で，口唇部の整形も粗雑である。胎土には金雲母の他に長石・石英が含有され，器厚5～8㎜で，色調は茶褐色を呈し，内面には炭化物が付着する。内外面に原体を横位回転して，細いＲＬの斜縄文が施文される。内面の施文は部分的である。内外面より穿孔されるが，内面からのものは，位置が違ったためか途中で中断している。土器焼成前のものかもしれない。

1012は白色砂粒と径3～4㎜の小礫を含有する硬質な土器で，直立する口縁部の外面には，原体を縦位回転して条間隔が広くて，細いＬＲの斜縄文が施文される。内面には同一原体を横位・斜位回転して斜縄文が施文される。器厚は7㎜で，色調は茶褐色を呈する。外面からの穿孔が見られる。土器焼成前のものかもしれない。

1013は口唇部は丸味を持ち，内外面に原体を横位回転して、ＲＬの斜縄文が施文される。器厚8㎜で，色調は外面が淡茶褐色，内面は暗茶褐色を呈する。

1014は弱く外反し，口唇部は押圧され平坦に整形される。外面と口唇部に原体を横位回転して，細いＬＲの斜縄文が施文される。色調は茶褐色を呈する。

1015は口縁部先端で外反し，口唇部は丸味を持つ。外面に口唇部直下より原体を縦横に回転させて，異方向のＬＲの斜縄文が施文され，縦位の羽状縄文となる部分が見られる。色調は暗茶褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

胴　部

1017～1040は胎土に多量の金雲母と微量の長石が含有される胴部破片である。器厚は5㎜の薄手のものから7㎜のものが見られる。色調は淡茶褐色から暗茶褐色を呈する。1017～1020は内外面にＬＲの原体を横位回転して斜縄文が施文される。1022・1026・1028は外面にＬＲの原体を横位回転した斜縄文が施文され，内面には同一原体を斜位回転して縦走する縄文が施文される。

1023・1027・1031は外面に縦走するＬＲの縄文が，内面にはＬＲの斜縄文が施文される。

1024は外面からの穿孔が見られる。土器焼成前のものかもしれない。1025・1026・1029は，内面に異方向の縄文が施文される。

1032には金雲母が，1033には白色砂粒が多量に含有され，ともに底部近くの破片である。

1034・1035は外面に1段Ｌ$\left\{\begin{matrix}r\\r\end{matrix}\right.$の縄文原体を斜位回転して，縦走する無節縄文が施文される。

内面には同一原体を縦位回転して，斜位の縄文が施文される。

1036～1038はＬＲの縄文原体を横と縦の２方向に回転させ，羽状となる異方向縄文が施文される。1036は横位の羽状をなすもので，内面には同一原体を横位回転した斜縄文が施文される。1037は縦位の羽状をなすもので，内面には同一原体を方向をかえて横位回転し，斜縄文が施文される。1038は不規則な横位の羽状をなすもので，内面には斜縄文が施文される。

1039・1040は異条縄文が内外面に施文される。

1041～1048は白色砂粒・長石・石英を含有するもので，金雲母は含有されない。

1041は節の大きなＬＲの斜縄文が内外面に施文される。外面は重複するよう施文される。内面には輪積み痕が見られ，粘土を引き伸ばした部分に強く縄文が施文される。

1042は割れ口が凸面をなす輪積み痕の見られるもので，巾15㎜にわたって粘土が引き伸ばされ，その上にＬＲの原体を横位回転して，斜縄文が施文される。器厚７～９㎜で，外面は茶褐色，内面は暗茶褐色を呈し，炭化物が付着する。

1043も割れ口が凸面をなす輪積み痕の見られるもので，粘土は内面に厚く引き伸ばされる。内外面にＬＲの原体を横位回転して，斜縄文が施文される。器厚８～９㎜で，色調は外面が明茶褐色，内面が暗褐色を呈し，炭化物が付着する。

1044はＬＲの原体を，外面では縦位に，内面では横位に回転して，斜縄文が施文される。器厚８㎜で，色調は外面は茶褐色，内面は黒褐色を呈する。

1045はＬＲの原体を，外面では縦位に，内面では横位に回転して，斜縄文が施文される。器厚７～９㎜で，色調は外面が茶褐色，内面が暗茶褐色を呈する。

1046は外面に条間隔の広いＬＲの斜縄文が施文され，内面には細長く密接した節のＬＲの斜縄文が横位に１帯施文される。器厚８～９㎜，色調は暗茶褐色を呈し，胎土に淡灰褐色を呈する砂粒が多量に含有される。

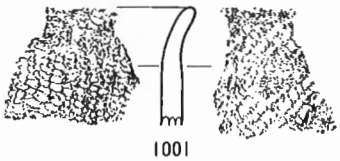
1047は外面が剝落するが，内面にＬＲの斜縄文が施文される。色調は明茶褐色を呈し，淡灰褐色の砂粒が多量に含有される。

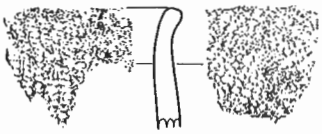
1048は口縁部近くの破片である。外面はＬＲの縄文が異方向に重複するよう施文される。内面は同一原体を横位回転して，斜縄文が施文される。器厚は６～９㎜で，色調は茶褐色を呈し，胎土に長石・石英・砂粒の他に，微量の金雲母が含有される。

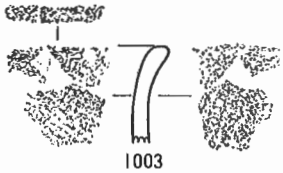
1049～1056は胎土に多量の金雲母と，長石・石英・砂粒を含有するもので，外面のみに縄文が施文される。

1049は細いＬＲの原体を横位回転して，不規則な斜縄文が施文される。割れ口は凸面の輪積み痕が見られる。器厚７～８㎜で，色調は淡茶褐色を呈する。1050は細いＬＲの縄文が異方向に施文される。器厚７㎜で，色調は暗茶褐色を呈する。1051はＲＬの縦走する縄文が施文される。器厚５～７㎜で，色調は外面は明茶褐色，内面は暗茶褐色を呈する。

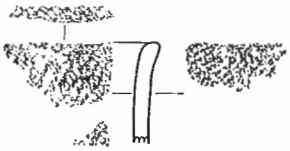
1052は内面が剝落する。外面はＲＬの原体を縦横に回転して，異方向の斜縄文が交叉するよ

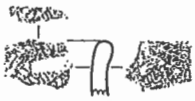

1001

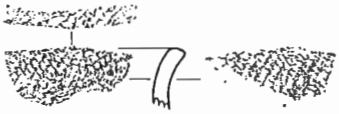

1002


1003

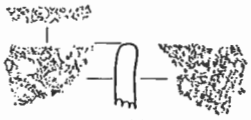
1004

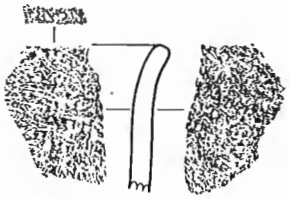

1005


1006


1007

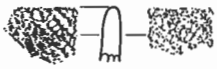
1008

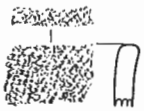

1009


1010

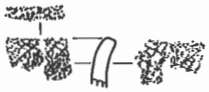
1011

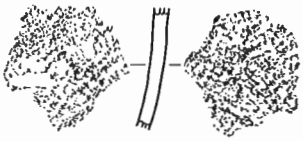
1012

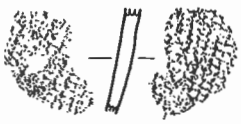

1013


1014

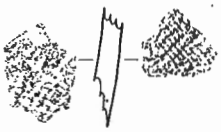
1015

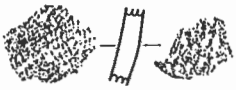

1016

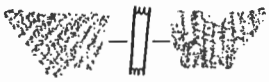

1017

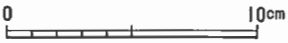

1018

1019


1020


1021


1022



第109図　土器拓影図　①

う施文される。色調は茶褐色を呈する。

1053は条間隔の広いＲＬの縄文が施文される。器厚７㎜で，色調は淡茶褐色を呈する。

1054は底部近くの破片で，ＬＲの斜縄文が施文される。1055は硬質な土器で，施文は浅く不鮮明である。1056は器面の凹凸の激しい土器で，ＬＲの斜縄文が施文される。

２．表裏縄文構成をとらないもの。

口縁部

ａ．外反する口縁部の内外面および口唇部に細い縄文が施文されるもの。およびそれらに類似するもの（1057～1077）。

1057～1063は胎土に長石・石英・淡灰褐色粒を含有する硬質の土器で，器厚５～７㎜。色調は暗黄褐色を呈する。縄文は原体を横位回転して施文される。

1057は大きく外反する口縁部で，細長く密接した節のＬＲの斜縄文が内外面および口唇部に施文される。補修孔が両面より穿孔され，補修孔より左側に巾３㎜，深さ１㎜の溝状に削られた部分が見られる。

1058は口唇部が磨耗している。細長く密接した節のＬＲの斜縄文が外面と内面に１帯施文される。内面には径９㎜，深さ３㎜の丸い窪みが見られる。

1059・1062は同一個体で，外面には条間隔の広いＬＲの縄文が斜位および一部縦走するように施文され，内面には細長く密接した節の斜縄文が施文される。1060は1057と同一個体か。

1061は直行する口縁部であるが，焼成・文様構成は1059に酷似する。

1063は口唇部および外面と，内面下半にＬＲの斜縄文が施文される。

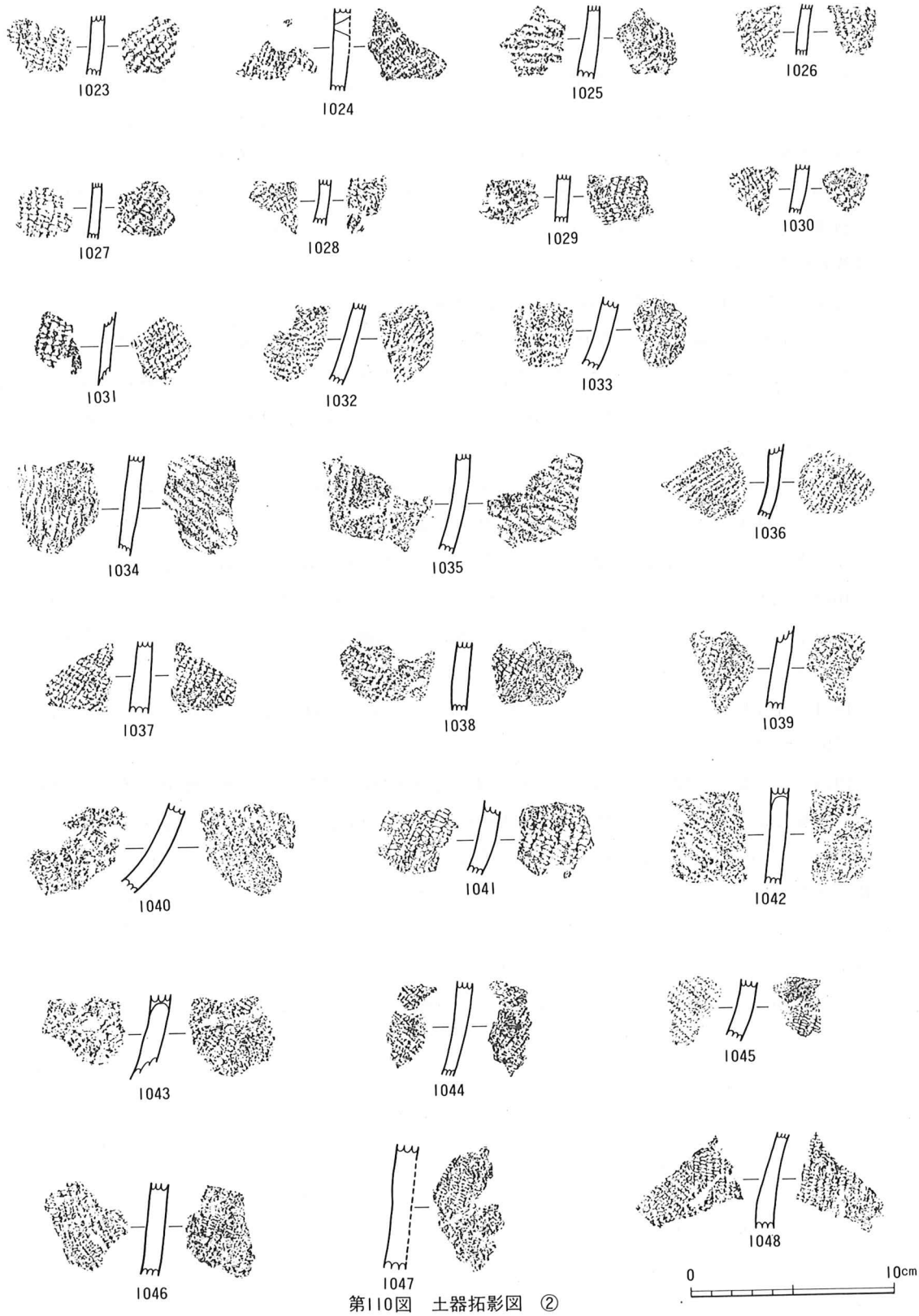
1065～1068は口縁部先端で器厚を薄くしながら外反し，口縁部内面に羽状縄文の施文されるもの。

1065の外面はＬＲの原体を横位回転して斜縄文が施文される。口唇部頂部にはＲＬの斜縄文が施文され，内面は口唇部よりＲＬ・ＬＲ・ＲＬの原体を交互に横位回転して，羽状縄文が施文される。胎土には多量の淡黄褐色粒と微量の黒雲母が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

1066・1067は外面に口唇部直下に無文部を残して，長さ約23㎜のＬＲの原体を横位回転して，斜縄文が施文される。口唇部頂部から内面にかけ，ＲＬ・ＬＲ・ＲＬ・ＬＲと交互に横位回転して，羽状縄文が施文される。胎土には淡黄褐色粒・長石・石英・黒雲母が含有され，色調は外面が暗茶褐色を呈し炭化物が付着する。内面は明褐色を呈する。

1068は口唇部を欠損する。外面にはＬＲの斜縄文が施文され，内面にはＲＬ・ＬＲ・ＲＬを交互に施文して，羽状縄文が施文される。胎土には淡黄褐色粒が含有され，色調は淡茶褐色を呈する。

1064・1069～1077は口縁部先端で器厚を薄くしながら外反し，口唇部は尖頭状または丸くなる。外面は口唇部直下に無文部を残して斜縄文が施文され，口唇部から内面にかけ連続して縄文が施文される。



第110図　土器拓影図　②

1064の外面は丸みを持つ口唇部頂点より巾20㎜の無文部を残して，以下ＬＲの原体を横位回転して，斜縄文が施文される。口唇部頂点から内面にかけ，同一原体を2帯横位回転して，斜縄文が施文される。胎土には淡黄褐色粒を多量に含有し，色調は暗茶褐色を呈する。

1069は外面に巾15㎜の無文部を残し，以下太めのＬＲの斜縄文が施文される。口唇部はＬＲの斜縄文が強く押圧され平坦となる。内面にも同一原体による斜縄文が施文される。胎土に淡黄褐色粒を含有し，色調は淡褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。

1070・1071は同一個体と思われる。外面は巾8～12㎜の無文部を残し，節が細長く密接し，条が太いＬＲの斜縄文が施文される。口唇部から内面にかけて，同一原体により斜縄文が施文される。器厚は厚いところで12㎜を有し，胎土には淡黄褐色粒と径3～7㎜の小礫が多量に含有され，微量の繊維が混入される。色調は暗茶褐色から淡黄色を呈する。外面および内面の施文部に炭化物が付着する。

1072は外面に巾30㎜の無文部を残し，以下ＬＲの原体を横位回転して，斜縄文が施文される。口唇部は尖頭状をなし，頂点に1帯ＬＲの斜縄文が施文され，さらに内面に1帯重複するよう施文される。胎土には淡黄褐色粒と黒色砂粒が含有され，微量の繊維が含有される。

1073はＬＲの原体を左下がりに斜位回転して，縦走する縄文が施文される。縄文原体端の反復が観察できる。口唇部および内面に同一原体により斜縄文が施文される。胎土には淡黄褐色粒が含有され，色調は黒褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

1074は1070に酷似するもので，口唇部は一部平坦となる。器面には繊維痕が見られ，施文部に炭化物が付着する。

1075は口唇部が肥厚し，その直下よりＬＲの斜縄文が施文される。器面の磨耗が激しく，内面の斜縄文は不明瞭である。胎土には淡灰褐色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。

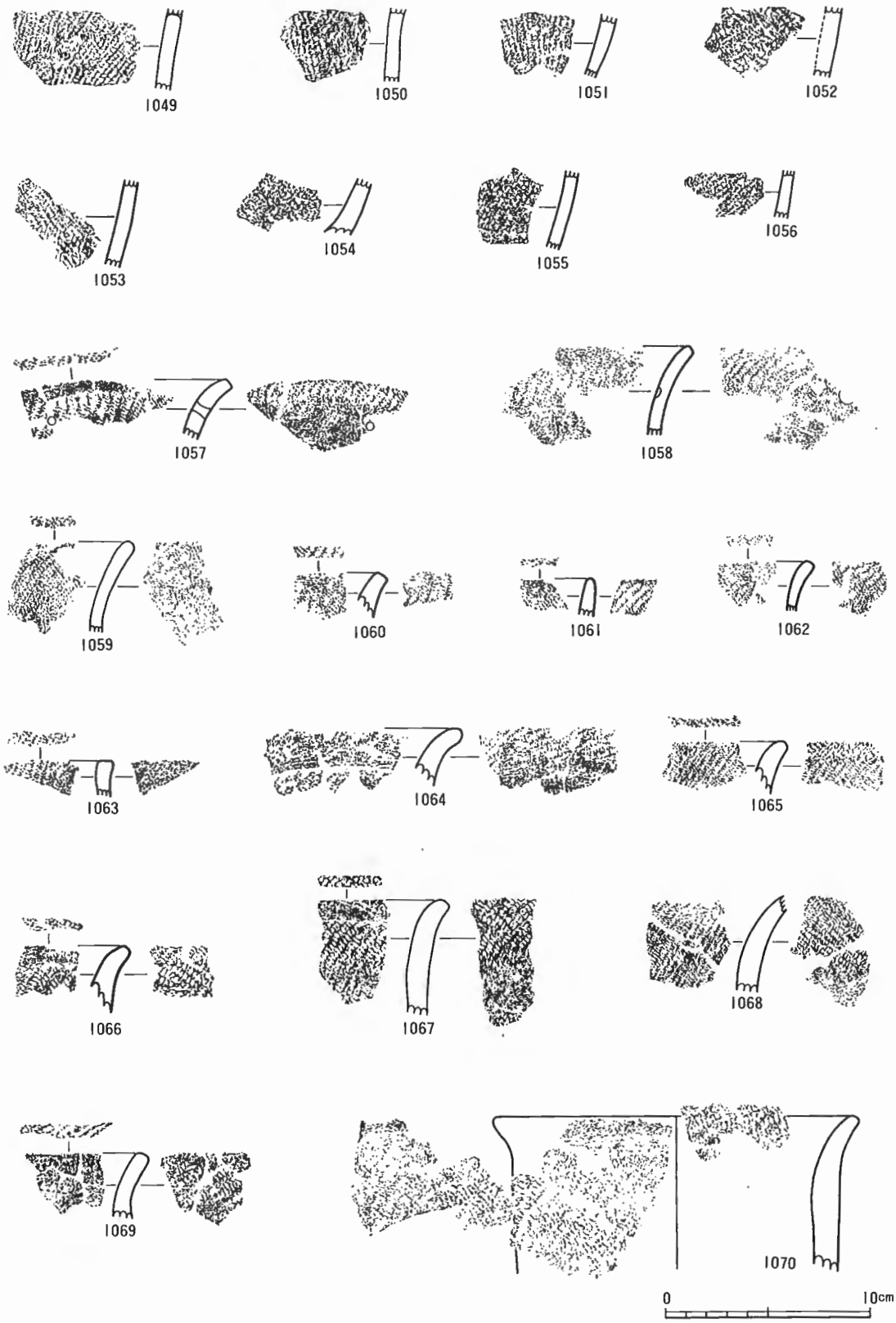
1076は巾20㎜の無文部を残して，ＬＲの斜縄文が施文される。口唇部および内面に2帯のＬＲの斜縄文が施文される。胎土には淡黄褐色粒を含有し，色調は暗褐色を呈す。外面に炭化物が付着する。

1077は胎土に微細な長石・石英・金雲母等の砂粒を多量に含有する。器面の風化が激しい。外面は巾10㎜の無文部を残して，ＬＲの斜縄文が施文され，内面は口唇部より3帯ＬＲの斜縄文が施文される。色調は淡褐色から黒褐色を呈する。

1078は直立する口縁部で，器面内外面と口唇部にＬＲが施文される。胎土は淡黄褐色粒を含有する。1079は口唇部が尖頭状をなし，内面にＬＲの原体を口唇部直下では横位に，以下縦位に回転して一見羽状となるよう，斜縄文が施文される。

ｂ．節が大きく，条の太い縄文が施文される口縁部（1082～1124）。

1082は開きぎみの口縁部が先端部で小さく外反するものである。波状口縁または不正円形の口縁部をなすものと思われる。外面は口唇部直下より，太いＬＲの原体を縦位回転して，斜縄文が施文される。内面には外面より細いＬＲの原体を，口唇部直下に横位回転して，斜縄文が



第111図　土器拓影図　③

施文される。口唇部にも同一原体が施文される。器厚は10㎜で，胎土に少量の黄褐色粒と径3～5㎜の小礫が含有される。微量の繊維が混入され，色調は暗褐色を呈する。

1083は外面に太いＬＲと，太さの違う２本のＬを撚り合せたＲＬを縦位回転して，縦位の羽状となるよう縄文が施文される。内面には右下がりの斜縄文が施文される。口唇部の施文は磨耗している。波状口縁となるものかもしれない。器厚は10～12㎜で，胎土に微量の繊維を含有し，色調は灰白色を呈する。

1085は外面にＲＬとＬＲを縦位回転して，羽状縄文が施文される。内面および口唇部には右下がりの斜縄文が施文される。口唇部は強く押圧される。微量の繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。

1086・1087・1095は太いＬＲと，太さの違う２本のＬを撚り合せたＲＬを縦位回転して，羽状縄文が施文される。内面は右下がりの縄文が施文されるが，浅く不鮮明である。口唇部平坦に強く押圧整形され，右下がりの縄文が施文される。施文順序は外面→口唇部→内面である。胎土には灰白色粒と微量の繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

1088は外面が剝落する。裏面には太さの異なる２本のＬを撚り合わせたＲＬの斜縄文が施文される。口唇部にもＲＬが施文される。1089は内面および口唇部にＲＬの斜縄文が施文される。

1090は口唇部が尖頭状となる。外面には節が細く密接し，条の太い縦走する縄文が施文される。口唇部は同一原体を，頂点より外面に１帯，内面に２帯横位に回転施文される。器厚は11㎜で，胎土に多量の繊維を含有し，色調は灰褐色を呈する。

1091は先端部で肥厚外反する。外面には太い右下がりの斜縄文が施文される。口唇部頂部および内面に左下がりの斜縄文が施文される。内面には横位の調整痕が見られる。胎土には多量の白色粒と繊維が含有される。

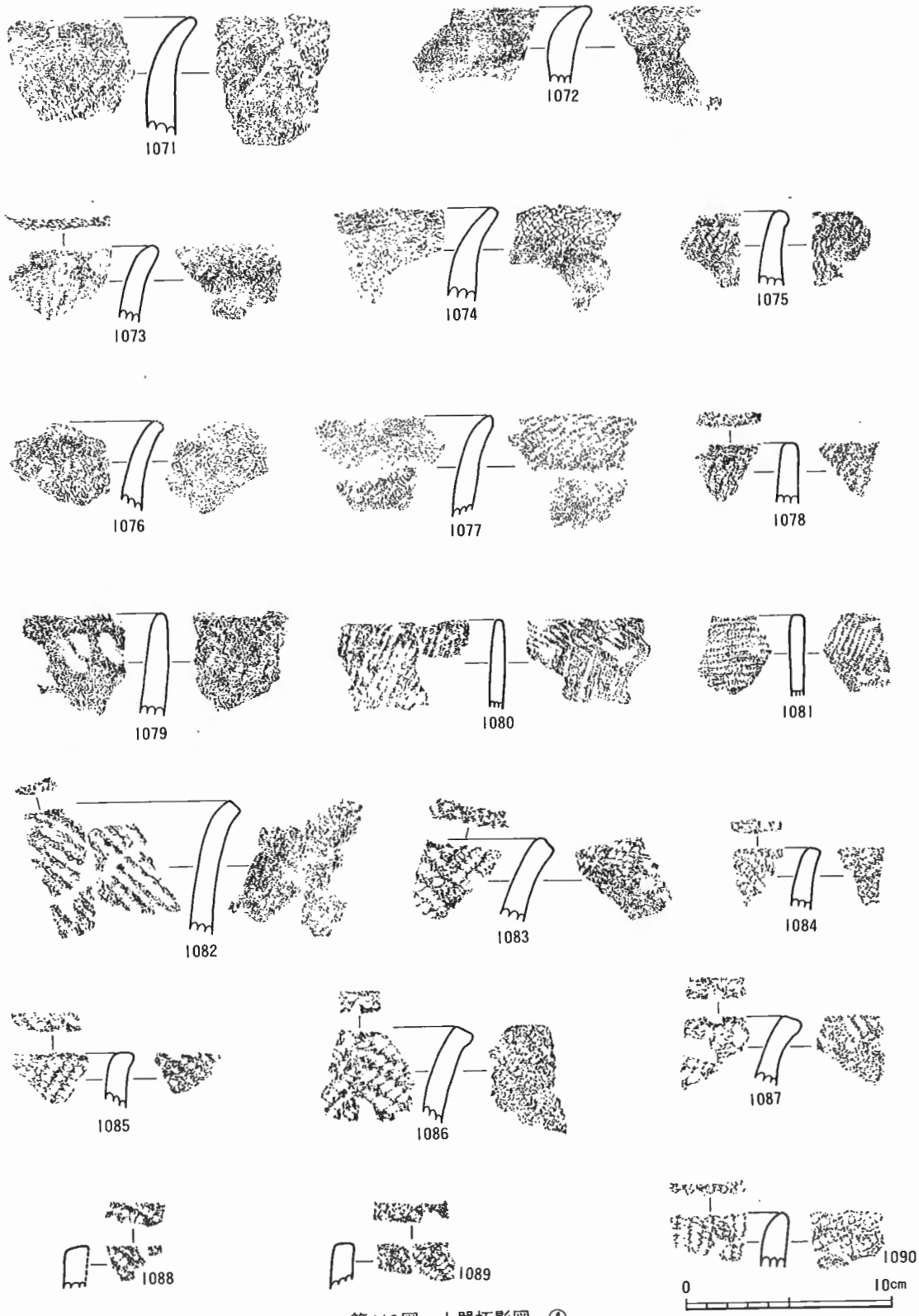
1092は口唇部が平坦に整形される。外面には太い左下がりのＬＲの斜縄文と，細くて条間隔の広い右下がりのＬＲの斜縄文が施文される。内面には細いＬＲの斜縄文が施文される。器厚８～９㎜で，胎土に繊維が混入される。色調は暗灰褐色を呈する。

1093は左下がりの太いＲＬが施文され，内面は口唇部直下に浅い横走する縄文が見られる。口唇部は平坦となる。器厚９㎜。繊維を含有する。色調は暗灰褐色を呈する。

1094は外面に太いＲＬの原体を縦位回転して，帯状に斜縄文が施文される。内面は同一原体を横位回転して，斜縄文が施文される。口唇部平坦。器厚10㎜。胎土に茶褐色粒・繊維を含有し，色調は灰褐色を呈する。

1096は1095と施文構成を同じくするが，色調が灰白色を呈し，胎土に多量の金雲母が含有される。

1097・1098は直行する口縁部で，口唇部は平坦に削がれたようになる。外面には右下がりのＲＬの斜縄文が，縦位の帯状に施文される。内面は左下がりのＲＬの斜縄文が施文される。器厚８～９㎜。胎土に白色粒と砂粒が含有され，微量の繊維が混入される。



第112図　土器拓影図　④

1099は口唇外面が剝落する。外面には細い縄文が縦位の羽状に施文され，内面には左下がりのＲＬの斜縄文が施文される。胎土は器壁内部は灰白色を呈し，表面は暗褐色を呈する。微量の繊維が混入される。

1100は口唇部で弱くふくらみを持ち外反するものである。外面にはＬＲの原体を縦回転して，斜縄文が帯状に施文される。胎土は小礫と繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。1101の縄文は２種類の縄文が施文される。1102は口唇部に粘土紐を貼付して整形される。外面には縦位の，内面には横位の施文が見られる。撚糸文かもしれない。

1103は外面は無文部となり，内面に右下がりの横走する縄文が施文される。1104は口唇部が外側に開いて尖頭状になる。内外面に縄文が施文されるが不明である。1105は口唇部で外反するもので，器厚14㎜を有する。外面の施文は不明瞭で，口唇部頂部より内面にかけ左下がりの斜縄文が施文される。1106は外面は無文部となり，内面に横走するＲＬの縄文が施文される。

1107～1110は，口唇部に粘土紐を貼付し整形されるものである。

1107は貼付された粘土紐は外面に薄く引き伸ばされる。外面および口唇部に縄文が施文されるが不明瞭である。淡黄褐色粒・小礫・繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

1108は口唇部頂部から外面にかけ，巾15㎜の粘土紐が貼付され引き伸ばされる。その上より太いＬＲの原体を縦位回転して，斜縄文が帯状に施文される。器厚は７㎜で，胎土に微量の繊維を含有し，色調は暗黄褐色を呈する。

1109は貼付される粘土紐は少ない。右下がりの太い斜縄文が施文される。器厚９㎜。胎土に白色粒・繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

1110は口唇部が平坦に整形され，角頭状になる。縄文は貼付された粘土の上より右下がりの斜縄文が施文される。胎土に黄褐色粒・石英・繊維が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

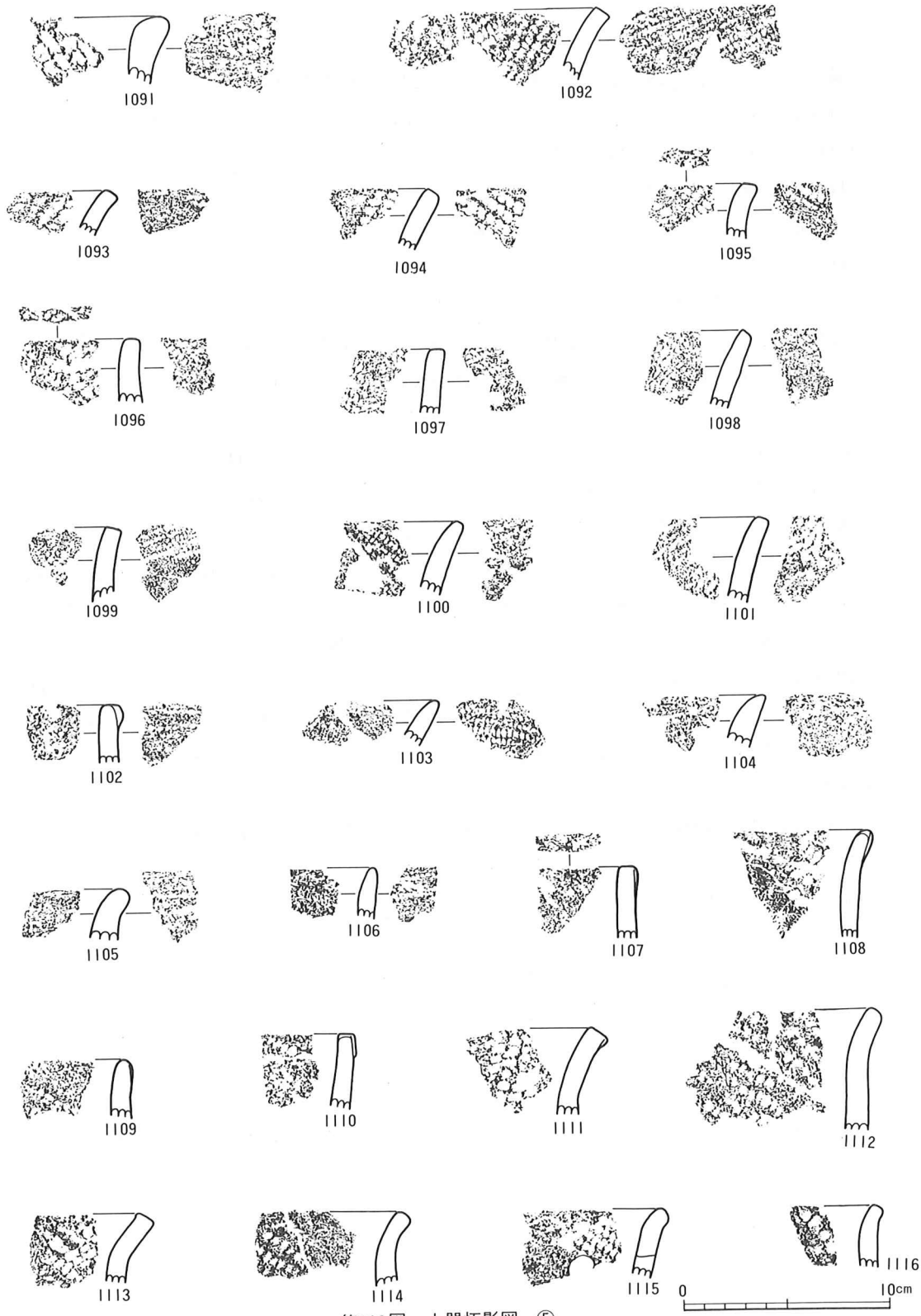
1111は外反し，口唇部は強く押圧して平坦に整形され，粘土が外面に押し出される。波状口縁あるいは不正円形をなすものかもしれない。ＲＬの原体を縦位回転され施文される。胎土に淡黄褐色粒・小礫が含有され，色調は淡茶褐色を呈する。1112は遺構内遺物。

1113は口唇部より20㎜のところで「く」の字状に外反するもので，口唇部は強く押圧され，平坦に整形される。太いＬＲの原体を縦位回転して，斜縄文が施文される。胎土には多量の繊維が含有され，色調は外面が暗褐色，内面は淡灰褐色を呈する。1114は遺構内遺物。

1115は小さく「く」字状に外反するもので，口唇部は丸味をもつ。太いＬＲの原体を縦位回転して，斜縄文が帯状に施文される。胎土には黄褐色粒と繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。外面より補修孔が穿孔される。1116は遺構内遺物。

1117は波状口縁となると考えられる。ＬＲの斜縄文が施文される。灰白色粒・小礫・繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。

1118は口唇部が弱く肥厚し，粘土紐が貼付されるものか。左下がりの縄文が施文され，胎土



第113図　土器拓影図　⑤

に繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。1119 は遺構内遺物。

1120 は直立する口縁部で，太いＬＲの原体を縦位回転して，斜縄文が施文される。胎土には白色粒が多量に含有され，脆弱な土器である。

1121 は先端部で薄く外反する。口唇部は平坦に整形される。右下がりの太い縄文が１条見られる。胎土に白色粒・繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。

1122 は先端部で器厚を薄くし，大きく外反する。左下がりの縄文が施文されるが不明瞭である。胎土には淡黄褐色粒が含有され，色調は暗褐色を呈す。

1123 は直立する口縁部で弱く肥厚する。条間隔が広く、条の太いＬＲの斜縄文が施文される。胎土には白色粒と径２～３㎜の小礫，微量の繊維が含有される。1124 はさらに太いＬＲの斜縄文が施文される。

Ｃ．節の中に複数の節が見られる縄文が施文される口縁部（1125～1128）。

1125～1127 は，節の中に２つの節が見られる複節斜縄文が施文される。器厚７㎜。胎土には淡黄褐色粒と微量の黒雲母・繊維が含有される。色調は黒褐色を呈する。

1128 は節の中に３つの節が見られる斜縄文が施文される。器厚６～８㎜。胎土は白色粒と繊維が含有される。色調は濃灰褐色を呈する。

ｄ．その他斜縄文の施文される口縁部（1080・1081，1129～1136）。

1080 は直立する口縁部で，口径 13 ㎝と推定される。節の不明瞭な縄文原体を外面では縦位回転して，斜縄文が密接して施文され，内面には，口唇部直下に１帯横位回転して，斜縄文が施文される。器厚８㎜。胎土に繊維が多量に含有され，色調は器壁表面が黄褐色を呈し，内部は黒褐色を呈する。

1081 は直立する口縁部で，口唇部は平坦に整形される。外面にはＲＬの原体を左下がりに回転して，横走する縄文が施文され，内面では右下がりに回転して，縦位に近い左下がりの縄文が施文される。器厚７㎜。胎土には灰白色粒と微量の黒雲母が含有され，色調は灰褐色を呈する。

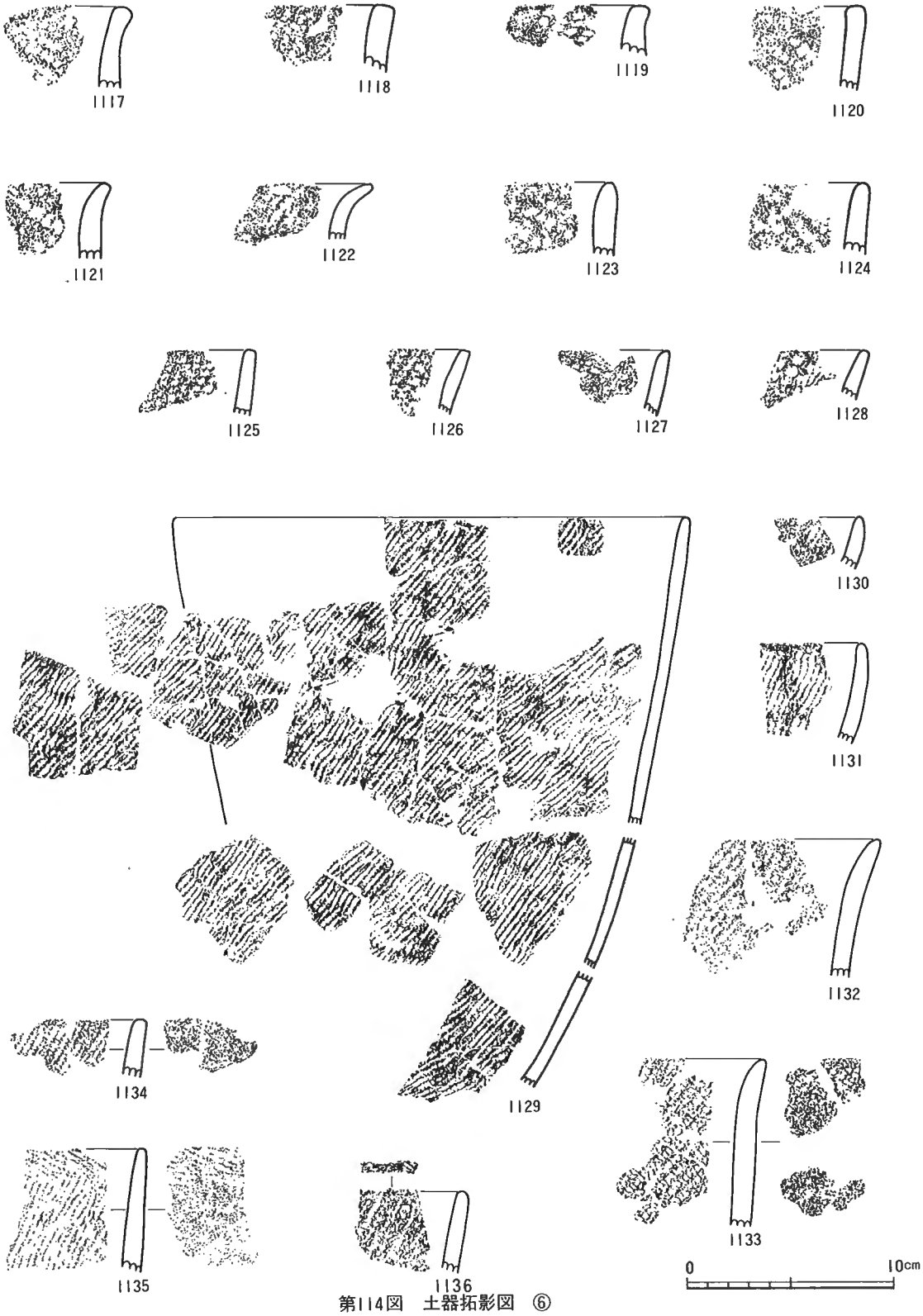
1129 は胴上半部の大破片で，ＲＬの原体を縦位回転して，斜縄文が器面全面に密着して施文される。器厚６～８㎜。胎土に多量の繊維が含有される。色調は灰褐色から黒褐色を呈し，一部内外面に炭化物が付着する。

1130 は弱く内湾するもので，斜縄文が帯状に施文される。1131 は遺構内遺物。

1132・1133 は弱く外反する口縁部で，1132 は左下がりの斜縄文が器面全面に施文される。1133 はＲＬの原体を，外面では全面に，内面では口唇部直下に横位回転して，斜縄文が施文される。胎土には白色粒・砂粒・繊維が含有され，色調は暗灰褐色と黒褐色を呈する。

1134 は直立し，口唇部は平坦に整形される。外面にＲＬの斜縄文が施文される。内面にも施文されるが不明瞭である。

1135 は口唇部直下の内外面に，細いＲＬの原体を１帯横位回転して，斜縄文が施文される。



第114図　土器拓影図　⑥

外面には以下縦位回転して，左下がりの斜縄文が施文される。胎土には淡黄褐色粒と繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

1136は太さの異なる2本のLを撚り合せたRLの斜縄文が施文される。口唇部には細い棒状の側面圧痕文のようなものが，斜めに施文される。胎土には繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。

胴　部

a．1137・1138は同一個体である。LRの縄文が縦位・斜位に施文される。器厚6～8㎜。胎土に淡黄褐色粒・石英・長石・黒雲母が含有され，色調は淡褐色から茶褐色を呈する。1138は内面が強く上から下へ引き伸ばされる輪積み痕が見られる。1139～1146はLRの斜縄文が施文され，器厚11～13㎜を有する。胎土には淡黄褐色～白色粒・長石・石英・黒雲母が含有される。色調は淡茶褐色から暗茶褐色を呈する。1140・1144には輪積み痕が見られる。

1147～1153は縦走するLRの縄文が施文される。器厚7～8㎜。胎土には淡黄褐色粒・白色粒・長石・石英・黒雲母が含有される。1149には微量の繊維が含有される。色調は淡黄褐色から茶褐色を呈する。

1154・1155は同一個体と思われる。横走するRLの縄文が施文され，1154には直交するように縦走するRの撚糸文が施文される。器厚10㎜。胎土には淡黄褐色粒・長石・石英・黒雲母が含有され，色調は明茶褐色から暗茶褐色を呈する。輪積み痕が見られる。

1156は横方向のLRの縄文が施文される。器厚10㎜。胎土には灰白色粒が含有され，色調は淡茶褐色を呈する。

1157～1159はLRの斜縄文が施文され，器厚9～10㎜。胎土に淡黄褐色粒・白色粒を含有する。1159は長石・石英・黒雲母が含有される。1158は内面に炭化物が付着する。色調は明茶褐色を呈する。

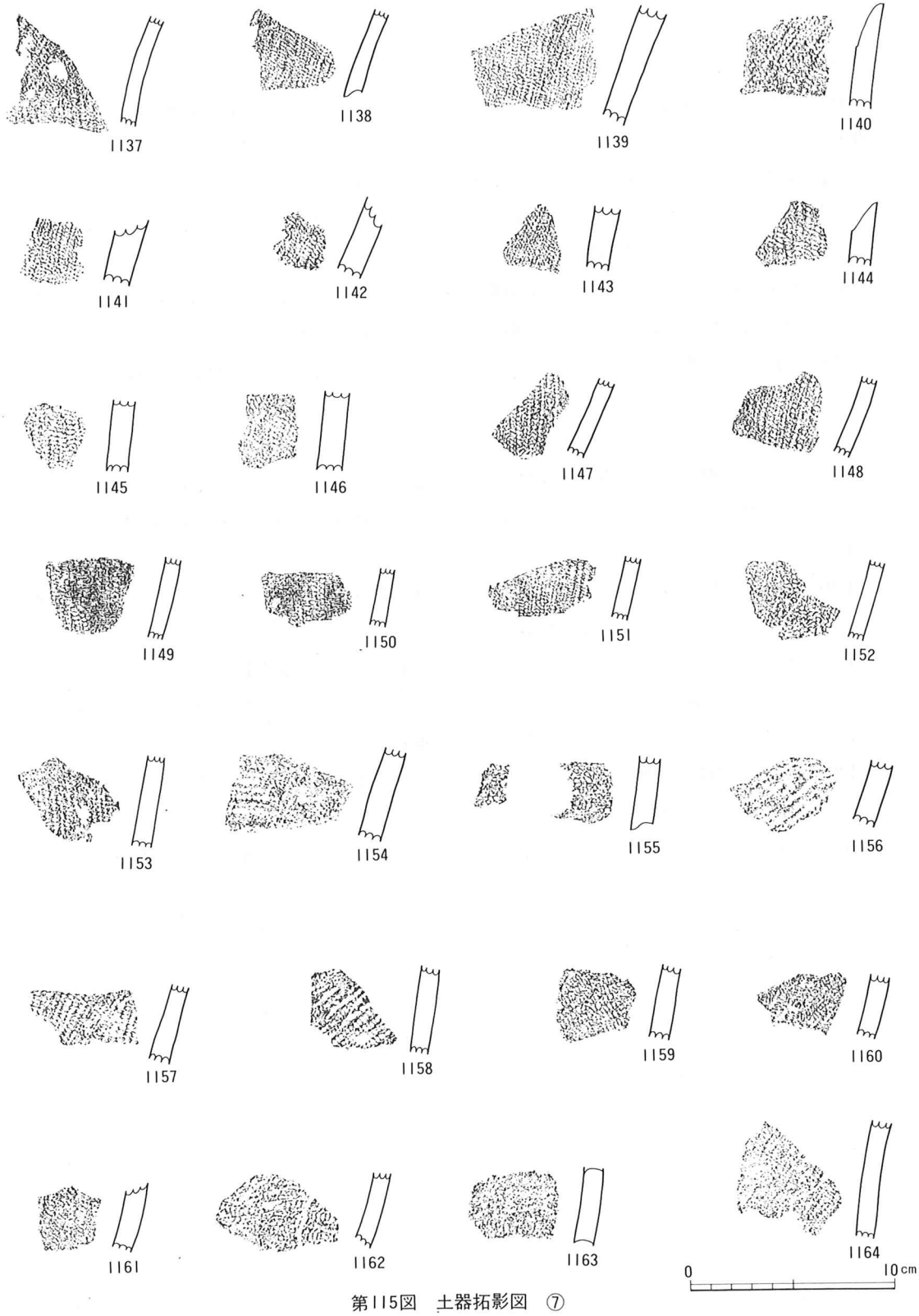
1160～1163・1174は，色調が黄褐色を呈し胎土に灰白色粒・長石・石英・黒雲母が含有される。LRの縄文が1160・1174では斜位に，1161では縦位に，1162・1163では横位に施文される。1163は上下の割れ口に輪積み痕が見られ，粘土帯の巾は30㎜強である。

1164・1169は径2～3㎜の淡黄褐色の小礫・黒雲母が多量に含有されるもので，LRの斜縄文が施文される。色調は茶褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

1165～1167は，節が細長く密接したLRの縄文が施文される。1165・1167は器厚9～11㎜で，淡黄褐色粒・白色粒・長石・石英・黒雲母が含有される。色調は暗茶褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。内面の調整は丁寧である。1166は器厚8㎜で，黄白色粒・長石・石英・黒雲母が含有される。色調は暗茶褐色を呈し，外面に厚く炭化物が付着する。

1168はLRの原体を縦位回転して，斜縄文が施文される。器厚8～10㎜で，胎土に繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

1170・1175は，LRの斜縄文が施文され，胎土に淡黄褐色粒・小礫・繊維が含有される。器



第115図　土器拓影図　⑦

厚 9 ㎜。外面に炭化物が付着する。

1171 は丸みを持つ胴部破片で，ＬＲの縄文が施文される。胎土に多量の繊維が含有され，内外面に炭化物が付着する。

1172 はＲＬの斜縄文が深く明瞭に施文され，胎土には繊維が含有される。

1173 は左下がりの縄文が施文され，胎土には長石・石英が多量に含有され，色調は明茶褐色を呈する。1177・1178 は遺構内遺物。

ｂ．1179～1193・1194 は左下がりの斜縄文が施文される。胎土には淡灰白色粒と微量の繊維が含有される。色調は灰褐色から暗灰褐色を呈し，外面に炭化物の付着するものが見られる。

1195 はＬＲの斜縄文が施文され，胎土に多量の金雲母が含有される。1196・1197・は遺構内遺物。

ｃ．1198～1208 は縄文が帯状施文されるものである。

1198～1200・1203 は，太いＲＬの原体を，無文部を残して縦位回転し，帯状の斜縄文が施文される。器厚 10 ㎜で，胎土に最大径 7 ㎜の小礫および白色粒・繊維が含有される。色調は淡茶褐色を呈する。1198 は遺構内遺物。

1201 は太いＬＲの縄文が施文される。胎土には茶褐色粒・繊維が多量に含有され，色調は暗灰褐色を呈す。1202 は 1209 と同一個体かと思われる。

1204～1207 は，細いＬＲの斜縄文が縦位の帯状に施文される。器厚 10 ㎜。胎土には淡黄褐色粒・白色粒・小礫・繊維が含有される。1205 は外面に炭化物が付着する。1207 は器面の風化が激しい。色調は暗灰褐色を呈する。1206 は遺構内遺物。

1208 はＲＬの斜縄文が無文部を残して施文される。器厚 7 ㎜。胎土には黄白色粒・長石・石英・黒雲母・繊維が含有される。

ｄ．1209～1242 は，撚りの異なる 2 本の縄文原体を縦位に回転し，異方向の斜縄文よりなる縦位の羽状縄文が施文される。

1209～1220 は，太いＬＲと，太さの異なる 2 本のＬを撚り合せたＲＬが，縦位に回転施文される。器厚 10～12 ㎜。胎土に白色粒・繊維が含有される。1212・1213 は内外面より穿孔される補修孔が見られる。

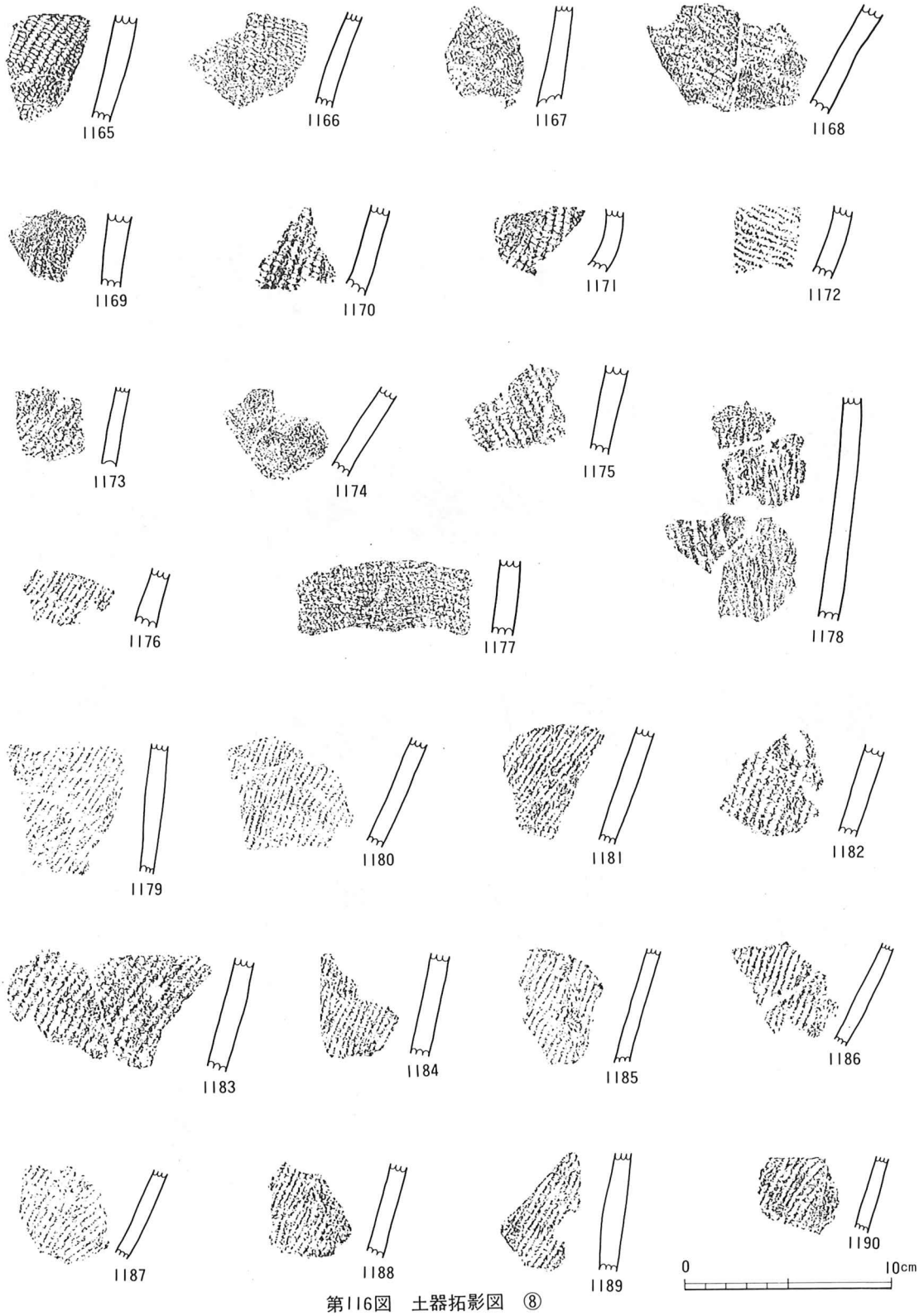
1221 は器面の磨耗が激しい。縄文が重複して施文される。1222 は遺構内遺物。

1223～1234 は，太めのＲＬと，それより細いＬＲを，縦位に回転施文して羽状縄文が施文される。器厚 9 ～11 ㎜。胎土に白色粒・黄褐色粒・繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

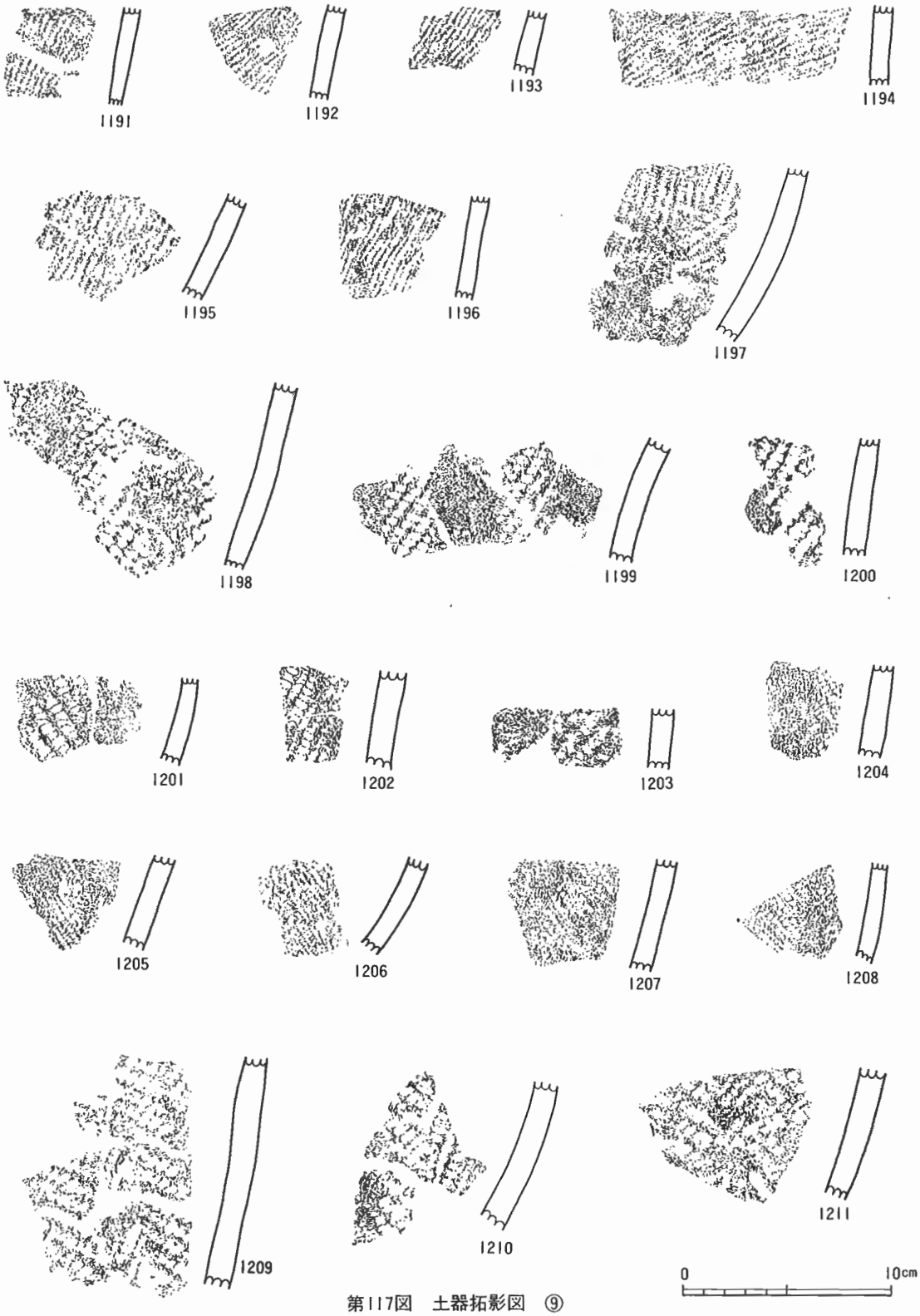
1235 は底部に近い部分の破片で，条間隔の広い斜縄文が羽状に施文される。胎土には茶褐色粒・小礫・繊維が含有される。

1236 は条間隔の広い縄文が羽状に施文される。浅く，節は丸くなる。胎土に茶褐色粒・繊維が多量に含有される。色調は暗灰褐色を呈す。1237 は遺構内遺物。

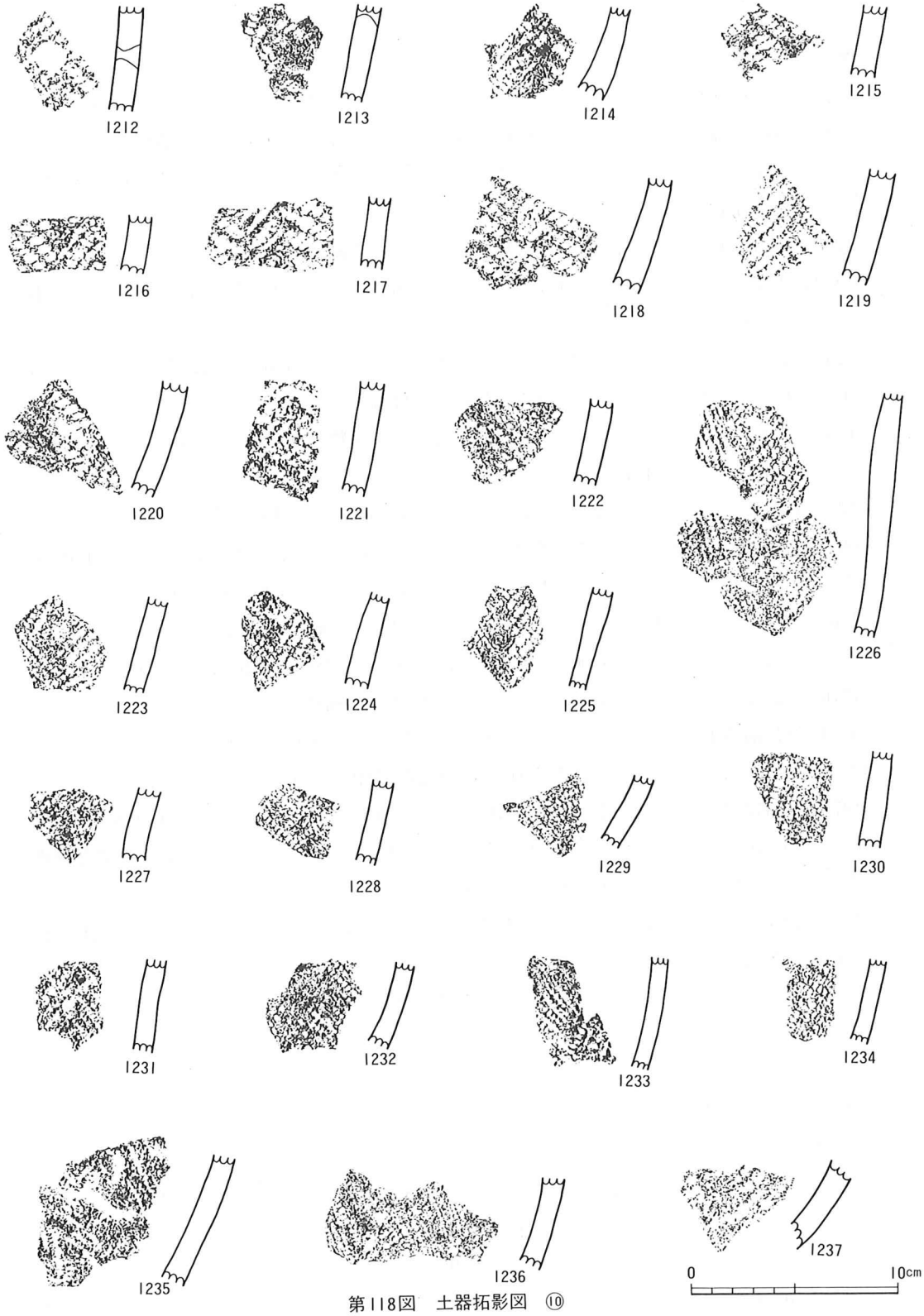
1238～1242 は節が不明瞭で，条の太い縄文が羽状に施文される。器厚 9 ～10 ㎜。1238・1240



第116図　土器拓影図　⑧



第117図　土器拓影図　⑨



第118図　土器拓影図 ⑩

は胎土に淡い桃色粒が含有される。

e．1243～1271は太い縄文が斜位または縦位に施文されるものである。胎土には黄褐色粒・白色粒・小礫・繊維が含有される。器厚は8～10㎜で，色調は淡黄褐色から暗茶褐色を呈する。

1243はＲＬの斜縄文が施文される。1244は条間隔の広いＬＲの斜縄文が施文され，内外面に薄く炭化物が付着する。

1245はＬＲ，1247はＲＬ，1250はＬＲ，1251はＲＬの縄文が施文される。

1252は左下がりの縄文が施文されるが，節はつぶれており，縄文施文後器面をナデ調整されたものと思われる。

1258は細長く密接した節のＬＲの斜縄文が明瞭に施文される。1261は口縁部近くの破片で外反する。ＬＲの斜縄文が施文され，外面に炭化物が付着する。

1262はＲＬの縄文が縦位に施文される。1263は遺構内遺物。1264も口縁部近くの破片で弱く外反する。巾9㎜の太いＬＲの斜縄文が施文される。

1265は縄文を施文後に，器面を平坦に調整したと思われ，節が連続せず，形も一定しない。1266は斜位に縄文が施文されるが，節は不明瞭で，条間隔は広く不規則に施文される。1267も右下がりの縄文が施文されるが，その上を平坦に調整され，縄文はつぶれている。

1268・1269は節の不明瞭な太い縄文が施文される。1269は施文が浅く，一部無文となるところが見られる。胎土に径3～5㎜の小礫が多量に含有され，外面に炭化物が付着する。

1270・1271は太い横走する縄文が施文される。1271には補修孔が見られる。

f．1272は節の中に2つの節が見られる複節の縄文と，節の細長い単節の縄文が施文される。器厚11㎜。胎土に黄白色粒・砂粒が含有され，色調は黒褐色を呈する。

1273は底部近くの破片である。条間隔の広い斜位の縄文が施文されるが，節が単節のもの，複節のもの，節の中に3つの節が表われるものが見られる。胎土には径3～5㎜の小礫と繊維が含有される。色調は暗褐色から黒褐色を呈する。

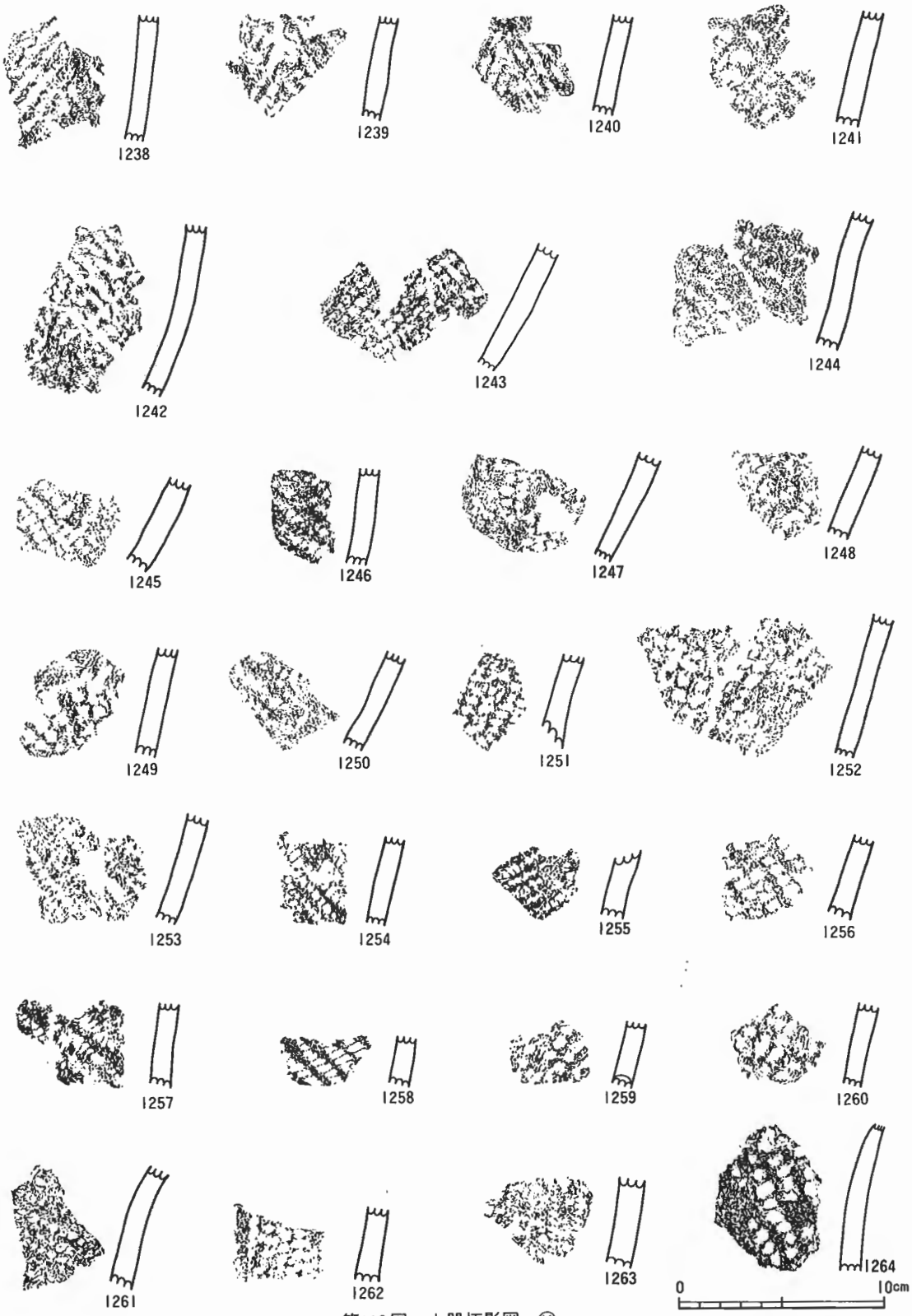
1274～1276は複節縄文ＲＬＲが施文される。器厚7～8㎜。胎土に微細な黒雲母・長石・石英・繊維が含有される。色調は茶褐色から黒褐色を呈する。

1277は太さの異なる2本のＲを撚り合せたＬＲの斜縄文が施文される。胎土には黄褐色粒・黒色砂粒と微量の繊維が含有される。

II．撚糸文土器

1．撚糸文が異方向に施文されるもの（2001～2018）。

2001は接合しないが同一個体と思われる。一段Ｒの撚糸文が，口縁部では口唇部頂部にかけて横位および斜位に施文され，胴部は縦位に施文される。器形は弱く開きながら，口唇部は弱く肥厚する。器面調整は丁寧である。器面に径0.5～1㎜の気泡痕のようなものが多数見られる。器厚10～13㎜。胎土には黄褐色粒・径3～5㎜の小礫・砂粒が含有される。色調は淡黄褐



第119図　土器拓影図 ⑪

色から黒褐色を呈する。

2002は外面が削がれるような口唇部をなす。Rの撚糸文が，口唇部頂部に1条斜めに施文され，以下右下がりと縦位に施文される。胎土・焼成は2001に類似する。

2003はRの撚糸文が口唇部頂部より右下がりに施文され，以下横位に施文される。

2004・2007～2009は同一個体と思われる。口縁部は直立し，弱く肥厚する。Rの撚糸文が口唇部頂部より約40㎜の巾で横位に施文され，以下胴部は縦位に施文される。器厚10～14㎜。径0.5～3㎜の気泡痕のような小さな穴が多数見られる。胎土には長石・石英・黒雲母・半透明赤色粒・小礫が含有される。色調は淡茶褐色から明灰褐色を呈する。

2005・2006は外側が削がれるような口唇部をなす。2005はRの撚糸文が横位に施文される。器厚13㎜。胎土・焼成は2001に類似する。2006は細いRの撚糸文が口唇部で横位に施文され，以下縦位に施文される。胎土には径3～5㎜の小礫が多量に含有される。

2010～2014は，Rの撚糸文が交叉するよう施文されるものである。

2010～2012は同一個体と思われる底部近くの破片である。胎土には長石・石英・黒雲母・砂粒が含有され，器面に径1㎜以下の小さな気泡痕のような穴が多数見られる。

2013は器厚13～14㎜で，胎土・焼成は2007に類似する。

2014は2010～2012と同一個体かと思われる。器厚10㎜。色調は明灰褐色から暗茶褐色を呈する。

2015は弱く肥厚外反する。Rの撚糸文が口唇部では横位に施文され，以下縦位に施文される。内外面より穿孔される補修孔が見られる。胎土には微量の長石・石英・黒雲母と茶褐色粒が含有される。器壁表面は淡黄褐色を，内部は黒褐色を呈する。

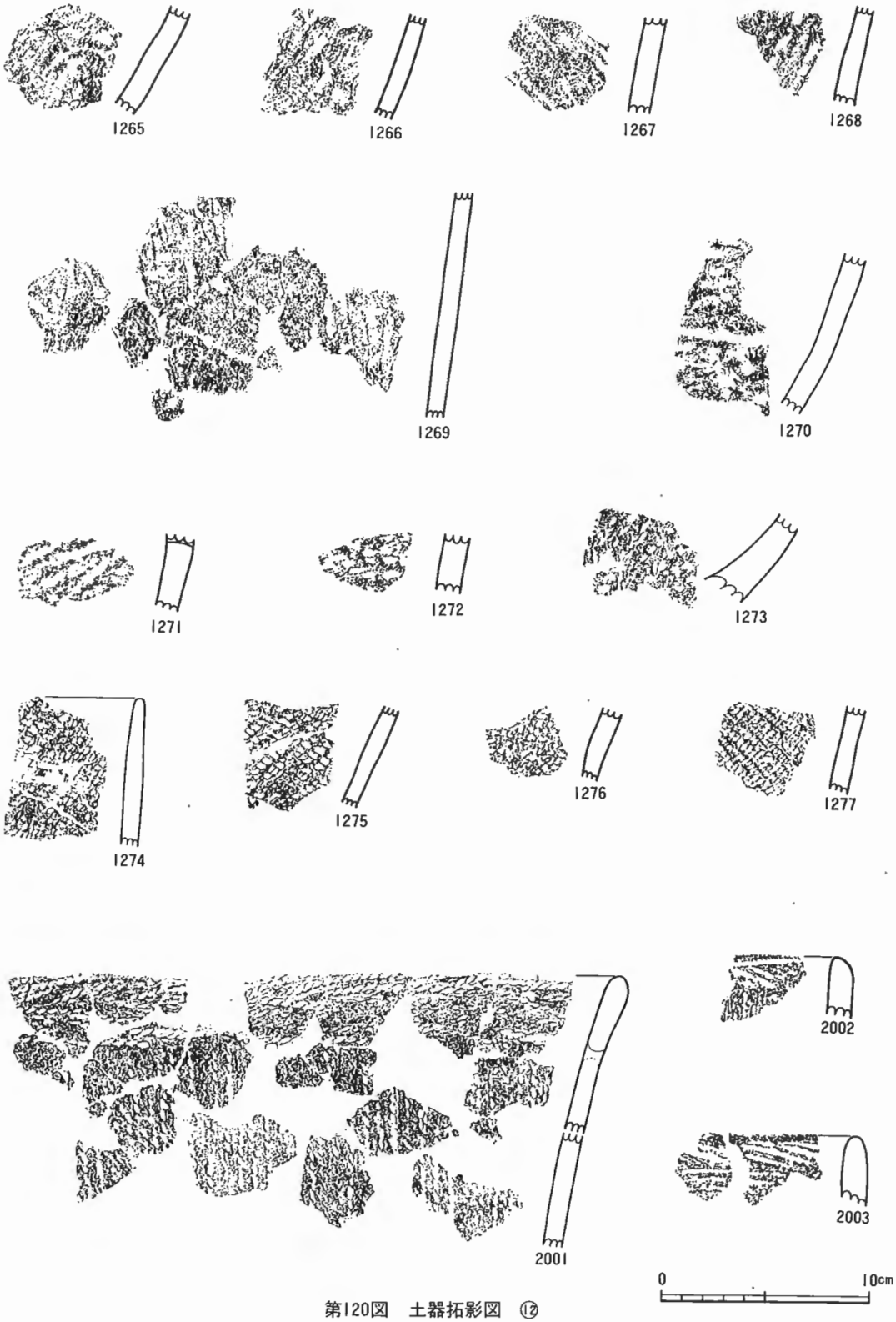
2016はRの撚糸文が口唇部では横位に，以下縦位に施文される。器面の凹凸が激しく，器厚は10～12㎜で，胎土に黄白色粒・小礫と微量の繊維が含有される。色調は赤褐色から茶褐色を呈する。

2017は弱く肥厚外反するもので，口唇部頂部より巾約20㎜にわたり，Rの撚糸文が横位に施文され，以下縦位に施文される。施文順序は縦位が最初である。器厚10㎜。胎土に白色粒・小礫が含有される。色調は黄褐色から暗褐色を呈する。

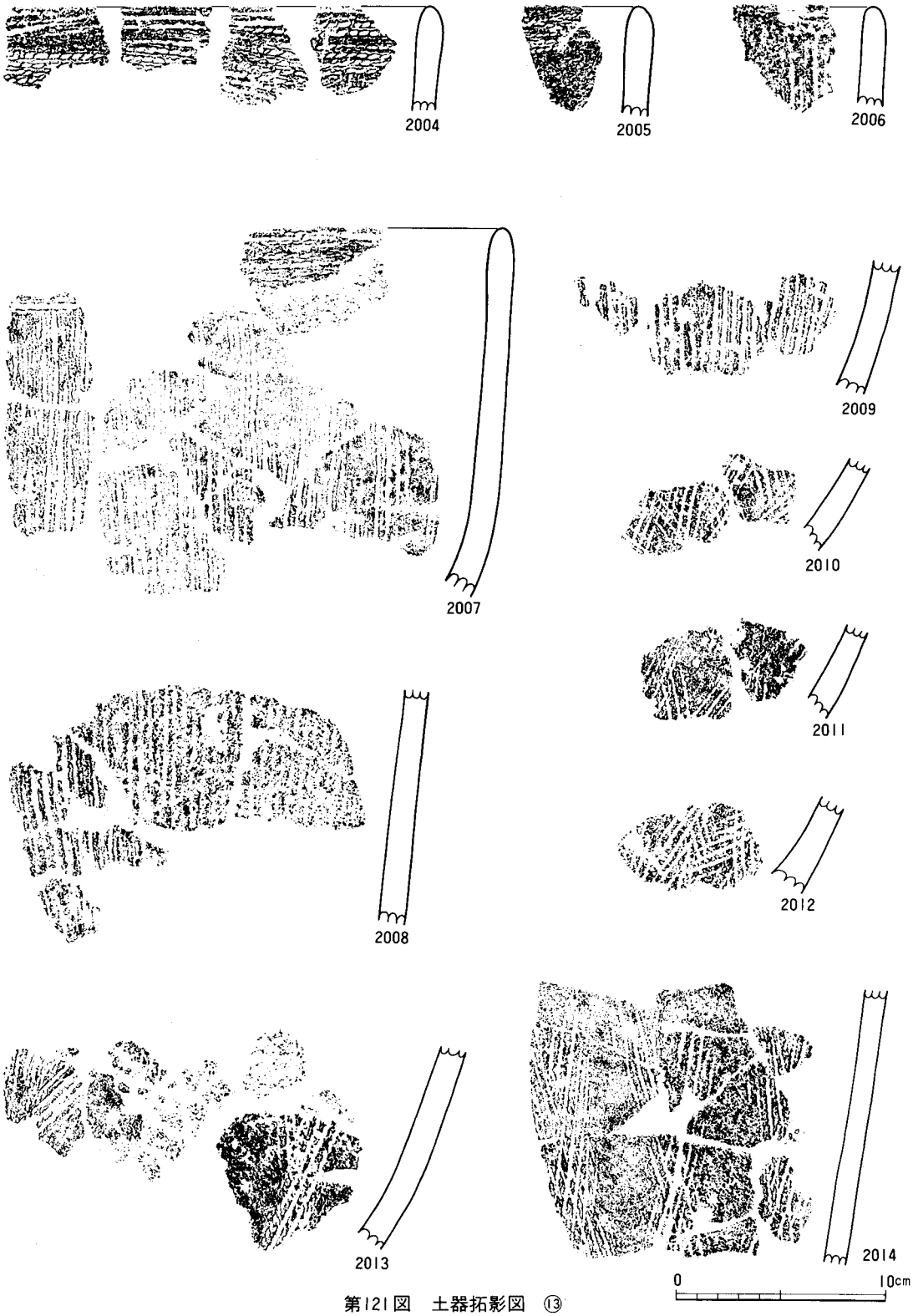
2018は口唇部で横位に，以下縦位に撚糸文が施文されるが不明瞭である。胎土には径3～5㎜の小礫が多量に含有され，色調は器壁表面は明茶褐色を呈し，内部は黒褐色を呈する。

2．2019～2028は同一個体である。口縁部は弱く外反するものと思われる。口唇部にはRの撚糸文が横位に施文され，口縁部内面にも不明瞭ながら横位に施文される。外面はやや左に傾く縦位のRの撚糸文が全面に施文される。2025は交叉する。2019の補修孔は外面より強く穿孔される。2026は底部破片で，乳房状の尖底を呈する。器面の凹凸が激しい。胎土には灰白色粒が多量に含有され，微量の繊維が見られる。色調は赤茶褐色を呈する。

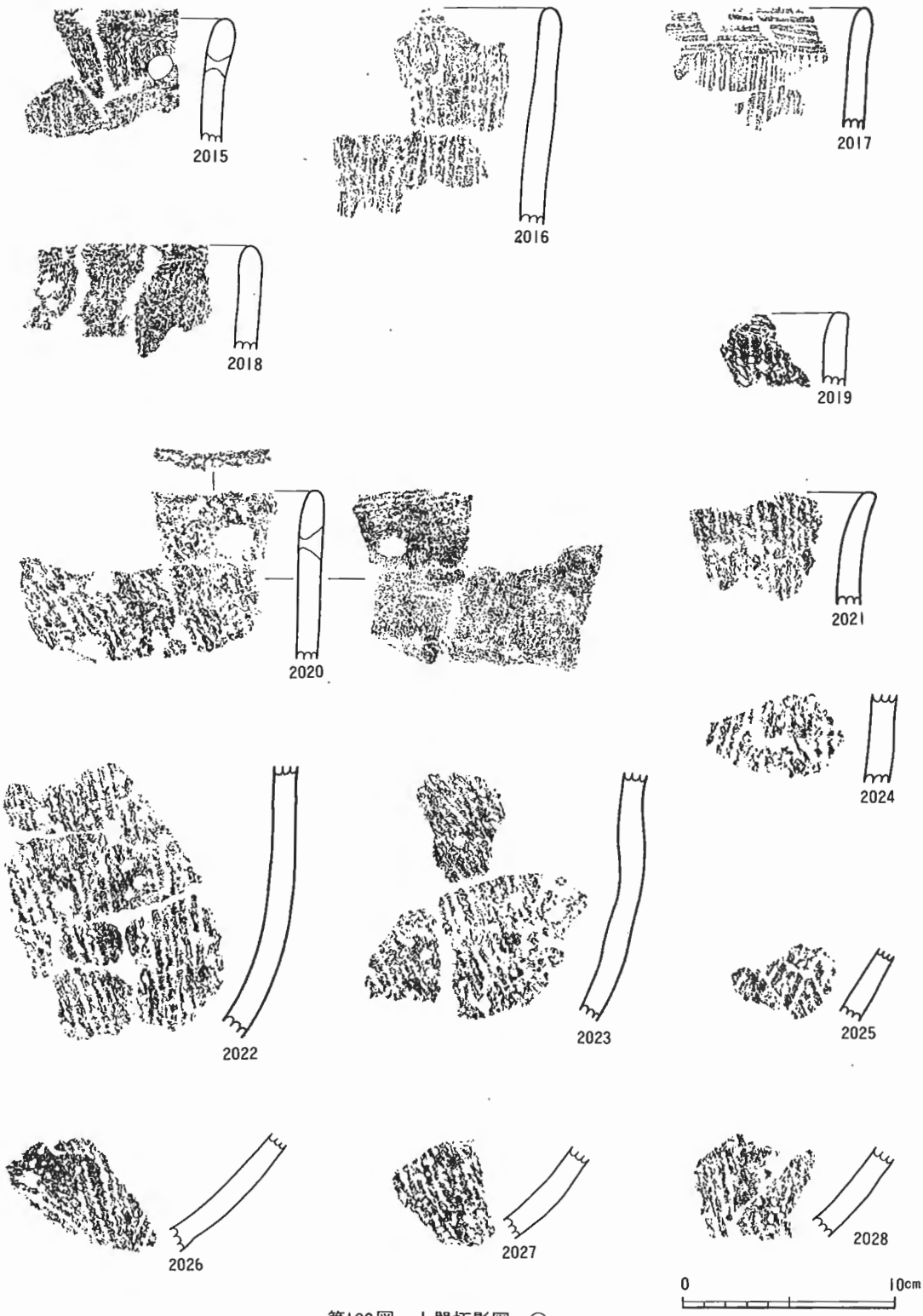
3，撚糸文が縦位の単一方向に施文されるもの。



第120図　土器拓影図　⑫



第121図　土器拓影図 ⑬



第122図　土器拓影図 ⑭

口縁部

2029～2032は内外面および口唇部に撚糸文が施文される。

2029は「く」の字状に外反する。外反した口縁部の内面には横位または右下がりに，口唇部では横位に，外面では縦位に，条の密接したRの撚糸文が施文される。器厚10㎜。色調は外面が灰褐色を，内面は黒褐色を呈する。

2030も弱く外反する。Rの撚糸文が，口唇部から内面にかけ左下がりに施文され，内面は横位に施文される。外面は縦位に施文される。器厚10㎜。胎土に淡黄褐色粒と微量の繊維が含有される。

2031は「く」の字状に外反し，Rの撚糸文が施文される。胎土に小礫・淡黄白色粒が含有される。色調は黒褐色を呈する。

2032は弱く外反し，口唇部は平坦に整形される。Rの撚糸文が内外面と口唇部に施文される。器厚6～8㎜。胎土に淡黄白色粒が含有される。色調は暗茶褐色を呈する。

2033～2052は，口縁部内外面に撚糸文が施文される。

2033は弱く外反し，口唇部は尖頭状となる。外面は風化が激しく文様は判別できない。口唇部頂部から内面に，条の密接するRの撚糸文が横位に施文される。器厚10㎜。胎土に多量の白色粒と微量の繊維が含有される。口唇部内面に炭化物が付着する。

2034は弱く外反するもので，Rの撚糸文が，外面では縦位に，口唇部内面に横位に施文される。外面より強く穿孔される補修孔が見られる。胎土には黄褐色の小礫と微量の繊維が含有される。

2035は内面が削がれるように弱く外反する。Rの撚糸文が，外面では縦位に，内面では右下がりに施文される。胎土には小礫が多量に含有され，色調は明黄褐色を呈する。

2036もRの撚糸文が，外面では縦位に，内面は右下がりに施文される。胎土には微量の白色粒・繊維が含有される。

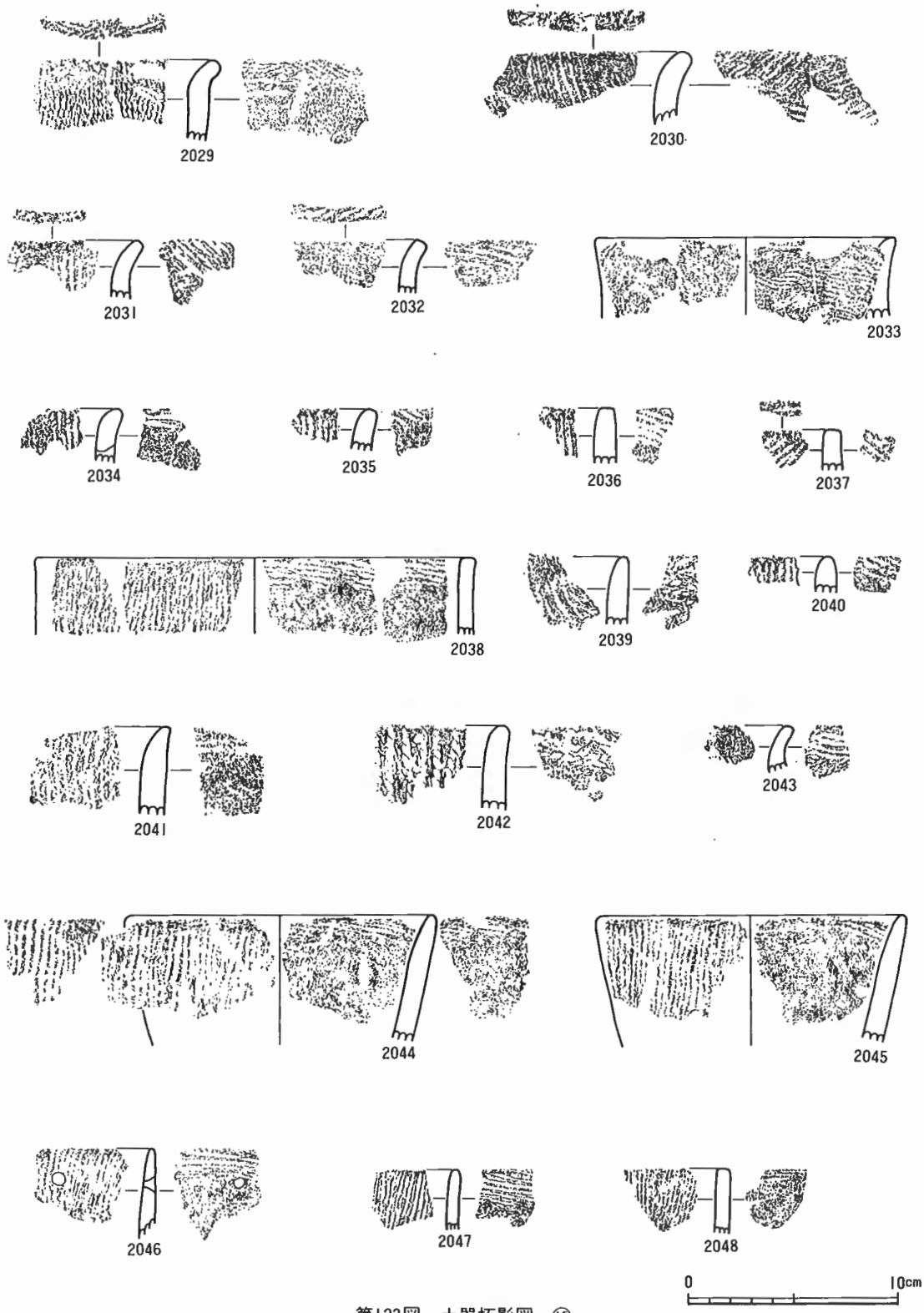
2037はRの撚糸文が，外面および口唇部では左下がりに，内面では右下がりに施文される。胎土に小礫・白色粒・繊維が含有される。

2038は直立する口縁部で，波状口縁となるかもしれない。口唇部は平坦に整形される。節が縦に細長いLの撚糸文が，外面では縦位に密接して施文され，内面は横位に施文される。器厚7㎜。胎土に淡黄褐色粒と繊維が含有され，色調は茶褐色を呈する。

2039は器面の風化が激しい。Rの撚糸文が内外面に施文される，胎土には淡黄褐色粒と繊維が含有される。

2040の口唇部は丸く整形される。Rの撚糸文が施文される。胎土には多量の繊維が含有される。

2041は口唇部を欠損する。Lの撚糸文が施文される。胎土には繊維が混入され，色調は灰白色を呈する。



第123図　土器拓影図 ⑮

2042は弱く外反するもので，太いRの撚糸文が，外面では縦位に，内面は右下がりに施文される。器面には径1～3㎜の気泡痕のような小さな穴が多数見られる。器厚12㎜。胎土に繊維が混入され，色調は明茶褐色を呈する。

2043は器厚を薄くして外反する。Rの撚糸文が，外面では無文部を残して縦位に施文され，口唇部～内面には右下がりと横位に施文される。胎土には小礫と白色粒が含有される。

2044・2045は同一個体である。開きぎみに直行する口縁部で，口唇部は丸く整形される。Rの撚糸文が，外面では縦位に密接して施文され，内面には横位～右下がりに施文される。器面には気泡痕のような小さな穴が多数見られる。器厚9～10㎜。胎土には繊維が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

2046は器厚4～6㎜の薄い土器で，節の不明瞭な撚糸文が，外面では縦位に，内面では横位に施文される。胎土には径2～3㎜の小礫と黄白色粒・繊維が含有される。外面より強く穿孔される補修孔が見られる。

2047は器厚5㎜の薄い土器で，節の不明瞭な撚糸文が，外面では縦位に，内面では横位に施文される。胎土には小礫と繊維が含有される。

2048は口唇部が平坦に整形される。非常に細いRの撚糸文が，外面では縦位に，内面には横位に施文される。器厚7㎜。胎土に黄白色粒が含有される。色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

2049～2052は同一個体かと思われる。2049・2050は遺構内遺物。胴部より開きながら，口縁部で弱く「く」の字状に外反する。外面には細いRの撚糸文が無文部を残して縦位に施文される。口縁部内面には，同一原体が横位に弱く回転施文される。補修孔は外面より一方的に穿孔される。器厚8～9㎜。胎土には多量の淡黄白色粒と微量の繊維が含有される。色調は明茶褐色から暗茶褐色を呈する。

2053～2083は撚糸文が外面のみに施文されるものである。

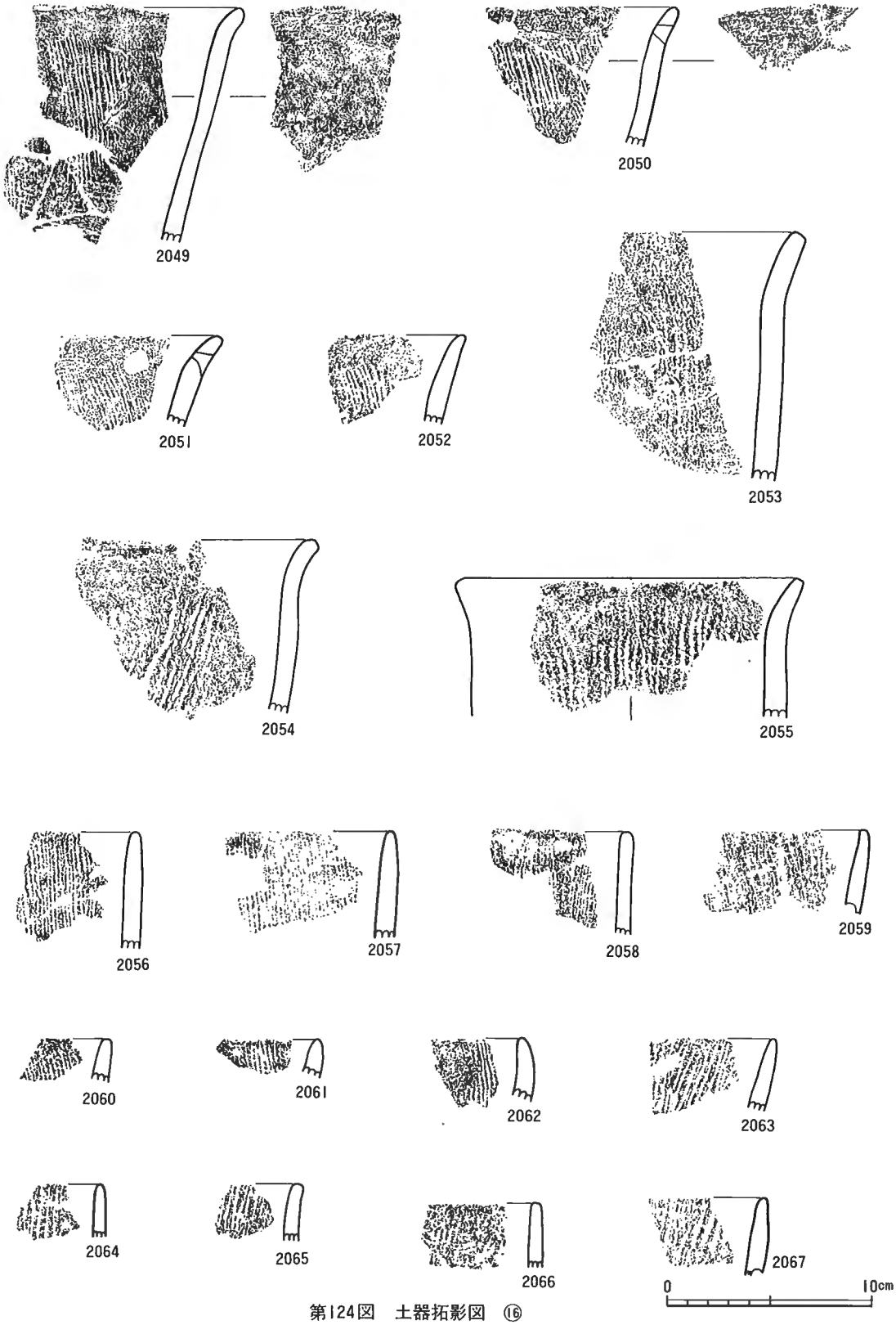
2053は「く」の字状に外反し，口唇部は丁寧に整形される。条間隔の広いRの撚糸文が，無文部を残して帯状に縦位施文される。器厚11㎜。胎土に繊維が含有される。2054は遺構内出土遺物。

2055は胴部は直立し，口縁部で器厚を薄くして「く」の字状に外反するものである。Rの撚糸文が全面に施文される。器厚9㎜。胎土に白色粒・灰白色粒と微量の繊維が含有される。外面に炭化物が付着し，色調は暗褐色を呈する。

2056・2057・2060・2061は直立する口縁部で，細いRの撚糸文が縦位に施文される。器厚9㎜。胎土に白色粒と微量の繊維が含有される。色調は灰褐色から黒褐色を呈する。

2058は非常に細いLの撚糸文が施文される。器厚7㎜。胎土に黄褐色粒と繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。

2059は細く，条間隔の広いRの撚糸文が施文される。器厚7㎜。胎土には黄褐色粒と繊維が



第124図　土器拓影図 ⑯

含有される。外面を引き伸した輪積み痕が見られる。色調は暗灰褐色を呈する。

2062は弱く内湾するもので，Rの撚糸文が口唇部より縦位に施文される。胎土には小礫と繊維が含有される。外面に炭化物が付着する。

2063は節の不明瞭な撚糸文が施文される。胎土には多量の黄白色粒が含有される。

2064は条間隔の広いRの撚糸文が施文される。器厚6㎜。胎土には小礫・繊維が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

2065は弱く外反するもので，Rの撚糸文が施文される。器厚8㎜。胎土に白色粒が多量に含有される脆弱な土器である。

2066は器面の風化が激しい，胎土に多量の灰白色粒と繊維が含有される。

2067は条間隔の広いRの撚糸文が，縦位および斜位に施文される。胎土には黄褐色粒が含有され，内面が引き伸される輪積み痕が見られる。2068は遺構内遺物。

2069は口唇部にRの撚糸文が施文される。胎土には長石・石英・黒雲母・黄白色粒が含有される。

2070は直立する口縁部で，口唇部には一部粘土紐を貼り付け平坦に整形される。太いRの撚糸文が施文される。器厚12㎜。胎土に3～5㎜の小礫が多量に含有される。補修孔は両面より斜めに穿孔される。

2071は2070に酷似する。口唇部は平坦に整形され，胎土に微量の繊維が含有される。色調は暗灰褐色を呈する。

2072・2073は，Rの撚糸文が施文される。器厚7～8㎜。胎土に繊維が多量に含有される。器壁表面は明茶褐色を呈し，内部は黒褐色を呈する。2072の補修孔は両面より穿孔される。

2074は弱く外反するもので，Rの撚糸文が施文される。胎土は脆弱で，径2～5㎜の黄白色粒・赤褐色粒が多量に含有される。補修孔は内外面より穿孔される。2075は遺構内遺物。

2076は弱く外反し，口唇部が肥厚する。Rの撚糸文が施文され，胎土に小礫が含有される。色調は暗灰褐色を呈する。

2077も口唇部が肥厚する。節の大きなRの撚糸文が施文される。胎土には白色粒と繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。

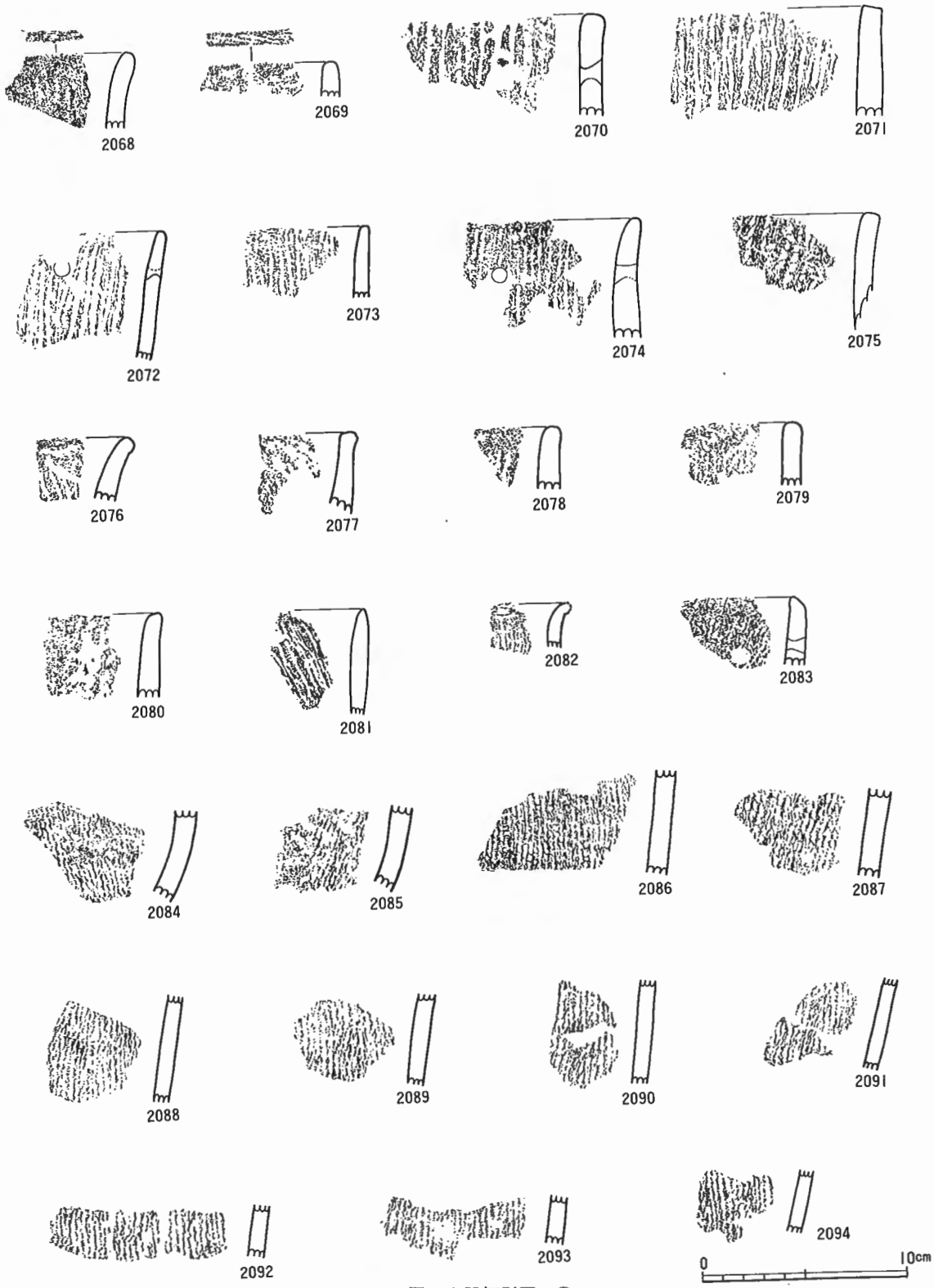
2078も口唇部が弱く肥厚し，Rの撚糸文が施文される。

2079も口唇部が肥厚し，Rの撚糸文が施文される。胎土に白色粒・小礫が含有され，外面に炭化物が付着する。

2080は弱く外反するもので，縦に細長い節の中にさらに節が見られる撚糸文が施文される。2段撚りのLRを巻きつけた原体による施文かと思われる。色調は灰褐色を呈する。

2081は口唇部が尖頭状になるもので，Rの撚糸文が施文される。胎土に黒色砂粒が多量に含有され，色調は茶褐色を呈する。

2082は口唇部が肥厚外反するもので，Lの撚糸文が施文される。胎土には繊維が含有される。



第125図　土器拓影図　⑰

2083は口唇部が弱く内湾し，外側が削がれたような器形をなす。節が縦に細長いLの撚糸文が施文され，胎土に繊維が含有される。色調は明茶褐色を呈する。補修孔は両面より穿孔される。

胴　部

2084・2085は同一個体で，口縁部2029の胴部破片かと思われる。縦に細長い節のRの撚糸文が施文される。器厚10㎜。色調は淡黄褐色を呈する。2086・2087は遺構内遺物。

2088～2094は同一個体で，口縁部2038の胴部破片かと思われる。Lの撚糸文が縦位に密接して施文され，胎土に繊維と微量の黒雲母が含有される。器厚7㎜。色調は茶褐色を呈する。

2095はRの撚糸文が全面に施文される。器厚10～12㎜。胎土に黄褐色粒と微量の繊維が含有される。色調は灰褐色を呈する。

2096はRの撚糸文が深く明瞭に施文される。器厚6㎜。胎土には黄褐色粒と繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。

2097はLの撚糸文が施文される。器厚12㎜。胎土には繊維が含有され，色調は暗黄褐色を呈する。

2098はRの撚糸文が施文される。節は縦に細長く，棒軸にR巻きにされたものかと思われる。胎土には径2～3㎜の黄白色粒と微量の繊維が含有され，色調は暗黄褐色を呈する。

2099はRの撚糸文が施文され，胎土に小礫および砂粒が多量に含有され，暗黄褐色を呈する。

2100はRの撚糸文が施文され，胎土に白色土が塊状に含有され，微量の繊維が混入される。器厚8㎜。色調は淡灰褐色を呈する。

2101はRの撚糸文が施文され，胎土に白色粒・黄白色粒・砂粒と微量の繊維が含有される。

2102はRの撚糸文が施文されるが，原体を引きずるように施文される部分が見られる。胎土には小礫と白色粒・茶色粒が含有される。

2103はRの撚糸文が施文され，胎土には小礫と繊維が多量に含有される。色調は茶褐色を呈する。

2104～2113はRの撚糸文が施文される。器厚7～9㎜。胎土には砂粒・茶褐色粒・灰白粒と微量の繊維が含有される。色調は灰褐色から淡黄褐色を呈する。

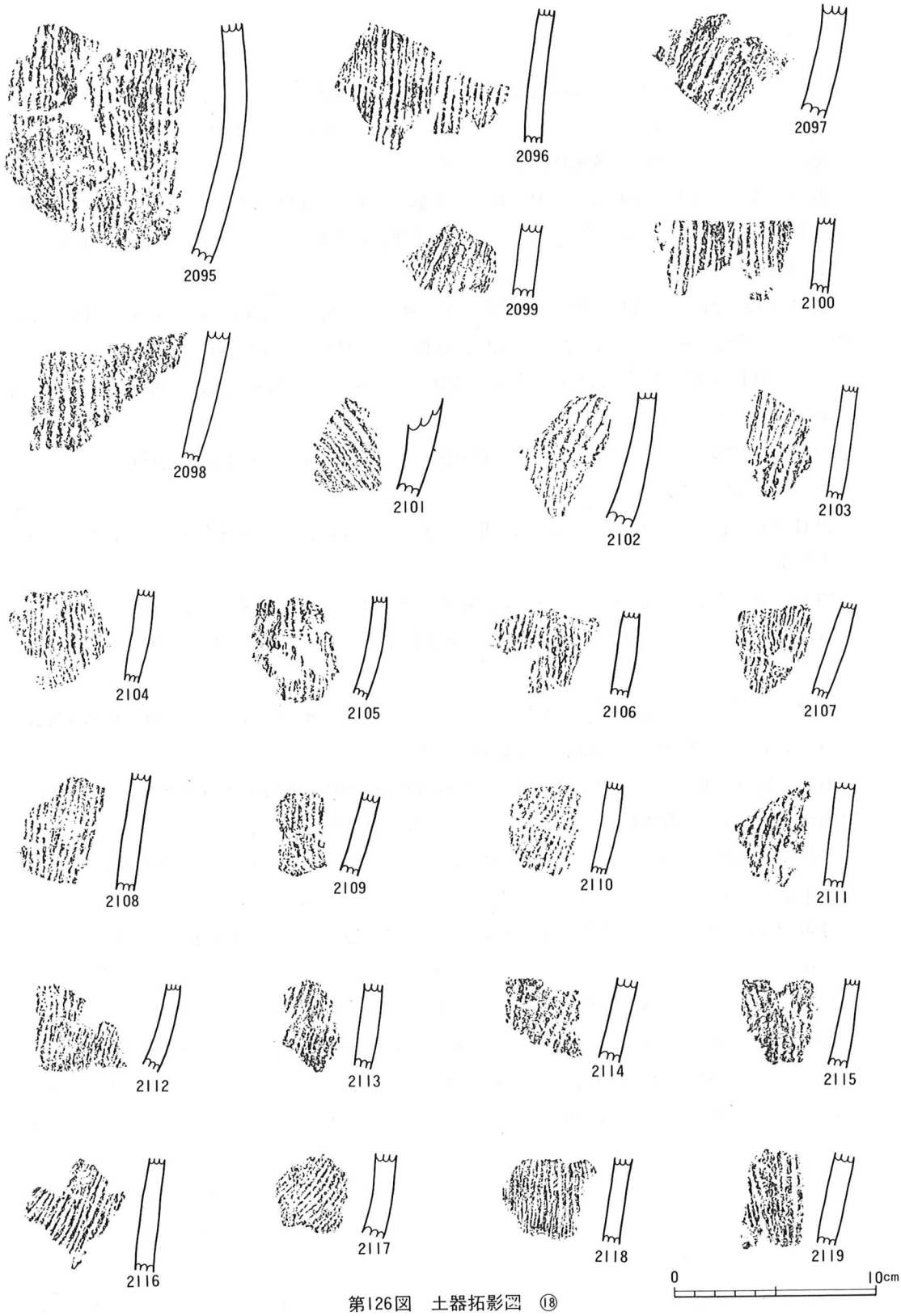
2114は条間隔の広いRの撚糸文が施文され，色調は黄白色を呈する。2115は器面の風化が著しい。

2116～2118はRの撚糸文が施文され，胎土に白色粒と繊維が含有される。

2119は太さの異なるRの撚糸文が施文される。施文時の原体押圧の強弱によるものか。胎土には繊維が含有され，色調は灰白色を呈する。

2120は細いRの撚糸文が施文される。器厚12㎜。胎土には多量の小礫と繊維が含有され，色調は赤褐色を呈する。

2121は2001と胎土・焼成が類似する。2123も同類と考えられる。2122・2136はRの撚糸文



第126図　土器拓影図　⑱

が弱く施文される。器壁表面は淡黄褐色を呈し，内部は黒褐色を呈する。胎土には小礫と微量の繊維が含有され，器面に気泡痕のような小さな穴が多数見られる。2124～2127はRの撚糸文が施文され，胎土に小礫・黄褐色粒が含有される。

2128～2133は条間隔が広く太いRの撚糸文が施文される。2129には径3～5㎜の小礫が多量に含有される。2130は節が大きく，胎土に微細な黒雲母と砂粒が含有される。2131・2133は口縁部2070の胴部破片である。

2134・2135・2137～2139は細いRの撚糸文が，無文部を残して帯状に施文される。2134には灰白色粒と微量の繊維が含有される。2137は底部近くの破片で，茶褐色粒と微量の繊維が含有される。2138は黄褐色粒・白色粒・小礫が多量に含有される。2139は微量の繊維が含有され，色調は淡黄褐色を呈する。

2140は条間隔が広く，節が縦に細長いRの撚糸文が施文される。胎土には白色粒が多量に含有され，色調は淡灰褐色を呈する。

2141はRの撚糸文が右下がりの帯状に施文される。胎土には繊維が含有される。色調は暗褐色を呈する。

2142はRの撚糸文が帯状に施文される。胎土には径3～5㎜の小礫が多量に含有され，器面に気泡痕のような小さな穴が多数見られる。色調は器壁表面が黄褐色を呈し，内部は暗褐色を呈する。

2143は条間隔の広いRの撚糸文が施文される。胎土には小礫が多量に含有され，色調は淡黄褐色を呈する。器厚11㎜。器面は丁寧に調整される。

2144～2146はRの撚糸文が帯状に施文される。口縁部2015の胴部破片かと思われる。胎土には微細な黒雲母が含有され，気泡痕のような小さな穴が多数見られる。

2149はRの撚糸文を施文後，器面を調整したもので，文様がつぶれている。器厚13㎜。胎土には繊維が含有される。

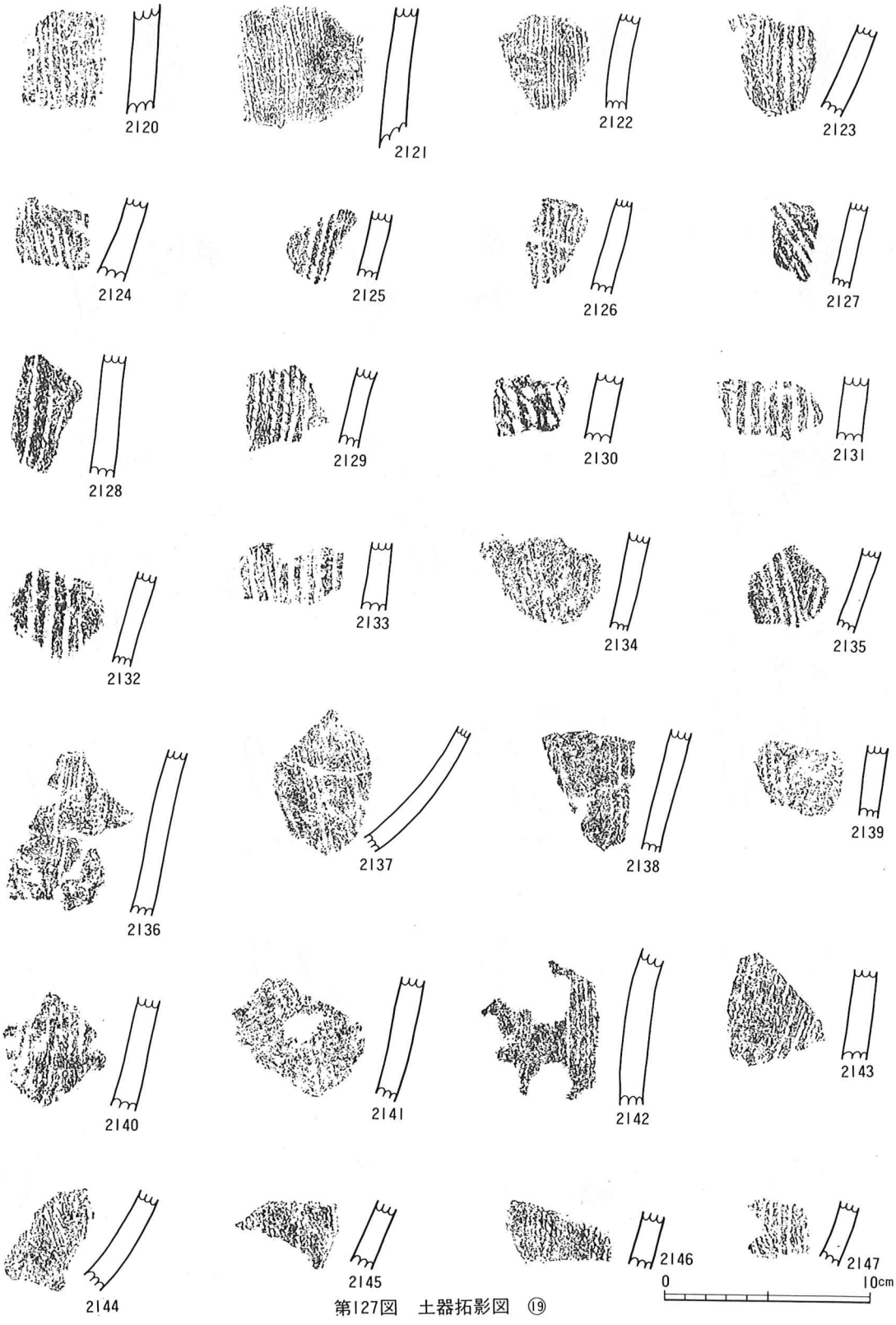
2150～2152は節の不明瞭な撚糸文が施文される。器厚5㎜胎土には白色粒・黄褐色粒と繊維が含有される。

2153～2155は同一個体と思われる。細い無節の撚糸文が施文される。器厚9㎜。胎土に淡黄褐色粒・茶褐色粒が多量に含有され，微量の繊維が混入される。色調は黒褐色を呈する。

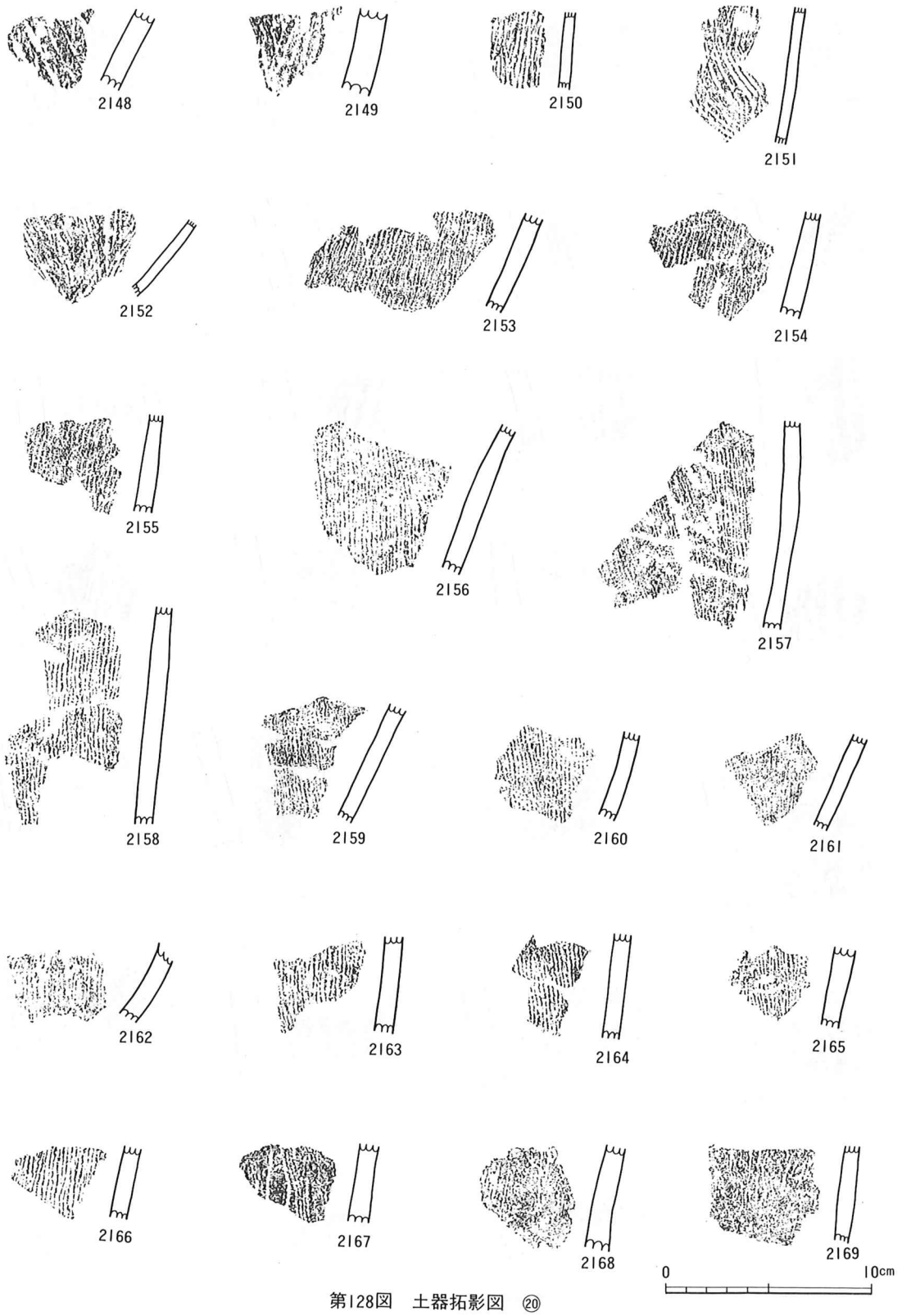
2156・2158・2160・2162～2167は，細いRの撚糸文が密接して施文される。口縁部2056・2057の胴部破片かと思われる。器厚9㎜。胎土には多量の白色粒と微量の繊維が含有される。外面には炭化物が付着し，色調は灰褐色を呈する。

2157・2159・2161は，さらに細いLの撚糸文が施文される。口縁部2058の胴部破片である。器厚8㎜。胎土には黄褐色粒・灰白色粒と繊維が多量に含有される。内外面に炭化物が付着する。色調は暗灰褐色を呈する。

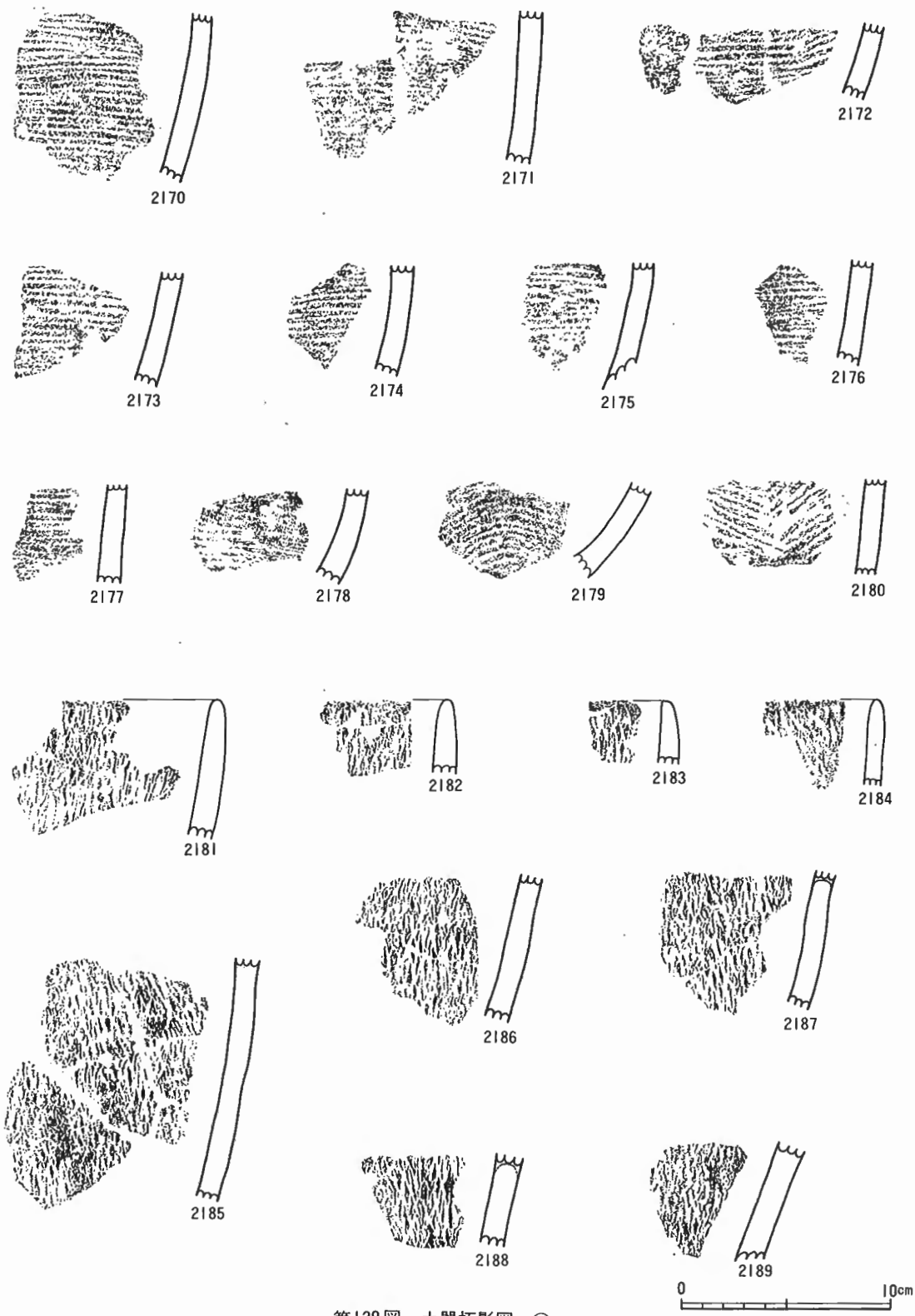
2169は細いRの撚糸文が粗く施文される。胎土には微細な黒雲母・長石・石英および砂粒が



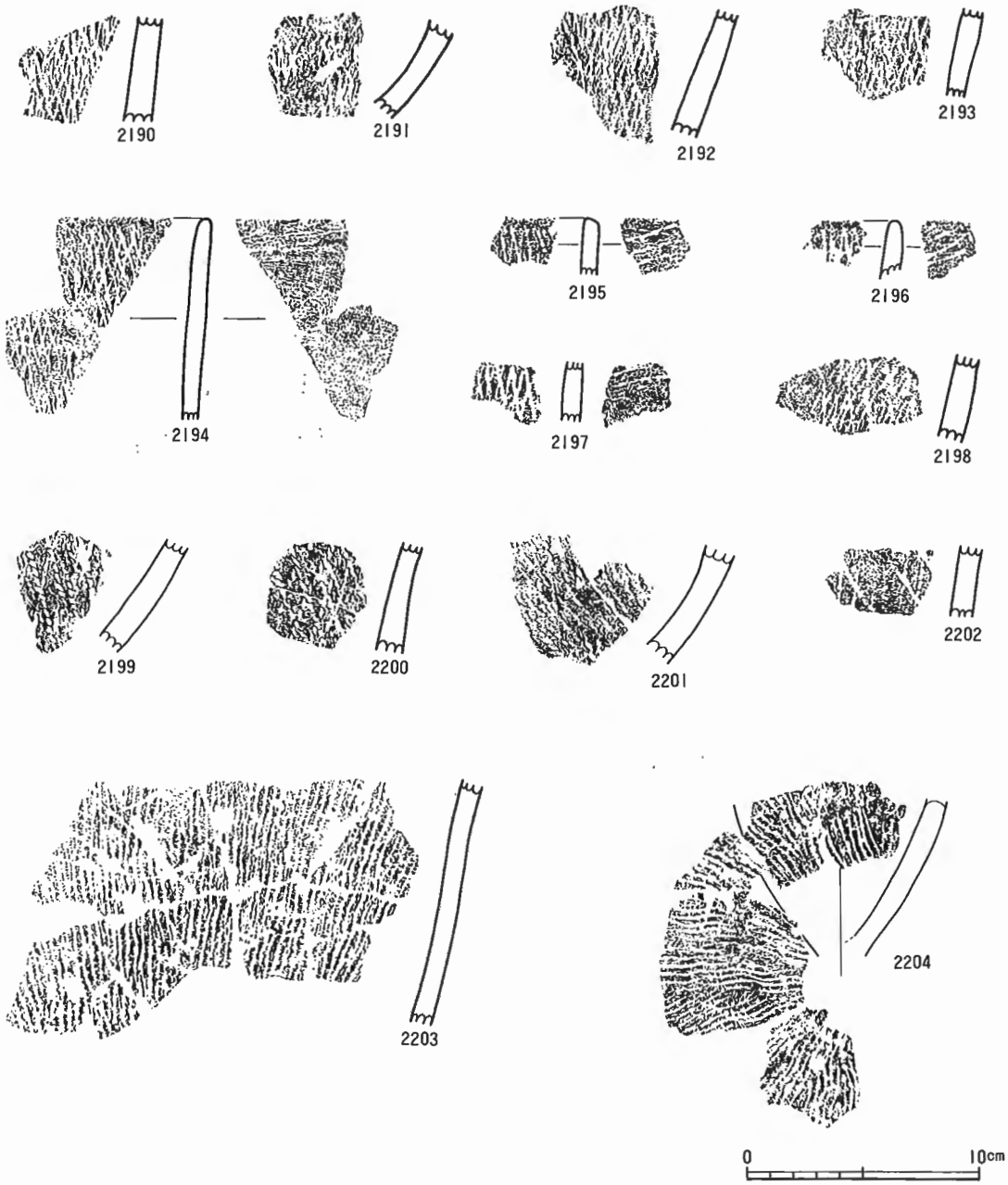
第127図　土器拓影図 ⑲



第128図　土器拓影図 ⑳



第129図　土器拓影図 ㉑



第130図　土器拓影図　㉒

含有され，微量の繊維が混入される。色調は茶褐色を呈する。

2203はRの撚糸文が縦位に密接して施文される。器厚7～9㎜。胎土には多量の白色粒と小礫・微量の繊維が含有される。色調は淡黄褐色から明茶褐色を呈し，内面に炭化物が付着する。

2204はRの撚糸文が縦位に施文される底部破片である。胎土には白色粒・繊維と微量の石英が含有される。色調は淡黄褐色から明茶褐色を呈する。輪積み痕が見られる。

4．撚糸文が横走するよう施文されるもの（2170～2180）。

2170～2179はRの撚糸文が横走するよう施文されるものである。器厚9～10㎜。胎土には白色粒・淡黄褐色粒と繊維が含有される。色調は淡黄褐色から暗灰褐色を呈する。2174は外面に厚く炭化物が付着する。2179は底部近くの破片である。

2180はRの撚糸文が交叉するよう斜位に施文される。器厚9㎜。胎土には小礫と繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。

5．網目状撚糸文の施文されるもの（2181～2202）。

2181～2183・2185～2191は同一個体と思われる。口縁部は弱く内湾し，口唇部は外面が削がれるような器形をなす。原体は軸に0段の紐を交叉するよう乱雑に捲きつけたものと思われ，縦位に回転施文して，器面に網目状の文様が施文される。文様は22㎜の間隔で反復される。器厚9～12㎜。胎土には白色粒・淡黄褐色粒・茶褐色粒・小礫・繊維が含有され・色調は暗灰褐色から暗褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。2188には輪積み痕が見られる。

2184・2192・2193・2198は，2181以下と同じような網目状撚糸文が施文される。器厚10～11㎜。胎土には径5㎜前後の小礫が多量に含有され，微細な長石・黒雲母と微量の繊維が含有される。器面はザラザラした感触をもつ。内面は横位の調整痕が残る。色調は明黄褐色を呈する。

2194～2197は口縁部内面にも網目状撚糸文が施文される。2194の施文原体は，軸にLの撚糸を右巻きに捲き，次に左巻きに捲いたもので，原体長は25～30㎜，径は5～6㎜と推定される。内面には横位の調整痕が明瞭に残る。器厚6～8㎜。胎土には白色粒・黄白色粒と繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

2199～2202は大きい網目状撚糸文が施文される。原体は軸にRの撚糸を右巻きに捲きつけ，次にその上に左巻きに捲きつけたもので，網目は大きく明瞭に施文される。2199は微量の繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。2200・2202は胎土に多量の小礫と微量の繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。2201は微細な黒雲母と小礫が含有され，色調は茶褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。

III．山形押型文土器

1．山形押型文が帯状施文されるもの（3001～3048）。

3001～3010は同一個体である。底部は尖底となると思われ，胴部はほぼ直立し，口縁部は大きく外反して，弱い波状口縁となる。器厚7～8㎜，胎土に多量の繊維が混入される。焼成良好。色調は茶褐色を呈する。施文原体は径5.4㎜，長さ25㎜で，両端は楔状をなし，1周2単位，1帯5条の山形文が施文される。施文構成は，口縁部で横位に2帯施文され，以下胴部は縦位に施文される。さらに胴下半部では横位に施文され，一部縦位施文と重複する。口縁部内面には横位に2帯施文されるものと思われる。口唇部には先の尖った薄いヘラのようなもの（原体端か）で刺突文が施される。施文順序は胴下半部横位→胴部縦位→口縁部横位の順である。

3011～3013は同一個体かと思われる。口縁部は大きく外反し，平口縁となる。器厚7～9㎜。

胎土には繊維が混入される。焼成良好。色調は明褐色～茶褐色を呈する。原体は径5.4㎜，長さ23㎜。両端は楔状をなす。1周2単位，1帯4条の山形文が施文される。施文構成は，口縁部で横位に2帯，胴部は縦位に施文され，口縁部内面にも横位に2帯施文される。口唇部には同一原体による山形文が施文される。

3014～3022は3001～3013に類似する胴部破片である。原体は径5.4～6.1㎜，長さ20㎜で，1周2単位，1帯4条の山形文が施文される。器厚8～10㎜。胎土には多量の繊維と黄褐色の小礫が含有される。3020は微細な黒雲母が少量含有される。3018～3022は胴下半部の破片で，縦位施文と横位施文が見られる。

3023・3027～3029・3031・3033・3035は同一個体である。3023の口縁部は波状口縁となる。器厚7～9㎜。胎土に繊維が混入される。色調は明褐色～暗茶褐色を呈する。原体は径4.8㎜，長さ24㎜。1周2単位，1帯6条の山形文が施文される。山形の頂部に条方向に直交するよう1本の直線の文様が見られる。文様割り付けの基準線かとも考えられる。施文構成は，口縁部内外面に横位に1帯施文され，胴部外面には縦位に，胴部下半部では横位に施文される。口唇部は平坦に整形され，山形文が施文される。

3024も弱い波状口縁となる。器厚5～7㎜。原体は径4.8㎜，長さ23㎜。1周2単位，1帯6条の山形文が内外面と口唇部に横位に施文される。胎土に繊維と微細な長石・石英粒が含有される。色調は暗灰褐色を呈する。

3025・3026は内外面と口唇部に山形文が横位に施文される。器厚5～7㎜。胎土に黄褐色の小礫・砂粒と繊維が含有され，色調は茶褐色を呈する。

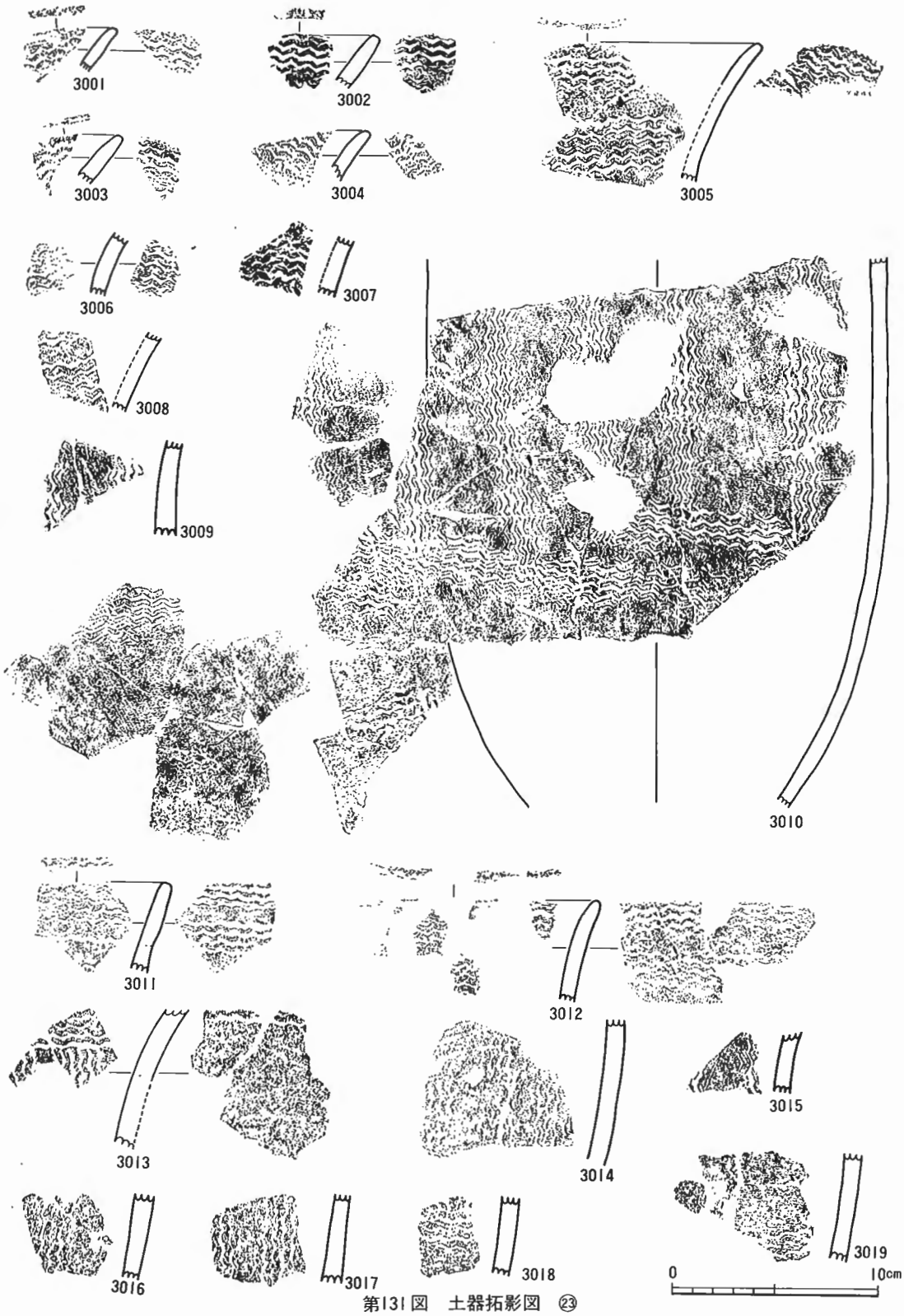
3030と3032は同一個体である。原体径4.8㎜，長さ23㎜。1周2単位，1帯6条の山形文が3030は縦位に，3032は縦位と横位に施文される。器厚5～6㎜。胎土に繊維と微細な白色粒が含有され，色調は外面が明茶褐色，内面は黒褐色を呈する。3035は胴部径12㎝と推定される。

3034は，径5.1㎜の原体により，1周2単位の山形文が縦位と横位に施文される。胎土には黄褐色粒が含有され，色調は明茶褐色を呈する。輪積み痕が見られる。

3036～3039は同一個体である。口縁部は外反し，口唇部は強く押圧される。器厚8～11㎜。胎土には褐色砂粒と繊維が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。原体は径5.4㎜，長さ18㎜。1周2単位，1帯5条の山形文が，口縁部外面に横位に1帯，以下縦位に施文され，口縁部内面には横位に2帯密接して施文される。弱い波状口縁となるかもしれない。

3040～3046は同一個体と思われる。胎土に砂粒と繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。原体径5.7㎜，長さ20㎜。1周2単位，1帯5条の山形文が施文される。山形頂部の角度が鈍角で，弱い波形のような文様となる。施文構成は口縁部内外面に，無文部を挟んで横位に帯状施文される。胴部は縦位に，胴部下半では横位に施文される。

3047・3048は山形頂部の角度が鈍角なもので，原体径6.1㎜，長さ19㎜。1周2単位，1帯6条の山形文が施文される。胎土には黄褐色粒・長石・石英が含有される。器厚8㎜。色調は



第131図　土器拓影図 ㉓

黄褐色から暗褐色を呈する。

2．原体1周2単位を基本とする山形文が，縦位に密接して施文されるもの。

口縁部

a．口縁部外面に横位に1帯，以下縦位に施文される，異方向施文構成をとるもの（3049～3051）。

3049は外に弱く開く口縁部で，波状口縁かと思われる。器厚6～8㎜。胎土に繊維が含有され，色調は暗灰褐色から暗黄褐色を呈する。原体径5.7㎜，長さ25～28㎜。1帯4条。山形文の1単位5条となるところが1列見られる。口唇部直下より縦位に密接して施文され，口縁部内外面に横位に1帯施文される。

3050・3051は同一個体と思われる。口唇部直下に横位に1帯，以下縦位に山形文が施文される。胎土には黄褐色粒を多量に含有し，繊維が混入される。色調は暗灰褐色と黒褐色を呈する。3051には両面より穿孔された補修孔が見られる。

b．山形文が，器面外面に縦位密接施文され，口唇部直下の内面に横位に1帯施文されるもの（3052～3077）。

3052は口唇部が平坦に整形される。器厚8㎜。胎土には白色粒と繊維が含有される。原体径6.4㎜。色調は暗灰褐色を呈する。

3053は条間隔の広い山形文が施文される。器厚7～9㎜。胎土に白色粒・繊維が含有される。原体径5.4㎜，長さ35㎜，1帯7条。原体端はまっすぐに切断される。

3054は口径13㎝前後と推定される。原体径5.7㎜。

3055は口径16㎝前後と推定される。原体径5.7㎜，長さ25㎜以上。原体端はまっすぐに切断される。器厚6㎜。胎土に繊維が含有され，色調は暗灰褐色から黒褐色を呈する。補修孔は外面より穿孔される。輪積み痕が見られる。

3056は胎土に繊維と茶褐色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。原体径5.7㎜。

3057は胎土に繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。原体径5.7㎜。

3058は器厚6㎜。胎土に微量の繊維が含有され，色調は黒褐色を呈する。原体径5.7㎜。3059は遺構内遺物。

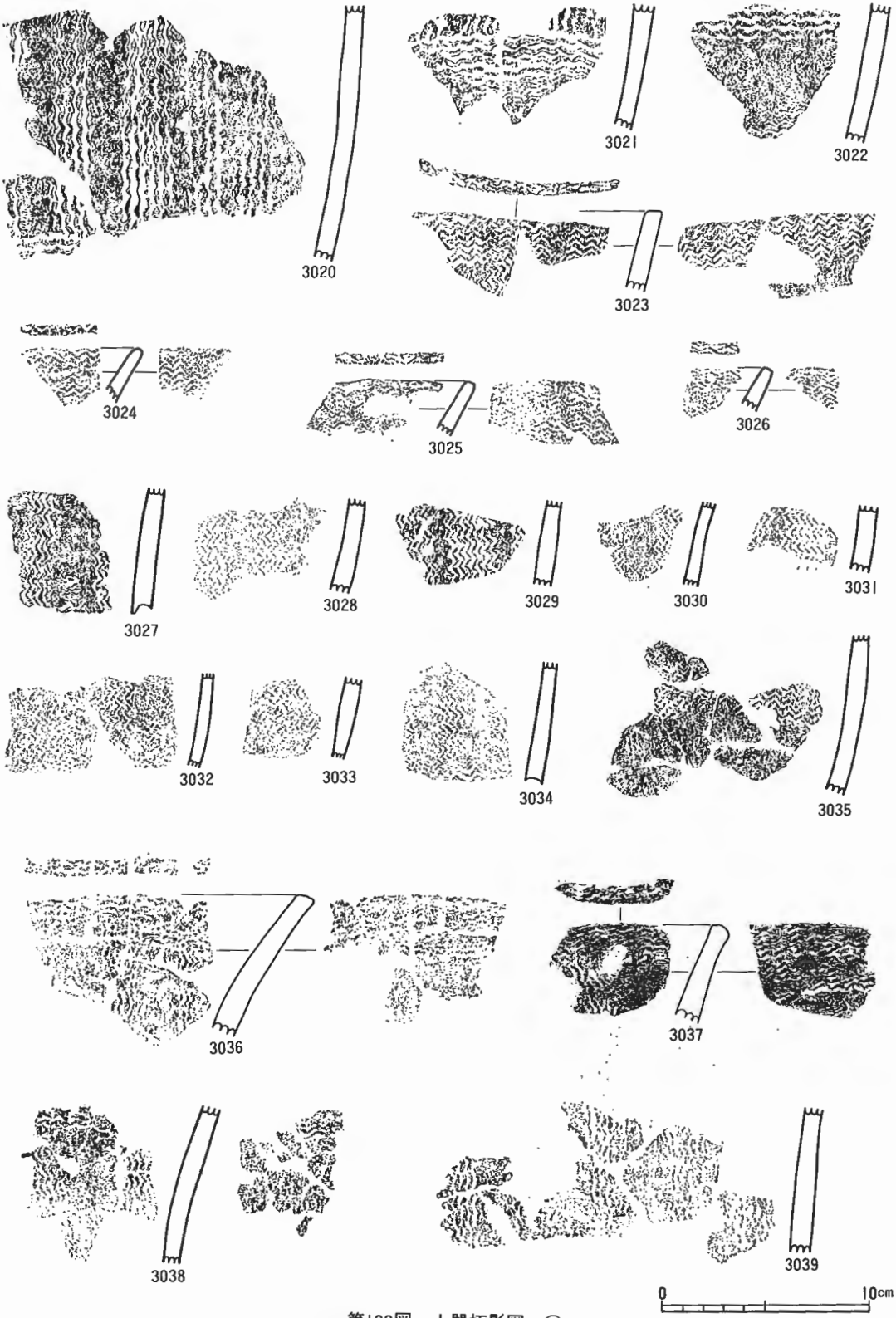
3060は器面の磨耗が激しい。胎土に多量の黄白色粒と繊維が含有される。

3062は器厚4～6㎜で，胎土に径2～3㎜の灰褐色の小礫が多量に含有される。色調は明茶褐色を呈する。原体径6.1㎜。3063・3064は外面に炭化物が付着する。

3065～3073は木葉状の文様が山形に連続する山形文が施文される。

3065は器厚6㎜で，色調は暗灰褐色を呈する。原体は径6.1㎜，長さ27㎜で，1帯7条の山形文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

3066・3067は胎土に多量の繊維が含有され，色調は灰褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。原体径6.4㎜。



第132図　土器拓影図 ㉔

3069は原体端がまっすぐ切断される。

3070は胎土に白色粒・砂粒・繊維が含有され，外面に炭化物が付着する。原体径6.4㎜。

3071は器面調整が不十分である。胎土に繊維が含有され，色調は明黄褐色を呈する。

3072は口唇部が尖頭状を呈し，器面の凹凸が激しい。胎土には黄褐色粒と繊維が含有される。色調は暗灰褐色を呈する。

3073は器厚4～7㎜で，胎土に黄褐色粒と繊維が含有され，内面に炭化物が付着する。原体端はまっすぐに切断される。

3074～3076は山形文の条が細く，山形頂部の角度が鈍角なものである。

3074・3075は同一個体と思われる。口径18㎝。胎土に明黄褐色粒と繊維が含有され，色調は黒褐色を呈する。内外面に炭化物が付着する。原体径6.1㎜。

3076は山形文の大きさが一定せず，1周3単位となるものかもしれない。1単位の長さが8㎜と5㎜のものが見られる。胎土には多量の黄褐色粒と繊維が含有される。

3077は口唇部を欠損する。胎土には繊維が多量に含有される。原体径5.7㎜。内面に径5～6㎜，深さ4㎜のすり鉢状の穴が2つ見られる。

C．山形文が器面外面に縦位密接施文されるもの（3078～3104）。

3078は器厚6～7㎜。繊維が含有され，色調は淡灰褐色を呈する。原体径6.1㎜。原体端の一方がまっすぐに切断される。

3079は器厚6㎜。胎土に黄白色粒が多量に含有され，色調は黄褐色を呈する。原体径6㎜。

3080は原体径6㎜，長さ28㎜。1周2単位，1帯7条の山形文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。器厚7～9㎜。胎土に白色粒・砂粒と微量の繊維が含有される。色調は淡赤褐色を呈する。

3081は弱く内湾するもので，器厚5～6㎜。胎土に白色粒・繊維が含有され，色調は茶褐色を呈する。

3082は口径15㎝，器厚6㎜。内外面に多量の炭化物が付着する。

3083は山形文の条が細く丸味をもつ。原体径6.4㎜。原体端はまっすぐに切断される。胎土には灰白色粒と繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。

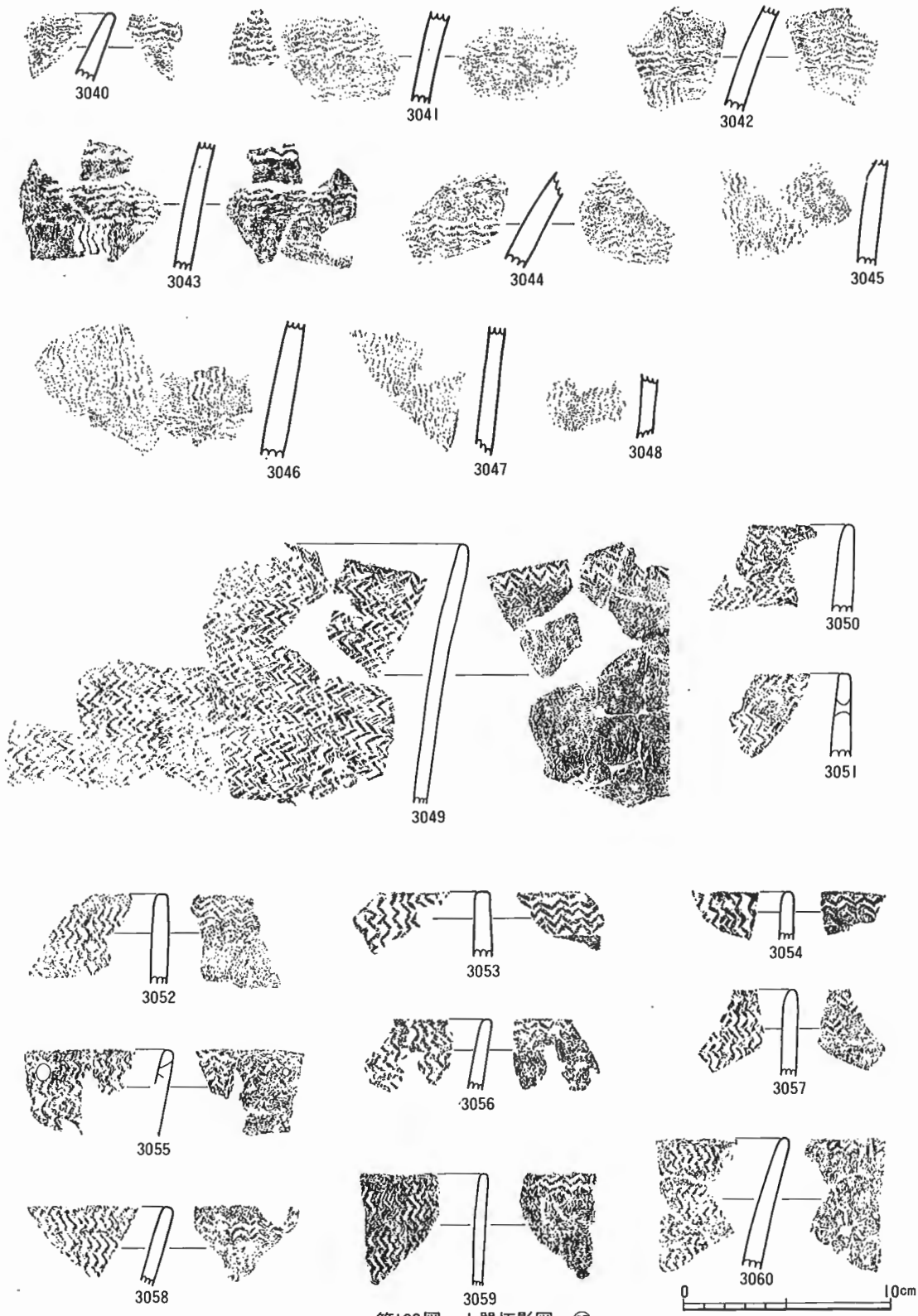
3084は口径14㎝と推定される口縁部のほぼ半分である。山形頂部の角度が鋭角な山形文が密接して施文され，条間隔は狭い。原体径5.4㎜。胎土に石英・長石・黄褐色粒・黒色砂粒が含有される。色調は茶褐色から黒褐色を呈する。

3085は太い山形文が施文される。胎土には多量の有色粒と繊維が含有される。

3086は細い山形文が施文される。原体径6.1㎜。繊維・有色粒が多量に含有される。

3087は口縁部先端が弱く内湾する。胎土には白色粒が多量に含有され，色調は灰白色を呈する。内面には炭化物が付着する。

3088は口径10㎝以下の小形の土器である。胎土に黄褐色粒と繊維が含有され，炭化物が付着



第133図　土器拓影図　㉕

する。

3089は山形が鋭角で，条間隔の広い山形文が施文される。胎土には黒色粒・黄白色粒・繊維が含有される。

3090は1周1単位の山形文が施文される。胎土には黄褐色粒と繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。

3091・3092は条の細い山形文が施文される。原体径5.7㎜。黄白色粒と繊維が含有される。

3093は条が細く，条間隔の広い山形文が施文される。原体径5.1㎜。胎土には黄褐色粒と微量の繊維が含有される。色調は暗灰褐色を呈する。

3094・3096は原体径6.7㎜で，原体端はまっすぐに切断される。山形文は大きく丸味をもつ。胎土には小礫・繊維が多量に含有され，色調は黒褐色を呈する。器厚8㎜。内面は丁寧に横位に器面調整され，外面には炭化物が付着する。

3095は大きな山形文が施文され，1周1単位となるものかもしれない。器厚7㎜。

3097は細い山形文の施文されるものである。口唇部が強く押圧され整形される。

3098～3104は巾の広い山形文が施文される。

3098は器厚6㎜，胎土に黄褐色粒を多量に含有し，色調は明茶褐色を呈する。

3099～3101は口径13㎝に復元される同一個体である。原体径7㎜。胎土に繊維が多量に含有され，内外面に多量の炭化物が付着する。色調は暗褐色を呈する。

3102～3104は口径12㎝前後と推定される。器厚6～7㎜。胎土に黄褐色粒・小礫・繊維が含有される。色調は黄褐色から暗褐色を呈する。原体径6.7㎜。

胴　部

3105・3110は器厚7㎜。胎土に砂粒と微量の繊維が含有され，色調は暗黄褐色を呈する。原体径5.7㎜。一部重複して施文される。内面は丁寧に横位に器面調整される。

3106は器厚7～8㎜。胎土に白色粒・黄褐色粒が多量に含有され，外面に炭化物が付着する。

3107は器厚6～7㎜。胎土に黄褐色の小礫が多量に含有され，色調は茶褐色を呈する。原体径5.7㎜。内面に炭化物が付着する。3108・3118は口縁部3049の胴部破片である。

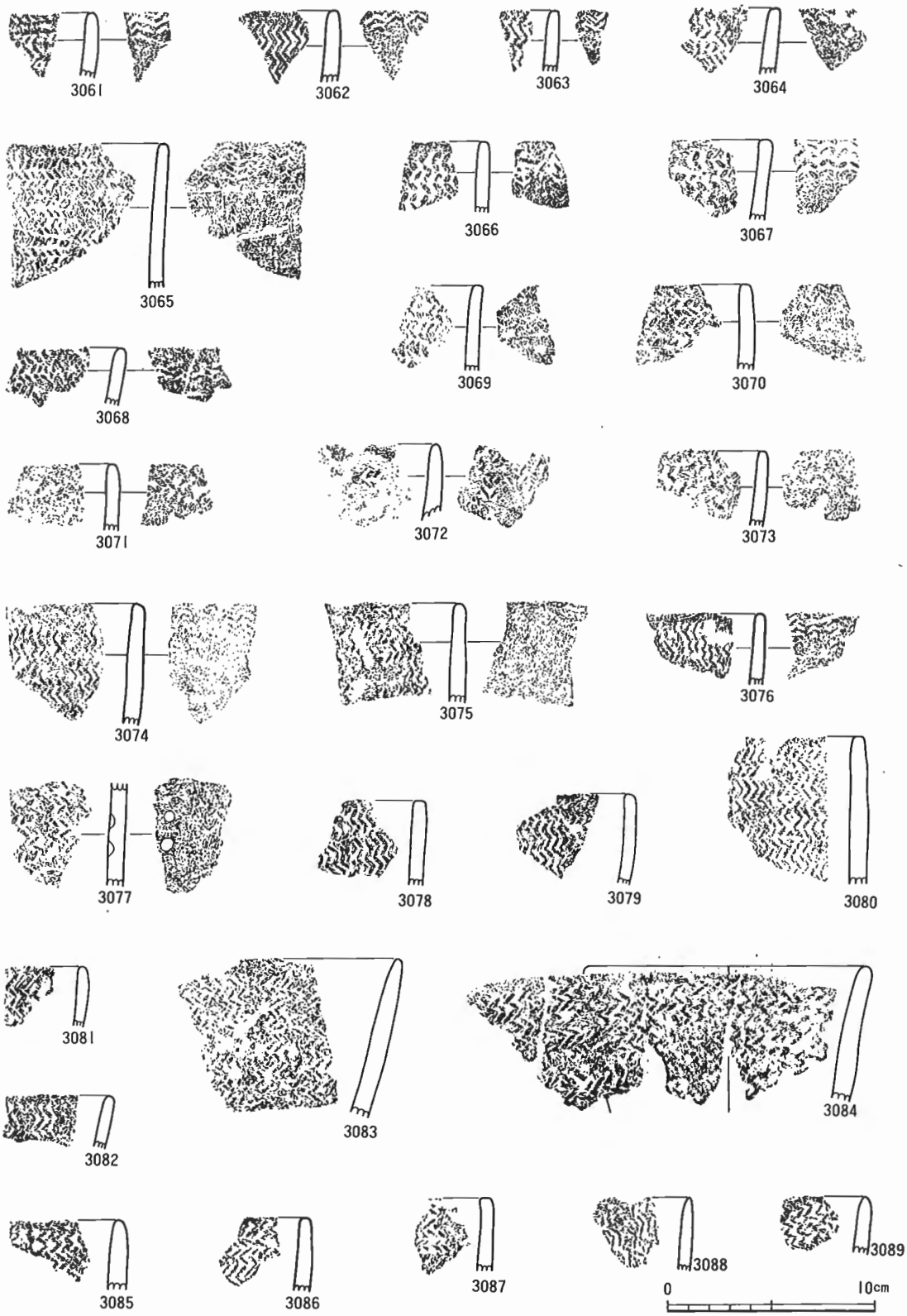
3109・3112は口縁部3050の胴部破片である。器厚8～9㎜。胎土に多量の黄褐色粒と繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。内外面に炭化物が付着する。

3111は器厚6～8㎜。胎土に黄褐色粒・白色粒・繊維が含有され，色調は茶褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。原体径6.4㎜。原体端はまっすぐに切断される。

3113は器厚8～9㎜。胎土に小礫と繊維が多量に含有され，色調は暗黄褐色を呈する。原体径4.8㎜。

3114は底部近くの破片である。器厚7㎜。胎土に黄褐色砂粒が多量に含有され，色調は茶褐色を呈する。原体径6.4㎜。条が押しつぶしたような部分が見られる。

3115・3116は器厚7～8㎜。胎土に白色粒・黒色砂粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。



第134図　土器拓影図　㉖

原体径 5.7 ㎜。

3117 は器厚 9 ～10 ㎜。胎土に小礫が多量に含有され，色調は暗黄褐色を呈する。原体径 6.1 ㎜。

3119･3126 は器厚 7 ～ 8 ㎜。胎土に黄褐色砂粒が多量に含有され，色調は暗茶褐色を呈する。原体径 5.7 ㎜。外面に炭化物が付着する。

3120・3125 は器厚 7 ㎜。胎土に多量の小礫が含有され，色調は暗褐色を呈する。内外面に厚く炭化物が付着する。原体径 5.1 ㎜。山形が鋭角となる。

3121 は器厚 6 ～ 7 ㎜。胎土に灰白色粒が多量に含有され，色調は暗黄褐色を呈する。原体径 6.1 ㎜。

3122 は器厚 8 ㎜。胎土に多量の黄褐色粒が含有され，色調は黒褐色を呈する。原体径 7 ㎜。原体端はまっすぐに切断される。

3123 は器厚 7 ～ 8 ㎜。胎土に白色粒・黒色砂粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。文様は重複して施文され，内面には溝状の横位調整痕が見られる。

3124・3127・3128 は器厚 7 ㎜。胎土に白色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。内面は丁寧に器面調整され，炭化物が付着する。原体径 5.7 ㎜。丸味を持ち，大きさの不揃いの山形文が施文される。

3129～3138 は同一個体である。器厚 12～13 ㎜。胎土には黄褐色粒等の多量の砂粒と繊維が含有される。色調は暗黄褐色から暗褐色を呈する。口縁部は直行し，口唇部は平坦に削り取られたように整形される。原体径 6.4 ㎜。条が細く，条間隔の広い山形文が施文される。3130･3138 は外面に炭化物が厚く付着する。

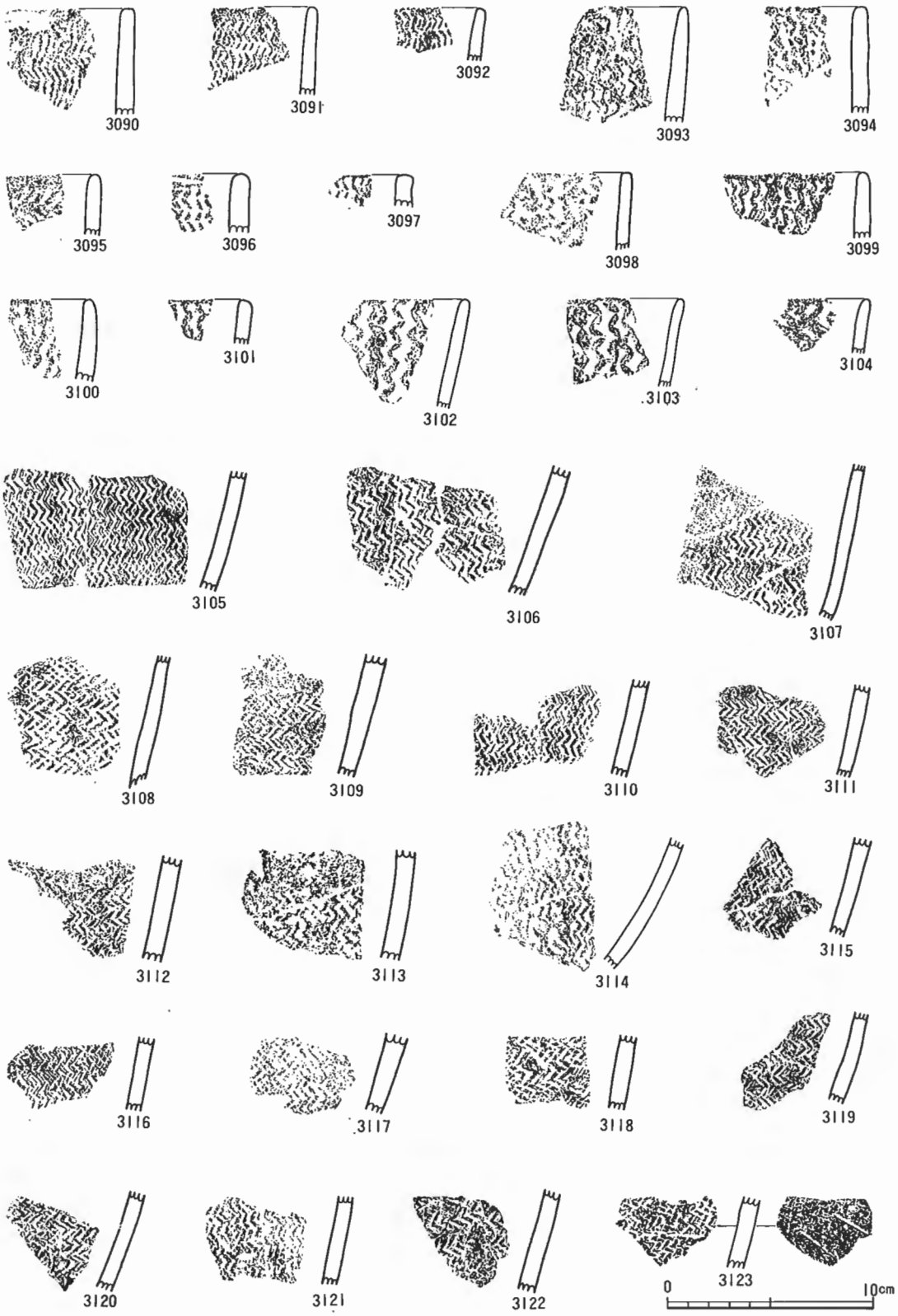
3139～3145 は同一個体である。器厚 8 ～ 9 ㎜。胎土には白色粒･黄褐色粒と繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。原体径 6.4 ㎜。丸味を持つ木葉状の文様（斜葉文）が山形に配列された山形文が施文される。原体 1 周に山形文 2 単位が印刻されるが，斜葉文が 5 条と 6 条印刻され，山形は完全な対をなすものではない。

3146～3153 は原体 1 周に，斜葉文が山形に 2 単位印刻された山形文が施文されるが，山形文の 1 辺が，同一方向の 2 つの斜葉文からなる部分が見られ，原体 1 周に山形文 2 単位と斜葉文 1 単位，または 2 単位半の山形文が印刻されるものと言える。

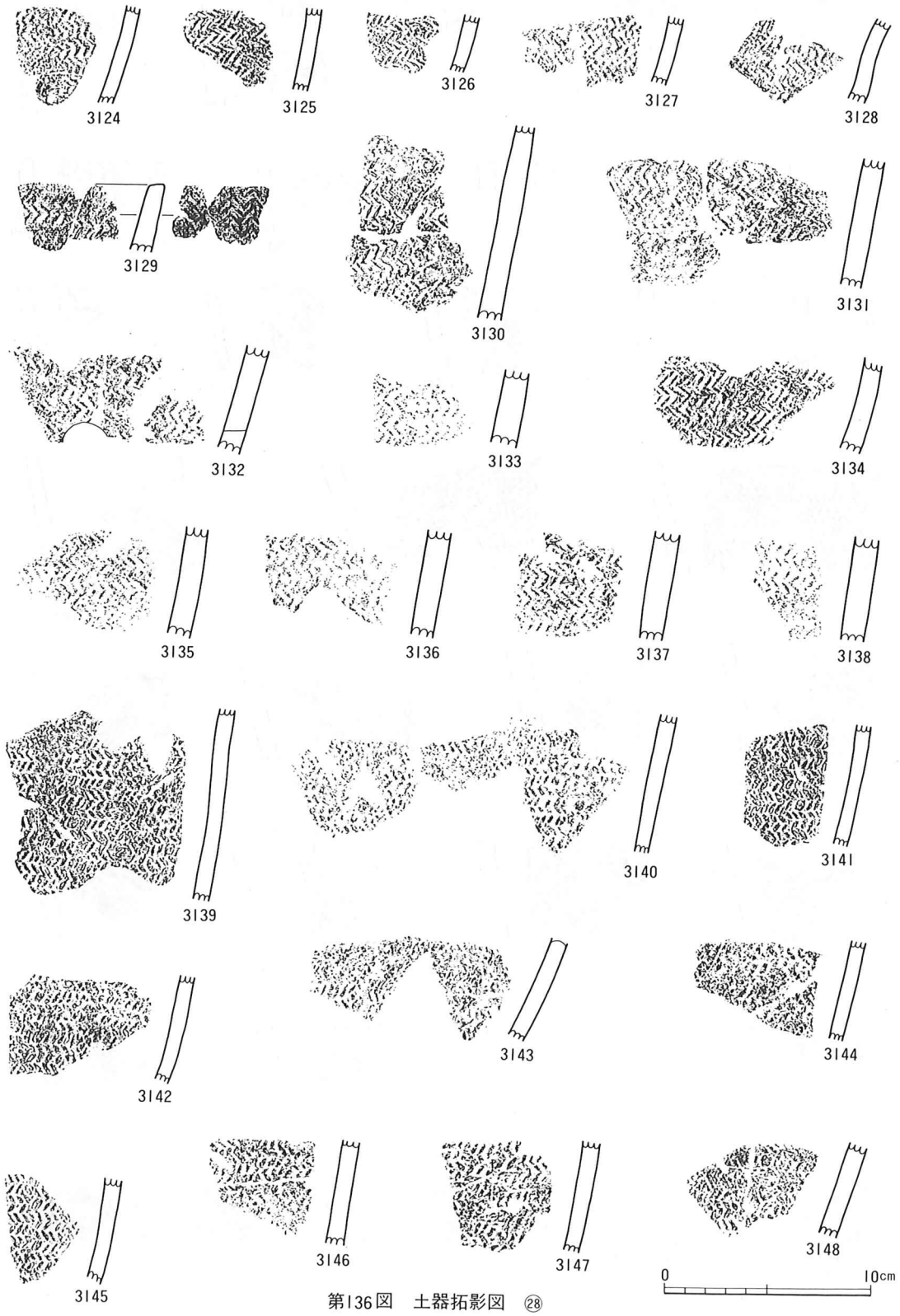
3146 は器厚 9 ㎜。胎土に黄褐色粒・茶褐色粒と繊維が含有され，色調は黒褐色を呈する。外面に厚く炭化物が付着する。山形頂部は少しずれて接続する。

3147 は器厚 8 ㎜。胎土に微量の繊維が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。内面に炭化物が付着する。

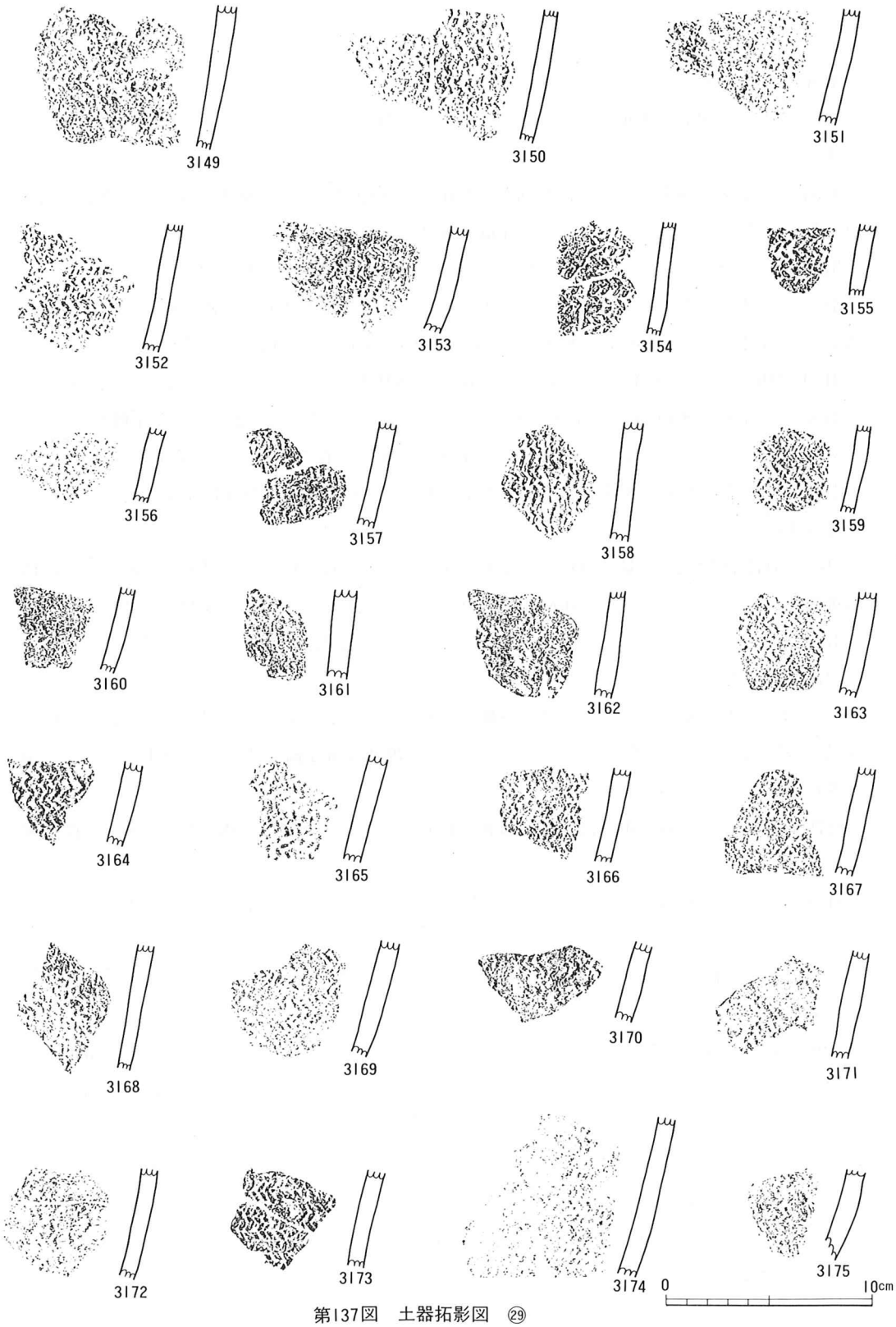
3149・3151・3153 は器厚 8 ㎜。胎土に小礫・黄褐色粒と微量の繊維が含有され，色調は茶褐色から暗褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。原体径 6.4 ㎜。原体端はまっすぐに切断される。



第135図　土器拓影図 ㉗



第136図　土器拓影図 ㉘



第137図　土器拓影図 ㉙

3150は山形の形が不揃いな山形文が施文される。

3151は1周に山形文1単位半と，小さな山形が印刻される。原体径7㎜。色調は暗灰褐色を呈する。

3154は斜葉文が規則的に山形に配列された山形文が印刻される。原体径5.7㎜。色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。3155は原体径5.7㎜。

3156は原体端がまっすぐに切断されるものである。条間隔の狭い山形文が施文される。

3158も原体端がまっすぐに切断されるものである。原体径6.1㎜。原体一周に大小2種類の山形文が印刻される。器厚7～8㎜。胎土に白色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。

3160・3161は外面に炭化物が付着する。3161は器厚10㎜。胎土に小礫・繊維が含有される。

3162は器厚6～8㎜。胎土に黄褐色粒と微量の繊維が含有される。施文は弱く不鮮明である。

3163は器厚8～9㎜。胎土には白色粒・小礫が多量に含有される。原体径5.7㎜。

3164は器厚7～9㎜。胎土に白色粒・小礫と繊維が含有される。色調は暗褐色を呈する。原体径5.4㎜。

3165～3172は胎土に多量の白色粒・黄褐色粒と繊維が含有される。器厚7～8㎜で，色調は暗黄褐色から黒褐色を呈する。3166～3168は外面に炭化物が付着する。3169は原体径5.7㎜。

3173は器厚7～8㎜。胎土に微量の繊維が含有され，色調は暗黄褐色を呈する。斜葉文による山形文が施文される。

3174は器厚8～9㎜。胎土に小礫が多量に含有され，色調は黄褐色を呈する。器面には径1㎜以下の気泡痕のような小さな穴が多数見られる。原体径6.7㎜。1周2単位半の山形文が施文される。

3175は原体径5.4㎜。3176は胎土に黄褐色粒が含有され，色調は黒褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。

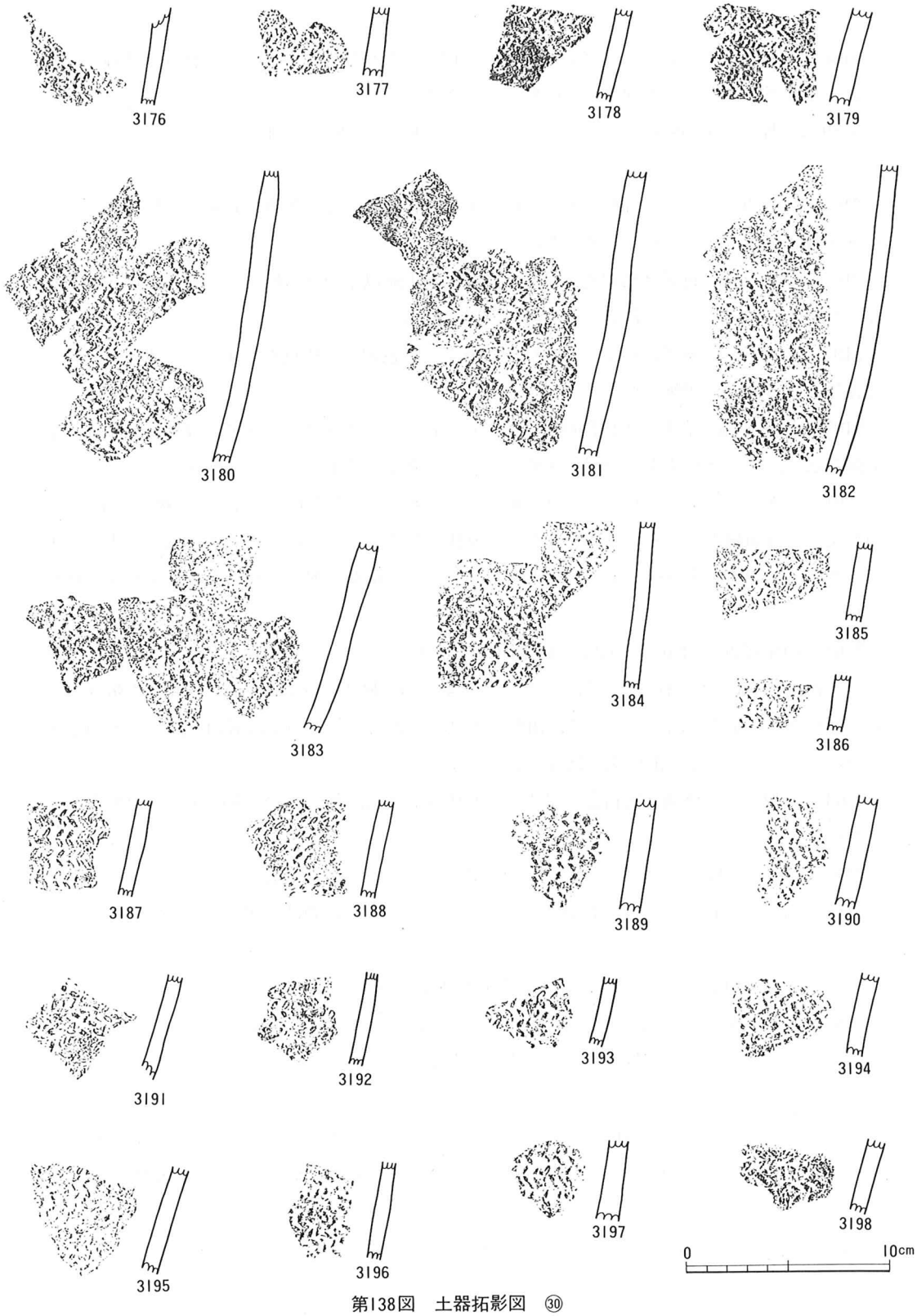
3178は器厚7～8㎜。色調は明黄灰色を呈する。原体径7.0㎜。1周2単位，1帯7条の山形文が施文される。

3179は器厚10㎜。色調は淡黄褐色を呈する。原体径5.4㎜。1周2単位，1帯7条，丸味を持つ小形の山形文が施文される。

3180・3181・3183は器厚8～10㎜。胎土に多量の白色粒と繊維が含有され，色調は暗灰色から黒灰色を呈する。原体径5.7㎜。2単位7条。原体両端がまっすぐに切断される。山形文は丸味を持ち，形は不揃いである。3183の胴部推定径は25㎝である。

3182は器厚8～9㎜。色調は暗灰褐色を呈する。繊維が含有される。原体径6.1㎜。1周2単位，大小2つの山形文よりなる。

3184～3187・3192・3196・3199は器厚6～7㎜。色調は明灰褐色を呈する。原体径6.1㎜。斜葉文が山形に配列された山形文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。3199は補修孔が穿孔される。



第138図　土器拓影図 ㉚

3188 は原体径 7 ㎜。色調は暗灰色を呈する。内面に炭化物が付着する。原体径 6.1 ㎜。斜葉文が 1 周 2 単位半山形に配列された山形文が施文される。

3189 は器厚 10 ㎜。色調は暗黄褐色を呈する。斜葉文が山形に配列された山形文が施文される。

3190 は器厚 9 ㎜。胎土に小礫・灰白色粒が多量に含有される。色調は暗褐色を呈する。原体径 6.4 ㎜。斜葉文状の山形文が施文される。

3187 は器厚 7 ㎜。色調は暗褐色を呈し，器面に径 1 ㎜以下の気泡痕のような小さな穴が多数見られる。原体径 6.1 ㎜。斜葉文が乱雑に山形に配列される。

3194 は器厚 7 ～ 8 ㎜で，胎土に白色粒が含有され，色調は暗灰色を呈する。原体径 5.7 ㎜。原体端はまっすぐに切断される。

3195 は器厚 8 ㎜。胎土に灰白色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。原体径 6.7 ㎜。条間隔が広く，1 周 2 単位半の山形文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

3201 は器厚 7 ～ 8 ㎜。胎土には微細な黄褐色粒が多量に含有される。色調は暗褐色を呈する。山形文は 2 種類施文される。原体径 6.1 ㎜，原体端はまっすぐ切断され，1 周大小 2 単位，1 帯 5 条で，条間隔の広い山形文と，楕円文が方向を変え山形に配列されたような山形文が施文される。

3202・3204・3205・3207・3208 は同一個体かと思われる。器厚 9 ～10 ㎜。胎土に微細な白色粒と赤褐色粒・繊維が含有され，色調は暗灰色を呈する。原体径 9 ㎜。1 周 2 単位，1 帯 6 ～ 7 条で，長細い斜葉文が向きを変えて，山形に配列されたもので，山形は鋭角と鈍角なものとからなる。完全に対をなす山形文ではない。

3203 は器厚 7 ㎜。色調は灰白色を呈する。原体径 5.7 ㎜。条部が太く丸味をもつ山形文が施文される。

3206・3210・3211 は 3202 に文様・焼成が類似するが，色調は灰白色を呈する。

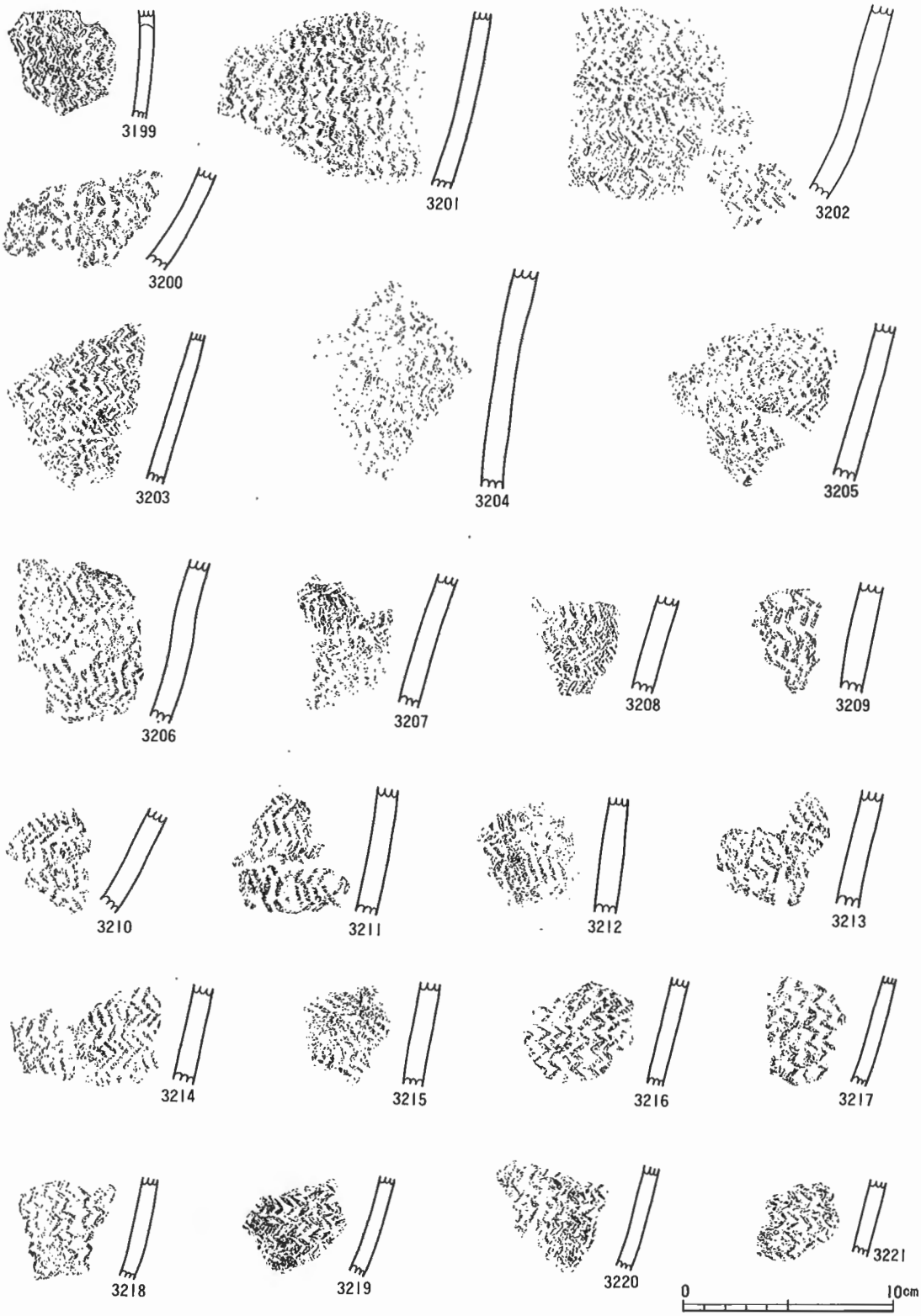
3212 は器厚 9 ～10 ㎜で，胎土に黄褐色粒を多量に含有し，色調は黒褐色を呈する。山形文は 3202 に類似する。

3214 は 3202 に類似するもので，内面に炭化物が付着する。

3216・3217 は器厚 7 ～ 8 ㎜で，胎土に多量の小礫が含有され，色調は黒灰色と暗褐色を呈する。3217 は外面に炭化物が付着する。原体径 5.7 ㎜。原体端はまっすぐに切断される。頂部の鋭角な山形文が施文される。

3218～3221 は条間隔の広い山形文が施文される。3218・3220 は同一個体である。器厚 6 ～ 7 ㎜。胎土に小礫・黄褐色粒が含有され，色調は黒褐色を呈する。原体径 5.7 ㎜。原体端はまっすぐに切断される。

3219・3221 は同一個体である。器厚 7 ～ 8 ㎜。胎土に白色粒が多量に含有され，色調は暗灰色を呈する。原体径 5.7 ㎜。鋭角な山形文が施文される。



第139図　土器拓影図　㉛

3222は底部近くの破片である。胎土に小礫・繊維が多量に含有される。色調は暗褐色を呈する。原体径5.7㎜。

3223は器厚8～9㎜。胎土に茶褐色粒・黄褐色粒が含有され，色調は黒褐色を呈する。原体径6.1㎜。原体端はまっすぐに切断される。

3224は器厚9～10㎜。胎土に小礫が含有され，色調は暗褐色を呈する。原体径6.1㎜。斜葉文が山形に配列された山形文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

3225は器厚6㎜。色調は灰白色を呈する。外面に炭化物が付着する。原体径5.7㎜。条の太い丸味を持つ山形文が施文される。

3226～3229は同一個体である。胎土に黄褐色粒・白色粒が含有され，色調は茶褐色から暗褐色を呈する。原体径5.7㎜。条が太く，山形頂部が丸みを持つ山形文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

3230～3238は，器厚6～7㎜。胎土に黄褐色の小礫を多量に含有し，色調は暗灰褐色から茶褐色を呈する。条が太く，条間隔の広い，丸味を持つ山形文が施文される。3231は原体径6.1㎜。3232は6.7㎜。3233は6.4㎜。

3．1周1単位の山形文が施文されるもの（3229～3249）。

3239・3242は同一個体である。口縁部は直立し，口径20㎝と推定される。器厚8～9㎜。胎土に灰白色粒が多量に含有され，色調は黒褐色を呈する。3242は外面に炭化物が付着する。原体径6.1㎜。1周1単位，1帯4～5条。原体端はまっすぐに切断される。

3240は条が細く，条間隔の広い山形文が施文される。色調は褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

3241は口縁部近くの破片と思われ，1周1単位の山形文が外面では縦位に，内面には横位に施文される。胎土には繊維が多量に含有され，色調は灰白色を呈する。

3243は底部近くの破片で，色調は灰白色を呈する。原体径5.4㎜。

3244は器厚11㎜。胎土に白色粒と繊維が多量に含有され，色調は灰白色を呈する。1周1単位の山形文が浅く施文される。

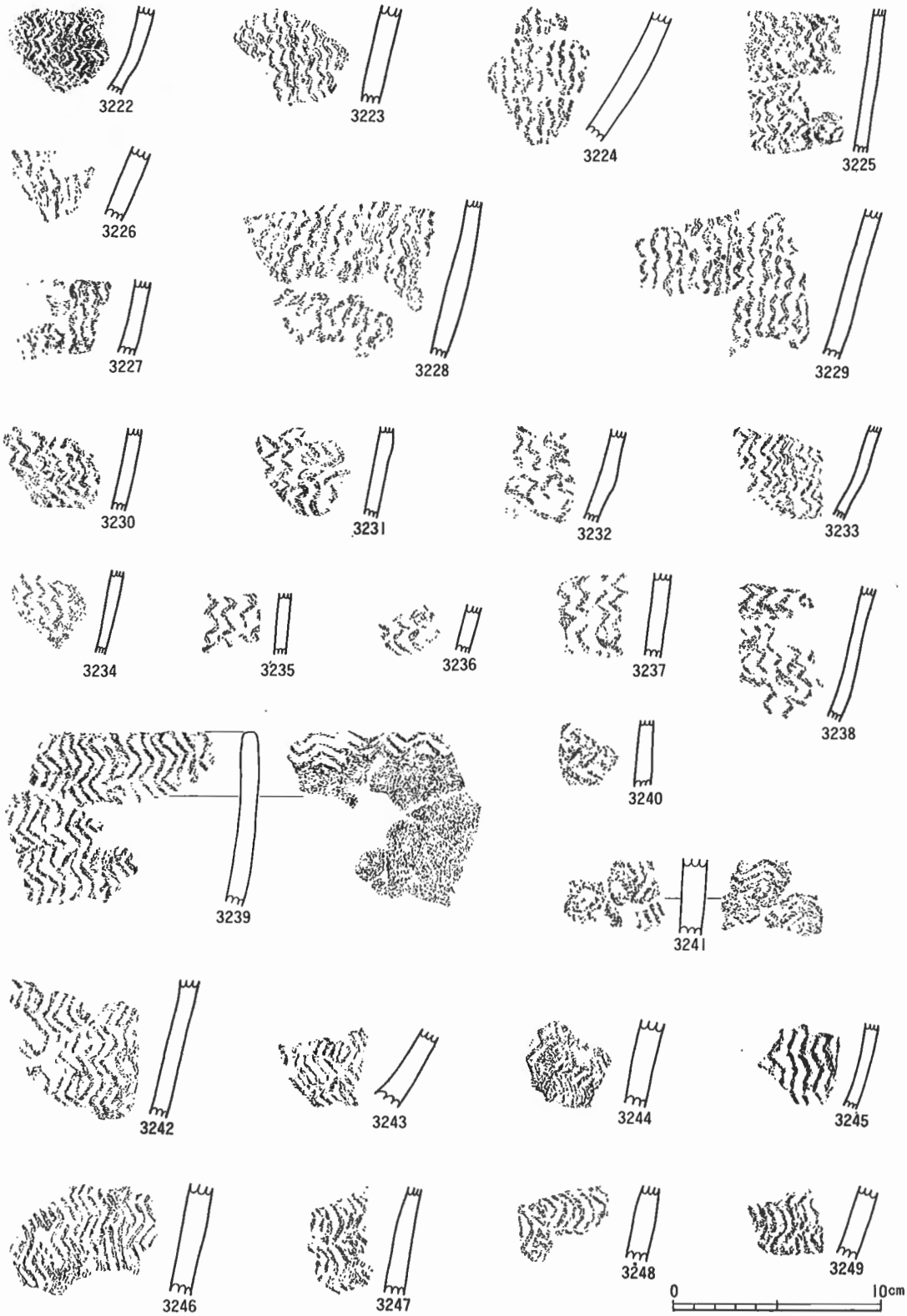
3245は器厚6㎜。白色粒が多量に含有され，色調は暗褐色を呈する。内外面に炭化物が付着する。原体径5.7㎜。

3246は器厚11㎜。胎土に多量の黄褐色粒と繊維が含有され，色調は灰白色を呈する。原体径6.4㎜。原体端はまっすぐに切断される。山形頂部に直交するよう1本の直線文が見られ，文様割り付けの基準線かと思われる。

3247～3249は三日月状の山形をなす文様が施文される。原体径6.1㎜。1周1単位，1帯6条。器厚9～10㎜。胎土に灰白色粒・小礫が多量に含有され，色調は明茶褐色を呈する。

4．1周3単位の山形文が施文されるもの（3250～3267）。

3250は口径27㎝前後と推定される大破片である。器厚7～9㎜。胎土に黄白色粒が多量に含



第140図　土器拓影図　㉜

有され，色調は灰褐色から黒褐色を呈する。原体径5.4㎜。1周3単位，1帯5～6条の山形文が施文される。

3251は口径20㎝前後と推定される。器厚7～8㎜。色調は茶褐色を呈する。原体径6.1㎜。1周3単位。丸味を持つ山形文が施文される。

3252・3253は口径20㎝前後と推定される。器厚8㎜。胎土に白色粒・小礫が含有され，色調は淡褐色を呈する。原体径6.1㎜。1周3単位，形の不揃いな，丸味を持つ山形文が施文される。

3254は弱く内湾する口縁部である。器面は磨耗するが，1周3単位の小さな山形文が施文される。

3255～3258は弱く外反するもので，器厚5～6㎜。色調は黄褐色を呈する。原体径5.7㎜。1周3単位。条が太く，丸味を持つ山形文が施文される。3256は外面で径12㎜，内面で径6㎜の補修孔が穿孔される。

3259は器厚8～9㎜。胎土に白色粒・茶褐色粒等の砂粒と繊維を多量に含有する。色調は淡灰色を呈する。器面は磨耗し，文様は不明瞭である。

3260は胎土に多量の砂粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。器面は風化が激しい。

3261・3262は器厚6～7㎜。色調は暗灰褐色を呈する。小さな斜葉文が1周2単位半あるいは3単位の山形に配列された山形文が施文される。

3263～3266は原体径5.4㎜，1周3単位。条の太い，丸味を持つ小形の山形文が施文される。胎土には砂粒が含有され，色調は黄褐色を呈する。

3267は器厚8㎜。色調は暗褐色を呈し，外面に厚く炭化物が付着する。山形文は小さく，丸味を持つものである。炭化物に覆われ，詳細な観察はできない。

5．山形状の文様が施文されるもの（3270～3327）。

3270～3292は斜葉文または楕円文が，山形に配列される山形文が施文されるものである。

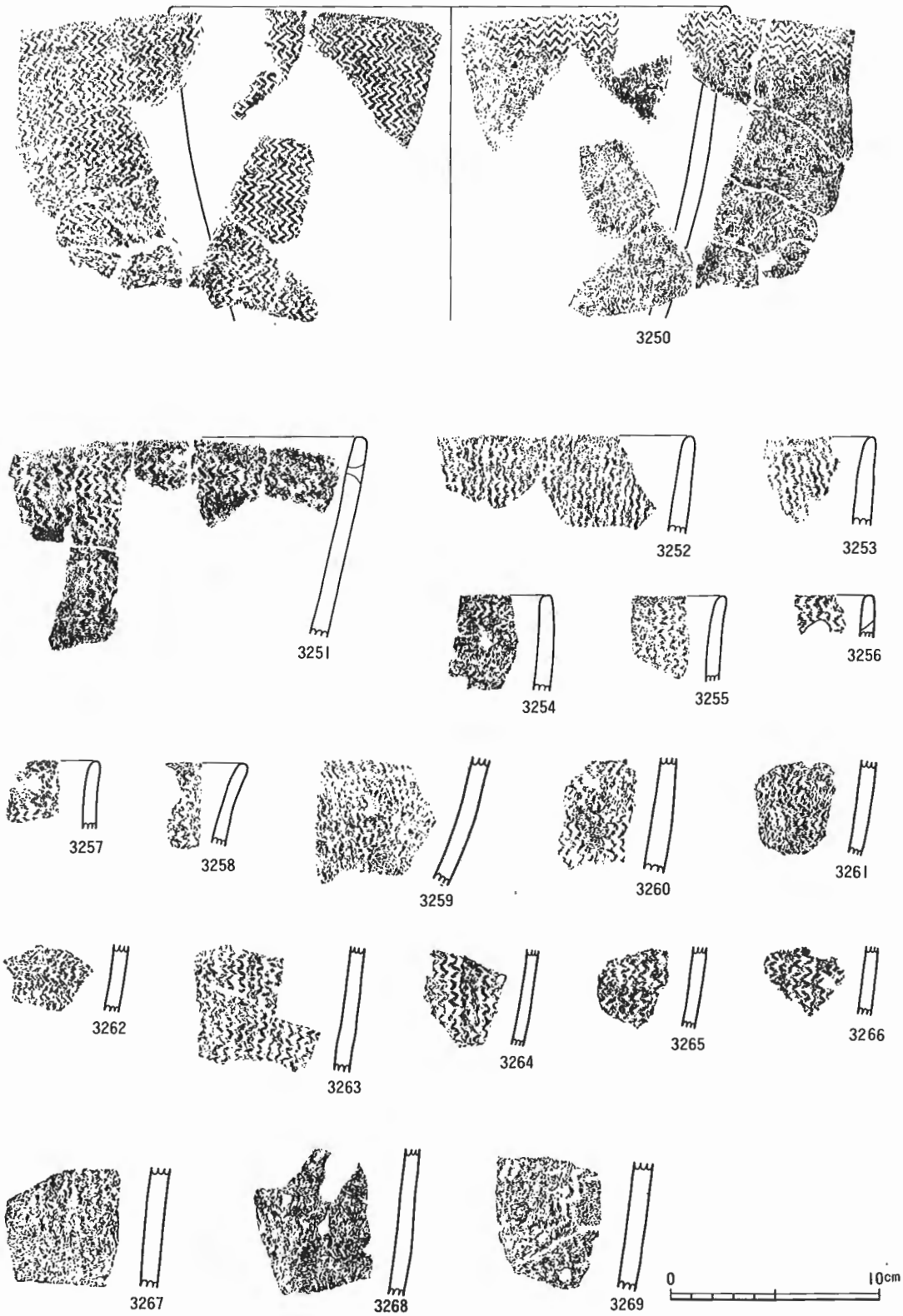
3270・3271～3276・3277は器厚10～11㎜。胎土に白色粒・砂粒が多量に含有され，色調は淡茶褐色を呈する。原体端はまっすぐに切断される。原体径6.1㎜。1周2単位の山形文が施文されるが，1列に山形文半単位＝斜葉文1単位が3単位と4単位配列され，山形文は完全に対をなすものではない。

3272～3275は同一個体である。器厚8㎜。胎土に小礫・砂粒等が多量に含有され，色調は黒褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。原体径6.1㎜。1周2単位半，条間隔の広い山形文が施文される。

3278は底部近くの破片である。胎土に白色粒が多量に含有され，色調は暗灰色を呈する。

3279は器厚7～8㎜で，色調は暗灰褐色を呈する。内面に炭化物が付着する。原体径5.4㎜。1周2単位，条間隔の広い，丸味を持つ山形文が施文される。

3280は口唇部で器厚を薄くしながら直行する口縁部である。胎土には微細な白色粒が多量に



第141図　土器拓影図　㉝

含有され，色調は淡茶褐色を呈する。原体径4.8㎜。原体端はまっすぐに切断される。斜葉文が規則的に山形に配列される。

3281は口唇部が平坦に整形され，口径16㎝前後と推定される。色調は暗灰色を呈する。内外面に薄く炭化物が付着する。原体径5.7㎜。斜葉文が不規則な山形に配列される。

3282・3283は同一個体かと思われる。口径14㎝前後と推定される。色調は淡黄褐色を呈する。原体径5.7㎜。楕円文が山形に配列された山形文が，器面内外面に施文される。外面は縦位回転，内面は横位回転である。

3284は楕円文が傾きを変え，不規則に施文されるもので，山形をなす部分が見られる。内外面より斜めに補修孔が穿孔される。

3285は器厚8～9㎜。胎土に多量の白色土が含有され，器壁表面の色調は暗灰色を呈する。輪積み痕が見られる。原体径6.1㎜。楕円文が1周5単位配列されるが，4単位が2単位の山形文を形成する。

3286は3282の胴部破片である。原体端はまっすぐに切断される。輪積み痕が見られる。

3287は底部近くの破片である。胎土には白色土・黄褐色土が多量に含有され，色調は淡灰褐色を呈し，一部火熱により黒色に変色している。楕円文が山形に配列される。

3288は器厚8～9㎜。胎土に黄白色粒・砂粒が含有され，色調は黒灰色を呈する。内面には炭化物が付着する。楕円文が山形に配列されるが，文様がつぶされており詳細な観察はできない。

3289・3290は色調が黒褐色を呈し，楕円文が山形に配列される。

3291は色調が灰白色を呈するものである。

3292は色調が淡黄褐色を呈する。胎土には白色粒・小礫が含有される。

3293～3298は原体に山形文が螺旋状に印刻されるもので，文様は左に傾いた山形文が施文される。口径23㎝前後と推定され，口唇部は平坦に整形される。器厚6㎜。色調は茶褐色から黒褐色を呈する。原体径6.1㎜。原体1周に斜めに山形文2単位半が印刻される。

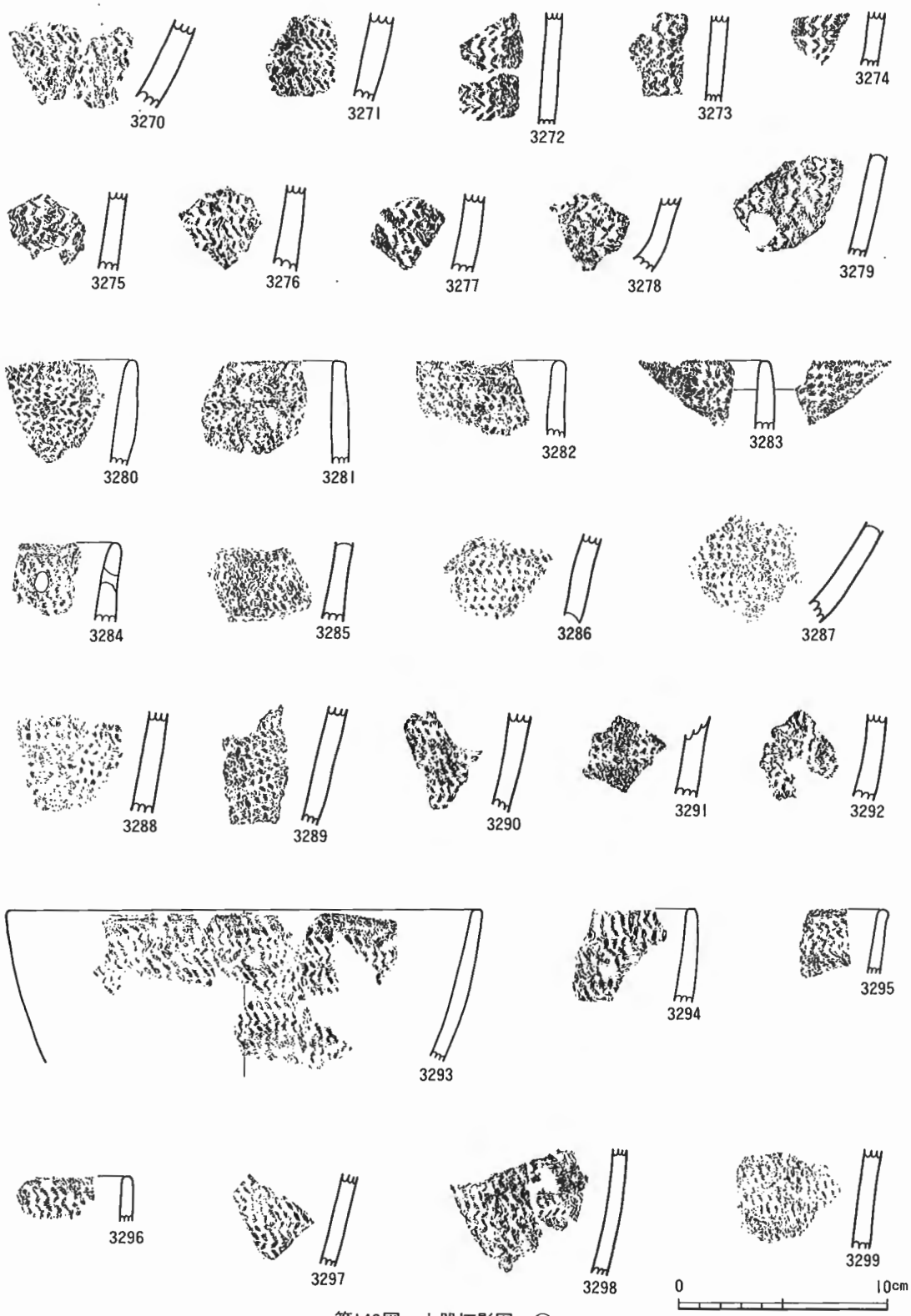
3300～3308は細長い楕円文が傾きを変えて配列されたものである。一部山形をなす部分が見られる。山形文というよりも，楕円文の施文される土器とするべきかもしれない。

3300～3305は同一個体である。原体径5.7㎜。原体1周に楕円文が傾きを変えて4単位印刻され，山形となる部分が見られる。器厚7～9㎜。色調は茶褐色を呈する。

3308は巾2㎜弱の細い楕円文が傾きを変え印刻された文様が施文される。器厚8～9㎜。色調は茶褐色を呈する。

3309は1周2単位半の山形文が施文される。口縁部の破片で，内面上部先端に横位の山形文が見られる。原体径5.7㎜。原体端はまっすぐに切断される。器厚6～7㎜。胎土には黄褐色粒が多量に含有され，色調は暗褐色を呈する。外面に薄く炭化物が付着する。

3310は小さな楕円文が縦と斜の交互に配列されたもので，1周4単位。原体径6.1㎜。原体



第142図　土器拓影図　㉞

端はまっすぐに切断される。直立する口縁部で，口径23㎝前後と推定される。口唇部直下の内面にも横位に弱く施文される。器厚6～8㎜。色調は暗茶褐色を呈する。外面に薄く炭化物が付着する。

3311は原体1周に形の崩れた山形文2単位が印刻されたもので，細く丸味を持つ山形文が施文される。原体径6.1㎜。原体端はまっすぐに切断される。器厚9～10㎜。胎土に黄褐色粒を多量に含有し，色調は暗灰褐色を呈する。外面には炭化物が付着する。

3312～3319は，丸味を持ち，細く小さい山形文が施文される。

3312・3314は器厚8～9㎜。色調は暗褐色を呈する。原体径6.1㎜。1周2単位。原体端はまっすぐに切断される。外面には炭化物が付着する。

3313は原体径5.7㎜。1周2単位，1帯5条。原体端はまっすぐ切断される。

3317は器壁内部が茶褐色，外部は淡灰桃色を呈する。原体径6.4㎜。1周2単位半または3単位の山形文が施文される。

3318・3319も1周2単位半または3単位の山形文が施文されるものである。

3320～3323は原体1周に刻みを4単位連続させ，「└┘┌」を印刻したもので，山形文の頂部が平坦になるような文様が施文される。原体径6.1㎜。器厚7～8㎜。色調は灰褐色から暗褐色を呈する。3320は外面に炭化物が付着する。

3324～3327は原体1周に丸味を持つ太い刻みを，縦と斜めに交互に印刻して，山形文が施文される。器厚8～12㎜。胎土に淡黄褐色粒が多量に含有され，色調は淡褐色から茶褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。

6．山形文を棒軸に縦に刻む縦刻原体により文様が施文されるもの（3328～3364）。

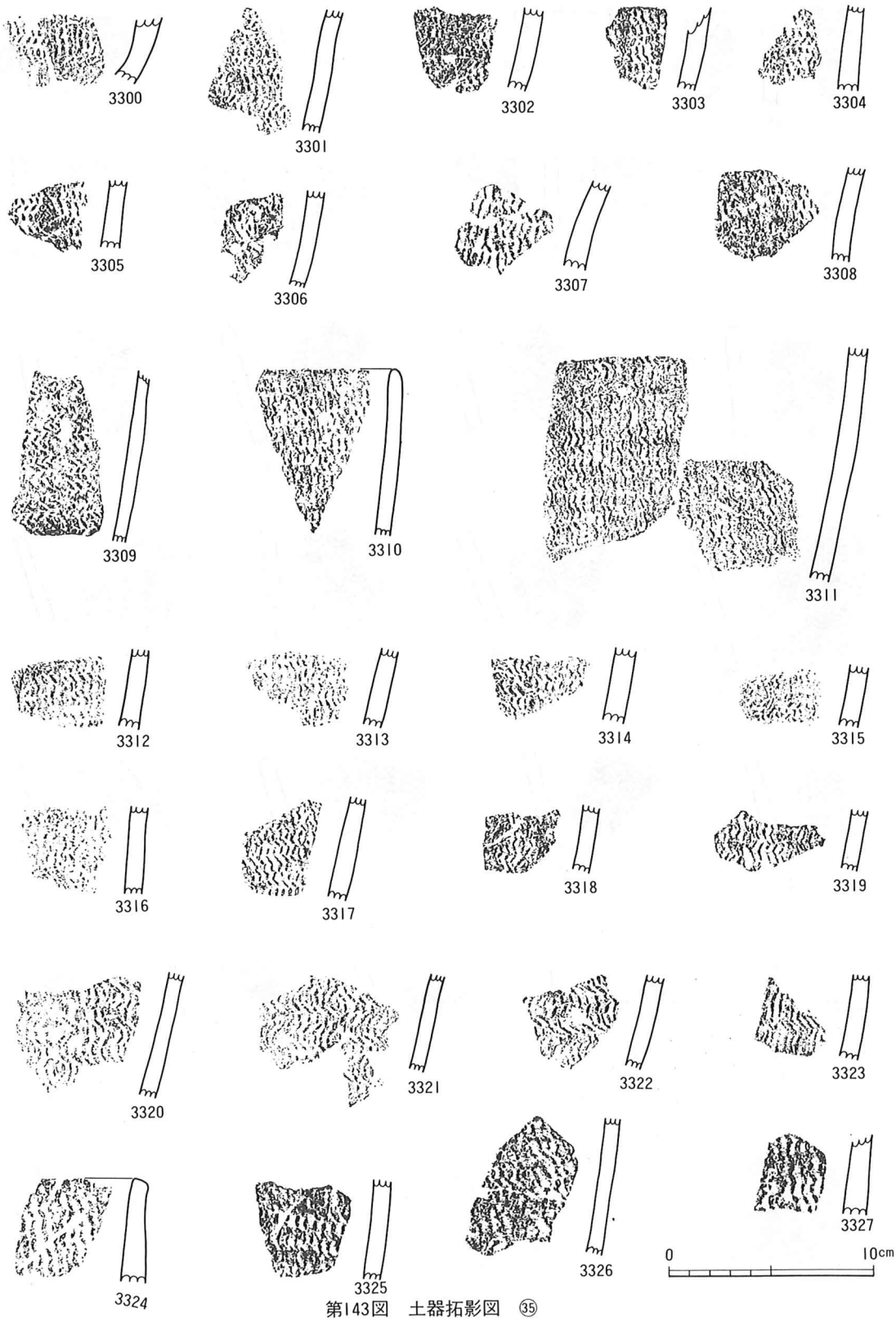
3328～3331・3333・3334は類似するもので，ほぼ直立する口縁部をなす。外面には縦刻原体を縦位回転して横位の山形文が施文され，口唇部直下の内面には，同一原体を横位回転して縦位の山形文が施文される。器厚6～7㎜。胎土には小礫が多量に含有される。色調は3328・3329が暗褐色，3333は茶褐色，3330・3331・3334は黄褐色を呈する。

3332は口唇部が平坦に整形される。外面に縦刻原体を縦位回転して，横位の山形文が施文される。器厚7㎜。胎土には多量の小礫と繊維が含有され，色調は黒褐色を呈する。

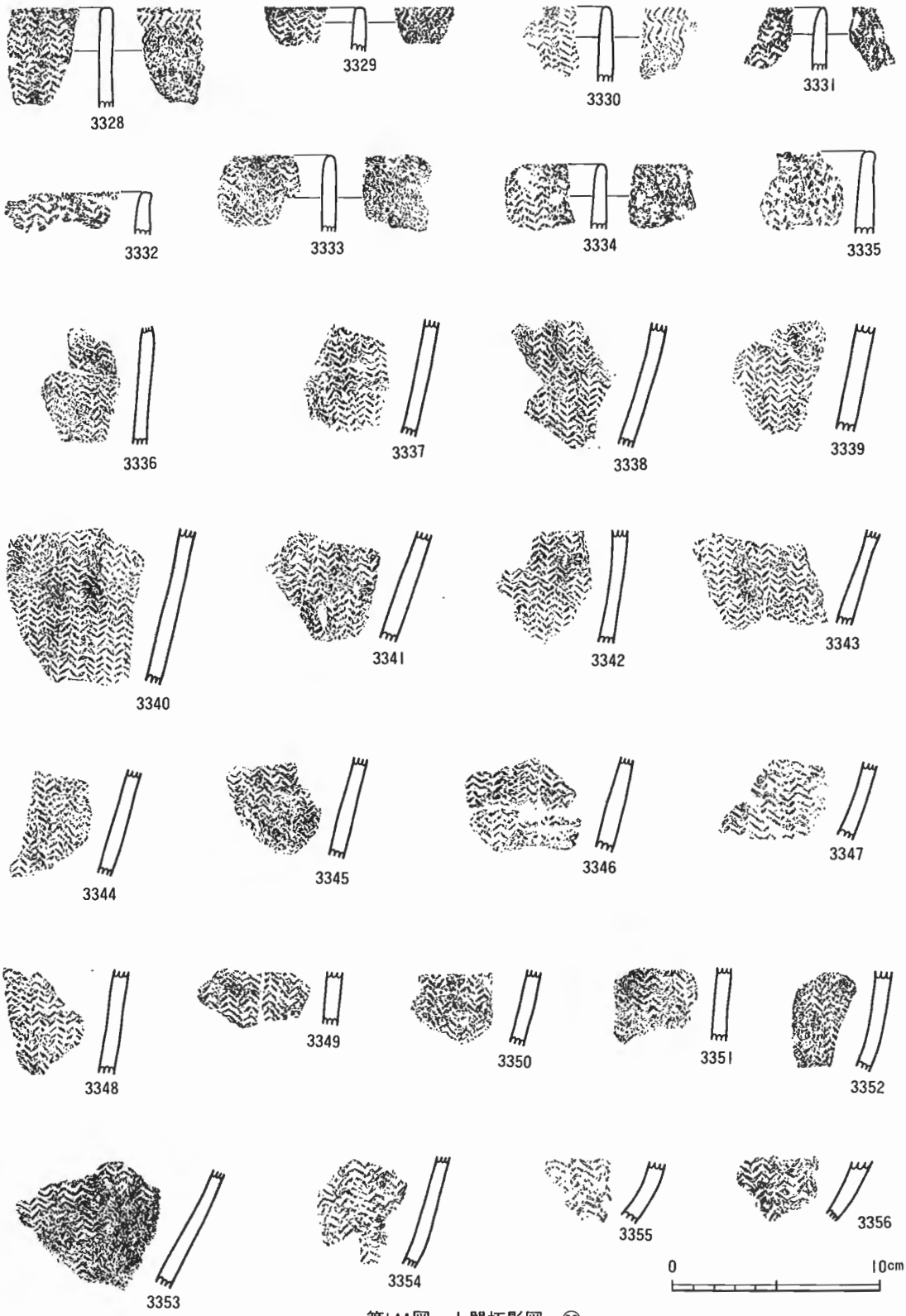
3335は原体に斜葉文が山形に縦刻されたもので，外面に縦位回転して横位の山形文が施文される。原体端はまっすぐ切断される。胎土には多量の繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。

3336～3353は口縁部3328～3331・3333・3334の胴部破片である。器厚7～8㎜。胎土には多量の小礫が含有され，色調は暗褐色から淡黄褐色を呈する。縦刻原体を密接して縦位回転し，横位の密接する山形文が施文される。原体径5.7㎜，1周に5条の山形文が印刻される。

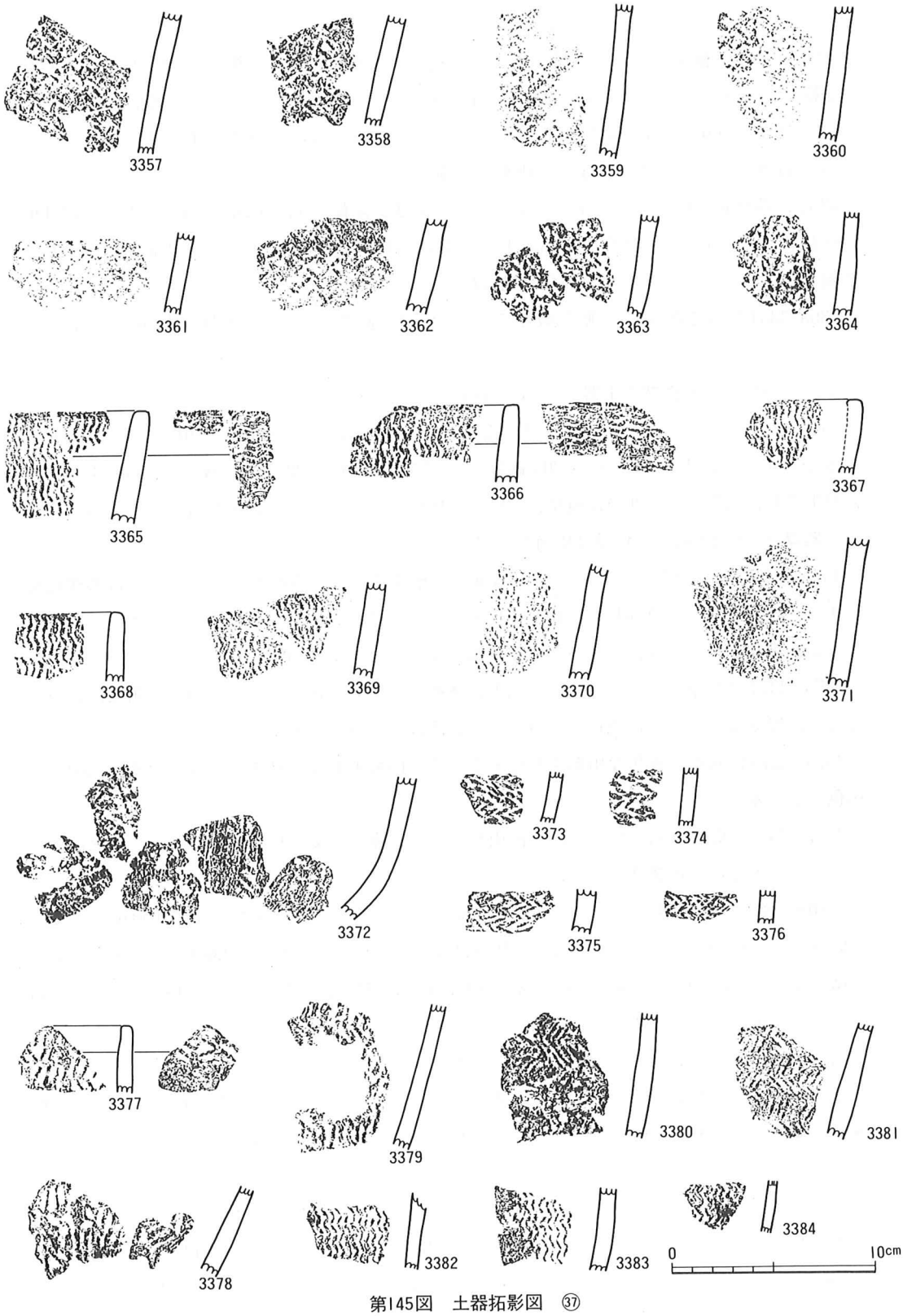
3354～3356は口縁部3332の胴部破片である。器厚7～8㎜。胎土には小礫が多量に含有され，色調は黒褐色と淡黄褐色を呈する。山形文の縦刻原体を縦位回転して，横位の山形文が施文される。



第143図　土器拓影図　㉟



第144図　土器拓影図　㊱



第145図　土器拓影図 ㊲

3357～3361は横位の山形文が施文され，縦刻原体を縦位回転して施文されたものと思われる。器厚7～8㎜。胎土には多量の繊維が含有され，色調は淡灰褐色を呈する脆弱な土器である。3357・3358・3360・3361は山形頂部が交叉するように連続するものが見られ，形が一定していない。3359は条が細く形の一定した山形文が施文される。

3362は器厚8～10㎜で，胎土に多量の小礫と繊維が含有され，色調は茶褐色を呈し，内外面に炭化物が付着する。原体径5.4㎜。1周に3条の山形文が印刻されるが，1帯半単位ずれて印刻され，山形が「×」になる部分が見られる。

3363・3364は口縁部3335の胴部破片である。色調は黄褐色を呈し，縦刻原体が縦位回転される。

7．その他の山形押型文土器（3365～3384）。

3365～3371は文様凸部が太く，文様凹部が細いものである。山形頂部の角度は鈍角である。原体径6.4㎜。1周2単位。長さ30㎜弱で，一帯7条。3365～3367の口縁部は，口唇部が平坦に整形され，山形文が，外面に縦位に，内面に横位に施文される。3368は外面のみに施文される。器厚は10～11㎜で，色調は灰白色を呈する。

3372は底部近くの破片で胴部径は12㎝前後と推定される。器厚8～10㎜。色調は茶褐色を呈する。縦刻原体を縦位回転して横位の山形文が施文されるが，文様施文後その上から縦位に強く器面調整され，文様は擦り消される。原体端はまっすぐに切断される。

3373・3374は斜葉文が傾きを変えて山形に密接して配列されたもので，山形の角度は鋭角となる。器厚6㎜。胎土に白色粒が含有され，色調は黒褐色を呈する。

3375・3376は角度の鋭角な山形文が施文される。山形頂部は交叉するようになる。色調は黄褐色を呈する。

3377・3378・3379は同一個体で，一部山形となる文様が施文される。器厚8㎜。黄褐色砂粒が多量に含有され，色調は淡茶褐色を呈する。

3380・3381は文様凸部が細く低い山形文が施文される。原体径6㎜強，1周1単位。施文は1回転ごとに移動しておこなわれる。原体端はまっすぐに切断される。3380は器厚8㎜。胎土に微細な長石・石英粒と多量の繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。3381は器厚7～8㎜で，胎土に黄褐色粒が多量に含有され，色調は黒褐色を呈する。

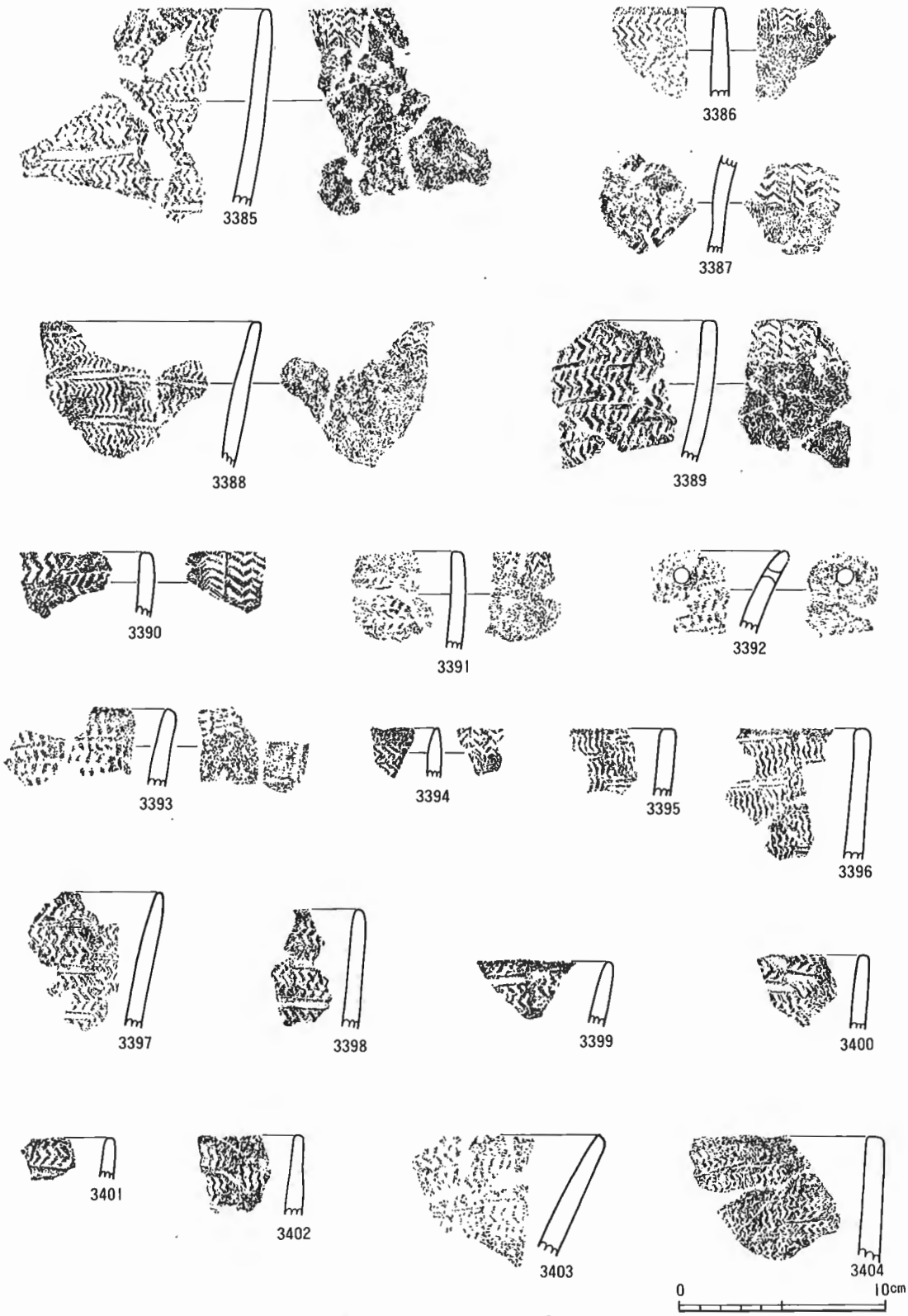
3382～3384は胎土に多量の金雲母が含有される。

3382・3383は器厚7～8㎜。胎土に多量の金雲母と微量の石英粒が含有される。色調は茶褐色から暗褐色を呈する。原体径5.4㎜，長さ27㎜。1周2単位，1帯7条。縦位の帯状に施文される。

3384は器厚4～5㎜。胎土に多量の金雲母が含有され，色調は明茶褐色を呈する。

8．山形文と直線文が組み合わされた押型文が施文されるもの（3385～3432）。

3385・3386は径7.3㎜，長さ25㎜の螺旋状に印刻される2単位6条の山形文と，軸方向に3



第146図　土器拓影図 ㊳

本の直線文が印刻され，１本は山形文に重複する。印刻順序は判別できない。外面には縦位に密接して回転施文され，口唇部直下の内面に横位に１帯回転施文される。器厚８㎜。胎土に黄褐色粒が多量に含有され，色調は暗褐色を呈する。

3387は１周に１単位の山形文と１本の直線文が印刻される。原体径6.1㎜。

3388は径6.7㎜，長さ26㎜の原体に２単位９条の山形文と２本の直線文が印刻される。外面には縦位に密接して，内面は横位に１帯回転施文される。器厚７～８㎜。胎土に黄褐色粒が多量に含有され，色調は暗褐色を呈する。内外面に炭化物が付着する。

3389･3390は径6.4㎜，長さ約30㎜の原体に１単位半６条の山形文と，巾の広い１本の直線文が印刻される。外面では縦位に，内面には１帯横位に回転施文される。器厚７～６㎜。胎土に白色粒を多量に含有し，色調は黒褐色を呈する。

3391は原体１周に１単位の山形文と１本の直線文が交互に印刻される。原体端は楔状に切断される。外面は縦位回転・内面は横位回転施文される。内面には厚く炭化物が付着する。

3392･3393は原体１周に斜葉文による山形文１単位半と太い直線文が印刻される。原体径6.7㎜。内外面に施文される。胎土に黄褐色粒が多量に含有され，色調は暗褐色を呈する。

3394は山形頂部の鋭角な山形文１単位と直線文が交互に印刻されたもので，口唇部は尖頭状となる。器厚６㎜。内外面に施文され，色調は淡黄褐色を呈する。

3395・3396は原体１周に頂部の鈍角な山形文２単位半と２本の直線文が印刻される。原体径6.7㎜。長さ26㎜以上，７～８条。原体端はまっすぐに切断される。器厚８～９㎜。口唇部は平坦に整形され，器面調整は丁寧である。外面に厚く炭化物が付着する。

3397～3401は3385に類似する文様が外面のみに施文される。胎土・焼成等類似する。

3402は器面が火熱により風化している。原体１周に細い山形文２単位と，太い直線文が印刻される。

3403は器面が荒れている。原体１周に山形文２単位と１本の直線文が印刻される。原体径6.7㎜。外面に縦位回転施文される。器厚９㎜。口唇部は薄くなる。胎土には多量の明褐色粒が含有され，色調は淡褐色から暗褐色を呈する。

3405～3415は原体１周に螺旋状の山形文２単位と，３本の直線文が印刻され，１本は山形文に重複する。口縁部3385・3397等に類似する胴部破片である。

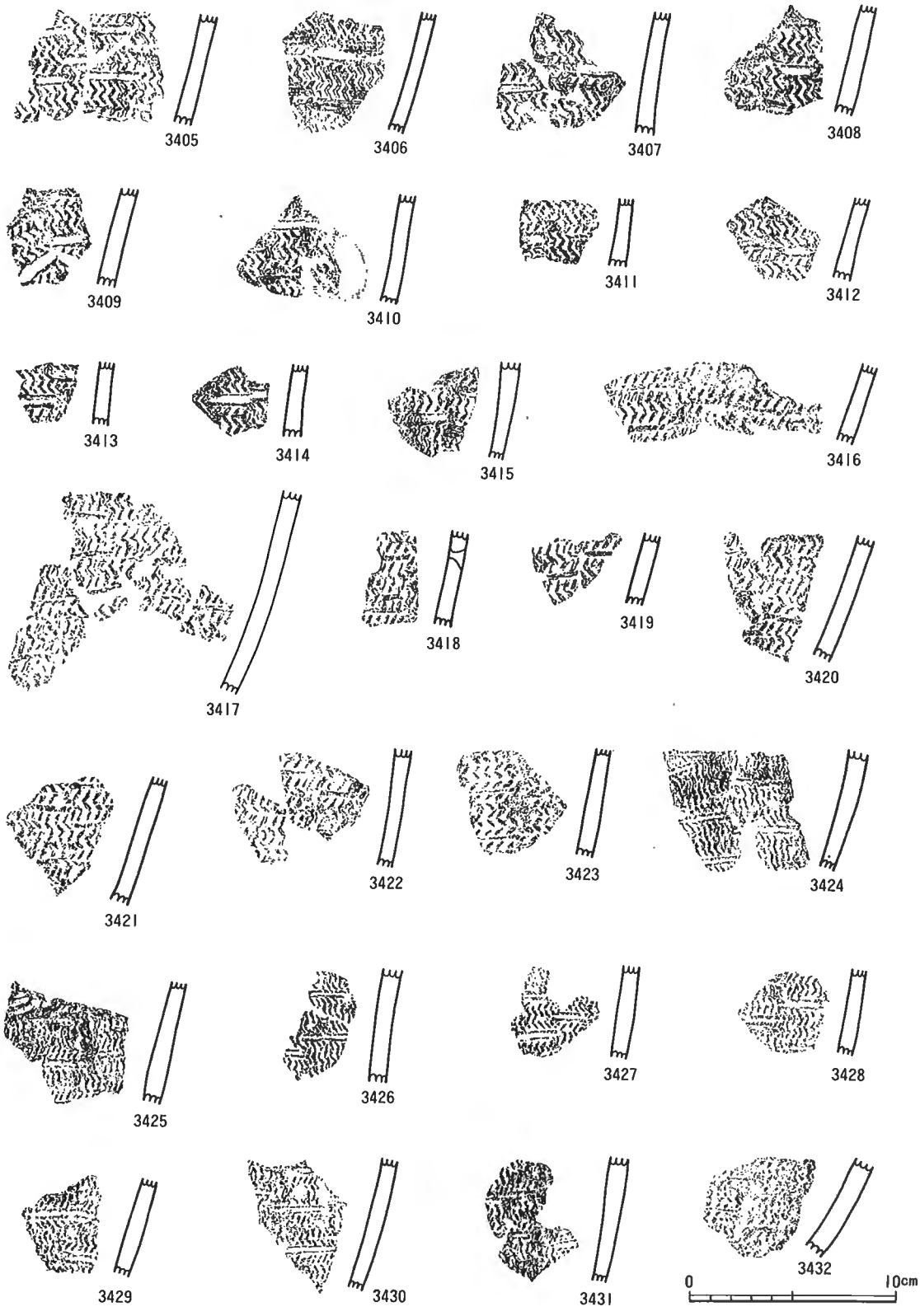
3416～3422は原体１周に山形文１単位半と１本の直線文が印刻されるものである。

3416は原体径6.7㎜。3417は原体径5.7㎜。3418～3422は原体径6.1㎜。

3423は原体１周に山形文２単位半と１本の直線文が印刻される。原体径7.0㎜。器厚７㎜。胎土に黄褐色粒が多量に含有され，色調は淡黄褐色を呈する。

3424・3326は口縁部3396の胴部破片である。

3425･3427～3431は3424に類似する文様が施文される。原体径6.1㎜。原体端はまっすぐに切断される。器厚７～８㎜。胎土に黄褐色粒・白色粒が含有され色調は暗灰褐色を呈する。



第147図　土器拓影図 ㊴

3432は小さな斜葉文による2単位半の山形文と，1本の直線文の組み合せである。原体径5.1㎜。器厚9～10㎜。　色調は暗褐色を呈する。外面に薄く炭化物が付着する。

IV. 格子目押型文土器

1．横長の菱形あるいは平行四辺形の格子目文が施文されるもの。施文構成は縦位密接施文である（4001～4275）。

4001～4004・4006～4010は格子目文が内外面に施文される口縁部破片である。外面は原体を縦位回転して密接して施文され，内面は口唇部直下に横位に1帯施文される。器形は直行する口縁部となる。

4001・4005は同一個体である。口径は30㎝前後と推定される。原体径7.0㎜。1周4単位。原体端はまっすぐに切断される。器厚8～9㎜。胎土に多量の淡黄褐色粒と繊維が含有され，色調は淡茶褐色～暗褐色を呈する。内外面に火熱により黒褐色に変色する部分が見られ，炭化物が付着する。

4002は器厚8㎜。胎土に白色粒・繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。原体端はまっすぐに切断される。

4003は器厚8㎜。胎土に白色粒・茶褐色粒・繊維が含有され，色調は黄褐色～黒褐色を呈する。

4006は口径28㎝前後と推定される。器厚8㎜。胎土に白色粒・黄褐色粒・繊維が多量に含有され，色調は黄褐色を呈し，外面は火熱により暗褐色に変色し，炭化物が付着する。原体端はまっすぐに切断される。

4007は器厚7～8㎜。胎土に多量の黄白色粒が含有される。色調は暗褐色を呈し，外面に薄く炭化物が付着する。格子目文は平行四辺形を呈する。

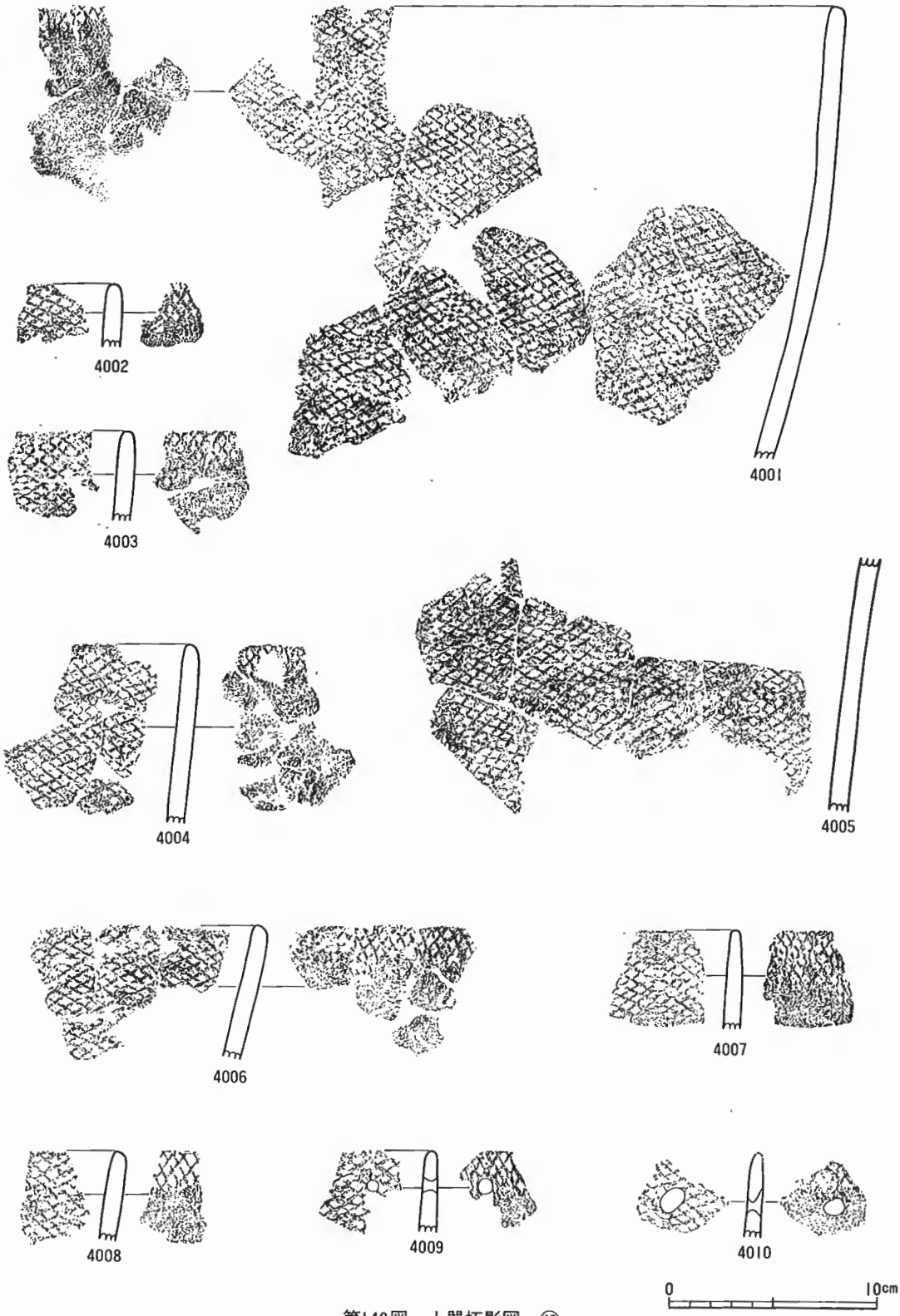
4008は器厚8～9㎜。胎土に小礫・黄褐色粒が含有され，色調は淡茶褐色を呈する。内面に薄く炭化物が付着する。

4009・4010は両面より穿孔される補修孔が見られる。

4011～4015は格子目文が外面のみに施文される口縁部破片である。

4011は口径32㎝前後と推定される大形破片である。器厚8～10㎜。胎土に多量の黄褐色粒・砂粒と繊維が含有され，色調は淡黄褐色から暗褐色を呈する。外面に薄く炭化物が付着する。内面は横位に器面調整される。原体径5.7㎜。原体を縦位回転して，密接した格子目文が施文されるが，器面の凹凸が激しいため，文様が不明瞭な部分が見られる。原体の中心軸に対して，進行方向右回りに3本，左回りに4本の凹線を，等間隔に螺旋状に印刻した原体を縦位回転施文して，菱形および平行四辺形の1周3単位半の格子目文が施文される。

4012は口唇部で器厚を薄くしてほぼ直立する口縁部を呈する。胎土には灰白色粒が多量に含有され，色調は灰褐色から暗灰褐色を呈する。外面には厚く炭化物が付着する。格子目文は長



第148図　土器拓影図　㊵

方形を呈し，形は不揃いである。原体端はまっすぐに切断される。原体径 7.3 ㎜，1 周 4 単位。原体長 30 ㎜前後，1 帯 8 ～ 9 条。

4013 は器厚 7 ～ 8 ㎜。胎土に淡黄褐色粒と繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。外面に薄く炭化物が付着する。格子目文の大きさ，形は不揃いである。

4014・4015 は器厚 7 ～ 8 ㎜。胎土に黄褐色粒・小礫が含有され，色調は黒褐色を呈する。口唇部は平坦に整形される。原体は螺旋状に右回りに 3 本，左回りに 4 本凹線を印刻したもので，1 周 3 単位半，平行四辺形の格子目文が施文される。

4016 は器厚 8 ㎜。胎土に白色粒が多量に含有され，色調は灰褐色から黒褐色を呈する。内外面より穿孔される補修孔が見られる。4017 は 4011 と同一個体である。

4018 は器厚 8 ～ 9 ㎜。色調は灰褐色を呈する。原体径 5.1 ㎜か。文様を形成する隆線（原体に印刻される凹線）の間隔が一定せず，格子目文は大きさ，形が一定していない。4019 は 4011 の同一個体である。

4020 は胎土に径 2 ～ 3 ㎜の白色粒と砂粒が多量に含有される。4021 は 4011 の同一個体。4022 は胎土に白色粒と繊維が多量に含有される。原体端はまっすぐに切断される。4023 は器厚 10～11 ㎜で，胎土に白色粒が多量に含有される。外面には厚く炭化物が付着する。

4024 も 4011 の同一個体かと思われる。4025 は器厚 8 ㎜で，色調は淡褐色を呈する。4026・4027 は胎土に多量の白色粒と繊維が含有され，色調は黒褐色を呈する。

4028～4031 は器厚 7 ㎜。胎土に細かい灰白色粒が多量に含有される。色調は黄褐色から黒褐色を呈する。原体径 6.1 ㎜。原体は右回りに 5 本，左回りに 4 本凹線が螺旋状に印刻されるもので，格子目文は平行四辺形を呈し，形は不揃いである。4029～4031 は外面に炭化物が付着する。

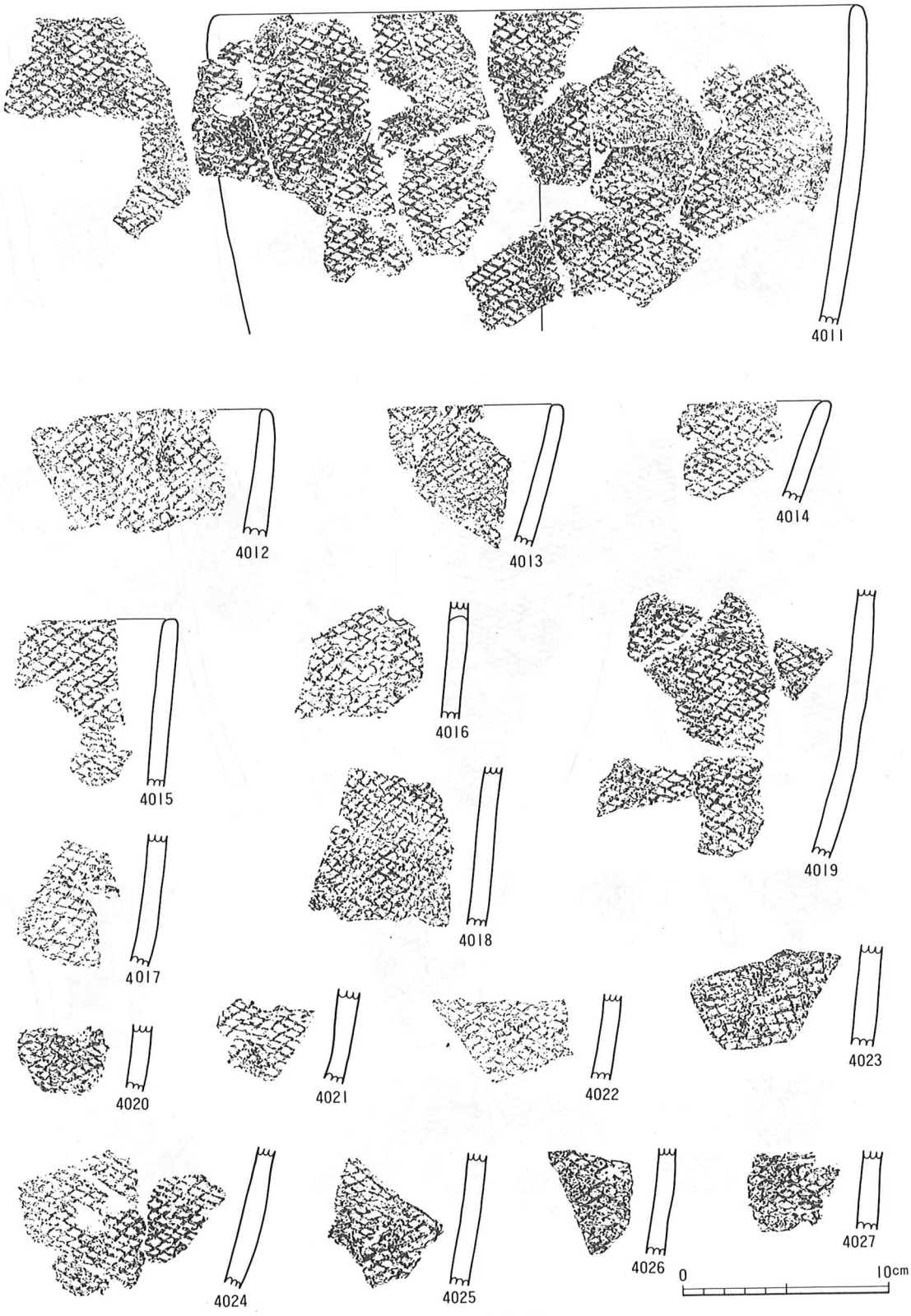
4033～4036 は同一個体である。推定口径 24 ㎝。口縁部は弱く外反する。器厚 7 ～ 8 ㎜。胎土に茶褐色粒と繊維が含有され，色調は淡黄褐色から暗褐色を呈する。内外面に炭化物が付着する。原体径 5.1 ㎜。1 周 4 単位。扁平な菱形の格子目文が，外面では原体を縦位回転して密接して施文され，内面は口唇部直下に横位回転して施文される。補修孔は両面より丁寧に穿孔される。

4037～4064 も内外面に格子目文が施文される口縁部破片である。外面は原体を縦位回転して，内面は横位回転して施文される。

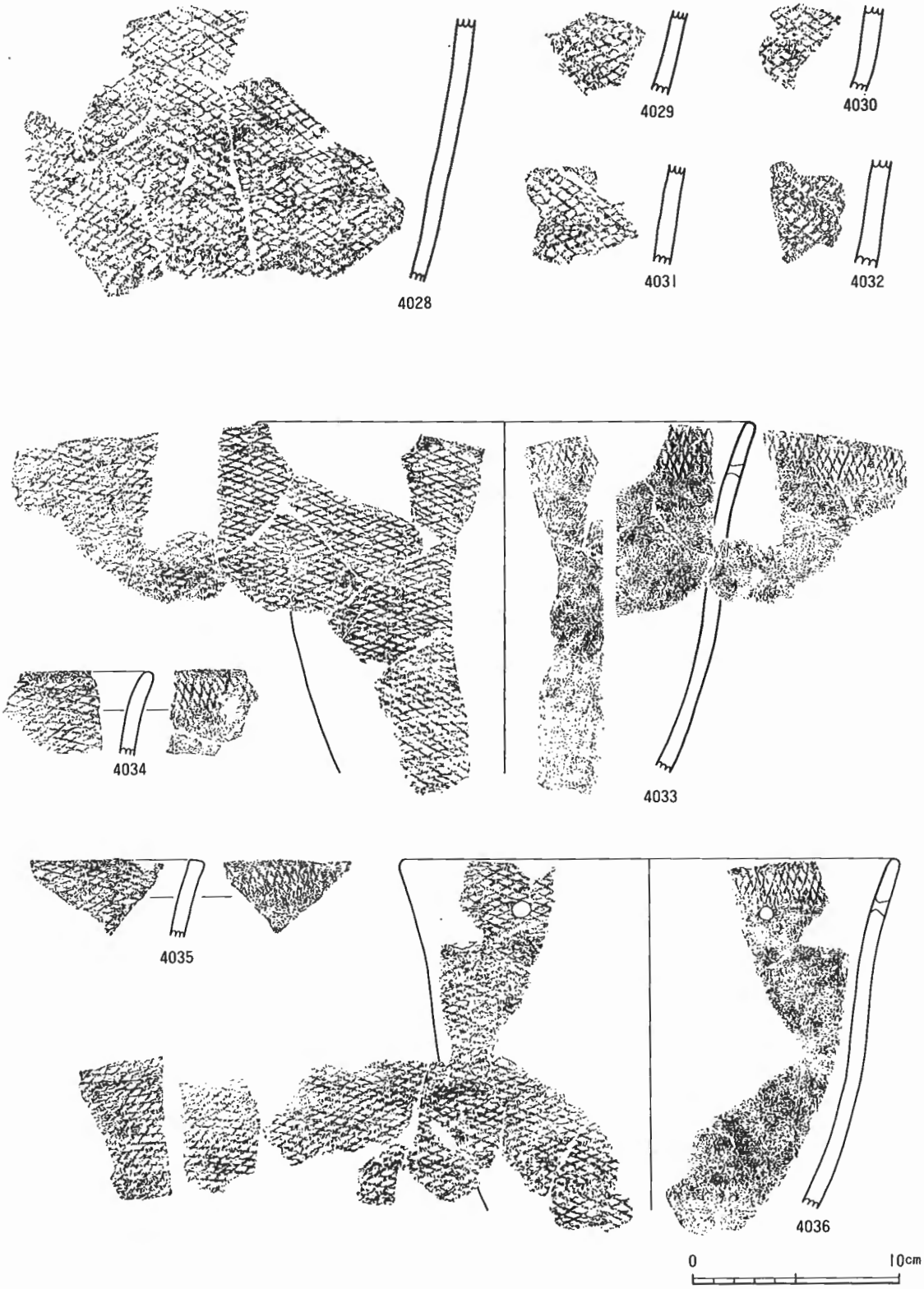
4037 は口径 19 ㎝前後。外に開く器形を呈し，口唇部は弱い尖頭状をなす。菱形の格子目文が整然と施文される。色調は外面が黄褐色，内面は暗褐色を呈する。

4038 は原体径 5.7 ㎜，1 周 4 単位の格子目文が施文される。胎土には白色粒が含有され，色調は黄褐色から暗褐色を呈する。内面には炭化物が付着する。

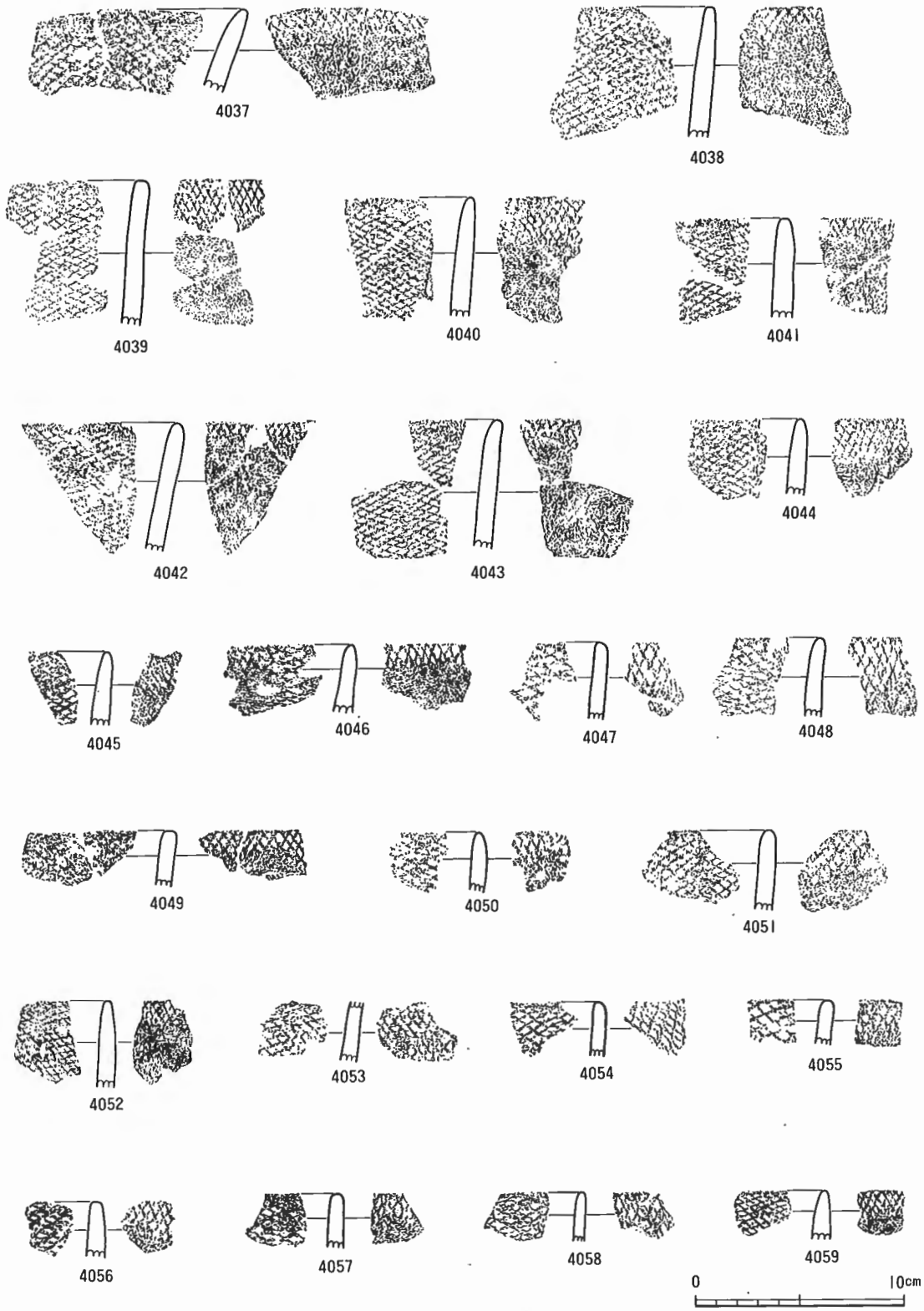
4039 は口唇部が平坦に整形される。胎土に白色粒・黄褐色粒・小礫が多量に含有される。色調は暗褐色を呈する。



第149図　土器拓影図　㊶



第150図　土器拓影図　㊷



第151図　土器拓影図 ㊸

4040は口唇部が薄く尖頭状となる。胎土に径3～5㎜の多量の小礫と黄白色粒・繊維が含有される。内外面に炭化物が付着する。色調は暗茶褐色を呈する。原体径5.4㎜。形の不揃いな小形の格子目文が施文される。

4041は口唇部が平坦に整形され，弱く内湾する器形を呈する。色調は黄褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

4042は器面調整が粗雑で，文様は不鮮明である。口唇部は丸く整形される。

4043は原体径5.4㎜。1周5単位の格子目文が施文され，原体端はまっすぐに切断される。器厚8～9㎜。胎土に多量の繊維が含有され，色調は暗黄褐色を呈する。

4044は口唇部が薄い尖頭状を呈する。胎土に多量の小礫が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

4045～4064は内外面に文様の施文される口縁部小破片である。4045･4046は口唇部が尖頭状を呈する。4047は口唇部が削平されたような平坦面をなす。

4053は内面に巾広く格子目文が施文される。4058は器厚5㎜と薄く，胎土に小礫が多量に含有される。4060は口唇部が平坦に整形される。4062は口唇部が尖頭状を呈し，胎土に径3～5㎜の小礫が含有される。4064は器厚4～5㎜で，色調は明黄褐色を呈する。

4065～4082は外面のみに格子目文の施文される口縁部破片である。

4065は器厚6～7㎜。弱く内湾する器形を呈する。色調は灰褐色を呈する。

4069は縦長の菱形格子目文が施文される。原体を横位回転したものか，原体に印刻された文様によるものか判別できない。

4073は器厚6㎜。口唇部は平坦に整形される。原体端はまっすぐに切断される。隆線の低い格子目文が施文される、

4076・4077は器厚5㎜。小さな格子目文が施文される。

4083～4091は同一個体と思われる。4083は口縁部破片で，口唇部を薄くして弱く外反する。格子目文は外面と，内面に一帯施文される。胴部破片は器厚7～9㎜。胎土に小礫と繊維が多量に含有され，色調は暗茶褐色を呈する。文様凸部の隆線の巾が広い菱形の格子目文が整然と配列される。

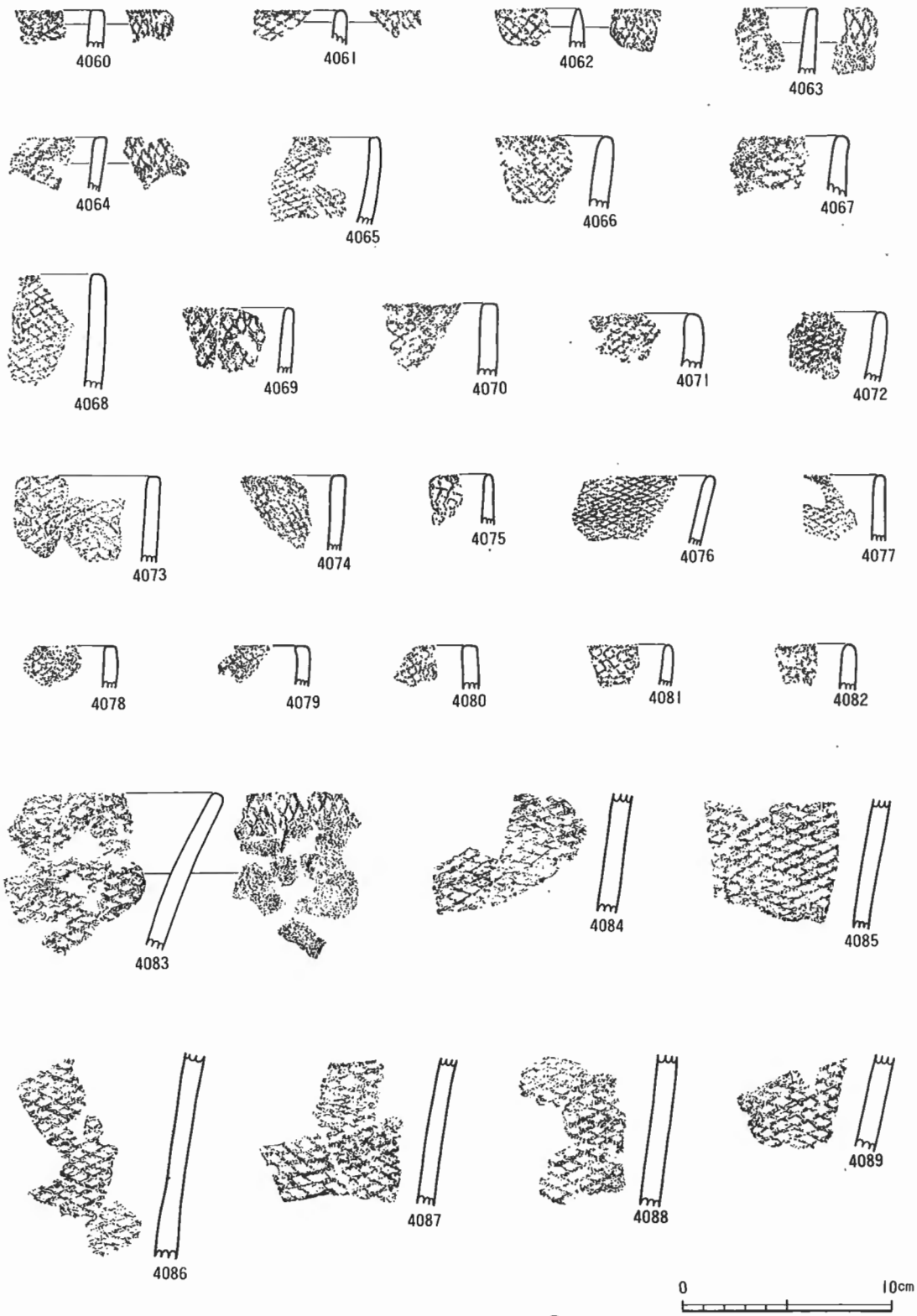
4092は文様凸部が押圧されつぶれている。4093は胎土に白色粒が多量に含有される。文様は重複して施文される。原体の左右を逆にして縦位回転施文される部分が見られる。

4094は原体に印刻される凹線の深さが違うもので，左下がりの隆線が太く明瞭に施文される。胎土には白色粒が多量に含有される。

4095・4096は4083に類似する。4097は横に細長い菱形の格子目文が施文される。

4099は胎土に黄褐色～茶褐色粒が多量に含有される。

4100は器厚10～12㎜。胎土に小礫･黄褐色粒が多量に含有される。大きさの異なる格子目文が施文される。



第152図　土器拓影図　㊹

4103は原体端がまっすぐに切断される。4104～4107は器面に気泡痕のような小さな穴が多数見られる。胎土には灰白色粒・砂粒が多量に含有される。外面に炭化物が付着する。色調は外面が黒褐色，内面は茶褐色を呈する。

4108は胎土に径3～5㎜の小礫が含有される。大きさの不揃いの格子目文が施文される。

4109は胎土に黄茶褐色粒が含有される。4110は径4～5㎜の小礫が含有される。4111は原体径5.7㎜。

4112は器厚7～9㎜。色調は暗灰褐色を呈する。原体端はまっすぐ切断される。

4113は器厚8㎜。胎土に黄茶褐色粒が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

4114は胎土に多量の白色粒・黄白色粒の含有されるものである。色調は，淡黄褐色から黒褐色を呈する。

4115は器厚8㎜。色調は黄褐色を呈する。格子目文施文後，押圧され文様がつぶれたような部分が見られる。器面の磨耗が著しい。上端に輪積み痕が見られる。

4116は器厚8～9㎜。色調は淡黄褐色を呈する。横に細長い菱形の格子目文が施文されるが，器面の磨耗が著しい。4117～4120は4116に類似する。

4121は器厚7～8㎜。胎土に微細な白色粒が多量に含有される。色調は淡黄褐色から暗褐色を呈する。

4122～4125は色調が黄褐色～淡黄褐色を呈する。器面が風化している。

4126は器厚8～9㎜。色調は暗灰褐色～黄褐色を呈する。原体径5.7㎜。一周4単位。内外面より穿孔される補修孔が見られる。

4128は底部近くの破片である。器厚7～8㎜。胎土に微細な黄白色粒が多量に含有され，色調は淡黄褐色を呈する。格子目文は横に細長い菱形を呈する。

4130～4133は胎土に微細な白色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。

4134～4136は胎土に大粒の白色粒と繊維が多量に含有される。

4137～4139は器厚7㎜。胎土に微細な黄白色粒が多量に含有される。4140は両面より穿孔される補修孔が見られる。

4141は胎土に多量の白色粒・黄白色粒が含有され，内外面に炭化物が付着する，原体端はまっすぐに切断される。

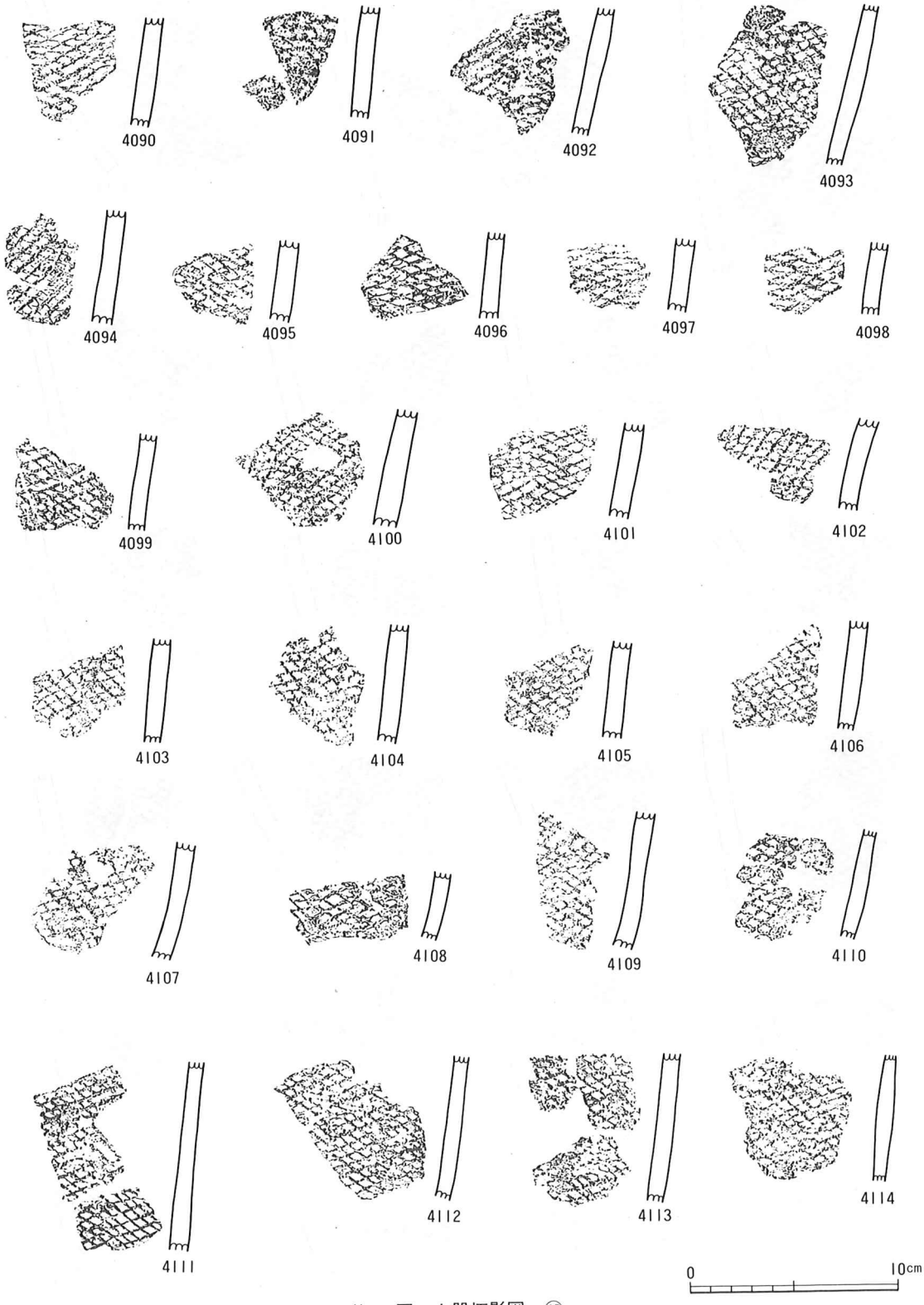
4151は縦に細長い格子目文が施文される。原体の円周方向に細長い格子目文が印刻された原体を，縦位に回転施文したものと思われる。

4152は径17㎝と推定される胴部破片である。器厚8～10㎜。色調は黄褐色を呈する。

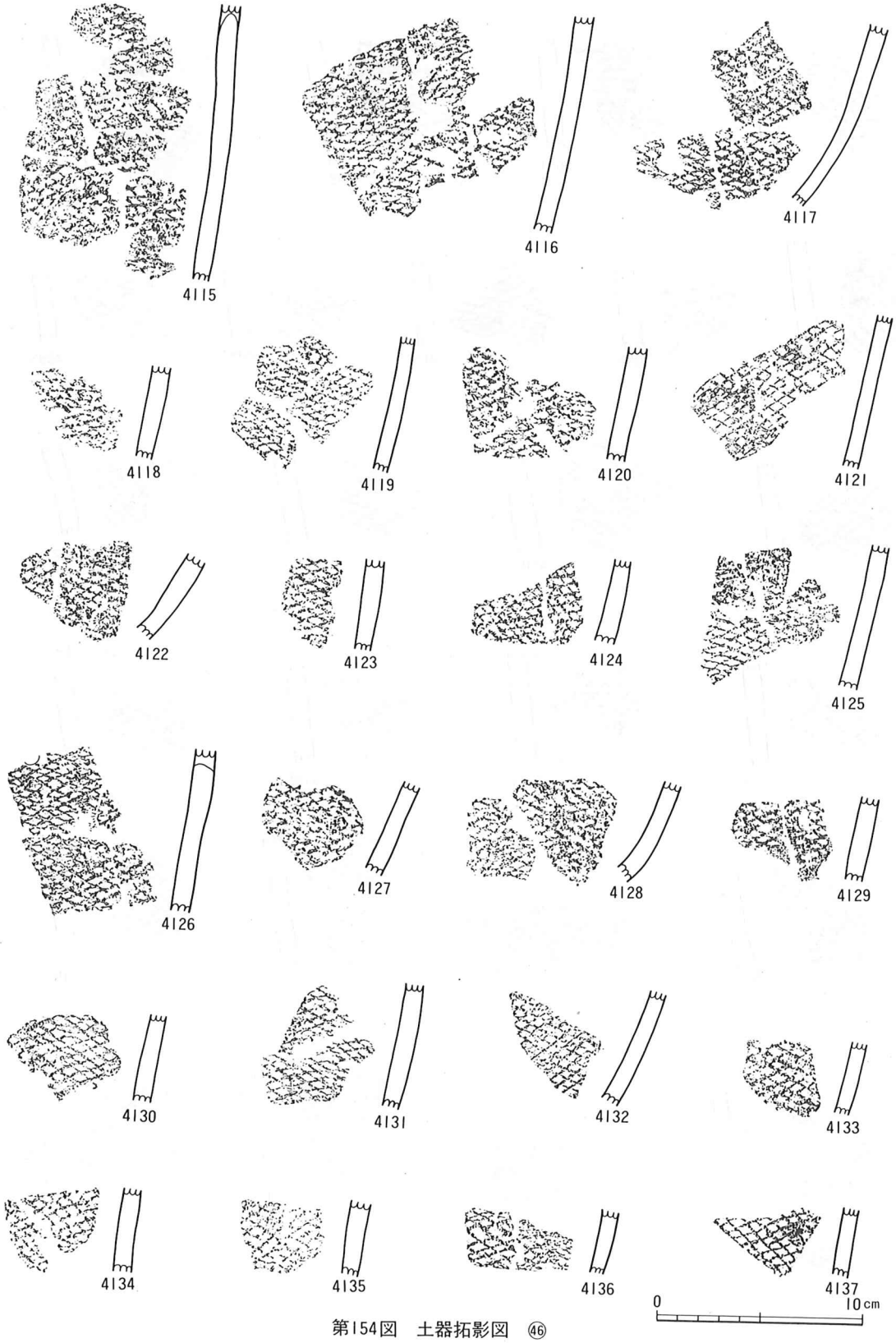
4153は胎土に多量の白色粒・茶褐色粒が含有される。色調は淡黄褐色を呈する。内面に炭化物が付着する。

4154は器厚5～7㎜。色調は黄褐色を呈し，外面は炭化物が付着し，暗褐色に変色している。

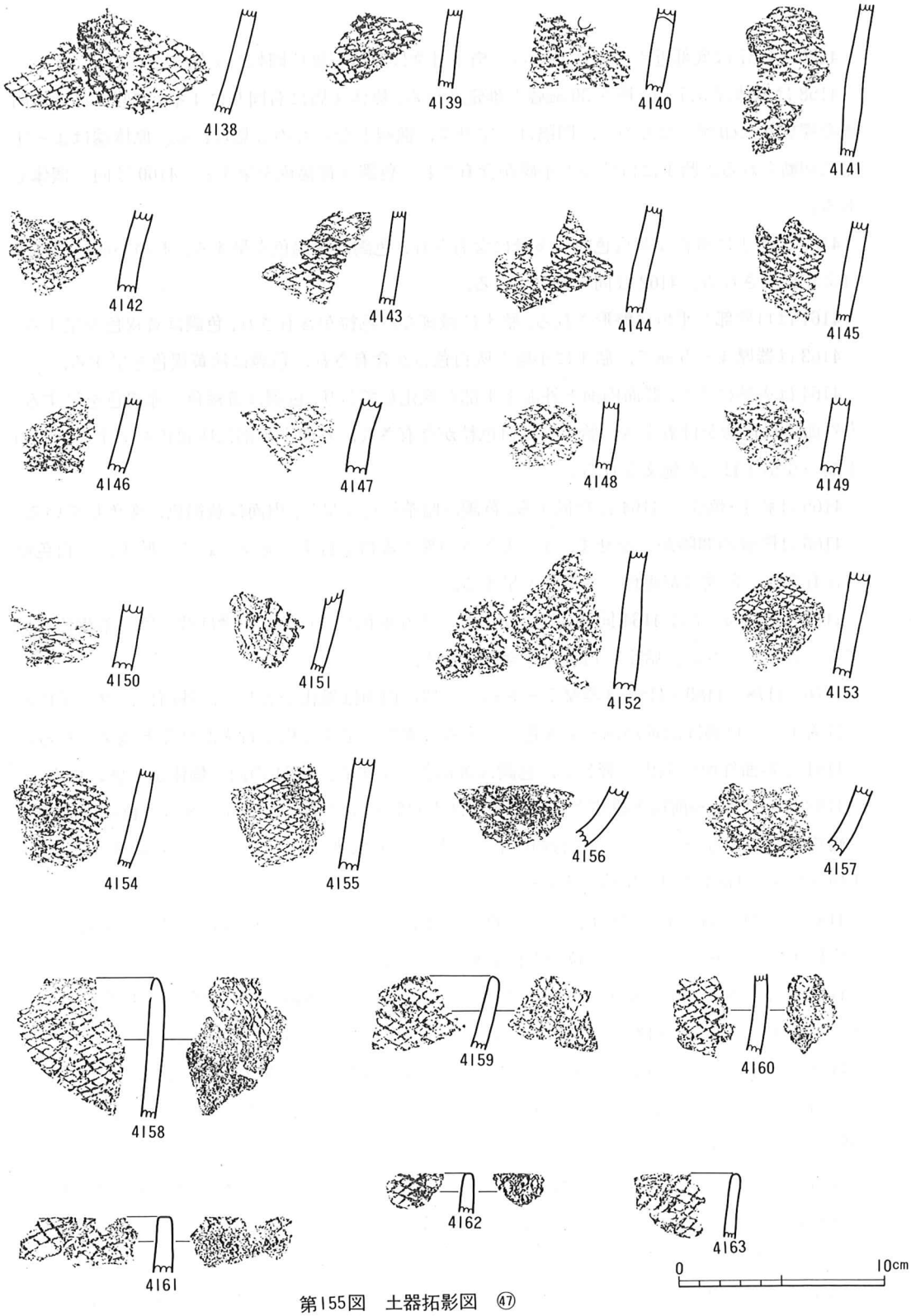
4155は器厚9㎜。胎土に多量の白色粒が含有される。原体長は30㎜前後と推定される。



第153図　土器拓影図　㊺



第154図　土器拓影図　㊻



第155図　土器拓影図　㊼

4156・4157は底部近くの破片である。格子目文は原体を縦位回転して施文される。

4158は原体径5.7㎜，長さ30㎜強と推定される。原体1周に右回りに4本，左回りに3本凹線を螺旋状に印刻したもので，間隔は一定せず，曲線となるものも見られる。原体端はまっすぐに切断される。胎土に白色粒と小礫が含有され，色調は黄褐色を呈する。4160は同一個体である。

4159は胎土に微細な黄白色粒が多量に含有され，色調は黄褐色を呈する。形の不揃いな格子目文が施文される。4162は同一個体である。

4161は口唇部が平坦に整形される。胎土に微細な白色粒が含有され，色調は黄褐色を呈する。

4163は器厚4～5㎜で，胎土に小礫と灰白色粒が含有され，色調は淡黄褐色を呈する。

4164は火熱により，器面内面と外面下半部が風化しており，色調は黄褐色～赤褐色を呈する。内外面に炭化物が付着する。胎土には白色粒が含有され，外面上半部は灰褐色を呈する。形の不揃いな格子目文が施文される。

4165は胎土・焼成が4164に類似する。色調は暗茶褐色を呈し，内面は黄褐色に変色している。

4166は隆線の間隔が一定せず，形・大きさの異なる格子目文が施文される。胎土には白色粒が含有され，色調は黄褐色～茶褐色を呈する。

4167～4175・4177は4164同様，器面が火熱により風化している。色調は黄褐色～茶褐色を呈する。器厚7～8㎜，胎土に白色粒が含有される。

4176・4178～4180・4182は器厚7～8㎜で，器面内面は風化が著しく，外面には厚く炭化物が付着する。色調は淡黄褐色～茶褐色を呈する。菱形を呈する格子目文が整然と施文される。

4181は器面外面の風化が著しく，色調は黄褐色を呈する。4164の同一個体かと思われる。

4183は口径22㎝前後と推定され，口唇部は尖頭状を呈する。器厚6～8㎜。色調は灰褐色～暗褐色を呈する。格子目文は平行四辺形をなし，大きさ，形が一定していない。原体径5.4㎜。1周4単位。4183の同一個体である。

4185は器厚7㎜。胎土に白色粒・黄褐色粒が含有される。色調は暗褐色を呈し，外面に厚く炭化物が付着する。内面には縦位の器面調整痕が残る。

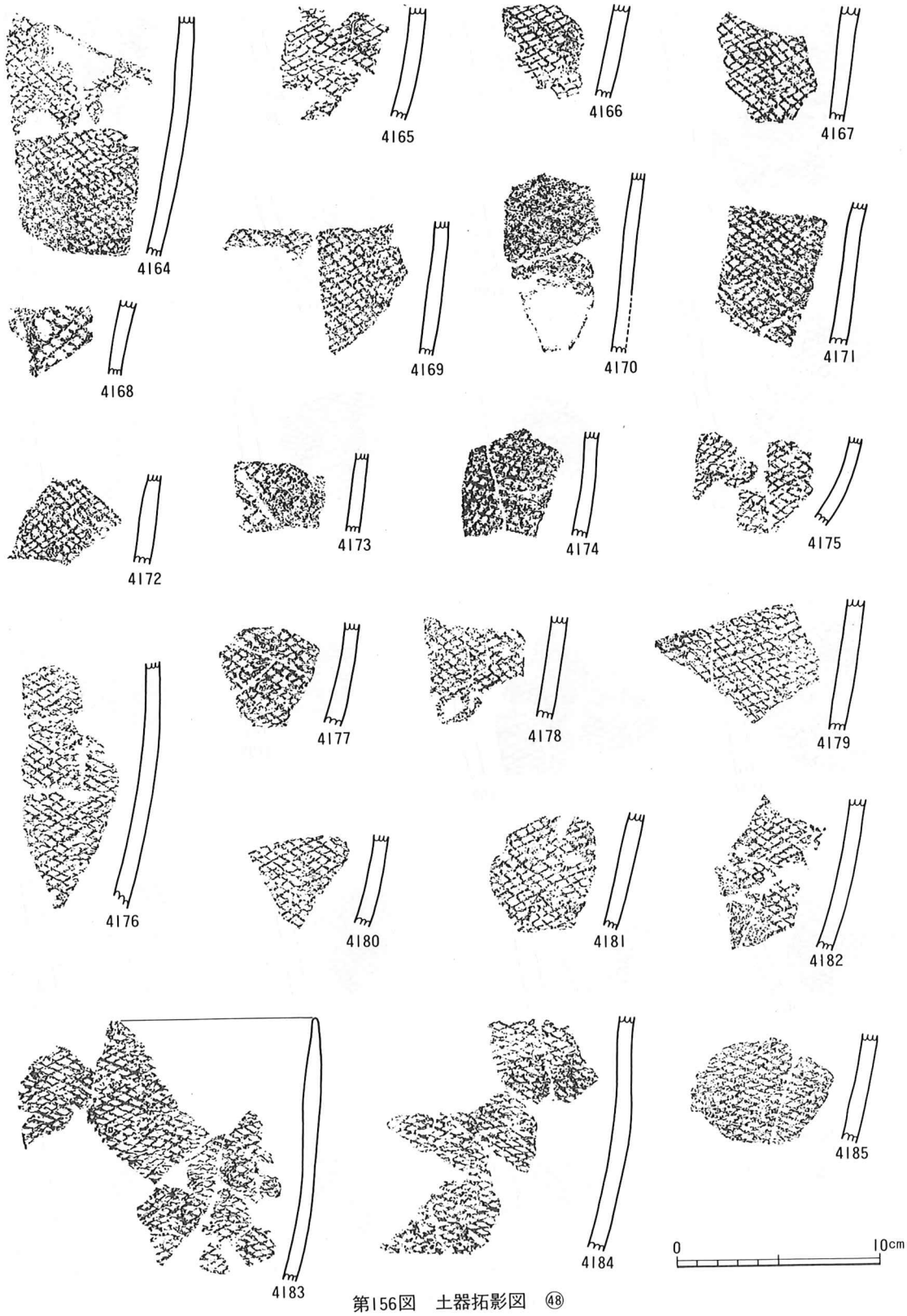
4186は器厚8～9㎜。胎土に微細な黄褐色粒が含有され，色調は暗黄褐色から暗茶褐色を呈する。格子目文は弱く回転施文され，凸部の広い文様となる。4189は同一個体。

4188は胎土に径3～6㎜の小礫が含有される。4192は胎土に多量の繊維が含有され，外面に炭化物が付着する。4193は器厚5～6㎜で，色調は淡黄褐色を呈する。4194は胎土に白色粒と繊維が多量に含有される。

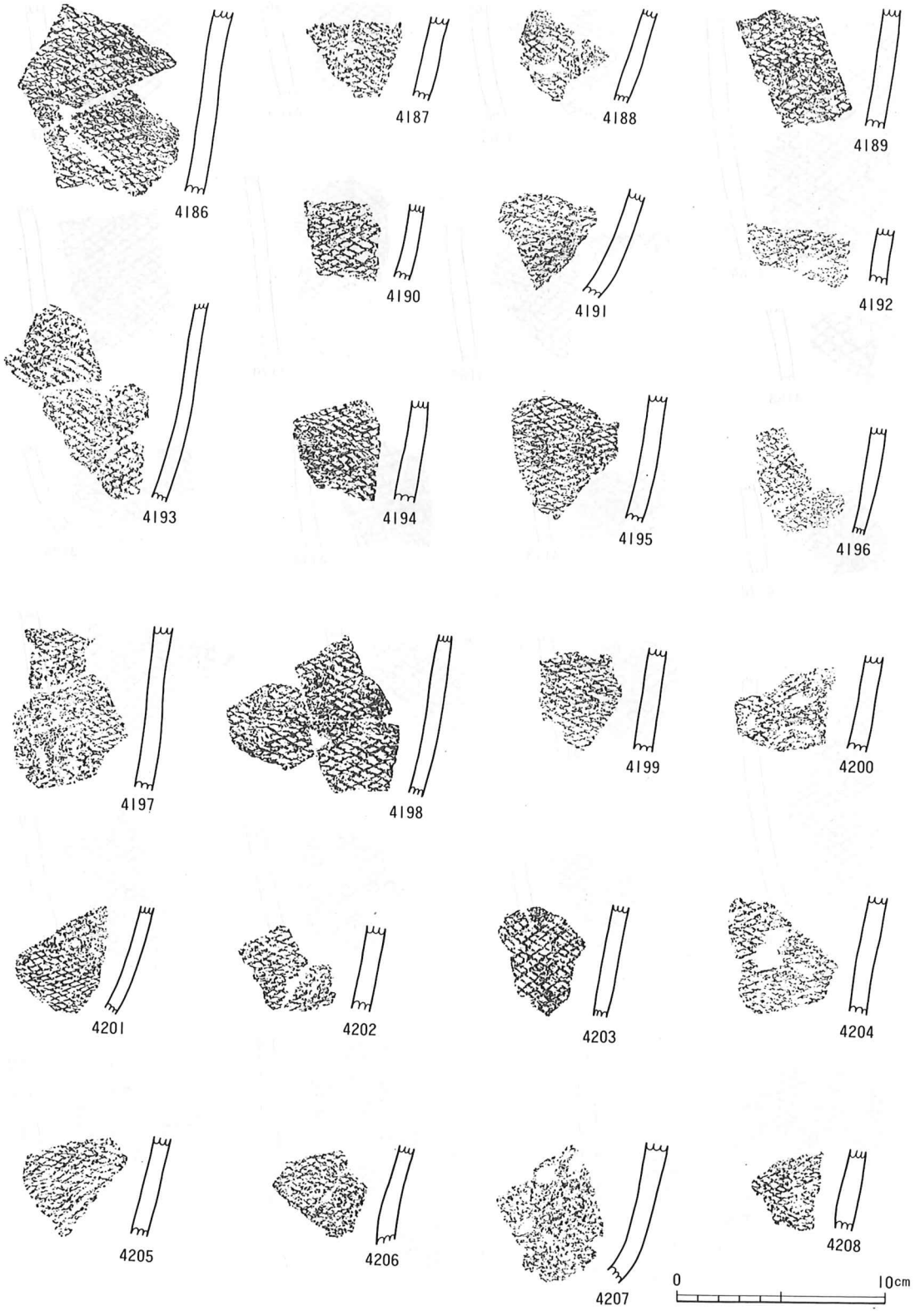
4195・4197は器厚8～9㎜。色調は明茶褐色を呈する。小さな菱形の格子目文が施文される。

4198は器厚6～7㎜。色調は淡茶褐色～淡黄褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。原体径5.4㎜。1周4単位。形の不揃いな格子目文が施文される。

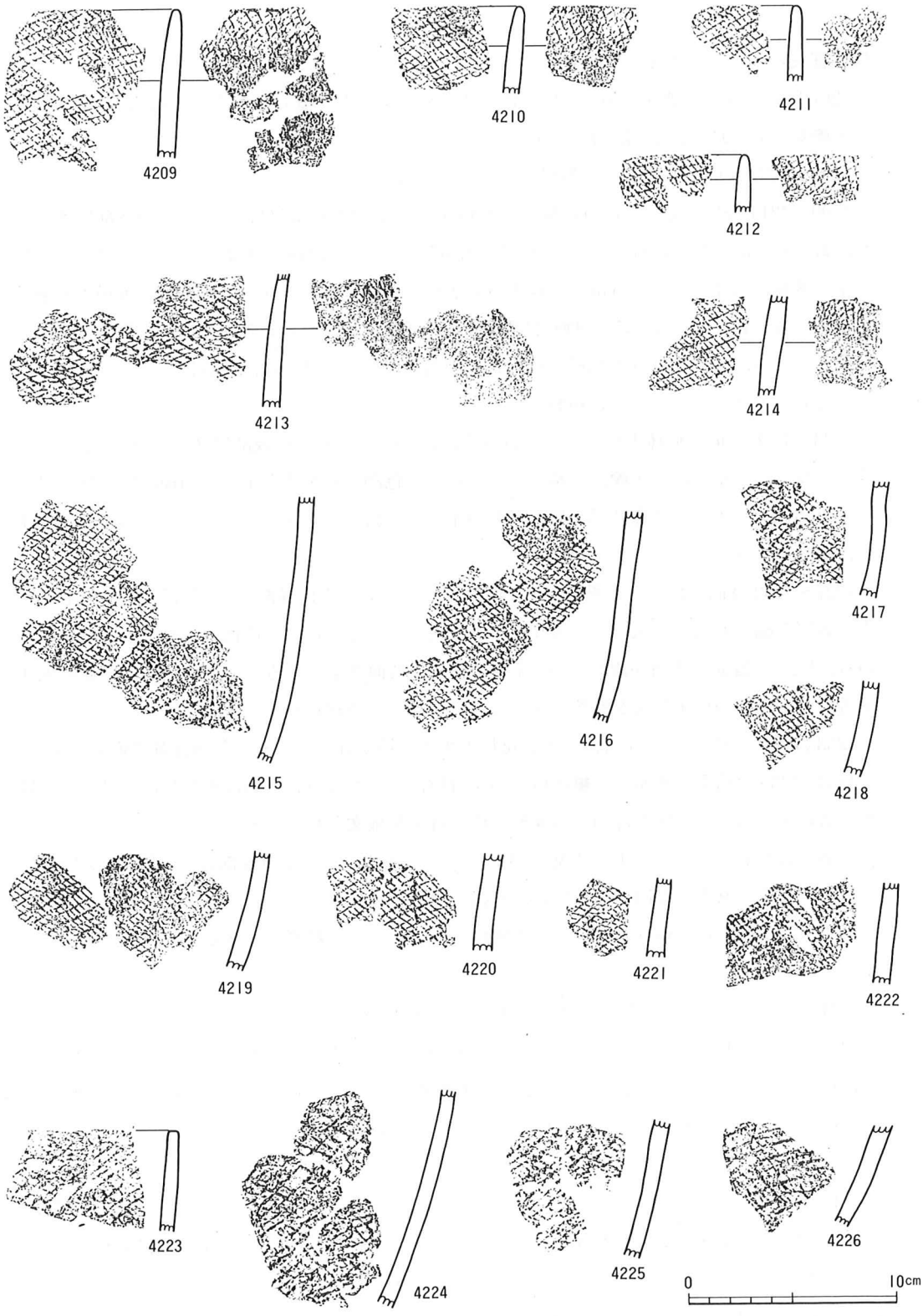
4201は胎土に白色粒・小礫が多量に含有される。器厚5～6㎜。色調は暗茶褐色を呈する。



第156図　土器拓影図 ㊽



第157図　土器拓影図 ㊾



第158図　土器拓影図 ⑤⓪

横に細長い小さな格子目文が施文される。

4207は底部近くの破片である。格子目文は縦位回転により施文される。胎土には多量の繊維と小礫が含有される。色調は暗黄褐色を呈する。

4209～4222は同一個体または酷似するものである。

4209～4214は口縁部または口縁部近くの破片である。口縁部はほぼ直立し，口唇部は薄くなり，弱く平坦に整形される。4215～4222は胴部破片である。口縁部径30㎝強と推定される。器厚7～8㎜。胎土に径2～5㎜の小礫と黄白色粒が多量に含有される。色調は淡黄褐色～茶褐色を呈する。4222は内面に炭化物が付着する。格子目文は平行四辺形を呈する。原体1周に，右回りに4本，左回りに6本凹線を螺旋状に印刻したものと思われ，各線は完全な平行線とはならない。原体端はまっすぐに切断される。

4223～4226は同一個体と思われる。口縁部はほぼ直立する。口縁部径30㎝前後と推定される。器厚7㎜。胎土には小礫が多量に含有される。色調は灰褐色を呈し，内面は炭化物が付着し，黒褐色を呈する。文様凸部の低く，形の不揃いな格子目文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

4227～4232は同一個体かと思われる。4227はほぼ直立する口縁部で，口唇部は丸く整形される。器厚5㎜。外面には気泡痕のような小さな穴が多数見られる。内面は火熱により風化している。4228は器面の凹凸が激しいが，丁寧に横位に器面調整される。4229～4232は内面の風化が著しい。菱形の格子目文が整然と施文され，色調は淡黄褐色を呈する。

4233は胎土に微細な長石・石英・黒雲母粒と黒色砂粒が含有される。色調は黄褐色を呈する。

4234・4235は胎土が緻密で，繊維以外の含有物は見られない。色調は明黄褐色を呈する。器面は滑らかである。文様凸部の広い菱形の格子目文が施文される。

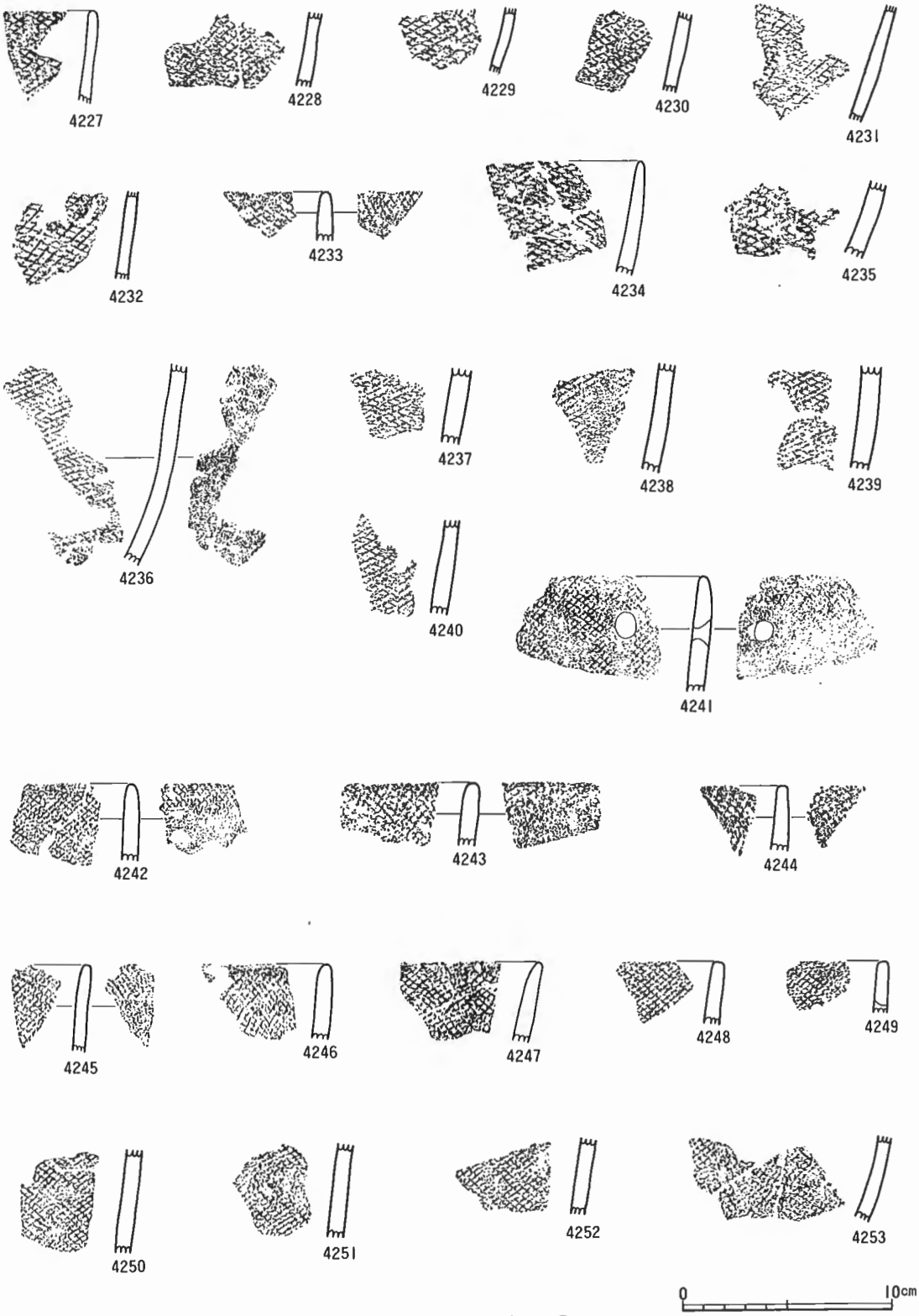
4236～4240は小さな格子目文が施文されるものである。4236は口縁部近くの破片で，内面にも施文される。原体に左回りの螺旋状に凹線を深く印刻し，次に右回りに交差するよう印刻したもので，文様は左下がりの隆線が太く明瞭に施文される。器厚7～9㎜。色調は黒褐色を呈する。

4241～4275はさらに微細な格子目文の施文されるものである。

4241～4245は内外面に格子目文の施文される口縁部破片である。4241は口径23㎝前後と推定される。ほぼ直立し，口唇部は弱く押圧され整形される。外面より強く穿孔される補修孔が見られる。器厚7～8㎜。胎土に黄白色粒が多量に含有される。色調は暗褐色を呈する。格子目文は平行四辺形を呈す。

4242は直立し，口唇部は薄くなる。胎土には多量の繊維が含有され，色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。原体端はまっすぐ切断される。格子目文は4241に酷似する。

4243・4244はやや大きめの正方形の格子目文が施文される。4243は口径22㎝前後と推定される。4245は原体端がまっすぐに切断される。



第159図　土器拓影図　⑤1

4246～4249は，外面のみに施文されるものである。

4246は原体を横位に回転して格子目文が施文される。器面の凹凸が激しく，色調は灰褐色を呈する。

4247は口径13㎝。色調は暗茶褐色を呈する。形の不揃いな格子目文が施文される。

4248・4249は口唇部が平坦に整形される。器厚6㎜。胎土に小礫と白色粒が含有され，色調は淡灰白色を呈し，4249は内面が黒色を呈する。4249は内面より穿孔される補修孔が見られる。

4250～4253は器厚6～7㎜。胎土に白色粒・茶褐色粒・小礫が含有され，色調は淡黄褐色～(灰褐色を呈する。小さな平行四辺形の格子目文が施文される。

4254～4265は同一個体または酷似するものである。器厚6～7㎜。胎土に白色粒・茶褐色粒が含有され，色調は淡黄褐色～暗褐色を呈する。平行四辺形の小さな格子目文が施文される。原体の復元は困難である。4254より原体端はまっすぐに切断されるものと思われる。

4266は胎土に多量の白色粒が含有され，色調は黒褐色を呈する。4268・4269は底部近くの破片で，内面に厚く炭化物が付着する。

4271は胎土に多量の白色粒・小礫が含有され，色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

4272は器厚8～9㎜。色調は暗褐色を呈する。原体径5.7㎜。1周5単位の格子目文が施文される。

4274は底部近くの破片である。器厚6～7㎜。胎土に黄褐色粒・小礫が多量に含有される。器面の風化が激しい。施文は縦位回転によるものと思われる。

2．正方形の格子目文が施文されるもの（4276～4397)。

4276～4290・4298は内外面に格子目文の施文されるものである。

4276は口縁部から胴部へかけての大破片である。口縁部はほぼ直立し，口唇部は平坦に整形される。器厚8～9㎜。胎土に径3～5㎜の小礫が含有され，色調は茶褐色～暗褐色を呈する。外面には厚く炭化物が付着する。外面より強く穿孔され，形が隅丸方形を呈する補修孔が見られる。縦長の菱形または正方形の格子目文が施文される。原体径6.4㎜。1周4単位。

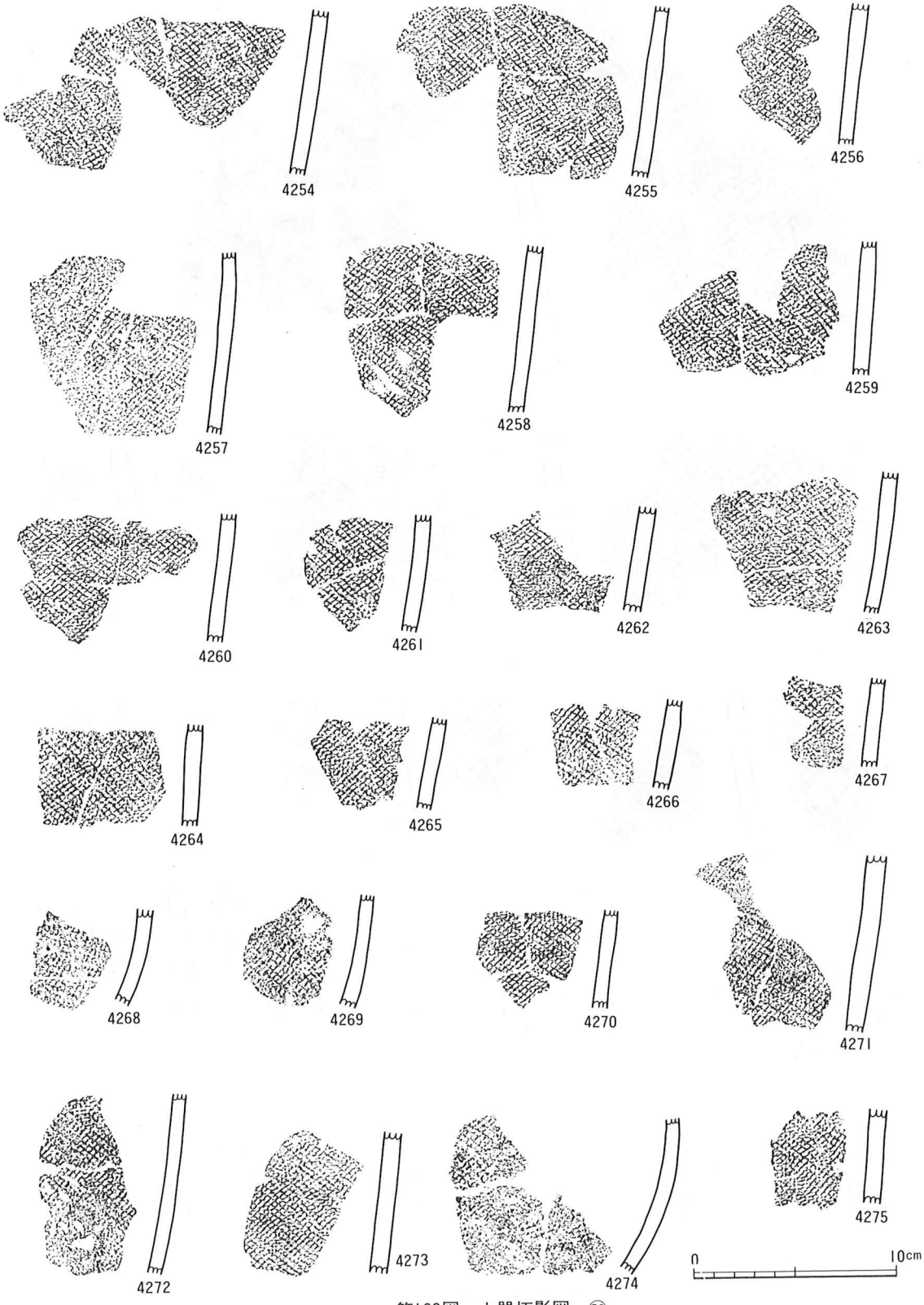
4277は口唇部が強く押圧され，平坦に整形される。4277～4281は4276の同一個体である。

4282は器厚7㎜で，口唇部は薄くなる。胎土には小礫と黄白色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。格子目文は形が不揃いで，文様凸部の断面が丸味を持つ文様が施文される。

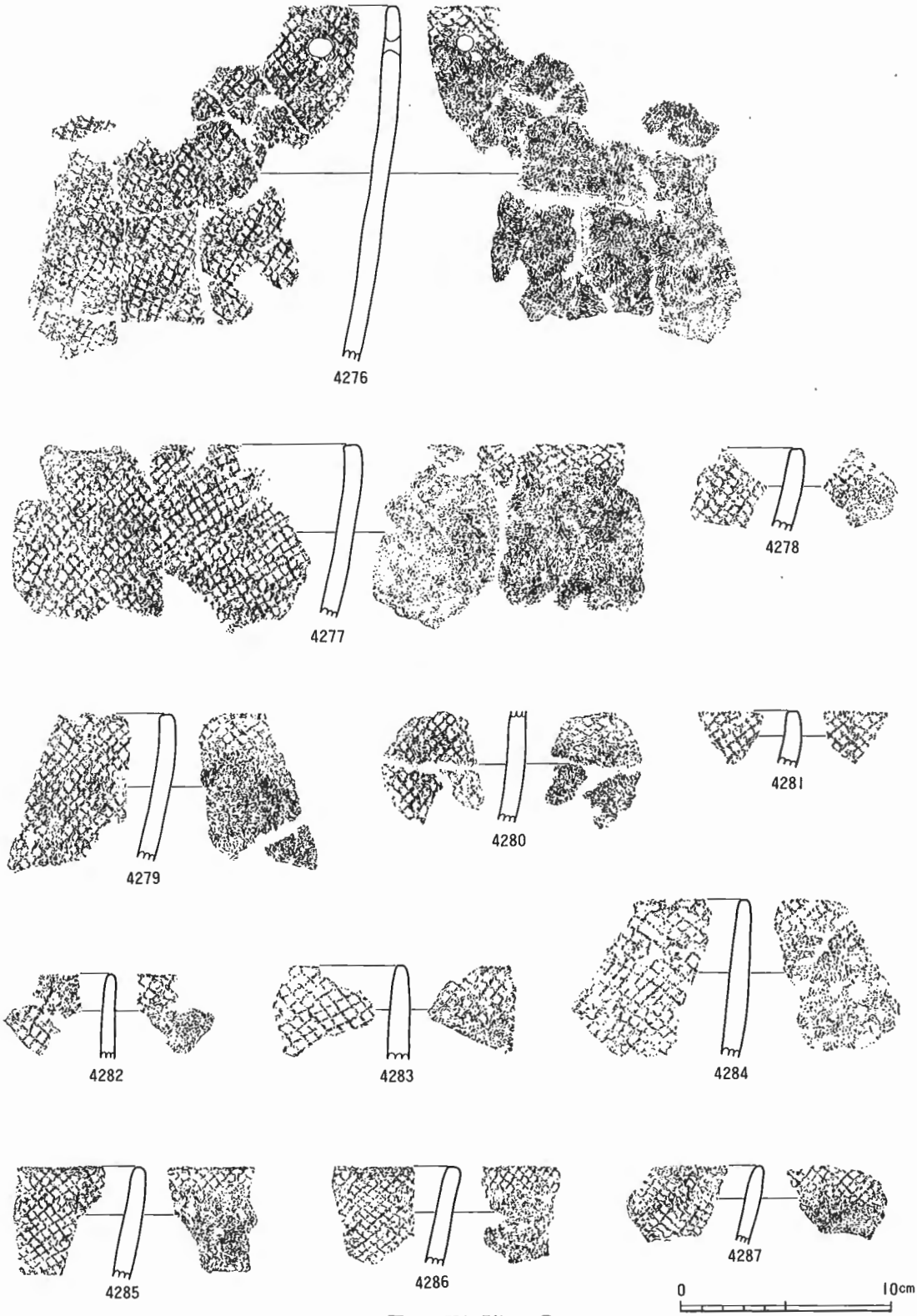
4283は胎土に小礫・繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。大きなほぼ正方形を呈する格子目文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

4284は脆弱な土器で，器面が荒れている。胎土には黄白色粒が多量に含有され，色調は黄褐色を呈する。原体径6.4㎜。1周3単位の格子目文が施文される。

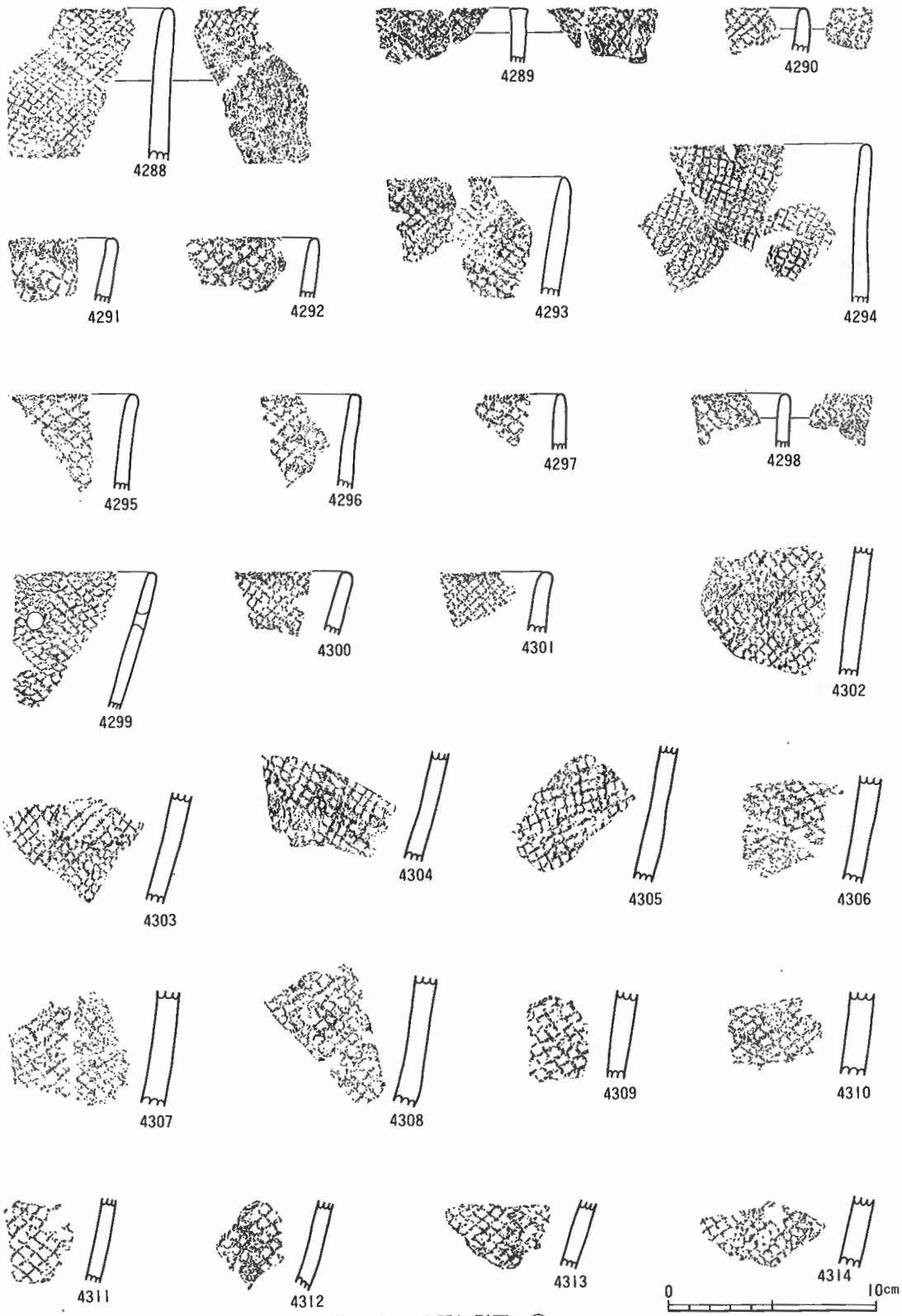
4285は器厚7～8㎜。口唇部は平坦に整形される。胎土には黄褐色粒が含有され，色調は淡褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。原体径5.1㎜。1周3単位。原体長30㎜前後。1帯10



第160図　土器拓影図 ㊷



第161図　土器拓影図　㊸



第162図　土器拓影図　㊹

条。形の不揃いな正方形の格子目文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

4286は器厚7～8㎜。胎土に白色砂粒が多量に含有され，色調は暗褐色を呈する。外面に厚く炭化物が付着する。原体径6.1㎜。1周4単位。原体長30㎜前後。1帯9～10条。原体端はまっすぐに切断される。

4287は器面の凹凸が激しい土器である。胎土に小礫・白色粒が含有され，色調は淡灰褐色を呈し，外面には炭化物が付着し，黒褐色に変色している。

4288は器厚8～9㎜。胎土に白色砂粒が多量に含有され，色調は淡茶褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。小さな正方形の格子目文が施文される。原体端はまっすぐに切断される。

4289は口唇部が強く押圧され平坦に整形される。器面調整は粗雑である。胎土には径3㎜前後の小礫が含有され，色調は淡黄褐色を呈し，外面に薄く炭化物が付着する。原体端はまっすぐに切断される。

4291～4297・4299～4301は，外面のみに格子目文の施文される口縁部破片である。

4291は格子目文の1辺がそれぞれ別々に印刻されたような文様が施文され，隆線に連続性が見られない。胎土に小礫・黄褐色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。

4292は器厚6㎜。色調は茶褐色を呈する。文様凸部の広い，正方形の格子目文が施文される。

4293は口唇部は外面が削がれるような尖頭状をなす。色調は暗褐色～黒褐色を呈する。

4294は口径22㎝前後と推定される。色調は暗褐色を呈し，内外面に炭化物が付着する。原体を回転方向をずらしながら右下がりに回転施文したものである。

4295～4297は同一個体である。弱く外反するものかもしれない。胎土に黄茶色の粒が含有され，色調は茶褐色を呈する。器面調整は粗雑である。

4299は器厚5～6㎜。胎土に小礫・黄褐色粒が多量に含有される。色調は茶褐色を呈する。裏面は横位に丁寧に器面調整され、外面に薄く炭化物が付着する。径6㎜の補修孔が穿孔される。凸部の広い格子目文が施文される。

4300は器厚8㎜で，色調は淡黄褐色を呈する。口唇部は丸く整形され，縦長の格子目文が施文される。4301は胎土に黄白色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。縦長の格子目文が施文される。

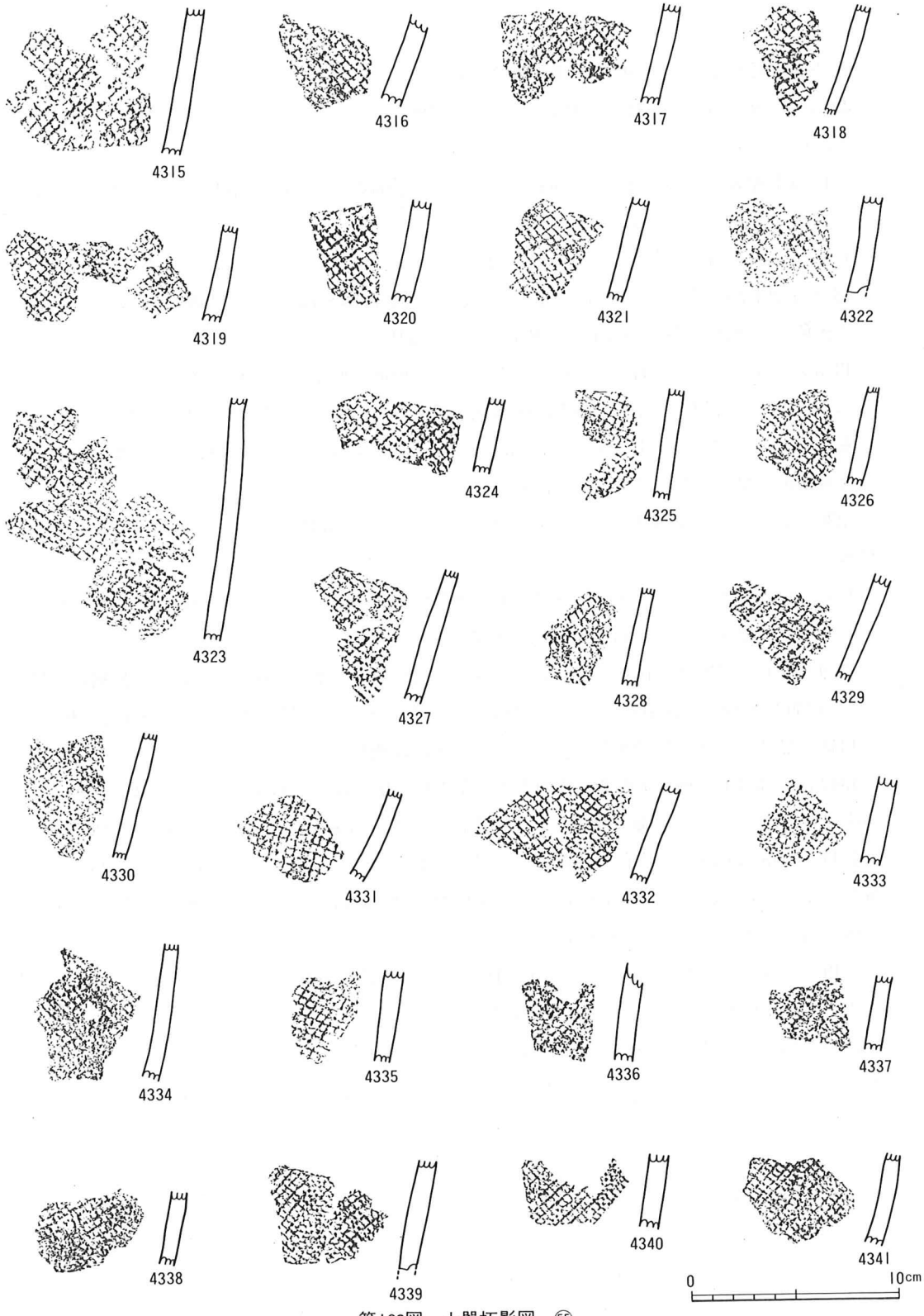
4302～4305は口縁部4276の同一個体である。

4306は器厚9～10㎜。胎土に灰白色粒が多量に含有される。4307は器厚10～12㎜。胎土に白色粒が多量に含有される。ともに器面が磨耗して荒れており，外面に炭化物が付着する。4307は原体端がまっすぐに切断される。

4308は色調が淡黄褐色を呈する。胎土粒子は粗く，器面は荒れている。格子目文は乱雑に施文される。

4309は胎土に多量の繊維と茶褐色粒・小礫が含有される。色調は淡黄褐色を呈する。

4311は胎土に多量の繊維が含有される。色調は暗黄褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。



第163図　土器拓影図 ㊺

文様凸部断面が丸味を持つ格子目文が施文される。

4315～4349は縦長の平行四辺形または正方形の格子目文の施文される破片である。文様の大きさ，形は一定していない。

4315は器厚8～9㎜。色調は淡黄褐色を呈する。内面は炭化物が付着し，黒色に変色している。4319は原体端がまっすぐに切断される。

4322は内面が引き伸される輪積み痕が見られる。胎土は粗く，色調は暗灰褐色を呈する。

4323は胴上部の破片で，径27㎝前後と推定される。器厚8㎜。胎土に小礫が含有され，色調は茶褐色～黒褐色を呈す。4324は器厚7㎜。色調は灰褐色を呈する。

4325は胎土に多量の小礫・白色粒が含有される。内面に厚く炭化物が付着し，黒色に変色している。4326は器厚5～7㎜。色調は灰褐色を呈する。4327は色調は淡黄褐色を呈する。器面が荒れている。4328は胎土に径3～5㎜の小礫が多量に含有される。4329は胎土が粗く，色調は淡茶褐色を呈し，内面に炭化物が付着する。

4330は内面に径1㎜前後の小さな穴が多数見られる。色調は灰褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

4332～4335は胎土に小礫・白色粒が多量に含有される。器厚7～8㎜。色調は茶褐色～暗褐色を呈する。4336は胎土に白色粒・茶褐色粒が含有される。内面に炭化物が付着する。

4339・4340は器厚9～10㎜。胎土に白色粒・黄褐色粒・小礫が含有され，色調は黒褐色を呈する。4339は輪積み痕が見られる。形の不揃いな長方形または正方形の格子目文が施文される。

4341は胎土に小礫・砂粒が多量に含有され，色調は灰褐色を呈する。

4342は原体径6.7㎜。1周3単位の大きな正方形の格子目文が施文される。器厚7～9㎜。胎土に黄褐色粒・砂粒が多量に含有され，色調は灰褐色～明茶褐色を呈する。4343も類似する。

4344～4348は色調が灰白色～淡黄白色を呈するものである。器厚7～8㎜。胎土には白色粒・黄褐色粒が含有される。原体径6.7㎜。1周4単位。原体端はまっすぐに切断される。4346は原体の向きを変えて縦位に回転施文される。

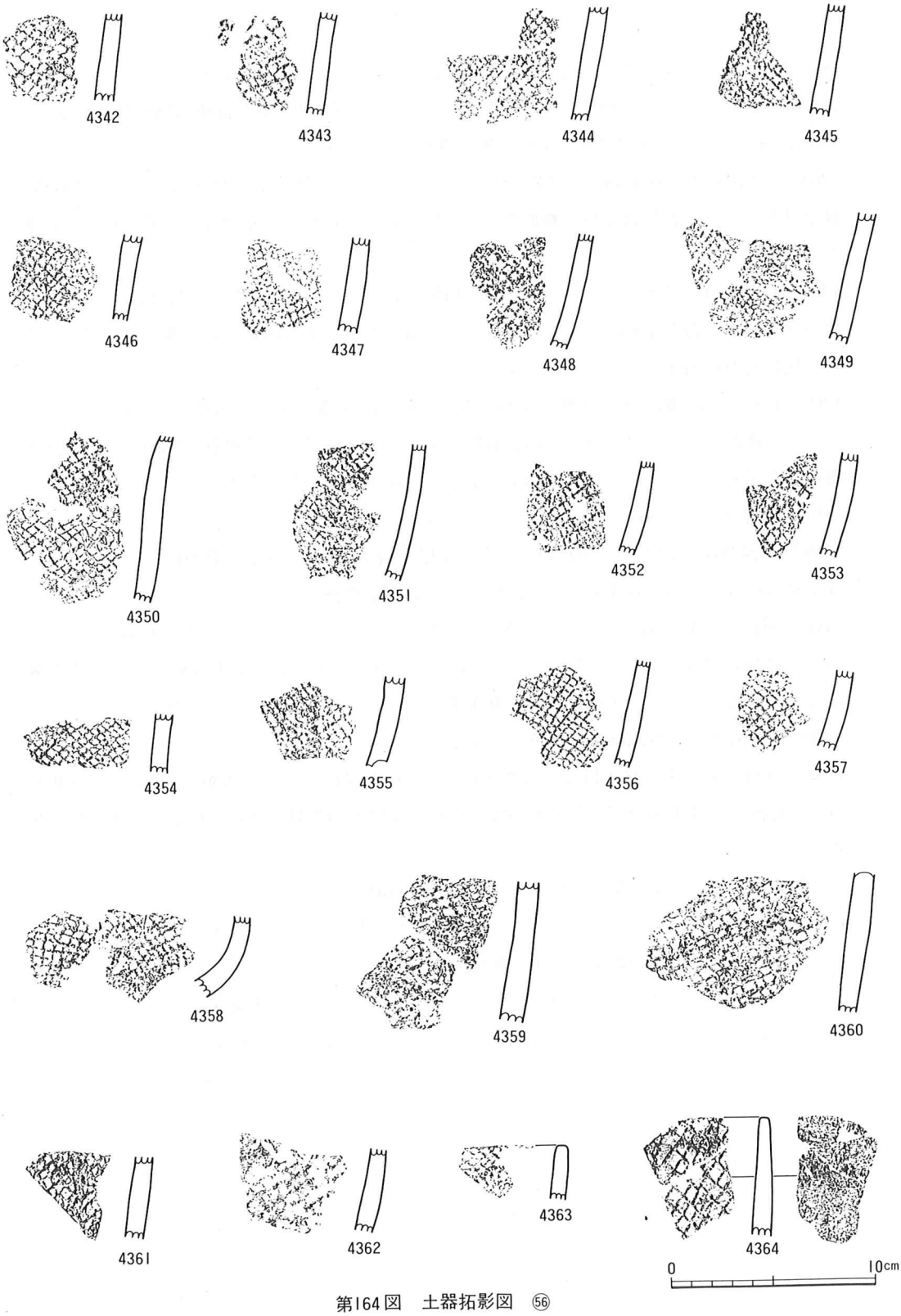
4349は外面が磨滅している。胎土に灰白色粒・茶褐色粒が多量に含有され，色調は外面が灰白色，内面は暗褐色を呈し，内面には炭化物が付着している。

4350は胎土に径3～5㎜の小礫が多量に含有される。器厚8～9㎜。色調は茶褐色を呈し，内面に炭化物が付着する。器面の凹凸が見られ，格子目文は均一に施文されない。

4351～4357も胎土に小礫・白色粒が多量に含有される。器厚6～7㎜。色調は黄褐色～暗灰褐色を呈し，内面に炭化物が付着する。4355は輪積み痕が見られる。4356は内面に横位の器面調整痕が明瞭に残る。

4358は底部近くの破片である。器厚8～10㎜。胎土に小礫・黄白色粒が含有され，色調は茶褐色～暗褐色を呈する。格子目文は縦位回転により施文される。

4359・4360は器厚9～11㎜。胎土に黄白色粒・茶褐色粒・砂粒が含有され，色調は灰褐色～暗



第164図　土器拓影図 ⑤⑥

褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。器面の凹凸が著しい。格子目文は文様凸部の広いもので，弱く回転押圧されたためか，不鮮明な部分が多い。4360は上端に輪積み痕が見られる。

4362は施文された格子目文が，上から押圧されつぶれている。

4364・4368は原体径6.1㎜。1周2単位，大きな縦長の平行四辺形の格子目文が施文される。口縁部は直立し，口唇部は平坦に整形される。胎土に黄褐色粒が多量に含有され，色調は暗褐色を呈する。

4365～4367は小さな格子目文が，内外面と口唇部に施文される。内面は口唇部直下より巾33㎜に施文される。器厚7㎜。胎土に灰白色粒が含有され，色調は淡黄褐色～茶褐色を呈し，内外面に炭化物が付着する。

4369～4385は同一個体または酷似するものである。口縁部は直立し，口唇部は薄く整形される。胎土は緻密で，焼成は良好である。器厚は7～8㎜。色調は淡茶褐色・淡黄褐色・灰褐色・暗褐色等を呈する。格子目文は文様凸部が広く，断面が丸味をもつもので，形は一定していない。4371は原体径5.4㎜。1周2単位。1帯7条。

4386は口径20㎝。山形文が向かい合うような格子目文が施文され，2条の山形文が平行する部分が見られる。原体径6.4㎜。胎土は粗く，色調は暗褐色を呈する。

4387は縦長の菱形の格子目文が施文される。形は一定せず，重複して施文される。

4388～4395は格子目文の一辺がそれぞれ独立して印刻されたような正方形の格子目文が施文される。原体形5.7㎜。1周2単位。原体端はまっすぐに切断される。器厚7㎜。胎土には灰白色粒が含有され，色調は淡灰褐色を呈する。

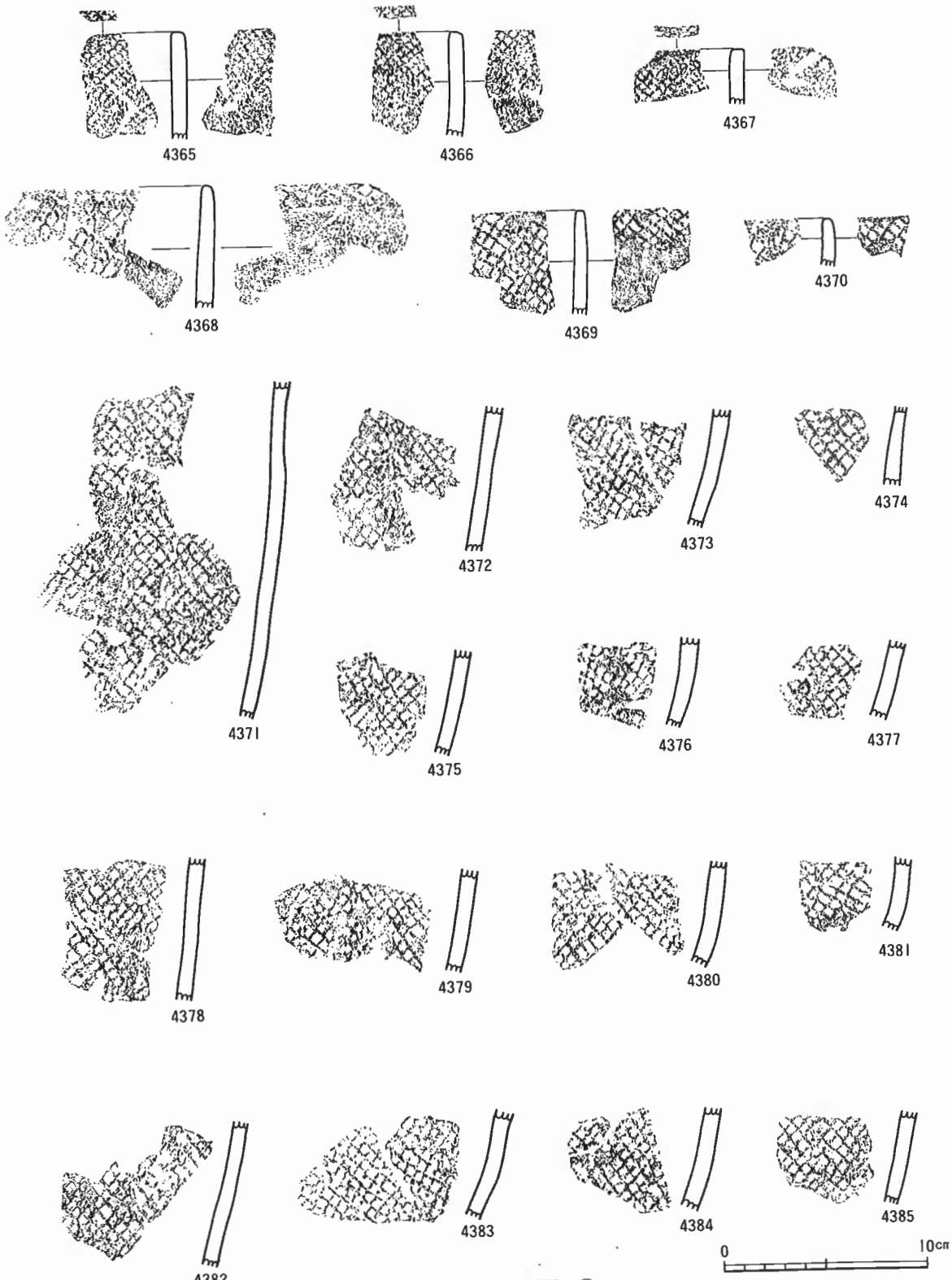
4397は文様凸部が広い格子目文が施文されるが，形が崩れている。内面は火熱により風化している。外面には径1㎜以下の気泡痕のような小さな穴が多数見られる。色調は淡茶褐色を呈する。

3．長方形の格子目文が施文されるもの（4398～4451）。

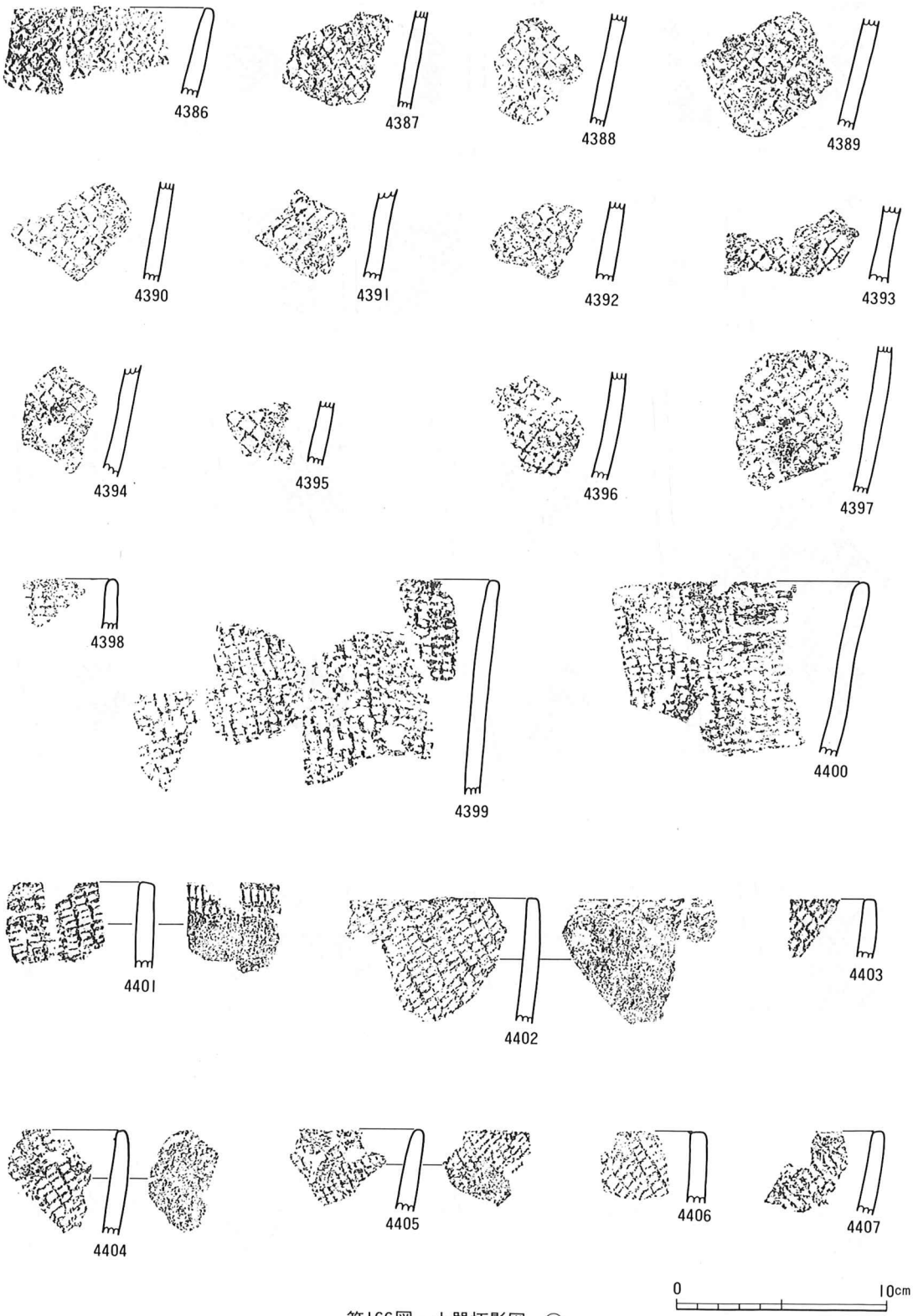
4398～4400は同一個体である。口径17㎝。横長の長方形が縦位に連続する格子目文が施文される。原体の円周に太い凹線を3～4本等間隔に印刻し，それに直行するよう長軸にやや細めの凹線を数本印刻した原体を，縦位回転して施文したものである。1周5単位かと思われる。器厚7～8㎜。色調は淡黄褐色～茶褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。4401は酷似するもので，内面に同一文様が施文される。

4402～4423は長方形が斜めに連続する格子目文が施文されるものである。

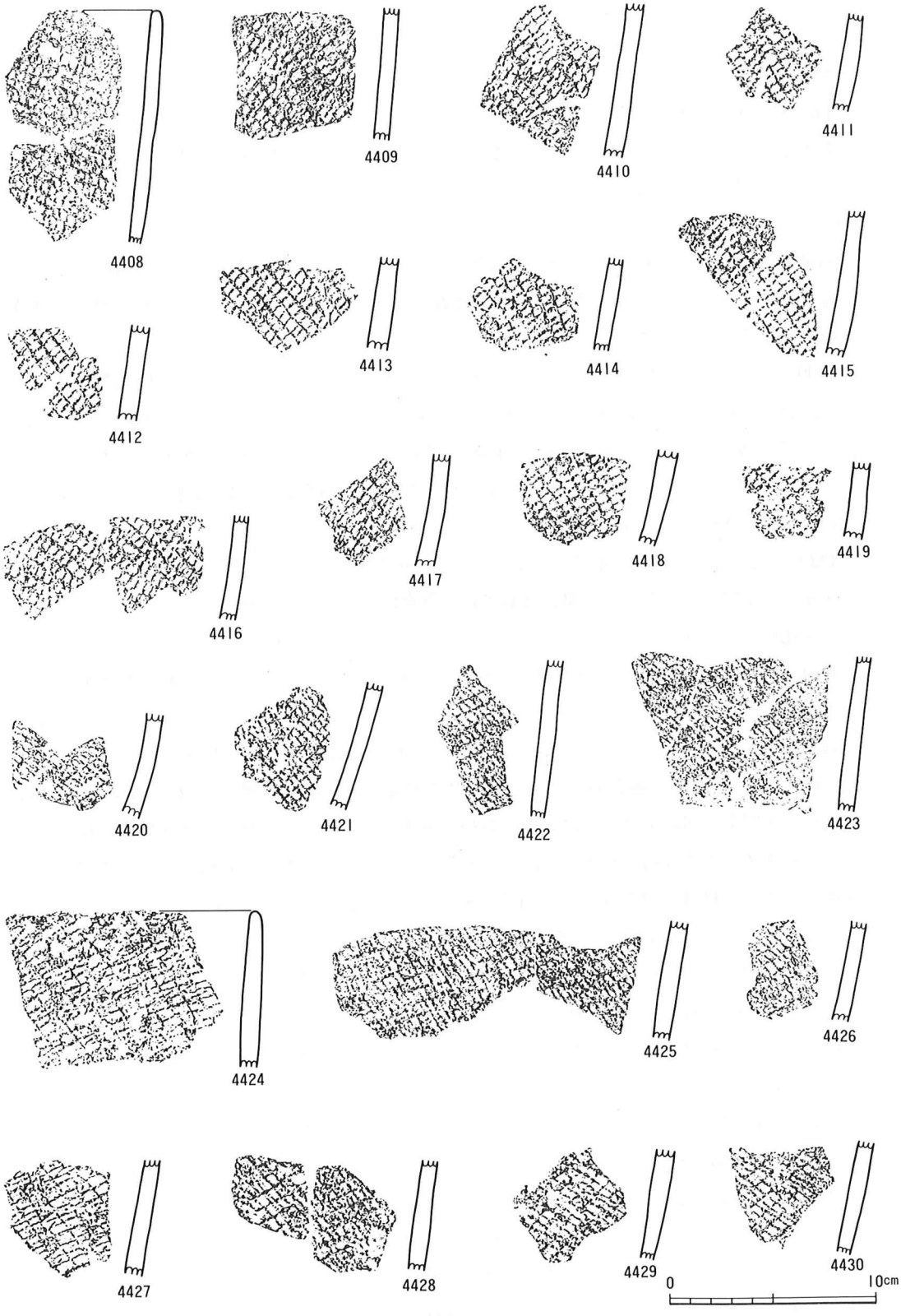
4402・4404は同一個体である。口径32㎝前後と推定される。口唇部は平坦に整形される。器厚8㎜。胎土に黄白色粒が多量に含有され，色調は暗褐色～黒褐色を呈する。格子目文は，原体を縦位回転して施文される。原体は中心軸に対して，左回りの凹線を等間隔に2本螺旋状に印刻し，それに直行するよう右回りの凹線を印刻するものであるが，それは連続するものと，連続しないものが見られ，不規則に印刻される。内面には，口唇部直下に原体を横位回転して



第165図　土器拓影図 ㊼



第166図　土器拓影図 ⑤⑧



第167図　土器拓影図 ⑲

山形文が施文される。

4403・4406は4402に酷似する格子目文が施文される。色調は灰褐色を呈する。

4407は口唇部が平坦に整形される。器厚7㎜。胎土に小礫・白色粒が含有され，色調は明茶褐色から黒褐色を呈する。格子目文と横位の1本の直線文が組み合せて施文される。原体径7.0㎜。

4408は口径22㎝前後と推定される。器厚6～7㎜。胎土に灰白色粒が多量に含有され，色調は暗灰褐色を呈する。外面に薄く炭化物が付着する。文様凸部の広い長方形の格子目文が乱雑に施文される。

4409は4402の同一個体かと思われる。原体端はまっすぐに整形される。4410は類似するもので，色調は外面が淡黄褐色，内面は黒褐色を呈する。4411は胎土に多量の白色粒を含有し，内面に炭化物が付着する。4412・4413は同一個体で，胎土に多量の繊維・砂粒が含有される。格子目文は4402に同じである。原体端は平端となる。4414は内面に炭化物が付着する。4415～4419も類似する。4418は色調が黄褐色を呈する。

4420～4423は文様凸部の隆線がやや細く，断面が丸味をもつ格子目文が施文される。器厚6～8㎜。胎土に淡黄白色粒が多量に含有され，色調は淡褐色～暗褐色を呈する。4423は外面に厚く炭化物が付着する。

4424～4435は文様凸部の隆線が細く，断面が丸味をもつ。形の不揃いな大柄の長方形の格子目文が施文される。

4424は口径22㎝前後と推定される。器厚8㎜。口唇部は薄くなる。色調は灰白色を呈する。原体径5.7㎜。原体中心軸に対して左回りに2本螺旋状に凹線を印刻し，それに直交するよう，右回りに1周する凹線を螺旋状に5本印刻した原体を縦位回転した格子目文が施文される。

4425・4428～4434は同一個体または酷似するものである。器厚7～8㎜。色調は淡褐色～暗褐色を呈する。4424に類似する格子目文が施文されるが，傾きが逆である。

4435～4450は小柄な長方形の格子目文が施文される。

4435は口径24㎝前後と推定される。口唇部は平坦に整形される。器厚7㎜。色調は暗灰褐色を呈する。文様凸部の断面は丸味をもつ。

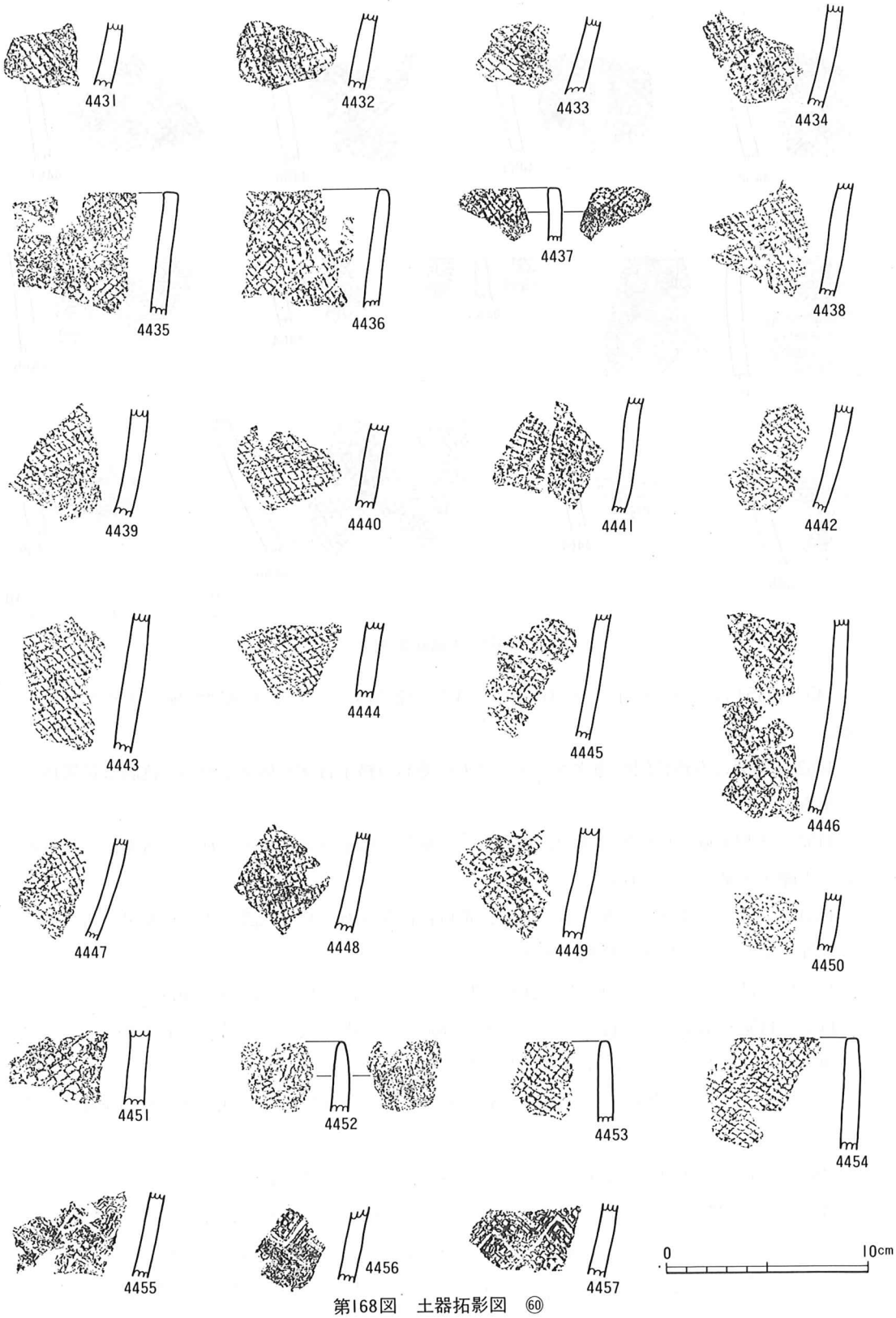
4436は口径28～30㎝前後と推定される。原体径5.1㎜。内面に径4㎜の円形の刺突痕が見られる。4437は内面にも施文される。

4438～4440・4442～4444は同一個体と思われる。器厚8～9㎜。色調は淡茶褐色～黒褐色を呈する。原体径6.4㎜。

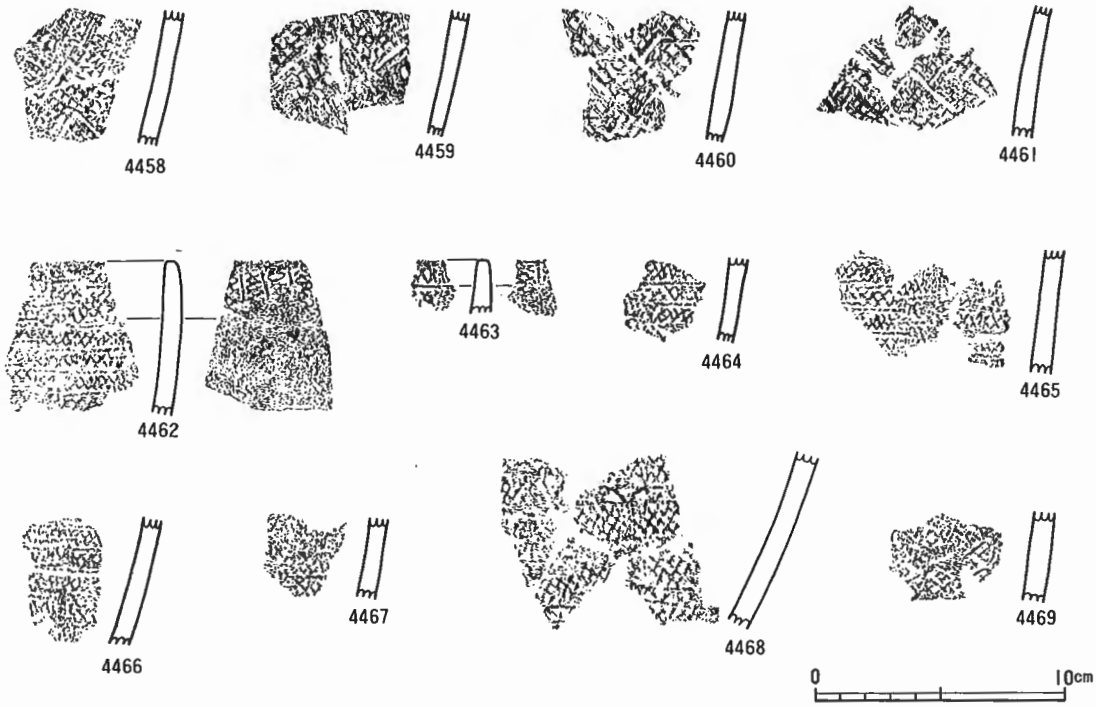
4441・4445・4446は器面に径1㎜以下の小さな穴が多数見られる。器厚5～6㎜。色調は淡褐色～暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する、

4448は文様凸部が広いものである。4449は色調が黄褐色を呈する。原体径5.4㎜。

4．異方向の施文構成をとるもの（4452～4454）。



第168図　土器拓影図　⑥⓪



第169図　土器拓影図 ⑥1

4452～4454 は口唇部直下の外面に横位に 1 帯回転施文し，以下縦位回転施文するものである。

4452 は内面にも横位回転施文される。扁平な菱形の格子目文が施文される。色調は黄褐色を呈する。

4453 は器厚 6 ㎜。口唇部は平坦に整形され，菱形の格子目文が施文される。胎土には黄白色粒・小礫が多量に含有される。

4454 は口唇部が平坦に整形され，胎土に黄白色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。正方形に近い菱形の格子目文が整然と施文される。

5．格子目文と直線文が組み合された押型文の施文されるもの（4455～4469）。

4455～4458・4461 は格子目文と「へ」状の凹部文様が施文される。同一原体に印刻される。4459・4460 は前者の文様と，格子目文と 1 本の直線文が組み合せられた文様が施文され，原体は 2 種類用いられる。器厚 6 ～ 7 ㎜。胎土に黄白色粒が含有され，色調は灰褐色と暗褐色を呈する。

4462～4468 は格子目文と直線文とが組み合された文様が施文される。

4462 は口径 22 ㎝前後，弱く内湾するような器形を呈し，口唇部は平坦に整形される。4462～4467 は同一個体である。原体を縦位に 2 分割するよう 2 本の凹線を印刻し，その間に細かな格子目文を印刻した原体を，縦位に回転して施文される。口唇部内面の口唇部直下には，

1帯横位回転施文される。原体径5.7㎜，長さ30㎜弱。器厚7㎜。胎土に白色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。

4468は原体を縦位に2対1に分割するよう2本の凹線を印刻し，間隔の広いところに格子目文を印刻し，狭いところにジグザグに凹線を印刻した原体を，縦位回転して施文される。原体径6.4㎜。器厚8～9㎜。胎土に黄白色粒が含有され，色調は暗灰褐色～黒褐色を呈する。

4469は菱形の中に小さな菱形が1単位入る2重格子をなす文様と，菱形の中に4つの菱形が充塡される文様が互い違いに施文される。器厚8㎜。胎土に白色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。内外面に炭化物が付着する。

V．楕円押型文土器

1．楕円押型文の施文されるもの（5001～5040）。

5001～5040は文様凸部が横列に並ぶ楕円文が施文される。

5001～5010は米粒のような小さな楕円文が施文される。

5001～5005・5009・5010は同一個体である。原体径6.4㎜。1周4単位。原体長25㎜前後。1帯7～8条。横列は平行となるが，縦列の条は不規則である。原体端はまっすぐに切断される。施文構成は外面が縦位密接施文，内面は口唇部直下に1帯横位に施文される。5003は胴部推定径28㎝前後。器厚7～8㎜。胎土に白色粒・茶褐色粒等が含有される。色調は暗黄褐色～暗褐色を呈する。

5006～5009は同一個体である。5002よりやや大きめの楕円文が施文され，焼成・胎土等は酷似する。

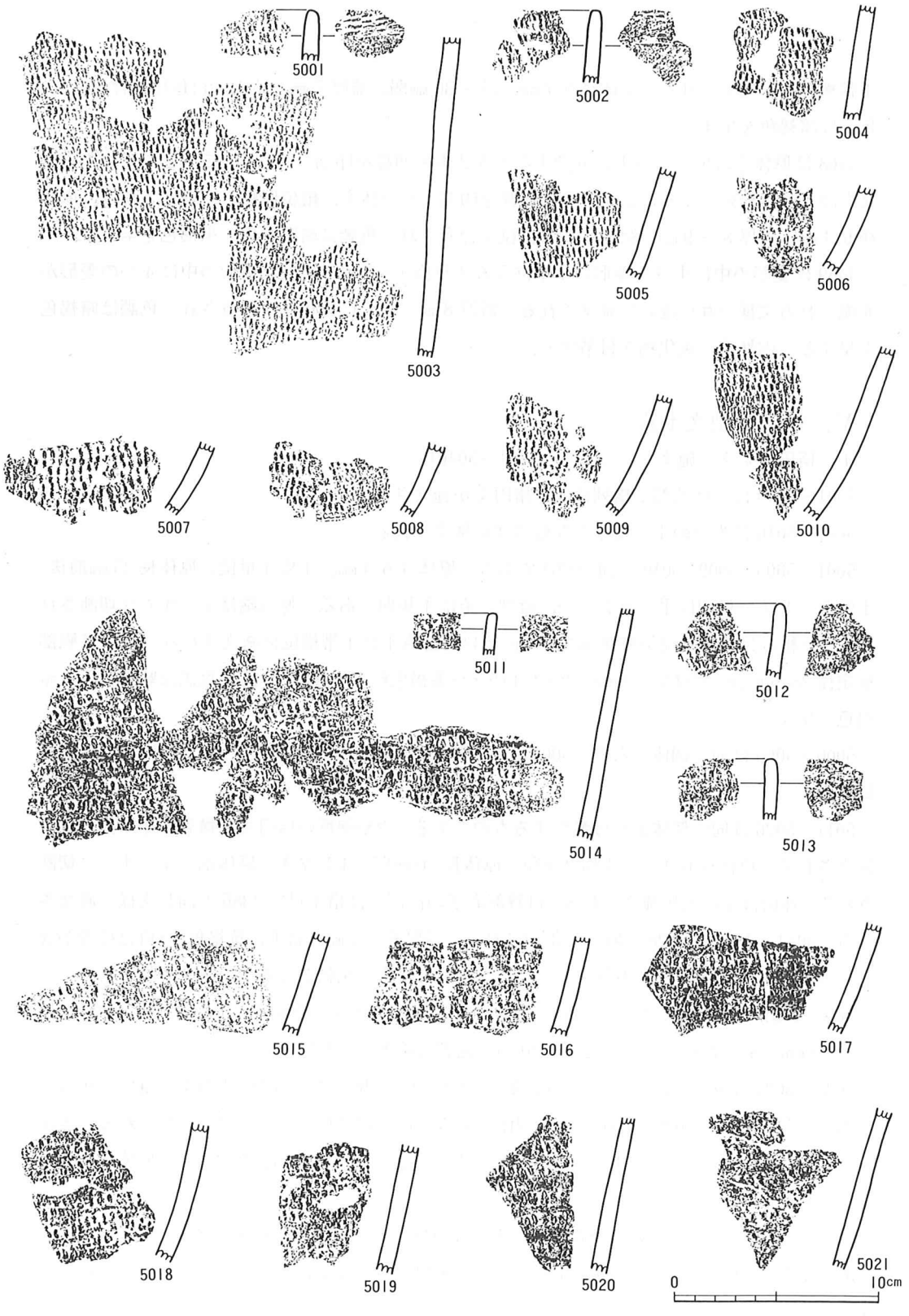
5011～5026は同一個体または酷似するものである。やや細長い楕円文が横列に並ぶ押型文が施文される。原体径6.4㎜。1周2単位。原体長30㎜弱。1帯7条。原体端はまっすぐに切断される。外面は縦位密接施文される。口唇部直下の内面には格子目文4386と同じ文様が施文される。5014の胴部は径28～30㎝と推定される。器厚6～7㎜。胎土に黄褐色粒・白色粒等が含有され，色調は暗褐色～黒褐色を呈する。内外面に厚く炭化物が付着する部分が見られる。

5027は楕円文が縦横にほぼ一直線となるように施文される。原体径6.1㎜。1周3単位。原体長24㎜前後。1帯7条。口径18～20㎝。色調は暗黄褐色を呈する。

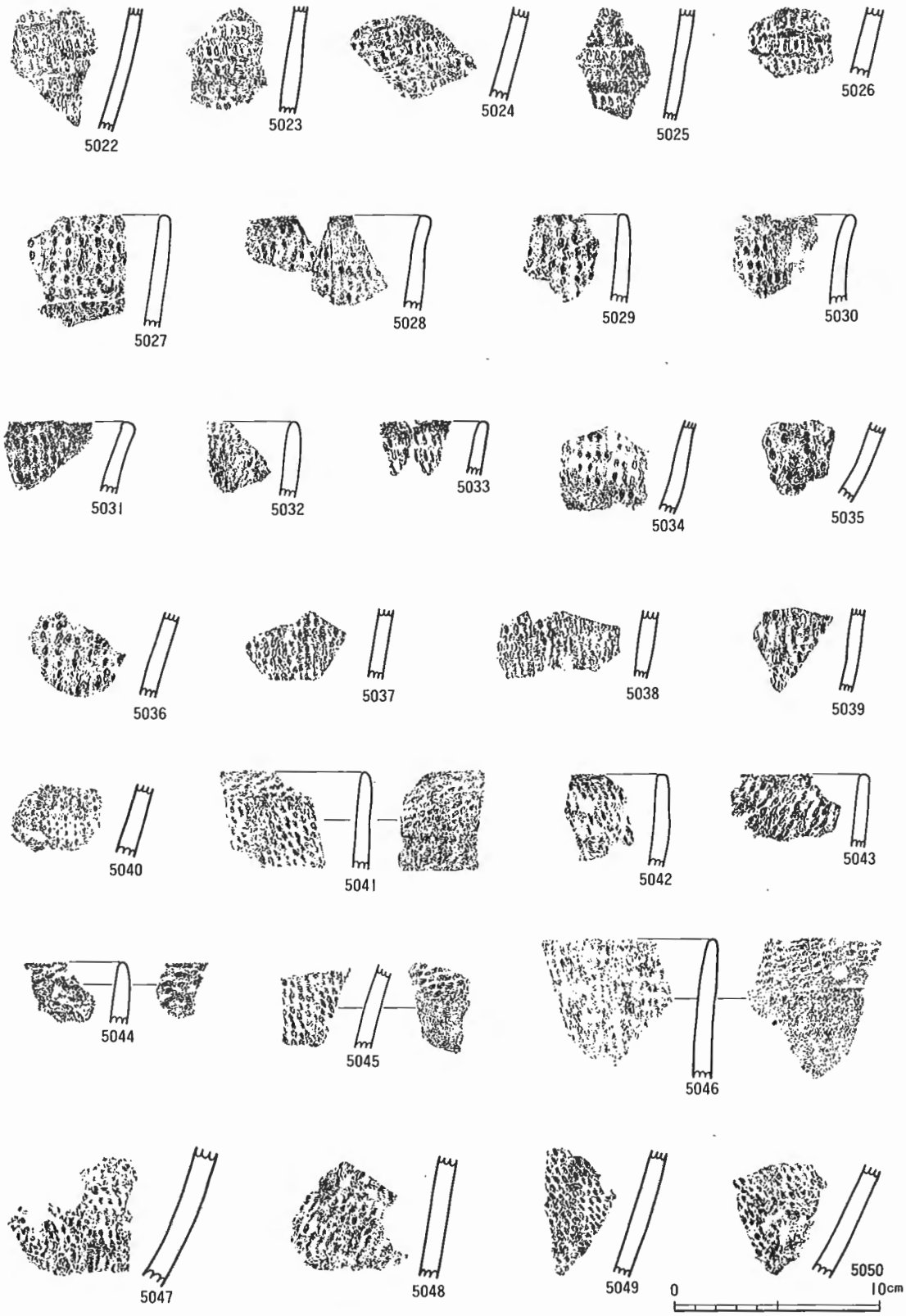
5028～5031は縦横にほぼ一直線に配列される楕円文が施文されるが，楕円文が縦位に接続する部分が見られる。5028・5031は同一個体である。口唇部は押圧され平坦に整形される。器厚6～7㎜。胎土に灰白色粒・小礫等が多量に含有され，色調は淡茶褐色を呈する。原体端はまっすぐに切断される。

5029は弱く内湾する。原体径6.1㎜。1周3単位。色調は淡茶褐色を呈する。

5030は弱く外反する。器厚6～7㎜。胎土に黄白色粒が多量に含有され，色調は茶褐色を呈する。



第170図　土器拓影図　㊷



第171図　土器拓影図 ⑥③

5034～5040は楕円文が横列に並ぶ胴部破片である。5034は5030の胴部破片である。胎土に黄白色粒と長石・石英粒が含有される。原体端はまっすぐに切断される。5035・5036は巾の広い楕円文が施文される。5037～5039は楕円文が縦位に接続する。外面に厚く炭化物が付着する。5040は長軸3㎜，短軸2㎜の小さな楕円文が縦横に一直線となるよう施文される。胎土には黄白色粒が多量に含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

5041～5065は文様凸部が不規則に配列された楕円文が施文される。

5041は遺構内遺物である。5042は斜位の楕円文が施文される。原体1周に3単位の楕円文を螺旋状に印刻したものを，縦位回転して施文される。原体径5.4㎜。胎土に黄褐色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

5043は左下がりに細長い楕円文が施文される。胎土に黄白色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。

5044は楕円文が螺旋状に印刻された原体を，外面には横位と斜位，内面にはやや右下がりに回転施文して，楕円文が施文される。色調は淡黄褐色を呈する。

5045は口唇部を欠損する。楕円文が密に施文される。5046は口径18㎝前後と推定される。外面は磨耗している。口唇部直下の内面に，巾25㎜に楕円文が施文される。原体長は25㎜以上，端はまっすぐに切断される。色調は灰褐色を呈する。

5047は施文が不明瞭である。胎土に白色粒が多量に含有され，色調は灰褐色を呈する。

5048は5043の胴部破片である。5049～5051は原体に螺旋状に印刻した楕円文が施文される。原体5.4㎜。器厚8㎜。色調は暗灰褐色を呈する。5052は乱雑に楕円文が施文される。

5053～5056は丸味の強い小さな楕円文が明瞭に施文される。原体径5.1㎜。1周4単位。器厚9～10㎜。色調は灰褐色を呈する。

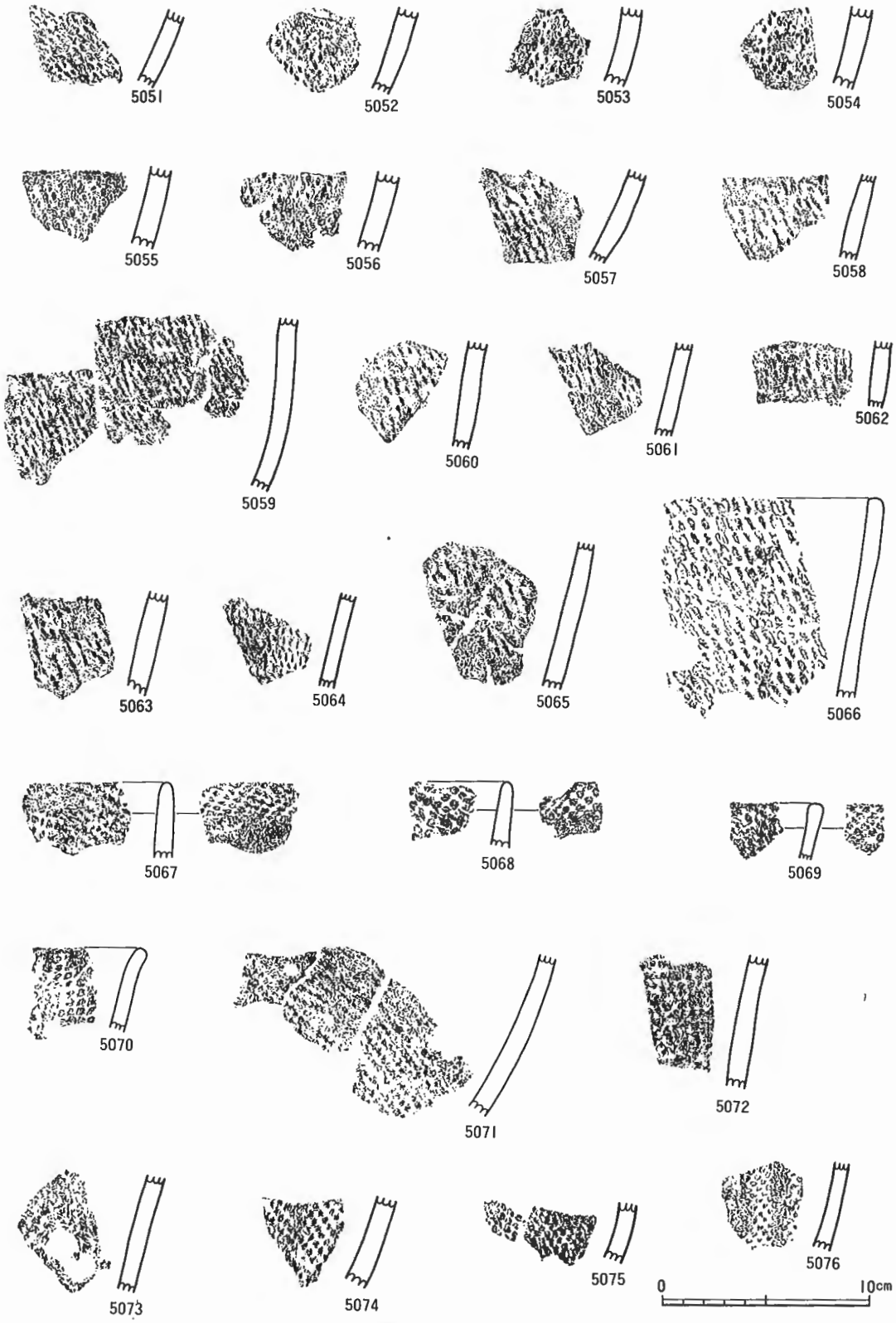
5057・5058・5060～5065は右下がりの細長い楕円文が施文される。縦位に接続する部分が見られる。楕円文を螺旋状に印刻した原体を，縦位回転して施文される。器厚7～8㎜。胎土に黄褐色粒が多量に含有され，色調は暗茶褐色～黒褐色を呈する。

5059はさらに細長い楕円文が施文される。縦位に接続する部分が見られる。原体は螺旋状に印刻される。胎土に白色粒が多量に含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

5066は大きな楕円文が施文される。楕円文は原体に斜めに印刻され，原体を縦位回転して施文される。原体径6.7㎜。1周3単位。1帯5条。胎土に灰白色砂粒が多量に含有され，色調は茶褐色を呈する。外面には炭化物が付着する。口径28㎝前後。

5067～5076は文様凸部が菱形のような楕円文が施文される。文様凹部は狭く，楕円文は斜位に直線状に連続する。

5067は口径18㎝。内外面は風化しており，外面には厚く炭化物が付着する。楕円文は外面には不規則に，内面には横位に1帯施文される。胎土に白色粒が含有され，色調は茶褐色を呈する。5068・5069は色調が黄褐色を呈する。5070は弱く外反する。原体を左下がりに回転して，



第172図　土器拓影図　⑥④

楕円文の条が縦位になるよう施文される。外面に厚く炭化物が付着し，色調は暗灰褐色を呈する。

5071・5074・5075は同一個体で，口縁部5067の胴部破片である。器面は火熱のためか風化している。外面には厚く炭化物が付着する。胎土に白色砂粒が含有され，色調は茶褐色～黒褐色を呈する。

5072は5070の胴部破片である。色調は灰褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。5073は文様が不明瞭である。胎土に径5㎜前後の小礫が含有され，色調は茶褐色を呈する。

5076は無文部を残して帯状施文されるものである。器厚6～7㎜。色調は淡茶褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

5070～5081は同一個体である。外面には，横列が平行し，縦列が不規則で，一部接続する部分が見られる楕円文が施文される。内面にはヘラのようなもので横位に強く器面調整された痕が残る。原体径5.4㎜。1周4単位。色調は明茶褐色を呈し，一部黒褐色に変色し，炭化物が付着する。器厚5～6㎜。

2．楕円文と直線文が組み合わされた押型文の施文されるもの（5082～5097）。

5082～5097は同一個体または酷似するものである。5001～5010に類似する楕円文に2本の直線文が組み合わされた文様が施文される。原体径6.7㎜。1周に4単位の楕円文と2本の凹線が印刻される。原体長30㎜前後。縦位密接施文される。器厚7～8㎜。灰色粒が含有され，色調は淡灰色・淡黄褐色・暗褐色を呈し，内外面に炭化物が付着する。5097は尖底の底部破片である。

VI. その他の押型文土器

1．山形文，格子目文・楕円文以外の押型文が施文されるもの（6001～6077）。

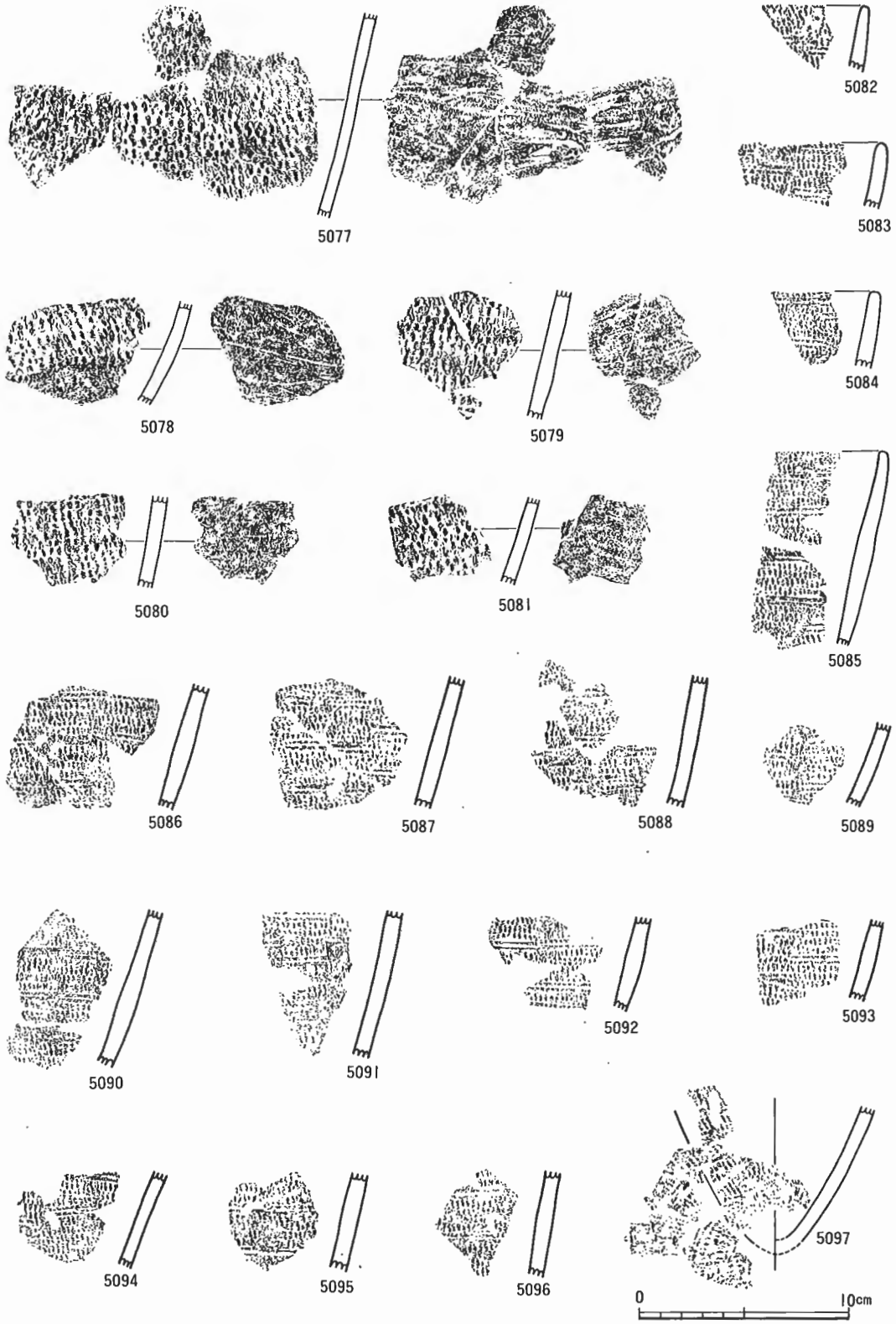
6001は径6.1㎜の棒軸に，縦に3本の凹線を印刻し，その間に山形文と傾きを変えた斜位の凹線を印刻した原体を，縦位回転して密接施文される。原体長35㎜。口径17㎝。胎土に灰色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。内面に炭化物が付着する。

6002・6003は径5.4㎜の棒軸に，縦に2本の凹線を印刻し，その間に山形文を印刻した原体を，縦位回転して密接施文される。原体長30㎜前後。6002は原体の左右を逆にして施文される部分が見られる。器厚6～7㎜。色調淡黄褐色を呈する。

6004～6012は棒軸に，縦に2本の凹線を印刻し，その間にジグザグの凹線と，「×」状に交叉する凹線を印刻した原体を用いて施文される。

6004は口径24㎝前後。口唇部は上より押圧され，弱く肥厚する。外面は縦位に，内面は横位に施文される。色調は明茶褐色を呈する。

6005・6006は同一個体かと思われる。口唇部は平坦に整形され，器面調整は丁寧である。原体径7.3㎜。胎土に小礫が多量に含有され，色調は暗灰褐色を呈する。



第173図　土器拓影図　㊺

6007・6009～6012は口縁部6004の胴部破片である。6008は口縁部6005の胴部破片である。6013は2種類の原体が用いられるものかもしれない。

6014・6015は棒軸1周に，縦に2本凹線を印刻し，縦位の凹線上の中心点に向け，凹線を放射状に印刻したような原体を用いたものと思われる。原体径5.7㎜。色調は暗灰褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

6016は直線文の間に横位の山形文が2条組み合わされた文様が施文される。

6017は横位の直線文の間にジグザグ文が組み合わされた文様が施文される。原体径5.1㎜。

6018～6034は棒軸1周に，縦の凹線を2本印刻し，その間に斜めまたは横に凹線を印刻した原体を，縦位に回転して文様が施文される。器面上には横位の平行する凸線と，その間に縦位または斜位の凸線が施文される。

6018は口径10㎝前後と推定される。内面にも原体を横位回転して施文される。色調は黒褐色を呈する。内面に炭化物が付着する。また器面に径1㎜以下の気泡痕のような穴が多数見られる。

6019・6020は同一個体で，口径16㎝と推定される。弱く外反し，口唇部は平坦に整形される。口唇部直下の外面に，横位に1帯施文され，以下縦位に密接施文される。器厚5～6㎜。色調は暗灰褐色～黒褐色を呈する。内面に厚く炭化物が付着する。

6021～6026は同一個体である。原体径6.4㎜。原体長25㎜前後。器厚6～7㎜。胎土は緻密で，色調は黄褐色～灰褐色を呈する。

6027～6034は同一個体かと思われる。6027は口縁部で，口唇部は丸味を持った平坦に整形される。器厚6～10㎜。色調は灰褐色～黒褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。原体径6.4㎜。原体長25～30㎜。

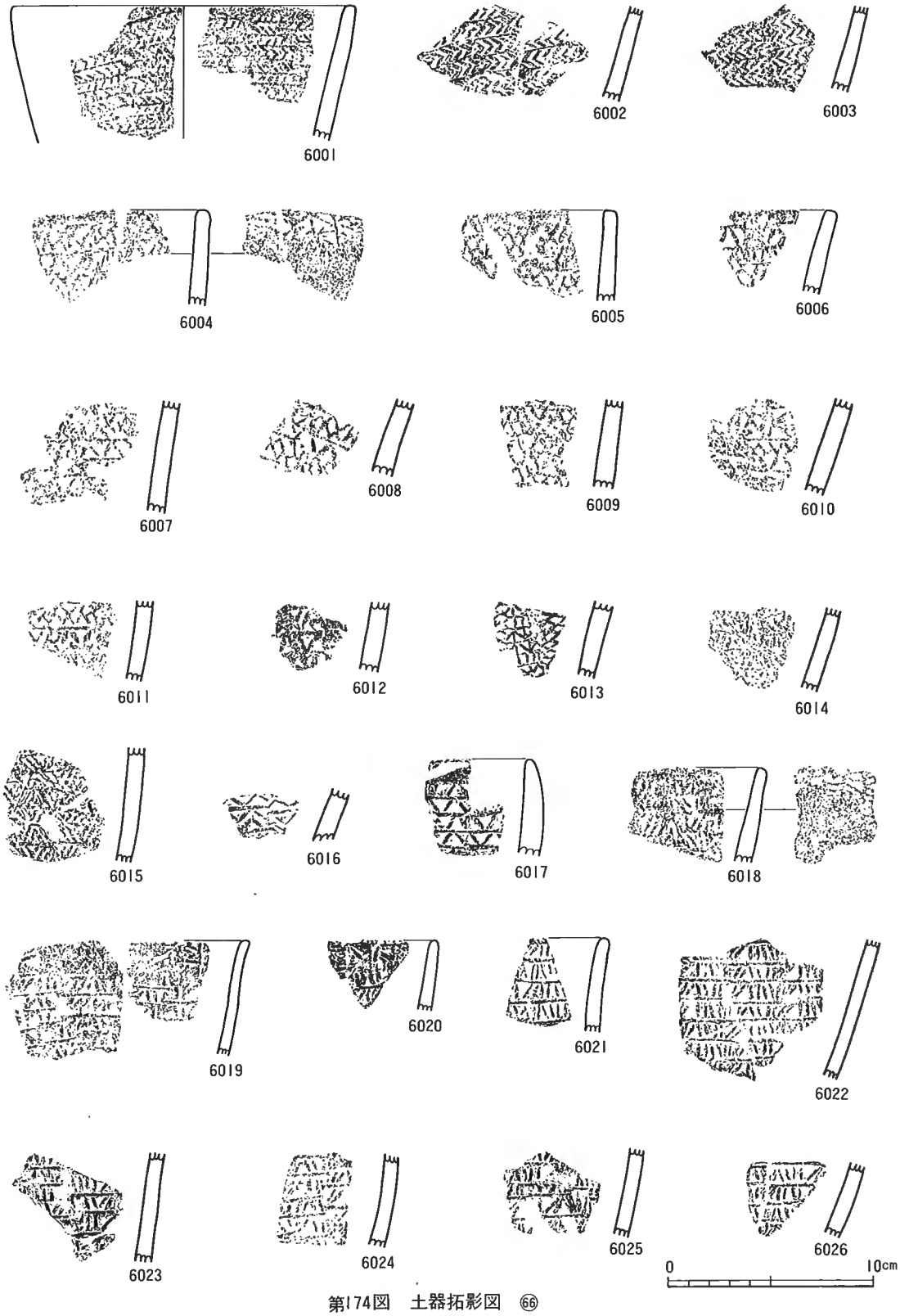
6035～6039は同一個体である。径5.7㎜の棒軸1周に，左斜めの凹線を上下2段に，それぞれ2本印刻し，それぞれの凹線の間に，右斜めの凹線を3本印刻した原体が縦位回転施文される。器厚6～7㎜。胎土に微細な黄褐色と小礫が多量に含有され，色調は暗黄褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。

6040～6042は径6.1㎜の棒軸1周に，縦位に2本の凹線を印刻し，その間に横位の凹線を印刻した原体を縦位回転して，押型文が施文される。器厚7～8㎜。色調は淡灰褐色を呈する。

6043～6051は横位の平行線文の間に楕円文が充填される文様が施文される。

6043は径5.4㎜，長さ32㎜の棒軸に，縦位に3本の凹線を印刻し，その間に6単位の楕円文を斜位に印刻した原体を，外面では縦位に，内面は口唇部直下に横位に回転施文して，押型文が施文される。口径16㎝前後。胎土は粗く，色調は灰褐色を呈し，内面には炭化物が付着し，黒褐色を呈する。

6044・6046は同一個体で，口径24㎝前後と推定される。原体径6.4㎜，原体長30㎜前後。平行線文は1周3単位，楕円文は1帯7～8単位印刻される。原体端はまっすぐに切断される。



第174図　土器拓影図　㊻

胎土に微細な灰白色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。内外面より穿孔される補修孔が見られる。6047・6049～6051は同一個体である。

6048は平行線文の間に，細長い楕円文がジグザグに，丸い楕円文が縦位に配列される押型文が施文される。器厚9～10㎜。色調は灰褐色～黒褐色を呈する。

6052～6058は同一個体かと思われる。径6.4㎜の棒軸に，縦位に2本の凹線を平行して印刻し，その凹線の端から端にかけ1周するように，平行する2本の凹線を印刻して，形成される三角形の部分に横位の凹線を印刻した原体を，縦位回転して押型文が施文される。器厚7～8㎜。胎土に灰白色粒が含有され，色調は暗褐色～黒褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。両面より穿孔される補修孔が見られる。

6059～6065は，2本の平行線文を交叉して形成される正方形の内に，さらに正方形の文様が配される，二重格子目文と呼称される押型文が施文される。

6059･6060は同一個体で，口径26㎝前後と推定される。原体径6.7㎜。1周1単位。原体端はまっすぐに切断される。外面は縦位に，内面は横位に施文される。器厚6～7㎜。胎土に黄褐色～黄白色粒が多量に含有され，色調は明茶褐色～暗褐色を呈する。6060は内外面に炭化物が付着する。

6061は6059に類似するが，器厚7～9㎜と厚く，胎土に小礫と多量の繊維が含有される。補修孔は外面より強く穿孔される。

6062・6063は同一個体で，口径26㎝前後と推定される。6059と同類の施文原体が用いられるが，内面には施文されない。器厚8㎜。色調は暗灰褐色を呈する。

6046は器厚6～7㎜。胎土に白色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。内面には施文されない。6065は6062の胴部破片である。

6066～6077は，楕円文がつぶれて，細長く縦位に連続したような棒状文様と，それが山形状に弱く屈曲した文様が，同一原体に印刻され，縦位回転して施文される。

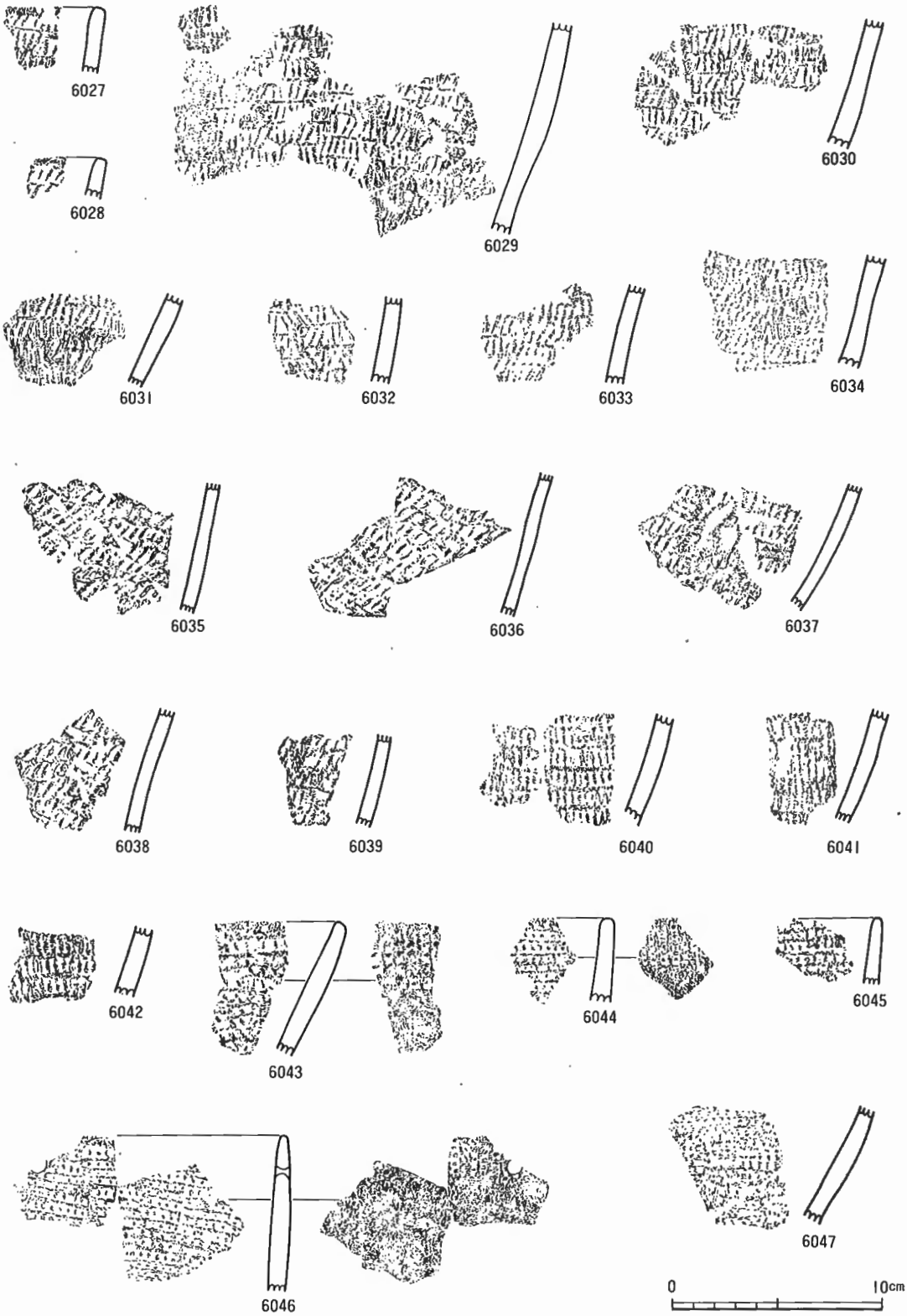
6066～6068は口縁部内外面に施文される。6068は小さな山形文のような文様が施文される。6069･6070は6067の同一個体である。原体径6.4㎜。胎土に黄褐色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。6071は条間隔の広い文様が施文される。色調は灰褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

6072・6077は棒状文様3条と山形文2条を印刻した原体を用いて施文される。口縁部は内外面に施文される。胎土に白色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

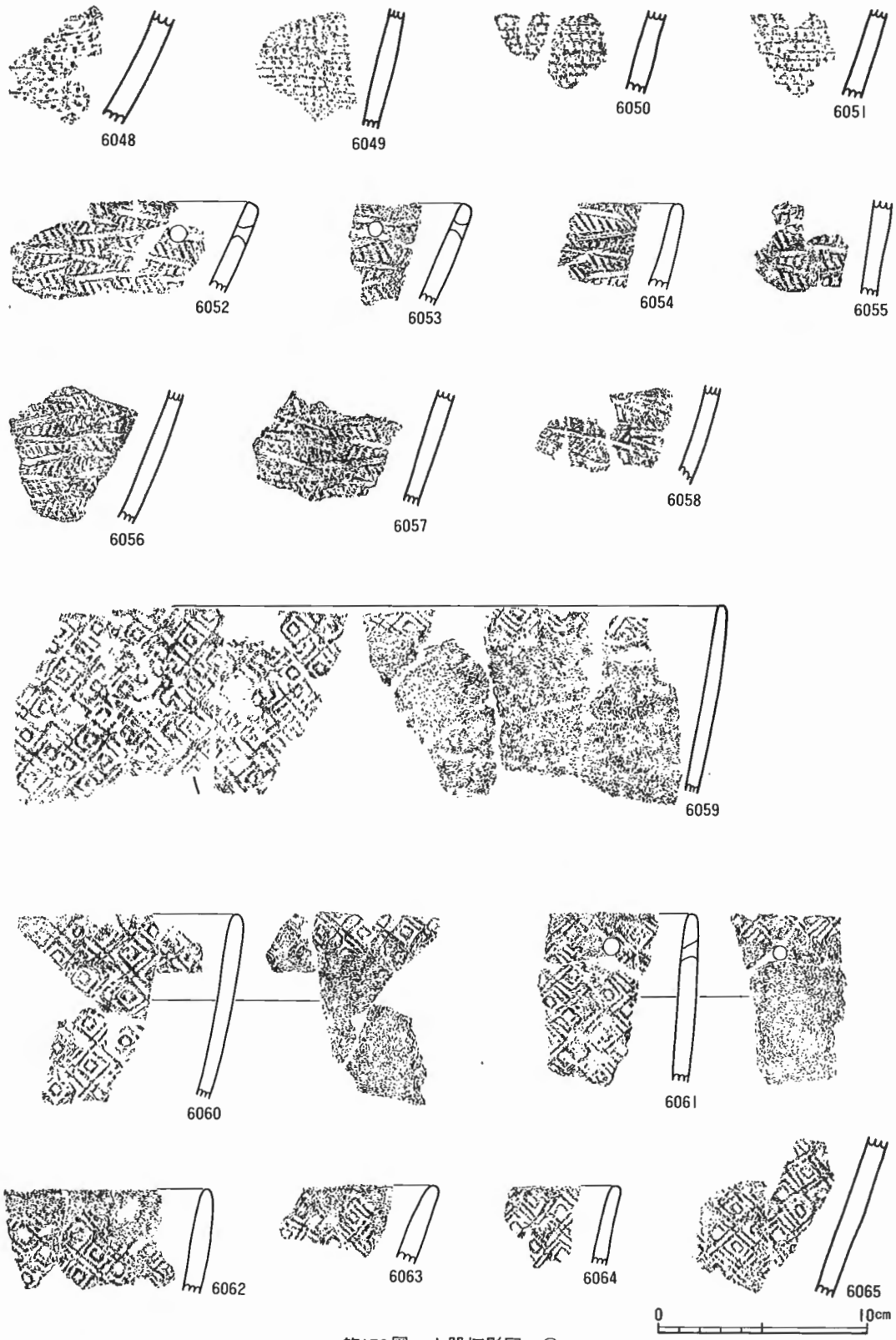
6073～6076は山形文と屈曲する棒状文様が施文される。色調は淡黄褐色～灰褐色を呈する。

2．異なる2種類の施文原体を併用して文様が施文されるもの（6078～6089）。

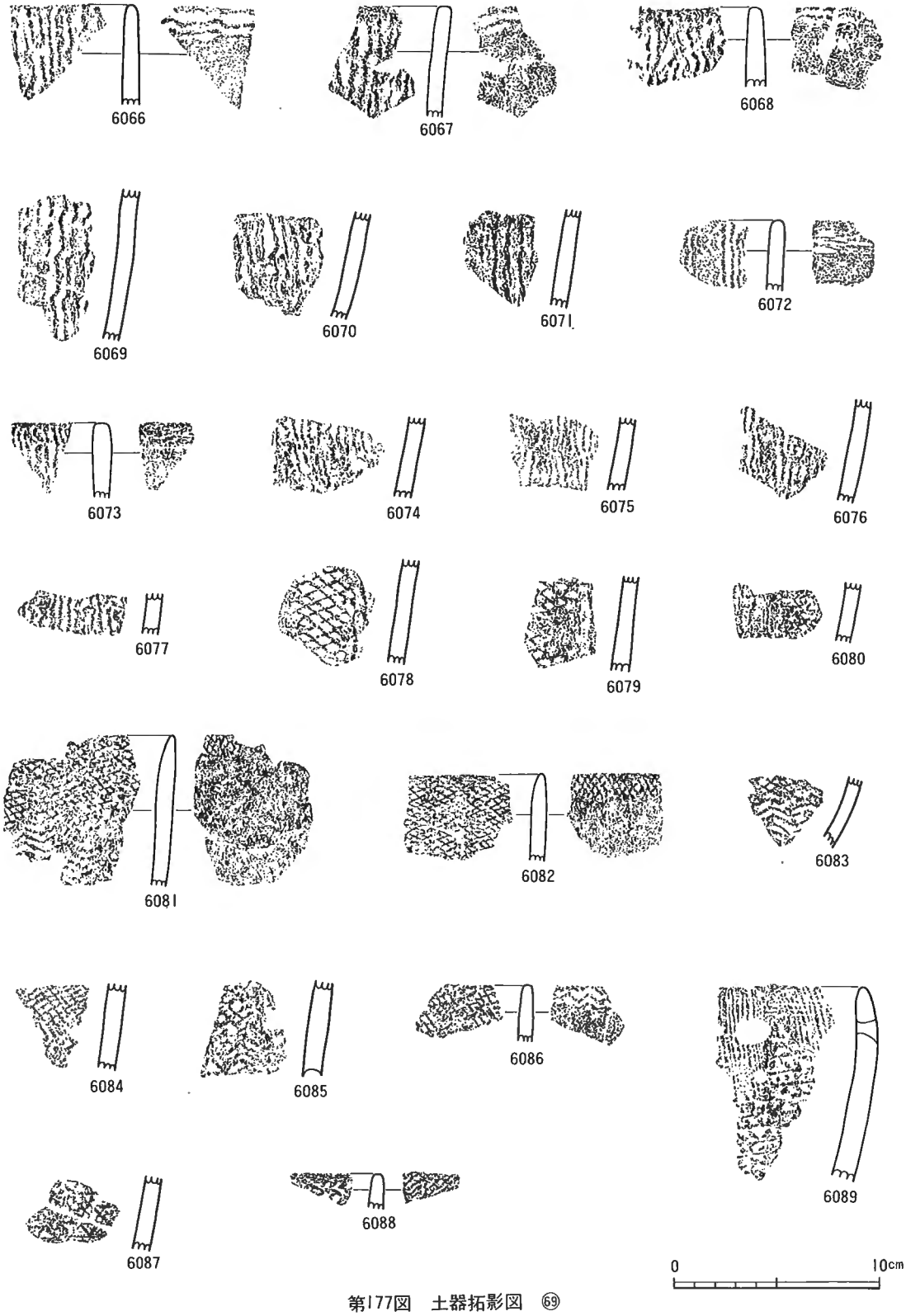
6078～6080は格子目文と縦位に楕円文が連続したような棒状文様が縦位に施文される。格子目文原体径5.4㎜，1周3単位。器厚7～9㎜。胎土に黄褐色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。



第175図　土器拓影図　⑥⑦



第176図　土器拓影図 ⑥⑧



第177図　土器拓影図　㊾

6081～6083は同一個体で，格子目文と山形文が組み合わされる。推定口径16～17㎝。格子目文は小さく，外面の口唇部直下巾約5㎝に原体を縦位回転して施文され，内面口唇部直下の巾約1㎝に横位回転して施文される。山形文はやや大きめで，格子目文の下位に横位回転施文される。胎土に長石・石英・黒雲母の微細粒と小礫が含有され，色調は黄褐色を呈する。

6084も格子目文と山形文が組み合わされるものである。格子目文は形が不揃いで，小さい長方形を呈するものが施文される。両原体とも縦位回転施文されるものと思われる。色調は灰褐色を呈する。

6085は大きな格子目文と山形文が施文される。格子目文は形が不揃いである。山形文は横位回転して施文される。器厚8～10㎜。胎土は粗く，色調は茶褐色を呈する。輪積み痕が見られる。

6186は口縁部外面に格子目文が，内面に山形文が施文される、色調は暗褐色を呈する。

6088は口縁部外面に押型文が，内面に縄文が施文される。押型文は特殊なもので，6035に類似する。胎土に黄白色粒が多量に含有され，色調は黄褐色を呈する。

6089は平行直線文の間に斜葉文が斜位に配列される押型文と，Rの撚糸文が施文される。口縁部は内湾し，口唇部は尖頭状を呈する。撚糸文は口唇部より縦位と横位に施文され，押型文はその下位に施文される。施文順序は押型文→撚糸文である。補修孔は外面より丁寧に穿孔される。器厚10～11㎜。胎土は小礫・黄褐色粒等が含有され粗い。色調は黄褐色から暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着し，口唇部は黒褐色に変色する。

底　部（7001～7043）

縄文土器・撚糸文土器・押型文土器の底部破片を一括する。平底が1点見られるほかはすべて尖底である。尖底は尖端が乳房状をなすものと，なさないものに大別される。

7001～7004は撚糸文土器の底部である。7001は器厚が厚く，鈍角な円錐状を呈する。7002は丸味を持つ尖底と思われる。7003は尖端が細長く，7004は大きな乳房状を呈する。

7005・7006は鈍角な円錐状を呈する。7007・7008は尖端が厚く，細長い。

7009～7011は格子目押型文土器の底部である。乳房状を呈する。7009は乳頭部を貼付する。内面に炭化物が付着する。7010は丸底状の先端部に乳頭部が貼付される。

7012～7015は山形押型文土器の底部である。7013は丸底状の底部を内面より押圧し，乳頭部を貼付して成形している。7014は乳頭部が貼付される。7015は弱い乳房状を呈する。

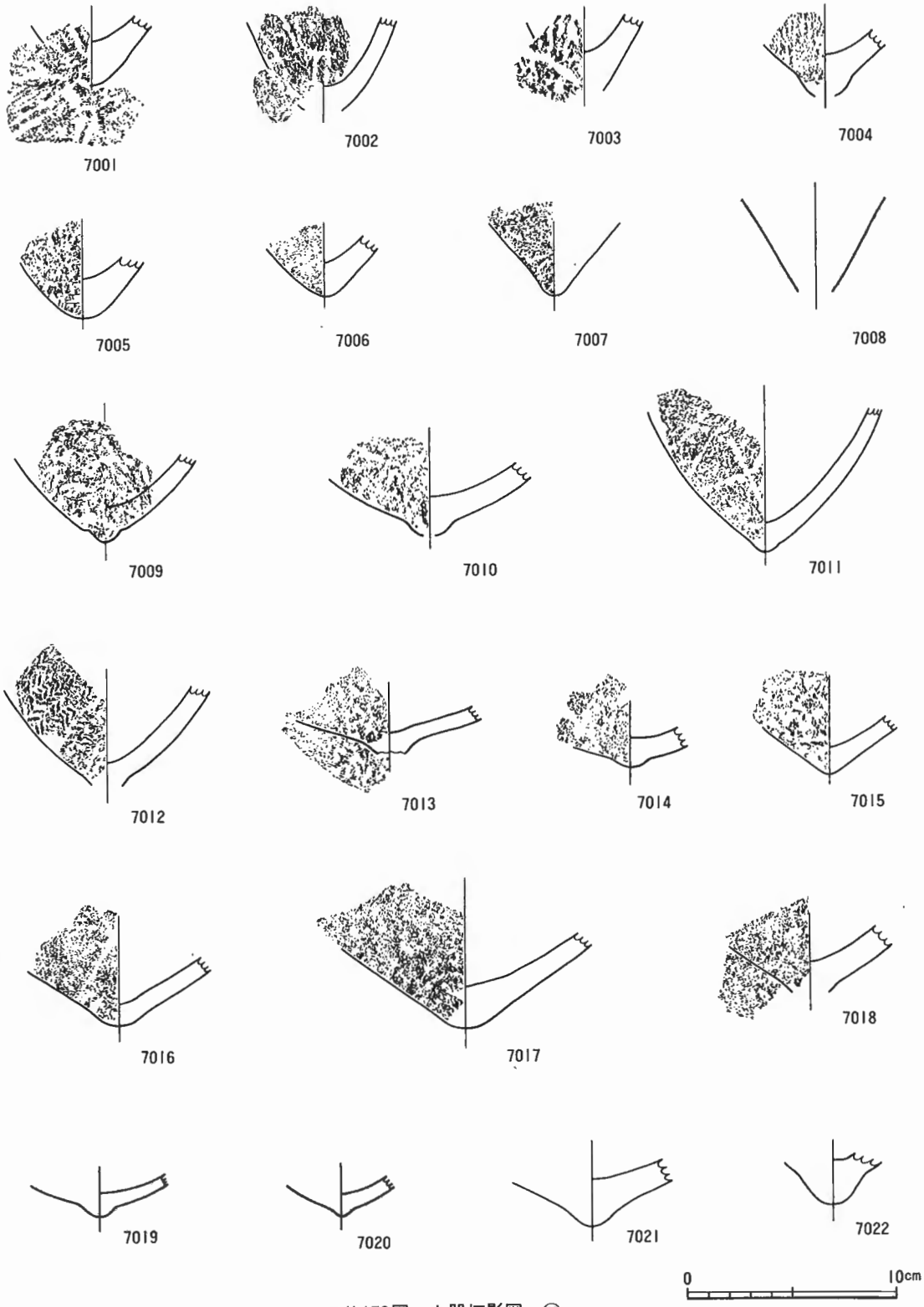
7016～7018は文様が判別できない。7016は尖端部が内面より押圧される。7017は大形の底部で，山形押型文土器かと思われる。

7019は楕円押型文土器の底部である。器厚は薄く，乳頭部が貼付される。

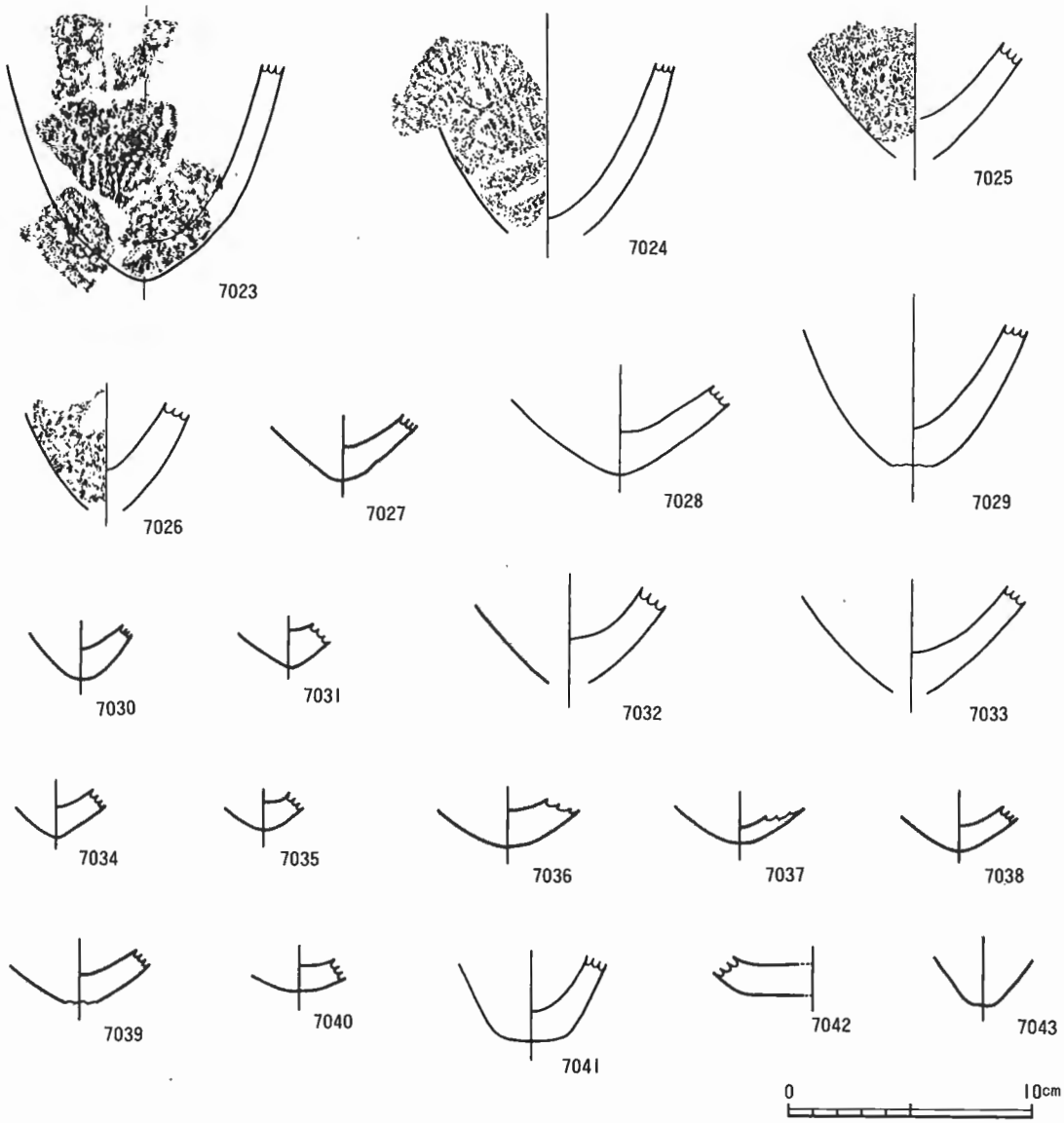
7020は器厚が薄く，小形の山形押型文土器の底部破片である。

7021・7022は大きな乳頭状を呈する。7021は山形押型文土器の底部である。

7023は山形押型文土器の底部である。尖端は弱い乳頭状を呈する。7024は土器No．6029の



第178図　土器拓影図　⑦⓪



第179図　土器拓影図　⑦1

底部かと思われる。7025・7026は小さな斜葉文の山形押型文土器の底部である。

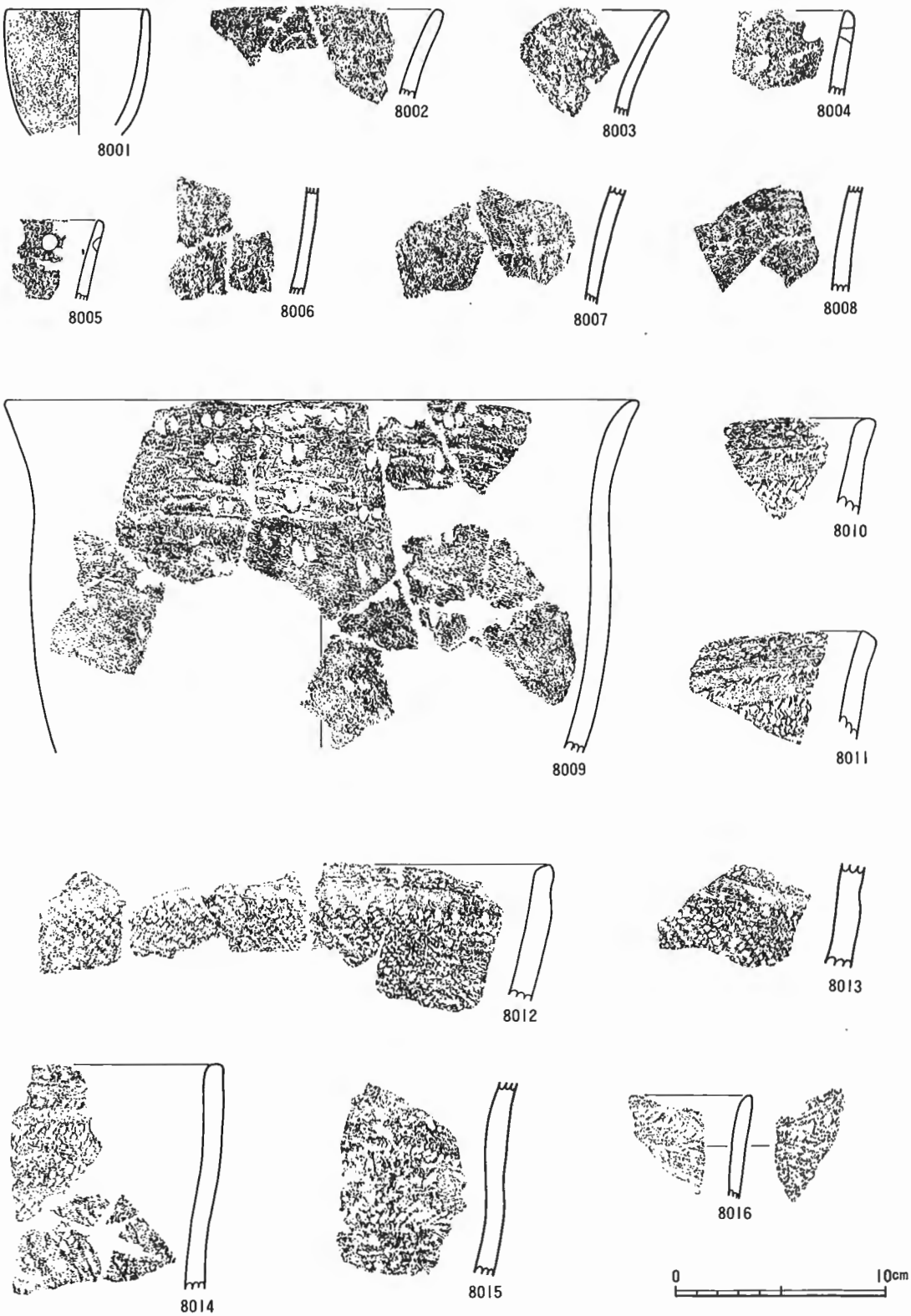
7027は弱い乳房状を呈する。7029は胎土に多量の金雲母を含有する器厚の厚い大形の底部で，尖端部を欠損する。7030～7040は小破片である。

7041は先端部が平底となる。胎土に長石・石英・繊維が多量に含有される。

7042は唯一の平底である。山形押型文土器の底部かと思われる。

Ⅶ. 無文土器

8001は口径7㎝と推定される小形土器である。器厚3～5㎜。胎土に微細な灰色粒・茶色粒が含有される。色調は暗灰褐色を呈する。胎土・焼成は脆い。



第180図　土器拓影図　⑫

8002～8008は器面に擦痕状の器面調整痕が見られる無文土器である。

8002は口径20㎝前後と推定され，弱い波状口縁を呈する。器厚5～7㎜。胎土に砂粒と繊維が含有され，色調は明茶褐色を呈する。

8003は外反する。器厚5～6㎜。胎土に微細な長石・石英粒と繊維が多量に含有される。色調は茶褐色～黒茶褐色を呈する。8004・8005は8003と胎土・焼成を同じくする。8004には外面より穿孔される補修孔が見られる。8005は穿孔が中断される。

8006は8002の胴部破片である。8007は8003の胴部破片である。8008は8002に胎土・焼成を同じくするが，器厚6～9㎜と厚い。

Ⅷ．条痕文系土器

1．絡条体圧痕文の施文される土器（8009）。

絡条体圧痕文の施文される土器は，8009の1個体のみの出土である。太い絡条体圧痕文が間隔を開けて縦位に施文される。口径30㎝前後。口縁部は外反し，口唇部は舌状を呈する。器厚7～10㎜。胎土に長石・石英粒が多量に含有される。色調は明茶褐色を呈する。繊維が含有される。

2．地文に縄文を有し，凹線文と刺突文により文様構成されるもの（8010～8014）。

8010・8011はＲＬの斜縄文を地文とし，口唇部直下に，横位に太い凹線を2本施し，微隆起部に刺突文を列状に施したものである。器厚8㎜。胎土に長石粒と多量の繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。

8012・8013はＲＬの斜縄文を地文とし，口唇部直下に，横位に太い凹線を1本施し，縄文と凹線の境いに刺突文を列状に施したものである。口径28㎝前後と推定される。内面には明瞭に条痕文が施文される。器厚10～11㎜。胎土に長石・石英粒と多量の雲母が含有される。色調は茶褐色を呈し，外面に厚く炭化物が付着する。

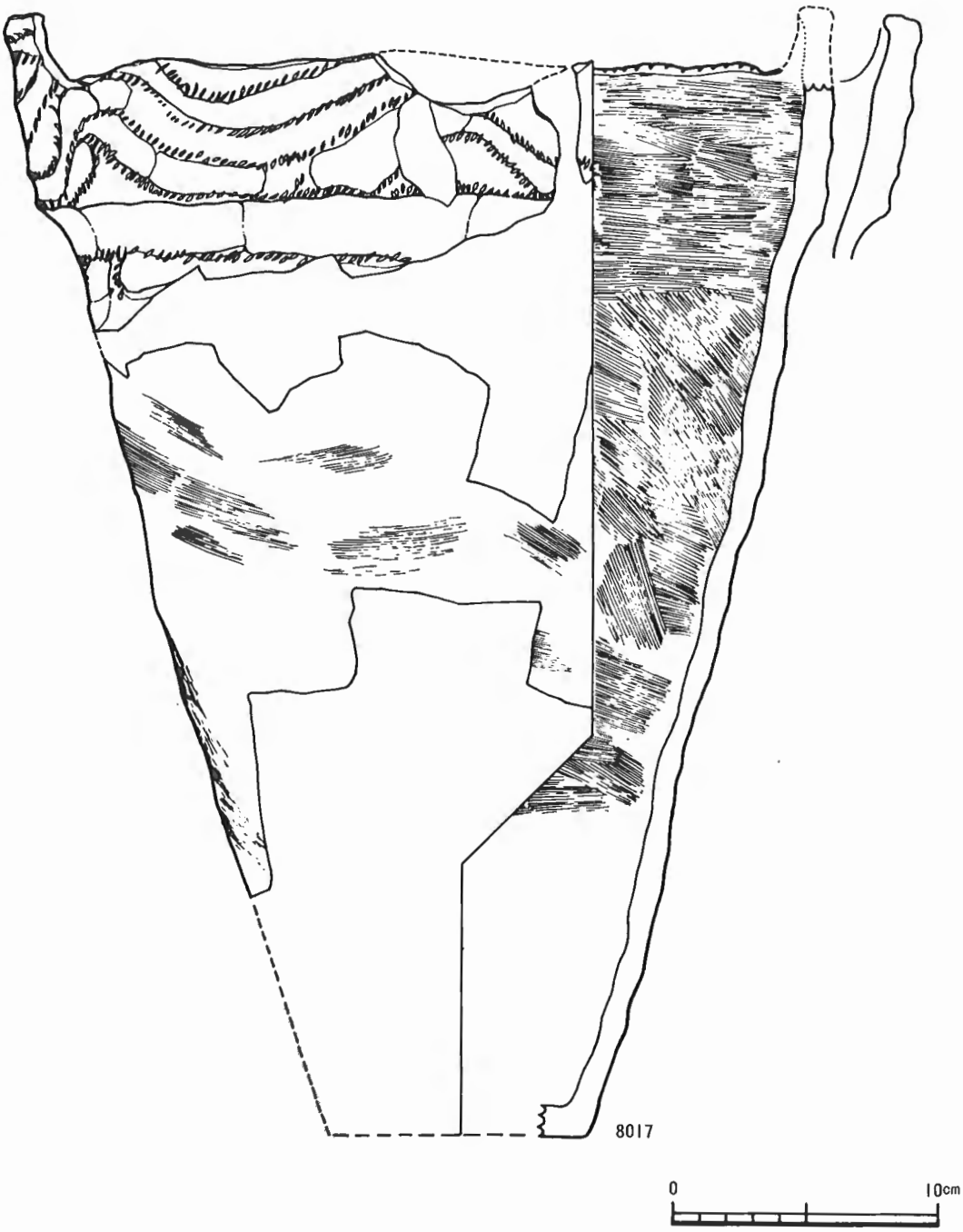
8014は条間隔の広いＲＬの斜縄文を地文とする。8010・8011と同一個体かと思われる。刺突列は横位に施され，下半部では凹線が曲線に施される。

3．凹線文と刺突文より文様構成されるもの（8015～8017）。

8015は凹線が横位と縦位に施され，刺突列は横位に施文される。内面には条痕文が明瞭に施文される。胎土に長石・石英粒が含有され，色調は淡黄褐色を呈する。繊維が多量に含有される。

8016は波状口縁を呈し，内外面に条痕文が施文され，口唇部と内外面にそれぞれ1条刺突列が施文される。胎土に長石・石英粒と繊維が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

8017は口縁部から底部まで復元されるものである。器高42㎝。口縁部平面は長径30㎝，短径25㎝の楕円形を呈する。突起が作出される。屈曲部は2段見られ，口唇部と上段の強く屈曲する部分の間には，刺突文が大きな波状に施文され，その間に浅い凹線状のなぞりが加えられ



第181図　土器実測図

る。また刺突文は口唇部と突起部にも施文される。また下段の弱い屈曲部上と屈曲部間に，刺突文が横位の列状に施文される。屈曲部以下は無文部となる。内面には条痕文が明瞭に施文される。胎土には長石・石英粒と繊維が多量に含有され，色調は明茶褐色を呈する。

土器番号	出土区	1047	F-6		K-18	1131	M-23	1178	10集石	1222	J-21	1267	K-24
1001	K-12	1048	D-4	1093	F-19	1132	H-11	1179	D-17	1223	L-13	1268	J-24
1002	G-16	1049	F-6	1094	J-25	1133	I-6	1180	E-12	1224	J-15	1269	I-22
1003	E-10	1050	F-6	1095	F-16	1134	I-14	1181	E-13	1225	O-15		J-23
1004	D-14	1051	I-6	1096	K-4	1135	C-18	1182	J-13	1226	I-18	1270	D-19
1005	G-16	1052	L-14	1097	L-13	1136	G-19	1183	L-14	1227	E-20	1271	K-13
1006	E-12	1053	K-6	1098	H-17	1137	M-22	1184	F-19	1228	I-6	1272	F-7
1007	C-12	1054	J-6	1099	I-18	1138	K-16	1185	H-19	1229	F-6	1273	N-25
1008	I-12	1055	D-14	1100	G-20	1139	D-4	1186	E-17	1230	J-18	1274	K-13
1009	I-14	1056	E-4	1101	F-6	1140	J-4	1187	I-15	1231	J-18	1275	J-13
1010	K-13	1057	F-6	1102	M-24	1141	K-12	1188	E-13	1232	J-18		L-14
1011	E-5	1058	N-23	1103	J-17	1142	L-12	1189	B-12	1233	I-16	1276	J-6
1012	E-5	1059	N-20	1104	K-24	1143	E-6	1190	M-21		J-16	1277	J-6
1013	K-15	1060	I-6	1105	K-13	1144	I-6	1191	K-17	1234	I-25		
1014	E-4	1061	N-23	1106	J-16	1145	F-8	1192	C-14	1235	J-18	2001	H-12
1015	F-6	1062	K-23	1107	M-23	1146	F-7	1193	H-12		K-19		I-6
	K-11	1063	G-8	1108	I-25	1147	G-12	1194	J-17	1236	J-16		I-7
1016	E-7	1064	G-12	1109	H-12	1148	F-7	1195	I-11	1237	I-16		I-11
1017	F-6		K-6	1110	H-6	1149	E-10	1196	I-11	1238	J-23		I-13
1018	D-12	1065	F-11	1111	M-24	1150	F-8	1197	H-12	1239	J-24		J-6
1019	C-12	1066	K-6	1112	E-13	1151	E-10	1198	H-22	1240	J-23		J-7
1020	K-13	1067	D-6	1113	M-23	1152	E-10	1199	I-21	1241	K-19		J-13
1021	E-13	1068	H-10	1114	J-4	1153	H-11		M-23	1242	K-23		K-13
1022	E-13	1069	D-4	1115	E-19	1154	E-6	1200	J-22	1243	I-25	2002	E-15
1023	D-13	1070	G-12	1116	K-22	1155	E-11	1201	M-21	1244	H-11	2003	H-12
1024	K-12	1071	H-12	1117	E-6	1156	C-5	1202	K-18		I-13		H-13
1025	J-6	1072	C-11	1118	K-25	1157	H-7	1203	K-25	1245	M-24	2004	G-16
1026	C-5	1073	D-5	1119	M-21	1158	C-4	1204	D-13	1246	J-26		I-7
1027	F-13	1074	D-10	1120	J-20	1159	H-11	1205	M-24	1247	J-23		K-7
1028	E-13	1075	E-5	1121	F-20	1160	G-16	1206	40炉穴	1248	J-16		K-11
1029	K-13	1076	E-4	1122	K-25	1161	J-16	1207	K-14	1249	J-26	2005	I-12
1030	E-7	1077	G-10	1123	I-12	1162	C-12	1208	C-18	1250	J-26	2006	N-18
1031	F-14	1078	K-12	1124	L-24	1163	J-5	1209	G-16	1251	N-23	2007	J-7
1032	H-12	1079	G-16	1125	J-13	1164	H-11		J-15	1252	O-23		J-12
1033	K-15	1080	J-12	1126	I-12	1165	M-13		J-16	1253	O-24		K-7
1034	H-6		H-11	1127	L-13	1166	J-12	1210	C-18	1254	M-22		K-8
1035	F-5	1081	F-19	1128	K-25	1167	K-13		D-19	1255	I-21		K-14
1036	L-14	1082	K-25	1129	E-8	1168	K-12	1211	I-16	1256	J-19		L-13
1037	E-12	1083	J-17		E-10		K-13	1212	J-22	1257	K-23	2008	I-5
1038	M-13	1084	F-6		E-11	1169	I-12	1213	I-16	1258	L-24		I-7
1039	L-13	1085	M-23		F-8	1170	H-5	1214	L-18	1259	E-5		L-13
1040	I-16	1086	H-20		F-10	1171	O-20	1215	I-16	1260	N-23	2009	J-12
1041	N-13	1087	J-15		H-11	1172	C-17	1216	F-18	1261	K-15		J-13
1042	F-6	1088	M-18		H-13	1173	I-21	1217	N-22	1262	L-13	2010	E-12
1043	D-13	1089	F-14		J-12	1174	H-11	1218	L-23	1263	J-23		H-12
1044	G-12	1090	I-5		K-13	1175	D-6	1219	G-17	1264	F-22	2011	H-18
1045	I-12	1091	F-6		L-13	1176	D-19	1220	K-13	1265	J-20		K-23
1046	E-4	1092	J-18	1130	M-21	1177	28住居	1221	H-17	1266	J-24	2012	D-11

第85表　土器出土区一覧表 ①

2013	G-17	2046	C-10	2091	I-15	2137	J-23	2180	H-12	3021	C-18	3061	J-7
	L-14	2047	H-13	2092	E-17	2138	I-25	2181	M-21	3022	C-19	3062	I-7
2014	D-17	2048	C-14	2093	G-15	2139	H-16	2182	L-22	3023	I-19	3063	E-18
	F-17	2049	9住居	2094	K-15	2140	J-23	2183	K-23	3024	F-18	3064	D-4
	I-6	2050	9住居	2095	D-5	2141	I-25	2184	G-8	3025	I-17	3065	E-12
	K-6	2051	I-12	2096	C-17	2142	J-15	2185	K-25	3026	H-21	3066	I-23
	K-13	2052	F-13		D-17	2143	I-14	2186	M-21	3027	G-19	3067	M-22
	L-17	2053	J-24	2097	F-5	2144	M-14	2187	M-23	3028	G-20	3068	C-13
	L-18	2054	4住居	2098	K-17	2145	K-14	2188	N-22	3029	G-20	3069	E-12
2015	K-14	2055	L-18	2099	J-4	2146	O-14	2189	J-25	3030	F-18	3070	K-24
	L-14		M-23	2100	K-15	2147	N-14	2190	G-17	3031	H-19	3071	I-24
2016	C-19	2056	I-20	2101	M-22	2148	M-24	2191	J-23	3032	F-18	3072	L-14
	D-17	2057	I-20	2102	F-6	2149	L-14	2192	J-13	3033	H-19	3073	J-15
	D-18	2058	J-17	2103	D-11	2150	I-7	2193	L-12	3034	H-19	3074	G-19
2017	F-21	2059	H-15	2104	E-19	2151	C-11	2194	H-12	3035	G-19	3075	D-17
2018	C-19	2060	L-22	2105	F-17		D-11	2195	J-25		H-19	3076	F-17
	D-14	2061	H-19	2106	O-21	2152	F-11	2196	K-25	3036	L-23	3077	K-24
2019	I-6	2062	J-13	2107	O-21	2153	E-19	2197	I-24		M-23	3078	H-20
2020	I-6	2063	M-22	2108	H-16		M-23	2198	N-13	3037	M-22	3079	I-25
2021	I-6	2064	F-11	2109	M-22	2154	F-19	2199	M-19	3038	M-23	3080	F-20
2022	I-6	2065	L-20	2110	E-18	2155	E-19	2200	D-5	3039	M-23	3081	I-13
2023	I-6	2066	F-12	2111	F-18	2156	L-23	2201	C-12	3040	I-18	3082	E-18
	J-6	2067	K-23	2112	E-18	2157	I-14	2202	N-22	3041	I-18	3083	K-19
2024	J-6	2068	19住居	2113	F-19		J-16				J-17	3084	J-12
2025	I-6	2069	E-8	2114	L-24		J-18	3001	N-20	3042	I-17		J-13
2026	I-6		F-8	2115	E-18	2158	H-21	3002	M-20	3043	H-18		K-12
2027	I-6	2070	M-23	2116	M-21		I-20	3003	O-20	3044	I-17	3085	I-25
2028	J-6	2071	H-18	2117	L-12	2159	K-16	3004	M-21	3045	I-17	3086	J-15
2029	K-13		J-23	2118	F-22	2160	F-12	3005	N-20		I-18	3087	K-24
2030	H-7	2072	C-14	2119	N-19	2161	I-15	3006	M-21	3046	I-18	3088	H-25
2031	D-5	2073	E-16	2120	C-19	2162	L-23	3007	N-20	3047	I-22	3089	G-13
2032	F-4	2074	N-18	2121	D-14	2163	L-23	3008	N-20	3048	K-22	3090	C-18
2033	G-12	2075	J-22	2122	E-16	2164	J-20	3009	N-20	3049	F-7	3091	F-6
2034	L-23	2076	K-13	2123	K-6	2165	D-19		O-20		G-7	3092	F-4
2035	I-6	2077	M-23	2124	M-23	2166	F-21	3010	N-20		K-12	3093	H-20
2036	J-12	2078	M-24	2125	N-14	2167	N-20	3011	D-19		L-12	3094	E-17
2037	E-4	2079	F-12	2126	I-13	2168	C-18	3012	D-18		M-12	3095	M-22
2038	H-15	2080	M-21	2127	M-23	2169	E-19		D-19	3050	K-18	3096	M-23
	I-16	2081	I-12	2128	M-24	2170	L-13	3013	D-18	3051	I-10	3097	J-16
2039	H-21	2082	J-25	2129	I-6	2171	F-11		D-19	3052	J-17	3098	E-13
2040	K-13	2083	I-13	2130	I-5	2172	H-11	3014	E-19	3053	I-13	3099	F-19
2041	F-5	2084	H-11	2131	I-24	2173	H-13	3015	E-19	3054	K-14	3100	I-15
2042	J-25	2085	I-6	2132	O-19	2174	G-12	3016	C-19	3055	H-15	3101	I-16
2043	E-3	2086	28住居	2133	M-20	2175	D-11	3017	F-18	3056	H-16	3102	I-15
2044	J-12	2087	4住居	2134	O-20	2176	E-19	3018	C-19	3057	E-6	3103	L-13
	J-13	2088	J-15	2135	N-22	2177	N-24	3019	D-18	3058	E-18	3104	I-16
2045	I-13	2089	J-15	2136	D-19	2178	H-13	3020	C-19	3059	4炉穴	3105	J-24
	J-13	2090	J-13		E-20	2179	I-16		D-19	3060	J-13		N-24

第86表　土器出土区一覧表 ②

3106	E-20		J-13	3188	E-17	3235	I-13	3267	L-22	3313	G-16	3356	C-18
3107	K-13	3150	E-12	3189	N-13	3236	G-13	3268	L-22	3314	M-19	3357	J-16
3108	J-14		K-14	3190	N-23	3237	L-14	3269	J-12	3315	C-18	3358	L-12
3109	J-18	3151	F-12	3191	H-12	3238	I-13	3270	M-21	3316	L-19	3359	O-23
3110	H-24		G-12	3192	D-19		J-13	3271	I-25	3317	F-19	3360	L-23
	I-23	3152	D-15	3193	H-13	3239	E-19	3272	D-18	3318	K-14	3361	M-23
3111	E-17	3153	E-12	3194	H-24	3240	K-13	3273	J-13	3319	D-10	3362	J-14
3112	J-18	3154	B-11	3195	J-25	3241	M-23	3274	E-19	3320	L-23	3363	D-13
3113	H-11	3155	E-6	3196	G-16	3242	E-19	3275	M-14	3321	N-25	3364	D-13
3114	D-8	3156	H-11	3197	J-13		F-19	3276	J-13		O-24	3365	N-23
3115	D-6	3157	C-19	3198	19住居	3243	N-24	3277	J-22	3322	E-19	3366	N-22
3116	E-19	3158	M-23	3199	N-23	3244	F-20	3278	H-22	3323	D-18		N-23
3117	G-13	3159	J-7	3200	J-12	3245	I-4	3279	K-12	3324	I-16	3367	J-25
3118	L-12	3160	F-16	3201	I-14	3246	K-14	3280	I-13	3325	K-15	3368	D-18
3119	D-14	3161	H-16	3202	L-23	3247	F-20	3281	J-16	3326	K-13	3369	J-16
3120	G-18	3162	K-12	3203	E-17	3248	F-21	3282	H-12	3327	H-16	3370	C-14
3121	H-20	3163	F-19	3204	M-17	3249	H-12	3283	D-5	3328	K-13	3371	N-13
3122	K-13	3164	I-14	3205	N-24	3250	H-12	3284	E-19	3329	D-13	3372	D-12
3123	K-13	3165	F-11	3206	I-19		H-13	3285	I-15	3330	H-11		E-12
3124	D-17	3166	C-13	3207	L-23		I-12	3286	L-13	3331	J-15	3373	G-11
3125	J-15	3167	F-11	3208	L-23		I-13	3287	E-18	3332	I-12	3374	G-12
3126	C-13	3168	D-10	3209	N-23		J-12	3288	G-10	3333	K-13	3375	L-13
3127	E-16	3169	F-20	3210	J-25		J-13	3289	J-12	3334	J-13	3376	M-16
3128	L-12	3170	J-15	3211	K-25		K-13	3290	I-5	3335	D-12	3377	O-20
3129	F-18	3171	J-15	3212	G-18		L-13	3291	J-12	3336	K-14	3378	I-15
3130	M-21	3172	E-17	3213	L-23	3251	D-12	3292	E-19		L-13		I-16
3131	D-19	3173	D-13	3214	F-20		I-12	3293	J-6	3337	I-16	3379	I-6
	E-19	3174	F-7		I-18		I-13		J-12	3338	L-14	3380	L-12
3132	G-18	3175	E-10	3215	D-18		L-13	3294	L-12	3339	H-11	3381	I-16
3133	J-13	3176	D-10	3216	M-22		L-15	3295	L-13		I-12	3382	E-19
3134	O-14	3177	H-17	3217	M-14		M-14	3296	K-13	3340	J-12	3383	E-18
3135	G-18	3178	M-23	3218	C-17	3252	E-14	3297	I-13	3341	J-13	3384	K-22
3136	H-19	3179	N-14	3219	E-19		E-17	3298	K-13	3342	L-13	3385	I-12
3137	L-23	3180	K-14	3220	F-20	3253	I-15	3299	M-23		I-19		J-13
3138	I-16		G-12	3221	E-19	3254	E-6	3300	I-13	3343	J-13	3386	J-15
3139	F-12	3181	K-13	3222	L-13	3255	E-13	3301	J-13		K-13	3387	L-13
3140	E-12		N-13	3223	M-20	3256	E-14	3302	L-14	3344	K-15	3388	E-19
	H-16	3182	I-5	3224	J-26	3257	J-15	3303	I-5	3345	O-14		F-20
3141	E-12		I-6	3225	I-25	3258	E-16	3304	I-6	3346	K-13	3389	C-11
3142	E-13	3183	F-15	3226	G-13	3259	L-19	3305	K-15	3347	K-13	3390	K-13
3143	E-12		H-15	3227	I-6	3260	E-13	3306	E-12	3348	L-12	3391	K-12
	J-14		I-15	3228	I-6	3261	H-7	3307	J-15	3349	M-12	3392	N-22
3144	I-18		J-15	3229	E-6	3262	K-15	3308	M-23	3350	L-12	3393	D-10
3145	E-12	3184	H-16	3230	L-12	3263	H-15	3309	E-18	3351	N-13		F-20
3146	D-11		J-22	3231	G-13		I-15	3310	M-21	3352	M-14	3394	L-13
3147	E-13	3185	N-14	3232	M-14	3264	E-14	3311	M-18	3353	J-12	3395	M-22
3148	I-13	3186	L-22	3233	L-12	3265	J-12		N-24	3354	J-12	3396	F-19
3149	I-13	3187	K-25	3234	O-13	3266	J-12	3312	K-19	3355	I-17		N-22

第87表　土器出土区一覧表 ③

3397	I-12	4003	J-13		J-13	4061	J-12	4101	J-12		L-12	4182	F-20
3398	F-7	4004	E-16		K-12	4062	G-11	4102	K-13	4139	K-13	4183	I-7
3399	D-5		F-16		L-13	4063	L-12		L-12	4140	K-13		L-12
3400	F-7	4005	D-13	4029	J-15	4064	L-13	4103	E-11	4141	H-21		M-12
3401	H-11		E-13	4030	J-16	4065	K-13	4104	E-11		M-23		M-13
3402	E-14		E-17	4031	K-12	4066	F-18	4105	E-11	4142	J-25	4184	C-13
3403	C-12		K-12	4032	E-17	4067	E-11	4106	F-13	4143	H-10		J-12
3404	19住居	4006	I-6	4033	E-11	4068	G-18	4107	E-13	4144	D-11	4185	L-12
3405	I-6		J-13		G-12	4069	E-12	4108	K-13	4145	C-14	4186	K-12
3406	J-13	4007	E-17		I-12	4070	E-11	4109	L-13	4146	M-22		K-13
3407	G-17	4008	G-11		J-13	4071	H-11	4110	G-7	4147	F-11	4187	J-7
	H-16	4009	J-12		J-14	4072	J-11	4111	F-17	4148	J-18	4188	H-11
3408	D-5	4010	F-21		K-7	4073	K-12		I-11	4149	I-26	4189	D-9
3409	J-11	4011	C-13		K-13	4074	E-14		I-12	4150	D-19	4190	E-16
3410	E-11		D-6		L-13	4075	D-13	4112	I-11	4151	E-11	4191	I-7
3411	J-13		D-12	4034	J-12	4076	E-20	4113	J-12	4152	L-12	4192	M-12
3412	I-12		E-15	4035	K-15	4077	J-25	4114	M-14	4153	F-20	4193	J-12
3413	H-16		F-11	4036	C-14	4078	J-7	4115	J-11	4154	E-12		J-13
3414	K-24		F-12		C-15	4079	F-16		K-12	4155	K-23	4194	E-12
3415	J-15		I-14		E-14	4080	F-15		K-13	4156	I-12	4195	K-13
3416	K-13		J-14		H-11	4081	J-11	4116	F-7	4157	I-12	4196	I-13
	K-14		K-13		J-12	4082	C-16	4117	K-12	4158	J-16	4197	H-11
3417	H-12		L-13		J-13	4083	L-12		L-13	4159	K-13		N-14
	J-13		M-14		K-14		L-13	4118	J-11	4160	K-12	4198	D-12
3418	L-13	4012	D-18	4037	K-13	4084	K-13	4119	H-15	4161	E-19		E-12
3419	L-13	4013	F-19	4038	J-12		L-12		I-13	4162	K-13	4199	J-13
3420	M-13	4014	K-13	4039	G-18		M-13		J-16	4163	K-13	4200	I-16
3421	K-13	4015	H-16	4040	K-12	4085	L-13	4120	J-13	4164	H-13	4201	H-11
3422	J-12		K-12	4041	F-7	4086	G-15	4121	K-13		J-17	4202	J-13
3423	I-26	4016	J-13	4042	J-12		G-16	4122	F-7	4165	L-13	4203	K-12
3424	L-12	4017	C-11	4043	L-12		L-12	4123	I-12	4166	I-13	4204	K-12
3425	G-18		C-12	4044	M-14		M-12	4124	K-18	4167	F-6	4205	J-12
3426	E-18	4018	E-16	4045	K-12	4087	L-12	4125	G-7	4168	M-22	4206	N-23
	N-22	4019	D-11	4046	N-13		L-13	4126	I-11	4169	M-14	4207	L-12
3427	E-12		E-12	4047	J-13	4088	L-12		J-13		N-14	4208	G-19
3428	E-20		J-12	4048	J-12		L-14	4127	I-12	4170	E-6	4209	H-11
3429	F-19		L-12	4049	C-18	4089	J-12	4128	I-12		H-13	4210	J-11
3430	K-18		M-12	4050	H-12	4090	L-12	4129	J-13	4171	J-12	4211	J-13
3431	J-18	4020	L-12	4051	H-15	4091	N-16	4130	G-12	4172	I-9	4212	I-11
3432	I-15	4021	D-18	4052	J-14	4092	J-12	4131	K-12	4173	I-12		I-12
		4022	I-17	4053	F-19	4093	K-14	4132	I-18	4174	E-5	4213	D-17
4001	I-14	4023	M-23	4054	K-12	4094	H-22	4133	H-12	4175	J-14		I-17
	J-12	4024	J-15	4055	K-12	4095	J-11	4134	E-13	4176	J-25	4214	J-13
	J-13		K-12	4056	D-7	4096	L-13		E-14	4177	J-13	4215	H-11
	J-16	4025	L-11	4057	I-12	4097	G-15	4135	I-14	4178	H-20		I-11
	K-14	4026	E-19	4058	I-13	4098	H-7	4136	J-13	4179	J-25		L-13
	L-13	4027	N-13	4059	J-13	4099	F-20	4137	K-12	4180	K-18	4216	H-10
4002	I-23	4028	J-12	4060	D-13	4100	G-14	4138	K-13	4181	K-13		H-11

第88表　土器出土区一覧表 ④

	I-11	4253	C-18	4286	M-24	4330	D-14		J-12	4409	J-12	4451	L-13
	I-12	4254	E-12	4287	I-12	4331	D-15		K-13	4410	I-17	4452	J-23
4217	J-12		F-12	4288	H-25	4332	I-13	4372	H-8	4411	I-19	4453	L-25
4218	F-16	4255	J-13	4289	C-17		J-15	4373	H-13	4412	D-15	4454	L-24
	I-12		K-13	4290	L-13	4333	L-13	4374	C-14	4413	E-13		M-24
4219	L-12	4256	C-13	4291	I-25	4334	F-17	4375	J-13	4414	C-16	4455	D-10
4220	H-12	4257	E-12	4292	I-12	4335	J-5	4376	D-13	4415	C-11	4456	E-17
4221	G-13		F-11	4293	J-15	4336	I-16	4377	J-12	4416	C-14	4457	E-18
4222	J-7	4258	D-12	4294	J-15	4337	I-12	4378	H-16		D-17	4458	K-15
4223	E-11		E-12		L-13	4338	K-13	4379	J-12	4417	E-12	4459	F-16
	E-12	4259	G-16		N-15	4339	M-13		K-12	4418	L-14	4460	F-16
	F-11		I-16	4295	L-13	4340	I-16	4380	C-14	4419	C-15	4461	K-12
4224	I-15		K-12	4296	L-13	4341	F-16		E-14	4420	K-12	4462	I-12
	I-16	4260	D-14	4297	K-15	4342	H-10	4381	I-12	4421	E-19	4463	K-12
4225	E-15		F-19	4298	E-18	4343	J-13	4382	G-18	4422	K-13	4464	F-12
	F-15	4261	E-12	4299	I-7	4344	I-16	4383	E-16	4423	G-8	4465	K-12
	G-15	4262	E-12		J-7	4345	F-17		F-12	4424	H-12	4466	K-12
4226	I-13		G-13	4300	L-14	4346	H-19	4384	J-12	4425	I-6		K-13
4227	I-8	4263	D-13	4301	F-15	4347	J-13	4385	I-12		I-7	4467	J-12
4228	K-13	4264	E-12	4302	K-12	4348	F-18	4386	C-18	4426	I-14	4468	I-6
	L-13	4265	I-13	4303	K-14	4349	D-18		E-17	4427	I-15	4469	K-12
4229	J-12	4266	D-13	4304	J-12	4350	L-13	4387	N-14	4428	J-11	5001	L-13
4230	J-12	4267	I-12	4305	J-14	4351	I-7	4388	I-15		K-12	5002	J-13
4231	J-13	4268	D-18	4306	G-17	4352	H-17	4389	M-21	4429	F-6	5003	I-12
4232	J-13	4269	J-15	4307	D-10	4353	K-13	4390	C-17	4430	I-15		I-13
	K-13	4270	J-15	4308	H-20	4354	L-13	4391	J-16	4431	K-12		I-16
4233	G-8	4271	F-18	4309	I-12	4355	D-11	4392	O-20	4432	I-15		J-12
4234	K-13		J-17	4310	C-11	4356	J-13	4393	M-23	4433	L-13		K-13
4235	F-8		L-13	4311	I-12	4357	L-13	4394	G-17	4434	I-7		O-13
4236	C-11	4272	I-12	4312	J-12	4358	M-14	4395	K-13	4435	G-17	5004	I-14
	D-15		I-13	4313	D-17		N-13	4396	J-14	4436	I-23		J-14
4237	E-11	4273	L-12	4314	F-18	4359	C-17		J-15	4437	C-13	5005	N-13
4238	C-10	4274	C-18	4315	H-7		D-18	4397	G-12	4438	H-11	5006	C-14
4239	E-17	4275	L-14	4316	D-15	4360	D-17	4398	M-22	4439	J-14	5007	J-12
4240	D-11	4276	I-12	4317	I-13	4361	I-17	4399	K-26	4440	K-12	5008	L-13
4241	L-13		L-13	4318	J-14	4362	E-6		L-23	4441	E-18	5009	J-12
4242	G-11		L-14	4319	H-12	4363	J-12		M-23	4442	E-11	5010	I-12
4243	F-20		N-14	4320	G-8	4364	M-22		M-24		F-11		L-13
4244	C-17	4277	J-11	4321	H-12	4365	E-12	4400	J-25	4443	I-13	5011	C-16
4245	I-12		K-13	4322	H-7	4366	K-17	4401	19住居	4444	L-13	5012	C-16
4246	G-16	4278	J-12	4323	I-12	4367	J-12	4402	F-12	4445	K-23	5013	C-16
	G-20	4279	J-14		I-13	4368	I-24	4403	M-22	4446	G-20	5014	C-16
4247	F-11	4280	J-11	4324	I-12		J-25	4404	G-11		H-20		D-16
4248	D-13	4281	H-12	4325	J-17		K-25	4405	J-12		J-20		H-16
4249	C-12	4282	D-13	4326	F-15	4369	E-12	4406	G-12	4447	L-12		J-16
4250	L-13	4283	J-12	4327	H-8	4370	I-12	4407	J-16	4448	F-16	5015	C-15
4251	J-15	4284	L-13	4328	J-12	4371	I-11	4408	H-7	4449	K-13	5016	G-16
4252	E-12	4285	I-14	4329	D-19		I-12		I-7	4450	C-13	5017	J-23

第89表　土器出土区一覧表 ⑤

	K-23	5062	H-7	6004	I-13	6047	E-17	6085	K-13	7040	F-20
5018	C-16	5063	K-12		K-13		I-13	6086	F-14	7041	H-19
	I-16	5064	L-23	6005	I-17	6048	M-23	6087	C-4	7042	I-15
5019	C-16	5065	H-7	6006	L-15	6049	E-19	6088	I-12	7043	j-25
5020	D-17	5066	J-12	6007	D-12	6050	K-18	6089	N-21		
5021	M-22	5067	J-14	6008	J-16	6051	E-19			8001	E-17
5022	D-16	5068	J-25	6009	C-17	6052	I-5	7001	M-22	8002	C-17
5023	H-14	5069	C-19	6010	J-12		I-6	7002	J-23	8003	D-18
5024	C-16	5070	K-15	6011	K-12	6053	K-12	7003	M-19	8004	D-19
5025	C-16	5071	F-21	6012	J-12	6054	I-6	7004	E-12	8005	D-18
5026	C-16		J-15	6013	I-12	6055	I-13	7005	I-21	8006	C-17
5027	E-17	5072	G-20	6014	M-20	6056	J-15	7006	L-12		C-18
5028	K-12	5073	J-14	6015	19住居	6057	J-5	7007	N-21	8007	D-18
5029	E-19	5074	E-19	6016	E-11	6058	K-6	7008	M-21	8008	C-17
5030	M-12	5075	F-20	6017	F-6	6059	J-13	7009	C-18	8009	J-17
5031	K-12	5076	K-13	6018	G-13		K-22	7010	I-6		J-18
5032	J-15	5077	K-13	6019	M-23		L-13	7011	C-18	8010	N-22
5033	M-23		L-12	6020	M-22		M-13	7012	D-18	8011	N-22
5034	K-12	5078	D-13	6021	M-21		M-23	7013	J-13	8012	N-21
5035	M-17	5079	K-13	6022	M-22	6060	I-16	7014	H-11		O-21
5036	F-19	5080	L-13	6023	J-22		J-17	7015	N-22		O-22
5037	I-12	5081	C-15	6024	L-13	6061	E-19	7016	I-13	8013	N-21
5038	J-16	5082	E-20	6025	I-16		J-16	7017	N-20	8014	N-22
	L-12	5083	E-20	6026	M-21	6062	I-11	7018	E-6	8015	O-25
5039	E-12	5084	E-20	6027	I-24		J-15	7019	I-6	8016	I-4
5040	G-20	5085	G-17	6028	I-12	6063	M-22	7020	I-11		
5041	20住居		M-23	6029	E-20	6064	E-20	7021	K-14		
5042	G-14	5086	E-19		K-24	6065	J-25	7022	M-13		
5043	N-20		E-20		L-22		N-22	7023	F-15		
5044	E-11	5087	E-19		M-23	6066	F-18		J-12		
5045	L-12	5088	E-20	6030	M-23	6067	K-14		K-15		
5046	L-23	5089	L-12	6031	L-13	6068	J-26		L-14		
5047	N-24	5090	E-19	6032	J-14	6069	C-18	7024	N-23		
5048	L-23		F-19	6033	H-20	6070	D-17	7025	F-17		
5049	C-10	5091	E-20	6034	E-20	6071	G-20	7026	I-12		
5050	E-5	5092	E-18	6035	D-13	6072	H-20	7027	E-13		
5051	D-6	5093	E-20	6036	D-12	6073	H-21	7028	E-19		
5052	F-6	5094	J-25	6037	L-13	6074	L-23	7029	O-24		
5053	C-18	5095	L-12	6038	D-12	6075	K-24	7030	K-24		
5054	M-22	5096	E-20	6039	C-13	6076	H-21	7031	C-11		
5055	M-23	5097	D-10	6040	C-14	6077	L-25	7032	J-19		
5056	M-23		D-11	6041	F-18	6078	H-16	7033	D-15		
5057	J-12			6042	I-16	6079	H-16	7034	D-6		
5058	I-7	6001	L-13	6043	L-13	6080	E-18	7035	H-11		
5059	I-4		M-23	6044	G-17	6081	K-13	7036	N-21		
	J-4	6002	I-17	6045	C-17	6082	H-11	7037	F-6		
5060	I-14		L-13	6046	E-18	6083	G-8	7038	C-17		
5061	H-7	6003	K-12		G-15	6084	E-19	7039	G-19		

第90表　土器出土区一覧表 ⑥

第Ⅲ章　遺　構

本調査によって得た遺構は総数118基である。その内訳は以下のとうりである。

1．竪穴住居跡　28基　　2．炉穴跡　60基　　3．集石土坑跡　13基

4．集石跡　5基　　5．土坑跡　12基

他に風倒木痕等と称される性格不明の大坑を10ケ所以上にみる。
註1

第1節　竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡（第182図，図版第264）

位置　H－11グリッドに，第2号竪穴住居跡を床面南辺に重複して検出される。第2号竪穴住居跡より古い。標高156.0m付近にあたり，C地区テラス状の平坦面が南東方向へ急激に標高を減じて中央凹地帯へ没する斜面上である。

構造　平面プランの5分の1程を第2号竪穴住居跡によって削取されるため明確でない。残存する西壁から隅丸長方形が予想される。長軸方位は等高線に平行することが一般であり，N－26°－E，規模は略330×――cmが推測される。壁高は西壁で20cm程を測る。

柱穴状ピットが4坑確認される。うち2坑は西壁外に接するように，さらに1坑は南壁上に，残る1坑が床面南西隅に位置する。規模はいずれも径25～30cm程で，深さは前3坑が25～30cm，床面上の1坑が15cm程を測る。それを覆うように，また並んで，長辺30cm程の角礫が2個認められる。

遺物　磨石Ⅱ類b－2種（2429）が出土する。他に黒曜石片，頁岩片等が小量出土するが，特記すべき遺物の出土がない場合は『なし』とする。

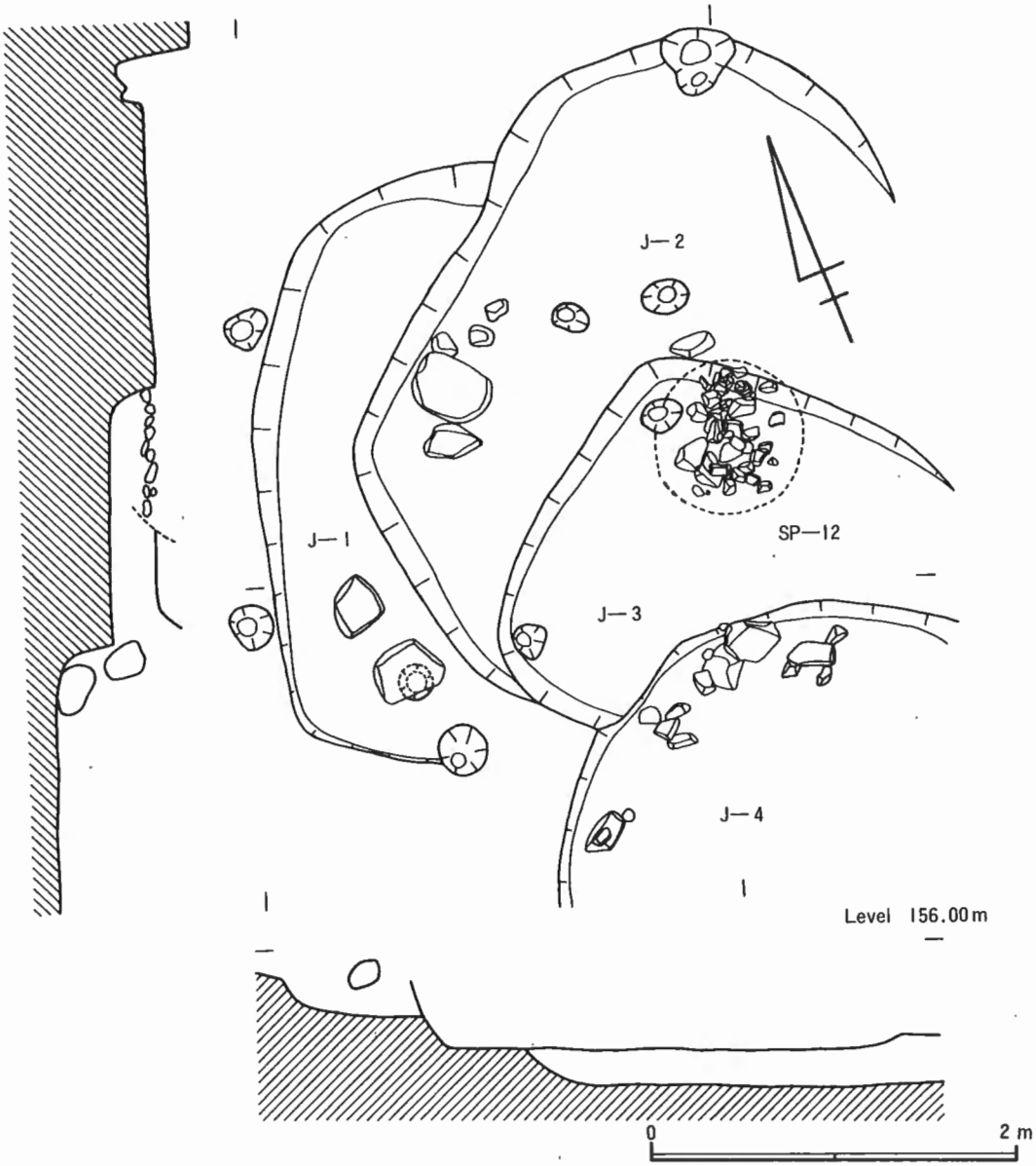
第2号竪穴住居跡（第182図，図版第264）

位置　H－11グリッドに，第1号竪穴住居跡を北西壁に，第3号竪穴住居跡を南西壁に重複して検出される。第1・3号竪穴住居跡より新しい。標高は床面上で156.5m程になる。占地条件は第1号竪穴住居跡と同様である。なお，床面中央には第12号集石土坑跡がもっとも新しく構築されている。

構造　形状は隅丸長方形を呈し，規模は365×240cm，床面積約8.8㎡を測る。長軸方位はN－49°－Eを示し，等高線に平行する。南壁の大部分は流出して，北壁で確認面より35cm程の深さとなる。床面は平坦に成形されるが南側が若干低くなる。

柱穴状ピットは3坑確認される。1坑は北壁上に位置して「8」字状となる。径40×35cm，深さは確認面より40cm，床面より15cm弱を測る。他2坑は床面上に位置して，径20～25cm，深さは12～15cmを測る。その位置，規模とも関心できない。

西壁沿いに大小5個の礫をみる。うち1個は石皿である。その規模は第4号竪穴住居跡に及ばないが，第1号竪穴住居跡とともに，斜面上部側に集石される特徴をみる。



第182図　第1・2・3号竪穴住居跡実測図

遺物　石皿Ⅰ類a種（2186）が出土する。

第3号竪穴住居跡（第182図，図版第264）

位置　H－11グリッド中央に，第2号竪穴住居跡を北西壁に第4号竪穴住居跡を南西壁に重複して検出される。第2・4号竪穴住居跡より古い。標高は155.5m付近にあたり，占地条件は第1・2号竪穴住居跡と同様である。なお，本住居跡埋没後，北西隅に第12号集石土坑跡が構築される。これは竪穴住居跡埋土内に位置したこともあって，土坑部分が明確に把握されなかったが，集石状況が他の集石土坑跡に類することから認めている。

構造　平面プランの3分の1程を第4号竪穴住居跡に削取される。形状は隅丸方形を呈し，規模は220×210㎝，床面積約4.6㎡が推測される。長軸方位はN－51°－Eを示す。壁高は西壁で25㎝程を測る。南壁は大半が流出して不明である。床面は若干南側へ低くなるが良好である。

柱穴状ピットは西壁南北隅の壁に接するように2坑が確認される。径20～25㎝程で，深さは南側が20㎝程，北側が30㎝強を測って深い。

遺物　本竪穴住居跡か，第4号竪穴住居跡か判断されないが石鏃未製品(2176)と，石核(2751)が出土する。

第4号竪穴住居跡（第183図，図版第263）

位置　H・I－11グリッドにまたがって，第3号竪穴住居跡を北西壁に，第5号竪穴住居跡を南壁に重複して検出される。第3・5号竪穴住居跡より新しい。標高は155.0～155.5m付近にあたり，依然として占地条件は第1～3号竪穴住居跡と同様である。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は315×275㎝，床面積約8.7㎡を測る。長軸方位はN－51°－Eを示す。壁高は北西壁で55～60㎝，南東壁で20㎝程を測る。床面は平坦に成形され，薄い貼り床面が作られている。

本竪穴住居跡の顕著な特徴は斜面上部側にされる，調査時に『壁石』などと俗称した組石である。それは1辺が30㎝～10㎝前後を測る大小25個の角礫よりなり，構築当初の姿を止めるものではなくして，壁外に並列していたものが竪穴住居跡内に崩れ落ちた状況が予想される。

柱穴状ピットは東壁隅に1坑が「8」字状となって確認される。35×30㎝で，深さは15㎝程である。

遺物　石器は磨石I類a－1種（2234），敲石II類a種（2516）が出土する。

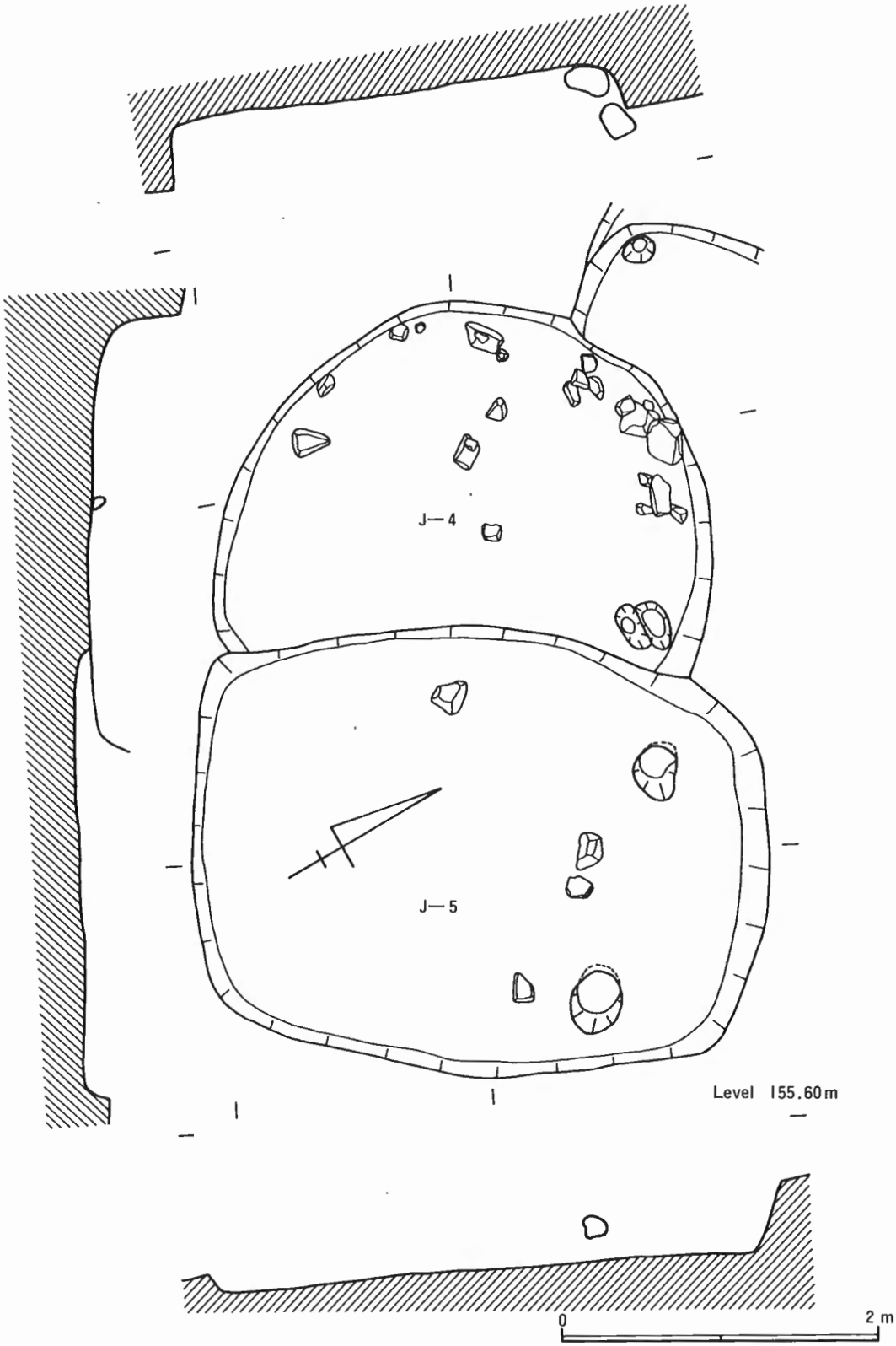
土器は総数26点をみる。組石内より撚糸文土器4点が出土する。J 0401は外反する口縁部破片で，Rの撚糸文が無文部を残して斜位に施文される。胴部で交叉するかもしれない。器厚9～10㎜。色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。J 0402はRの撚糸文が密接して施文され，色調は淡黄褐色を呈する。J 0403は条間隔の広い細い撚糸文が施文され，色調は暗褐色を呈する。

床面直上遺物は縄文土器6点，撚糸文土器4点が出土する。J 0408はLRの縄文が横位に施文される。胎土に微細な長石・石英・黒雲母粒が含有され，色調は黄褐色を呈する。J 0406・07・10はRの撚糸文が横位に施文される。胎土に繊維が含有される。J 0411・12は節の大きな縄文が施文される。色調は淡黄褐色を呈する。

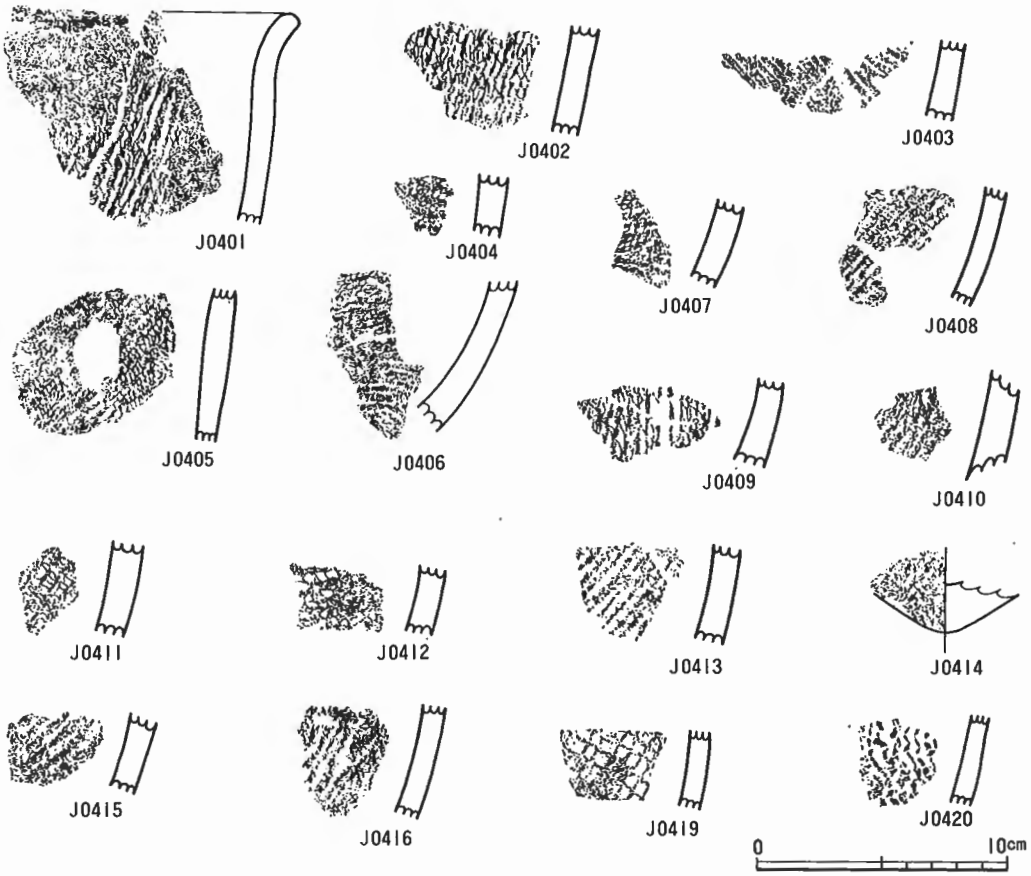
覆土内遺物は12点が検出される。J 0413・14は縄文土器の同一個体かと思われる。J 0415はRの撚糸文が斜位に施文され，胎土に繊維が含有され，色調は黄褐色を呈する。J 0419は格子目押型文土器。J 0420は山型押型文土器である。

第5号竪穴住居跡（第183図，図版第263）

位置　H・I－11・12グリッドにまたがって，第4号竪穴住居跡を西壁に重複して検出され



第183図　第4・5号竪穴住居跡実測図



第184図　竪穴住居跡内出土土器拓影図①

る。第4号竪穴住居跡より古い。標高154.5～155.0 m付近にあたり，斜面が除々に緩傾斜をはじめようとする部分である。東隣に壁を接するように第7号竪穴住居跡をみる

ここで重複する竪穴住居跡，集石土坑跡を整理すると，第12号集石土坑跡・第4号竪穴住居跡がもっとも新しい可能性をもつ。以下，第2号竪穴住居跡→第1・3・5号竪穴住居跡が予想される。位置関係から第1・5号竪穴住居跡の併存は可能であるが，他は不可能である。

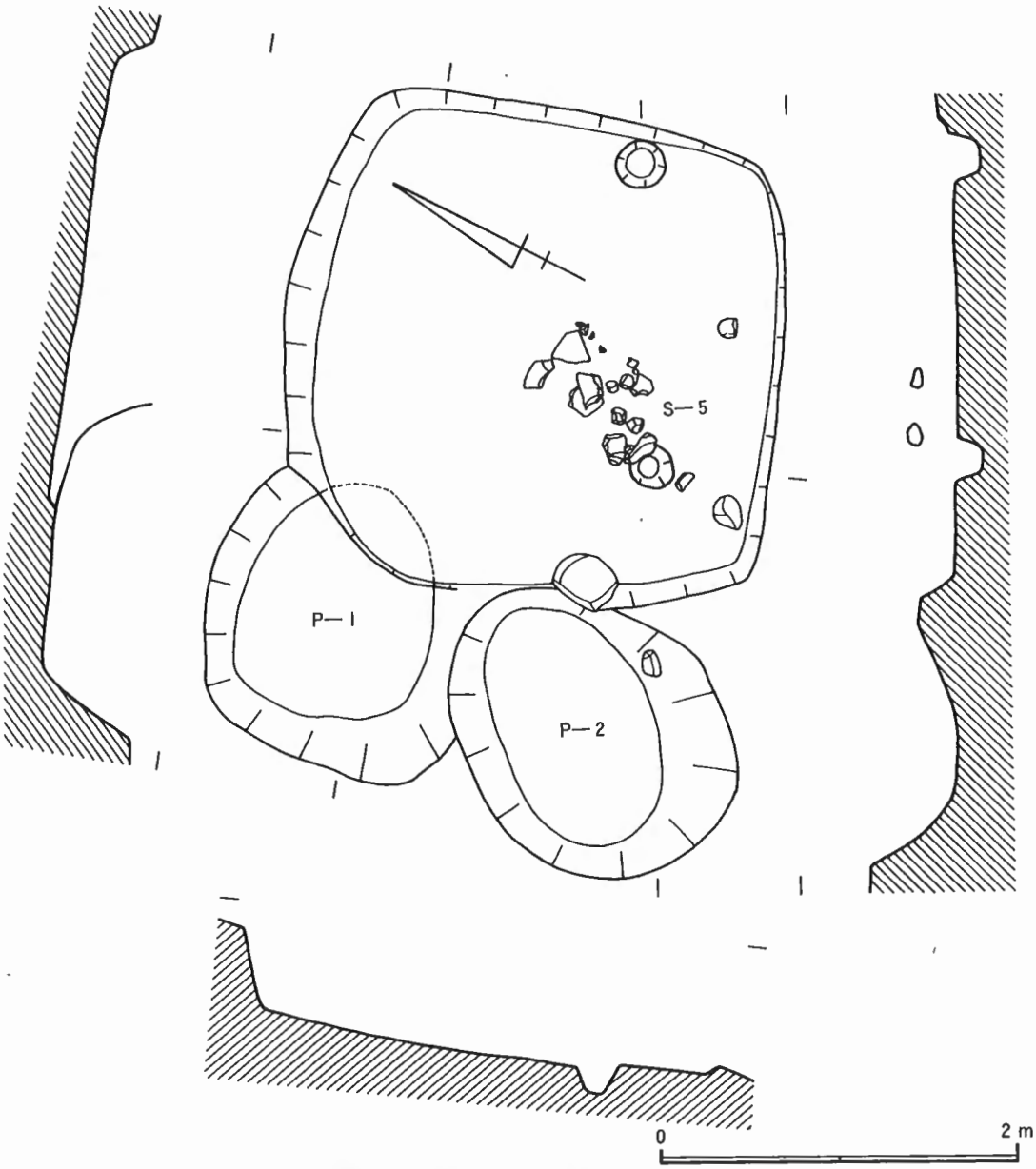
構造　形状は胴張り隅丸長方形を呈し，規模は365×280 cm，床面積約10.2 m²を測る。長軸方位はN－39°－Eを示す。壁高は北東壁で50 cm，南東壁で15 cm程を測る。床面は良好であるが，南西方向に若干低くなっていく。

柱穴状ピットは北東壁両隅に2坑が確認される。規模は径35～40 cmで，深さは北側が17 cm，南側が21 cmを測る。いずれも南側へ70度程傾いて掘られる。床面より浮いた状況で，1辺が10～20 cm程を測る角礫をみるが，本竪穴住居跡より，第4号竪穴住居跡の組石の連続の可能性が強い。

遺物　なし。

第6号竪穴住居跡（第185図，図版第265）

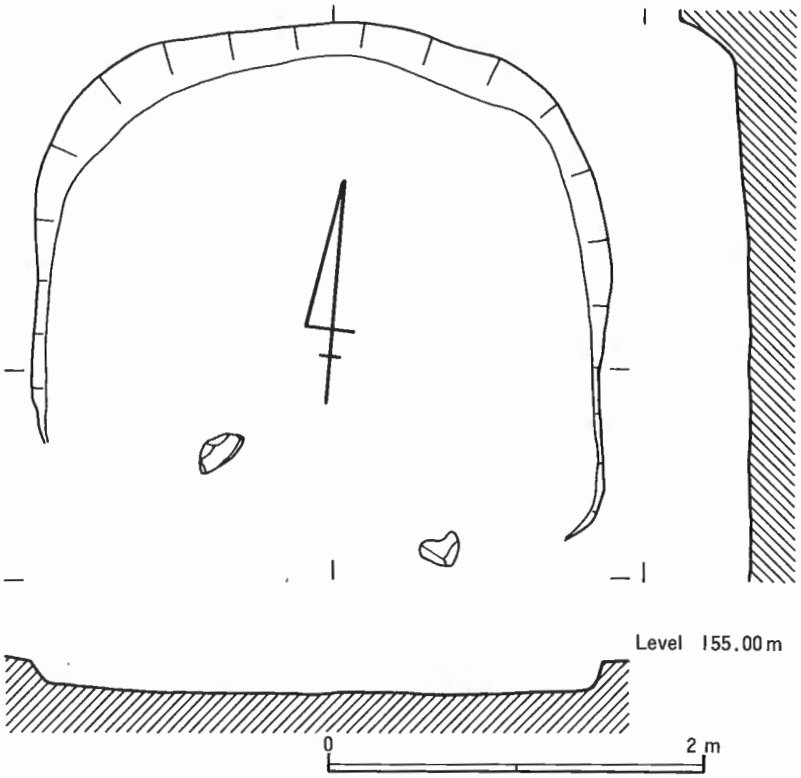
位置　J－12ポイントより西側にかけて，第1・2号土坑跡を西壁に，第5号集石跡を床面



第185図　第6号竪穴住居跡実測図

中央南寄りに重複して検出される。第1号土坑跡，第5号集石跡より古く，第2号土坑跡は不明である。標高154.5 m付近にあたり，依然として中央凹地帯へ没しようとする東面斜面上である。東北側に3 m程して第5号竪穴住居跡，北側に3 m程して第6号炉穴跡が存在する。第1～5号竪穴住居跡群から本竪穴住居跡辺にかけて，本遺跡中もっとも遺物の堆積巾が厚い。

構造　形状は隅丸方形を呈し，規模は280×275 cm，床面積約7.7 m²を測る。長軸方位はN－73°－Eを示し，等高線に平行する。斜面構築であるため，壁高は北壁で50 cm，南壁で5～10 cmを測る。床面は良好である。



第186図　第7号竪穴住居跡実測図

柱穴状ピットは南壁両隅に2坑が確認され，東側1坑は東壁に接している。規模は径20～25cm，深さは15cm程である。

遺物　石鏃未製品（2177）が出土する。

第7号竪穴住居跡（第186図，図版第265）

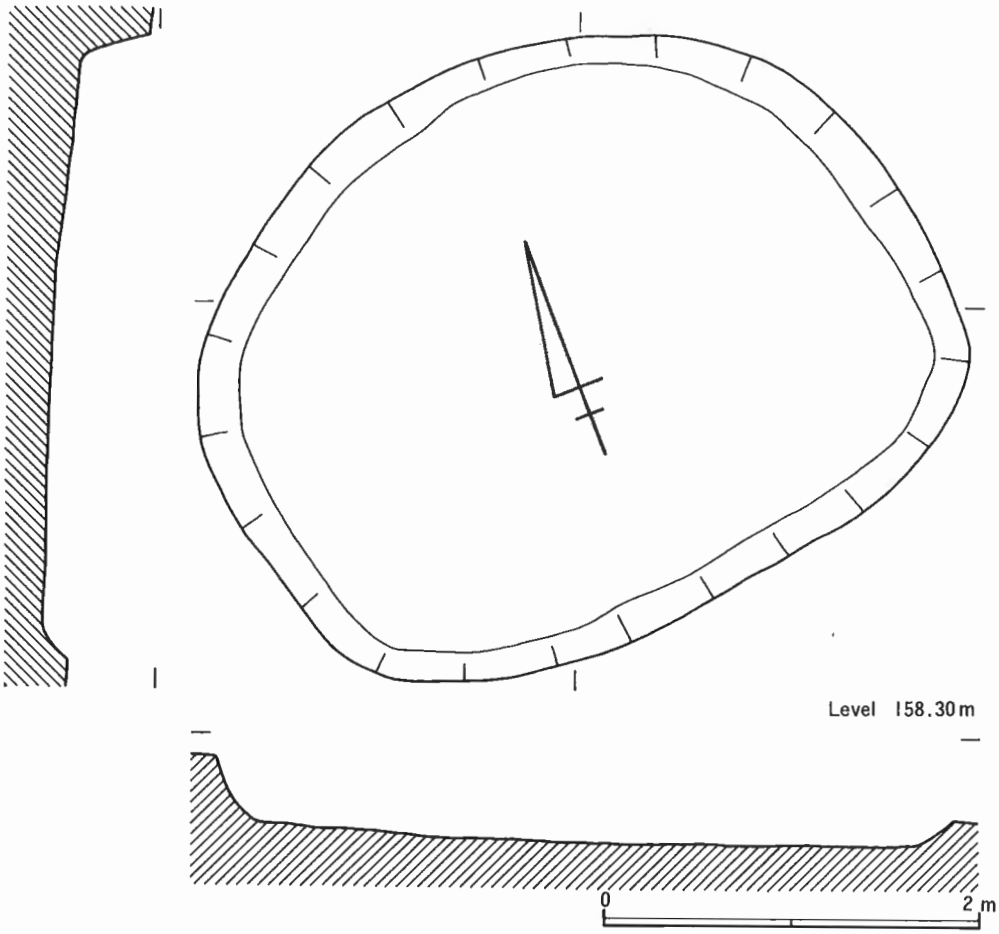
位置　H－12グリッド南辺に単独で検出される。西壁に接するように第5号竪穴住居跡が存在する。標高154.5m付近にあたり，斜面が徐々に緩傾斜となる箇所である。

構造　南壁を流失して明確さを欠くが，形状は胴張り隅丸方形，規模は305×290cm，床面積約8.8m²が推測される。長軸方位はN－86°－Eでほぼ東西にとって，等高線に平行する。壁高は北壁で30cmを測り，傾斜に応じて減しながら消失する。床面は平坦に成形され良好である。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　覆土上層内より縄文土器2点，撚糸文土器3点，格子目押型文土器1点の計6点の小破片が出土する。J 0701は器厚12mm。胎土に繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する撚糸文土器である。J 0702はRの撚糸文が施文され，色調は淡黄褐色を呈する。焼成良好。その他は図示できない。

第8号竪穴住居跡（第187図，図版第266）

位置　D－11ポイントより東側にかけて単独で検出される。標高158.0m付近にあたり，B



第187図　第8号竪穴住居跡実測図

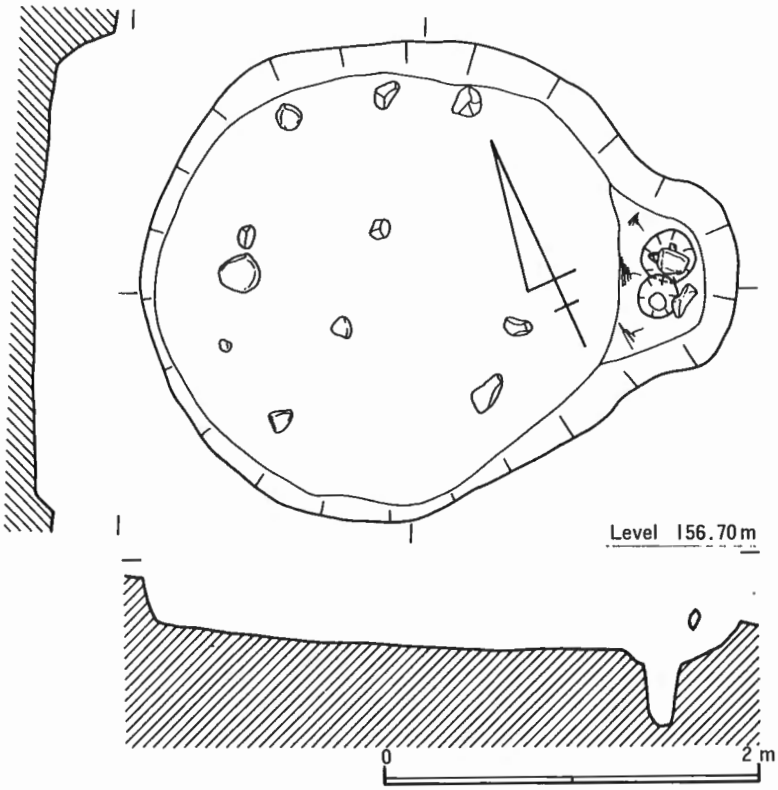
地区平坦面に下る斜面の中腹，第9～11号竪穴住居跡とともに構成するであろう竪穴住居跡群のもっとも高位に位置する。その占地条件は第1～5号竪穴住居跡群に類している。南西側に1m程して第3号土坑跡，さらには第10･11号竪穴住居跡が存在し，南東方向に下って開けるテラス状平坦面の炉穴群・土坑群には約7～10m程の距離をもつ。

構造　形状は南壁が若干角をもつ，楕円形を呈し，規模は390×305cm，床面積約11.9㎡を測る。本遺跡では大形の住居跡となる。長軸方位はN－80°－Eを示し，等高線に平行する。壁高は北壁で40cm，南壁で10cm程を測る。床面は良好である。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　床面直上より，文様の磨耗が激しい格子目押型文土器1点（J 0801）と，覆土中より，胎土に長石粒・石英粒・灰白色粒を含有する縄文土器1点（J 0802）が出土する。縄文土器は細長い節が密接した条の太いLRの縄文が施文され，色調は茶褐色を呈する。

第9号竪穴住居跡（第188図，図版第267）

位置　F－12ポイントより北東側にかけて単独で検出される。標高156.5m付近にあたり，南面する斜面がテラス状平坦面に変ろうとする箇所である。南側に1m程して第9号炉穴跡，



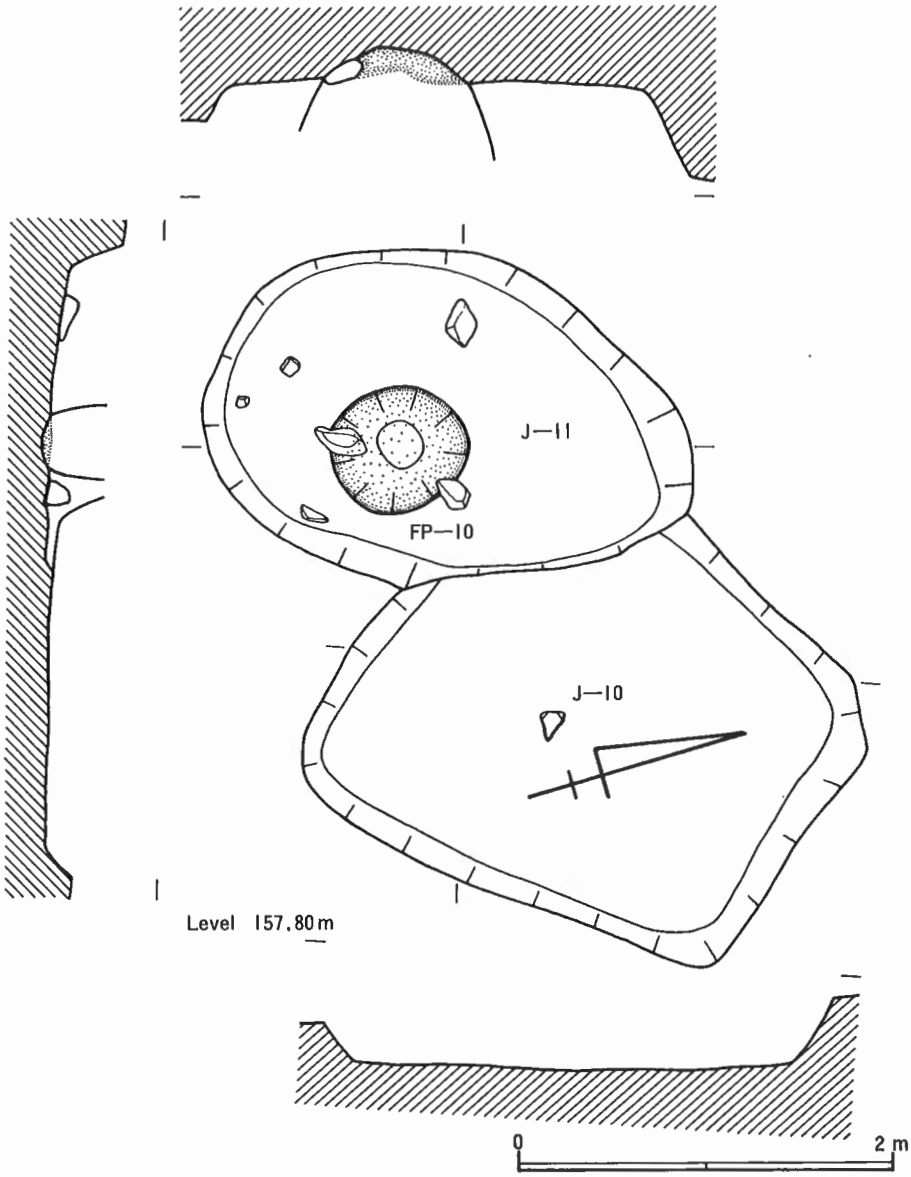
第188図 第9号竪穴住居跡実測図

5m程して第22号炉穴跡が存在する。他の炉穴跡群には10～15mの距離をもつ。

構造　形状は楕円形を呈する。東壁に張り出しをみるが，これは本竪穴住居跡に関連をもたない遺構の重複である可能性が強い。それは径100cm程，深さ20cm程の土坑状遺構で，底面からさらに径20～25cm，深さ20～30cm程の小ピットが2坑掘られる。それを1辺，5～20cm程を測る角礫4個が覆う状況で検出される。

本竪穴住居跡の規模は275×255cm，床面積約7m²を測る。長軸方位はN－85°－Eでほぼ東西にとって，等高線に平行する。壁高は北壁で30cm，南壁で10cm程を測る。床面は良好で，中央部が若干窪んで「皿」状となっている。柱穴状ピットは検出されない。床面より数cm程浮いた状況で一辺が5～20cm程を測る角礫が11個確認されるが，直接，本竪穴住居跡に影響をもつものではなかろう。

遺物　床面直上より格子目押型文土器1点と，撚糸文土器1点が出土する。格子目押型文土器（J 0901）は小形の格子目文が施文され，胎土に白色粒・黄褐色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。撚糸文土器（J 0902）は，覆土上層より検出されるJ 0903～07の同一個体と思われる撚糸文土器に類似する。開きぎみの胴部を呈し，口縁部は外反する。細いRの撚糸文が無文部を残して，斜位に施文され，尖頭状を呈する口唇部より内面にかけて，同一文様が横位に弱く施文される。胎土には淡黄褐色粒が多量に含有され，色調は明茶褐色を呈する。焼成良

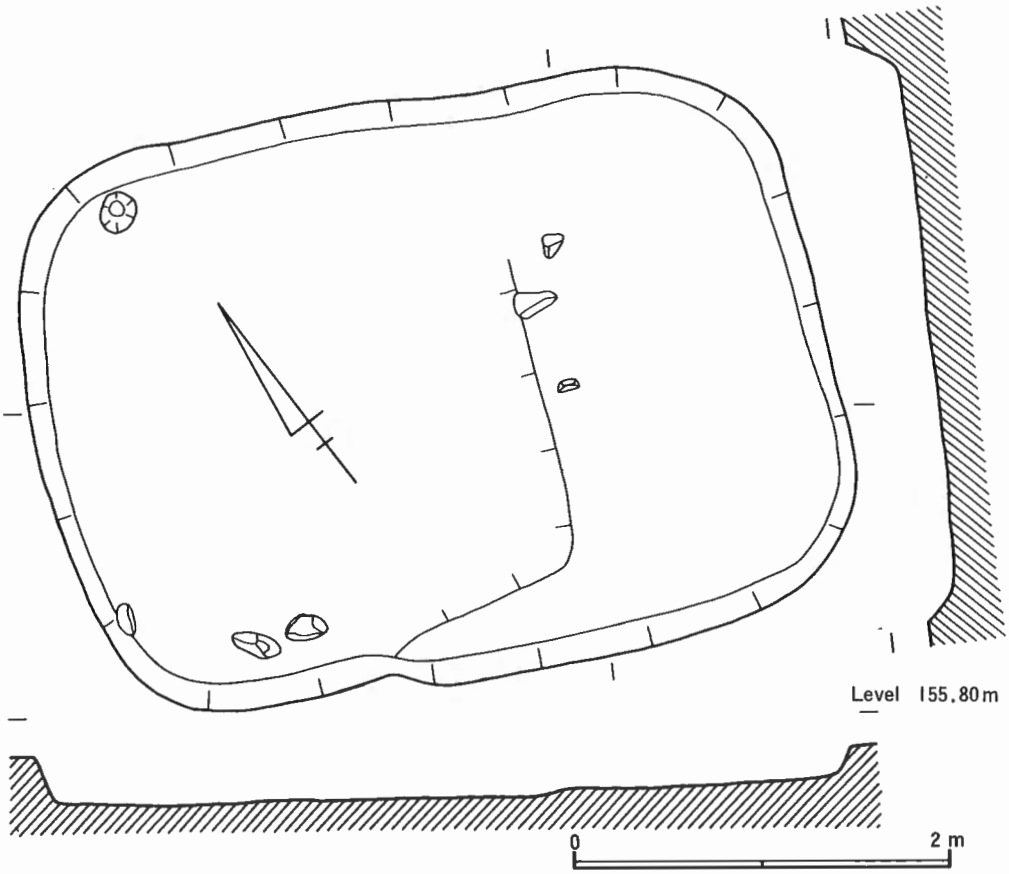


第189図　第10・11号竪穴住居跡実測図

好。J 0904の口縁部には外面より穿孔される補修孔が見られる。

第10号竪穴住居跡（第189図，図版第268）

位置　E－11ポイントより北東にかけて，第11号竪穴住居跡を北西隅に重複して検出される。第11号竪穴住居跡より新しい。標高は157.5～158.0m付近にあたり，第8・9号竪穴住居跡の中間に位置して，南面する斜面上にある。北側に1m程して第3号土坑跡，南西壁に接するように第10号炉穴跡が存在する。テラス状平坦面の炉穴群・土坑群にはやはり10～20m程の距離をもつ。



第190図　第12号竪穴住居跡実測図

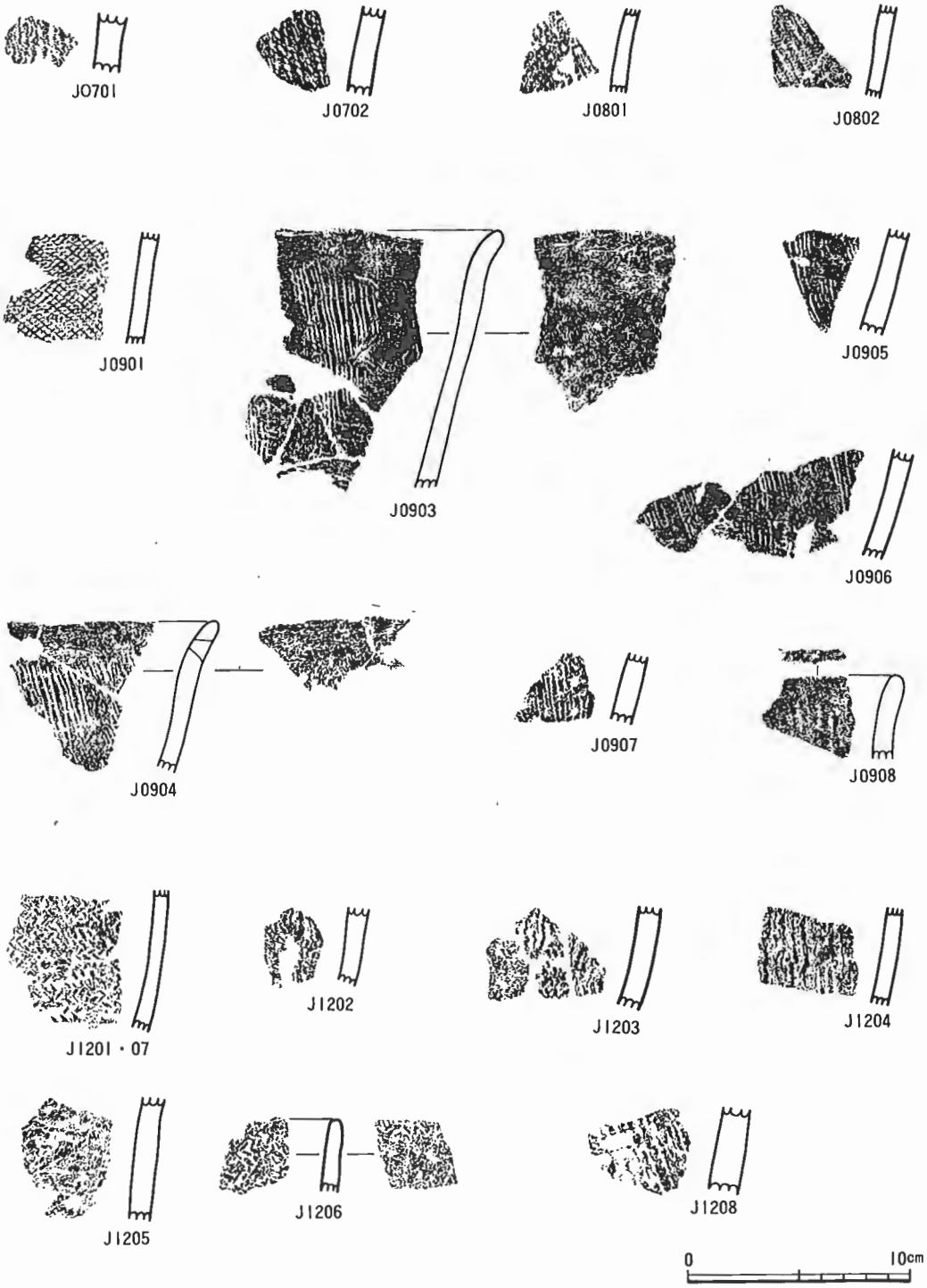
構造　形状は隅丸長方形を呈するが，比較的角張る。規模は260×215 cm，床面積約5.6 m²を測る。長軸方位はN－57°－Eを示し，等高線に平行する。壁高は北壁で35 cm，南壁で20 cm程を測り，比較的深く掘り込まれる。床面は若干の凸凹もあるが全体的には平坦で良好である。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　磨石II類a－3種（2402）が出土する。

第11号竪穴住居跡（第189図，図版第268）

位置　E－11ポイントより南西にかけて，第10号竪穴住居跡を北東隅に，第10号炉穴跡を床面中央に重複して検出される。第10号竪穴住居跡，第10号炉穴跡より古い。標高は157.5～158.0 m付近にあたり，第10号竪穴住居跡同様の占地条件をもつ。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は260×170 cm，床面積4.5 m²を測り，本遺跡においてもっとも小形に属する住居跡である。長軸方位はN－36°－Eを示し，等高線に平行する。壁高は北壁で45 cm，南壁で20 cm程を測り，もっとも深く掘り込まれる(残存する壁がたかい)。床面は中央部が若干窪んで「皿」状となり，さらに第10号炉穴跡によって約15 cm程掘り込まれる。柱穴状ピットは検出されない。床面上には1辺が5～20 cm程を測る角礫が6個認められ，うち



第191図　竪穴住居跡内出土土器拓影図②

2個は第10号炉穴跡によって火を受けている。

遺物　なし。

第12号竪穴住居跡（第190図，図版第268）

位置　D・E－18・19グリッドにまたがって単独で検出される。標高は155.5m付近にあたり，D地区と呼称した広域平坦面が北東側に除々に傾斜を始めようとする箇所である。本竪穴住居跡より南面する平坦面は比較的遺構に疎隔されており，南西側へ10m程して第7号集石土坑跡に達するにすぎない。北側には本竪穴住居跡と群をなすであろう第20号竪穴住居跡が2m程離れて存在し，それには第9号集石土坑跡が重複している。

構造　形状は隅丸長方形を呈し，規模は415×305cm，床面積約12.7m²を測る。本遺跡中もっとも大形の住居跡である。長軸方位はN－67°－Wを示し，やはり等高線に平行する。壁高は北壁で25cm，南壁で15～20cm程を測る。床面は良好であるが，中央に若干の段を有する。

これは本竪穴住居跡が調査区の関係上，半割づつ調査を受ける結果となり，先の調査で2住居跡の可能性をもって扱ったためである。したがって中央の段の確証はない。柱穴状ピットが北壁西隅に1坑確認される。径20cm，深さ28cmを測って深い。

遺物　石器は磨石Ⅰ類a－2種（2280）が出土する。

土器は覆土中より押型文土器7点と撚糸文土器1点が出土する。J 1201・06・07は同一個体と思われ，J 1201・07は接続する。原体径6.1mm。1周2単位半の小形の山形文が縦位に密接して施文され，口縁部内面にも横位に施文される。原体端はまっすぐに切断される。胎土に淡黄褐色粒が含有され，色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

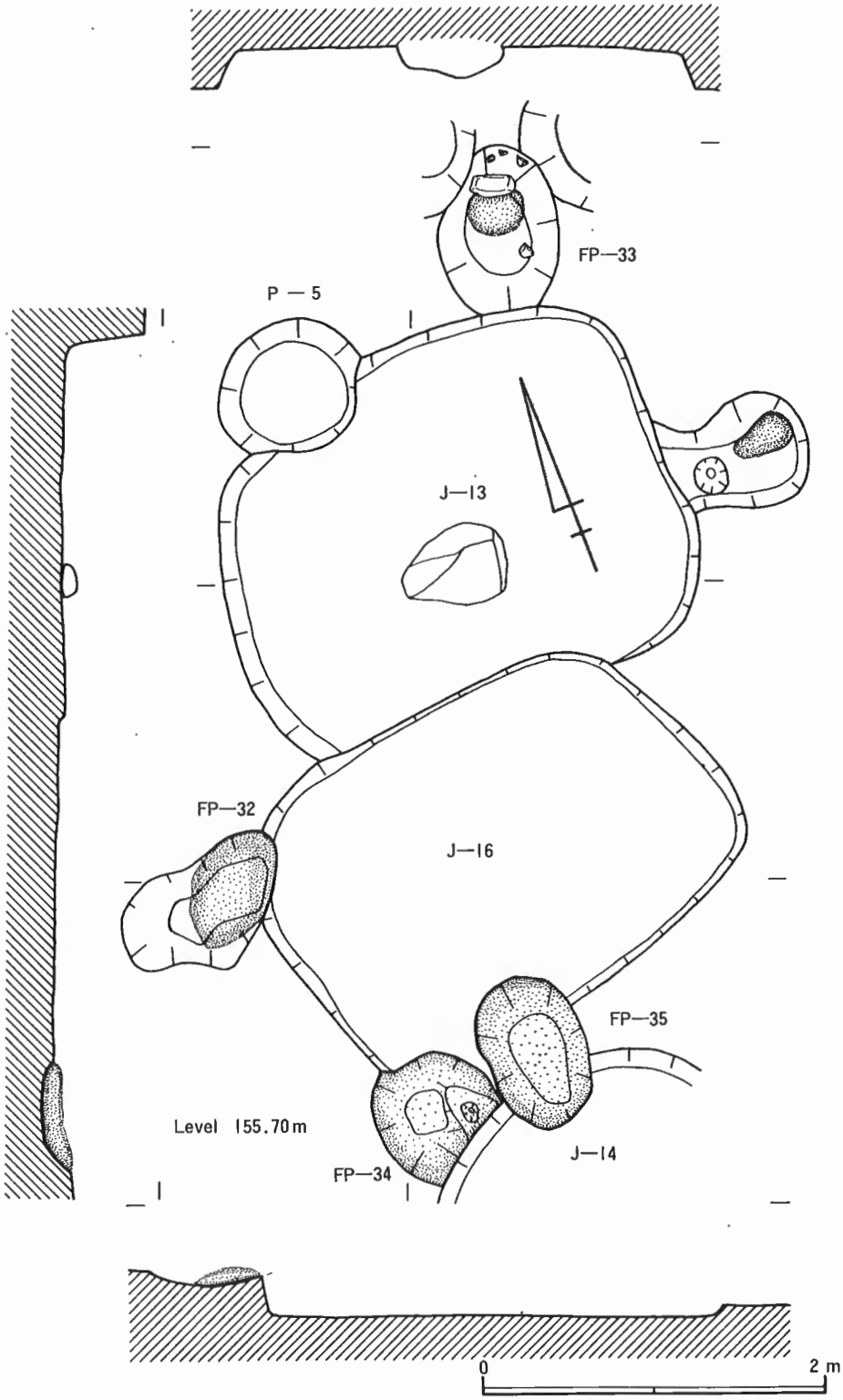
J 1202～04は山形文が崩れたような押型文が施文される。J 1205は丸味を持つ横位の山形文が施文される。

J 1208はRの細い撚糸文が施文される。器厚13mm。胎土に淡黄褐色砂粒と繊維が含有され，色調は明茶褐色を呈する。焼成良好。

第13号竪穴住居跡（第192図，図版第270）

位置　G－22ポイントより東側にかけて，第16号竪穴住居跡を南壁に，第33号炉穴跡を北壁中央に，第36号炉穴跡を東壁中央に，さらに第5号土坑跡を北壁西隅に重複して検出される。竪穴住居跡間の新旧関係は重複部分が僅かであることもあって不明である。第33号炉穴跡も同様である。第36号炉穴跡より新しく，第5号土坑跡より古い。標高は155.5m付近にあたり，D地区と呼称した広域平坦面を西面する竪穴住居跡・炉穴跡が群集する一画である。他の竪穴住居跡群が斜面構築を一般にする傾向にあるなか，比較的平坦面に占地される特徴をもつ。

構造　形状は若干胴張りの隅丸長方形を呈し，規模は270×225cm，床面積約6.1m²を測る。長軸方位はN－89°－Eで，ほぼ東西にとる。155.5mの等高線に平行するが，平坦にちかい占地条件であるため，それを意識するかは判断されない。本竪穴住居跡が存在する箇所は住宅分譲工事によってもっとも包含層を削取されており，したがって遺構もその上半部を失っている場合が多い。壁高は北壁で50cm，西壁南端で20cm程を測る。床面は比較的平坦で良好であるが，中央に60×50cm，高さ20cm程の巨礫が露出している。柱穴状ピットは検出されない。



第192図　第13・16号竪穴住居跡実測図

遺物　なし。

第14号竪穴住居跡（第193図，図版第270）

位置　G－21グリッドの南西隅に，第34･35号炉穴跡を北壁西隅に重複して検出される。第15号竪穴住居跡に重複するか否かは不明である。第16号竪穴住居跡は炉穴跡を仲介とするが実際の重複はない。第34号炉穴跡より新しく，第35号炉穴跡より古い。標高は155.0～155.5m付近にあたり，占地条件は同様で，前述竪穴住居跡・炉穴跡によって構成される遺構群の南端に位置する。それより南側へ4m程して第37号炉穴跡を，西側へ6m程して第3号集石土坑跡をみると，10m程南側へむかうF地区遺構群に達するまで，広く遺構に疎隔される。

構造　形状は南西壁が若干角張るが，全体形状は円形にちかい。規模は225×215cm，床面積約4.8m²を測る。長・短軸に極端な差をもたないため不明確であるが，一応，長軸方位を示すとN－7°－Wで，ほぼ南北にとって，D地区広域平坦面を西面することになる。壁高は東壁，西壁とも15cm程を測る。床面は良好で，若干中央が窪んで「皿」状となる。

柱穴状ピットが南西隅に1坑確認される。規模は25×15cm，楕円形で深さ20cm程を測る。

遺物　なし。

第15号竪穴住居跡（第193図，図版第271）

位置　G－22グリッド中央に，第16号竪穴住居跡を西壁に，第29･30号炉穴跡を南壁に重複して検出される。第16号竪穴住居跡より新しく，第29･30号炉穴跡より古い。なお，第14号竪穴住居跡，第35号炉穴跡も重複の可能性もあるが，これらは上半部を大きく削取されていて追求が不能である。標高は155.0～155.5m付近にあたり，占地条件は同様で，前述遺構群の中央東辺に位置する。

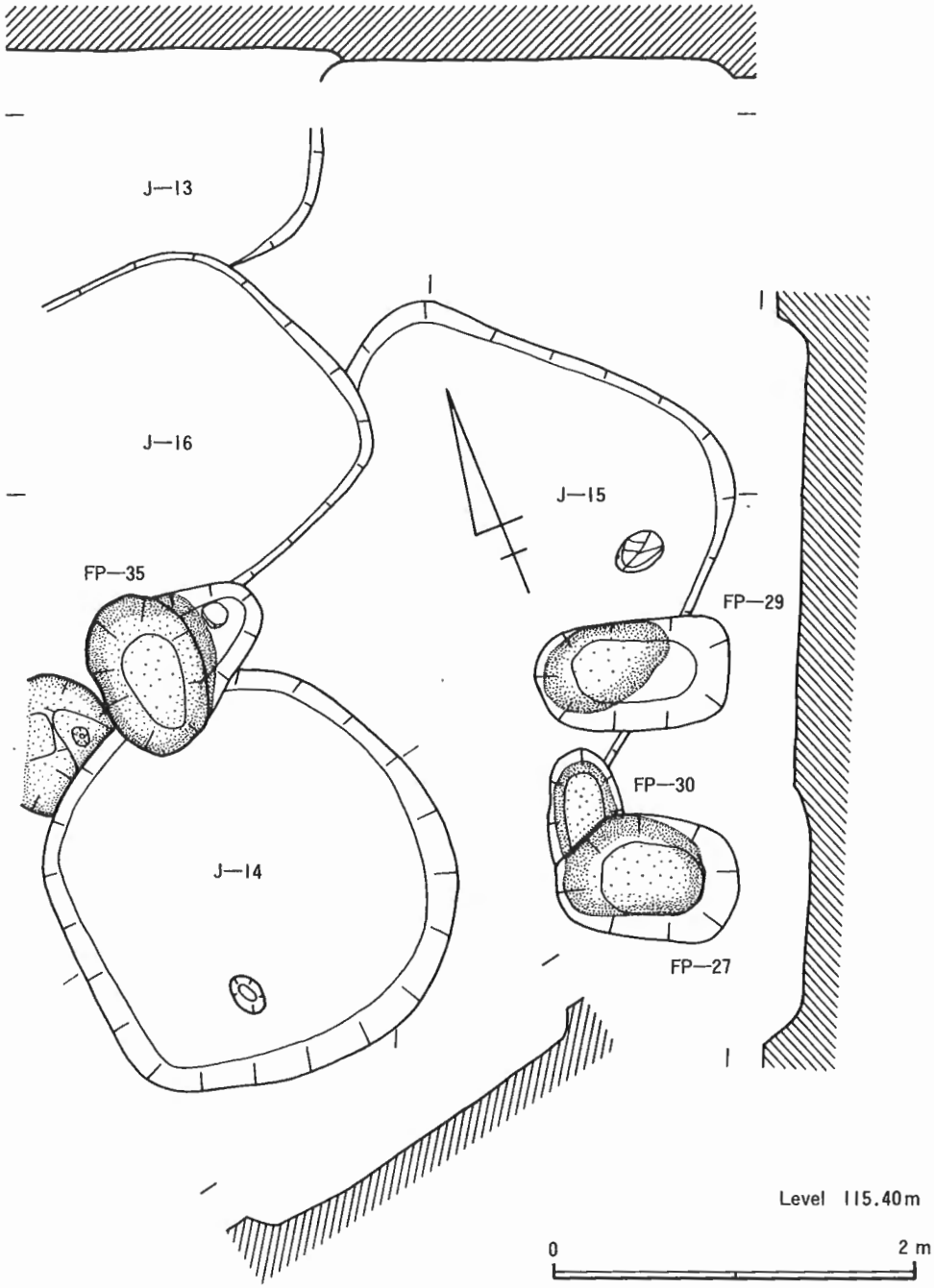
構造　南西壁を削取され明確でないが，形状は隅丸長方形を呈することが予想される。残存する南東壁，土層断面に観察される北西壁から，長軸方位N－48°－E，規模略250×230cm，床面積約5.8m²が推測される。壁高は北東壁で15cm程を測る。床面は良好である。東隅に一辺が25cm程を測る礫をみるが，本竪穴住居跡に直接関わりはない。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　磨石Ⅰ類a－2種（2280）が出土する。

第16号竪穴住居跡（第192図，図版第271）

位置　G－21･22グリッドにまたがって，第13号竪穴住居跡を北壁に第15号竪穴住居跡を南壁に，第32号炉穴跡を西壁北隅に，さらに第34・35号炉穴跡を南壁西隅に重複して検出される。第13号竪穴住居跡の新旧関係は判断されないでいる。第15号竪穴住居跡，第32・34・35号炉穴跡より古い。標高は155.0～155.5m付近にあたり，占地条件は同様で，前述遺構群の中央西辺に位置する。

ここに重複する竪穴住居跡群の新旧関係は第15号竪穴住居跡が本竪穴住居跡より新しく構築されることが確認されるだけで，他は全て不明である。位置関係から第13･14号竪穴住居跡の併存の可能性はある。



第193図　第14・15号竪穴住居跡実測図

構造　形状は隅丸長方形を呈し，規模は 260×190 cm，床面積約 4.9 m²を測る。長軸方位はN－78°－Eを示し，若干のズレはあるが第 13・15 号竪穴住居跡とともにほぼ南面する構造をとる。壁高は東・西壁とも 25 cm程を測る。床面は若干の凸凹はあるが良好である，柱穴状ピットは検出されない。

遺物　なし。

第17号竪穴住居跡（第194図，図版第272）

位置　J－23グリッド中央より南側へむけて，第18号竪穴住居跡を北西隅に，第41号炉穴跡を北東隅に重複して検出される。第18号竪穴住居跡より新しく，第41号炉穴跡より古い。標高154.0m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ除々に標高を減じて，新たな弱い谷地形を形成する箇所である。したがって前述第13～16号竪穴住居跡群とは10m以上離れて，占地条件を完全に違えた竪穴住居跡群となる。南壁に接して第44号炉穴，南東側へ2～3m程すると炉穴跡・集石土坑跡・集石跡・土坑跡等が群集している。

構造　西壁を風倒木痕によって攪乱され，南壁西辺を流出するが，形状は胴張り隅丸長方形を呈することが知れる。規模は略350×305cm，床面積約10.7㎡が推測される。長軸方位はN－84°－Eを示し，ほぼ東西にとる。等高線に平行し，弱い谷地形，緩斜面を南面する。壁高は北壁で35cm程を測り南壁に向うにしたがい高さを減ずる。床面は南側に若干低くなるが良好である。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　覆土中より縄文土器5点が出土する。J 1701～03は細片または器面の磨耗が著しい土器で図示できない。J 1702は胎土に繊維が含有され，やや太めのLRの斜縄文が施文され，色調は茶褐色を呈する。J 1703は条間隔の広いLRの斜縄文が施文され，色調は淡黄褐色を呈する。

J 1704は節の不明瞭な太い縄文が，縦位の羽状に施文される。色調は灰褐色を呈し，胎土に白色粒が含有される。

J 1705は太いLRの斜縄文が施文される。色調は淡黄褐色を呈する。

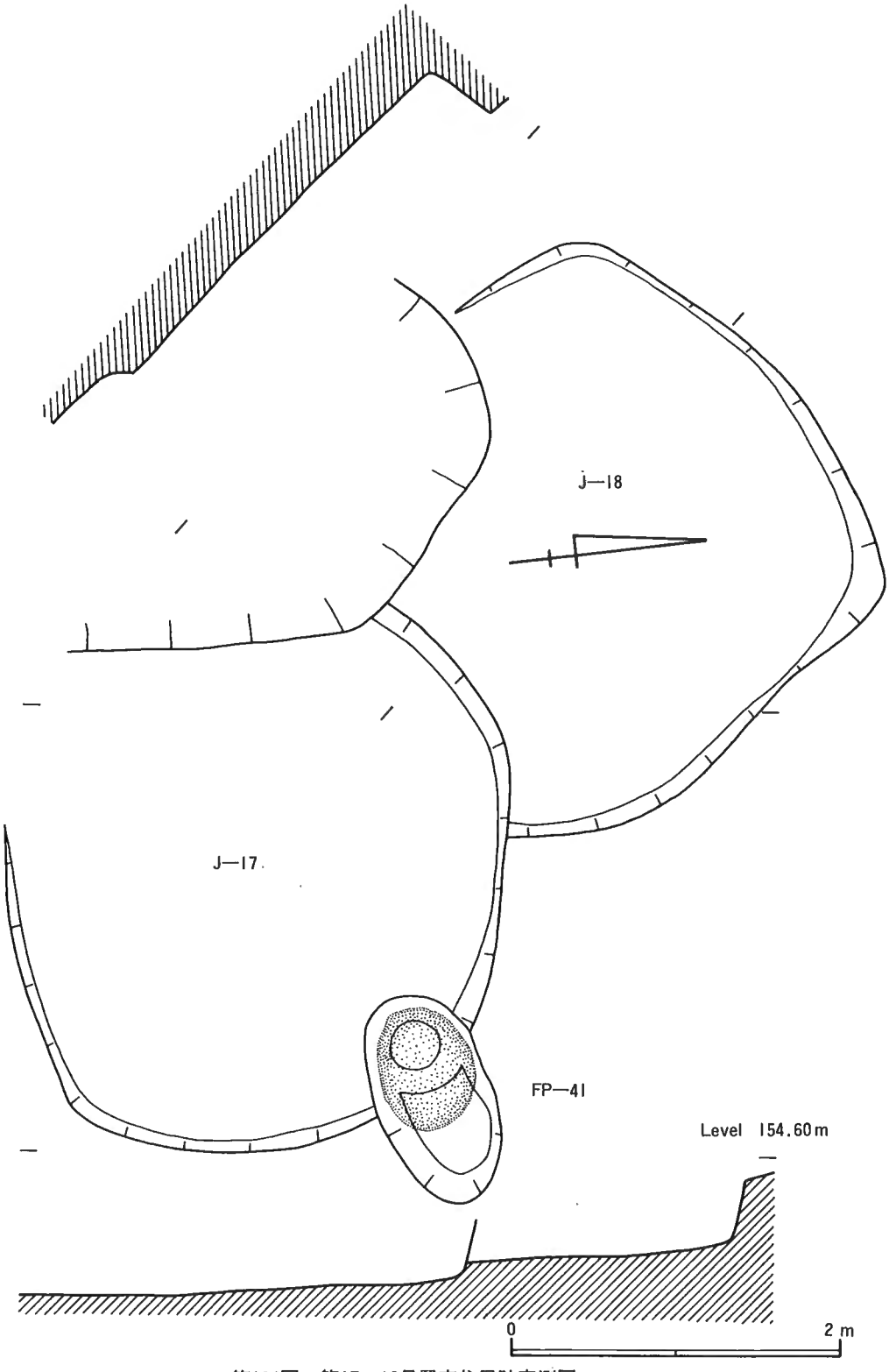
第18号竪穴住居跡（第194図，図版第272）

位置　J－22・23グリッドにまたがって，第17号竪穴住居跡を南壁に重複して検出される。第17号竪穴住居跡より古い。標高は154.5m付近にあたり，占地条件も同様である。

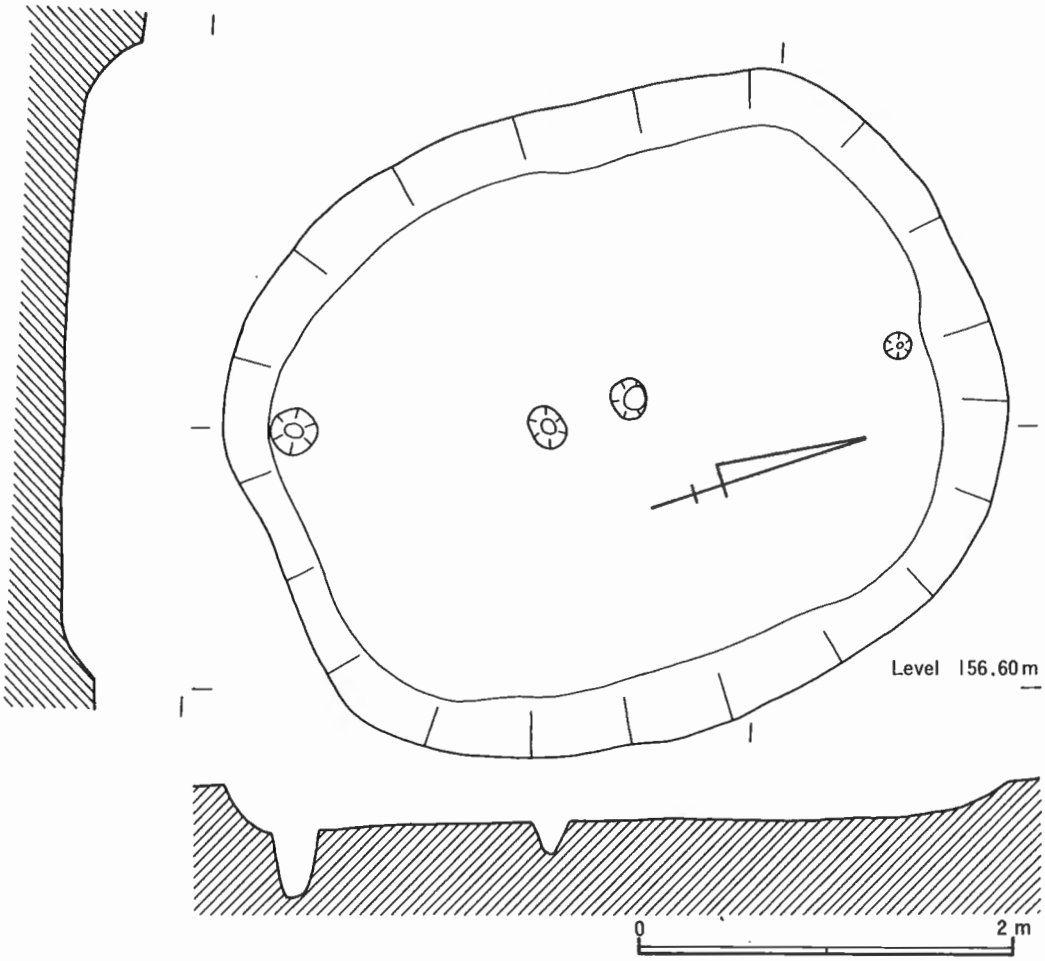
構造　南東・南西壁の大半，床面の3分の1程を第17号竪穴住居跡と風倒木痕によって削取され明確でないが，形状は隅丸方形を呈することが予想される。長軸方位は等高線に平行することが一般的であるとして，N－56°－E，規模は略310×310cm，床面積約9.6㎡が推測される。斜面構築であるため，壁高は北壁にたかく50cm程を測る。南壁は流出，及び削取されている。床面は小形の地山礫の露出もみるが，若干の炭化粒を混在する褐色ブロック土等によって薄い貼り床を施している。床面は南へ若干低くなっている。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　床面直上より撚糸文土器4点（J 1801～04）と，縄文土器1点（J 1805）が出土し，覆土中より撚糸文土器4点（J 1806・07・08・11）と、縄文土器2点（J 1809・12），押型文土器1点（J 1810）が出土する。

J 1801は口縁部破片で弱く外反し，口唇部は平坦に整形される。条の太いLの撚糸文が縦位に施文される。胎土に径5㎜の小礫と白色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。



第194図　第17・18号竪穴住居跡実測図



第195図　第19号竪穴住居跡実測図

J 1802・04・06・07は同一個体かと思われる。縦に細長い節のLの撚糸文が縦位に施文され，一部無文部を残す。器厚7～8㎜。胎土は脆弱で，色調は灰褐色を呈する。J 1803はRの撚糸文が施文される。

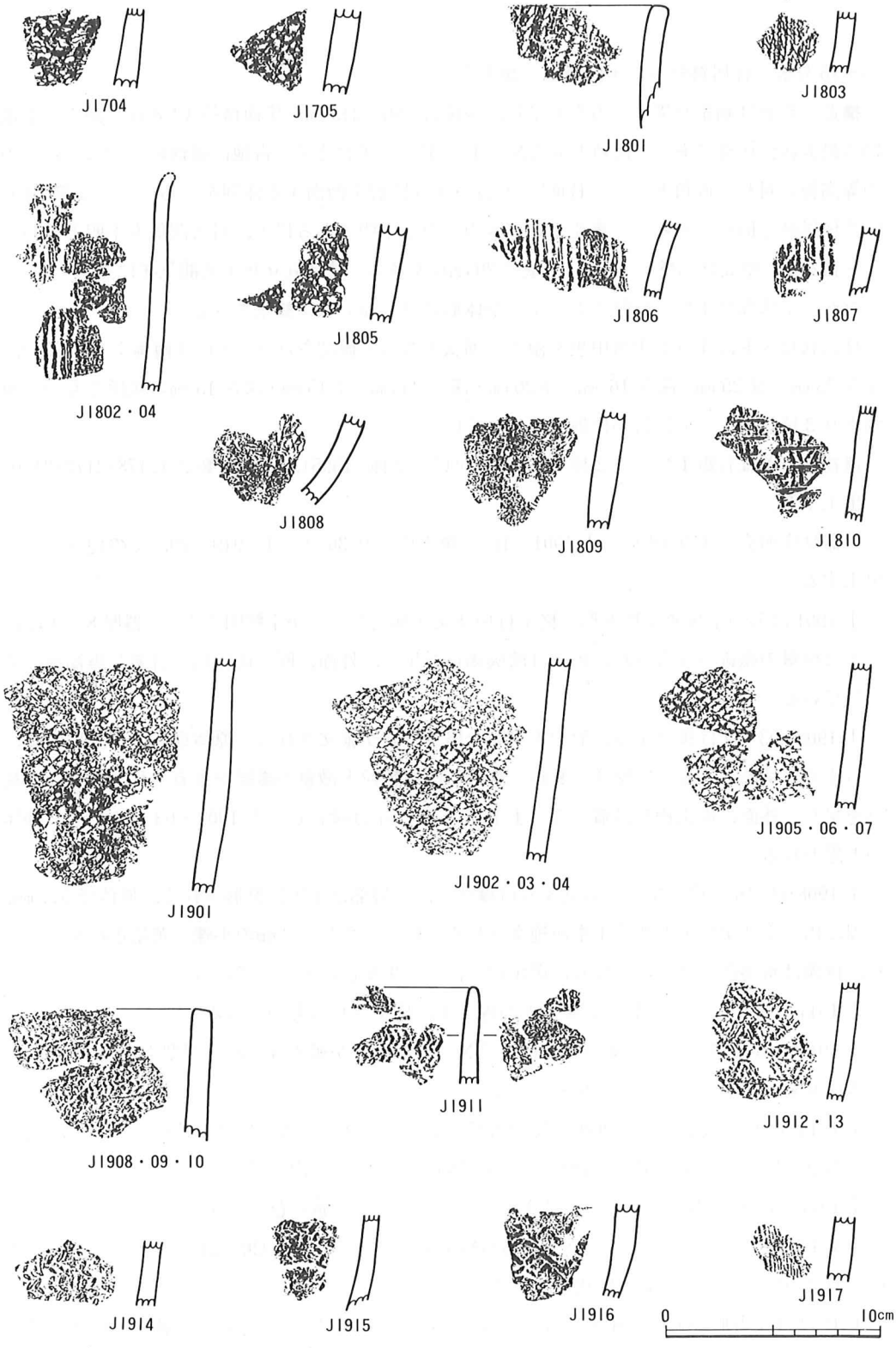
J 1805は太いLRの縄文が施文され，J 1812と同一個体である。器厚9～11㎜。胎土に大粒の茶褐色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。

J 1809は縄文土器と思われる。胎土に径2～3㎜の小礫が多量に含有され，色調は灰褐色を呈する。

J 1810は土器No.6019に類似するものである。色調は灰褐色を呈する。

第19号竪穴住居跡（第195図，図版第273）

位置　C－18グリッド中央から若干B－18グリッドにまたがって単独で検出される。標高は156.0m付近にあたり，D地区広域平坦面を望む緩斜面である。第12・20号竪穴住居跡とで構成する竪穴住居跡群の北端に位置する。第20号竪穴住居跡は南西側へ1m程で接し，それには第9号集石土坑跡が重複している。調査区北東端で遺構群の全容は知れないが，占地条件は第



第196図　竪穴住居跡内出土土器拓影図③

13～16号竪穴住居跡群の平坦面構築に類する。

構造　形状は胴張り隅丸長方形を呈し，規模は400×345㎝，床面積約13.8㎡を測る。本遺跡の最大級住居跡である。長軸方位はN－1°－Eで南北にとる。占地は緩傾斜面ではあるものの等高線に対して直角となり，B地区炉穴跡・土坑跡群を西面する体制をとる。これは第20号竪穴住居跡も同様であるが，東北未調査区の状況が不明である以上，対応関係も不明と言わざるを得ない。壁高は西壁で30㎝，東壁で20㎝程を測る。壁は直立せず湾曲気味に立ち上がる。したがって床面は平坦で良好であるが，全体形状は「皿」状に観察される。

柱穴状ピットは4坑が床面中央を南北に列状となって確認される。それは南側より径25㎝・深さ33㎝，径25㎝・深さ16㎝，径20㎝・深さ35㎝，径15㎝・深さ15㎝の規模をもつ。南側より3坑目のピットは斜めに掘り込まれている。

遺物　石器は石鏃Ⅰ類a－2種（145）・Ⅱ類C－2種（1595），石鏃未製品（2178・2179・2180）が出土する。

土器は床面直上より18点（J 1901～18），覆土中より30点（J 1919～29，その他細片）が出土する。

J 1901は形の不規則な長方形の格子目押型文が施文されるが不鮮明である。器厚8～10㎜。胎土に微量の繊維が含有され、色調は暗灰褐色を呈し，外面に厚く炭化物が付着し黒褐色に変色している。

J 1902・03・04は接合する。形の不規則な格子目文が施文される。原体径5.4㎜。原体端はまっすぐに切断される。器厚8～9㎜。胎土に灰白色粒と微量の繊維が含有され，色調は暗褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。J 1905・06・07は接合し，J 1902・03・04の同一個体かと思われる。

J 1908・09・10は接合する。直立する口縁部で，口唇部は平坦に整形される。原体径5.7㎜，1周で山形文2単位半と凸線1本が施文される。胎土に径2～3㎜の小礫と黄褐色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。外面に炭化物が付着し黒褐色に変色している。

J 1911は原体1周で山形文2単位と凸線2本が施文されるものである。

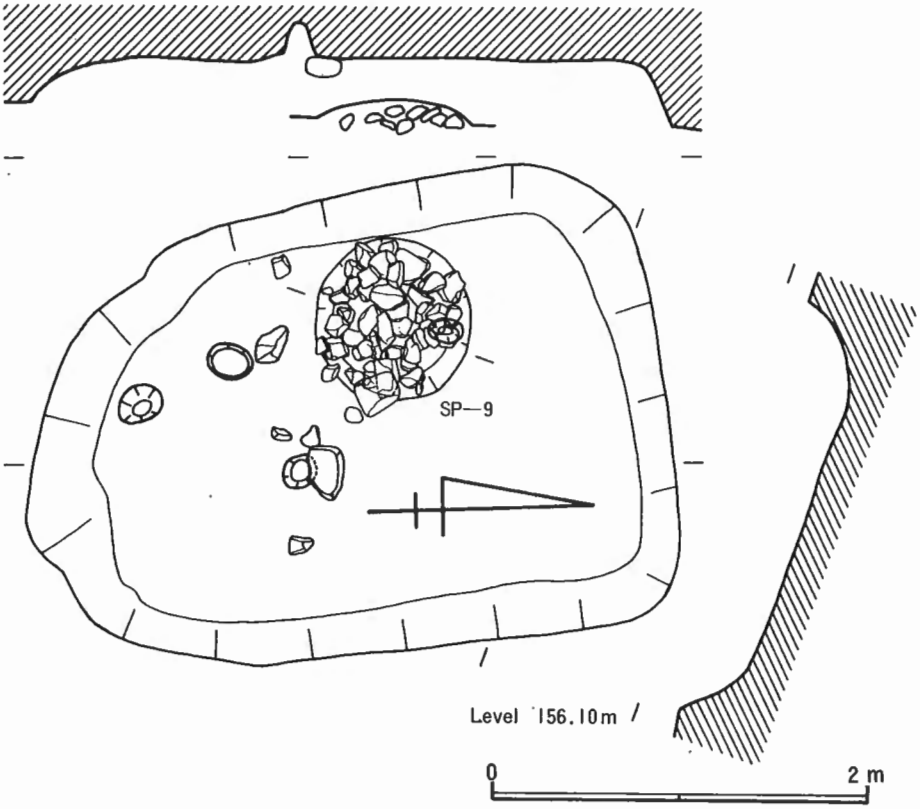
J 1912・13は接合する。横位の凸線と「X」状の文様が組み合された押型文が施文される。原体径6.1㎜，端はまっすぐに切断される。

J 1914・15は1周2単位の丸味を持つ山形文が施文される。胎土に黄白色粒を含有し，色調は黒褐色を呈する。J 1916は山形押型文土器№3362の同一個体である。

J 1917・18は条の非常に細い撚糸文が施文され，色調は黄褐色を呈する。

J 1919は斜格子目押型文の施文される口縁部破片である。J 1920・21は接合する。斜格子目押型文が施文され，色調は灰褐色を呈する。

J 1922は長方形が縦横に連続する格子目文が内外面に施文される。胎土に黄白色粒が多量に含有され，色調は黒褐色を呈する。



第197図　第20号竪穴住居跡実測図

J 1924は小形の山形文が施文される。口唇部の整形，内面の器面調整は丁寧である。色調は黄褐色を呈する。

J 1925は1周1単位の大形の山形文が内外面に施文される口縁部である。色調は暗褐色を呈する。

J 1926は山形文が，口唇部直下は横位に1帯，以下縦位に施文されるものである。色調は灰褐色を呈する。

J 1927は縦列に連続する楕円文が施文される。色調は黄褐色を呈する。

J 1928は山形文が崩れたような押型文が施文される。J 1929は凹部が狭く，凸部の楕円文が菱形を呈する押型文が施文される。

第20号竪穴住居跡（第197図，図版第274）

位置　D－18ポイントより南側にかけて，第9号集石土坑跡を床面中央に重複して検出される。第9号集石土坑跡より古い。標高155.5～156.0 m付近にあたり，占地条件は前述竪穴住居跡と同様である。第12･19号竪穴住居跡の中間に位置し，それぞれ1～2 m程して接する。第9号集石土坑跡は本竪穴住居跡が完全に埋没後，西壁側に構築されている。

構造　形状は南壁が若干乱れる隅丸長方形を呈する。北東隅は直角にちかい。規模は345×245 cm，床面積約8.5 m²を測る。長軸方位はN－8°－Wでほぼ南北にとり，第19号竪穴住居跡

同様にB地区炉穴跡・土坑跡群を西面する。しかし対応関係は不明としておく。壁高は北壁で40 cm，南壁で25 cm程を測って比較的深く残存している。壁は第19号竪穴住居跡同様に直立せず湾曲気味に立ち上がる。床面も同様に平坦に成形され良好であるが，全体形状は「皿」状に観察される。

柱穴状ピットは4坑が床面中央より南西辺に無動作に確認される。規模は南寄り3坑が径20～25 cm，深さ15～20 cmを測る。北側1坑は小形で径15 cm，深さ10 cm程を測る。床面より若干浮いた状況で1辺が10～25 cm程を測る角礫が10個確認される。上部の第9号集石土坑を構成する礫質と異なり，本竪穴住居跡廃棄時のものと思われる。

遺物　石器は前述礫に混在して磨石Ⅰ類a－2種（2299）が出土する。

土器は押型文土器4点（J 2001～04）と縄文土器1点（J 2005）と，その他細片が出土する。

J 2001は床面直上からの出土である。原体径6.1 mm。1周2単位の細身の山形押型文が施文される。器厚6 mm。胎土に黄褐色粒が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

J 2002は覆土上層からの出土である。弱い波状口縁を呈するものと思われる。密接した楕円押型文が施文される。径5.7 mmの原体を口唇部直下の内外面に横位に1帯回転施文し，以下外面に縦位回転施文される。器厚6～7 mm。胎土に繊維と黄褐色粒を含有し，色調は暗褐色を呈する。

J 2003･04は同一個体である。山形頂部角の鈍角な山形押型文が施文される。色調は暗茶褐色を呈する。

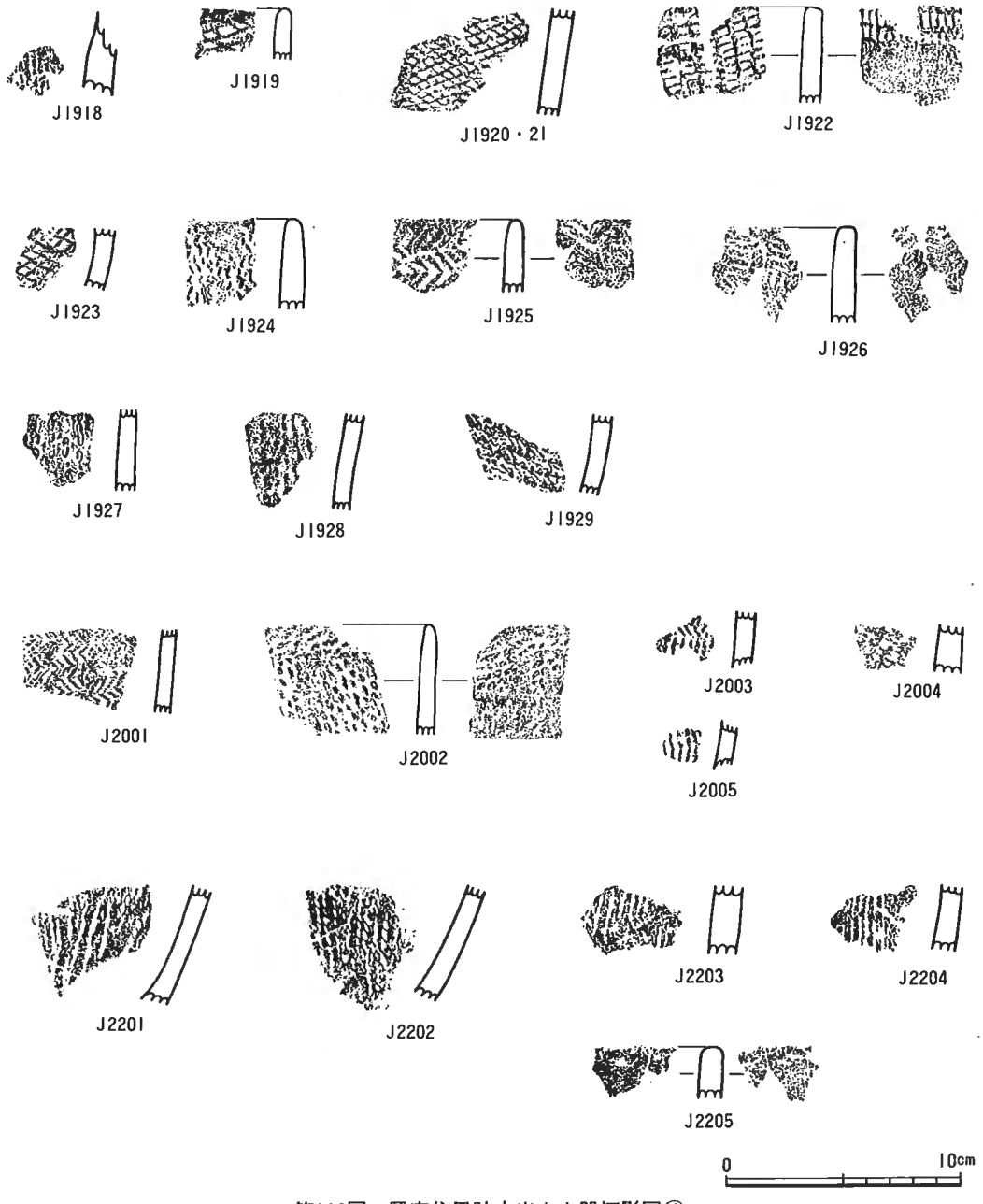
J 2005は太い縄文が施文されるもので，胎土に長石・石英・黒雲母が含有される。色調は黄褐色を呈する。

第21号竪穴住居跡（第199図，図版第275）

位置　K－20ポイントより西側にむかって単独で検出される。標高154.0～154.5 m付近にあたり，D地区広域平坦面が西側へ除々に標高を減じて，中央凹地帯へ没しようとする頂部に位置する。北西側へ5 m程して第11号土坑跡をみる他は，南東側へ15 m程しないと第17･18･22～24号竪穴住居跡によって構成される竪穴住居跡群に達しない。したがって本遺跡における竪穴住居跡では占地上，特に単独的な存在となる。

構造　床面中央を東西方向にトレンチによって削取され明確でないが，形状は隅丸長方形を呈するであろうことが知れる。規模は390×350 cm，床面積約13.7 m²を測る。比較的大形の住居跡である。長軸方位はN－12°－Wを示す。前述竪穴住居跡と鞍部を相対するため，それらより直角に振れて，中央凹地帯を西面している。壁高は東壁で45 cm，西壁で15 cm程を測る。それから減じて西壁中央部分は流失している。床面は東壁沿いに深く掘り込まれる部分もあるが，他は平坦に成形されて良好である。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　石鏃Ⅱ類a－3種（366）・Ⅱ類b－1種（382），磨石Ⅱ類C－2種（2478）が出土する。なお366は局部磨製石鏃である。

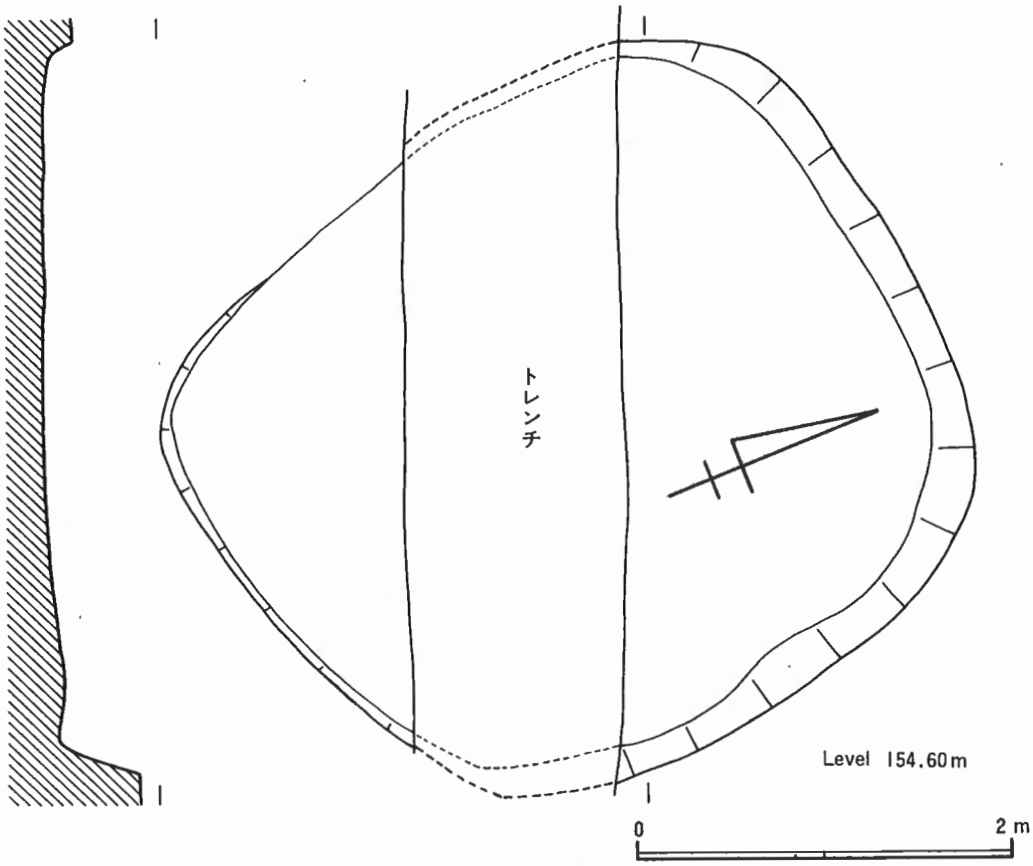


第198図　竪穴住居跡内出土土器拓影図④

第22号竪穴住居跡（第200図，図版第276）

位置　L－23ポイントを床面の中央において，第23号竪穴住居跡を北壁に重複して検出される。第23号竪穴住居跡より新しい。標高153.5m付近にあたり，F地区東側の弱い谷地形が南面する中腹に位置する。傾斜に沿い，東側へ5m程上がって第17･18号竪穴住居跡，西側へ7m程下って第24号竪穴住居跡が存在し，それらとともに竪穴住居跡群を形成している。

構造　形状は胴張り隅丸長方形を呈し，規模は390×305cm，床面積約11.9㎡を測る。比較



第199図　第21号竪穴住居跡実測図

的大形の住居跡である。長軸方位はN－47°－Wを示す。等高線より若干西側に振れて，弱い谷地形の開口部を面する位置となる。傾向からすると第21号竪穴住居跡長軸方位にちかい。壁高は北西壁で35㎝，南東壁で25㎝程を測る。床面は中央部が若干窪むが，良好である。

柱穴状ピットは2坑が確認される。北東壁中央の1坑は乱れて径30㎝，深さ20㎝を測る。南西隅の1坑は状況も良く径30㎝，深さ25㎝を測る。

遺物　石器は石鏃Ⅰ類a－1種（47），磨石Ⅰ類a－1種（2254）が出土する。

土器は覆土中より撚糸文土器8点（J 2201～04，その他細片）と縄文土器9点（J 2205～07，その他細片）が出土する。

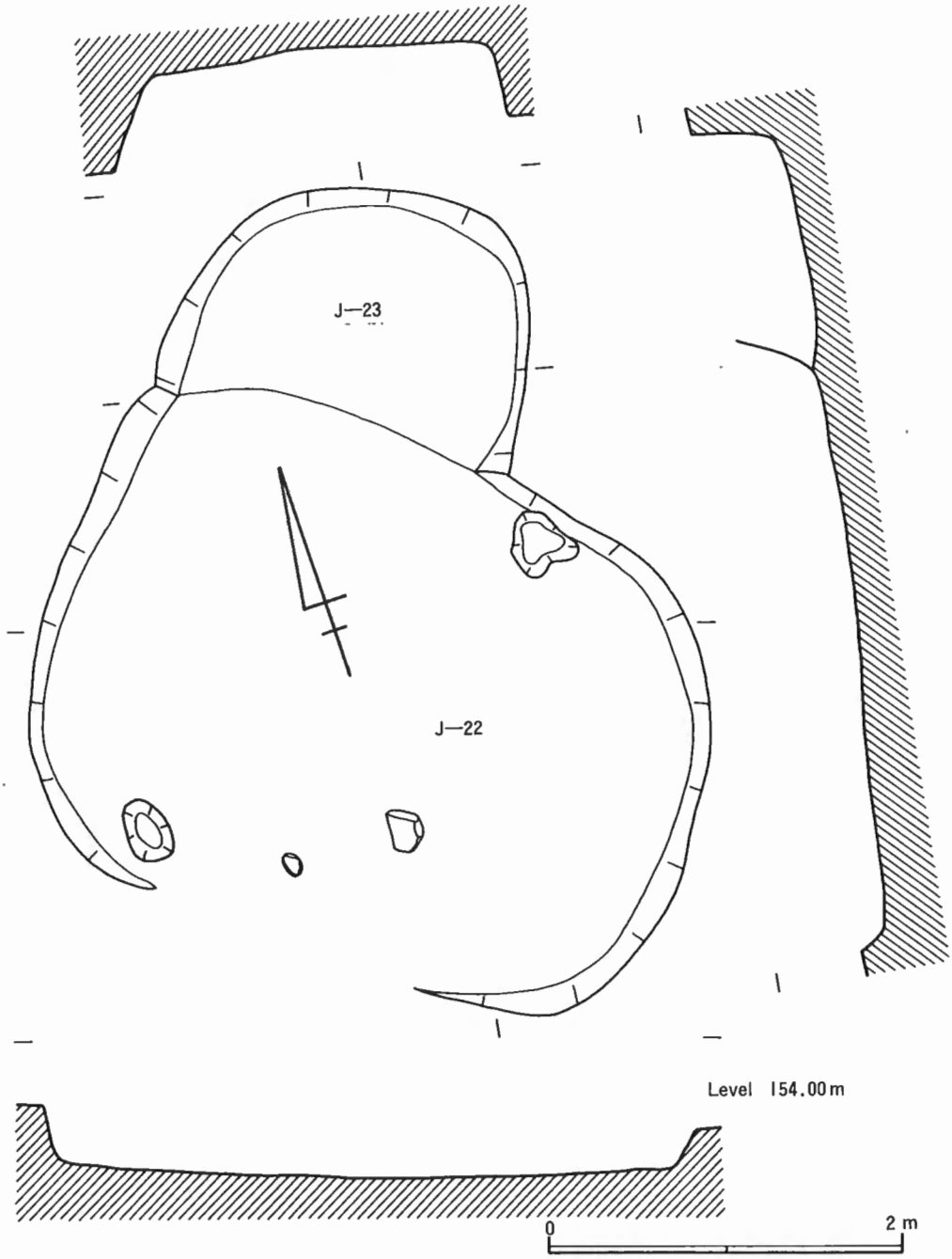
J 2201はRの撚糸文が施文される底部近くの破片である。器厚7～8㎜。胎土に黄褐色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈する。

J 2202はRの撚糸文が縦位に施文される。器厚7～8㎜色調は黄褐色を呈する。

J 2203はRの撚糸文が交叉するよう施文される。器厚11～12㎜。胎土に黄褐色粒が含有され，色調は暗灰褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

J 2204は細いRの撚糸文が施文される。器厚8㎜。色調は灰褐色を呈する。

J 2205は節の大きな縄文の施文される口縁部破片である。



第200図　第22・23号竪穴住居跡実測図

J 2206は弱く「く」の字状に外反する口縁部破片で，口唇部は平坦に整形される。縄文土器No.1086に酷似する。外面には太いＬＲと，太さの異なる２本のＬを撚り合せたＲＬを，それぞれ縦位に回転して，羽状縄文が施文される。内面にはＲＬの原体を横位回転して，右下がりの斜縄文が施文される。また口唇部にもＲＬの斜縄文が施文される。胎土は非常に脆く，器厚９

～10 ㎜。色調は灰白色を呈する。

J 2207 は節の大きなＬＲの斜縄文が縦位の帯状に施文される。胎土・焼成はＪ 2206 に類似する。

第 23 号竪穴住居跡（第 200 図，図版第 276）

位置　Ｋ－22 グリッド南東辺に，第 22 号竪穴住居跡を南西側床面の 4 分の 1 程に重複して検出される。第 22 号竪穴住居跡より古い。標高 153.5～154.0 m付近にあたり，占地条件は同様である。

構造　南西側床面の 4 分の 1 程を削取されて明確でないが，形状は隅丸長方形を呈することが予想される。長軸方位は等高線に平行することが一般であり，また残存形状も加味して，Ｎ－27°－Ｅ，規模は――×200 ㎝，床面積約 4.8 ㎡程が推測される。本遺跡において第 11･14 号竪穴住居跡に次いで小形の住居跡となろう。壁高は西壁で 55 ㎝，東壁で 45 ㎝程を測り，もっとも深く掘り込まれる（残存する壁がたかい）。床面は中央部が若干窪んで「皿」状となる。柱穴状ピットは検出されない。本竪穴住居跡の構造は第 11 号竪穴住居跡に類しており，第 14 号竪穴住居跡を含めた，超小形竪穴に性格の差も指摘されるかも知れない。

遺物　なし。

第 24 号竪穴住居跡（第 201 図，図版第 277）

位置　Ｍ－21 グリッド西辺に，第 60 号炉穴跡を床面中央に重複して検出される。第 60 号炉穴跡より古い。標高 153.0 m付近にあたり，本遺跡において竪穴住居跡ではもっとも標高を低くもつ。Ｆ地区を中央で東西に占地条件を分岐する鞍部の先端部であり，第 17・18・22・23 号竪穴住居跡とともに構成する竪穴住居跡群の南西端に位置する。北東側に 7 ～10 m程して前述竪穴住居跡群･炉穴跡群をみるが，南西側は遺構疎隔地となり，20 m程して第 12 号土坑跡をみる以外ない。

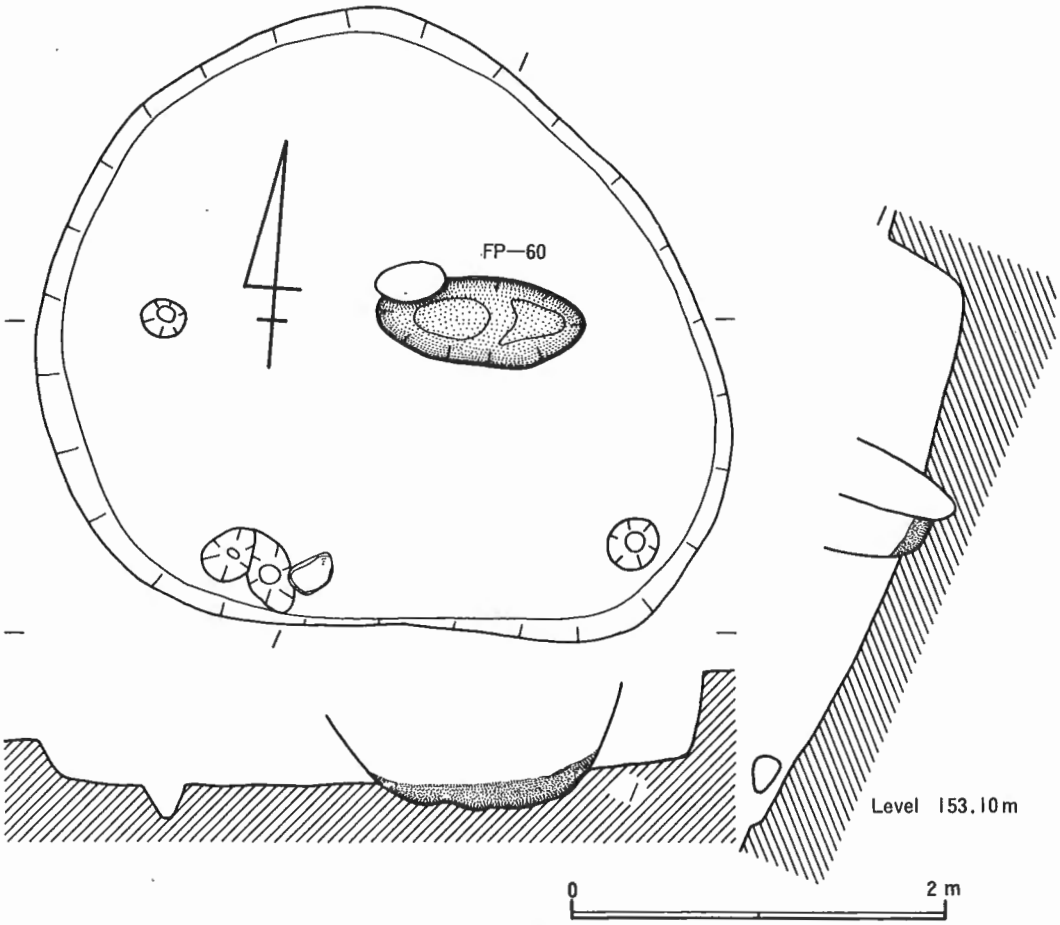
構造　形状は北壁に若干の角をもつが，全体的には楕円形を呈する。規模は 375×325 ㎝，床面積約 12.2 ㎡を測る。比較的大形の住居跡である。長軸方位はＮ－89°－Ｗで，ほぼ東西にとり等高線に平行して，第 56･58 号炉穴跡を南面する。壁高は北壁で 50 ㎝，南壁で 5 ㎝程を測る。斜面構築でその差は激しい。床面は中央部が若干窪んで「皿」状となるが良好である。

柱穴状ピットは 4 坑が確認される。南壁西寄りの 2 坑が「８」字状となる。規模は 20～25 ㎝，深さは 15 ㎝前後を一様に測る。配置に規則性は感じられない。床面中央で第 60 号炉穴跡を抜く 1 坑は黒色腐食土を埋土にもつ樹根跡である。

遺物　床面直および覆土下層より 8 点（Ｊ 2401～04，その他細片），覆土上層より 16 点（Ｊ 2405～12，その他細片）の土器が出土する。

Ｊ 2401 は条が太く，条間隔の広いＲの撚糸文が施文される。胎土に茶褐色粒が含有され，色調は淡褐色を呈する。

Ｊ 2402 は撚糸文が施文されるが，胎土が脆く器面は風化している。



第201図　第24号竪穴住居跡実測図

J 2403はJ 2401に胎土・色調が類似する。Rの撚糸文が乱雑に施文されるが，交叉するかもしれない。

J 2404は弱く外反し，口唇部は強く押圧され，平坦に整形される。節が大きく条の太いRLの斜縄文が施文される。色調は暗黄褐色を呈する。

J 2405は条の細いRの撚糸文が施文される。胎土に繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。

J 2406は押型文の施文される口縁部破片である。文様は不鮮明である。器厚6～7㎜。色調は灰白色を呈する。

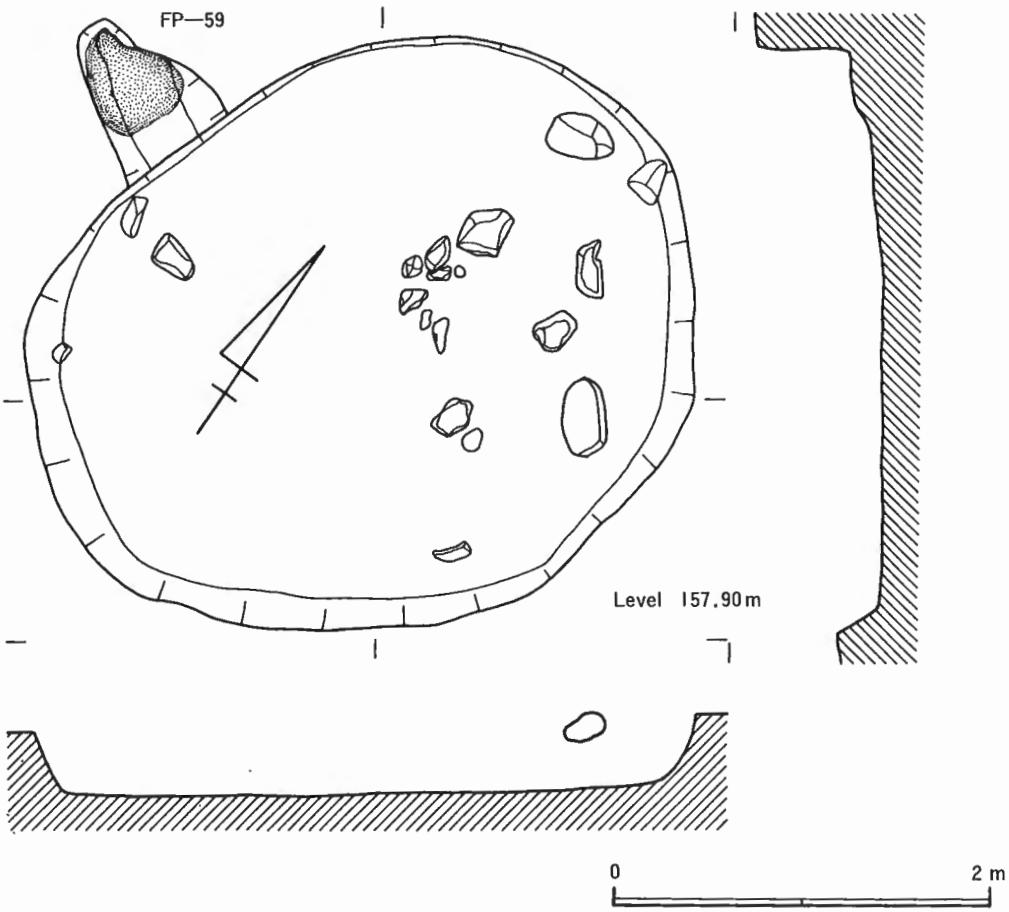
J 2407は原体1周1単位の大形の山形押型文が施文される。器厚8～9㎜。胎土に淡黄褐色粒が含有され，色調は暗黄褐色を呈し，内面に厚く炭化物が付着する。

J 2408・09は1周2単位の山形押型文が施文される。J 2408は胎土に微細な灰白色粒が多量に含有される。J 2409は胎土に小礫と茶褐色粒が含有される。

J 2410は撚糸文土器かと思われる。胎土に黒色砂粒が含有され，色調は茶褐色を呈する。

第25号竪穴住居跡（第202図，図版第278）

位置　I・J－4グリッドにまたがって，第59号炉穴跡を西壁中央に重複して検出される。



第202図　第25号竪穴住居跡実測図

第59号炉穴跡より新しい。標高157.5 m付近にあたり，C地区平坦面を東面する緩斜面の下方に占地する。本遺跡最西端に位置して，東側へ10 m程して炉穴跡群をみる以外は，遠く他竪穴住居跡群に隔絶する。道路・宅地分譲工事等によって削平・攪乱部分が周辺をとりまくこともあり，そこに竪穴住居跡が存在していた可能性は充分にある。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は375×295 cm，床面積約11.1 m²を測る。長軸方位はN－34°－Eを示し，等高線に平行する。壁高は西壁で50 cm，東壁で25 cm程を測る。床面は西壁沿いに弱い段をもち，中央部も若干凸凹となるが不良ではない。柱穴状ピットは検出されない。

床面より浮いた状況で1辺が10～40 cm程を測る大小の角礫19個が確認される。斜面上部側に多く散乱するため，第4号竪穴住居跡における『壁石』などと俗称した組石の崩壊状態も予想される。竪穴住居跡構造も類している。

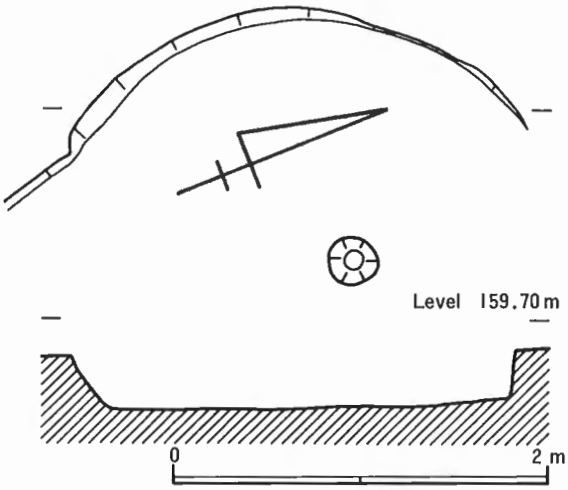
遺物　石器は磨石Ⅰ類a－2種（2294）・Ⅱ類b－3種（2441）が出土する。

土器は総数24点（J 2501～08，その他細片）が出土する。

J 2501は床面直上より検出される。胎土に多量の金雲母と長石・石英粒が含有され，表裏縄文土器の底部近くの破片かと思われる。外面には横走するLRの縄文が施文される。

Ｊ 2502 も床面直上より検出される。節の大きな縄文が施文される。胎土に小礫と白色粒が含有される。胎土は脆弱で，色調は黄褐色を呈する。

Ｊ 2503 以下は覆土上層より検出される。Ｊ 2503 は「く」の字状に外反する口縁部破片で，節が大きく条の太いＬＲの斜縄文が，縦位の帯状に施文される。胎土には径１～３㎜の黄褐色粒が多量に含有され，色調は明茶褐色を呈する。



第203図　第26号竪穴住居跡実測図

Ｊ 2504 は節が細長く密接した条の太いＬＲの縄文が施文される。胎土に繊維が含有され，色調は暗黄褐色を呈する。

Ｊ 2505 はＬの撚糸文が交叉するように施文される。胎土には黄白色粒が含有され，色調は暗褐色を呈する。

Ｊ 2506 は条の細い撚糸文が帯状に施文される。胎土に白色粒が含有され，色調は淡黄褐色を呈する。

Ｊ 2507 は細長い楕円押型文が施文される。胎土に白色粒が含有され、色調は暗褐色を呈する。

Ｊ 2508 は弱く外反し，節が大きく条の太いＲＬの撚糸文が，内外面と口唇部に施文される。器厚 10～11 ㎜。胎土に白色砂粒と繊維が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

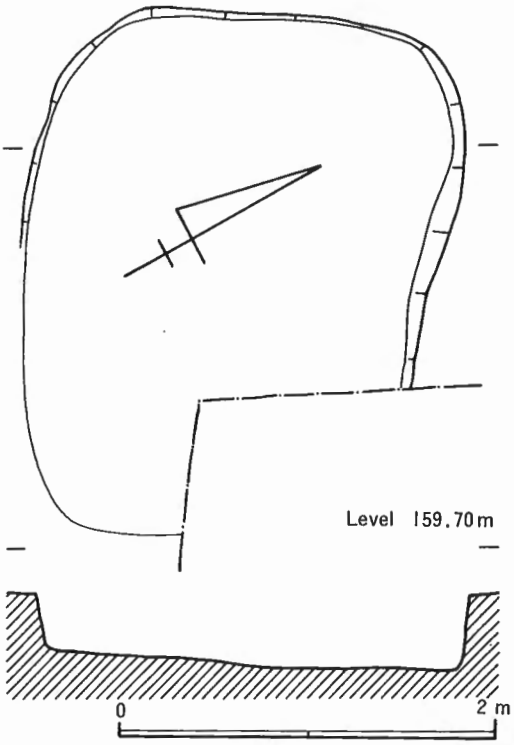
第 26 号竪穴住居跡（第 203 図，図版第 279）

位置　Ｄ－３グリッド中央に単独で検出される。標高 159.5 m付近にあたり，本遺跡が占地する丘陵頂部にちかい。背後には過去，長者ヶ峰と称する小丘が存在しており，それを削平して下方に盛土することによって住宅分譲地としたため，岩盤露出地となる。しかし地形上の観察からは本竪穴住居跡より標高をたかく，また北西側に位置しようとすることは不可能にちかく，遺跡北西端としてよかろう。北側に５m程して第 27 号竪穴住居跡，東側へ 15 m程して第 28 号竪穴住居跡，それに重複して第 10 号集石土坑跡が存在する。

構造　平面プランの５分の４を住宅分譲工事によって削取される。形状は残存する西壁から，楕円形～胴張り隅丸長方形が推測される。規模は平均的床面積を有するであろう。長軸方位は等高線に平行する可能性がたかい。壁高は南北壁とも 25 ㎝程を測る。床面は平坦で良好である。

柱穴状ピットが床面中央に１坑確認される。規模は径 25 ㎝，深さ 15 ㎝程である。

遺物　覆土中より縄文土器１点（Ｊ 2601）と表裏縄文土器細片４点が検出される。Ｊ 2601 は胎土に淡黄白色粒と黒色砂粒が含有され，色調は淡茶褐色を呈する。焼成良好。



第204図　第27号竪穴住居跡実測図

Ｊ 2602 はＲの撚糸文が施文される土器で，覆土上面より検出される。

第 27 号竪穴住居跡(第 204 図，図版第 280)

位置　Ｃ－３グリッド中央に単独で検出される。標高 159.5 m付近にあたり，本遺跡で第 26 号竪穴住居跡とともにもっとも標高をたかくもち，遺跡の最北端に位置する。占地条件も同様に，背後に小丘を配していたであろう。南側に 5 m程して第 26 号竪穴住居跡，東側へ 15 m程して第 28 号竪穴住居跡，それに重複して第 10 号集石土坑跡が存在する。

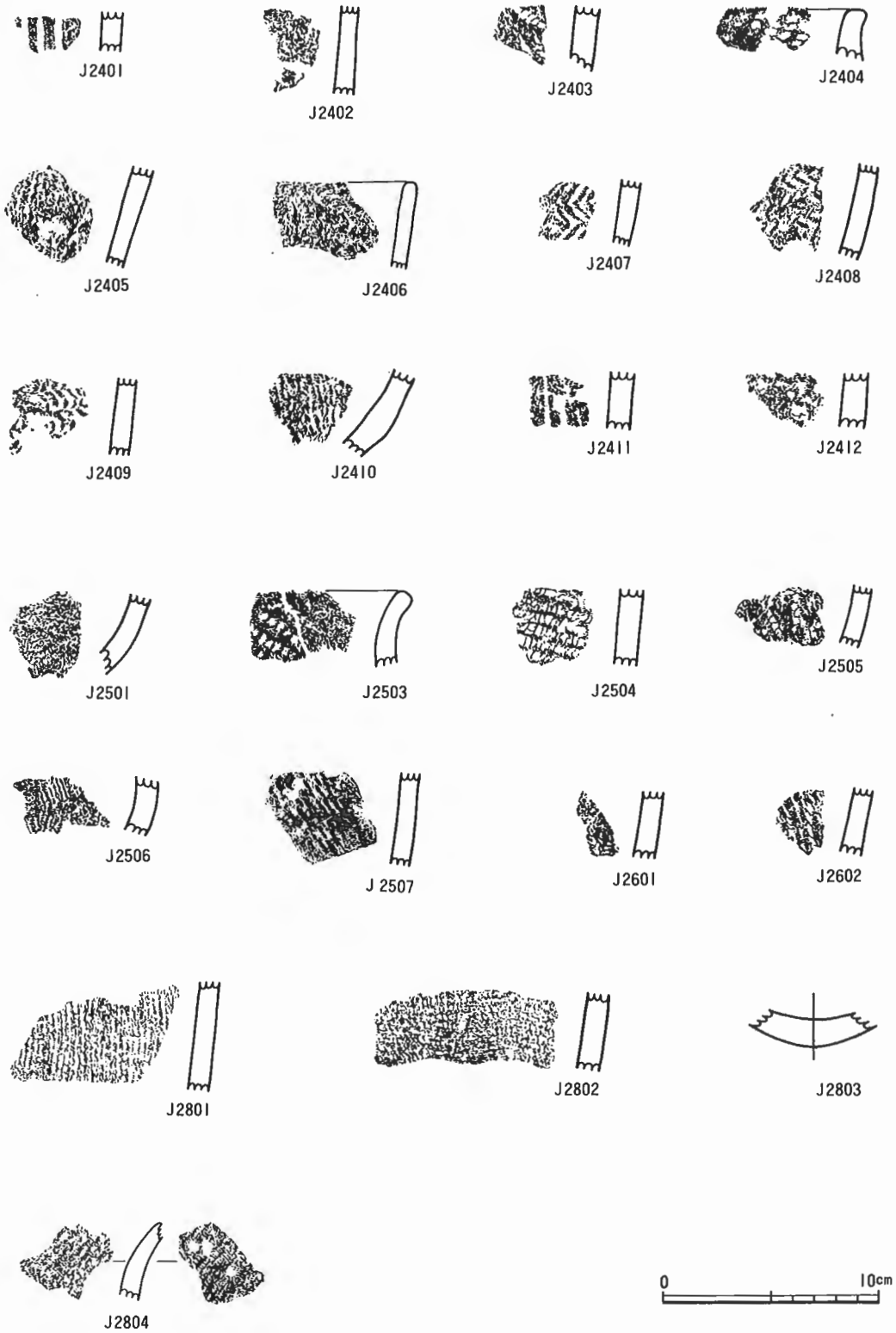
構造　南東側壁の２分の１程を住宅分譲工事によって削取され，さらに東隅床面の４分の１程を攪乱されている。形状は残存する壁・床面より隅丸長方形を呈することが知れる。規模は 275×220 cm，床面積約 6.0 ㎡を測る。長軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。等高線に規制されることなく開口部を南面する。壁高は北壁で 40 cm，南壁で 30 cm程を測る。床面は北側に若干低く，凸凹もあるが目立つものではない。柱穴状ピットは検出されない。

遺物　総数 16 点の土器が出土する。胎土は脆弱である。Ｊ 2701～05 は同一個体かと思われる。胴部は直立し，口縁部は外反し，口唇部は平坦に整形される。ＬＲの縄文が縦位または弱い斜位に施文される。口唇部および内面にも斜位に施文される。器厚 10～12 ㎜。胎土に淡黄白色粒が含有され，色調は黄褐色～淡茶褐色を呈する。

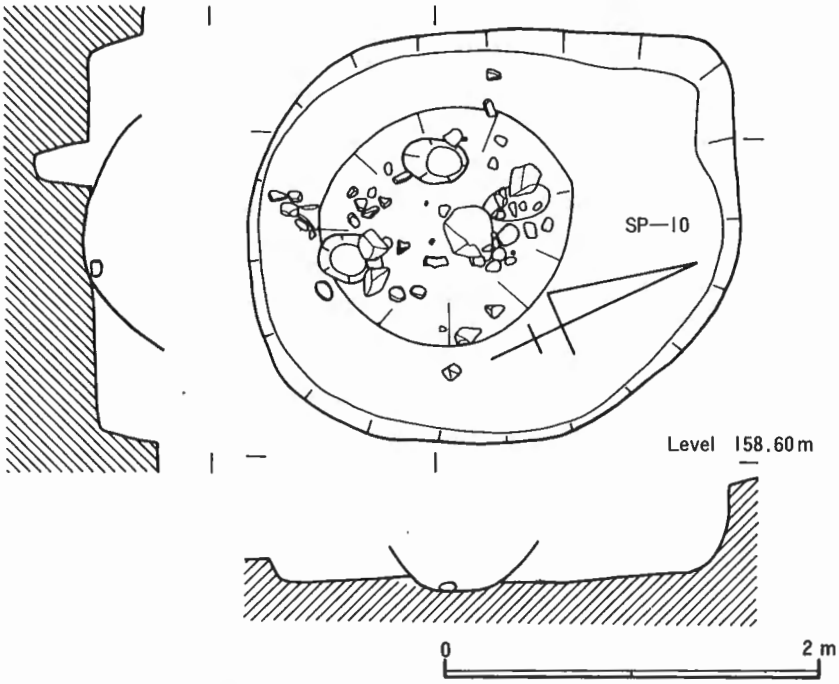
Ｊ 2706 は床面直上より検出される。やや開きぎみの胴部を呈し，口縁部は弱く外反する。口唇部は尖頭状に整形される。無節の右下がりの斜縄文が施文される。胎土は茶褐色粒と白色粒が多量に含有され，器面の色調は黒褐色を呈する。１点表裏縄文土器片が検出される。

第 28 号竪穴住居跡（第 206 図，図版第 281）

位置　Ｄ－６グリッド中央南辺に，第 10 号集石土坑跡を床面中央に重複して検出される。第 10 号集石土坑跡より古い。標高 158.0 m付近にあたり，Ｃ地区の平坦面より弱い谷地形が北側へ延びて，長者ヶ峰へ接しようとする西側斜面の下方域に位置する。相対する東面斜面には 15 m程の距離をもって第 26・27 号竪穴住居跡が存在している。これに第 25 号竪穴住居跡を加えた竪穴住居跡群をＣ地区平坦面に占地する炉穴跡群に対応関係を求めるのが妥当であろう。



第205図　竪穴住居跡内出土土器拓影図⑤



第206図　第28号竪穴住居跡実測図

構造　形状は北西壁が角張った楕円形を呈する。規模は260×220㎝,床面積約5.7㎡を測る。長軸方位はN－24°－Eを示し，ほぼ等高線に沿って凹部帯を西面する。壁高は北壁で45㎝，南壁で10㎝程を測る。比較的斜面に構築されて，その差は激しい。床面は平坦に成形されて良好である。なお拳大程の角礫は第10号集石土坑跡に伴うものであり，床面には存在しない。

柱穴状ピットは中央南西辺に2坑が確認される。いずれも第10号集石土坑跡の下部である。規模は径25～30㎝，深さ30㎝程を測り，その状況は良い。

遺物　石器は磨石Ⅰ類a－1種（2221）・Ⅰ類a－3種（2325）・Ⅱ類a－2種（2392），石核（2774）が出土する。

土器は6点（J 2801～06）が出土するが，J 2802は第10号集石土坑跡に伴うものかもしれない。

J 2801はRの撚糸文が縦位に密接して施文される。器厚10㎜。胎土に多量の黄白色粒・石英粒と微量の黒雲母が含有される。色調は明茶褐色を呈し，外面に薄く炭化物が付着する。焼成良好，胎土は硬質である。

J 2802は横走するRLの縄文が施文される。器厚10㎜。胎土に黄白色粒・石英粒・長石粒・黒雲母粒と微細な金雲母が含有され，色調は明茶褐色を呈する。焼成良好。

J 2803は丸底を呈する表裏縄文土器の底部破片である。縄文は内外面に施文される。胎土に金雲母が多量に含有され，胎土は脆い。

J 2804は細長い節の密接した斜縄文が内外面に施文される口縁部近くの破片である。胎土に

多量の黄白色粒と微細な石英粒・黒雲母粒が含有される。色調は茶褐色～黄褐色を呈し，内外面に炭化物が付着する。焼成良好。

J 2805･06は胎土に黄白色粒と微細な石英粒･黒雲母粒が含有され，色調は黄褐色を呈する。焼成良好。縄文が施文される。

J 2807は「く」の字状に外反する口縁部破片で，内外面と口唇部に撚糸文が施文される。器面の風化が激しい。胎土に白色粒が多量に含有され，非常に脆弱である。内外面より穿孔される補修孔が見られる。第10号集石土坑跡に伴うものかもしれない。

第2節　炉穴跡

第1号炉穴跡（第207図，図版第283）

位置　J－7グリッド中央南辺に検出される。標高156.5m付近にあたり，C地区平坦面南寄り，炉穴跡群の最南端に位置する。北側へ1m程して第5号炉穴跡，西側へ5m程して第2号集石跡，さらに西隣して第13号集石土坑跡が存在する。

構造　形状は略円形を呈し，規模は100×85㎝，深さ50㎝を測る。断面は「U」字状である。長軸方位はN－55°－Wを示す。焼土は硬質で10㎝程の厚さをもって坑底に充満する。図示される大形角礫は地山礫であるが，焼土より10㎝程浮いて拳大程の小礫が20個前後確認される。それは焼土粒を混入しない暗褐色土上部であることから，本炉穴跡がある程度，埋没後の事象であろう。

遺物　黒曜石片，頁岩片等が小量出土するが，特記すべき遺物の出土はない。以下，同様の状況は『なし』とする。

土器は検出面の壁際より格子目押型文土器口縁部片（FP 0101）が出土する。格子目文は正方形または縦長の長方形を呈し，文様凸部は丸味を持つ。原体径5.1㎜。内面にも1帯施文される。器厚6～7㎜。胎土に黄白色粒・小礫と繊維が含有され，色調は暗褐色を呈する。また細いRの撚糸文の施文される口縁部破片が検出される。胎土に多量の繊維が含有され，色調は淡黄褐色を呈する。

第2号炉穴跡（第207図，図版第283）

位置　H－8グリッド南西辺に検出される。標高157.0m付近にあたり，C地区平坦面のもっとも平坦な中央部に位置する。東側へ5m程して第46号炉穴跡，西側へ3～5m程して第1号集石跡，第3号炉穴跡等，遺構群に接する。

構造　形状は略円形を呈し，規模は90×75㎝，深さ45㎝を測る。断面は「U」状である。長軸方位はN－87°－Eを示す。焼土は15㎝程の厚さをもって坑底にほぼ充満するが，底面には炭化物混入黒色土が存在して浮いた状況となる。坑底は岩盤層にちかいこともあって小礫が露出する。

遺物　坑底の焼土下より格子目押型文土器の大形破片（FP 0201）が出土する。格子目文は

凸部が広く凹部が狭くて，菱形または横長の平行四辺形を呈する。器厚 9 ㎜。胎土に繊維が含有され，色調は灰褐色～暗褐色を呈し，内面は火熱により明茶褐色に変色している。

第 3 号炉穴跡（第 207 図，図版第 283）

位置　Ｉ－７グリッド中央北端に検出される。標高 157.0 m付近にあたり，Ｃ地区遺構群の中央に位置する。北側に 2 m程して第 1 号集石跡，東側から西側へ時間回りに 4 ～ 5 m程して，第 2 ・ 4 ・ 7 ・ 8 号炉穴跡が存在する。

構造　形状は円形を呈し，規模は 85×80 ㎝，深さ 45 ㎝を測る。断面は「U」字状である。長軸方位はＮ－72°－Ｅを示す。焼土は 20 ㎝程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がって厚く推積する。焼土に挟まれた状況で炭化物混入黒色土をみる。

遺物　石核（2725）が出土する。

第 4 号炉穴跡（第 207 図，図版第 283）

位置　Ｉ－７グリッド中央南辺に検出される。標高 156.5～157.0 m付近にあたり，Ｃ地区平坦面の中央より若干南寄りに位置する。北側へ 4 m程して第 3 号炉穴跡，西側から南側へそれぞれ 5 m程して第 8 ・ 7 ・ 5 ・ 1 号炉穴跡が存在する。東側は遺構に疎隔されている。

構造　形状は略円形を呈し，規模は 90×70 ㎝，深さ 50 ㎝を測る。断面は「U」字状である。長軸方位はＮ－２°－Ｗを示す。焼土は硬質で 10 ㎝程の厚さをもって坑底に充満する。下部には炭化物が混入する。焼土より 20 ㎝程浮いて拳大から 1 辺が 20 ㎝程を測る角礫が 10 個確認される。それは第 1 号炉穴跡同様に焼土粒を混入しない暗褐色土上部であり，本炉穴跡がある程度，埋没後の事象であろう。

遺物　土器 5 点と黒曜石片 2 点が出土する。ＦＰ 0401 は覆土中層より出土する。Ｒの細い撚糸文が施文され，胎土に繊維が含有される。

ＦＰ 0402・03 は炉穴跡上面より検出される。ＦＰ 0402 は山形押型文が内外面に施文される口縁部破片で，胎土に黄白色の小礫が多量に含有される。器厚 5 ㎜。色調は茶褐色を呈する。

ＦＰ 0403 は胎土に石英・長石・黒雲母・小礫等が含有される撚糸文土器である。

その他下層より文様の不明瞭な山形押型文土器の細片が 2 点検出される。

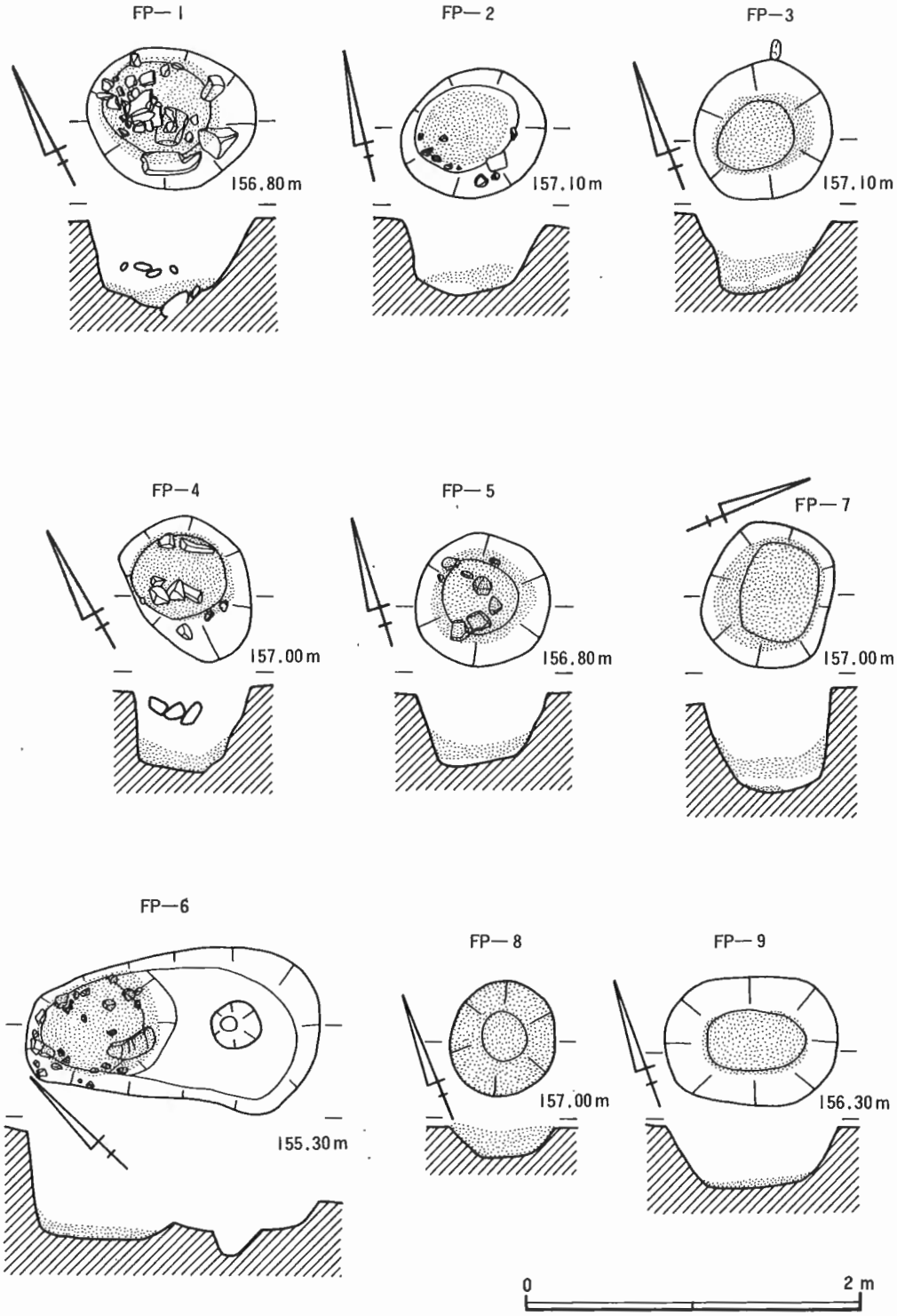
第 5 号炉穴跡（第 207 図，図版第 284）

位置　Ｊ－７グリッド中央に検出される。標高 156.5 m付近にあたり，Ｃ地区平坦面南寄りに位置する。北側に 3 m程して第 4・7 号炉穴跡，南側へ 1 m程して第 1 号炉穴跡が存在する。

構造　形状は円形を呈し，規模は 85×80 ㎝，深さ 45 ㎝を測る。断面は「U」字状である。長軸方位はＮ－83°－Ｅを示す。焼土は硬質で 10 ㎝程の厚さをもって坑底を充満する。底面には多量の炭化物が焼土に混入する。坑底は岩盤層にちかいため角礫が露出する。

遺物　網目状撚糸文土器細片が 3 点（ＰＦ 0501 等）出土する。胎土に小礫が多量に含有され，色調は黄褐色を呈する。

第 6 号炉穴跡（第 207 図，図版第 284）



第207図　炉穴跡実測図①

位置　Ｉ－11グリッド西辺に検出される。標高155.5ｍ付近にあたり，Ｃ地区テラス状平坦面が南東方向へ急激に標高を減じて，中央凹地帯へ没しようとする斜面上である。本遺跡においてもっとも急傾斜地である。北東側に３ｍ程して第１～５号竪穴住居跡群，南側に３ｍ程して第６号竪穴住居跡，第１・２号土坑跡が存在する。本炉穴跡はその中間に位置する。周辺に他炉穴跡をみることなく，形状も異なって完全に単独的な存在となる。

構造　形状は炉部と足場が区別されて，不整の長円形を呈する。規模は175×95㎝，深さは北西壁（炉部）で60㎝，南東壁（足場）で15㎝程を測る。これは斜面構築による差であり，炉部は足場より15㎝程の深さを測るにすぎない。炉部の規模は80×55㎝で「皿」状に窪む。したがって断面は達磨を半截した形状，以下「達磨」状と称する，となる。炉部底には地山の小角礫が露出する。足場中央には径25㎝，深さ15㎝を測る小ピットをみる。長軸方位はＮ－32°－Ｗを示す。等高線に直交し，斜面に沿う。焼土は10㎝程の厚さをもって炉部凹部内に充満する。

遺物　石器は石鏃Ⅱ類Ｃ－２種（1596）が出土する。

土器は４点（ＦＰ 0601･02，その他細片）が出土する。ＦＰ 0601はＲＬの斜縄文が施文される。胎土に白色粒が含有され，色調は灰褐色を呈する。ＦＰ 0602は節の大きい縄文が施文される。

第７号炉穴跡（第207図，図版第284）

位置　Ｉ－６グリッド東辺南隅に検出される。標高156.5～157.0ｍ付近にあたり，Ｃ地区平坦面の中央より若干西寄りに位置する。北側へ３ｍ程して第８号炉穴跡，東側・南側それぞれ４ｍ程して第４・５号炉穴跡が存在する。それより西側は10ｍ程遺構が疎隔された後，第25号竪穴住居跡に達する。

構造　形状は若干角張るが，意識されるものでなく略円形に含めよう。規模は85×75㎝，深さ60㎝を測る。断面は「Ｕ」字状である。長軸方位はＮ－50°－Ｗを示す。焼土は20㎝程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がって厚く堆積する。焼土に挟まれて炭化物･灰等をみる。

遺物　土器５点が出土する。ＦＰ 0701は斜位の平行四辺形が連続する格子目文が施文される。器厚７～８㎜。色調は暗褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。ＦＰ 0702は山形押型文が施文される。ＦＰ 0703は小形の格子目文が内外面に施文される。

第８号炉穴跡（第207図，図版第284）

位置　Ｉ－６グリッド中央東辺に検出される。標高157.0ｍ付近にあたり，Ｃ地区平坦面西寄り，炉穴跡群の最西端に位置する。北東側へ２ｍ程して第１号集石跡，第３号炉穴跡，南東側へ３ｍ程して第４・７号炉穴跡が存在する。それより西側は８ｍ程遺構が疎隔された後，第25号竪穴住居跡に達する。

構造　形状は円形を呈し，規模は70×65㎝，深さ20㎝を測る。これは坑上半部を削取されたためである。断面は「Ｕ」字状が推測される。長軸方位はＮ－49°－Ｅを示す。焼土は硬質で

20 cm程の厚さをもって坑底に充満する。この状態で検出されたものである。

遺物　なし。

第9号炉穴跡（第207図，図版第285）

位置　F－12グリッド中央北辺に検出される。標高156.5 m付近にあたり，前述長者ヶ峰が南方へ大きく迫り出してC地区と分岐し，標高156 m・157 mラインによってB地区と称した小規模の平坦面が形成される，西辺に位置する。それより南面すると中央凹地帯，10 m程して第1～7号竪穴住居跡が存在する。北側に隣接して第9号竪穴住居跡，南東側へ3 m程して第22号炉穴跡をみて，B地区炉穴跡群の最西端にあたる。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は105×80 cm，深さ35 cmを測る。断面は外開きの「U」字状である。長軸方位はN－64°－Wを示す。焼土は5 cm程の厚さをもって坑底にほぼ充満するが，軟質で暗褐色土等の混入も多い。

遺物　なし。

第10号炉穴跡（第208図，図版第285）

位置　E－10グリッド北東端に，第11号竪穴住居跡と重複して検出される。第11号竪穴住居跡より新しい。標高157.5～158.0 m付近にあたり，B地区平坦面を南面する斜面上に位置する。第9号炉穴跡とともにB地区炉穴跡群の最西端である。東側に隣接して第10号竪穴住居跡，さらに3～5 m程して第3号土坑跡，第8号竪穴住居跡，南側に5 m程して第9号竪穴住居跡が存在する。以上のように竪穴住居跡群内に本炉穴跡が単独で存在することは，他炉穴跡群のあり方からすると異質であり，第6号炉穴跡に共通する。

構造　本炉穴跡は第11号竪穴住居跡精査中に土層帯内より断面観察されたこともあって，当初よりその形状が円形か，足場を有する長円形炉穴跡の炉部の残存か，判然としない部分が多い。断面観察される深さは60 cm程を測り，断面は外開きの「U」字状である。残存する焼土の範囲は70×70 cm，厚さ20 cmを測り，厚く硬質である。第11号竪穴住居跡床面から本炉穴跡坑底に地山礫の露出をみる。

遺物　縄文土器1点（FP 1001）が出土する。LRの斜縄文が施文される。器厚7 mm。胎土に小礫が多量に含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

第11号炉穴跡（第208図，図版第285）

位置　D－13グリッド中央に検出される。標高157.0 m付近にあたり，B地区平坦面中央部に位置する。そこは炉穴跡，集石土坑跡，土坑跡等が集中構築されて群をなし，そのうちの西端部分にあたる。したがって本炉穴跡より西側には10 m程して竪穴住居跡群をみるまで遺構に疎隔される。東側に2～3 m程して第12・13・23号炉穴跡，南側に3 m程して第1号集石土坑跡が存在する。

構造　形状は略円形を呈し，規模は110×85 cm，深さ40 cmを測る。断面は外開きの「U」字状であるが，北壁がとくに開く。長軸方位はN－44°－Eを示す。楕円～長円形炉穴跡の長軸方

位は東西を示すのが一般で，異質である。焼土は硬質で20㎝程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がって厚く堆積する。

遺物　上面よりRの撚糸文の施文される土器が1点（FP 1101）が出土する。胎土に小礫が含有され，内面に横位の器面調整痕が見られる。

第12号炉穴跡（第208図，図版第285）

位置　D－14グリッド北西隅に検出される。標高156.5～157.0 m付近にあたり，B地区平坦面の中央部であり，また炉穴跡，集石土坑跡，土坑跡群等によって構成される遺構群の中央部に位置する。北壁に接するように第13・23号炉穴跡，西側へ3 m程して第11号炉穴跡，第1号集石土坑跡，さらに東側から南側には3～5 m程して第18・19号炉穴跡が存在する。

構造　形状は東壁が尖出する不整の円形，略円形の範疇におく。規模は105×80㎝，深さ25㎝を測る。これも坑上半部を削取されたためであろう。断面は坑上半部を欠いて明確でないが，坑底が平坦にならず「椀」状が予想される。長軸方位はN－63°－Wを示す。焼土は硬質で15㎝の厚みをもって坑底に充満する。底面には炭化物・灰等の混入土をみる。なお，坑底に径25㎝程の小坑をみるが，焼土・炭化物等を混入しない黒褐色土を埋土にする。本炉穴跡構築以前より存在する樹根痕と判断している。

遺物　なし。

第13号炉穴跡（第208図，図版第286）

位置　D－14ポイントに隣接して検出される。標高157.0 m付近にあたり，B地区平坦面に集中構築される遺構群の中央部に位置する。南壁に接するように第12・23号炉穴跡，西側に3 m程して第11号炉穴跡，南西側へ5 m程して第1号集石土坑跡，さらに南北方向に列状となって炉穴跡群が存在する。東側へは未調査区に5 mで達するが，その間は遺構に疎隔されている。

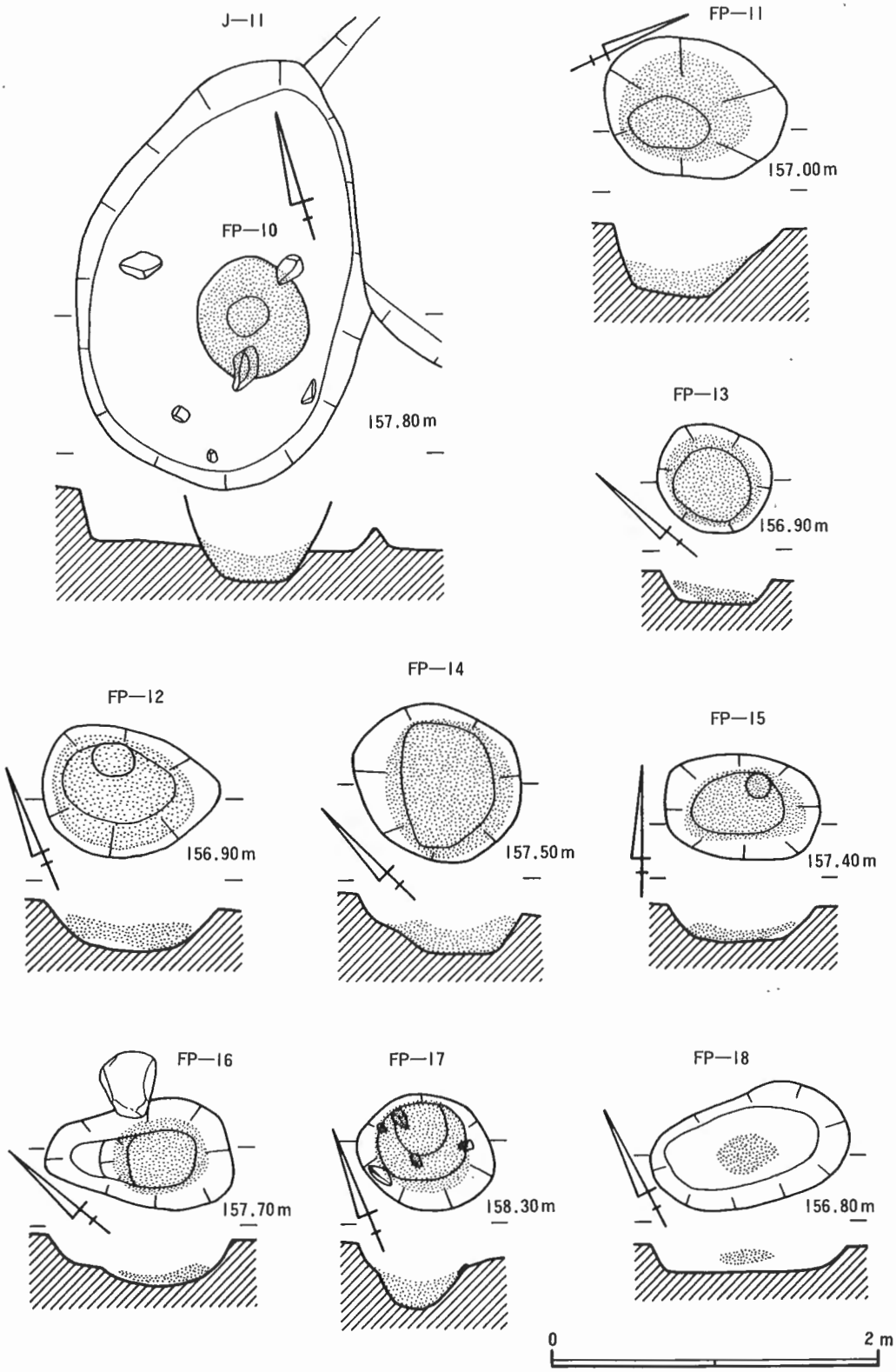
構造　形状は円形を呈し，規模は70×65㎝，深さ20㎝を測る。これは坑上半部を削取されたためである。断面は「U」字状が推測される。長軸方位はN－11°－Eを示す。焼土は非常に硬質で10㎝程の厚さをもって坑底に充満する。底面，及び埋土上部には炭化物・灰を混入する暗褐色土がみられ，焼土が浮いた状況を示す箇所もある。

遺物　なし。

第14号炉穴跡（第208図，図版第286）

位置　C－13グリッド中央西辺に検出される。標高157.5 m付近にあたり，B地区平坦面が北側へ徐々に傾斜を開始しようとする箇所である。それぞれ1～2 m程して西側へ第24・15号炉穴跡，北側へ第16号炉穴跡，東側へ第52号炉穴跡，第9号土坑跡が存在する。南側は4 m程離れて第13号炉穴跡に接するが，若干遺構が空白となる。

構造　形状は円形を呈し，規模は105×90㎝，深さ25㎝を測る。いずれも坑深を少なく示すが，これはB地区，D地区の一部で遺構確認面を低くもったためである。断面は西壁側に若干の段を有するが意図をもつものではなかろう。外開きの「U」字状断面の範疇におく。長軸方



第208図　炉穴跡実測図②

位はN－22°－Wを示す。焼土は非常に硬質で15㎝程の厚さをもって坑底に充満する。底面には炭化物・灰を混入する灰褐色土をみる。

遺物　内外面に格子目文の施文される口縁部近くの破片が出土する（ＦＰ 1401)。

第15号炉穴跡（第208図，図版第286）

位置　Ｃ－12グリッド南端に検出される。標高157.5ｍ付近にあたり，Ｂ地区平坦面が北側へ除々に傾斜を開始しようとする箇所である。炉穴跡群の西辺に位置する。それより西側は7～10ｍ程して第8～11号竪穴住居跡群をみるまで遺構に疎隔される。北東側へ2～3ｍ程して第14・16・24号炉穴跡が群集する。南側は若干距離をおいて前述炉穴群に達する。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は95×65㎝，深さ20㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「椀」状にちかい。長軸方位はＮ－89°－Ｗを示し，ほぼ東西にとる。焼土は5㎝程の厚さをもって坑底にほぼ充満するが，軟質で暗褐色土等の混入も多い。なお，坑底には径15㎝程の小坑をみるが，焼土下部にありながらそれらの混入はまったく無い黒褐色土を埋土する。第12号炉穴跡の小坑と同様に本炉穴跡構築以前の樹根痕と判断している。

遺物　なし。

第16号炉穴跡（第208図，図版第286）

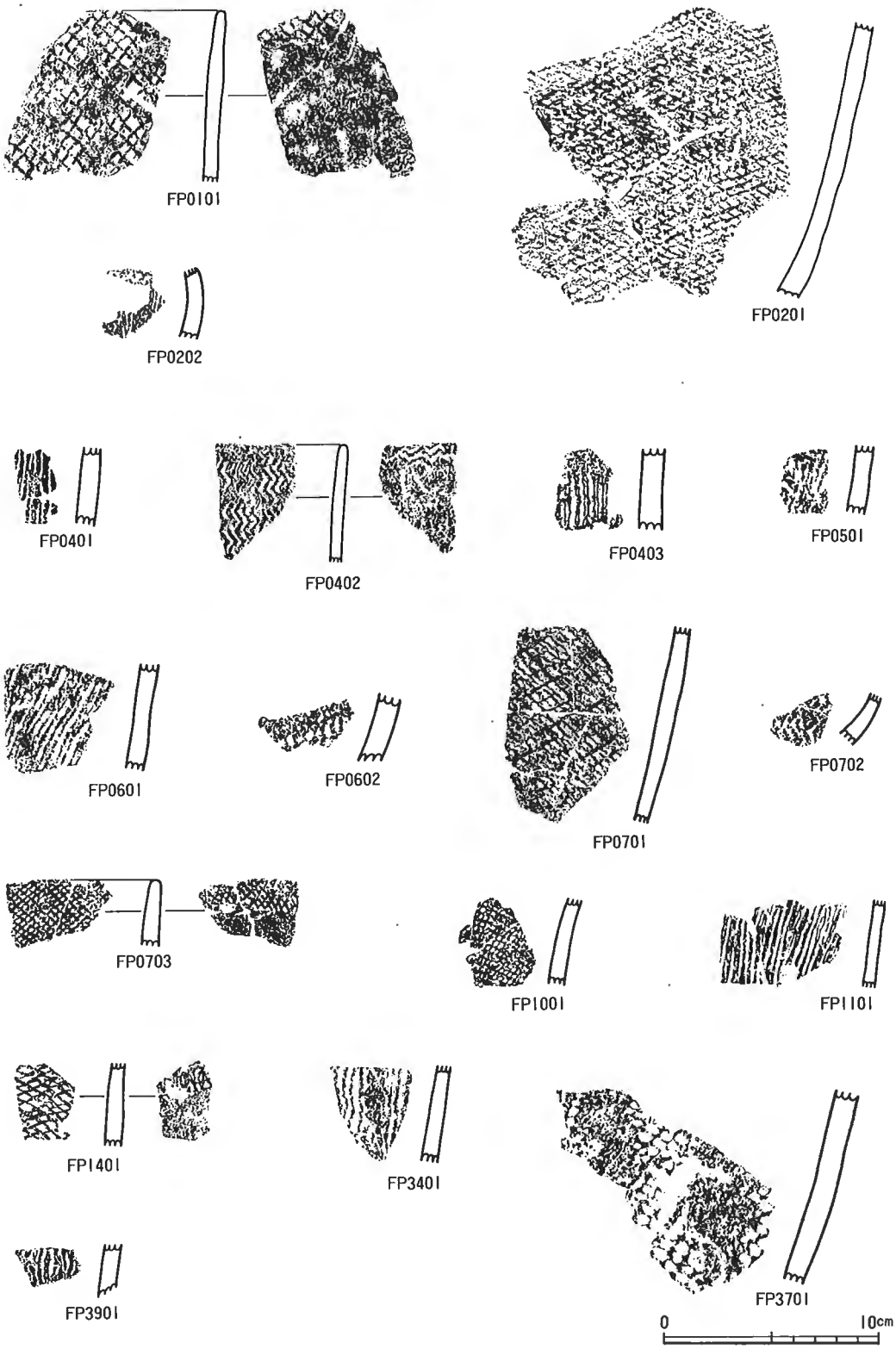
位置　Ｃ－12グリッド中央東辺に検出される。標高157.5～158.0ｍ付近にあたり，Ｂ地区平坦面を南面する斜面の中腹に位置する。南側に2ｍ程すると標高157.5ｍラインをみる。これに平行して東側より西側へ第9号土坑跡，第52・14・24・15号炉穴跡が列状に存在する。北側に4ｍ程して第17･25号炉穴跡，西側に7ｍ程して第8号竪穴住居跡をみるが，それらには比較的距離をおいている。東側は3ｍ程で調査区外に達する。

構造　形状は炉部と足場が区別されて，不整の長円形を呈する。規模は115×70㎝，深さは炉部で30㎝，足場で15㎝程を測る。炉部の規模は70×70㎝で「椀」状に窪む。断面は20㎝程の足場をもって「達磨」状となる。長軸方位はＮ－39°－Ｅを示し，等高線に平行する。焼土は5㎝程の厚さをもって炉部凹部内に充満するが，軟質で，底面，及び上部には炭化物・灰等の混入土がそれをまいている。

遺物　なし。

第17号炉穴跡（208図，図版第287）

位置　Ｂ－12グリッド中央南辺に検出される。調査区境線上である。標高158.5ｍ付近にあたり，Ｂ地区斜面上に占地する炉穴跡群で第25号炉穴跡とともにもっとも高位に位置する。それは本遺跡においても最高位である。したがってそれ以北に遺構の確認はなく，Ｂ地区遺構群の北端としてさしつかえないであろう。西側へ1ｍ程して第25号炉穴跡，そこから8ｍ程して第8号竪穴住居跡，南側へ4ｍ程して第16号炉穴跡が存在する。調査区外に接するため不明な部分が多いが，第25号炉穴跡以外には比較的距離をおいて存在することから，新たな遺構群が調査区外へ延長していることも予想される。



第209図　炉穴跡内出土土器拓影図①

構造　形状は略円形を呈し，規模は85×70㎝，深さ35㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「椀」状となるが，坑中段が若干の段をもって2段掘り的形状をなす。しかし，これは本炉穴跡周辺に地山の小礫層が露出して構築に不利であったためで，意図的なものではない。長軸方位はN－53°－Wを示す。焼土は非常に硬質で20㎝程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がって厚く堆積する。底面，壁面には前述するように小礫が露出する。

遺物　なし。

第18号炉穴跡（第208図，図版第287）

位置　D－14グリッド北東隅に検出される。標高156.5～157.0m付近にあたり，B地区平坦面の中央部であり，また炉穴跡，集石土坑跡，土坑跡等によって構成される遺構群の中央部に位置する。南側へ2m程して第4号土坑跡，それに接して第19号炉穴跡，北側へ3m程して第12号炉穴跡が列状となって存在する。したがって東・西側に遺構が空白となり，東側へ6m程して第50・51号炉穴跡，西側へ4m程して第1号集石土坑跡に接するにすぎない。

構造　形状は長円形を呈し，規模は120×70㎝，深さ15㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「皿」状で，炉部・足場が区別される長円形炉穴跡とは構造上，若干の相違をみる。長軸方位はN－81°－Wを示し，ほぼ東西にとって等高線に平行する。焼土は非常に軟質で，炭化物とともに黄褐色土に混入されるにすぎず，坑底に浮く。その範囲も35×25㎝，厚さ5㎝程で，前掲してきた炉穴跡の有り方と完全に異なる。使用頻度によるか，構造は第19号炉穴跡，第4号土坑跡の両者に類似している。

遺物　なし。

第19号炉穴跡（第210図，図版第287）

位置　D－14グリッド南東隅にD－15グリッドへまたがって検出される。標高156.5m付近にあたり，B地区平坦面に南北におよそ列状となる遺構群の南辺に位置する。北壁を接するように第4号土坑跡，南側へ2m程して第21号炉穴跡が存在する。東・西側は前述するように遺構が空白となり，それぞれ5m程で東側に第51号炉穴跡，西側に第1号集石土坑跡をみる。

構造　形状は長円形を呈し，規模は130×75㎝，深さ20㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「皿」状で，炉部・足場が区別される長円形炉穴跡とは構造上、若干の相違をみて第18号炉穴跡に類似する。長軸方位はN－78°－Wを示し，これもちかい。焼土は5㎝程の厚さをもって坑底にほぼ充満するが，軟質で暗褐色土の混入も多い。底面には炭化物・灰等を混入する明褐色土をみる。

遺物　なし。

第20号炉穴跡（第210図，図版第287）

位置　F－14・15グリッドにまたがって検出される。標高156.0m付近にあたり，B地区の小規模平坦面が南東方向にしたがい，D地区の広域平坦面に変ろうとする接点部分に位置する。南西方向は徐々に標高を減じて中央凹地帯内に没する。比較的遺構は疎となって，もっともち

かく西側へ4m程して第49号炉穴跡，それぞれ7m程で北側に第21号炉穴跡，東側に第48号炉穴跡が存在する。南側は広く遺構に疎隔される。

構造　形状は略円形を呈し，規模は85×65㎝，深さ30㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「椀」状である。長軸方位はN－88°－Wを示す。焼土は硬質で15㎝程の厚さをもって坑底に充満する。底面には炭化物混入土をみる。

遺物　なし。

第21号炉穴跡（第210図，図版第288）

位置　E－14･15グリッドにまたがって検出される。標高156.0～156.5m付近にあたり，B地区の小規模平坦面の南辺，つまりそこに南北に列状となって形成される遺構群の南端に位置する。したがって北側は2m程して第19号炉穴跡，さらに第4号土坑跡，第18号炉穴跡と連続するが，南側は7m程して第20・48号炉穴跡，東西も同様に5m程して東側に第51号炉穴跡，西側に第1号集石土坑跡をみる以外，遺構は空白となる。

構造　形状は略円形を呈し，規模は70×60㎝，深さ15㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は坑底が平坦であり，「U」字状が推測される。長軸方位はN－9°－Wを示す。焼土は非常に軟質で，炭化物とともに暗褐色土に混入されるにすぎず，坑底に浮く。その範囲も20×15㎝，厚さ5㎝程で，その有り方は第18号炉穴跡に類似する。それより本炉穴跡に至る第4号土坑跡，第19号炉穴跡を含めて，それぞれは直接･間接の類似点をもち合わせて特異な構成をなす。

遺物　なし。

第22号炉穴跡（第210図，図版第288）

位置　F－13グリッド中央西辺に検出される。標高156.0m付近にあたり，前述長者ヶ峰が南方へ大きく迫り出してC地区と分岐し，標高156m･157mラインによってB地区の小規模平坦面が形成される，西辺に位置する。それより南面すると中央凹地帯に没する。西側に3m程して第9号炉穴跡，それに隣接して第9号竪穴住居跡，東側に6m程して第49号炉穴跡が存在する。南・北側は遺構が空白となり，東西に第9号炉穴跡から本炉穴跡，第49・20・48号炉穴跡とほぼ等間隔にB地区平坦面の外周を列状に配されている。

構造　形状は略円形を呈し，規模は65×50㎝，深さ15㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「U」字状が推測される。長軸方位はN－17°－Eを示す。焼土は非常に軟質で，赤褐色土を混入して坑底に40×20㎝，厚さ5㎝程の範囲をもって堆積する。上部には炭化物混入黄褐色土が覆う。

遺物　なし。

第23号炉穴跡（第210図，図版第288）

位置　D－13･14グリッドにまたがって検出される。標高156.5～157.0m付近にあたり，B地区平坦面の中央部であり，また炉穴跡，集石土坑跡，土坑跡群等に構成される遺構群の中央

部に位置する。北東壁に接するように第12・13号炉穴跡，西側へ2m程して第11号炉穴跡，南側へ4m程して第1号集石土坑跡，南東側へは第18号炉穴跡，第4号土坑跡等が列状に連続して存在する。

構造　形状は比較的角張って1辺を長くもつが，ここでは略円形におく。規模は65×50㎝，深さ10㎝強を測る。これは坑上半部をとくに削取されている。断面は「椀」状が予想される。長軸方位はN－47°－Eを示す。焼土は10㎝程の厚さをもって坑底残存部に充満するが，軟質で炭化物・灰，褐色土等を多く混入する。

遺物　なし。

第24号炉穴跡（第210図，図版第288）

位置　C－12グリッド東端にC－13グリッドへまたがって検出される。標高157.5m付近にあたり，B地区平坦面が北側へ徐々に傾斜を開始しようとする箇所である。本炉穴跡をとりまくようにそれぞれ1m程して東側より第14・16・15号炉穴跡が反時計回りに存在する。南側は4m程離れて第11号炉穴跡に接するが，若干遺構が空白となる。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は90×65㎝，深さ25㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「椀」状である。長軸方位はN－87°－Eを示す。焼土は硬質で10㎝程の厚さをもって坑底に充満する。底面，及び上部には炭化物・灰を混入する灰褐色土をみる。

遺物　なし。

第25号炉穴跡（第210図，図版第289）

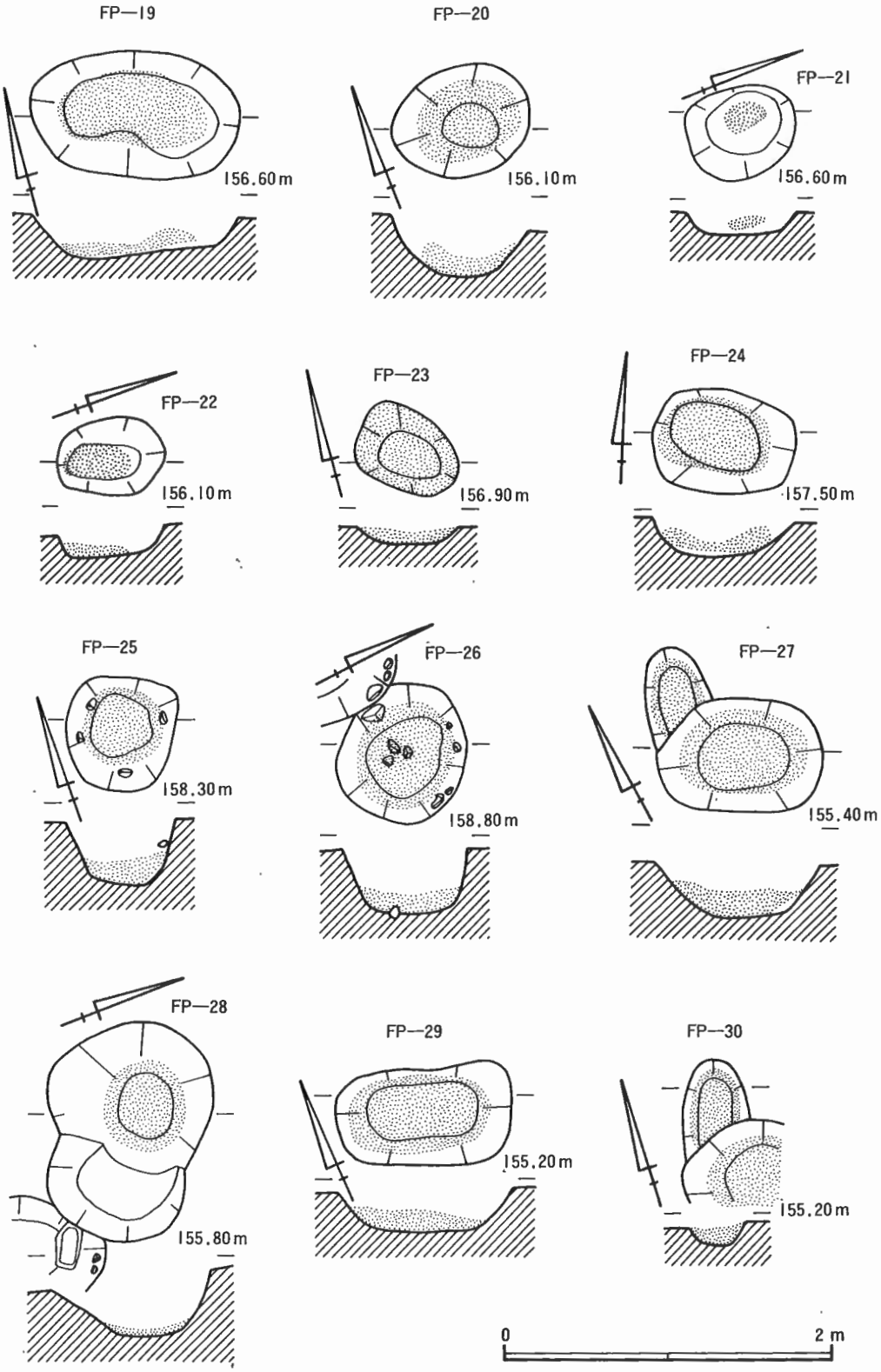
位置　B－12グリッド南西端にC－12グリッドへまたがって検出される。標高158.5m付近にあたり，B地区斜面上に占地する遺構群で第17号炉穴跡とともにもっとも高位に位置する。また炉穴跡では本遺跡においても最高位である。したがってそれ以北に遺構の確認はなく，B地区遺構群の北端としてさしつかえないであろう。東側へ1m程して第17号炉穴跡をみて調査区外となるが，それ以外の遺構に比較的距離をおいて存在することから，新たな遺構群が調査区外へ延長していることも予想される。

構造　形状は東壁が若干突出するが，略円形の範疇におく。規模は70×65㎝，深さ40㎝を測る。断面は「U」字状である。坑底は地山礫層に掘り込まれている。長軸方位はN－28°－Eを示す。焼土は非常に硬質で15㎝程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がって厚く堆積する。なお，本炉穴跡は地山礫層を壁面とすることもあって，壁面が焼けた状況が看取される。また焼土上層の埋土中には拳大の礫4個が認められる。

遺物　なし。

第26号炉穴跡（第210図，図版第289）

位置　F－22グリッド中央西辺に，第33号炉穴跡と西壁を重複して検出される。重複面が僅かであり新旧関係は不明である。標高155.5m付近にあたり，D地区広域平坦面の東辺，竪穴住居跡，炉穴跡，集石土坑跡，土坑跡等によって構成される遺構群の北辺に位置する。第33号



第210図　炉穴跡実測図③

炉穴跡は第28号炉穴跡にも重複している。さらに西側へ3m程して第2号集石土坑跡，南西側に2m程して第13号竪穴住居跡に接する。それには第14・15・16号竪穴住居跡と数基の炉穴跡が重複しあう。

構造　形状は略円形を呈し，規模は85×75cm，深さ40cmを測る。断面は「U」字状である。長軸方位はN－43°－Wを示す。焼土は非常に硬質で12cm程の厚さをもって坑底に充満する。底面には炭化物・灰等をみる。

遺物　石鏃II類b－4種（807）・II類b－5種（1318），同II類C－2種（1597）が出土する。

第27号炉穴跡（第210図，図版第289）

位置　G－22グリッド中央南端に，第30号炉穴跡と北壁を重複して検出される。第30号炉穴跡より新しい。標高155.0～155.5m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の南端に位置する。北側に1m程して第29号炉穴跡，それに重複して第15号竪穴住居跡，西側へ2m程して第14竪穴住居跡，さらに重複して第34・35号炉穴跡等が集中して存在する。南側は遺構に疎隔され，東側は4m程で調査区外へ達するが，その間に遺構はない。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は100×70cm，深さ30cmを測る。坑上半部を削取されている。断面は外開きの「U」字状である。長軸方位はN－57°－Eを示す。焼土は非常に硬質で15cm程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がって厚く堆積する。

遺物　なし。

第28号炉穴跡（第210図，図版第289）

位置　F－21・22グリッドにまたがって，第33号炉穴跡と南壁を重複して検出される。重複面が僅かであり新旧関係は不明である。標高155.5m付近にあたり，D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の北端に位置する。それ以北・東は2m程で調査区外に達するが，平坦面はひろく延長していく。第33号炉穴跡はさらに東壁を第26号炉穴跡と重複する。西側へ1m程して第2号集石土坑跡，第5号土坑跡，南側へ2m程して第13号竪穴住居跡から第16号竪穴住居跡へ続く。北・東側は遺構が断絶される。

構造　形状は炉部と足場が区別されて，「達磨」状を呈する。規模は135×100cm，深さは炉部で35cm，足場で15cm程を測る。炉部の規模は70×70cmで「椀」状に窪む。足場は30cmの平坦面となって，断面も「達磨」状となる。長軸方位はN－55°－Wを示す。焼土は2～3cm程の厚さをもってほぼ炉部凹部内に充満するが，軟質で炭化物・灰等の混入物が多い。

遺物　なし。

第29号炉穴跡（第210図，図版第290）

位置　G－22グリッド中央東辺に，第15号竪穴住居跡の南壁中央に重複して検出される。第15号竪穴住居跡より新しい。標高155.0～155.5m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の南東辺に位置する。南西側には隣接して

第30・27号炉穴跡をみる。西側へ2m程して第14号竪穴住居跡，それに重複して第34・35号炉穴跡が存在し，北側にむかって遺構が連続する。東側は4m程して調査区外へ達するが，その間に遺構はなく，それから南側はひろく遺構に疎隔されている。

構造　形状は長円形を呈し，規模は105×60㎝，深さ25㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は外開きの「U」字状で，炉部・足場が区別される長円形炉穴跡とは構造上，若干の相違をみる。長軸方位はN－67°－Wを示す。構造・長軸方位等，第27号炉穴跡に類似する。焼土は非常に硬質で15㎝程の厚さをもって坑底を充満する。

遺物　なし。

第30号炉穴跡（第210図，図版第290）

位置　G－22グリッド中央南東辺に，第27号炉穴跡と南側3分の1程を重複して検出される。第27号炉穴跡より古い。標高155.0～155.5m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の南端に位置する。北壁を接して第29号炉穴跡，第15号竪穴住居跡，西側へ2m程して第14号竪穴住居跡が存在し，前述の如く遺構がそれより北側にむけて連続する。南東側はひろく遺構に疎隔されている。

構造　平面プランの南側3分の1程を第27号炉穴跡に削除されて不明な部分が多い。形状は長円形が推測されるが，規模が――×40㎝，深さ10㎝と，極端に小形で異例である。坑上半部を削取されていることは明確であり，断面は「U」字状が予想される。長軸方位はN－10°－Eを示し，これも比較的特異である。焼土は確認面に露出しており，非常に硬質で10㎝程の厚さをもつ。底面にちかく炭化物・灰等の混入をみる。

遺物　なし。

第31号炉穴跡（第211図，図版第290）

位置　G－21グリッド中央東辺に検出される。標高155.0～155.5m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の西辺に位置する。それより西側は4m程して第3号集石土坑をみる以外，広く遺構に疎隔される。その面積は500㎡にも達し，遺構占地が斜面に沿う特徴を知る。東側は1m程で重複する竪穴住居跡，炉穴跡群をみる。もっとも隣接して第32・34・35号炉穴跡，第14・16号竪穴住居跡が存在する。

構造　形状は炉部と足場が区別されて，「達磨」状を呈する。規模は120×80㎝，深さは炉部で15㎝，足場で5㎝強を測る。坑上半部を多く削取され焼土が露出する状況となる。炉部の規模は70×60㎝で「皿」状に窪む。足場は20×30㎝程の平坦面となり，中央に径30㎝，深さ7㎝の小ピットをみる。焼土はそれまで及んでいない。断面は「達磨」状の範疇におく。長軸方位はN－68°－Wを示す。焼土は非常に硬質で5㎝程の厚さをもって坑底に充満するが，その上部には宅地造成工事によって削平された痕跡が残る。

遺物　なし。

第32号炉穴跡（第211図，図版第290）

位置　G－21グリッド中央東辺に，第16号竪穴住居跡に東壁を重複して検出される。第16号竪穴住居跡より新しい。標高155.0～155.5 m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。D地区広域平坦面の東辺に占地して，重複しあう遺構群の西端に位置する。西側へ1 m程して第31号炉穴跡，東側はそれぞれ重複して第16号竪穴住居跡から第13号竪穴住居跡，第34・35号炉穴跡に連続する。

構造　形状は整然としないが，炉部と足場の区別をもった，「達磨」状におく。したがって断面も同様の状況である。規模は105×65 cm，深さは炉部で10 cm，足場は若干窪んで15 cm程を測る。ピット状の落ち込みの設定も可能かも知れない。長軸方位はN—78°—Eを示す。坑上半部は多くを削取されて焼土が露出する。炉部も明確でないが40×40 cm程を予想しておく。焼土は非常に硬質で5 cm程の厚さをもって炉部側に残存する。足場側が低位にもかかわらず焼土の流入はない。

遺物　なし。

第33号炉穴跡（第211図，図版第291）

位置　F－22グリッド中央西辺に，第26・28号炉穴跡と・東壁を重複して検出される。その両者とも重複面が僅かであるため新旧関係は不明である。標高155.5 m付近にあたり，D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の北辺に位置して，北側へ若干傾斜をもとうとする箇所である。北・東側は即，調査区外となり，北西側に2 m程して第2号集石土坑跡，南側は壁を接して第13号竪穴住居跡，それに重複する第36号炉穴跡，第5号土坑跡等が存在し，以下南側にむかって遺構が連続する。

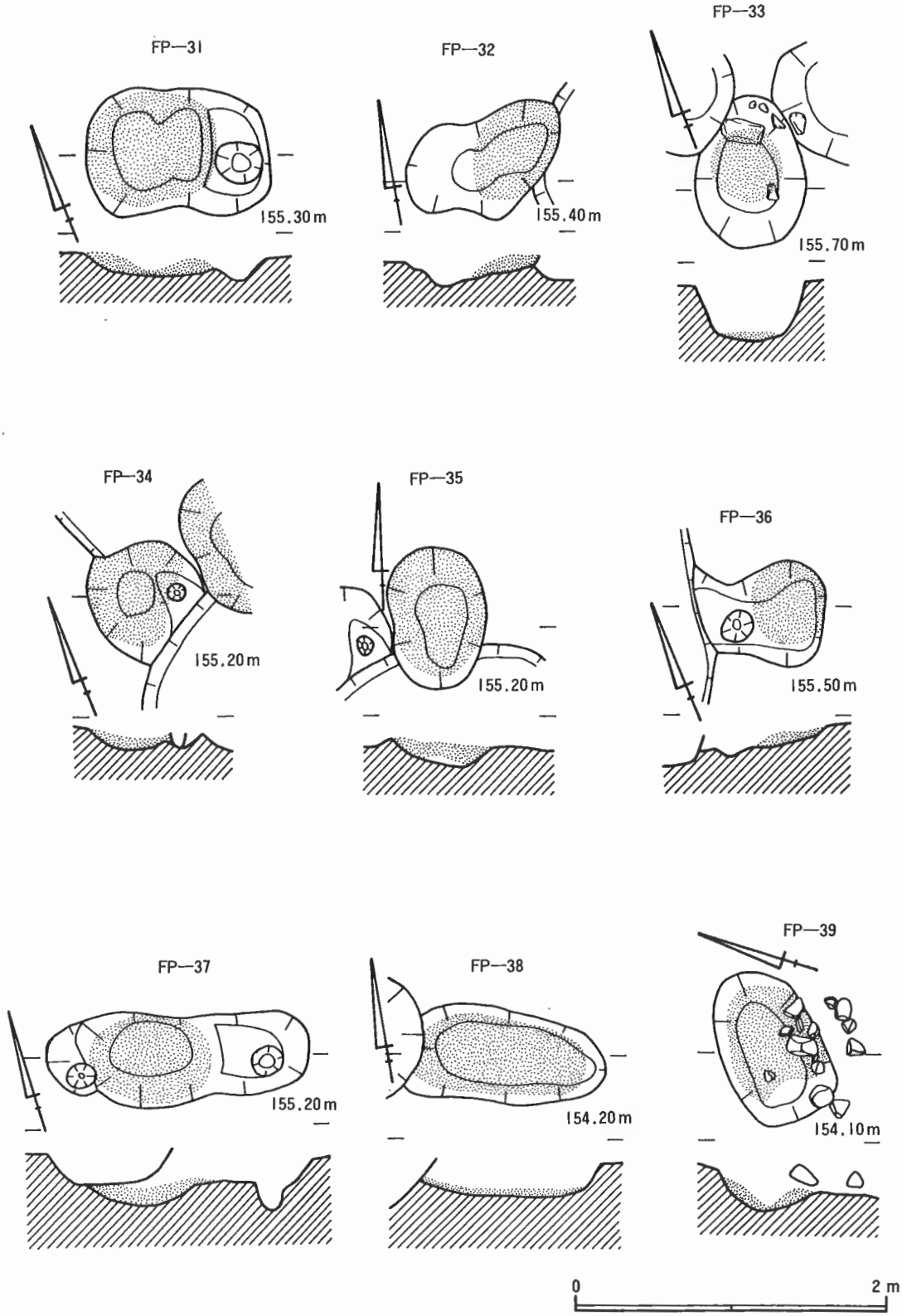
構造　形状は楕円形を呈し，規模は95×70 cm，深さ35 cmを測る。断面は「U」字状である。長軸方位はN－27°－Eを示す。焼土は5 cm程の厚さで坑底の北側3分の2程に堆積する。他に比して焼土は薄いが純度はたかいものである。坑底，壁面には地山礫が露出する。

遺物　石鏃II類b－5種（1274）が出土する。

第34号炉穴跡（第211図，図版第291）

位置　G－22グリッド西端に第14・16号竪穴住居跡と南・北壁を重複して検出される。第14号竪穴住居跡より古く，第16号竪穴住居跡より新しい。標高155.0～155.5 m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の中央より南西辺に位置する。東壁を接して第35号炉穴跡，それより第15号竪穴住居跡等が重複しあう。西側に2 m程して第31号炉穴跡が存在する。

構造　平面プランの南側3分の1程を第14号竪穴住居跡に削取されて不明な部分が多い。残存部より推測すると「達磨」状にちかい。規模は——×70 cm，深さ10 cmを測る。断面は明確な炉部と足場はともかく，「達磨」状となっている。長軸方位はN－15°－Wを示すであろう。坑上半部を削取されるため，坑底の焼土が露出し，その厚さは5 cm程となる。非常に硬質であり，坑底を充満するが，足場側で径10 cm程の小坑に切られる。したがって小坑は本炉穴跡に伴うも



第211図　炉穴跡実測図④

のではない。

遺物　石鏃II類b－1種（381）が出土する。

第35号炉穴跡（第211図，図版第291）

位置　G－22グリッド中央西辺に，第14･16号竪穴住居跡と南･北壁を重複して検出される。第14・16号竪穴住居跡より新しい。標高155.0～155.5m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の中央より若干南側に位置する。西壁を接して第35号炉穴跡，東側には第15号竪穴住居跡が存在し，またそれぞれに炉穴跡，竪穴住居跡等が重複していく。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は90×65cm，深さ15cmを測る。坑上半部を多く削取され，すでに焼土が露出している状況である。断面は「椀」状が予想される。長軸方位はN－1°－Wを示し，ほぼ南北にとる。焼土は非常に硬質で15cm程の厚さをもって坑底に充満する。底面には炭化物の混入をみる。

遺物　なし。

第36号炉穴跡（第211図，図版第291）

位置　F－22グリッド中央南辺に，第13号竪穴住居跡に西壁を重複して検出される。第13号竪穴住居跡より古い。標高155.5m付近にあたり，D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の中央より東辺に位置して，北側へ若干傾斜をもとうとする箇所である。東側は2m程して調査区外に達する。西側は第13号竪穴住居跡から重複して第16･15号竪穴住居跡，第33号炉穴跡，第5号土坑跡等が南北に続く。

構造　西壁を第13号竪穴住居跡に削取されるが，形状は「達磨」状であることが予想される。規模は――×70cm，深さ10cmを測る。坑上半部は多く削取され，すでに焼土が露出している状況である。また炉部・足場も明確な差をもたないが，若干の窪みをみて略「達磨」状におく。炉部の規模は50×40cm程である。足場中央には径20cm程にピットにはあてられない「窪み」をもつ。この状況は第32号炉穴跡に類似している。長軸方位はN－66°－Wを示す。焼土は炭化物・灰，および黄褐色土等に混入され，軟質で5cm程の厚さをもって炉部凹部内北寄りにほぼ充満する。「窪み」内に焼土は及んでいない。

遺物　なし。

第37号炉穴跡（第211図，図版第292）

位置　H－21・22グリッドにまたがって検出される。標高155.0m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ除々に標高を減じようとする箇所である。北側に4m程してD地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群のうち，第14号竪穴住居跡に接する。他は南側へ10cm程して第17･18号竪穴住居跡，第4号集石土坑跡等，F地区と称した調査区の遺構群に達するまで，広く遺構に疎隔されて，単独的な存在となる。

構造　西壁を土坑状ピットによって攪乱されるが，形状は炉部と足場が区別された，長円形

を呈することが知れる。規模は150×60㎝，深さは炉部で30㎝，足場で20㎝を測る。断面は「達磨」状となり，炉部の規模は50×40㎝で「皿」状に窪み足場は50×30㎝程の平坦面をもつ。足場東壁に径20㎝，深さ15㎝程の小ピットをみる。これには炭化物・焼土粒子を混入した暗褐色土が堆積する。長軸方位はN－74°－Wを示す。焼土は硬質で10㎝程の厚さをもって炉部凹部内に充満する。底面，および上面には炭化物を混入する明褐色土をみる。

遺物　上面より押型文土器1点と縄文土器1点が出土する。押型文土器（FP 3701）は山形文が細長く，型が崩れたような文様が施文される。縄文土器（FP 3702）は節の大きいRLの斜縄文が帯状に施文される。

第38号炉穴跡（第211図，図版第292）

位置　J－26グリッド中央西端に，第5号集石土坑跡と西壁を重複して検出される。第5号集石土坑跡より古い。標高154.0～154.5m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ延長されながら，急激に標高を減じて慈眼寺沢川へ没する肩部にあたる。南東側へ4m程する地点であり，その比高は20m程を測る。東側は4m程で調査区外に達する。西側へ4m程して第43号炉穴跡に接し，それ以西には竪穴住居跡，炉穴跡等によって構成される遺構群が存在する。これをF地区遺構群と便宜上，呼称している。

構造　形状は長円形を呈し，規模は略130×60㎝，深さ20㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「皿」状で，炉部・足場が区別される長円形炉穴跡とは構造上，若干の相違をみる。長軸方位はN－76°－Wを示す。焼土は非常に軟質で，炭化物とともに明褐色土に混入されるにすぎず，その厚さも2～3㎝程で坑底をほぼ覆う。

遺物　なし。

第39号炉穴跡（第211図，図版第292）

位置　J－24グリッド中央東辺に，第3号集石跡を重複して検出される。第3号集石跡より古い。標高154.0m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ延長されながら，新たにF地区にしたがい弱い谷地形を形成する基点域に位置する。したがってそれはそこから南西側に扇状に展開される。南側へ1m程すると本炉穴跡同様に第3号集石跡に覆われて第40号炉穴跡をみる。北西側へ2m程して第42号炉穴跡，第6号土坑跡，さらに第17・18号竪穴住居跡等が存在する。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は100×65㎝，深さ20㎝を測る。上部を第3号集石跡が覆うが，それが本来の構築深度であるか疑問である。周辺は傾斜が開始されるため「擂り鉢」状に窪んで南西側に開口している。断面は「椀」状である。長軸方位はN－49°－Eを示す。焼土は硬質で10㎝程の厚さをもって坑底に堆積するが，壁沿いに厚く，また北寄りである。

遺物　山形押型文土器1点が出土する（FP 3901）。

第40号炉穴跡（第212図，図版第292）

位置　K－25ポイントを中心に，第3号集石跡と重複して検出される。第3号集石跡より古

い。標高154.0 m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ延長されながら，南西側にむかって新たな弱い谷地形を扇状に展開する基点域に位置する。北側へ1 m程すると本炉穴跡同様に第3号集石土坑跡に覆われて第39号炉穴跡をみる。東側へ3 m程して第43号炉穴跡，南側へ5 m程して第53号炉穴跡，西側は5 m程すると第17・18号竪穴住居跡等の遺構群が存在し，それは南西側へ続く。

構造　形状は炉部と足場が区別されて，不整の長円形を呈する。規模は185×75 cm，深さは炉部で25 cm，足場で5 cm程を測る。第39号炉穴跡同様に上部を第3号集石跡が覆うが，それが本来の構築深度であるか疑問である。占地箇所が「擂り鉢」状に窪むことから，坑上半部の自然流出も考えられる。炉部の規模は110×55 cmで「皿」状に窪む。足場は50×50 cmの平坦面をもち，断面は「達磨」状となる。長軸方位はN－47°－Wを示す。焼土は非常に硬質で10 cm程の厚さをもって坑底に充満する。上部には炭化物を混入する灰褐色土が堆積する。

遺物　石器は磨石Ⅰ類a－2種（2310）が出土する。

土器は3点（FP 4001～03）が出土する。重複する第11号集石跡に伴うものかもしれない。

FP 4001は山形文と山形文の崩れたような文様が組み合わされた押型文が施文される。

FP 4002は節の細かいLRの斜縄文が帯状に施文される。

FP 4003は網目状撚糸文が施文される。

第41号炉穴跡（第212図，図版第293）

位置　J－23グリッド中央東辺に，第18号竪穴住居跡と西壁を重複して検出される。第18号竪穴住居跡より新しい。標高154.0～154.5 m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ延長され，F地区の弱い谷地形に変化しようとする箇所で，「擂り鉢」状に窪む基点域であるためとくに傾斜を急にもつ部分である。西側は第18号竪穴住居跡に重複して第17号竪穴住居跡をみる。北東側へ5 m程して第4号集石土坑跡，南東側へ2～3 m程して第6号土坑跡，第42号炉穴跡等が南西側にむかって群をなす。

構造　形状は炉部と足場が区別された，長円形を呈する。規模は130×70 cm，深さは炉部で40 cm，足場で30 cm程を測る。炉部の規模は40×40 cmで「皿」状に窪む。足場は50×40 cm程の平坦面をもち，断面は「達磨」状となる。長軸方位はN－67°－Eを示し，ほぼ東西にとる。焼土は非常に硬質で15 cm程の厚さをもって坑底から足場へせり出す。焼土上部から足場には焼土粒，炭化物混入土が覆う。

遺物　なし。

第42号炉穴跡（第212図，図版第293）

位置　J－24グリッド中央に検出される。標高154.0 m付近にあたり，F地区の弱い谷地形を南西面する斜面上である。そこは「擂り鉢」状に窪み，南西側に開口される扇状の基点域であるため比較的急斜面となる。西壁を接して第6号土坑跡をみる。東側へ2～4 m程して第39・40号炉穴跡，西側へ3 m程して第17・18号竪穴住居跡，第41号炉穴跡が存在する。

構造　形状は長円形を呈し，規模は100×55㎝，深さ15㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「皿」状で，炉部・足場が区別される長円形炉穴跡とは構造上，若干の相違をみる。長軸方位はN－56°－Wを示し，等高線に沿う。焼土は非常に軟質で，炭化物とともに明・黄褐色土に混入されるにすぎず，2～3㎝程の厚さで坑底をほぼ覆っている。この状況は第38号炉穴跡等に類似して，長円形，断面「皿」状の炉穴跡の特徴的な焼土の有り方を示す。

遺物　なし。

第43号炉穴跡（第212図，図版第293）

位置　J－25グリッド中央に検出される。標高154.0～154.5m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ延長されて，F地区の「擂り鉢」状凹部を上部から取り巻く肩部に位置する。平坦面はさらに南東側へ10m程続いた後，急激に標高を減じて慈眼寺沢川へ没する。東側へ3m程して第5号集石土坑跡，第38号炉穴跡，西側へ2m程して第39・40号炉穴跡，第3号集石跡が存在する。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は110×80㎝，深さ55㎝を測る。断面は「U」字状である。長軸方位はN－20°－Eを示す。焼土は非常に硬質で20㎝程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がって厚く堆積する。上部には炭化物混入暗褐色土が覆う。

遺物　なし。

第44号炉穴跡（第212図，図版第293）

位置　K－24ポイントに接して西側に検出される。南壁を風倒木痕から延びる小坑によって若干欠損する。標高は153.5～154.0m付近にあたり，F地区の「擂り鉢」状に窪んで南西側に開口される弱い谷地形のもっとも低く奥まった箇所に位置する。北壁を接するように第18号竪穴住居跡，それに重複して第17号竪穴住居跡，第41号炉穴跡をみる。東側は3～4m程して第39・40・42号炉穴跡，第3号集石跡等の遺構群へ続く。南側は10×10m程の範囲で遺構が空白となる。

構造　形状は北西壁が突出するが，不整の長円形の範疇におく。規模は115×70㎝，深さ35㎝を測る。断面は「U」字状で，東壁が若干外開きとなる。炉部・足場が区別される長円形炉穴跡とは構造上，若干の相違をみる。長軸方位はN－66°－Wを示す。焼土は5㎝程の厚さをもって坑底にほぼ充満するが，軟質で暗褐色土の混入も多い。また15㎝程上層まで焼土粒が混入されている。

遺物　石鏃II類C－2種（1598）が出土する。

第45号炉穴跡（第212図，図版第294）

位置　G－8グリッド中央東辺に検出される。標高157.0～157.5m付近にあたり，C地区平坦面の北東寄りに位置する。道路敷部分が攪乱されて明確でないが，C地区炉穴跡群では最北端となる。西側へ5m程して第6号集石土坑跡，南東側へ6m程して第47号炉穴跡，それから西側へむかって第46・2号炉穴跡とC地区炉穴跡群に続く。東側は15㎝程してB地区竪穴住居

跡群に達するまで広く遺構に疎隔される。

構造　形状は若干角張るが，楕円形の範疇におく。規模は80×55㎝，深さ15㎝を測る。坑上半部を削取されている。断面は「U」字状が予想されよう。長軸方位はN－52°－Wを示す。焼土は硬質で5㎝程の厚さをもって坑底に充満する。底面には多量の炭化物が焼土に混入し，上部も炭化物混入暗褐色土が覆う。

遺物　なし。

第46号炉穴跡（第212図，図版第294）

位置　H－9グリッド中央西辺に検出される。標高157.0m付近にあたり，C地区平坦面東寄り，炉穴跡群の東辺に位置する。したがって西側は5m程して第2号炉穴跡，さらに3・4号炉穴跡と続く。北側へ5m程して第45号炉穴跡，東側へ4m程して第47号炉穴跡が存在するが，南側は広く遺構の空白をみる。それから平坦面は10～15m程で中央凹部地帯へ没する斜面に変わる。

構造　形状は略円形を呈し，規模は85×70㎝，深さ45㎝を測る。断面は外開きの「U」字状である。長軸方位はN－75°－Wを示す。焼土は非常に硬質で10㎝程の厚さをもって坑底に充満し，東壁側によりせり上がる。底面には炭化物が混入され，上部も焼土・炭化物混入暗褐色土が覆う。

遺物　なし。

第47号炉穴跡（第212図，図版第294）

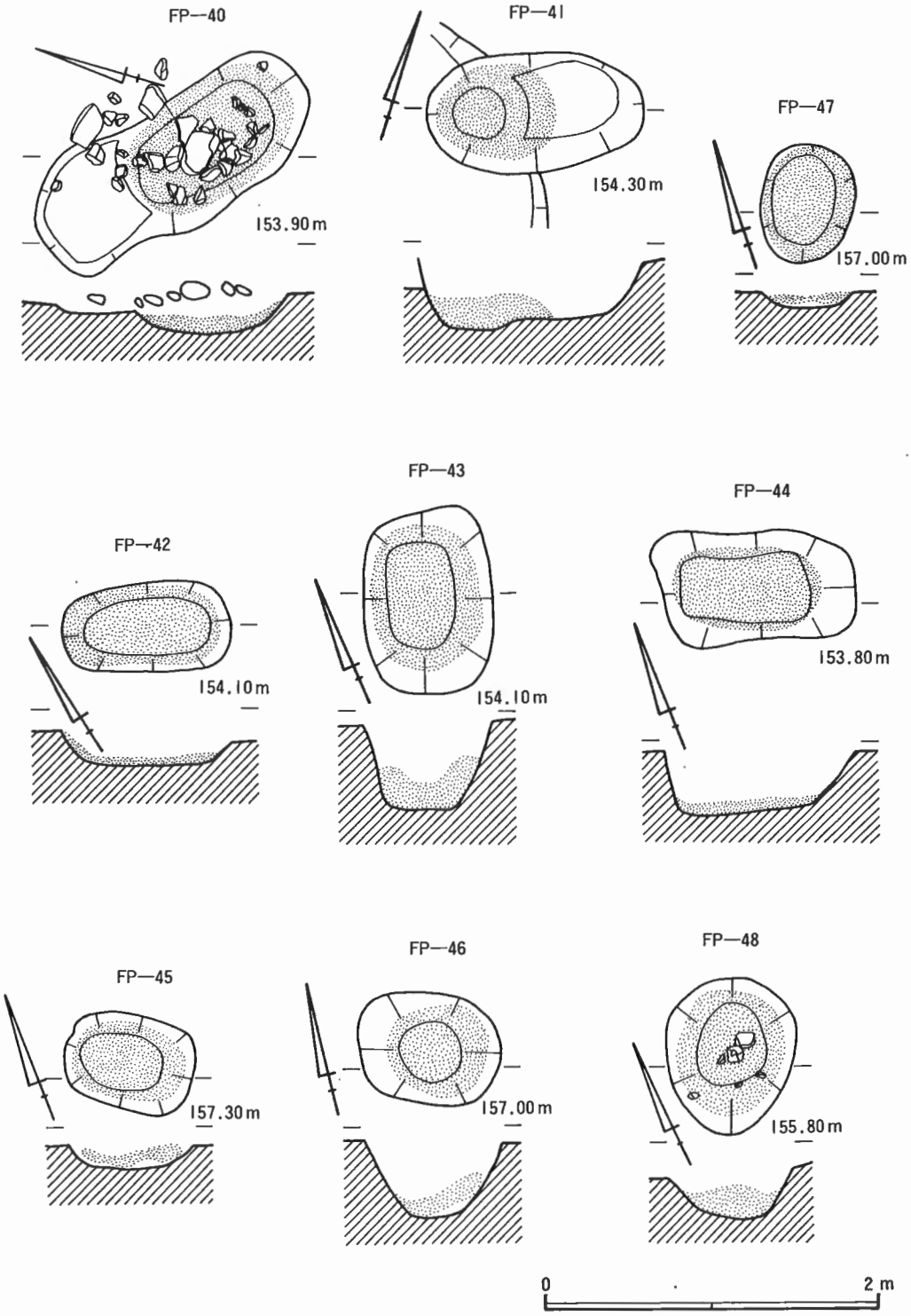
位置　G－9グリッド中央南辺に検出される。標高157.0m付近にあたり，C地区平坦面東辺，炉穴跡群の最東端に位置する。それより東側は前述長者ヶ峰が南方へ大きく迫り出してB地区と分岐される。したがって遺構は空白となる。南側は5m程平坦面が続いた後，中央凹地帯へ没する斜面に変わり，8m程して第1号竪穴住居跡から第7号竪穴住居跡によって構成される竪穴住居跡群に接する。西側へ4m程して第46号炉穴跡，北西側へ6m程して第45号炉穴跡が存在する。

構造　形状は略円形を呈し，規模は70×55㎝，深さ10㎝弱を測る。坑上半部の多くを削取されて，焼土が直接確認面に露出している状況である。断面は「U」字状が予想されよう。長軸方位はN－24°－Eを示す。焼土は硬質で5㎝程の厚さをもって坑底に充満するが，上部を削取されることから厚さは増そう。底面には炭化物・灰の混入をみる。

遺物　なし。

第48号炉穴跡（第212図，図版第294）

位置　E－16グリッド南西端に検出される。標高155.5m付近にあたり，B地区の小規模平坦面が南東方向にしたがい，D地区の広域平坦面に変ろうとする接点部分に位置する。南西方向は徐々に標高を減じて中央凹地帯内へ没する。比較的遺構は疎となって，もっともちかく西側へ7m程して第20号炉穴跡，北側へ同様の距離をもって第21号炉穴跡等が存在する。南側



第212図　炉穴跡実測図⑤

は10 m程して第7号集石土坑跡に達するまで広く遺構に疎隔され，B地区炉穴跡群の南東端にあたる。

構造　形状は略円形を呈する。西壁が風倒木痕より延びる小坑によって若干の攪乱を受ける。規模は95×80 cm，深さ30 cmを測る。坑上半部を若干削取されている。断面は「椀」状で，坑底には地山礫が露出する。長軸方位はN－25°－Eを示す。焼土は非常に硬質で20 cm程の厚さをもって，坑底から壁面にせり上がるように厚く堆積する。上部には炭化物を混入する茶褐色土が覆い，拳大から以下の小角礫が6個確認される。それに挟まれるように石器，土器片が検出される。

遺物　石器は石鏃II類C－2種（1599･1600），磨石I類a－3種（2236･2337）が出土する。

土器は7点（FP 4801～03，その他細片）が出土する。FP 4801は焼土上面より検出される。山形頂角の鈍角な山形文が密接して施文される。原体径6.7 mm。1周3単位。器厚7～9 mm。胎土に繊維・石英・長石・黒雲母・黄褐色粒が含有され，色調は暗茶褐色を呈する。

FP 4802は1周2単位の丸味を持つ山形文が施文される。器厚7 mm。色調は暗灰褐色を呈する。FP 4803は小さな格子目文が施文される。

第49号炉穴跡（第214図，図版第295）

位置　F－14グリッド中央に検出される。標高156.0 m付近にあたり，B地区の小規模平坦面が南側へ延長されながら，徐々に中央凹地帯へ没しようと肩部に位置する。B地区炉穴跡群の最南端であり，それ以南は30 m程して第8号集石土坑跡，第4号集石跡をみるまで広く遺構に疎隔される。東側へ4 m程して第20号炉穴跡，西側へ6 m程して第22号炉穴跡が存在し，北側は8 m程遺構が空白となって，B地区平坦面の外周を第9・48号炉穴跡等とともに列状に取り巻いている。

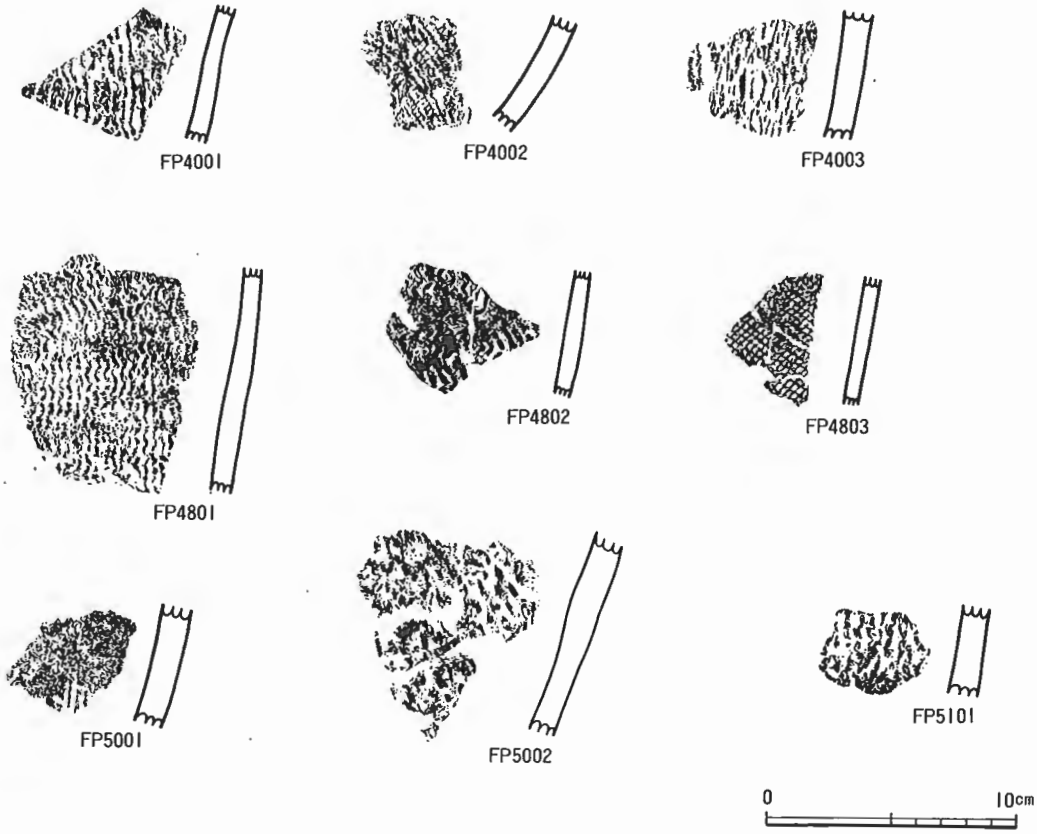
構造　形状は略円形を呈し，規模は80×65 cm，深さ30 cmを測る。坑上半部を削取されている。断面は「椀」状である。長軸方位はN－20°－Wを示す。焼土は20 cm程の厚さをもって坑底に充満するが，小礫等の混入物もあり軟質である。埋土全体に焼土粒・炭化物が混入される。

遺物　石鏃II類b－4種（788）が出土する。

第50号炉穴跡（第214図，図版第295）

位置　C－16グリッド西端に検出される。標高156.0～156.5 m付近にあたり，B地区平坦面が東側へむけて徐々に傾斜を始め，D地区広域平坦面を南面しようとする箇所である。東側は壁を接して調査不能箇所で，北側は4 m程して調査区外に達する。北西側は10 m程遺構が空白となり，西側も6 m程しないとB地区平坦面中央の炉穴跡群に接しない。南側は3 m程して第51号炉穴跡が存在する。調査不能箇所をみるが，一応B地区炉穴跡群の最東端にあたる。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は105×70 cm，深さ35 cmを測る。断面は「U」字状である。長軸方位はN－7°－Wを示し，ほぼ南北にとる。焼土は非常に硬質で10 cm程の厚さをもって坑底に充満する。底面には炭化物が混入される。焼土上部には2～5 cm程の小礫が7個確認され



第213図　炉穴跡内出土土器拓影図②

るが，本炉穴がある程度，埋没後の混入であろう。礫に火を受けた痕跡はまったくない。

遺物　撚糸文土器（ＦＰ 5001）と楕円押型文土器（ＦＰ 5002）が出土する。

ＦＰ 5001 は器面に気泡痕のような小さな穴が多数見られる厚手の撚糸文土器である。内面に厚く炭化物が付着する。

ＦＰ 5002 は胎土に黄褐色粒が多量に含有され，器面の凹凸が激しい土器である。楕円文は斜位に施文される。色調は茶褐色を呈する。

第 51 号炉穴跡（第 214 図，図版第 295）

位置　Ｄ－16 グリッド中央西辺に検出される。東壁側 3 分の 2 は調査不能である。標高 156.0 m付近にあたり，Ｂ地区平坦面が東側へむけて徐々に傾斜を始め，Ｄ地区広域平坦面を南面しようとする箇所である。東側は調査不能帯を越えて 7 m程むかうと第 12・19・20 号竪穴住居跡群に達する。南・西側も比較的遺構に遠く，５～８ m程しないとＢ地区平坦面中央の炉穴群に接しない。北側は 3 m程して第 50 号炉穴跡が存在する。

構造　全形状を確認できないが，略円形～楕円形，規模は長径 110 cm程が予想される。深さは 30 cmを測る。断面は「椀」状である。長軸方位は確認される壁からほぼ南北にとろう。焼土は 10 cm程の厚さをもって坑底に充満する。底面，および上部には炭化物を混入する明褐色土をみる。

遺物　上面より山形押型文土器が出土する（ＦＰ 5101)。

第 52 号炉穴跡（第 214 図，図版第 295）

位置　Ｃ－13 グリッド中央北辺に検出される。標高 157.5 m付近にあたり，Ｂ地区平坦面が北側へ徐々に傾斜を始めようとする箇所である。東側は壁を接するように第 9 号土坑跡，それよりは調査区外となる。南側は若干の遺構空白地帯を作り，南西側へ 5 m程して第 12･13 号炉穴跡等に接し，それらは群をなす。西側は同等高線上に第 14・15・24 号炉穴跡等が続く。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は 90×60 cm，深さ 25 cmを測る。坑上半部を削取されている。断面は「椀」状である。長軸方位はＮ－51°－Ｗを示す。焼土は非常に硬質で 15 cm程の厚さをもって，坑底からさらに壁面にせり上がって厚く堆積する。上部にも焼土粒・炭化物の混入土が覆い，確認面ですでに炉穴跡と把握されている。坑底に径 15 cm程の小坑をみるが，それは焼土･炭化物等を混入しない黒褐色土が埋土であり，第 12 号炉穴跡の小坑と同様に樹根痕であると判断する。

遺物　なし。

第 53 号炉穴跡（第 214 図，図版第 296）

位置　Ｋ･Ｌ－25 グリッドにまたがって検出される。標高 153.5～154.0 m付近にあたり，Ｄ地区広域平坦面が南側へ延長され，Ｆ地区の弱い谷地形を馬蹄形に取り囲く東側斜面に位置する。東側は 8 m程平坦面が続いた後，急激に標高を減じて慈眼寺沢川へ没する。その間，遺構はない。北側へ 5 m程して第 40 号炉穴跡，第 3 号集石跡が存在し，南側は 1 m程して第 55 号炉穴跡から第 54･57 号炉穴跡と列状になって連続する。したがって西側は竪穴住居跡群に達するまで 10×10 m程の遺構空白地帯が作られる。

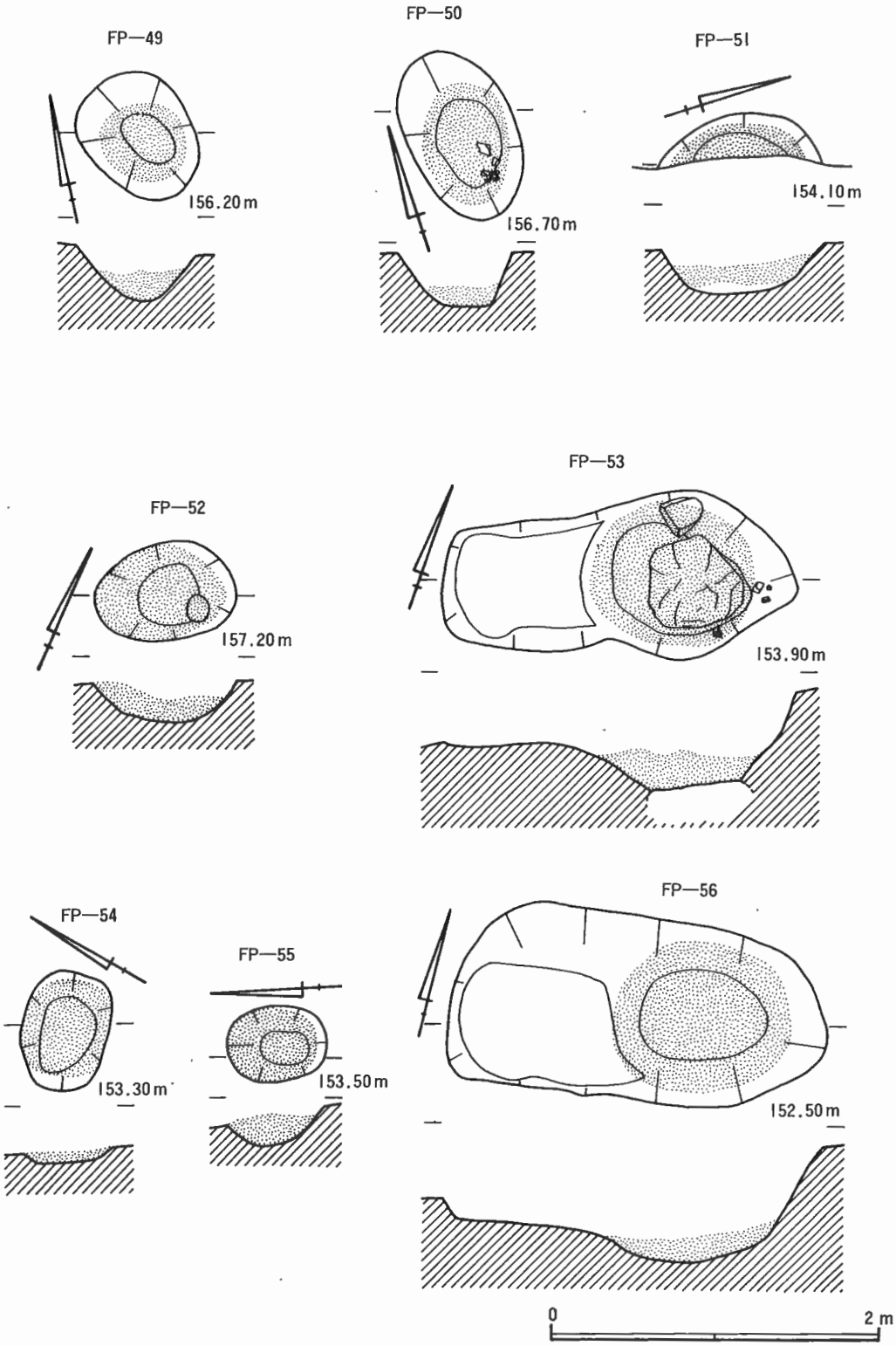
構造　形状は炉部と足場が区別された，不整の長円形を呈する。規模は 215×105 cm，深さは炉部で 50 cm，足場で 5 cm程を測る。これは斜面構築と，足場部分を宅地造成工事によって削取されるためであり，炉部と足場は 25 cm程の差をもってなる。炉部の規模は 90×80 cmで「椀」状に窪み，坑底には地山の巨礫が露出する。足場は 70×50 cm程の平坦面をもち，断面は「達磨」状の範疇となる。長軸方位はＮ－67°－Ｅを示し，等高線に直交する。焼土は非常に硬質で 20 cm以上の厚さをもって炉部凹部内に充満する。その量と純度は他を圧倒する。

遺物　なし。

第 54 号炉穴跡（第 214 図，図版第 296）

位置　Ｌ－25 グリッド中央西辺に検出される。標高 153.5 m付近にあたり，Ｆ地区の弱い谷地形を馬蹄形に取り囲む東側斜面に位置する。北側へ 1 m程して第 55 号炉穴跡，さらに第 53 号炉穴跡，南西側へ 3 m程して第 57 号炉穴跡をみる。それらは列状となり，西側斜面に占地する竪穴住居跡群と 10 cm程離れて相対する。

構造　形状は楕円形？を呈し，規模は 75×50 cm，深さ 5 cmを測る。坑上半部の大部分を削取され，焼土がすでに露出している。したがって，本炉穴跡が炉部と足場が区別される炉穴跡で



第214図　炉穴跡実測図⑥

ある可能性もある。断面は「皿」状である。長軸方位はN－65°－Eを示す。これは前述の第53号炉穴跡に同様である。焼土は硬質で5㎝程の厚さをもって坑底に充満するが，上部を削取されることから厚さはそれ以上となろう。

遺物　なし。

第55号炉穴跡（第214図，図版第296）

位置　L－25グリッド中央に検出される。標高は153.5～154.0m付近にあたり，F地区の弱い谷地形を馬蹄形に取り囲む東側斜面に位置する。北側に1m程して第53号炉穴跡，南側へ同様に第54号炉穴跡が存在する。さらに5m程すると第57号炉穴跡をみて，それらは列状となり，西側斜面に占地する竪穴住居跡群と10m程離れて相対する。

構造　形状は楕円形？を呈し，規模は60×45㎝，深さ15㎝を測る。坑上半部の大部分を削取され，焼土がすでに露出している。したがって，第54号炉穴跡同様に炉部と足場が区別される炉穴跡である可能性もある。断面は「椀」状である。長軸方位はN－2°－Wを示し，ほぼ南北にとるが，炉部と足場が区別される炉穴跡と仮定すると，東西に長軸をとって第53・56・57号炉穴跡等と同様になる。焼土は硬質で20㎝程の厚さをもって坑底に充満するが，上部を削取されることから厚さはそれ以上となろう。

遺物　なし。

第56号炉穴跡（第214図，図版第296）

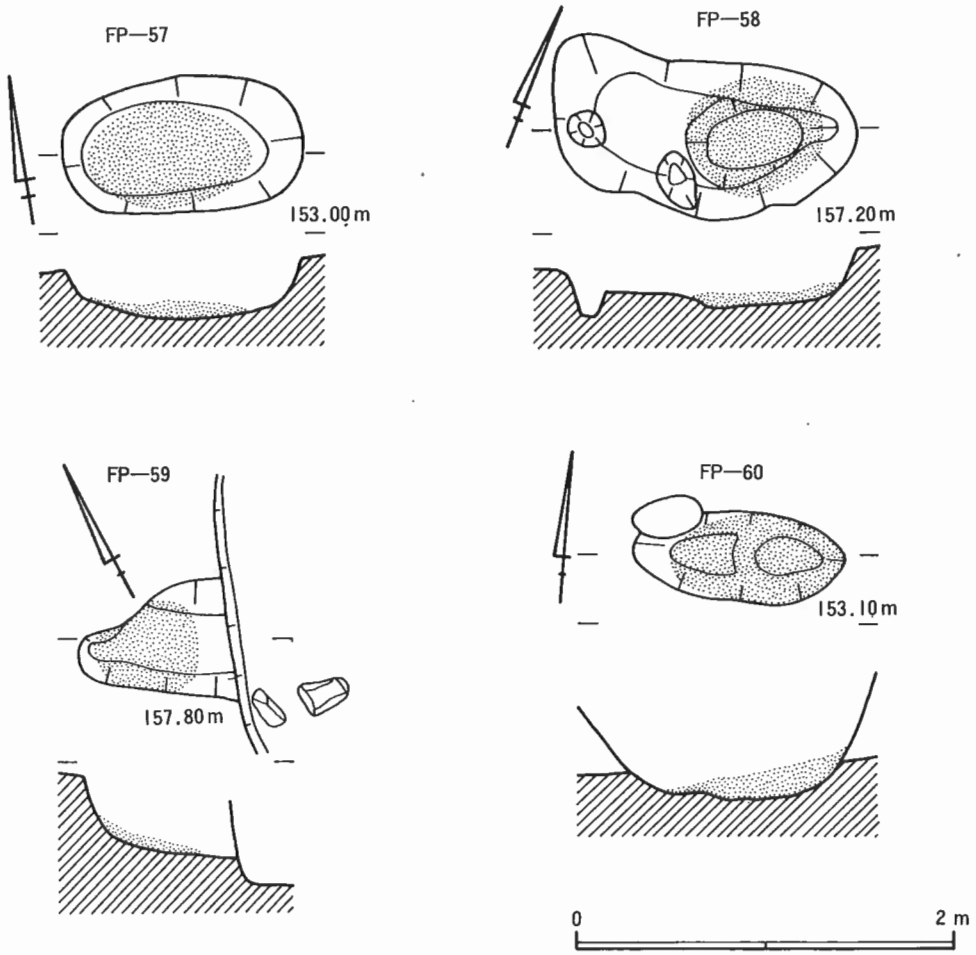
位置　N－22グリッド中央に検出される。標高152.0～152.5m付近にあたり，本遺跡検出遺構のうちもっとも標高を低くもつ。F地区の弱い谷地形が若干の平坦面を有して南西側にむかい，徐々に標高を減じていく部分である。それ以西は25m程して第12号土坑跡をむかえるまで広く遺構に疎隔される。それぞれ5m程して北側に第24号竪穴住居跡，東側に第10号土坑跡，南側に第58号炉穴跡が存在する。

構造　形状は炉部と足場が区別された，不整の長円形を呈する。西壁の上部2分の1程が風倒木痕，それより延びる樹根痕等によって攪乱されるが全体形状を変えるほどではない。規模は230×110㎝，深さは炉部で65㎝，足場で20㎝程を測る。これは斜面構築と，足場を攪乱されるためであり，その差は20㎝程である。本遺跡にもっとも大形の炉穴跡である。炉部の規模は100×100㎝で「椀」状に窪む。足場は80×60㎝程の平坦面をもち，断面は「達磨」状となる。長軸方位はN－82°－Eを示し，ほぼ東西にとって等高線に直交する。焼土は非常に硬質で15㎝程の厚さをもって炉部凹部内に充満する。その量と純度は他を圧倒し，炉底は硬化している。

遺物　なし。

第57号炉穴跡（第215図，図版第297）

位置　M－24グリッド北東辺に検出される。標高153.0～153.5m付近にあたり，F地区の弱い谷地形を馬蹄形に取り囲む東側斜面が南西側にむかうにしたがい、徐々に緩斜面に変化しよ



第215図　炉穴跡実測図⑦

うとする地点にあたる。北東側へ3m程して第54号炉穴跡をみて，それら東側斜面に占地する炉穴群の最南端に位置する。それ以南は15m程して調査区外に達するが遺構はない。

構造　形状は長円形を呈し，規模は130×75cm，深さ30cmを測る。坑上半部を若干削取される。断面は「皿」状で，炉部・足場が区別される長円形炉穴跡とは構造上，若干の相違をみる。長軸方位はN－88°－Eを示し，ほぼ東西にとり等高線に直交する。焼土は軟質で炭化物，および明・茶褐色土等を混入して，5cm強の厚さで坑底をほぼ覆っている。

遺物　なし。

第58号炉穴跡（第215図，図版第297）

位置　N－23グリッド南端に検出される。標高152.5m付近にあたり，F地区の弱い谷地形が若干の平坦面を有して南西側にむかい，徐々に標高を減じていく部分である。南側へ3m程すると調査区外に達し，東側は広く遺構に疎隔される。北側へ5m程して第56号炉穴跡をみて，F地区炉穴跡群の最南端となる。

構造　形状は炉部と足場が区別された，不整の長円形を呈する。坑上半部を削取される。規

模は165×85㎝，深さは炉部で25㎝，足場で15㎝を測る。炉部の規模は70×60㎝で「皿」状に窪む。足場は40×40㎝程の平坦面をもち，断面は「達磨」状の範疇となる。長軸方位はN－82°－Eを示し，ほぼ東西にとって等高線に直交する。焼土は5㎝程の厚さをもって坑底に充満するが，それほど硬質でない。西・南壁沿いに2坑の小ピットが確認される。西壁側ピットは径20㎝，深さ15㎝を測り充分であるが，南壁側ピットは不整形で深さも5㎝程で条件を満たしていない。

遺物　なし。

第59号炉穴跡（第215図，図版第297）

位置　J－4グリッド中央北辺に，第25号竪穴住居跡と東壁を重複して検出される。第25号竪穴住居跡より古い。標高157.5～158.0m付近にあたり，C地区平坦面を南東面する斜面上である。比較的急傾斜で上がり，北西側へ3m程すると宅地造成工事の削平部分に達して調査不能となる。一応遺跡最西端に位置する。重複する第25号竪穴住居跡以外は遺構に疎隔され，東側へ10m程して第7・8号炉穴跡等のC地区炉穴群に接するにすぎない。

構造　第25号竪穴住居跡に東壁側2分の1程を削取されるが，残存形状から不整の長円形が予想される。規模は――×60㎝，深さ35㎝を測る。断面は明確な炉部と足場の差がないが，焼土が西壁側へ片寄る等，その可能性も捨て難い。長軸方位はN－62°－Wを示し，等高線に直交する。焼土は炭化物・灰・および黄褐色土等を混入して軟質で，5㎝程の厚さをもって西壁側より流れ落ちるように堆積する。

遺物　なし。

第60号炉穴跡（第215図，図版第297）

位置　M－21グリッド中央で，第24号竪穴住居跡床面中央に重複して検出される。第24号竪穴住居跡より新しい。標高153.0m付近にあたり，D地区広域平坦面が南西側へ大きく迫り出して，中央凹地帯とF地区の弱い谷地形を分岐しようとする先端部に位置する。第24号竪穴住居跡と重複する以外は比較的遺構に疎隔され，それぞれ10m程して東側へ第22号竪穴住居跡，南東側へ第10号土坑跡，南側へ第56号炉穴跡等をみる。北・西側は15m以上して第21号竪穴住居跡，第12号土坑跡に達する。

構造　第24号竪穴住居跡床面精査中の土層帯内に検出されたため，坑上半部の大部分が削取され，また北壁西端も上層よりの小坑によって攪乱されている。形状は炉部と足場が区別された，不整の長円形を呈する。規模は土層断面によって160×80㎝，深さは炉部で60㎝，足場で50㎝を測ることが知れる。炉部の規模は50×50㎝で「皿」状に窪み，足場は若干の平坦面をもち，断面は「達磨」状となる。長軸方位はN－89°－Wを示し，等高線に平行しながらもF地区第53～58号炉穴跡に一致する。焼土は非常に硬質で15㎝程の厚さをもって，足場から炉部東壁にせり上がるように堆積する。

遺物　なし。

第3節　集石土坑跡

第1号集石土坑跡（第216図，図版第298，299）

位置　E－14ポイントを中央において検出される。標高156.5～157.0m付近にあたり，B地区平坦面の中央に位置する。北側に3m程して第11号炉穴跡をみる。それより時計回りに南側へむかい，4～5m程して第23・13・12・18・19・21号炉穴跡，第4号土坑跡等が孤状となって取り巻き，さらに南側から西側にかけて，8m程して第20・49・22・9号炉穴跡等が外周を巡る。したがってそれらによって描かれる円の中央部にもあたる。

構造　集石）256個の角礫より構成される。範囲は130×130cm程を測り，ほぼ土坑域に一致してなる。構成礫は5～15cm程の丸味を帯びる角礫で，そのほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より35cm程のなかに3～4層がみられ，隙間なく充満する。下層にしたがい比較的大形礫となり，底面には30×30cm，厚さ5cm程を測る大形偏平角礫が安置される。　土坑）形状は円形を呈し，規模は140×135cm，深さ25cmを測る。断面は北西壁側が若干の段をもってなるが全体には「椀」状である。長軸方位はN－72°－Eを示す。底面・壁面に火熱された痕跡はないが，礫間，覆土に炭化物の混入をみる。

遺物　黒曜石片，頁岩片等が小量出土するが，特記すべき遺物の出土はない。以下，同様の状況は『なし』とする。

第2号集石土坑跡（216図，図版第300，301）

位置　F－21グリッド中央西辺に検出される。標高155.5m付近にあたり，D地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群の北端に位置する。それ以北・東は3m程で調査区外に達するが，平坦面はひろく延長していく。東側へ1m程して第28号炉穴跡，それに接して第26・33号炉穴跡，第13号竪穴住居跡，さらに第5号土坑跡等，南側にむかって竪穴住居跡，炉穴跡が重複しあって存在する。その他は広く遺構に疎隔される。

構造　集石）167個の角礫より構成される。範囲は80×80cm程を測り，土坑域の内側に沿ってなる。構成礫は5～15cm程の丸味を帯びる角礫で，そのほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より20cm程のなかに2～3層がみられ隙間なく充満する。下層に大形礫が目立つ。　土坑）形状は円形を呈し，規模は110×100cm，深さ25cmを測る。断面は「椀」状である。長軸方位はN－23°－Wを示す。底面・壁面に火熱された痕跡はないが，礫間，覆土に若干の焼土粒・炭化物の混入をみる。

遺物　なし。

第3号集石土坑跡（第216図，図版第302）

位置　G－20グリッド南東端に検出される。標高155.0～155.5m付近にあたり，本遺跡でもっとも平坦な箇所である。東側へ5m程してD地区広域平坦面の東辺に占地する遺構群に接する以外は広く遺構に疎隔される。

構造　集石）23個の角礫より構成される。範囲は50×30㎝程を測り，土坑中央部に小規模にされる。構成礫は5～15㎝程の丸味を帯びる角礫で，そのほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より10㎝程浮いて，10㎝程のなかに2層が積まれる。　土坑）形状は略円形を呈し，規模は80×60㎝，深さ20㎝を測る。断面は西壁が大きく開くが「U」字状の範疇における。長軸方位はN－55°－Wを示す。底面・壁面に直接に火熱された痕跡はないが，覆土には多量の炭化物・焼土粒が混入されて，その中間層から集石される，という若干の状況の差違をみる。しかし目的・行為は同意とみなすべきであり，坑上半部を宅地造成工事によって削取された結果も考えねばならない。

遺物　なし。

第4号集石土坑跡（第216図，図版第303）

位置　I－24グリッド中央西辺に検出される。標高154.5～155.0m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側に延長され，F地区の「擂り鉢」状凹部を上部から取り巻く肩部に位置する。南西側に下って5～10m程すると第38～44号炉穴跡，第17・18号竪穴住居跡等，F地区遺構群に接する以外は広く遺構に疎隔される。

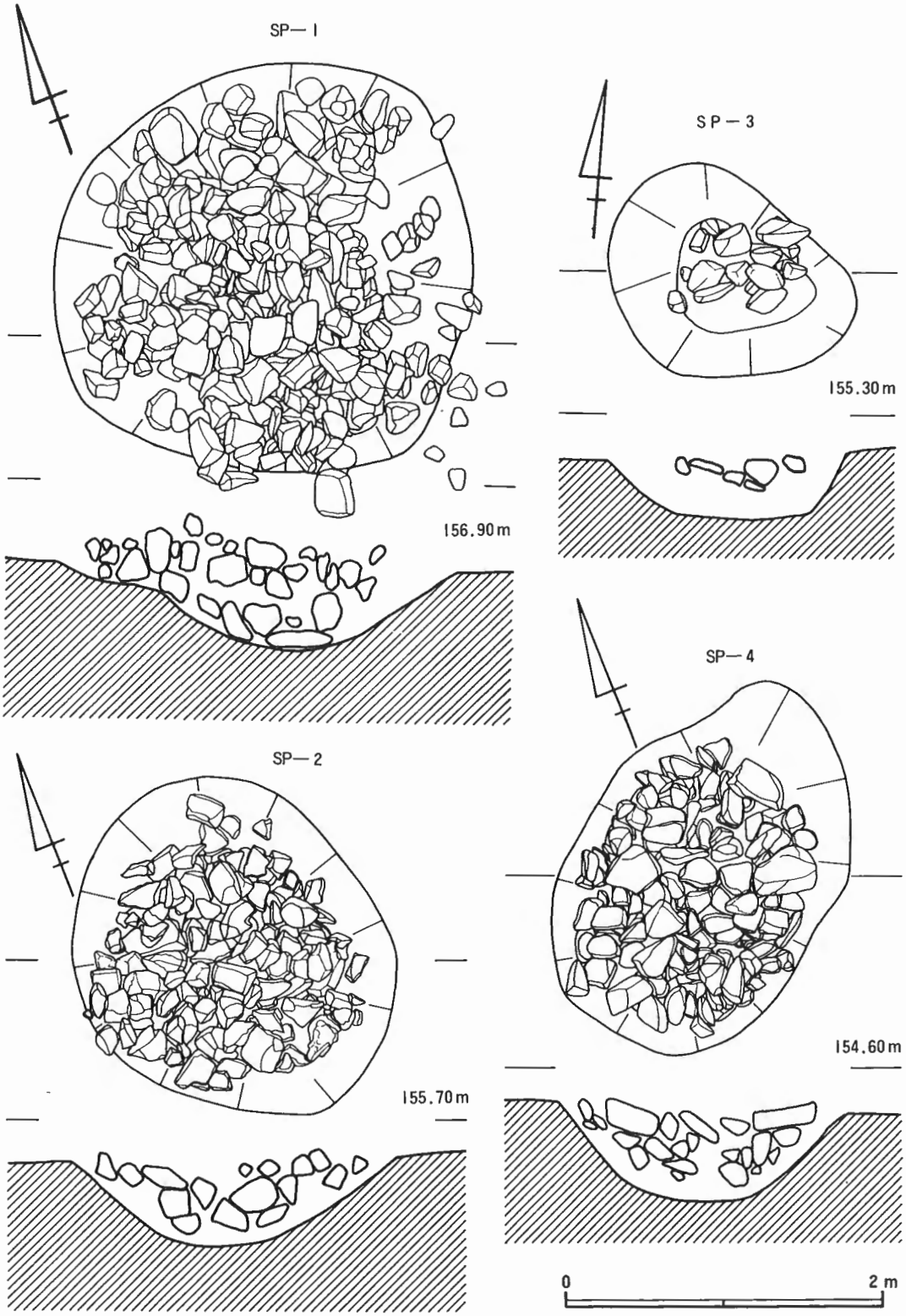
構造　集石）197個の角礫より構成される。範囲は90×70㎝程を測り，若干楕円形となる土坑域の内側に沿って長くなる。構成礫は5～20㎝程の丸味を帯びる角礫で，そのほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より20㎝程のなかに3～4層がみられ，隙間なく充満する。最上層に大形礫が目立ち，下層にしたがい小形化してくる。　土坑）形状は楕円形を呈し，規模は120×80㎝，深さ30㎝を測る。断面は「椀」状である。長軸方位はN－53°－Eを示す。底面・壁面に火熱された痕跡はないが，礫間，覆土に若干の焼土粒・炭化物の混入をみる。

遺物　なし。

第5号集石土坑跡（第217図，図版第304）

位置　J－26グリッド西端よりJ－25グリッドにまたがって，第38号炉穴跡と東壁を重複して検出される。第38号炉穴跡より新しい。標高154.0～154.5m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ延長されながら，急激に標高を減じて慈眼寺沢川へ没する肩部にあたる。南東側へ4m程する地点であり，その比高は20m程を測る。東側は4m程で調査区外に達する。西側へ3m程して第43号炉穴跡に接し，それ以西にF地区遺構群が存在する。北側一帯は10m程して第4号集石土坑跡をみる以外，遺構の空白をみる。

構造　集石）155個の角礫より構成される。範囲は80×70㎝程を測り，土坑域の内側に沿ってなる。構成礫は5～20㎝程の丸味を帯びる角礫で，他集石土坑跡に比して大形礫が目立ち，また20㎝前後を測る礫が多くなる。そのほとんどは火熱を受けた痕跡を残すが，20㎝前後の礫はむしろ火熱痕が認められない場合が多い。坑底より40㎝程のなかに3～4層がみられ，隙間なく充満する。下層に小形礫が，上層にしたがい大形礫が量を増す。　土坑）形状は円形を呈し，規模は105×95㎝，深さ35㎝を測る。断面は東壁側が角度をもって上がる「椀」状である。



第216図　集石土坑跡実測図①

長軸方位はN－85°－Wを示す。底面・壁面に火熱された痕跡はないが，礫間，覆土に若干の炭化物の混入をみる。

遺物　上面より山形文と直線文が組み合わされる押型文土器（ＳＰ 0501）が出土する。胎土に繊維が含有され，色調は暗灰色を呈する。

第６号集石土坑跡（第 217 図，図版第 306）

位置　Ｇ－７グリッド中央東辺に検出される。標高 157.0～157.5 m付近にあたり，Ｃ地区平坦面の中央北寄りに位置する。道路敷部分が攪乱されて明確でないが，Ｃ地区遺構群の北辺となり，それより北側には６m程して第 11 号集石土坑跡が存在するだけである。南東側に５m程して第 45 号炉穴跡，南側に７m程して第２号炉穴跡をはじめとするＣ地区炉穴跡群に接する。北・西側を広く遺構に疎隔されることから，Ｃ地区炉穴跡群の北東側外郭域に位置することとなる。

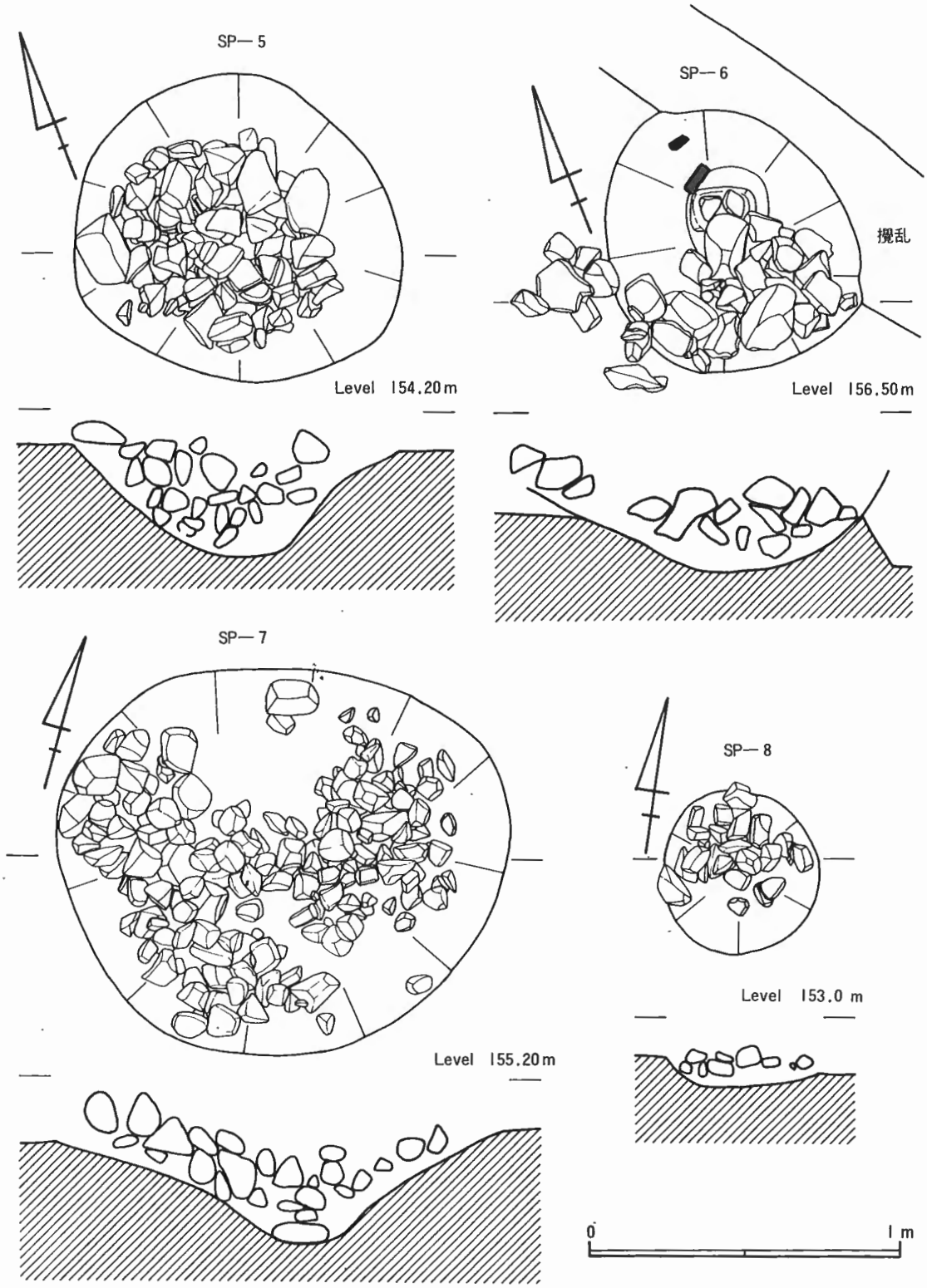
構造　集石）北壁・東壁を宅地造成の諸工事によって削除されるため，状況は明確でない。残存する集石は 51 個の角礫であり，範囲は 110×60 cm程を測る。残存状況からおよそ 150 個，径 150 cm程の集石状況が予想される。構成礫は５～25 cm程の丸味を帯びる角礫で，他集石土坑跡に比して大形礫が目立ち，10 cm以上が大半である。３個を除いて，火熱を受けた痕跡を残している。坑底より 30 cm程のなかに２～３層がみられ，隙間なく充満する。下層に小形礫が集石される。　土坑）形状は円形を呈し，規模は 90×80 cm，深さ 20 cmを測る。これはあくまでも残存値であるため，値が増すことは言うまでもない。断面は「椀」状である。長軸方位は一応N－14°－Wにおく。底面・壁面に火熱された痕跡はないが，底面には炭化材，礫間，覆土に多量の炭化物・焼土の混入をみる。

遺物　なし。

第７号集石土坑跡（第 217 図，図版第 307，308）

位置　Ｆ－17 グリッド南端よりＧ－17 グリッドにまたがって検出される。標高 155.0～155.5 m付近にあたり，Ｄ地区広域平坦面の西辺部分で，南西側へ標高を除々に減じて中央凹地帯に没しようとする肩部に位置する。南西側へ３m程して第７・８号土坑跡，北側へ７～８m程して第 20・48 号炉穴跡をみる以外，四方を広く遺構に疎隔される。

構造　集石）128 個の角礫より構成される。範囲は 130×120 cm程を測り，ほぼ土坑域に沿ってなるが，北・南側の一部が透かれる。構成礫は５～15 cm程の丸味を帯びる角礫で，そのほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より 30 cm程のなかに２～４層がみられ，ほぼ隙間なく充満するが，他集石土坑跡に比して若干疎の感は拭えない。「８」字状となる集石の西側部分の構成礫が一回り大きくなる。底面には 25×20 cm，厚さ８cm程の大形偏平角礫が安置される。　土坑）形状は略円形を呈し，規模は 145×120 cm，深さ 35 cmを測る。断面は「擂り鉢」状である。長軸方位はN－83°－Ｅを示す。本炉穴跡は風倒木痕内に構築されるため，坑上半部の検出が適確にされなかったこともあり，各値は若干増すであろう。底面・壁面に火熱された痕跡はない



第217図　集石土坑跡実測図②

が，礫間，覆土に焼土・炭化物の多量の混入をみる。それは底面に安置される大形偏平角礫下部にまで及ぶ。

遺物　上面より格子目押型文土器（ＳＰ 0701）が出土する。格子目文は菱形または横長の平行四辺形を呈する。色調は黄褐色を呈し，外面に炭化物が付着する。

第８号集石土坑跡（第 217 図，図版第 309，310）

位置　Ｋ－15 グリッド中央東辺に検出される。標高 152.5～153.0 m付近にあたり，Ｄ地区より南西面して中央凹地帯へ下る斜面の下方域に位置する。集石土坑跡ではもっとも標高を低くもつ。南東側に隣接して第４号集石跡をみる以外，完全に遺構に疎隔される。

構造　集石）25 個の角礫より構成される。範囲は 50×40 cm程を測り，土坑域北側３分の２程で半円状になされる。構成礫は５～15 cm程の丸味を帯びる角礫で，そのほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より 10 cm程のなかに１～２層がみられ，ほぼ隙間なく充満するが，南側はその限りでない。　土坑）形状は略円形を呈し，規模は 50×50 cm，深さ 10 cmを測る。断面は「皿」状で，坑上半部の削取を考え合わせても，他集石土坑跡に比して小規模で浅い。長軸方位は計測不能である。底面，壁面に火熱された痕跡はないが，礫間，覆土に炭化物の混入をみる。

遺物　なし。

第９号集石土坑跡（第 218 図，図版第 310）

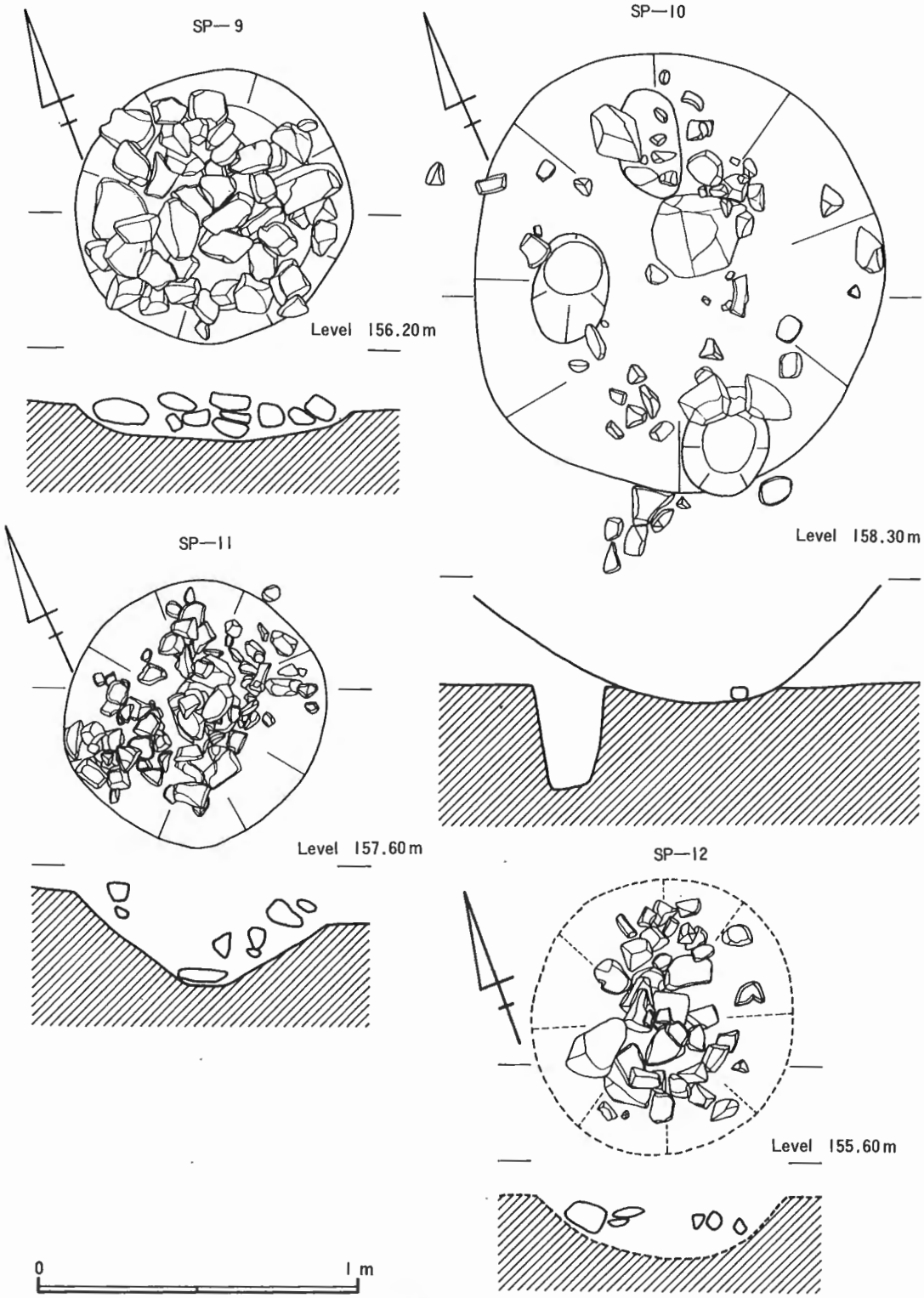
位置　Ｄ－18 グリッド北西隅に，第 20 号竪穴住居跡床面中央に重複して検出される。第 20 号竪穴住居跡より新しい。標高 155.5～156.0 m付近にあたり，Ｄ地区広域平坦面を南西面する緩斜面である。北側に３m程して第 19 号竪穴住居跡，南側に４m程して第 12 号竪穴住居跡が存在する。北東側２面が５m程して調査区外，北西側も同じくして巾４m程の調査不能帯が張り出すため，不明な部分も多いが，北西側調査不能帯を越えて，10 m程の距離をもち第 50･51 号炉穴跡に接する。

構造　集石）50 個の角礫より構成される。範囲は 75×70 cm程を測り，ほぼ土坑域に一致してなる。構成礫は５～20 cm強の丸味を帯びる角礫で，うち 10 cm以上を測る礫が大半で，他集石土坑跡に比して大形礫の使用が多い。それらはほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より 15 cm程のなかに２～３層がみられ，隙間なく充満する。　土坑）形状は円形を呈し，規模は 85×85 cm，深さ 15 cm弱を測る。断面は坑上半部を削取されるが「椀」状が予想される。長軸方位は計測不能である。底面・壁面に火熱された痕跡はない。また礫間，覆土にも他集石土坑跡ほど炭化物・焼土粒等は目立たない。

遺物　なし。

第 10 号集石土坑跡（第 218 図，図版第 311）

位置　Ｄ－６グリッド中央南辺に，第 28 号竪穴住居跡床面中央に重複して検出される。第 28 号竪穴住居跡より新しい。標高 158.0 m付近にあたり，Ｃ地区の平坦面より弱い谷地形が北側



第218図　集石土坑跡実測図③

へ延びて，長者ヶ峰へ接しようとする西面斜面の下方域に位置する。南側へ9m程して第11号集石土坑跡，相対する東面斜面には15m程の距離をもって第26・27号竪穴住居跡が存在する。これらは第28号竪穴住居跡とともに竪穴住居跡群を形成するであろうが，それ以外は広く遺構に疎隔される。

構造　集石）61個の角礫より構成される。範囲は150×140㎝程を測り，ほぼ土坑域を越えないが，その分布はもっとも散在的である。構成礫は5～30㎝程を測るが統一感はなく，また角が明瞭な場合が多い。他集石土坑跡の構成礫のほとんどが火熱を受けた痕跡を残すのに対して，明瞭に認め得るものは少ない。ただし覆土には炭化物の混入をみている。坑底より20㎝程のなかに集石されるが，前述するように散在されるだけである。土坑）形状は円形を呈し，規模は140×125㎝，深さ30㎝を測る。断面は「椀」状である。長軸方位はN－14°－Eを示す。本炉穴跡は第28号竪穴住居跡埋土内に構築されるため，坑上半部の検出が適確にされなかったこともあり，各値に若干の変動はある。底面・壁面に火熱された痕跡はない。しかし礫間，覆土には炭化物が目立ち，また数個体分の表裏縄文土器，および縄文土器片が混在する。つまり投棄された状況をみる。

なお，底面の2坑は本集石土坑跡に伴うものではない。

遺物　金雲母を多量に含有する表裏縄文土器片7点，縄文土器片22点，撚糸文土器3点の総数42点が出土する。特に中央部大形礫周辺に密集して出土する。

表裏縄文土器はＳＰ1016の口縁部破片以外は細片である。弱く外反し，口唇部は平坦に整形される。縄文は内外面と口唇部に施文される。器厚6㎜。胎土に金雲母を多量に含有し，脆弱である。

ＳＰ1001・02は縦走する縄文が施文される。施文後器面調整されるためか文様がつぶれている。胎土に小礫・砂粒が含有され，色調は黄褐色を呈し，胎土は硬質である。

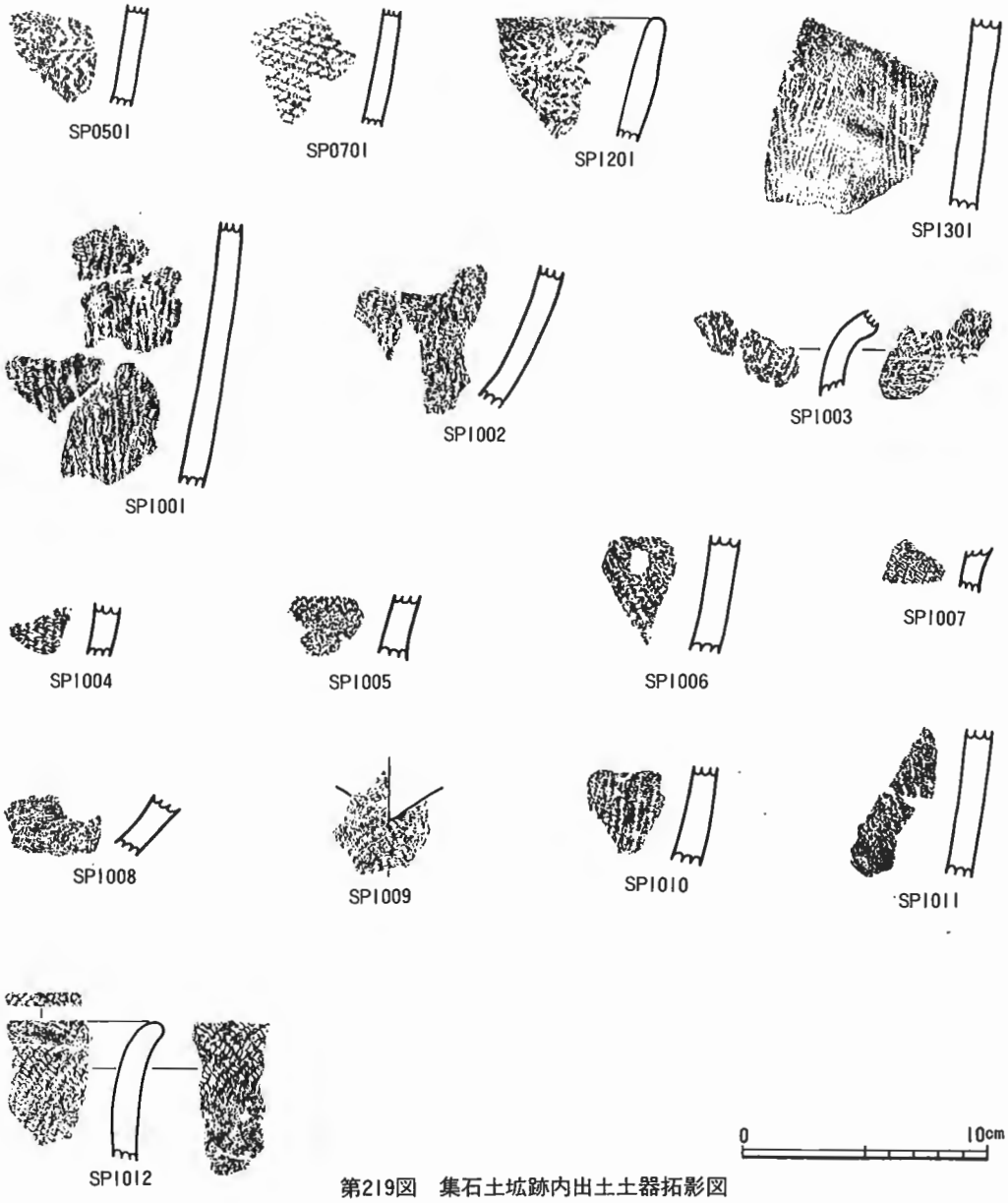
ＳＰ1003は先端部で外反する口縁部で，口唇部を欠損する。Ｒの撚糸文が外面では縦位に，内面では横位に施文される。胎土に黄白色の砂粒が多量に含有される。

ＳＰ1009は尖底の底部破片で，ＳＰ1001・02の同一個体かと思われる。

ＳＰ1010・11は撚糸文土器である。ＳＰ1010は胎土に微細な石英・黒雲母が含有され，色調は茶褐色を呈する。ＳＰ1011は胎土に灰白色粒と繊維が含有される。Ｒの撚糸文が施文されるが，条がつぶれている。

ＳＰ1012は外反する口縁部破片である。外面には巾約10㎜の無文部を残して，ＬＲの縄文原体を横位回転して左下がりの斜縄文が施文される。口唇部から内面にかけてはＲＬとＬＲを交互に横位回転して，横位の羽状を呈するよう施文される。胎土には微細な石英・黒雲母と黄白色粒が含有され，色調は黄褐色を呈する。焼成良好。

ＳＰ1013は縦走するＬＲの縄文が密接して施文される。器厚8～11㎜。色調は暗茶褐色を呈し，胎土は脆弱である。上端に「H」状の輪積み痕が見られる。



第219図　集石土坑跡内出土土器拓影図

ＳＰ 1014 は節の大きい縄文が施文される口縁部破片である。色調は灰褐色を呈し，胎土は脆弱である。

ＳＰ 1015 は先端で外反する口縁部破片で，外面には口唇部直下に巾約 7 ㎜の無文部を残して，ＬＲの縄文原体を横位回転して左下がりの斜縄文が施文される。口唇部から内面にかけて同一原体により左下がりの斜縄文が施文される。色調は茶褐色を呈し，胎土は脆弱である。

ＳＰ 1016 は器厚 12 ㎜，胎土は脆弱で，外面は剝落している。

以下細片または胎土の脆弱な土器が検出されるが，ＳＰ 1001・02 またはＳＰ 1013 に類似す

る。

第11号集石土坑跡（第218図，図版第312，313）

位置　F－6グリッド中央東辺に検出される。標高157.5 m付近にあたり，C地区平坦面の北端，もっとも奥まった箇所に位置する。それより北にむかって弱い谷地形が形成される。その10 m程した西面斜面に第28号竪穴住居跡，それに重複する第10号集石土坑跡が存在し，南側に7 m程して第6号集石土坑跡をみる。それよりさらに6 m程してC地区炉穴跡群に達し，第6・10号集石土坑跡とともに炉穴群の北東側外郭域を列状に占地する。

構造　集石）81個の角礫より構成される。範囲は80×50 cm程を測り，ほぼ土坑域に沿ってなるが，北・南側の一部が透かれる。構成礫は5～10 cm程の丸味を帯びる角礫で，他集石土坑跡より小振りとなる。構成礫のほとんどは火熱を受けた痕跡を残す。坑底より30 cm程のなかに3～4層がみられるが，隙間を多くみて，他集石土坑跡に比して若干疎の感は拭えない。底面には25×20 cm，厚さ6 cm程の大形偏平角礫が安置される。これにはタールの付着をみる。　土坑）形状は円形を呈し，規模は85×80 cm，深さ25 cmを測る。断面は「擂り鉢」状である。長軸方位はN－66°－Wを示す。底面・壁面に火熱された痕跡はないが，礫間，覆土に炭化物の多量の混入をみる。焼土は認められない。

遺物　なし。

第12号集石土坑跡（第218図，図版第313）

位置　H－11グリッド中央に，第3号竪穴住居跡と重複して検出される。第3号竪穴住居跡より新しい。標高155.5 m付近にあたり，C地区テラス状平坦面が南東方向へ急激に標高を減じて中央凹地帯へ没する斜面上である。南北10 m程の間に第1～5号竪穴住居跡，さらに第7号竪穴住居跡が存在する。南西側へ5 m程して第6号炉穴跡をみる。

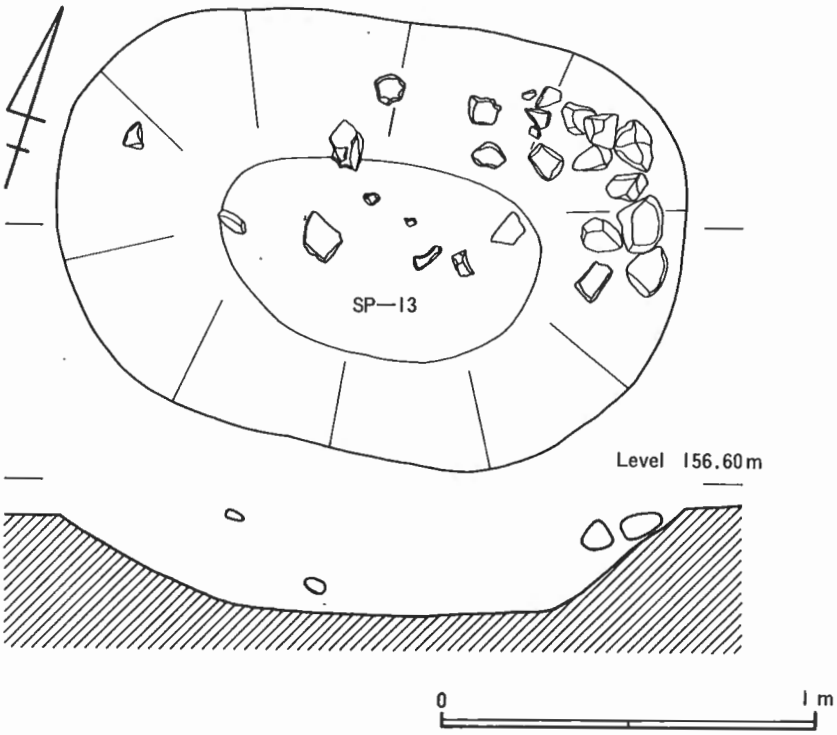
構造　集石）43個の角礫より構成される。範囲は75×60 cm程を測り，ほぼ土坑域の内側に沿ってなるが，東・西側の一部が若干透かれる。構成礫は5～20 cm程の丸味を帯びる角礫で，そのほとんどが火熱を受けた痕跡を残す。坑底より15 cm程のなかに2～3層がみられるが幾分隙間をもつ。しかし底面より積まれる状況は確かである。　土坑）本集石土坑跡が第3号竪穴住居跡埋土内に構築されること，また検出箇所が2次に分られた調査区境いであったこともあって，土坑を明確に検出することはできなかった。炭化物散布範囲，および集石状況から，形状は円形を呈し，規模は径80 cm，深さ20 cm程が推測される。焼土粒の混在はない。

遺物　上面および周辺より押型文土器7点が出土する。SP 1201は斜葉文による山形文が施文される。胎土に小礫と微細な石英粒・黒雲母粒が含有される。推定口径14 cm。

底部破片No.7013が出土する。

第13号集石土坑跡（第220図，図版第314）

位置　K－6グリッド北西端に検出される。標高156.5 m付近にあたり，C地区平坦面の西辺に位置する。南西側2面は2～3 m程して調査区外となるため，不明な部分も多いが，およ



第220図　集石土坑跡実測図④

そ遺構群の西端となろう。南東側に3m程して第2号集石跡，東側に6m程して第1・5号炉穴跡等が連なるC地区炉穴跡群に接する。

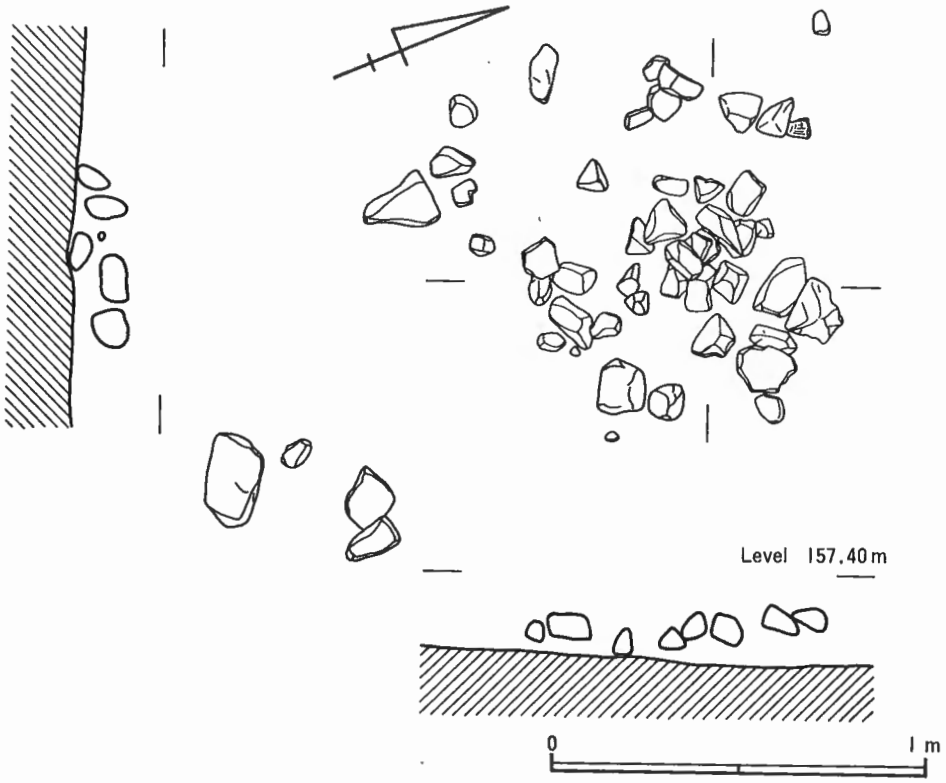
構造　集石)24個の角礫より構成される。範囲は140×50㎝程を測り，土坑域を越えないが，その分布はもっとも散在的で東端が若干密となる程度である。構成礫は5～10㎝程の若干丸味を帯びる角礫で，一部に火熱を受けた痕跡を残すものもある。坑底より10㎝程浮いて集石される。東端部分に積まれる状況をみる。土坑)形状は楕円形を呈し，規模は165×115㎝，深さ30㎝を測る。断面は「椀」状である。長軸方位はN－72°－Eを示す。底面・壁面には火熱された痕跡はないが，覆土には多量の炭化物をみる。とくに東半部の礫下部が顕著である状況は第10号集石土坑跡に類似するか。いずれにしてもこの両者は他集石土坑跡の状況と差違をもつ。

遺物　撚糸文土器（SP 1301）が出土する。撚糸文土器No.2014と接続する。Rの撚糸文が交叉するよう施文される。

第4節　集石跡

第1号集石跡（第221図，図版第315）

位置　H－7グリッド中央西辺に検出される。標高157.0m付近にあたり，C地区平坦面の中央部に位置する。北側へ1～2m程すると道路敷攪乱部分となり，不明な部分も多いが，北側は若干遺構が疎となりつつある。南側には2m程して第3号炉穴跡，その西側へ第8号炉穴跡，東側へ第2・46号炉穴跡等，炉穴跡が列状となって群をなす。



第221図　第1号集石跡実測図

構造　55個の角礫より構成される。範囲は110×60㎝程を測り，南北に長くもつが，北寄りに50×50㎝程の集中部分をみる。構成礫は5～20㎝程の角礫が用いられ，火山性赤色礫を多くみる。これらは火熱によってなるものではなく，本遺跡周辺にみられる火山性の地山礫である。集石レベルは列状に地形に沿ってなり，北寄りの集中部分では2段に積まれる箇所もある。下部に掘り方はなく，また礫間，構築面に焼土・炭化物は一切認められない。

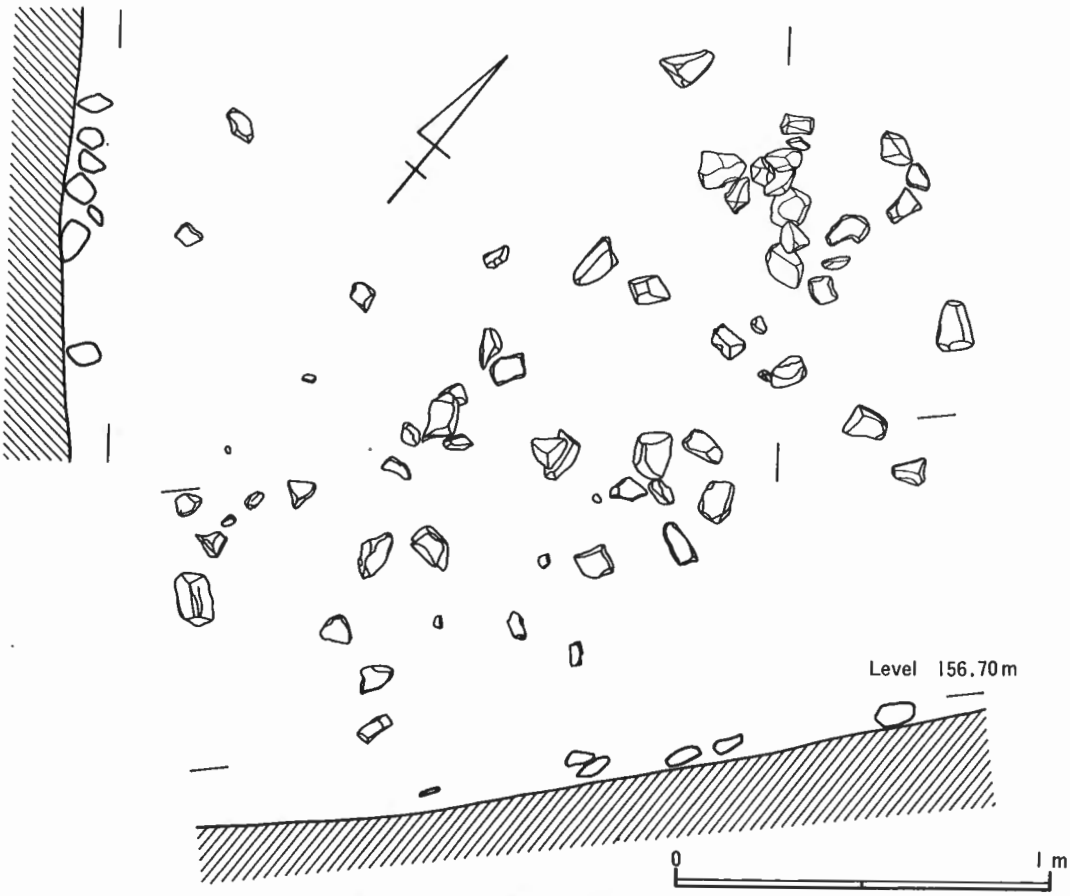
遺物　押型文土器（S 0101）が出土する。細長い楕円文が不規則に連続する文様が施文されるが，不鮮明である。胎土に小礫が含有され，色調は黒褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。

他に黒曜石片，頁岩片等が小量出土するが，特記すべき遺物の出土がない場合は，以下『なし』とする。

第2号集石跡（第222図，図版第315）

位置　K－6グリッド東端に検出される。標高156.5m付近にあたり，C地区平坦面の南西辺に位置する。南側へ2m程して調査区外に達するため，不明な部分も多いが，およそ遺構群の南西端となろう。東側は遺構の空白をみる。西側へ3m程して第13号集石土坑跡，北東側へ4m程して第1・5号炉穴跡等が連なるC地区炉穴群に接する。

構造　69個の角礫より構成される。範囲は230×180㎝を測り，南北に長く，北側にしたがい若干密となり，列状をなす箇所もある。全体的には散在的である。構成礫は5～15㎝程の角礫



第222図　第２号集石跡実測図

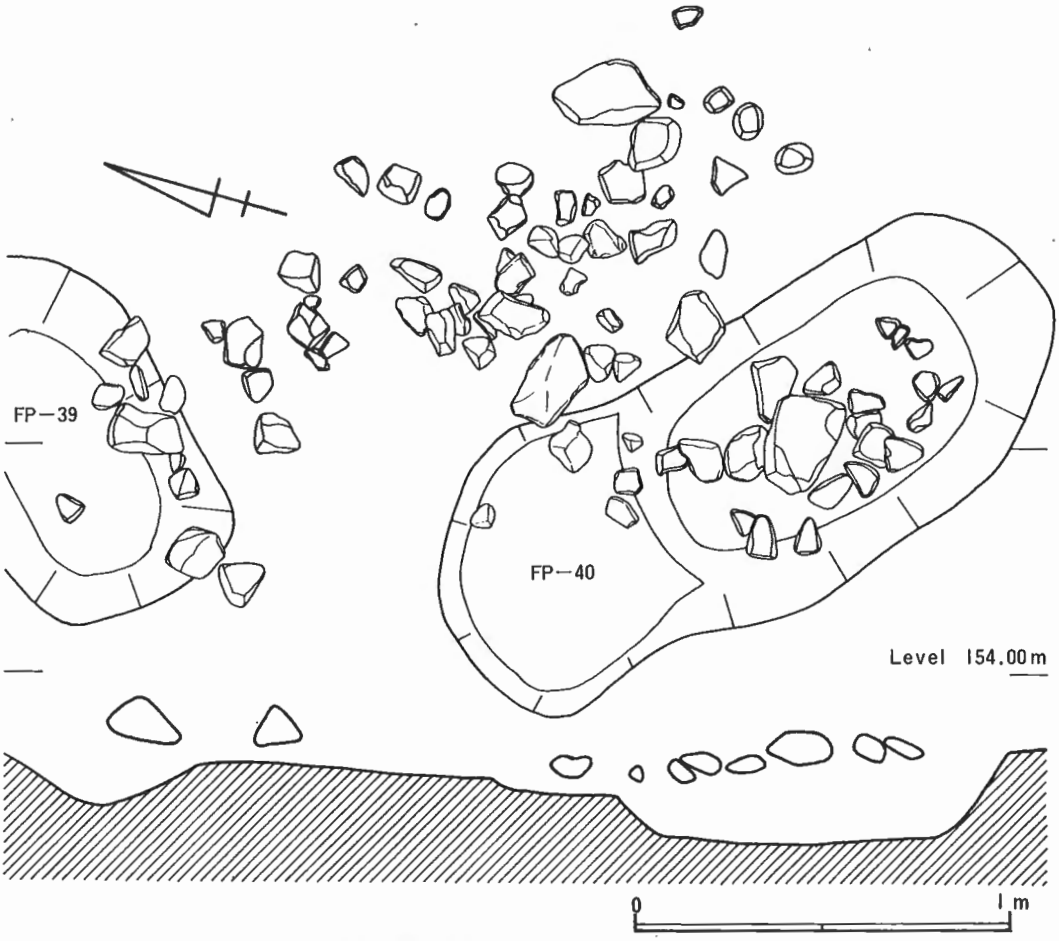
で，他集石跡に比して小振りである。また火山性赤色礫の混在も少なく，礫に火熱を受けた痕跡もない。集石レベルは地形に沿ってなり，一部に２段に積まれる箇所もある。下部に掘り方はなく，また礫間，構築面に焼土・炭化物等，火に関する行為の痕跡はない。

遺物　なし。

第３号集石跡（第223図，図版第316）

位置　K－25ポイント東側一帯，J－24･25，K－25グリッドにまたがって検出される。第39･40号炉穴跡と重複して，それらより新しい。標高154.0m付近にあたり，D地区広域平坦面が南側へ延長されながら，新たにF地区にしたがい弱い谷地形を形成する基点域に位置する。したがってそれはそこから南西側に扇状に展開される。北西側へ２m程して第42号炉穴跡，第６号土坑跡，東側へ３m程して第43号炉穴跡が存在する。

構造　88個の角礫より構成される。範囲は240×150cmを測り，南北に長くもつ。中央より南側が密，北側が疎となるが，全体的には散在的である。構成礫は５～25cm程の角礫であるが，20cm以上を測る巨礫は４個程で，10cm内外を測る中形礫が一般である。火山性の赤色礫は認められず，また火熱を受けた痕跡もない。集石レベルは地形に沿ってなり，一部に２段に積まれ



第223図　第３号集石跡実測図

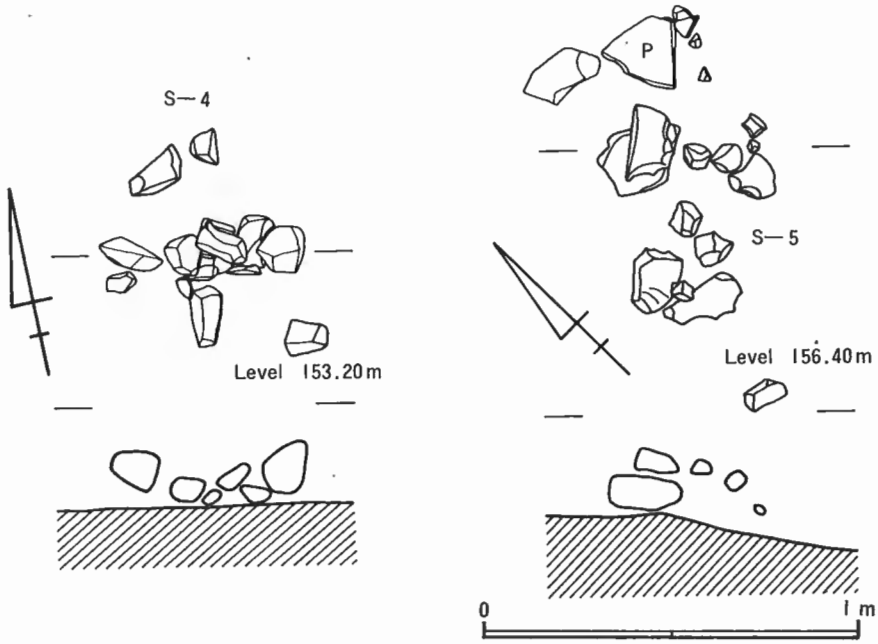
る箇所もある。下部に掘り方はない。構築面には炭化物が混入されるが，それは本集石跡下部に存在する２基の炉穴跡によるものであろう。構成礫に火熱痕がない以上，やはり火に関する行為は認め難い。

遺物　網目状撚糸文土器（S 0301）が出土する。器厚９～11㎜。胎土に微量の繊維が含有され，色調は暗黄褐色を呈し，外面に薄く炭化物が付着する。胎土は脆い。

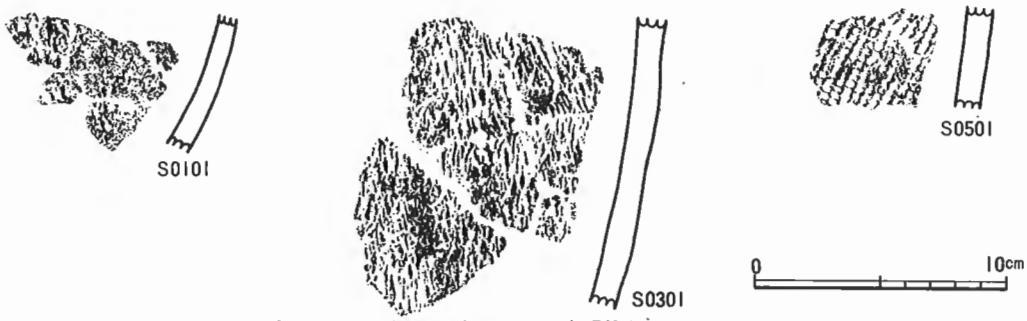
第４号集石跡（第224図，図版第317）

位置　K－16グリッド西端に検出される。標高153.0ｍ付近にあたり，D地区より南西面して中央凹地帯へ下る斜面の下方域に位置する。集石跡ではもっとも標高を低くもつ。北西側に隣接して第８号集石土坑跡をみる以外，完全に遺構に疎隔される。

構造　15個の角礫より構成される。範囲は70×50㎝程を測り，若干南北に長くもつ。中央を東西に列状となって密な部分をみる。非常に小規模である。構成礫は５～15㎝程の角礫で，他集石跡に比して小振りである。火山性赤色礫は認められないが，一部には火熱を受けた痕跡を認めるものもある。集石レベルは15㎝程に２段に積まれる箇所があり，また下部が孤状を呈す



第224図　第4・5号集石跡実測図



第225図　集石跡内出土土器拓影図

る。したがって下部の掘り方，または焼土・炭化物を確認できなかったが，隣接の第8号集石土坑跡に近似した集石土坑跡の可能性も否定できない。

遺物　なし。

第5号集石跡（第229図，図版第317，318）

位置　J－11グリッド北東端に，第6号竪穴住居跡床面中央東辺に重複して検出される。第6号竪穴住居跡より新しい。標高154.5m付近にあたり，C地区平坦面が南東方向へ急激に標高を減じて中央凹地帯へ没しようとする東面斜面上である。北側は4m程して第5号竪穴住居跡から第1号竪穴住居跡へ続く。さらに北西側へ4m程して第6号炉穴跡，南西側にそれぞれ2m程して第1・2号土坑跡が存在する。南側は広く遺構に疎隔されている。

構造　17個の角礫より構成される。範囲は110×50cm程を測り，南北に長くもつ。中央部に若干密となるが，全体的にはもっとも散在的である。構成礫は5～20cm程の角礫で，いずれも

はっきりした陵をもち鋭い。火山性赤色礫，および火熱を受けた痕跡をもつ礫はない。集石レベルは15㎝程に2段に積まれる箇所もある。礫間，構築面に焼土・炭化物は確認されない。

遺物　大形の縄文土器口縁部破片（S 0501）が出土する。弱く外反し，口唇部は丸味をもつ。左下がりの斜縄文が密接して施文される。器厚10～11㎜。胎土に白色粒が含有され，非常に脆弱である。

第5節　土坑跡

第1号土坑跡（第226図，図版第319）

位置　J－11グリッド北端に，第2号土坑跡を南壁に，第6号竪穴住居跡を東壁に重複して検出される。第6号竪穴住居跡より新しく，第2号土坑跡は不明である。標高154.5～155.0m付近にあたり，C地区平坦面が南東方向へ急激に標高を減じて中央凹地帯へ没しようとする東面斜面上で，本遺跡にもっとも急傾斜地である。重複遺構以外には南東側へ2m程して第5号集石跡，北側へ3m程して第6号炉穴跡が存在する。

構造　形状は若干角張った，略円形を呈する。規模は170×150㎝，深さ50㎝を測る。長軸方位はN－89°－Wを示す。断面は外開きの「U」字状で，坑底は平坦である。

遺物　黒曜石片，頁岩片等が小量出土するが，特記すべき遺物の出土はない。以下，同様の状況は『なし』とする。

第2号土坑跡（第226図，図版第319）

位置　J－11グリッド中央に，第1号土坑跡を北壁に，第6号竪穴住居跡を東壁に重複して検出される。しかし両者とも重複部分が僅かであり，新旧関係を把握できない。標高154.5m付近にあたり，C地区平坦面が南東方向へ急激に標高を減じて中央凹地帯へ没しようとする東面斜面上である。重複遺構以外には東側へ1m程して第5号集石跡，北側へ5m程して第6号炉穴跡が存在する。

構造　形状は略円形を呈し，規模は175×140㎝，深さ45㎝を測る。長軸方位はN－33°－Eを示す。断面は南東壁が緩やかに掘り込まれるが，全体形状は「U」字状で，坑底も平坦面を広くもつ。第1号土坑跡と近似する。

遺物　なし。

第3号土坑跡（第226図，図版第319）

位置　D－11グリッド西端に検出される。標高157.5～158.0m付近にあたり，B地区平坦面に下る斜面の中腹，第8～11号竪穴住居跡で構成される竪穴住居跡群のなかに位置する。北側へ1m程して第8号竪穴住居跡，南側へ2m程して第10号竪穴住居跡が存在する。

構造　形状は略円形を呈し，規模は90×85㎝，深さ45㎝を測る。長軸方位はN－50°－Eを示す。断面は西壁が緩やかに掘り込まれるが，「U」字状の範疇で，坑底は中央がやや窪んでいる。埋土第1層内（最上層）に拳大の角礫2個をみるが，直接的な関連はもたないであろう。

遺物　なし。

第4号土坑跡（第226図，図版第319）

位置　D－14グリッド東端よりD－15グリッドにまたがって検出される。標高156.5m付近にあたり，B地区平坦面のおよそ中央を南北に列状となる遺構群のなかに位置する。北側へ2m程して第18号炉穴跡，南側へ1m程して第19号炉穴跡，さらに第21号炉穴跡が連続している。

構造　形状は楕円形を呈し，規模は115×70㎝，深さ25㎝を測る。坑上半部が削取される。長軸方位はN－77°－Wを示す。断面は坑底が窪んで「椀」状となる。形状は両隣に位置する第18・19号炉穴跡に類するが，埋土に焼土・炭化物は確認されない。

遺物　なし。

第5号土坑跡（第226図，図版第320）

位置　F－21グリッド南東端に，第13号竪穴住居跡の北壁西隅に重複して検出される。第13号竪穴住居跡より新しい。標高155.5m付近にあたり，D地区広域平坦面を西面する竪穴住居跡・炉穴跡が群集する一画である。北側から東側へ1～2m程して第2号集石土坑跡，第28・33・26号炉穴跡が，さらに南側は竪穴住居跡と炉穴跡が重複しあって存在する。西側は広く遺構に疎隔される。

構造　形状は略円形を呈し，規模は90×80㎝，深さ40㎝を測る。長軸方位はN－78°－Eを示す。断面は垂直にちかく立ち上がって，「U」字状をなす。坑底は地山礫層にちかいためか，若干凸凹となり，壁際が深い。埋土に焼土・炭化物は確認されないが，形状は隣接する第26・33号炉穴跡に類する。

遺物　なし。

第6号土坑跡（第226図，図版第320）

位置　J－24グリッド中央西辺に検出される。標高154.0m付近にあたり，F地区の弱い谷地形を南西面する斜面上である。そこは「擂り鉢」状に窪み，南西側に開口される扇状の基点域であるため比較的急斜面となる。東壁を接して第42号炉穴跡をみる。さらに3～5m程して第39・40号炉穴跡，第3号集石跡，西側へ3m程して第18号竪穴住居跡，第41号炉穴跡が存在するなど，遺構群の中央に位置している。

構造　形状は長円形を呈し，規模は80×45㎝，深さ20㎝強を測る。坑上半部は削取されるが，それでも小規模である。長軸方位はN－32°－Eを示す。断面は「U」字状であるが，北壁が緩やかに掘り込まれるため坑底の平坦面は少ない。壁を隣接する第42号炉穴跡，さらに第38・41・44号炉穴跡等，長円形炉穴跡が形状を同様にして周囲をまくが，規模的な相違をみる。

遺物　なし。

第7号土坑跡（第226図，図版第320）

位置　G－16グリッド東端よりG－17グリッドにまたがって検出される。標高155.0m付近

にあたり，D地区広域平坦面の西辺部分で，南西側へ標高を除々に減じて中央凹地帯に没しようとする肩部に位置する。北東側へ3m程して第7号集石土坑跡，南西側に隣接して第8号土坑跡をみる以外，四方を広く遺構に疎隔される。

構造　形状は略円形を呈し，規模は95×90㎝，深さ40㎝を測る。長軸方位はN－23°－Wを示す。断面は緩やかに掘り込まれて，「擂り鉢」状となり，本遺跡の土坑跡では異質となる。埋土下層には炭化物が含まれ，拳大の礫数個も認められるため，集石土坑跡にちかい状況も浮かぶ。いずれにしろ隣接する第7号集石土坑跡の影響下にあることは確かである。

遺物　なし。

第8号土坑跡（第226図，図版第320）

位置　G－16グリッド東端南隅よりG－17グリッドにまたがって検出される。標高155.0m付近にあたり，D地区広域平坦面の西辺部分で，南西側へ標高を除々に減じて中央凹地帯に没しようとする肩部に位置する。北東側に壁を隣接して第7号土坑跡，さらに4m程して第7号集石土坑跡をみる以外，四方を広く遺構に疎隔される。

構造　形状は略円形を呈し，規模は75×70㎝，深さ25㎝を測る。長軸方位はN－38°－Wを示す。断面は緩やかに掘り込まれ，坑底中央が若干窪んで「椀」状となる。埋土には炭化物が混入することから，第7号土坑跡同様に第7号集石土坑跡の影響が大といえる。

遺物　なし。

第9号土坑跡（第227図，図版第321）

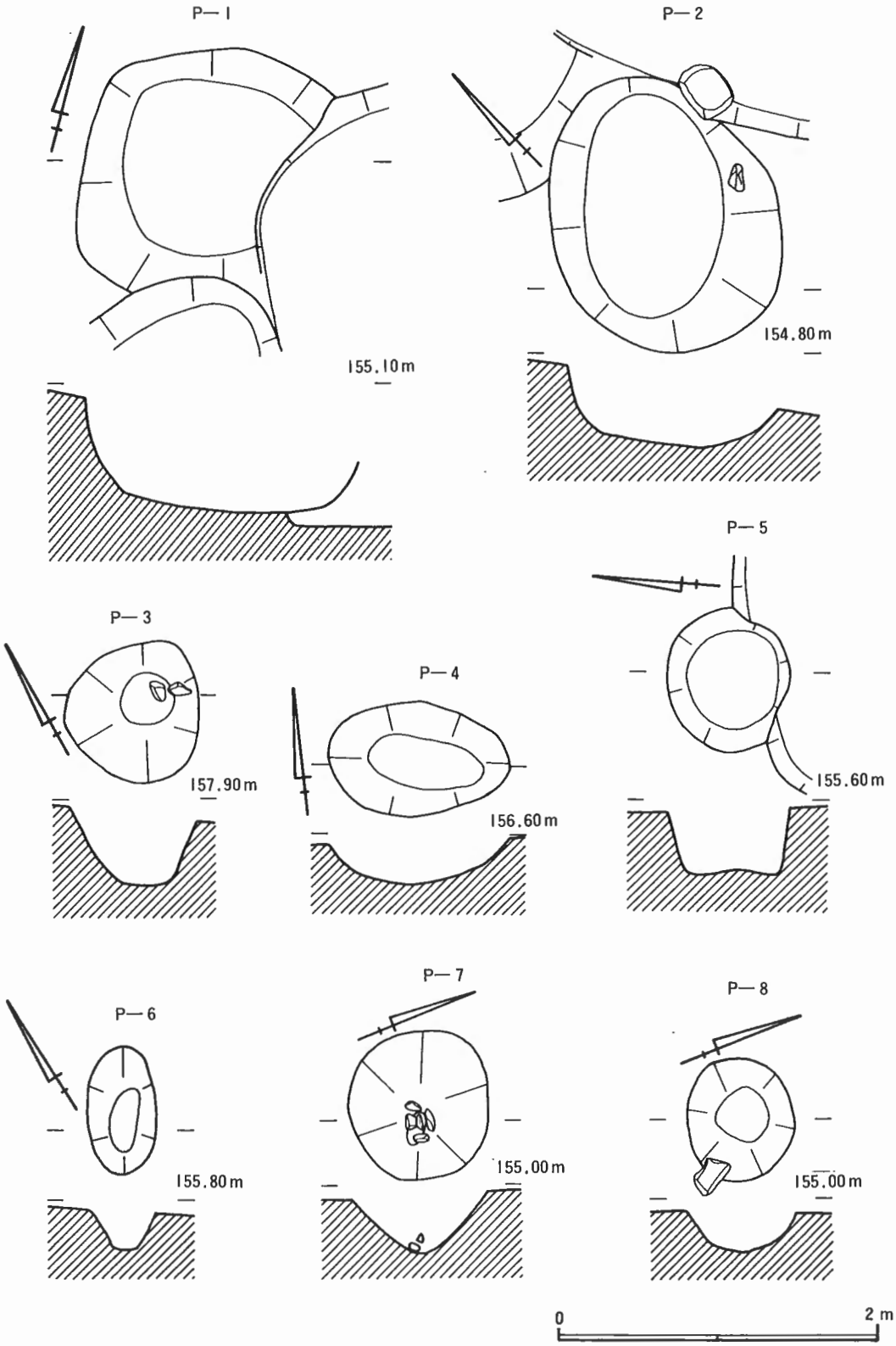
位置　C－13グリッド北東端に検出される。標高157.5m付近にあたり，B地区平坦面が北側へ除々に傾斜を始めようとする箇所である。東側は壁を接するように調査区外となり，西側も壁を接して第52号炉穴跡が存在する。それ以西はほぼ1m間隔をおいて第14・15・24号炉穴跡等が並ぶ。南側は若干の遺構空白地帯となる。

構造　形状は略円形を呈し，規模は100×80㎝，深さ45㎝を測る。長軸方位はN－11°－Wを示す。断面は比較的垂直に掘り込まれ，また坑底は平坦となって「U」字状となる。埋土には上層より炭化物が混入され，さらに坑底に焼土の点散も認められる。しかし，それらは本土坑跡内に焼成されるのではなく，周囲の炉穴跡の影響となろう。

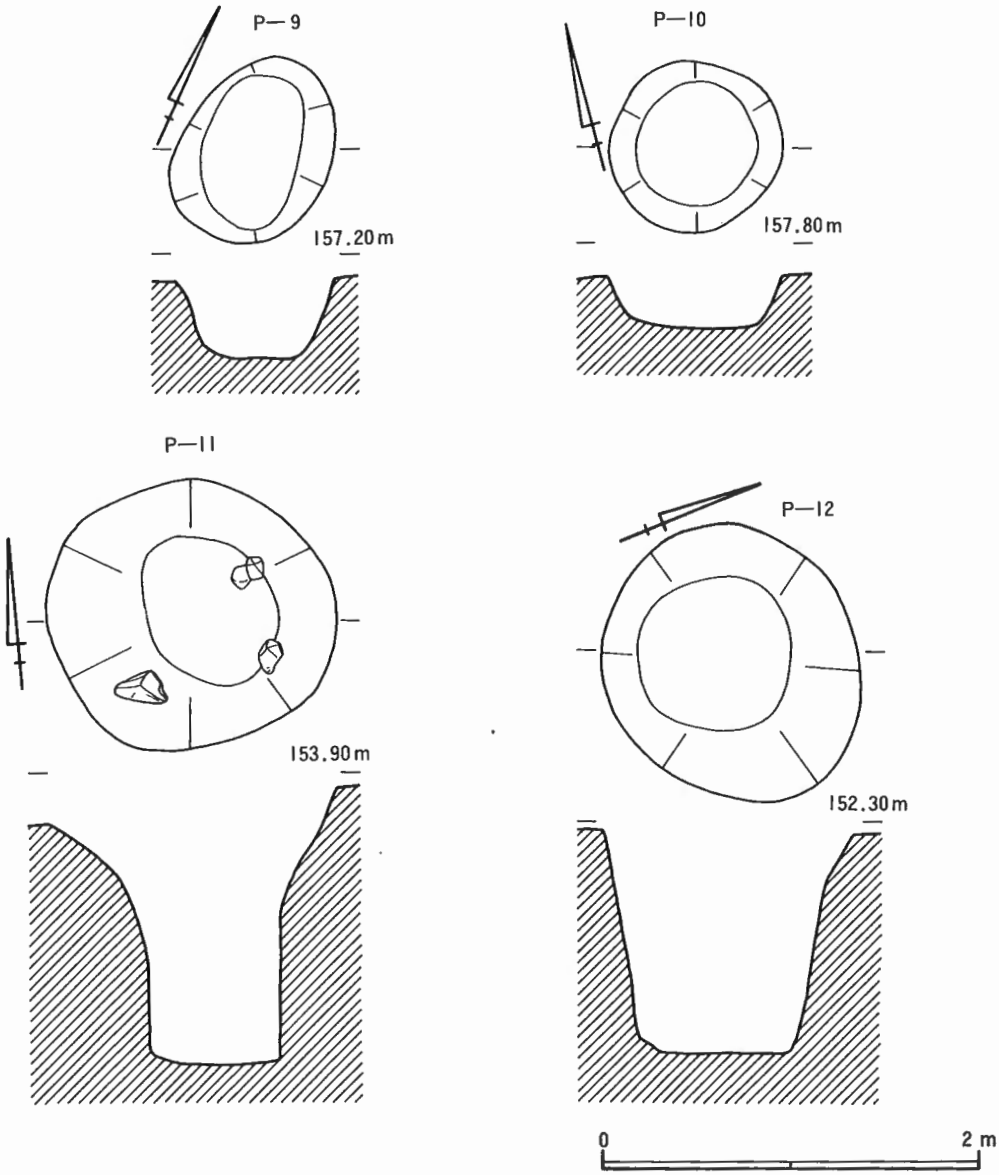
遺物　坑内には黒曜石片，頁岩片が多数確認され，さらに石鏃II類C－2種（1602）が出土する。

第10号土坑跡（第227図，図版第321）

位置　M－23グリッド中央に検出される。標高152.5～153.0m付近にあたり，F地区の弱い谷地形が南西側に開口され，若干の平坦面を形成する中央部に位置する。それ以降は除々に標高を減じてF地区最深部に没する。東面斜面には竪穴住居跡群が存在し，もっとも近く7m程して第22号竪穴住居跡に接する。東側から西側へ時計回りにそれぞれ6～7m程して第57・58・56号炉穴跡をみる。それらの中央にあたる。



第226図　土坑跡実測図①



第227図　土坑跡実測図②

構造　形状は略円形を呈し，規模は 95×85 cm，深さ 30 cmを測る。長軸方位はN－59°－Eを示す。坑上半部を若干削取されるが，外開きの「U」字状で，坑底は平坦となる。埋土は非常に黒色が強く，中世～近世にかけての円形土坑墓跡に近似する。

遺物　なし。

第 11 号土坑跡（第 227 図，図版第 321）

位置　J－18 グリッド南端に検出される。標高 154.0 m付近にあたり，D地区広域平坦面が西側へ除々に標高を減じて，中央凹地帯へ没しようと頂部に位置する。南東側へ 5 m程して第 21 号竪穴住居跡をみる以外，広く遺構に疎隔される。

構造　形状は略円形を呈し，規模は 155×140 cm，深さ 135 cmを測る。本遺跡の土坑跡におい

て最大級である。長軸方位はN－72°－Eを示す。断面は，坑上半部は緩やかに掘り込まれ，坑底より80㎝程から垂直に，坑底を平坦にもった「U」字状となる。坑底は岩盤層に達して地山礫の露出をみる。

遺物　なし。

第12号土坑跡（第227図，図版第321）

位置　N－17ポイント東隣に検出される。標高152.0～152.5m付近にあたり，D地区広域平坦面が南西側に下って，新たな陵を形成して，中央凹地帯とF地区凹地帯を2分しようとする頂部に位置する。全ての遺構に疎隔されて，もっともちかく北側へ15m程して第4号集石跡，第8号集石土坑跡をみる。形状・規模を類似する第11号土坑跡は北東側へ17m程して接する。

構造　形状は略円形を呈し，規模は150×135㎝，深さ120㎝を測る。形状・規模とも第11号土坑跡に類似して，本遺跡の土坑跡に，並んで最大級となる。長軸方位はN－72°－Eを示す。断面は坑上部より垂直に掘り込まれ，坑底を平坦にもった「U」字状となる。坑底は岩盤層に達している。構築面，埋土とも褐色系土であるが，埋土最下層には10㎝程の厚さをもって黒色土が確認される。

遺物　なし。

第Ⅳ章　調査総括

第１節　遺物の検討

１．石器について

(1)　構　成

本調査によって得た石器は総数 2,715 点で，その構成は第 228 図のとうりである。

その内容は石鏃が未製品を含めて 2,162 点，構成率 80％を占め，他を圧倒する。石鏃の数量が石器構成に絶対値でないことは言うまでもないが，縄文時代初頭に発生する『弓矢』が，先土器時代を残照する石器構成を瞬時に変革して，包括する状況を如実に表わしている。

石鏃に次ぐ，磨石，それに付随する凹石，敲石，石皿等の普遍的な存在は採集活動の顕著な反映であり，固定された生産活動，つまり定住生活を意味するものである。この状況は石鏃に劣ることのない構成とみるべきである。

さらに磨製，打製石斧も生産工具，および掘削具として，それらを助長する。

以下，他の石器も量的な把握に埋もれるが，石器構成のなかでは充分であり，本遺跡がすでに縄文時代の基本的な石器構成を備えていたとするべきである。

『弓矢』の発生は単なる狩猟方法の変化に止まることなく，固定化された生活基盤の整備，安定を生む。縄文時代早期の石器構成に石鏃・磨石が大きな比重を占める事実は，遺跡の内外にむけられた，発展期における表裏一体の活動の結果であろう。

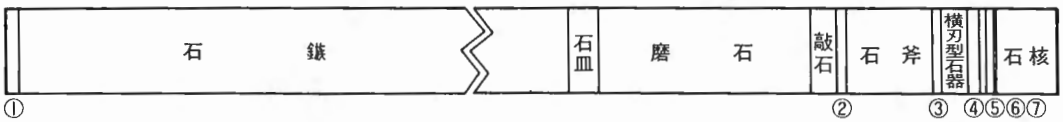
(2)　有舌尖頭器

石鏃の爆発的な浸透・普及による尖頭器の退潮は本遺跡に明らかである。

有舌尖頭器が第Ⅲ群→第Ⅳ群へ移行するにしたがい、小形化・鏃形へ変化していくことは周知される。

本遺跡Ⅰ類ａ種[註1]もそれぞれの内容をもってなるが，身部に比して，基部形態，とくに舌部長は斉一性をもつ。したがって器長の差は身部の長短の変化であり，それが除々に短小する状況を「小形化」の兆候として捉えるのは早急で，依然として機能を変えていない。

Ⅰ類ｂ種は『有茎鏃』と称されて，石鏃主体におく場合もあるが，本質的な有茎鏃の発生は縄文時代前期以降であるから，形態的な分類上，有舌尖頭器の域を越えるものではなかろう。



①尖頭器　②凹石　③石匙　④スクレイパー類　⑤石錐　⑥砥石　⑦ペンダント様石器

第228図　石器構成図

石鏃の出現による受動的な変化現象も予想されている。

さらにⅠ類c種の系譜も知れるが，有舌尖頭器の退化・消滅，石鏃の発生における内在的な要因[註2]についての問題は多い。

本遺跡第Ⅰ群土器，表裏縄文土器群[註3]に有機的な結合関係をもって摘出されたものではない。

(3) 石鏃－とくに鍬形鏃と局部磨製石鏃について－

石鏃の分布を第229図に示す。それは大略が地形条件に沿ったものである。

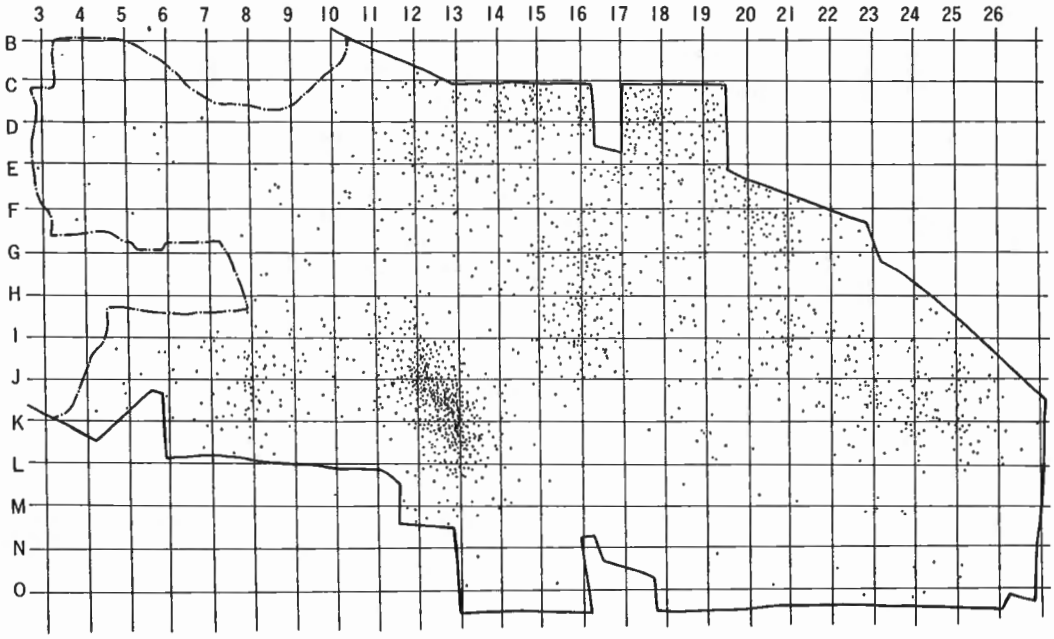
本遺跡に得た多量の石鏃，その未製品，さらに黒曜石剥片は『製作跡』の可能性を抱かせる。具体的な遺構の確認はないが，石鏃未製品の分布が，c－18グリッド域から中央凹地帯最深部へ下だる状況は石鏃の分布を凌駕するとともに，独自の分布形態を示す。黒曜石剥片も約60%がそのライン上に集中散布して追随する。

本遺跡は第Ⅰ群土器，表裏縄文土器群を上限とする。これらは北西側平坦面を主体分布域とするが，前述の分布が及ぶことなく，石鏃の有り方が一般でない状況をみる。

なお，この部分には磨石Ⅱ類－c種，いわゆる「特殊磨石」が分布されないことを付言しておく。

本遺跡の主体をなす石鏃はⅡ類b－5種である。細身で逆刺が外方へ張り出す「人」字状を呈し，同b－3・4種を含めて，本遺跡を特徴する。その絶対量をもって，遺跡全域に広域な分布圏を形成する（第230図）。

局部磨製石鏃は38点が確認される。Ⅱ類b－5種が絶対量をもって圧倒する。これにⅡ類a－3種，鍬形鏃が次ぐ。磨製頻度はそれよりたかい。



第229図　石鏃分布図

II類a－3種，鍬形鏃の分布を第231図に示す。それは他種が調査区全域に，およそ自然営力のなすままであるのに対して，C～H－16～19グリッド域，とくにC・D－17～19グリッドに集中する。

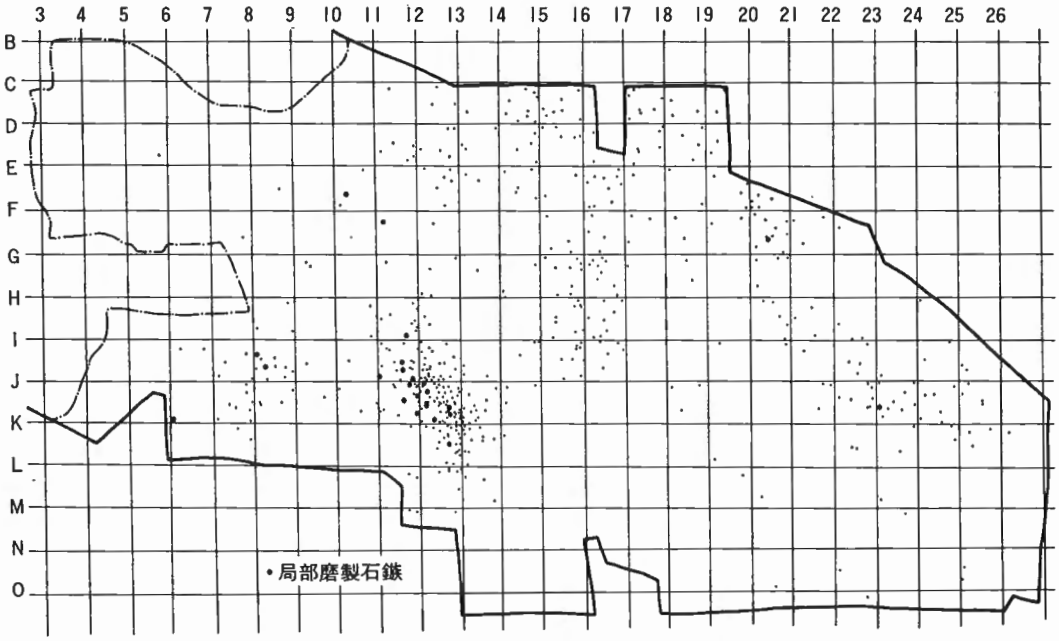
この分布状況は極めて特異であり，第IV群土器，帯状施文山形押型文土器分布とおよそ重複してなる。両者は本遺跡に客体的な存在で，その有り方は類似したものがある。

上述のII類b－5種と同a－3種，鍬形鏃は局部磨製品をもって共通する。

局部磨製石鏃は研磨部位・方法から，①「一」状，②「◡」状をみる。これは直接，①椛の湖遺跡第II段階，②樋沢遺跡[註4]の研磨手法[註5]に比定されるものではない。共に両研磨手法が共有されて，同一の行為，意識のもとに施されたと判断される。研磨部位から着柄に関する何らかの細工であろうが，器厚を薄く保つための行為であるなら，平基式石鏃に皆無であることは疑問である。

II類b－5種の局部磨製品は中央凹地帯より西側域に主体分布をもつ。これはII類a－3種，鍬形鏃局部磨製品の東側域に主体分布をもつ状況と完全に相反して，両者に時間的同一性を謀ることは非常に困難である。これは局部磨製行為が時間的な共通行為の延長上にあると理解するしかない。

局部磨製石鏃は黒曜石に依存がたかい特質をもつ。椛の湖遺跡第II段階に発生をみるが，そこでも石鏃の大部分が玻璃質安山岩，チャートであるのに対して，32点中，31点が黒曜石製である。これらの共通性を有しながら，椛の湖遺跡局部磨製石鏃を現状におくことは，時間的継続性のない地域的な行為として認めざるを得ない。つまり局部磨製行為に時間は判断されない



第230図　石鏃II類b-5種分布図

状況をみる。

鍬形鏃と局部磨製石鏃は縄文時代早期の特徴的な石器であり，その分布は汎日本的なひろがりをもつ。本遺跡おける併存・共有は決して偶然のものではない。そのひろがりと退潮を捉える時，〝帯状施文の山形押型文土器〟の汎日本的分布も重複して浮かぶ。いずれにしても再度の総合的な考察が必要となろう。

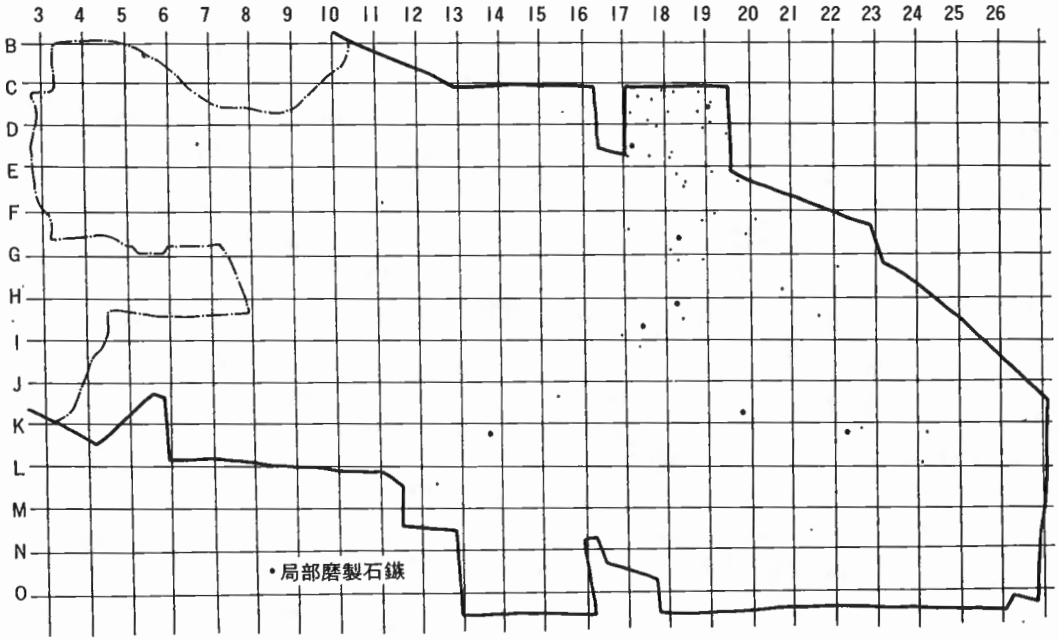
(4) 偏平石皿と特殊磨石

縄文時代早期における石皿と磨石は，縁取りのない『偏平石皿』と，いわゆる穀摺石と称される『特殊磨石』に代表されてきた。しかし，その実態は未だ不明で，両者の対応関係さえ曖昧模糊したままである。

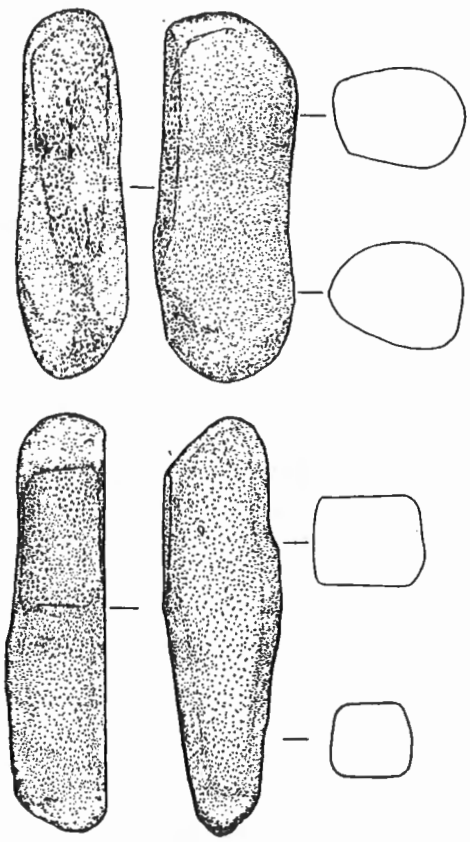
この状況下に，本遺跡における石皿Ⅰ類，つまり縁取りをもった『凹面石皿』と，磨石Ⅰ類『楕円球磨石』の検出は，前述石皿・磨石に，その機能をあてる必要をなくして前進しよう。

石皿Ⅱ類の偏平使用面は肩部に未磨耗部をもち，その境線は孤状をなさない。描出すべきものが円運動を基本としない結果であろう。比較的，法量をとることがなく移動性に富むことが予想される。硬質・緻密な使用面には敲打痕を有する例もあって，台石的な機能の併用も知れる。ここではひろく『台』におく。

近年，磨石の多くが敲打痕・凹部を有することで，特定の個有名詞を付けない傾向にある。しかし，これをもって磨石・敲石・凹石，個々の単一的な機能の消失を言うのではなかろう。また，磨石類[註6]と称する一連の機能の集約が，作業の同時性までを説く，ものでないことは確認しておくべきである。



第231図　石鏃Ⅱ類a-3種(鍬形鏃) 分布図



第232図　現代の敲石(1/3)
－橋口尚武　1983　転載－

この敲打痕・凹部は磨耗条件を異にするであろう磨石Ⅰ類，Ⅱ類の大部分に同様に認められる。これは両者に同一の併用機能が存在したことを示す。

敲打痕・凹部は詳細な観察によると，円錐形になめらかに窪む『凹石様凹部』，浅く不規則な『敲石様打痕部』，『台石様打痕部』等，個々に状況の変化をもってなるらしい。[註7] それはそれぞれが果したであろう機能差を説くが，事実，凹部がそれを作出するために敲打されるのか，敲石様の使用によって生ずるのか，判断されない場合が多い。明確な『凹石様凹部』は119点中，21点にすぎない。現状では〝たたく〟基本的な行為をまとめておくのが妥当であろう。その対象物はあまりに多い。

特殊磨石はその名称にしたがい，『磨石』に分類されることが一般である。しかし，その機能面については「滑らかというより，ややギラギラした感触がある。他の面とは明瞭な稜をなし，その稜付近には細かな剝離痕が残る。」に要約され，常に『磨石』的でない懸念がもたれている。分布は落葉広葉樹林帯とよばれる地域にほぼ一致する，指摘がされる。[註8]

一方，同様に縄文時代早期に特徴的な石器として『スタンプ形石器』がある。この機能面は平担を呈し，それほど顕著でない磨耗痕と，折断面（平坦面）の周辺に細かい剝離痕が残るなど，特殊磨石の機能面に酷似することは容易に知れる。

スタンプ形石器は形態から飛騨地方で使用されていた「トチムキ石」に類する機能が想定されている。[註9] これに共通性を求めれば，民俗例による奥多摩・秩父地方の「栃の実」の皮むきに使用される『タタキ石』[註10] が特殊磨石の形状に似る。本遺跡にスタンプ形石器は検出されない。

〈縄文文化は温帯の落葉広葉樹林の文化として出発した〉縄文文化の成立・発展・衰退は，後氷期の気候変化と密接なかかわりをもつ。すなわち縄文文化の成立期にあたる縄文時代草創期・早期は寒冷な氷期の気候が終り，温暖な後氷期の高温期にむかう暖向期に相当する。それは大陸的気候から海洋的気候への移行期にあたる。[註11]

この植生環境の変化と，石鏃・磨石の石器構成に占める比重が強ち無関係でなく，とくにこ

の期における特殊磨石の発生は充分に指摘されているところである。しかし，スタンプ形石器とともに継続されない状況をみる。

特殊磨石の減少から消滅に至る，に併行するべく，縄文時代早期末～前期初頭にかけて縄文海進がもっとも進行する。それは『貝塚』の盛隆を促すことになる。さらに中期に至って，後氷期の中でもっとも温暖な高温期をむかえ，石器構成に占める石鏃・磨石は打製石斧の増長に立場を完全に逆転される。[註12]

気象・気候条件の変化に起因する植生環境の変化は必至であり，それに対応する利器の伸長・衰退は必然的現象であろう。特殊磨石消滅後，一般磨石に分類される『石鹸状磨石』の有り方に注意しておきたい。

（馬飼野）

2．土器について

(1) 分類

本遺跡出土土器はⅠ～Ⅷ群に分類される。

第Ⅰ群土器

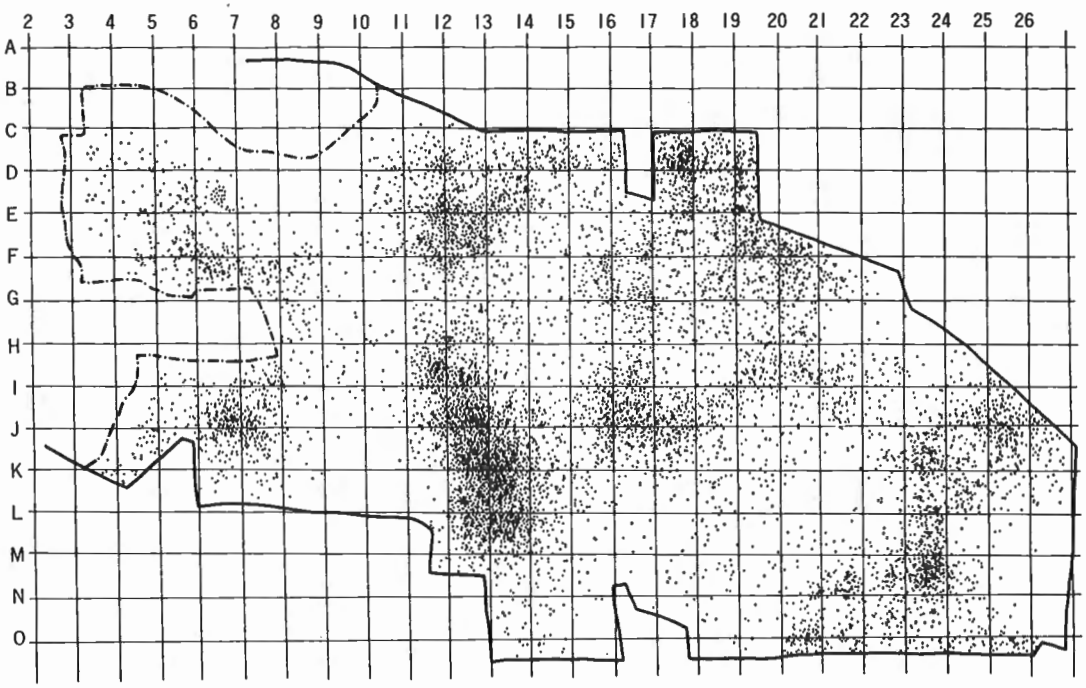
表裏縄文土器を一括する。出土総数 373 点。

第Ⅰ群 1 類土器（1001～1013・1016～1045・第 235 図 1・2・3・4）

器面内外に縄文が施文されるもの。内面の縄文は底部まで施文される。

第Ⅰ群 2 類土器（1014・1015・1049～1056，第 235 図 5・6）

1 類土器の内面施文が欠如するもの。



第233図　土器分布図

分布　第234図に示すとうり中央凹地帯，および第25～28号竪穴住居跡の位置する西側斜面に集中する。

器形　胎土が脆弱で，原形をとどめるものが少なく細片であるため，明確な器形を把握するのは困難である。第235図。

口縁部は先端で外反し，口唇部は平担に整形され縄文が施文されるものと，丸く整形されるものに大別される。

胴部は直立または弱い脹みを有する。

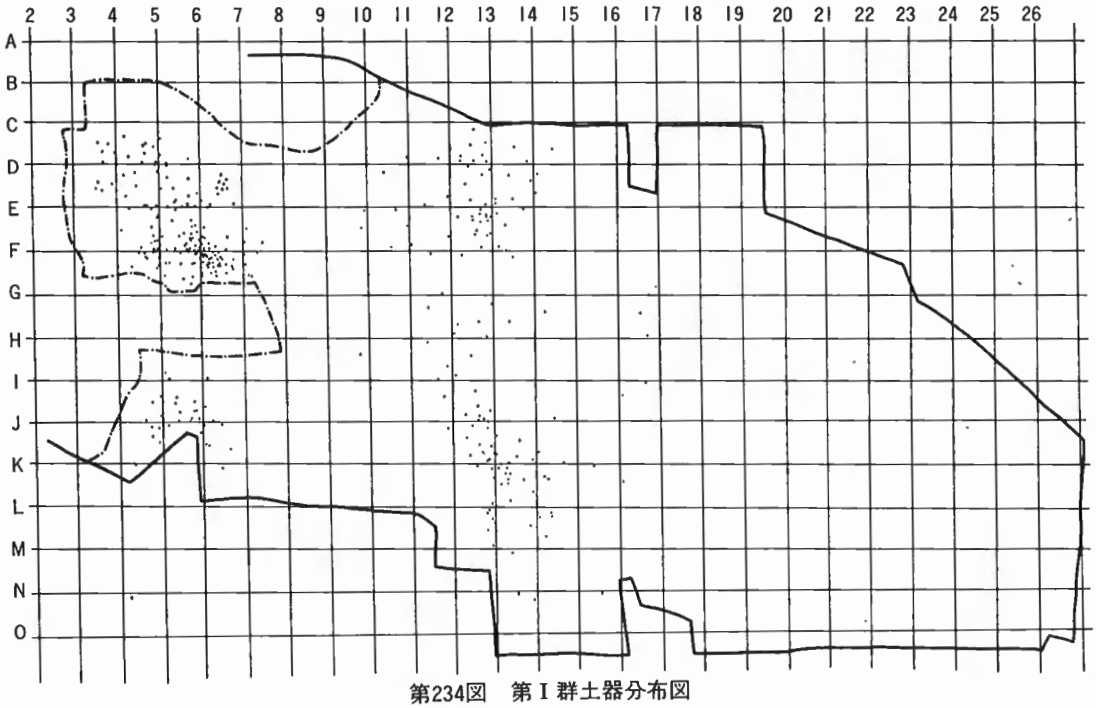
底部はＪ 2803より丸底が推定される。

文様　単節斜縄文ＬＲが多用され，少量のＬ・ＲＬ・異条縄文が見られる。原体を横位回転して斜縄文が施文されるものが主体を占める。原体を斜位回転して縦走する縄文が施文され，条方向に強い規則性は見られない。羽状縄文が見られる。

胎土・色調　多量の金雲母を含有し，非常に脆弱なものと，白色砂粒または小礫を多量に含有するものとに大別される。両者とも長石・石英・黒雲母粒が含有されるものが見られる。器厚5～8㎜。茶褐色を呈する。

備考　輪積み痕が内面に見られる。上段より引き伸ばされた粘土が下段内面を覆い，その部分に斜縄文が施文される。また逆に斜縄文を粘土が覆う部分が1036・1041等に見られる。これは下段に縄文を施文した後，上段の粘土帯を積み上げ接合したもので，内面の施文が成作時の粘土帯接合ごとに行なわれたものと推定される。

1011・1012・1024には穿孔が見られる。これらは錐揉み状に丁寧に穿たれ，穿孔部壁面が滑



第234図　第Ｉ群土器分布図

らかで，径が小さい点等から，焼成前に穿たれたものと考えられる。

第II群土器

縄文土器を一括する。出土総数 1074 点。

本群は 3 類に大別される。

第II群 1 類土器（1046～1048・1057～1078・1137～1178，第 237 図）

分布　第 236 図に示すとうり中央凹地帯，および西側に集中し，第 I 群土器と同じ分布を示す。

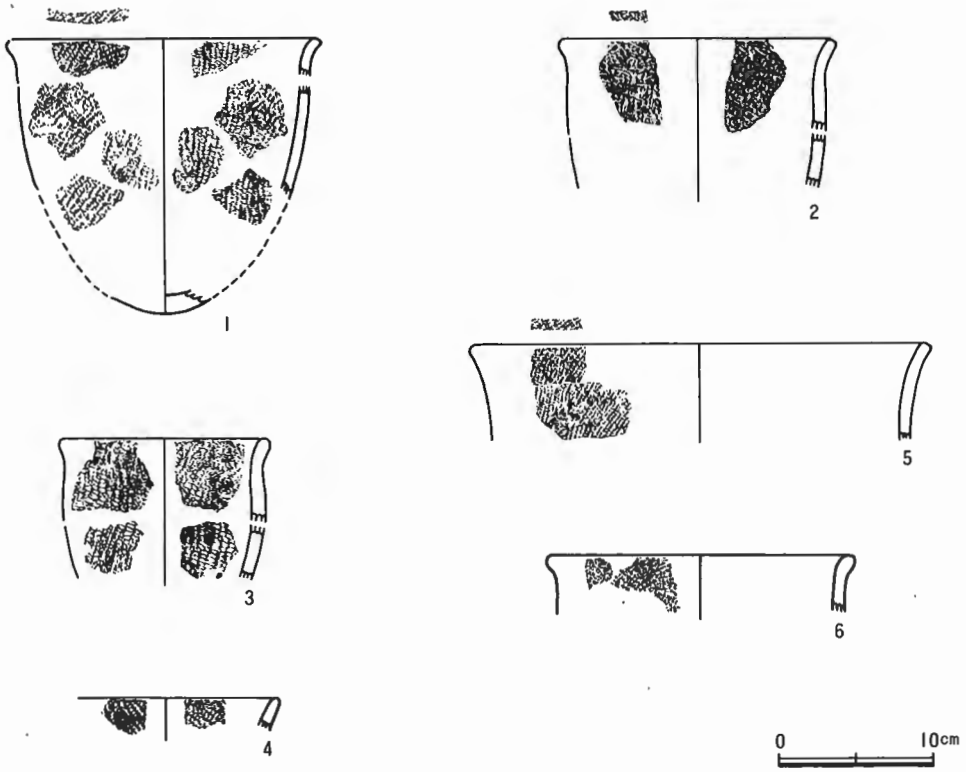
器形　出土総数 219 点。すべて細片で，接合復元されるものは少なく，明確な器形を把握するのは困難である。第 237 図。

口縁部は外反し，口唇部が平担に整形されるものと，尖頭状または丸く整形されるものに大別される。

胴部は直立する。底部不明。

文様構成　細長く密接した節のＬＲの縄文が多用される。条の太さは一定しない。

原体を横位回転して斜縄文が施文されるものを主体とするが，1073・J 2701 等のように原体を斜位回転して，口縁部より縦走する縄文が施文されるものや，1154・1155・J 2802 等のように横走する縄文が施文される胴部破片が見られる。



第235図　第 I 群土器

器面外面と口唇部および内面の口唇部直下に縄文が施文される。

外面は口唇部直下に無文部を残し，以下全面に密接して施文される。

口唇部は平担に整形されるものは独立して施文されるが，尖頭状または丸く整形されるものは，口唇部より内面にかけ原体を数段横位回転して連続して縄文が施文される。1066～1068は羽状に施文される。

胎土・色調　焼成良好。硬質，緻密である。淡黄褐色の砂粒・小礫が多量に含有され，多いものは胎土の1割を占める。また長石・石英・黒雲母粒が含有されるものが見られる。黄褐色から茶褐色を呈する。

備考　輪積み痕が1138・1140・1150・1163に観察できる。1138・1155は上段内面を下段に引き伸ばして接合する。1140は上下段両方より粘土を引きのばし，接合面が斜めになるよう接合される。1163は割れ口上端が凸面をなし，下端が凹面をなす。

第II群2類土器（1082～1124・1198～1271・1277，第239図）

分布　第238図に示すとうり中央部凹地帯より東側一帯に広く分布する。

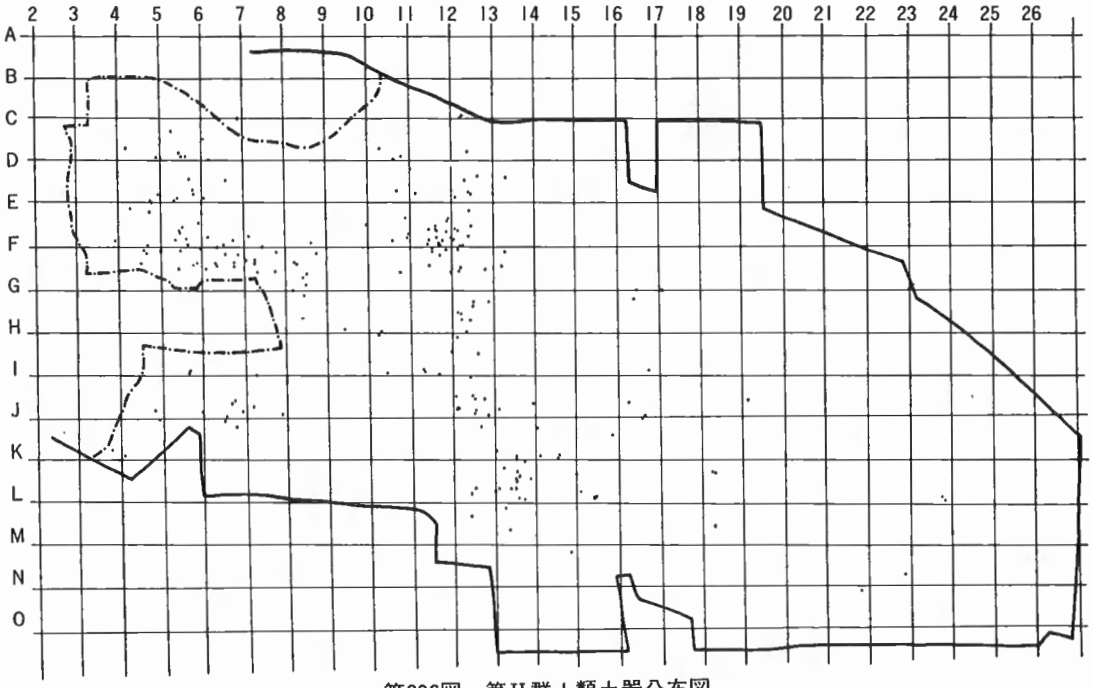
器形　総数409点が出土するが，明確に器形を把握することはできない。第239図。

口縁部は胴部より開きながら外反するものと，「く」の字状に外反するものが見られる。

口唇部は平担なものと丸味を有するものが主体を占め，他に尖頭状を呈するものと肥厚するものが見られる。

底部は鋭角の尖底を呈するものと推定される。

文様構成　節が大きく条の太い縄文が多用される。3種に大別される。



第236図　第II群I類土器分布図

a種（第239図1・2）　縦位の羽状縄文が外面全面に密接して施文されるもの。本類の主体をなす。

b種（第239図3）　斜縄文が口唇部直下より縦位の帯状に施文されるもの。

c種（第239図4・5）　斜縄文が器面全体に密接して施文されるもの。

施文は原体を縦位回転して行なわれ，羽状縄文は2段撚りＬＲとＲＬを交互に縦位回転して抽出される。

口唇部および口唇部直下の内面には，縄文の施文されるものと施文されないものが見られる。

胎土・色調　繊維が多量に含有される。その他白色粒・小礫等の混入物が多い。粗雑で1類と比較して脆弱で軽い。器厚は8～12㎜と厚く，器面の凹凸がめだつ。淡黄白色から灰褐色・暗褐色を呈する。

備考　1107～1110は口唇部に粘土を貼付して整形される。

第II群3類土器（1079～1081・1125～1138・1179～1197・1272～1276，第241図）

1・2類の範疇に含まれないものを一括する。

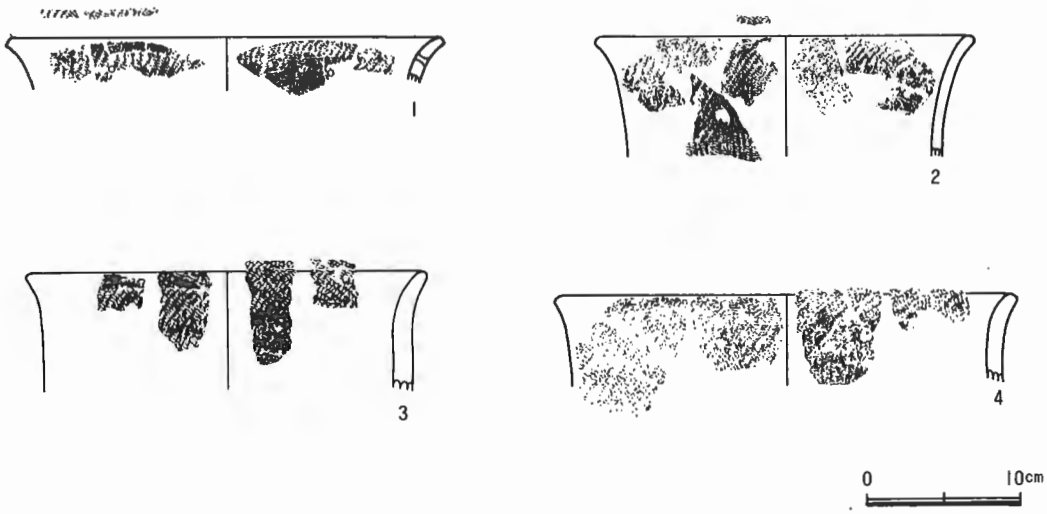
分布　出土総数95点が識別される。第240図に示すとうり中央部凹地帯を中心に分布する。

器形　口縁部は開きぎみに直行するものと直立するもの，または弱く内湾するものが見られる。1129は上半部が復元できる唯一の大形破片である。第241図

文様構成　斜縄文が器面全面に密接して施文されるものが主体を占める。口唇部直下の内面に施文されるものと，施文されないものが見られる。第241図2は外面の施文が異方向施文構成をとる。同5は内面に羽状縄文が施文される。同8は無文部を残して帯状施文される。

胎土・色調　1129・1180は繊維を含有する。その他は繊維が不明瞭で，白色粒・小礫が含有され，1079は長石・石英・黒雲母が含有され，胎土からは第II群1類土器に含まれる。

主体を占める土器群は暗褐色から黒褐色を呈する。



第237図　第II群1類土器

備考　本類は口縁部が直行し，斜縄文が全面に密接して施文されるものを一群として一括することができる。

第Ⅲ群土器

撚糸文土器を一括する。出土総数 914 点。

大半が細片であり明確な分類はできない。本群は 6 類に大別される。

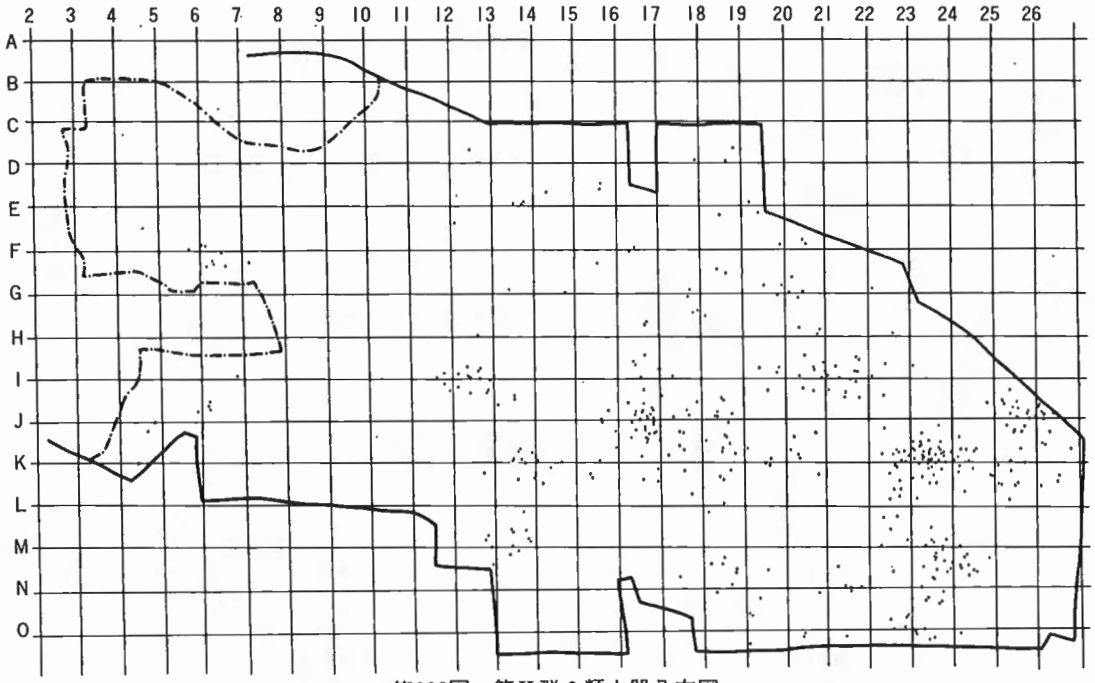
第Ⅲ群 1 類土器（2001～2028・2120～2123・2136・2142～2149，第 243 図）

分布　出土総数 262 点。第 242 図に示すとうり中央部凹地帯および西側平坦面に集中し，北東平坦面に弱い拡がりを見せる。

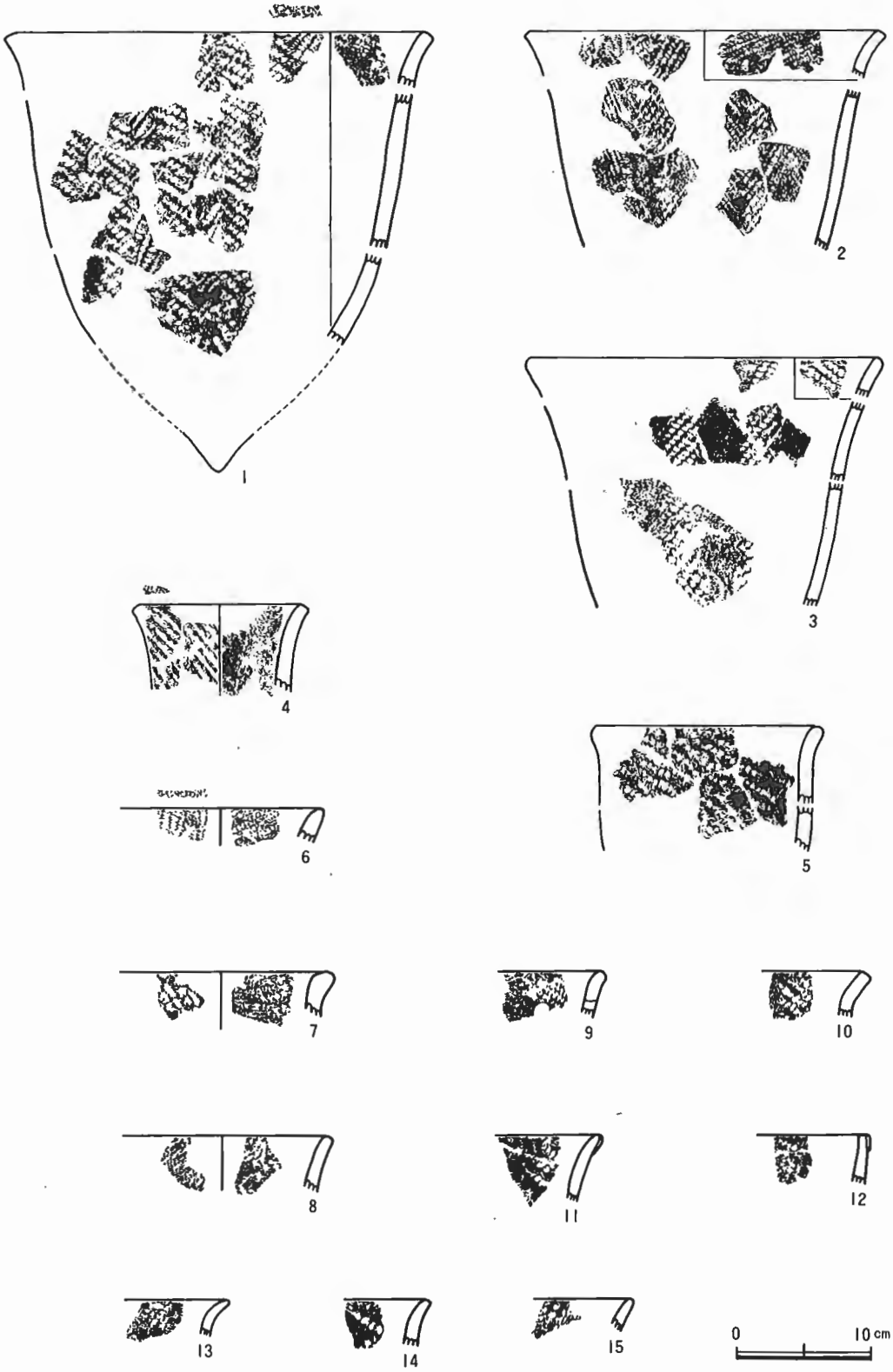
器形　胴上半分を復元できる破片が出土する。第 243 図。口縁部は弱く開くものと直立するものが見られる。口唇部は外面が削がれたような尖頭状を呈するものと，丸く整形されるものが見られる。胴部は直行する。

文様構成　1 段撚りＲの撚糸文原体を用いて，口唇部より口縁部外面にかけ横位回転し，斜位または横走する撚糸文を施文して，口縁部文様帯を形成する。胴部は口縁部文様帯に直交するよう縦位密接施文される。2010～2014 は胴部で交叉する撚糸文が施文される。口縁部文様構成は判別できない。

胎土･色調　気泡痕のような径 1 ㎜前後の小穴を器面に有するものを主体とする。2001～2014 は小礫・長石・石英・黒雲母を混入し脆弱である。2019～2028 はＩ・Ｊ－6 グリッドより一個体分が一括して出土する。多量の黄白色粒と微量の繊維を含有し，色調は茶褐色を呈する。2017 はＦ－21 グリッドより出土し，胎土に白色粒が含有され，本類中異質なものである。



第238図　第Ⅱ群 2 類土器分布図



第239図　第II群2類土器

第III群2類土器

口縁部が外反するものを一括する。2種に細分される。

a種　外反する口縁部の口唇部および内面に撚糸文が施文されるものを一括する（第244図1～4）

分布　第9号住居跡内出土遺物を含め総数32点と少ない。中央凹地帯および西側斜面に分布する。第II群1類土器分布と同じ傾向を示す。

器形　出土点数が少ないため，器形を把握することはできない。口縁部先端で外反し，胴部は直立するものと思われる。第244図4は第9号住居跡内および周辺で出土する。

胴部は開き，口縁部は小さく外反し，口唇部は尖頭状を呈する。

文様構成　1段撚りRの撚糸文が施文される。2029・2033のように条が密接するものと，間隔を有するものが見られる。外面は縦位施文を基本とし，内面は口唇部直下の外反部に施文されるものと，胴上半部までおよぶものが見られる。

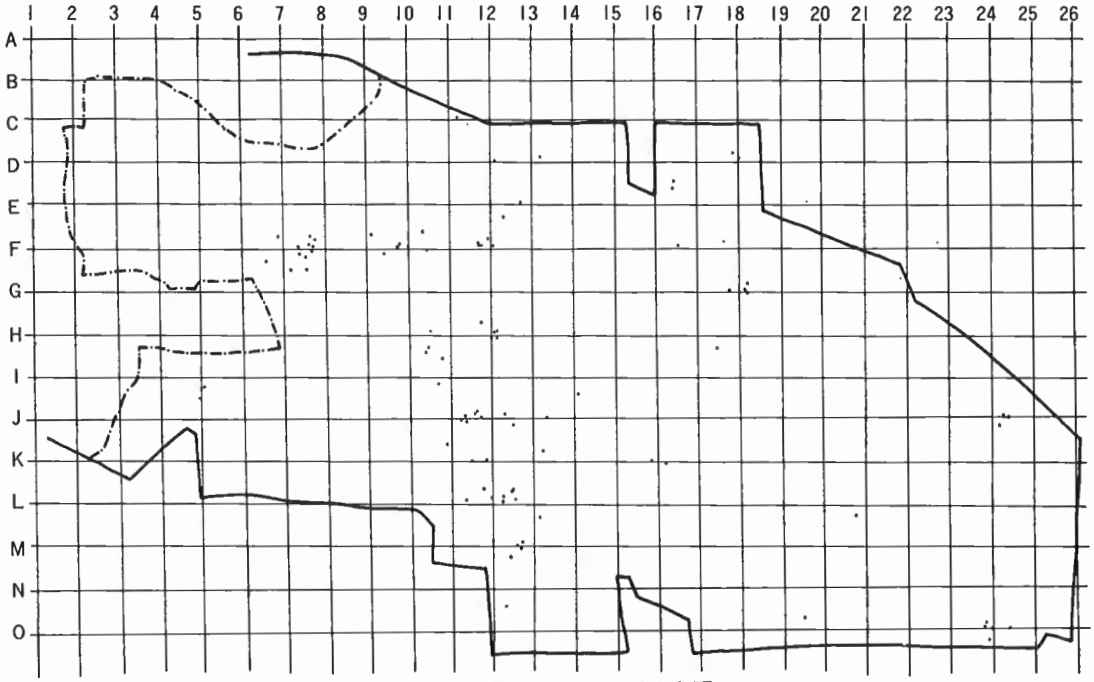
胎土・色調　第244図のように胎土に白色粒・小礫等を含有し，灰褐色から暗褐色を呈する脆弱なものと，同2のように淡黄褐色粒・砂粒を含有し，黄褐色から茶褐色を呈する第II群1類土器に類似するものに大別される。

b種　内面施文の見られないものを一括する（第244図5～7）

分布　口縁部破片3点および胴部破片が出土する。中央凹地帯より東側一帯に分布する。

器形　胴部は直立し，口縁部先端で「く」の字状に外反する。

文様構成　1段撚りRの撚糸文が施文される。施文構成は縦位密接施文(第244図5)，縦位



第240図　第II群3類土器分布図

帯状施文（同６），斜位帯状施文（同７）をとる。７は胴部で交叉するものかもしれない。

胎土　茶褐色粒・小礫等の他に微量の繊維が混入されるものが見られる。色調は淡黄褐色から暗褐色を呈する。

第Ⅲ群３類土器

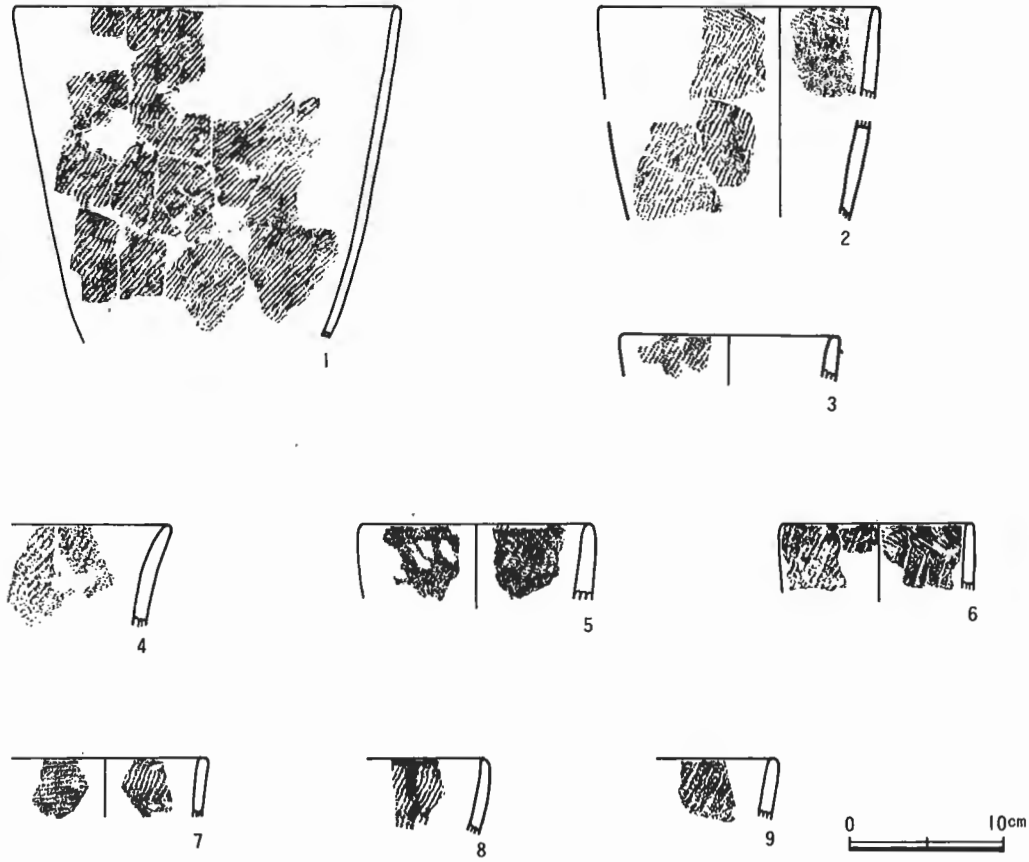
口縁部が直立し，撚糸文が縦位密接施文されるものを一括する（第245図）

ａ種（第245図１）　弱い波状口縁を呈し，Ｌの撚糸文が縦位密接施文される。口唇部は平坦に整形され，内面に施文が見られる。胎土に微量の繊維と微細な長石・石英・黒雲母が含有される。色調は茶褐色を呈する。中央部より１個体出土する。

ｂ種（第245図２・３）　細いＲの撚糸文が外面のみに縦位密接施文され，器形は砲弾形を呈する。出土総数94点，４個体が推定される。中央部より東側全域に広く薄い分布を示す。胎土に繊維と淡黄褐色粒・小礫が含有され，色調は暗黄褐色から暗褐色を呈する。

ｃ種（第245図４）　器面に気泡痕のような小さな穴が多数見られ，胎土に微量の繊維を含有する。色調は暗茶褐色を呈する。Ｒの撚糸文が施文され，器形は小形の砲弾形を呈する。Ｉ・Ｊ－12・13グリッドより１個体出土する。

ｄ種（第245図12・13）　器厚10㎜前後と厚く，条の太いＲの撚糸文が縦位に施文される。



第241図　第Ⅱ群３類土器

東南斜面に集中して分布する。胎土に小礫が多量に含有され，色調は暗灰褐色を呈する。出土数が少なく器形は復元できない。

第Ⅲ群4類土器

網目状撚糸文が施文されるものを一括する。

a種（2181～2198，第247図1・2）

出土総数63点，4～5個体が出土する。分布は第246図に示すとうり中央凹地帯と東端部に集中する。器形は砲弾形を呈する。胎土は各個体ごとに違いが見られる。2181～2190は東端部に集中する同一個体片で，繊維が含有され，色調は灰褐色を呈する。器厚9～12㎜。脆弱である。中央凹地帯に集中する2184・2192・2193・2198は胎土に小礫を多量に含有し，色調は黄褐色を呈し緻密である。2194は器厚5～6㎜と薄く，胎土に繊維・白色粒が含有される。内面施文が見られる。

b種（2199～2202）

出土総数11点。すべて胴部破片である。大きい網目状撚糸文が施文される。分布は分散する。

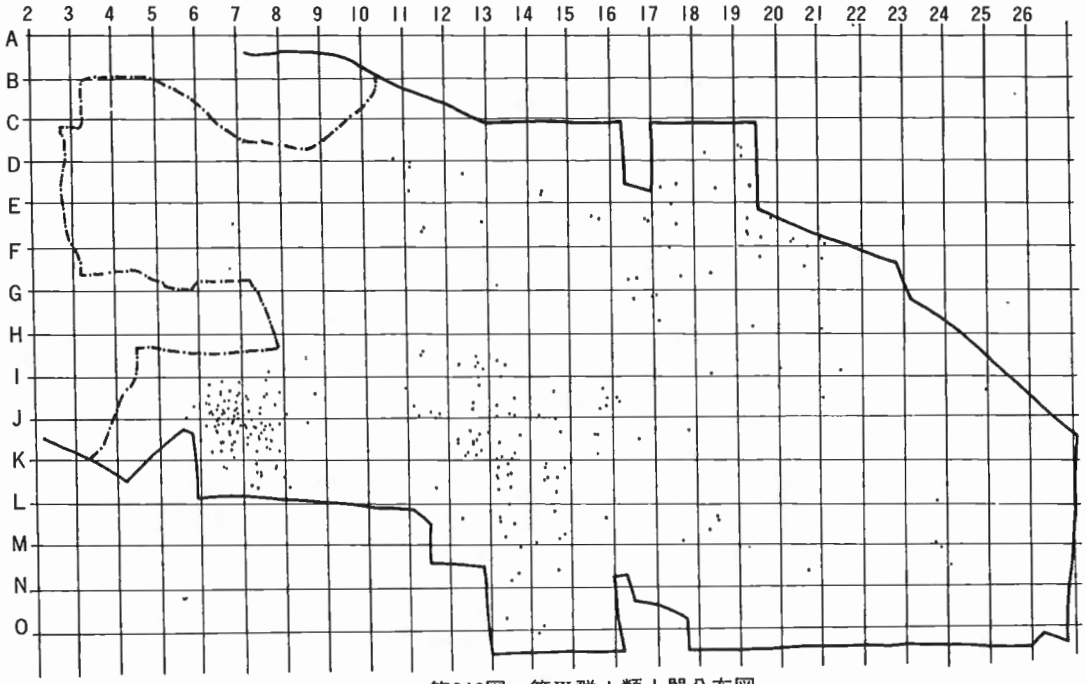
第Ⅲ群5類土器（2170～2180，第247図3）

横走するRの撚糸文が施文されるものを一括する。中央凹地帯より1個体出土する。器形は砲弾形を呈する。胎土には繊維が含有される。

第Ⅲ群6類土器

中央凹地帯より東側に集中して出土する一群を一括する。

a種　Rの撚糸文が縦位密接施文されるもの（2104～2119，2203・2204）



第242図　第Ⅲ群Ⅰ類土器分布図

すべて胴部破片で，器形は復元できない。しかし，2203・2204より，細身の砲弾形を呈し，乳頭状尖底を有することが推定される。胎土に多量の白色粒を含有し，繊維が混入される。色調は灰白色から黄白色を呈する。第II群2類土器に胎土・色調とも類似する。

b種　すべて細片で図示できない。東端部斜面より集中して出土する。条間隙の広いRの撚糸文が施文される。胎土・色調等はa種に類似する。

第IV群土器

山形押型文が帯状施文されるものを一括する。(3001～3048，3382～3384，第249図)

分布　出土総数315点。第248図に示すとうり東側一帯より部分的に集中して出土する。個体数は8～10個体と推定される。

器形

1類（第249図1）　胴長で，口縁部は外反し，弱い波状口縁を呈する。

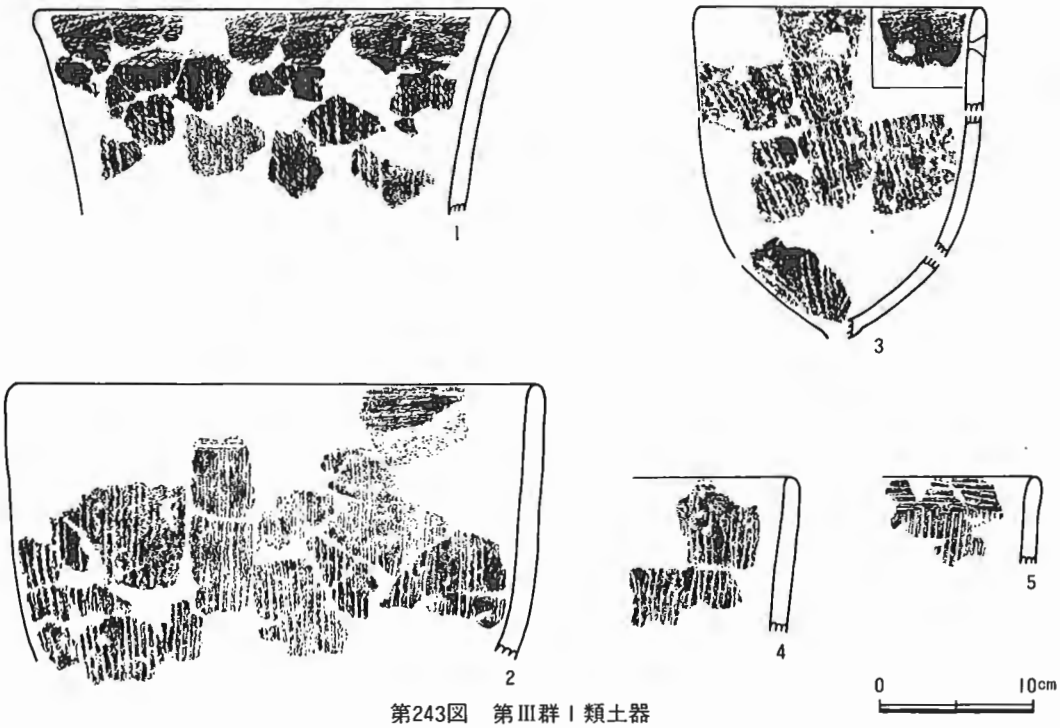
2類（第249図2）　口縁部は直立し，弱い波状口縁を呈する。胴部は直行する。

3類（第249図3）　口縁部は朝顔状に大きく外反し平縁となる。

4類（第249図4）　小形土器，器形不明。

文様構成　山形押型文が無文部を挟んで帯状に施文される。口縁部横位・胴上半部縦位・胴下半部横位の構成をとり，口縁部内面および口唇部にも施文される。

胎土・色調　多量の繊維を混入し，長石・石英を含有するものが見られる。色調は茶褐色から暗褐色を呈する。



第243図　第III群1類土器

3382～3384は多量の金雲母を含有する。

備考　施文原体は径4.8～5.4㎜，長さ23～25㎜と推定され，1周2単位，4～6条の山形文が印刻される。原体端は楔状に切断される。第248図1は口唇部に刺突文が施文される。

第Ⅴ群土器

押型文が密接施文されるものを一括する。

第Ⅴ群1類土器（3049～3378，第251・252図）

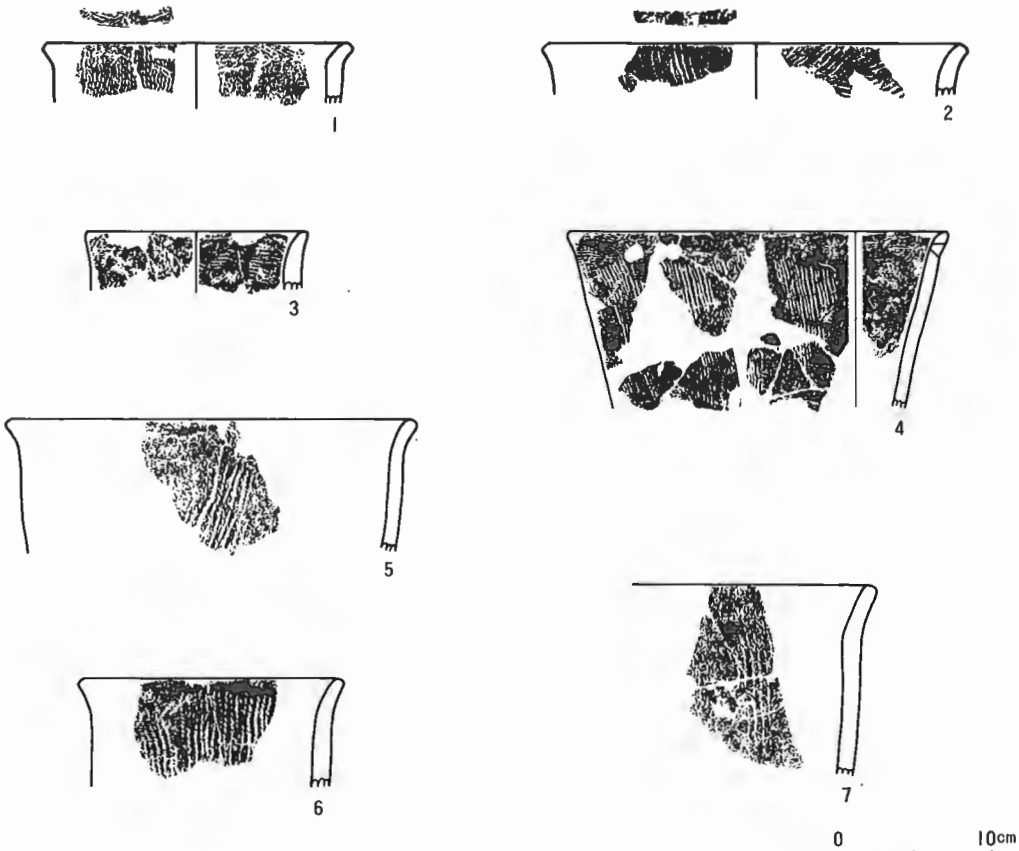
山形押型文が施文されるものを一括する。

分布　出土総数2256点。第250図に示すとうり西側斜面を除き，広く全域に分布する。文様差・胎土により若干の変化を見せる。

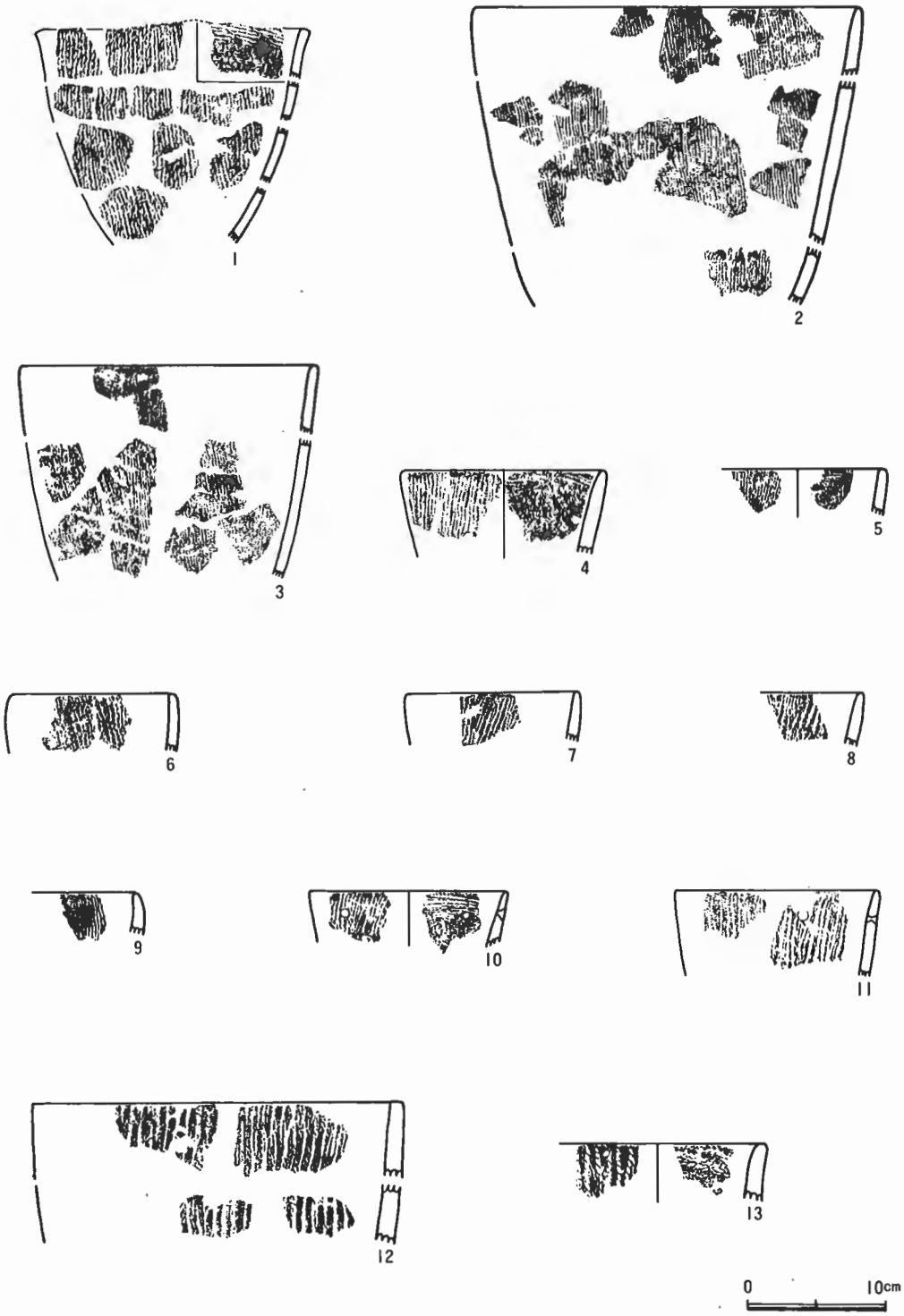
器形　大形破片が出土するが，胴下半部の把握は困難である。第250・251図。3049（第251図1）は口縁部が弱く開き，波状口縁を呈する。異方向密接施文構成をとることとあわせ，本類中特異な存在である。その他はすべて直行し平縁となる。外反するものは存在しない。

文様構成　3049～3051を除きすべて縦位密接施文される。口縁内面に横位施文されるものが見られる。口唇部への施文は見られない。

山形文は，文様凸部が向きを変えジグザグに連続するもの，またはその部分が含くまれるも



第244図　第Ⅲ群2類土器



第245図　第Ⅲ群３類土器

のを一括した。故に多種多様なものが含まれる。

3385～3432は山形文と1本または2本の直線文が組み合わされる。

胎土・色調　繊維が含有される。白色粒・黄褐色粒・小礫等の混入物が多い。灰褐色から暗褐色を呈するものを主体とする。胎土が緻密で，色調は黄褐色を呈する土器（3255～3266）が見られる。

備考　3328～3364（第252図9）は横位の山形文が施文される。これは原体長軸方向に山形文を印刻した縦刻原体を縦位回転施文することによって抽出するものである。中央地帯より集中して出土する。

3385～3432（第252図11～13）は山形文と直線文が組み合わされるものである。分布は本類の拡がりに共通する。器形・胎土・色調等も本類の主体をなすものに類似し，本類に一括できる。

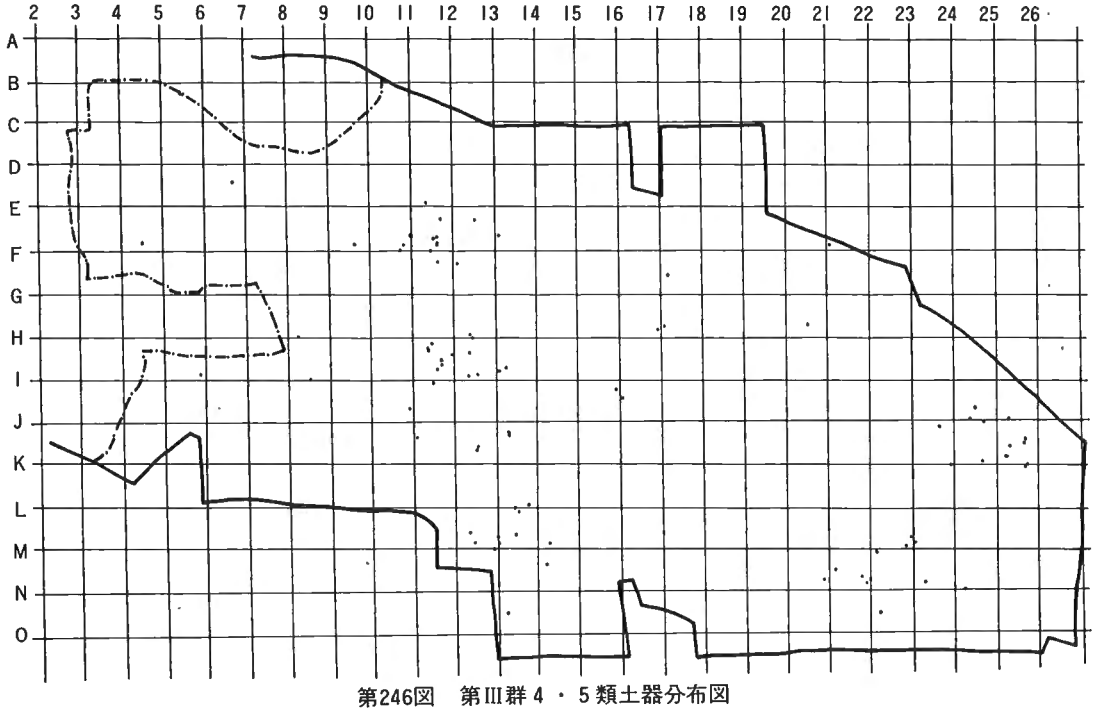
縦位密接施文山形押型文土器は，原体端がまっすぐに切断されるものが大半を占め，これは第IV群土器と相違する。原体径，原体長とも大型化する。

第V群2類土器

格子目押型文が施文されるものを一括する（4001～4469，第253・255図）

分布　出土総数2888点。第254図に示すとうり中央部に分布する。大型破片，同一個体は，中央凹地帯に集中して出土する。

器形　口縁部は4033・4083（第253図3・4）の弱く外反する個体を除き，すべて直立もしくは弱く開きぎみに直行する口縁部を呈する。波状口縁は見られない。胴上半部の大形破片が



第246図　第III群4・5類土器分布図

出土するが，完形を復元するにはいたらない。第253・255図。

文様構成　4452～4454の異方向密接施文される口縁部3点を除き，すべて縦位密接施文される。口縁部内面に横位施文されるものが見られる。4365～4367（第255図4）は口唇部に施文される唯一の例である。4402（第255図7）は内面に山形押型文が施文される。

胎土・色調　繊維が含有される。白色粒・黄褐色粒・小礫等の混入物が多い。灰褐色から暗褐色を呈するものを主体とする。4227～4235は胎土が緻密で，色調は黄褐色を呈する。その他黄褐色・茶褐色を呈するものが見られる。

備考　4462～4469は格子目文と直線文が組み合わされるものである。2個体，23点が出土する。山形押型文土器の同類と比較すると少ない。分布は中央凹地帯に集中する。

格子目押型文として一括した文様は，原体印刻方法が3種に分類される。

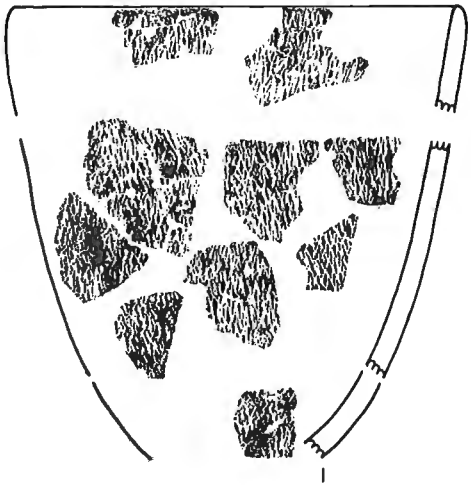
a種．原体に交叉する2方向の直線を印刻するもの。印刻される本数・太さ・交叉角度等の相違により斜格子目文・正格子目文等の多種多様の変化を見せる。大半はこの手法により抽出される。

b種．格子目文を構成する各四辺形が独立して印刻されるもの（4386～4397）

c種　平行する直線間を等間隔に仕切り，格子目文を抽出するもの（4002～4419）

格子目押型文の原体端はまっすぐに切断される。原体径は山形押型文に類似する。

第Ⅴ群3類土器



第247図　第Ⅲ群4・5類土器

楕円押型文が施文されるものを一括する（5001～5097，第257図）

分布　出土総数333点。第256図に示すとうり全域に拡く分布する。

器形　出土数が少なく器形を推定できるのは第257図1・2・9・10の4個体である。口縁部・胴部は直立し，底部は尖底を呈する。弱く外反する口縁部破片が出土する（第257図3）。

文様構成　第257図8を除き，すべて縦位密接施文される。楕円文は，文様が縦横に並ぶものと，半単位づつずれて並ぶものが主体を占めるが，形状が崩れ，不規則に連続するものが見られる。

胎土　繊維が含有される。白色粒・淡黄褐色粒・小礫等が含有され，灰褐色から暗褐色を呈するものが主体を占める。

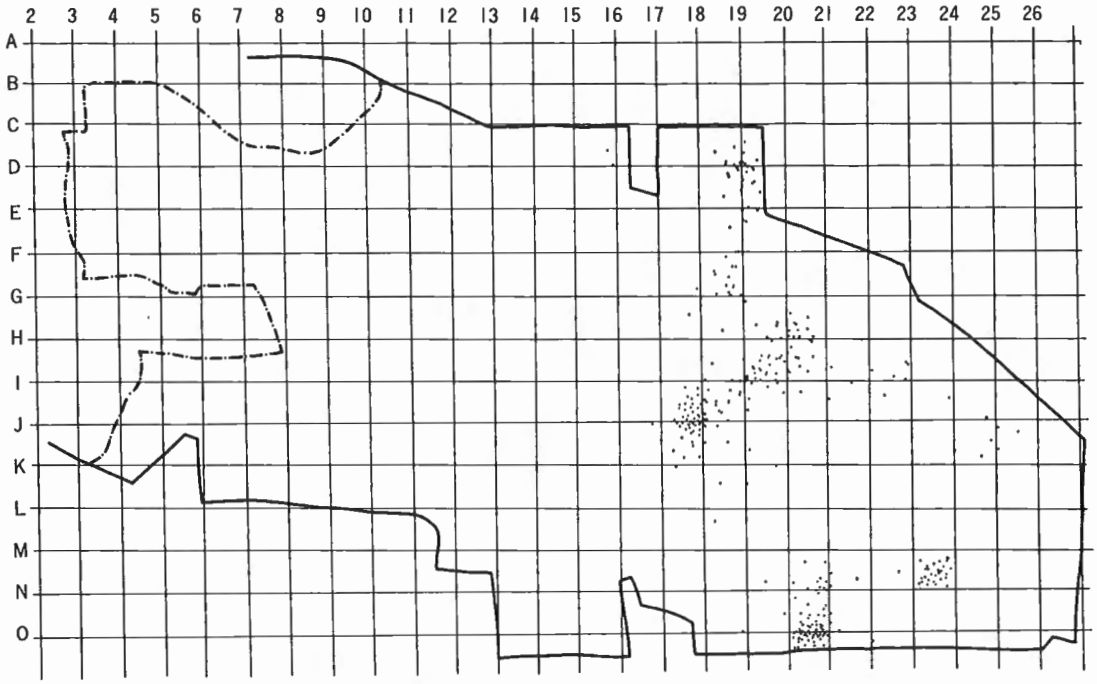
備考　第257図10の文様は，同1の楕円文に2本の直線文が組み合わされたもので，胎土・焼成・色調・器形は酷似する。

5067～5076（第257図6・7）は文様凹部の挾いもので，5077～5081（第256図9）の内面に深い擦痕を有する土器とあわせて，本類中特異な存在である。また5066の大形楕円文の施文されるものは一点のみの出土である。

第Ⅴ群4類土器

第1～3類の範疇に含まれない押型文が施文されるものを一括する（6001～6077，第259図1～8）

分布　出土総数393点。第258図に示すとうり全域に分布する。各個体ごとに集中する傾向が見られる。



第248図　第Ⅳ群土器分布図

器形　口縁部は直立もしくは開きぎみに直行する。第１～３類に類似する。

文様構成　縦位密接施文される。直線とその間に各種の文様を充填して構成する押型文（6001～6058，第259図１～６）が主体を占める，6059～6065は２本の平行直線を交叉させ形成される四辺形の中に，さらに四辺形を充填したもので，二重格子目文または複合格子目文と呼称されるものである。6066～6077は山形文の崩れた形を呈する。

胎土　繊維が含有される。第１～３類に類似する。

第Ⅴ群５類土器

異種文様原体２種を併用して文様が施文されるものを一括する（6078～6089，第259図９～12）

出土総数９点。6081～6085，第259図９は器面外面に格子目文と山形文の原体を横位密接回転して文様が施文される。本遺跡より出土する横位密接施文土器の唯一の例である。6081は胎土に長石・石英・黒雲母と微量の繊維が含有され本群中異質な胎土を示す。

第249図　第Ⅳ群土器

0　10cm

6089は内湾する口縁部で，口唇部は尖頭状を呈する。6048と同一個体で，押型文施文後，撚糸文を口唇部直下に横位に施文し，次に縦位施文する。撚糸文は口縁部のみ施文されるものと思われる。補修孔は外面より一方的に穿孔される。器形および文様は撚糸文土器2062，押型文土器6017に類例が求められる。

第VI群土器

無文土器を一括する（8001～8008）

出土総数97点。第260図に示すとうり，C・D－18・19・20グリッド，およびI・J－23グリッドに集中する。

8001はE－17グリッドより1点単独に出土し，器形・胎土より第V群押型文土器に伴うものと推定される。

8002～8008は器形・胎土および分布状況より第IV群押型文土器に伴うものと推定される。

第VII群土器

絡条帯圧痕文の施文されるものを一括する。8009がJ－17・18グリッドより1個体出土する。

第VIII群土器

茅山下層式類似土器を一括する（8010～8016，第181図8017）

第261図に示すとうりC・D－17グリッド，および東南斜面に集中して分布する。8017はC・D－17グリッドより一括して出土する。

(2) 若宮遺跡土器群の構成

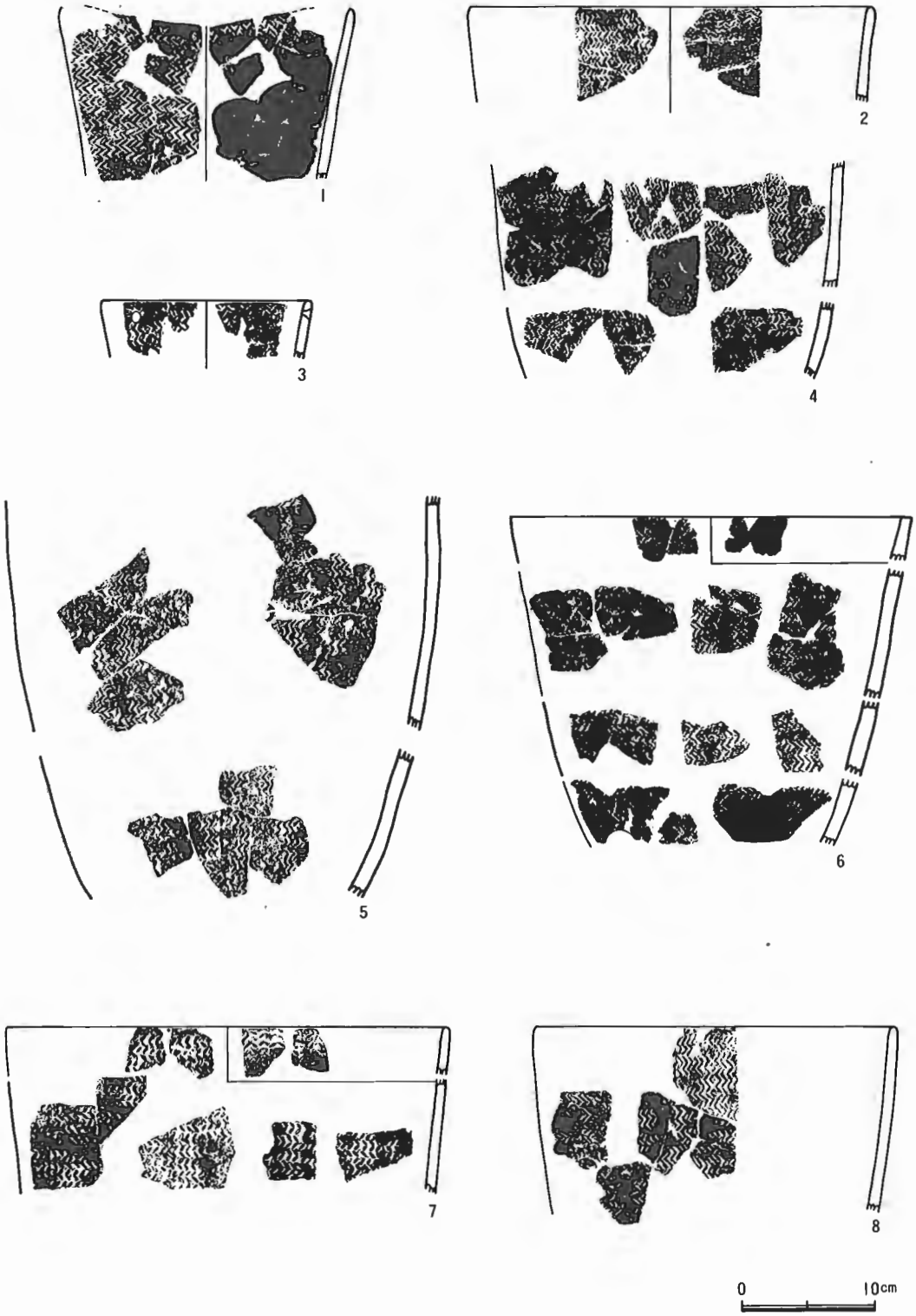
本遺跡出土土器は第I群～第VI群とした早期前半の土器群を主体として構成される。それはさらに細分・編成され，「時期差」を有する土器群として分類できる。

(1)第I群，第II群1類，第III群1・2類土器について

第26～28号竪穴住居跡・第10号集石土坑跡内より，胎土に多量の金雲母を含有する表裏縄文土器と，胎土に繊維を含まず，口縁部が外反して斜縄文が施文される第II群1類土器が伴出する。第10号集石土坑跡内からは混在する形で，一括して検出される（第218図）。また土器1046・1047は胎土・焼成より第II群1類土器に分類される胴部破片であるが，器面内面に斜縄文が施文される。表裏縄文土器と第II群1類土器が器形，施文構成を類似する点と考え合わせると，両者の併存または関連が指摘できる。

また第28号竪穴住居跡・第10号集石土坑跡内より，胎土に繊維が含有されない緻密な第III群2類a種の撚糸文土器胴部破片が伴出する。第III群2類a種土器は分布，器形，胎土，および同上半部内面への撚糸文の施文等より，第I群土器および第II群1類土器に併存もしく連続するものと思われる。

第III群1類撚糸文土器の大型破片は，I・J－6・7グリッドおよび中央凹地帯より検出される。個体数は少ないが出土分布の主体はI・J－6・7グリッドである。胎土に繊維が含有されない点，また口縁部文様帯を形成する古い様相を呈しており，西側に集中して分布する第



第250図　第Ⅴ群Ⅰ類土器　①

1群以下に関連を求めることができる。

第4号住居跡は斜面に位置し，南側壁を第5号住居跡に重複するが，その大半は流失する。住居跡内遺物は多数検出される。石組内より第III群2類撚糸文土器4点が検出され，また床面より検出されるものは，第II群1・2類，第III群2・5類である。占地が斜面であり，南側壁が流失することから，覆土の移動が十分考えられる。故に出土内容は縄文・撚糸文土器分類の資料とはならない。しかし中央凹地帯に集中する押型文土器は検出されず，これは住居跡内出土遺物と押型文土器群が併存しない点を指摘することができる。

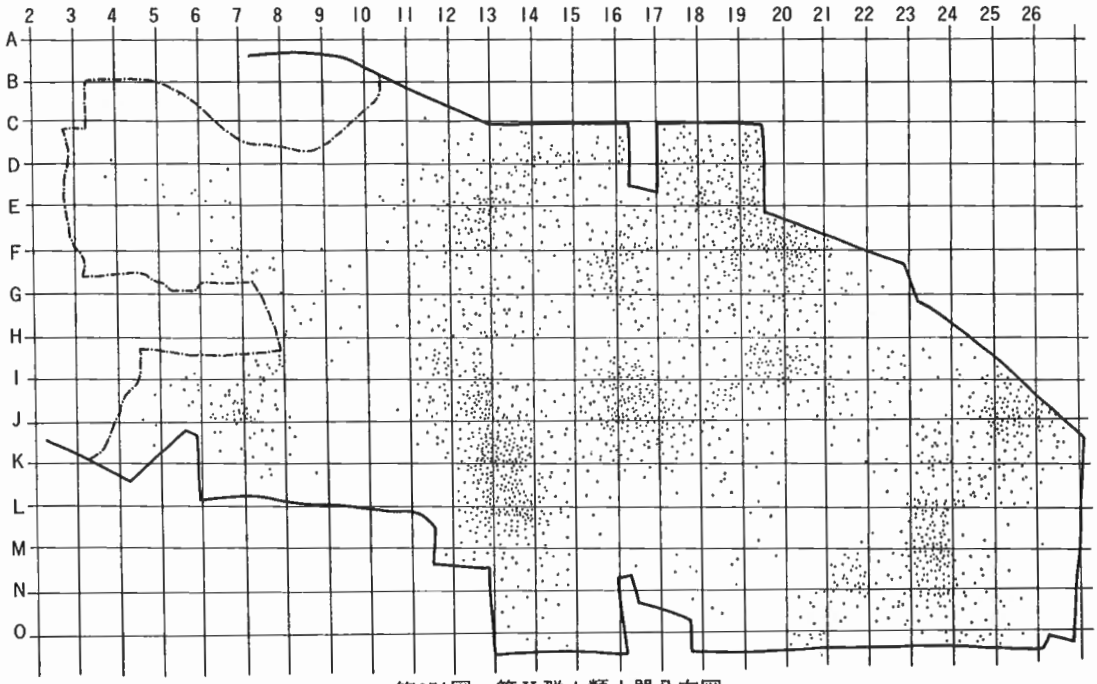
以上の検討より，第I群表裏縄文土器，第II群1類縄文土器，第III群1類・2類a種撚糸文土器が併存もしくは連続関係にあることが指摘される。若宮遺跡初段階に位置づけられる土器群を構成する。

第III群2類b種撚糸文土器は，器形を前述する土器群に類似するが，施文構成・胎土・分布に相違が見られる。第I群以下の土器群に関連が求められるが，不明確である。

(2)第IV群および第V群押型文土器について。

第IV群帯状施文押型文土器は第VI群無文土器を伴い，東側一帯に各個体ごと集中して分布し，10個体前後の存在が推定される。第V群密接施文押型文土器は全域に分布し，出土総数約6000点を数え，個体数は200～250個体が推定される。第90表に示すとうり，口縁部径が推定されるものは81点を数え，口径6cmの小型土器から口径30cm以上の大型土器まで変化に富む。密接施文押型文土器が帯状施文押型文土器に対して明確な優位性を示す。

帯状施文押型文土器はC－18グリッドでは第19号住居跡を覆うようなかたちで出土し，



第251図　第V群I類土器分布図

第252図　第Ⅴ群Ⅰ類土器　②

M－23グリッドでは包含層上層より一括して出土する。またN・O－20グリッドでは包含層の移動により，茅山式土器群と混在して出土する。また無文土器は，C－17グリッドで茅山式土器群に混在して出土する。

本遺跡の帯状施文押型文土器は，胎土に多量の繊維を混入し，口縁部は波状を呈し，口唇部に刺突文が施されるものが見られる。器形および胎土・色調は密接施文押型文土器と明確に区別される。これは本遺跡押型文期の主体をなす密接施文押型文土器に対して，他地域より搬入された「地域差」の土器群として理解するよりも，先述の出土状況が示すとうり，本遺跡においては帯状施文押型文土器が，密接施文押型文土器に後出するという「時期差」として理解するのが妥当である。

第Ⅴ群土器は全域に分布の拡がりを見せるが，第19号竪穴住居跡より一括して検出されるほか，第12・20号竪穴住居跡より数点検出されるのみである。また第1～7・17・18・22～24号竪穴住居跡では，上面を覆うように検出される。これは北側に分布した第Ⅴ群土器が，斜面傾斜方向に流動し，竪穴住居跡を覆たものと推定され，第Ⅴ群押型文土器は，住居跡内より検出される縄文・撚糸文土器群に後出するものと判断される。

(3)第Ⅴ群土器に判出する土器群

第Ⅴ群押型文土器・第Ⅱ群3類縄文土器・第Ⅲ群3・4類撚糸文土器は，器形・胎土・色調・出土分布を類似する。直行する口縁部。胎土に繊維を含有する。色調は灰褐色から暗褐色を呈するものを主体とする。文様構成は，原体を縦位回転して密接した文様が施文される，縦位密接施文構成をとる。第Ⅴ群押型文土器に第Ⅱ群3類縄文土器・第Ⅲ群3・4類撚糸文土器は伴出するものと理解される。第Ⅴ群5類6089は押型文と撚糸文が併用されるもので，押型文と撚糸文が共用される事実を示す。

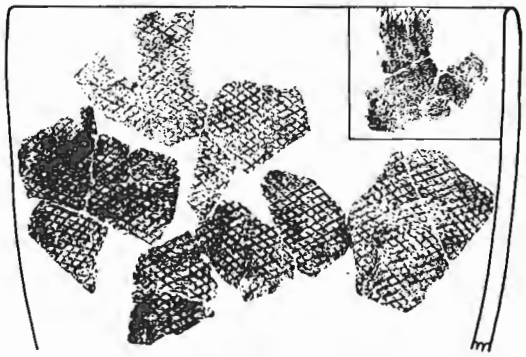
第Ⅲ群3類d種としたものは，器厚が厚く，条の太い撚糸文が施文される。口縁部は直立するが，その他相違点が多く，本類に属さないものと思われ，胎土・分布等より第Ⅱ群2類または第Ⅲ群6類土器に伴うものかと思われる。

(4)第Ⅱ群2類・第Ⅲ群6類土器について

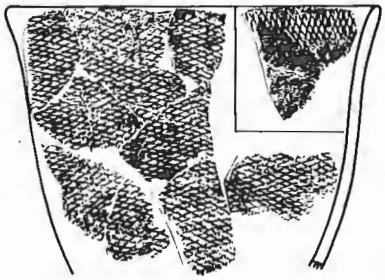
第Ⅱ群2類土器は，口縁部が外反し，器厚は厚く，胎土に繊維が多量に含有され，色調は灰白色から灰褐色を呈するものを主体とする。文様構成は節が大きく条の太い縄文を，縦位羽状縄文・縦位帯状斜縄文・密接斜縄文の3種に施文する。分布は中央凹地帯より東側一帯に拡がり，出土量は多い。胎土・焼成を同じくし，分布が重複する第Ⅲ群6類撚糸文土器と合わせ，一つのグループを形成する。

外反する口縁部は第Ⅰ群以下に伴出する土器群に類例が求められるが，胎土・施文構成・分布等より分離される。

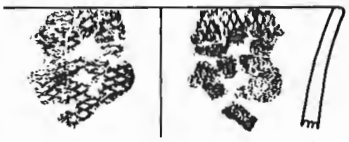
また第Ⅳ群帯状施文押型文土器とは外反する口縁部・帯状施文構成等類似点が見られる。しかし胎土・焼成および分布状況・出土層位が明確にわけられ，関連を求めることはできない。



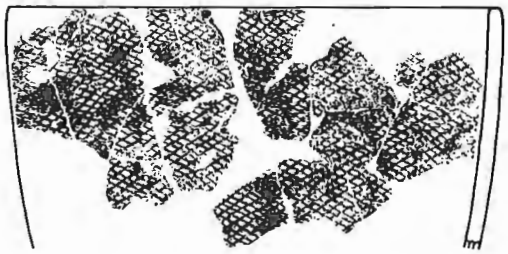
1



3



4

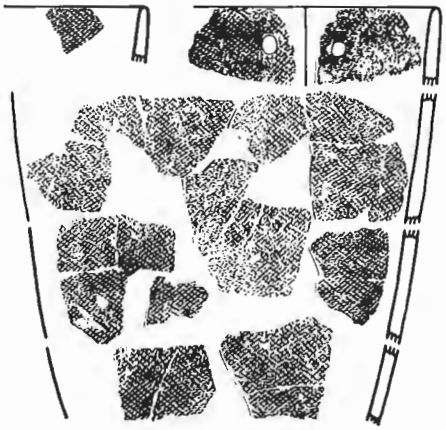


2

5

7

6



8

9

第253図　第Ⅴ群２類土器　①

0　10cm

第Ⅴ群密接施文押型文土器とは器形に明確な相違を持つ。しかし一部胎土を類似する土器が見られる。

第II群2類・第III群6類土器は，第17・18・22～24号竪穴住居跡内より混在して検出される。しかし分布を重複する押型文土器は住居跡内より検出されず，両者の共伴は否定的となる。

また逆に第19号竪穴住居跡内からは，密接施文押型文土器が一括して検出され，第12・20号竪穴住居跡も同様の傾向を示し，第II群2類土器との関連は推定できない。

第II群2類縄文土器は出土状況・胎土等より，第III群6類土器と共伴する一群として把握される。

(5)若宮遺跡土器群の構成

若宮遺跡土器群は第Ⅰ～Ⅴ期より構成される（付図－2参照）

第Ⅰ期　第1群表裏縄文土器およびそれに共伴または連続する第II群1類縄文土器，第III群1・2類撚糸文土器より構成される。

第II期　第II群2類縄文土器，第III群3類d種・6類撚糸文土器より構成される。

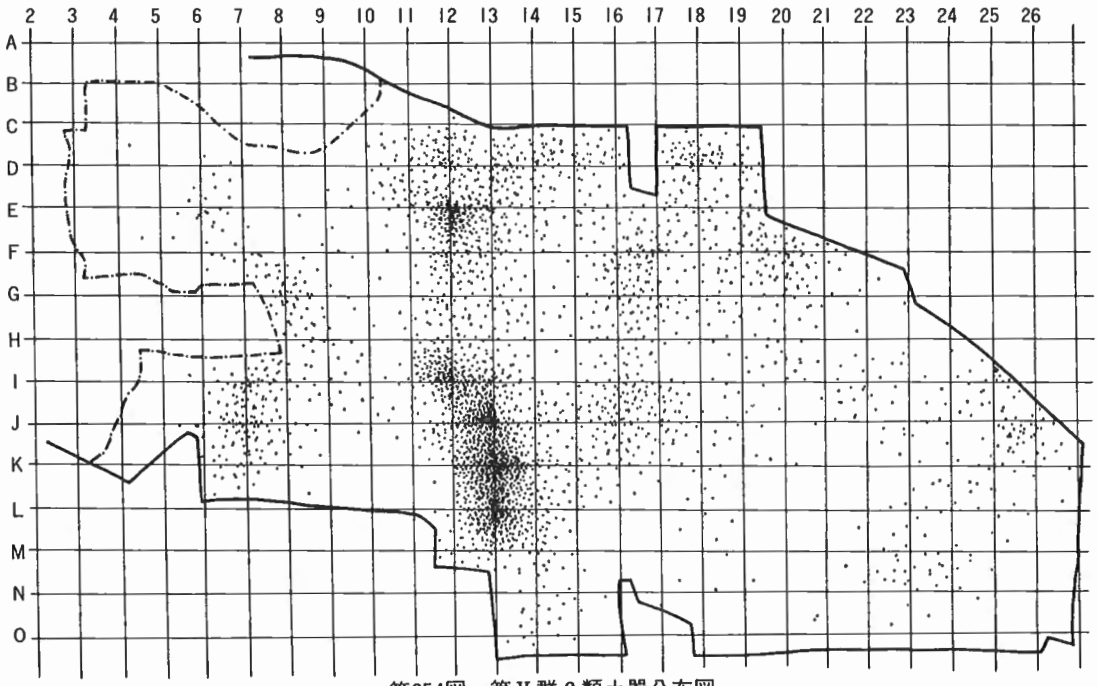
第III期　第Ⅴ群密接施文押型文土器，第II群3類縄文土器，第III群3類撚糸文土器より構成される。

第IV期　第IV群帯状施文押型文土器，第VI群無文土器より構成される。

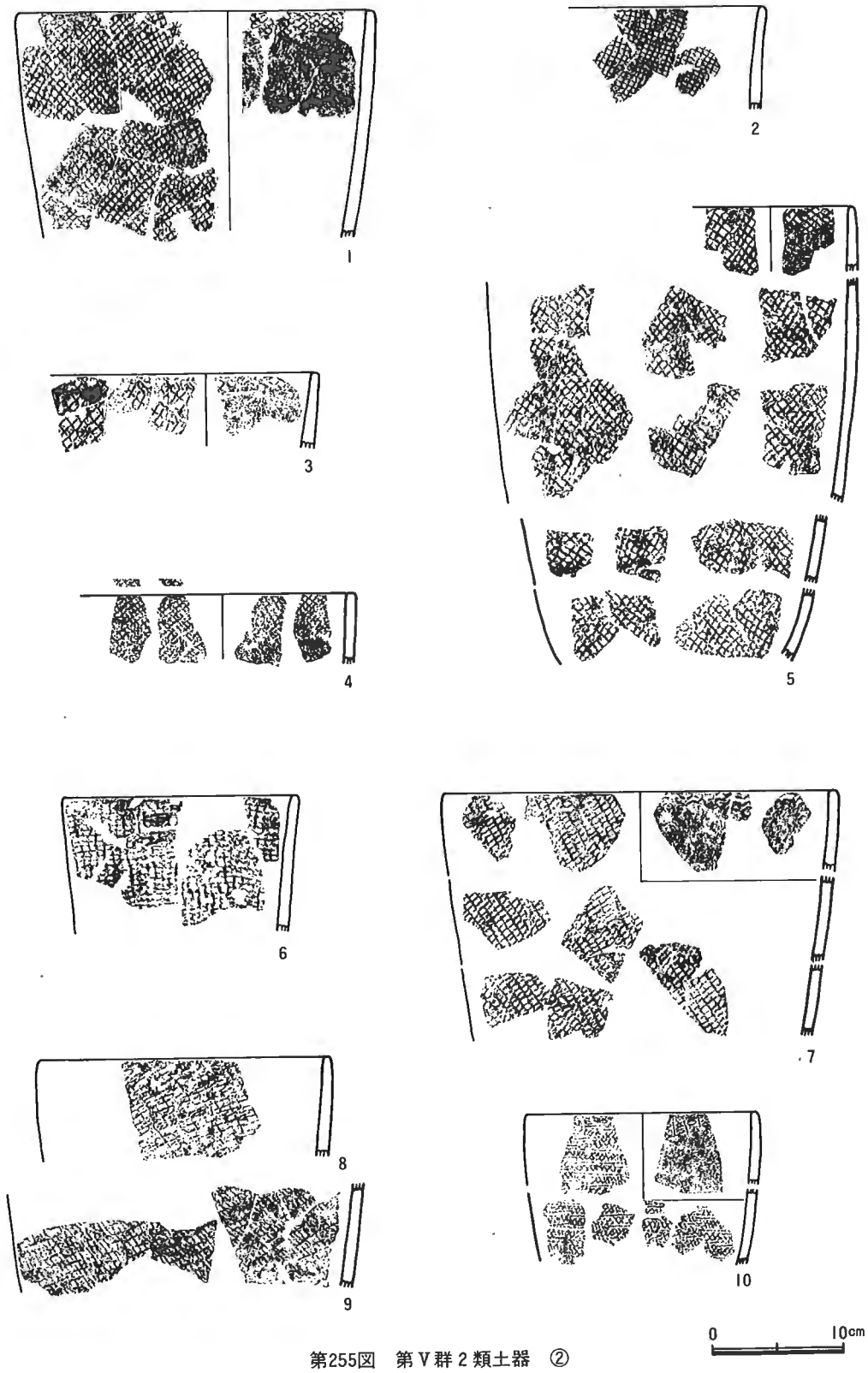
第Ⅴ期　条痕文系土器群

(6)第Ⅴ群密接施文押型文土器細分の可能性について

押型文土器は帯状施文構成をとる土器群（第IV群土器）と，密接施文構成をとる土器群（第



第254図　第Ⅴ群2類土器分布図



第255図　第Ⅴ群２類土器　②

V群土器）に大別される。本遺跡の主体をなす密接施文押型文土器の出土量は莫大なものである。

密接施文押型文土器はさらに細分が要求される。

器形　第263図に示すA～Fタイプに分類される。A～Dタイプが主体を占める。A・Bタイプは胴部・口縁部がほぼ直立し，胴長となる。底部は乳頭状の尖底を呈し，丸底に乳頭部を付着したようなものが見られる。山形文・格子目文・楕円文等の文様が見られ，また口径30cm前後の大型土器から，口径15cm以下の小型土器までA・Bタイプが主体を占める。

CタイプはAタイプがさらに胴長となり，底部が細長い尖底を呈する。口径15～20cmの土器に多数見られる。

Dタイプは口縁部が開いて直行するタイプで，山形押型文土器に多く見られ，格子目押型文土器には見られない。

Eタイプは口縁部が弱く外反し，胴部で丸味を有して尖底部に連続する。格子目押型文土器に2点確認される。

Fタイプは波状口縁を呈するもので，山形押型文土器に1点確認される。

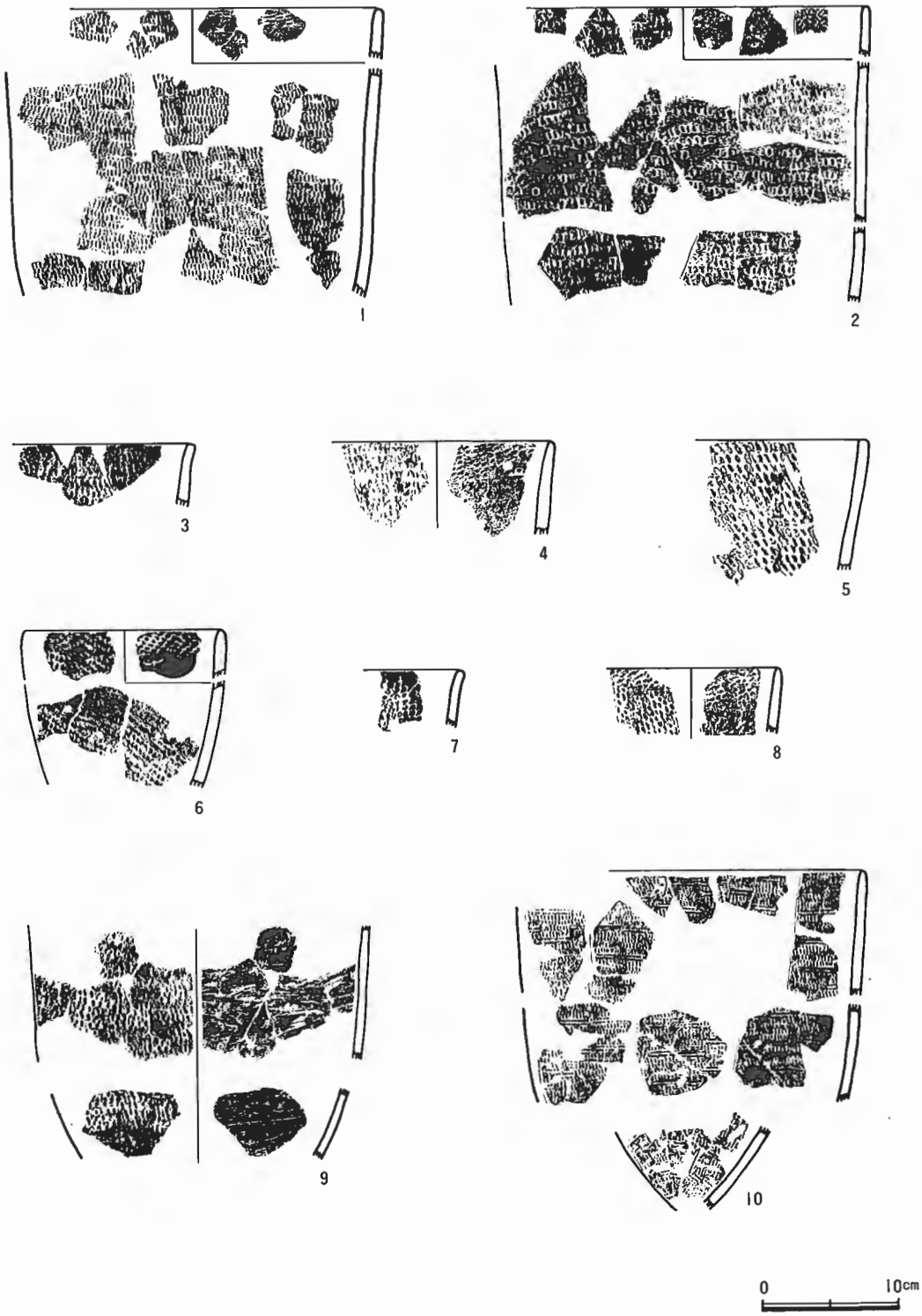
以上器形より分類される傾向は，普遍的に見られるA～Cタイプに対して，Dタイプが少数ながら山型押型文土器に集中する傾向を示す。またE・Fタイプの特殊性が指摘できる。

施文構成　第264図に示すa～fの6タイプに分類される。

aタイプは縦位密接施文構成をとり，口縁部内面に横位の文様が施文され，bタイプは施文されないもの。全体の99%がa・bタイプより構成される。

cタイプは口唇部直下に1帯横位回転施文し，以下縦位密接施文されるもので，内面に1帯横位回転

第256図　第V群3類土器分布図



第257図　第Ⅴ群３類土器

施文され，dタイプは施文されないもの。cタイプは器形Fタイプを呈する山形押型文1個体と，格子目押型文・楕円押型文各1個体が確認される。dタイプは山型押型文1個体，格子目押型文2個体，特殊押型文1個体が確認される。

eタイプは縦位密接施文・内面横位施文と口唇部へ施文されるもので，格子目押型文1個体が確認される。

fタイプは横位密接施文構成をとるもの。格子目文と山形文が組み合わせて施文される1個体が見られる。

第V群密接施文押型文土器は，a・bタイプの縦位密接施文構成よりなる一群として一括されるもので，c～eタイプはその変形タイプとして把握できる。

fタイプは本遺跡より出土する唯一の横位密接施文土器で特異な存在である。

施文原体　第89表に原体復元径を示す。原体径は文様反復距離÷円周率より算出した。

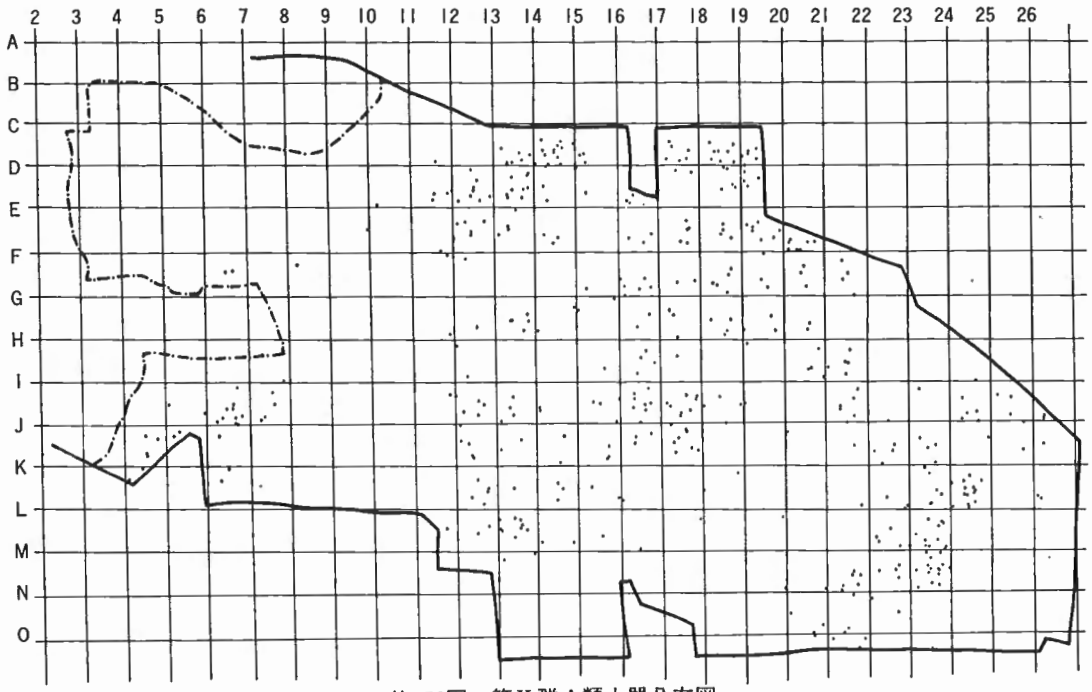
第IV群帯状施文押型文土器は径5～5.5㎜を平均値とするのに対し，第V群密接施文押型文土器は5.5～6㎜を主体とし，大きめの傾向を示す。

原体端圧痕は直線になるものと，山形を呈するものが見られるが，前者が圧倒的な優位性を示す。

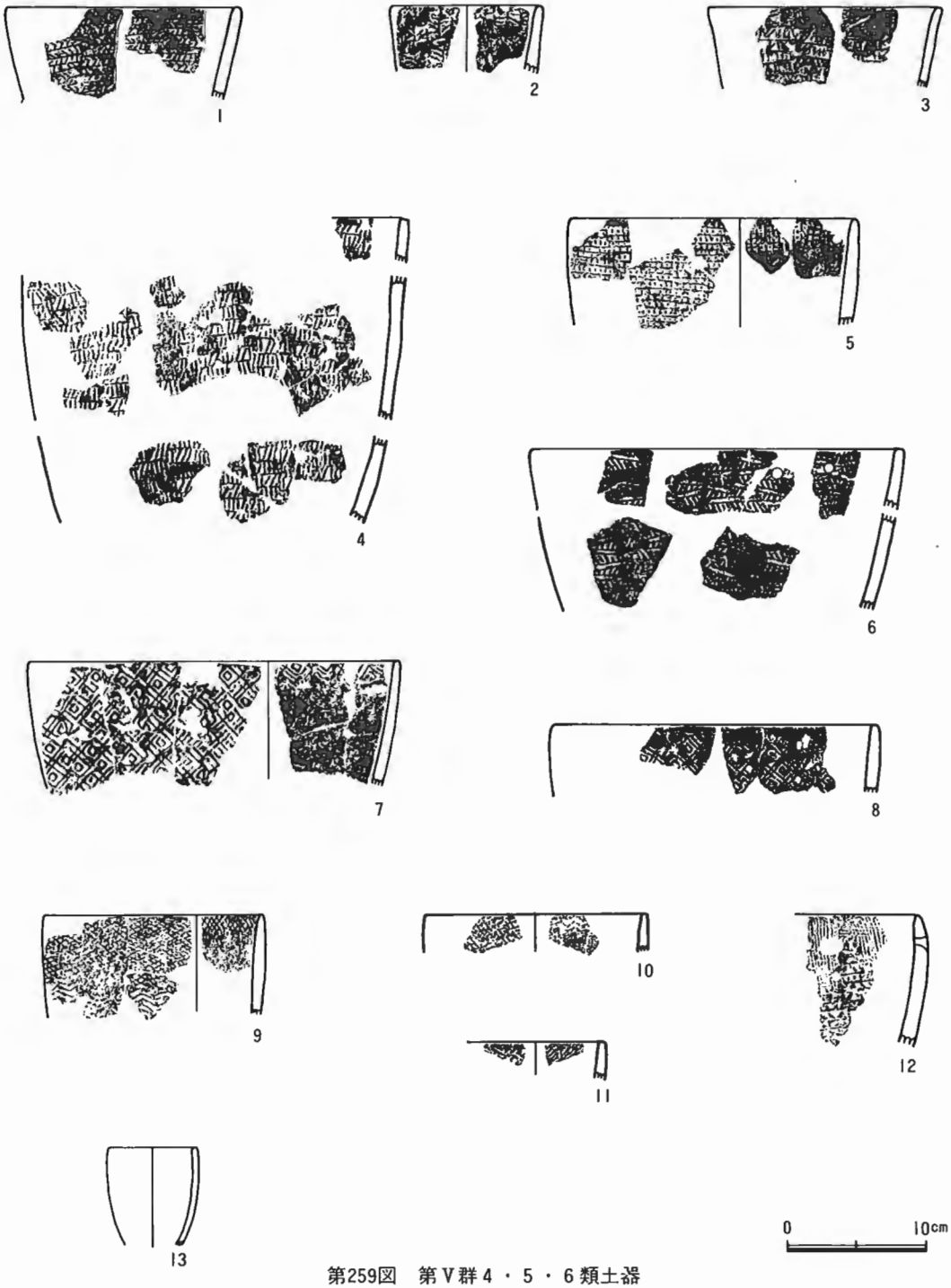
文様　山形文・格子目文・楕円文に大別し，それらに含まれないものをその他の押型文土器として分類した。第262図に基本パターンを示す。

しかし本遺跡の押型文は出土点数に比例し多種多様のパターンを見せる。詳細な分析が要求されるが，本報告では器形・文様構成を同じくする一型式内に見られる文様の多様性を指摘するにとどめる。

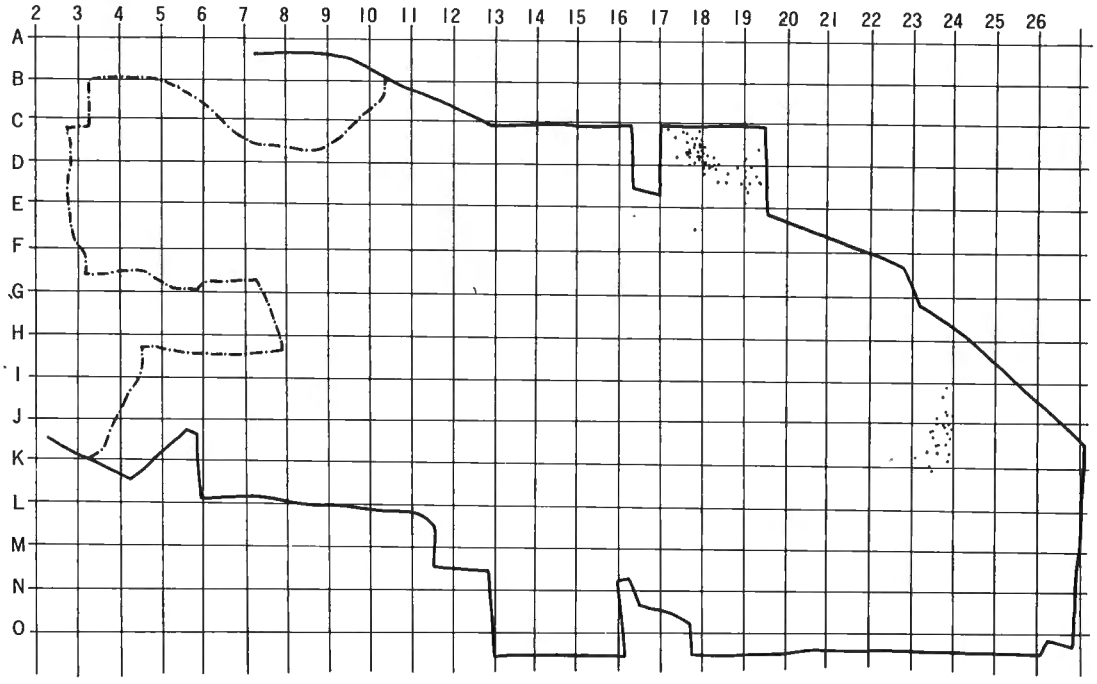
（伊藤）



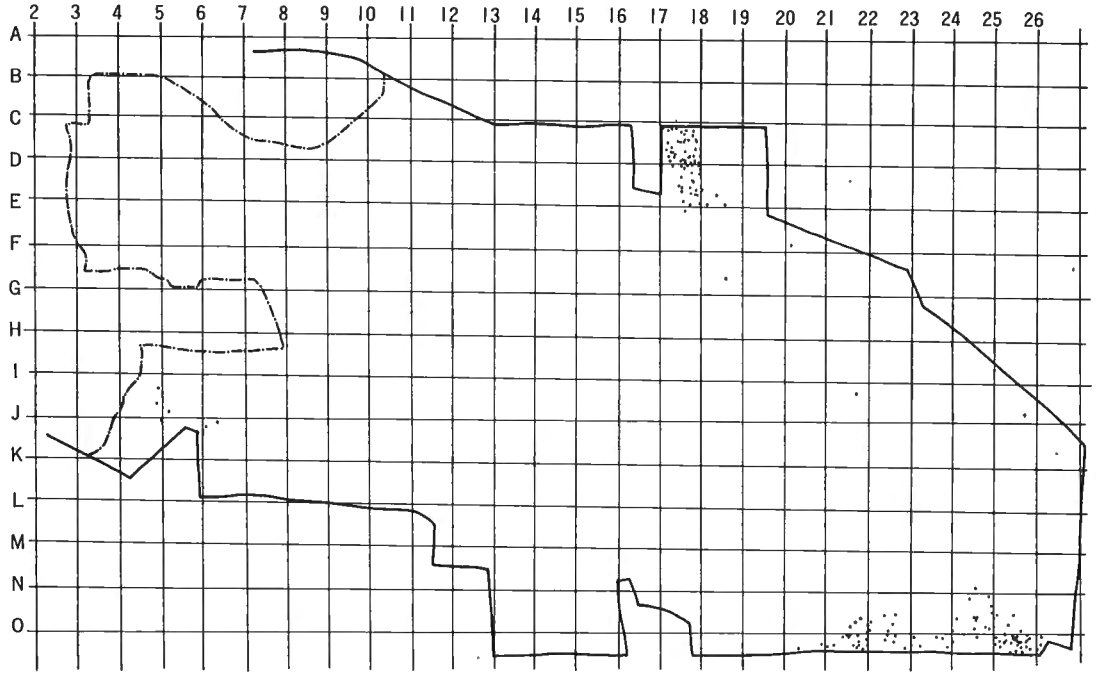
第258図　第V群4類土器分布図



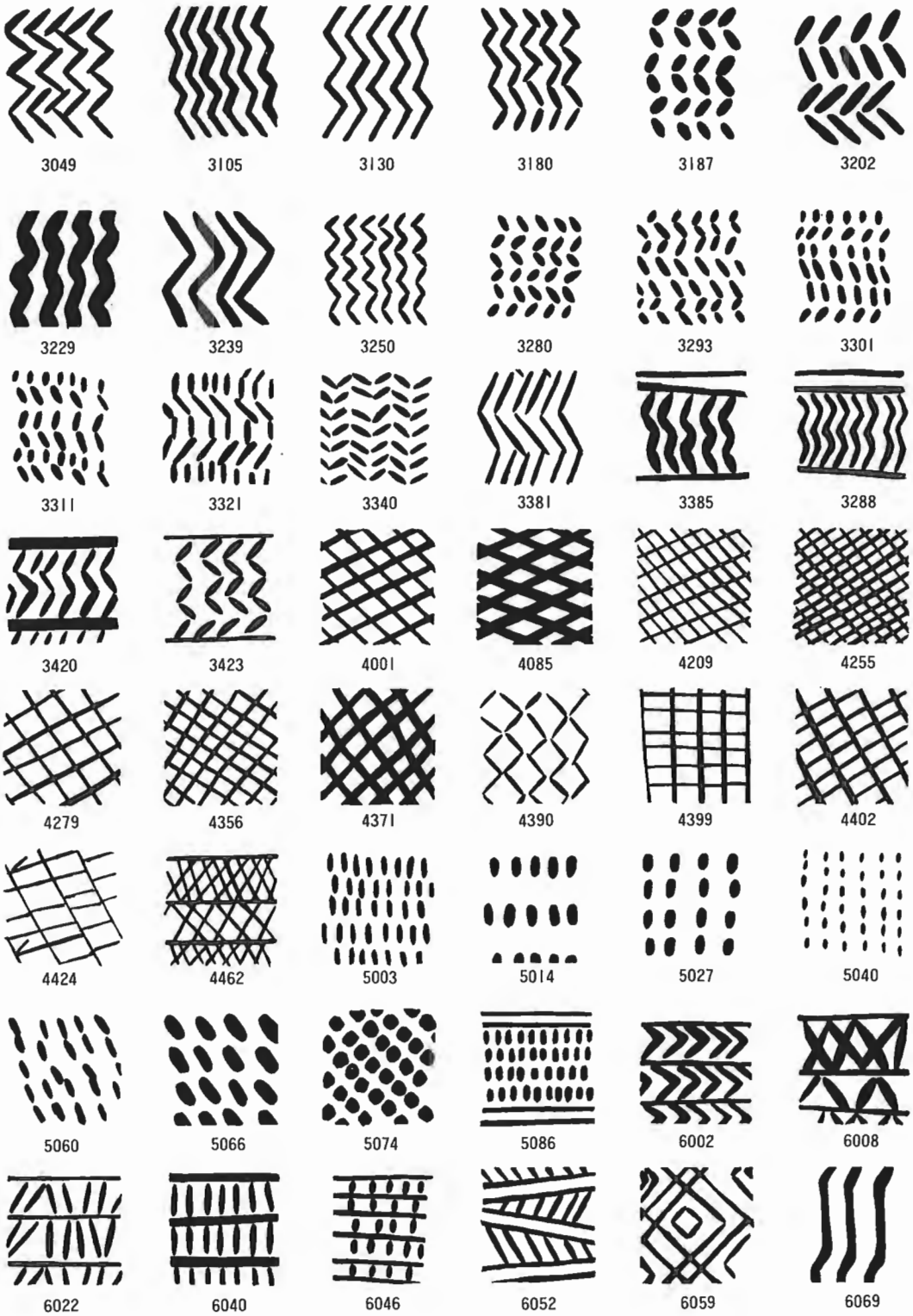
第259図　第Ⅴ群4・5・6類土器



第260図　第Ⅵ群土器分布図

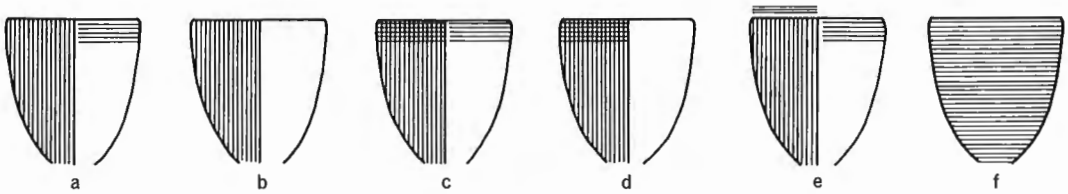


第261図　第Ⅷ群土器分布図

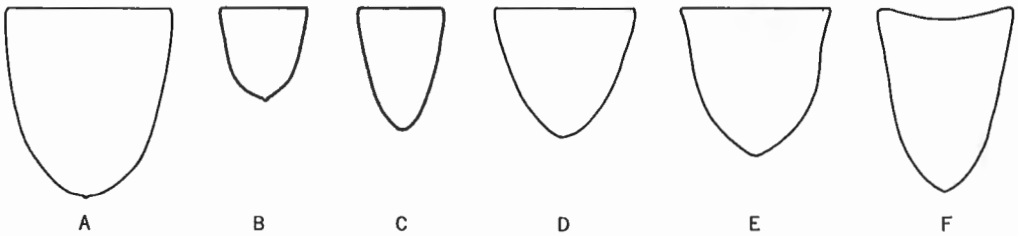


0 3 cm

第262図　第Ⅴ群押型文土器文様一覧図



第264図　第Ⅴ群土器文様構成模式図



第263図　第Ⅴ群土器推定器形模式図

土器番号	原体径（mm）	3080	6.1	3163	5.7	3232	6.7	3320	6.1	4043	5.4	5029	6.1
3010	5.4	3083	6.4	3164	5.4	3233	6.4	3328	5.7	4111	5.7	5042	5.4
3011	5.4	3084	5.4	3169	5.7	3242	6.1	3362	5.4	4126	5.7	5046	5.4
3014	5.4	3086	6.1	3174	6.7	3243	5.4	3365	6.4	4155	5.7	5049	5.4
3023	4.8	3091	5.7	3175	5.4	3245	5.7	3380	6.1	4158	5.7	5053	5.1
3024	4.8	3094	6.7	3178	7.0	3246	6.4	3382	5.4	4183	5.4	5066	6.7
3030	4.8	3099	7.0	3179	5.4	3247	6.1	3385	7.3	4198	5.4	5070	5.4
3034	5.1	3102	6.7	3180	5.7	3250	5.4	3387	6.1	4272	5.7	5082	6.7
3036	5.4	3105	5.7	3182	6.1	3251	6.1	3388	6.7	4276	6.4	6001	6.1
3041	5.7	3106	6.1	3184	6.1	3252	6.1	3389	6.4	4284	6.4	6002	5.4
3047	6.1	3107	5.7	3187	6.1	3255	5.7	3392	6.7	4285	5.1	6005	7.3
3049	5.7	3111	6.4	3188	7.0	3263	5.4	3396	6.7	4286	6.1	6014	5.7
3052	6.4	3113	4.8	3190	6.4	3270	6.1	3403	6.7	4342	6.7	6017	5.1
3053	5.4	3114	6.4	3194	5.7	3272	6.1	3416	6.7	4344	6.7	6021	6.4
3054	5.7	3115	5.7	3195	6.7	3279	5.4	3417	5.7	4364	6.1	6029	6.4
3055	5.7	3117	6.1	3201	6.1	3280	4.8	3418	6.1	4371	5.4	6035	5.7
3056	5.7	3119	5.7	3202	8.9	3281	5.7	3423	7.0	4386	6.4	6040	6.1
3057	5.7	3120	5.1	3203	5.7	3282	5.7	3425	6.1	4388	5.7	6043	5.4
3058	5.7	3121	6.1	3217	5.7	3285	6.1	3432	5.1	4407	7.0	6044	6.4
3062	6.1	3122	7.0	3218	5.7	3293	6.1	4001	7.0	4424	5.7	6052	6.4
3065	6.1	3124	5.7	3219	5.7	3300	5.7	4011	5.7	4438	6.4	6059	6.7
3066	6.4	3130	6.4	3222	5.7	3309	5.7	4012	7.3	4449	5.4	6069	6.4
3070	6.4	3139	6.4	3223	6.1	3310	6.1	4018	5.1	4462	5.7	6078	5.4
3074	6.1	3149	6.4	3224	6.1	3311	6.1	4028	6.1	4468	6.4		
3077	5.7	3151	7.0	3225	5.7	3312	6.1	4033	5.1	5003	6.4		
3078	6.1	3154	5.7	3229	5.7	3313	5.7	4038	5.7	5014	6.4		
3079	6.1	3156	6.1	3231	6.1	3317	6.4	4040	5.4	5027	6.1		

第91表　押型文土器原体径一覧表

第２節　遺構の検討

１．竪穴住居跡について

規模　28 基の竪穴住居跡のうち，規模が知り得るものは 25 基である。それは床面積で 4.5 m²の第 11 号竪穴住居跡から，13.8 m²の第 19 号竪穴住居跡まで巾をもつ。平均値は規模が長径 317.5 cm×短径 261.5 cm，床面積略 8.6 m²を示して，それにもっともちかい住居跡は第 4 号竪穴住居跡である。

これらは第 265 図に示すようにＡ～Ｃの 3 類にされる。

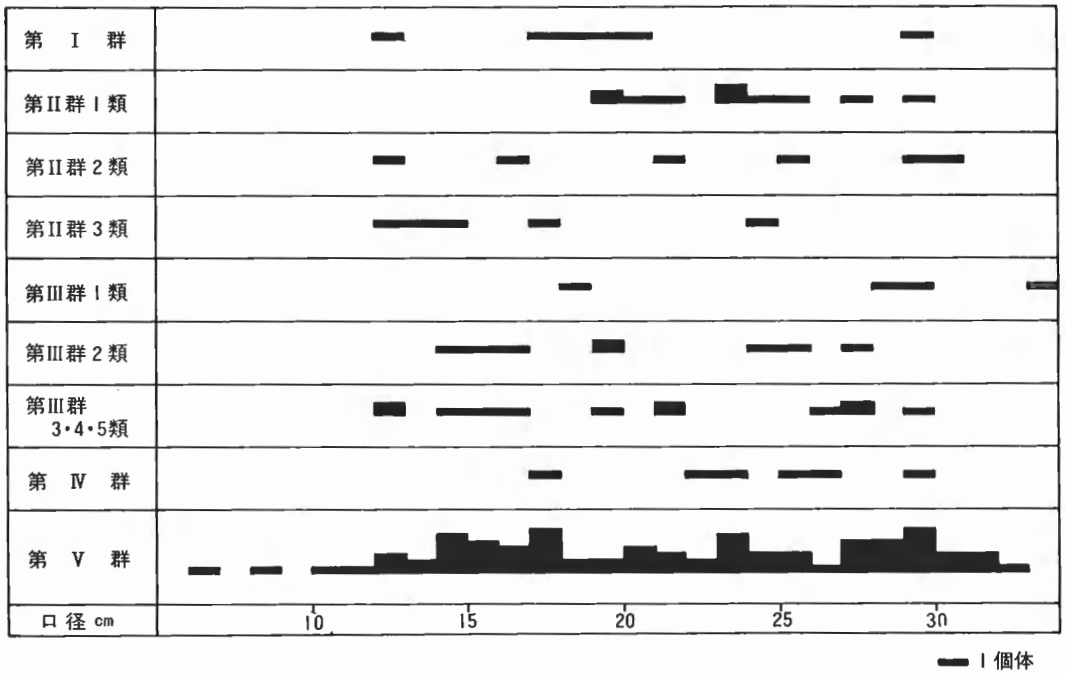
Ⓐ　長径 220～275 cm，短径 170～230 cmを測る竪穴住居跡
　　3 ,10,11,13,14,15,16,27,28

Ⓑ　長径 275～315 cm，短径 255～310 cmを測る竪穴住居跡
　　4 , 6 , 7 , 9 ,18

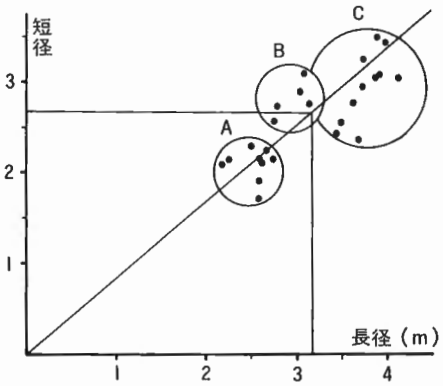
Ⓒ　長径 315～415 cm，短径 245～350 cmを測る竪穴住居跡
　　2 , 5 , 8 ,12,17,19,20,21,22,24,25

以上，Ａ類住居跡 9 基，Ｂ類住居跡 5 基，Ｃ類住居跡 11 基に分けられる。

Ａ類住居跡は平均長短軸線（略 1.2：1）に均して分布をみる。したがって竪穴住居跡形状が安定していると言える。Ｂ類住居跡は軸線を降りて分布されず，むしろ正方形にちかい規模を有する。反面，Ｃ類住居跡は軸線より大半が降りて分布される。これから竪穴住居跡の大形化は長軸の伸長によってなされることが知れる。



第92表　土器口径一覧表



第265図　竪穴住居跡規模別分布図

形状　竪穴住居跡28基に方形例は皆無である。いずれも曲線によってなり，大略，2類される。

①　隅丸形を呈する竪穴住居跡

1，2，3，6，10,12,13,15,16,18,20,21,23,26,27

②　楕円形（胴張り隅丸形を含む）を呈する竪穴住居跡

4，5，7，8，11,14,17,19,22,24,25,28

これをA～C類住居跡に①，②を対比すると，A類住居跡―6：3，B類住居跡―2：3，C類住居跡―4：7　となり，A類住居跡に隅丸形が，C類住居跡に楕円形が目立つ傾向にある。これは竪穴住居跡の法量の大小が構築の際，いかに四辺を湾曲させるか，つまり楕円形にちかくするかによって決定されることを示している。

長軸方位　長軸方位が知れる竪穴住居跡25基を第266図に示すと，3類に分けられる。

①　南東面する竪穴住居跡

2，3，4，5，6，7，8，9，10,11,13,15,16,17,18,24,25,28

②　西面する竪穴住居跡

19,20,21

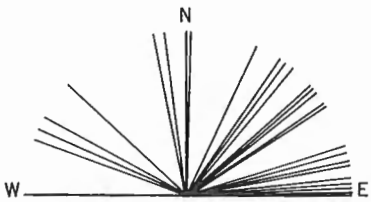
③　南西面する竪穴住居跡

12,14,22,27

さらに，これをA～C類住居跡にあてると，①　A類住居跡7基，B類住居跡5基，C類住居跡7基　②　C類住居跡3基　③　A類住居跡2基，C類住居跡2基となる。

南東面する竪穴住居跡が数量を圧倒して各住居跡をほぼ均等に含むが，西面する竪穴住居跡はC類住居跡，南西面する竪穴住居跡はA・C類住居跡に限られる。B類住居跡は全て南東面している。

南東面する竪穴住居跡の圧倒的数量は，多分に本遺跡が馬蹄形に南東方向に開口する地形条件に起因するであろう。すなわち，大半の竪穴住居跡が地形に沿った，つまり等高線に平行関係をもった構築をなすためである。したがって長軸方位は地形条件，占地状況を左右対称に表現していると言える。併せて，それは斜面構築が一般化された現象であることを示して，それが平坦面，または凹地帯を眼下におく占地条件をも意味する。



第266図　竪穴住居跡長軸方位図

壁面　本遺跡に検出される竪穴住居跡が，斜面に構築されることを一般にする状況を壁面の高低差によっ

て示すと，以下である。

① 壁面の高低差が30㎝以上をもつであろう竪穴住居跡

1，2，3，4，5，6，7，8，9，10,11,17,18,21,22,23,24,25,26,27,28

② 壁面の高低差をほとんどもたない竪穴住居跡

12,13,14,15,16,19,20

①の状況を呈する斜面構築住居跡は21基で，このうち19基が南東面する竪穴住居跡である。言いかえれば，斜面構築＝南東面する竪穴住居跡であり，本遺跡の地形条件が南東面斜面を主体とすることが知れる。

したがって，壁面に高低差をもたない，平坦面構築住居跡はD地区広域平坦面に占地する竪穴住居跡群に限られてくる。その7基はA類住居跡4基，C類住居跡3基である。前述するようにB類住居跡は皆無で，A類住居跡の構築率がもっともたかく，その全てが重複する状況に特徴をみる。

柱穴状ピット　その呼称どおり，柱穴に対応させるには不安が伴う。竪穴住居跡28基のうち14基，およそ半数に確認されるが，それは一般でない。一応，竪穴住居跡を拾うと，以下である。

① 4坑を有する竪穴住居跡

1，19,20,24

② 3坑を有する竪穴住居跡

2

③ 2坑を有する竪穴住居跡

3，5，6，22,28

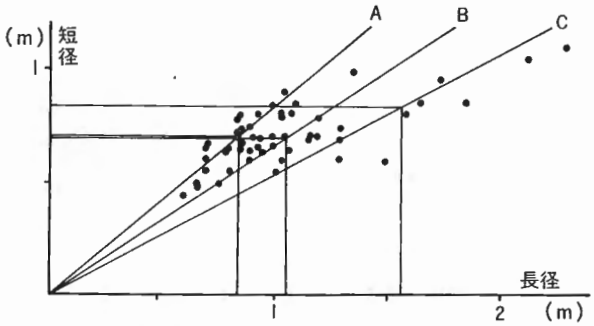
④ 1坑を有する竪穴住居跡

4，12,14,26

これをA～C類住居跡にあてると，A類住居跡3基，B類住居跡3基，C類住居跡6基と，大形の竪穴住居跡に目立つ傾向がある。しかし，その検出数，配置には規格，統一性がまったく看取されない。また規模も大半が径20㎝，深さ15㎝前後で，柱穴にはあまりにも貧弱である。壁外の精査に努めたがやはり明確な検出はなく，今後，この柱穴の有り方が課題となろう。

以上，本遺跡に検出される28基の竪穴住居跡に内蔵される個々の状況を摘出するが，規模・形状・長軸方位等，竪穴住居跡自身より発せられる有機的な結合関係は皆無に等しい。僅かな個性によってA～C類竪穴住居跡をみるが，それは占地箇所への対応条件，つまり構築に際する必然性の結果である可能性がたかい。その必然性の積み重ねによって『個性』が生まれようが，そこまで達していない状況である。

2．炉穴跡について



第267図　炉穴跡規模別分布図

規模　60基の炉穴跡のうち，規模が知り得るものは54基である。それは長径60㎝×短径45㎝を測る第55号炉穴跡から，長径230㎝×短径110㎝を測る第56号炉穴跡まで巾をもつ。平均値は長径106.7㎝×短径71.4㎝を示して，それにもっともちかい炉穴跡は第50号炉穴跡である。

その状況を第267図に示す。それにより炉穴跡規模の相違は長径の伸長にあることが知れる。しかし，炉穴跡個々の形状差が直接に反映されることなく，明確な分岐をみない。すなわち，短径（炉部）の規格性に対する，長径の優柔性は主に火焚部，いわゆる『足場』の有無にあろうが，それが明確なかたちとならないのは，その有り方に規制・統一がないことを意味している。それ以外の炉穴跡も連続して断絶がない。

形状　上述の状況にあって，炉穴跡の分類は通例の如く，断面の状況，炉部・焼土の有り方等を含めた総合的な判断から本遺跡を整理する。

Ⓐ　円形，および略円形を呈する炉穴跡

1，2，3，4，5，7，8，11,12,13,14,17,20,21,22,23,25,26,46,47,48,49,54,55

Ⓑ　楕円形を呈する炉穴跡（1）

9，15,24,27,33,35,39,43,45,50,52

長円形を呈する炉穴跡（2）

18,19,29,38,42,44,57

Ⓒ　長円形，および不整形，「達磨」状を呈して，足場を有する炉穴跡

6，16,28,31,32,37,40,41,53,56,58,60

以上，A類炉穴跡24基，B類炉穴跡18基，C類炉穴跡12基となる。再度，規模の平均値をみると，A類炉穴跡―長径83㎝×短径69㎝，B類炉穴跡―長径105㎝×短径67㎝，C類炉穴跡―長径157㎝×短径83㎝を示し，徐々に形態的な特徴を表わしてくる。

焼土　A～C類炉穴跡は形態を異にする土坑でありながら，その内部に燃焼された痕跡をもつことで『炉穴』を定義される。したがって焼土は燃焼の結果であり，その有り方は炉穴跡の構造，燃焼箇所，時間，さらにその埋設状況等によって千差万別となる。基本的な堆積状況は底面の炭化物・灰等を焼土が「レンズ」状に覆う。それが坑壁に生じた焼土の剝落であることは土層断面から容易に知れる。

ここで坑底に堆積する焼土を便宜上，硬・軟に大別すると，以下である。

① 焼土が硬質な炉穴跡—38基

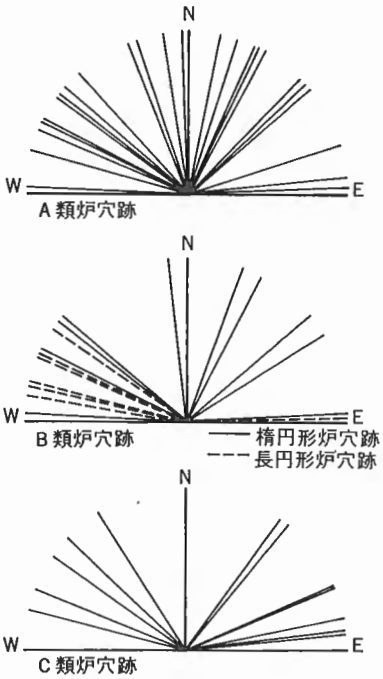
A類炉穴跡20基，B類炉穴跡9基，C類炉穴跡9基

② 焼土が軟質な炉穴跡—16基

A類炉穴跡4基，B類炉穴跡9基，C類炉穴跡3基

B類炉穴跡に②例の占める比率がたかい。B類炉穴跡は楕円形(1)，長円形(2)の2形状を有して，B－2類，つまり長円形炉穴が7基のうち，6基がそれに属するためである。これはB－2類炉穴跡がA・C類炉穴跡に共通する「坩堝」状燃焼部をもたない，固定された燃焼をなさないための，炉壁に生ずる焼土の生産不足，さらにひろい長円形炉底における分散堆積等が予想される。機能差は同様の堆積状況をA・C類炉穴跡にも普遍にみて言及しない。

長軸方位　長軸方位が知れる炉穴跡54基をA～C類炉穴跡別に第268図に示す。



第268図　炉穴跡長軸分布図

A類炉穴跡は規模・形状，あるいは燃焼形態からも窺い知れるように規制・統一はまったくない。極端な斜面上に構築はなく，平坦面への占地指向が一般となる。

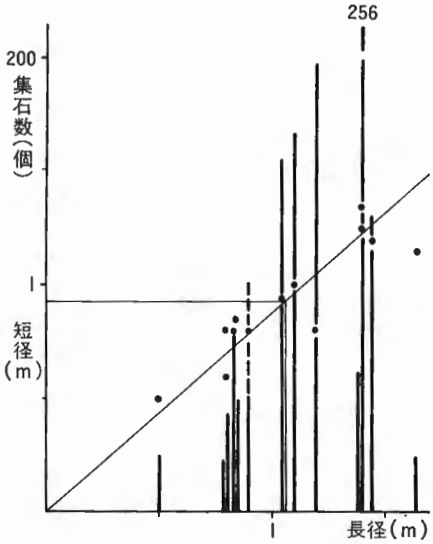
B類炉穴跡は規模・形状，焼土の堆積状況等に若干の差違をもって1・2類が設定されつつあるが，ここでも明確となる。

B－1類炉穴跡はA類炉穴跡に類する長軸分布がなされる。規模・形状，燃焼形態，さらに焼土の堆積状況も同様，近似する。しかし，これをもってA類炉穴跡と連続することを言うのではない。その構造がまだ，方位・地形条件に影響されないでいる結果であろう。

反面，B－2類炉穴跡はおよそ東西にとって特徴である。第57号炉穴跡が等高線に対して直角に位置する以外は，南面する基本的な地形条件にしたがい，長軸を常に開口方向に相対している。つまり比較的平坦面にありながら同一傾向を示して，それが地形的必然性の結果でないことは確かである。

C類炉穴跡は本遺跡の地形条件をそのままに，およそ半数が中央凹地帯最深部を基点として，東西の斜面上に放射状に構築される。他はD地区広域平坦面の東辺に位置する炉穴跡群であるが，これらも東西，いずれかの軸方向をとる。これはC類炉穴跡が構造上，燃焼，および作業効率を求める結果，地形条件，気象条件等の必然的制約を受けざるを得なくなったためであろう。

ピット　坑内部にピット，およびピット状落ち込みを有する炉穴跡が6基確認される。いずれもC類炉穴跡である。これらは足場中央に径20㎝，深さ15㎝程を測って「擂り鉢」状に窪



第269図　集石土坑跡規模別分布図

む例が多い。柱穴には貧弱で不適当である。第37号炉穴跡内ピットに炭化物・焼土粒の混入をみる。今後の有り方に期待したい。

3．集石土坑跡について

規模　集石土坑跡は土坑の構築と礫の集積による，ふたつの行為で成り立つ。

まず，土坑規模を第269図に示す。それは長径50㎝×短径50㎝を測る第8号集石土坑跡から，長径165㎝×短径115㎝を測る第13号集石土坑跡まで巾をもつ。しかし，この法量差は比例関係をもってなり，前述炉穴跡の規模分布と完全に異なる。平均値は長径106.3㎝×短径92.8㎝を示して，それにもっともちかい集石土坑跡は第5号集石土坑跡である。

形状　平面形状は規模分布に確認されるように，円形～楕円形をもって，およそ同一形状の比例的増減で示される。断面形状は「椀」・「擂り鉢」状が圧倒する。つまり坑底の平坦面は意識されず，坑壁より尖底状に窪む。これは円形炉穴跡における「U」字状坑底と相反している。

また，集石土坑跡の坑深は概して浅い。確実に最上部より検出される第1号集石土坑跡は25㎝を測るにすぎない。第5・7号集石土坑跡が35㎝以上を測って若干深度を増すが，それでも周辺の炉穴跡・土坑跡等に及ばないでいる場合もある。この状況が断面形状に起因していることは想像がつく。

なお，第1号集石土坑跡の集石は土坑域を若干あふれた集積がなされ，使用時に集石が表面に露出していたであろう状況を示している。

集積　集石規模（集積状況）はおよそ土坑規模に準じた変動が一般で，土坑域を大きく外れることはまずない。つまり集石土坑は集積行為を目的としており、坑内に表現される集積状況はその結果である。したがって意識の反映をもって許容すべき範囲がある。本遺跡の集石土坑跡はその状況において許容されることのない顕著な差をもって，A・Bの2類をみる。

Ⓐ　集石が坑内に隙間なく充満する集石土坑跡

1，2，4，5，6，7，8，9，11，(12)

Ⓑ　集石が坑内に浮遊・散在する集石土坑跡

3，10，13

以上，A類集石土坑跡10基，B類集石土坑跡3基となる。A類集石土坑跡が一般である。

構成礫　およそ1辺が5～15㎝程を測る丸味を帯びた角礫によってなる。稀に20～30㎝程の巨礫が含まれる。これらは本遺跡周辺より容易に入手される安山岩系の地山礫であり，集石

土坑跡に内包される礫はそれらより「陵」をなくしている。

構成礫の大半は通例の如く，火熱された痕跡を残す。この状況は地山礫特有の黄褐色風化面の脱落による礫表の露出，その乳灰色化とタールの付着を指している。火山性赤色礫も脱色されて乳赤灰色を呈するようになる。極端な赤化，構成礫の破砕は認められない。

A類炉穴跡は尋常の有り方を示すが，B類炉穴跡は構成礫数も貧少で，比較的「陵」をもった，非火熱礫の存在が目立つ。

焼土・炭化物　集積される礫間，覆土には量の多少はあるものの焼土粒，炭化物，さらには炭化材までが，全ての集石土坑跡に認められる。この状況が火熱礫と併せて，「火」に関する行為の結果であることは歴然としている。とくにB類集石土坑跡は礫数，非火熱礫が貧少でありながら，埋土には多量の焼土・炭化物が含まれて異例である。

しかし，A・B類集石土坑跡とも上述の状況をもちながら，坑内に燃焼される痕跡はまったくない。燃焼を目的とする炉穴跡との土坑形状の差違は再々，指摘している。

A類集石土坑跡がとくに集積行為を目的として，連携された行為上に土坑の構築をみることは前述する。しかし，それが単なる「収納」を目的とした行為でないことは土坑形状・容量の上限より知れる。第1・7・11号集石土坑跡坑底には大形偏平礫が安置される。意図は不明であるが，意識的な配置と整然とした収納状況は廃棄の行為にない。火熱礫の目的をもった集積行為になされるであろう機能を想定するしかない。

それは信州地方で言う，炉底に石組み炉が配される『集石炉』，『焼石炉』とは若干の相違がある。つまり『炉』を一体化していないことから，『集石土坑』を呼称するが，もはや適切ではなくなってきている。

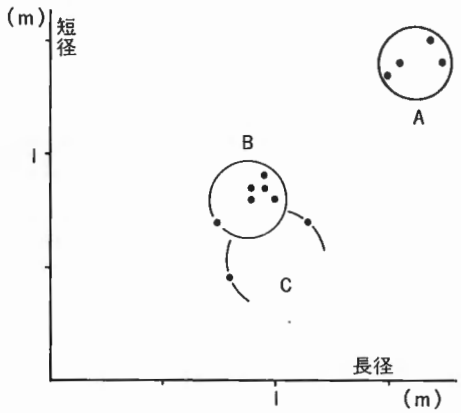
B類集石土坑跡はさらにその範疇にない。多量の焼土・炭化物，さらに土器片の混在（第10・13号集石土坑跡）は廃棄の行為，A類集石土坑跡とまったく相反した機能を予想しなければならない。つまり礫の集積は土坑構築に意図されず，偶然の結果である。しかし当初より廃棄を構築目的としたことは考え難い。

4．集石跡について

規模　規模，つまり集石範囲は長軸230㎝×短軸180㎝を測る第2号集石跡から，長軸70㎝×短軸50㎝を測る第4号集石跡まで巾をもつ。その性格上，規模に安定性はない。

形状　集石行為に意味をもつため，それに描出される形状を問うことはできない。集石密度は第1号集石跡がもっともたかく，以下，3・2・4・5号集石跡と続く。全体的に散在で規模に応じた疎密の差をもつことはない。

構成礫　構成礫はおよそ1辺が5～15㎝程を測る安山岩系地山礫で，稀に20～25㎝程の巨礫を伴う。これらは本遺跡周辺より容易に入手されるものである。この状況は集石土坑跡構成礫に同様であるが，「陵」を鋭くもって，地山礫特有の黄褐色風化面は礫表に付着したままであ



第270図　土坑跡規模別分布図

る。第1号集石跡に火山性赤色礫が目立って混入されるが，依然として鮮やかである。

焼土・炭化物　集石跡内部に焼土・炭化物を認める例はない。構成礫も火熱以前の状況を呈しており，本遺跡の集石跡に「火」に関する行為を認められない。

しかし，比較的輪郭を明確にして集石跡に堪えうる第1～3号集石跡は，いずれも炉穴跡群の内部，または隣接して占地しており，強ち「火」に関する行為を遠くにおく訳にもいかない。

第4号集石跡は完全に性格を異にしている。第5号集石跡は統一感をもたない礫の法量とあまりに散在的な集石状況，それに大形土器破片の存在等，前述第10･13号集石土坑跡に類した状況をみる。

5．土坑跡について

規模　土坑跡が機能を指す呼称でないことは言うまでもない。ものを収納することに大意をもち，集石土坑跡もその収納内容を示しているにすぎない。したがって目的による規模の変動は予想がつく。

本遺跡に検出される12基の土坑跡も長径80㎝×短径45㎝を測る第6号土坑跡から，長径170㎝×短径150㎝を測る第1号土坑跡まで大きな巾をもってなる。

これを第270図に示すと，A～Cの3類にされる。

Ⓐ　径150㎝前後を測る大形の円形土坑跡

1，2，11，12

Ⓑ　径80～90㎝程を測る円形土坑跡

3，5，7，8，9，10

Ⓒ　B類炉穴跡に近似する法量をもつ楕円形土坑跡

4，6

以上，A類土坑跡4基，B類土坑跡6基，C類土坑跡2基となる。他遺構にない明確な分布は多岐多彩な収納目的，つまり機能・性格を示唆している。

形状　平面形状は前述するように，C類土坑跡が楕円形状となる以外は，A・B類土坑跡とも円形～略円形を呈する。A類土坑跡は突出するが，B類土坑跡は規模とも前述の炉穴跡，集石土坑跡に近似する。

断面形状をあてると，A類土坑跡は全てが「U」字状で，容量をもっとも有して『貯蔵穴』が想定される。第13号土坑跡坑底には黒色腐食土が確認されている。

B類土坑跡は「U」字状が一般で，第7号土坑跡が「擂り鉢」状，第8号土坑跡が「椀」状を呈する。両土坑跡は第7号集石土坑跡に隣接しており，炭化物の混入をみる。とくに第7号土坑跡には焼土粒，および数個の礫が内包されて，断面状況からも第7号集石土坑跡との関連が指摘される。

他は第9号土坑跡に焼土粒・炭化物が含まれる。C類土坑跡も含めて，それらは炉穴跡群内に包括されて検出されることが尋常である。規模・形状も周辺炉穴跡にしたがってなり，その関連遺構であることは確かである。

したがって，A類土坑跡が遺構群の外域となる斜面上に占地する状況と完全に相反する。

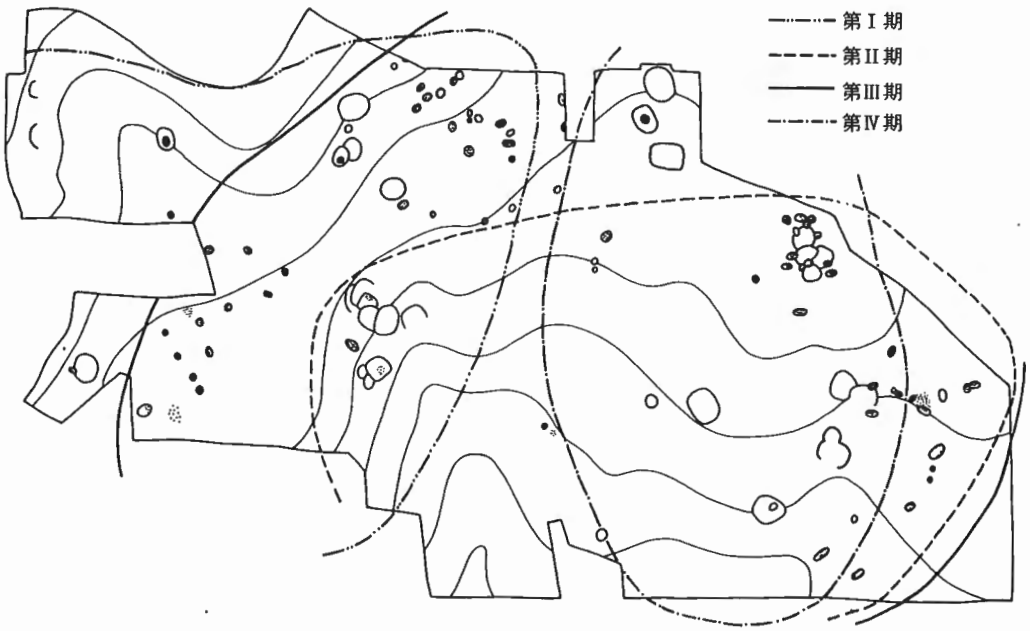
（馬飼野）

第3節　調査総括

本調査によって得た遺構は，竪穴住居跡28基・炉穴跡60基・集石土坑跡13基・集石跡5基・土坑跡12基である。

ここで注意したいのは，これらの遺構が第Ⅰ群土器（表裏縄文土器）から，第Ⅷ群土器（茅山下層式類似土器）に至る縄文時代早期，とくに前半期にほぼ連続して居住された結果である，ことである。

これらの土器群は若宮遺跡第Ⅰ～Ⅴ期に再編成される。このうち遺構を伴うであろう第Ⅰ～Ⅳ期をそれにあて，若宮遺跡の構造の一端を拾って，総括としたい。



第271図　若宮遺跡第Ⅰ～Ⅳ期土器分布図

若宮遺跡第Ⅰ期

中央凹地帯より西側平坦面から北西側斜面に展開される。

A類竪穴住居跡（第27・28号竪穴住居跡，第26号竪穴住居跡も含もう。），C類竪穴住居跡（第25号竪穴住居跡），B類集石土坑跡（第10号集石土坑跡）をみる。他ははっきりしない。

若宮遺跡第Ⅱ期

中央凹地帯を含み，それより東側へ慈眼寺沢川端まで及んで展開される。

C類炉穴跡，いわゆる足場を有する炉穴跡の分布をみる。

若宮遺跡第Ⅲ期

北西側斜面を除く，西側平坦面から中央凹地帯を越えて，東側一帯に広域に展開される。

C類竪穴住居跡（第12・19・20号竪穴住居跡）が第Ⅲ期押型文土器を伴って確実である。A・B類炉穴跡，A類集石土坑跡の分布をみる。

A・B類炉穴跡とC類炉穴跡は機能差でなくして，時期差が設定される。

なお，石鏃未製品，ならびに黒曜石剥片の分布域が重複して，関連が窺える。

若宮遺跡第Ⅳ期

東側平坦面中央を南北に細長く展開される。

A類集石土坑跡（第9号集石土坑跡）をみる。

以上を拾い，本報告をおくとともに，これらを今後の「端緒」としたい。　（馬飼野）

註1　芹沢長介　1966「新潟県中林遺跡における有舌尖頭器の研究」　『東北大学日本文化研究所研究報告』2

註2　渡辺　誠　1968「日本列島における土器出現の背景をめぐって」　『古代文化』20－8・9

註3　鈴木道之助　1972　「縄文時代草創期初頭の狩猟活動―有舌尖頭器の終焉と石鏃の出現をめぐって―」　『考古学ジャーナル』76

註4　紅村　弘・原　寛　1974　『椛の湖遺跡』　岐阜県恵那郡坂下町教育委員会

註5　戸沢充則　1955　「樋沢押型文遺跡」　『石器時代』第2号

註6　鈴木次郎　1977　『尾崎遺跡』　神奈川県埋蔵文化財調査報告13　神奈川県教育委員会

註7　八木光則　1976　「いわゆる『特殊磨石』について―中部地方における縄文早期の石器群研究への問題提起―」　『信濃』28－4

註8　註7に同じ

註9　渡辺　誠　1980　「飛騨白川村のトチムキ石」　『藤井祐介君追悼記念考古学論叢』

註10　橋口尚武　1983　「調理」　『縄文文化の研究2　生業』　雄山閣

註11　安田喜憲　1982　「気候変動」　『縄文文化の研究1　縄文人とその環境』　雄山閣

註12　江坂輝弥　1954　「海岸線の進展から見た日本の新石器時代」　『科学朝日』14－3

註13　土器分類にあたっては以下の文献を参考とした。

会田　進　1971　「押型文土器編年の再検討―特に施文法・文様構成を中心として―」

大野政雄・佐藤達夫　1967　「岐阜県沢遺跡調査予報」考古学雑誌 53－2

岡本東三　1980　「神宮寺・大川式押型紋土器について―その回転施文具を中心に―」『藤井祐介君追悼記念考古学論叢』

岡谷市教育委員会・塩尻市教育委員会　1982　『概報・樋沢遺跡』

片岡　肇　1978　「神宮寺式系押型文土器の様相」『小林知生教授退職記念考古学論文集』

片岡　肇　1979　「押型文土器の起源について―押型文土器群の編年のために―」『日本古代学論集』

片岡　肇　1980　「樋沢式土器の再検討―長野・岐阜両県を中心として―」信濃 32－2

片岡　肇　1982　「押型文土器」『縄文文化の研究 3』

可児通宏　1969　「押型文土器の変遷過程―施文原体の分析を中心とした考察―」

神村　透　1957　「長野県立野遺跡の捺型文土器」石器時代 4

神村　透　1968　「立野式土器の編年的位置について」信濃 20－10,20－12,21－3～5・7・9，34－2

小林達雄　1966　「No.52 遺跡　縄文早期前半に関する問題」多摩ニュータウン遺跡調査報告 2

小林達雄　1968　「室谷第 1 群土器に関する覚書」歴史教育 16－4

小林達雄　1977　「縄文土器」『日本原始美術大系 1』

酒井幸則　1972　「増野川子石遺跡」長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告―下伊那郡高森町地区その 2

佐原　真　1981　「縄文施文法入門」『縄文土器大成 3』

鈴木保彦　1982　「草創器の土器形式」『縄文文化の研究 3』

戸沢充則　1955　「樋沢押型文遺跡」石器時代 2

戸沢充則　1978　「押型文土器群編年研究素描」『中部高地の考古学―長野県考古学会 15 周年記念論文集』

橋本　正　1974　「回転押型文土器の基礎的研究」大境 5

原　寛・紅村　弘　1974　『椛の湖遺跡調査報告書』

広瀬昭弘　1981　「北信濃小佐原遺跡の表裏縄文土器について」信濃 32－4

堀内　真・宮下健司　1982　「富士山麓における表裏縄文土器―山梨・池ノ元遺跡採集の資料を中心として―」信濃 34－10

松沢亜生　1957　「細久保遺跡の押型文土器」石器時代 4

宮下健司　1980　「土器の出現と縄文文化の起源（試論）―自然環境の復元と土器の機能を中心にして―」信濃 32－4

山崎純男　1982　「押型文土器の施文法と原体」『森貞次郎博士古稀記念古文化論集』

山内清男　1979　『日本先史土器の縄紋』

富士宮市文化財調査報告書第6集

若　宮　遺　跡

西富士道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(II)

昭和58年3月31日

編　集　富士宮市教育委員会

発　行　日本道路公団名古屋建設局

静岡県教育委員会

富士宮市教育委員会

〒418　静岡県富士宮市元城町1番1号

電話(0544)27－3111(代)

印　刷　三扇美術印刷株式会社

〒418　静岡県富士宮市西町1番15号

電話(0544)26－3636